新規試験法提案書

単回投与毒性試験代替法

平成23年6月

国立医薬品食品衛生研究所

新規試験法提案書

平成 23 年 6 月 17 日
No.　2011-01

単回投与毒性試験代替法の提案

平成 23 年 4 月 20 日に東京、国立医薬品食品衛生研究所にて開催された新規試験法評価会議（通称：JaCVAM 評価会議）において以下の提案がなされた。

提案内容：*in vitro*細胞毒性試験は、単回投与毒性試験の所回投与量の設定を行う手段の一つとして有用である

この提案書は、米国Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)により準備された資料をもとに、*in vitro* 細胞毒性試験による単回投与毒性試験の初回投与量設定試験のための第三者評価委員会によりまとめられた文書を用いてJaCVAM評価会議がOECDガイダンス文書　No. 34に従って評価および検討した結果、その有用性が確認されたことから作成された。

以上の理由により、行政当局の安全性評価方法として「*in vitro* 細胞毒性試験による単回投与毒性試験の初回投与量設定試験」の使用を提案するものである。

添付資料一覧

1．単回投与毒性試験代替法の評価会議報告書
2．急性毒性試験代替法の第三者評価報告書

小島　肇

国立医薬品食品衛生研究所
安全性生物試験研究センター
薬理部　新規試験法評価室
室長

西川秋佳

JaCVAM 評価会議　議長
国立医薬品食品衛生研究所
安全性生物試験研究センター
センター長

JaCVAM 評価会議

西川秋佳（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター）
田中憲穂（食品薬品安全センター　秦野研究所）
吉田武美（昭和大学薬学部）
横関博雄（東京医科歯科大学）
吉村　功（東京理科大学）
渡部一人（日本製薬工業協会）
岡本裕子（日本化粧品工業連合会）
大島健幸（日本化学工業協会）
小野寺博志（医薬品医療機器総合機構）
小笠原弘道（医薬品医療機器総合機構）
吉田　緑　（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　病理部）
五十嵐良明（国立医薬品食品衛生研究所　生活衛生化学部）
長谷川隆一（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）
浅野哲秀（元日東電工株式会社）

オブザーバー：JaCVAM 運営委員

大野泰雄（国立医薬品食品衛生研究所）
関野祐子（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
増田光輝（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
小島　肇（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
秋田正治（日本動物実験代替法学会）
柴辻正喜（厚生労働省　医薬食品局　審査管理課　化学物質安全対策室）
実国慎一（経済産業省　製造産業局　化学物質安全対策室）

JaCVAM statement
on the cytotoxicity tests to estimate starting doses
for acute oral systemic toxicity tests

At the meeting concerning the above method, held on 20 April 2011 at the National Institute of Health Sciences (NIHS), Tokyo, Japan, the members of the Japanese Center for the Validation of Alternative Methods (JaCVAM) Regulatory Acceptance Board unanimously endorsed the following statement:

Following the review of the results of the ICCVAM(Interagency Coordinating Committee on theValidation of Alternative Methods, USA) Background Review Document and Evaluation Report, it is concluded that the cytotoxicity tests can be used to estimate starting doses for acute oral systemic toxicity tests.

The JaCVAM Regulatory Acceptance Board has been regularly kept informed of the progress of the study, and this endorsement is based on an assessment of various documents, including, in particular, the evaluation report prepared by the JaCVAM ad hoc peer review panel.

Hajime Kojima,
Director,
JaCVAM,
National Center for Biological Safety and Research (NCBSR)
NIHS,
Tokyo

Akiyoshi Nishikawa,
Director,
NCBSR,
NIHS,
Tokyo

17, June, 2011

The JaCVAM Regulatory Acceptance Board was established by the JaCVAM Steering Committee, and is composed of nominees from the industry and academia.

This statement was endorsed by the following members of the JaCVAM Regulatory Acceptance Board:

Mr. Akiyoshi Nishikawa (National Institute of Health Sciences: NIHS)
Mr. Noriho Tanaka (Food and Drug Safety Center)
Mr. Takemi Yoshida (Showa Univ.)
Mr. Hiroo Yokozeki (Tokyo Medical and Dental Univ.)
Mr. Isao Yoshimura (Tokyo Univ. of Science)
Mr. Kazuto Watanabe (Japan Pharmaceutical Manufacturers Association)
Ms. Yuko Okamoto (Japan Cosmetic Industry Association)
Mr. Takeyoshi Oshima (Japan Chemical Industry Association)
Mr. Hiroshi Onodera (Pharmaceuticals and Medical Devices Agency)
Mr. Hiromichi Ogasawara (Pharmaceuticals and Medical Devices Agency)
Ms. Midori Yoshida (NIHS)
Mr. Yoshiaki Ikarashi (NIHS)
Mr. Ryuichi Hasegawa (National Institute of Technology and Evaluation)
Mr. Norihide Asano (Former Nitto Denko)

The following members of the JaCVAM Steering Committee were involved as observers in the consultation process, but not in the endorsement process itself.

Mr. Yasuo Ohno (NIHS)
Ms. Yuko Sekino (NIHS)
Mr. Mitsuteru Masuda (JaCVAM)
Mr. Hajime Kojima (JaCVAM)
Mr. Masaharu Akita (Japanese Society for Alternatives to Animal Experiments)
Mr. Masayoshi Shibatsuji (Ministry of Health, Labour and Welfare)
Mr. Shinichi Jitsukuni (Ministry of Economy, Trade and Industry)

単回投与毒性試験代替法

目次

単回投与毒性試験代替法の評価会議報告書

JaCVAM 評価会議

平成 23 年（2011 年）4 月 20 日

JaCVAM 評価会議

西川秋佳（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター）
田中憲穂（食品薬品安全センター　秦野研究所）
吉田武美（昭和大学薬学部）
横関博雄（東京医科歯科大学）
吉村　功（東京理科大学）
渡部一人（日本製薬工業協会）
岡本裕子（日本化粧品工業連合会）
大島健幸（日本化学工業協会）
小野寺博志（医薬品医療機器総合機構）
小笠原弘道（医薬品医療機器総合機構）
吉田　緑　（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　病理部）
五十嵐良明（国立医薬品食品衛生研究所　生活衛生化学部）
長谷川隆一（独立行政法人　製品評価技術基盤機構）
浅野哲秀（元日東電工株式会社）

任期：平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

オブザーバー：JaCVAM 運営委員

大野泰雄（国立医薬品食品衛生研究所）
関野祐子（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
増田光輝（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
小島　肇（国立医薬品食品衛生研究所　安全性生物試験研究センター　薬理部）
秋田正治（日本動物実験代替法学会）
柴辻正喜（厚生労働省　医薬食品局　審査管理課　化学物質安全対策室）
実国慎一（経済産業省　製造産業局　化学物質安全対策室）

任期：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 4 月 30 日

以上

単回毒性試験代替法について、第三者評価委員会からの報告を受け[1)]、以下の 9 項目について審議した。本 2～8 項目は OECD ガイダンス文書　No. 34 に示された検討項目である[2)]。なお、本動物実験代替法の利用にあたっては、適用範囲を十分に配慮した上で使用されるべきである。

＜審議内容＞

１．　検討対象の試験法は、日本のどの法規制やガイドラインに関係しているか。

毒物に関しては、毒物及び劇物取締法についての通知*で、「毒物又は劇物の指定等を判断するための試験法として、OECD 化学物質試験ガイドライン 401 に替わり、OECD 化学物質試験ガイドライン 420(固定用量法)、同 423(急性毒性等級法)、同 425(上げ下げ法)を推奨する」こととしている。これに関係している。

*平成 14 年 12 月 9 日、医薬化発第 1209001 号：毒物及び劇物取締法における毒物又は劇物の指定等を判断するために必要とされる試験法について

新規化学物質に関しては、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（化審法）における試験法に関する通知*で、急性毒性試験を反復投与毒性試験の予備試験として実施する際には、OECD Test Guideline の試験法を参考にするのが望ましい、としている。これが関連している。

＊平成 15 年 11 月 21 日 薬食発第 1121002 号､平成 15･11･13 製局第 2 号､環保企発 第 031121002 号､「新規化学物質等に係る試験の方法について」（最終改正：平成 18 年 11 月 20 日）

農薬に関しては、通知*「農薬の登録申請時に提出される試験成績の作成に係る指針の付表、単回毒性試験」で、「固定用量法」と「急性毒性等級法」が推奨されている。これが関係している。

＊農林水産省農産園芸局長通知、平成 12 年 11 月 24 日、１２農産第８１４７号：農薬の登録申請に係る試験成績について

医薬品に関しては、薬事法の施行規則で「医薬品の製造（輸入）承認申請に際して添付すべき資料」を指定している。その中に単回投与毒性試験の資料が含まれており、これが一般に急性毒性試験と呼ばれている試験法で得られる資料である。これについては通知*で、単回投与毒性試験のやり方が定められている。そこでは「概略の致死量」が求められているだけで、LD50 を求めることは必須とされていない。

＊平成 5 年 8 月 10 日、薬新薬第 88 号：単回及び反復投与毒性試験ガイドラインの改正について

医療機器に関しては、急性毒性を示すような抽出物が存在しないことが求められている。しかし、そこでは、生理食塩液と植物油の２種類の抽出媒体で調整した抽出液で試験することが求められているだけで、LD50 等を求める必要がないので、当該試験法とは関連がない。

＊平成 15 年 2 月 13 日、医薬審発第 0213001 号「医療用具の製造（輸入）承認申請に必要な生物学的安全性試験の基本的考え方について」､平成 15 年 3 月 19 日：事務連絡　医療機器審査 No. 36「生物学的安全性評価の基本的考え方に関する参考資料について」

輸液用ゴム栓に関しては、「第十五改正日本薬局方 7.03」 で急性毒性試験が求められている。しかしこれは、一定用量での試験であり、当該試験法とは関連がない。

２．検討対象の試験法とその妥当性を示すデータは、透明で独立な評価を受けているか。

当該試験法の妥当性は、日本国内では実験的に評価されていない。

しかし国外では、NICEATM 及び ECVAM が、2002 年から 2005 年にかけて、72 種類の化学物質を用いて妥当性を検証している。

その評価状況は、Background Review Document (BRD) [3] として公開されている。

３．当該試験法で得られるデータは、対象毒性を十分に評価あるいは予測できるものであるか。データは、当該試験法と従来の試験法の、代替法としての繋がりを示しているか。あるいは (同時に) そのデータは、当該試験法と、対象としているあるいはモデルとしている動物種についての影響との繋がりを示しているか。

当該試験法は、従来の試験法の全体を代替するのではなく、従来の試験法での初回投与量の設定法を代替するものである。

４．当該試験法は、ハザードあるいはリスク、あるいはその両方を評価するのに有用であるか。

当該試験法は、前項の問に対する回答と同じ理由で、ハザード評価に直接資するものではないが、間接的には有用である。

５．当該試験法とその妥当性を示すデータは、その試験法で安全性を保証しようとする、行政上のプログラムあるいは関係官庁が対象としている化学物質や製品を、十分広く対象としたものとなっているか。当該試験法が適用できる条件及び適用できない条件が明確であるか。

当該試験法は、化学物質の安全性を保証するためのものではない。次の場合に適用できないことは明確である。

- 代謝により活性化されて毒性を発現する場合
- 神経毒性、心臓毒性等特異的な作用機序により毒性を発現する場合。
- 細胞培養液に不溶性の物質、揮発性の物質、ライソゾームへの特異的影響を与える物質, neutral red の吸光度と重なる有色の物質。

６．当該試験法は、プロトコルの微細な変更に対して十分頑健で、適切な訓練経験を持つ担当者と適切な設備のある施設において、技術習得が容易なものであるか。

当該試験法のプロトコルの頑健性について、実験データ上の根拠はない。

しかし、当該試験法の実験手順は、適切な訓練経験を持つ担当者と適切な設備のある施設において 技術習得が容易なものである。

７．当該試験法は、時間的経費的に有用性があり、行政上で用いられやすいものであるか。

当該試験法の時間的経費的有用性を示す決定的定量的データは、シミュレーション試算以外に存在しない。従って、定量的にどのような有用性があるかは確かでない。

定量的にどのような有用性があるかは確かでないので、行政上で用いられやすいものとは言え

ない。

８．当該試験法は、従来の試験法と比べて、科学的・倫理的・経済的に、新しい試験法あるいは改訂試験法であることが正当化されているか。

従来法が評価対象としている個体の死にはいくつかのメカニズムが存在している。これに対して当該試験法は、細胞死を指標として評価しているので、科学的妥当性は限定的である。

しかし、初回投与量を当該試験法で定めることは、従来法と比べて、決定的な悪影響を与えるものでないことから、限定した条件の下では、科学的妥当性が認められる。

倫理的には新しい提案であるが、経済的有用性は明らかではない。

9.安全性評価のための行政的資料として、 受け入れ可能な試験法であるか。

本試験法は，急性毒性試験における初回投与量を設定する手法となる。

以上の審議の結果、JaCVAM 評価会議は、単回毒性試験代替法について以下のように結論した。

当該試験法の有用性はそれほど大きなものでない。

しかし、これを採用することの利点は存在し、しかも欠点は致命的なものでない。

強制力を持たせないで、これを行政的に提案し、推奨することは、３Ｒ原則にそったものである。

参考文献

１．急性毒性試験代替法の第三者評価報告書

２．OECD (2005) OECD Series on testing and assessment Number 34, Guidance document on the validation and international acceptance of new or updated test methods for hazard assessment, ENJ/JM/MONO(2005) 14

３．Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM), National Toxicology Program (NTP), et al. Background Review Document:“*in vitro* Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral systemic Toxicity”, NIH Publication No: 07-4518

急性毒性試験代替法の第三者評価報告書

評価対象試験： *in vitro* 細胞毒性試験による急性経口毒性試験の初回投与量設定試験

In vitro Cytotoxicity Test Methods for Estimating Starting Doses for Acute Oral Systemic Toxicity Test

平成 22 年 5 月 31 日 草案

平成 22 年 10 月 18 日 改訂

平成 22 年 11 月 11 日 改訂

平成 23 年 1 月 14 日 改訂

急性毒性試験代替法評価委員会

委員長	髙橋 祐次	（国立医薬品食品衛生研究所）
委員	笠原 利彦	（富士フイルム株式会社）
	若栗 忍	（(財)食品薬品安全センター秦野研究所）
	小平 輝朋	（旭化成ファーマ株式会社）
	岩井 久和	（株式会社三和化学研究所）
	萩野 滋延	（株式会社資生堂）
	河野 茂生	（ブリストル・マイヤーズ株式会社）
	岩瀬 裕美子	（田辺三菱製薬株式会社）

目次

略語

ADME	Absorption, distribution, metabolism, and elimination
ANOVA	Analysis of variance
ATC	Acute Toxic Class method
ATWG	Acute Toxicity Working Group
BRD	Background Review Document
	本報告書では *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity（NIH Publication No. 07-4518）を示す。
CNS	Central nervous system
CV	Coefficient of variation
DMEM	Dulbecco's Modification of Eagle's Medium
DMSO	Dimethyl sulfoxide
D-PBS	Dulbecco's phosphate buffered saline
EC_{50}	Concentration of a substance that produces 50% of the maximum possible response for that substance
ECBC	U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center
ECVAM	European Centre for the Validation of Alternative Methods
ETOH	Ethanol (Ethyl alcohol)
FAL	FRAME Alternatives Laboratory
FDP	Fixed Dose Procedure
FRAME	Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments
GHS	Globally Harmonized System (of Classification and Labeling of Chemicals)

GLP	Good Laboratory Practices
HBSS	Hanks’ balanced salt solution
IC_{50}	Concentration producing 50% inhibition of the endpoint measured
ICCVAM	Interagency Coordinating Committee for the Validation of Alternative Methods
IIVS	Institute for In Vitro Sciences
i.p.	Intraperitoneal
i.v.	Intravenous
KBM	Keratinocyte basal medium
Kow	Octanol-water partition coefficient
LD_{50}	Dose that produces lethality in 50% of test animals
MTT	3-(4, 5-Dimethylthiazol-2-yl)-2, 5-diphenyl tetrazolium bromide
N	Number (of substances)
NHK	Normal human epidermal keratinocytes
NICEATM	National Toxicology Program Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods
NR	Neutral red
NRU	Neutral red uptake
OD	Optical density
OD_{540}	Optical density (absorbance) at a wavelength of 540 nm
PBS	Phosphate buffered saline
PC	Positive control
pH	Power of hydrogen

QA	Quality assurance
QC	Quality control
r	Pearson correlation coefficient
R^2	Coefficient of determination
r_s	Spearman correlation coefficient
RC	Registry of Cytotoxicity
RI	Radioisotope
RTECS®	Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
SD	Standard deviation
SLS	Sodium lauryl sulfate
SMT	Study management team
3T3	BALB/c mouse fibroblasts, clone A31 (ATCC # CCL-163)
UDP	Up-and-Down Procedure
VC	Vehicle control
ZEBET	Zentralstelle zur Erfassung und Bewertung von Ersatz-und Ergänzungsmethoden zum Tierversuch (German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments)

要旨

本報告書は、「*in vitro* 細胞毒性試験による急性毒性試験の初回投与量設定試験」のバリデーション研究を ICCVAM が第三者評価し、その情報をまとめた Background Review Document (BRD)をもとに JaCVAM 急性毒性試験代替法評価委員会が第三者評価を実施したものである。

化学物質のハザードを評価する急性毒性試験はげっ歯類を使用して実施されている。急性毒性試験によって得られる LD_{50} 値(Dose that produces lethality in 50% of test animals、半数致死量)は、GHS (Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals)における化合物の分類及びラベリング、日本においては毒物及び劇物取締法の判定基準に利用されている。その一方で、動物の死亡をエンドポイントとする試験方法に対する批判があり、また、ヒトが化合物を過剰摂取した場合における急性毒性試験データの有用性に関して議論がある。細胞毒性試験を用いた代替法が検討されてきたが、規制当局が受け入れ可能な信頼性、妥当性、有用性及び適応範囲を評価した試験は存在していない。現在、OECD 毒性試験法ガイドラインの急性経口毒性試験は、Fixed Dose Procedure (OECD 420 : FDP)、Acute Toxic Class method (OECD 423: ATC)及び Up-and-Down Procedure (OECD 425:UDP)が採択されている。これらのガイドラインは、あらかじめ設定された 4 または 8 段階の用量の一つを選択して動物に投与し、死亡した場合には低用量、生存した場合には高用量を逐次投与することで化合物の LD_{50} が求められるようにデザインされている。従って、適切な初回投与量の選択が使用動物数削減の鍵となる。

本試験方法は、使用動物数の削減を目的として、細胞毒性試験から急性毒性試験の初回投与用量を推測する *in vitro* アプローチである。具体的には、Neutral Red Uptake(NRU) 法による細胞毒性試験で IC_{50} 値(mM)を求め、RTECS®のデータを基にした LD_{50} 値(mmol/kg)と IC_{50} 値の回帰式から急性毒性試験の初回投与用量を推測する。本試験方法のバリデーションは、GHS 急性経口毒性の区分全体に分布するように選択した 72 種類の参照化合物の細胞毒性試験を、ヒト細胞株(Normal human epidermal keratinocytes; NHK)及びげっ歯類の細胞株(BALB/c mouse fibroblasts; 3T3)を用いて実施した。

LD_{50} 値と IC_{50} 値の相関性から急性毒性試験の初回投与用量を推測する回帰式が得られているが、動物の死と細胞の死が類似するメカニズムの説明が不十分であると考える。相関性は必ずしも因果関係を説明するものではない。また、溶解性、沈殿物及び揮発性を有する化合物、代謝活性により毒性を発現する化合物、肝、中枢神経、腎、心臓、肺及び造血器に対する特異的な毒性を有する化合物は細胞毒性試験では評価することができないため、試験対象から除外すべきである。

細胞毒性試験方法は妥当であると判断するが、用量設定、媒体、被験物質の調製に使用する試験管、被験物質の添加方法は試験精度が担保できる範囲で自由度を持たせるべきである。

本試験法によって予測された LD_{50} を GHS 区分全体に渡って評価すると 3T3 では 31%(21/67)、NHK 細胞では 29%(20/68)であり、特に強毒性を示す化合物の予測性は低かった。毒性メカニズムの面からは、中枢神経系と心臓への作用を示す化合物ではずれ値が認められた。この成績からも、臓器特異的な毒性を示す化合物の予測性は低く評価に適さない。

バリデーション試験は 3 施設において、GLP または GLP の精神で実施された。データの質については問題がないと判断した。

使用動物の削減数については、コンピュータによるシミュレーションにより評価している。一試験あたり、UDP 法では平均 0.49 匹～0.66 匹、ATC 法では平均 0.51 匹～1.09 匹の動物が削減されることが示された。特に弱毒性物質の場合(LD_{50} 値:>2000 mg/kg 又は>5000 mg/kg)、UDP 法では 1.28 匹～1.65 匹、ATC 法では 2.03 匹～3.33 匹の動物が削減されることが示された。使用動物の削減には本当に繋がる試験であるかは、実際に使用した動物数が記載されている化合物の試験情報と、この試験で予測された初回投与量から予測される動物数を比較して検証することが必要である。また本試験法をガイドラインに導入した場合には、試験情報を集計して動物数の削減が実現できているかについて検証する必要がある。また、強毒性の化学物質の予測性が低いことは動物へ与える苦痛の低減にはつながらない。

以上のことから、ICCVAM で実施された細胞毒性試験による急性毒性試験の初回投与量設定試験の第三者評価は、バリデーションに必要な項目、プロセス及びデータが検討されており、ICCVAM のバリデーション結果を受け入れることに問題はないと判断した。本試験方法は低毒性の化合物については予測性があり、動物数の削減できる可能性が示されていることから、急性毒性試験の初回投与量決定の情報として必要に応じて活用可能であると判断する。しかしながら、強毒性に分類される化合物の予測性は低く、動物へ与える苦痛の低減、使用動物数削減に寄与は低い。臓器特異的な毒性を有する化合物の評価には適しておらず、揮発性を有する物質、溶解度が低い物質の試験は実施が困難である。したがって、急性毒性試験の実施に際して、一律に本試験法を用いて初回投与量を決定することは合理的ではなく、化合物の物性、類縁化合物の情報と同様の位置づけとして利用することが望ましい。

1. 試験法の科学的、規制の上での妥当性

化学物質のハザードを評価する急性毒性試験はげっ歯類を使用して実施されている。急性毒性試験によって得られる LD_{50} 値（Dose that produces lethality in 50% of test animals、半数致死量）は、GHS （Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals)における化合物の分類及びラベリング、日本においては毒物及び劇物取締法の判定基準に利用されている。その一方で、動物の死亡をエンドポイントとする試験方法に対する批判があり、また、ヒトが化合物を過剰摂取した場合における急性毒性試験データの有用性に関して議論がある。

動物愛護の観点から、急性毒性試験の代替法が検討されてきた。

1983 年にはスカンジナビアの Society for Cell Toxicology は The Multicentre Evaluation of *in vitro* Cytotoxicity （MEIC） プログラムを立ち上げ *in vitro* 試験とヒトの経口摂取致死量における血中濃度を比較検討した。

1992-1993 年には、The Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments (FRAME)がげっ歯類の急性致死性を複数の *in vitro* 試験（MTT reduction、LDH release、cell function）で予測する事を検討した。げっ歯類における化合物の急性致死性の予測には *in vitro* 試験のバッテリー（①細胞死、②肝細胞毒性、③細胞毒性が現れない濃度域における細胞膜電位への干渉）として評価することが推奨された。中でも、細胞死を指標とした試験では、細胞株（V79、3T3-L1 または BALB/c 3T3）、暴露時間（24-72h）及びエンドポイント（MTT または NRU）によって評価に大きな差異が認められないことが示された。

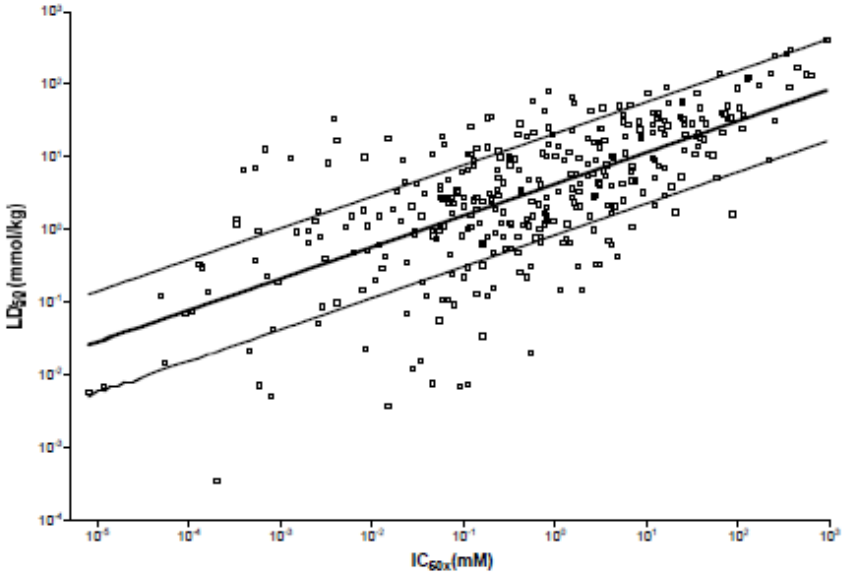
1998 年及び 2003 年、Dr. Willi Halle は RTECS®から分子量が既知である化合物のげっ歯類における LD_{50} 値と細胞株及びエンドポイントが多様な細胞毒性試験の IC_{50} 値を比較したデータベースである Registry of Cytotoxicity (RC) を報告した。RC では細胞毒性試験で得られた IC_{50} 値のモル濃度（mM）とげっ歯類の LD_{50} 値を mmol/kg に変換した数値の相関が以下の回帰式（RC millimole regression）で示された。

$$\log LD_{50}\,(\text{mmol/kg}) = 0.435 \times \log IC_{50}\,(\text{mM}) + 0.625$$

この回帰式には、参照した化合物の 73% (252/347)の化合物が含まれる。

RC millimole regression (BRD より抜粋)

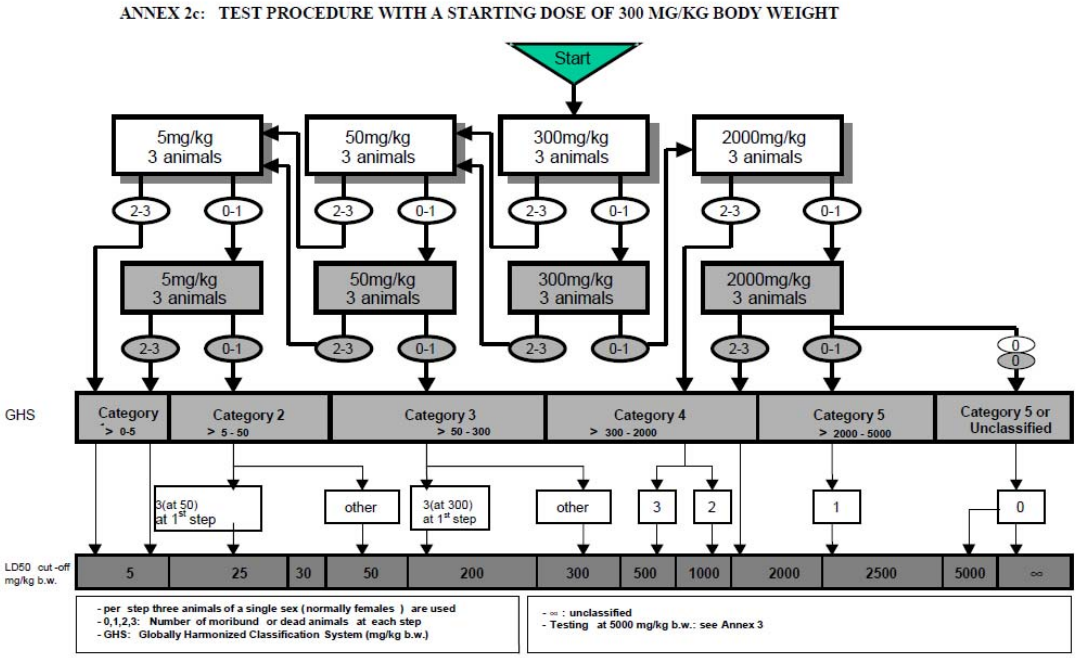
Figure 1-1 RC Millimole Regression for *In Vitro* Cytotoxicity (IC_{50x}) and Rat and Mouse Acute Oral LD_{50} Values for 347 Chemicals



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; IC_{50x}=Geometric mean (of multiple endpoints and cell types) test substance concentration that reduces cell viability by 50%; LD_{50}=Dose producing death in 50% of the animals tested.
The heavy line shows the fit of the data to a linear regression model, log (LD_{50}) = 0.435 x log (IC_{50x}) + 0.625; r=0.67. The thinner lines show the empirical prediction interval (± log 5, or ±0.699) that is based on the anticipated precision for the prediction of LD_{50} values from cytotoxicity data (Halle 1998, 2003).

1994 年 ECVAM は *in vitro* 試験で化合物のハザードを分類する事を目的としたワークショップを組織した。1996 年ワークショップの参加者によって、*in vitro* 試験結果を用いて経口投与急性毒性試験の初回投与量を決定することで使用動物の削減する構想が議論された。同時期には OECD 急性毒性ガイドライン(420: Acute Oral Toxicity – Fixed Dose Procedure、423: Acute Oral toxicity – Acute Toxic Class Method、425: Acute Oral Toxicity: Up-and-Down Procedure)のドラフトが提案されていた。これらのガイドラインは、あらかじめ設定された 4 または 8 段階の用量から一つを選択して動物に投与し、死亡した場合には低用量、生存した場合には高用量を逐次選択することで化合物の LD_{50} が求められるようにデザインされている。従って、適切な初回投与量の選択が使用動物数の削減の鍵となる。

Acute Oral toxicity – Acute Toxic Class Method の LD_{50} 決定までの流れ図（OECD ガイドライン 423 より抜粋）



300 mg/kg を初回投与量とした場合の流れ図を示す。各試験段階では 3 例の動物を使用する。評価する化合物の動物実験における LD_{50} 値が＞300–2000 mg/kg（Category 4）の場合には、最少で 3 段階、最多で4段階の試験を実施して LD_{50} 値が求められる。動物実験における LD_{50} 値が＞5–50 mg/kg（Category 2）の場合には、最少で 4 段階、最多で 6 段階の試験を実施して LD_{50} 値が求められる。

1999 年、The German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments (ZEBET) は RC millimole regression を用いたシミュレーションで急性毒性試験の初回投与量を決めることにより、UDP 法のドラフトガイドラインにおける使用動物が 25–40% 削減できることを示した。

2000 年、NIEHS、NTP 及び EPA は協力して International Workshop on *in vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity (Workshop 2000)を開いた。このワークショップでは、①ZEBET の RC millimole regression によって急性毒性試験の初回投与量を見積もる手法、②ECVAM から

提案された試験方法の構想、③動物数削減を目的とした①及び②以外の *in vitro* 細胞毒性試験の構想について議論された。その結果、急性毒性試験の代替法として試みられた *in vitro* 細胞毒性試験には、試験方法の信頼性、妥当性、有用性及び試験の適応範囲を適切に評価された試験方法はなく、規制当局が受け入れ可能な *in vitro* 試験または試験バッテリーは存在しないと結論された。ZEBET が提案した *in vitro* 細胞毒性の IC_{50} 値と急性毒性試験の LD_{50} 値の millimole regression を用いて急性毒性試験の初回投与用量を推測する *in vitro* アプローチを最優先課題とすることが決定された。げっ歯類の急性毒性試験からヒトの致死性予測の試みとしてヒト細胞株（Normal human epidermal keratinocytes; NHK）を用いた試験、また、げっ歯類の急性毒性をより正確に予測できる可能性を考慮して、げっ歯類の細胞株（BALB/c mouse fibroblasts; 3T3）を用いNRU 法を一つの代表例として検討した。

ICCVAM の提案に応じて、NICEATM および ECVAM は、2002 年の 8 月から 2005 年 1 月の間、げっ歯類を使った急性毒性試験法の初回投与用量の予測に使用される *in vitro* 細胞毒性試験の有用性と限界について調べるために、72 種類の化合物に対して、3T3 細胞あるいは NHK 細胞を用いた NRU テスト（Neutral Red Uptake）のバリデーション試験を複数の施設で実施した。

バリデーション試験は、以下に示すように 4 段階で実施された。

Phase Ia: Laboratory Evaluation
Development of a positive control database for each laboratory

Phase Ib: Laboratory Evaluation
Limited substance testing to demonstrate the reliability of the protocol

Phase II: Laboratory Qualification
Evaluation of protocol refinements

Phase III: Laboratory Testing Phase
Test of optimized protocols

現在、各極における急性毒性試験による化合物分類を BRD から抜粋して記載した（Table 1-2）。BRD に記載されているように、現在のところ *in vivo* 急性毒性試験に置き換わる *in vitro* 試験はない。OECD ガイドラインでは、*in vitro* 細胞毒性試験は類縁化合物、構造活性相関などとならんで、*in vivo* 試験の初回投与量を決める毒性情報として利用できることが記載されている。初回投与量を決めるための参考情報が入手できない場合、ATC 法では 300 mg/kg、UDP 法では 175 mg/kg である。FDP 法では main study を実施する前に sighting study を行って初回投与量を決める。sighting study の初回投与量も試験計画の時点で得られている情報を基にするが、情報が入手できない場

合には 300 mg/kg を選択し、各用量で 1 匹の動物を使用して main study と同様の手順を踏んで初回投与量を決定する。最多で 4 匹の動物を sighting study で使用することになる。

現行の急性毒性ガイドラインにおいても、強制力はないが初回投与量の決定に *in vitro* 細胞毒性試験は利用されていると考えられる。

経口投与急性毒性試験による化合物の分類（BRD より抜粋）

Table 1-2 Regulatory Classification Systems for Acute Oral Toxicity

Regulatory Agency (Authorizing Act)	Animals	Endpoint	Classification
EPA (FIFRA)	Use current EPA or OECD protocol	Death[1]	I - $LD_{50} \leq 50$ mg/kg II - $50 < LD_{50} \leq 500$ mg/kg III - $500 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg IV - $LD_{50} > 5000$ mg/kg
CPSC (Federal Hazardous Substances Act)	White rats, 200-300 g	Death[1] within 14 days for ≥ half of a group of ≥10 animals	Highly toxic - $LD_{50} \leq 50$ mg/kg Toxic - 50 mg/kg $< LD_{50} < 5$ g/kg
OSHA (Occupational Safety and Health Act)	Albino rats, 200-300 g	Death[1], duration not specified.	Highly toxic - $LD_{50} \leq 50$ mg/kg Toxic - $50 < LD_{50} < 500$ mg/kg
DOT (Federal Hazardous Material Transportation Act)	Male and female young adult albino rats	Death[1] within 14 days of half the animals tested. Number of animals tested must be sufficient for statistically valid results.	Packing Group I - $LD_{50} \leq 5$ mg/kg Packing Group II - $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg Packing Group III - $LD_{50} < 500$ mg/kg (liquid) $LD_{50} < 200$ mg/kg (solid)
OECD Guidance for Use of GHS (2001b)	Protocols not specified	Not specified	I - $LD_{50} \leq 5$ mg/kg II - $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg III - $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg IV - $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg V - $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg Unclassified - $LD_{50} > 5000$ mg/kg

Abbreviations: EPA=U.S. Environmental Protection Agency; OECD=Organisation for Economic Co-operation and Development; LD_{50}=Dose producing death in 50% of the animals tested; CPSC=U.S. Consumer Product Safety Commission; FIFRA=Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act; OSHA=U.S. Occupational Safety and Health Administration; DOT=U.S. Department of Transportation; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).

[1] *Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation* calls for humane killing of moribund animals (OECD 2000). Moribund animals that are humanely euthanized are accepted as deaths.

ニュートラル・レッド（NR）は水溶性の弱陽イオン超生体染色色素である。正常な細胞では、NR は細胞形質膜を透過して陰イオン性のライソゾームマトリクスに結合して濃縮されるが、化合物によって細胞傷害が生じた場合には、細胞に取り込まれる NR が減少する。3T3 細胞を使用した NRU 試験は Borenfreund and Puerner (1985)が最初に報告した試験である。細胞毒性をエンドポイントとした試験方法は幾つか報告されている。NICETM/ECVAM のバリデーション試験で NRU 法を選択した理由としては、3T3 細胞及び NHK 細胞を用いた NRU 試験は、以前に実施したバリデーション試験において再現可能な試験であること（ICCVAM 2001b）、両細胞の入手は容易であり、LD_{50} 値を予測する RC millimole regression が既に得られていること、加えて、この試験は自動化が可能であり、RI を使用せず、危険性のある試薬を使用しないという実施上の利点があること、である。NRU 試

験法で評価可能な物質は、細胞培養液と反応せずに溶解する限りすべての物質が評価可能である。混合物でも評価可能と考えられるが、このバリデーション試験では使用されていない。

NRU 試験のエンドポイントは細胞死である。一方、*in vivo* 急性毒性試験のエンドポイントは動物の病的状態あるいは死であり、一見大きく異なる。しかし、細胞障害や細胞死が広範囲の組織に生じると、主要臓器の機能不全が起こり、個体死に繋がる。細胞のもつ基本的な機能として Ekwall (1983) はミトコンドリア活性、形質膜の統合性への影響を提案している。多くの化合物によって誘発される毒性は、これらの基本的な細胞機能への非特異的な影響の結果であって、細胞膜及び細胞骨格の統合性、代謝、合成、分解または細胞構成生物の分解、イオン調節及び細胞分裂に障害が生じ細胞死を招く。また、組織障害は恒常性維持のシグナル干渉も引き起こし、化合物が暴露されていない臓器にも影響する。したがって、細胞死と個体死には、同様のメカニズムが働いていると考えられる。

in vivo 試験において化合物の毒性発現がヒトとげっ歯類で異なるように、*in vitro* 細胞毒性試験においてもヒト由来の細胞とげっ歯類由来の細胞では反応性が異なり、またヒト由来の細胞であったとしても細胞の種類によってその感受性が異なる(Clemedson et al. 1998a、b)。げっ歯類の致死性を予測するには、げっ歯類由来の細胞が適していると考えられる。

細胞培養系と動物個体では、化合物の暴露の形態が異なる。経口投与された化合物は、消化管で吸収、血漿タンパク結合及び代謝を受け、体外へ排泄される。これらの過程を経ることで化合物の生物学的利用率は低下する。したがって、個体内では投与された化合物の一部のみが標的臓器に到達するに過ぎず、暴露される時間も限定的なものである。一方、細胞培養系では、吸収、分布、代謝及び排泄を有しておらず、化合物は直接細胞に作用するため、細胞培養系は動物の体内の細胞よりも被験物質に長時間暴露される。

化合物の毒性発現機序が細胞培養系と動物個体で異なる場合、細胞毒性試験での評価は適当ではない。例えば、ある種の神経受容体を介して毒性を発現す場合には、その受容体を発現していない 3T3 細胞または NHK 細胞では同様の毒性を捉えることを期待できない。仮に細胞毒性を示したとしても、それは *in vivo* とは異なったメカニズム、異なった濃度における毒性発現である。培養神経細胞であっても *in vivo* と同じ機能を保持していなため、*in vivo* と同じ反応を期待できない。神経や心臓に特異的な毒性を発現する物質については、3T3 細胞あるは NHK 細胞を用いた NRU 試験では過小評価されると考えられる。

化合物の物性として、細胞培養液に不溶性の物質、揮発性の物質、ライソゾームへ特異的な影響を与える物質、細胞に残留する性質を有した赤色あるは NR の吸光度と重なる有色の物質の評価は適当ではないかもしれない。3T3 細胞を用いた NRU 試験では、5%の血清を培養液に含むため、血清タンパクへの結合性が高い物質では、その毒性を過小評価するかもしれない（NHK 細胞の培地は血清を含まないため、この懸念はない）。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会の意見としては、72 種類の化合物から得られた NRU 法の IC_{50} 値と急性毒性試験の LD_{50} 値の相関性を根拠とした回帰式から算出しているが、動物の死と細胞の死が類似するメカニズムの説明が不十分であると評価した。相関性は必ずしも因果関係を説明するものではない。神経系、循環器、呼吸器などの生命維持に重要な影響を及ぼす器官に作用する化合物、体内で代謝されることによって毒性を発現する化合物は正しい LD_{50} 値の予測はできないと判断した。また、NRU 法での評価に適当ではない物性（揮発性、難溶解性及び有色の化合物など）を有する化合物は、本実験では正確な評価をすることが困難であるため、試験対象から除外すべきであると判断した。

2. 試験法の妥当性

96well マイクロプレートで培養した株化細胞に被験物質を 48 時間暴露させる。その後、ニュートラルレッド(NR)を培地に添加し、一定時間インキュベーションした後、細胞内に取り込まれたNRを抽出してプレートリーダーで測定し、コントロール細胞の吸光度値に対する割合を細胞生存率の指標とする。試験は、溶解性試験、用量設定試験及び本試験から構成される。用量設定試験では、広い範囲の用量をカバーする必要があるため、大きな希釈率で実施する。本試験では IC_{50} 値を用量段階の中央に設定し希釈率は用量設定試験より小さくする。

細胞の種類と培養液

1)3T3 細胞(BALB/c 3T3 マウス線維芽細胞)

培養液:10%新生児ウシ血清(非働化せず)含有 DMEM 培地

2)NHK 細胞(ヒト正常表皮角化細胞)

培養液:KBM培地(0.0001 ng/mL ヒトリコンビナントEGF、5 μg/mL インスリン、0.5 μg/mL ハイドロコルチゾン、30 μg/mL ゲンタマイシン、15 ng/mL アンホテリシン B、0.1 mM カルシウム、30 μg/mL ウシ下垂体抽出物含有)

3T3 細胞を用いた成績はNHK 細胞に比較して、実験結果の再現性は劣るが、動物数の削減に関してはわずかながら効果的であり、GHS の急性毒性のハザード分類もより正確に予測することができる。

NHK 細胞は無血清培地で培養することが可能であることから動物資源への負担が少ない。3T3 細胞を用いた試験は NHK 細胞に比較して費用が安価なことから、一般的に 3T3 細胞の使用が推奨されている。以下のように BRD では、2つの細胞を培養に必要な試薬費用が記載されている。

3T3 細胞:細胞($200)+培地 500 mL($20); 約$220

NHK 細胞:細胞($380)+培地 500 mL($100); 約$480

溶解性試験

溶解性試験は、被験物質が溶解するまで溶媒添加量を段階的に増加させることを基本として実施する。使用する溶媒は、細胞培養液、DMSO、ETOH の順で選択する。溶液を顕微鏡で観察し、溶液が透明で濁りや沈殿物が全く観察されない場合に溶解しているものとみなす。

攪拌方法は、以下のように実施する。

(1)1-2 分、室温でゆっくりボルテックスをかける。

(2)被験物質が溶解しなかったら、5 分間超音波処理を実施する。
(3)超音波処理でも溶解しない場合は、ウォーターバスあるいは CO_2 インキュベーターで 5-60 分間加温する。

1）溶解性試験の手順

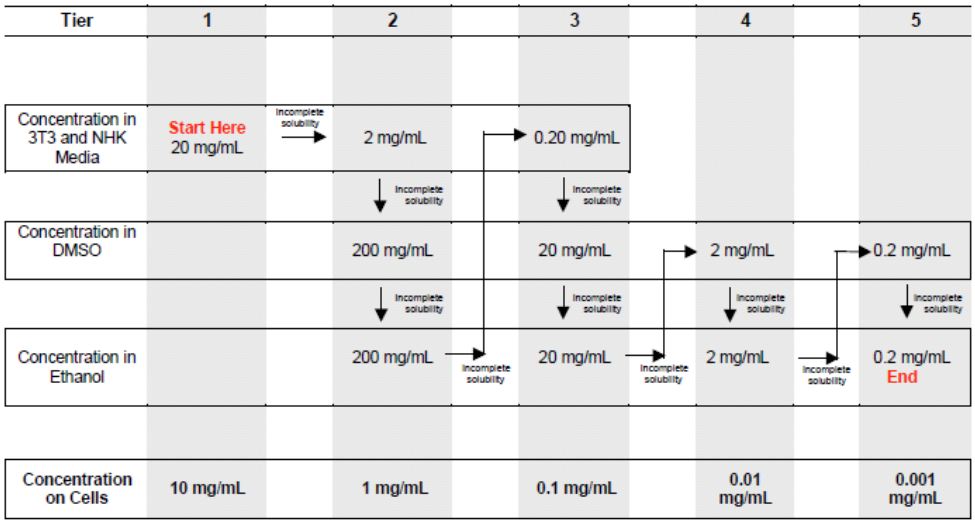
各 Phase によって手順が変遷しているが、以下に基本となった初期のプロトコルを記載する。

(1) 段階 1:100 mg の被験物質をガラス試験管に秤取する。0.5 mL の培養液を添加して 200 mg/mL に調製する。溶解しない場合は段階 2 を実施する。
(2) 段階 2:10 mg の被験物質をガラス試験管に秤取り、0.5 mL の培養液を添加して 20 mg/mL に調製する。溶解しない場合は段階 3 を実施する。
(3) 段階 3:段階 2 の被験物質溶液に、さらに 4.5mL の培養液を添加して全体を 5 mL とし 2 mg/mL に調製する。溶解しない場合は DMSO で溶解する。新しいガラス試験管に被験物質を 100 mg 秤量し、0.5 mL の DMSO を添加して 200 mg/mL に調製する。DMSO で溶解しない場合は ETOH で溶解する。新しいガラス試験管に被験物質を 100 mg 秤量し、0.5 mL の ETOH を添加して 200 mg/mL に調製する。溶解しない場合は段階 4 を実施する。
(4) 段階 4:被験物質が、培養液、DMDSO、ETOH のいずれにも溶解しない場合は、段階 3 で溶解しなかった培養液(2 mg/mL)、DMSO (200 mg/mL)及び ETOH (200 mg/mL)の被験物質溶液をそれぞれの溶媒を添加して 10 倍希釈して、培養液では 0.2 mg/mL、DMSO 及び ETOH は 20 mg/mL に調製する。溶解しない場合は、段階 5 を実施する。
(5) 段階 5:段階 4 で溶解しなかった DMSO(20 mg/mL)及び ETOH(20 mg/mL)の被験物質溶液に、それぞれの溶媒を添加して 10 倍希釈し 2 mg/mL を調製する。
(6) 段階 6:さらに必要ならば、被験物質を 10 mg ずつ秤量し 50 mL の DMSO または ETOH を添加して 0.2 mg/mL の溶液を調製する。

Phase III においては、20 mg/mL を培養液中の最高濃度(終濃度)とし実施することを要求した。
注)実際のバリデーション試験においては ETOH を使用した試験は実施されていない。

溶解性試験のフローチャート(BRD より抜粋)

Figure 2-7 Flow Chart for Determination of Reference Substance Solubility in Medium[1], DMSO, or ETOH



Abbreviations: DMSO=Dimethyl sulfoxide; ETOH=Ethanol; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.
Note: DMSO is U.S.P. analytical grade. ETOH is U.S.P. analytical grade (100% non-denatured).
[1]3T3 Medium - DMEM (Dulbecco's Modification of Eagle's Medium) with supplements; NHK medium - KBM® (Keratinocyte Basal Medium) with supplements (from CAMBREX Clonetics®).

2）被験物質溶液の希釈

被験物質溶液は、透明且つ沈殿が認められない条件で使用する。被験物質を有機溶媒に溶解した場合は、培養液中の有機溶媒含量は 0.5%以下とする。

被験物質を培養液に溶解した場合は、溶解性試験で溶解した最高濃度の半分、有機溶媒で溶解した場合は、溶解性試験で溶解した最高濃度の 1/200 の濃度を用量設定試験の最高濃度となる。

用量設定試験での上限濃度は、被験物質を培養液で溶解した場合には 10 mg/mL、有機溶媒を使用した場合には 1 mg/mL である。

用量設定試験では公比 10 とし、本試験では希釈段階をnとして 10 のn乗根として計算する。例えば、3 段階希釈では 2.15($\sqrt[3]{10}$)、6 段階希釈では 1.47($\sqrt[6]{10}$)、12 段階希釈では 1.21($\sqrt[12]{10}$)を用いる。

バリデーション試験では、用量設定試験の上限濃度で毒性が認められない場合、培養液で溶解する場合は 100 mg/mL(2 倍のストック液を使用)、DMSO を使用した場合には 2.5 mg/mL を上限濃度として再度用量設定試験を実施した。

用量設定試験及び本試験

1）陽性対照物質（PC）

ラウリル硫酸ナトリウム（SLS）を陽性対照物質として、8 用量で濃度反応曲線を描く。多数の被験物質の試験を実施する際に陽性対照物質のプレートは単独で実施して良い。

2）溶媒対照物質（VC）

被験物質の溶解に有機溶媒を使用した場合には、VC にも被験物質と同じ濃度（0.5%）の有機溶媒を添加する。

3）細胞の播種および前培養

3T3 細胞は、96-well マイクロプレートに 2-3×10^3 個／100 μL／well 播種後 24 時間培養し、NHK 細胞は、1.6-2×10^3 個／125 μL／well 播種後 48-72 時間培養する。

4）被験物質の添加

規定時間前培養し（3T3 細胞：24±2 時間、NHK 細胞：48－72 時間）、プレートを注意深くひっくり返し培養液を除去後、滅菌したペーパータオルに押し付けて well に残った培養液を除去する。すぐに、37±1℃に温めた培養液を 3T3 細胞には 50 μL ずつ、NHK 細胞には 125 μL ずつ添加する。それぞれの well に 2 倍濃度の被験物質が入った培養液を 3T3 細胞には 50 μL ずつ、NHK 細胞には 125 μL ずつ添加する。添加後 48±0.5 時間培養する。1 用量当たりの well 数は N=6 とする。

5）測定

被験物質の暴露終了後、位相差顕微鏡で細胞を観察して、被験物質の毒性によって生じた細胞の形態学変化、細胞の播種エラーおよび細胞増殖の程度を記録する。（この記録は、細胞毒性の評価には使用しない）。その後、well の培養液を除去し、Dulbecco's phosphate buffered saline（D-PBS）で洗浄後、NR 染色液(NR dye； 3T3: 25 μg/mL、 NHK: 33 μg/mL)を 250 μL 添加して 37℃、5% CO_2 で 3 時間培養する。染色液を除去して D-PBS で洗浄後 100 μL の用時調製した NR 抽出液（水：エタノール：氷酢酸＝49：50：1）を添加しプレートシェイカーで 20－45 分間振盪して NR を抽出する（BRD にはこの操作における温度の記載がない。室温における操作で十分であると判断した）。振盪後、プレートは少なくとも 5 分間放置する。測定は、NR 抽出液を添加してから 60 分以内に実施する。泡を取り除き、プレートリーダーで 540 nm±10 nm（OD_{540}nm）の吸光度をする（BRD には泡を取り除く方法について具体的な方法の記載がない。プレートを遠心し取り除く方法が一般的と考える）。

6）試験成立基準

試験成立基準（Test acceptance criteria）は各 Phase で変遷があるが、以下に Phase III で用いた試験成立基準を記載する。

(1) PC として使用する SLS の IC_{50} 値は、各研究室で得られたヒストリカルデータの平均値の 2.5 標準偏差（SD）の範囲に入っていること。
(2) VC は 96-well の 2 列目と 11 列目に設定するが、それぞれの列の OD 平均値の差が、全ての VC から算出した平均値から 15%以内であること。
(3) 細胞毒性率が 0%以上かつ生存率 50％未満のものが少なくとも一つ、細胞毒性率が 50％以上かつ 10％未満のものが少なくても一つは存在すべきである。
(4) PC の用量相関の R^2 値が Hill 式のモデルフィットに 0.85 以上の相関があること。

7）データ解析

生物学/科学的な判断により、評価に適していない well はデータ解析から除外可能である。
ブランクの OD_{540} 値を差し引いた後、細胞生存率を VC の平均値に対する割合として算出する。計算には表計算ソフト（例：Microsoft EXCEL®）を使って計算してもよい。
IC_{50} 値を計算するために統計学的ソフト（例：GraphPad Software PRISM®）を用いて、Hill 式の解析を行う。

8）初回投与量の決定

IC_{50} 値（mM）を次の回帰式に代入して $logLD_{50}$ 値（mg/kg）を算出する。

$LogLD_{50}(mmol/kg) = 0.439\ logIC_{50}(mM) + 0.621$ (ICCVAM、2006a)

$LogLD_{50}$ 値を LD_{50} 値に変換し、化合物の分子量を乗じて mg/kg 単位に変換する。
UDP 法の用量段階は、2000 mg/kg を上限とする試験では 5、50、300 及び 2000 mg/kg の 4 段階、5000 mg/kg を上限とする試験では、1.75、 5.5、 17.5、 55、 175、 550、1750 及び 5000 mg/kg の 8 段階である。ATC 法の用量段階は、2000mg/kg を上限とする試験では 5、50、300 及び 2000 mg/kg の 4 段階、5000 mg/kg を上限とする試験では 5、 50、 300、2000 及び 5000 mg/kg の 5 段階である。動物に投与する用量は、上記回帰式で得られた LD_{50} 値が含まれる用量段階より1段階低い用量を開始用量とする。
分子量不明の化合物については、μg/mL で算出した IC_{50} 値からは、以下の回帰式で LD_{50} 値（mg/kg）を推測することができる。

$LogLD_{50}(mg/kg) = 0.372\ logIC_{50}(\mu g/mL) + 2.024$ (ICCVAM、2006a)

既知の適用限界

ICCVAM のピアレビューパネルは、*in vitro* 試験の適用限界について以下のようにコメントしている。

1）溶解性、沈殿物及び揮発性を有する化合物

培養液、また有機溶媒を用いても溶解性が低く、50%の細胞毒性発現濃度が得ることができない化合物は *in vitro* 試験で評価することはできない。

培養液に添加後しばらくしてから結晶が析出する化合物では、正確な IC_{50} 値を求めることはできない。

揮発性の化合物では、VC のwell にコンタミが認められた。コンタミを防ぐために、well をフィルム状の Plate sealer で密封した試験も実施したが、有機溶媒では sealer に反応してしまうことから試験の実施が困難であった。

2）生物動力学測定（Biokinetic determination）

生体内に投与された化合物は、吸収、分布、代謝、排泄（ADME）の過程において生物学的影響を発現するが、*in vitro* の試験系では、これらが欠如している（ICCVAM 2001a）。したがって、*in vitro* の試験結果を *in vivo* に外挿するには、ADME も考慮すべきである。

3）臓器特異的毒性

3T3 及び NHK 細胞を使用した NRU 試験では、肝、中枢神経、腎、心臓、肺及び造血器に対する特異的な毒性を評価することはできない。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会では、本試験方法に関して以下のように意見をまとめた。

被験物質の用量段階について規定することはなく、ある程度自由度を持たすべきである。公比 3 程度とすることで、1 回の試験でも適切な IC_{50} 値を求めることができるケースも多いはずである。このような場合は、本試験を実施する必要はない。

被験物質の溶媒は、培養液あるいは有機溶媒が推奨されているが、溶媒は被験物質の性質に応じて選択されるべきである。水溶系の溶媒には培養液1種類だけでなく、一般的に *in vitro* 試験で使用される水や生理食塩液の使用も可能とし、自由度をもたすべきである。

DMSO や ETOH などの有機溶媒に溶解した被験物質が、培養液に添加後に析出した場合の IC_{50} 値の取扱いについて特記する必要がある。

被験物質の調製にガラス製試験管を使用することが記載されているが、試験管の材質は被験物質の物性に応じて選択すべきである。従って、被験物質の調製に使用する試験管はガラス製に限定するのではなく自由度をもたすべきである。

被験物質添加の際に、まず細胞へ培養液を添加し、次に 2 倍濃度の被験物質含有培養液を添加することになっているが、1 倍濃度の被験物質含有培養液の直接添加も認めるべきである。

NRU 法の陽性対照物質にラウリル硫酸ナトリウムが指定されているが、陽性対照物質は 1 種類だけでなく複数規定し、選択肢を広げるべきである。

陽性対照物質をテストするプレートは、被験物質をテストするプレートと別プレートで実施されているが、試験の成立および信頼性に関わる陽性対照の試験は、できる限り被験物質と同一プレート内で実施することが望ましい。

一つの用量につき6well(N=6)で実施することが指定されている。N 数と結果の信頼性が相関することは理解できるが、N=6 が必要かどうか考慮する必要がある。N=3-4 で十分な評価が可能である。

細胞から NR を抽出し測定するまでの時間が、1 時間以内と記載されている。一般的には 2ー3 時間後でも問題ないと考える。また、細胞から NR を抽出する時間も 20-45 分と規定している。抽出から測定までの時間や NR 抽出時間などの各処理における時間の規定は、各施設で検討試験を実施し、試験精度が担保できる範囲で自由度をもたせるべきである。

本ガイドライン草案では、LD_{50} 値の算出に Graphpad PRISM®が例として挙げられているが、本ガイドライン草案のプロトコルに適したソフトウエアを開発して自由に配布できると利便性が向上し、普及しやすい。

3. バリデーションに用いられた物質の分類と妥当性

バリデーション試験の被験物質として 72 種類の参照化合物を選択した（下表参照）。

1,1,1-Trichloroethane	Diethyl phthalate	Phenobarbital
2-Propanol	Digoxin	Phenol
5-Aminosalicylic acid	Dimethylformamide	Phenylthiourea
Acetaminophen	Diquat dibromide*	Physostigmine
Acetonitrile	Disulfoton	Potassium cyanide
Acetylsalicylic acid	Endosulfan	Potassium I chloride
Aminopterin	Epinephrine bitartrate	Procainamide**
Amitriptyline HCl	Ethanol	Propanolol HCl
Arsenic III trioxide	Ethylene glycol	Propylparaben
Atropine sulfate*	Fenpropathrin	Sodium arsenite
Boric acid	Gibberellic acid	Sodium chloride
Busulfan	Glutethimide	Sodium dichromate dihydrate
Cadmium II chloride	Glycerol	Sodium hypochlorite
Caffeine	Haloperidol	Sodium I fluoride
Carbamazepine	Hexachlorophene	Sodium oxalate
Carbon tetrachloride	Lactic acid	Sodium selenate
Chloral hydrate	Lindane	Strychnine
Chloramphenicol	Lithium I carbonate	Thallium I sulfate

Citric acid	Meprobamate	Trichloroacetic acid
Colchicine	Mercury II chloride	Triethylenemelamine
Cupric sulfate 5H2O	Methanol	Triphenyltin hydroxide
Cycloheximide	Nicotine	Valproic acid
Dibutyl phthalate	Paraquat	Verapamil HCl
Dichlorvos	Parathion	Xylene

*試験には一水和物を用いた。

**試験には塩酸塩を用いた。

参照化合物の選択基準は、1）GHS の急性経口毒性の分類（5 区分に加えて LD_{50} 値＞5000 mg/kg の未分類化合物）にげっ歯類 LD_{50} 値が 12 物質ずつ分類できること、2）構造と使用用途が広範囲に渡ること、3）ヒトの毒性データを備えたものであることとした。また、GHS 急性経口毒性の区分全体に分布するように物質を選択した。RC データベースに上げられている物質については ZEBET の RC millimole regression に合うものから選んだ。バリデーション試験で使用した 72 種類の参照化合物数は十分な数であると ICCVAM ATWG、ICCVAM、ECVAM は判断した。

評価に用いた LD_{50} 値は、OECD ガイドラインでラットを用いた試験が推奨されていること、RC millimole regression の大部分がラットの LD_{50} 値を使っており、そして大部分の急性経口全身毒性試験ではラットが用いられていることからラットが選ばれた。各物質の LD_{50} 値は RC（LD_{50} 値データの大部分は RTECS® [1983/84]）を優先とし、その他、RTECS®（2001、2002） Hazadous Substances Data Bank を用いて調査した。選択した 72 種類の物質は RC をはじめとし、各種のデータベースに登録されており、1 物質で複数のデータベースにリストされているものもあった。

選択した参照化合物に含まれる RC 物質（58 物質）については RC millimole regression 全体と比較するとはずれ値の比率が高く、また、過小評価が 17 物質、過大評価が 5 物質と偏りが見られた。

被験物質情報としては分子量、分子構造、化学的分類、代謝活性化/不活性化、作用機序、脳血液関門の透過性などが調べられているが、分子の荷電と界面活性については情報が得られなかった。また、毒性の標的臓器や腐食性に関してもデータを検索した。72 種類の物質のうち 57 物質が有機化合物、15 物質が無機化合物であった。有機化合物にはヘテロサイクリック（14 物質）、カル

ボン酸（14 物質）、アルコール（10 物質）などが多く、その他フェノール、硫黄化合物、アミン、有機リン化合物などが含まれていた。無機化合物にはナトリウム化合物（6 物質）、塩素化合物（5 物質）などが多く、その他、砒素化合物、金属、カリウム化合物、硫黄化合物などが含まれていた。製品の種類、使用法としては医薬品 27 物質、農薬 17 物質で他に溶媒、食品添加物、殺菌剤/消毒剤などが含まれていた。

72 種類の物質の中で代謝により活性化するもしくは活性化が期待される物質は 22 物質で、代謝により毒性が減少する物質は 5 物質であった。NHK 細胞と 3T3 細胞は活性化能力がほとんどまたは全くないことが報告されている。

試験できなかった、または試験が難しかった物質は主に、毒性が低く IC_{50} 値が得られない、揮発性がある、または溶解性が悪いことが原因であった（試験結果が得られなかった化合物　3T3；Lithium I carbonate、Methanol、NHK；1,1,1−Trichloroethane、両細胞共通；Carbon tetrachloride、Xylene）。

試験に使われた被験物質の情報の記載があり、コード化や配付も適切に行われた。

参照化合物に PAHs、触媒、単純なアルデヒド、ケトン、バイオサイド（殺生物剤）、混合物/製剤、植物毒などの天然化合物が含まれていない。ICVAM ピアレビューパネルは、特に、一般的な殺虫剤や家庭用品の評価が必要であるとした。

総じて、*in vivo* の急性経口毒性で作用様式や機序がはっきりしていないことから、*in vitro* のバリデーションのために広範囲に亘る標準物質を選択することが戦略的に難しいが、NRU 法は基礎的な細胞毒性を検出するので、選択された物質は reliability と accuracy を評価するには十分である。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会としては、以下のように意見をまとめた。

バリデーション試験で使用された 72 種類の参照化合物についての選択基準、LD_{50} 値、各種情報（GHS のクラス分け、構造、分類、使用用途等）、情報の由来について十分な記載がされていると判断する。

被験物質数や被験物質名称について文中、表中および Appendix で記載の一部が一致していなかったが、全体の評価に影響を及ぼす内容ではないと判断した。

急性毒性試験の代替法が早急に求められているのは化粧品業界であるが、NRU 法で使用した 72 種類の化合物に化粧品原料は少ないことから、化粧品原料について本法が有効であるかについ

ては、評価ができないと JaCVAM 評価委員会は判断した。なお、化粧品業界は、初回投与量を設定する試験ではなく、動物試験を置換できる完全な代替法を求めている。

ICVAMピアレヴューパネルが指摘したように、混合物や製品については回帰式から急性毒性の濃度を予測可能であるかについて試験されておらず、データが得られていないことから、これらの物質については開始濃度を予測することができるかどうかの判断はできないと JaCVAM 評価委員会は判断した。

揮発性を有しているもの、溶解性が低いものなど試験が困難な物質について、試験をどのように実施するかに関する記載は見られなかった。被験物質の物性によって試験が適切に行えないと考えられる場合は、試験を行わない選択についての検討が必要であると JaCVAM 評価委員会は判断した。

参照化合物の選択は RC 全体に物質が亘るように考慮されているが、はずれ値の割合がこの評価方法の基礎となった RC millimole regression よりも多く、また、過小評価となった物質により多く偏りが認められているので、試験結果の評価時に考慮が必要であると JaCVAM 評価委員会は判断した。

使用した細胞は代謝活性化能力をほとんど保有していない。しかしながら、RC millimole regression で使用されている *in vitro* データからは代謝活性化系が意図的にはずされており、バリデーション試験と RC との精度の比較に関しては代謝活性化が含まれていないことは大きな問題とはならないと考える。代謝活性化により活性化または不活化される物質に関して評価が可能であるかどうか、別途考察が必要であると JaCVAM 評価委員会は判断した。

4. 試験法の正確性を評価するために用いられた参照化合物の *in vivo* 参照データ

バリデーション試験の精度を評価するため、げっ歯類急性経口 LD_{50} 値を収集した。LD_{50} 値を求めるために新たな動物実験は行わなかった。各種データベースおよび文献から得られたデータのほとんどが GLP 非適用であり、データの質はよくない。野生のラット、4 週齢未満のラット、麻酔したラット、餌やカプセルで摂取したもの、LD_{50} 値が範囲及びある数値以上として報告されているものを除外し、データの質の改善を行った。試験条件の記載がない場合、ラットは若い生体で一般的な種類、無麻酔、強制経口投与により得たデータとして扱った。

評価に使用した LD_{50} 値（Reference LD_{50}）は、各種クライテリアに合致した LD_{50} 値が複数ある場合には、それらの幾何平均とし、ラットの経口のデータがない 3 物質については、マウスの急性経口毒性の LD_{50} 値から同様の作業によってデータを得た。Reference LD_{50} 値を用い、各物質について GHS に基づいて再度クラス分類をしたところ 53 物質が同じ分類、18 物質で LD_{50} 値が高値となり、より毒性の低いクラスへ分類され、1 物質で LD_{50} 値が低くなりより毒性の高いクラスへ分類された。

各物質につき得られた複数の LD_{50} 値について、最大値と最小値の比でばらつきを調べた。72 種類の物質中 2 つ以上の LD_{50} 値が得られたものは 62 物質でその比は平均で 4.3 となり、毒性の強い物質（LD_{50} 値≤ 50 mg/kg）では毒性の弱い物質（LD_{50} 値> 50 mg/kg）よりも比が大きくなる傾向があった。しかしながら、同一のプロトコルで試験した試験施設間でも数倍から 10 倍程度の変動が報告がされており、検索で得られたデータではラット種、性別、観察期間、LD_{50} 値の計算方法などは異なっていることを考慮に入れると文献から得られた結果は評価に使用するのに妥当であると判断した。

RC との共通物質 58 物質について文献より得られた LD_{50} 値と、RC の値を比較したところ、Spearman correlation analysis で対数変換した数値において $p<0.0001$ で $r_s = 0.97$ と非常に高い相関を示した。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会としては、以下のように意見をまとめた。

JaCVAM 評価委員会は文献からのデータの取捨選択については十分な記載がされていると判断した。

文中と表の数値、記載が一部一致していないが、全体の評価に影響を及ぼす内容ではないと JaCVAM 評価委員会は判断した。

全体として、文献から得られた LD_{50} 値は信頼できるものであり、これらの値を用いた評価は可能であると JaCVAM 評価委員会は判断した。

RC、LD_{50} 値を求めた参照化合物の中で、塩の形が異なる物質があったがその同等性に関する記載は認められなかった。したがって、JaCVAM 評価委員会としては、結果への影響が判断できなかった。

文献より得られた LD_{50} 値のばらつきは全体的に LD_{50} 値が 50 mg/kg を境にして低濃度の場合、比が大きい傾向があったが、今回最も比の大きかった物質（25.9 倍）の LD_{50} 値は 329 mg/kg であり、ばらつきが物質固有の物性等に起因する可能性について否定できないと JaCVAM 評価委員会は判断する。

GHS 区分に変更があった物質 19 物質のうち、3 物質はデータがマウスからラットに変更されていたが、動物種を変更したことに対する影響の有無についての記載は認められない。そのため、JaCVAM 評価委員会では、評価に対する影響についての判断はできなかった。

Reference LD_{50} 値で再評価して GHS クラスが変更された 14 物質における文献値の LD_{50} 値はその化合物が分類される GHS 区分に含まれていた。うち複数物質において LD_{50} 値がほぼ GHS 区分のボーダー上にあり、LD_{50} 値の文献値と GHS 区分に使用された元の数値が必ずしも著しく異なっていたことが原因で GHS クラスが変更された訳ではなかった。GHS 区分のボーダー上で区分変更がされた物質については考察が必要と JaCVAM 評価委員会は判断した。

5. 試験法のデータと結果の利用性

バリデーション試験は、2002 年 6 月から、2004 年 1 月に掛けて Bio Reliance Corporation、U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC)、Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory (FAL)、Institute for in vitro Sciences (IIVS)の 4 つの施設が参加した。Bio Reliance は、参照化合物の入手、コード化、配布、溶解試験などの作業を行い、細胞毒性試験は ECBC、FAL 及び IIVS で実施した。

Bio Reliance、ECBC および IIVS は技術的な面の解決部分を除き GLP 適用下に実施した。FAL では GLP の精神に従い試験が実施されたが、個別の手順に対する QA のレビューは実施されなかった。各施設での評価と試験方法の改良、改良された方法に基づく評価、の 2 つ Phase を経て、最終化されたことが示されており、改良と最終化は問題ないと判断された。

Positive Control として用いた Sodium lauryl sulfate (SLS) の各施設の IC_{50} 値が各 Phase で示されており、その結果について問題ないと判断した。

3T3 と NHK 細胞との細胞間比較では、種々の化合物において IC_{50} 値に差が認められ、陽性対照の SLS でも 10 倍の差が認められた。バリデーション試験を実施した参照化合物の 85%は、この比が 0.1-10 の間にあった事を示している。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会は以下のように意見をまとめた。

3T3 細胞と NHK 細胞の各細胞での IC_{50}値の差は、各化合物で 10 倍以内の差であるが、2 つの細胞系全体では、一定傾向を持つ差ではない。そのため、試験系全体では 100 倍のばらつきがあると判断される。

初回投与量の予測は、それぞれの細胞ごとに得られた化合物の IC_{50} 値と動物の LD_{50} 値からの相関式を用いるが、前述のようなばらつきが存在していても 2 つの細胞系を同様に使用できることの考察が不足していると判断した。

Aminopterin、hexachlorophene および digoxin では両細胞での IC_{50} 値に 100 倍を超える差が認められた。これら極端な差が認められたものについてはそれぞれメカニズムなどについて考察が必要である。

BRD の 7 章では、試験手技の訓練がばらつきを小さくするために必要である事が述べられている。そこで、陽性対照 SLS の施設間差については、施設間の手技の均一性についても考察する必要がある。

6. 試験方法の正確性

3T3 及び NHK NRU 法によりげっ歯類における LD_{50} 値の予測性から正確性が検討された。本試験方法は置き換えを意図しておらず、LD_{50} 値の予測から初回投与量を決定し、使用動物削減を目的としている。動物へ投与する用量は、回帰直線から得られた LD_{50} 値が含まれる GHS 区分より一段低い用量を用いるとしているため、動物実験で得られる LD_{50} 値に近い予測がされた時、試験に使用する動物の苦痛を軽減することが期待できる（GHS 区分の毒性評価としては保守的となり、強毒性側に偏りのある解釈となる）。

質量換算の相関（mg/kg と mg/mL）から、分子量換算（mM/kg と mM）の相関に変更する事で、vivo vitro 相関回帰式の相関係数 R^2 値が増加し、予測性を向上させたことが示されており、妥当である。また、質量換算の相関式も分子量不明の化合物、混合物については受け入れる事が出来るとしていることも妥当である。

質量換算データおよび分子量換算データでの正確性とはずれ値について検討されている。2 つの細胞でのそれぞれの IC_{50} 値とラット LD_{50} 値での直線回帰および、予測された LD_{50} 値と、GHS での急性毒性分類の一致性を検討している。その結果、バリデーション参加施設全てのデータを合わせた解析の結果において、いずれの細胞でも類似した直線回帰係数が得られており問題はないと判断する（BRD Table 6-2）。

GHS 区分の予測性は、ラット LD_{50} 値の分子量換算の相関では、3T3 NRU 法と NHK NRU 法でそれぞれ 31%（21/67）、29%（20/68）となった。GHS 区分の幅を±1 まで広げると 3T3 は 69%、NHK が 71%まで予測的中率は増加した。また、各 GHS 区分別に見ると、LD_{50} 値が 300～2000 mg/kg のレンジがもっとも良好であった。一方、毒性の強い化合物、あるいは非常に毒性の弱い化合物の予測性がよくなかった（BRD Table 6-7）。

はずれ値を示した化合物について、物理化学的性質、溶解性、毒性メカニズムなどの分析が実施されている。沸点が 200℃を越えるもの、分子量が 400 を超えるものなどははずれ値を示す可能性が高いことが示された。また、溶解度から見ると、はずれ値を示した化合物において 8/22（3T3）、7/23（NHK）が溶解性の低いものであり、dibutyl phthalate を除き全て under predicted となった。

毒性メカニズムの面から、はずれ値を示した化合物を調査した結果 CNS と心臓への作用を示す化合物ではずれ値が認められた。

バリデーションに参加した各施設の直性回帰（BRD より抜粋）

Table 6-2 Linear Regression Analyses of the 3T3 and NHK NRU and Rat Acute Oral LD_{50} Test Results[1]

Laboratory	N	Slope	Intercept	R^2
3T3 NRU				
ECBC[2]	47	0.573	0.541	0.613
FAL[2]	47	0.539	0.373	0.519
IIVS[2]	47	0.552	0.507	0.586
Combined-laboratory[3]	47	0.561	0.475	0.579
NHK NRU				
ECBC[2]	51	0.491	0.412	0.480
FAL[2]	51	0.428	0.407	0.422
IIVS[2]	51	0.483	0.416	0.478
Combined-laboratory[3]	51	0.470	0.413	0.463

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; N=Number of substances used to calculate the regression; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; R^2=Coefficient of determination.
[1]Log IC_{50} in mM; log LD_{50} in mmol/kg.
[2]Regression based on a single point per substance (i.e., the geometric mean of the within laboratory replicate IC_{50} values and the reference rat acute oral LD_{50} from **Table 4-2**).
[3]Regression based on a single point per substance (i.e., the geometric mean of the geometric mean IC_{50} values obtained for each laboratory and the reference rat acute oral LD_{50} from **Table 4-2**).

Table 3 はずれ値を示した化合物のまとめ（BRD より抜粋）

化合物名の後ろに記載されている（＋）は毒性が overpredict されたもの、（-）は毒性が underpredict されたもの。

Table 6-3 Outlier Substances for the RC and the 3T3 and NHK NRU Methods When the RC Millimole Regression is Used[1]

Substances Included in the RC Identified as Outliers in:		
RC[2]	**3T3[3]**	**NHK[4]**
	Acetaminophen (+)	
	Arsenic III trioxide (–)	*Arsenic III trioxide (–)*
		Aminopterin (–)
5-Aminosalicylic acid (+)		5-Aminosalicylic acid (+)
Busulfan (–)	**Busulfan (–)**	**Busulfan (–)**
Caffeine (–)		Caffeine (–)
Cycloheximide (–)	**Cycloheximide (–)**	**Cycloheximide (–)**
Dibutyl phthalate (+)	*Dibutyl phthalate (+)*	*Dibutyl phthalate (+)*
	Diethyl phthalate (+)	*Diethyl phthalate (+)*
Digoxin (–)	*Digoxin (–)*	
Disulfoton (–)	*Disulfoton (–)*	*Disulfoton (–)*
Epinephrine bitartrate (–)	Epinephrine bitartrate (–)	Epinephrine bitartrate (–)
Ethanol (+)	**Ethanol (+)**	**Ethanol (+)**
Lindane (–)	*Lindane (–)*	
Mercury II chloride (–)	Mercury II chloride (–)	Mercury II chloride (–)
		Methanol (+)

はずれ値を示した化合物のまとめ−つづき−(BRD より抜粋)

Substances Included in the RC Identified as Outliers in:		
RC[2]	**3T3[3]**	**NHK[4]**
Nicotine (–)	Nicotine (–)	Nicotine (–)
Paraquat (–)		Paraquat (–)
Parathion (–)	***Parathion*** **(–)**	***Parathion*** **(–)**
Phenobarbital (–)	Phenobarbital (–)	Phenobarbital (–)
Phenylthiourea (–)	Phenylthiourea (–)	Phenylthiourea (–)
Potassium cyanide (–)	Potassium cyanide (–)	Potassium cyanide (–)
Propylparaben (+)	Propylparaben (+)	Propylparaben (+)
		Sodium oxalate (–)
Thallium I sulfate (–)	Thallium I sulfate (–)	
Triethylenemelamine (–)	Triethylenemelamine (–)	Triethylenemelamine (–)
1,1,1-Trichloroethane (+)		
Verapamil HCl (–)	**Verapamil HCl (–)**	***Verapamil HCl*** **(–)**
		Xylene (+)
Outliers That Were Not Included in the RC		
	Dichlorvos (–)	Dichlorvos (–)
	Endosulfan (–)	Endosulfan (–)
	Fenpropathrin (–)	*Fenpropathrin* (–)
	Physostigmine (–)	Physostigmine (–)
	Sodium hypochlorite (+)	Sodium hypochlorite (+)
	Sodium selenate (–)	Sodium selenate (–)
	Strychnine (–)	*Strychnine* (–)

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; (–)=Toxicity was underpredicted by the IC_{50} and RC millimole regression (i.e., the LD_{50} value predicted by the IC_{50} was higher than the *in vivo* LD_{50} value); (+)=Toxicity was overpredicted by the IC_{50} and RC millimole regression (i.e., the LD_{50} value predicted by the IC_{50} was lower than the *in vivo* rodent LD_{50} value).
[Note: Empty cells indicate that the substance was not an outlier for that particular IC_{50} value.]
[1]Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625. Log LD_{50} (mmol/kg) values for outlier substances were >0.699 from the RC millimole regression.
[2]Using RC IC_{50} in the RC millimole regression for the 58 RC substances tested in the validation study.
[3]Using the 3T3 NRU IC_{50} in the RC millimole regression for the 70 reference substances that yielded IC_{50} values from any laboratory in the validation study.
[4]Using the NHK NRU IC_{50} in the RC millimole regression the RC for the 71 reference substances that yielded IC_{50} values from any laboratory in the validation study.
Bolded substances have active metabolites *in vivo* (see **Table 3-7**).
Substances that showed evidence of insolubility (i.e., precipitates) during testing (see **Table 5-11**) are identified by italics.

NRU 法による GHS カテゴリーの予測性（BRD より抜粋）

Table 6-7 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Millimole Regression[1]

Reference Rat Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	3T3 -Predicted GHS Category (mg/kg)						Total	Accuracy	Toxicity Over-predicted	Toxicity Under-predicted
	LD_{50} <5	5 < LD_{50} 50	50 < LD_{50} 300	300 < LD_{50} 2000	2000 < LD_{50} 5000	LD_{50} >5000				
LD_{50} < 5	0	2	0	4	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	1	6	3	1	0	11[4]	9%	0%	91%
50 < LD_{50} ≤300	0	0	5	7	0	0	12	42%	0%	58%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	2	13	0	0	16	81%	19%	0%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	10	0	0	10[5]	0%	100%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	8	2	2	12[6,7]	17%	83%	0%
Total	0	4	13	45	3	2	67	31%	34%	34%
Predictivity	0%	25%	38%	29%	0%	100%				
Category Overpredicted	0%	25%	15%	40%	67%	0%				
Category Underpredicted	0%	50%	4 %	31%	33%	0%				
Reference Rat Oral LD_{50}	NHK -Predicted Toxicity Category (mg/kg)						Total	Accuracy	Toxicity Over-predicted	Toxicity Under-predicted
	LD_{50} <5	5 < LD_{50} 50	50 < LD_{50} 300	300 < LD_{50} 2000	2000 < LD_{50} 5000	LD_{50} >5000				
LD_{50} <5	0	1	2	3	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	2	5	3	1	0	11[4]	18%	0%	82%
50 < LD_{50} ≤300	0	1	6	5	0	0	12	50%	8%	42%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	2	12	1	0	16	75%	19%	%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	10	0	0	10[5]	0%	100%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	7	6	0	13[7]	0%	100%	0%
Total	0	5	15	40	8	0	68	29%	40%	31%
Predictivity	0%	40%	40%	30%	0%	0%				
Category Overpredicted	0%	40%	13%	43%	75%	0%				
Category Underpredicted	0%	20%	47%	28%	25%	0%				

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity. Shaded cells are those containing the correct predictions.
[1]The RC rat-only millimole regression is log LD_{50} (mmol/kg) = log IC_{50} (mM) x 0.439 + 0.621. Numbers in table represent numbers of substances.
[2]Reference rat oral LD_{50} values in mg/kg from **Table 4-2**.
[3]Epinephrine bitartrate excluded because no rat reference acute oral LD_{50} was identified (**see Table 4-2**).
[4]Colchine excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (**see Table 4-2**).
[5]Carbon tetrachloride excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.
[6]Methanol excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.
[7]Propylparaben excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (**see Table 4-2**).

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会は以下のように意見をまとめた。

毒性の強い化合物の予測性は低く under prediction の傾向がある。結果的に選択された初回投与量が致死量を超えている可能性が高く、投与した動物の苦痛軽減に寄与できないと判断する。

心臓及び CNS への薬理作用が想定される化合物については本試験による予測性が低いことが示されている。一方、心臓及び CNS 以外の毒性メカニズムについては網羅的に確認されていないことから、他にメカニズム面からはずれ値を示す化合物群が存在するかどうかの検討が不十分であると考える。今後集積されるデータを再度レビューして毒性メカニズムを幅広く考察する事を要望する。

はずれ値の考察のため物理化学的な性質については、分子量、沸点、pH、logKow などが調査されリスト化（BRD AppendixL1）されているが、情報はまだ十分整っていない。物理化学的パラメータによるクラス分けについても今後蓄積されるデータの追加解析により精度を向上させることが出来ると考えるので追加解析を要望する。現状では単独のパラメータを用いた評価にとどまっている事から、今後複合的な解析も必要である。

7. 試験方法の信頼性

3T3 および NHK NRU 法の信頼性は、施設間および施設内に関する再現性にて論ぜられた。施設内再現性は、同一の試験計画書にて同じ施設で繰り返し実施された試験結果にて評価された。施設間再現性は、同一の試験計画書にて同一の参照化合物を用い異なる試験施設にて評価された結果を用いて評価された。再現性の評価には、3 つのすべての研究所において、3T3 細胞で 64 の参照化合物を、NHK 細胞で 68 の参照化合物をそれぞれ試験し、繰り返し IC_{50} 値を算出した結果を用いた。3T3 NRU 法及び NHK NRU 法における IC_{50} 値データの施設内再現性及び施設間再現性について、分散分析（ANOVA）、変動係数（CV）解析、研究所別 IC_{50} – LD_{50} 回帰の比較及び研究所内平均 IC_{50} 値の最大値／最小値比の比較により評価した。その結果、ばらつきは大きいものの再現性は概して NHK NRU 法の方が良好であった。

今回の試験にて評価された参照化合物は、3 章に記載されているように、GHS 区分全体にわたる広範囲の領域から選択されている。

施設別 IC_{50}–LD_{50} 回帰による施設内類似性の評価を基とした再現性の解析では、3T3 NRU 法、NHK NRU 法ともに 95%信頼限界内であった。ANOVA 解析では、3T3 NRU 法の 23 物質において、また NHK NRU 法の 6 物質で施設間に有意な差が認められた。施設内 CV は、3T3 NRU 法において 1–122%の範囲であり、NHK NRU 法では 1–129%の範囲であった。平均研究所内 CV は、両 NRU 試験法とも 26%であったが、平均研究所間 CV は NHK ではより低い平均 CV（3T3 の 47%に対し 28%）であった。施設間の CV は、3T3 試験法において 3–135%の範囲であり、NHK NRU 法では 1–91%の範囲であった。FAL における施設内平均 CV は 3T3 で 33%、NHK で 43%であり、最も高い値であった。再現性は概して NHK NRU 法の方が良好であった。

参照化合物の化学特性と施設間 CV の関係を示す解析を行った結果、化学構造、物理的形状、溶解性や揮発性は CV にほとんど影響を示さなかった。CV の大きさは GHS 急性毒性区分、IC_{50} 値及び沸点に関連すると考えられた。施設間 CV の平均値は、最も毒性の強い GHS 分類の物質では特に 3T3 NRU 法において他の毒性分類の物質より大きかった。3T3 NRU 法において、施設間平均 CV は、LD_{50} 値が 5 mg/kg 以下の区分で 72%、LD_{50} 値が 5 mg/kg 超 50 mg/kg 以下の区分では 78%であり、全体の施設間平均 CV は 47%であった。NHK NRU 法において、施設間平均 CV は、5 mg/kg 以下の区分で 37%、LD_{50} 値が 5 mg/kg 超 50 mg/kg 以下の区分で 41%であり、全体の施設間 CV の平均値は 28%であった。Spearman の相関解析により IC_{50} 値と施設間 CV との逆相関が、3T3 NRU 法（$p=0.0015$）及び NHK NRU 法（$p=0.014$）のいずれにおいても認められた。

沸点と施設間 CV との正の相関(p=0.007)(即ち、沸点が高いほど CV 値も高い)が 3T3 NRU 法でみられたが、NHK NRU 法(p=0.809)では認められなかった。

3T3 NRU 法による陽性対照物質(SLS)の IC_{50} 値の ANOVA 解析では、施設間で有意差(p＝0.006)を示したが、施設内の各試験 Phase における比較では差がみられなかった(p＞0.01)。しかし、施設間の CV は Phase Ia 及び Phase Ib において 6%、Phase II では 10%、PhaseIII では 2%と比較的小さな値であったが、施設内 CV は 5%から 24%であった。

NHK NRU 法の SLS の ANOVA 解析結果、施設間や施設内の各試験 Phase における比較で有意(p＜0.001)であった。Phase Ib 後に FAL では培養法が変更され SLS の IC_{50} 値が経時的に低下傾向にあったが、FAL の施設内 CV は依然として他の施設より高かった。各試験 Phase において、NHK NRU 法による SLS の IC_{50} 値の施設内 CV は 11%から 51%であるのに対し、3T3 NRU 法による SLS の施設間 CV は Phase III の 8%から Phase Ⅰb の 39%であり、3T3 NRU 法に比較して NHK NRU 法はばらつきが大きかった。

参照化合物の溶解に使用された溶媒は細胞培養液が 38 化合物、DMSO が 34 化合物であった。参照化合物の溶媒選択の 3 つの施設間の一致性は 76%(55/72)であった。今回の試験の信頼性保証評価を実施した施設とは別に、溶解性試験のみに参加した BioReliance は他の 3 施設に比較して高い溶解性を得ていた(溶解試験の方法は 2 章記載)。全ての施設で同様のプロトコルで溶解試験を実施しているが、常に同じ結果が得られてはいない。施設によっては、いくつかの参照化合物で IC_{50} 値を算出することができていなかった。IC_{50} 値が得られなかった化合物は、その大部分が有機溶媒であった(Lithium I carbonate、Methanol、1,1,1-Trichloroethane、Carbon tetrachloride、Xylene)。施設内で行われる手技にばらつきがあるために、施設内および施設間の再現性に差異が生じるという問題点は、試験中にも取り上げられた。GLP を遵守し実施した二つの施設のデータは極めてよく一致していたことが示され、さらにその他の施設の成績に比べ、ばらつきやエラー発生率がより低い傾向にあったことも示された。すべての施設に対し、共通のトレーニングを行った後では、施設間のバラツキは減少した。このことから、基本的手技訓練と、プロトコル遵守の必要性が示された。試験を実施する研究者は、細胞や培養法さらには適切な科学的方法について、十分にトレーニングを受けるべきである。

JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会では以下のように意見をまとめた。

3T3 および NHK NRU 法による試験の信頼性の検討が、3 研究所にて実施された再現性の検討結果をもとに論じられた。試験結果には施設間差がみられており、施設間で生じるバラツキの理由に

ついて考察することは、信頼性確保の上からも有益と考える。試験を実施した 3 施設のうち FAL においては、他の施設と同様のトレーニングを実施したにもかかわらず他施設に比べ高い傾向がみられ、この点について更に考察を加えるべきである。

ANOVA 解析による施設内および施設間の再現性の有意差に関する検討では、サンプルサイズや研究施設内でのばらつきにもよるが、有意差が見られるのは、施設間の差が極めて少ない場合、または有意差が見られないのは、施設間に極めて大きなバラツキがある場合もある。この点も十分考慮した評価を行うことを考えると単純な ANOVA 解析のみの結果で評価を行うことには異論がある。

3T3 および NHK NRU 法による試験結果に関し、NHK NRU 法の再現性が良好であったが、この理由について更に考察を加えるべきである。

試験を実施する場合、試験手技の習熟と計画書遵守に関するトレーニングは最低限必要なことである。その上で化合物の IC_{50} 値が算出できなかった理由を考えるとともに、試験に使用する溶媒の選択計画についても十分に協議すべきである。

8. 試験方法のデータの質

バリデーションが実施された施設のうち、ECBC と IIVS は GLP 適合施設、FAL は適合していない施設であった。参照化合物の調達や配布のための準備は、GLP 適合施設である BioReliance が実施した。FAL における試験は GLP 精神に従って実施された。FAL に対して、バリデーション試験マネージメントチーム（SMT）は「記録すべき項目」を提示したことに対し、バリデーション試験開始以前から試験操作において記録を実施する指針を所有していた。様々な実験室の活動はワークブック、日誌に記録されており、その情報を SMT が確認できた。

GLP における逸脱または不履行の影響については、研究マネージメントチームにより究明された。EXCEL®または PRISM®のテンプレートへのデータの移行に誤りが認められ、すべてのデータシートが再調査され、修正がなされた。そして正確なデータが統計解析に用いられた。逸脱または不履行の多くは小さなものであり、データの質に影響はなかった。FAL は他の 2 施設に比べて、データ移行における誤りの割合、試験の受け入れ基準不適合の割合、施設内再現性の検討における変動係数が高い値を示した。しかし、GHS 分類での急性経口毒性の分類の予測能は他の施設と同程度であった。

試験法のデータの質に関わるデータ（BRD より抜粋）

項　目	ECBC	IIVS	FAL
GLP への適合	GLP	GLP	GLP の精神に従って実施
データ移行に誤りが認められた試験の割合#	49/402	25/419	171/513
受け入れ基準に適合しなかった本試験の割合# （%）	21 (3T3) 8 (NHK)	22 (3T3) 10 (NHK)	30 (3T3) 32 (NHK)
変動係数$ (%)	23 (3T3) 23 (NHK)	21 (3T3) 14 (NHK)	33 (3T3) 42 (NHK)

予測した GHS 区分が一致した割合[$] (%)	30 (3T3) 31 (NHK)	27 (3T3) 31 (NHK)	25 (3T3) 29 (NHK)

#:第 3 フェーズにおけるデータ、$:全フェーズにおけるデータ

3 施設で行われたバリデーション試験におけるデータの質について検討した。ECBC と IIVS における GLP からの逸脱または不履行が小さなものであり、試験責任者または研究マネージメントチームが適切に対処していることから、これら 2 施設のデータの質について JaCVAM 評価委員会は問題無いと判断した。

FAL については GLP 適合施設でなく、他の 2 施設に比較して、測定やデータ収集の精度に関して劣っていたものの、テータ移行における誤りは修正され、結果のばらつきも GHS 分類での急性経口毒性の分類の予測に影響を与えるレベルで無かったことから、JaCVAM 評価委員会はデータの質について問題無いと判断した。

GLP 適合施設である ECBC と IIVS の方が、GLP に適合していない FAL よりもバリデーション時のデータの質が高かったため、本試験が GLP 適用下での実施を必須とするか否かについて検討した。その結果、JaCVAM 評価委員会は、急性毒性試験における初回投与量の予測という目的を考慮し、試験成立条件のクライテリアの適合の確認、その他のクオリティチェックを充分にすれば、必ずしも GLP 適用下で実施する必要はないと判断した。

試験のデータの質を確認するために、ICCVAM の評価ではデータ移行における誤りの割合、試験の受け入れ基準不適合の割合、施設内再現性の検討における変動係数で検討した。JaCVAM 評価委員会は、本試験を実際に使用する際には、あらかじめ各施設において参照化合物を使用した試験を実施すべきであり、その結果が妥当であるか否かを確認する事が試験のデータの質を確保するうえで必要であると判断し、推奨することとした。

9. その他の試験方法の科学的な報告

種々の細胞を用いた *in vitro* NRU 細胞毒性試験は、げっ歯類の致死率との相関性が評価されている。

Peloux らと Fautrel らはラット初代培養肝細胞を用いて NRU 測定と腹腔内/静脈内、静脈内による毒性データとの相関性をそれぞれ r=0.877(n=25)、0.88(n=11)とし、良い相関を得ている。Roguet らは初代培養肝細胞への 21 時間被験物質暴露後に NRU 測定を行った結果、経口投与の LD_{50} 値との間に有意な直線相関（$p<0.001$、r=0.80、n=28）を得ている。しかし、一方で、前出の Fautrel らは腹腔内投与による毒性データに対し相関係数は r=0.48(n=14)、経口投与に対し r=0.17(n=15)であり、有意な相関は認められなかったことも報告している。

3T3 および NHK NRU 試験は、急性毒性試験の開始用量の予測以外に、眼刺激性、ヒト致死血中濃度、*in vivo* の光毒性の予測に関して評価されている。このうち、3T3 NRU 試験は *in vivo* 光毒性物質を同定する試験として ECVAM によりバリデートされた。2004 年に OECD ガイドライン 432・*in vitro* 3T3 NRU 光毒性試験として採択されている。

バリデートされていないが、*in vitro* 試験法による急性経口毒性の予測を試みた試験は多数報告されており、*in vitro* 細胞毒性データを利用することによる動物削減が評価されている。急性経口毒性試験の投与開始用量が、動物実験の LD_{50} 値に等しいとした場合、UDP 法における動物削減の理論的な予測値は 25～40%の範囲であった。一方、NICEATM/ECVAM 研究で試験された参照化合物に対し、UDP 法のコンピューターシミュレーションモデルを用いて予測された動物数削減は 5.3～7.8%であった。Halle らは RC の *in vitro* 細胞毒性データの利用（回帰式を用いて予測した LD_{50} 値を開始用量として利用）により ATC 法の動物数削減が 32%に達することを見出した。

NICEATM/ECVAM のバリデーション研究で試験された参照化合物は RC millimole regression に対して大部分がはずれ値を取っており、ATC 法の平均動物削減は、コンピューターシミュレーションモデルで測定した場合、4.8～10.2%であった。

細胞毒性試験を用いるげっ歯類の急性毒性試験の予測に関連した他の報告について検討した。NRU 試験の再現性については、光毒性のバリデーション研究をはじめ様々な検討が過去に行われており、適切な試験条件を設定することにより再現性を確保できると JaCVAM 評価委員会は推察した。

急性毒性の予測性については、細胞毒性と LD_{50} 値の間ではずれる物質も多いものの、相関する報告が認められており、急性毒性試験の開始用量を予測し動物数の削減を図る利用方法は妥当なものと JaCVAM 評価委員会は判断した。

細胞毒性試験を用いるげっ歯類の急性毒性試験の予測に関連した他の報告を俯瞰し、JaCVAM 評価委員会は、動物数の削減効果の予測は報告により様々であるが、少なくとも削減を図れる方向であることが予測されており、3Rs の観点から望ましいと判断した。

10. 3Rs への関与

3T3 及び NHK NRU 試験は *in vivo* 急性毒性試験の代替（Replacement）にはなり得ないが、細胞毒性試験の結果に基づいて急性毒性試験の初回投与量を設定する場合、急性毒性試験における使用動物数の削減（Reduction）及び死亡動物の削減や動物への苦痛・ストレスの軽減（Refinement）に繋がる可能性は考えられる。

使用動物数（Reduction）及び死亡動物数の削減（Refinement）について、コンピューターシミュレーションにより次のように検証された。

1) UDP 法では、NRU 法の IC_{50} 値から推定した初回投与量を用いた場合、固定の初回投与量（175 mg/kg）を用いた場合と比較して、一試験当たり平均 0.49 匹（6.2%）～0.66 匹（7.0%）の動物数しか削減されないこと（Reduction）が示された。
2) ATC 法では、NRU 法の IC_{50} 値から推定した初回投与量を用いた場合、固定の初回投与量（300 mg/kg）を用いた場合と比較して、一試験当たり平均 0.51 匹（4.8%）～1.09 匹（10.2%）の動物が削減されることが（Reduction）示された。
3) 低毒性毒性物質の場合（LD_{50} 値：>2000 mg/kg 又は>5000 mg/kg）、それぞれ UDP 法では一試験当たり 1.28 匹（11.9%）～1.65 匹（16.7%）、ATC 法では一試験当たり 2.03 匹（17.1%）～3.33 匹（27.7%）の動物が削減されることが示され、このクラスの被験物質では比較的多数の使用動物の削減（Reduction）が期待できると判断した。
4) しかし、死亡動物数については、ATC 法で固定の初回投与量を用いるよりも一試験当たり僅か 0.5～0.6 匹しか削減されず、NRU 法を用いることで死亡動物数の削減及び動物への苦痛やストレスの軽減（Refinement）を明確に示すことは困難である。

コンピュータミュレーションによる使用動物数（BRD より抜粋）

Table 10-3 Animal Use[1] for the UDP[2] by GHS Acute Oral Toxicity Category[3] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Rat-Only Millimole Regression[4]

GHS Acute Oral Toxicity Category[3]	Number of Reference Substances	Dose-mortality Slope = 2.0			Dose-mortality Slope = 8.3		
		With Default Starting Dose[5]	With IC_{50}-Based Starting Dose[6]	Animals Saved[7]	With Default Starting Dose[5]	With IC_{50}-Based Starting Dose[6]	Animals Saved[7]
		3T3 NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.32 ±0.20	10.19 ±0.70	1.14 (10.0%)	9.70 ±0.28	8.74 ±0.43	0.96 (9.9%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.68 ±0.23	9.74 ±0.45	-0.07 (-0.7%)	8.46 ±0.28	8.54 ±0.47	-0.08 (-1.0%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.76 ±0.10	8.18 ±0.21	-0.42 (-5.5%)	6.61 ±0.19	6.90 ±0.19	-0.29 (-4.3%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.53 ±0.21	8.14 ±0.21	0.38 (4.5%)	7.46 ±0.24	7.15 ±0.19	0.31* (4.1%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.73 ±0.10	9.46 ±0.15	1.28* (11.9%)	9.17 ±0.23	7.96 ±0.31	1.21* (13.2%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	12	9.87 ±0.34	8.29 ±0.49	1.58* (16.0%)	7.76 ±0.59	6.18 ±0.69	1.58* (20.3%)
		NHK NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.21 ±0.24	10.47 ±0.71	0.75 (6.7%)	9.66 ±0.27	8.95 ±0.52	0.71 (7.3%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.65 ±0.16	9.99 ±0. 45	-0.34 (-3.5%)	8.43 ±0.26	8.77 ±0.49	-0.33 (-3.9%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.78 ±0.11	8.12 ±0.21	-0.34 (-4.4%)	6.57 ±0.19	6.85 ±0.19	-0.28 (-4.2%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.55 ±0.22	8.03 ±0.23	0.52* (6.1%)	7.49 ±0.25	7.00 ±0.20	0.49* (6.5%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.75 ±0.08	9.54 ±0.20	1.21* (11.3%)	9.17 ±0.23	8.06 ±0.29	1.11* (12.1%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	13	9.87 ±0.32	8.41 ±0.44	1.47* (14.8%)	7.66 ±0.59	6.18 ±0.69	1.47* (19.2%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity; UDP=Up-and-Down Procedure.
*Statistically significant ($p<0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference shown in parentheses.
[1]Mean numbers of animals used ±standard errors for 10,000 simulations for each substance with an upper limit dose of 5000 mg/kg. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Results are provided for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Substances were categorized using the rat acute oral LD_{50} reference values in mg/kg from **Table 4-2**.
[2]OECD (2001a); EPA (2002a).
[3]UN (2005).
[4]The RC rat-only millimole regression is $\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.
[5]Default starting dose = 175 mg/kg.
[6]The starting dose was one default dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} value for each reference substance in the RC rat-only millimole regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.
[7]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the predicted starting dose.

NRU 法は、in vivo 急性毒性試験の Replacement を意図していないため、この点について JaCVAM 評価委員会は判断しなかった。

一定の基準を設けたシミュレーションにより Reduction について検証された結果から、低毒性物質（LD_{50} 値：>2000 mg/kg 又は>5000 mg/kg）の場合では *in vitro* 試験の導入により一試験当たり 1～3 匹の使用動物数の削減が期待できると判断する。

Refinement に関して、死亡動物数の削減及び動物への苦痛やストレスの軽減を明確に示すことは困難と判断した。強毒性の化合物については初回投与量の予測性が低く、IC_{50} 値に基づいた初回投与量が動物実験の LD_{50} 値を超えることが予測され、このクラスの化合物では動物への苦痛を与える可能性がある。

11. 試験方法の有用性と限界

3T3 及び NHK 細胞を用いた NRU 法は、急性毒性のハザード分類を予測するための代替法ではなく、急性経口投与毒性試験で用いられる UDP 法や ATC 法の初回投与用量を決定するための試験として有用である。

被験物質が低毒性(LD_{50} 値>5000mg/kg)の場合は、NRU 法により使用動物数の削減が可能と考えられる。ATC 法の場合、実験条件によっては、死亡または安楽死に至る動物数の削減も可能と判断する。

3T3 NRU 法は、NHK NRU 法に比べて、実験者の安全面や費用面で優れており、一般的な試験として推奨できる。また再現性の点では劣るものの、動物数削減と正確性の点でわずかに上回っている。

他の同様な細胞毒性試験を利用する場合は、ICCVAM が推奨する 30 種類の参照化合物を用いて評価を行い、3T3 及び NHK NRU 法の精度と信頼性が同等以上であることが必要である。

一方、毒性発現機序(神経毒性や心毒性)によっては、NRU 法による初回投与量の評価は適切ではない。より正確なハザード分類を行うためには、将来的に作用機序や ADME(吸収、分布、代謝、排泄)を評価する *in vitro* 試験系の利用の可能性を考慮すべきである。今後、さらに混合物の評価も含めて、*in vitro* 及び *in vivo* 条件下における高品質のデータベース拡充を図り、*in vitro* 細胞毒性試験の有用性と限界を特徴づけることが必要と考えられる。今後実施するラット急性経口投与毒性試験では、死亡に至る機序と直接関係のある所見を集めるための標準的な手順を含めるべきであろう。

ただし、*in vivo* 試験は、データ収集のためだけに実施するべきではない。また、*in vivo* のデータベースは、他の動物を使用しないアプローチ(構造活性相関のソフトウエア等)の有用性評価にも用いられるべきである。

ICCVAM の評価報告書には、3Rs の検証に用いられたコンピューターシミュレーションのアルゴリズムや計算過程が記載されていなかったことから、シミュレーション方法の妥当性と削減可能な動物数について JaCVAM 評価委員会は判断できなかった。

NRU 法による初回投与量設定試験をガイドラインとして運用する場合には、その後に実施する急性毒性試験での使用動物数や死亡動物数のデータを蓄積して 3Rs について検証することが必要である。

3T3 及び NHK NRU 法は、代謝活性化法が確立されていないため、代謝を介した毒性を評価するには適切ではない。

被験物質が生体内において吸収が低い場合、一般的に *in vitro* 毒性試験結果から *in vivo* への外挿は困難である。

12. 結論

ICCVAM で実施された細胞毒性試験による急性毒性試験の初回投与量設定試験の第三者評価は、バリデーションに必要な項目、プロセス及びデータが検討されており、ICCVAM のバリデーション結果を受け入れることに問題はないと判断した。72 種類の化合物から得られた IC_{50} 値と LD_{50} 値の間に相関が認められ、低毒性の化合物については予測性があると考えられる。したがって、急性毒性試験の実施に際して、NRU 法は化合物の物性、類縁化合物の情報などと並んで、初回投与量決定の一助になると考えられ、必要に応じて活用可能である。

細胞毒性試験による急性毒性試験の初回投与量設定試験は、72 種類の化合物から得られた IC_{50} 値と LD_{50} 値の相関性を根拠として一般化しているが、動物の死と細胞の死が類似するメカニズム的な根拠が不十分である。相関性は必ずしも因果関係を説明するものではない。急性毒性試験は、個体死またはそれに近い一般状態の変化をエンドポイントにしている。個体死は、呼吸または心臓の停止状態が観察された時点であり、また、苦痛、痙攣、チアノーゼなどの一般状態は安楽死を選択する人道的エンドポイントである。神経系、循環器、呼吸器などコアバッテリーに作用する化合物は、細胞や組織間のシグナル伝達をかく乱することによって、強力な毒作用が急速に発現して個体死を招くが、細胞死によって発現するものではない。このような化合物の NRU 法による予測性は低く、IC_{50} 値から予測される毒性は過小評価されている。NRU 法を適用することで本来の LD_{50} 値からかけ離れた高用量を投与する可能性があるため、動物へ与える苦痛の低減、使用動物数削減に寄与するとは言い難い。

代謝活性化系が NRU 法の評価系からは除外されているため、活性代謝物が毒性を示す化合物ついても評価はできないと考えられる。揮発性の化合物、難溶解性の化合物及び有色の化合物は本実験を適用することが困難である。このような物性を有する化合物を NRU 法で評価するのは科学的妥当性に欠ける。したがって、物性情報を基に、本試験の実施の可否を決定するオプションが必要である。

動物試験結果から得られる LD_{50} 値が 4 倍から 14 倍のばらつきがあることを考慮すると IC_{50} 値を正確に測定することは、必ずしも必要とは考えられない。また、複数の、しかも費用のかかる試験法によって IC_{50} 値を正確に特定しても、費用の面から非生産的である。

動物数の削減効果は、コンピューターシミュレーションで確認しているのみであり、実際の試験においては、一般状態の観察から人道的エンドポイントによって安楽殺を選択する場合もありえる。使用動物の削減には本当に繋がる試験であるかは、実際に使用した動物数が記載されている化合物の試験情報と、この試験で予測された初回投与量から予測される動物数を比較して検証する

ことが必要である。また、NRU 法をガイドラインに導入した場合には、試験情報を集計して動物数の削減が実現できているかについて検証する必要がある。

データの信頼性保証の面からは、NRU 法の目的は初回投与量を設定するための試験であり、GLP 適用の試験を実施する必要性はない。

その他、JaCVAM 急性毒性代替法評価委員会の議論において少数であるが、以下のような意見が提案された。

(1) *In vitro* 細胞毒性試験を実施してから急性毒性試験を実施した場合、従来どおり最初から急性毒性試験を実施した場合と比較して、経費、人的リソース、試験期間にどのくらいの違いがあるかを議論すべきである。
(2) 物性情報から生体への吸収が著しく低いと考えられる化合物では、最高用量である 2000 mg/kg の投与のみで試験が成立し、最小限の動物数で化合物の評価ができる場合がある。従って、急性毒性試験の実施前に必ずしも細胞毒性試験を実施する必要はなく、1つの選択肢として考えるべきあり、定量的構造活性相関(QSAR)等の方法も使用できることを明記すべきである。
(3) 物性が明らかでない被験物質の GLP 試験実施は困難である。
(4) 本当に動物削減に寄与するのか？
(5) 初回投与量を固定して実施した動物を用いた試験に比較すれば、結果が良くなるのは当然ではないか。実際には、一匹の動物に予備的に投与して一般状態を観察した結果から、用量設定をして本試験の用量を決定していることがある。そのような情報を元に、300 mg/kg の固定用量ではない初回用量を設定するはずである。実際には、一匹の動物を使うことで、試験全体での動物数の削減がなされているのではないか。
(6) *In vitro* の試験を専門とする研究者にとっては、予測性の高い試験として完成させて導入することを望む。
(7) 現在、毒性の強い化合物と毒性の弱い化合物がどれくらいの割合で評価されているか、ということも重要である。この試験では毒性が強いものの予測率が低いので、その割合が高いのであれば、外れることが多い試験と考えられる。
(8) *In vitro* と *in vivo* の試験結果が一致しない理由の一つとして、ADME、特に代謝物が毒性に関与する場合が考えられる。CYP 発現細胞を用いた細胞毒性試験でもアフラトキシン等を除くと検出は困難であるが、それを考慮した試験系を構築することが予測性を高めるためには必要である。

13. 参考文献

Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM), National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM), National Institute of Environmental Health Sciences, National Institutes of Health, U. S. Public Health Service, Department of Health and Human Services, BACKGROUND REVIEW DOCUMENT, *in vitro* Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity, NIH Publication No: 07-4518

Borenfreund E, Puerner JA. 1985. Toxicity determination in vitro by morphological alterations and neutral red absorption. Toxicol Lett 24:119-124.

Clemedson C, Barile FA, Ekwall Ba, Gon. Toxicol Lett 24:119-124. K, et al. 1998a. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part III. In vitro results from 16 additional methods used to test the first 30 reference chemicals and a comparative cytotoxicity analysis. Altern Lab Anim 26 (suppl 1):93-129.

Clemedson C, Andersson M, Aoki Y, Barile FA, Bassi AM, Calleja MC, et al. 1998b. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part IV. In vitro results from 67 toxicity assays used to test reference chemicals 31-50 and a comparative cytotoxicity analysis. Altern Lab Anim 26 (suppl 1):131-183.

Ekwall B. 1983. Screening of toxic compounds in mammalian cell cultures. Ann New YorkAcad Sci 407:64-77.

Halle W. 1998. Toxizitätsprüfungen in Zellkulturen für eine Vorhersage der akuten Toxizität (LD_{50}) zur Einsparung von Tierversuchen. Life Sciences/Lebenswissenschaften, Volume 1, Jülich: Forschungszentrum Jülich.

Halle W. 2003. The Registry of Cytotoxicity: Toxicity testing in cell cultures to predict acute toxicity (LD_{50}) and to reduce testing in animals. Altern Lab Anim 31:89-198. (English translation of Halle 1998)

ICCVAM. 2001a. Report Of The International Workshop On In vitro Methods For Assessing Acute Systemic Toxicity. NIH Publication No. 01-4499. Research Triangle Park, NC:National Institute

for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ICCVAM. 2001b. Guidance Document On Using In vitro Data To Estimate In vivo Starting Doses For Acute Toxicity. NIH Publication No. 01-4500. Research Triangle Park, NC: National Institute for Environmental Health Sciences. Available:http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ガイドライン

OECD. Guideline for Testing of Chemicals, 425, Acute Oral Toxicity - Up-and-Down Procedure.

OECD. Guideline for Testing of Chemicals, 420, Acute Oral Toxicity - Fixed Dose Method.

OECD. Guideline for Testing of Chemicals, 423, Acute Oral Toxicity - Acute Toxic Class Method.

OECD Environmental Health and Safety Publications Series on Testing and Assessment No. 19 Guidance Document on The Recognition, Assessment, and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation

NIH Publication No: 07-4518

BACKGROUND REVIEW DOCUMENT

In Vitro Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity

Volume 1 of 2

Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

National Institute of Environmental Health Sciences
National Institutes of Health
U. S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

THE INTERAGENCY COORDINATING COMMITTEE ON THE VALIDATION OF ALTERNATIVE METHODS
and
THE NTP INTERAGENCY CENTER FOR THE EVALUATION OF ALTERNATIVE TOXICOLOGICAL METHODS

In 1997, the National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), one of the National Institutes of Health (NIH), established the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) to:

- Coordinate interagency technical reviews of new and revised toxicological test methods, including alternative test methods that reduce, refine, or replace the use of animals

- Coordinate cross-agency issues relating to validation, acceptance, and national and international harmonization of new, modified, and alternative toxicological test methods

On December 19, 2000, the ICCVAM Authorization Act (42 U.S.C. § 2851-2, 2851-5 [2000]) established ICCVAM as a permanent interagency committee of NIEHS under the National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM).

ICCVAM is comprised of representatives from 15 U.S. Federal regulatory and research agencies that use, generate, or disseminate toxicological information. ICCVAM conducts technical evaluations of new, revised, and alternative methods with regulatory applicability. The Committee promotes the scientific validation and regulatory acceptance of toxicological test methods that more accurately assess the safety or hazards of chemicals and products and that refine (decrease or eliminate pain and distress), reduce, and/or replace animal use. NICEATM administers ICCVAM and provides scientific and operational support for ICCVAM-related activities. More information about ICCVAM and NICEATM can be found on the ICCVAM/NICEATM web site (http://iccvam.niehs.nih.gov) or obtained by contacting NICEATM (telephone: [919] 541-2384, e-mail: iccvam@niehs.nih.gov).

The following Federal regulatory and research agencies are ICCVAM members:

Consumer Product Safety Commission
Department of Agriculture
Department of Defense
Department of Energy
Department of Health and Human Services
- Agency for Toxic Substances and Disease Registry
- Food and Drug Administration
- National Cancer Institute
- National Institute of Environmental Health Sciences
- National Institutes of Health, Office of the Director
- National Institute of Occupational Safety and Health
- National Library of Medicine

Department of the Interior
Department of Labor
- Occupational Safety and Health Administration

Department of Transportation
Environmental Protection Agency

On the Cover
The ICCVAM/NICEATM graphic symbolizes the important role of new and alternative toxicological methods in protecting and advancing the health of people, animals, and our environment.

In Vitro Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity

Background Review Document

Volume 1 of 2

Prepared by
The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center
for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
P.O. Box 12233
Mail Drop: EC-17
Research Triangle Park, NC 27709

November 2006
NIH Publication No. 07-4518

National Institute of Environmental Health Sciences
National Institutes of Health
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

This document is available electronically at:
http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm

Printed: 11/30/2006

TABLE OF CONTENTS

APPENDICES

LIST OF FIGURES

LIST OF TABLES

LIST OF ACRONYMS AND ABBREVIATIONS

A-CUTE-TOX	A-Cute-Tox Project (EU Research & Development Integrated Project)
ADME	Absorption, distribution, metabolism, and elimination
ANOVA	Analysis of variance
ASTDR	Agency for Toxic Substances and Disease Registry
ASTM	American Society for Testing and Materials
ATC	Acute Toxic Class method
ATCC	American Type Culture Collection
ATWG	Acute Toxicity Working Group
BBB	Blood:brain barrier
BPE	Bovine pituitary extract
BRD	Background Review Document
^{o}C	Degrees Celsius
CAS	Chemical Abstracts Service
CASRN	Chemical Abstracts Service Registry Number
CCOHS	Canadian Centre for Occupational Health and Safety (CCOHS)
CDER	U.S. FDA Center for Drug Evaluation and Research
CESARS	Chemical Evaluation Search and Retrieval System
CFU	Colony forming units
CHRIS	Chemical Hazard Response
CI	Confidence interval
CICADS	Concise International Chemical Assessment Documents
CIS	ILO Occupational Safety and Health Information Centre
CNS	Central nervous system
COLIPA	The European Cosmetic Toiletry and Perfumery Association
CPSC	U.S. Consumer Product Safety Commission
CSF	Colony stimulating factor
CTFA	Cosmetic, Toiletries and Fragrance Association
CV	Coefficient of variation
DART®/ETIC	Developmental and Reproductive Toxicology/Environmental Teratology Information Center
DEA	U.S. Drug Enforcement Administration
DHHS	U.S. Department of Health and Human Services
DIMDI	Deutsches Institut fur Medizinische Dokumentation und Information (The German Institute for Medical Documentation and Information)
DNA	Deoxyribose nucleic acid
DMEM	Dulbecco's Modification of Eagle's Medium
DMSO	Dimethyl sulfoxide
D-PBS	Dulbecco's phosphate buffered saline
DOD	U.S. Department of Defense
DOT	U.S. Department of Transportation
EC	European Commission
EC_{50}	Concentration of a substance that produces 50% of the maximum possible response for that substance

ECBC	U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center
ECETOC	European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals
EC/HO	European Commission/British Home Office
ECVAM	European Centre for the Validation of Alternative Methods
EDIT	Evaluation-guided development of new *in vitro* tests
EHC	Environmental Health Criteria
EHS	EPA's Extremely Hazardous Substance list
EPA	U.S. Environmental Protection Agency
ERG	Emergency Response Guidebook
ETOH	Ethanol (Ethyl alcohol)
EU	European Union
EXTONET	The Extension Toxicology Network
FAL	FRAME Alternatives Laboratory
FAO	UN Food and Agriculture Organization
FB1	Fumonisin B1
FDA	U.S. Food and Drug Administration
FDP	Fixed Dose Procedure
FIFRA	U.S. Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act
FR	Federal Register
FRAME	Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments
GABA	Gamma amino butyric acid
GCCP	Good cell culture practices
GHS	Globally Harmonized System (of Classification and Labeling of Chemicals)
GLP	Good Laboratory Practices
gm	Grams
HBSS	Hanks' balanced salt solution
HPV	High Production Volume
hr	Hour(s)
HSDB	Hazardous Substances Data Bank
HSG	Health and Safety Guides
HTD	Highest tolerated dose
IARC	International Agency for Research on Cancer
IC_{20}	Concentration producing 20% inhibition of the endpoint measured
IC_{50}	Concentration producing 50% inhibition of the endpoint measured
IC_{80}	Concentration producing 80% inhibition of the endpoint measured
ICCVAM	Interagency Coordinating Committee for the Validation of Alternative Methods
ICSC	International Chemical Safety Cards
ID	Insufficient data
ID_{50}	Index of cytotoxicity; dose producing a 50% reduction in protein value
IIVS	Institute for *In Vitro* Sciences
ILO	International Labour Organisation
i.m.	Intramuscular
INVITOXX	*In Vitro* Techniques in Toxicology (ERGATT FRAME ECVAM Data bank)

IOM	Institute of Medicine
i.p.	Intraperitoneal
IPCS	International Programme on Chemical Safety
IRAG	Interagency Regulatory Alternatives Group
IRPTC	International Register of Potentially Toxic Chemicals
ISO	International Standards Organization
IUCLID	International Uniform Chemical Information Database
i.v.	Intravenous
JECFA	Joint Expert Committee on Food Additives
JMPR	Joint Meeting on Pesticide Residues
KBM®	Keratinocyte basal medium
kg	Kilogram
K_{ow}	Octanol-water partition coefficient
L	Liter
LC	Lethal blood concentration
LD_{50}	Dose that produces lethality in 50% of test animals
LDH	Lactate dehydrogenase
MAS	Maximum average Draize score
MEIC	Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity
MeSH®	Medical Subject Heading
µL	Microliters
µm	Micrometers
µM	Micromoles
mg	Milligram
MIT	Metabolic inhibition test
mL	Milliliter
mM	Millimolar
MMAS	Modified maximum average score
mmol	Millimoles
MPE	Mean photo effect
MSDS	Material Safety Data Sheets
MTT	3-(4,5-Dimethylthiazol-2-yl)-2,5-diphenyl tetrazolium bromide
N	Number (of substances)
NA	Not applicable
NADH	Nicotine adenine dinucleotide (reduced)
NC	Not calculated
NCS	Newborn calf serum
NCTR	U.S. FDA National Center for Toxicological Research
n.d.	Not detectable
NHK	Normal human epidermal keratinocytes
NICEATM	National Toxicology Program Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods
NIEHS	U.S. National Institute of Environmental Health Sciences
NIH	U.S. National Institutes of Health
NIOSH	U.S. National Institute for Occupational Safety and Health
NLM	National Library of Medicine

NR	Neutral red
NRU	Neutral red uptake
NTP	U.S. National Toxicology Program
OAT	Organic anionic transporters
OD	Optical density
OD_{540}	Optical density (absorbance) at a wavelength of 540 nm
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development
OHM/TADS	EPA Oil and Hazardous Materials/Technical Assistance Data System
OPP	U.S. EPA Office of Pesticide Programs
OPPTS	EPA Office of Prevention, Pesticides and Toxic Substances
ORD	U.S. EPA Office of Research and Development
OSHA	U.S. Occupational Safety and Health Administration
OTA	Ochratoxin A
PBS	Phosphate buffered saline
PC	Positive control
PDS	Pesticide Data Sheets
pg	Picogram
PG	Packing group
PIF	Photoinhibition factor
PIMS	Poisons Information Monographs
pK	Acid/base dissociation constant
PLS	Partial Least Squares (analysis)
PPIS	EPA Pesticide Product Information System
PPT	Precipitate
QA	Quality assurance
QC	Quality control
R^2	Coefficient of determination
r_s	Spearman correlation coefficient
RC	Registry of Cytotoxicity
REACH	Registration, evaluation, authorisation and restriction of chemicals
RTECS®	Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
RTK NET	The Right-to-Know Network
SD	Standard deviation
SIDS	OECD Screening Information Data Sets
SIS	Scientific Information Service
SLS	Sodium lauryl sulfate
SMT	Study management team
SOP	Standard operating procedure
3T3	BALB/c mouse fibroblasts, clone A31 (ATCC # CCL-163)
TESS	Toxic Exposure Surveillance System
TG	Test guideline
TRI	U.S. EPA Toxics Release Inventory
TSCA	Toxic Substances Control Act
UDP	Up-and-Down Procedure
UN	United Nations

UNEP	United Nations Environment Programme
USP	U.S. Pharmacopoeia
UV	Ultraviolet (light)
VC	Vehicle control
WHO	World Health Organization
XTT	2,3-Bis(2-methoxy-4-nitro-5-sulfophenyl)-2H-tetrazolium-5-carboxanilide
ZEBET	Zentralstelle zur Erfassung und Bewertung von Ersatz- und Ergänzungsmethoden zum Tierversuch (German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments)

ACKNOWLEDGMENTS

The following individuals are acknowledged for their contributions to the in vitro acute toxicity test method review process.

Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) Acute Toxicity Working Group (ATWG)

Consumer Product Safety Commission (CPSC)

Kailash Gupta, D.V.M., Ph.D.
Cassandra Prioleau, Ph.D.
Marilyn Wind, Ph.D. (ATWG Chair, ICCVAM Vice Chair)

Department of Energy (DOE)

Po-Yung Lu, Ph.D.

Environmental Protection Agency (EPA)

Karen Hamernik, Ph.D.
Masih Hashim, Ph.D.
Marianne Lewis
Elizabeth Margosches, Ph.D.
Deborah McCall
John Redden, Ph.D.
Amy Rispin, Ph.D.

Food and Drug Administration (FDA)

Leonard Schechtman, Ph.D. (ICCVAM Chair)
Kenneth Hastings, Ph.D.
Abigail Jacobs, Ph.D.
David Morse, Ph.D.
Thomas Umbreit, Ph.D.

National Institute for Occupational Safety & Health (NIOSH)

Steven Reynolds, Ph.D.

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)

Rajendra Chhabra, Ph.D., D.A.B.T.
William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (ICCVAM Executive Director; NICEATM Director)
Raymond Tice, Ph.D. (NICEATM Deputy Director)

European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) Liaisons

Silvia Casati, Ph.D.
Pilar Prieto, Ph.D.

National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Dave Allen, Ph.D.
ILS, Inc.

Bradley Blackard, M.S.P.H.
ILS, Inc.

Sue Brenzel
ILS, Inc.

Thomas Burns, M.S.
ILS, Inc.

Patricia Ceger, M.S.
ILS, Inc.

Jeffery Charles, Ph.D., M.B.A., D.A.B.T.
ILS, Inc.

Neepa Choksi, Ph.D.
ILS, Inc.

Frank Deal, M.S.
ILS, Inc.

Linda Litchfield
ILS, Inc.

Deborah McCarley
NIEHS

Michael Paris
ILS, Inc.

William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (Director)
NIEHS

Judy Strickland, Ph.D., D.A.B.T.
ILS, Inc.

Raymond Tice, Ph.D. (Deputy Director)
NIEHS

Jim Truax, M.A.
ILS, Inc.

Participants in the *In Vitro* Cytotoxicity Validation Study

NICEATM gratefully acknowledges the generous contributions of the individuals who directly participated in the NICEATM/ECVAM Validation Study. Their time and efforts are greatly appreciated.

BioReliance Corp.
(Chemical Distribution)
Martin Wenk, Ph.D. – Principal Investigator

Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS)
(Lead Laboratory – Protocols)
Hans Raabe, M.S. – Study Director
Greg Mun – Laboratory Manager
Angela Sizemore – Research Technician
Gregory O. Moyer – Research Technician
John Harbell, Ph.D. – Scientific Director

U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC)
(Testing Laboratory)
Cheng Cao, Ph.D. – Study Director
Janna Madren-Whalley – Research Technician
Chundakkadu Krishna, Ph.D. – Research Technician
James J. Valdes, Ph.D. – Scientific Advisor

FRAME Alternatives Laboratory (FAL)
University of Nottingham, UK
(Lead Laboratory – Software)
Richard Clothier, Ph.D. – Study Director
Nicola Bourne – Research Technician
Monika Owen – Research Technician
Rachel Budworth – Research Technician

Constella Group (Statistical Analyses)
Patrick Crockett, Ph.D.
Eric Harvey, Ph.D.
Wendell Jones, Ph.D.
Robert Lee, M.S.
Jessica L. Matthews, M.S.
Michael Riggs, Ph.D.
Janine Wilcox
Nicole Williams

Statistical Consultant
Joseph Haseman, Ph.D.

NIEHS
Grace Kissling, Ph.D. – Contract Project Officer
Molly Vallant - Contract Project Officer

Study Management Team (SMT)
NICEATM
William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (NIEHS) – Director, NICEATM
Raymond Tice, Ph.D. (NIEHS) – Deputy Director, NICEATM – Advisor
Judy Strickland, Ph.D., D.A.B.T. (ILS, Inc.) – Project Coordinator
Michael Paris (ILS, Inc.) – Assistant Project Coordinator
Jeffrey Charles, Ph.D., D.A.B.T. (ILS, Inc.) – Advisor

ECVAM
Thomas Hartung, Ph.D., M.D. – Head of Unit from 2002
Silvia Casati, Ph.D. – Task Leader
Michael Balls, D. Phil.– Head of Unit until June 2002

[This Page Intentionally Left Blank]

PREFACE

The Institute of Medicine estimates that more than 4 million poisonings occur annually in the United States (Institute of Medicine [IOM] 2004). In 2001, 30,800 deaths placed poisoning as the second leading cause of injury-related death behind automobile accidents (42,433 deaths) (IOM 2004). In order to ensure that all potentially hazardous substances have proper warning labels, regulatory agencies require determination of acute toxicity hazard potential of substances and products. This determination for oral acute toxicity hazard is currently made using a test that requires laboratory rats. Historically, lethality estimated by the LD_{50} (i.e., the dose of a test substance that produces death in 50% of the animals tested) has been a primary toxicological endpoint in acute toxicity tests.

The conventional LD_{50} acute oral toxicity *in vivo* test method has been modified in various ways to reduce and refine[1] animal use in toxicity testing (OECD 2001a, c, d, e; EPA 2002a). Most recently, the LD_{50} was replaced, for hazard classification testing purposes, with the UDP, based on an Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) technical evaluation and formal ICCVAM recommendations (ICCVAM 2000, 2001c). This method now reduces animal use by over 70% compared to the previous method.

In 1999, at the request of the U.S. Environmental Protection Agency (EPA) Office of Pesticides, Prevention, and Toxic Substances, ICCVAM reviewed the validation status of *in vitro* methods for estimating acute oral toxicity. This request was based on studies published in recent years that showed a correlation between *in vitro* and *in vivo* acute toxicity. *In vitro* cytotoxicity methods have been evaluated as another means to reduce and refine the use of animals and these methods may be helpful in predicting *in vivo* acute toxicity. Since moving the starting dose closer to the LD_{50} reduces the number of animals necessary for the acute oral systemic toxicity test, the use of *in vitro* cytotoxicity assays to predict a starting dose close to the LD_{50} may reduce animal use.

In October of 2000, the International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity sponsored by the National Toxicology Program (NTP), the National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS) and the EPA was convened in Arlington, VA. The Organizing Committee invited 33 expert scientists from academia, industry, and government agencies to participate in the Workshop. Invited scientific experts and ICCVAM agency scientists were assigned to one of four Breakout Groups and prepared recommendations on the following:

- *In Vitro* Screening Methods for Assessing Acute Toxicity
- *In Vitro* Methods for Toxicokinetic Determinations
- *In Vitro* Methods for Predicting Organ Specific Toxicity
- Chemical Data Sets for Validation of *In Vitro* Acute Toxicity Test Methods

[1] A reduction alternative is a new or modified test method that reduces the number of animals required. A refinement alternative is a new or modified test method that refines procedures to lessen or eliminate pain or distress in animals or enhances animal well-being (ICCVAM 2003).

Workshop participants concluded that none of the proposed *in vitro* methods had been formally evaluated for reliability and relevance, and that their usefulness and limitations for generating information to meet regulatory requirements for acute toxicity testing had not been adequately assessed. However, an *in vitro* approach proposed by the German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments (ZEBET) was recommended for rapid adoption so that data could be generated to establish its usefulness with a large number of chemicals (ICCVAM 2001a). In addition, a separate *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity* (ICCVAM 2001b) was prepared to provide sample cytotoxicity protocols and instructions for using *in vitro* data to predict starting doses for acute *in vivo* systemic toxicity tests.

ICCVAM, which is charged with coordinating the technical evaluations of new, revised, and alternative test methods with regulatory applicability (ICCVAM Authorization Act of 2000, Public Law 106-545; available: http://iccvam.niehs.nih.gov/about/PL106545.pdf), agreed that *in vitro* basal cytotoxicity test methods should have a high priority for evaluation. The NTP Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) collaborated with the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), a component of the European Commission's Joint Research Centre, to further characterize the usefulness of *in vitro* cytotoxicity assays as predictors of starting doses for acute oral lethality assays. NICEATM and ECVAM designed a multi-laboratory validation study to evaluate the performance of two standardized *in vitro* basal cytotoxicity test methods using 72 reference substances with the ZEBET approach of using the Registry of Cytotoxicity (RC) regression model. Based on the procedures described in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), the validation study used two mammalian cell types (i.e., BALB/c 3T3 mouse fibroblasts [3T3] and primary normal human epidermal keratinocytes [NHK]) for *in vitro* basal cytotoxicity test methods with a neutral red uptake (NRU) cell viability endpoint to predict starting doses for acute oral systemic toxicity test methods. The inclusion of human cells in the validation study also implements another workshop recommendation, that of evaluating whether cytotoxicity in human or rodent cells can be used to predict human acute toxicity.

The objectives identified for the validation study were to:

- Further standardize and optimize the *in vitro* NRU basal cytotoxicity protocols using 3T3 and NHK cells to maximize test method reliability (intralaboratory repeatability, intra- and inter-laboratory reproducibility)
- Assess the accuracy of the two standardized *in vitro* 3T3 and NHK NRU basal cytotoxicity test methods for estimating rodent oral LD_{50} values across the five United Nations (UN) Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005) categories of acute oral toxicity, as well as unclassified toxicities
- Estimate the reduction and refinement in animal use achievable from using the *in vitro* 3T3 and NHK NRU basal cytotoxicity test methods to identify starting doses for *in vivo* acute oral toxicity tests, assuming that no other information were available

- Develop high quality *in vivo* acute oral lethality and *in vitro* NRU cytotoxicity databases that can be used to support the investigation of other *in vitro* test methods necessary to improve the prediction of *in vivo* acute oral lethality

Scientists assembled for the ICCVAM-sponsored scientific peer review panel meeting ("Panel") on May 23, 2006 independently assessed the usefulness and limitations of the *in vitro* basal cytotoxicity test methods to predict starting doses for acute oral systemic toxicity test methods. The Background Review Document (BRD) on the two *in vitro* NRU test methods prepared by NICEATM and provided to the peer review panel and the public contains:

1. Comprehensive summaries of the data generated in the validation study
2. An analysis of the accuracy and reliability of the test method protocols
3. Related information characterizing the potential animal savings produced by using the *in vitro* basal cytotoxicity test methods as adjuncts to specific acute systemic toxicity test methods

The Panel also evaluated draft test method performance standards, protocols, and draft ICCVAM recommendations for test method uses and future studies. The public was invited to provide comments on the BRD and other documents and to attend the Panel meeting. Prior to the Panel meeting, public comments provided about the documents were provided to the Panel for their consideration. The BRD can be obtained from the ICCVAM/NICEATM Web site (http://iccvam.niehs.nih.gov) or by contacting NICEATM.

Following the conclusion of the Panel meeting, the ICCVAM and its Acute Toxicity Working Group (ATWG) considered the Panel report, the performance standards for the use of *in vitro* basal cytotoxicity test methods to predict starting doses for acute systemic toxicity test methods, and any public comments in preparation of its final test method recommendations for these *in vitro* basal cytotoxicity test methods. These recommendations will be made available to the public and provided to the U.S. Federal agencies for consideration, in accordance with the ICCVAM Authorization Act of 2000 (Public Law 106-545).

On behalf of the ICCVAM, we gratefully acknowledge the many contributions of all who participated in the *in vitro* cytotoxicity validation study and those who assisted in the preparation of the documents evaluated at the peer review meeting. We extend a special thanks to the participating laboratory Study Directors and scientists who worked diligently to provided critical data and information. We also thank the ECVAM scientists who participated in the management of the validation study and who provided valuable information, comments, and opinions throughout the study. The efforts of the ATWG members were instrumental in assuring a complete and informative BRD. The efforts of the NICEATM staff in coordinating the validation study, providing timely distribution of

information, and preparing the various documents are acknowledged and appreciated. We especially acknowledge Dr. Judy Strickland and Mr. Michael Paris for their coordination of the validation study and preparation of the BRD and other documents.

William S. Stokes, D.V.M. D.A.C.L.A.M.
RADM, U.S. Public Health Service
Director, NICEATM
Executive Director, ICCVAM

Leonard Schechtman, Ph.D.
Deputy Director for Washington Operations
National Center for Toxicological Research
U.S. Food and Drug Administration
Chairman, ICCVAM

EXECUTIVE SUMMARY

This Background Review Document (BRD) reports the results of a validation study, organized and managed by the National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM), conducted to characterize two *in vitro* basal cytotoxicity tests for determining starting doses for rodent acute oral toxicity assays. In conducting this validation study, the protocols for two *in vitro* neutral red uptake (NRU) assays using BALB/c mouse fibroblast 3T3 cells (3T3) and normal human epidermal keratinocytes (NHK) were standardized and optimized, and the LD_{50} values for the reference substances were refined. The accuracy and reliability of the two *in vitro* NRU test methods were determined using 72 reference substances of various toxicities. Computer simulations were used to estimate the potential reduction in animal usage that could be accomplished by the use of either of these *in vitro* test systems. One outcome of this effort has been the generation of high quality *in vivo* lethality and *in vitro* cytotoxicity reference databases that will be useful in the development of other *in vitro* toxicity tests.

The validation study showed that the 3T3 and NHK NRU test methods are not sufficiently accurate as stand-alone methods to correctly predict rodent acute oral toxicity. However, based on computer simulations for the reference substances tested in this study, the use of either of these two *in vitro* basal cytotoxicity test methods for the selection of starting doses for rodent acute oral toxicity testing has the potential to reduce the number of animals used per test and, in some cases, the number of substance-induced animal deaths.

Introduction and Rationale

Although *in vitro* basal cytotoxicity test methods are not currently regarded as suitable replacements for rodent acute oral toxicity tests (Spielmann et al. 1999; ICCVAM 2001a), such methods have been examined as a possible approach to reduce and refine[2] the use of animals for such testing. An international Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity (MEIC) was initiated in 1983 to evaluate the relationship between *in vitro* cytotoxicity and acute human toxicity. Tests of 50 substances in 61 *in vitro* assays by multiple laboratories led to the identification of a battery of three human cell line assays whose cytotoxicity responses were highly correlated to human lethal blood concentrations (Bondesson et al. 1989; Clemedson et al 1996, 1996a; Ekwall et al. 1998a, 1998b, 2000). The Registry of Cytotoxicity (RC), initially published in 1998, is a database of 347 substances that currently consists of acute oral toxicity data from rats and mice and *in vitro* cytotoxicity data from studies using various mammalian cell types with a number of different toxic endpoints (Halle 1998, 2003). A regression formula, the RC millimole regression, constructed from these data was proposed by ZEBET, the German National Centre for the Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments, as a method to reduce animal use by identifying the most appropriate starting doses for acute oral toxicity tests (Halle 1998, 2003; Spielmann et al. 1999).

---

[2] A reduction alternative is a new or modified test method that reduces the number of animals required. A refinement alternative is a new or modified test method that refines procedures to lessen or eliminate pain or distress in animals, or enhances animal well-being (ICCVAM 2003).

These, and other, initiatives to use *in vitro* cytotoxicity test methods to reduce animal use in acute toxicity testing were evaluated at the International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity, in October 2000 ("Workshop 2000"; ICCVAM 2001a). This workshop was organized by the U.S. Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) and NICEATM. Pursuant to this workshop, ICCVAM recommended (ICCVAM 2001a) further evaluation of the use of *in vitro* cytotoxicity data as one of the approaches that could be used to estimate the starting doses for rodent acute oral toxicity studies. The recommendations are based on preliminary information suggesting that this approach could reduce the number of animals used in such studies (i.e., reduction), minimize the number of animals that receive lethal doses (i.e., refinement), and avoid underestimating hazard. To assist in the adoption and implementation of the ZEBET approach, the *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity* (hereafter referred to as *Guidance Document*; ICCVAM 2001b) was prepared by ICCVAM with the assistance of the workshop participants.

In its recommendations for further evaluations, ICCVAM concurred with the Workshop 2000 recommendation that near-term validation studies should focus on two standard basal cytotoxicity assays: one using a human cell NHK system and one using a rodent cell (3T3) system. Historical data for *in vitro* cytotoxicity testing using mouse 3T3 cells are available (e.g., Balls et al. 1995; Brantom et al. 1997; Gettings et al. 1991, 1994a, 1994b; Spielmann et al. 1991, 1993, 1996), as are historical data for *in vitro* basal cytotoxicity testing using NHK cells (e.g., Gettings et al. 1996; Harbell et al. 1997; Sina et al. 1995; Willshaw et al. 1994).

NICEATM, in partnership ECVAM, designed an international, multi-laboratory validation study to evaluate the reduction or refinement in animal use that could result from using cytotoxicity data from the 3T3 and NHK NRU test methods to estimate starting doses for two rodent acute oral toxicity test methods, the Up-and-Down Procedure (UDP; OECD 2001a; EPA 2002a) and the Acute Toxic Class (ATC) method (OECD 2001d). The NRU protocols, as presented in the *Guidance Document,* were the initial basis of the NICEATM/ECVAM validation study protocols. These protocols were originally derived from the BALB/c 3T3 Cytotoxicity Test, INVITTOX Protocol No. 46 (available at the FRAME-sponsored INVITTOX database [http://embryo.ib.amwaw.edu.pl/invittox/]), the 3T3 cell studies by Borenfreund and Puerner (1984, 1985) and the rat epidermal keratinocyte study of Heimann and Rice (1983). A detailed description of the 3T3 and NHK NRU test method protocols used in the NICEATM/ECVAM validation study is provided in **Section 2**.

Protocol Components

Many protocol components used in the validation study are similar for the 3T3 and NHK cells. The following procedures are common to both cell types:

- Testing was performed in four phases (Ia, Ib, II, and III)
- Preparation of reference substances and positive control
- Cell culture environment conditions
- Determination of test substance solubility
- Configuration of 96-well plates for testing samples
- 48-hour exposure to test substance
- Range finder and definitive testing

- Microscopic evaluation of cell cultures for toxicity
- Measurement of NRU
- Data analysis

The main differences in the test methods for the two cell types are:

- The conditions of propagation of the cells in culture
- The cell growth medium components
- The volumes of reference substance added to the 96-well plate

Three laboratories participated in testing the 72 reference substances in both cell types:

- ECBC: The U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (Edgewood, MD)
- FAL: Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory (Nottingham, UK)
- IIVS: The Institute for *In Vitro* Sciences (Gaithersburg, MD)

BioReliance Corporation (Rockville, MD) procured and distributed the coded reference substances and performed solubility tests prior to their distribution to the testing laboratories, but did not perform any of the *in vitro* tests.

Validation Reference Substances

The 72 reference substances were selected to represent: (1) the complete range of *in vivo* acute oral toxicity (encompassing all five GHS acute oral toxicity categories as well as lower toxicities [GHS; UN 2005]); (2) the types of substances regulated by various regulatory authorities; and (3) substances with human toxicity data and/or human exposure potential. To ensure that the complete range of toxicity was covered, 12 substances were selected for each of the five acute oral toxicity categories, with an additional 12 substances with lower toxicities (i.e., LD_{50} >5000 mg/kg). A discussion of the characteristics and sources of the reference substances can be found in **Section 3**. The selected reference substances had the following characteristics:

- 58 (81%) of the 72 substances were also included in the RC, and 38% (22/58) of these were outliers with respect to the RC millimole regression.
- 27 (35%) of the substances were pharmaceuticals, 17 (22%) were pesticides, 8 (10%) were solvents, and 5 (6%) were food additives. The remaining substances were used for a variety of manufacturing and consumer products. The number of assigned uses (77) is greater than the number of selected substances because some of the substances have more than one use.
- 57 (79%) were organic compounds and 15 (21%) were inorganic; well-represented classes of organic compounds included heterocyclics, carboxylic acids, and alcohols.
- 22 (31%) substances were known, or expected to have, toxicologically active metabolites.
- Many of the selected substances had multiple target organs/effects; including neurological, liver, kidney, and cardiovascular effects.

Table ES-1 reports the number of substances that were tested and the number of substances used for the various analyses performed.

Table ES-1 Datasets Used for Validation Study Analyses[1]

Use	3T3 NRU[1]	NHK NRU[1]	Characteristics of Dataset
Testing	72	72	Substances tested
Comparison of laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to one another	47	51	RC substances with IC_{50} values from all laboratories and reference rat oral LD_{50} values
Comparison of combined-laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to a regression calculated with RC data	47	47	RC substances with IC_{50} values for both test methods from all laboratories and rat oral reference LD_{50} values
Prediction of GHS accuracy using IC_{50} values in IC_{50}-LD_{50} regressions; prediction of starting doses for acute oral toxicity test (UDP and ATC) simulations	67	68	Substances with IC_{50} values from at least one laboratory
Reproducibility of acceptable rat oral LD_{50} values	NA	NA	62 substances with more than one acceptable rat oral LD_{50} value
Reproducibility of IC_{50} values	64	68	Substances with IC_{50} values from all laboratories

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; NA=Not applicable.
[1]Number of substances.

Rodent Acute Oral Toxicity Reference Data

Because the 3T3 and NHK NRU test methods are intended to be used as adjuncts to rodent acute oral toxicity test methods, the LD_{50} values from rodent acute oral toxicity tests are the most appropriate reference data for evaluating the *in vitro* IC_{50} values (i.e., the test chemical concentration that reduces cell viability by 50%). Rodent acute oral LD_{50} reference data for the 72 reference substances were obtained from the literature. It was not possible to limit the data to studies conducted under Good Laboratory Practice (GLP) guidelines (OECD 1998; EPA 2003a, 2003b; FDA 2003) because only 2% of the published data retrieved were from such studies. Although mouse toxicity data were initially considered for inclusion in the database, the accuracy analyses were restricted to rat data. A total of 459 acute rodent oral LD_{50} values were identified for the reference substances. Reference LD_{50} values for each substance were identified by excluding studies with the following characteristics:

- Feral rats
- Rats <4 weeks of age
- Anesthetized rats
- Test substance administered in food or capsule
- LD_{50} reported as a range or an inequality

For substances with multiple LD_{50} values (i.e., from different sources), the rodent reference LD_{50} values for use in the validation study were determined by calculating a geometric mean of the available values for each reference substance. The reference LD_{50} values for 19 (26%) of the 72 substances varied sufficiently from the initial LD_{50} values that came from the RC

database and other summary sources, that the substances were reclassified into different GHS categories.

The reliability of the calculated rat acute oral LD_{50} reference values was assessed by comparison to other evaluations of the performance of rodent acute oral toxicity tests. For the 62 reference substances that had more than one LD_{50} value, the maximum:minimum ratios ranged from 1.1 to 25.9, with most below an order of magnitude.

Test Method Accuracy

Although the 3T3 and NHK NRU test methods are not intended to be used as replacements for rodent acute oral toxicity tests, they were evaluated for their ability to correctly predict the reference LD_{50} values (i.e., accuracy[3]). The rationale for evaluating the accuracy of LD_{50} predictions is that the current acute oral toxicity test methods (i.e., UDP, ATC, and Fixed Dose Procedure [FDP; OECD 2001c]) call for starting doses to be placed as close as possible and just below the true LD_{50}. When the starting dose is close to the true LD_{50} for a test substance, fewer animals are needed. When the starting dose is below the true LD_{50}, there is reduced pain and suffering because doses tend to be lower, and the test outcome bias is more conservative (i.e., higher toxicity). Regression models developed using IC_{50} and LD_{50} values were used to derive estimated LD_{50} values from 3T3 or NHK NRU IC_{50} values.

A number of different analyses were performed in an attempt to improve the estimation of the rat acute oral LD_{50}. IC_{50}-LD_{50} regressions (in millimole units) were calculated for each *in vitro* cytotoxicity test method and participating laboratory using the 3T3 and NHK IC_{50} values. Because the regressions for each NRU test method among laboratories were not significantly different from one another (for each NRU test method, $p > 0.5$), the regression for each NRU test method was based on data pooled across the laboratories. This combined-laboratory regression was then compared to the RC data using a regression based on RC IC_{50} and LD_{50} data for the 47 substances common to the validation study and the RC, with rat acute oral LD_{50} reference values, and with both 3T3 and NHK IC_{50} values produced by all three participating laboratories. The statistical comparison of slope and intercept (simultaneously) using an F test showed that neither the 3T3 regression nor the NHK regression was significantly different from the RC regression for the 47 substances ($p = 0.61$ and 0.76 respectively). These outcomes support use of the RC millimole regression.

Reference substances that fit the RC millimole regression poorly (i.e., outliers) were evaluated to determine whether there were relationships between their outlier status and their physical or chemical characteristics. Because the IC_{50}-LD_{50} regressions for the 3T3 and NHK NRU test methods yielded results that were not different from the RC regression for 47 substances, the RC millimole regression was preferred for analysis of outliers because it was based on a much larger data set and because it had established acceptance limits (Halle 1998, 2003). Certain chemical structural classes, boiling points, molecular weights, and log K_{OW} values were related with outliers, but solubility in the 3T3 or NHK medium and the cells' lack of xenobiotic metabolic capability did not correlate with outlier status. Because these *in*

[3] Accuracy is the agreement between a test method result and an accepted reference value (ICCVAM 2003).

vitro NRU test methods are based upon basal cytotoxicity, the mechanism of toxicity was also considered as a characteristic to explain the presence of outliers. Twenty-two reference substances were neurotoxic or cardiotoxic and were not expected to be active in the 3T3 and NHK cell cultures. Of these 22 substances, 13 (59%) were outliers (i.e., they fit the RC millimole regression poorly) using the 3T3 NRU and 12 (55%) were outliers using the NHK NRU. These substances represented 13/28 (46%) and 12/31 (39%) of the outliers for the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively. More information on the outlier analysis is presented in **Section 6.2**.

The potential variation produced by combining the LD_{50} values of two rodent species in the RC millimole regression was eliminated by developing a regression based solely on RC substances with rat LD_{50} data (i.e., the RC rat-only millimole regression). The RC rat-only data were also converted to a weight basis for an additional regression, the RC rat-only weight regression, for applicability to mixtures or to substances for which molecular weight is unknown.

The accuracy of the *in vitro* NRU test methods when used with each of the IC_{50}-LD_{50} regressions was characterized by determining the proportion of reference substances for which their GHS categories (based on rat acute oral LD_{50} data) were correctly predicted. The accuracy of the RC rat-only millimole regression was 31% (21/67 reference substances) and 29% (20/68 reference substances) with the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively. The accuracy of the RC rat-only weight regression was similar, 31% with the 3T3 NRU test method (21/67 reference substances) and 31% with the NHK NRU test method (21/68 reference substances). The poor accuracy is due, in part, to the skewness of the reference substance set with respect to the fit of the reference substances to the regressions and to the differences between cell cultures and whole animal exposures. Each regression showed a general trend to underpredict the toxicity of the most toxic chemicals, and to overpredict the toxicity of the least toxic chemicals. A detailed discussion of the accuracy analyses is presented in **Section 6.4.**

Test Method Reliability

Reproducibility is the consistency of individual test results obtained in a single laboratory (intralaboratory reproducibility) or among different laboratories (interlaboratory reproducibility) using the same protocol and test samples. Reproducibility was evaluated using results from the 64 reference substances tested in 3T3 cells and the 68 substances tested in NHK cells that yielded replicate IC_{50} values in all three laboratories. Intra- and inter-laboratory reproducibility of the 3T3 and NHK NRU IC_{50} data was assessed using analysis of variance (ANOVA), coefficient of variation (CV) analysis, comparison of the laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} regressions, and comparison of maximum:minimum mean laboratory IC_{50} values. Reproducibility was generally better with the NHK NRU test method.

Although ANOVA results for the positive control (sodium lauryl sulfate [SLS]) IC_{50} values from the 3T3 NRU test method indicated that there were significant differences among laboratories ($p = 0.006$) but not between study phases within laboratories ($p > 0.01$), the data show (see **Figure 7-5**) that laboratory means and standard deviations from each testing phase overlap , and that the IC_{50} was stable between testing phases. The interlaboratory CV values

for the various study phases ranged from 2 to 16%. ANOVA results for the SLS IC_{50} from the NHK NRU test method showed significant differences among laboratories ($p < 0.001$) and among study phases within laboratories ($p \leq 0.001$). The use of a different cell culture method at FAL was responsible for SLS IC_{50} differences among the laboratories in Phases Ia and Ib. After harmonization of culture methods across laboratories, the laboratory means and standard deviations were similar for Phases II and III (see **Figure 7-5**). Interlaboratory CV values for the NHK NRU for Phases Ia and Ib, were 39% and 21%, respectively. Interlaboratory CV values for Phases II and III were 31% and 8%, respectively. The linear regression analyses of the SLS IC_{50} over time (within each laboratory) for both NRU test methods indicated that IC_{50} values generated over the 2.5-year duration of the study were stable.

For the reference substances, the similarity among the laboratories' LD_{50} predictions (via regression) from IC_{50} values (see **Figure 7-1**) was considered significant with respect to the reproducibility analyses because these *in vitro* NRU test methods are proposed for use in determining starting doses for acute oral toxicity tests using the predicted LD_{50}. ANOVA showed significant laboratory differences for 23 substances with the 3T3 NRU test method (see **Table 7-4**) and six substances with the NHK NRU test method (see **Table 7-6**). Mean intralaboratory CV values were 26% for both NRU test methods, but the NHK NRU test method had a lower mean interlaboratory CV (28% vs. 47%). An analysis to determine the relationship, if any, between reference substance attributes and interlaboratory CV indicated that chemical class, physical form, solubility, and volatility had little effect. The CV seemed to be related instead to the GHS hazard category, the IC_{50}, and boiling point (see **Section 7.2.3**). However, the usefulness of these relationships is not known. Mean interlaboratory CV values were larger for substances in the most toxic GHS hazard categories than for substances in the other toxicity categories, especially with the 3T3 NRU test method. The mean interlaboratory CV for substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg (72%) and $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (78%) categories were larger than the mean overall interlaboratory CV (47%) with the 3T3 NRU test method. When the NHK NRU test method was used, the mean interlaboratory CV was 37% for substances with $LD_{50} \leq 5$ mg/kg, and 41% for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg, and the mean overall interlaboratory CV was 28%. A Spearman correlation analysis indicated that the IC_{50} was inversely correlated to interlaboratory CV for both the 3T3 ($p = 0.015$) and NHK ($p = 0.014$) NRU test methods, and that boiling point was positively correlated to interlaboratory CV ($p = 0.007$) for the 3T3 but not the NHK ($p = 0.809$) NRU test method.

The maximum:minimum mean laboratory IC_{50} ratios for the 3T3 NRU test method ranged from 1.1 to 21.6, with 37 of 64 (58%) reference substances having ratios less than 2.5. The maximum:minimum mean laboratory IC_{50} ratios for the NHK NRU test method ranged from 1.0 to 107.6, with 58 of 68 (85%) reference substances having ratios less than 2.5.

Data Quality

The laboratories reported no significant deviations from the protocols, and deviations that did occur were acknowledged and addressed by the Study Directors. Tests that had deviations affecting the data were rejected by the Study Directors and repeated. The computation of test method and data collection errors showed that the non-GLP laboratory consistently had the

highest error rate and the lowest intralaboratory reproducibility for IC_{50} results; however, the laboratory's GHS acute oral toxicity category predictions were comparable to that for the other laboratories.

An electronic copy of all data for the validation study can be obtained from NICEATM upon request by mail, fax, or e-mail to Dr. William S. Stokes, NICEATM, NIEHS, P. O. Box 12233, MD EC-17, Research Triangle Park, NC, 27709, (phone) 919-541-2384, (fax) 919-541-0947, (e-mail) niceatm@niehs.nih.gov.

Other Scientific Reports and Reviews

3T3 and NHK NRU methods have been evaluated for purposes other than the prediction of starting doses for acute toxicity studies (e.g., ocular irritancy; human lethal blood concentrations, *in vivo* phototoxicity). *In vitro* NRU cytotoxicity test methods using various cell types have been evaluated for their correlation with rodent lethality endpoints (e.g., rat/mouse intravenous[i.v.], intraperitoneal [i.p.], and oral toxicity). Peloux et al. (1992) and Fautrel et al. (1993) showed good correlations (r =0.88) of *in vitro* cytotoxicity with rodent i.p./i.v. and i.v. toxicity data, respectively. A 3T3 NRU test method has been validated by ECVAM for the identification of *in vivo* phototoxic potential.

No *in vitro* test methods have been validated for the prediction of acute oral toxicity. Estimations of animal savings using *in vitro* cytotoxicity data to estimate starting doses for the UDP did not use actual *in vitro* cytotoxicity data. Instead, animal savings were estimated by assuming that the *in vivo* starting dose equals the true LD_{50}, which is an approach that assumes that cytotoxicity data can perfectly predict *in vivo* lethality. These theoretical predictions of animal savings in the UDP ranged from 25-40% (ICCVAM 2001a), as compared with the average animal savings of 5.3-7.8% predicted using computer simulation modeling of the UDP for the reference substances tested in the NICEATM/ECVAM study. Halle et al. (1997) used the *in vitro* cytotoxicity data in the RC to determine that an animal savings of 32% can be attained for the ATC method by using the LD_{50} predicted by the RC millimole regression as the starting dose. For the reference substances tested in the NICEATM/ECVAM validation study, most of which were a poor fit to the RC millimole regression, the average animal savings for the ATC, as determined by computer simulation modeling, was 4.8-10.2%.

Animal Welfare Considerations: Reduction, Refinement, and Replacement

Computer models were used to simulate testing of the reference substances using to the UDP and ATC test methods. In principle, animal savings with the FDP could be estimated even though death is not the primary endpoint, but the validation study did not include this analysis. The number of animals that would be used, and the number of animals that would survive or die during the UDP or ATC procedure, were determined for the default starting doses and compared with those when starting dose was based on LD_{50} values determined from IC_{50} values for each reference substance using the RC rat-only regressions.

Computer simulation of UDP testing showed that, for the reference substances used in this validation study, using the 3T3 or NHK NRU test methods and the RC rat-only millimole regression to identify the starting dose resulted in the use of fewer animals per test by an

average of 5.3% (0.50 animals) to 6.6% (0.53 animals), depending upon the assumed mortality-response slope and *in vitro* NRU test method used. The RC rat-only weight regression predicted mean animal savings of 6.0% (0.56 animals) to 7.8% (0.62 animals). When substances were grouped by GHS acute oral toxicity category, there were no animal savings for substances in the 50 $<LD_{50} \leq$300 mg/kg category because the default starting dose is in this range. The greatest animal savings were observed for substances with 2000 $< LD_{50} \leq$5000 mg/kg and LD_{50} >5000 mg/kg because the limit test, which would be used for such substances, uses fewer animals that the main test. Animal savings for these toxicity categories using the RC rat-only millimole regression ranged from 11.3% (1.21 animals) to 20.3% (1.58 animals) per test. Use of the RC rat-only weight regression produced animal savings of 12.8% (1.38 animals) to 21.0% (1.63 animals) per test. Although the use of the 3T3 and NHK NRU test methods to estimate starting doses for the simulated UDP decreased the numbers of animals used per test, it did not change the numbers of animals that died.

Computer simulation of ATC testing showed that, for the reference substances used in this validation study, using the 3T3 or NHK NRU test methods and the RC rat-only millimole regression to identify the starting dose resulted in a savings of 4.8% (0.51 animals) to 7.3% (0.80 animals) per test, depending upon the assumed mortality-response slope and the *in vitro* NRU test method used. The use of the RC rat-only weight regression produced animal savings of 8.6% (0.91 animals) to 10.2% (1.09 animals). When substances were grouped by GHS acute oral toxicity category, there were no animal savings for substances in the 300 $< LD_{50} \leq$2000 mg/kg category because this category contains the default starting dose for the ATC method. Animal savings were highest for substances with 5 $< LD_{50} \leq$50 mg/kg and LD_{50} >5000 mg/kg. The mean animal savings for both *in vitro* NRU test methods for substances with 5 $< LD_{50} \leq$50 mg/kg ranged from 9.8% (1.15 animals) to 11.4% (1.33 animals) per test for the RC rat-only millimole regression. The greatest reduction in animal use would be for substances with LD_{50} >5000 mg/kg because the limit test used fewer animals than the main test. Animal savings for these substances ranged from 17.1%, (2.03 animals) to 22.2% (2.66 animals) per test for the RC rat-only millimole regression. When the RC rat-only weight regression was used, the mean animal savings with both *in vitro* NRU test methods for substances with 5 $< LD_{50} \leq$50 mg/kg ranged from 10.8% (1.25 animals) to 13.0% (1.51 animals) per test. Mean animal savings for substances with LD_{50} >5000 mg/kg ranged from 24.8% (2.94 animals) to 27.7% (3.33 animals) per test. The use of IC_{50} values to estimate starting doses for the ATC tests refined animal use by producing fewer animal deaths by approximately 0.5 to 0.6 animals per test.

Simulations for the UDP and ATC method showed that the use of cytotoxicity results to estimate starting doses did not significantly alter the GHS categorizations compared with the categories determined using default starting doses. This concordance was 97 to 99% for the 3T3 and NHK NRU test methods.

Practical Considerations

Practical issues with respect to the implementation of these *in vitro* NRU test methods include the need for, and availability of, appropriate cell culture equipment, training and expertise, cost, and time expenditure. The ECVAM Good Cell Culture Practice Task Force Report 1 (Hartung et al. 2002) encourages the establishment of laboratory practices and

principles that will reduce uncertainty in the development and application of *in vitro* test methods.

All equipment and supplies are readily available, and the *in vitro* NRU test methods are easily transferable to laboratories experienced with mammalian cell culture techniques. Much of the training and expertise needed to perform the 3T3 and NHK NRU test methods are common to people with mammalian cell culture experience. Additional technical training would not be intensive because these methods are similar in general performance to other *in vitro* mammalian cell culture assays. GLP training should be provided to laboratory personnel (including study directors and principal investigators) to ensure proper adherence to test protocols and data documentation and verification procedures.

Prices for commercial *in vitro* NRU cytotoxicity testing to determine the IC_{50} for one substance ranged from $1120 to $1850. It is not clear if the price of an *in vivo* test would be reduced if it were preceded by an *in vitro* cytotoxicity test to set the starting dose. Thus, use of these test methods may not reduce the overall cost of rodent acute oral toxicity testing and may increase the cost, but their use has the potential to reduce the number of animals and the time needed for a study. The greatest savings in time and animals will occur if the IC_{50} data determine that the rodent acute oral toxicity limit test should be performed, rather than the main test. Based on the cost and technical procedures associated with cell culture maintenance, the 3T3 NRU test method is less expensive and less complicated to conduct than the NHK NRU test method.

[This Page Intentionally Left Blank]

1.0 INTRODUCTION AND RATIONALE FOR THE USE OF *IN VITRO* NEUTRAL RED UPTAKE CYTOTOXICITY TEST METHODS TO PREDICT STARTING DOSES FOR *IN VIVO* ACUTE ORAL TOXICITY TESTING

Poisoning is a more serious public health problem than generally recognized. The Institute of Medicine (IOM) estimates that more than 4 million poisoning episodes occur annually in the United States (IOM 2004). In 2001, poisoning (30,800 deaths) placed second behind automobile accidents (42,433 deaths) as the leading cause of injury-related death (IOM 2004). To reduce the risk for accidental poisonings, various regulatory agencies in the United States (e.g., the Environmental Protection Agency [EPA], the Consumer Products Safety Commission [CPSC]), require the testing of marketed products for acute oral toxicity in rodents. Increasing societal concerns about animal use have lead to the development and evaluation of alternative *in vitro* test methods that might refine, reduce, or replace acute oral toxicity test methods[1].

The purpose of this background review document (BRD) is to:

- Describe a validation study organized and managed by the National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) to evaluate the ability of two *in vitro* basal cytotoxicity test methods to predict starting doses for rodent acute oral toxicity tests
- Provide the results of an evaluation of the accuracy and reliability of the two *in vitro* basal cytotoxicity test methods, as well as of the animal savings that would occur if these test methods were used to predict the starting dose.

The structure of the BRD follows the requested structure of the *ICCVAM*[2] *Guidelines for the Nomination and Submission of New, Revised, and Alternative Test Methods* (ICCVAM 2003).

This section provides:

- A historical perspective of scientific efforts to develop and evaluate the ability of *in vitro* cytotoxicity test methods to refine, reduce, or replace acute oral toxicity test methods
- A general review of reported correlations between *in vitro* cytotoxicity and acute oral lethality in rodents
- The regulatory requirements for rodent acute oral toxicity testing
- The scientific basis of using *in vitro* basal cytotoxicity test methods to predict the starting doses for rodent acute oral toxicity assays

---

[1] A reduction alternative is a new or modified test method that reduces the number of animals required. A refinement alternative is a new or modified test method that refines procedures to lessen or eliminate pain or distress in animals or enhances animal well-being (ICCVAM 2003).

[2] The Interagency Coordinating Committee for the Validation of Alternative Methods

- The intended regulatory uses and applicability of *in vitro* basal cytotoxicity test methods

1.1 Historical Background and Rationale for the Use of *In Vitro* Cytotoxicity Assays to Predict Starting Doses for Rodent Acute Oral Toxicity Tests

This section provides the historical background and rationale for the NICEATM/ECVAM validation study by summarizing several major studies promoted by the European Union (EU) to investigate the properties and capabilities of cell-based methods to predict acute toxicity. The Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity (MEIC) Program was initiated in 1983 to compare *in vitro* methods to acute oral lethality in humans (**Section 1.1.1**). In 1992-1993, the Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments (FRAME) conducted an international evaluation of selected *in vitro* toxicity test systems for predicting acute systemic toxicity (**Section 1.1.2**). Dr. Willi Halle published a monograph regarding the development of the Registry of Cytotoxicity (RC) database to evaluate whether basal cytotoxicity data could accurately predict acute oral lethality in rats and mice (**Section 1.1.3**). ECVAM organized a workshop in 1994 to evaluate the use of *in vitro* data for the classification and labeling of chemicals and reviewed the assessment of acute oral toxicity using *in vitro* data. Workshop participants suggested that the use *in vitro* data to determine starting doses for acute oral toxicity tests would reduce the use of animals. The German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments (ZEBET) then recommended that *in vitro* basal cytotoxicity data be used with the RC millimole regression, which is referred to as the ZEBET approach (**Section 1.1.4**), to determine starting doses for acute oral toxicity tests. **Section 1.1.5** provides background on an international workshop that reviewed and evaluated the EU studies above and **Section 1.1.6** describes the NICEATM/ECVAM *in vitro* cytotoxicity validation study that expands upon the EU studies.

1.1.1 The Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity (MEIC) Program

The Scandinavian Society for Cell Toxicology established the MEIC program in 1983 to investigate the ability of *in vitro* cytotoxicity test methods to predict acute oral lethality in humans (Bondesson et al. 1989). MEIC was based on the following assumptions:

- *In vitro* cell culture systems could be used to model *in vivo* acute oral toxicity.
- The basal cytotoxicity detected by these *in vitro* test methods is responsible for a large proportion of *in vivo* toxic effects[3].

The MEIC program was an open study that invited laboratories worldwide to participate in testing 50 reference substances using laboratory-specific *in vitro* cytotoxicity assays. Although the MEIC management team requested that all participating laboratories test chemicals with high purity, no effort was made to assure that the substances tested were purchased from the same supplier or were of the same purity (Clemedson et al. 1996a). Minimal methodological directives were provided so as to maximize protocol diversity among the 96 participating laboratories.

[3] Basal, or general, cytotoxicity was described as toxicity resulting from interference with basic cellular structures and functions, such as cell membranes, metabolism, ion regulation, and cell division that are common to all human and animal cells.

The reference substances were selected to represent different chemical classes for which reference acute oral lethality data existed in humans (i.e., lethal doses, kinetics, and lethal blood/serum concentrations [LC]) and rodents (oral median lethal dose [LD_{50}] values) (Bondesson et al. 1989). The MEIC management team collected human data from clinical and forensic toxicology handbooks and case reports of human poisonings (Ekwall et al. 1998a). The resulting data were presented and analyzed in a series of 50 MEIC Monographs. Rat and mouse oral LD_{50} data were collected from the Registry of Toxic Effects for Chemical Substances (RTECS®)[4].

The 50 reference substances were tested in as many as 61 different *in vitro* assays (Ekwall et al. 1998b). The metric of interest was the IC_{50} (i.e., the concentration that inhibited the response measured by 50%) for the endpoint measured. Of the 20 test methods that used human-derived cells, 18 used cell lines and two used primary cell cultures. Of the 21 test methods that used mammalian (but other than human) cells, 12 used cell lines and nine used primary cell cultures. Eighteen test methods were ecotoxicological in nature and two used cell-free systems. Cell viability and/or cell growth were the endpoints of choice in the majority of the cell-based systems. The chemical exposure duration ranged from 5 minutes to 6 weeks, but most frequently was 24 hours (Clemedson et al. 1996).

The ability of the *in vitro* IC_{50} data to predict human acute oral lethality was assessed using human LC values compiled from three different data sets (Ekwall et al. 2000):

- Clinically measured acute lethal serum concentrations
- Acute LC values measured post-mortem
- Peak LC values derived from approximate LC_{50} curves over time after exposure

A partial least squares (PLS) analysis indicated that the IC_{50} data generated from as many as 61 test methods predicted the three sets of LC data well (R^2=0.77, 0.76, and 0.83, Q^2=0.74, 0.72, and 0.81, respectively, where R^2 is the determination coefficient and Q^2 is the predicted variance according to cross-validation in the PLS model used). A two component PLS model using rat and mouse oral LD_{50} values less accurately predicted human LC values (R^2=0.65, Q^2=0.64). These results suggested that *in vitro* basal cytotoxicity assays might be more effective in estimating human acute oral lethality than rodent acute oral toxicity test methods.

Because the MEIC study showed that the *in vitro* test methods with the best predictivity generally used human cell lines (Ekwall et al. 1998b), the MEIC management team identified a battery of *in vitro* assays using three human cell lines that had maximal performance for predicting peak acute LC values in humans (R^2=0.79 and Q^2=0.76) (Ekwall et al. 2000). However, it was concluded that improvements in the prediction of human acute oral lethality were necessary before *in vitro* cytotoxicity assays could replace animal tests. To adjust for lethality produced by mechanisms other than basal cytotoxicity, the Evaluation-guided Development of New *In Vitro* Tests (EDIT) program was proposed to address targeted

[4] RTECS® was originally published by the U.S. National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) and is currently licensed to MDL Information Systems, Inc.

development of *in vitro* test methods for other endpoints, including biokinetics (e.g., gut absorption, distribution, clearance), biotransformation, and target organ toxicity (Clemedson et al. 2002).

1.1.2 An International Evaluation of Selected *In Vitro* Toxicity Test Systems for Predicting Acute Systemic Toxicity

FRAME organized an international collaborative study conducted in 1992 - 1993 to evaluate the prediction of rodent acute oral lethality by *in vitro* test methods (Fentem et al. 1993)[5]. The objective of the study was to identify *in vitro* systems and strategies that could be used for the classification and labelling of new chemicals, thereby reducing, and possibly replacing, the use of animals for acute oral toxicity testing.

The 42 substances tested in the study comprised a diverse group of organic and inorganic chemical classes, including surfactants, pharmaceuticals, and pesticides (Fentem et al. 1993). *In vitro* toxicity assays using different mammalian cell lines, exposure periods, and toxicity endpoints were evaluated, including:

- Two cell proliferation assays (total protein in mouse BALB/c 3T3 fibroblast cells and MTT[6] reduction in Chinese hamster fibroblastoid V79 cells after a 72-hour exposure period)
- Two cytolethality assays (MTT reduction in V79 cells and lactate dehydrogenase [LDH] release from primary rat hepatocytes after a 24-hour exposure period)
- A cell function assay (myotube contractility inhibition in rat skeletal muscle cells)

The resulting *in vitro* IC_{50} data were linearly regressed against the lowest available rat or mouse oral LD_{50} values for each test substance. There were no significant differences among the IC_{50}-LD_{50} regressions for the different *in vitro* test methods.

A subset of 26 to 40 of the 42 test substances, based on the availability of European Union (EU) hazard classification data, was used to evaluate two approaches for using *in vitro* IC_{50} data to classify chemicals into the four hazard categories used by the EU for acute oral toxicity labelling (Fentem et al. 1993). One approach used the IC_{50} values obtained from the five different *in vitro* test methods for each test substance to predict the LD_{50} value and hazard category from the IC_{50}-LD_{50} regression. The accuracy of hazard classification for the five *in vitro* tests was from 43 to 65%. The other approach used toxicokinetic parameters for 31 to 38 substances to convert the IC_{50} values to effective dose (i.e., ED_{50}) values. Hazard classification accuracy was 43 to 55%.

---

[5] The collaborative study was conducted by the Institute of Toxicology, Kiel, Germany; the University of Nottingham, United Kingdom; and the Gesellschaft für Strahlen- und Umweltforschung, Neuherberg, Germany (Society for Radiological and Environmental Research, which later changed its name to Center for Environmental and Health Research [Forschungszentrum für Umwelt und Gesundheit])

[6] MTT (3-[4,5-dimethylthiazol-2-yl]-2,5-diphenyl tetrazolium bromide is metabolized by the mitochondrial succinate dehydrogenase of proliferating cells to yield a purple formazan reaction product.

In addition, to ensure that a variety of toxic mechanisms were evaluated during *in vitro* testing, the lowest predicted LD_{50} or ED_{50} from the results of a battery of three tests: a cell proliferation assay (total protein for 3T3 cells); a cytotoxicity/cytolethality assay using primary rat hepatocytes (LDH release); and the rat skeletal muscle cell contractility assay, was used also. The lowest predicted LD_{50} or ED_{50} of the three tests was then used to predict toxicity classification. The accuracy of classification using this approach was 48% for the ED_{50} and 45% for the predicted LD_{50} values.

Based on the results obtained, a battery of *in vitro* tests was recommended for classifying chemicals for their acute lethal potency in rodents (Fentem et al. 1993). The first order test in the battery measures basal cytotoxicity. This study observed no major differences in the performances of the *in vitro* test methods that measure inhibition of cell growth regardless of the cell line (V79, 3T3-L1, or BALB/c 3T3), exposure duration (24-72 hours), or endpoint measurement technique (MTT reduction, neutral red uptake [NRU], or protein concentration). The second order test in the battery assesses hepatocyte-specific toxicity and the role of biotransformation in cytotoxic activity. Co-cultures of rodent hepatocytes with proliferating cells such as 3T3 cells were recommended because the use of hepatocytes alone would not indicate that a chemical requires bioactivation to produce its toxic effects. The third order test in the battery detects chemicals that interfere with electrically excitable membranes at non-cytotoxic concentrations (e.g., a contractility assay using primary cultures of rat muscle cells) (Fentem et al. 1993).

1.1.3 The Registry of Cytotoxicity (RC)

The RC is a database of acute oral LD_{50} values for rats and mice obtained from RTECS®, and published IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays that used a variety of cell lines and cytotoxicity endpoints for substances with known molecular weights (Halle 1998, 2003). The main purpose for compiling the RC was to evaluate, using data from substances with a wide range of rodent acute oral toxicities, whether basal cytotoxicity (averaged over various cell types, cell lines, and/or toxicity endpoints) accurately predicted acute oral lethality in rats and mice. The RC currently contains data for 347 different substances (Halle 1998, 2003) and efforts are underway to increase the number to 500 (ICCVAM 2001a). The RC does not contain data on chemical mixtures.

The RC contains cytotoxicity data for substances that met the following criteria (Halle 1998, 2003):

- At least two different IC_{50} values needed to be available, from studies using either different cell types, different cell lines, or different cytotoxicity endpoints
- Data had to be generated using mammalian cells only (although data from studies using hepatocytes or related cells were excluded)
- The chemical exposure duration had to be at least 16 hours, with no upper limit

The following cytotoxicity endpoints were accepted:

- Cell proliferation: cell number; cell protein; DNA content; DNA synthesis; ^{3}H-thymidine intake; colony formation

- Cell viability/metabolic indicators: metabolic inhibition test (MIT-24); mitochondrial reduction of tetrazolium salts into an insoluble (MTT) or soluble (2,3-bis(2-methoxy-4-nitro-5- sulfophenyl)-2H-tetrazolium-5-carboxanilide [XTT]) dye
- Cell viability/membrane indicators: NRU; trypan blue exclusion; cell attachment; cell detachment
- Differentiation indicators, such as functional and/or morphological changes among and within cells

IC_{50} values (1,912) for 347 substances were obtained from 157 original publications (Halle 1998, 2003). The two to 32 IC_{50} values for each substance were averaged as geometric means to produce one IC_{50x} value for each substance. The rodent LD_{50} values used in the RC were obtained from RTECS®. For the first 117 substances, designated as the training data set (RC-I), LD_{50} values were not revised when subsequent issues of RTECS® reported lower values[7]. For the most recent 230 substances, designated as the verification set (RC-II), the LD_{50} values were taken from the 1983/84 RTECS® publication. Whenever obtainable, oral LD_{50} data from rats were used (282 values). If rat data were unavailable, LD_{50} data from mice were used (65 values). Combining rat and mouse data in the regression was deemed to be justified when separate regressions for the mouse and rat LD_{50} values against the IC_{50x} values did not result in significant differences between the slopes and intercepts of the two regressions (Halle 1998, 2003).

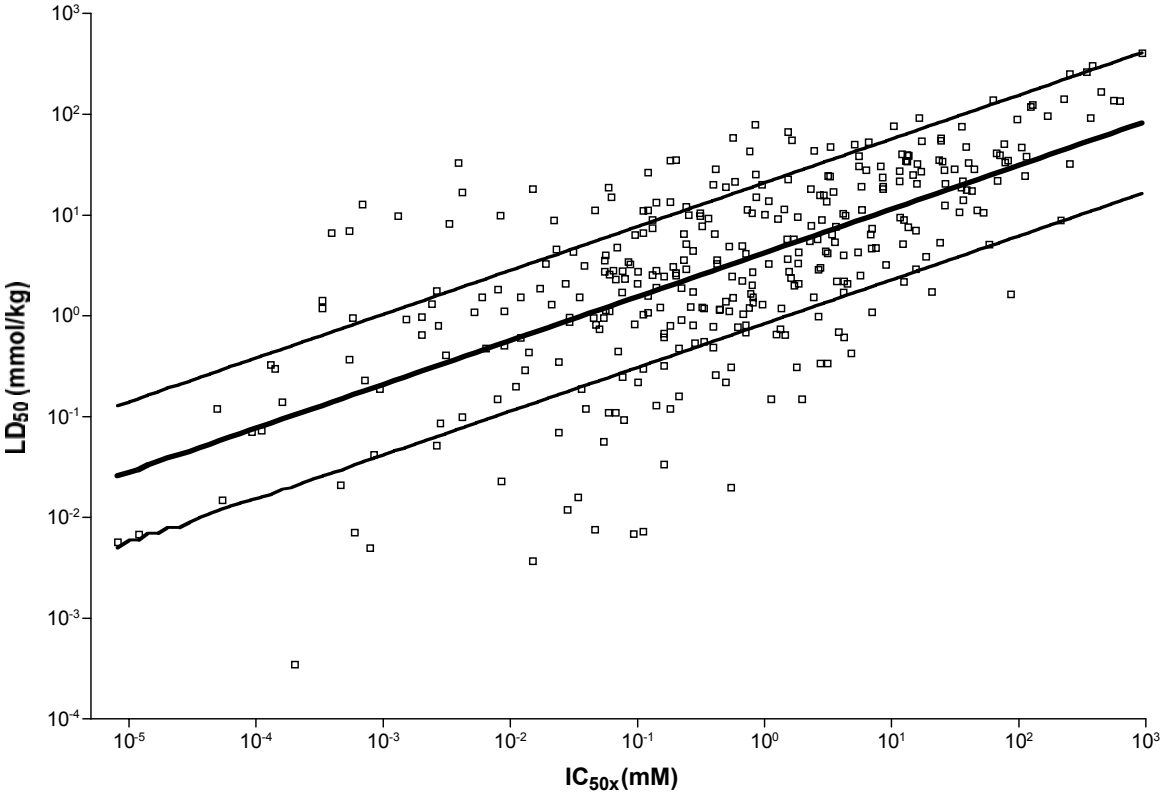
To develop a model for the prediction of acute oral LD_{50} values from IC_{50x} values, Halle (1998, 2003) calculated a linear regression from pairs of the log-transformed IC_{50x} values (in mM) and log transformed rodent oral LD_{50} values (in mmol/kg) (see **Figure 1-1**). Molar concentrations were used to allow for a comparison among chemicals based on the number of molecules rather than formula weights. The regression, referred to here as the *RC millimole regression*, has the following formula:

$$\mathbf{\log LD_{50}\ (mmol/kg) = 0.435 \times \log IC_{50x}\ (mM) + 0.625}$$

To identify an acceptability range for practical use and research purposes, the acceptable prediction interval for the LD_{50} was empirically defined as approximately one-half an order of magnitude on either side of the best-fit linear regression (i.e., ± log 5, or ±0.699) (Halle 1998, 2003). This interval was based on eight linear regressions calculated for *in vitro* mammalian cell cytotoxicity data using various endpoints and oral LD_{50} values from rat, mouse, or rat and mouse from five publications. The prediction interval approximates the predicted LD_{50} range for the eight regressions across about eight orders of magnitude of IC_{50} values. When this approach was used, 73% (252/347) of the RC substances fall within the prediction interval.

[7] RTECS® published the lowest LD_{50} reported for a substance and updates the information periodically.

Figure 1-1 RC Millimole Regression for *In Vitro* Cytotoxicity (IC_{50x}) and Rat and Mouse Acute Oral LD_{50} Values for 347 Chemicals



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; IC_{50x}=Geometric mean (of multiple endpoints and cell types) test substance concentration that reduces cell viability by 50%; LD_{50}=Dose producing death in 50% of the animals tested.

The heavy line shows the fit of the data to a linear regression model, log (LD_{50}) = 0.435 x log (IC_{50x}) + 0.625; r=0.67. The thinner lines show the empirical prediction interval (± log 5, or ±0.699) that is based on the anticipated precision for the prediction of LD_{50} values from cytotoxicity data (Halle 1998, 2003).

1.1.4 The ZEBET Initiative to Reduce Animal Use

ECVAM organized a workshop in 1994 to evaluate the use of *in vitro* data for the classification and labeling of chemicals (Seibert et al. 1996). Workshop participants reviewed information on the assessment of acute oral toxicity using *in vitro* data and concluded that, for *in vitro* data to be used most effectively, the following information would be necessary:

- The active concentration *in vitro* (i.e., the actual concentration available to the cultured cells)
- The *in vitro* concentrations that produce basal cytotoxicity, hepatocyte toxicity, and selective cytotoxicity (i.e., effects on cell-specific functions such as transport processes or cell-to-cell communication)
- The effect of biokinetic processes on acute oral toxicity in rodents
- *In vitro* tests that provide the physicochemical parameters needed to estimate equivalent body doses from *in vitro* data

The concept that *in vitro* data could be used to determine the starting doses for rodent acute oral toxicity tests, so as to reduce the number of animals used, was first discussed at this workshop (Seibert et al. 1996). At that time, draft Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) sequential rodent acute oral toxicity test guidelines (TGs) were available; these included the:

- Acute Toxic Class method (ATC; OECD draft Test Guideline [TG] 423 [ICCVAM 2001a])
- Up-and-Down Procedure (UDP; OECD draft TG 425 [ICCVAM 2001a])
- Fixed Dose Procedure (FDP; OECD draft TG 420 [ICCVAM 2001a])

Final OECD TGs now exist for these rodent acute oral toxicity tests. The number of animals needed depends upon the choice of the starting dose because the number of consecutive dosing steps, and thus the number of animals used, is reduced as the starting dose more closely approximates the true toxicity class for the ATC or the FDP, or the true LD_{50} for the UDP.

The ZEBET approach involves using an IC_{50} value from an *in vitro* basal cytotoxicity test with the RC millimole regression to predict an LD_{50} value for use as a starting dose for the ATC or UDP (Spielmann et al. 1999). Using simulation results performed to evaluate the draft UDP test method, ZEBET predicted that the use of *in vitro* cytotoxicity assays to predict a starting dose equivalent to the LD_{50} had the potential to reduce animal use in the UDP by 25-40%, depending upon the slope of the concentration response curve and the stopping rule applied (Spielmann et al. 1999; ICCVAM 2001a).

1.1.5 The International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity

In 2000, the U.S. National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), the NTP, and the EPA jointly sponsored an International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity (hereafter known as Workshop 2000). This workshop evaluated:

- The ZEBET approach using the RC millimole regression to estimate LD_{50} values and set starting doses for *in vivo* testing
- A testing strategy proposed by the European Center for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) (Siebert et al. 1996)
- Other initiatives for reducing animal use in rodent acute oral toxicity testing by using *in vitro* cytotoxicity test methods (ICCVAM 2001a)

The Workshop 2000 participants concluded that no *in vitro* cytotoxicity test methods (or battery of *in vitro* cytotoxicity test methods) existed that could replace the current *in vivo* acute oral toxicity test methods (ICCVAM 2001a). Furthermore, they concluded that none of the *in vitro* models reviewed had been adequately evaluated for reliability and relevance, and their usefulness and limitations for generating information for acute toxicity testing had not been assessed. However, there was agreement that: (1) in the near-term, *in vitro* basal cytotoxicity test methods would be useful for estimating the starting dose for rodent acute oral toxicity studies, and (2) further development, optimization, and validation of *in vitro* test methods that considered target organ specificity and *in vivo* factors like adsorption, distribution, metabolism, and excretion (ADME) that modulate the lethality of a xenobiotic were needed (ICCVAM 2001a). Furthermore, the approach proposed by ZEBET (i.e., the use

of *in vitro* basal cytotoxicity test methods to predict the starting dose for the sequential rodent acute oral toxicity test methods) (Halle 1998, 2003; Spielmann et al. 1999) was recommended for rapid adoption so that data could be generated to establish its usefulness with a larger number of substances (ICCVAM 2001a). To assist in the adoption and implementation of the ZEBET approach, several workshop participants prepared the *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity* (hereafter referred to as *Guidance Document*; ICCVAM 2001b).

The *Guidance Document* recommended testing 10 to 20 RC substances (of high purity) from the RC in a candidate *in vitro* basal cytotoxicity assay to be used for predicting starting doses for acute oral lethality tests (ICCVAM 2001b). The substances were to cover a wide range of toxicities and fit the RC prediction model (i.e., the linear regression line) as closely as possible. The *in vitro* test methods recommended and provided as examples were NRU assays using 3T3 and normal human epidermal keratinocytes (NHK) cells. The IC_{50} results from testing the selected substances would be used to calculate a regression against the LD_{50} values used by the RC. If the resulting regression were parallel to the RC millimole regression and within the ± log 5 (i.e., ±0.699) prediction interval for the RC, the *Guidance Document* recommended using the *in vitro* cytotoxicity assay to predict starting doses for LD_{50} assays. If the regression from the *in vitro* assay did not meet these criteria, then the *Guidance Document* advised either (a) adjusting the slope or (b) using the NRU protocols offered in the *Guidance Document* (considered the most efficient approach).

Based on the conclusions and recommendation of the Workshop 2000 participants, ICCVAM subsequently recommended that near-term validation studies should focus on two *in vitro* basal cytotoxicity assays: one using human cells and one using rodent cells. Human cells are of interest because a principal aim of rodent acute oral toxicity testing is to predict potential lethality in humans, while rodent cells may be a better predictor of lethality in rats and mice (ICCVAM 2001a).

1.1.6 The NICEATM/ECVAM *In Vitro* NRU Cytotoxicity Validation Study

In response to the ICCVAM recommendation, NICEATM and ECVAM designed an independent[8] multi-laboratory validation study to evaluate *in vitro* basal cytotoxicity, measured as NRU, as a predictor of acute oral lethality in rodents and potentially in humans. Based on historical *in vitro* cytotoxicity data for mouse BALB/c 3T3 fibroblast cells (e.g., Balls et al. 1995; Brantom et al. 1997; Gettings et al. 1991, 1994a, 1994b; Spielmann et al. 1991, 1993, 1996) and NHK cells (e.g., Gettings et al. 1996; Harbell et al. 1997; Sina et al. 1995; Willshaw et al. 1994), it was decided that these two cells types should be the focus of this validation effort.

The primary aim of this validation study was to determine if the NRU IC_{50} concentration of a test substance in either 3T3 or NHK cells could be used to estimate the rodent LD_{50}, as a means for predicting the starting doses for rodent acute oral toxicity studies. A secondary aim was to determine the extent to which the NRU IC_{50} in either 3T3 or NHK cells could be used

[8] "Independent" is used here to indicate that neither NICEATM nor ECVAM, nor its members, had a monetary interest in the test methods.

to estimate the blood serum concentrations associated with acute oral lethality in humans. This evaluation will be the focus of a future ECVAM report.

The specific objectives for this validation study were to:

- Further standardize and optimize the *in vitro* NRU basal cytotoxicity protocols using 3T3 and NHK cells to maximize test method reliability (intralaboratory repeatability, intra- and inter-laboratory reproducibility)
- Assess the accuracy of the two standardized *in vitro* 3T3 and NHK NRU basal cytotoxicity test methods for estimating rodent oral LD_{50} values across the five United Nations (UN) Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005) categories of acute oral toxicity, as well as unclassified toxicities
- Estimate the reduction and refinement in animal use achievable from using the *in vitro* 3T3 and NHK NRU basal cytotoxicity test methods to identify starting doses for *in vivo* acute oral toxicity tests, assuming that no other information were available
- Develop high quality *in vivo* acute oral lethality and *in vitro* NRU cytotoxicity databases that can be used to support the investigation of other *in vitro* test methods necessary to improve the prediction of *in vivo* acute oral lethality

1.1.6.1 *Study Design*

The planning phase of the validation study included the selection of reference substances for testing, which is described in **Section 3,** and the identification of rodent oral LD_{50} values for the reference substances, which is described in **Section 4**. The validation study proceeded in several phases (see **Figure 1-2**) so that the Study Management Team (SMT) could evaluate the reproducibility of results after each phase and refine the protocols, if necessary, before proceeding to the next phase. The resulting NRU data collected were used to evaluate linear regression formulas for the prediction of LD_{50} values from IC_{50} values (see **Section 6**). Computer simulation modeling of acute oral toxicity test outcomes was then performed to determine potential animal savings using the NRU-predicted starting doses compared with the default starting dose for the UDP and the ATC (see **Section 10**). Study management and study participant information is provided in **Appendix A**.

Figure 1-2 NICEATM/ECVAM Validation Study Phases

Phase Ia: Laboratory Evaluation

Development of a positive control database for each laboratory

- Perform at least 10 replicate NRU tests of the positive control substance (sodium lauryl sulfate [SLS]) with each cell type.
- Calculate mean IC_{50} value ±2 standard deviations for each cell type for each laboratory.
- Establish acceptance criteria for positive control performance in future assays.

⇓

Phase Ib: Laboratory Evaluation

Limited substance testing to demonstrate the reliability of the protocol

- Each laboratory tests the same three coded substances three times with each cell type. There was one substance each from low, medium, and high GHS toxicity categories.
- Refine protocols and repeat, if necessary, until acceptable intra- and inter-laboratory reproducibility is achieved.

⇓

Phase II: Laboratory Qualification

Evaluation of protocol refinements

- Each laboratory tests nine coded substances covering the range of GHS toxicity categories, with three replicate tests per substance in each test method.
- Assure that corrective actions taken in Phase I have achieved the desired results.
- Further refine protocols and re-test, if necessary, to achieve acceptable reliability.
- Finalize protocols for Phase III.

⇓

Phase III: Laboratory Testing Phase

Test of optimized protocols

- Each laboratory tests 60 coded substances in three replicate tests using the finalized protocol for each test method.

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005)

1.2 Regulatory Rationale and Applicability for the Use of *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods to Predict Starting Doses for Acute Oral Toxicity Testing in Rodents

1.2.1 Current Regulatory Testing Requirements for Acute Oral Toxicity

The major regulatory need for acute oral toxicity testing is for the hazard classification and labeling of products, which is intended to alert handlers and consumers to potential toxicity hazards. The LD_{50} values from acute oral toxicity tests using rodents are used to place substances in various toxicity categories that, in turn, invoke the associated hazard phrases to be used on product labels. **Table 1-1** shows the current U.S. legislation requiring the use of acute oral toxicity testing for product labeling, and the substances regulated. **Table 1-2** shows the statutory test protocol requirements and classification systems used by each U.S. regulatory agency. Also included in this table is the UN Harmonized Integrated Classification System for Human Health and Environmental Hazards of Chemical Substances and Mixtures, which provides guidance to regulatory agencies on the use of the GHS (UN 2005) as an internationally comprehensible system for hazard communication (OECD 2001b).

Table 1-1 Summary of Current U.S. Legislation for Using Acute Toxicity Data for Product Labeling

Legislation (Year of Initial Enactment)	U.S. Regulatory Agency	Substances Regulated
Federal Insecticide, Fungicide and Rodenticide Act (FIFRA; 1947)	EPA	Pesticides
Federal Hazardous Substances Act (1964)	CPSC	Household products
Occupational Safety and Health Act (1970)	OSHA	Workplace materials
Federal Hazardous Material Transportation Act (1975)	DOT	Transported substances

Abbreviations: EPA=U.S. Environmental Protection Agency; CPSC=U.S. Consumer Product Safety Commission; FIFRA=Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act; OSHA=U.S. Occupational Safety and Health Administration; DOT=U.S. Department of Transportation.
Note: The U.S. Food and Drug Administration (FDA) does not require data for from acute lethality testing, and discourages the use of animals for such testing (FDA 1993).

In addition to classification and labeling, acute oral toxicity test results may be used for:

- Establishing dosing levels for repeated dose toxicity studies or other toxicity studies
- Identifying potential target organs
- Providing information related to the mode of toxic action
- Aiding in the diagnosis and treatment of toxic reactions
- Providing information for comparison of toxicity and dose response among substances in a specific chemical or product class
- Aiding in the standardization of biological products
- Aiding in judging the consequences of single, high accidental exposures in the workplace, home, or from accidental release
- Serving as a standard for evaluating alternatives to animal tests

Table 1-2 Regulatory Classification Systems for Acute Oral Toxicity

Regulatory Agency (Authorizing Act)	Animals	Endpoint	Classification
EPA (FIFRA)	Use current EPA or OECD protocol	Death[1]	I - LD_{50} ≤50 mg/kg II - 50 < LD_{50} ≤500 mg/kg III - 500 < LD_{50} ≤5000 mg/kg IV - LD_{50} >5000 mg/kg
CPSC (Federal Hazardous Substances Act)	White rats, 200-300 g	Death[1] within 14 days for ≥ half of a group of ≥10 animals	Highly toxic - LD_{50} ≤50 mg/kg Toxic - 50 mg/kg < LD_{50} <5 g/kg
OSHA (Occupational Safety and Health Act)	Albino rats, 200-300 g	Death[1], duration not specified.	Highly toxic - LD_{50} ≤50 mg/kg Toxic - 50 < LD_{50} <500 mg/kg
DOT (Federal Hazardous Material Transportation Act)	Male and female young adult albino rats	Death[1] within 14 days of half the animals tested. Number of animals tested must be sufficient for statistically valid results.	Packing Group 1 - LD_{50} ≤5 mg/kg Packing Group II - 5 < LD_{50} ≤50 mg/kg Packing Group III - LD_{50} <500 mg/kg (liquid) LD_{50} <200 mg/kg (solid)
OECD Guidance for Use of GHS (2001b)	Protocols not specified	Not specified	I - LD_{50} ≤5 mg/kg II - 5 < LD_{50} ≤50 mg/kg III - 50 < LD_{50} ≤300 mg/kg IV - 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg V - 2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg Unclassified - LD_{50} >5000 mg/kg

Abbreviations: EPA=U.S. Environmental Protection Agency; OECD=Organisation for Economic Co-operation and Development; LD_{50}=Dose producing death in 50% of the animals tested; CPSC=U.S. Consumer Product Safety Commission; FIFRA=Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act; OSHA=U.S. Occupational Safety and Health Administration; DOT=U.S. Department of Transportation; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).

[1]*Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation* calls for humane killing of moribund animals (OECD 2000). Moribund animals that are humanely euthanized are accepted as deaths.

1.2.1.1 *Test Methods for Assessing Acute Oral Toxicity*

The current internationally recognized test methods for acute oral toxicity testing are the FDP (OECD 2001c), the ATC (OECD 2001d), and UDP (OECD 2001a; EPA 2002a) (see **Appendix M** for test method guidelines). Information on toxic doses and signs of acute toxicity and target organs can be obtained using any of these three methods. All three methods are sequential tests in which the outcome of testing one or more animals at the first dose is used to determine the second dose that should be tested. The FDP differs from the UDP and ATC in that it involves using more animals per dose, and the primary endpoint of interest is evident toxicity[9] rather than lethality. Both the FDP and the ATC methods provide a range estimate of the LD_{50} for classification purposes. The UDP generally provides a point estimate of the LD_{50} with a confidence interval (EPA 2002a).

Each of the test method guidelines includes a limit test in which up to five or six animals are tested at the limit, or upper bound, dose depending on the dose chosen (OECD 2001a, c, d, e; EPA 2002a). The limit test can be performed using 2000 or 5000 mg/kg, depending on the regulatory need.

1.2.2 Intended Regulatory Uses for the *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods

In vitro cytotoxicity test methods currently cannot serve as replacements for acute oral toxicity tests in animals. However, such test methods can be used as adjuncts for rodent acute oral toxicity tests. The current test guidelines for acute oral toxicity tests recommend using information from structurally-related substances and the results of any other toxicity tests (EPA 2002b), including *in vitro* cytotoxicity test method (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a) to select the starting *in vivo* dose. The 3T3 and NHK NRU test methods may be used as part of this weight-of-evidence approach to select starting doses in order to reduce and refine the use of animals for acute oral toxicity testing.

Section 10 presents computer simulation analyses that characterize the extent of animal reduction and refinement that may occur by using the *in vitro* NRU test methods to estimate the starting doses for the UDP and the ATC method, by estimating the numbers of animals used and the numbers of animal that die. These simulations determined (1) the numbers of animals used when using the default starting dose and, (2) the number of animals used when using a starting dose determined from the *in vitro* NRU test methods. These calculations determined the reduction in animal use that can be achieved when using the *in vitro* NRU test methods. To characterize the extent of refinement produced using the NRU-determined starting dose, the number of animals that would have died with the NRU-determined starting dose was compared with the number of animals that would have died when using the default starting dose. Because there is a lack of information for specific substances about the dose at which evident toxicity occurs in relationship to the LD_{50}, the FDP will not be considered further in this document. However, the use of *in vitro* cytotoxicity data to determine starting doses may also reduce the use of animals in the FDP.

---

[9] *Evident toxicity* is a general term describing clear signs of toxicity following administration of the test substance, such that the next highest fixed dose would result in the development of severe toxic signs, and probably mortality (ICCVAM 2000).

1.2.3 Similarities and Differences in the Endpoints of the *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods and Rodent Acute Oral Toxicity Test Methods

The endpoint measured in the *in vitro* NRU test methods is cell death. Neutral red dye is taken up and accumulated only by live cells; the primary measure of interest is the IC_{50} (i.e., the test substance concentration that causes a 50% inhibition of NRU). In contrast, the endpoint measured in acute oral toxicity assays is usually animal morbidity or death. Cell death and animal death may have similar mechanistic bases because all cells, regardless of whether they are in animals or *in vitro* cell cultures, have similar cellular mechanisms; for example, energy production and maintenance of cell membrane integrity.

Death of an animal death and death of a cultured cell due to toxicity both involve interference with vital cell processes or physical injury. Cell death in a culture system involves the death of a single cell type, but through mechanisms that also operate in the animal. In contrast, cellular injury in an animal, if sufficiently widespread or in a critical process, can lead to injury or loss of function of other cell types in a tissue not directly affected by the treatment, resulting in organ failure. Major organ system failures (e.g., liver and kidney failure), gastrointestinal corrosion, and bone marrow depression, can be fatal. Examples of mechanisms leading to such organ failures are disruption of membrane structure or function, inhibition of mitochondrial function, disturbance of protein turnover, and disruption of energy production (Gennari et al. 2004). Alternatively, the tissue injury could affect non-exposed vital organs or tissues through interference with homeostatic signaling mechanisms (Gennari et al. 2004). For example, respiratory depression leading to death may be due to depression of the central nervous system (CNS) rather than a direct assault on the respiratory system itself.

Animal and cell culture systems are also different with respect to how a substance or toxicant is delivered to the cell and how it is distributed within the cell, metabolized, and excreted. After oral administration, animals must absorb the toxicant from the gastrointestinal tract, which involves the passage through membranes, many of which are selective with respect to what molecules they will allow to pass. The toxicant may or may not be bound to serum proteins, thereby reducing its availability to the target organ. The toxicant may be metabolized before, during, and/or after its distribution to the target organs, or the toxicant or its metabolites may be excreted before reaching the target organ or reacting with its components. As a consequence, the most critical target organs may not be exposed to the active metabolite, or be exposed for only a limited time or to a relatively small fraction of the administered dose.

In contrast, in a cell culture system, the test substance is applied directly to the target cells and the only membranes that must be passed are those of the target cell and its subcellular organelles. No absorption and distribution by other cellular systems is required. Cell culture systems may or may not include serum proteins, which could reduce the availability of toxicant to the target site. For example, the 3T3 cell culture medium includes serum while the NHK cell culture medium does not. 3T3 and NHK cells have little to no capacity to metabolize xenobiotic compounds, and added cell-free metabolic activation systems, such as rat liver homogenates, may not accurately mimic all phases of *in vivo* metabolism. Excretion from the cell culture milieu is not a consideration because anything excreted from the cell

remains in the culture medium and is available to the other cells in the culture. As a result, the cells in culture (as opposed to cells in an animal) may be exposed to a test substance for the entire duration of the test protocol.

Animals and cell culture systems may also differ with respect to the target on which a toxicant acts. If a toxicant acts in a specialized organ system *in vivo*, it may not produce a toxic effect by the same mechanism in cultured cells that are derived from a tissue different from the target organ. For example, a substance that affects a neuroreceptor-mediated pathway in animals would not be expected to produce a similar toxicity in 3T3 or NHK cells, which are derived from fibroblasts and skin cells, respectively, and do not contain similar neuroreceptors; if toxicity is seen in these cell cultures, it may be from a different mechanism or in a different concentration relationship than *in vivo*. Even if a neurotoxin were applied to neuronal cells in culture, the cultured cells may not respond in the same way as neuronal cells in an animal because cells in culture, especially cell lines, may not retain the same functionalities as cells *in vivo*.

1.2.4 Use of *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods in the Overall Strategy of Hazard Assessment

In the overall strategy of hazard or safety assessment, the intended regulatory use of the *in vitro* NRU test methods is to reduce and refine the use of animals in current acute toxicity assays. The *in vitro* systems would serve as adjuncts to the *in vivo* test methods but are not intended as replacements for the rodent acute oral toxicity test methods. For the OECD alternative acute oral toxicity assays (the ATC and UDP), the number of animals used depends on the starting dose. The number of dosing steps (and animals) is reduced if the starting dose is close to the true toxicity class (ATC) or the true LD_{50} (UDP) (Spielmann et al. 1999; ICCVAM 2001b).

As noted earlier, Spielmann et al. (1999) and the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) suggest that the RC millimole regression analysis be used with *in vitro* cytotoxicity data to predict starting doses for the ATC and UDP. The RC millimole regression cannot be applied to unknown substances or to mixtures (e.g., product formulations) because such materials cannot be assigned molecular weights. Therefore, the NICEATM/ECVAM validation study also evaluated the classification accuracy and the reduction in animal use associated with a regression based on weight units (with IC_{50} in µg/mL and LD_{50} in mg/kg) (see **Section 10**). This regression would potentially be appropriate for predicting the starting dose for mixtures and undefined substances.

1.3 Scientific Basis for the *In Vitro* NRU Test Methods

Cytotoxicity has been defined as the adverse effects resulting from interference with structures and/or processes essential for cell survival, proliferation, and/or function (Ekwall 1983). Ekwall (1983) described the concept of "basal cell functions" (mitochondrial activity, plasma membrane integrity, etc.) that virtually all cells possess and suggested that, for most substances, toxicity is a consequence of non-specific alterations in those cellular functions, which may then lead to adverse effects on organ-specific functions and/or death of the organism. These effects may involve the integrity of membranes and the cytoskeleton, cellular metabolism, the synthesis and degradation or release of cellular constituents or products, ion regulation, and cell division.

Ekwall (1983) and others (e.g., Grisham and Smith 1984) concluded that, because the actions of substances that produce injury and death are ultimately exerted at the cellular level, *in vitro* cytotoxicity assays might be useful for the prediction of acute lethality potency, as well. Considerable research has been undertaken to develop and evaluate *in vitro* tests for use as screens and as potential replacements for rodent LD_{50} tests, and numerous groups have reported good agreement between *in vitro* cytotoxicity and animal lethality (see reviews by Phillips et al. 1990; Garle et al. 1994; Guzzie 1994). However, none of the proposed *in vitro* models have been evaluated in any formal studies for reliability and relevance, and their usefulness and limitations for generating information to meet regulatory requirements for acute toxicity testing data have not been assessed.

1.3.1 Purpose and Mechanistic Basis of the *In Vitro* NRU Test Methods

A number of basal cytotoxicity endpoints can be used to measure cell death or interference with cell proliferation. The NRU test methods were chosen for the NICEATM/ECVAM validation study because they were recommended in the *Guidance Document* for the purpose of obtaining cytotoxicity information to determine starting doses for rodent acute oral toxicity assays (ICCVAM 2001b). Both the 3T3 and NHK NRU test methods were reproducible in previous validation studies (ICCVAM 2001b). In addition, both cell types are easily obtainable from commercial sources and the *Guidance Document* provided preliminary evidence that these assays could reproduce the RC millimole regression. Additionally, the assays can be automated and they require no radioactivity or highly dangerous reagents (see **Section 2** for protocol discussion and **Appendix B** for protocols).

Neutral red is a weakly cationic water-soluble supravital dye that stains living cells (Borenfreund and Puerner 1985). It readily diffuses through the plasma membrane and concentrates in lysosomes where it electrostatically binds to the anionic lysosomal matrix. Toxicants can alter the cell surface or the lysosomal membrane to cause lysosomal fragility and other adverse changes that gradually become irreversible. Thus, cell death and/or inhibition of cell growth decreases the amount of neutral red retained by the culture. Borenfreund and Puerner (1985) were the first to publish a protocol for the NRU assay using 3T3 cells as a method to objectively quantify toxicity previously assessed by subjective, visual observation. The NRU assay, which was standardized for a 96-well plate format, correlated two measurements of toxicity from the exposure of 3T3 cells to six surfactants: (1) a visual morphological evaluation of the cells under an inverted phase microscope, and (2) a quantitative measurement of NRU. The visual evaluation was designed to identify the highest concentration of toxicant that causes only minimal morphological changes (i.e., the highest tolerated dose [HTD]). Because Borenfreund and Puerner (1985) found that the HTD in the NRU test was comparable to the concentration that produced 10% inhibition (i.e., the IC_{10}) compared with the controls, the IC_{10} value was deemed to be a good index for comparing the relative toxicities of experimental agents. The assay was described as a rapid, reliable, inexpensive, and reproducible *in vitro* test method for screening potentially toxic agents (Borenfreund and Puerner 1985). Furthermore, the authors suggested that the test method was a good candidate for inclusion in a battery of assays for toxicity screening with the purpose of reducing the use of animals for toxicity tests.

1.3.2 Similarities and Differences in the Modes/Mechanisms of Action for the *In Vitro* NRU Test Methods Compared with the Species of Interest

Although the ultimate species of interest for acute oral toxicity concerns is humans, labeling and hazard identification requirements are based on rodents. There are differences between humans and rodents in terms of absorption, distribution, metabolism, excretion, and the intrinsic sensitivity of target organs to xenobiotic compounds. The differences are largely substance-specific and quantitative, although there are a number of substances where the human may produce metabolites not seen in the rodent and vice versa. *In vitro* cytotoxicity studies have also noted differences in sensitivity between human cells and other mammalian cells (Clemedson et al. 1996b). It is important to note that, for certain chemicals, there can also be large differences in sensitivity among different human cell types and cell lines (Clemedson et al. 1996b, 1998a, b).

Because of the differences in sensitivity between humans and rodents, it might be likely that cultured human cells would predict human lethality better than cultured rodent cells and that cultured rodent cells would predict rodent lethality better than human cells. Ekwall et al. (1998b) showed that *in vitro* cytotoxicity test methods using human cell lines generally predicted human toxicity more accurately than did test methods using nonhuman mammalian cells.

In addition to being derived from different species, there are several other differences between 3T3 and NHK cells, all of which may contribute to differences in sensitivity.

- 3T3 cells are an immortal line, while the NHK cells are primary cells.
- The cells originate from different tissues; 3T3 cells are derived from embryonic fibroblasts, while the NHK cells are isolated from neonatal foreskin tissue.
- NHK cells grow more slowly in culture than the 3T3 cells (i.e., after seeding into 96-well plates, NHK cells require 48-72 hours for growth to the appropriate confluence while 3T3 cells require approximately 24 hours; see **Appendix B**).
- NHK cells have greater ability to metabolize xenobiotic compounds, in that they exhibit minimal cytochrome P450 activity (Babich et al. 1991), whereas 3T3 cells have practically no ability to metabolize xenobiotic compounds (INVITTOX 1991).

1.3.3 Range of Substances Amenable to the *In Vitro* NRU Test Methods

The *in vitro* NRU test methods can be applied to a wide range of substances as long as they can be dissolved in the cell culture medium or in a nontoxic solvent (at the concentration used), and do not react with the culture medium. Although these test methods may to be applicable to mixtures, none were evaluated in this validation study. The toxicity of substances that act by mechanisms not expected to be active in 3T3 or NHK cells (e.g., those that are specifically neurotoxic or cardiotoxic) will likely be underpredicted by these test methods. Therefore, until more appropriate cell lines are developed, the results from basal cytotoxicity testing with such substances may not be relevant for predicting *in vivo* effects.

Insoluble substances or those unstable in aqueous environments are not compatible with the test systems. Volatile substances may yield acceptable results if CO_2 permeable plastic film is used to seal the test plates. Testing for corrosive substances is unnecessary since there is no regulatory requirement for acute oral toxicity testing for known corrosives. The 3T3 NRU test method may underestimate the toxicity of substances that are highly bound to serum proteins because the culture medium contains 5% serum during substance exposure. The toxicity of substances that specifically affect lysosomes may be overestimated because they may affect NRU binding, and therefore, retention, in the cell. Red substances (and other colored substances) that absorb light in the optical density range of NR may interfere with the test if they remain inside the cell in sufficient amounts after washing and are soluble in the NR solvent.

[This Page Intentionally Left Blank]

2.0 TEST METHOD PROTOCOL COMPONENTS OF THE 3T3 AND NHK *IN VITRO* NRU TEST METHODS

The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) recommended that the following be incorporated into any *in vitro* cytotoxicity protocol used to predict rodent acute oral lethality:

- A cell line (or primary cells) that divides rapidly (e.g., with a doubling time of <24 hours)
- An initial seeding density that allows for exponential cell growth throughout the exposure period
- An exposure period that spans at least one cell cycle
- Appropriate positive control (PC) and vehicle control (VC) substances for which toxicity and lack of toxicity, respectively, has been well characterized by the performing laboratory
- Solvents that are used only at concentrations that do not cause significant toxicity to the cell system over the entire period of the assay
- A well-established, quantifiable cytotoxicity endpoint that has good interlaboratory reproducibility
- Tests that are compatible with at least 96-well plates and equipment (e.g., spectrophotometric microplate reader) that allow a quick and precise measurement of the endpoint of interest
- Use of a progression factor in the concentration-response experiment that yields graded effects between 0% and 100% cytotoxicity

Section 2.1 provides the basis for the selection of the *in vitro* 3T3 and NHK NRU test methods. **Section 2.2** provides descriptions of the NRU protocols applicable to this validation study. **Section 2.3** provides details for performing the 3T3 and NHK NRU test methods and explains the rationales for the various test method components, and **Section 2.4** describes any 3T3 and NHK NRU test method proprietary aspects. **Section 2.5** discusses the basis for the replicate and repeat tests conducted during validation of these two test methods. **Section 2.6** details the modifications and revisions made during the first two phases of the validation study which contributed to the development of the final protocol used in Phase III. **Section 2.7** describes the differences between the protocols used in this study and the protocols outlined in the *Guidance Document*. **Sections 2.8**, **2.9**, and **2.10** provide details on the solubility protocol evaluated during the validation study and used to identify the appropriate solvent for dissolving the reference substances.

The 3T3 and NHK NRU test method protocols were provided to the three laboratories that participated in the validation study (see **Section 5.6.3** for additional laboratory information). These were:

- The U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC)
- The FRAME Alternatives Laboratory (FAL)
- The Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS)

A fourth laboratory (BioReliance Corporation, Rockville, MD) was used to procure and distribute the coded reference substances, and to perform solubility tests on the validation study reference substances prior to their distribution to the participating laboratories.

2.1 Basis for Selection of the *In Vitro* NRU Cytotoxicity Test Method

As stated in **Section 1**, in agreement with the recommendations of the Workshop 2000 participants (ICCVAM 2001a), ICCVAM made the following recommendations and forwarded them to U.S. Federal agencies along with the Workshop 2000 Report (ICCVAM 2001a) and *Guidance Document* (ICCVAM 2001b).

> "ICCVAM concurs with the Workshop recommendation that near-term validation studies should focus on two standard cytotoxicity assays: one using a human cell system and one using a rodent cell system. Since the murine BALB/c 3T3 cytotoxicity assay has been evaluated for only a limited number of chemical classes, there is merit in determining its usefulness with a broader array of chemical classes. Cell lines established from the rat rather than the mouse might also be considered, as most acute oral toxicity testing is conducted in this species. Human cell lines should also be considered since one of the aims of toxicity testing is to make predictions of potential toxicity in humans. Future validation studies should therefore compare rodent and human *in vitro* data with one another, with rodent *in vivo* data, and with human *in vivo* data. Correlations between *in vitro* and *in vivo* data might help in selecting cytotoxicity assays for further evaluation". (ICCVAM 2001a)

Based on this recommendation and the *Guidance Document* recommendation, NICEATM and ECVAM selected the 3T3 and NHK NRU basal cytotoxicity test methods for validation.

2.1.1 *Guidance Document* Rationale for Selection of *In Vitro* NRU Cytotoxicity Test Methods

The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) provided the basic approach for the use of *in vitro* NRU basal cytotoxicity test methods to predict starting doses for rodent acute oral toxicity assays using the RC millimole regression. The 3T3 and NHK NRU test method protocols used in the validation study were derived from those proposed in the *Guidance Document*.

2.1.2 *Guidance Document* Rationale for Selection of Cell Types

The Workshop 2000 participants (ICCVAM 2001a) concluded that there were no significant differences between the basal cytotoxicity results obtained using permanent mammalian cell lines, primary human cells (e.g., NHK cells), or the IC_{50x} approach of Halle and Spielmann (Halle 1998, 2003; Spielmann et al. 1999; Halle and Spielmann 1992). Further, the *Guidance Document* recommended that *in vitro* basal cytotoxicity test methods not use hepatocytes (or related metabolically competent cells) or other types of highly differentiated cells because they may not give the best prediction of acute lethality for the large variety of chemicals likely to be tested (ICCVAM 2001b). However, it was recognized that, ultimately, simple predictive systems (*in vitro* or *in silico*) would be needed for early identification of those substances likely to be metabolized to more toxic or less toxic species than the parent chemical as well as those that were likely to exhibit cell-specific toxicity (e.g., Fentem et al. 1993; Seibert et al. 1996; Curren et al. 1998; Ekwall et al. 1999).

Established rodent cell lines were recommended for validation because (ICCVAM 2001b):

- It was assumed that such cells would give the best prediction of rat and mouse acute oral lethality (i.e., like correlates with like).
- The use of a readily available, easy to culture, immortalized cell line for *in vitro* cytotoxicity testing would accelerate the development of a database that can be used to analyze the usefulness of this approach.

Human cells also offer potential advantages. As determined in the MEIC project, the *in vitro* test methods with the best predictivity for peak acute LC values in humans generally used human cell lines (Ekwall et al. 1998b). Thus, a long-term advantage of using human cells is that *in vitro* human cell cytotoxicity data can be added to human toxicity databases to facilitate the development of test methods that may better predict acute oral human lethality.

3T3, an immortalized mouse fibroblast cell line, and NHK, primary human cells, were selected as representative rodent and human cells, respectively, for the NICEATM/ECVAM validation study. Historical data for the 3T3 NRU test were available from a variety of studies, including controlled and blinded validation studies, indicating the reliability of this test method (Gettings et al. 1991, 1992, 1994a, 1994b; Spielmann et al. 1991, 1993, 1996; Balls et al. 1995; Brantom et al. 1997). NHK cells have also been used in validation studies for basal cytotoxicity test methods with good results (Willshaw et al. 1994; Sina et al. 1995; Gettings et al. 1996; Harbell et al. 1997).

2.2 Overview of the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) includes a proposed 3T3 NRU test method protocol based on the 3T3 Cytotoxicity Test (INVITTOX Protocol No. 46; available from the FRAME-sponsored INVITTOX database [http://embryo.ib.amwaw.edu.pl/invittox/]), which in turn was based on the Borenfreund and Puerner (1985) protocol, as elaborated on in Spielmann et al. (1991, 1996). This protocol was updated based on experience obtained during the validation of the 3T3 NRU Phototoxicity Test (INVITTOX Protocol No. 78; also available at the FRAME INVITTOX database). The RC millimole regression for prediction of acute oral rat and mouse toxicity (Halle 1998, 2003; Spielmann et al. 1999) was included as the prediction model (ICCVAM 2001b; see **Section 1.1.2**).

The NHK NRU protocol provided in the *Guidance Document* was based on the protocol used by IIVS, which was based on a NRU protocol of Borenfreund and Puerner (1984) and a rat epidermal keratinocytes protocol (Heimann and Rice 1983). Formulations for the media and solutions, and general NHK cell culture techniques, correspond to Clonetics® products from the CAMBREX Corporation.

The protocol components for the 3T3 and NHK NRU test methods used in this validation study are similar (see **Figure 2-1**). The nature of the NRU response is described in **Section 1.3.1**. **Figure 2-1** provides an overview to the major steps for performance of the *in vitro* NRU test methods. The following procedures are common to both cell types:

- Preparation of substances and the PC
- Cell culture environmental conditions
- Determination of test substance solubility
- 96-well plate configuration for testing samples

- Range finder and definitive tests
- Microscopic evaluation of cell cultures for toxicity based on morphological alterations
- Procedures for measurement of NRU
- Data analysis procedures

The main protocol differences between the two cell lines are:

- The conditions of propagation of the cells in culture (e.g., time needed to reach appropriate confluence)
- The growth media components
- The volumes of substances applied to the 96-well plates
- The number of cell divisions undergone by each cell line during exposure to a test substance

2.2.1 The 3T3 NRU Test Method

2.2.1.1 *Initiating and Subculturing 3T3 Cells*

Each laboratory initially prepared a large pool of 3T3 cells (described further in **Section 2.3.1.1**), cryogenically preserved multiple ampules of these cells in liquid nitrogen, and periodically removed an ampule when needed. Although the NRU protocols used for each study phase provided cell culture density guidelines for subculturing the cells, each laboratory refined the final seeding density to achieve optimal growth.

Cryopreserved 3T3 cells were thawed, resuspended in a culture medium containing Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) supplemented with non-heat-inactivated 10% newborn calf serum (NCS), transferred into tissue culture flasks (25 or 75-80 cm^2), and incubated at 37 °C ±1 °C, 90% ±5% humidity, and 5.0% ±1% CO_2/air. When cells reached 50 to 80% confluence (as estimated from a visual inspection of cell density), they were removed from the flask by trypsinization. A single-cell suspension was added to new flasks for propagation and the cells were passaged/subcultured at least two times[1] before seeding into 96-well plates for testing. This study did not evaluate the potential effects that cell passage number may have on the performance of the 3T3 NRU test method.

[1] 3T3 cells were maintained in culture for approximately two months (approximately 18 passages) and used for the NRU test. The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) did not provide a rationale for using 18 passages as the limit, but it was probably recommended to maintain homogeneity of the 3T3 cell population (i.e., decrease the potential of the population to drift genetically). The more passages the cells undergo, the more likely their response to chemical stress may change.

Figure 2-1 Major Steps in the Performance of the NRU Test Methods

(1) Cells (3T3 or NHK) are seeded into 96-well plates to form a sub-confluent monolayer; plates are incubated at 37 ºC (24 hours for 3T3 cells; 48-72 hours for NHK cells)

⇓

(2) Culture medium is removed (3T3 cells only)

⇓

(3) Reference substances in the appropriate solvents are added to the cells; cells are exposed for 48 hours at 37 ºC over a range of eight (8) concentrations

⇓

(4) Cells are evaluated microscopically for toxicity based on morphological appearance

⇓

(5) Treatment medium is removed; cells are washed once with Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS); Neutral Red (NR) dye medium is added (3T3 cells: 25 μg/mL NR dye; NHK cells: 33 μg/mL NR dye); plates are incubated for 3 hours at 37 ºC

⇓

(6) NR medium is discarded; cells are washed once with D-PBS; NR desorbing fixative is added to the wells

⇓

(7) Plates are shaken for 20 minutes at room temperature

⇓

(8) NR absorption is measured at optical density (OD) 540 ±10 nm

⇓

(9) NRU is calculated as a percent of vehicle control values to define IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} concentrations (μg/mL)[2]

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; IC_{20}, IC_{50}, IC_{80}=Substance concentration that reduces cell viability by 20, 50, and 80%, respectively.

[2] IC_{50} values are used for estimating the LD_{50} value of a reference substance. The IC_{20} and IC_{80} values were determined for possible use in estimating human lethal concentrations in blood.

2.2.1.2 *Preparation of Cells for 96-well Plate Assays*

After subculturing the cells, 100 µL of the cell suspension ($2.0 – 3.0x10^3$ cells/well) were placed in the appropriate wells and 100 µL of cell-free culture medium were dispensed into the 36 peripheral wells (blanks). The peripheral wells were in rows 1 and 8 and columns 1 and 12 (See **Figure 1** in **Appendix B1** or **B2**). Peripheral wells were used only for blanks because they may be subjected to more evaporation than interior wells. The *Guidance Document* authors (and the SMT and Study Directors) concluded that such conditions would ultimately affect cell growth in these wells. One plate was prepared for each reference substance. The cells were incubated for 24 ±2 hours at 37 ºC and checked visually to be sure that approximately a 50% confluent monolayer was present at the time of substance application.

2.2.1.3 *Reference Substance Application*

After the appropriate incubation period to achieve a half-confluent monolayer, the medium was removed and 50 µL of culture medium with 10% NCS were added to each well. Then, 50 µL treatment medium containing the appropriate substance concentrations were added for a final concentration of 5% NCS. The cells were then incubated at 37 ºC for 48 ±0.5 hours. At the end of the incubation period, the cells were microscopically evaluated for changes in morphology and their appearance was documented (as per Visual Observation Codes in the protocol) prior to measurement of NRU.

2.2.2 The NHK NRU Test Method

2.2.2.1 *Initiating and Subculturing NHK Cells*

Cryopreserved NHK cells (ampules of cryopreserved cells were obtained from CAMBREX Corporation and stored in liquid nitrogen until needed) were thawed, resuspended in serum-free keratinocyte complete growth medium (see **Section 2.3.1.4** for components of the medium), transferred into tissue culture flasks (25 cm^2 without fibronectin-collagen coating), and incubated at 37 °C ±1 °C, 90% ±5% humidity, and 5.0% ±1% CO_2/air. When the cells reached 50 to 80% confluence (as estimated from a visual inspection of cell density), they were removed from the flask by trypsinization and prepared for subculturing into the 96-well plates. Care was taken to prevent the keratinocyte cultures from becoming 100% confluent as this may lead to cell differentiation, which would alter the intrinsic sensitivity of these cells to cytotoxic substances. To minimize potential sources of experimental variability, the laboratories used the same lot of Clonetics® cells throughout the validation study, the same brand of growth medium and supplements (and concentrations of supplements), and cells were not used beyond their second passage. The protocols for each study phase provided cell culture density guidelines, but each laboratory refined the final seeding densities to achieve appropriate growth.

2.2.2.2 *Preparation of Cells for 96-well Plate Assays*

After subculturing the cells, 125 µL of the cell suspension ($2.0 – 2.5x10^3$ cells/well) were placed in the appropriate wells and 125 µL of cell-free culture medium were dispensed into the peripheral wells (blanks). One plate per reference substance was prepared. The cells were incubated at 37 ºC for 48-72 hours and checked to be sure that cultures were at 20 to 50% confluence at the start of exposure to the reference substance.

2.2.2.3 *Reference Substance Application*

To add the reference substances, 125 µL of culture medium containing the appropriate reference substance concentrations were added to the existing 125 µL of culture medium in the test wells. The cells were then incubated at 37 ºC for 48 ±0.5 hours. At the end of the exposure period, the cells were microscopically evaluated for changes in morphology and their appearance was documented (as per Visual Observation Codes in the protocol [see **Appendices B1** and **B2**]) prior to measurement of their NRU.

2.2.3 Measurement of NRU in the 3T3 and NHK Test Methods

The treatment medium was removed from the 96-well plates, the cells were rinsed with phosphate buffered saline (PBS), and 250 µL NR dye medium was added to the wells (25 µg NR/mL for 3T3 cells; 33 µg NR/mL for NHK cells). The plates were then incubated (37 °C ±1 °C, 90% ±5% humidity, and 5.0% ±1% CO_2/air) for three hours. After incubation, the NR medium was removed, the cells were rinsed with PBS, and 100 µL of the desorb solution were applied. The plates were shaken on a microtiter plate shaker for 20 to 45 minutes to extract NR from the cells and to form a homogeneous solution. The optical density (OD) of the resulting colored solution was measured (within 60 minutes of adding the desorb solution) at 540 nm ±10 nm (OD_{540}) in a spectrophotometric microtiter plate reader, using the blank wells as reference. Data from the plate reader were transferred to a Microsoft® EXCEL® (Microsoft Corporation, Redmond, WA, USA) spreadsheet template (hereafter know as EXCEL® template) designed by the SMT and the testing laboratories for statistical analyses.

2.3 Descriptions and Rationales of the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The protocols used in Phases I, II, and III of the validation study (**Appendices B** and **C**) are modifications of the protocols reported in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b). The participating laboratories provided comments and recommendations during the development of these protocols. The following information is specific to the protocols used in this validation study.

2.3.1 Materials, Equipment, and Supplies

2.3.1.1 *3T3 Cells*

The CCL-163, 3T3 BALB/c mouse fibroblast, cell line, clone 31 from the American Type Culture Collection (ATCC), Manassas, VA, USA, was used. The 3T3 cells, an immortalized mouse fibroblast cell line, were procured from the ATCC by IIVS at passage 64. IIVS cultured the cells to expand their number and cryogenically preserved them as a pool at passage number 69. ECBC and FAL received frozen ampules of cells at passage number 69 from IIVS, propagated the cells, and cryopreserved multiple ampules of cells at a slightly higher passage number to establish their working cell banks for use throughout the study. Each laboratory determined the doubling time for the 3T3 cell line prior to NRU testing in Phase Ia as required by the protocol in **Appendix C1**. The following doubling times were reported: 18.6 hours by ECBC; 17 hours by FAL; and 17 hours by IIVS. No other doubling time measurements were made. The extent of cell confluence was monitored during the study to identify when the cultures were in exponential growth.

2.3.1.2 *NHK Cells*

A single lot of pooled donor, primary neonatal foreskin keratinocyte (NHK) cells (Clonetics® # CC-2507; lot # 1F0490N) from CAMBREX Bio Science Walkersville, Inc., Walkersville, MD, USA, was used throughout the validation study. Keratinocytes from other sources would be acceptable if they meet the growth requirements identified in the protocols. Each laboratory determined the doubling time for the NHK cells prior to testing in Phase Ia (as required by the protocol in **Appendix C2**). The following doubling times were reported: 21 hours by ECBC; 10 hours by FAL; and 15.8 hours by IIVS. No other doubling time measurements were made. The extent of cell confluence was monitored during the study to identify when the cultures were in exponential growth.

2.3.1.3 *Tissue Culture Materials and Supplies*

The 3T3 and NHK NRU test methods require general tissue culture materials and supplies (see **Appendices B1** and **B2** [protocols] for formulations, and concentrations of solutions and media). Both test methods used the same materials for solubility testing (**Section 2.8.1**). Freshney (2000) provides information on all aspects of cell culture, including materials, supplies, and equipment needed. The following materials were needed for both test methods:

- Trypsin (0.05%)
- PBS
- Hanks' Balanced Salt Solution (HBSS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}
- NR dye
- Glacial acetic acid
- Dimethyl sulfoxide (DMSO) [analytical grade]
- Ethanol (ETOH) [100% non-denatured for test substance preparation]
- Distilled water

2.3.1.4 *Cell Culture Materials*

Laboratory items needed include the following:

- Sterile, disposable tissue culture plasticware (e.g., 25 cm^2,75-80 cm^2 flasks; multiwell/microtiter [96-well] plates; petri dishes) [Note: The laboratories in this study used tissue culture plasticware from various suppliers.]
- Cryogenic ampules
- Pipettes, pipettors, pipette tips
- Multichannel solution reservoirs
- Centrifuge tubes
- Microporous sterilization filters
- General plastic containers
- Glass tubes (for preparation of substance dilutions)

2.3.1.5 *Equipment*

Performance of the NRU tests requires a laboratory equipped with a designated cell culture area. Essential equipment for cell culture work and the NRU test methods include:

- Incubator (37 ºC ±1 ºC, 90% ±5% humidity, 5.0% ±1% CO_2/air)
- Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
- Water bath (37 ºC ±1 ºC)
- Inverted phase contrast microscope (with 10X to 40X objectives)
- Centrifuge (capable of 220 x g)
- Laboratory balance (capable of measuring to 10 mg)

- Spectrophotometer for reading 96-well plates (i.e., microtiter plate reader) equipped with 540 nm ±10 nm filter
- Shaker for microtiter plates
- Cell counter or hemocytometer
- Pipetting aid (e.g., vacuum pipettor unit)
- Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel, multichannel repeater pipette)
- Waterbath sonicator
- Refrigerator
- Freezer (to at least -70 ºC)
- Cryostorage container (and liquid nitrogen supply)
- Magnetic stirrer
- Antistatic bar ionizer
- Personal computer
- Osmometer
- pH meter

2.3.1.6 *Culture Medium*

For 3T3 Cells

DMEM containing high glucose (4.5 gm/L) and supplemented with NCS, L-glutamine, penicillin, and streptomycin was used for the 3T3 cells. Heat-inactivated serum was not used in this study. Heat-inactivation of serum is often used to destroy heat-labile components such as complement factors, and microbial contaminants such as mycoplasma (Hyclone® 1996; Mediatech, Inc. 2006). However, some heat-labile complement factors can also be inactivated by the standard cell culture practice of warming serum-containing medium to 37 °C prior to use, and mycoplasma can be eliminated by filtering the medium (e.g., using 0.1 µm pore-size rated filters). Heating serum to 56 °C (heat-inactivation temperature) can destroy other heat-labile components such as growth factors, vitamins, amino acids, and hormones. Loss of these components can diminish the capacity of the serum to promote attachment of cells to culture vessel surfaces and to support cell growth. An additional confounding factor is that the procedure for heat-inactivation is highly precise, and deviation from the basic protocol can create additional issues such as protein denaturation and serum turbidity.

For NHK Cells

Although the contents of the NHK basal culture medium are proprietary, the formulation is based on a commercially available, non-proprietary basal medium (MCDB 153 medium formulation [Tsao et al. 1982]; e.g., MCDB 153 medium - SIGMA-ALDRICH product number #M 7403 http://www.sigmaaldrich.com/sigma/datasheet/m7403dat.pdf). The laboratories recommended this medium for use with the CAMBREX Clonetics® NHK cells because they all had access to this supplier. Other media are acceptable for NHK NRU testing if the performance standards prescribed in the media prequalification protocol are met (see **Appendix B4** and **Section 2.6.3.5**).

The serum-free culture medium used for NHK cells was Clonetics® keratinocyte basal medium (KBM®) supplemented with KBM® SingleQuots® (epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract [BPE]) and Calcium SingleQuots®

(calcium) [all from CAMBREX Corporation] to make keratinocyte complete growth medium. Although the keratinocyte complete growth medium is a defined serum-free medium, it contains BPE collected from bovine pituitary glands. BPE contains growth factors and hormones, and is added to serum-free medium as a mitogenic supplement. Variability in the composition of the BPE could be a factor in cell growth kinetics. However, it is suggested that the undefined BPE components could be replaced with defined growth supplements, such as insulin, epidermal growth factor, and fibroblast growth factor, without adversely affecting the cellular proliferation rates and general physiology of human keratinocytes (Life Technologies, Inc. 1997).

2.3.2 Reference Substance Concentrations/Dose Selection

Each laboratory weighed and dissolved the reference substances on the same day as the start of the exposure period. The highest concentration of dissolved reference substance was identified using the solubility protocol and designated as the 2X stock solution. All reference substance dilutions for an assay were serially derived from this stock solution (see *Guidance Document* for serial dilution methods).

2.3.2.1 *Range Finder Test*

A range finder 3T3 or NHK NRU test was performed to determine the concentrations of a reference substance to be used for the definitive (concentration-response) test (see **Section 2.3.2.2**). The range finder test used eight concentrations of the reference substance prepared by diluting the stock solution using log intervals to cover a large concentration range (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.; up to eight orders of magnitude). The highest concentrations applied to the cells were 10 mg/mL for substances dissolved in culture medium and 1 mg/mL in medium for substances dissolved in DMSO, unless precluded by solubility. ETOH was not used as a solvent for any of the substances in the validation study (see **Sections 2.8, 2.9,** and **2.10**).

If the range finder test did not produce cytotoxicity, then a second range finder test was conducted at higher concentrations (e.g., the highest concentration would be >10 mg/mL if in medium, >1 mg/mL if in DMSO) unless precluded by solubility. If the substance being tested was insoluble or poorly soluble, then more stringent solubility procedures were employed to increase the stock concentration (to the maximum concentration specified in **Appendices B1** and **B2**). If the range finder test produced a biphasic dose-response curve[3] for NR uptake, the concentrations selected for the definitive tests covered the response range that included the lowest concentration that reduced viability by 50% (see **Section 2.6.3.2**).

2.3.2.2 *Definitive Test*

The concentration-response determination is referred to as the definitive test because it is used to determine the IC_{50} value of the substance being tested. The concentration closest to the calculated IC_{50} value in the range finder test served as the midpoint of the eight concentrations tested in the definitive test. In the absence of other information (e.g., knowledge of the slope of the toxic response), the recommended dilution factor was 1.47 ($\sqrt[6]{10}$), which divides a log interval into six equidistant steps (e.g., 10, 14.7, 21.5, 31.6, 46.4, 68.1, 100). The *Guidance Document* considered a progression factor of 1.21 ($\sqrt[12]{10}$) to be the

[3] A biphasic dose-response curve is a dose-response in which cytotoxicity increases (as dose increases), plateaus, and then increases again.

smallest factor practically achievable, and this was the lowest required concentration interval. The PC was tested similarly to the reference substances in the definitive test and the same recommended dilution factors were used (dilution factor at the discretion of the Study Director).

A definitive test was considered successful if it met all of the test acceptance criteria outlined in the NRU protocols. Definitive tests were repeated as per the protocols if the test failed to meet all of the test acceptance criteria. **Section 2.5** addresses the basis for replicate testing.

If minimal or no cytotoxicity was observed in the range finder test, the maximum concentration for the definitive test was determined as follows:

- For Substances Prepared in NHK or 3T3 Medium: A review of the RC chemicals used in this validation study showed that, among water-soluble chemicals, glycerol had the highest reported IC_{50} value (57 mg/mL). To capture this value, and that of other relatively non-toxic chemicals, the highest concentration of a substance applied to the cells in the definitive test was either 100 mg/mL (using 200 mg/mL 2X stock) or the maximum soluble dose if the substance was not soluble at that concentration.
- For Substances Prepared in DMSO: Based on the maximum concentration of DMSO that could be added to culture medium without causing cytotoxicity (i.e., 0.5%), the highest concentration of a substance that could be applied to the cells in the definitive test was 2.5 mg/mL. In the event that the reference substance was not soluble at this concentration, the highest soluble concentration was used.

2.3.3 NRU Endpoints Measured

2.3.3.1 *NRU and Measurement*

After cells were exposed to the reference substance or the controls (PC; VC) for 48 hours, they were washed and incubated with the NR dye at 37 ºC for an additional three hours. The dye was eluted from the cells using a desorb solution and the OD of the resulting solutions were measured using a spectrophotometric microtiter plate reader. Because NR is absorbed by healthy cells, the amount of dye eluted, as measured by the spectrophotometer, is proportional to NRU and thus to the number of live cells present at culture termination. The OD data from the spectrophotometer were recorded on the EXCEL® template. Relative cell viability for each reference substance and the PC was determined using six replicate wells (six wells [minimum of four scorable] in the 96-well plate) per concentration. Cells treated with the VC were considered to have 100% cell viability (i.e., the mean OD of the VC wells = 100% viability). Cell viability in other test wells was computed in reference to the mean VC OD value (i.e., [well OD/mean VC OD] x 100 = % viability).

2.3.3.2 *Determination of IC_{50}, IC_{20}, and IC_{80} Values*

IC_{50} values were determined from the concentration-response curve using a Hill function, which is a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of a substance to the response (typically following a sigmoidal shape). Modifications to the Hill function used in later phases of the study are described in **Section 2.6.3**.

Data from the EXCEL® template were transferred to a template designed by the SMT for GraphPad PRISM® 3.0, a commercially available statistical software (GraphPad Software, Inc., San Diego, CA, USA – hereafter known as PRISM® template). The PRISM® template used the Hill function to calculate the IC_{50}, IC_{20}, and IC_{80} concentrations, reported as μg/mL of reference substance in solution. IC_{20} and IC_{80} data were collected for potential use in designing a prediction model for estimating human lethal blood concentrations.

2.3.4 Duration of Reference Substance Exposure

The SMT and laboratory representatives reevaluated the reference substance exposure duration recommended in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) before initiating the study. The *Guidance Document* recommended an exposure of 24 hours for the 3T3 cells and 48 hours for the NHK cells. However, Riddell et al. (1986) showed large differences in cytotoxicity for 3T3 cells in response to some chemicals, depending on whether the exposure duration was 24 or 72 hours. Although the toxicity induced by substances that damage, for example, cell membranes is likely to be observed in a relatively shorter time, the toxic effects of substances that interfere with cell functions/processes specifically relating to DNA replication (e.g., protein and nucleic acid synthesis) and cell division (e.g., mitotic spindle formation) are more pronounced after longer exposure periods. This occurs because cells are affected only at certain phases of the cell cycle.

IIVS conducted studies to evaluate the effect of exposure durations of 24, 48, and 72 hours and of 48 and 72 hours on the sensitivity of 3T3 cells and NHK, respectively, to six chemicals selected from the list in Riddell (1986). Because the closest fit to the RC millimole regression occurred when a 48-hour exposure duration was used, this exposure duration was selected for use with both cell types in the validation study (Curren et al. 2003) (see **Appendix E**).

2.3.5 Known Limits of Use

2.3.5.1 *Solubility/Precipitation/Volatility*

In vitro test methods cannot be used for substances that cannot be dissolved in media, DMSO, or ETOH at a sufficiently high concentration to induce cytotoxicity in excess of 50%. Also, chemicals that are unstable or exothermic in water cannot be adequately tested with these *in vitro* test methods (as well as *in vivo* methods).

Precipitation of a test substance in the dosing solution or in the culture medium after the substance to be tested has been added can affect the concentration-response and thus reduce the accuracy of the calculated IC_{50}. Some reference substances used in the validation study had precipitates in their medium/DMSO 2X concentrations prior to dilution for application to the test wells. Precipitates were also observed for some substances in a number of test wells after addition of the media/DMSO 1X solutions (see **Section 5.8** and **Table 5-11**) to the cultures and/or at the end of the exposure period.

Volatility was detected for a number of reference substances during the range finder tests by observance of cross contamination (i.e., high cytotoxicity) in VC wells. Plate sealers were used during the definitive tests to control volatility (see **Section 2.6.3** – *Testing Volatile Reference Substances*), and could be used during the range finder tests if the Study Director suspected that the reference substance might be volatile. The use of plate sealers required

additional laboratory training, and some volatile substances were difficult to test even with the use of plate sealers. Furthermore, some test substances (e.g., organic solvents) may react chemically with the plastic in the sealers.

2.3.5.2 *Biokinetic Determinations*

The Workshop 2000 report (ICCVAM 2001a) discussed the role of chemical biokinetics *in vivo* vis-a-vis acute toxicity, as illustrated in the following quote:

> "Results obtained from *in vitro* studies in general are often not directly applicable to the *in vivo* situation. One of the most obvious differences between the situation *in vitro* and *in vivo* is the absence of processes regarding absorption, distribution, metabolism and excretion (i.e., biokinetics) that govern the exposure of the target tissue in the intact organism. The concentrations to which *in vitro* systems are exposed may not correspond to the actual situation at the target tissue after *in vivo* exposure. In addition, the occurrence of metabolic activation and/or saturation of specific metabolic pathways or absorption and elimination mechanisms may also become relevant for the toxicity of a compound *in vivo*. This may lead to misinterpretation of *in vitro* data if such information is not taken into account. Therefore, predictive studies on biological activity of compounds require the integration of data on the mechanisms of action with data on biokinetic behavior."

The 3T3 and NHK NRU test methods do not account for biokinetics.

2.3.5.3 *Organ-Specific Toxicity*

The Workshop 2000 report also addressed concerns about the *in vitro* prediction of organ-specific toxicity, and identified the organ systems for which failure after acute exposure could lead to lethality (i.e., liver, central nervous system, kidney, heart, lung, and hematopoietic system) (ICCVAM 2001a). Each organ system was reviewed individually. Although the 3T3 and NHK NRU test methods do not assess organ-specific toxicity, they may be useful in a test method battery such as that proposed by the Workshop 2000 participants (see **Section 2.3.5.4**).

2.3.5.4 *The Role of Cytotoxicity Tests in an In Vitro Battery Approach for Possible Replacement of In Vivo Acute Toxicity Testing*

A five-step *in vitro* testing scheme was proposed for a test battery that may eventually be demonstrated to be an adequate replacement for rodent acute oral toxicity test methods for regulatory purposes (ICCVAM 2001a).

- Step 1: Perform a physico-chemical characterization and biokinetic modeling.
- Step 2: Evaluate basal cytotoxicity using, for example, the 3T3 or NHK NRU test methods.
- Step 3: Evaluate the potential that metabolism will mediate the basal cytotoxicity effect.
- Step 4: Assess the test substance's effect on energy metabolism.
- Step 5: Assess the ability of the test substance to disrupt epithelial cell barrier function.

The Workshop 2000 participants suggested that implementation of the 5-step testing scheme would require the following:

- Identification of the most appropriate cell culture systems to use based on accuracy, reproducibility, cost, and availability
- Development of a standardized protocol for each test method used in each of the five steps, and validation of each test method using that protocol
- Development of prediction models for the relevant human toxic levels required by regulatory agencies
- Evaluation of the test battery using substances that are appropriate for all endpoints, and then test sufficient substances to develop a prediction model
- Validation of the entire testing scheme and the prediction model

2.3.6 Basis of the Response Assessed

Neutral red is a weakly cationic, water-soluble, supravital dye that stains living cells by readily diffusing through the cell membranes and concentrating in lysosomes. The intensity of the dye desorbed from the cells in a culture is directly proportional to the number of living cells. Cell death and/or growth inhibition decreases the amount of neutral red taken up by the culture (see **Section 1.3.1**).

2.3.7 Appropriate Positive, Vehicle, and Negative Controls

2.3.7.1 *Positive Control*

The *Guidance Document* recommended sodium lauryl sulfate (SLS; Chemical Abstracts Service Registry Number [CASRN] 151-21-3) as an appropriate PC for *in vitro* cytotoxicity test methods (ICCVAM 2001b), and historical data are available (e.g., Spielmann et al. 1991). A PC test plate was included with every 3T3 and NHK NRU test method assay and was treated the same as any reference substance assay plate.

The historical mean PC IC_{50}, standard deviation (SD), and acceptance limits, were determined separately for each laboratory (see **Table 5-3**), based on their individual historical databases (see **Figure 1-2**). The acceptable range for the PC IC_{50} was based on the statistical approach recommended in the *Guidance Document*. In Phase Ib, the IC_{50} limits accepted for the PC tests were within two SD of the historical mean PC IC_{50} value. In the Phase II studies, the IC_{50} limits for PC tests were within 2.5 SD of the historical mean value (i.e., from Phases Ia and Ib). In Phase III, the IC_{50} limits used for the PC were within 2.5 standard deviations of the mean PC IC_{50} from Phases I and II. The exception to this was the FAL NHK data, where only the Phase II data were used as the basis for establishing the acceptable PC range. The SLS data produced by FAL during Phase I was not used in subsequent historical database compilations because FAL used a modified cell culture protocol in Phase II (see **Section 2.6.2.6**).

2.3.7.2 *Vehicle Control*

The VC consisted of complete DMEM (see **Appendix B1**) for 3T3 cells and complete growth medium (Clonetics® KBM® with supplements [see **Appendix B2**]) for NHK cells when the reference substances were dissolved in culture medium. For reference substances dissolved in DMSO, the VC consisted of medium with the same amount of DMSO (0.5% [v/v]) as was applied to the 96-well test plate.

2.3.7.3 *Negative Control*

Negative control cultures (i.e., those that were not exposed to the solvent) were not used in this validation study. Neither DMSO, at the concentration used, nor the culture medium affected the performance of the 3T3 and NHK NRU test methods.

2.3.8 Acceptable Ranges of Control Responses

The *Guidance Document* established an absolute value (i.e., uncorrected for blank absorbance) range of the OD_{540} for the VC to indicate whether the cells seeded in the 96-well plate had grown with a normal doubling time during the assay. A mean $OD_{540} \geq 0.3$ was recommended as the acceptable range of VC responses and was made a test acceptance criterion for both cell types at the start of the study. However, prior to Phase II, this was rescinded as a test acceptance criterion. The protocols for Phases II and III provide a range of OD values for use as guidance in future studies with these test methods (**Table 2-1**).

Table 2-1 Measured VC OD_{540} Values[1] and Targets

Laboratory	Phase Ia	Phase Ib	Phase II	Phase III
3T3 NRU Test Method				
Target Range[2]	0.3≤ OD ≤1.1	0.30≤ OD ≤0.80	0.103≤ OD ≤0.813	0.103≤ OD ≤0.813
ECBC	0.326 – 0.457	0.214 – 0.839	0.217 – 0.730	0.191 – 0.797
FAL	0.490 – 0.780	0.247 – 0.742	0.289 – 0.768	0.126 – 1.161
IIVS	0.336 – 0.538	0.319 – 0.598	0.307 – 0.578	0.256 – 0.544
NHK NRU Test Method				
Target Range[2]	0.3≤ OD ≤1.1	0.60≤ OD ≤1.70	0.35 ≤ OD ≤ 1.50	0.205 ≤ OD ≤ 1.645
ECBC	0.863 – 2.312	0.788 – 1.282	0.139 – 1.175	0.114 – 1.344
FAL	0.484 – 1.698	0.146 – 1.706	0.110 – 1.292	0.183 – 1.347
IIVS	0.550 – 1.883	0.487 – 1.001	0.201 – 0.841	0.430 – 0.834

Abbreviations: VC=Vehicle control; OD_{540}=Optical density at 540 nM; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
[1]Lowest to highest OD values for tests that meet test acceptance criteria.
[2]Ranges used for all laboratories. Ranges for Phases Ia and Ib were test acceptance criteria. Ranges for Phases II and III were used as target ranges, rather than as test acceptance criteria.

In Phase III, 99.5% (914/919) of all 3T3 mean VC OD values and 97% (913/944) of all NHK mean VC OD values were within the target ranges. Most OD values outside the ranges were from range finding tests and were usually the result of volatile reference substances affecting the VC cells adjacent to the highest reference substance concentration wells.

The VC OD values had a tendency to be lower in Phases II and III as compared to Phases Ia and Ib. Protocol revisions made throughout Phases Ia, Ib, and II (as listed below) most likely contributed to the differences in the OD values. Possible explanations for changes in OD values for the 3T3 cells include:

- Some tests in Phases Ia and Ib exhibited NR crystals that caused higher OD readings.
- Cell seeding densities were revised from 2.5×10^3 cells/well to a range of $2.0 – 3.0 \times 10^3$ cells/well.

Possible explanations for changes in OD values for the NHK cells include:

- The minimum percent confluence of cells necessary before the reference substance could be applied was reduced from 30% to 20% confluence.
- Cell growth was reduced in some tests in the later study phases as a result of medium and supplement issues (e.g., certain lots of basal medium and medium supplements for NHK cells did not provide optimum growth conditions for the keratinocytes).

2.3.8.1 *Vehicle Controls as a Quality Control Tool*

To check for systematic cell seeding errors and reference substance volatility, VCs were placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11) of the 96-well plate (see **Figure 1** in **Appendix B1**). Volatile reference substances generally affected the left side VC, which was next to the highest reference substance concentration in the 96-well plate. The test acceptance criterion for the VC was that the means for the left and the right set of VCs had to be within 15% of the mean of all VCs. This criterion, which was adopted from the protocols in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), was used for reference substances and the PC in all phases of the validation study.

2.3.9 Nature of Experimental Data Collected

Each laboratory maintained a study workbook to document all aspects of the study and included the raw data for all steps of each assay (e.g., cell growth, test substance treatment, weighing and dilution of reference substances), as well as for all solubility studies.

2.3.9.1 *NRU OD Measurements*

At the conclusion of the NRU desorb step, the OD of the resulting colored solution in each well of the 96-well plates was measured at 540 ±10 nm in a spectrophotometric microtiter plate reader. Each laboratory followed its in-house Standard Operating Procedure (SOP) for use of the microplate readers. These SOPs included instructions for operation and calibration of the instruments. Critical specifications such as alignment, accuracy, reproducibility, and linearity were included as standard parameters for review and routine calibration. Raw OD data from the plate reader was electronically transferred to the EXCEL® template. The template converted the raw data from each treatment well (six wells/reference substance concentration) to derived data by subtracting the mean blank OD value (two blank wells/reference substance concentration) from each reference substance well OD. There were 12 VC wells and 20 associated blank wells. The corrected VC OD values were used to calculate the mean VC OD, which was then used to calculate relative viability (% of mean VC OD) in each test well for the reference substance or PC. The percent viability values were then transferred to the PRISM® template to calculate the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values.

2.3.9.2 *Information and Data Collected*

Originals of the raw data (i.e., the Study Workbook and computer printouts of absorbance readings from the plate reader) and copies of other raw data, such as instrument logs, were collected and archived under the direction of the Study Director according to Good Laboratory Practice (GLP)-compliant procedures.

The Study Director/technicians entered the following information into the EXCEL® template:

- Testing identification for: test facility, chemical code, study number, 96-well plate number, experiment number

- Reference substance preparation: solvent used, solvent concentration in dosing solutions, highest stock concentration, dilution factor, pH of 2X dosing solutions, medium clarity/color, presence/absence of precipitate in 2X solutions, PC concentration range
- Cell line/type: cell supplier, lot number, cryopreserved passage number, passage number in assay
- Cell culture conditions: medium, supplements, suppliers and lot numbers, serum concentrations
- Timeline: dates of cell seeding, dose application, OD_{540} determination
- Raw data: OD values from each well from the microtiter plate reader
- Test results: mean corrected OD_{540} value, Hill function R^2 value, logs of IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} (PRISM® template presents data as logs of the IC_x; EXCEL® converts values to μg/mL)
- Test acceptance criteria: acceptable number of values on each side of the IC_{50} (i.e., number of points >0 and ≤50% viability, and >50 and <100% viability), acceptable percent difference for the VCs, acceptable Hill function R^2 value (coefficient of determination) and calculated IC_{50} concentration for the PC
- Visual observations: protocol codes for cell culture conditions for all reference substance concentrations (i.e., relative level of cell cytotoxicity, cell morphology, presence of precipitate)

2.3.10 Data Storage Media

Raw and derived data from the NRU tests were saved in the EXCEL® template file format provided by the SMT. All EXCEL® and PRISM® files were copied and transferred to compact disks. NICEATM and the laboratories printed copies of all data sheets (stored at NICEATM and at the testing facilities), and included copies in the laboratories' final reports.

2.3.11 Measures of Variability

Each 96-well plate used in the NRU tests had three main measures of variability.

1) Each plate contained VCs on each end of the plate (columns 2 and 11) (see **Figure 1** in **Appendix B1** for plate map). The difference between the mean NRU OD for each VC column and mean of the pooled VC wells was used as a test acceptance criterion. The Study Director rejected the test if the difference was greater than 15%, which indicated cross-contamination from a volatile substance or possible cell seeding errors.
2) A mean relative viability was determined for each concentration of the substance tested along with the SD and coefficient of variation (%CV=SD/mean x 100).
3) Macros were included in the EXCEL® template to perform an outlier test (Dixon and Massey 1981) on the data for the six replicate wells for each concentration. Outliers (i.e., individual well values that exceeded the 99% confidence interval [CI] for the replicate wells) were highlighted and could be excluded from the resulting analysis to improve curve fit. The Study Director made the decision as to whether or not to remove outliers and provided a justification for the decision.

Other test-to-test measures of variability were considered in this study.

- Each set of assays for reference substances included a PC plate. If the SLS PC test did not meet test acceptance criteria, then the tests for the associated reference substances were rejected. The SMT recommended testing a manageable number of definitive test plates (e.g., 4 to 6) with each PC to limit the number of definitive NRU tests rejected for PC failure. In this validation study, 4.2% of all definitive tests performed were rejected because the PC failed (i.e., the PC IC_{50} was outside the acceptable confidence limits).
- SDs and CVs were determined for mean IC_{50} values from replicate tests. Replicate testing included three definitive tests for each reference substance, each performed on a different day.

2.3.12 Methods for Analyzing NRU Data

Relative cell viability for each reference substance concentration was calculated using the ODs of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate wells) per test concentration. Relative cell viability was expressed as a percentage of the mean VC OD. Absolute OD data from the microtiter plate reader was transferred to the EXCEL® template for performance of these calculations. Where possible, the concentration range (eight concentrations) tested for each reference substance ranged from no effect to 100% toxicity.

The IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values were determined from the concentration-response curve using the PRISM® template and applying a Hill function to the % viability data. The IC_{20} and IC_{80} values were calculated for potential use in the development of a human prediction model (reported elsewhere).

2.3.13 Decision Criteria for Classification of Reference Substances

The 3T3 and NHK NRU test methods will not be used to classify reference substances in hazard categories but rather to aid in setting the starting dose for sequential rodent acute oral toxicity test methods (i.e., the UDP and ATC) (see **Section 10** for an analysis of the estimated animal savings). The RC millimole regression procedure was used to predict a rodent LD_{50} value from an NRU IC_{50} value. **Section 6.3** addresses the accuracy of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting GHS hazard categories when used with IC_{50}-LD_{50} regressions, calculated using a subset of the RC data (i.e., substances with rat oral LD_{50} data).

2.3.14 Information and Data Included in the Test Report

Test and Control Substances

With the exception of the PC, the laboratories tested coded substances and had minimal information about the test substances' properties (see **Section 3.3** for the reference substance information provided to the laboratories). The following describes the test and test substance information that should be included in an NRU test method report.

- Chemical name(s) and synonyms, if known
- The CASRN, if known
- Formula weight, if known
- Purity and composition of the substance or preparation (in percentage[s] by weight)
- Physicochemical properties (e.g., physical state, volatility, pH, stability, chemical class, water solubility)

- Solubilization of the test/control substances (e.g., vortexing, sonication, warming, grinding) prior to testing, if applicable

Information Concerning the Sponsor and the Test Facility

- Name and address of the sponsor, test facilities, study director, and participating laboratory technicians
- Justification of the test method and specific protocol used

Test Method Integrity

- The procedure used to ensure the integrity (i.e., accuracy and reliability) of the test method over time (e.g., use of the PC data)

Criteria for an Acceptable Test

- Acceptable VC differences between each column of wells and the mean of both columns
- Acceptable concurrent PC ranges based on historical data (include the summary historical data)
- Number of toxic points on either side of the IC_{50} (i.e., number of points >0 and ≤50% viability and >50 and <100% viability)

Test Conditions

- Experiment start and completion dates
- Details of test procedures used
- Test concentration(s) used and how they were derived
- Cell type used and source of cells
- Description of modifications made to the test procedure
- Reference to historical data of the test model (e.g., solvent and PCs)
- Description of the evaluation criteria used

Results

- Tabulation of data from individual test samples (e.g., IC_{50} values for the reference substance and the PC, absolute and derived OD readings, reported in tabular form, including data from replicate repeat experiments as appropriate, and the means and standard deviations for each experiment)

Description of Other Effects Observed

- Cell morphology, precipitate, NR crystals, etc.

Discussion of the Results

Conclusion

Quality Assurance (QA) Statement for GLP-Compliant Studies

- A statement describing all inspections and other QA activities during the study, and the dates results were reported to the Study Director. This statement will also serve to confirm that the final report reflects the raw data.

During the validation study, the GLP-compliant laboratories, IIVS and ECBC, followed additional reporting requirements provided in the relevant GLP guidelines (e.g., OECD 1998; EPA 2003a, b; FDA 2003).

The SMT and laboratories developed standard forms for data collection (i.e., EXCEL® and PRISM® templates). The solubility test form was derived from a standard form provided by IIVS. The EXCEL® template was an adaptation of a template format presented in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b).

2.4 Proprietary Components of the *In Vitro* NRU Test Methods

The only proprietary components used in these test methods are the NHK cells and the NHK basal culture medium obtained from CAMBREX Clonetics®. All other components are readily available through various scientific product suppliers.

Section 2.3.1.2 describes the NHK cells used in the study and provides the only commercial source. All laboratories throughout the entire study used cells from the same lot. Procedures used to verify the integrity of the NHK cells included comparison of positive control data across laboratories and observations of cell growth throughout the study. If a laboratory reported a problem with the cells, the SMT and Study Directors evaluated the testing parameters to decide if the problem was cell-oriented or if other factors influenced the problem. **Section 2.6.3.5** provides information concerning the resolution of cell-related issues and revisions made to the protocols to address such difficulties.

Section 2.10.1.1 and **Appendices B2** and **B4** provide information about the NHK growth medium, supplements, and commercial source. Problems arose with the keratinocyte growth medium during the study and resolutions and outcomes are addressed in **Sections 2.6.3.5**, **2.6.3.6**, **5.3.4**, and **11.1.2.2**.

Although this study used proprietary components for the NHK NRU test method, cells and medium from the commercial source used in the study are not required for implementation of this test method.

2.5 Basis for the Number of Replicate and Repeat Experiments for the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The study protocols required each laboratory to test each coded reference substance in at least one range finding test using a log dilution factor, and in at least three definitive tests on three different days using a smaller dilution factor than used in the range finding test. Assays were performed over a number of days to evaluate day-to-day variation. Laboratories tested each coded reference substance until three definitive tests met the test acceptance criteria. Additional testing was often dictated by:

- Chemical issues (low toxicity, volatility, insolubility, and precipitation)
- PC failure
- Technical difficulties such as NR crystal formation

A stopping rule for insoluble reference substances was incorporated into the protocols for Phase III to limit the number of retests (see **Appendices B1** and **B2**):

> "If the most rigorous solubility procedures have been performed and the assay cannot achieve adequate toxicity to meet the test acceptance criteria after three definitive tests, then the Study Director may end all testing for that particular chemical."

2.6 Basis for Modifications to the 3T3 and NHK NRU Test Method Protocols

2.6.1 Phase Ia: Laboratory Evaluation Phase

All protocol revisions were implemented during Phase Ia unless otherwise stated.

2.6.1.1 *NR Dye Crystals*

NR dye crystals formed in the 96-well test plates when used at 50 μg/mL (OD values measured in the blanks increased from ~ 0.05 to 0.10) in both NRU test procedures. Troubleshooting efforts included incubating the NR medium overnight; centrifuging and filtering the NR medium prior to application to the 96-well plates; and reducing the concentration of NR dye. The laboratories performed tests using a reduced NR concentration of 33 μg/mL. Since there were no quantitative differences in results between tests with 50 μg/mL and tests with 33 μg/mL NR, the SMT accepted tests with both concentrations.

Protocol Revision: The NR dye concentration was reduced to 33 μg/mL for both cell types in subsequent test Phases.

2.6.1.2 *3T3 Cell Growth*

The growth rate of 3T3 cells (as determined by monolayer confluence) was slower than expected. As a result, the cells required more time in culture to obtain the proper density after seeding.

Protocol Revision: The 3T3 cells must be passaged 2-3 times after thawing before being used for the test. The protocol also emphasized attainment of the appropriate percentage of cell confluence (not more than 50% for 3T3 cells) required at the time the cells were exposed to the reference substance, rather than using the time in culture as the guide.

2.6.1.3 *NHK Cell Growth*

The NHK cells had an additional growth problem that manifested as a ring of dead/dying cells around the center of the wells. Troubleshooting efforts included evaluating various brands of 96-well plates (laboratories were not required to use the same brand of plates) and eliminating the change of medium prior to reference substance treatment. All laboratories participated in evaluating the effect of changing (i.e., refeeding) or not changing (i.e., no refeeding) the medium by performing a small study with the PC (SLS). Tests were performed: 1) after refeeding the cells with fresh medium, and 2) by adding SLS to the medium already on the cells. Control ODs were generally higher in the tests in which the medium was not replenished, but sensitivity to SLS was generally unchanged (see **Table 2-2**). FAL was experiencing difficulties in NHK cell growth at this stage of the study which may account for the difference in the refeeding and no refeeding SLS IC_{50} values. The SMT accepted tests with refeeding and those without refeeding (for Phase Ia) as long as they met the test acceptance criteria.

IIVS presented detailed information on the ring of dead cells issue (Raabe 2004). The laboratory showed that the ring of cell death coincided with the formation of a meniscus resulting from the residual medium left in the well after removal of the spent medium. The problem was resolved by eliminating the removal of medium before applying test chemical rather than requiring a standard brand of 96-well plates.

Protocol Revision: Step 2 of the NHK NRU test method was eliminated (change of medium prior to addition of reference substance). The volume of medium (with cells) was changed from 250 μL/well to 125 μL/well.

Table 2-2 Refeeding/No Refeeding Data for the NHK NRU Test Method

	ECBC		IIVS		FAL	
	Refeed	**No Refeed**	**Refeed**	**No Refeed**	**Refeed**	**No Refeed**
Number of Test Plates	4	4	6	6	2	4
Absolute OD[1] for VC	0.265 ±0.151	0.621 ±0.322	0.885 ±0.057	1.12 ±0.033	1.41 ±0.127	1.24 ±0.430
OD[1] for SLS IC_{50}	0.102 ±0.079	0.282 ±0.165	0.415 ±0.029	0.533 ±0.017	0.696 ±0.065	0.606 ±0.217
SLS IC_{50} (µg/mL)[1]	3.33 ±0.47	3.23 ±0.61	3.41 ±0.58	3.49 ±0.39	6.21 ±0.88	8.14 ±0.40

Abbreviations: NHK=Normal human epidermal keratinocyte; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; VC=Vehicle control; OD=Optical density; SLS=Sodium lauryl sulfate.
Note: OD values for SLS IC_{50} were extrapolated from the concentration-response curve data
[1]Mean ± standard deviation (uncorrected for blank absorbance

FAL, in contrast to the other two laboratories, used 80 cm^2 culture flasks for culturing the thawed cells from the ampules of cryogenically-preserved pool of cells and encountered difficulties in obtaining a satisfactory number of adhering NHKs.

Protocol Revision (FAL only): Culture flasks were coated with fibronectin-collagen to promote cell adherence.

2.6.1.4 *Vehicle Control OD Limits*

In Phase I, the acceptable range of VC OD values designated in the protocols ($0.3 \leq OD \leq 1.1$) were frequently unattainable in both test methods. Despite this, the Study Directors reported that the cells were adequately responsive. The SMT withdrew the VC OD limits as a test acceptance criterion.

Protocol Revision for Phase Ib: OD ranges were provided as guidelines for each cell type based on OD data from all laboratories, a review of the concentration-response data, and the ability of each test to pass the other test acceptance criteria. Each laboratory developed its own VC OD acceptability range based on its historical data.

2.6.1.5 *Precipitate Formation*

During solubility testing, it was observed that some substances, when tested at the same concentrations, precipitated in the 3T3 medium but not in the NHK medium. When a liquid reference substance (i.e., 2-propanol) produced this effect, the precipitate was attributed to the protein in the serum in the 3T3 medium rather than insolubility.

Protocol Revision: The reference substances were dissolved in 3T3 medium without NCS to make the 2X solutions. The dissolved 2X reference substance was added to medium containing 10% NCS to reach the final 5% NCS and 1X reference substance concentrations.

2.6.1.6 *Dilution Factor*

After a range finder test was performed, the definitive tests were to be performed using a $\sqrt[6]{10}=1.47$ dilution scheme centered on the IC_{50} that was calculated from the range finder. In Phase Ia, the Study Directors, for various reasons related to the specific substance being

tested, sometimes deviated from this requirement and used other dilution factors. The SMT agreed that the dilution factor requirements should be modified to allow more flexibility in setting up tests. The SMT accepted data generated using dilution factors other than the recommended 1.47 for definitive tests if all other test acceptance criteria were met. The use of smaller dilution factors generally increased the number of concentrations in the 10% to 90% viability range, which improved the precision of the IC_{50} calculation.

Protocol Revision: The $^{6}\sqrt{10}$=1.47 dilution scheme was a suggested starting range, rather than a specific test acceptance criterion in subsequent test Phases.

2.6.1.7 *Test Acceptance Criteria*

The test acceptance criteria at the beginning of Phase Ia were:

- The IC_{50} for SLS had to be within the 95% CI of the historical PC mean established by the Test Facility (*rescinded after commencement of Phase Ia*)
- The OD_{540} of the VCs (with blank subtracted) had to be ≥0.3 and ≤1.1 (*rescinded after commencement of Phase Ia*)
- Mean OD values of the left and right VCs (columns 2 and 11 in the 96-well test plate) must not differ by more than 15% from the mean of all VC OD values
- At least two cytotoxicity values, one on either side of the IC_{50} but between 10% and 90% viability, needed to be present (*added after commencement of Phase Ia*)
- The Hill function curve fits (R^2 >0.9 or 0.8 < R^2 <0.9) were evaluated on a case by case basis for acceptability by the SMT (*added after commencement of Phase Ia*).

2.6.2 Phase Ib: Laboratory Evaluation Phase

All protocol revisions developed during Phase Ia were implemented during Phase Ib unless otherwise stated.

2.6.2.1 *NR Crystal Formation*

FAL and ECBC routinely observed NR crystals forming in the 96-well test plates in the 3T3 NRU tests when 33 µg/mL NR was used. All laboratories tested 25 and 33 µg/mL NR concentrations and 2- and 3-hour NR incubation periods to determine which NR concentration and incubation period would provide optimal NRU measurements without crystal formation. In addition to determining whether NRU had reached a plateau at these concentrations and incubation times, the laboratories also determined whether the response to SLS differed under these conditions. Crystals were observed only at 33 µg/mL NR when present for three hours. **Figure 2-2** shows that the average OD results were similar for all NR concentrations and incubation periods tested. **Figure 2-3** shows that the SLS IC_{50} values were equivalent at the different NR concentrations and incubation periods. To minimize changes to the 3T3 protocol, the NRU concentration was lowered from 33 to 25 µg/mL, while the NR incubation period was maintained at three hours. The NR concentration and the incubation period for the NHK NRU test method remained at 33 µg/mL and three hours, respectively.

Protocol Revision for Phase II: The NR concentration for the 3T3 NRU test method was reduced to 25 µg/mL for the three-hour incubation period. Revised methods for preparation

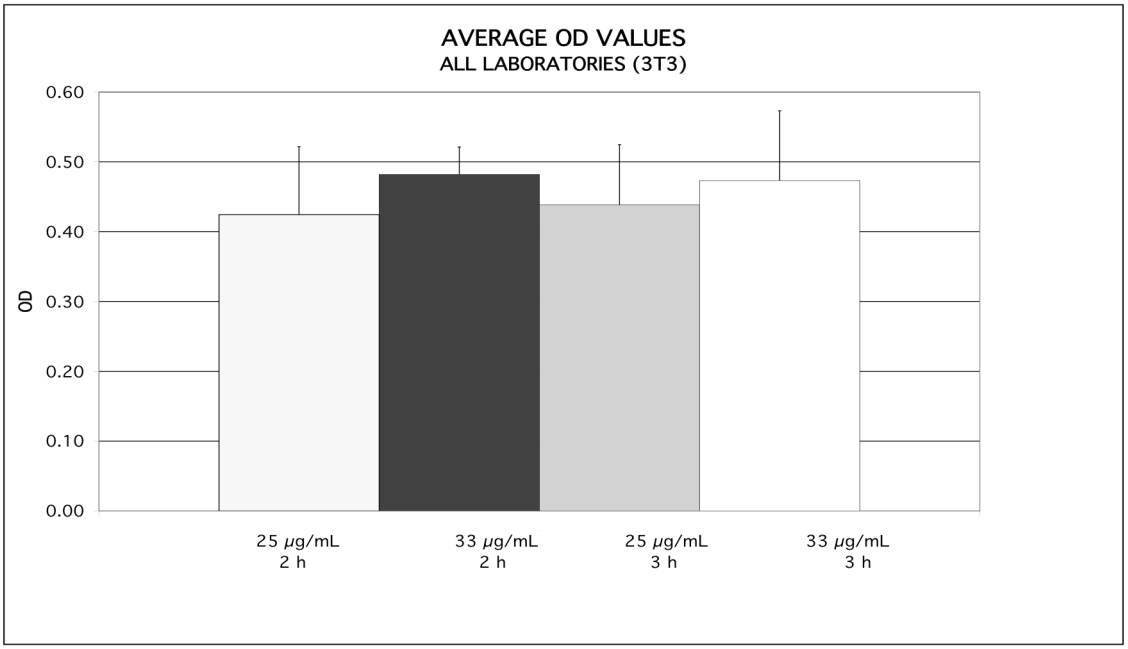
of the NR dye solution included filtration of the solution, maintenance of the solution at 37 ºC prior to application to the cells, and application of the NR solution to the cells within 15 minutes after removing it from 37 ºC. Also, cells were observed during the NR incubation period to monitor possible crystal formation.

2.6.2.2 *Heating of Reference Substance Solutions*

The laboratories had difficulty solubilizing arsenic trioxide, one of the reference substances used in Phase Ib. Heating and mechanical applications for increasing the laboratory's ability to solubilize substances into culture medium were reviewed and revised.

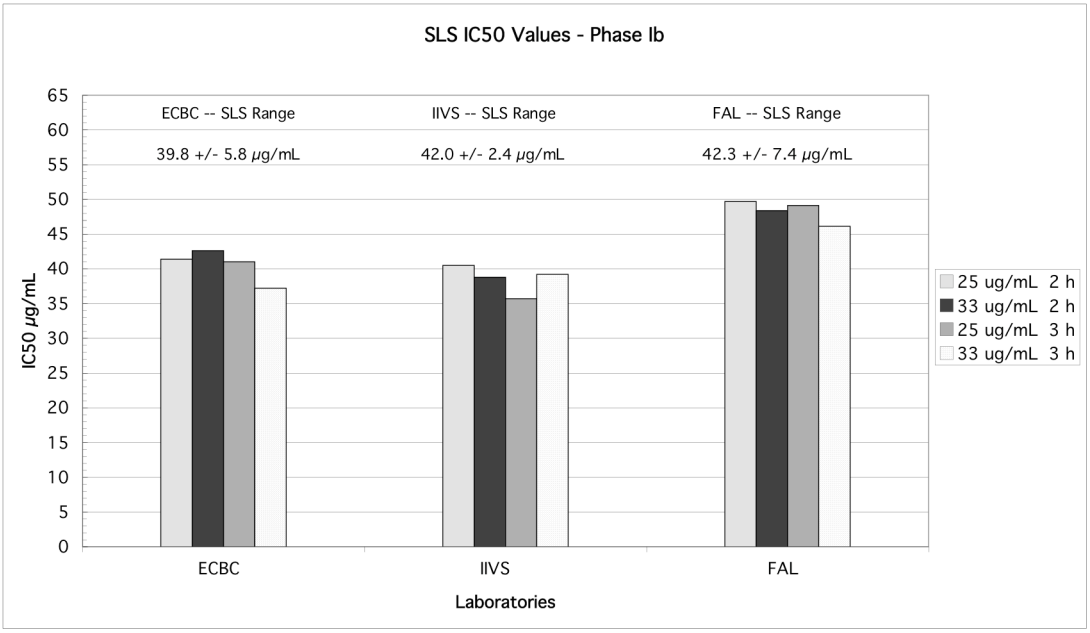
Protocol Revision for Phase II: The duration range for heating a stock solution at 37 ºC (if heating is needed) was increased from 5 to 10 minutes to 5 to 60 minutes.

Figure 2-2 3T3 NRU OD for SLS as a Function of NR Concentration and Duration



Abbreviations: OD=Optical density; NR=Neutral red; SLS=Sodium lauryl sulfate; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; h=Hours.
Note: Error bars are one standard deviation.

Figure 2-3 SLS IC_{50} Values for Each NR Concentration and Incubation Duration (3T3 NRU)



Abbreviations: SLS=Sodium lauryl sulfate; IC_{50}=Test substance concentration that reduces cell viability by 50%; NR=Neutral red; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory.
Note: SLS range is mean IC_{50} value ± one standard deviation.

Protocol Revision for Phase II: The duration range for heating a stock solution at 37 ºC (if heating is needed) was increased from 5 to 10 minutes to 5 to 60 minutes.

2.6.2.3 *Growth of Untreated Cells*

VC OD values were frequently lower than specified in the Phase I acceptance criteria. Phases Ia and Ib incorporated the acceptance limits shown in **Table 2-1** for the VC, but the limits were rescinded as test acceptance criteria for Phase II because the laboratories frequently failed to meet them even though cell growth and responsiveness to SLS was adequate.

Protocol Revision for Phase II: The specified VC OD range was eliminated as a test acceptance criterion. The OD data (all laboratories combined) from the VCs for both cell types was used to calculate OD ranges that would serve as guidelines for other tests (see **Section 2.2.9).**

2.6.2.4 *Correction of Reference Substance OD Values*

Each reference substance concentration was applied to six treatment wells and to two cell-free wells (i.e., blank wells) used to generate the background OD_{540} values to adjust for potential interference with the NR dye. The mean blank well OD (absolute OD) for each reference concentration was subtracted from the reference substance concentration ODs to provide the corrected OD for each replicate well.

2.6.2.5 *Laboratory Error Rates*

The SMT determined the Phase 1b error rates (number of tests with errors/total number of tests conducted) for each laboratory (**Table 2-3**) and compiled a list of the types of errors encountered. The vast majority of errors were transcriptional and typographical errors in the data sheets provided to the SMT.

Table 2-3 Error Rates[1] in Phase Ib by Laboratory and Test

Laboratory	NRU Test Method	
	3T3	NHK
ECBC	1/9 (10%)	4/17 (23%)
FAL	42/45 (93%)	12/29 (41%)
IIVS	1/20 (5%)	1/20 (5%)

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals In Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences
Note: Most errors were transcriptional and typographical and not technical.
[1]Number of tests with errors/total number of tests (some data files had more than one error)

2.6.2.6 *Resultant Protocol Changes for Phase II*

Following the completion of Phases Ia and Ib, IIVS sponsored a weeklong laboratory training exercise for the cytotoxicity testing laboratories to help standardize the level of training among the technical staff and to identify any further 3T3 and NHK NRU protocol revisions that might be needed. Protocol revisions made because of this exercise included:

- Multi-channel repeater pipettes can be used for dispensing cells into the 96-well plates and dispensing plate rinse solutions, NR medium, and desorb solution but are not accurate enough to dispense the PC or the reference substances to the treatment wells.
- Use of 8-channel reservoirs for applying dosing solutions to the wells so that multi-channel single delivery pipettes could be used
- Use of a standardized length of time that the HBSS rinse remains on the cell monolayers in flasks during the cell subculture step
- Protection of plates from light during the shaking step for NR extraction; all laboratories will cover plates with a light-impermeable barrier (e.g., aluminum foil) during this step
- Allow plates to stand for at least five minutes after the shaking step is complete and eliminate any bubbles in media observed in the wells before measuring the OD
- Change the allowable seeding density range for 3T3 NRU test method from $2.5x10^3$ cells/well to $2 – 3x10^3$ cells/well
- Change the NHK culture flask size used at FAL for start-up of cryopreserved cells from 80 cm^2 to 25 cm^2 (the size the other laboratories had been using), and discontinue using a fibronectin-collagen coating.

2.6.2.7 *Test Acceptance Criteria*

The test acceptance criteria were revised as follows:

- The IC_{50} for SLS (PC) should be within 2 SDs (approximately 95%) of the historical mean established by each laboratory in Phase Ia.
- The mean OD values of the left and right VCs (columns 2 and 11 in the 96-well test plate) should not differ by more than 15% from the mean of all VC OD values on that plate.
- At least one calculated cytotoxicity value should be between 10% and 50% viability, and one value between 50% and 90% viability.
- The Hill function curve fit ($R^2 > 0.9$ or $0.8 < R^2 < 0.9$) should be evaluated on a case-by-case basis for acceptability by the SMT.
- VC OD criteria were based on Phase Ia data (mean ± two SDs): 0.3 to 0.8 for the 3T3 test method, and 0.6 to 1.7 for the NHK NRU test method (requirement for use of VC OD criteria as test acceptance criteria was rescinded after commencement of Phase Ib)

2.6.3 Phase II: Laboratory Qualification Phase

All protocol and acceptance criteria revisions were implemented during Phase II unless otherwise stated.

2.6.3.1 *Testing of Volatile Reference Substances*

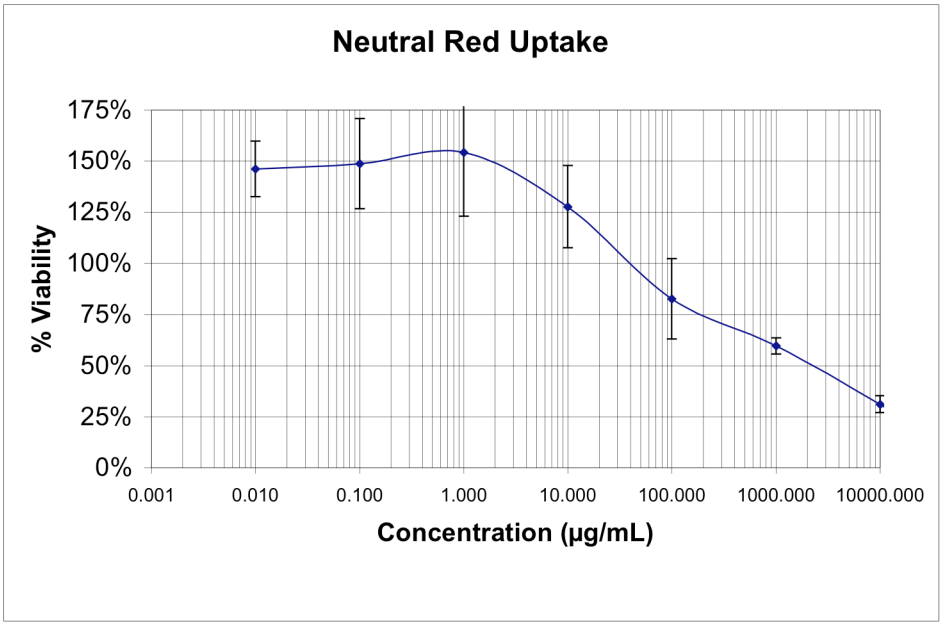
When 2-propanol was tested in 3T3 and NHK cells, vapors from the highest concentration wells contaminated the adjacent VC wells and also appeared to affect some lower concentration wells (i.e., the wells exhibited unexpectedly reduced levels of NRU). An example range finder concentration-response curve is shown in **Figure 2-4**. Such tests failed the VC criterion. When lower concentrations were used to avoid contaminating the VC wells adjacent to the highest concentration, the toxicity was inadequate to produce an IC_{50}. To address this problem, IIVS repeated their tests using film plate sealers, which isolated individual wells from one another; this was sufficient to prevent the cross-well contamination, and acceptable results were obtained. Based on these data, the SMT recommended to the other two laboratories that film plate sealers be used when testing 2-propanol.

FAL had previous experience layering mineral oil on the culture media in a well to prevent volatile substances from escaping, and provided 2-propanol test data where mineral oil had been added to each well. The data showed that the average oil vs. film IC_{50} values were not significantly different. However, there was less variability in the NRU data when using the film sealer so the SMT recommended this methodology.

A >15% difference between the mean VC OD of all VC cells and the mean OD of each VC columns on opposite ends of the test plate was used as a general indicator of substance volatility in the test if the VC adjacent to the highest test concentration had a significantly reduced OD value.

Protocol Revision: The SMT included the use of film sealers in the Phase III protocols when testing suspected volatile compounds.

Figure 2-4 Representative Concentration-Response for 2-Propanol in a 3T3 NRU Range Finder Test



96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
C	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
D	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
E	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
F	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
G	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{540} - Mean Blank OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.000	-0.002	-0.001	-0.001	0.000	-0.003	0.001	0.002	0.002	-0.001	-0.002	-0.003
B	0.002	0.080	-0.001	0.070	0.124	0.206	0.296	0.389	0.291	0.301	0.343	0.002
C	-0.001	0.067	0.004	0.059	0.109	0.171	0.284	0.334	0.237	0.308	0.337	-0.004
D	0.003	0.058	0.003	0.056	0.110	0.163	0.243	0.271	0.246	0.251	0.283	0.002
E	0.003	0.077	0.001	0.067	0.106	0.092	0.218	0.252	0.328	0.250	0.290	0.003
F	-0.004	0.068	-0.002	0.050	0.110	0.164	0.216	0.289	0.336	0.267	0.281	-0.001
G	-0.004	0.071	0.003	0.053	0.122	0.147	0.204	0.226	0.263	0.295	0.330	-0.003
H	0.004	0.000	0.001	0.001	0.000	0.003	-0.001	-0.002	-0.002	0.001	0.001	-0.002

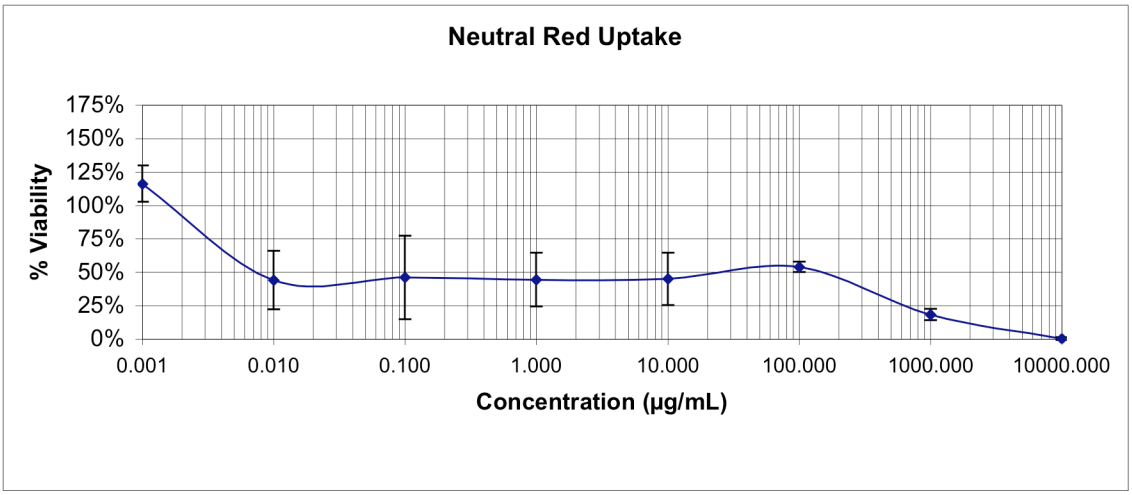
Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; VC=Vehicle control; C1 to C8=Test substance concentrations (C1-highest concentration, C8-lowest concentration); OD_{540}=Optical density at 540 nm; A to H=Row identification.
Note: %Difference of the two VC columns from the average VC was 63%. The mean corrected optical density (OD) for VC1, adjacent to the highest 2-propanol concentration, was 0.070, while that for VC2, adjacent to the lowest 2-propanol concentration, was 0.310. Setting the mean VC OD to 100% viability shifted the toxicity curve such that lower concentrations of 2-propanol seemed to be less toxic to the cells than the VCs (i.e., >100%).
Error bars are ±1 standard deviation.

2.6.3.2 *Atypical Concentration-Responses*

Atypical concentration-responses are defined for this study as response curves that differ from a basic sigmoidal shaped curve. Curves that show a biphasic response as well as those that exhibited a plateau-like response at toxicity levels than 100% were considered atypical.

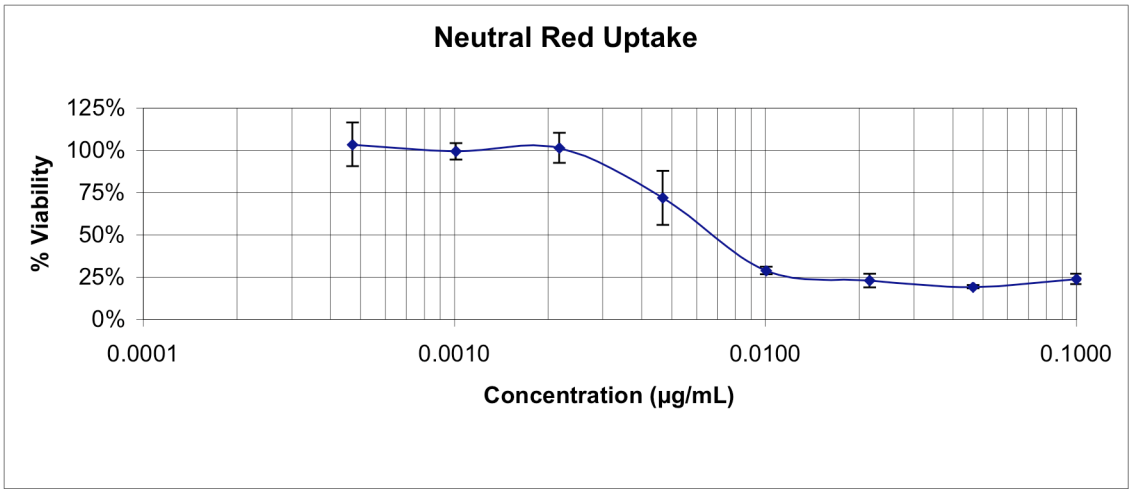
Two of the laboratories observed biphasic concentration-responses in the range finder tests for aminopterin and colchicine. When the range finder tests produced a biphasic response (see **Figure 2-5** for an example), the SMT advised the laboratories to focus the definitive tests on the lowest concentrations that produced at least a 50% loss in viability. Although doing so eliminated the biphasic response in the definitive tests, the highest tested concentrations did not reduce cell viability to 0% (see **Figure 2-6**). This effect with colchicine was very reproducible across laboratories in the NHK NRU test, but only FAL achieved this biphasic type of response with colchicine in the 3T3 NRU test. Aminopterin produced similar concentration-responses in the NHK NRU test at ECBC and FAL, but not at IIVS. In the 3T3 NRU test, only FAL obtained a biphasic response with aminopterin.

Figure 2-5 Representative Concentration-Response for Aminopterin in a NHK NRU Range Finder Test



Abbreviations: NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.
Representative dose-response for aminopterin in a NHK range finder test. Laboratories were instructed to focus the definitive tests on the lowest concentration that produced a 50% reduction in viability in the range finder test.

Figure 2-6 Representative Concentration-Response for Aminopterin in a NHK NRU Definitive Test



Abbreviations: NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.
Note that the maximum reduction in cell viability plateaued at about 75%

Biphasic concentration-responses are not uncommon. Calabrese (2005) states that numerous mechanistic explanations (including hormesis[4]) could account for biphasic response curves. Such concentration-responses could be because the substance acts through more than one mechanism of action (e.g., one mechanism that is active at low test substance concentrations and other mechanism[s]) that are effective at higher concentrations). Conolly and Lutz (2004) also provide examples of pharmacological and toxicological data sets of biologically based mechanisms that could explain biphasic responses. These examples include:

- Membrane receptor subtypes with opposite downstream effects
- Receptor-mediated gene expression
- Induction of DNA repair and "co-repair" of background DNA damage
- Modulation of the cell cycle

Although non-linear responses could also be due to technical error (e.g., improper dosing, unacceptable media, contamination), the responses seen in this study were reproducible, and there was no evidence to suggest that technical errors were involved. The SMT assumed that these responses were based on the chemicals' mechanisms of action. For example, colchicine binds to microtubular protein and interferes with function of mitotic spindles, which arrests cell division (NLM 2003). Aminopterin blocks the use of folic acid by the cells, inhibiting metabolism, RNA production, and protein synthesis, which is lethal during the S phase of the cell cycle by (NLM 2002). The variability of IC_{50} results for these substances among the laboratories may be due to different levels of cell confluence in the cultures at the time of treatment.

[4] Hormesis is a dose-response characterized by a compound's ability to produce an opposite effect at low doses compared with its effect at high doses (e.g., stimulatory at low doses and inhibitory at high doses).

2.6.3.3 *Hill Function*

The Hill function used in the various phases of this study was defined as follows:

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\log EC50 - \log X)\text{HillSlope}}}$$

where Y=response (i.e., % viability), X is the substance concentration producing the response, Bottom is the minimum response (0% viability, maximum toxicity), Top is the maximum response (maximum viability), EC_{50} is the substance concentration at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the slope of the curve. When Top=100% viability and Bottom=0% viability, the EC_{50} is the equal to the IC_{50}.

Responses that do not achieve 100% cytotoxicity with increasing substance concentration do not fit the Hill function well. The R^2 values from such tests often failed the acceptance criterion. To obtain a better model fit, the Bottom parameter was estimated without constraints (the previous practice was to use Bottom=0). However, when Bottom≠0, the EC_{50} reported by the Hill function was not the same as the IC_{50} because the Hill function relies on $EC_{50,}$ which is defined as the point midway between the Top and Bottom responses. Thus, the Hill function calculation using the Prism® software was rearranged to calculate the IC_{50} as follows:

$$\log IC_{50} = \log EC_{50} - \frac{\log\left(\frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{\text{Y} - \text{Bottom}} - 1\right)}{\text{HillSlope}}$$

where IC_{50} is the concentration producing 50% toxicity, EC_{50} is the concentration producing a response midway between the Top and Bottom responses; Top being the maximum response (maximum survival), Bottom is the minimum response (0% viability, maximum toxicity), Y=50 (i.e., 50% response), and HillSlope describes the slope of the response. The X from the standard Hill function equation is replaced, in the rearranged Hill function equation, by the IC_{50}.

IIVS performed the recalculations for their NHK NRU colchicine tests and the SMT performed the necessary recalculations for the other laboratories. Tests that were recalculated by the SMT are noted in the data summaries.

Protocol Revision: The protocol was revised to state that if a range finding test produces a biphasic response, then the concentrations selected for the subsequent tests should cover the most toxic dose-response range.

2.6.3.4 *Insoluble Reference Substances*

Lithium carbonate was insoluble in 3T3 medium. Only ECBC managed to expose 3T3 cells to sufficient lithium carbonate to produce three tests that met the acceptance criteria. Precipitate was reported for two of those tests at the three highest concentrations in the wells. Because the third highest concentration, 510.2 μg/mL, was approximately the IC_{50} (average was 564 μg/mL), the true IC_{50} for lithium carbonate may actually be lower than was

calculated, and therefore the LD_{50} value would be underestimated. However, the data were reproducible and were not discarded.

Protocol Revision for Phase III: The protocol was revised to allow an increase in the stirring/rocking duration in an incubator from one to three hours if cytotoxicity in the range finder test was limited by solubility. Also, a *Stopping Rule for Insoluble Chemicals* was added (see **Section 2.5** and **Appendices B1** and **B2**) so that the laboratories would not continue repeated testing of insoluble substances in order to obtain three acceptable definitive tests.

2.6.3.5 *Inadequate Cell Growth in NHK Medium*

IIVS and FAL had several NHK NRU test failures that were attributed to poor cell growth. The SMT compiled KBM® and SingleQuot® lot numbers that the laboratories were using, along with the laboratory assessments of NHK cell growth. The information was used to identify the lots that produced adequate growth. The SMT also obtained quality assurance and quality control test results from CAMBREX Clonetics® on the lots of KBM®, but the information provided was inadequate for determining how the medium would perform in the NHK NRU test method.

Resolution: A protocol for prequalifying the medium was developed (see **Appendix B4**). For Phase III, the SMT asked IIVS to prequalify new lots of KBM® and SingleQuots® for use by all laboratories.

2.6.3.6 *Performance Standards for Media to Support NHK Growth*

A prequalification-of-medium protocol (**Appendix B4**) was developed and used by IIVS to test several different lots of medium and supplements to find combinations that maintained the typical growth characteristics of the NHK cells used in this study. The laboratories then reserved samples of the acceptable lots at CAMBREX so that testing would not be interrupted due to unavailability of adequate materials.

Test Acceptance Criteria for Prequalifying Media Using SLS

- The fit of the SLS dose-response to the Hill model should be $R^2 \geq 0.85$ (i.e., from PRISM® software).
- The difference between the mean of all VCs and (a) the left mean VC, and (b) the right mean VC should be ≤15%.
- At least one concentration should exhibit >0% and ≤50% viability and at least one should exhibit >50% and <100% viability.
- After meeting all other acceptability criteria, the SLS IC_{50} must be within the historical range (±2.5 SD) established by the laboratory.

Other Criteria for Prequalifying Media (for consideration by a Study Director)

- General observations: rate of cell proliferation; percent confluence; number of mitotic figures per field; colony formation; distribution of cells in the flask; absence or presence of contamination
- Cell morphology observations should include overall appearance (e.g., good, fair, poor), and presence of abnormal cells

- Mean corrected OD_{540} of the VCs (e.g., are the values high/low when compared to historical data)
- Cell morphology and confluence of the VC wells at the end of the 48-hour treatment
- Cell doubling time, as compared to the doubling time with the previous batches of medium

2.6.3.7 *Test Acceptance Criteria for Phase II*

- The IC_{50} for SLS (PC) should be within 2.5 SDs of the historical mean established by the laboratory (*Phases Ia and Ib*)
- Mean OD values of the left and right VCs (columns 2 and 11 in the 96-well test plate) do not differ by more than 15% from the mean of all VC well OD values. At least one calculated cytotoxicity value ≥10% and ≤50% viability and at least one value >50% and ≤90% viability
- R^2 ≥0.90. The test fails if R^2 <0.80. If the 0.80 ≤ R^2 <0.90, the SMT evaluates the model fit (Note: The Study Director makes this determination for non-validation studies.)

2.6.4 Phase III: Laboratory Testing Phase

The changes below were made in the Phase III protocols based on the data and results in Phase II.

2.6.4.1 *Required Cytotoxicity Values*

Obtaining at least one calculated cytotoxicity value >0% and ≤50% viability and at least one that is >50% and <100% viability may be difficult or unattainable for substances with steep dose responses.

Protocol Revision: The test acceptance criterion was qualified so that tests with only one concentration between 0 and 100% viability were acceptable if the smallest practical dilution factor (i.e., 1.21) was used and all other test acceptance criteria were met.

Tests for three reference substances were accepted that met this new criterion in the 3T3 NRU test method: diquat dibromide (1/9 tests); epinephrine bitartrate (2/9 tests); 1,1,1-trichloroethane (2/8 tests). No NHK tests required the use of these criteria (i.e., one point between 0% and 100% viability at the lowest dilution factor).

2.6.4.2 *Revisions to Data Analysis Procedures*

The following revisions to data analysis procedures were made in Phase III NRU protocols:

- If the Bottom parameter of the Hill function was fit to a value <0%, then the parameter was set to zero (0) for the IC calculations.
- If toxicity plateaued above 20% viability (i.e., toxicity was <80%), the IC_{80} was not determined. The IC_{20} and IC_{50} values were calculated from the range of available toxic responses.
- The requirement for substance dose-responses to fit the Hill equation with R^2 ≥0.90 was rescinded. The Hill equation was used to characterize the shape of the response rather than to establish an acceptance criterion. The PC acceptance criterion was modified to R^2 ≥0.85.

2.7 Differences Between the 3T3 and NHK NRU Protocols for the Validation Study and the *Guidance Document* Standard Protocols

As the validation study progressed through Phases I and II, the protocols provided in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) were optimized to address problems that were encountered during the validation study phases. Changes to the *Guidance Document* protocols are described below.

- 3T3 cell seeding density for 96-well plates was decreased from $1x10^4$ cells/well to $2.0 – 3.0x10^3$ cells/well.
- The calcium concentration in NHK medium was changed from 0.15 mM to 0.10 mM. The test laboratories had expressed concern that cell differentiation would occur at the higher concentration and requested a lower concentration. CAMBREX Clonetics®, the supplier of the NHK cells and NHK medium used in this study, normally grows NHK cells in 0.15 mM calcium and has seen no differentiation. The supplier agreed that the cells would grow well at 0.10 mM but should not be cultured at concentrations <0.10 mM in order to avoid morphological and growth rate changes (CAMBREX technical division, personal communication).
- NHK cells were subcultured once prior to being distributed to the test wells, rather than for three passages. The laboratories expressed concern about the possibility of cell differentiation with subsequent passages in culture.
- The highest recommended final concentrations of DMSO and ETOH in the culture media were reduced from 1% to 0.5%. IIVS performed experiments with both cell types to determine the concentration necessary to avoid solvent toxicity. 3T3 cells were tested with 0.5, 1, and 2% ETOH and DMSO at 0.1, 0.2, 0.3, 0.4, 0.5, 1, and 2% concentrations. The 0.5% concentrations of both solvents were chosen as optimal because that concentration of ETOH produced no toxicity. Although 0.5% DMSO produced slight toxicity (i.e., cells were 91% viable as compared to the control cells; See **Appendix E1**), this concentration was chosen by the SMT and laboratories as an acceptable trade-off between slight toxicity and the ability to test substances at higher concentrations, and was used throughout the study for all reference substances that needed solvents other than culture medium (see Curren et al. 2003). DMSO was the preferred solvent if the test substance was not soluble in culture medium, and ETOH was not used in this study.
- The pH of the reference substance solutions was not adjusted with NaOH or HCl regardless of whether solutions became acidic or basic (optimum mammalian cell culture pH is approximately 7.4 [Freshney, 2000]) upon addition of the test substance because some of the basal cytotoxicity produced by test substances may be due to pH effects. See **Appendix F1** for pH values of the reference substances in culture medium.
- The CO_2 concentration in the incubator was reduced from 7.5% to 5.0% because the laboratories were already set up to use 5% CO_2, which is a typical optimum CO_2 concentration for mammalian cell culture.
- Washing and fixing the cells with a formaldehyde solution prior to NR elution from the cells was eliminated. Formaldehyde disposal was problematic in FAL's regulatory environment. The SMT and the laboratories agreed that the

use of formaldehyde was unnecessary because the NR desorb solution (1% glacial acetic acid, 50% ETOH, and 49% H_2O) adequately fixed the cells to the test plate (INVITTOX 1991).

- Reference substance exposure time for the 3T3 cells was extended from 24 hours to 48 hours (see **Section 2.2.4** and **Appendix E1**).
- Cell culture seeding densities for subculture were provided as guidance, rather than as strict cell number ranges. The laboratories determined adequate cell densities (see **Table 2-4**) based on their own experience with the growth of the cells in the wells, and the time needed to reach the appropriate level of confluence needed for addition of the test substance, the VC, and PC.

Table 2-4 Cell Seeding Densities[1]

Protocol	3T3 cells/cm^2 subculture to flasks	3T3 cells/well 96-well Plate	NHK cells/cm^2 subculture to flasks	NHK cells/well 96-well Plate
Guidance Document[2]	$1.25x10^4$	$2.5x10^3$	$3.5x10^3$	$2 – 2.5x10^3$
Phase Ia	$0.42 – 1.68x10^4$	$2.5x10^3$	$2.5 – 9x10^3$	$2 – 2.5x10^3$
Phase Ib	$0.42 – 1.68x10^4$	$2.5x10^3$	$2.5 – 9x10^3$	$2 – 2.5x10^3$
Phase II	$0.42 – 1.68x10^4$	$2 – 3x10^3$	$2.5 – 9x10^3$	$2 – 2.5x10^3$
Phase III	$0.42 – 1.68x10^4$	$2 – 3x10^3$	$2.5 – 9x10^3$	$2 – 2.5x10^3$

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes
[1]Cell numbers determined by Coulter Counter or hemocytometer
[2]ICCVAM (2001b)

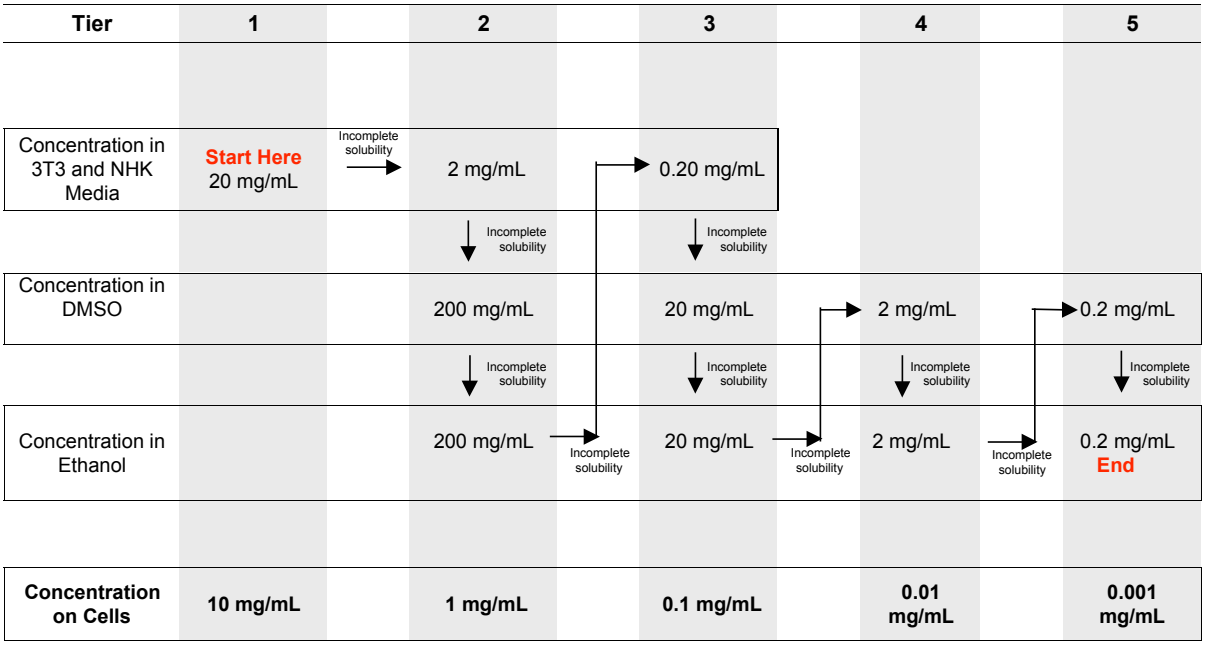
2.8 Overview of the Solubility Protocol

The SMT, with assistance from the laboratories, developed a solubility protocol to provide guidance for determining the most appropriate solvent for each test substance. The solubility protocol was based on an EPA guideline (EPA 1998) that involved testing for solubility in a particular solvent, beginning at a relatively high concentration and proceeding to successively lower concentrations by adding more solvent as necessary for dissolution. Testing stopped when, upon visual observation, the procedure produced a clear solution with no cloudiness or precipitate. The order of selection priority was culture medium, DMSO, and ETOH. Each laboratory tested the solubility of each reference substance using this protocol and provided the data to the SMT prior to initiating cytotoxicity testing. The SMT analyzed the solubility data provided by BioReliance and each testing laboratory, and designated the solvent to be used by all laboratories for each reference substance. This eliminated one potential variable in the NRU test results among laboratories.

The solubility protocol used by the *in vitro* laboratories required the sequential testing of reference substances in the various solvents at concentrations that would be equivalent to the concentration that would be applied to the cell cultures. The solubility flow chart in **Figure 2-7** shows, for example, that 2 mg/mL medium and 200 mg/mL DMSO or ETOH were equivalent concentrations because they yielded 1 mg/mL in cell culture. Medium was diluted by one-half when applied to cultures. The 0.5% [v/v] final concentrations were achieved by diluting DMSO and ETOH by 200-fold. At each concentration, the following mixing procedures were employed, as necessary, to completely dissolve the reference substance in

the sequence: vortex (1 to 2 minutes); sonication (up to 5 minutes); warming to 37 °C (5 to 60 minutes [NRU protocols allow warming to be extended to three hours if cytotoxicity in the range finder test was limited by solubility]). If the reference substance was still not dissolved, the next lower concentration, or a different solvent, was tested.

Figure 2-7 Flow Chart for Determination of Reference Substance Solubility in Medium[1], DMSO, or ETOH



Abbreviations: DMSO=Dimethyl sulfoxide; ETOH=Ethanol; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.
Note: DMSO is U.S.P. analytical grade. ETOH is U.S.P. analytical grade (100% non-denatured).
[1]3T3 Medium - DMEM (Dulbecco's Modification of Eagle's Medium) with supplements; NHK medium - KBM® (Keratinocyte Basal Medium) with supplements (from CAMBREX Clonetics®).

2.9 Basis of the Solubility Protocol

The solubility protocol used by BioReliance, which tested solubility of the reference substances prior to testing by the *in vitro* laboratories, is provided in **Appendix G**. The protocol is based largely on information from the literature and Internet searches for solubility procedures, the experience of the SMT and IIVS, and solubility and IC_{50} information from the RC chemicals database (Halle 1998, 2003). The only formal solubility protocol discovered was the EPA Product Properties Test Guideline, OPPTS 830.7840 Water Solubility Column Elution Method; Shake Flask Method (EPA 1998).

2.9.1 Initial Solubility Protocol Development

BioReliance evaluated the solubility of each reference substance in cell culture media at 2000, 400, and 200 mg/mL, and if not soluble at those concentrations, in DMSO and then ETOH, at the same concentrations (initial protocol). It was apparent that these concentrations were not low enough when the laboratory was unable to achieve solubility for arsenic

trioxide. The solubility protocol was revised twice to lower the range of concentrations tested (see **Table 2-5**). An extra tier of concentrations ≤1 mg/mL was added for poorly soluble and insoluble substances. The protocol used by the laboratories was further revised to reduce the number of steps required (by testing in log units) and to test in tiers using concentrations that reflected the concentrations anticipated in the cell cultures (see **Figure 2-7**).

Table 2-5 Comparison of Concentrations Tested in the Various Solubility Protocols

Solubility Protocol Version	Concentrations Tested (mg/mL)					
	Step 1	Step 2	Step 3	Step 4	Step 5	Steps 6-10
BioReliance (1st) (4/26/02) and Phase Ia	2,000	400	200	NA	NA	NA
BioReliance (2nd) (9/17/02)	200	40	20	10	2	NA
BioReliance (3rd) (10/11/02)	200	40	20	10	2	1, 0.5, 0.25, 0.125, 0.05
Phases Ib, II, III for cytotoxicity laboratories	20 Medium	2 Medium 200 DMSO 200 ETOH	0.2 Medium 20 DMSO 20 ETOH	2 DMSO 2 ETOH	0.2 DMSO 0.2 ETOH	NA

Abbreviations: DMSO=Dimethyl sulfoxide; ETOH=Ethanol; Medium=Cell culture medium; NA=Not applicable
Note: DMSO is U.S.P. analytical grade. ETOH is U.S.P. analytical grade (100% non-denatured).

In Phases Ib and II, the SMT used the data from BioReliance to select the solvents to be used for testing the various chemicals. When it became apparent that the laboratories sometimes obtained different solubility results than those reported by BioReliance, the SMT used the cytotoxicity results from the laboratories to determine the solvents to be used for Phase III reference substances.

The final protocol provided a tiered approach for determining the 2X stock concentration for each reference substance (see **Figure 2-7**). This protocol had the advantage of reducing the number of steps for testing (compared to that used by BioReliance) (see **Appendix B3**).

2.9.2 Basis for Modification of the Phase II Protocol

All three testing laboratories found arsenic trioxide (tested in Phase Ib) less soluble (see **Table 5-10**) than was reported by BioReliance (BioReliance values: 0.25 mg/mL in 3T3 medium and 0.05 mg/mL in NHK medium). This chemical was not soluble using the procedures in the initial solubility protocol. IIVS warmed the stock solution (at least 200 μg/mL for 2X) for longer than the protocol specified (i.e., 30 to 50 minutes) but still had persistent, small, undissolved particles. ECBC obtained a clear solution (highest 2X concentration was 30 to 50 μg/mL), but found precipitated particles after the solution stood at room temperature. Sonication time was increased to 15 to 30 minutes, and heating time to approximately 30 minutes to get a finer suspension. This procedure achieved a more homogeneous mixture, resulting in more uniform serial dilutions and a more even application of the reference substance to the cells. FAL stirred the suspension (approx. 20 to 90 μg/mL) in the CO_2 incubator for 1.5 to 2 hours to get clear medium.

Protocol Revision for Phase II: The duration of the heating step was altered from 5 to 20 minutes to 5 to 60 minutes.

2.10 Components of the Solubility Protocol

2.10.1 Medium, Supplies, and Equipment Required

2.10.1.1 *Medium and Chemical Supplies*

- 3T3 culture medium: DMEM without L-glutamine and containing Hanks' salts and high glucose [4.5gm/l]; L-glutamine, 200 mM; NCS
- NHK culture medium: Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics® CC-3104); KBM® SingleQuots® medium supplements (Clonetics® CC-4131): epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, bovine pituitary extract; Calcium SingleQuots® (Clonetics® CC-4202); penicillin/streptomycin solution (antimicrobial agents)
- United States Pharmacopoeia (U.S.P.) analytical grade DMSO
- U.S.P. analytical grade (100%, non-denatured) ETOH

2.10.1.2 *Equipment*

- Waterbath (37 °C)
- Sonication apparatus
- Vortex mixer
- Micropipettors
- Balance (capable of weighing 10 mg)
- pH meter

2.10.1.3 *Procedures*

The Phase III solubility protocol required the dissolving of approximately 10 mg of reference substance in approximately 0.5 mL medium (both 3T3 and NHK media were used) for a final concentration of 20 mg/mL (see **Appendix B3**). In order, the mixture was vortexed for 1 to 2 minutes, sonicated for up to 5 minutes, and warmed to 37 °C for 5 to 60 minutes, as necessary, to dissolve the substance. The endpoint for dissolution was a clear solution with no noticeable precipitate. If the reference substance was not soluble in medium at 20 mg/mL, then more medium was added to a concentration of 2 mg/mL (i.e., a total volume of approx. 5 mL) (Step 2). The mixing procedures were repeated as necessary to dissolve the reference substance. If the reference substance did not dissolve, approximately 10 mg reference substance was added to approximately 0.5 mL DMSO in an attempt to dissolve it at a concentration of 200 mg/mL (Step 3). If the reference substance was not dissolved, the same concentration was attempted in 100% ETOH (Step 4). Step 5 began in the same way, with 0.2 mg/mL medium and then progressed to 20 mg/mL DMSO, and then 20 mg/mL ETOH.

Determination of reference substance solubility was limited to visual observation of the resulting solution. If a solution appeared clear, then solubility testing ceased. If particles were visible or if the solution appeared cloudy, then more stringent mixing and/or heating procedures were employed. If necessary, the solubility procedure proceeded to the next solvent/concentration tier. The duration of the solubility test was dependent on the procedures used to achieve solubility. Some reference substances were immediately solubilized (e.g., liquids) and others required up to 60 minutes of heating and agitation or sonication.

2.10.2 Data Collection

All laboratories (including the reference substance distribution laboratory, BioReliance) used a worksheet designed to capture the solubility information for each reference substance. The endpoint for each step was a visual observation of the solution, a documented comment describing the observation, the concentration, and a conclusion of soluble or insoluble. Each worksheet contained:

- Reference substance code number and physical description
- Solvent used (3T3 medium, NHK medium, DMSO, ETOH)
- Amount of reference substance (mg) used in the initial stage
- Volume of solvent added and final volume (mL)
- Test substance concentration (µg/mL) in the solvent
- pH and color of the solution
- Mechanical procedures used (vortexing, sonication, heating), duration, and temperature
- Comments (soluble/insoluble at the particular concentration; visual observations; reactivity with solvent)

The solubility test information and data from the laboratories were transferred via email to the SMT and stored on the NICEATM server and as hard-copy printouts. Each laboratory also maintained electronic and hard-copy files of its data.

2.10.3 Variability in Solubility Measurements

Solubility determinations were not replicated because within-laboratory results were not expected to vary. Comparison of the results to determine inter-laboratory concordance for the 72 reference substances (see **Section 5.8** for results) provided a measure of variability among the laboratories and information about the reproducibility of the solubility determinations (see **Section 7.4**).

2.10.4 Solubility Issues During the Testing of the Reference Substances

Substance solutions were monitored throughout all aspects of the test procedures, and observations were documented. The lowest concentration of the substance in a 2X solution that contained observable precipitates, particles, globules, or oily droplets, was documented in the EXCEL® template. After substance exposure, all wells of the 96-well test plates were observed microscopically and scored using a visual observation code. The code addressed growth characteristics and the presence or absence of precipitates (see **Appendix B** [test method protocols] for the observation codes used). For solubility issues, the Study Directors made determinations of test acceptance based on the recommended concentration levels and the presence of precipitates, their scientific expertise, and test acceptance criteria.

2.10.5 Analysis of Solubility Data

During Phase III, the SMT used the solubility data from all laboratories to determine the solvents to be used for each chemical (see **Section 5.8** for solubility results and SMT selections). If the solubility of an individual reference substance was different in 3T3 medium and NHK medium, the same solvent would be used for both test methods, rather than having different solvents for each method. For example, if solubility in one culture medium was ≥2 mg/mL and solubility in the other was <2 mg/mL, and the substance was soluble in DMSO at 200 mg/mL, the SMT would select DMSO as the solvent for both test methods (each test method using its respective culture medium).

Solubilizing sufficient reference substance to produce cytotoxicity was challenging for relatively insoluble, low toxicity, substances such as lithium carbonate (in the 3T3 NRU test method) but generally was not a problem for toxic substances that did not require as high a concentration to kill cells. Some insoluble and highly toxic reference substances were problematic, however, because the amount of powdered reference substance added to solvent was very small, and laboratory personnel found it difficult to determine the presence of solute particles in solution. Arsenic trioxide is an example of such a solute (see **Section 2.9.2**).

2.11 Summary

The *Guidance Document* NRU protocols were used as the basis of the validation study protocols. The SMT and participating laboratories made initial modifications to the protocols prior to implementation of the study. Other protocol modifications were made after commencement of testing and were the result of recommendations from the laboratories and the SMT, based on their experience with the initial protocols. The resulting optimized protocols were used in the main testing phase (Phase III) of the study.

The protocol components used in the validation study were similar for the 3T3 and NHK cells. The following procedures were common to the NRU protocols for both cell types:

- Testing was performed in four phases (Phases Ia, Ib, II, and III)
- Preparation of reference substances and positive control
- Cell culture environment conditions
- Determination of test substance solubility
- Configuration of 96-well plates for testing samples
- 48-hour exposure to test substance
- Range finder and definitive testing
- Microscopic evaluation of cell cultures for toxicity
- Measurement of NRU
- Data analysis

The main differences in the test methods for the two cell types were:

- The conditions of propagation of the cells in culture
- The cell growth medium components
- The volumes of reference substance added to the 96-well plate

A solubility protocol was developed which allowed the laboratories to identify the most appropriate solvent and appropriate limit concentrations for each test substance.

Three laboratories participated in testing the 72 reference substances in both cell types and one additional laboratory procured and distributed the coded reference substances and performed solubility tests prior to their distribution to the testing laboratories.

[This Page Intentionally Left Blank]

3.0 REFERENCE SUBSTANCES USED FOR VALIDATION OF THE 3T3 AND NHK NRU TEST METHODS

3.1 Rationale for the 72 Reference Substances Selected for Testing

This section describes the procedures used to select the 72 reference substances selected for testing in Phase Ia of the validation study.

3.1.1 Reference Substance Selection Criteria

The SMT (see **Appendix A**) selected reference substances for testing using a process based on general recommendations made by Workshop 2000 participants (ICCVAM 2001a). The following criteria were used:

- The toxicities of the reference substances should be evenly distributed across the expected range of rodent LD_{50} values, using the GHS classification for acute oral toxicity as a guide (UN 2005).
- The reference substances should cover a wide range of structural and use classes, and be relevant to the needs of the various user communities.
- Substances with human toxicity data and/or human exposure potential (i.e., substances of interest to society) should be included. Substances with human acute toxicity data were particularly important to ECVAM for determining the relationship of the NRU IC_{50} values to human blood/serum LC.

Table 3-1 shows the GHS scheme for classifying substances into six toxicity categories (five with measured LD_{50} ranges and an unclassified category with LD_{50} values greater than 5000 mg/kg) based on acute rodent oral LD_{50} values (UN 2005). The SMT used this scheme for the classification of candidate substances to assure that the reference substances selected for the validation study represented the full range of acute oral toxicity.

Table 3-1 GHS Classification Scheme for Acute Oral Toxicity

Category	LD_{50} (mg/kg)
1	$LD_{50} \leq 5$
2	$5 < LD_{50} \leq 50$
3	$50 < LD_{50} \leq 300$
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$
Unclassified	$LD_{50} > 5000$

Abbreviations: UN=United Nations; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).
LD_{50}=Dose that produces lethality in 50% of the test animals.

For the purposes of the initial toxicity classification, the rodent oral LD_{50} values for the individual substances were obtained from readily available toxicological databases. These rodent oral LD_{50} values were re-evaluated in **Section 4** for the purpose of identifying the most appropriate reference LD_{50} values to use for the accuracy analyses (i.e., determine to

what extent there is agreement between a test method result and an accepted reference value [see **Section 6.3**]). Rat LD_{50} data were preferred because:

- The current acute oral toxicity test guidelines recommend using rats (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a)
- The majority of LD_{50} data used in the RC millimole regression were from studies using rats (282 rat data points and 65 mouse data points) (Halle 1998, 2003)
- The great majority of acute oral systemic toxicity testing is performed with rats

Mouse oral LD_{50} values were used (10 substances) for the initial toxicity classification when rat data were unavailable, however, mouse data were not used in the regression analyses presented in **Section 6**. The toxicological databases, in order of preference, were:

- The RC, which contains LD_{50} values that came largely from the 1983/84 RTECS® (Halle 1998, 2003). The RC is a database of acute oral LD_{50} values for rats and mice obtained from RTECS® and IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays using multiple cell lines and cytotoxicity endpoints for chemicals with known molecular weights.
- The current RTECS® (MDL Information Systems 2001, 2002)
- The current Hazardous Substances Data Bank (HSDB; U.S. National Library of Medicine [NLM] 2001, 2002).

To insure that a wide range of structural and use classes were selected, reference substances of interest to the various U.S. regulatory agencies, as determined from substance lists received from the various agencies, were included. Substances with human toxicity data and/or human exposure potential were chosen by mining publicly available databases (e.g., the NTP test database, the MEIC database) for potential candidates.

3.1.2 Candidate Reference Substances

The process of identifying the 72 reference substances started with the compilation of a database of 116 candidates. The intent of the SMT was to compile a database with at least 12 substances in each GHS toxicity category that also met the other selection criteria, and then to prioritize the substances within each category to select the 72 to be tested. As recommended by Workshop 2000 (ICCVAM 2001a), the following publicly available databases and other sources were used to identify candidate substances:

- The MEIC program, which collected human toxicity data and *in vitro* toxicity data from 61 test methods for 50 substances (Ekwall et al. 1998)
- The EDIT program, which targeted development of *in vitro* test methods for endpoints other than basal cytotoxicity; includes 20 chemicals that are a subset of the MEIC chemicals
- The RC (Halle 1998, 2003), which contains *in vitro* cytotoxicity and *in vivo* rodent LD_{50} data for 347 substances
- The Toxic Exposure Surveillance System (TESS) (Litovitz et al. 2000), which compiles reports of toxic human exposures from poison control centers throughout the United States
- Pesticides recommended for consideration by the EPA Office of Pesticide Programs (OPP)

- The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), which reported *in vitro* NRU results for 11 RC substances using protocols similar to those to be used in the validation study
- The U.S. NTP test database, which contains information on the toxicity of substances relevant to human exposure (NTP 2002)
- The EPA High Production Volume (HPV) Challenge Program list of chemicals. The HPV is a voluntary testing program to provide the public with a complete set of baseline health and environmental effects data for each chemical that is manufactured within or imported into the United States at amounts >1 million pounds/year (EPA 2000a)

The candidate substances from the list of 116 that were not selected as reference substances to use in the validation study are listed in **Appendix F3**, grouped by GHS category, along with the rat or mouse oral LD_{50} value, the database(s) or other source(s) used to identify the substance as a potential candidate, and the type of product and/or use for the substance.

3.1.3 Selection of Reference Substances for Testing

Using the candidate substance database, 72 reference substances (12 GHS-unclassified substances and 12 substances from each of the five GHS acute oral toxicity hazard categories) were selected. This number of substances per GHS category was considered adequate by the ICCVAM Acute Toxicity Working Group (ATWG), ICCVAM, ECVAM, and the SMT to accurately evaluate the performance of these two *in vitro* NRU test methods for identifying the starting dose for rodent acute oral toxicity tests across the range of toxic levels that would be encountered during testing. The criteria used for prioritizing the candidate substances were:

- The availability of rodent acute oral toxicity data
- The availability of human acute oral toxicity data and/or relevance for human exposure
- The level of volatility (because the cells are exposed for 48 hours while incubated at 37 °C in 96-well plates, volatilization from wells containing a volatile reference substance would affect the accuracy of the IC_{50} calculation and potentially contaminate other wells)
- Not a controlled substance according to the U.S. Drug Enforcement Agency (DEA). Excluding substances that are listed in DEA Schedules I and II from consideration obviates the requirement for U.S. laboratories to obtain a DEA license and adhere to the DEA substance storage and control procedures
- Practical considerations such as cost and disposal

If more than 12 candidate substances in a GHS category met the above criteria, then selection was based on two further considerations. One consideration was the distribution of substance toxicities within each toxicity category so as to select substances that represented the entire range of toxicity within each category. Another consideration, which applied only to candidate substances selected from the RC database, was the fit of the toxicity to the RC millimole regression. Substances with the best fit to the RC millimole regression were preferentially selected to prevent the entire set of reference substances from having proportionally more "outlier" substances (i.e., greater than one-half log from the RC millimole regression) than the entire RC database.

The final list of selected reference substances is sorted by GHS acute oral toxicity category in **Table 3-2**.

3.2 Characteristics of the Selected Reference Substances

The physical/chemical and toxicological information in **Appendix F** may be useful for characterizing the performance of the *in vitro* NRU test methods for various chemical types (e.g., chemical class, toxic effect class). **Appendix F1** lists the reference substances in alphabetical order with information on the CASRN, purity, supplier, pH (of the highest concentration tested in NRU), and concentrations tested. **Appendix F2** provides the reference substances in alphabetical order, and information on physical/chemical characteristics such as molecular weight, chemical class, water solubility, acid/base dissociation constant (pK), boiling point, and octanol-water partition coefficient (log K_{ow}), a measure of lipid solubility. Although test substance concentration and toxicity may be heavily influenced by molecular charge and surface activity (ICCVAM 2006), these attributes were not characterized because this type of information is not readily available. **Appendix F2** also includes the major toxic effects attributed to each chemical, ability to pass the blood:brain barrier (BBB), metabolic activation/inactivation (whether or not it is metabolized, or the identification of the metabolites), and mechanism of lethality (where known) for each of the reference substances. The remainder of this section summarizes selected characteristics of the reference substances.

3.2.1 Source Databases Represented by the Selected Reference Substances

The primary sources of substances were well represented in the final list of reference substances. **Table 3-3** shows the distribution of reference substances by GHS category from each of the source lists. Forty-two (58%) of the 72 substances were MEIC chemicals (17 of the 42 MEIC chemicals [40%] were also EDIT chemicals), 46 (64%) were involved in human poisonings as reported by TESS, 51 (71%) have been evaluated by the NTP, and 18 (25%) are listed in the EPA's HPV Challenge Program. Some substances were present in more than one database.

The other major source of reference substances was the RC, which contributed 58 (81%) of the 72 chemicals, as shown in **Table 3-4**. Because the RC millimole regression was used to identify outlier substances (see **Section 6.2**), the fit of the RC substances to this regression was relevant (Halle 1998, 2003). Halle (1998, 2003) defined outliers as those chemicals with log IC_{50}-log LD_{50} points that were >0.699 (i.e., log 5) from the RC millimole regression. **Table 3-4** shows the number of RC outliers selected for testing and the corresponding number of outliers in the RC. Although the percentage of outliers in several GHS categories is similar to the percentage in the RC, the total percentage of RC outliers in the set of reference substances (i.e., 38% [22/58]) is greater than the percentage in the RC (i.e., 27% [95/347]). This occurred because the fit to the RC millimole regression was not the major deciding factor during selection of the 72 reference substances.

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

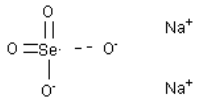
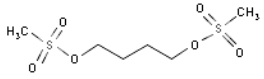
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg							
Mercury II chloride	1	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS, NTP	Preservative; Manufacturing; Insecticide	271.50	0.22	Inorganic compound; Mercury compound; Chlorine compound	
Triethylenemelamine	1	RC (outlier), NTP	Manufacturing; Insect chemosterilant	204.23	–0.54	Organic compound; Heterocyclic compound	
Sodium selenate	2**	TESS, NTP	Feed additive	188.90	NA	Inorganic compound; Sodium compound; Selenium compound	
Busulfan	2	RC (outlier), NTP	Pharmaceutical (antineoplastic)	246.31	–0.52	Organic compound; Alcohol; Acyclic hydrocarbon; Sulfur compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

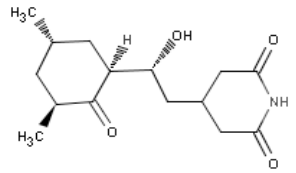
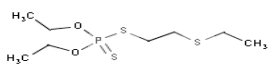
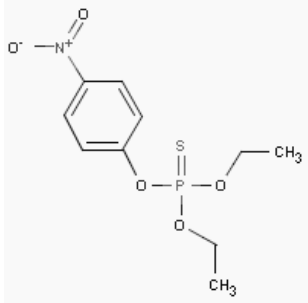
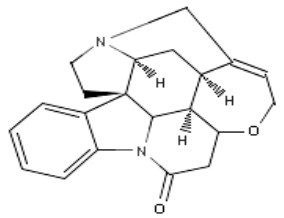
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Cycloheximide	2	RC (outlier), NTP	Antibiotic Fungicide	281.40	0.55	Organic compound; Heterocyclic compound	
Disulfoton	2	RC (outlier), EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	274.42	4.02	Organic compound; Organophosphorous compound; Sulfur compound	
Parathion	2	RC (outlier), EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	291.28	3.83	Organic compound; Organophosphorous compound; Sulfur compound	
Strychnine	2*	MEIC, TESS, EPA	Pesticide (rodenticide)	334.40	1.93	Organic compound; Heterocyclic compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

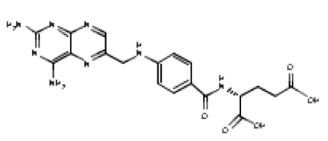
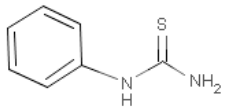
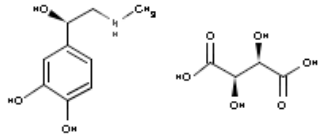
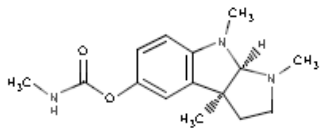
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Aminopterin	3**	RC	Pharmaceutical (antineoplastic); Pesticide (rodenticide)	476.45	NA	Organic compound; Heterocyclic compound	
Phenylthiourea	3	RC (outlier), NTP	Pesticide (rodenticide)	152.20	0.71	Organic compound; Sulfur compound; Urea	
Epinephrine bitartrate	4**	RC (outlier), NTP (HCl salt)	Pharmaceutical (adrenergic)	333.30	–1.52	Organic compound; Alcohol; Amine	
Physostigmine	5*	EHS	Pharmaceutical (anticholinesterase)	275.40	NA	Organic compound; Carboxylic acid; Heterocyclic compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

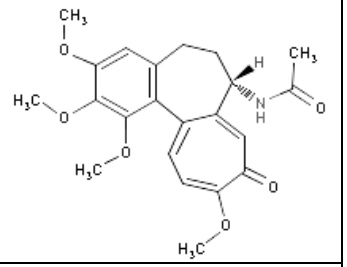
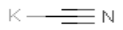
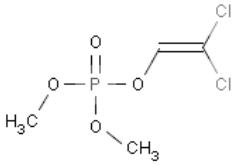
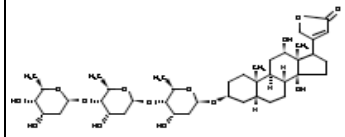
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
5 < LD_{50} ≤50 mg/kg							
Colchicine	6**	MEIC, RC, TESS, NTP	Pharmaceutical (gout suppressant)	399.45	1.03	Organic compound; Polycyclic compound	
Potassium cyanide	10	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS	Electroplating	65.12	NA	Inorganic compound; Potassium compound; Nitrogen compound	
Dichlorvos	17*	TESS, EPA, NTP, HPV	Pesticide (insecticide)	220.98	1.43, 1.45	Organic compound; Organophosphorous compound	
Digoxin	18**	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS	Pharmaceutical (antiarrhythmic)	780.90	1.26	Organic compound; Polycyclic compound; Carbohydrate	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

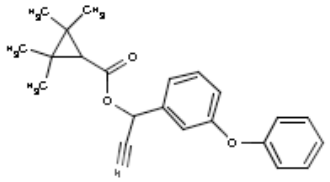
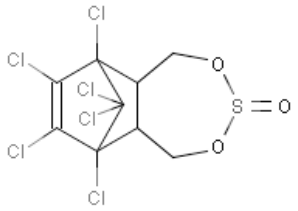
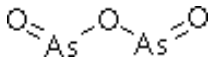
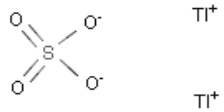
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Fenpropathrin	18*	EPA	Pesticide (insecticide)	349.43	6.0 @ 20° C	Organic compound; Nitrile; Ester; Ether	
Endosulfan	18*	TESS, EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	406.91	3.83	Organic compound; Heterocyclic Compound; Sulfur compound	
Arsenic III trioxide	20	MEIC, EDIT, RC, TESS, EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	197.80	NA	Inorganic compound; Arsenical	
Thallium I sulfate	29**	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS	Pesticide (rodenticide/insecticide)	504.80	NA	Inorganic compound; Metal; Sulfur compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

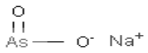
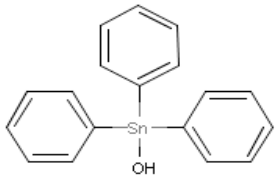
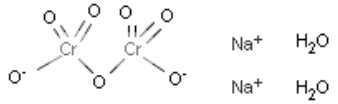
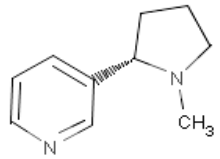
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Sodium arsenite	41*	TESS, NTP	Pesticide (herbicide, insecticide, fungicide)	129.90	NA	Inorganic compound; Arsenical; Sodium compound	
Triphenyltin hydroxide	44	RC, EPA, NTP, HPV	Pesticide (fungicide/insecticide)	367.02	NA	Organic compound; Organometallic compound	
Sodium dichromate dihydrate	50	RC, EPA, GD, NTP	Oxidizing agent	298.00	NA	Inorganic compound; Sodium compound; Chromium compound	
Nicotine	50	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS, EPA, NTP	Pharmaceutical (stimulant)	162.020	1.17	Organic compound; Heterocyclic compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

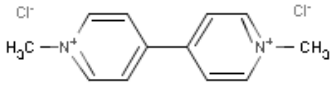
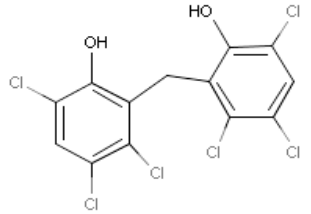
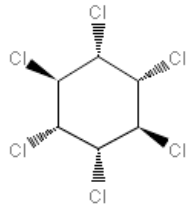
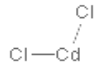
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
50 < LD_{50} ≤300 mg/kg							
Paraquat	58	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS, EPA	Pesticide (herbicide)	257.20	–4.22 @ pH 7.4	Organic compound; Heterocyclic compound	
Hexachlorophene	61	MEIC, RC, TESS, NTP	Disinfectant	406.91	6.91	Organic compound; Cyclic hydrocarbon; Phenol	
Lindane	76	MEIC, EDIT, RC (outlier), EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	290.80	3.72	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	
Cadmium II chloride	88	RC, TESS, GD, NTP	Consumer; Industrial products	183.31	NA	Inorganic compound; Cadmium compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

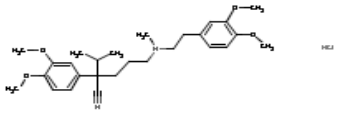
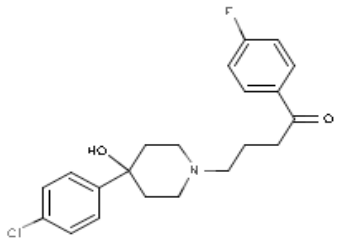
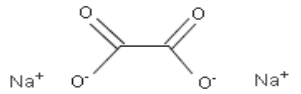
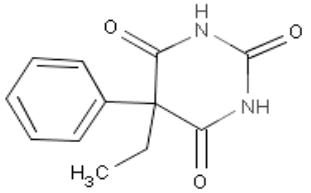
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Verapamil HCl	108	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS, NTP	Pharmaceutical (antiarrhythmic)	491.08	3.79	Organic compound; Amine	
Haloperidol	128*	MEIC, TESS	Pharmaceutical (antipsychotic)	375.90	3.36	Organic compound; Ketone	
Sodium oxalate	155	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP	Paints; Cleaners	134.00	NA	Organic compound; Carboxylic acid; Sodium compound	
Phenobarbital	163	MEIC, RC (outlier), TESS, NTP	Pharmaceutical (anticonvulsant)	232.23	1.47	Organic compound; Heterocyclic compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

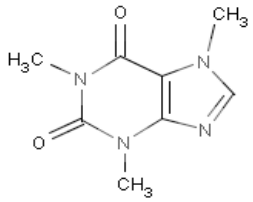
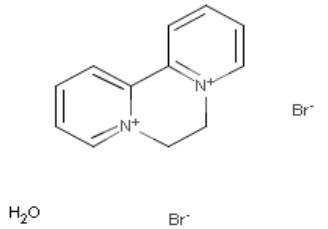
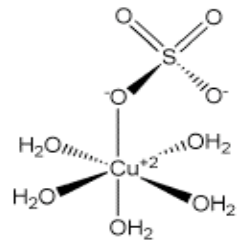
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Sodium I fluoride	180	MEIC, RC, TESS, EPA, NTP	Electroplating; Water fluoridation	41.99	NA	Inorganic compound; Sodium compound; Fluorine compound	
Caffeine	192	MEIC, RC (outlier), TESS, NTP, HPV	Pharmaceutical (stimulant); Food additive	194.20	–0.07	Organic compound; Heterocyclic compound	
Diquat dibromide	231	MEIC, RC, TESS	Pesticide (herbicide)	362.10	–3.05	Organic compound; Heterocyclic compound	
Cupric sulfate * 5 H2O	300	MEIC, RC, TESS, EPA, NTP	Pesticide (insecticide/fungicide)	249.70	NA	Inorganic compound; Sulfur compound; Metal	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

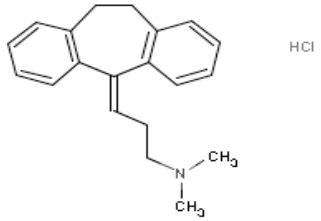
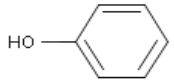
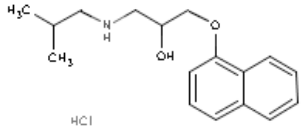
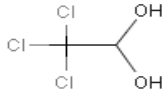
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg							
Amitriptyline HCl	319	MEIC, EDIT, RC, TESS	Pharmaceutical (antidepressant)	313.90	5.04	Organic compound; Polycyclic compound	
Phenol	414	MEIC, RC, TESS, EPA, NTP, HPV	Disinfectant	94.11	1.46	Organic compound; Phenol	
Propranolol HCl	470**	MEIC, RC, TESS, GD	Pharmaceutical (antiarrhythmic)	295.80	3.09	Organic compound; Alcohol; Amine; Polycyclic compound	
Chloral hydrate	479	MEIC, RC, TESS, NTP	Pharmaceutical (sedative)	165.40	0.99	Organic compound; Alcohol	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

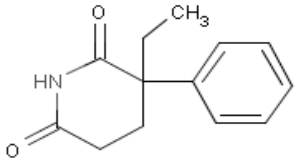
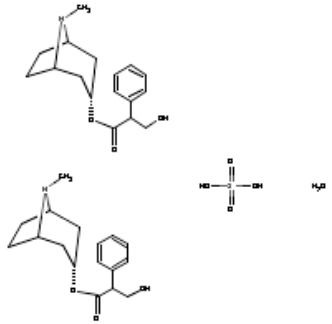
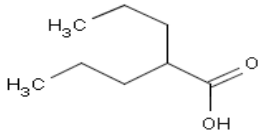
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Glutethimide	600	MEIC, RC, TESS	Pharmaceutical (sedative)	217.30	1.9	Organic compound; Heterocyclic compound	
Atropine sulfate	623	MEIC, EDIT, RC, TESS	Pharmaceutical (antimuscarinic)	694.80	1.83	Organic compound; Heterocyclic compound	
Valproic acid	1695 **	RC, MEIC, TESS, NTP	Pharmaceutical (anticonvulsant)	144.20	2.75	Organic compound; Carboxylic acid; Lipids	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

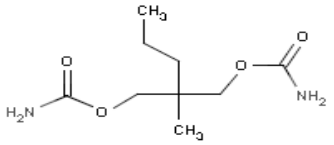
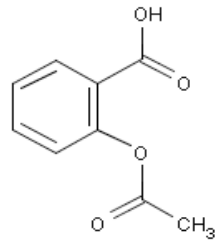
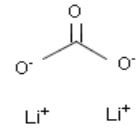
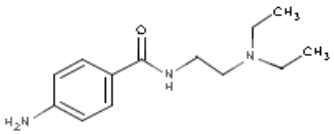
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Meprobamate	794*	MEIC, TESS	Pharmaceutical (antidepressant)	218.30	NA	Organic compound; Carboxylic acid	
Acetylsalicylic acid	1000	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP	Pharmaceutical (analgesic)	180.20	1.19	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	
Lithium I carbonate	1187[7]	MEIC, RC, TESS, NTP (Cl salt)	Pharmaceutical (mood stabilizer)	73.89	NA	Inorganic compound; Lithium compound; Alkylies; Carbon compound	
Procainamide	1950*	MEIC, TESS	Pharmaceutical (antiarrythmic)	271.79	NA	Organic compound; Carboxylic acid; Amide	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

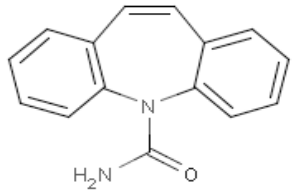
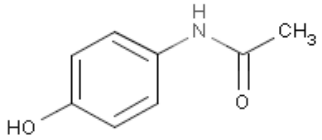
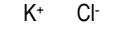
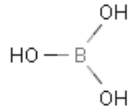
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Carbamazepine	1957*	MEIC, TESS	Pharmaceutical (antiepileptic)	236.30	2.45	Organic compound; Heterocyclic compound	
2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg							
Acetaminophen	2404	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP	Pharmaceutical (analgesic)	151.20	0.8	Organic compound; Amide	
Potassium I chloride	2602	MEIC, RC, TESS, NTP	Pharmaceutical (electrolyte); Manufacturing	74.55	NA	Inorganic compound; Potassium compound; Chlorine compound	
Boric aid	2660*	TESS, EPA, NTP	Pesticide (insecticide)	61.83	NA	Inorganic compound; Boron compound; Acids	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

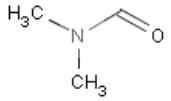
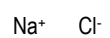
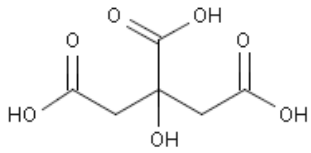
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Carbon tetrachloride	2799	MEIC, RC, TESS, NTP, HPV	Solvent	153.82	2.83	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	
Dimethylformamide	2800	RC, GD, NTP, HPV	Solvent	73.10	–1.01	Organic compound; Amide; Carboxylic acid	
Sodium chloride	2998	MEIC, EDIT, RC, TESS, EPA, NTP	Pharmaceutical (electrolyte); Food additive	58.44	NA	Inorganic compound; Sodium compound; Chlorine compound	
Citric Acid	3000*	EPA, NTP, HPV	Food additive	192.10	–1.72	Organic compound; Carboxylic acid	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

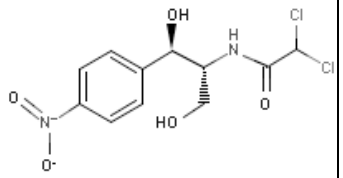
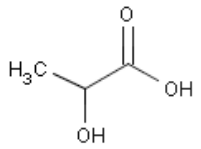
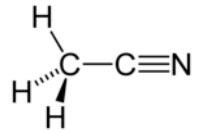
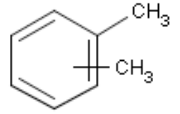
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Chloramphenicol	3393	MEIC, RC, NTP	Pharmaceutical (antibiotic)	323.14	1.14	Organic compound; Alcohol; Cyclic hydrocarbon; Nitro compound	
Lactic acid	3730	RC, NTP, HPV	Food additive	90.08	–0.72	Organic compound; Carboxylic acid	
Acetonitrile	3798	RC, NTP, HPV	Solvent	41.05	–0.34	Organic compound; Nitrile	
Xylene (mixed isomers)	4300	MEIC, RC, TESS, NTP, HPV	Solvent	106.17	3.12 – 3.2	Organic compound; Cyclic hydrocarbon	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

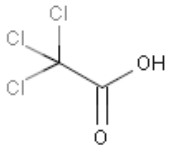
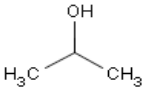
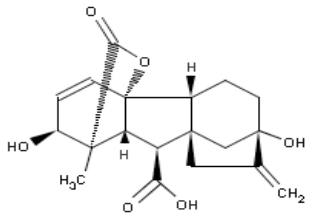
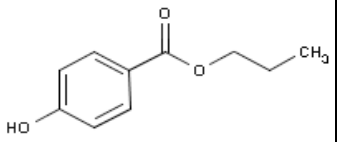
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Trichloroacetic acid	4999	RC, NTP	Fixative	163.40	1.33	Organic compound; Carboxylic acid	
LD_{50} >5000 mg/kg							
2-Propanol	5843	MEIC, RC, TESS, EPA, NTP, HPV	Disinfectant	60.10	0.05	Organic compound; Alcohol	
Gibberellic acid	6305	RC, EPA, NTP	Plant growth regulator	346.38	0.24	Organic compound; Polycyclic compound	
Propylparaben	6326**	RC (outlier), NTP	Food additive	180.20	3.04	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

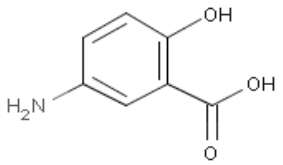
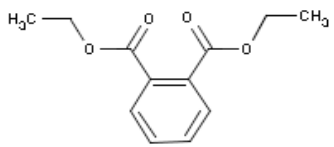
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
5-Aminosalicylic acid	7749**	RC (outlier), NTP	Pharmaceutical (antibiotic)	153.10	1.32	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	
Ethylene glycol	8567	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP, HPV	Antifreeze	62.07	–1.36	Organic compound; Alcohol	
Diethyl phthalate	8602	RC (outlier), NTP, HPV	Plasticizer	222.20	2.47	Organic compound; Carboxylic acid	
Sodium hypochlorite	8910[8]	TESS, NTP	Disinfectant	74.44	NA	Inorganic compound; Sodiumcompound; Oxygen compound; Chlorine compound	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

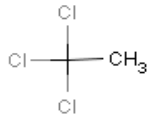
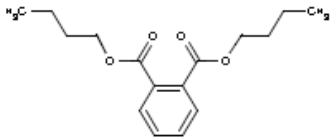
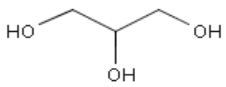
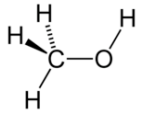
GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
1,1,1-Trichloroethane	10298	MEIC, RC, NTP, HPV	Solvent	133.41	2.49	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	
Dibutyl phthalate	11998	RC (outlier), NTP, HPV	Plasticizer	278.30	4.9	Organic compound; Carboxylic acid	
Glycerol	12691	RC, GD, NTP, HPV	Solvent	92.09	-1.76	Organic compound; Alcohol	
Methanol	13012	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP, HPV	Solvent	32.04	–0.77	Organic compound; Alcohol	

Table 3-2 Reference Substances Used in the 3T3 and NHK NRU Test Methods Validation Study - Sorted by Toxicity

GHS Category[1]/Substance	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Product/Use[4]	Molecular Weight (g/mol)	log Kow[5]	Chemical Class[6]	Molecular Structure
Ethanol	14008	MEIC, RC (outlier), TESS, EPA, NTP, HPV	Solvent	46.07	–0.31	Organic compound; Alcohol	

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); LD_{50}=Dose that produces lethality in 50% of the test animals; K_{ow}=Octanol:water partition coefficient; EDIT=Evaluation-guided Development of New *In vitro* Test Batteries (substances in EDIT program are a subset of the MEIC substance set); EPA=Pesticides registered with the Environmental Protection Agency; EHS=EPA's Extremely Hazardous Substance list; HPV=High Production Volume chemicals (i.e., those that are imported into or produced in the United States in amounts ≥1,000,000 lbs/year); GD=*Guidance Document* (ICCVAM 2001b); MEIC=Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity; NA=Non applicable; NTP=National Toxicology Program; RC=Registry of Cytotoxicity with the chemicals classified as regression outliers shown in parentheses; TESS=Toxic Exposure Surveillance System (Litovitz et al. 2000); HSDB=Hazardous Substances Data Bank; RTECS®=Registry of Toxic Effects of Chemical Substances.

*From RTECS® (MDL Information Systems 2002).

**Mouse.

[1]GHS category designation for the substance (e.g., LD_{50} <5 mg/kg)

[2]LD_{50} data are from the Registry of Cytotoxicity (Halle 1998, 2003) and are for rats, unless otherwise noted. The LD_{50} values are rounded to the nearest whole number.

[3]Sources used to identify candidate chemicals.

[4]Product/use categories from HSDB (NLM 2002) or RTECS®(MDL Information Systems 2002). Pharmaceutical uses from Gilman et al. (1985) or Thomson PDR® (2004).

[5]From HSDB (NLM 2001, 2002) or Material Safety Data Sheets.

[6]Based on Medical Subject Heading [MeSH®] descriptors (NLM 2005).

[7]Mouse data for lithium sulfate (Halle 1998, 2003).

[8]From HSDB (NLM 2002).

Table 3-3 Distribution of Candidate Substances and Reference Substances by Source[1] and Toxicity Category

GHS Category (mg/kg)	Reference Substances/ Candidate Substances	MEIC Reference/ MEIC Candidates	EDIT Reference/ EDIT Candidates	TESS Reference/ TESS Candidates	NTP Reference/ NTP Candidates	HPV Reference/ HPV Candidates
$LD_{50} \leq 5$	12/13	2/2	1/1	3/3	5/9	0/0
$5 < LD_{50} \leq 50$	12/15	6/6	5/5	9/10	8/11	2/5
$50 < LD_{50} \leq 300$	12/26	11/17	4/5	11/19	9/18	1/3
$300 < LD_{50} \leq 2000$	12/38	12/29	3/5	12/27	5/23	1/5
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	12/12	6/6	2/2	6/6	12/12	6/6
$LD_{50} > 5000$	12/12	5/5	2/2	5/5	12/12	8/8
Total	72/116	42/65	17/20	46/70	51/85	18/27

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); LD_{50}=Dose that produces lethality in 50% of the test animals; MEIC=Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity**;** EDIT=Evaluation-Guided Development of *In vitro* Tests; TESS=Toxic Exposure Surveillance System; NTP=U.S. National Toxicology Program; HPV=U.S. Environmental Protection Agency (EPA) High Production Volume program.
[1]Substances may have been selected from more than one source (see **Table 3-2** and **Appendix F3**).

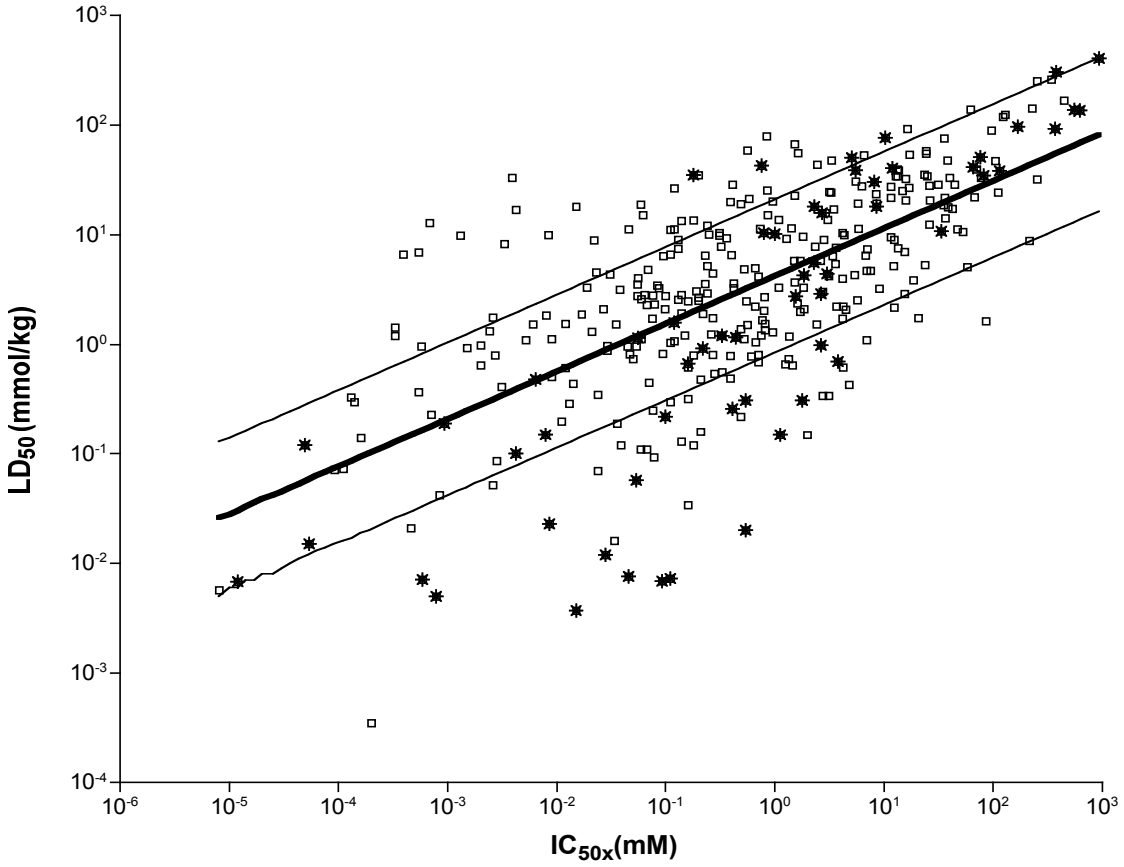
Table 3-4 Selected Substances: Distribution of RC Chemicals and RC Outliers[1] by Toxicity Category

GHS Category (mg/kg)	RC Outliers/ Total Chemicals	Candidate and Selected Substances		
		Candidate Substances	RC Reference / RC Candidates	RC Reference Outliers/ RC Reference Chemicals
$LD_{50} \leq 5$	10/11 (91%)	13	9/10	8/9 (89%)
$5 < LD_{50} \leq 50$	15/26 (58%)	15	8/10	4/8 (50%)
$50 < LD_{50} \leq 300$	24/70 (34%)	26	11/18	5/11 (45%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$	14/139 (10%)	38	9/29	0/9 (0%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	12/57 (21%)	12	10/10	0/10 (0%)
$LD_{50} > 5000$	20/44 (45%)	12	11/11	5/11 (45%)
Total	95/347 (27%)	116	58/88	22/58 (38%)

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); LD_{50}=Dose that produces lethality in 50% of the test animals.
[1]Chemicals falling outside the log 5 (i.e., > ±0.699) prediction interval for the RC millimole regression (Halle 1998, 2003).

Among the 58 RC substances selected for use in the validation study, 22 (38%) were outliers for the RC millimole regression. Toxicity[1] was underpredicted for 17 (77%) of these outlier substances and overpredicted (i.e., predicted LD_{50} was lower than measured *in vivo* LD_{50}) for the remaining five (23%). For the 95 outlier substances in the RC, the number of substances for which toxicity was over- or under-predicted was approximately the same. Toxicity was underpredicted for 49 (52%) outliers and overpredicted for 46 (48%) outliers (Halle 1998, 2003). **Figure 3-1** shows the 58 RC chemicals selected for testing, in addition to the 289 RC chemicals that were not selected, and the RC millimole regression. In the figure, the outliers are those points outside the RC prediction interval. For the 58 RC substances selected for testing, the majority (17/22) of the outliers are below the RC millimole regression line.

Figure 3-1 The Fifty-Eight (58) Selected RC Reference Substances on the RC Millimole Regression



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; LD_{50}=Dose that produces lethality in 50% of the test animals; IC_{50}=Test substance concentration that reduces cell viability by 50%.
The 58 RC chemicals tested in the NICEATM/ECVAM validation study are shown by *. The RC regression, $\log (LD_{50}) = 0.435 \times \log (IC_{50x}) + 0.625$, is shown by the bold line. The lighter lines show the ± log 5 (i.e., ±0.699) prediction interval (Halle 1998, 2003). The open boxes represent the 289 chemicals not included in the validation study.

[1] Toxicity is inversely proportional to LD_{50}. High LD_{50} values reflect low toxicity and low LD_{50} values reflect high toxicity

3.2.2 Chemical Classes Represented by the Selected Reference Substances

Medical subject heading (MeSH®) descriptors from the NLM were used to determine chemical class designations for the selected substances. Of the 72 reference substances, 57 (79%) were organic and 15 (21%) were inorganic. The number of substances in the organic (79) and inorganic (31) subclasses is greater than the number of substances in each class because some of the substances are classified in more than one subclass. The most commonly represented classes of organic compounds were heterocyclics (14/57, 25%), carboxylic acids (14/57, 25%), and alcohols (10/57, 18%). **Table 3-5** shows the distribution of the substances among the GHS toxicity categories. The 14 heterocyclics were evenly distributed among the first four GHS toxicity categories for LD_{50} ≤2000 mg/kg with the majority of the heterocyclics (11/14) in the categories for LD_{50} <300 mg/kg. The majority of the carboxylic acids (12/14) and alcohols (8/10) had an LD_{50} >300 mg/kg, while the majority of the inorganics (10/15) had an LD_{50} <300 mg/kg.

3.2.3 Product/Use Classes Represented by the Selected Reference Substances

Product and use information was obtained from HSDB (NLM 2002) or RTECS® (MDL Information Systems 2002). The number of assigned uses (77) is greater than the number of selected substances because some of the substances have more than one use. **Table 3-6** shows the distribution of products and uses of the selected substances according to their GHS categories. Pharmaceutical (27/77; 35%) and pesticide (17/77; 22%) uses were observed most frequently. The toxicity category of 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg had the highest number of pharmaceuticals. Every toxicity category except LD_{50} >5000 mg/kg had at least four substances with pharmaceutical uses. The majority of pesticides (16/17; 94%) had an LD_{50} <300 mg/kg. The next most frequent uses were as solvents (8/77; 10%) and food additives (5/77; 6%); LD_{50} >2000 mg/kg contained most of the substances with solvent (8/8; 100%) and food additive (4/5; 80%) uses.

3.2.4 Toxicological Characteristics of the Selected Reference Substances

3.2.4.1 *Corrosivity*

The intent of the SMT was to prioritize only those substances with low corrosivity because guidelines for acute systemic toxicity testing indicate that corrosive or severely irritating substances need not be tested (OECD 2001a, c, d). The UN and U.S. Department of Transportation Packing Group (DOT PG) classification system was used to classify the corrosivity hazard associated with the candidate substances. However, after substance selection was completed and testing had begun, the SMT learned that the PG classification system was also based on hazards other than corrosivity (e.g., dermal and inhalation toxicity, flammability, etc.). Therefore, the selected substances were not actually prioritized by corrosivity. Subsequent information on the corrosivity of the selected substances was obtained from HSDB (NLM 2004) and the Material Safety Data Sheets (MSDS) provided with the purchased substances. Seven substances that were not identified by the DOT PG classification system had corrosive notations. The MSDS notations for lactic acid, sodium hypochlorite, sodium oxalate, and trichloroacetic acid indicated that these substances should carry a corrosive label. Chloral hydrate, mercury II chloride, and potassium cyanide were noted by HSDB to be corrosive to eyes or skin.

Table 3-5 Distribution of Chemical Class for the 72 Reference Substances by Toxicity Category

Chemical Class[1]	GHS Acute Oral Toxicity Category (mg/kg)						Total
	$LD_{50} \leq 5$	$5 < LD_{50} \leq 50$	$50 < LD_{50} \leq 300$	$300 < LD_{50} \leq 2000$	$2000 < LD_{50} \leq 5000$	$LD_{50} > 5000$	
Organic							
Carboxylic acid	1	0	1	4	4	4	14
Heterocyclic compound	5	2	4	3	0	0	14
Alcohol	2	0	0	2	1	5	10
Phenol	0	0	1	2	0	2	5
Polycyclic compound	0	2	0	2	0	1	5
Sulfur compound	4	1	0	0	0	0	5
Amine	1	0	1	1	0	0	3
Cyclic hydrocarbon	0	0	1	0	1	1	3
Halogenated hydrocarbon	0	0	1	0	1	1	3
Organophosphorous compound	2	1	0	0	0	0	3
Amide	0	0	0	1	2	0	3
Nitrile	0	1	0	0	1	0	2
Acyclic hydrocarbon	1	0	0	0	0	0	1
Carbohydrate	0	1	0	0	0	0	1
Ester	0	1	0	0	0	0	1
Ether	0	1	0	0	0	0	1
Ketone	0	0	1	0	0	0	1
Lipid	0	0	0	1	0	0	1
Nitro compound	0	0	0	0	1	0	1
Organometallic compound	0	1	0	0	0	0	1
Sodium compound	0	0	1	0	0	0	1
Urea	1	0	0	0	0	0	1
Total Organics	17	11	11	16	11	14	79

Table 3-5 Distribution of Chemical Class for the 72 Reference Substances by Toxicity Category

Chemical Class[1]	GHS Acute Oral Toxicity Category (mg/kg)						Total
	$LD_{50} \leq 5$	$5 < LD_{50} \leq 50$	$50 < LD_{50} \leq 300$	$300 < LD_{50} \leq 2000$	$2000 < LD_{50} \leq 5000$	$LD_{50} > 5000$	
Inorganic							
Sodium compound	1	2	1	0	1	1	6
Chlorine compound	1	0	1	0	2	1	5
Arsenical	0	2	0	0	0	0	2
Metal	0	1	1	0	0	0	2
Potassium compound	0	1	0	0	1	0	2
Sulfur compound	0	1	1	0	0	0	2
Acid	0	0	0	0	1	0	1
Alkalies	0	0	1	0	0	0	1
Boron compound	0	0	0	0	1	0	1
Cadmium compound	0	0	1	0	0	0	1
Carbon compound	0	0	0	1	0	0	1
Chromium compound	0	1	0	0	0	0	1
Fluorine compound	0	0	1	0	0	0	1
Lithium compound	0	0	0	1	0	0	1
Mercury compound	1	0	0	0	0	0	1
Nitrogen compound	0	1	0	0	0	0	1
Oxygen compound	0	0	0	0	0	1	1
Selenium compound	1	0	0	0	0	0	1
Total Inorganic	4	9	7	2	6	3	31

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).
[1]Based on the Medical Subject Heading [MeSH®] descriptor (NLM 2005). Some substances are counted more than once because they appear in more than one subclass under the organic or inorganic classes.

Table 3-6 Distribution of Product/Use[1] Class for the 72 Reference Substances by Toxicity Category

Product/Use Class[1]	GHS Acute Oral Toxicity Category (mg/kg)						Total
	$LD_{50} \leq 5$	$5 < LD_{50} \leq 50$	$50 < LD_{50} \leq 300$	$300 < LD_{50} \leq 2000$	$2000 < LD_{50} \leq 5000$	$LD_{50} > 5000$	
Antibiotic/fungicide	1	0	0	0	0	0	1
Antifreeze	0	0	0	0	0	1	1
Consumer/industrial products	0	0	1	0	0	0	1
Disinfectant	0	0	1	1	0	2	4
Electroplating	0	2	0	0	0	0	2
Fluoridation	0	0	1	0	0	0	1
Feed additive	1	0	0	0	0	0	1
Fixative	0	0	0	0	1	0	1
Food additive	0	0	1	0	3	1	5
Manufacturing	1	0	0	0	1	0	2
Oxidizing agent	0	1	0	0	0	0	1
Paints, cleaners	0	0	1	0	0	0	1
Pesticide	5	7	4	0	1	0	17
Pharmaceutical	4	3	4	11	4	1	27
Plant growth regulator	0	0	0	0	0	1	1
Plasticizer	0	0	0	0	0	2	2
Preservative	1	0	0	0	0	0	1
Solvent	0	0	0	0	4	4	8

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).
[1]Product/use information from Hazardous Substances Data Bank (NLM 2002) or Registry of Toxic Effects of Chemical Substances ([RTECS®], MDL Information Systems 2002). Some substances are counted more than once because they appear in more than one use category.

3.2.4.2 *Toxicity Targets*

As shown in **Appendix F2**, the most common toxicological effects in humans or rodents were neurological (40 substances); 26 cause central nervous system (CNS) depression, seven produce CNS stimulation, four produce CNS affects such as encephalopathy, and three affect the peripheral nervous system. Other common target systems include the liver (17 substances), kidney (15 substances), and cardiovascular system (10 substances). No target organ information was available for gibberellic acid. Among the 72 reference substances, 27 had more than one toxicity target.

3.2.4.3 *Metabolism*

Table 3-7 shows the 22 reference substances that are known or expected to produce active/toxic metabolites *in vivo*. In contrast, dichlorvos, fenpropathrin, meprobamate, phenylthiourea, and sodium dichromate are rapidly metabolized to less toxic compounds. Because the NHK and 3T3 cells have little (Babich 1991) or no (INVITTOX 1991) metabolic capability, respectively, metabolites of these compounds would not be expected to be present *in vitro*. **Appendix F2** provides for more information on the metabolism (activation/inactivation) of the selected reference substances.

Table 3-7 Reference Substances Metabolized to Active Metabolites

Known to Have Active Metabolites				Active Metabolites Expected
Acetaminophen	Carbamazepine	Digoxin	Methanol	Carbon tetrachloride
Acetonitrile	Chloral hydrate	Disulfoton	Parathion	Triethylenemelamine
Acetylsalicylic acid	Cycloheximide	Ethanol	Procainamide HCl	Valproic acid
Amitriptyline HCl	Dibutyl phthalate	Ethylene glycol	Verapamil HCl	
Busulfan	Diethyl phthalate	Glutethimide		

3.2.5 Selection of Reference Substances for Testing in Phases Ib and II

Based on the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) recommendation that 10 to 20 substances be tested to qualify candidate *in vitro* cytotoxicity tests for determining starting doses for rodent acute oral toxicity assays, 12 reference substances were chosen from among the 72 reference substances for testing in Phases Ib and II (see **Table 3-8**). The criteria for choosing these reference substances, in order of importance, were:

- Two reference substances must be included from each of the five GHS toxicity categories and the unclassified category.
- The log LD_{50} (mmol/kg) must be within the prediction interval (±0.699) of the RC millimole regression. The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) recommends that reference substances for evaluating an *in vitro* basal cytotoxicity test to use with the RC millimole regression fit the regression as closely as possible.
- MEIC chemicals must be included. Cytotoxicity data from these phases (and Phase III of this study), and the available human toxicity information for the MEIC chemicals, could be used to build a prediction model for estimating

human LC values. The Phase Ib reference substances arsenic trioxide and ethylene glycol are also EDIT chemicals (subset of MEIC chemicals).

If more than two substances in a GHS category met the above criteria, reference substances were selected so that the LD_{50} was as close to the RC millimole regression as possible and/or to represent the full range of toxicity in each GHS category.

Table 3-8 Reference Substances Tested in Phases Ib and II

Reference Substances	CASRN	RC Reference No.	MEIC Reference No.	Rodent Oral LD_{50}[1] (mg/kg)	Observed – Predicted log LD_{50}[2]
LD_{50} ≤5 mg/kg					
Aminopterin	54-62-6	3	NA	3	-0.652
Sodium selenate	13410-01-0	NA	NA	1.6[3]	NA
5 < LD_{50} ≤50 mg/kg					
Colchicine	64-86-8	6	60	6[4]	-0.593
Arsenic III trioxide	1327-53-3	153	26	20	-0.591
50 < LD_{50} ≤300 mg/kg					
Cadmium II chloride	10108-64-2	81	NA	88	0.011
Sodium I fluoride	7681-49-4	106	14	180	-0.109
300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg					
DL-Propranolol HCl	350-60-90	54	23	470[4]	-0.023
Lithium I carbonate	544-13-2	327[4]	20	1187[4,5]	-0.256[4]
2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg					
Potassium I chloride	7447-40-7	346	50	2602	0.085
Chloramphenicol	56-75-7	91	45	3393	0.441
LD_{50} >5000 mg/kg					
2-Propanol	67-63-0	128	10	5843	0.396
Ethylene glycol	107-21-1	360	7	8567	0.321

Abbreviations: CASRN=Chemical Abstracts Service Registry Number; RC=Registry of Cytotoxicity; MEIC=Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity; NA=Not applicable *(*i.e., substances not included in the RC and/or MEIC studies); RTECS®=Registry of Toxic Effects of Chemical Substances.

[1]From the RC (Halle 1998, 2003) unless otherwise indicated. Data are for rats unless otherwise indicated.

[2]Available only for substances included in the RC. This figure characterizes the log LD_{50} deviation from the RC regression. Outliers are > ±0.699 from the regression line.

[3]RTECS® (MDL Information Systems 2002).

[4]Mouse data.

[5]For lithium sulfate.

Only nine of the 72 reference substances met all three criteria. In the most toxic category (i.e., LD_{50} ≤5 mg/kg), only one RC chemical, aminopterin, was within 0.699 of the RC millimole regression. Sodium selenate was selected as the second reference substance in this category even though its fit to the RC millimole regression was not known. Neither aminopterin nor sodium selenate were MEIC chemicals. For the 50 < LD_{50} ≤300 mg/kg category, cadmium chloride was selected over the MEIC chemicals cupric sulfate $5H_2O$, diquat dibromide, sodium oxalate, and hexachlorophene because it fit the RC millimole regression better than the four MEIC chemicals (the observed LD_{50} minus log predicted LD_{50} values were -0.534 to -0.337).

3.2.6 Unsuitable and Challenging Reference Substances

Several reference substances could not be adequately tested for cytotoxicity in 3T3 cells and/or NHKs in from one to all three of the laboratories. The following reference substances did not produce sufficient toxicity at soluble concentrations for calculation of an IC_{50} at the highest concentrations tested under the testing conditions used in the study (see also **Tables 5-2, 5-4,** and **5-5**):

- Carbon tetrachloride (no 3T3 or NHK NRU IC_{50} data from ECBC, FAL, or IIVS)
- Xylene (no 3T3 or NHK NRU IC_{50} data from ECBC or FAL)
- Methanol (no 3T3 NRU IC_{50} data from ECBC, FAL, or IIVS; no NHK NRU IC_{50} data from ECBC)
- Lithium carbonate (no 3T3 NRU IC_{50} data from FAL or IIVS)
- 1,1,1-Trichloroethane (no 3T3 NRU IC_{50} data from FAL or IIVS; no NHK NRU IC_{50} data from ECBC)
- Valproic acid (no 3T3 NRU IC_{50} data from ECBC or FAL; no NHK NRU IC_{50} data from ECBC, FAL, or IIVS)

Other reference substances were difficult to test because of volatility or lack of toxicity, but three acceptable tests could be obtained after a number of trials.

- Acetonitrile and 2-propanol were highly volatile and nontoxic, so that even with the use of film plate sealers, from one to seven tests failed the VC and data points test acceptance criteria at each laboratory.
- Disulfoton failed at least one test in both test methods at ECBC and FAL because of inadequate toxicity (i.e., an IC_{50} could not be detected) and insolubility. All laboratories reported precipitate in the test plates for 3T3 and NHK NRU tests. IIVS had no failed tests in either test method.
- Dibutyl phthalate failed one 3T3 NRU test at ECBC and one NHK NRU test at FAL because of inadequate toxicity and solubility.
- Lindane failed one 3T3 NRU test at FAL because of inadequate toxicity and solubility and one because of its volatility.
- Parathion failed one test because of inadequate toxicity and solubility in both test methods and one NHK NRU test because of volatility at FAL.
- Diethyl phthalate failed one NHK NRU test because of volatility at FAL.
- Digoxin (all laboratories), gibberellic acid (ECBC and FAL), and strychnine (ECBC and FAL) failed at least one 3T3 NRU test because of inadequate toxicity and solubility.

3.3 Reference Substance Procurement, Coding, and Distribution

BioReliance collected information from the suppliers of the reference substances on their analytical purity, composition, and stability (see **Appendix F1**), tested the reference substances for solubility, packaged them into 4 g aliquots for shipment to the testing laboratories, and archived two additional samples. All reference substances were given a random number code that was unique for each testing facility to conceal the identities from the testing laboratories. Approximately 100 g of the PC substance, SLS, was distributed, uncoded, to each laboratory and one additional sample was archived.

Reference substances were packaged so as to minimize damage during transit, and shipped under appropriate storage conditions and according to the appropriate regulatory transportation procedures. Testing facilities were notified upon shipment in order to prepare for receipt. With the exception of the PC substance which was shipped directly to the Study Directors, the reference substances were shipped to the test facility Safety Officers. Shipments were accompanied by a sealed information packet containing the appropriate health and safety procedures (i.e., MSDS or equivalent documentation with information regarding the proper protection for handling, procedures for dealing with accidental ingestion or contact with skin or eyes, and for containing and recovering spills), and a code disclosure key. Also provided was a data sheet giving a minimum of essential information needed by the testing laboratory for each reference substance, including color, odor, physical state, weight or volume of sample, specific density for liquid reference substances, and storage instructions. The shipment directed the Safety Officer to:

- Notify BioReliance and the SMT upon receipt of reference substances
- Retain the health and safety package and provide the coded reference substances and chemical data sheets with minimum essential information to the laboratory Study Director without revealing the identities of the test substances
- Notify the SMT if test facility personnel open the health and safety packet at any time, for any reason, during the study
- Return the unopened health and safety package to BioReliance after testing is completed

3.3.1 Exceptions

The Safety Officer for ECBC required the information on reference substance codes before the substances were shipped in order to satisfy the facility's environmental procedures and requirements. The reference substance codes were stored in a classified safe located in the Safety Office which was in a building separate from the cytotoxicity testing laboratory, and were to be opened only by the Safety Officer. The ECBC Safety Officer opened the sealed health and safety packets for lithium carbonate and ethanol upon receipt of those substances because the code information for these substances was not included in the list originally provided. ECBC cytotoxicity testing personnel did not have direct access to the reference substance codes.

3.4 Reference Substances Recommended by the *Guidance Document*

The *Guidance Document* specifically recommended testing the following 11 substances to validate candidate *in vitro* basal cytotoxicity assays: sodium dichromate dihydrate, cadmium chloride, *p*-phenylenediamine, DL-propranolol HCl, trichlorfon, ibuprofen, nalidixic acid, salicylic acid, antipyrene, dimethylformamide, and glycerol (ICCVAM 2001b). Of these 11 substances (see **Appendix F3** and **Section 3.1.2**), five (sodium dichromate dihydrate, cadmium chloride, DL-propranolol HCl, dimethylformamide, and glycerol) were chosen for testing after the candidate substances were prioritized as described in **Section 3.1.3**. The seven that were not selected did not satisfy the selection criteria (e.g., not MEIC chemicals, not identified as high exposure risk in TESS)

3.5 Summary

Seventy-two reference substances were selected for testing in the NICEATM/ECVAM validation study. These substances were selected to represent: (1) the complete range of *in vivo* acute oral LD_{50} values; (2) the types of substances regulated by the various regulatory authorities; and (3) those with human toxicity data and/or human exposure potential. To insure that the complete range of toxicity was covered, the GHS (UN 2005) was used to select 12 substances for each acute oral toxicity category and 12 unclassified substances. The set of selected reference substances had the following characteristics:

- Thirty-five percent (27/77 uses) were pharmaceuticals, 22% (17/77 uses) were pesticides, 10% (8/77 uses) were solvents, and 6% (5/77 uses) were food additives. The remaining substances were used for a variety of manufacturing and consumer products.
- In terms of relevance of the substances to human exposure, 58% (42/72) were included in the MEIC study (substances chosen because of availability of human lethality data), 24% (17/72) were included also in the EDIT program (EDIT substances are a subset of the MEIC substances), 64% (46/72) had human exposure data reported by TESS, 71% (51/72) had been evaluated by NTP, and 25% (18/72) were on the EPA HPV list.
- Eighty-one percent (58/72) of the substances were in the RC and 38% (22/58) of these were outliers with respect to the RC millimole regression. The RC millimole regression underpredicted the toxicity of 77% (17/22) of the outliers and overpredicted the toxicity of 23% (5/22). For the 95 outlier substances in the RC, however, the number of substances for which toxicity was over- or under-predicted was approximately the same (i.e., toxicity was underpredicted for 49 [52%] outliers and overpredicted for 46 [48%] outliers [Halle 1998, 2003]).
- Seventy-nine percent (57/72) were organic compounds and 21% (15/72) were inorganic. The most commonly represented classes of organic compounds were heterocyclics (25%, 14/57), carboxylic acids (25%, 14/57), and alcohols (18%, 10/57).
- Nineteen substances (26%, 19/72,) were known to have active metabolites and three others were expected to have active metabolites based on their chemical structures.
- Many of the substances produced toxicity in more than one organ system. The most common target systems were neurological (40 substances), liver (17 substances), kidney (15 substances), and cardiovascular (10 substances). No target organ information was available for one substance (gibberellic acid).

[This Page Intentionally Left Blank]

4.0 RODENT ACUTE ORAL LD_{50} REFERENCE VALUES USED TO ASSESS THE ACCURACY OF THE 3T3 AND NHK NRU TEST METHODS

The procedures and analyses presented in this section were designed to identify the most accurate rodent acute oral LD_{50} values for the 72 reference substances used in the validation study. These values were needed to ensure that the reference substances were correctly placed within the different GHS toxicity categories and to provide a data set against which to compare the predicted LD_{50} values estimated using the IC_{50} data obtained from the 3T3 and NHK NRU test methods (see **Section 6**). The predicted LD_{50} values are used to determine the starting dose for rodent acute oral toxicity tests and the more accurate the prediction, the fewer the number of rodents that would be used in an acute oral toxicity test (see **Sections 1.0** and **1.2.2**).

4.1 Methods Used to Obtain Rodent Acute Oral LD_{50} Reference Values

4.1.1 Identification of Candidate Rodent Acute Oral LD_{50} Reference Data

No animal testing was performed to obtain the rodent oral acute LD_{50} reference data for this validation study. To identify reference data for the 72 substances, rat acute oral LD_{50} studies were located using literature searches, secondary references, and electronic database searches. Literature searches were conducted in PubMed (U.S. NLM) and the Institute of Scientific Information (ISI) Web of Science® (Thomson Scientific, Philadelphia, PA) using each chemical name and "lethal dose 50" as search terms. Secondary references included NTP technical reports, Toxicological Profiles from the Agency for Toxic Substances and Disease Registry (ATSDR), Cosmetic Ingredient Reviews by the Cosmetics Industry Council, pesticide handbooks, the Merck Index, and various other summary sources. **Table 4-1** lists the electronic databases searched to locate references for rat oral LD_{50} values. Rat LD_{50} data were preferred because:

- The current acute oral toxicity test guidelines recommend using rats (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a)
- The majority of LD_{50} data used in the RC millimole regression were from studies using rats (282 rat data points and 65 mouse data points) (Halle 1998, 2003)
- The majority of acute oral systemic toxicity testing is performed with rats

Table 4-1 Internet-Accessible Databases Searched for LD_{50} Information

Database/Source[1]	Sponsor(s)
Agency for Toxic Substances and Disease Registry (ATSDR)	U.S. Department of Health and Human Services (DHHS)
Center for Drug Evaluation and Research (CDER)	U.S. Food and Drug Administration (FDA)
CHEMFINDER	CambridgeSoft Corporation
Chemical Carcinogenesis Research Information System (CCRIS); National Cancer Institute (NCI) Website	NCI; National Institutes of Health (NIH); DHHS
Chemical Evaluation Search and Retrieval System (CESARS)	Michigan Department of Natural Resources; Ontario Ministry of the Environment; Canadian Centre for Occupational Health and Safety (CCOHS) CHEMpendium™
Chemical Hazard Response (CHRIS)	U.S. Coast Guard

Table 4-1 Internet-Accessible Databases Searched for LD_{50} Information

Database/Source[1]	Sponsor(s)
Chemical Ingredients Database	U.S. Environmental Protection Agency (EPA) Office of Pesticide Programs (OPP); California EPA Department of Pesticide Regulation
CHEMINDEX; CHEMINFO	(CCOHS) CHEMpendium™
ChemRTK High Production Volume (HPV) Challenge Program; OPPT Chemical Fact Sheets; Chemical Information Collection and Data Development	EPA Office of Pollution Prevention and Toxics (OPPT)
CIS Chemical Information	World Health Organization (WHO) International Programme on Chemical Safety (IPCS); CCOHS; International Labour Organisation (ILO) Occupational Safety and Health Information Centre (CIS)
Concise International Chemical Assessment Documents (CICADS)	WHO IPCS; CCOHS; ILO; United Nations Environment Programme (UNEP)
Consumer Product Safety Commission Website	U.S. Consumer Product Safety Commission (CPSC)
Deutsches Institut fur Medizinische Dokumentation und Information (DIMDI) [The German Institute for Medical Documentation and Information]; Registry of Cytotoxicity (RC)	Zentralstelle zur Erfassung und Bewertungvon Ersatz- und Erganzungsmethoden zum Tierversuch (ZEBET) [German Centre for the Documentation and Validation of Alternative Methods]
Developmental and Reproductive Toxicology/Environmental Teratology Information Center (DART®/ETIC)	EPA; The National Library of Medicine (NLM); The National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); National Center for Toxicological Research (NCTR)
Emergency Response Guidebook (ERG 2000)	Transport Canada; U.S. Department of Transportation (DOT); Secretariat of Communications and Transportation of Mexico
Environmental Health Criteria (EHC) monographs; Health and Safety Guides (HSG); International Agency for Research on Cancer (IARC)	WHO IPCS; CCOHS
European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) Scientific Information Service (ECVAM SIS)	European Commission Joint Research Centre
HAZARDTEXT®; MEDITEXT®; INFOTEXT®; SARATEXT®; REPROTEXT®; REPROTOX®	TOMES Plus®, MICROMEDEX, Greenwood Village, CO
Integrated Risk Information System (IRIS)	EPA Office of Research and Development (ORD)
International Chemical Safety Cards (ICSC) IPCS/EC Evaluation of Antidotes Series	WHO IPCS; CCOHS; Commission of the European Union (EU)
International Uniform Chemical Information Database (IUCLID)	European Chemicals Bureau
Joint Expert Committee on Food Additives (JECFA); Joint Meeting on Pesticide Residues (JMPR); Pesticide Data Sheets (PDS)	WHO IPCS; CCOHS; Food and Agriculture Organization (FAO) of the United Nations
Material Safety Data Sheets (MSDS)	Interactive Learning Paradigms, Incorporated
Multicentre Evaluation of In Vitro Cytotoxicity (MEIC)	Scandinavian Society for Cell Toxicology
The National MSDS Repository	MSDSSEARCH, Inc.
National Toxicology Program (NTP) Chemical Health and Safety Database	NIEHS
National Transportation Library	DOT
New Jersey Hazardous Substance Fact Sheets	New Jersey Department of Health and Senior Services
Oil and Hazardous Materials/Technical Assistance	EPA Office of Waste and Water Management

Table 4-1 Internet-Accessible Databases Searched for LD_{50} Information

Database/Source[1]	Sponsor(s)
Data System (OHM/TADS)	
Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) Screening Information Data Sets (SIDS)	IPCS; CCOHS; International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC); UNEP
Pesticide Action Network Pesticide Database	Pesticide Action Network North America
Pesticide Product Information System (PPIS)	EPA Office of Pesticide Programs (OPP)
Poisons Information Monographs (PIMs)	IPCS; CCOHS
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS®);NIOSH Pocket Guide to Chemical Hazards	National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH)
SCORECARD	Environmental Defense
The EXtension TOXicology NETwork (EXTOXNET)	University of California, Davis; Oregon State University; Michigan State University; Cornell University; University of Idaho
The Right-to-Know Network (RTK NET)	Office of Management and Budget Watch; Center for Public Data access
Toxic Chemical Release Inventory (TRI); GENE-TOX	The National Library of Medicine (NLM)
Toxic Substances Control Act Test Submissions (TSCATS)	EPA OPPT
TOXLINE®; Hazardous Substances Data Bank (HSDB); ChemIDplus	NLM (TOXNET)

Abbreviations: LD_{50}=Dose lethal to 50% of the animals tested
[1]Includes public and proprietary databases

A total of 195 references containing LD_{50} data retrieved through these searches were reviewed and evaluated. Information regarding the materials, animals, and methods used to derive the 491 LD_{50} values reported by these references were compiled and are provided in **Appendix H1**. **Appendix H2** provides a narrative characterization and evaluation of the LD_{50} values.

4.1.2 Criteria Used to Select Candidate Rodent Acute Oral Data for Determination of LD_{50} Reference Values

This effort was to designed to derive a set of high quality reference oral LD_{50} values from data that were collected using standardized protocols, accompanied by documentation showing that established testing procedures were followed in compliance with national and international GLP guidelines (OECD 1998; FDA 2003; EPA 2003a,b). After a review of the collected data, the SMT determined that a requirement for GLP compliance would eliminate 99% (452 of the 459 values remaining after exclusion of 30 duplicate values and two erroneous values) of the oral LD_{50} values.

The SMT then considered limiting the selection of LD_{50} values to those from studies that used the specifications for animals recommended by the current acute oral toxicity test guidelines. The current guidelines recommend using young adult rats, 8 to 12 weeks of age, of a common laboratory strain (e.g., Sprague-Dawley) and the most sensitive sex (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a). Female animals are recommended if there is no information from which to determine the most sensitive sex. A limited number of LD_{50} values were available

from animals that fit this description; only 3% (14/459) of the oral LD_{50} values were determined using 8 to 12 week old female laboratory rats. An additional 15 LD_{50} values were obtained from female rats in an appropriate weight range (age not provided in the reference) for that age range (~ 176-250 g according to Charles River [http://www.criver.com], Harlan [http://www.harlan.com/us/index.htm], and Taconic Farms [http://www.taconic.com/anmodels/spragued.htm] websites). Thus, only 6% (29/459) of the acute oral LD_{50} values in the database, covering 21 of the 72 reference substances (29%), were from studies that used the strain, sex, and age of rats recommended by current test guidelines (OECD 2001a; EPA 2002a).

4.1.2.1 *Final Exclusion Criteria*

Because so few studies met the initial criteria (i.e., GLP compliance and use of animals recommended by current acute oral toxicity test guidelines), the database was reviewed and evaluated to derive alternative criteria for the development of reference LD_{50} values. For this evaluation, the SMT looked for commonalities among the data records that, when selected, provided a comparable data set for each chemical. Review of the available data indicated that the majority of acute oral toxicity tests were conducted by gavage to unanesthetized, young adult laboratory rats of both genders. Thus, the selection process was revised to exclude studies that reflected the following, less typical, materials, animals, and methods in order to compile a homogenous set of reference LD_{50} values for each chemical. The studies excluded were those with:

- Feral rats
- Rats <4 weeks of age
- Anesthetized rats
- Test chemical administered in food or capsule
- LD_{50} reported as a range or inequality

Data from feral rats were excluded because the health status and age of these animals was uncertain. All laboratory rat strains/stocks were deemed acceptable on the assumption that they were healthy and provided with adequate care and housing during testing. Data from neonates and weanlings were excluded because their sensitivity to chemical toxicity may differ from that of adults. Four weeks was considered the minimum acceptable age because rats are typically weaned at approximately three weeks of age (Barrow 2000). Data from feeding experiments or experiments that involved administration of the chemical in capsules were also excluded because gavage is the most common mode of administration for acute oral studies and the rate of gastrointestinal absorption for these other methods is likely to be different (Nebendahl 2000). Because LD_{50} point estimates are required for the prediction model, LD_{50} values reported as ranges or inequalities were unacceptable.

4.1.2.2 *Assumptions Regarding Materials, Animals, and Methods*

The level of detail for describing the materials, animals, and methods for the LD_{50} studies varied greatly. For example, some studies reported only that white rats were used, while others provided complete information on stock/strain, gender, and age of animals. Details on other protocol components such as the number of animals tested per dose group, method of administration, doses administered, clinical signs, and times of death varied as well. In order to use as much of the available data as possible, the following assumptions were made if a study report did not state otherwise:

- Rats were young adults of a common laboratory strain
- Rats were not anesthetized
- Oral route of administration was by gavage

4.1.2.3 *Calculation of Reference LD_{50} Values*

If a substance had multiple LD_{50} values after the application of the exclusion criteria, the outliers at the 99% level (Dixon and Massey 1981) were excluded. A geometric mean and 95% confidence limits were calculated from the remaining values, and used as the reference LD_{50}. A geometric mean was used because it is the antilog of the mean of the logarithm of the values and is less affected than the arithmetic mean by extreme values. The use of a geometric mean also corresponds with the approach used for the RC millimole regression to derive a single IC_{50} value from multiple IC_{50} values (Halle 1998, 2003), and with the approach used to derive the IC_{50} value for each chemical for the *in vitro* - *in vivo* regressions evaluated in the NICEATM/ECVAM validation study (see **Section 6**).

In addition to the statistical evaluation of outliers, an extreme value, which was not a statistical outlier but was based on biological plausibility, was identified for trichloroacetic acid. This chemical had five reported LD_{50} values ranging from 400-8900 mg/kg after applying the exclusionary criteria. The lowest value (400 mg/kg) was rejected as biologically implausible because up to 1000 mg/kg/day had been used in an oral chronic rodent carcinogenicity study with no, or only minimal, toxicity (EPA 1996).

4.1.2.4 *Use of Rat and Mouse Data*

If no rat oral LD_{50} values could be found for a reference substance, mouse acute oral LD_{50} values were evaluated using the same approach as was used for rat values. Because an IC_{50}-LD_{50} regression model using only rat data was preferable, the three reference substances (i.e., epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben) for which mouse values only were available were not used for the evaluations of accuracy (**Section 6**) or animal reduction (**Section 10**).

4.2 Final Rodent Acute Oral LD_{50} Reference Values

After the application of the exclusionary criteria, there were 385 acceptable rodent acute oral LD_{50} values from which to calculate reference LD_{50} values. **Table 4-2** shows the reference LD_{50} value for each substance in descending order of toxicity, presented both as mg/kg and as mmol/kg. Data are presented as mmol/kg in order to be consistent with the RC approach. The RC millimole regression used units of mmol/kg for the LD_{50} and mM for the IC_{50} (see **Section 1.1.3**). Also shown for each substance are the 95% confidence limits around the geometric mean, the ratio of the maximum to the minimum acceptable value, the number of LD_{50} values used to calculate the reference value, the number of LD_{50} values available (not including duplicate values or erroneous values), and the LD_{50} value initially used for hazard classification of the reference substance (see **Table 3-2**).

Table 4-2 lists the reference substances grouped by GHS acute oral toxicity category (UN 2005) using the reference LD_{50} values that were derived as described above. The initial categorization for this study, which used the LD_{50} values in the far right column of **Table 4-2** (i.e., values reported in **Table 3-2**, which come from the RC unless otherwise specified), placed 12 substances in each toxicity category. **Table 4-3** compares the number of substances in each GHS toxicity category based on their reference LD_{50} values with the number in each

category based on the initial LD_{50} values. The initial and reference LD_{50} values placed 53 (74%) of the substances in the same GHS category. Nineteen substances (26%) were reclassified based on the reference LD_{50} values (this value is the sum of the numbers in the discordant cells in **Table 4-3)**. Compared with the initial LD_{50} value, the reference LD_{50} value was higher for 18 (25%) and lower for only one (1%) of the substances.

Of the 19 reference substances that were reclassified because of the reference LD_{50} values, five substances originally assigned to the most toxic, $LD_{50} \leq 5$ mg/kg, category (i.e., aminopterin, mercury chloride, busulfan, parathion, and strychnine) were moved to the next, less toxic, category ($5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg). In the $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg category, four substances (dichlorvos, fenpropathrin, sodium dichromate dihydrate, and nicotine) moved to the less toxic $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg category, and one (triphenyltin hydroxide) moved two categories to $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg. In the $50 < LD_{50} \leq 300$ category, four substances (haloperidol, caffeine, copper sulfate pentahydrate, and sodium oxalate) moved to a lower toxicity category ($300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg). Only carbamazepine moved from the $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg category to the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category. In the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category, citric acid, trichloroacetic acid and dimethylformamide moved to the next lower toxicity category ($LD_{50} > 5000$ mg/kg). In the $LD_{50} > 5000$ mg/kg category, 5-aminosalicylic acid moved to the higher toxicity, $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category. This was the only substance that moved to a more toxic category

4.3 Relevant Toxicity Information for Humans

The relevance of rodent acute oral LD_{50} data to human LC values was assessed by the MEIC program (Ekwall et al. 1998b), which used mouse and rat oral LD_{50} data from RTECS® (Ekwall et al. 1998a). Mean lethal doses in humans were collected primarily from handbooks containing human clinical toxicity information (Ekwall et al. 1998a) supplemented, when necessary, by an in-house compendium from the Swedish Poisons Information Centre. Ekwall et al. (1998b) calculated least squares linear regressions for the prediction of the mean human LC values by rat and/or mouse oral LD_{50} data for the 50 MEIC substances using units of log mol/kg. They reported a correlation of $R^2 = 0.607$ for the rat oral LD_{50} prediction of mean human LC values and $R^2 = 0.653$ for the mouse oral LD_{50} prediction of mean human LC values. It is important for comparisons of MEIC data with rodent LD_{50} values to note that the MEIC human values are not lethal doses, and therefore not equivalent to LD_{50} values. Many of the values (if not the majority) are blood concentrations that were associated with morbidity or mortality, and usually do not reflect the actual dose consumed by the patient. These are not necessarily the peak blood concentrations, but only the concentrations at the time of ascertainment, which could have ranged from immediately after onset of medical treatment to post-mortem. The MEIC organizers readily admitted that they could not relate the blood concentrations to the administered dose.

The relevance of the NRU data collected in the NICEATM/ECVAM validation study to the prediction of human acute toxicity will be addressed elsewhere by ECVAM in a separate evaluation.

Table 4-2 Rodent Acute Oral Reference LD_{50} Values Listed by GHS Category[1]

GHS Category[1]/ Reference Substance	Reference Acute Oral LD_{50}[2,3] (mg/kg)	95% Confidence Interval[4] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50} Range[5] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50}[2] (mmol/kg)	95% Confidence Interval[4] (mmol/kg)	Maximum: Minimum Value[6]	N	Initial Rodent Acute Oral LD_{50}[3,7] (mg/kg)
LD_{50} ≤5 mg/kg (N =7)								
Cycloheximide	2	NC	1-2.5	0.00711	NC	2.5	3	2
Phenylthiourea	3	NC	3	0.0197	NC	NC	1	3
Sodium selenate	3	NC	1.6-5.98	0.0159	NC	3.7	2	2[8]
Epinephrine bitartrate	4 (mouse)	NC	4	0.0196	NC	NC	1	4 (mouse)
Triethylenemelamine	4	1-25	1-13	0.0120	0.0037-0.12	13.0	4	1
Physostigmine	5	NC	5	0.0182	NC	NC	1	5[8]
Disulfoton	5	2-10	2.3-12.6	0.0182	0.009-0.036	5.5	6	2
5 < LD_{50} ≤50 mg/kg (N =12)								
Parathion	6	3-12	1.8-30	0.0209	0.010-0.041	16.7	10	2
Strychnine	6	NC	2.35-16.2	0.0188	NC	6.9	3	2[8]
Aminopterin	7	NC	7	0.016	NC	NC	1	3 (mouse)
Potassium cyanide	7	5-10	5-10	0.111	0.077-0.15	2.0	7	10
Busulfan	12	NC	1.9-29	0.049	0.008-0.38	15.3	4	2
Colchicine	15 (mouse)	NC	5.886-29	0.0375	NC	4.9	3	6 (mouse)
Thallium I sulfate	25	NC	25	0.0495	NC	NC	1	29 (mouse)
Arsenic III trioxide	25	10-64	13-81.5	0.127	0.050-0.32	6.3	5	20
Endosulfan	28	NC	18-43	0.068	NC	2.4	2	18[8]
Digoxin	28	NC	28	0.0362	NC	NC	1	18 (mouse)
Mercury II chloride	40	27-60	12-92	0.148	0.010-0.22	7.7	10	1
Sodium arsenite	44	36-53	36-53	0.336	0.28-0.40	1.5	5	41[8]
50 < LD_{50} ≤300 mg/kg (N =12)								
Sodium dichromate dihydrate	51	44-58	34.17-64.5	0.193	0.17-0.22	1.9	11	50
Dichlorvos	59	40-88	17-97.5	0.266	0.18-0.40	5.7	9	17[8]
Nicotine	70	68-72	68-71	0.430	0.42-0.44	1.0	4	50
Fenpropathrin	76	57-100	48.5-164	0.217	0.16-0.29	3.4	9	18[8]
Hexachlorophene	82	68-98	56-215	0.202	0.17-0.24	3.8	19	61
Paraquat	93	65-132	57-115	0.498	0.35-0.71	2.0	5	58
Lindane	100	78-129	88-125	0.344	0.27-0.44	1.4	4	76
Verapamil HCl	111	NC	108-114	0.226	NC	1.1	2	108

Table 4-2 Rodent Acute Oral Reference LD_{50} Values Listed by GHS Category[1]

GHS Category[1]/ Reference Substance	Reference Acute Oral LD_{50}[2,3] (mg/kg)	95% Confidence Interval[4] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50} Range[5] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50}[2] (mmol/kg)	95% Confidence Interval[4] (mmol/kg)	Maximum: Minimum Value[6]	N	Initial Rodent Acute Oral LD_{50}[3,7] (mg/kg)
Sodium I fluoride	127	92-175	64-279	3.020	2.19-4.16	4.4	12	180
Cadmium II chloride	135	88-208	88-211	0.738	0.48-1.14	2.4	5	88
Diquat dibromide	160	NC	121-231	0.466	NC	1.9	3	231
Phenobarbital	224	NC	162-318	0.966	NC	2.0	3	163
300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg (N =16)								
Caffeine	310	256-374	192-483	1.59	1.32-1.93	2.5	10	192
Triphenyltin hydroxide	329	208-520	46.4-1200	0.896	0.57-1.42	25.9	15	44
Haloperidol	330	NC	128-850	0.877	NC	6.6	2	128[8]
Amitriptyline HCl	348	NC	320-380	1.18	NC	1.2	2	319
Propranolol HCl	466	NC	466	1.575	NC	NC	1	470 (mouse)
Cupric sulfate • 5 H_2O	474	269-836	236.2-960	1.90	1.08-3.35	4.1	6	300
Phenol	548	434-692	317-1500	5.82	4.82-7.68	4.7	14	414
Lithium carbonate	590	479-728	525-710	7.98	6.5-9.9	1.4	4	1187 (mouse; sulfate salt)
Glutethimide	600	NC	600	2.76	NC	NC	1	600
Sodium oxalate	633	NC	558-707	4.724	NC	1.3	2[11]	155 (mouse)[9]
Chloral hydrate	638	391-1040	479-863	3.86	2.36-6.29	1.8	4	479
Atropine sulfate	819	641-1045	600-1136	1.21	0.95-1.54	1.9	7	623
Valproic acid	995	NC	670-1480	6.91	NC	2.2	2	1695 (mouse)
Meprobamate	1387	1291-1489	1286-1522	6.35	5.92-6.82	1.2	6	794[8]
Acetylsalicylic acid	1506	1224-1854	616-2840	8.36	6.8-10.3	4.6	14[11]	1000
Procainamide HCl	1950	NC	1950	8.286	NC	NC	1	1950[8]
2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg (N =11)								
Acetaminophen	2163	NC	1944-2404	14.3	NC	1.2	2	2404
Potassium I chloride	2799	NC	2600-3020	37.6	NC	1.2	2	2602
Carbamazepine	2805	NC	1957-4025	11.9	NC	2.1	2	1957[8]
Boric aid	3426	2617-4486	2660-5140	55.4	42.3-72.6	1.9	6	2660[8]
5-Aminosalicylic acid	3429	NC	2800-4200	22.4	NC	1.5	2	7749 (mouse)
Chloramphenicol	3491	NC	2500-5000	10.8	NC	2.0	3	3393
Acetonitrile	3598	2951-4375	1320-8120	87.6	71.9-107	6.2	26	3798
Lactic acid	3639	NC	3543-3730	40.3	NC	1.1	2	3730

Table 4-2 Rodent Acute Oral Reference LD_{50} Values Listed by GHS Category[1]

GHS Category[1]/ Reference Substance	Reference Acute Oral LD_{50}[2,3] (mg/kg)	95% Confidence Interval[4] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50} Range[5] (mg/kg)	Reference Acute Oral LD_{50}[2] (mmol/kg)	95% Confidence Interval[4] (mmol/kg)	Maximum: Minimum Value[6]	N	Initial Rodent Acute Oral LD_{50}[3,7] (mg/kg)
Carbon tetrachloride	3783	3024-4732	2350-10054	24.6	20-31	4.3	15	2799
Sodium chloride	4046	2917-5623	3000-6140	69.3	50-96	2.0	5	2998
Xylene	4667	1294-16827	1537-8620	43.9	12-158	5.6	4	4300
LD_{50} >5000 mg/kg (N =14)								
2-Propanol	5105	4624-5636	4500-5840	84.9	77-94	1.3	6	5843
Trichloroacetic acid	5229	2745-9961	3320-8900	32.0	16.8-61.0	2.7	4	4999
Dimethylformamide	5309	3548-7925	2800-7182	72.6	49-108	2.6	6	2800
Citric Acid	5929	NC	3000-11700	30.9	NC	3.9	2	3000[8]
Gibberellic acid	6040	NC	5780-6300	17.4	NC	1.1	2	6305
Propylparaben	6332 (mouse)	NC	6332	35.1	NC	NC	1	6326 (mouse)
Ethylene glycol	7161	6266-8204	4000-9900	115.4	101-132	2.5	16	8567
Methanol	8710	6223-12218	5628-12880	272	194-381	2.3	6	13012
Dibutyl phthalate	8892	6180-12794	7499-12436	31.9	22-46	1.7	4	11998
Diethyl phthalate	9311	NC	8600-10100	41.9	NC	1.2	2	8602
Sodium hypochlorite	10328	NC	8200-13000	62.8	NC	1.6	2	8910[10]
Ethanol	11324	8610-14894	7060-17775	245.7	187-323	2.5	8	14008
1,1,1-Trichloroethane	12078	10000-14588	9600-16000	90.5	75-109	1.7	6	10298
Glycerol	19770	10495-37154	12600-27650	215	114-403	2.2	4	12691

Abbreviations: LD_{50}=dose lethal to 50% of the animals tested; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); N=Number of acceptable values used for geometric mean; NC=Not calculated.

[1]Categorized using the reference oral LD_{50}.

[2]Based on a geometric mean of acceptable LD_{50} values from adult laboratory rats unless otherwise specified.

[3]Values rounded to the nearest whole number.

[4]For the geometric mean of the acceptable LD_{50} values, NC is used for substances with three acceptable values or less, which was considered too few for calculation of a valid confidence interval.

[5]Range of acceptable oral LD_{50} values.

[6]Ratio of minimum acceptable LD_{50} to maximum acceptable LD_{50}.

[7]Values rounded to the nearest whole number. Values are from the RC unless otherwise specified; rat data unless otherwise specified.

[8]RTECS® (MDL Information Systems 2002).

[9]RC reference for rat oral LD_{50} of 155 mg/kg is Shrivastava et al. (1992), which references Klinger and Kersten (1961). Klinger and Kersten (1961) indicate the value was determined by intraperitoneal administration to mice.

[10]HSDB (NLM 2002).

[11]An erroneous value obtained from the literature was not included.

Table 4-3 GHS Category Matches for the Rodent Acute Oral LD_{50} Initial and Reference Values

Initial LD_{50} (mg/kg[1])	Reference LD_{50} (mg/kg)						Total	Category Match	Reference LD_{50} Lower	Reference LD_{50} Higher
	$LD_{50} \leq 5$	$5 < LD_{50} \leq 50$	$50 < LD_{50} \leq 300$	$300 < LD_{50} \leq 2000$	$2000 < LD_{50} \leq 5000$	$LD_{50} > 5000$				
$LD_{50} \leq 5$	7	5	0	0	0	0	12	58%	0%	42% (5)
$5 < LD_{50} \leq 50$	0	7	4	1	0	0	12	58%	0%	42% (5)
$50 < LD_{50} \leq 300$	0	0	8	4	0	0	12	67%	0%	33% (4)
$300 < LD_{50} \leq 2000$	0	0	0	11	1	0	12	92%	0%	8% (1)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	0	0	0	0	9	3	12	75%	0%	25% (3)
$LD_{50} > 5000$	0	0	0	0	1	11	12	92%	8%	0% (0)
Total	7	12	12	16	11	14	72	74%	1%	25% (18)

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); LD_{50}=Dose lethal to 50% of animals tested.
Note: Shaded cells show the number of chemicals for which both LD_{50} categories agree.
[1]Initial LD_{50} values were used for reference substance selection and were obtained from the RC (Halle 1998, 2003), RTECS® (MDL Information Systems 2002), and HSDB (NLM 2002) (see **Table 3-2**).

4.4 Accuracy and Reliability of the Rodent Acute Oral LD_{50} Reference Values

Accuracy (concordance) is the closeness of agreement between a test method result and an accepted reference value (in this case to the rodent acute oral LD_{50} measurement) (ICCVAM 2003). Because there are insufficient data to permit a comparison between rodent and human lethal doses, the accuracy of rodent acute oral LD_{50} values for predicting the oral LD_{50} in humans cannot be determined. Acute toxicity testing in rodents leads to a relative ranking of the toxicity of chemicals for regulatory purposes, with the default assumption that the rodent values and ranking are predictive of the human values and ranking.

The among laboratory reproducibility of the reference LD_{50} values determined in this section may be judged by evaluating the range of acceptable LD_{50} values for each reference substance and by comparing the values (and their variability) with the variability of LD_{50} values derived from controlled acute oral toxicity studies.

4.4.1 Variability Among the Acceptable LD_{50} Values

The variability among the acceptable rodent acute oral LD_{50} values used to calculate the reference LD_{50} value for each reference substance was assessed by calculating the ratio of the maximum to the minimum value (see **Table 4-2**). For the 62 reference substances with more than one acceptable LD_{50} value, the maximum:minimum ratio ranged from 1.1 to 25.9, with a mean of 4.3 and a median of 2.2. The maximum:minimum ratios were greater than 10 for four substances: triethylenemelamine, parathion, busulfan, and triphenyltin hydroxide. The low LD_{50} values for triethylenemelamine, busulfan, and parathion may have contributed to the high maximum:minimum ratios. The four LD_{50} values for triethylenemelamine ranged from 1 to 13 mg/kg, the four values for busulfan ranged from 1.9 to 29 mg/kg, and the 10 values for parathion ranged from 1.8 to 30 mg/kg.

Table 4-4 shows the maximum:minimum LD_{50} ratios by toxicity category. The more toxic substances (i.e., $LD_{50} \leq 50$ mg/kg) tended to have higher maximum:minimum ratios than substances with lower toxicity (i.e., $LD_{50} > 50$ mg/kg). This is anticipated because small day-to-day, or laboratory-to-laboratory variations in weighing and dosing the lower concentrations would have a higher impact on the chemicals being administered in low doses than those being administered in the high dose range.

Table 4-4 Maximum:Minimum LD_{50} Ratios by GHS Toxicity Category

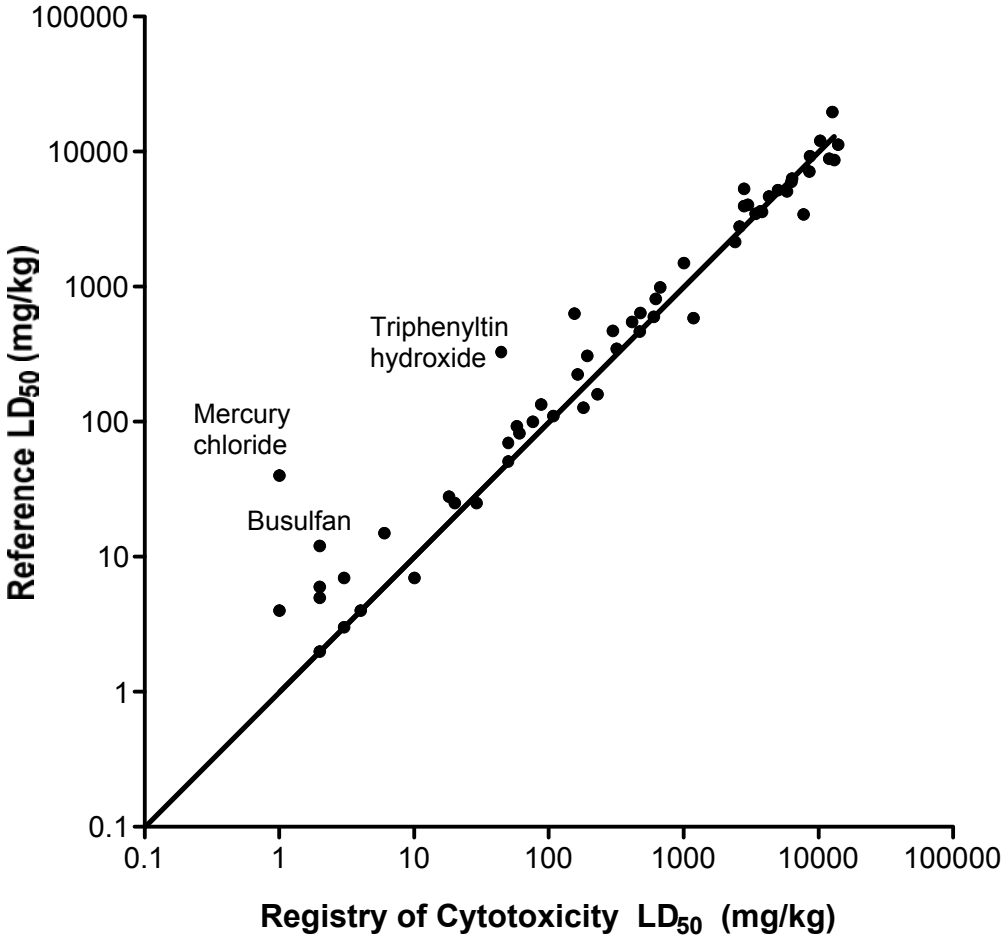
GHS Category (LD_{50} in mg/kg)	Mean Maximum:Minimum LD_{50} Ratio	Median Maximum:Minimum LD_{50} Ratio	Range of Maximum:Minimum LD_{50} Ratio	N
$LD_{50} \leq 5$	6.2	4.6	2.5 – 13.0	4
$5 < LD_{50} \leq 50$	7.1	6.3	2.0 - 16.7	9
$50 < LD_{50} \leq 300$	2.4	1.9	1.1 - 5.7	12
$300 < LD_{50} \leq 2000$	4.6	2.2	1.2 - 25.9	13
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	2.6	2.0	1.2- 22.3	11
$LD_{50} > 5000$	2.3	2.3	1.1 - 3.9	13

Abbreviations: LD_{50}=Dose lethal to 50% of animals tested; GHS-Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); N=Number of chemicals with more than one acceptable LD_{50} value after application of the exclusion criteria described in **Section 4.1.2**.

4.4.2 Comparison of Rodent Acute Oral LD_{50} Reference Values with the Corresponding RC LD_{50} Values

The correspondence of the rodent acute oral LD_{50} reference values with the RC LD_{50} values for the 58 reference substances in common with the RC are shown on a log scale in **Figure 4-1**. Not surprisingly, a Spearman correlation analysis for the two sets of log transformed values yielded a significant correlation ($p < 0.0001$) with a correlation coefficient, r_s, of 0.97. **Figure 4-1** shows that the LD_{50} reference values tended to be higher than the RC LD_{50} values. One factor in this difference is that the majority of LD_{50} values used in the RC were from the 1983/84 RTECS®, which contains the lowest LD_{50} value found for a particular chemical without regard to the available methodological information, without consideration of whether it is an outlier with respect to the other available values, and without scientific review before publication. Thus, because the reference LD_{50} values are based on the geometric mean from multiple studies, it is not surprising that these values tended to be higher than the single values in the RC database.

Figure 4-1 Correlation of LD_{50} Values With the Reference LD_{50} Values for the 58 RC Chemicals



Abbreviations: LD_{50}=Dose lethal to 50% of animals tested; RC=Registry of Cytotoxicity.
The diagonal line shows the 1:1 relationship.

When comparing the reference LD_{50} values to the RC values, the substances with the largest differences were busulfan, triphenyltin hydroxide, and mercury chloride **(**see **Figure 4-1)**.

- The LD_{50} reference value for busulfan was six times that of the RC value (12 mg/kg vs. 1.9 mg/kg). The RC value (from 1983/84 RTECS®) was from a paper by Schmahl and Osswald (1970) in which they cited a rat oral LD_{50} of 1.86 mg/kg. The literature also contained rat oral LD_{50} values of 28 and 29 mg/kg for male and female Sprague-Dawley rats, respectively (Matsuno et al. 1971).
- The LD_{50} reference value for triphenyltin hydroxide was 7.5 times the RC LD_{50} (329 mg/kg vs. 44 mg/kg). The 15 LD_{50} values used to determine the reference value included the RC value, and had a wide range, 44-1200 mg/kg. Because of the large variation in the data, which was evenly distributed throughout the range neither the highest nor the lowest values were outliers.
- The LD_{50} reference value for mercury chloride was 40 mg/kg, while the RC value was 1 mg/kg. The RC value was from a summary document that reported the rat oral LD_{50} as a range of 1-5 mg/kg (Worthing and Walker 1991). Because it was reported as a range, it was excluded from the calculation of the reference value (see **Section 4.1.2.1**). The remaining 11 values ranged from 12 to 160 mg/kg. The highest value (160 mg/kg) was considered an outlier when compared to the other 10 values and therefore excluded from the reference value calculation.

4.4.3 Comparison of the Variability Among Acceptable LD_{50} Values to Those Obtained in Other Studies

The variation seen here for 62 reference substances is not atypical, considering the results of other studies that examined the variation among rodent acute oral LD_{50} values derived for the same substance. For example, Weil and Wright (1967) showed that LD_{50} values varied by as much as five-fold for the 10 substances tested in eight laboratories using exactly the same protocol. Another international study involving 65 participating laboratories in eight countries that did not control the LD_{50} protocols among laboratories, reported maximum:minimum ratios from 3.6 to 11.3 (with LD_{50} values ranging from 44 to 5420 mg/kg) for five substances (Hunter et al. 1979). The chemicals tested, and the LD_{50} ranges were:

- PCP[1] 44-523 mg/kg
- Sodium salicylate 800-4150 mg/kg
- Aniline 350-1280 mg/kg
- Acetanilide 805-5420 mg/kg
- Cadmium chloride 70-513 mg/kg

The results of a follow-on study in which the same substances were tested by 100 laboratories in 13 countries showed that adherence to a specific protocol reduced the range of maximum:minimum LD_{50} ratios from 3.6 to 11.3 to 2.4 to 8.4 (Zbinden and Flury-Roversi 1981).

[1] Compound undefined in the publication.

Although the LD_{50} data collected from the literature for the NICEATM/ECVAM validation study used various rat strains, sexes, observation durations, and calculation methods for estimating the LD_{50}, the variation in LD_{50} values for individual substances was similar to the data of the earlier cited studies. The current study found four of the 62 substances with multiple LD_{50} values had maximum:minimum LD_{50} values higher than that reported by Hunter et al. (1979) (i.e., >11.3), and three of those were in the highest toxicity category. Hunter et al. (1979) also observed that the largest variation was associated with the more highly toxic substances.

4.5 Summary

To enable the comparison of *in vitro* NRU data with rodent acute oral toxicity data, LD_{50} reference values for the 72 reference substances were calculated using data obtained from the literature, database searches, and secondary references. Rat acute oral LD_{50} values were preferred, but mouse acute oral LD_{50} values were collected for three substances with no available or acceptable rat data. The 491 LD_{50} values that were retrieved comprised 485 rat LD_{50} values and six mouse values. It was not possible to identify a high quality data set produced under GLP guidelines because only 3% of the data records were in GLP compliance. Instead, as described in **Section 4.1.2.1**, a homogenous set of LD_{50} values for each substance was identified by applying specific exclusion criteria related to the materials, animals, and methods used for each study.

After analysis of the acceptable values for outliers, the remaining 385 values were used to derive rodent acute oral LD_{50} reference values by calculation of a geometric mean of the values for each substance. As a result of this procedure, the LD_{50} reference values for 19 of the 72 reference substances were sufficiently different from the values that were used in the RC and other summary sources, so that they were reclassified into different GHS oral toxicity categories.

Because there is no reference standard against which to evaluate the accuracy of the rodent acute oral toxicity test, the reliability of the LD_{50} reference values was assessed by comparison to other evaluations of the performance of this test method. The maximum:minimum ratio of the acceptable values for the 62 reference substances that had more than one LD_{50} value ranged from 1.1 to 25.9, and the ratios for four of the substances were greater than one order of magnitude.

[This Page Intentionally Left Blank]

5.0 3T3 AND NHK NRU TEST METHOD DATA AND RESULTS

This section summarizes the IC_{50} results generated by testing 72 coded reference substances (see **Section 3**) in the 3T3 and NHK NRU test method protocols. These IC_{50} values were used to evaluate the accuracy (also known as concordance - see **Section 6**) of the two *in vitro* cytotoxicity test methods for predicting *in vivo* GHS acute oral toxicity categories and their reliability (intra- and inter-laboratory reproducibility - see **Section 7**). The individual test data for the passing and failing tests are provided in **Appendix I** for the reference substances and the PC. The raw data for each test (in EXCEL® and PRISM® files) are available upon request from NICEATM on compact disk(s), as are the laboratory reports. Requests can be made by mail, fax, or e-mail to Dr. William S. Stokes, NICEATM, NIEHS, P. O. Box 12233, MD EC-17, Research Triangle Park, NC, 27709, (phone) 919-541-2384, (fax) 919-541-0947, (e-mail) niceatm@niehs.nih.gov.

Section 5.1 discusses the timeline for the validation study, the study participants, and their roles in the study. **Section 5.2** documents the use of coded reference substances and the GLP compliance by the participating laboratories. **Section 5.3** discusses the protocol revisions that were made during the study and the effect the revisions had on the results. **Section 5.4** presents the IC_{50} data collected during each phase to assess the reliability and accuracy (relevance) of the NRU methods. **Section 5.5** presents the statistical analyses performed. **Section 5.6** summarizes the results of IC_{50} comparisons of the 3T3 and NHK methods. **Section 5.7** offers information about the availability of all the data (e.g., raw OD data from all tests, laboratory reports), and **Section 5.8** presents the solubility test results for the reference substances from all laboratories.

5.1 Study Timeline and Participating Laboratories

5.1.1 Statements of Work (SOW) and Protocols

The SMT provided the laboratories with SOWs for each test method prior to initiation of testing (see **Appendix G**), and proposed dates for completion of the various aspects of the study (e.g., transfer of data, provision of reports). The SOWs defined the following:

- Project objectives
- Management and key personnel
- Required facilities, equipment, and supplies
- Quality assurance requirements
- Test phases and schedules
- Products (e.g., reports) required
- Report preparation

The SOW for BioReliance contained all of the above requirements, and also included requirements for:

- Reference substance acquisition, coding, preparation, and distribution
- Solubility testing

The SMT, in consultation with the laboratories, prepared Test Method Protocols for each phase of the study. Cytotoxicity testing in each phase of the validation study was initiated in each laboratory when the SMT received a signed protocol specific for that phase from the

Study Director. Solubility testing for the Phases I and II substances was performed prior to cytotoxicity testing for those substances; most of the solubility testing for the Phase III substances was performed toward the end of Phase II and during the early part of Phase III.

5.1.2 Study Timeline

The actual timeline of the study is shown in **Table 5-1**. The SMT modified the original timeline presented in the SOWs because of a number of factors, such as, protocol revisions, side studies, difficulties with acquisition of medium, etc.

Table 5-1 Validation Study Timetable

Event	BioReliance	ECBC	FAL	IIVS
Receipt of SOW from SMT	Jun 2002	Jun 2002	Jun 2002	Jun 2002
Procurement of Test Substances	Jul 2002 - Jan 2003	NA	NA	NA
Solubility Testing Completed	Jul 2002 - Jan 2003	Dec 2003	Dec 2003	Jan 2004
Distribution of Reference Substances Phase Ia Phase Ib Phase II Phase III	 Jul 2002 Sep 2002 Nov 2002 Feb - Mar 2003	NA	NA	NA
Initiation of Phase Ia	NA	Aug 2002	Aug 2002	Aug 2002
Completion of Phase Ia	NA	Nov 2002	Nov 2002	Oct 2002
Initiation of Phase Ib	NA	Dec 2002	Dec 2002	Dec 2002
Completion of Phase Ib	NA	May 2003	May 2003	May 2003
Initiation of Phase II	NA	Jun 2003	Jun 2003	Jun 2003
Completion of Phase II	NA	Nov 2003	Nov 2003	Nov 2003
Initiation of Phase III	NA	Dec 2003	Dec 2003	Dec 2003
Completion of Phase III	NA	Dec 2004	Dec 2004	Jan 2005

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; SOW=Statement of Work; SMT=Study Management Team; NA=Not applicable.
Note: BioReliance distributed the reference substances and performed solubility testing. ECBC, FAL, and IIVS tested the reference substances for solubility and *in vitro* cytotoxicity.

5.1.3 Participating Laboratories

- BioReliance Corporation
  14920 Broschart Road
  Rockville, Maryland 20850-3349
  Study Director: Dr. Martin Wenk
- U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC)
  Molecular Engineering Team
  Aberdeen Proving Ground, MD 21010
  Study Director: Dr. Cheng Cao

- Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS)
  21 Firstfield Road Suite 220
  Gaithersburg, MD 20878
  Study Director: Mr. Hans Raabe
- Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory (FAL)
  Queens Medical Centre, University of Nottingham
  Nottingham NG7 2UH
  United Kingdom
  Study Director: Dr. Richard Clothier

5.2 Coded Reference Substances and GLP Guidelines

5.2.1 Coded Reference Substances

BioReliance acquired 73 substances (72 reference substances and one PC substance) from reputable commercial sources (see **Appendix F1**). All but eight of the reference substances were >99% pure (see **Section 8.1.2.1**). BioReliance coded each substance with a unique, random identification number when repackaging them into smaller units for distribution to the laboratories. These units were given an additional code unique to the respective cytotoxicity laboratories, so that they could be provided in a blinded fashion (see **Section 3.4** for distribution procedures). The coded substance units were packaged and shipped such that their identities were concealed; however, all laboratories knew the identity of the positive control. The SMT revealed the codes for each phase after all laboratories had submitted their data and reports for that phase. The laboratories periodically required additional aliquots of reference substance, and BioReliance provided these aliquots from the original stock of reference substance in the same manner that the original aliquots were provided.

5.2.2 Lot-to-Lot Consistency of Reference Substances

Each substance was purchased as a single lot, and each laboratory received aliquots from this same lot throughout the validation study. The reference substance suppliers provided certificates of analysis for each lot, along with the MSDS documents containing substance, physical, and safety and handling information.

5.2.3 Adherence to GLP Guidelines

BioReliance, ECBC, and IIVS, followed GLP procedures for all testing, with the exception of tests designed to resolve technical challenges (e.g., formation of NR crystals; use of film plate sealers for volatile substances; slow growth of cells). The laboratories submitted all data to their respective quality assurance units (as per GLP requirements) and copies of the data were submitted to NICEATM. FAL followed most of the GLP guidelines, but did not employ independent quality assurance reviews of laboratory procedures or documentation. The Study Director for FAL performed all data reviews and provided copies to NICEATM. Hard copy printouts and electronic versions of all data are available at NICEATM.

5.3 3T3 and NHK NRU Test Method Protocols

The protocols for the 3T3 and NHK NRU test methods used during Phase III laboratory testing were the result of modifications and revisions to the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) protocols, the optimization of the protocols used in the laboratory evaluation Phases Ia and Ib, and the laboratory qualification phase (Phase II) (see **Section 2.6**). **Figure 1-2**

provides an outline of the study phases, and identifies where repeated observations were carried out to permit protocol evaluation and comparison. **Sections 2.2** and **2.3** address the similarities and differences between the 3T3 and NHK protocols. The remaining subsections in **Section 5.3** address the modifications to the protocols used in each phase, and how those modifications affected each data set.

5.3.1 Phase Ia: Laboratory Evaluation Phase

During Phase Ia, each laboratory established an historical database for the PC substance, SLS. No reference substances were tested in this phase. Ten concentration-response tests were performed using SLS and no more than two tests were performed/day. The resulting data were used to calculate the acceptable response limits for the SLS IC_{50} for use during Phase Ib testing.

Section 2.6.1 summarizes issues that occurred during Phase I and addresses protocol changes made after the initiation of Phase Ia. The specific changes to the protocols for both cell systems are summarized below, along with the impact these changes had on the test data. Changes made in the protocols during Phase Ia were incorporated into the Phase Ib protocols.

5.3.1.1 *Protocol Changes and the Effect on the Data*

- *NR Dye Crystals:* Reduced the NR dye concentration for both cell types. No subsequent tests failed because of NR crystal formation. The background OD values decreased and this was not interpreted as a negative effect on the data.
- *3T3 Cell Growth*: Modified cell culture conditions for 3T3 cells to improve cell growth characteristics. No apparent effect on the data was detected.
- *NHK Cell Growth (96-well plates):* Removed the cell culture refeeding step performed prior to reference substance addition. Although the OD values for the vehicle controls became higher, the SLS IC_{50} results were similar whether or not the cells were re-fed.
- *NHK Cell Growth (in culture flasks)*: FAL coated their culture flasks with fibronectin-collagen prior to seeding thawed cells. This may have affected the SLS data from FAL because it had the highest SLS IC_{50} values of the three laboratories (7.45 μg/mL vs. 4.03 μg/mL for ECBC and 3.68 μg/mL for IIVS). The fibronectin-collagen coating procedure was eliminated, and subsequent SLS data and IC_{50} results from FAL were comparable to the data from the other two laboratories.
- *OD Limits*: Eliminated the VC OD range as a test acceptance criterion. The SMT decided to accept tests that had VC ODs outside the originally preset range if all other test acceptance criteria were met. Test data were not adversely affected by relaxing this criterion.
- *Dilution Factor*: The SMT accepted data generated using dilution factors other than the recommended 1.47 for definitive tests if all other test acceptance criteria were met. The use of smaller dilution factors generally increased the number of data points between 10 - 90% viability, and the precision of the IC_{50} calculation was improved.

5.3.2 Phase Ib: Laboratory Evaluation Phase

Phase Ib was designed to determine whether the protocol revisions following Phase Ia were effective in improving intra- and inter-laboratory reproducibility, and to determine whether

the laboratories could obtain reproducible results when testing coded reference substances of various toxicities. Three coded reference substances representing the full range of toxicity were tested: arsenic trioxide (high toxicity: 5< LD_{50} ≤50 mg/kg), propranolol HCl (medium toxicity: 300< LD_{50} ≤2000 mg/kg), and ethylene glycol (low toxicity: LD_{50} >5000 mg/kg) (see **Section 3.3.5** for the selection of substances to be tested in Phases Ib and II). Because Phase Ib was part of the laboratory evaluation phase, the SMT decided that three substances would be sufficient, and that it was not necessary to represent all GHS acute oral toxicity categories. Each substance was tested in all laboratories at least once in a range finding experiment, and then in three, acceptable definitive tests performed on three different days. **Section 2.6.2** summarizes the technical challenges that arose during this phase and addresses protocol changes made after initiation of Phase Ib. The specific changes made in the 3T3 and NHK protocols, along with the effect the changes had on the test data, are summarized below.

5.3.2.1 *Protocol Changes and the Effect on the Data*

- *NR Dye Crystals*: Reduced the concentration of NR in the 3T3 method. The OD values and SLS IC_{50} results were similar in four exploratory experiments regardless of the NR concentration or NRU incubation time. The elimination of NR crystals reduced the background OD values without affecting the sensitivity of the procedure.
- *VC OD Range*: Used new VC OD ranges for guidance (e.g., as target values to assess cell growth), rather than as a test acceptance criterion, for the remainder of the study. This increased the number of tests that met the acceptance criteria. Relative toxicities did not change. The test data were not adversely affected by the removal of this criterion.

5.3.3 Phase II: Laboratory Qualification Phase

The results from Phase II were used to determine whether the protocol revisions from Phase Ib were effective in improving intra- and inter-laboratory reproducibility, and whether the laboratories could obtain reproducible results when testing a larger set of substances covering a wider range of physical/substance characteristics and toxicities. Nine coded reference substances were tested: aminopterin, cadmium chloride, chloramphenicol, colchicine, lithium carbonate, potassium chloride, 2-propanol, sodium fluoride, and sodium selenate. These substances (with the exception of sodium selenate) are included in the RC, and were selected because they fit the RC millimole regression line (i.e., they were within the acceptance intervals established by Halle [1998, 2003]). The RC is a database of acute oral LD_{50} values for rats and mice obtained from RTECS® and IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays using multiple cell lines and cytotoxicity endpoints for substances with known molecular weights (Halle 1998, 2003). Sodium selenate was selected because of its high toxicity, despite the fact that it was not in the RC, because there were no other substances in the highest GHS acute oral toxicity category, other than aminopterin, that were within the RC millimole regression acceptance intervals. Each laboratory tested each substance at least once in a range finding experiment, and then in three acceptable definitive tests performed on different days.

Section 2.6.2 summarizes the technical issues that arose during this phase and the protocol changes made prior to Phase II. The specific changes made in the 3T3 and NHK NRU protocols, along with the effect the changes had on the test data, are summarized below.

5.3.3.1 *Protocol Changes and the Effect on the Data*

- *Blank Wells*: Added reference substance to blank wells of the test plate to determine if reference substance affected (i.e., increased OD values) compared to medium-filled blank wells. There was no apparent effect on the test data as there were no noticeable differences in OD values between blanks with culture medium or culture medium and reference substance.
- *VC OD Range*: Eliminated the VC OD range as an acceptance criterion. There was no apparent effect on test data from not restricting the OD values to a pre-set range.
- *Harmonization of Laboratory Techniques*: Made revisions to the Phase II protocols as a result of the harmonization training by the testing laboratories (see **Section 2.6.2.6**). There was no apparent effect on the test data from IIVS and ECBC, but there was an improvement in the FAL data quality (e.g., fewer lost OD values due to cell seeding errors, more uniform OD values for six replicate wells per reference substance).
- *3T3 Cell Seeding Density*: Added a range of cell seeding densities to be used by the laboratories. This optimized the cell confluence at the end of chemical exposure and no apparent effects on the data were detected because of this modification.
- *NHK Cell Growth from Cryopreserved Stock Cells*: Eliminated the use of fibronectin-collagen coating of 80-cm^2 flasks for the initial propagation of NHK cells. By doing this, FAL achieved better cell growth, lower IC_{50} values for the PC, and better agreement of the mean SLS IC_{50} values with those of the other laboratories.
- *Volatile Substances*: Added the use of a CO_2 permeable plate sealer to control volatility (as identified by cross contamination of the control wells). The use of plate sealers for volatile substances was incorporated into the Phase III protocols.
- *R^2 Acceptance Criterion*: Relaxed the R^2 criterion for the fit of the dose-response data to the Hill function. Some tests that did not meet the original criterion were accepted by the SMT after determining that even though the curve fit was not optimum, it adequately conveyed the toxicity of the substance (i.e., an IC_{50} could be calculated with an adequate number of toxicity points between 0 and 100% viability).
- *Unusual Concentration-Response*: Revised the Hill function calculation to address substances that produced a concentration-response in which toxicity plateaued before reaching 0% viability. This modification allowed for a curve fit to the Hill function for such substances, and thus a better estimation of their IC_{50} values.
- *PC IC_{50} Range*: Expanded the SLS IC_{50} acceptable range, which resulted in additional tests in Phase II being acceptable. Expanding the PC range reduced the number of reference substance retests, and thereby qualified additional

definitive tests as acceptable because they would not fail simply because the PC was out of the pre-set range.

5.3.4 Phase III: Main Validation Phase

The purpose of Phase III was to generate high quality *in vitro* cytotoxicity data using the 3T3 and NHK NRU test methods with protocols that were optimized based on the experience and results in Phases I and II. Sixty coded reference substances were tested; 46 of these were RC substances that covered a broad range of toxicity. The reference substances in Phase III spanned all five GHS toxicity categories and unclassified substances. Each substance was tested in each laboratory at least once in a range finding experiment, and then in three acceptable definitive tests performed on different days.

Section 2.6.4 addresses protocol changes made before the initiation of Phase III. The specific changes made in the 3T3 and NHK protocols, along with the effect the changes had on the test data, are summarized below.

5.3.4.1 *Protocol Changes and the Effect on the Data*

- *Prequalification of NHK Culture Medium*: Included a protocol for prequalifying NHK culture medium and supplements. This prevented the participating laboratories from using medium and supplements that did not support adequate growth of the cells.
- *Stopping Rule for Testing*: Added this rule for reference substances that were insoluble (i.e., <200 μg/mL) and/or did not produce sufficient cytotoxicity for the calculation of an IC_{50}. This rule allowed testing to end for substances that produced no IC_{50} data after three definitive tests. Substances for which an IC_{50} was not produced by one or more laboratories are presented in **Table 5-2**. Carbon tetrachloride did not produce an IC_{50} in any of the laboratories in either the 3T3 or the NHK NRU test methods, and methanol did not produce an IC_{50} in the 3T3 NRU test method.
- *Acceptable Range for Dose-Response Data Points:* Modified the test acceptance criterion for the number of data points required on the toxicity curve. The criterion was changed from requiring a minimum of two points (at least one >0% and ≤50% viability, and at least one >50% and <100% viability) to one point >0% and <100% viability, if the smallest practical dilution factor (i.e., 1.21) was used, and all other test acceptance criteria were met. This reduced the number of failed experiments for substances with very steep concentration-response curves, without reducing the quality of the IC_{50} data. For the 3T3 NRU test method, diquat dibromide (1/9 definitive tests), epinephrine bitartrate (2/9 definitive tests), and 1,1,1-trichloroethane (2/8 definitive tests) had such steep dose-responses that some acceptable tests met these revised criteria. None of the NHK NRU tests needed the revised criteria.
- *R^2 Acceptance Criterion*: Rescinded the R^2 criterion for the fit of the Hill function. The SMT determined that the R^2 criterion was best used to characterize the shape of the concentration-response curve rather than to establish a criterion for test acceptability. This reduced the number of failed experiments without affecting the calculation of the IC_{50} values as long as an

adequate number of toxicity points between 0 and 100% viability were obtained.

- *PC Acceptance Criteria*: Modified the PC acceptance criterion for Hill function fit.
- *Hill Function Analysis*: Altered the PRISM® template for the Hill function analysis to perform calculations for IC_x values in two ways: (1) constraining Bottom parameter to zero, and (2) fitting the Bottom parameter. As a result of the changes and efforts by the laboratories to use dilution schemes that captured the entire concentration-response range, very few tests in Phase III had $R^2 < 0.9$.
- *Biphasic Dose-Response in Range Finder Test*: Provided guidance for proceeding with definitive testing when a biphasic dose-response was obtained in the range-finder test. The definitive test was to focus on the lowest concentrations that produced responses around 50% viability (See **Section 2.6.3.2**).

Table 5-2 Reference Substances Affected by Stopping Rule[1]

Reference Substance	Testing Stopped -- No IC_{50} Data					
	3T3 NRU Test Method			NHK NRU Test Method		
	ECBC	FAL	IIVS	ECBC	FAL	IIVS
Carbon tetrachloride	X	X	X	X	X	X
Disulfoton		X				
Gibberellic acid		X				
Methanol	X	X	X	X		
1,1,1-Trichloroethane	X				X	X
Valproic acid			X			
Xylene	X	X		X	X	

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

[1]Substances that did not provide sufficient cytotoxicity for the calculation of an IC_{50} in one or more laboratories (identified by X).

5.4 Data Used to Evaluate Test Method Accuracy and Reliability

This section first presents the acceptable PC data and IC_{50} results from each laboratory for each phase of the validation study, and then presents the reference substance IC_{50} results and Hill Slopes from each phase. The individual test data for both passing and failing tests are provided in **Appendix I** for the PC and reference substances. Accuracy (concordance for the prediction of GHS acute oral toxicity category) and reliability assessments are provided in **Sections 6** and **7**, respectively.

5.4.1 PC Data

A summary of the acceptable SLS data IC_{50} results used to calculate quality control acceptance limits for each test method in each laboratory are provided in **Table 5-3**. The SLS IC_{50} results were used to calculate acceptable limits for each laboratory to use in subsequent study phases. One of the test acceptance criteria for each reference substance test was that the associated SLS IC_{50} must be within the acceptance limits. The individual test data for both passing and failing PC tests are provided in **Appendix I3** for the 3T3 and in **Appendix I4** for the NHK methods.

Table 5-3 Positive Control (PC)[1] IC_{50} Results by Study Phase

Study Phase	ECBC				FAL				IIVS			
	Mean IC_{50} (µg/mL)	Standard Deviation (µg/mL)	Acceptance Limits	N	Mean IC_{50} (µg/mL)	Standard Deviation (µg/mL)	Acceptance Limits	N	Mean IC_{50} (µg/mL)	Standard Deviation (µg/mL)	Acceptance Limits	N
3T3 NRU												
Ia[2]	38.3	4.71	28.8 – 47.7	15	42.3	8.56	25.2 – 59.5	25	40.9	3.19	34.5 – 47.3	12
Ib[3]	41.3	5.99	26.4 – 56.3	12	43.2	4.68	31.5 – 54.9	17	42.1	3.40	33.6 – 50.6	13
II[4]	41.2	4.20	30.8 – 51.6	29	45.9	7.50	27.2 – 64.7	36	40.6	3.50	31.8 – 49.3	21
III[5]	41.6	3.41	NA	65	41.1	6.23	NA	26	41.5	3.74	NA	22
NHK NRU												
Ia[2]	4.03	1.32	1.40 – 6.67	15	7.45	3.07	1.34 – 13.6	18	3.68	0.555	2.57 – 4.79	30
Ib[3]	3.65	0.98	1.22 – 6.10	11	5.35	2.32	0[6] – 11.1	15	3.57	0.59	2.10 – 5.04	17
II[4]	3.59	1.41	0.07 – 7.11	22	3.20	1.05	0.57 – 5.82	15	3.78	0.73	1.94 – 5.61	26
III[5]	3.03	0.75	NA	57	3.45	0.90	NA	35	3.12	0.53	NA	20

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; N=Number of acceptable tests; NA=Not applicable

[1]PC was sodium lauryl sulfate (SLS).

[2]Values generated from Phase Ia data were used as acceptance criteria for Phase Ib tests; Acceptance limits = Mean ±2 X standard deviation.

[3]Values generated from Phases Ia and Ib data were used as acceptance criteria for Phase II tests; Acceptance limits = Mean ±2.5 X standard deviation.

[4]Values generated from Phases Ia, Ib, and II data were used as acceptance criteria for Phase III tests; Acceptance limits = Mean ±2.5 X standard deviation.

[5]Values generated from Phase III test data.

[6]Calculation of lower limits yielded a negative value, so that lower limit was set at 0 and later revised to 0.1 µg/mL.

5.4.1.1 *Phase Ib PC Data Acceptance Limits*

The SLS IC_{50} acceptance limits for Phase Ib testing were calculated using the Phase Ia data. The data sets from each laboratory were examined for outliers using the method of Dixon and Massey (1981), but none were identified. The acceptance limits for the SLS IC_{50} values for each laboratory and test method were the mean ±2 SD.

5.4.1.2 *Phase II PC Data Acceptance Limits*

The IC_{50} values from the Phase Ia and Ib SLS tests were used to calculate laboratory-specific and test method-specific quality control acceptance limits for Phase II. Phase Ib tests that had SLS IC_{50} values outside of the acceptance limits were considered acceptable if they met all other test acceptance criteria. For any day during which there was more than one SLS test (for any one method and laboratory), the IC_{50} values were averaged to better reflect day-to-day variation and avoid overweighting the overall mean with multiple values from a single day. Outliers at the 99% level were removed and the remaining values were used to calculate the mean ±2.5 SD acceptance limits. The acceptance limits were expanded from 2 SD in Phase Ib to 2.5 SD for Phase II to allow for the fact that the SDs decrease as more data are collected.

5.4.1.3 *Phase III PC Data Acceptance Limits*

The IC_{50} values from the Phase I and II SLS tests were used to calculate laboratory-specific and method-specific quality control acceptance limits for Phase III data. The SLS IC_{50} values outside the acceptance limits were considered acceptable if the tests met all other acceptance criteria. For any day for which there was more than one SLS test (for any one method and laboratory), the IC_{50} values were averaged to better reflect day-to-day variation and avoid overweighting the overall mean with multiples values from a single day. ANOVA was used to compare the Phase Ia, Ib, and II data within each laboratory to determine whether the SLS IC_{50} for each method and laboratory was changing over the course of the study. For PC data that were not significantly different from phase to phase at $p < 0.05$, the IC_{50} values were used to calculate the mean ±2.5 SD as the acceptance limits for Phase III. The only significant differences in SLS values seen between study phases ($p < 0.0002$) were the FAL results for NHK. This difference was attributed to the changes in cell culture practices between Phases Ib and II (see **Section 5.3.3**). Thus, only the Phase II SLS IC_{50} values were used to calculate the acceptance limits for Phase III NHK data at FAL.

5.4.2 Reference Substance Data

Reference substance data and results from the individual 3T3 and NHK tests (both acceptable and unacceptable) from each laboratory are presented in **Appendices I1** and **I2**. **Tables 5-4** and **5-5** summarize the IC_{50} and Hill Slope data from the acceptable 3T3 and NHK tests, respectively, for each reference substance and laboratory. The Hill Slope data are provided for supplemental information on the concentration-response characteristics for each reference substance, but were not used for reliability or accuracy analyses. These tables are organized alphabetically by substance name and provide substance class (based on the NLM Medical Subject Heading [MeSH index]), arithmetic mean IC_{50} and SD for each laboratory, arithmetic mean Hill Slope and SD for each laboratory, and the number of tests used to produce the mean values. **Figure 5-1** graphically presents the 3T3 IC_{50} data from **Table 5-4**, and **Figure 5-2** presents the NHK IC_{50} data from **Table 5-5**. The reference substances in **Figures 5-1** and **5-2** are ordered by ascending IC_{50} (lowest value [most toxic] to highest value [least toxic]) using the 3T3 IC_{50} values from IIVS (the lead laboratory for the study). This allows a simple

comparison of each reference substance value from each laboratory. **Table 5-6** provides the numerical key to the reference substances in **Figures 5-1** and **5-2**.

Because of their low toxicity and/or low solubility, some substances were not sufficiently toxic for calculation of an IC_{50} value. For the 3T3 NRU test method, no IC_{50} values were obtained for carbon tetrachloride or methanol in any laboratory (see **Table 5-4**). ECBC was the only laboratory that obtained IC_{50} values for lithium carbonate, and IIVS was the only laboratory that obtained IC_{50} values for xylene. Only one acceptable test (and IC_{50} value) was obtained for disulfoton at FAL, for 1,1,1-trichloroethane at ECBC, and for valproic acid at IIVS. FAL did not achieve sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} for gibberellic acid in any 3T3 NRU tests performed. For the NHK NRU test method (see **Table 5-5**), there was insufficient toxicity in all tests in all laboratories for a calculation of an IC_{50} for carbon tetrachloride. Only one laboratory achieved sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} for 1,1,1-trichloroethane (ECBC) and xylene (IIVS). One laboratory, ECBC, failed to achieve sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} for methanol. All of these substances, with the exception of methanol, produced precipitate in the cell culture medium. The solvent used for methanol was DMSO, and because the amount of DMSO that could be used in the cell culture was limited to 0.5%, the amount of DMSO that could be used to dissolve methanol was also limited. The differences among laboratories regarding their ability to attain a high enough concentration to achieve an IC_{50} for some substances may be due to the differing perceptions of the laboratory personnel regarding whether or not the substance was sufficiently dissolved, or differences in the techniques used to dissolve the substances.

Table 5-4 3T3 NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Acetaminophen	Amide	III	40.8	9.12	3	-1.53	0.354	66.2	23.0	3	-1.23	0.503	43.4	11.4	3	-1.55	0.165
Acetonitrile	Nitrile	III	6433	129	3	-2.29	0.648	9690	5634	3	-1.55	0.196	9330	1217	3	-2.63	0.245
Acetylsalicylic acid	Carboxylic Acid; Phenol	III	646	61.5	3	-1.75	0.473	1234	298	3	-1.99	0.393	401	62.0	3	-1.31	0.167
Aminopterin	Heterocyclic	II	0.005	0.001	3	-2.00	0.395	0.012	0.005	3	-3.36	1.59	0.005	0.001	3	-1.46	0.198
5-Aminosalicylic acid	Carboxylic Acid; Phenol	III	1467	203	3	-1.82	0.267	2070	334	3	-2.33	0.809	1557	179	3	-1.64	0.326
Amitriptyline HCl	Polycyclic	III	6.03	1.38	3	-2.47	0.668	7.86	2.20	3	-2.98	0.446	7.81	1.38	3	-4.48	0.916
Arsenic III Trioxide	Arsenical	Ib	2.41	0.782	4	-1.94	0.204	1.04	0.070	4	-3.02	2.09	4.09	2.23	3	-1.62	0.285
Atropine sulfate	Heterocyclic	III	54.1	29.6	3	-1.32	0.480	133	41.1	3	-2.20	0.695	70.0	5.7	3	-1.27	0.165
Boric acid	Boron compound; Acid	III	1497	484	3	-1.14	0.039	3987	693	3	-1.86	0.654	1202	581	3	-1.71	0.677
Busulfan	Alcohol; Sulfur compound; Acyclic hydrocarbon	III	40.4	19.3	3	-0.515	0.003	321	180	3	-1.14	0.802	43.7	1.77	3	-0.627	0.164
Cadmium II chloride	Cadmium compound; Chlorine compound	II	0.480	0.066	3	-1.85	0.529	0.400	0.129	3	-3.05	0.743	0.817	0.427	3	-2.45	0.449
Caffeine	Heterocyclic	III	133	13.3	3	-1.11	0.097	157	81.7	3	-0.866	0.250	191	14.4	3	-1.27	0.077
Carbamazepine	Heterocyclic	III	83.0	12.0	3	-1.94	0.539	152	56.9	3	-3.50	1.27	91.8	11.0	3	-2.34	0.307
Carbon tetrachloride	Halogenated hydrocarbon	III	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA
Chloral hydrate	Alcohol	III	151	15.6	3	-1.73	0.172	241	25.1	3	-2.16	0.597	170	19.9	3	-1.68	0.084
Chloramphenicol	Alcohol; Nitro compound; Cyclic hydrocarbon	II	55.3	12.4	4	-0.779	0.057	273	82.2	4	-1.16	0.249	156	27.9	3	-0.952	0.036
Citric acid	Carboxylic acid	III	473	138	3	-1.89	0.423	1148	143	4	-3.68	0.407	865	160	3	-2.51	0.530

Table 5-4 3T3 NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Colchicine	Polycyclic	II	0.021	0.002	4	-1.69	0.049	0.093	0.042	3	-1.61	1.80	0.028	0.0003	3	-1.69	0.255
Cupric sulfate pentahydrate	Sulfur compound; Metal	III	82.7	3.18	3	-4.85	0.700	123	54.0	4	-17.7	15.5	5.72	1.75	3	-5.71	1.14
Cycloheximide	Heterocyclic	III	0.125	0.057	3	-1.19	0.167	0.647	0.451	3	-1.53	0.128	0.109	0.025	3	-0.937	0.158
Dibutyl phthalate	Carboxylic acid	III	23.5	3.98	3	-3.37	1.27	191	94.5	4	-0.965	0.140	20.7	1.37	3	-2.62	0.283
Dichlorvos	Organophos-phorous	III	9.83	3.42	3	-1.32	0.297	32.8	2.07	3	-3.42	1.00	18.3	2.09	3	-2.13	0.439
Diethyl phthalate	Carboxylic acid	III	85.5	29.0	3	-1.11	0.340	147	37.8	3	-2.03	0.422	106	25.3	3	-2.35	0.824
Digoxin	Polycyclic; Carbohydrate	III	351	137	3	-2.11	2.05	892	319	3	-3.26	2.21	317	67.9	2	-3.04	1.52
Dimethyl-formamide	Amide; Carboxylic acid	III	5343	515	3	-1.96	0.087	5483	517	3	-1.80	0.143	4900	183	3	-1.87	0.102
Diquat dibromide monohydrate	Heterocyclic	III	3.87	0.887	3	-1.59	0.197	36.1	35.5	3	-11.5	10.1	5.39	1.36	3	-3.00	0.784
Disulfoton	Organophos-phorous; Sulfur compound	III	137	74.9	3	-2.06	1.88	11200	NA	1	-1.22	NA	60.4	52.5	3	-2.23	1.08
Endosulfan	Heterocyclic Sulfur compound	III	5.27	3.01	3	-0.669	0.243	15.2	11.9	4	-0.762	0.221	3.61	1.53	3	-0.871	0.636
Epinephrine bitartrate	Alcohol; Amine	III	51.5	6.16	3	-5.99	3.08	63.4	6.63	3	-45.1	32.0	63.4	1.91	3	-4.74	1.51
Ethanol	Alcohol	III	5360	1754	3	-1.33	0.104	8420	1205	3	-1.88	0.128	6413	345	3	-1.99	0.372
Ethylene glycol	Alcohol	Ib	18325	1658	4	-3.79	4.08	31650	7453	4	-1.70	0.166	25900	3081	3	-1.67	0.079
Fenpropathrin	Nitrile; Ester; Ether	III	22.6	2.41	3	-2.54	0.350	42.4	26.8	4	-1.44	0.645	16.7	2.03	3	-2.53	0.495
Gibberellic acid	Polycyclic	III	8027	908	3	-1.95	0.678	NA	NA	-	NA	NA	7657	745	3	-1.66	0.087
Glutethimide	Heterocyclic	III	167	7.00	3	-1.3	0.045	284	20.7	3	-1.47	0.131	125	9.25	4	-1.20	0.163
Glycerol	Alcohol	III	20000	2987	3	-2.02	0.273	38878	28238	4	-2.27	1.29	27833	10882	3	-1.87	0.306
Haloperidol	Ketone	III	5.32	0.649	3	-2.34	0.445	7.99	0.655	3	-4.99	0.378	5.47	0.654	3	-1.86	0.048

Table 5-4 3T3 NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Hexachlorophene	Cyclic hydrocarbon Phenol	III	5.02	2.41	3	-1.62	0.189	5.35	1.75	3	-1.17	0.322	3.06	0.289	3	-1.66	0.217
Lactic acid	Carboxylic acid	III	2943	315	3	-4.13	1.54	3487	561	3	-6.62	3.23	2790	259	3	-3.64	1.09
Lindane	Halogenated hydrocarbon	III	125	119	3	-0.737	0.231	266	94.8	4	-1.26	1.283	90.4	111	5	-1.46	0.262
Lithium I carbonate	Alkalies; Inorganic carbon; Lithium compound	II	564	67.6	3	-1.59	0.313	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA
Meprobamate	Carboxylic acid	III	353	49.7	3	-1.16	0.438	877	128	4	-1.32	0.270	386	9.02	3	-1.12	0.133
Mercury II chloride	Mercury compound; Chlorine compound	III	3.45	0.177	3	-4.18	0.988	5.99	1.87	3	-4.34	1.11	3.51	0.120	3	-4.16	1.31
Methanol	Alcohol	III	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA
Nicotine	Heterocyclic	III	272	65.3	3	-1.58	0.357	412	136	3	-12.0	6.99	450	54.7	3	-49.6	70.9
Paraquat	Heterocyclic	III	21.3	7.29	3	-1.32	0.341	24.9	16.5	3-	-4.10	3.13	23.7	15.2	3	-1.92	0.581
Parathion	Organophos-phorous; Sulfur compound	III	22.7	12.1	3	-1.89	1.33	141	98.7	4	-1.62	0.520	22.0	4.94	3	-1.55	0.562
Phenobarbital	Heterocyclic	III	634	134	3	-1.43	0.177	726	255	3	-1.84	0.851	476	111	4	-1.67	0.418
Phenol	Phenol	III	50.2	10.9	3	-1.46	0.318	104	24.8	3	-1.55	0.205	58.1	6.78	3	-1.41	0.259
Phenylthiourea	Sulfur compound; Urea	III	30.1	19.8	3	-0.781	0.218	239	65.8	3	-0.890	0.206	89.0	21.9	3	-1.40	0.127
Physostigmine	Carboxylic acid; Heterocyclic	III	28.2	14.9	3	-1.51	0.595	37.8	1.93	3	-7.22	1.04	20.4	6.71	4	-1.70	0.157
Potassium I chloride	Potassium compound; Chlorine compound	II	3352	468	4	-3.32	1.17	3842	1198	5	-4.31	2.27	3710	417	3	-2.87	0.147

Table 5-4 3T3 NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Potassium cyanide	Potassium compound; Nitrogen compound	III	15.3	3.76	3	-1.48	0.677	159	81.9	3	-1.03	0.152	18.9	0.950	3	-3.43	0.488
Procainamide HCl	Carboxylic acid; Amide	III	400	15.3	3	-12.4	1.91	431	4.73	3	-45.6	18.4	497	39.3	3	-19.9	13.1
2-Propanol	Alcohol	II	2610	240	2	-1.80	0.001	3970	139	3	-1.65	0.241	4110	161	3	-1.93	0.160
Propranolol HCl	Alcohol	Ib	13.6	4.37	4	-2.54	0.627	13.5	6.85	4	-3.31	2.53	17.6	3.78	3	-3.45	1.44
Propylparaben	Carboxylic acid; Phenol	III	20.9	3.33	3	-1.23	0.259	51.8	14.8	3	-1.45	0.442	17.1	2.10	3	-1.24	0.245
Sodium arsenite	Sodium compound; Arsenical	III	0.496	0.028	3	-1.43	0.087	1.44	0.819	3	-3.79	1.22	0.683	0.117	3	-1.90	0.535
Sodium chloride	Sodium compound; Chlorine compound	III	4790	233	3	-1.55	0.182	4625	611	4	-2.67	0.620	4877	457	3	-2.03	0.366
Sodium dichromate dihydrate	Sodium compound; Chromium compound	III	0.603	0.087	3	-1.64	0.136	0.657	0.244	3	-5.01	1.51	0.547	0.092	3	-1.93	0.194
Sodium I fluoride	Sodium compound; Fluorine compound	II	61.3	5.55	3	-5.06	1.50	96.1	17.7	3	-4.40	0.971	82.0	5.81	3	-2.73	0.850
Sodium hypochlorite	Sodium compound Oxygen compound; Chlorine compound	III	823	108	3	-2.57	1.12	805	367	3	-4.13	3.05	2005	872	4	-3.20	0.279
Sodium oxalate	Sodium compound; Carboxylic acid	III	42.0	17.3	3	-1.83	0.380	31.0	8.66	3	-3.11	0.367	49.5	26.3	4	-2.32	0.592
Sodium selenate	Sodium compound; Selenium compound	II	12.7	1.62	3	-1.59	0.217	54.2	10.4	3	-3.76	0.968	36.5	5.23	3	-1.65	0.112

Table 5-4 3T3 NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2] (IC_{50})	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Strychnine	Heterocyclic	III	389	80.9	3	-2.51	0.728	124	20.3	3	-5.85	0.922	83.5	5.35	3	-6.49	2.12
Thallium I sulfate	Sulfur compound; Metal	III	2.81	0.671	3	-1.02	0.201	13.4	10.4	4	-0.714	0.302	6.27	1.75	3	-0.752	0.081
Trichloroacetic acid	Carboxylic acid	III	762	99.1	3	-1.66	0.118	1220	72.1	3	-2.22	0.089	801	114	3	-1.77	0.130
1,1,1-Trichloro-ethane	Halogenated hydrocarbon	III	41100	NA	1	-2.38	NA	21250	2357	3	-31.5	32.1	9827	180	3	-21.8	8.47
Triethylene-melamine	Heterocyclic	III	0.086	0.009	3	-0.567	0.018	1.45	0.265	3	-1.88	1.04	0.169	0.049	3	-0.615	0.138
Triphenyltin hydroxide	Organo-metallic compound	III	0.026	0.004	3	-1.66	0.257	0.026	0.021	3	-4.78	3.37	0.015	0.008	3	-1.46	0.149
Valproic acid	Carboxylic acid; Lipids	III	547	67.1	3	-2.24	0.742	1807	175	3	-4.07	0.766	574	NA	1	-1.24	NA
Verapamil HCl	Amine	III	32.2	5.82	3	-4.43	1.362	34.6	1.72	3	-29.1	18.6	38.9	4.20	3	-5.00	0.935
Xylene	Cyclic hydrocarbon	III	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA	724	87.1	3	-1.91	0.473

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; SD=Standard deviation; N=Number of data points; NA=Not available (i.e., IC_{50} values or Hill Slope values could not be generated [see notes in **Appendix I** for more information])

[1]Arithmetic mean.

[2]Standard deviation of IC_{50}.

[3]Arithmetic Mean of Hill Slope values.

[4]Standard deviation of Hill Slope values.

[5]Chemical class assigned is based on the classification of the National Library of Medicine's Medical Subject Heading (MeSH), http://www.nlm.nih.gov/mesh/meshhome.html.

Table 5-5 NHK NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Acetaminophen	Amide	III	558	80.7	3	-1.09	0.108	447	83.7	3	-1.09	0.646	571	79.0	3	-1.20	0.154
Acetonitrile	Nitrile	III	10868	7824	4	-2.61	0.424	10153	1960	4	-5.95	3.34	9290	413	3	-2.79	0.306
Acetylsalicylic acid	Carboxylic Acid; Phenol	III	631	19.9	3	-1.94	0.367	694	98.3	3	-1.85	0.324	514	79.1	3	-1.97	0.083
Aminopterin	Heterocyclic	II	889	182	3	-2.03	0.375	545	42.2	3	-1.27	0.225	611	70.7	2	-1.72	0.547
5-Aminosalicylic acid	Carboxylic Acid; Phenol	III	29.9	6.52	3	-3.45	0.806	78.2	42.3	3	-7.96	6.90	48.8	7.90	3	-3.66	0.629
Amitriptyline HCl	Polycyclic	III	10.8	3.34	3	-1.79	0.236	7.57	5.43	3	-1.43	0.479	10.9	1.04	3	-2.27	0.278
Arsenic III Trioxide	Arsenical	Ib	7.77	2.54	4	-2.67	0.470	2.55	1.92	6	-1.78	1.14	20.9	6.4	3	-2.02	0.338
Atropine sulfate	Heterocyclic	III	85.4	10.5	3	-1.26	0.307	104	88.2	3	-2.90	3.48	83.2	21.0	3	-1.21	0.101
Boric acid	Boron compound; Acid	III	440	138	3	-1.19	0.233	517	378	3	-0.752	0.117	464	11	3	-1.33	0.194
Busulfan	Alcohol; Sulfur compound; Acyclic hydrocarbon	III	253	68.2	3	-0.783	0.323	268	193	3	-1.50	0.357	313	37.2	3	-1.66	0.459
Cadmium II chloride	Cadmium compound; Chlorine compound	II	2.20	0.823	5	-4.01	1.25	1.88	1.22	3	-3.36	3.14	1.86	0.151	3	-4.65	1.38
Caffeine	Heterocyclic	III	817	256	3	-1.44	0.504	591	186	3	-1.06	0.499	574	7.81	3	-1.28	0.117
Carbamazepine	Heterocyclic	III	66.1	8.4	3	-1.15	0.307	253	325	3	-2.57	2.53	63.9	5.27	3	-1.34	0.444
Carbon tetrachloride	Halogenated hydrocarbon	III	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA
Chloral hydrate	Alcohol	III	140	34.2	3	-1.55	0.378	159	50.1	3	-1.33	0.105	112	1.73	3	-1.42	0.123
Chloramphenicol	Alcohol; Nitro compound; Cyclic hydrocarbon	II	318	142	3	-1.51	0.794	414	182	4	-1.16	0.091	367	79.7	3	-0.917	0.249
Citric acid	Carboxylic acid	III	526	82.4	3	-1.62	0.158	312	51.6	4	-1.25	0.249	433	22.3	3	-1.62	0.080

Table 5-5 NHK NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Colchicine	Polycyclic	II	0.005	0.002	3	-2.15	1.39	0.008	0.001	3	-3.16	1.96	0.008	0.002	3	-13. 8	11.0
Cupric sulfate pentahydrate	Sulfur compound; Metal	III	190	19.6	3	-6.16	3.16	195	12.5	3	-3.85	0.328	207	7.09	3	-5.69	0.871
Cycloheximide	Heterocyclic	III	0.053	0.012	3	-1.24	0.152	0.120	0.094	3	-0.850	0.388	0.071	0.013	3	-1.54	0.178
Dibutyl phthalate	Carboxylic acid	III	28.3	7.64	3	-1.40	0.295	47.4	34.3	3	-1.02	0.352	22.0	1.32	3	-1.33	0.197
Dichlorvos	Organophos-phorous	III	8.56	2.28	3	-1.17	0.147	12.4	3.74	3	-2.29	2.33	12.2	0.416	3	-1.50	0.214
Diethyl phthalate	Carboxylic acid	III	174	14.4	3	-2.21	0.358	71.5	67.3	3	-1.67	0.637	189	33.1	3	-1.97	0.242
Digoxin	Polycyclic; Carbohydrate	III	0.0054	0.0007	3	-2.00	0.127	0.0001	0.00002	3	-1.38	0.684	0.004	0.0003	3	-4.59	1.73
Dimethyl-formamide	Amide; Carboxylic acid	III	9353	155	3	-3.67	0.273	7817	100	3	-2.85	0.590	6397	202	3	-3.00	0.161
Diquat dibromide monohydrate	Heterocyclic	III	3.59	0.825	3	-1.44	0.051	6.77	3.73	4	-1.38	0.488	3.84	0.313	3	-1.10	0.139
Disulfoton	Organophos-phorous; Sulfur compound	III	140	27.0	3	-1.65	1.15	808	213	3	-0.841	0.452	186	59.2	3	-0.836	0.209
Endosulfan	Heterocyclic Sulfur compound	III	3.44	0.573	3	-1.68	0.438	1.42	0.701	4	-1.19	0.369	2.19	0.437	3	-2.20	0.242
Epinephrine bitartrate	Alcohol; Amine	III	115	10.8	3	-7.37	2.10	81.7	28.4	3	-8.39	5.81	75.0	12.2	3	-4.90	2.81
Ethanol	Alcohol	III	8290	390	3	-2.13	0.035	12013	2286	3	-1.82	0.635	10250	867	3	-2.29	0.185
Ethylene glycol	Alcohol	Ib	38000	4681	3	-3.22	0.650	49800	4371	3	-3.02	0.188	40000	5341	4	-2.56	0.444
Fenpropathrin	Nitrile; Ester; Ether	III	3.73	1.01	3	-1.42	0.486	2.23	0.616	3	-4.37	4.45	1.82	0.310	3	-1.78	0.617
Gibberellic acid	Polycyclic	III	2850	402	3	-2.45	0.372	2940	276	3	-5.90	2.69	2807	121	3	-3.30	1.104
Glutethimide	Heterocyclic	III	187	64.3	3	-1.47	0.616	170	24.1	3	-1.29	0.145	176	27.5	3	-1.54	0.237
Glycerol	Alcohol	III	34267	15399	3	-3.32	1.97	18023	8334	3	-1.62	0.521	29033	4596	3	-2.69	0.511
Haloperidol	Ketone	III	3.69	1.01	3	-0.964	0.206	3.72	1.81	3	-0.732	0.097	3.29	1.15	3	-0.840	0.100

Table 5-5 NHK NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Hexachlorophene	Cyclic hydrocarbon Phenol	III	0.027	0.004	3	-2.21	0.301	0.046	0.020	3	-2.91	0.662	0.021	0.002	3	-2.36	0.059
Lactic acid	Carboxylic acid	III	1290	52.9	3	-2.36	0.306	1320	60.8	3	-3.25	0.328	1313	138	3	-3.23	0.408
Lindane	Halogenated hydrocarbon	III	19.1	3.14	3	-3.02	0.969	23.2	7.09	3	-2.24	0.315	15.6	2.4	3	-2.61	0.265
Lithium I carbonate	Alkalies; Inorganic carbon; Lithium compound	II	411	119	3	-1.95	0.456	486	95.7	3	-1.78	1.31	535	31.6	3	-2.64	0.164
Meprobamate	Carboxylic acid	III	761	116	3	-1.90	0.695	163	189	3	-0.806	0.206	624	84.2	3	-2.04	0.170
Mercury II chloride	Mercury compound; Chlorine compound	III	6.87	1.04	3	-16.3	4.95	5.4	1.02	3	-17.8	13.1	5.35	0.09	3	-17.8	3.31
Methanol	Alcohol	III	NA	NA	-	NA	NA	1133	213	3	-1.79	0.874	2100	226	3	-1.86	0.297
Nicotine	Heterocyclic	III	94.3	24.7	3	-0.654	0.092	134	78.4	3	-0.668	0.077	112	27.7	3	-0.733	0.047
Paraquat	Heterocyclic	III	48.3	6.03	3	-1.04	0.158	96.6	37.2	3	-1.34	0.326	53.4	5.52	3	-1.47	0.034
Parathion	Organophos-phorous; Sulfur compound	III	34.0	10.0	3	-1.60	0.640	31.2	11.9	3	-1.18	0.200	29.0	8.34	3	-1.85	0.956
Phenobarbital	Heterocyclic	III	693	180	3	-1.10	0.214	360	95.5	3	-0.976	0.229	381	69.9	3	-1.68	0.353
Phenol	Phenol	III	59.1	21.4	3	-0.919	0.084	93.2	5.97	3	-1.15	0.209	80.8	5.12	3	-0.915	0.029
Phenylthiourea	Sulfur compound; Urea	III	363	58	3	-1.55	0.726	401	83.6	3	-3.49	1.91	272	71.7	3	-1.00	0.053
Physostigmine	Carboxylic acid; Heterocyclic	III	164	5.51	3	-3.05	0.552	212	238	3	-3.81	2.44	139	8.74	3	-2.97	0.135
Potassium I chloride	Potassium compound; Chlorine compound	II	2560	432	3	-2.23	0.383	2287	631	3	-1.09	0.163	1990	161	3	-2.05	0.165

Table 5-5 NHK NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Potassium cyanide	Potassium compound; Nitrogen compound	III	29.3	6.9	3	-1.21	0.241	89.0	100	3	-1.10	0.319	16.9	2.21	3	-1.37	0.154
Procainamide HCl	Carboxylic acid; Amide	III	1480	200	3	-3.56	0.813	1787	221	3	-4.22	1.57	2027	229	3	-4.42	0.459
2-Propanol	Alcohol	II	5263	583	3	-2.01	0.173	4273	1139	3	-2.31	0.211	7087	480	3	-3.01	0.406
Propranolol HCl	Alcohol	Ib	38.3	4.54	3	-3.44	0.559	43.8	2.52	3	-2.72	1.461	28.6	3.28	4	-2.09	0.413
Propylparaben	Carboxylic acid; Phenol	III	18.1	2.42	3	-1.18	0.122	18.6	2.84	3	-1.58	0.399	13.8	1.21	3	-1.20	0.065
Sodium arsenite	Sodium compound; Arsenical	III	0.79	0.248	3	-1.69	0.222	0.336	0.187	3	-1.54	0.317	0.470	0.066	3	-1.96	0.197
Sodium chloride	Sodium compound; Chlorine compound	III	3583	263	3	-2.43	0.153	1118	1388	3	-1.96	0.371	3470	300	3	-2.47	0.208
Sodium dichromate dihydrate	Sodium compound; Chromium compound	III	0.784	0.113	3	-2.35	0.282	0.851	0.302	4	-3.52	1.49	0.576	0.100	3	-2.32	0.199
Sodium I fluoride	Sodium compound; Fluorine compound	II	48.7	6.92	3	-2.50	0.263	39.7	9.61	3	-2.60	1.04	53.7	6.82	4	-2.71	0.150
Sodium hypochlorite	Sodium compound Oxygen compound; Chlorine compound	III	1863	581	3	-5.19	1.14	1243	576	3	-2.78	1.27	1633	180	3	-3.86	0.211
Sodium oxalate	Sodium compound; Carboxylic acid	III	355	54.9	3	-4.00	1.99	350	147	4	-6.10	6.40	360	94.6	3	-3.13	0.555
Sodium selenate	Sodium compound; Selenium compound	II	7.47	0.861	3	-1.78	0.529	16.1	9.55	3	-3.07	0.456	10.0	1.33	3	-1.75	0.226

Table 5-5 NHK NRU Test Method IC_{50} and Hill Slope Data by Laboratory

Substance	Chemical Class[5]	Phase in which Tested	ECBC					FAL					IIVS				
			IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]	IC_{50}[1] µg/mL	SD[2]	N	Hill Slope[3]	SD[4]
Strychnine	Heterocyclic	III	100	76.6	4	-1.30	0.729	52.5	28.0	3	-1.60	0.260	55.1	3.43	3	-1.47	0.466
Thallium I sulfate	Sulfur compound; Metal	III	0.198	0.100	3	-2.08	1.01	0.153	0.031	3	-2.64	0.639	0.127	0.020	3	-2.90	0.338
Trichloroacetic acid	Carboxylic acid	III	348	63.5	3	-1.36	0.241	541	150	3	-1.34	0.411	394	50.8	3	-1.48	0.103
1,1,1-Trichloro-ethane	Halogenated hydrocarbon	III	8137	591	3	-14.0	6.08	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA
Triethylene-melamine	Heterocyclic	III	1.69	0.950	3	-0.838	0.076	2.03	0.471	3	-1.37	0.471	2.13	0.480	3	-1.95	0.369
Triphenyltin hydroxide	Organo-metallic compound	III	0.021	0.007	3	-2.46	0.698	0.007	0.007	3	-3.55	1.68	0.011	0.003	3	-3.34	0.396
Valproic acid	Carboxylic acid; Lipids	III	468	116	3	-1.31	0.252	702	160	3	-1.83	0.455	430	71.5	3	-1.24	0.115
Verapamil HCl	Amine	III	60.5	13.6	3	-1.72	0.238	79.4	33.9	3	-1.88	0.915	66.2	5.57	3	-2.53	0.221
Xylene	Cyclic hydrocarbon	III	NA	NA	-	NA	NA	NA	NA	-	NA	NA	486	185	3	-2.88	1.99

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; SD=Standard deviation; N=Number of data points; NA=Not available (i.e., IC_{50} values or Hill Slope values could not be generated [see notes in **Appendix I** for more information])

[1]Arithmetic mean.

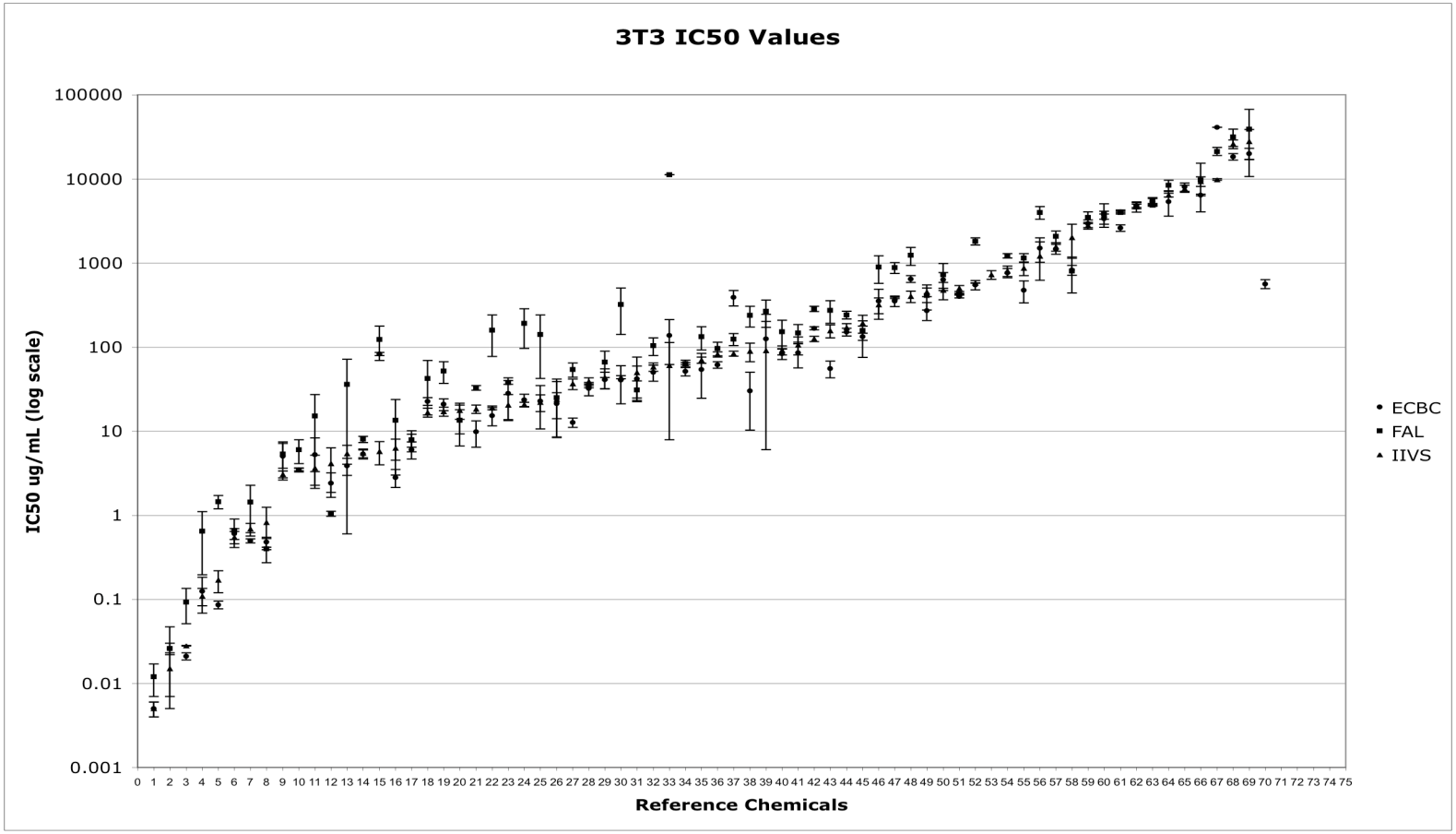
[2]Standard deviation of IC_{50}.

[3]Arithmetic Mean of Hill Slope values.

[4]Standard deviation of Hill Slope values.

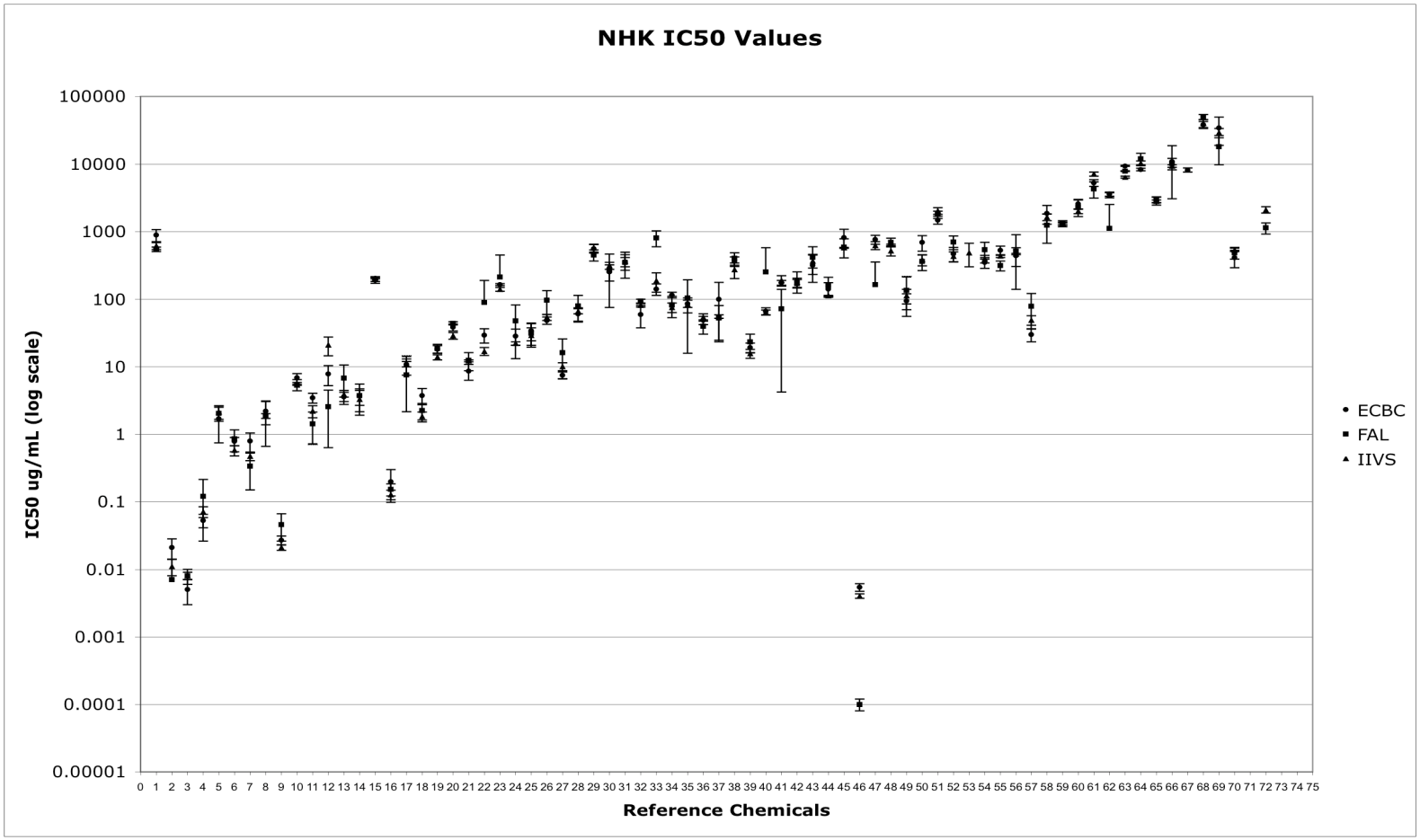
[5]Chemical class assigned is based on the classification of the National Library of Medicine's Medical Subject Heading (MeSH), http://www.nlm.nih.gov/mesh/meshhome.html.

Figure 5-1 Reference Substance IC_{50} Results for the 3T3 NRU Test Method by Laboratory



Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
Points show the mean arithmetic IC_{50} (µg/mL) for each reference substance from each laboratory. Error bars show the standard deviation. Data were sorted in ascending order of 3T3 IC_{50} values from IIVS (lead laboratory in the validation study). **Table 5-6** provides the numerical key for reference substance identification.

Figure 5-2 Reference Substance IC_{50} Results for the NHK NRU Test Method by Laboratory



Abbreviations: ECBC=Edgewood Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

Points show the mean arithmetic IC_{50} (µg/mL) for each reference substance from each laboratory. Error bars show the standard deviation. Data were sorted in ascending order of 3T3 IC_{50} values from IIVS (lead laboratory in the validation study). **Table 5-6** provides the numerical key for reference substance identification.

Table 5-6 Key to Validation Study Reference Substances[1]

No	Reference Substance	No	Reference Substance	No	Reference Substance	No	Reference Substance
1	Aminopterin	19	Propylparaben	37	Strychnine	55	Citric acid
2	Triphenyltin hydroxide	20	Propranolol HCl	38	Phenylthiourea	56	Boric acid
3	Colchicine	21	Dichlorvos	39	Lindane	57	5-Aminosalicylic acid
4	Cycloheximide	22	Potassium cyanide	40	Carbamazepine	58	Sodium hypochlorite
5	Triethylenemelamine	23	Physostigmine	41	Diethyl phthalate	59	Lactic acid
6	Sodium dichromate dihydrate	24	Dibutyl phthalate	42	Glutethimide	60	Potassium I chloride
7	Sodium arsenite	25	Parathion	43	Chloramphenicol	61	2-Propanol
8	Cadmium II chloride	26	Paraquat	44	Chloral hydrate	62	Sodium chloride
9	Hexachlorophene	27	Sodium selenate	45	Caffeine	63	Dimethylformamide
10	Mercury II chloride	28	Verapamil HCl	46	Digoxin	64	Ethanol
11	Endosulfan	29	Acetaminophen	47	Meprobamate	65	Gibberellic acid
12	Arsenic III trioxide	30	Busulfan	48	Acetylsalicylic acid	66	Acetonitrile
13	Diquat dibromide monohydrate	31	Sodium oxalate	49	Nicotine	67	1,1,1-Trichloroethane
14	Haloperidol	32	Phenol	50	Phenobarbital	68	Ethylene glycol
15	Cupric sulfate pentahydrate	33	Disulfoton	51	Procainamide HCl	69	Glycerol
16	Thallium I sulfate	34	Epinephrine bitartrate	52	Valproic acid	70	Lithium I carbonate
17	Amitriptyline HCl	35	Atropine sulfate	53	Xylene	71	Carbon tetrachloride
18	Fenpropathrin	36	Sodium I fluoride	54	Trichloroacetic acid	72	Methanol

Abbreviations: No=Number.
[1]As used in **Figures 5-1** and **5-2**.

5.5 Statistical Approaches to the Evaluation of 3T3 and NHK Data

The statistical approaches used for data evaluation are reviewed in the following sections for each phase of the validation study. **Section 2.2.3** discussed the endpoint measurements for the 3T3 and NHK test methods. The OD values of each of six replicate wells ([minimum of four] in the 96-well plate) per test concentration (eight concentrations/reference substance or PC) were used to determine relative cell viability in relation to the mean VC OD on the same plate. The cell viability values calculated for the replicate wells for each concentration were used to determine the concentration-response curve (percent viability vs. log concentration) for each test. The IC_{50} value was determined from fitting the curve to a Hill function.

5.5.1 Statistical Analyses for Phase Ia Data

The laboratories reported the IC_{50} results for SLS in μg/mL. The SMT used the results from the acceptable tests to calculate means and SDs for each method at each laboratory.

5.5.1.1 *Outlier Determination for Replicate Well Concentration Data*

A test for outliers at the 99% level (Dixon and Massey 1981) was used to determine the presence of outlier OD values among the six replicate wells for each reference substance concentration. The SMT applied the outlier test to the Phase Ia data when extreme values were noted. Outliers were excluded from the data set, and the IC_{50} was recalculated. The raw data files include all data provided by the laboratories, including the excluded outlier OD values. Because the protocol required a minimum of four acceptable test wells per reference substance concentration, no more than two wells of the six replicates could be excluded.

5.5.1.2 *Curve Fit Criteria*

After the completion of Phase Ia testing, a curve fit criterion was implemented for test acceptance following a visual review of the fit of the OD data to the Hill function curve. The SMT considered the fit of the concentration-response curve to the Hill function to be acceptable when $R^2 > 0.9$. A fit of $R^2 < 0.8$ was considered unacceptable and the data from that test were rejected. Curves with a fit of $0.8 < R^2 < 0.9$ were evaluated visually for goodness of fit and accepted if the SMT concluded that there were sufficient data points between 0 and 100% cytotoxicity, and a reasonable shape to the curve, to calculate a reasonably accurate IC_{50} value. Each test with a curve fit in this range was analyzed on a case-by-case basis, and no standard pass/fail criterion was developed. [Note: The use of a curve fit criterion was reevaluated in Phases Ib and II, and was eliminated as a test acceptance criterion for Phase III test results. An R^2 value ≥0.85 was maintained as a test acceptance criterion for the PC because its fit to the Hill function was well characterized.]

5.5.1.3 *Reproducibility Analyses for PC IC_{50} Values*

To evaluate reproducibility of the IC_{50} values for the PC for each test method, within and between the laboratories, the SMT considered the American Society of Testing and Materials (ASTM) Standard E691-99, *Standard Practice for Conducting an Interlaboratory Study to Determine the Precision of a Test Method* (ASTM 1999). This method uses two statistics, *h* and *k*, to judge the consistency of means and variances between laboratories. However, a minimum of six laboratories is required for this type of analysis and the SMT decided that it could not be appropriately applied to three laboratories. The variability of the PC IC_{50} results obtained from each test and laboratory was assessed using CV analysis and one-way ANOVA. Dividing the SD by the arithmetic mean IC_{50} value, and multiplying by 100 produced the CV. CV values were calculated for the acceptable tests within each laboratory to determine intralaboratory reproducibility. To compare the variation among laboratories, the CV was calculated using the arithmetic mean IC_{50} values from each of the three laboratories. Although no criterion for an acceptable CV was determined for this study, ECVAM recently used CV <30% as an acceptable range for both intra- and inter-laboratory reproducibility (Zuang et al. 2002; Fentem et al. 2001). Although CV <30% was intended to reflect an acceptable maximum for normal biological variability, the range was not supported by data.

For the ANOVA, IC_{50} values were first converted to mM units and then log-transformed to obtain normal distributions. One-way ANOVA was performed with SAS PROC GLM

software (SAS Institute 1999; see **Appendix D1** for example SAS code). A significance level of $p < 0.01$ was used to test results between the laboratories in order to be conservative with respect to identifying laboratory differences.

5.5.2 Statistical Analyses of Phase Ib Data

5.5.2.1 *Outlier Determination for Replicate Well Concentration Data*
For consistency of replicate well concentration data, the SMT applied the same outlier test used for the Phase Ia data (Dixon and Massey 1981) when extreme OD values were noted. If the extreme value was an outlier at the 99% level, it was excluded from the data set, and the IC_{50} was recalculated. All data are available in the data files provided by the laboratories, including the excluded outlier OD values.

5.5.2.2 *Reproducibility Analyses of the Reference Substance IC_{50} Values*
One-way ANOVA and CV analyses were used to assess method reproducibility within and among laboratories. For the ANOVA, the IC_{50} values were first converted to mM units and then log-transformed to obtain normal distributions. One-way ANOVA was performed with SAS PROC GLM (SAS Institute 1999; see **Appendix D1** for example SAS code). A significance level of $p < 0.01$ was used to test results between the laboratories in order to be conservative with respect to identifying laboratory differences. When the ANOVA detected significant differences among the laboratories, contrast analyses were performed to determine which laboratory was different from the others. These analyses compared the results of each laboratory with those of the other two laboratories. A significant difference in response among the laboratories was indicated by $p < 0.01$.

CV values were calculated for each reference substance by dividing the SD by the arithmetic mean IC_{50} value and multiplying by 100. CV values were calculated for the acceptable tests in each laboratory to determine intralaboratory reproducibility. To compare the variation among laboratories, the CV was calculated using the arithmetic mean IC_{50} values from each of the three laboratories.

As an additional approach to the assessment of interlaboratory reproducibility for each test substance, the maximum:minimum IC_{50} ratios (i.e., the maximum arithmetic mean laboratory IC_{50} value compared to the minimum arithmetic mean laboratory IC_{50} value) were calculated. This approach is similar to the calculation of maximum:minimum LD_{50} ratios for examining reproducibility of reference LD_{50} values (see **Section 4.4.1**).

5.5.3 Statistical Analyses of Phase II Data

5.5.3.1 *Outlier Determination for Replicate Well Concentration Data*
The Dixon and Massey (1981) outlier test was incorporated into the EXCEL® templates to assess the consistency of replicate well data for each reference substance concentration. Outliers at the 99% level were highlighted and the Study Director was offered the option of removing the value from subsequent calculations (e.g., mean OD of the six replicates; % viability; IC_{50}).

5.5.3.2 *Reproducibility Analyses of the Reference Substance IC_{50} Values*
The intra- and inter-laboratory reproducibility of the IC_{50} values were assessed using the acceptable tests to calculate the mean IC_{50}, SD, and CV for each substance, method, and

laboratory, as described in **Section 5.5.2.2**. One-way ANOVAs and calculations of maximum:minimum IC_{50} ratios were performed as described in **Section 5.5.2.2**.

5.5.3.3 *Comparison of 3T3 and NHK Test Results with the RC Millimole Regression*
To compare the 3T3 and NHK test results for the reference substances to those of the RC millimole regression, each IC_{50} value was transformed to mM units for the calculation of geometric mean IC_{50} values. The use of geometric means corresponded with the approach used to obtain single IC_{50} values from multiple IC_{50} values for the RC millimole regression (Halle 1998, 2003). The log geometric mean IC_{50} values (in mM) of the 11 RC substances tested during Phases Ib and II (see **Table 3-8**) were used with the log RC LD_{50} values, after transformation to log mmol/kg units (see **Appendices J1** and **J2**), to calculate least squares linear regressions for the data from each test method and laboratory. Each of these method/laboratory regressions was compared to the RC millimole regression using an F test with SAS PROC REG (SAS Institute 1999; see **Appendix D2** for example SAS code). An F test with a significance level of $p < 0.01$ was used to determine whether the joint comparison of slope and intercept indicated that the method/laboratory regressions were significantly different from the RC millimole regression.

As an alternate analysis, a least squares linear regression using IC_{50} and LD_{50} values from the RC was constructed for the 11 RC substances (*the RC-11 regression*) tested in Phases Ib and II. Each of these method/laboratory regressions was compared to the RC-11 regression using an F test with SAS PROC GLM (SAS Institute 1999; see **Appendix D2** for example SAS code) at a significance level of $p < 0.01$. This was used to determine whether the comparisons of slope and intercept indicated that the laboratory regressions were significantly different from the RC-11 regression.

5.5.4 Statistical Analyses of Phase III Data

5.5.4.1 *Outlier Determination for Replicate Well Concentration Data*
The laboratories used the Dixon and Massey (1981) outlier test at the 99% level that was incorporated into the EXCEL® templates to test for outlier values among replicate well data at the different reference substance concentrations. The Study Director had the option of excluding the outliers from the data set, which were highlighted by the template, and subsequent calculations. All data are available in the data files provided by the laboratories, including the outlier OD values.

5.5.4.2 *Reproducibility Analyses of the PC IC_{50} Data*
A number of analyses were performed to determine whether the SLS IC_{50} values were reproducible across study phases. The SLS IC_{50} values used to access variability were different from those shown in **Table 5-3**. To get an assessment of the true variation of SLS IC_{50} values, the reproducibility analyses included additional IC_{50} values from SLS tests that did not meet the IC_{50} acceptance limits (see **Table 5-3**) for each laboratory and study phase if they passed all other test acceptance criteria. If more than one SLS test was performed on a single day (for any test method and laboratory), the IC_{50} values were averaged to determine a single IC_{50} for the day. This prevented multiple data values from a single day from overly influencing the mean for each phase. CV analyses were performed as described in **Section 5.5.1** using the arithmetic mean SLS IC_{50} values for each method, laboratory, and study phase.

For the remaining analyses of reproducibility, the IC_{50} values were first log-transformed to obtain normal distributions. One-way ANOVAs were performed with SAS PROC GLM (SAS Institute 1999; see **Appendix D1** for example SAS code) for each method using study phase and laboratory as individual variables. A significance level of $p < 0.01$ was used to test for a statistical difference among the laboratory and/or phase results.

To determine whether there was a linear time trend for the SLS IC_{50} data, linear regression analyses using a least squares method were performed for each laboratory and method using SAS PROC REG (SAS Institute 1999). Time was expressed as an index for each test. The index number of each SLS test reflected its order of testing without respect to the time lapsing between tests. For example, the first SLS test was assigned a time index of 1 and the second SLS test was assigned a time index of 2 whether it occurred the day after the first test or one week after the first test. The slopes of the linear regressions were judged to be statistically significant at $p < 0.05$, which indicated that the IC_{50} had changed significantly over time.

5.5.4.3 *Reproducibility Analyses of the Reference Substance IC_{50} Values*

CV, one-way ANOVA analyses, and maximum:minimum IC_{50} ratios were performed to assess the intra- and/or inter-laboratory reproducibility of the Phase III reference substance data, as described in **Section 5.5.2.2**. An additional evaluation to determine whether normalizing the reference substance IC_{50} to the SLS IC_{50} would reduce interlaboratory variability was performed using five substances (for each test method) for which the ANOVAs indicated significant interlaboratory differences. The reference substance IC_{50} values were normalized to the SLS IC_{50} by calculating the reference substance IC_{50}:SLS IC_{50} ratio. CVs were calculated for each substance using the mean ratios from each laboratory. To determine whether this normalization reduced variability among the laboratories, the CVs for the substance IC_{50}:SLS IC_{50} ratios were compared to the CVs for the substance IC_{50}.
In addition, the geometric mean IC_{50} values were used to calculate least squares linear regression models after log transforming the data. Linear regressions were fit for each method and laboratory using the log-transformed reference LD_{50} values from **Table 4-2 (**in mmol/kg), with log IC_{50} in mM. To detect differences among the linear regressions in each laboratory, two models were fit for each method. The first was a full model that included effects for laboratory and interactions, and generated a regression line for each substance in each laboratory, by test method. The second model, which was considered to be a reduced model, assumed that one model fit all the laboratories. A goodness of fit F test was performed to compare the full and reduced models for each method. A significance level of $p < 0.01$ was used to test whether the regressions among laboratories were significantly different from one another. The following criteria were established for selection of data for use in the regression analyses for each test method:

- The substance was included in the RC
- All three laboratories reported IC_{50} values
- There was an associated rat oral reference LD_{50} value (see **Table 4-2**)

There were 47 reference substances that fit these criteria for the 3T3 and 51 test substances that fit the criteria for the NHK test methods.

5.5.4.4 *Comparison of 3T3 and NHK Results with the RC Millimole Regression*

To determine whether the IC_{50} values determined in the validation study were significantly different from the RC values, the laboratory-specific regression values for each method were combined using the geometric means of the laboratory-specific geometric mean IC_{50} values in mM and the reference LD_{50} in mmol/kg. Thus, there was one regression analysis with pooled laboratory data for the 3T3 NRU test method and another regression analysis (also with pooled data) for the NHK NRU test method. A third linear regression was calculated using the IC_{50} and LD_{50} values from the RC. The IC_{50} values and LD_{50} values were log-transformed for the regression calculations. The following criteria were established for the selection of substances to be used for the regression analyses:

- The substance was included in the RC
- All three laboratories reported IC_{50} values for both the 3T3 and NHK NRU test methods
- There was an associated rat oral reference LD_{50} value (see **Table 4-2**)

Forty-seven substances met these criteria. Two models were fit for each test method to detect differences between the NRU regression and the 47 RC substance regression. The first regression model was a full model that included effects for the RC and the NRU regression, and generated one regression line each for the RC and the NRU test method. The second (reduced) model assumed that a single model fit the combined RC and NRU IC_{50} data. The RC regression for the 47 reference substances was compared to the combined laboratory regression for each NRU test method using an F test to simultaneously compare slopes and intercepts. The NRU regressions were statistically different from the RC regressions if $p < 0.01$.

To assess the accuracy of the NRU methods and the associated IC_{50}-LD_{50} regressions, a predicted LD_{50} was calculated for each reference substance using its laboratory geometric mean IC_{50} in two analyses:

- The RC rat-only millimole regression calculated from the 282 RC substances with rat LD_{50} values, using units of mM for the IC_{50} and mmol/kg for the LD_{50} (see **Section 6.4.2**)
- The RC rat-only weight regression calculated from the 282 RC substances with rat LD_{50} values, using units of μg/mL for the IC_{50} and mg/kg for the LD_{50} (see **Section 6.4.3**)

The LD_{50} values predicted from the regression analyses were used to predict GHS acute oral toxicity categories (see **Section 6.4**). The accuracy of the predictions was determined by calculating the proportion of substances for which the predicted GHS toxicity category matched the GHS toxicity category. The LD_{50} predictions from these regression models were also used to determine starting doses for acute systemic toxicity test simulations for the purpose calculating animal use and savings that would be achieved using the NRU test methods. The simulation modeling methods, and results from the UDP and ATC methods, are described in **Section 10**.

5.5.5 Summary of the Data Used for Statistical Analyses

Table 5-7 summarizes the number of substances that were tested and the number of substances used for the various analyses performed to determine the accuracy and reliability of the *in vitro* NRU test methods.

Table 5-7 Datasets Used for Validation Study Analyses[1]

Use	3T3 NRU Test Method[1]	NHK NRU Test Method[1]	Characteristics of Dataset
Testing	72	72	Substances tested
Comparison of laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to one another	47	51	RC substances with IC_{50} values from all laboratories and reference rat oral LD_{50} values
Comparison of combined-laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to a regression calculated with RC data	47	47	RC substances with IC_{50} values for both test methods from all laboratories and rat oral reference LD_{50} values
Prediction of GHS accuracy using IC_{50} values in IC_{50}-LD_{50} regressions; prediction of starting doses for acute oral toxicity test (UDP and ATC) simulations	67	68	Substances with IC_{50} values from at least one laboratory
Reproducibility of acceptable rat oral LD_{50} values	NA	NA	62 substances with more than one acceptable rat oral LD_{50} value
Reproducibility of IC_{50} values	64	68	Substances with IC_{50} values from all laboratories
Comparison of reproducibility of IC_{50} values with reproducibility of LD_{50} values	53	57	Substances with IC_{50} values from all laboratories and more than one acceptable rat oral LD_{50} value

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; NA=Not applicable.
[1]Number of substances.

5.6 Summary of NRU Test Results

Table 5-8 shows the 3T3 and NHK IC_{50} values as geometric means of the geometric mean laboratory values, as a basis to compare the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values for each reference substance. The substances in **Table 5-8** are organized by ascending 3T3 NRU IC_{50} values (as was done for **Figures 5-1** and **5-2**). For each method, the table provides the geometric mean IC_{50} (combined across laboratories) in μg/mL, the ratio of the geometric mean IC_{50} to the SLS IC_{50}, and the 3T3 IC_{50}:NHK IC_{50} ratios. Geometric means were used for this comparison because they were used for both the IC_{50} and LD_{50} regression analyses (see **Sections 5.5.3.3**, **5.5.4.3,** and **5.5.4.4**). The 3T3 and NHK NRU IC_{50} values were compared using the ratios of their geometric means. The IC_{50} values for each reference substance were also compared to the IC_{50} for SLS using the ratio of reference substance geometric mean IC_{50} to SLS geometric mean IC_{50}.

Table 5-8 Comparison of 3T3 and NHK NRU IC_{50} Geometric Means

Reference Substance	3T3 NRU		NHK NRU		
	Geometric Mean[1] IC_{50} (µg/mL)	Ratio Geometric Mean IC_{50} to SLS IC_{50}	Geometric Mean[1] IC_{50} (µg/mL)	Ratio Geometric Mean IC_{50} to SLS IC_{50}	IC_{50} Ratios 3T3:NHK
Carbon tetrachloride	NA	NA	NA	NA	NA
Methanol	NA	NA	1529[3]	383.2	NA
Aminopterin	0.006	0.0001	669	167.7	0.00001
Triphenyltin hydroxide	0.017	0.0004	0.01	0.003	1.7
Colchicine	0.034	0.001	0.007	0.002	4.9
Cycloheximide	0.187	0.004	0.073	0.02	2.6
Triethylenemelamine	0.272	0.007	1.85	0.5	0.1
Cadmium II chloride	0.518	0.01	1.84	0.5	0.3
Sodium dichromate dihydrate	0.587	0.01	0.721	0.2	0.8
Sodium arsenite	0.759	0.02	0.477	0.1	1.6
Arsenic trioxide	1.96	0.05	5.26	1.3	0.4
Mercury II chloride	4.12	0.1	5.8	1.5	0.7
Hexachlorophene	4.19	0.1	0.029	0.01	144.5
Thallium I sulfate	5.74	0.1	0.152	0.04	37.8
Haloperidol	6.13	0.1	3.36	0.8	1.8
Endosulfan	6.35	0.2	2.13	0.5	3.0
Amitriptyline HCl	7.05	0.2	8.96	2.2	0.8
Diquat dibromide monohydrate	8.04	0.2	4.48	1.1	1.8
Propranolol	13.9	0.3	35.3	8.8	0.4
Dichlorvos	17.7	0.4	10.7	2.7	1.7
Paraquat	20.1	0.5	61.6	15.4	0.3
Fenpropathrin	24.2	0.6	2.43	0.6	10.0
Physostigmine	25.8	0.6	88.5	22.2	0.3
Propylparaben	26.1	0.6	16.6	4.2	1.6
Sodium selenate	29	0.7	10.2	2.6	2.8
Potassium cyanide	34.6	0.8	29	7.3	1.2
Verapamil HCl	34.9	0.8	66.5	16.7	0.5
Parathion	37.4	0.9	30.3	7.6	1.2
Sodium oxalate	37.7	0.9	337	84.5	0.1
Sodium lauryl sulfate (SLS)*	***41.7***	***1.0***	***3.99***	***1.0***	***10.5***
Cupric sulfate pentahydrate	42.1	1.0	197	49.4	0.2
Acetaminophen	47.7	1.1	518	129.8	0.1
Dibutyl phthalate	49.7	1.2	28.7	7.2	1.7
Epinephrine bitartrate	59	1.4	87.4	21.9	0.7
Phenol	66.3	1.6	75	18.8	0.9
Atropine sulfate	76	1.8	81.8	20.5	0.9
Busulfan	77.7	1.9	260	65.2	0.3
Sodium I fluoride	78	1.9	49.8	12.5	1.6
Phenylthiourea	79	1.9	336	84.2	0.2
Carbamazepine	103	2.5	83.2	20.9	1.2

Table 5-8 Comparison of 3T3 and NHK NRU IC_{50} Geometric Means

Reference Substance	3T3 NRU		NHK NRU		
	Geometric Mean[1] IC_{50} (µg/mL)	Ratio Geometric Mean IC_{50} to SLS IC_{50}	Geometric Mean[1] IC_{50} (µg/mL)	Ratio Geometric Mean IC_{50} to SLS IC_{50}	IC_{50} Ratios 3T3:NHK
Diethyl phthalate	107	2.6	120	30.1	0.9
Lindane	108	2.6	18.7	4.7	5.8
Chloramphenicol	128	3.1	348	87.2	0.4
Disulfoton	133	3.2	270	67.7	0.5
Caffeine	153	3.7	638	159.9	0.2
Strychnine	158	3.8	62.5	15.7	2.5
Glutethimide	174	4.2	174	43.6	1.0
Chloral hydrate	183	4.4	133	33.3	1.4
Nicotine	361	8.7	107	26.8	3.4
Procainamide HCl	441	10.6	1741	436.3	0.3
Digoxin	466	11.2	0.001	0.0003	466000.0
Meprobamate	519	12.4	357	89.5	1.5
Lithium I carbonate	562[2]	13.5	468	117.3	1.2
Phenobarbital	573	13.7	448	112.3	1.3
Acetylsalicylic acid	676	16.2	605	151.6	1.1
Xylene	721[2]	17.3	466[2]	116.8	1.5
Citric acid	796	19.1	400	100.3	2.0
Trichloroacetic acid	902	21.6	413	103.5	2.2
Valproic acid	916	22.0	512	128.3	1.8
Sodium hypochlorite	1103	26.5	1502	376.4	0.7
5-Aminosalicylic acid	1667	40.0	46.7	11.7	35.7
Boric acid	1850	44.4	421	105.5	4.4
Lactic acid	3044	73.0	1304	326.8	2.3
Potassium I chloride	3551	85.2	2237	560.7	1.6
2-Propanol	3618	86.8	5364	1344.4	0.7
Sodium chloride	4730	113.4	1997	500.5	2.4
Dimethylformamide	5224	125.3	7760	1944.9	0.7
Ethanol	6523	156.4	10018	2510.8	0.7
Gibberellic acid	7810[3]	187.3	2856	715.8	2.7
Acetonitrile	7951	190.7	9528	2388.0	0.8
1,1,1-Trichloroethane	17248	413.6	8122[2]	2035.6	2.1
Ethylene glycol	24317	583.1	41852	10489.2	0.6
Glycerol	24655	591.2	24730	6198.0	1.0

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; SLS=Sodium lauryl sulfate; NA=Not available.
Reference substances are ordered by 3T3 NRU IC_{50} values.
[1]Geometric mean IC_{50} of the laboratory geometric mean values.
[2]Data available from only one laboratory.
[3]Data available from only two laboratories.
*Acceptable positive control (SLS) values from all study phases: N=293 for the 3T3 NRU and N=281 for the NHK NRU.

Table 5-8 shows that there are nine reference substances for which the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values differ by at least one order of magnitude (i.e., 3T3 IC_{50}:NHK IC_{50} $\leq$0.1 or $\geq$10): aminopterin, triethylenemelamine, hexachlorophene, thallium sulfate, fenpropathrin, sodium oxalate, acetaminophen, digoxin, and 5-aminosalicylic acid. The IC_{50} values for SLS, also differed by slightly more than one order of magnitude in the two NRU test methods (41.7 μg/mL for 3T3 and 3.99 μg/mL for NHK). One test method was not more consistently sensitive (i.e., produced lower IC_{50} values) than the other for these nine reference substances. The 3T3 NRU test method was more sensitive than the NHK NRU test method for four of the nine substances: aminopterin, triethylenemelamine, sodium oxalate, and acetaminophen. The NHK NRU test method was more sensitive than the 3T3 NRU test method for five substances: hexachlorophene, thallium sulfate, fenpropathrin, digoxin, and 5-aminosalicylic acid. Despite the normalization procedure, the reference substance IC_{50}:SLS IC_{50} ratios for the two methods were still greater by at least one order of magnitude for six of the nine substances (aminopterin, triethylenemelamine, hexachlorophene, sodium oxalate, acetaminophen, and digoxin) and the order of magnitude difference increased for all six substances. A number of factors could potentially be responsible for these differences between the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values:

- Cell culture conditions (i. e., the 3T3 treatment medium contains serum while the NHK treatment medium does not; differences in cell density in the treatment medium)
- Differences in sensitivity between the fibroblast cell line and primary keratinocytes
- Differences in sensitivity between human and mouse cells
- Differences in metabolic activity between the cell types

These factors may affect the results for some substances more than others. For example, a substance that binds to serum proteins would be less available to the 3T3 cells (which have serum in their growth medium) than to NHK cells (which are grown without serum). No additional testing was performed to investigate the differences between the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values.

Two substances, digoxin and aminopterin, have IC_{50} values that differ by five orders of magnitude between the two NRU test methods. Digoxin was much more toxic to the NHK cells and aminopterin was more toxic to the 3T3 cells. Both substances are known substrates for organic anionic transporters (OAT) (ICCVAM 2006). Such transporters are important for *in vivo* toxicity responses in terms of the ability of challenge substances to be absorbed, reach target tissues, accumulate, or be excreted. The differential susceptibilities of the 3T3 and NHK cells may be explained by differential functioning of OAT between the cell types. Although species and tissue differences in OAT have been reported (Sekine et al. 2000; Miyazaki et al. 2004), the reason for these differential sensitivities is not known.

The 3T3 IC_{50}:NHK IC_{50} ratios shown in **Table 5-8** were used to determine the frequency distributions shown in **Table 5-9.** These distributions indicate that the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values were within one order of magnitude of each other for 85% of the reference substances (obtained by adding 38.9% and 45.8% for the 0.1 < IC_{50} ratio $\leq$1 and 1 < IC_{50} ratio <10 ranges). Ninety-three percent of the reference substances have 3T3 and NHK NRU

IC_{50} values within two orders of magnitude of each other (obtained by adding 4.2% each for the $10 \leq IC_{50}$ ratio ≤ 100 and $0 < IC_{50}$ ratio ≤ 0.1 ranges to the 85% above).

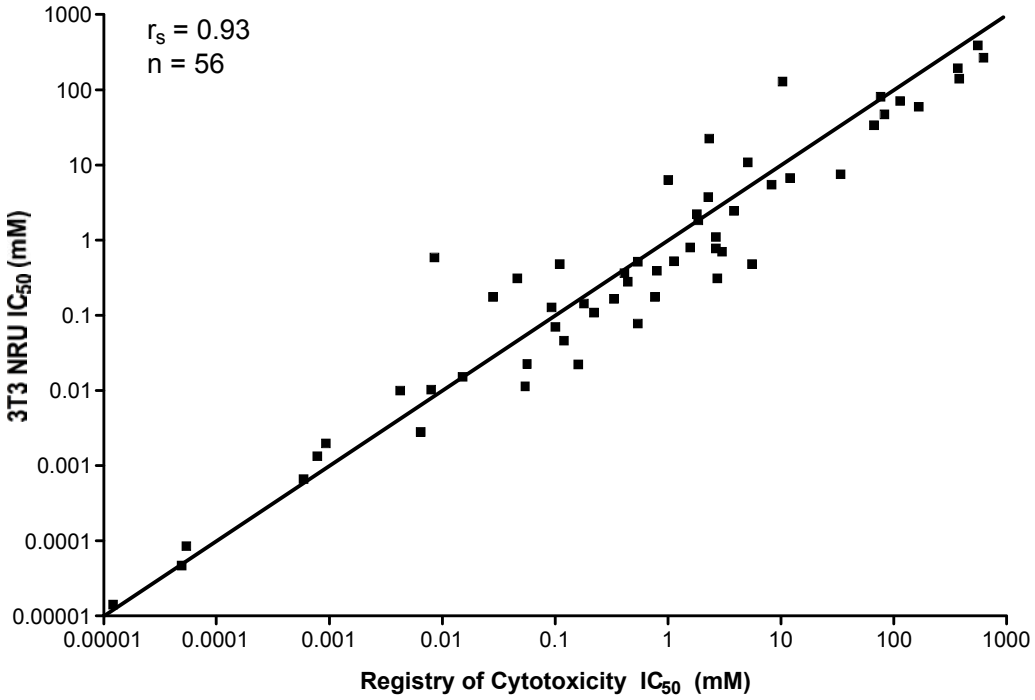
Table 5-9 Frequency of 3T3:NHK IC_{50} Ratios[1] for Reference Substances

3T3:NHK IC_{50} Ratio Range	Number of Substances	% of Substances
IC_{50} Ratio <0.00001	1	1.4
$0 < IC_{50}$ Ratio ≤ 0.1	3	4.2
$0.1 < IC_{50}$ Ratio ≤ 1	28	38.9
$1 < IC_{50}$ Ratio <10	33	45.8
$10 \leq IC_{50}$ Ratio <100	3	4.2
$100 \leq IC_{50}$ Ratio <1000	1	1.4
IC_{50} Ratio ≥ 1000	1	1.4
Not Available	2	2.8

Abbreviations: 3T3=Neutral red uptake using BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK= Neutral red uptake using normal human epidermal keratinocytes.
Note: Compiled using reference substance data from **Table 5-7**.

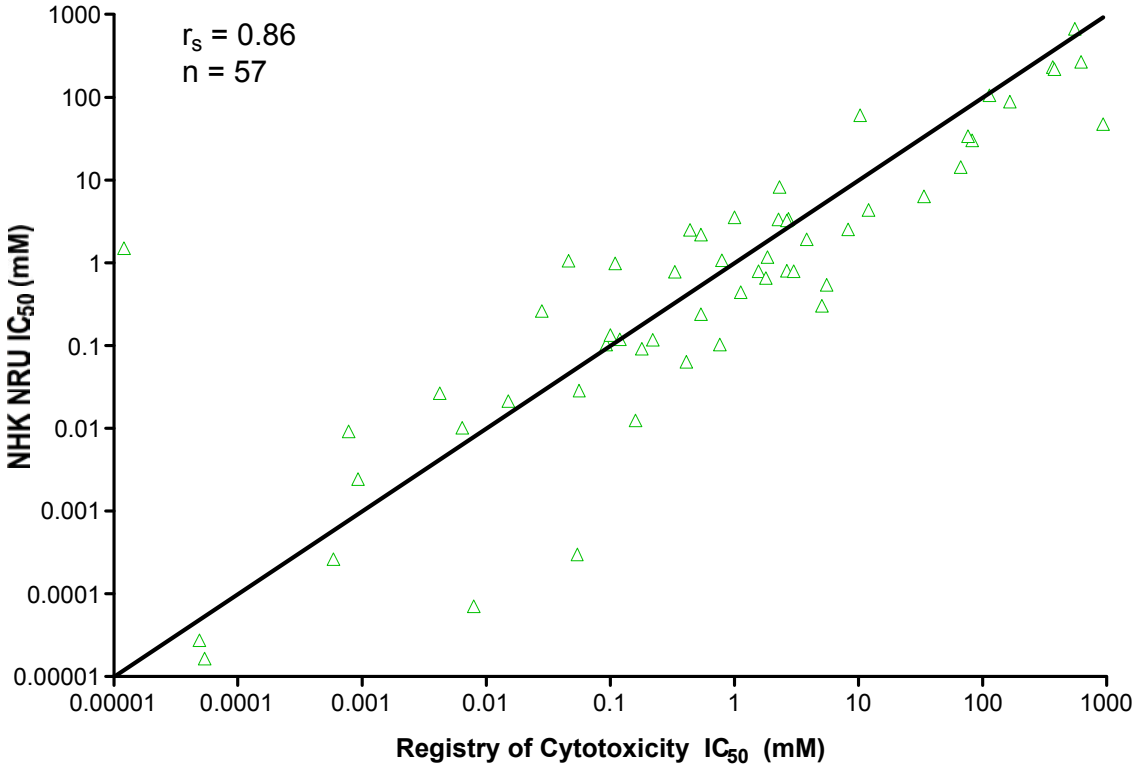
Correlations of the mean IC_{50} values for the reference substances common to the RC database with the IC_{50} values (i.e., geometric mean of IC_{50} values obtained from the literature for various basal cytotoxicity endpoints and cell types) from the RC (Halle 1998, 2003) are shown in **Figure 5-3** (3T3 values) and **Figure 5-4** (NHK values). Although the validation study tested 58 RC substances in common with the RC, IC_{50} values were obtained for 56 substances using the 3T3 NRU test method and 57 substances using the NHK NRU test method. Spearman correlation analyses of the log-transformed IC_{50} data (in mM) indicated that the NRU IC_{50} values were significantly correlated with the RC IC_{50x} values ($p<0.001$, for both the 3T3 and NHK NRU test methods). The Spearman correlation coefficient, r_s, was 0.93 for the 3T3 values and 0.86 for the NHK values.

Figure 5-3 RC IC_{50} Values vs 3T3 NRU IC_{50} Values for 56 Substances in Common



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; r_s=Spearman correlation coefficient; n=Number of substances; mM=Millimolar.
The diagonal line indicates the predicted values for a 1:1 correspondence. No IC_{50} values were obtained for carbon tetrachloride or methanol because of insufficient toxicity. The Registry of Cytotoxicity IC_{50} values are geometric means of IC_{50} values obtained from the literature for various basal cytotoxicity endpoints and cell types.

Figure 5-4 RC IC_{50} Values vs NHK NRU IC_{50} Values for 57 Substances in Common



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; r_s=Spearman correlation coefficient; n=Number of substances; mM=Millimolar.
The diagonal line indicates the predicted values for a 1:1 correspondence. No IC_{50} values were obtained for methanol because of insufficient toxicity. The Registry of Cytotoxicity IC_{50} values are geometric means of IC_{50} values obtained from the literature for various basal cytotoxicity endpoints and cell types.

5.7 Availability of Data

All data were provided to the SMT as electronic files and paper copies. The laboratories also maintained copies of all raw data and the electronic files. The individual test data and IC_{50} results for both passing and failing tests are provided in **Appendix I** for the reference substances and the PC.

5.8 Solubility Test Results

A solubility protocol (see **Section 2-8** and **Appendix B3**) designed to identify the solvent that would provide the highest concentration of a reference substance for *in vitro* testing was evaluated. Each laboratory performed solubility tests on all reference substances. However, to avoid the use of different solvents by the laboratories when testing the same substance, which might increase the variability of the IC_{50} results among the laboratories, the SMT assigned the solvents to be used (see **Table 5-10**). The objectives of the solubility testing were to evaluate the utility and appropriateness of the solubility protocol, and to evaluate the concordance among laboratories in selecting the solvents for each of the 72 reference substances.

Table 5-10 Solubility Test Results (mg/mL)

Reference Substance	BioReliance[1]				SMT[2] Selection	ECBC[3]				FAL[3]				IIVS[3]			
	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH		3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH
Phase I																	
Arsenic III trioxide	0.25	0.05	<2	<2	Medium	***0.025***[6]	***0.025***[6]	***<0.2***	***<0.2***	***0.135***[6]	***0.135***[6]	***<0.2***	***<0.2***	***<0.02***[6]	***<0.02***[6]	***<0.2***	***<0.2***
Ethylene glycol	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Propranolol HCl	<2	10	200	20	DMSO	0.2	2	200	NT	20	20	200	NT	20	2	NT	NT
Phase II																	
Aminopterin	2	2	NT	NT	DMSO	2.0	<2	200	NT	<2	2	200	NT	0.2	0.2	200	NT
Cadmium II chloride	<2	<2	200	<200	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	20	<20
Chloramphenicol	2	2	400	<200	DMSO	2.0	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	0.2	0.2	20	20
Colchicine	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Lithium I carbonate	0.25	10	<2	NT	Medium	0.2	2.0	<20	<20	0.2	2	<200	<200	0.2	2	<2	<2
Potassium I chloride	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
2-Propanol	400	400	400	400	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium I fluoride	20	20	<200	<200	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium selenate	200	200	<200	<200	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Phase III																	
Acetaminophen	10	10	400	<200	DMSO	2	2	NT	NT	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT
Acetonitrile	400	400	400	400	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Acetylsalicylic acid	10	10	400	200	DMSO	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT	2	2	NT	NT
5-Aminosalicylic acid	2	2	<200	<200	Medium	2	2	NT	NT	2	2	NT	NT	2	2	NT	NT
Amitriptyline HCl	200	200	NT	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	0.2	0.2	200	NT

Table 5-10 Solubility Test Results (mg/mL)

Reference Substance	BioReliance[1]				SMT[2] Selection	ECBC[3]				FAL[3]				IIVS[3]			
	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH		3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH
Atropine sulfate	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Boric aid	40	40	200	<200	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	2	2	NT	NT
Busulfan	<2	<2	40	<200	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	50[6]	<200	<0.2	<0.2	20	<200
Caffeine	10	10	20	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Carbamazepine	<2	<2	40	<200	DMSO	0.2	0.2	20	20	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	2	<20
Carbon tetrachloride	2	10	NT	NT	DMSO	20	20	NT	NT	<0.2	<0.2	2	NT	20	20	NT	NT
Chloral hydrate	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Citric acid	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Cupric sulfate pentahydrate	1	0.5	<2	2	Medium	2	0.2	<200	<200	2	2	NT	NT	0.2	0.2	<200	NT
Cycloheximide	20	20	400	<200	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	2	2	NT	NT
Dibutyl phthalate	<2	<2	400	400	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Dichlorvos	10	10	NT	NT	DMSO	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT	2	2	NT	NT
Diethyl phthalate	<2	<2	400	400	DMSO	<2	<2	200	NT	0.2	<0.2	200	NT	<2	<2	200	NT
Digoxin	0.05	0.05	200	< 200	DMSO	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	200	NT	<2	<2	200	NT
Dimethylformamide	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Diquat dibromide monohydrate	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Disulfoton	<2	<2	500	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Endosulfan	<0.05	<0.05	40	NT	DMSO	<0.2	<0.2	20	<200	<0.2	<0.2	2	<200	<0.2	<0.2	20	<200
Epinephrine bitartrate	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	2	2	NT	NT
Ethanol	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT

Table 5-10 Solubility Test Results (mg/mL)

Reference Substance	BioReliance[1]				SMT[2] Selection	ECBC[3]				FAL[3]				IIVS[3]			
	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH		3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH
Fenpropathrin	<20	<20	500	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	200	NT	<2	<2	200	NT
Gibberellic acid	10	10	NT	NT	Medium	2	2	NT	NT	2	2	NT	NT	2	2	NT	NT
Glutethimide	<2	<2	500	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Glycerol	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Haloperidol	<20	<20	40	NT	DMSO	<0.2	<0.2	20	<20	<0.2	<0.2	20	<20	<2	<2	20	<20
Hexachlorophene	0.05	<0.05	400	400	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Lactic acid	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Lindane	<0.05	<0.05	400	<200	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	20	<200
Meprobamate	1	1	200	NT	DMSO	2	2	200	NT	2	2	200	NT	<0.2	<0.2	200	NT
Mercury II chloride	0.125	0.125	400	<200	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	200	NT
Methanol	40	40	400	400	DMSO	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	<2	<2	200	NT
Nicotine	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Paraquat	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Parathion	0.05	<0.05	400	400	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Phenobarbital	2	2	200	<200	DMSO	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Phenol	40	40	400	400	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Phenylthiourea	2	2	400	<200	DMSO	2	<2	200	NT	20	20	NT	NT	<2	<2	200	NT
Physostigmine	2	2	400	200	DMSO	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Potassium cyanide	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Procainamide HCl	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT

Table 5-10 Solubility Test Results (mg/mL)

Reference Substance	BioReliance[1]				SMT[2] Selection	ECBC[3]				FAL[3]				IIVS[3]			
	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH		3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH	3T3[4] Medium	NHK[5] Medium	DMSO	ETOH
Propylparaben	0.25	0.25	400	400	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT
Sodium arsenite	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium chloride	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium dichromate dihydrate	400	400	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium hypochlorite	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Sodium oxalate	<0.05	20	0.125	<0.05	Medium	<0.2	20	0.2	<2	20	20	NT	NT	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***
Strychnine	< 2	<2	2	2	Medium	0.2	<0.2	2	2	0.2	0.2	<200	<200	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***
Thallium I sulfate	1	0.5	<2	<2	Medium	0.2	0.2	<200	<200	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***	0.2	0.2	<20	<200
Trichloroacetic acid	200	200	NT	NT	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
1,1,1-Trichloroethane	10	10	400	400	Medium	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT	20	20	NT	NT
Triethylenemelamine	<2	<2	2	<20	DMSO	0.2	0.2	<200	<200	<0.2	<0.2	2	<2	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***	***<0.2***
Triphenyltin hydroxide	<0.05	<0.05	10	<20	DMSO	<0.2	<0.2	2	<20	<0.2	<0.2	2	<200	<2	<2	2	<20
Valproic acid	10	2	NT	NT	DMSO	2	2	NT	NT	<2	<2	200	NT	2	<2	200	NT
Verapamil HCl	<0.05	0.25	200	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT	<0.2	<0.2	20	NT
Xylene	1	1	500	NT	DMSO	<2	<2	200	NT	2	<2	200	NT	<2	<2	200	NT

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; SMT=Study Management Team; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; DMSO=Dimethyl sulfoxide; ETOH=ethanol; NT=Not tested.
Note: Table sorted by study phase and alphabetical by substance.
[1]The solubility protocol used was different from that used by the testing laboratories.
[2]Solvents selected by the SMT for cytotoxicity testing. The BioReliance results were used to determine solvents for Phases I and II. Results from all laboratories were used to determine solvents for Phase III. 3T3 and NHK media were treated as a single solvent. If a substance insoluble in one medium, and not the other, and soluble in DMSO, then DMSO was selected for use with both cell types.
[3]Used protocol in **Figure 2-7**.
[4]Dulbecco's Modification of Eagle's Medium.
[5]Keratinocyte Growth Medium (KGM® from CAMBREX Clonetics®).
[6]The results were obtained using a deviation from the standard protocol.
Laboratories agreed on solvent. Laboratories did not agree on solvent. **bold** Protocol did not provide enough guideline information to select a single solvent.

5.8.1 Solubility Data

BioReliance evaluated the solubility of the reference substances, first in media, then in DMSO, and then in ETOH, at 400 and 200 mg/mL. Based on their experience, a solubility protocol was developed for the testing laboratories. This revised protocol required testing at lower concentrations, and use of the various solvents at concentrations that would be equivalent when applied to the cell cultures (see **Table 2-5**). The solubility flow chart (**Figure 2-7**) illustrates the tests for solubility in 3T3 and NHK medium, DMSO, and ETOH. **Table 5-10** provides the solubility test results.

5.8.2 Solubility and Volatility Effects in the Cytotoxicity Tests

The laboratories reported solubility results for the stock solutions of reference substance for each 3T3 and NHK test. Prior to the addition of the NR dye medium, the laboratories visually observed the test cultures and documented noticeable precipitate. **Table 5-11** illustrates the existence of solubility issues (in both the 3T3 and NHK NRU test methods) as evidenced by the observation of precipitates with some reference substances. **Sections 3.2.6** and **5.4.2** provide additional information on ability of the laboratories to achieve sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} in the presence of limited solubility. **Table 5-11** also notes the presence of volatility, as indicated by the use of film plate sealers during incubation.

Table 5-11 Reference Substances with Precipitate (PPT) and Volatility Issues[1]

Reference Substances	3T3 NRU Test Method				NHK NRU Test Method			
	PPT in 2X Stock Dilutions	PPT in 1X Plate Dilutions	PPT in Stock and Plate Dilutions	Volatility	PPT in 2X Stock Dilutions	PPT in 1X Plate Dilutions	PPT in Stock and Plate Dilutions	Volatility
Acetonitrile				X				X
Aminopterin		X			X			
5-Aminosalicylic acid	X							
Arsenic III trioxide	X				X			
Cadmium II chloride		X					X	
Carbamazepine			X					
Carbon tetrachloride			X		X			
Citric acid						X		
Cupric sulfate pentahydrate						X		
Dibutyl phthalate		X					X	
Dichlorvos				X				X
Diethyl phthalate	X						X	
Digoxin			X					
Dimethylformamide						X		
Disulfoton			X				X	
Endosulfan	X			X				X
Ethanol				X				X
Fenpropathrin			X				X	
Gibberellic acid	X				X			
Glutethimide					X			
Lindane			X	X			X	
Lithium I carbonate	X				X			
Nicotine				X				X
Parathion	X						X	
Phenol				X				X
Potassium I chloride		X						
Potassium cyanide		X		X				X

Table 5-11 Reference Substances with Precipitate (PPT) and Volatility Issues[1]

Reference Substances	3T3 NRU Test Method				NHK NRU Test Method			
	PPT in 2X Stock Dilutions	PPT in 1X Plate Dilutions	PPT in Stock and Plate Dilutions	Volatility	PPT in 2X Stock Dilutions	PPT in 1X Plate Dilutions	PPT in Stock and Plate Dilutions	Volatility
2-Propanol				X				X
Sodium arsenite		X						X
Sodium chloride						X		
Sodium I fluoride		X				X		
Sodium hypochlorite				X				
Sodium oxalate			X			X		
Strychnine	X				X			
Trichloroacetic acid						X		
1,1,1-Trichloroethane	X						X	
Valproic acid	X							
Verapamil HCl					X			
Xylene	X				X			

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; PPT=Precipitate.
Note: Table sorted alphabetical by reference substance.
[1]Results are based on at least one laboratory having precipitate or volatility issues with a substance. Volatility was denoted by the use of plate sealers during testing. 2X stock dilutions are prepared for each of 8 test substance concentrations. 1X plate dilutions are the result of diluting the 2X stock solutions with medium in the 96-well plates.

5.9 Summary

- The BioReliance, ECBC, and IIVS laboratories performed the 3T3 and NHK NRU tests in compliance with GLP guidelines.
- The quality and consistency of the reference substances was maintained during the study by the central purchase and distribution of individual lots of reference substances to the testing laboratories.
- Modifications and revisions made to the protocols during Phases I and II contributed to the optimization of the final protocols used in Phase III of the study. As a general rule, the protocol changes enhanced the performance of the methods and allowed more tests to meet the acceptance criteria.
- FAL improved the quality of its NHK data prior to Phase II testing by modifying the methods used to propagate the cells. Positive control IC_{50} data in Phases II and III from FAL more closely resemble the data from the other laboratories.
- Summary test data and IC_{50} results are presented in tabular and graphic formats. Comparisons of 3T3 NRU IC_{50} values to NHK NRU IC_{50} values show that the values for 85% of the reference substances are within one order of magnitude of each other. Digoxin and aminopterin yielded differences of up to five orders of magnitude when the IC_{50} values of the 3T3 and NHK NRU test methods were compared.
- Although each laboratory followed the same solubility protocol, they sometimes obtained different results. This may have been due to the subjective judgment of whether or not solubility was achieved. Additionally, the laboratories may have used solubility procedures that were beyond the level of detail in the solubility protocol.

[This Page Intentionally Left Blank]

6.0 ACCURACY OF THE 3T3 AND NHK NRU TEST METHODS

This section discusses the accuracy of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting the rodent acute oral toxicity (the LD_{50}) of chemicals. Accuracy, the agreement between a test result and an accepted reference value, is a critical component of the evaluation of the validation status of a method (ICCVAM 2003). Although the 3T3 and NHK NRU test methods are not suitable as replacements for acute oral toxicity assays, the rationale for evaluating the accuracy of LD_{50} predictions from the *in vitro* IC_{50} values is that the animal savings produced by using these *in vitro* test methods to predict starting doses for acute oral toxicity assays will be greatest when the starting dose is as close as possible to the "true" LD_{50} value (see **Section 10** for the evaluation of the potential reduction of animal use).

The ability of the 3T3 and NHK NRU test methods to correctly predict rodent acute oral toxicity is based on the validity of the *in vivo – in vitro* (i.e., IC_{50}-LD_{50}) regression model. The IC_{50}-LD_{50} regression establishes the relationship between the *in vitro* IC_{50} values and the LD_{50} values that will be used to set the starting doses for the computer-simulated acute oral toxicity assays in this study (see **Section 10**). The regressions generated by the three laboratories for each NRU test method were not statistically different, and the data from the 3T3 and NHK NRU test methods were combined (using a geometric mean IC_{50} of the three individual laboratory geometric mean IC_{50} values) into single regressions (see **Section 6.1**). Only rat LD_{50} data were used for these regressions to reduce the variation that would be produced by combining data from multiple species. **Table 6-1** describes the datasets used for the analyses in **Sections 6.1** through **6.4**.

To test the assumption in the *Guidance Document* that the RC millimole regression can be obtained using a basal cytotoxicity method with a single cell type and cytotoxicity endpoint (ICCVAM 2001b), the regressions for each NRU test method (3T3 and NHK) were compared with regressions for the same substances that were calculated using the RC IC_{50} and LD_{50} values (see **Section 6.1**). Because the 3T3 and NHK regressions were not statistically different from the RC regressions for the same chemicals, the RC data were used to develop a regression to predict LD_{50} values from the NRU-generated IC_{50} values because this regression was based on a larger number of substances than the NICEATM/ECVAM regressions (see **Section 6.3**).

The RC millimole regression was used to identify outlier substances (i.e., those that did not fit the regression within the established acceptance limits; see **Section 6.2**) tested in the validation study because:

- Acceptance limits for the RC millimole regression had been established
- The 3T3 and NHK NRU IC_{50} – rat oral LD_{50} regressions were not significantly different from the RC regressions calculated for the same substances
- Use of the RC regressions allow a comparison of the outlier substances determined using RC data to those determined using the 3T3 and NHK data

Table 6-1 Datasets Used for Accuracy Analyses[1]

Use	3T3 NRU[1]	NHK NRU[1]	Characteristics of Dataset
Testing with NRU test methods	72	72	Substances tested; 58 substances were common to the RC
Comparison of laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to one another	47	51	RC substances with IC_{50} values from all laboratories and reference rat oral reference LD_{50} values
Comparison of combined-laboratory IC_{50}-LD_{50} regressions to a regression calculated with RC data	47	47	RC substances with IC_{50} values for both test methods from all laboratories and reference rat oral LD_{50} values
RC millimole regression	NA	NA	RC IC_{50} (mM) and RC oral LD_{50} (mmol/kg) values for 347 substances (282 rat and 65 mouse LD_{50} values)
RC rat-only millimole regression	NA	NA	RC IC_{50} (mM) and RC oral LD_{50} values (mmol/kg) for 282 substances with rat oral LD_{50} data
RC rat-only weight regression	NA	NA	RC IC_{50} (µg/mL) and RC oral LD_{50} values (mg/kg) for 282 substances with rat oral LD_{50} data
Analysis of outliers for the RC millimole regression	70	71	Substances with IC_{50} values from at least one laboratory
Prediction of GHS accuracy using IC_{50} values in RC rat-only regressions	67	68	Substances with IC_{50} values from at least one laboratory and rat oral LD_{50} referene values

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NA=Not applicable; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.
[1]Number of substances.

To improve upon the RC millimole regression's[1] ability to accurately predict LD_{50} values from IC_{50} values, and to also make this approach relevant to the testing of mixtures and substances without known molecular weights, two regressions were calculated (see **Section 6.3**). The first regression – the RC rat-only millimole regression – uses the 282 (of 347) substances in the RC dataset that had reported rat LD_{50} values. The LD_{50} data for the regression were limited to one species to decrease the variability in LD_{50} values that would occur if the data from more than one species were combined. Rats were selected because they are the preferred species for acute oral toxicity testing (EPA 2002b; OECD 2001a; OECD 2001d) (see **Section 6.3.1**). The RC rat-only millimole regression was transformed to one based on weight units (mg/kg body weight for LD_{50} and µg/mL for IC_{50}) in order to make the regression equation more generally applicable to the testing of mixtures and substances of unknown molecular weights.

[1] The RC millimole regression was created using rat and mouse oral LD_{50} values from RTECS® and IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays using multiple cell lines and cytotoxicity endpoints for 347 substances with known molecular weights (Halle 1998, 2003)

The ability of the 3T3 and NHK NRU IC_{50} data to correctly predict rat acute oral LD_{50} values based on using the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression, was evaluated by determining the extent to which the appropriate GHS acute oral toxicity category was identified for each reference substance (see **Section 6.4**). The rationale for evaluating the accuracy of LD_{50} predictions is that the acute oral toxicity test methods (i.e., UDP, FDP, and ATC) call for starting doses to be placed as close as possible and just below the true LD_{50}. When the starting dose is close to the true LD_{50} for a test substance, fewer animals are needed. When the starting dose is below the true LD_{50}, there is reduced pain and suffering because doses tend to be lower, and the test bias is more conservative. This approach permits an assessment of accuracy that is specific to each GHS hazard classification category. The discordant reference substances from the predictions of GHS category are presented in **Appendix L2**.

The remainder of **Section 6** discusses physical, chemical, and biological, characteristics of substances that may have an impact on the accuracy of the 3T3 and NHK methods.

6.1 Accuracy of the 3T3 and NHK NRU Test Methods for Predicting Rodent Acute Oral Toxicity

The rat LD_{50} values provided in **Section 4.2** are used as the reference values for assessing the ability of the 3T3 and NHK test methods to accurately predict acute oral toxicity[2]. The accuracy of the two *in vitro* cytotoxicity test methods is assessed in two ways: (1) by the goodness of fit of the *in vitro* IC_{50} data to the rat LD_{50} data in linear regression analyses, and (2) by the concordance (i.e., extent of agreement) between the GHS acute oral toxicity categories (UN 2005) assigned based on rat LD_{50} data and those predicted using *in vitro* IC_{50} values.

6.1.1 Linear Regression Analyses for the Prediction of Rat Acute Oral LD_{50} Values from *In Vitro* IC_{50} Values

As described in **Section 5.5.4.3**, linear regressions for each laboratory and *in vitro* method were calculated using log IC_{50} values (mM) versus the corresponding reference log LD_{50} values (mmol/kg) identified in **Table 4-2**. The reference substances used to calculate each of the laboratory regressions met the following criteria for each test method:

- The substance was included in the RC
- All three laboratories reported IC_{50} values
- There was an associated rat acute oral LD_{50} reference value (see **Table 4-2**).

There were 47 and 51 reference substances that fit these criteria for the 3T3 and NHK test methods, respectively. The slopes for the all of the laboratory-specific regressions were statistically significantly different from zero ($p < 0.0001$), which indicates a significant correlation between *in vitro* IC_{50} values and the corresponding rat acute oral LD_{50} values. Comparison of the individual laboratory regressions to one another using the goodness of fit

[2] Toxicity is inversely proportional to LD_{50}. High LD_{50} values reflect low toxicity and low LD_{50} values reflect high toxicity

F-test for regression slopes and intercepts described in **Section 5.5.4.3** indicated that the laboratory-specific regressions for either NRU method were not significantly different from one another. For the 3T3 method, p=0.605 for the slope comparisons and p=0.947 for the intercept comparisons. For the NHK method, p=0.792 for the slope comparisons and p=0.999 for the intercept comparisons.

Because the individual laboratory regressions were not significantly different, the laboratory data were combined into a single regression for each method using the geometric mean of the mean IC_{50} values determined by each laboratory for each substance (see the "Combined-laboratory" regressions in **Table 6-2** and **Figure 6-1**). The combined-laboratory 3T3 regression yielded a better fit to the reference LD_{50} data (R^2=0.579) than the NHK regression (R^2=0.463).

Table 6-2 Linear Regression Analyses of the 3T3 and NHK NRU and Rat Acute Oral LD_{50} Test Results[1]

Laboratory	N	Slope	Intercept	R^2
3T3 NRU				
ECBC[2]	47	0.573	0.541	0.613
FAL[2]	47	0.539	0.373	0.519
IIVS[2]	47	0.552	0.507	0.586
Combined-laboratory[3]	47	0.561	0.475	0.579
NHK NRU				
ECBC[2]	51	0.491	0.412	0.480
FAL[2]	51	0.428	0.407	0.422
IIVS[2]	51	0.483	0.416	0.478
Combined-laboratory[3]	51	0.470	0.413	0.463

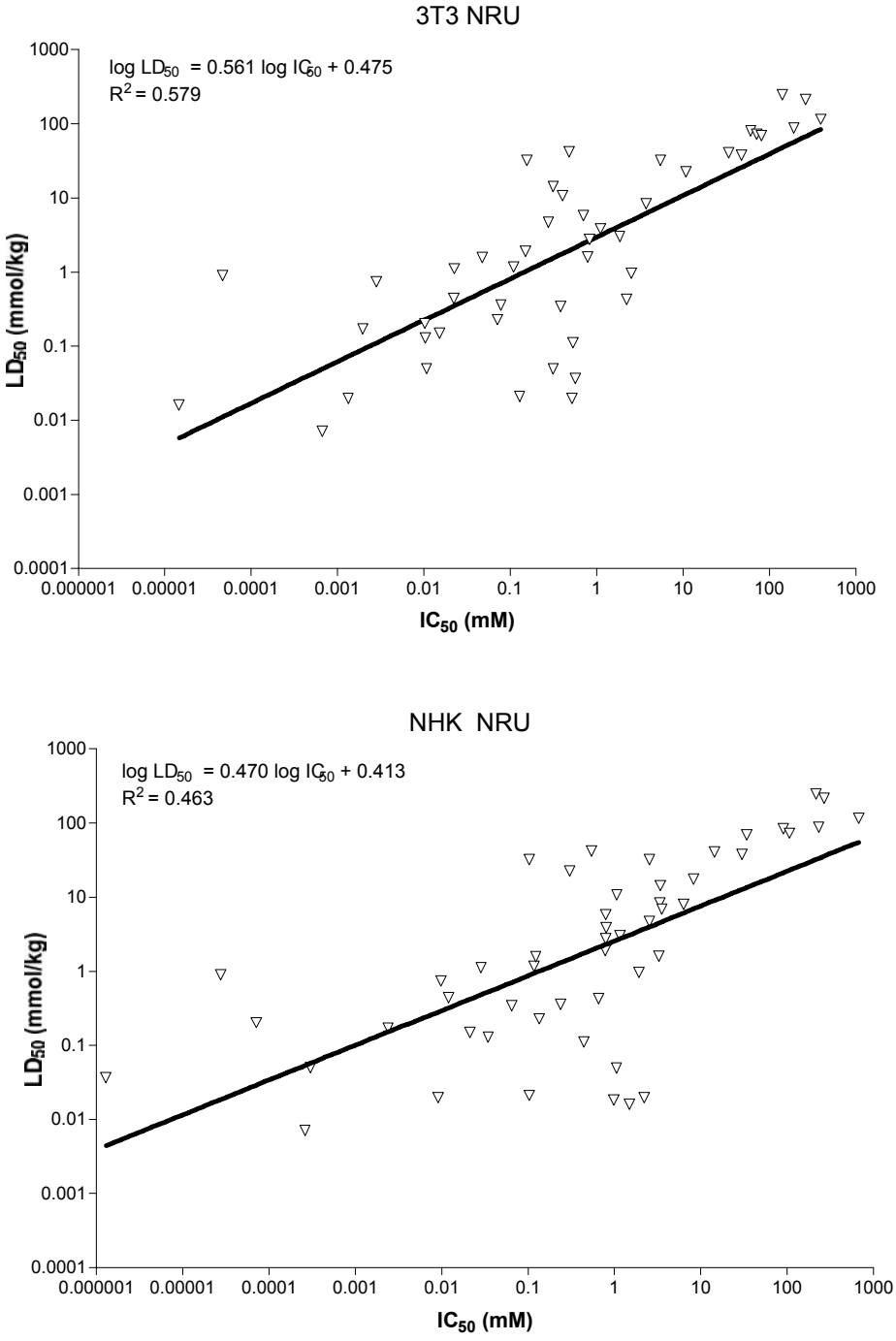
Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; N=Number of substances used to calculate the regression; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; R^2=Coefficient of determination.

[1]Log IC_{50} in mM; log LD_{50} in mmol/kg.

[2]Regression based on a single point per substance (i.e., the geometric mean of the within laboratory replicate IC_{50} values and the reference rat acute oral LD_{50} from **Table 4-2**).

[3]Regression based on a single point per substance (i.e., the geometric mean of the geometric mean IC_{50} values obtained for each laboratory and the reference rat acute oral LD_{50} from **Table 4-2**).

Figure 6-1 Combined-Laboratory 3T3 and NHK NRU Regressions



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Netural red uptake; R^2=Coefficient of determination.
Points show the geometric means of the laboratory geometric mean IC_{50} values and the reference rat acute oral LD_{50} values (from **Table 4-2**) for 47 reference substances for the 3T3 and 51 reference substances for NHK test methods. Solid lines show the combined-laboratory regressions for each method (see **Table 6-2**).

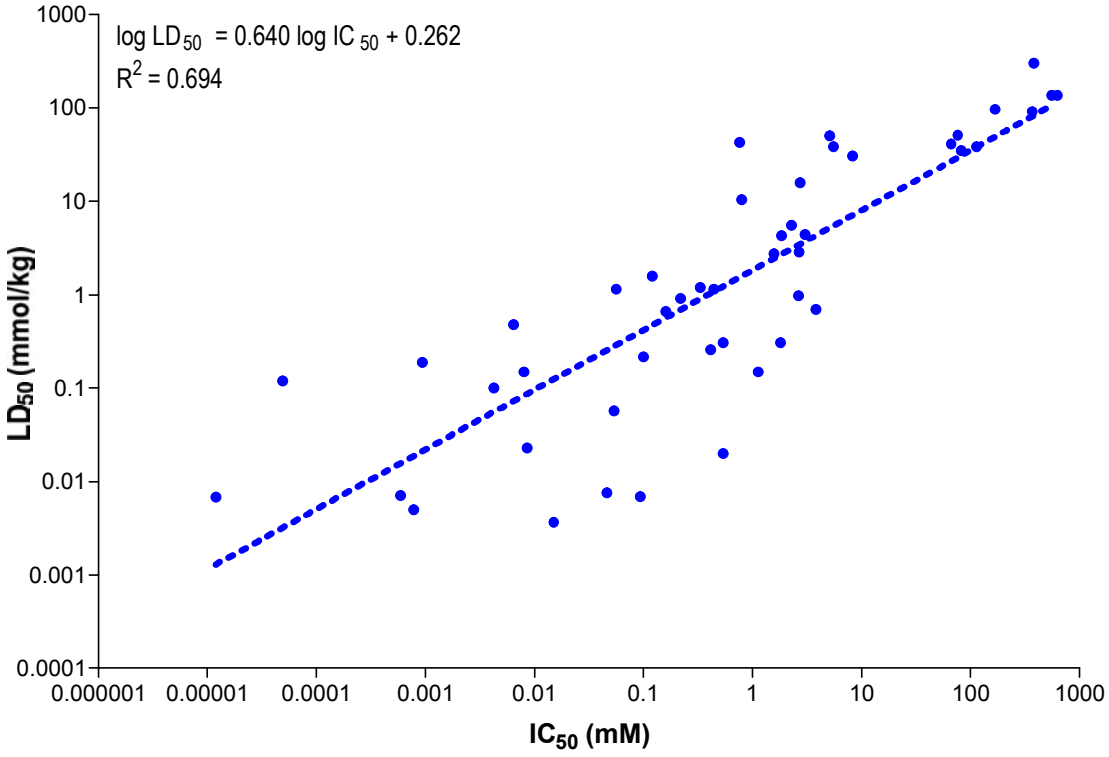
6.1.2 Comparison of the Combined-Laboratory 3T3 and NHK Regressions to the RC Millimole Regression

The validation study tested 58 RC substances using the 3T3 and NHK NRU test methods (see **Figure 3-1**). The resulting method regressions for each cell type were compared to the RC regressions for the same substances to test the assumption in the *Guidance Document* that the RC millimole regression can be obtained with a basal cytotoxicity test method using a single cell type and endpoint (ICCVAM 2001b). The 47 substances used to calculate these regressions met the following criteria:

- The substance was included in the RC
- All three laboratories reported IC_{50} values for both the 3T3 and NHK NRU test methods
- There was an associated rat oral reference LD_{50} value (see **Table 4-2**)

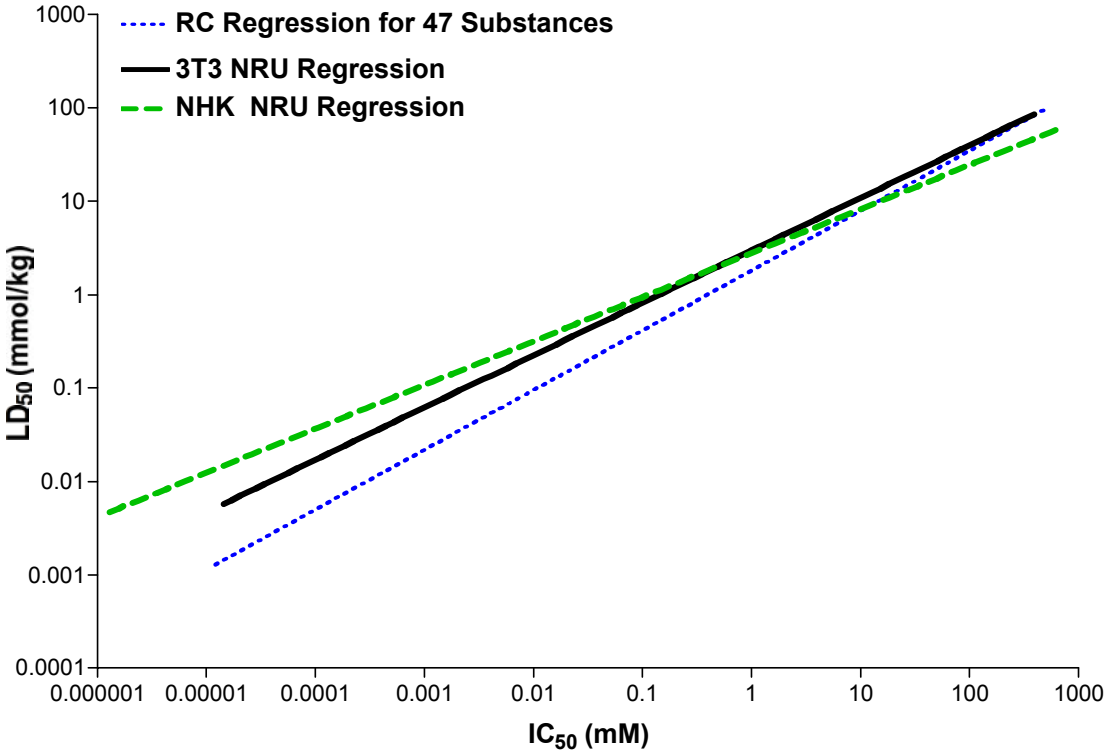
The regression calculated for the 47 substances using the RC IC_{50} and LD_{50} data is shown in **Figure 6-2**. A graphic comparison of the RC regressions and the 3T3 and NHK combined-laboratory regressions is in **Figure 6-3**. A statistical comparison of slope and intercept (simultaneously) using an F test showed that neither the 3T3 regression (p=0.612) nor the NHK regression (p=0.759) was significantly different from the 47 RC substance regression.

Figure 6-2 Regression for 47 RC Substances Using RC Data



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; R^2=Coefficient of determination.
Points show the IC_{50} values and the reference rodent (rat and mouse) acute oral LD_{50} values from the RC for 47 reference substances. The dashed line shows the calculated regression.

Figure 6-3 Regression for 47 RC Substances with the 3T3 and NHK Regressions



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.
The regression for 47 RC substances using RC data is log LD_{50} = 0.640 log IC_{50} + 0.262 (R^2=0.694). The combined-laboratory 3T3 regression for the same 47 substances, is log LD_{50} = 0.561 log IC_{50} + 0.475 (R^2 = 0.579) (from **Table 6-2**). The combined-laboratory NHK regression for the same 47 substances, is log LD_{50} = 0.471 log IC_{50} + 0.445 (R^2 = 0.487).

6.2 Analysis of Outlier Substances for the RC Millimole Regression

The RC millimole regression and each *in vitro* NRU test method were used to identify outliers among the reference substances tested in the validation study (i.e., those for which the rodent LD_{50} was not accurately predicted by the *in vitro* IC_{50}). The outlier substances were then evaluated to determine if they had common characteristics that could assist in identifying the types of substances that are not suited for use in the 3T3 or NHK NRU test methods for determining starting doses for acute oral toxicity assays.

The RC millimole regression was used to determine the outlier status of reference substances because:

- The RC millimole regression had associated acceptance limits (Halle 1998, 2003): a difference greater than 0.699 (or log 5) for log-observed LD_{50} (in mmol/kg) from the log-predicted LD_{50} identifies a substance as an outlier
- The 3T3 and NHK IC_{50} – rat oral LD_{50} regressions were not significantly different from the RC regressions calculated for the same substances

- Use of the RC millimole regression allows a comparison of the outlier substances determined using RC IC_{50} values to those determined using the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values.

6.2.1 Identification of Outlier Substances

For each *in vitro* NRU test method, the predicted LD_{50} values for the reference substances were determined using the geometric mean IC_{50} values of the three geometric mean laboratory values in the RC millimole regression. Outliers were identified using the RC method (Halle 1998): a difference greater than 0.699 (or log 5) for log-observed LD_{50} (in mmol/kg) minus the log-predicted LD_{50} identifies a substance as an outlier (see **Appendix J1** for the 3T3 NRU test method and **Appendix J2** for the NHK NRU test method for the predicted LD_{50} values). For the best comparison with the RC outlier results, the outlier evaluation for the 3T3 and NHK NRU test methods used same observed LD_{50} values as those used in the RC database for the 58 reference substances that were included in the RC database (see **Table 3-2)**. For the non-RC substances, the observed values (in **Table 3-2**) were obtained from other databases such as RTECS® or Hazardous Substances Database (NLM 2002). The outlier analysis included all the reference substances that yielded IC_{50} values from at least one laboratory in the validation study whether the *in vivo* LD_{50} values were from rats or mice. Thus, 70 substances were used for the 3T3 NRU outlier analysis and 71 substances were used for the NHK NRU outlier analysis. **Table 6-3** lists the outlier substances for the RC millimole regression when using the RC IC_{50} values and the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values.

Table 6-3 Outlier Substances for the RC and the 3T3 and NHK NRU Methods When the RC Millimole Regression is Used[1]

Substances Included in the RC Identified as Outliers in:		
RC[2]	**3T3[3]**	**NHK[4]**
	Acetaminophen (+)	
	Arsenic III trioxide (–)	*Arsenic III trioxide (–)*
		Aminopterin (–)
5-Aminosalicylic acid (+)		5-Aminosalicylic acid (+)
Busulfan (–)	**Busulfan (–)**	**Busulfan (–)**
Caffeine (–)		Caffeine (–)
Cycloheximide (–)	**Cycloheximide (–)**	**Cycloheximide (–)**
Dibutyl phthalate (+)	***Dibutyl phthalate (+)***	***Dibutyl phthalate (+)***
	Diethyl phthalate (+)	***Diethyl phthalate (+)***
Digoxin (–)	***Digoxin (–)***	
Disulfoton (–)	***Disulfoton (–)***	***Disulfoton (–)***
Epinephrine bitartrate (–)	Epinephrine bitartrate (–)	Epinephrine bitartrate (–)
Ethanol (+)	**Ethanol (+)**	**Ethanol (+)**
Lindane (–)	*Lindane (–)*	
Mercury II chloride (–)	Mercury II chloride (–)	Mercury II chloride (–)
		Methanol (+)

Table 6-3 Outlier Substances for the RC and the 3T3 and NHK NRU Methods When the RC Millimole Regression is Used[1]

Substances Included in the RC Identified as Outliers in:		
RC[2]	**3T3[3]**	**NHK[4]**
Nicotine (–)	Nicotine (–)	Nicotine (–)
Paraquat (–)		Paraquat (–)
Parathion (–)	***Parathion* (–)**	***Parathion* (–)**
Phenobarbital (–)	Phenobarbital (–)	Phenobarbital (–)
Phenylthiourea (–)	Phenylthiourea (–)	Phenylthiourea (–)
Potassium cyanide (–)	Potassium cyanide (–)	Potassium cyanide (–)
Propylparaben (+)	Propylparaben (+)	Propylparaben (+)
		Sodium oxalate (–)
Thallium I sulfate (–)	Thallium I sulfate (–)	
Triethylenemelamine (–)	Triethylenemelamine (–)	Triethylenemelamine (–)
1,1,1-Trichloroethane (+)		
Verapamil HCl (–)	**Verapamil HCl (–)**	***Verapamil HCl* (–)**
		Xylene (+)
Outliers That Were Not Included in the RC		
	Dichlorvos (–)	Dichlorvos (–)
	Endosulfan (–)	Endosulfan (–)
	Fenpropathrin (–)	*Fenpropathrin* (–)
	Physostigmine (–)	Physostigmine (–)
	Sodium hypochlorite (+)	Sodium hypochlorite (+)
	Sodium selenate (–)	Sodium selenate (–)
	Strychnine (–)	*Strychnine* (–)

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; (–)=Toxicity was underpredicted by the IC_{50} and RC millimole regression (i.e., the LD_{50} value predicted by the IC_{50} was higher than the *in vivo* LD_{50} value); (+)=Toxicity was overpredicted by the IC_{50} and RC millimole regression (i.e., the LD_{50} value predicted by the IC_{50} was lower than the *in vivo* rodent LD_{50} value).
[Note: Empty cells indicate that the substance was not an outlier for that particular IC_{50} value.]
[1]Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625. Log LD_{50} (mmol/kg) values for outlier substances were >0.699 from the RC millimole regression.
[2]Using RC IC_{50} in the RC millimole regression for the 58 RC substances tested in the validation study.
[3]Using the 3T3 NRU IC_{50} in the RC millimole regression for the 70 reference substances that yielded IC_{50} values from any laboratory in the validation study.
[4]Using the NHK NRU IC_{50} in the RC millimole regression the RC for the 71 reference substances that yielded IC_{50} values from any laboratory in the validation study.
Bolded substances have active metabolites *in vivo* (see **Table 3-7**).
Substances that showed evidence of insolubility (i.e., precipitates) during testing (see **Table 5-11**) are identified by italics.

When the RC millimole regression and the RC method of identifying outlier substances were used (Halle 1998, 2003), there were 28 outliers for the 3T3 NRU test method and 31 for the NHK NRU test method. The top part of **Table 6-3** shows a comparison of the 22 RC substances that were identified by the RC as outliers (see **Table 3-2**) and the RC reference substances that were identified as outliers using either the 3T3 or NHK NRU IC_{50} values with the RC millimole regression. For the 58 RC substances that were tested in the validation

study, 18 of the 22 RC outliers also responded as outliers in both NRU test methods, but some of the substances were outliers only in one of the two NRU test methods. The RC regression outliers, 5-aminosalicylic acid, caffeine, paraquat, and 1,1,1-trichloroethane were not outliers when 3T3 data were used, and the RC outliers, digoxin, lindane, thallium sulfate, and 1,1,1-trichloroethane, were not outliers when the NHK NRU test method was used. In contrast the 3T3 NRU test method identified three substances as outliers that were not identified by the RC: acetaminophen, arsenic trioxide, and diethyl phthalate, and the NHK NRU test method identified six: aminopterin, arsenic trioxide, diethyl phthalate, methanol, sodium oxalate, and xylene. Seven additional substances, that were not included in the RC database, were identified as outliers using the NRU IC_{50} values in the RC millimole regression: dichlorvos, endosulfan, fenpropathrin, physostigmine, sodium hypochlorite, sodium selenate, and strychnine.

6.2.2 Evaluation of Outlier Substances

A number of physico-chemical and toxicologic characteristics were evaluated for their frequency of occurrence among the 28 and 31 outlier substances in the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively, to identify attributes that may have contributed their outlier status. This section provides a summary of these analyses based on the RC millimole regression and outlier criteria. The frequency of outliers versus the total number of reference substances for each physico-chemical and toxicologic category examined is shown in **Appendix L1**.

6.2.2.1 *Physical Characteristics*

A number of physical characteristics were evaluated for their frequency of occurrence in the set of outlier substances versus the complete set of reference substances. The characteristics chosen were those that were assumed to be readily available, or relatively easy to measure, for new substances that may be tested in these NRU assays. The characteristics examined included chemical class, molecular weight, boiling point, IC_{50}, pH, and log K_{ow} (i.e., log octanol:water partition coefficient). Unfortunately, these attributes were not available for all substances. For example, log K_{ow} was available for 50 of the 70 (71%) substances evaluated for the 3T3 NRU test method and for 51 of the 71 (72%) substances evaluated for the NHK NRU test method. Boiling point was available for only 24 of 70 (34%) substances evaluated for the 3T3 NRU test method and for 25 of the 71 (35%) substances evaluated for the NHK NRU test method. For substances with log K_{ow} >3.00, 8/13 (62%) were outliers for both the 3T3 and NHK test methods. For molecular weights >400 g/mole, 4/7 (57%) substances were outliers using the 3T3 NRU test method and 3/7 (43%) were outliers using the NHK NRU test method. For substances with boiling points >200^{o}C, 9/13 (69%) were outliers using the 3T3 NRU test method and 8/13 (62%) were outliers using the NHK NRU test method.

6.2.2.2 *Chemical Class*

Examination of outliers by chemical class for the RC millimole regression showed that all of the chemical classes that contained at least three reference substances also contained at least one outlier for one test method. Two classes contained 100% outliers for both test methods: organophosphates (3/3) and organic sulfur compounds (5/5). The remaining classes with higher frequencies of outliers included: 2/3 (67%) amines were outliers for both test methods, 7/14 (50%) heterocylics were outliers for the 3T3 NRU and 10/14 (71%) heterocyclics were outliers for the NHK NRU, 2/5 (40%) chlorine compounds were outliers for both test methods, 2/6 (33%) sodium compounds were outliers for both test methods, 3/9 (33%) alcohols were outliers for the 3T3 NRU and 4/10 (40%) alcohols were outliers for the NHK

NRU, and 4/14 (29%) carboxylic acids were outliers for the 3T3 NRU and 6/14 (43%) carboxylic acids were outliers for the NHK NRU.

6.2.2.3 *Solubility*

Another attribute that may cause a substance to be an outlier is the lack of solubility in the test system. Because the SMT expected the toxicity of insoluble substances to be underpredicted in the *in vitro* assays, substances that formed precipitates in the tests were noted and compared with the outlier substances. However, insolubility was not consistently associated with the outlier substances for which toxicity was underpredicted. For example, eight of the 22 (36%) underpredicted substances identified by applying the 3T3 results to the RC millimole regression exhibited signs of insolubility in at least one laboratory. NHK results showed that seven of 23 (30%) underpredicted substances exhibited signs of insolubility in at least one laboratory (see **Table 5-11** for substances that had precipitates in the assays). Additionally, there was evidence of insolubility in the 3T3 and NHK NRU test methods of dibutyl phthalate and diethyl phthalate, but toxicity was overpredicted for both substances, rather than underpredicted. This overprediction may be a characteristic of the phthalates, but more substances would have to be tested before a general rule could be adopted.

There were 25 substances that showed evidence of insolubility in the 3T3 test method in at least one laboratory, and 11 (44%) of these were outliers. Of the 24 substances showed evidence of insolubility in at least one NHK laboratory, 11 (46%) were outliers.

6.2.2.4 *Metabolism*

It was anticipated that the toxicity of substances metabolized *in vivo* to active compounds (see **Section 3.3.4.3** and **Table 3-7**) would be underpredicted *in vitro* by 3T3 and NHK cells, which have little or no metabolic capability (Babich 1991; INVITTOX 1991). Of the 72 reference substances, 19 (26%) are known to have active metabolites *in vivo,* and 10 (45%) of these were classified as outliers for 3T3. Of these 10 substances, which accounted for 36% of the 28 outlier substances, the toxicity of six (60%) was underpredicted, while the toxicity of four (40%) was overpredicted. Among the 31 outliers in the NHK NRU test method, nine (29%) are metabolized to active metabolites. Nine of the 19 substances known to produce active metabolites *in vivo* were discordant for the NHK NRU test method. NHK cells underpredicted the toxicity of five (56%) of these nine substances and overpredicted the other four (44%). These nine outlier substances accounted for 29% of the 31 outliers in the NHK NRU test method. Thus, the fact that a substance has active metabolites that are not expected to be produced in the *in vitro* tests does not necessarily indicate that its toxicity will be underpredicted by *in vitro* basal cytotoxicity test methods.

Similarly, Halle (1998, 2003) noted that the RC substances that required metabolic activation to produce *in vivo* toxicity were not necessarily outliers with respect to their fit to the RC millimole regression. They found that eight (50%) of the 16 substances that required metabolic activation to product toxicity were outliers (see **Table L3-3** in **Appendix L3**).

6.2.2.5 *Mechanism of Toxicity*

Substances whose mechanisms of toxicity would not be detected in the 3T3 or NHK cells would be expected to fit the RC millimole regression poorly. In particular, toxic mechanisms that include, for example, specific actions on the central nervous system (CNS) or the heart

are not expected to be active in the 3T3 or NHK cells. Neurotoxic mechanisms would include, for example, cholinesterase inhibition, CNS nicotinic receptor blockade or activation, or any activity other than membrane destabilization such as that produced by a solvent, or disturbance of energy utilization such as interruption of oxidative phosphorylation. Representative cardiotoxic mechanisms would include calcium channel blockage and beta-adrenergic receptor activation or blockage.

The 72 reference substances used to validate the 3T3 and NHK NRU test methods included 16 (22%) that had specific CNS toxicity (see **Table 6-4**). Of these 16 substances, 10 (63%) were outliers in both *in vitro* NRU test methods. Three of the six (50%) reference substances that are cardiotoxic were outliers in the 3T3 NRU test method and two (33%) were outliers in the NHK NRU test method. When all the reference substances with mechanisms that are not expected to be active in the 3T3 and NHK cells (i.e., in **Table 6-4**) are summed, 13/22 (59%) are outliers for the 3T3 NRU and 12/22 (55%) are outliers for the NHK NRU. These substances represented 13/28 (46%) and 12/31 (39%) of the total outlier substances for the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively. Halle (1998, 2003) reported similar findings for the RC database (i.e., approximately half of the substances expected to be outliers based on their mechanisms of toxicity were outliers) (see **Appendix L3**).

Table 6-4 Substances With Mechanisms of Toxicity Not Expected to Be Active in the 3T3 or NHK Cells in Culture

Substance	Mechanism of Toxicity[1]	3T3 Outlier[2]	NHK Outlier[2]
Neurotoxic			
Atropine sulfate	Antimuscarinic; anticholinergic action; competitive antagonism of anticholinesterase at cardiac and CNS receptor sites.	No	No
Caffeine	Inhibition of phosphodiesterase leading to AMP accumulation; translocation of intracellular Ca^{++}; adenosine receptor antagonism; neurotoxic.	No	Yes
Carbamazepine	Therapeutically decreases firing of noradrenergic neurons.	No	No
Chloral hydrate	Potentiation of $GABA_A$ receptor activity; inhibition of N-methyl-D-aspartate activity; modulation of 5-hydroxytryptamine$_3$ receptor-mediated depolarization of the vagas nerve[3].	No	No
Dichlorvos	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS and effector organs.	Yes	Yes
Disulfoton	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS and effector organs.	Yes	Yes
Endosulfan	Affects brain neurotransmitter levels[4].	Yes	Yes
Fenpropathrin	Delays closure of sodium channel causing persistent depolarization of membrane.	Yes	Yes
Glutethimide	CNS depression; anticholinergic activity.	No	No
Haloperidol	Blocks dopamine receptors.	No	No
Lindane	CNS depression through inhibition of GABA receptor linked chloride channel at the picrotoxin binding site, leading to blockade of chloride influx into neurons.	Yes	No
Nicotine	Cholinergic block causing polarization of CNS and PNS synapses.	Yes	Yes
Parathion	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS and effector organs.	Yes	Yes
Phenobarbital	CNS depression through inhibition of GABA synapses; inhibits hepatic NADH cytochrome oxidoreductase.	Yes	Yes
Physostigmine	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS and effector organs.	Yes	Yes
Strychnine	Increases glutamic acid in the CNS.	Yes	Yes
Cardiotoxic			
Amitriptyline HCl	Blocks norepinephrine, 5-hydroxytryptamine, and dopamine presynaptic uptake; prevents reuptake of heart norepinephrine.	No	No
Digoxin	Impairs ion transport and increases sarcoplasmic calcium by binding to Na^+/K^+ ATPase, increasing automaticity of cardiac cells.	Yes	No

Table 6-4 Substances With Mechanisms of Toxicity Not Expected to Be Active in the 3T3 or NHK Cells in Culture

Substance	Mechanism of Toxicity[1]	3T3 Outlier[2]	NHK Outlier[2]
Epinephrine bitartrate	Adrenergic receptor stimulation.	Yes	Yes
Potassium chloride	Disturbs cardiac membrane potential and electrical activity.	No	No
Procainamide HCl	Slows impulse conduction in the heart[5].	No	No
Verapamil HCl	Inhibition of transmembrane Ca^{++} flux in excitatory tissues; alpha-adrenergic blockade.	Yes	Yes

Abbreviations: NA=Not available or information not found; CNS=Central nervous system; GABA=Gamma aminobutyric acid; PNS=Peripheral nervous system; NADH=Nicotine adenine dinucleotide (reduced).
[1]From Ekwall et al. (1998) or Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002) unless otherwise noted.
[2]As shown in **Table 6-3**.
[3]EPA (2000b).
[4]ATSDR (2000a).
[5]Hardman et al. (1996).

6.3 Improving the Prediction of *In Vivo* Rat Oral LD_{50} Values from *In Vitro* IC_{50} Data

Because the 3T3 and NHK IC_{50} – rat oral LD_{50} regressions were not significantly different from the RC regression for the same substances, the next step was an attempt to improve the RC millimole regression for the prediction of LD_{50} values from IC_{50} values. Because the validation study provided results similar to the RC, and because the RC database has more than 3.5 times the number of substances tested in the validation study, the RC rat data (282 substances) were used to determine the relationship between IC_{50} and LD_{50}. The RC data were used to develop two new regressions, the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression. For reference, the original RC millimole regression, log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 x log IC_{50} (mM) + 0.625 (Halle 1998, 2003), is shown in **Table 6-5**.

6.3.1 The RC Rat-Only Millimole Regression

The first regression used the RC data for the 282 substances with rat LD_{50} data and the original units of mM for IC_{50} and mmol/kg for LD_{50} (see **Table 6-5** and **Figure 6-9**). Only rat data were used because:

- Rats and mice are not always equally sensitive to all substances
- The majority of acute oral LD_{50} data used in the RC millimole regression were from studies using rats (282 rat data points versus 65 mouse data points) (Halle 1998, 2003)
- Most acute oral toxicity testing is performed with rats.

The RC rat-only millimole regression is applicable to substances of known molecular weight that are relatively pure.

Table 6-5 Linear Regression Analyses to Improve the Prediction of Rodent Acute Oral LD_{50} Values from *In Vitro* NRU IC_{50} Using the RC Database[1]

Data Used	Slope	Intercept	R^2
347 RC substances (282 rat and 65 mouse LD_{50} values) – millimole units[2]	0.435	0.625	0.452[3]
282 RC substances with rat LD_{50} data – millimole units[2]	0.439	0.621	0.452
282 RC substances with rat LD_{50} data – weight units[4]	0.372	2.024	0.325

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity; R^2=Coefficient of determination.
[1]Slopes of all regressions were significantly different ($p < 0.05$) from zero at $p < 0.0001$.
[2]IC_{50} in mM; LD_{50} in mmol/kg.
[3]Calculated from RC data (i.e., not reported by Halle [1998, 2003]).
[4]IC_{50} in μg/mL; LD_{50} in mg/kg.

Table 6-5 shows that the RC millimole regression using only rat acute oral LD_{50} data was essentially identical to the original regression that used both rat and mouse data. The slope changed from 0.435 to 0.439 and the intercept changed from 0.625 to 0.621; these changes were not statistically significantly different.

6.3.2 The RC Rat-Only Weight Regression

The second regression used the same RC rat acute oral LD_{50} data for the 282 substances but was calculated using weight units rather than millimolar units (see **Table 6-5** and **Figure 6-**

4b). Weight units (i.e., mg/kg for the LD_{50} and μg/mL for the IC_{50}) were selected for the units of measurement because

- Millimole units are not applicable to mixtures and substances with unknown structures or molecular weights.
- They are the most practical, i.e., hazard classification in all regulatory systems is based on LD_{50} values expressed in mg/kg (see **Table 1-2**).

The RC rat-only weight regression is applicable for use with complex mixtures, substances whose structures or molecular weights are unknown, and substances that are relatively impure (i.e., mixtures that are primarily composed of a named substance).

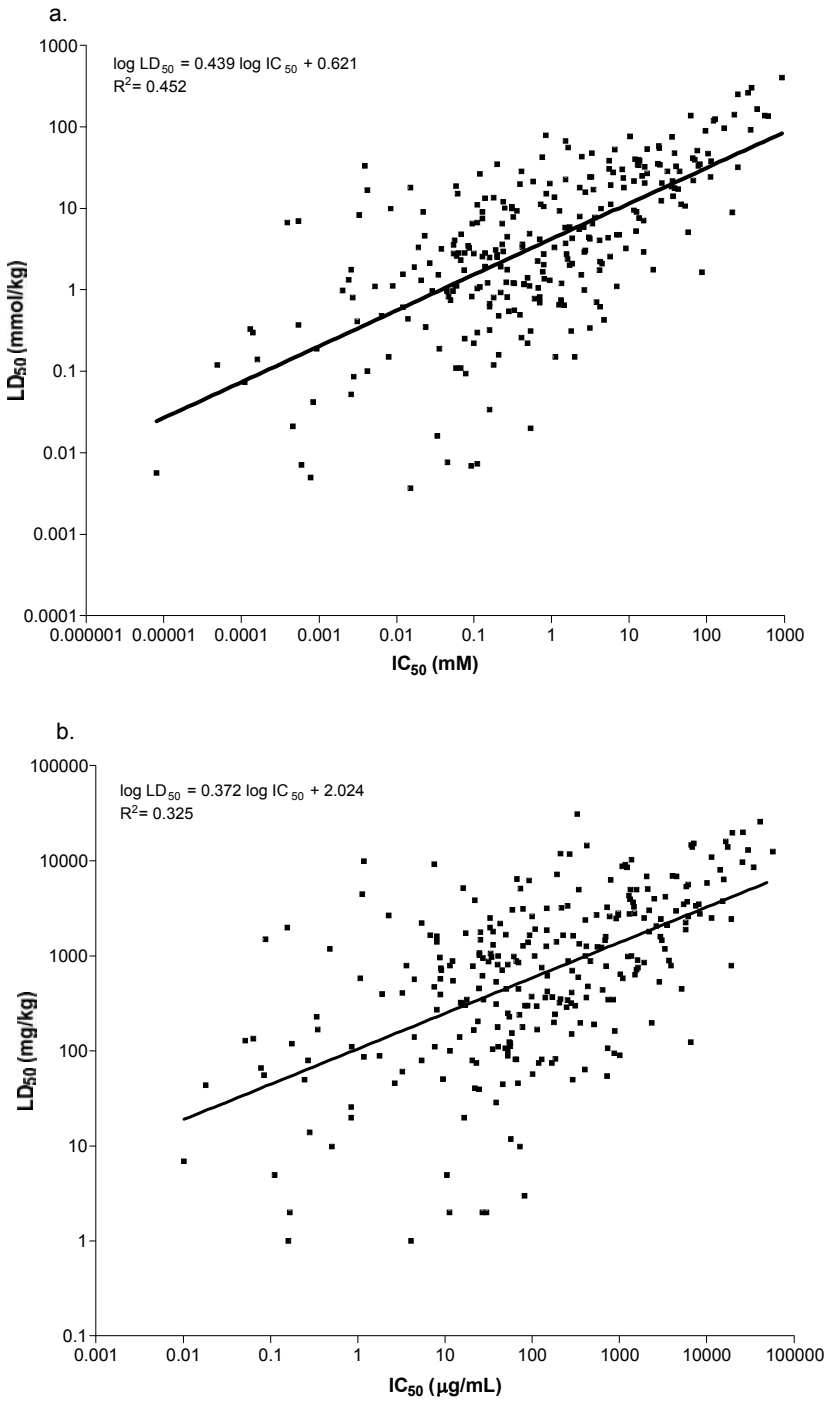
6.4 Accuracy of the 3T3 and NHK NRU Test Methods for Predicting GHS Acute Oral Toxicity Categories

Based on the correlations/regressions obtained between the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values and the rat LD_{50} values, it is clear that these *in vitro* methods are not suitable as replacements for rodent acute oral toxicity tests. The use of *in vitro* methods to reduce animal use for rodent acute oral toxicity assays (i.e., to assist in determining the starting doses for *in vivo* assays) also depends upon their accuracy for the prediction of LD_{50} values. However, this latter (adjunct) use does not require the same precision in LD_{50} prediction as complete replacement would.

The NRU-predicted LD_{50} values were determined using the *in vitro* NRU IC_{50} values in the RC rat-only regressions presented in **Table 6-5.** The predicted LD_{50} values were used to assign each substance to a predicted GHS acute oral toxicity category (UN 2005). The accuracy of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting GHS acute oral toxicity categories was determined by comparison with categorization based on rat acute oral LD_{50} data. The rationale for evaluating the accuracy of LD_{50} predictions was that the animal savings produced by using these *in vitro* NRU test methods to predict starting doses for rodent acute oral toxicity assays would be greatest when the starting dose is as close as possible to the LD_{50}. This approach was used because regulatory authorities use rodent acute oral toxicity test results for hazard classification and labelling of products to protect handlers and consumers.

The *in vitro* NRU test methods were evaluated for their ability to predict GHS acute oral toxicity categories using the two regressions presented in **Section 6.3**, the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression. The same reference substances were evaluated for each regression. Sixty-seven and 68 substances were evaluated using the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively. Of the original 72 reference substances tested, epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben were excluded because they had no rat acute oral LD_{50} reference data (see **Table 4-2**). Carbon tetrachloride and methanol were excluded from the 3T3 evaluations because no laboratory attained sufficient toxicity in any test for the calculation of an IC_{50} (see **Table 5-4**). Carbon tetrachloride was excluded from the NHK evaluations because no laboratory attained sufficient toxicity in any test for the calculation of an IC_{50} (see **Table 5-5**).

Figure 6-4 RC Rat-Only Millimole Regression (a) and RC Rat-Only Weight Regression (b)



Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; R^2=Coefficient of determination.
Regressions calculated using IC_{50} and rat oral LD_{50} datapoints for 282 substances from the RC (see **Table 6-5**).

For comparison with the NRU test method results and RC rat-only regressions, **Section 6.4.1** provides the accuracy analysis for the RC database used with the RC millimole regression. **Sections 6.4.2** and **6.4.3** provide the accuracy information for the 3T3 and NHK NRU test methods for the RC rat-only millimole regression and RC-rat only weight regression, respectively. A summary of predictivity[3] is provided for each predicted toxicity category, along with the percentage of substances whose toxicity was underpredicted or overpredicted.

6.4.1 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the RC IC_{50} Values Using the RC Millimole Regression

Table 6-6 shows the concordance of the observed (i.e., *in vivo*) and predicted GHS acute oral toxicity categories (UN 2005) for the 347 RC IC_{50} values in the RC millimole regression, log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 x log IC_{50} (mM) + 0.625 (Halle 1998, 2003). Accuracy is the agreement of the *in vitro* category predictions with those based on the 347 rodent (282 rat and 65 mouse) oral LD_{50} values used in the RC database (Halle 1998, 2003). Substances for which the *in vitro* toxicity category prediction did not match the *in vivo* category were considered discordant for the GHS acute oral toxicity category predictions.

The overall accuracy of the RC IC_{50} values for correctly predicting GHS acute oral toxicity classification category using the RC millimole regression was 40% (140/347substances) (**Table 6-6**). Rodent acute oral toxicity was overpredicted for 34% (118/347) and underpredicted for 26% (89/347) of the substances. For this analysis, with respect to the predictions of each GHS category:

- None (0%) of the 12 substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I) was correctly predicted.
- Four (15%) of 26 substances in the 5 < LD_{50} ≤50 mg/kg category (GHS Category II) were correctly predicted.
- Twenty (29%) of 69 substances in the 50 < LD_{50} ≤300 mg/kg category (GHS Category III) were correctly predicted.
- Ninety-seven (69%) of 140 substances in the 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV) were correctly predicted. This toxicity category was also predicted for 106 other substances (52%; 106/203) that did not fall in this category. Thus, the overall predictivity for this category was 48% (97/203 substances predicted for this category matched the *in vivo* category).
- Fourteen (25%) of the 56 substances in the 2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg category (GHS Category V) were correctly predicted.
- Five (11%) of the 44 substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified) were correctly predicted.

.

[3] Proportion of correct *in vivo* category matches for all substances with *in vitro* predictions for a particular category. Predictivity is one of the measures of test accuracy (ICCVAM 2003).

Table 6-6 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the RC IC_{50} Values and the RC Millimole Regression[1]

***In Vivo* Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)**	**IC_{50}-Predicted GHS Category (mg/kg)[3]**						**Total**	**Accuracy**	**Toxicity Over-predicted**	**Toxicity Under-predicted**
	LD_{50} <5	**5 < LD_{50} ≤50**	**50 < LD_{50} ≤300**	**300 < LD_{50} ≤2000**	**2000 < LD_{50} ≤5000**	**LD_{50} >5000**				
LD_{50} < 5	0	5	3	4	0	0	12	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	4	13	9	0	0	26	15%	0%	85%
50 < LD_{50} ≤300	0	9	20	38	2	0	69	29%	13%	58%
300 < LD_{50} ≤2000	0	4	24	97	14	1	140	69%	20%	11%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	1	5	36	14	0	56	25%	75%	0%
LD_{50} >5000	0	0	1	19	19	5	44	11%	89%	0%
Total	0	23	66	203	49	6	347	40%	34%	26%
Predictivity	0%	17%	30%	48%	29%	83%				
Category Overpredicted	0%	61%	45%	27%	39%	0%				
Category Underpredicted	0%	22%	24%	25%	33%	17%				

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); RC=Registry of Cytotoxicity. Shaded cells are those containing the correct predictions; RTECS®=Registry of Toxic Effects for Chemical Substances®.

[1]The RC millimole regression is log LD_{50} (mmol/kg) = log IC_{50} (mM) x 0.435 + 0.625. Numbers in table represent numbers of substances.

[2]Rat (282 values) and mouse (65 values) oral LD_{50} values, mostly from the 1983/84 RTECS® that were converted to mmol/kg for used in the RC (Halle 1998, 2003).

[3]IC_{50} values from the RC are geometric mean IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays using multiple cell lines and cytotoxicity endpoints (Halle 1998, 2003). GHS categories were predicted by using the IC_{50} values to calculate predicted LD_{50} values with the RC millimole regression equation. Predicted LD_{50} values in mmol/kg for each substance were converted to mg/kg and used to classify the substance in the appropriate predicted GHS acute oral toxicity category.

The highest accuracy, 69%, for the RC IC_{50} values in the RC millimole regression were obtained for substances in the 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV). The lowest accuracy, 0%, was obtained for substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I). Although the 11% accuracy was low for substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified), the highest predictivity, 83%, was obtained for substances in this group. The RC millimole regression generally underpredicted toxicity for substances in the highest toxicity (i.e., lowest LD_{50}) categories and overpredicted for substances in the lowest toxicity (i.e., highest LD_{50}) categories (see **Table 6-6**).

Rodent acute oral toxicity was overpredicted for 34% (118) and underpredicted for 26% (89) of the 347 RC substances. Thus, there was a total of were 207 discordant substances. GHS category was overpredicted for 57% (118/207) of the discordant substances and underpredicted for 43% (89/207) of the discordant substances.

6.4.2 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods Using the RC Rat-Only Millimole Regression

Table 6-7 shows the concordance of the observed (i.e., *in vivo*) and predicted GHS acute oral toxicity categories (UN 2005) for each *in vitro* test method using the geometric mean IC_{50} values (of the three laboratories) in the RC rat-only millimole regression, log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 x log IC_{50} (mM) + 0.621. Accuracy is the agreement of the *in vitro* category predictions with those based on the rat acute oral LD_{50} reference values in **Table 4-2**. Substances for which the *in vitro* toxicity category prediction did not match the *in vivo* category were considered discordant for the GHS acute oral toxicity category predictions.

6.4.2.1 *In Vitro – In Vivo Concordance Using the RC Rat-Only Millimole Regression*

The overall accuracy of the 3T3 NRU test method for correctly predicting GHS acute oral toxicity classification category using the RC rat-only millimole regression was 31% (21/67 substances) (**Table 6-7**). Rat acute oral toxicity was overpredicted for 34% (23) and underpredicted for 34% (23) of the substances. For this analysis, with respect to the predictions of each GHS category:

- None (0%) of the six substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I) was correctly predicted.
- One (9%) of 11 substances in the 5 < LD_{50} ≤50 mg/kg category (GHS Category II) was correctly predicted.
- Five (42%) of 12 substances in the 50 < LD_{50} ≤300 mg/kg category (GHS Category III) were correctly predicted.
- Thirteen (81%) of 16 substances in the 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV) were correctly predicted. This toxicity category was also predicted for 32 other substances (71%; 32/45) that did not fall in this category. Thus, the overall predictivity for this category was 29% (13/45 substances predicted for this category matched the *in vivo* category).
- None (0%) of the 10 substances in the 2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg category (GHS Category V) were correctly predicted.
- Two (17%) of the 12 substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified) were correctly predicted.

Table 6-7 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Millimole Regression[1]

Reference Rat Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	3T3 -Predicted GHS Category (mg/kg)						Total	Accuracy	Toxicity Over-predicted	Toxicity Under-predicted
	LD_{50} <5	5 < LD_{50} ≤50	50 < LD_{50} ≤300	300 < LD_{50} ≤2000	2000 < LD_{50} ≤5000	LD_{50} >5000				
LD_{50} < 5	0	2	0	4	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	1	6	3	1	0	11[4]	9%	0%	91%
50 < LD_{50} ≤300	0	0	5	7	0	0	12	42%	0%	58%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	2	13	0	0	16	81%	19%	0%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	10	0	0	10[5]	0%	100%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	8	2	2	12[6,7]	17%	83%	0%
Total	0	4	13	45	3	2	67	31%	34%	34%
Predictivity	0%	25%	38%	29%	0%	100%				
Category Overpredicted	0%	25%	15%	40%	67%	0%				
Category Underpredicted	0%	50%	46%	31%	33%	0%				
Reference Rat Oral LD_{50}[2]	**NHK -Predicted Toxicity Category (mg/kg)**						**Total**	**Accuracy**	**Toxicity Over-predicted**	**Toxicity Under-predicted**
	LD_{50} <5	**5 < LD_{50} ≤50**	**50 < LD_{50} ≤300**	**300 < LD_{50} ≤2000**	**2000 < LD_{50} ≤5000**	**LD_{50} >5000**				
LD_{50} <5	0	1	2	3	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	2	5	3	1	0	11[4]	18%	0%	82%
50 < LD_{50} ≤300	0	1	6	5	0	0	12	50%	8%	42%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	2	12	1	0	16	75%	19%	6%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	10	0	0	10[5]	0%	100%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	7	6	0	13[7]	0%	100%	0%
Total	0	5	15	40	8	0	68	29%	40%	31%
Predictivity	0%	40%	40%	30%	0%	0%				
Category Overpredicted	0%	40%	13%	43%	75%	0%				
Category Underpredicted	0%	20%	47%	28%	25%	0%				

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[1]The RC rat-only millimole regression is log LD_{50} (mmol/kg) = log IC_{50} (mM) x 0.439 + 0.621. Numbers in table represent numbers of substances.

[2]Reference rat oral LD_{50} values in mg/kg from **Table 4-2**.

[3]Epinephrine bitartrate excluded because no rat reference acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

[4]Colchine excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

[5]Carbon tetrachloride excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[6]Methanol excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[7]Propylparaben excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

The overall accuracy of the NHK NRU test method for correctly predicting the GHS acute oral toxicity classification, when the prediction was based on the RC rat-only millimole regression, was 29% (20/68 substances) (see **Table 6-7**). Toxicity was overpredicted for 40% (27) and underpredicted for 31% (21) of the 68 substances. The pattern of concordance between *in vitro* and *in vivo* results for the NHK NRU test method with the RC rat-only millimole regression was similar to that for the 3T3 NRU test method with the exception that none of the substances with a toxicity of LD_{50} >5000 mg/kg were correctly predicted. For this analysis, with respect to the predictions of each GHS category:

- None (0%) of the six substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I) were correctly predicted.
- Two (18%) of 11 substances in the 5< LD_{50} ≤50 mg/kg category (GHS Category II) were correctly predicted.
- Six (50%) of 12 substances in the 50< LD_{50} ≤300 mg/kg category (GHS Category III) were correctly predicted.
- 12 (75%) of 16 substances in the 300< LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV) were correctly predicted; however, this category was also predicted for 28 (70%; 28/40) substances that did not match the category. Thus, the overall predictivity for this category was 30% (12/40).
- None (0%) of the 10 substances in the 2000< LD_{50} ≤5000 mg/kg category (GHS Category V) were correctly predicted.
- None (0%) of the 13 substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified) were correctly predicted.

The RC rat-only millimole regression generally underpredicted toxicity for substances in the highest toxicity (i.e., lowest LD_{50}) categories and overpredicted toxicity for substances in the lowest toxicity (i.e., highest LD_{50}) categories (see **Table 6-7**). Although substances at the very low and high ends of the toxicity range were poorly predicted, those in the middle range (i.e., 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg) were predicted much better, with 75 to 81% accuracy. The pattern of accuracy for the GHS categories was similar to the pattern seen with the RC IC_{50} and LD_{50} values and the RC millimole regression (see **Table 6-6**) (i.e., lowest accuracy for very toxic and very nontoxic substances and highest accuracy for substances with 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg).

6.4.2.2 *Discordant Substances in the Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Millimole Regression*

Appendix L2 identifies the discordant substances, that is, those for which the *in vitro* predicted GHS acute oral toxicity category did not match the GHS acute oral toxicity category assigned based on the reference rat acute oral LD_{50} data in **Table 4-2**. Of the total number of substances used for this evaluation (67 for 3T3, 68 for NHK), the 3T3 test method underpredicted the GHS category for 23 (50%) and overpredicted for 23 (50%) of the 46 discordant substances. The NHK test method underpredicted toxicity for 21 (44%) and overpredicted for 27 (56%) of the 48 discordant substances.

6.4.3 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods Using the RC Rat-Only Weight Regression

Table 6-8 shows the concordances of the observed and predicted GHS acute oral toxicity categories for each *in vitro* NRU method using the geometric mean IC_{50} values from the

three laboratories and the RC rat-only weight regression (**Table 6-5)**. The regression formula for the RC rat-only weight regression was log LD_{50} (mg/kg) = log IC_{50} (μg/mL) x 0.372 + 2.024. Accuracy is the agreement of the GHS acute oral toxicity category predictions made using the *in vitro* NRU data with those based on the reference rat acute oral LD_{50} values (**Table 4-2)**.

6.4.3.1 *In Vitro – In Vivo Concordance Using the RC Rat-Only Weight Regression*

The overall accuracy of the 3T3 NRU test method with the RC rat-only weight regression was 31% (21/67) (**Table 6-8**). The toxicity was overpredicted for 33% (24) and underpredicted for 36% (22) of the substances. For this analysis, with respect to the predictions of the GHS category:

- None (0%) of the six substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I) were correctly predicted.
- One (9%) of 11 substances in the 5< LD_{50} ≤50 mg/kg category (GHS Category II) was correctly predicted.
- Four (33%) of 12 substances in the 50< LD_{50} ≤300 mg/kg category (GHS Category II) were correctly predicted; however, because 10 other substances were also predicted to be in this category, the overall predictivity was 29% (4/14).
- Twelve (75%) of 16 substances in the 300< LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV) were predicted correctly. Because a total of 40 substances were predicted to be in this category, the overall predictivity was 30% (12/40).
- Four (40%) of 10 substances in the 2000< LD_{50} ≤5000 mg/kg category (GHS Category V) were correctly predicted; however, because a total of 11 substances were predicted to be in this category, the overall predictivity was 36% (4/11).
- None (0%) of the 12 substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified) were correctly predicted.

The overall accuracy of the NHK predictions using the RC rat-only weight regression was 31% (21/68) (see **Table 6-8**). The *in vivo* GHS toxicity categories were overpredicted for 37% (22) and underpredicted for 32% (25) of the substances. For this analysis, with respect to the predictions of the GHS category:

- None (0%) of the six substances with LD_{50} <5 mg/kg (GHS Category I) were correctly predicted.
- One (9%) of 11 substances in the 5 < LD_{50} ≤ 50 mg/kg category (GHS Category II) was correctly predicted.
- Five (42%) of 12 substances in the 50 < LD_{50} ≤300 mg/kg category (GHS Category III) were correctly predicted; however, because six other substances were also predicted to be in this category, the overall predictivity was 33% (3/9).
- Thirteen (81%) of 16 substances in the 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg category (GHS Category IV) were predicted correctly; however, because 29 other substances were also predicted to be in this category, the overall predictivity was 31% (13/42).

Table 6-8 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Weight Regression[1]

Reference Rat Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	3T3 -Predicted Toxicity Category (mg/kg)						Total	Accuracy	Toxicity Over-predicted	Toxicity Under-predicted
	LD_{50} <5	5 < LD_{50} ≤50	50 < LD_{50} ≤300	300 < LD_{50} ≤2000	2000 < LD_{50} ≤5000	LD_{50} >5000				
LD_{50} <5	0	0	2	4	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	1	5	5	0	0	11[4]	9%	0%	91%
50 < LD_{50} ≤300	0	0	4	8	0	0	12	33%	0%	67%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	3	12	0	0	16	75%	25%	0%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	6	4	0	10[5]	40%	60%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	5	7	0	12[6,7]	0%	100%	0%
Total	0	2	14	40	11	0	67	31%	33%	36%
Predictivity	0%	50%	29%	30%	36%	0%				
Category Overpredicted	0%	50%	21%	28%	64%	0%				
Category Underpredicted	0%	0%	50%	43%	0%	0%				
Reference Rat Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	**NHK -Predicted Toxicity Category (mg/kg)**									
	LD_{50} <5	**5 < LD_{50} ≤50**	**50 < LD_{50} ≤300**	**300 < LD_{50} ≤2000**	**2000 < LD_{50} ≤5000**	**LD_{50} >5000**	**Total**	**Accuracy**	**Toxicity Over-predicted**	**Toxicity Under-predicted**
LD_{50} <5	0	1	2	3	0	0	6[3]	0%	0%	100%
5 < LD_{50} ≤50	0	1	5	5	0	0	11[4]	9%	0%	91%
50 < LD_{50} ≤300	0	1	5	6	0	0	12	42%	8%	50%
300 < LD_{50} ≤2000	0	1	2	13	0	0	16	81%	19%	0%
2000 < LD_{50} ≤5000	0	0	0	9	1	0	10[5]	10%	90%	0%
LD_{50} >5000	0	0	0	6	6	1	13[7]	8%	92%	0%
Total	0	4	14	42	7	1	68	31%	37%	32%
Predictivity	0%	25%	36%	31%	14%	100%				
Category Overpredicted	0%	50%	14%	36%	86%	0%				
Category Underpredicted	0%	25%	50%	33%	0%	0%				

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]The RC rat-only weight regression is log LD_{50} (mg/kg) = log IC_{50} (µg/mL) x 0.372 + 2.024.

[2]Reference rat oral LD_{50} values in mg/kg from **Table 4-2**.

[3]Epinephrine bitartrate excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

[4]Colchine excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

[5]Carbon tetrachloride excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[6]Methanol excluded because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[7]Propylparaben excluded because no rat acute oral LD_{50} was identified (see **Table 4-2**).

- One (10%) of 10 substances in the 2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg category (GHS Category V) was correctly predicted.
- One (8%) of 13 substances with LD_{50} >5000 mg/kg (GHS Unclassified) was correctly predicted.

The RC rat-only weight regression generally underpredicted toxicity for substances in the highest toxicity (i.e., lowest LD_{50}) categories and overpredicted toxicity for substances in the lowest toxicity (i.e., highest LD_{50}) categories (see **Table 6-8**). Although substances at the very low and high ends of the toxicity range were poorly predicted, those in the middle range (i.e., 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg) were predicted much better, with 75 to 81% accuracy. The pattern of accuracy for the GHS categories was similar to the pattern seen with the RC IC_{50} and LD_{50} values and the RC millimole regression (see **Table 6-6**) and with the NRU IC_{50} and rat oral LD_{50} values and the RC rat-only millimole regression (see **Table 6-7**) (i.e., lowest accuracy for very toxic and very nontoxic substances and highest accuracy for substances with 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg).

6.4.3.2 *Discordant Substances in the Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Weight Regression*

Appendix L2 shows the substances for which the *in vitro* predicted GHS acute oral toxicity category using the RC rat-only weight regression did not match those that were based on the rat acute oral LD_{50} reference data. The two *in vitro* NRU test methods over- and under-predicted the GHS acute oral toxicity category for similar numbers of substances, compared with the GHS acute oral toxicity categories for the rat acute oral LD_{50} reference values in **Table 4-2**. The 3T3 NRU test method overpredicted the GHS acute oral toxicity category for 22 (48%) of 46 discordant substances, and underpredicted of 24 (52%) substances. The NHK NRU test method overpredicted the GHS acute oral toxicity category for 25 (53%) of 47 discordant substances, and underpredicted 22 (47%) substances.

6.4.4 Summary of the Regressions Evaluated

Table 6-9 summarizes the regressions evaluated in **Section 6.4** for accuracy in predicting the GHS acute oral toxicity categories (UN 2005), and the proportion of over- or under-predictions. Prediction accuracy using the RC IC_{50} and LD_{50} values and the RC millimole regression was higher that that for the NRU test methods with the RC rat-only regressions (i.e., 40% for the RC vs. 29% to 31% for the NRU test methods). Prediction accuracy was slightly higher for the 3T3 NRU test method compared with the NHK NRU (i.e., 31% for 3T3 vs. 29% for NHK) using the RC rat-only millimole regression, and the same as the NHK NRU test method (i.e., 31%) using the RC rat-only weight regression. The proportion of discordant substances using the RC IC_{50} values and the RC millimole regression (60%) was lower than that using the *in vitro* NRU test methods and the RC rat-only regressions (69% to 71%). The proportion of discordant substances from the 3T3 test method, 69%, was the same whether it was determined with the RC rat-only millimole regression or the RC rat-only weight regression. The proportion of discordant substances for the NHK test method was slightly lower with RC rat-only weight regression than with the RC rat-only millimole regression (69% vs. 71%). The RC IC_{50} values and the RC millmole regression were expected to perform better than the *in vitro* NRU methods and the RC rat-only regressions since the IC_{50} and LD_{50} values used to evaluate the performance of the RC millimole regression were exactly the same as those used to calculate the linear regression formula. The

NRU IC_{50} values and the reference oral LD_{50} values used to evaluate the RC rat-only regressions were different from those used to calculate the RC rat-only regressions.

Table 6-9 Comparison of Regressions and *In Vitro* NRU Test Methods for Their Performance in Predicting GHS Acute Oral Toxicity Categories

Regression	N[1]	R^2 Statistic	Accuracy	Discordant Substances[2]
RC millimole[3]	347	0.452	RC IC_{50} – 40%	RC IC_{50} – 207/347 (60%)
RC rat-only millimole[3]	282	0.452	3T3– 31% NHK– 29%	3T3– 46/67(69%) NHK– 48/68 (71%)
RC rat-only weight[3]	282	0.325	3T3– 31% NHK– 31%	3T3– 46/67 (69%) NHK– 47/68 (69%)

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity; R^2=Coefficient of determination.
[1]Number of substances used in regression.
[2]Proportion of discordant substances.
[3]From **Table 6-5**.

The accuracy of the GHS category predictions using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only regressions obtained for the reference substances from this validations study may or may not be applicable to other substances. A number of reasons may explain the low accuracy for the reference substances. One is the skewness of the substances selected for testing with respect to fit to the RC millimole regression (see **Figure 3-1**). **Table 3-4** shows that 22 (38%) of the 58 RC substances selected for testing were known to poorly fit the RC millimole regression (i.e., the predicted LD_{50} was outside the RC acceptance interval). Toxicity was underpredicted for 17 (77%) of these outlier substances and overpredicted (i.e., predicted LD_{50} was lower than measured *in vivo* LD_{50}) for the remaining five (23%). **Table 6-3** shows that 40% (28/70 for 3T3) and 44% (31/71 for NHK) of the reference substances that yielded IC_{50} values were outliers. Other reasons for the low accuracy for GHS acute oral toxicity prediction, such as those discussed in **Section 1.2.3**, include the major differences between cell cultures and whole animals regarding the absorption, distribution (including binding to serum proteins), availability, metabolism, and excretion of reference substances.

6.5 Correlation of NRU Concentration-Response Slope with Rat Lethality Dose-Response Slope

Because the slope calculations available for the NRU concentration-response curve analyses were based on the Hill function, the SMT determined whether the Hill Slope correlated with the rodent dose-mortality slope. If the two were correlated, the Hill Slope from the NRU test methods could be used to estimate the dose-mortality slope, which could, in turn, be used to estimate the most appropriate dose progression for UDP testing in rodents. A more immediate use for the validation study results, however, would be for the computer simulation modeling of animal testing for the UDP and ATC acute oral toxicity methods (described in **Sections 10.2** and **10.3**).

Dose-mortality slope information was available for 22 of the 72 reference substances, as shown in **Table 6-10**. Hill function slopes were available for 20 and 21 of the 22 substances

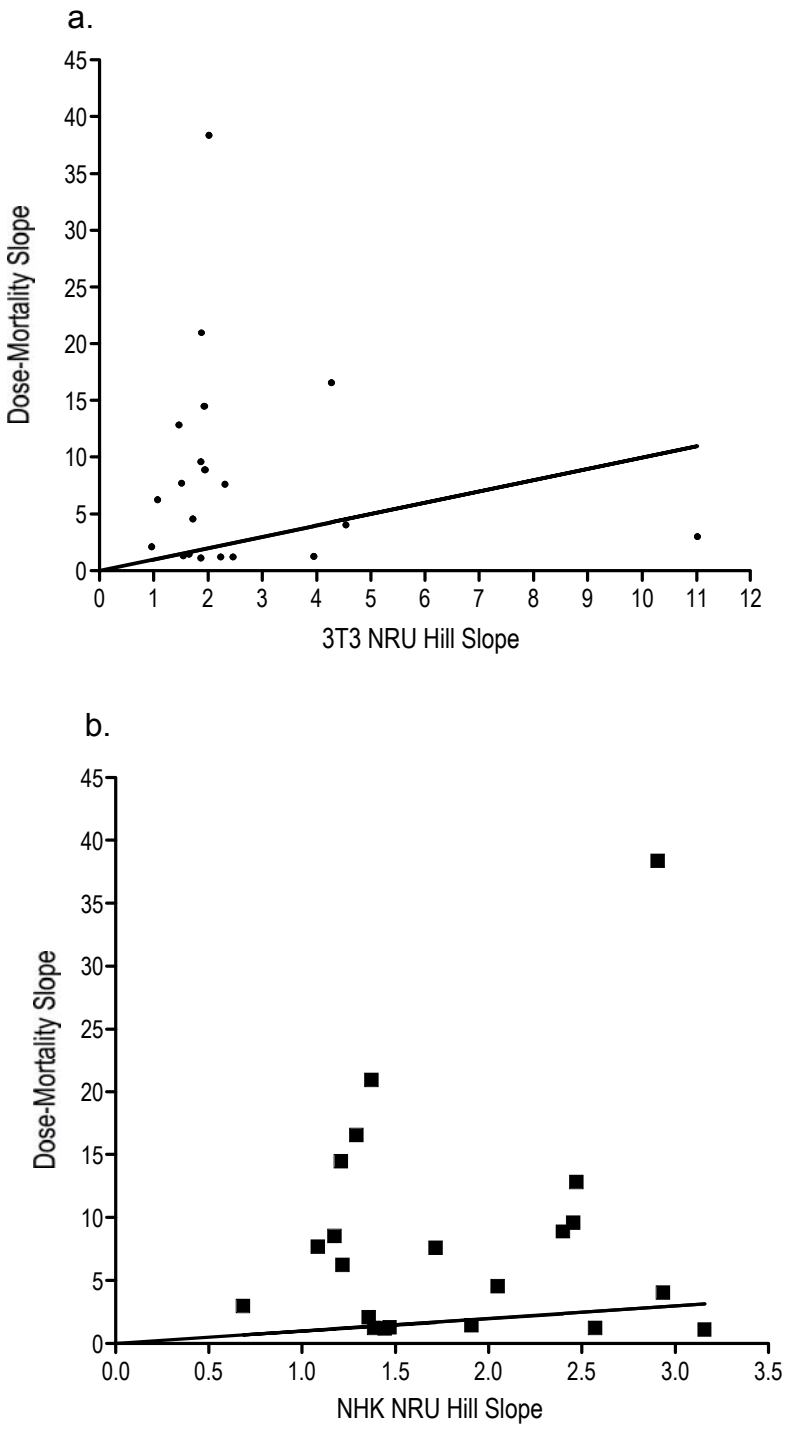
for the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively. The Hill function slopes were transformed to absolute values because geometric means cannot be calculated for negative numbers, and geometric mean Hill function slopes were calculated for the acceptable NRU tests for each reference substance. When there was more than one dose-mortality slope available for a substance, a geometric mean was calculated from the available values. The absolute values of the geometric mean Hill function slopes are plotted against the geometric mean dose-mortality slopes in **Figure 6-5**. To determine whether there was a relationship between the absolute value of the Hill Slope and the dose-mortality slope, Spearman correlation analyses and least squares linear regression analyses were performed for each method. Both analyses showed that the absolute value of the *in vitro* Hill function slope was not related to the dose-mortality slope. The Spearman correlation analysis yielded nonsignificant correlations for both *in vitro* NRU test methods (3T3 r_s=-0.051 with p=0.831, and NHK r_s=-0.142 with p=0.541). Linear regression analyses for the prediction of dose-mortality slope by the absolute value of the Hill function slope also showed that the slopes of the regressions were not significantly different from zero (3T3 p=0.774, and NHK p=0.994). Because there was no relationship between Hill function slope and dose-mortality slope, the Hill function slope was not used to predict the dose-mortality slope for the simulation modeling of animal testing for the UDP and ATC acute oral toxicity methods in **Sections 10.2** and **10.3**.

Table 6-10 Reference Substances with Dose-Mortality and NRU Hill Slopes

Reference Substance	Dose-Mortality Slope[1]	3T3 Hill Slope[2]	NHK Hill Slope[2]
Acetylsalicylic acid	1.45	1.658	1.906
Boric acid	7.70	1.511	1.083
Caffeine	6.27	1.069	1.215
Carbon tetrachloride	2.06	NA	NA
Dichlorvos	1.24	2.240	1.383
Dimethylformamide	1.11	1.875	3.157
Diquat dibromide	16.57	4.273	1.289
Ethanol	4.57	1.725	2.049
Ethylene glycol	38.38	2.016	2.904
Glycerol	8.90	1.941	2.398
Hexachorophene	12.84	1.466	2.470
Lactic acid	4.04	4.541	2.934
Methanol	8.53	NA	1.173
Nicotine	3.00	11.019	0.682
Parathion	1.31	1.551	1.467
Potassium cyanide	14.50	1.931	1.207
Sodium arsenite	7.60	2.317	1.717
Sodium I fluoride	1.26	3.952	2.569
Trichloroacetic acid	20.97	1.883	1.369
Triethylene melamine	2.10	0.963	1.355
Valproic acid	1.20	2.467	1.440
Xylene	9.60	1.871	2.452
Carbon tetrachloride	2.06	NA	NA

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; NA=Not available.
[1]Geometric mean if there was more than one value for each substance (from **Appendix H2**).
[2]Geometric mean of absolute values from acceptable *in vitro* NRU tests.

Figure 6-5 Correlation of Dose-Mortality Slope to Hill Function Slope



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake. Hill function slopes and dose-mortality slopes for the reference substances shown in **Table 6-10** for (a) the 3T3 data and (b) the NHK data. The solid line indicates the theoretical, one-to-one correspondence of Hill function slope with dose-mortality slope. Spearman's correlation coefficients were r_s=-0.051 (p=0.831) for the 3T3 and r_s=-0.142 (p=0.541) for the NHK data.

6.6 Strengths and Limitations of the Use of *In Vitro* Cytotoxicity Test Methods with the IC_{50}-LD_{50} Regressions for Prediction of Rodent Acute Oral Toxicity

6.6.1 *In Vitro* Cytotoxicity Methods

The NRU basal cytotoxicity methods tended to underpredict the toxicity of the most toxic substances and to overpredict the toxicity of the least toxic substances for each regression evaluated. The 3T3 and NHK NRU test methods were best at predicting the toxicity of substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg. The accuracy of the *in vitro* prediction of this GHS category using the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression was 75-81%. GHS toxicity categories of substances with higher or lower LD_{50} values were correctly predicted with less than 50% accuracy. The worst accuracy, 0%, was observed for:

- Substances with $LD_{50} \leq 5$ mg/kg in both *in vitro* test methods and regressions
- Substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg using 3T3 with the RC rat-only millimole regression
- Substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg or $LD_{50} > 5000$ mg/kg using NHK with RC rat-only millimole regression
- Substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg using 3T3 with RC rat-only weight regression

Some substances with low toxicity and low solubility could not be tested in the *in vitro* NRU test methods because the concentration of dissolved substance was inadequate to obtain an IC_{50} value. None of the laboratories obtained adequate toxicity in any of the 3T3 tests of carbon tetrachloride or methanol, and at least one laboratory failed to achieve adequate toxicity with gibberellic acid or xylene. No laboratory achieved adequate toxicity in any of the NHK experiments with carbon tetrachloride, and at least one laboratory could not achieve adequate toxicity with methanol, 1,1,1-trichloroethane, or xylene. Another limitation of use of the *in vitro* test methods is in the testing of substances that come out of solution by forming a film on the medium surface or plastic well wall (i.e., "film out"), and for substances that etch the laboratory ware plastics (ICCVAM 2006). Substances that etch plastics can be detected by looking for the presence of etched rings in the 96-well plates after exposure. Some substances that produce films in medium also etch plastic.
The prediction of rodent acute oral toxicity (and the starting doses for acute oral toxicity tests) by the *in vitro* NRU methods is expected to be poor for substances with mechanisms of toxicity that are not effective in the 3T3 and NHK cells. Such toxic mechanisms include specific, receptor-mediated actions on the CNS or the heart.

The evaluation of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting starting doses for rodent acute oral toxicity testing with its potential to reduce and refine animal use is provided in **Section 10**.

6.6.2 Use of Mole-Based vs. Weight-Based Regressions for the Prediction of Toxicity for Low and High Molecular Weight Substances

The ICCVAM ATWG expressed concern that the RC rat-only weight regression may less accurately predict the toxicity of low and high molecular weight substances than the RC rat-only millimole regression. Using the RC IC_{50} and LD_{50} values for the 282 RC substances with rat oral LD_{50} data, analyses were performed to:

- Determine the difference in the over and under-prediction of rodent acute oral toxicity (i.e., LD_{50}) from IC_{50} values between low molecular weight substances (i.e., ≤100 g/mole) and substances with molecular weights >100 g/mole
- Determine the difference in the over and under-prediction of rodent acute oral toxicity from IC_{50} values between high molecular weight substances (i.e., ≥400 g/mole) vs. substances with molecular weights <400 g/mole.
- Compare the RC rat-only millimole regression with the RC rat-only weight regression with respect to the over- and under-prediction of the toxicity of low and high molecular weight substances

This analysis used the RC data rather than the validation studies data because the RC contains data for many more substances. The analysis assumes that the regressions either underpredicted or overpredicted the toxicity of all of the substances evaluated. In other words, there was a difference between the LD_{50} predicted by the regression and the *in vivo* LD_{50} used to calculate the regression even if it was a tiny fraction (i.e., no substances fit the regression exactly). The complete analysis and discussion are presented in **Appendix J7**. Of the 282 RC substances with rat acute oral LD_{50} values, there were 51 with molecular weights ≤100 g/mole and 231 with molecular weights >100 g/mole. For the 51 substances with molecular weight ≤100 g/mole, the RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 20/51 (39%) substances and overestimated the toxicity of 31/51 (61%) substances. The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 24/51 (47%) substances and overestimated the toxicity of 27/51 (53%) substances. Fisher's exact test indicated that there was no difference between the millimole and weight regressions with respect to the under or over-prediction of toxicity for the low molecular weight substances (two-tailed p=0.549) (see **Table 6-11**).

For the 231 substances with molecular weights >100 g/mole, the RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 108/231 (47%) substances and overestimated the toxicity of 123/231 (53%). The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 101/231 (44%) substances and overestimated the toxicity of 130/231 (57%). Fisher's exact test indicated that there were no significant differences between the millimole and weight regressions for the under- and over-prediction of toxicity for the 231 substances with molecular weight >100 g/mole (two-tailed p=0.575). Fisher's exact test also showed that there were no significant differences in the under- and over-prediction of the toxicity of the 51 substances with molecular weight ≤100 g/mole compared to the under- and over-prediction of the toxicity of the 231 with molecular weight >100 g/mole (two-tailed p=0.756 for the RC rat-only weight regression, and two-tailed p=0.355 for the RC rat-only millimole regression).

Table 6-11 Over- and Under- Prediction of Toxicity for Low and High Molecular Weight Substances Using RC Rat-Only Weight and Millimole Regressions

Comparison	For	Fisher's Exact Test[1]
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 51 substances with molecular weight ≤100 g/mole	0.549
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 231 substances with molecular weight >100 g/mole	0.575
51 Low molecular weight (≤100 g/mole) substances vs. 231 other substances (>100 g/mole)	RC rat-only millimole regression	0.355
51 Low molecular weight (≤100 g/mole) substances vs. 231 other substances (>100 g/mole)	RC rat-only weight regression	0.756
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 20 substances with molecular weight ≥400 g/mole	0.480
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 262 substances with molecular weight <400 g/mole	NT
20 High molecular weight substances (≥400 g/mole) vs. 262 other substances (<400 g/mole)	RC rat-only millimole regression	0.362
20 High molecular weight substances (≥400 g/mole) vs. 262 other substances (<400 g/mole)	RC rat-only weight regression	0.033

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; NT=Not tested because the proportions were the same. Toxicity was underpredicted for 121/262 (46%) substances and overpredicted for 141/262 (54%) substances.
[1]P-values.

Of the 282 RC substances with rat acute oral LD_{50} values, there were 20 with molecular weights ≥400 g/mole and 262 with molecular weights <400 g/mole. The RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 7/20 (35%) of the ≥400 g/mole substances and overestimated 13/20 (65%). The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 4/20 (20%) of the substances and overestimated 16/20 (80%). Fisher's exact test indicated that there were no differences between the millimole and weight regressions for the under- and over-prediction of toxicity for the 20 high molecular weight substances (two-tailed p=0.4801).

For the remaining 262 substances with molecular weights <400 g/mole, both the RC rat-only millimole and the RC rat-only weight regressions underestimated the toxicity of 121/262 (46%) substances and overestimated 141/262 (54%). Thus, there were no statistical differences in the under- and over-esimation of toxicity for the 262 substances with molecular weights <400 g/mole regardless of which regression was used. Fisher's exact test also showed that there was no statistical difference in the under- and over-prediction of the toxicity of substances with high molecular weight (≥400 g/mole) compared with the under- and over-prediction the lower molecular weight substances using the RC rat-only millimole regression (two-tailed p=0.362). In contrast the use of the RC rat-only weight regression, resulted in a small but statistically significant difference in the under- and over-prediction of

the toxicity of substances with high molecular weight (>400 g/mole) compared with the under- and over-prediction of the toxicity of substances with lower molecular weight (two-tailed p=0.033). The weight-based regression significantly overestimated the toxicity of the high molecular weight substances (compared with substances with lower molecular weight) while the millimole regression did not.

6.7 Salient Issues of Data Interpretation

One of the most important considerations for the 3T3 and NHK NRU test methods, as for any test method, is the ability to generate good concentration-response results. In addition to technical difficulties with these test methods, such as occasional poor cell growth and the formation of NRU crystals, this validation study yielded non-monotonic concentration-response curves for certain substances.

A number of substances produced non-monotonic concentration-response curves in the 3T3 and/or the NHK NRU range finding or definitive tests. Because the *in vitro* NRU test methods, and the calculation of IC_{50} values from the resulting concentration curves, presume that the toxic response is linear, the data from non-linear responses (e.g., biphasic curves), as seen with aminopterin, do not always permit an IC_{50} determination by the standard Hill function analysis. In such cases, the lowest concentration that killed approximately 50% of the cells in the range finding test was used to set the concentration range for the definitive test. The definitive test used more closely spaced concentrations in an attempt to obtain a monotonic concentration-response curve. However, 100% toxicity (or 0%) viability was often unattainable in such definitive tests that exhibited a plateau of toxicity well over 0% viability (e.g., 20%). Care must be used in the calculation of the IC_{50} for curves for which toxicity plateaus to assure that the value reflects the concentration at 50% inhibition of the VC value rather than simply the midpoint of the highest and lowest response.

Because of low toxicity and/or low solubility, some substances did not produce sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} value. Carbon tetrachloride, methanol, xylene, gibberellic acid, lithium carbonate, and 1,1,1-trichloroethane failed to yield acceptable IC_{50} results in at least one laboratory because of insufficient toxicity. All of these substances, with the exception of methanol, produced precipitate in the cell culture medium.

6.8 Comparison of NRU Test Results to Established Performance Standards

The *Guidance Document* method of evaluating *in vitro* basal cytotoxicity assays for predicting starting doses for rodent acute oral toxicity assays provides the existing performance standard (ICCVAM 2001b) for the 3T3 and NHK NRU test methods. The *Guidance Document* recommends testing 10 to 20 reference substances from the RC in an *in vitro* basal cytotoxicity assay for predicting starting doses for rodent acute oral toxicity testing (ICCVAM 2001b). These substances should cover a wide range of toxicity and fit the RC millimole regression as closely as possible. The *Guidance Document* recommends using the IC_{50} results for the selected reference substances from the candidate method to calculate a new regression line with the LD_{50} values used by the RC. If the resulting regression is parallel to the RC millimole regression and within the $\pm \log 5$ (i.e., ± 0.699) prediction interval for the RC, candidate assay may be considered effective for predicting starting doses for substances in rodent acute oral toxicity assays.

One goal of the testing in Phases Ib and II of this study was to establish whether the results from the 3T3 and NHK NRU test methods were consistent with the RC millimole regression. As discussed in **Section 3.3.5**, two of the major criteria for selecting the 12 coded substances tested from the 72 reference substances were:

(a) Two substances must be included from each of the unclassified and classified GHS acute oral toxicity categories, and
(b) The substances must fit as closely to the RC millimole regression as possible.

Unfortunately, the SMT could not identify 12 substances that fit both criteria because there was only one substance, aminopterin, in the LD_{50} <5 mg/kg category that fit the RC millimole regression. The other substance chosen from that toxicity category was sodium selenate. Because sodium selenate was not included in the RC, there was no indication of how closely it would fit the RC millimole regression, and it was therefore not included in the Phases Ib and II regression analyses. The other 10 substances selected for testing in Phases Ib and II were colchicine, arsenic trioxide, cadmium chloride, sodium fluoride, propranolol, lithium carbonate, potassium chloride, chloramphenicol, 2-propanol, and ethylene glycol.

The geometric mean log IC_{50} (mM) values from the 3T3 and NHK NRU test methods from each laboratory were used with the oral log rodent LD_{50} (mmol/kg) values from the RC (see **Appendices J1** and **J2**) for the least squares linear regression analyses (see **Section 5.5.3.3**) for the substances tested in Phases Ib and II. The slopes for all regressions were significantly different from zero at $p < 0.0001$, which indicated that there was a significant relationship between IC_{50} and LD_{50}. The R^2 values for the regressions from each laboratory, shown in **Table 6-12**, show that the 3T3 NRU test method produced better-fitting regressions than the corresponding NHK NRU test method ($R^2 = 0.940$ to 0.953 vs. 0.577 to 0.621). The relatively low R^2 values for the NHK NRU test method were attributed to the much lower toxicity of aminopterin in those cells (see **Figures 6-6** to **6-8** and **Tables 5-3** and **5-4**). All test method and laboratory-specific regressions were consistent with the RC millimole regression. **Table 6-12** shows that all joint comparisons of slopes and intercepts with the RC millimole regression were not significant (i.e., $p > 0.01$). The RC millimole regression slope and intercept were used as constants for this comparison.

A graphic comparison of the IC_{50} regressions with the RC millimole regression as suggested by the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) demonstrated that they were generally within the RC millimole regression acceptance limits (see **Figures 6-6, 6-7,** and **6-8**). According to the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), *in vitro* basal cytotoxicity assays providing such consistency with the RC millimole regression are acceptable for predicting starting doses for rodent acute oral toxicity assays.

As an additional analysis, a regression for the 11 substances tested in Phases Ib and II (the RC-11 millimole regression*),* was calculated using the log RC IC_{50} (mM) and log LD_{50} (mmol/kg) values (see **Table 6-12**). Each of the laboratory regressions for each test method was then compared to the RC-11 regression using an F test for a joint comparison of slope and intercept. None of the regressions were significantly different from the RC-11 regression (p values ranged from 0.755 to 0.933).

Table 6-12 Linear Regressions for 11 Substances Tested in Phases Ib and II

	3T3 Regression[1]				
Laboratory	**Intercept**	**Slope**	**R^2 Statistic**	**Test Against RC Regression[2]**	**Test Against RC-11 Regression[3]**
ECBC	0.793	0.584	0.940	0.040	0.829
FAL	0.709	0.598	0.953	0.024	0.909
IIVS	0.710	0.584	0.949	0.041	0.933
	NHK Regression[1]				
Laboratory	**Intercept**	**Slope**	**R^2 Statistic**	**Test Against RC Regression[2]**	**Test Against RC-11 Regression[3]**
ECBC	0.401	0.530	0.577	0.620	0.805
FAL	0.429	0.548	0.621	0.569	0.853
IIVS	0.373	0.549	0.590	0.538	0.755

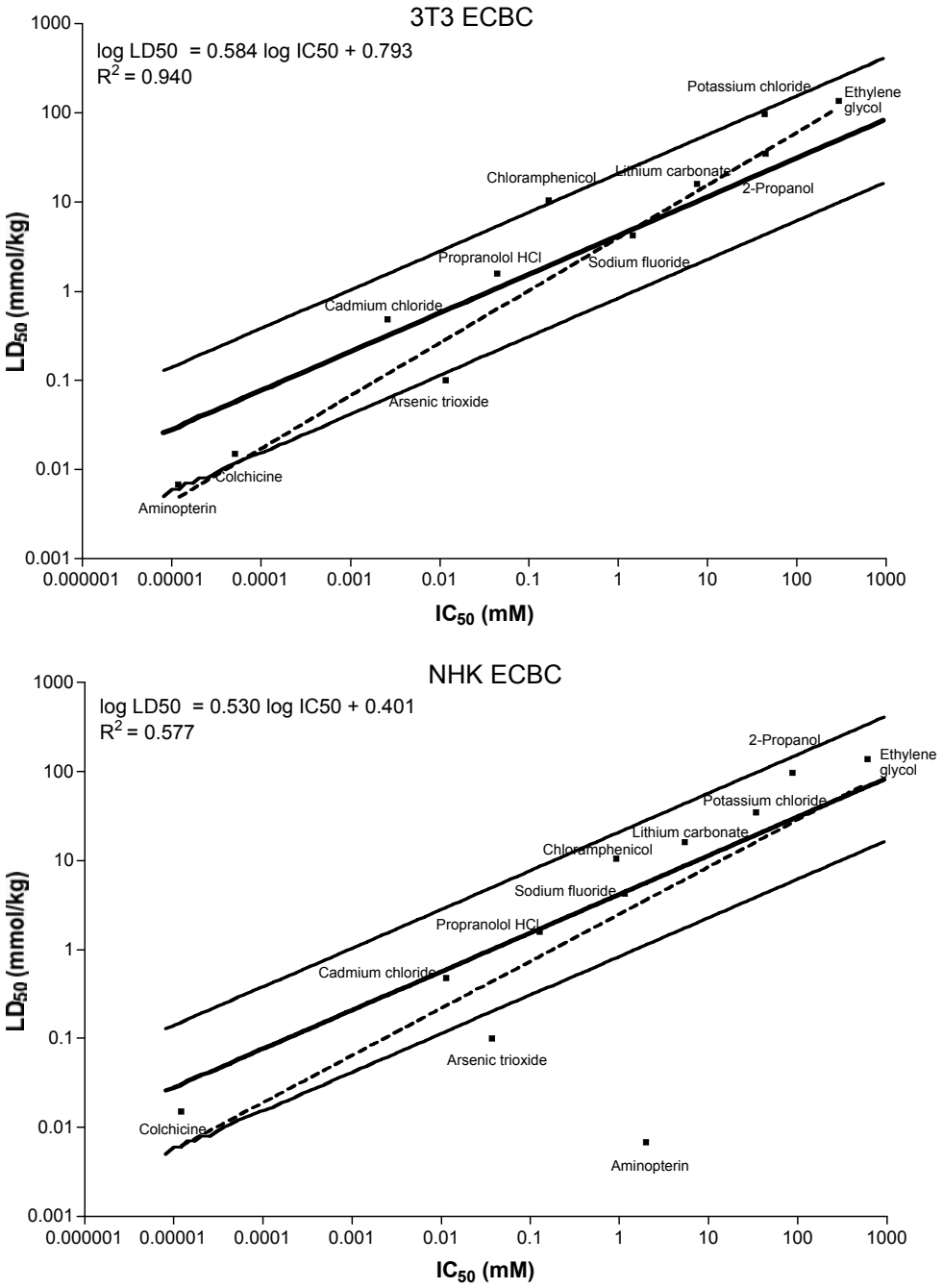
Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; R^2=Coefficient of determination.

[1]Laboratory and test method regressions were calculated after log transforming the NRU IC_{50} in mM and the RC LD_{50} in mmol/kg for the 11 RC substances tested in study Phases Ib and II (shown in **Figures 6-6** through **6-8)**.

[2]Simultaneous comparison of slope and intercept with RC millimole regression: log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 x log IC_{50} (mM) + 0.625; R^2=0.452; the reported values are p values of the statistic.

[3]Simultaneous comparison of slope and intercept with RC-11 regression (defined as a regression on the 11 substances): log LD_{50} (mmol/kg) = 0.552 x log IC_{50} (mM) + 0.602; R^2=0.971; the reported values are p values of the statistic.

Figure 6-6 *In Vitro – In Vivo* Regressions[1] for Phases Ib and II for ECBC

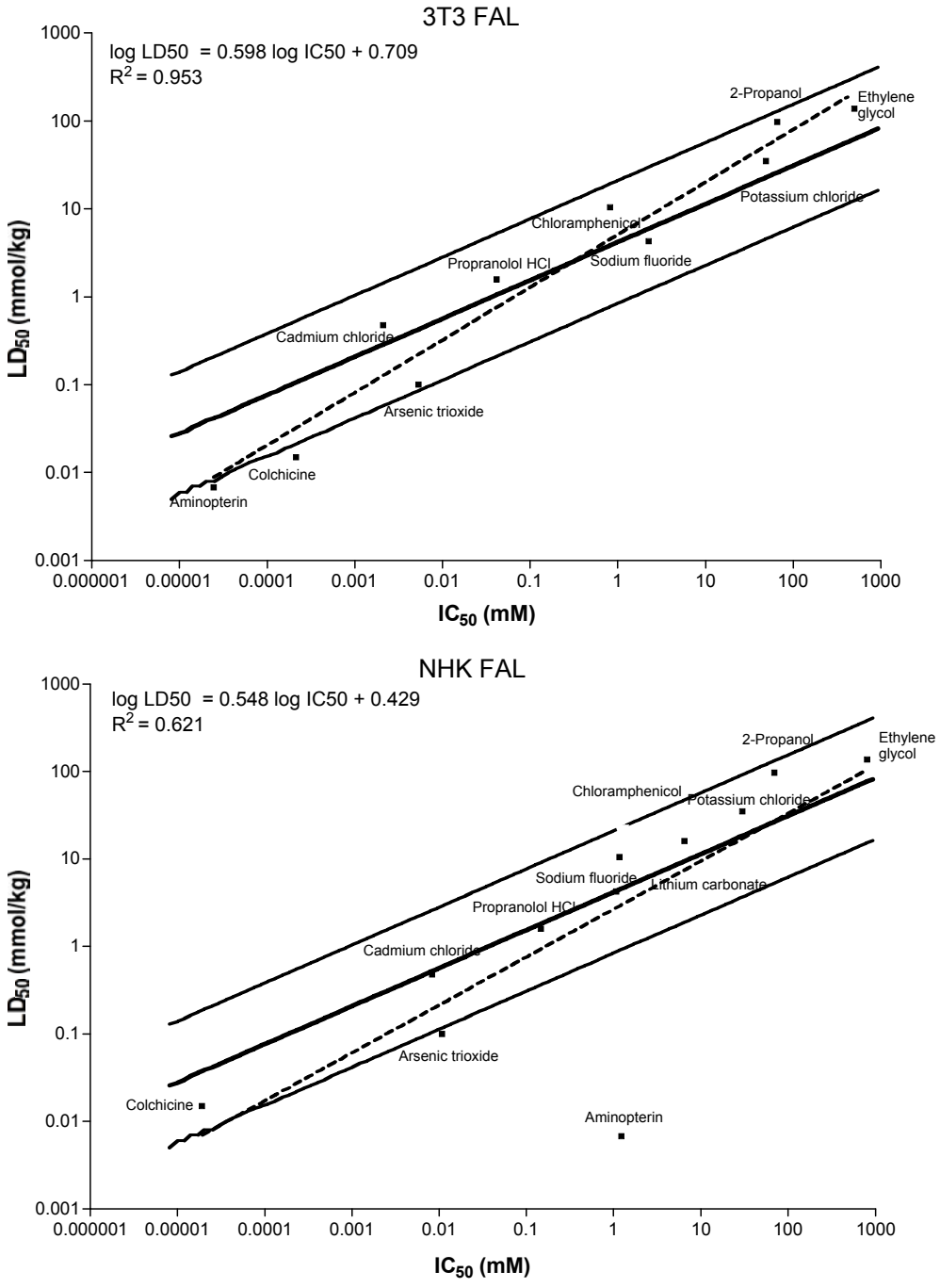


Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=Neutral red uptake using BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK= Neutral red uptake using normal human epidermal keratinocytes; R^2=Coefficient of determination.

[1]Regressions of substances tested in study Phases Ib and II do not include sodium selenate because it was not included in the RC. Regressions were calculated using the NRU IC_{50} values and the RC LD_{50} values.

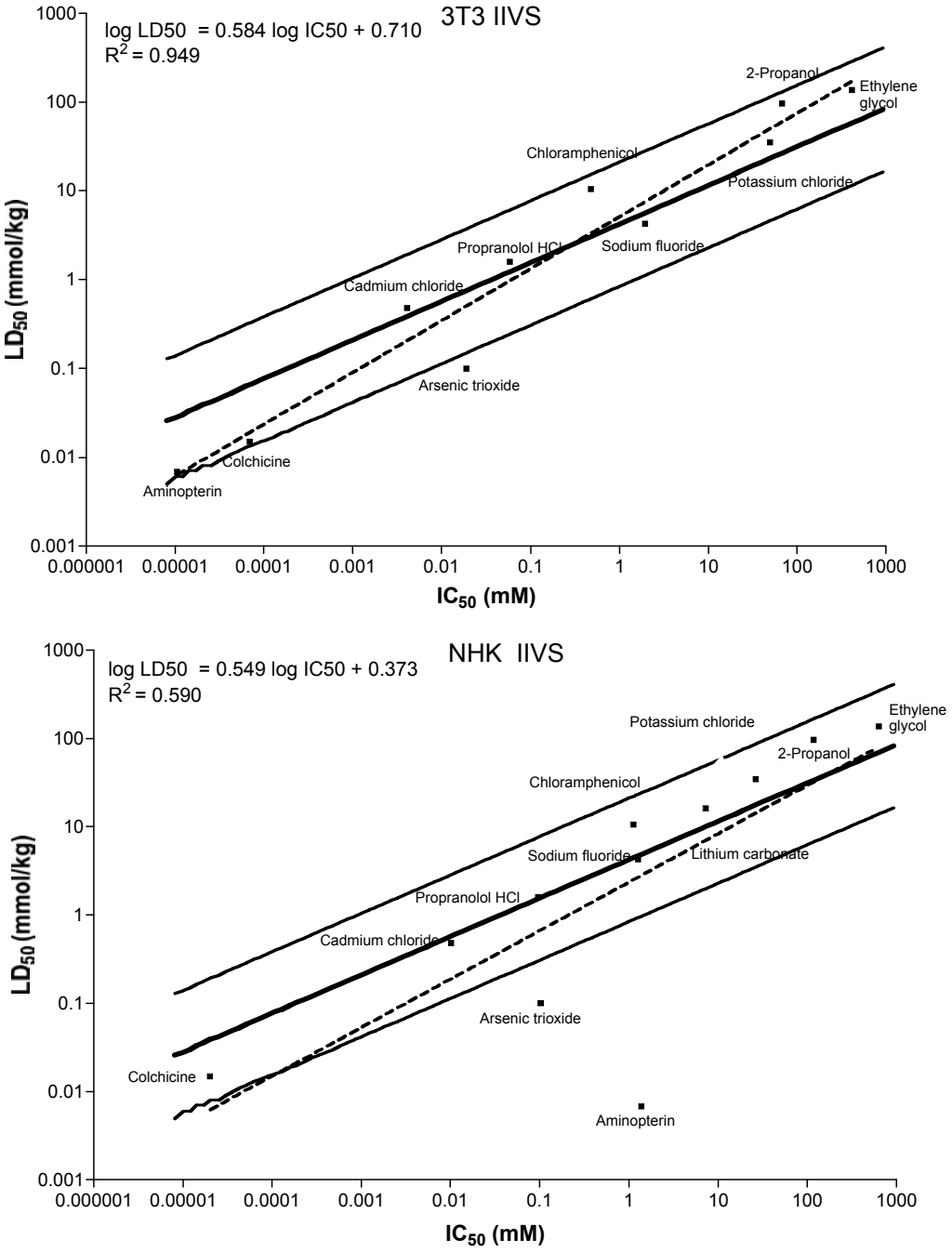
The solid lines show RC millimole regression (bold) and acceptance limits (lighter). The dashed shows the ECBC regressions.

Figure 6-7 *In Vitro – In Vivo* Regressions[1] for Phases Ib and II for FAL



Abbreviations: FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=Neutral red uptake using BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Neutral red uptake using normal human epidermal keratinocytes; R^2=Coefficient of determination.
[1]Regressions of substances tested in study Phases Ib and II do not include sodium selenate because it was not included in the RC. Regressions were calculated using the NRU IC_{50} values and the RC LD_{50} values.
The solid lines show RC millimole regression (bold) and acceptance limits (lighter). The dashed shows the FAL regressions.

Figure 6-8 *In Vitro – In Vivo* Regressions[1] for Phases Ib and II for IIVS



Abbreviations: IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; RC=Registry of Cytotoxicity; 3T3=Neutral red uptake using BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Neutral red uptake using normal human epidermal keratinocytes; R^2=Coefficient of determination.

[1]Regressions of substances tested in study Phases Ib and II do not include sodium selenate because it was not included in the RC. Regressions were calculated using the NRU IC_{50} values and the RC LD_{50} values.

The solid lines show RC millimole regression (bold) and acceptance limits (lighter). The dashed shows the IIVS regressions.

6.9 Summary

The millimole regressions developed using the validation study IC_{50} and LD_{50} values were not significantly different from the regressions for the same 47 RC substances using the RC data (F test; p=0.612 for the 3T3 regression and p=0.759 for the NHK regression). Because this validation study provided results similar to the RC, which has more than 3.5 times the number of substances, the 282 RC substances with rat LD_{50} values were used to determine the relationship between the IC_{50} and LD_{50} data. One linear regression was developed using millimole units for the measurement of substances, the RC rat-only millimole regression, and one was developed using weight units (which are more practical in a routine testing situation), the RC rat-only weight regression. The RC rat-only millimole regression is applicable to substances of known molecular weight while the RC rat-only weight regression is applicable for use with complex mixtures, substances whose molecular weight is unknown.

Characteristics that seemed promising for characterizing the RC millimole regression outliers were chemical class, boiling point, molecular weight, and log K_{ow}. Different chemical classes behaved differently with respect to being outliers; ranging from 5/5 (100%) for the organic sulfur compounds for both test methods to 4/14 (29%) for carboxylic acids for the 3T3 NRU. Of the reference substances with boiling points >200°C, 9/13 (69%) were outliers for the 3T3 NRU and 8/13 (62%) were outliers for the NHK NRU. With respect to molecular weights, 4/7 (57%) substances with molecular weight >400 g/mole were outliers using the 3T3 data, and 3/7 (43%) were outliers using the NHK data. When log K_{ow} was used, 8/13 (62%) substances with a log K_{ow} >3 were outliers for both test methods.

The lack of fit of individual substances to the RC millimole regression was not consistently related to insolubility or to the fact that the test method systems had little to no metabolic capability. Of the substances that exhibited precipitation, 11/25 (44%) were outliers in the 3T3 NRU assays and 11/24 (46%) were outliers in the NHK NRU assays. However, although the 3T3 and NHK cells have little to no metabolic capability, the toxicity of substances known to produce active metabolites *in vivo* was not underpredicted by these assays. Of the 19 substances known to produce active metabolites *in vivo*, 10 (53%) were outliers in the 3T3 NRU test method; the toxicity of six (60%) was underpredicted while the toxicity of four (40%) overpredicted. These 10 substances accounted for 36% of the 28 outliers identified by the 3T3 NRU test method. Similarly, nine (47%) of the 19 substances known to produce active metabolites *in vivo* were outliers in the NHK NRU test method. Of these nine, the NHK NRU test method underpredicted the toxicity of five (56%) and overpredicted four (44%). These nine outliers accounted for 29% of the 31 outliers identified by the NHK NRU test method.

The examination of outliers based on mechanisms of toxicity showed that 10/16 (63%) substances with specific neurotoxic mechanisms were outliers in both the 3T3 and NHK NRU test methods. Three of the six (50%) cardiotoxic substances were outliers in the 3T3 NRU test method and two (33%) were outliers in the NHK NRU test method. When all the reference substances with mechanisms of toxicity that are not expected to be active in the 3T3 and NHK systems (i.e., in **Table 6-3**) were summed, 13/22 (59%) were outliers for the 3T3 NRU and 12/22 (55%) were outliers for the NHK NRU.

The accuracy of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting the GHS acute oral toxicity categories was 31% (21/67) and 29% (20/68), respectively, when used with the RC rat-only millimole regression. The corresponding accuracy with the RC rat-only weight regression was 31% for both methods (21/67 for 3T3, and 21/68 for NHK). Accuracy was highest for substances in the $300< LD_{50} \leq 2000$ mg/kg range. The accuracies of the regressions, with respect to the GHS categories, were similar for both regressions (millimole and weight) and all three laboratories.

- 0% for substances with $LD_{50} \leq 5$ mg/kg (GHS Category I)
- 9% to 18% for substances with $5< LD_{50} \leq 50$ mg/kg (GHS Category II)
- 33% to 50% for substances with $50< LD_{50} \leq 300$ mg/kg (GHS Category III)
- 75% to 81% for substances with $300< LD_{50} \leq 2000$ mg/kg (GHS Category IV)
- 0% to 40% for substances with $2000< LD_{50} \leq 5000$ mg/kg (GHS Category V)
- 0% to 17% for substances with $LD_{50} >5000$ mg/kg (GHS Unclassified)

The overall accuracy for prediction of GHS category prediction using the RC IC_{50} and LD_{50} values and the RC millimole regression was higher that that for the NRU test methods with the RC rat-only regressions (i.e., 40% for the RC vs. 29% to 31% for the NRU test methods and RC rat-only regressions). However, the pattern of accuracy for the GHS categories was similar. For all the accuracy analyses, the lowest accuracy was obtained for very toxic and very nontoxic substances and highest accuracy was obtained for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg.

The accuracy of GHS acute oral toxicity category predictions using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only regressions obtained for the reference substances may or may not be broadly applicable to substances that might require acute oral toxicity testing. The reasons for the low accuracy obtained in this validation study include: the differences between cell cultures and whole animals regarding the absorption, distribution, availability, metabolism, and excretion of reference substances, and the presence or absence of toxicity targets; the skewness of the selection of substances for testing (with respect to fit to the regression); and the structure of the GHS acute oral toxicity categories.

[This Page Intentionally Left Blank]

[This Page Intentionally Left Blank]

7.0 RELIABILITY OF THE 3T3 AND NHK NRU TEST METHODS

The reliability of the 3T3 and NHK NRU test methods was assessed by determining intra- and inter-laboratory reproducibility. Intralaboratory reproducibility is the agreement of results produced when people in the same laboratory perform the method using the same test protocol at different times (ICCVAM 2003). Interlaboratory reproducibility is the agreement of results among different laboratories using the same protocol and reference substances. Interlaboratory reproducibility indicates the extent to which a method can be successfully transferred among laboratories. Repeatability, usually applied to results within a laboratory, is the closeness of agreement between test results obtained when the procedure is performed on the same substance under identical conditions within a given time. This study was not designed to assess intralaboratory repeatability.

The interlaboratory reproducibility of the test results was assessed by comparing the laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} regressions for the 3T3 and NHK NRU test methods to the mean (i.e., across-laboratory mean) laboratory regressions (see **Section 7.2.1**). This comparison is relevant because the 3T3 and NHK NRU test methods are intended for use with IC_{50}-LD_{50} regressions to determine starting doses for acute oral toxicity tests. Interlaboratory reproducibility of the 3T3 and NHK NRU test methods was also determined using ANOVA, CV analysis, and comparison of maximum:minimum IC_{50} ratios calculated using laboratory mean values **(**see **Sections 7.2.2**, **7.2.3**, and **7.2.4**, respectively), as discussed in **Section 5.5.2.2**. Inter- and intra-laboratory reproducibility of the PC (SLS) was determined using ANOVA, CV analysis, and/or linear regression over time (see **Section 7.3**). The extent of laboratory concordance in selecting the solvent to be used for each test substance (described in **Section 2.10**) is provided in **Section 7.4**.

7.1 Reference Substances Used to Determine the Reliability of the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The validation study was designed for the purpose of using the IC_{50} results of 72 reference substances (see **Table 3-2)** to determine the reliability of the IC_{50} values from the 3T3 and NHK NRU test methods. The number of reference substances used for the reproducibility analysis was not the same as the number of reference substances used for the accuracy analyses in **Section 6.4**. In the former case, only reference substances for which all three laboratories reported replicate IC_{50} values were used, while in the latter case, substances with rat acute oral LD_{50} data only and at least one laboratory reporting replicate IC_{50} values were used. **Table 7-1** lists the reference substances that failed to yield sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50} in each laboratory, and the number of remaining reference substances with replicate IC_{50} values. The laboratories obtained acceptable IC_{50} values for 66 to 68 reference substances using the 3T3 NRU test method, and for 69 to 70 substances using the NHK NRU test method. When only reference substances with IC_{50} values from all three laboratories are considered, 64 and 68 substances were available to evaluate the reliability of the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively. The substances that were excluded from the 3T3 reliability analysis were carbon tetrachloride, disulfoton, gibberellic acid, lithium carbonate, methanol, 1,1,1-trichloroethane, valproic acid, and xylene. The substances that were excluded from the NHK reliability analysis were carbon tetrachloride, methanol, 1,1,1-trichloroethane, and xylene.

Table 7-1 Reference Substances Excluded from Reproducibility Analyses Because of Insufficient Cytotoxicity

Laboratory	3T3 NRU Test Method		NHK NRU Test Method	
	Reference Substances Lacking IC_{50} Results	N[1]	Reference Substances Lacking IC_{50} Results	N[1]
ECBC	Carbon tetrachloride Methanol 1,1,1-Trichloroethane Xylene	68	Carbon tetrachloride Methanol Xylene	69
FAL	Carbon tetrachloride Disulfoton Gibberellic acid Lithium carbonate Methanol Xylene	66	1,1,1-Trichloroethane Carbon tetrachloride Xylene	69
IIVS	Carbon tetrachloride Lithium carbonate Methanol Valproic acid	68	Carbon tetrachloride 1,1,1-Trichloroethane	70

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU= Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; N=Number of substances.
[2]Number of substances with replicate IC_{50} values.

Despite the fact that IC_{50} values were not obtained by all the laboratories for all reference substances, **Table 7-2** shows that the complete range of LD_{50} responses, as defined by the GHS classification for acute oral toxicity in **Table 3-1**, was covered by the reference substances for which replicate IC_{50} values were obtained. The 3T3 NRU IC_{50} values ranged from 0.005 to 38,878 μg/mL, while the NHK values covered a larger range, from 0.00005 to 49,800 μg/mL (see **Tables 5-4** and **5-5**).

Table 7-2 Number of Reference Substances Tested vs Number of Reference Substances Yielding IC_{50} Values from Each Laboratory, by GHS Acute Oral Toxicity Category

GHS Category[1] (mg/kg)	Reference Oral LD_{50}[2]	3T3 NRU Test Method[3]	NHK NRU Test Method[3]
$LD_{50} \leq 5$	7	6	7
$5 < LD_{50} \leq 50$	12	12	12
$50 < LD_{50} \leq 300$	12	12	12
$300 < LD_{50} \leq 2000$	16	14	16
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	11	9	9
$LD_{50} > 5000$	14	11	12

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU= Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).
[1]GHS category for acute oral toxicity.
[2]Number of reference substances tested in each category. Reference acute oral LD_{50} values from rats and mice were generated after evaluating LD_{50} values located through literature searches and references from toxicity databases such as RTECS® (from **Table 4-2**).
[3]Number of reference substances with IC_{50} values from all three laboratories.

7.2 Reproducibility Analyses for the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The interlaboratory reproducibility of the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values was assessed by comparing the laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} linear regressions for each method to a regression calculated using the mean IC_{50} values of the laboratories. The interlaboratory reproducibility of the 3T3 and NHK NRU test methods was also assessed using ANOVA, CV analysis, and analysis of the laboratory mean maximum:minimum IC_{50} ratios, as described in **Section 5.5.2.2.** Intralaboratory reproducibility was assessed using a CV analysis.

7.2.1 Comparison of Laboratory-Specific IC_{50}-LD_{50} Linear Regression Analyses to the Mean Laboratory Regression

The comparisons of laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} linear regressions to the mean laboratory regression for each method were made because the 3T3 and NHK NRU test methods are intended for use with IC_{50}-LD_{50} regressions to determine starting doses for acute oral toxicity tests. Laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} linear regressions were generated and displayed graphically for each method using the 64 and 68 reference substances for the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively, as indicated in **Section 7.1**. The regressions used the geometric mean IC_{50} values for each substance with the rodent acute oral LD_{50} reference value (**Table 4-2**). To determine whether the laboratory-specific regressions were significantly different from one another, they were compared against the mean laboratory regression for each NRU test method that was calculated using the geometric mean of the laboratory mean IC_{50} values and the rodent acute oral LD_{50} reference values. The mean laboratory regression for each NRU test method is in **Figure 7-1** with 95% confidence limits, and shows that the laboratory-specific regressions were all within the 95% confidence limits of the mean laboratory regression.

7.2.2 ANOVA Results for the 3T3 and NHK NRU Test Methods

The ANOVA was performed as discussed in Section **5.5.2.2**. Because the sample sizes from this study were small, usually three observations per laboratory, there may be differences that were statistically significant only because there were too few observations within the laboratories to adequately characterize variability or because the within-laboratory variability was small.

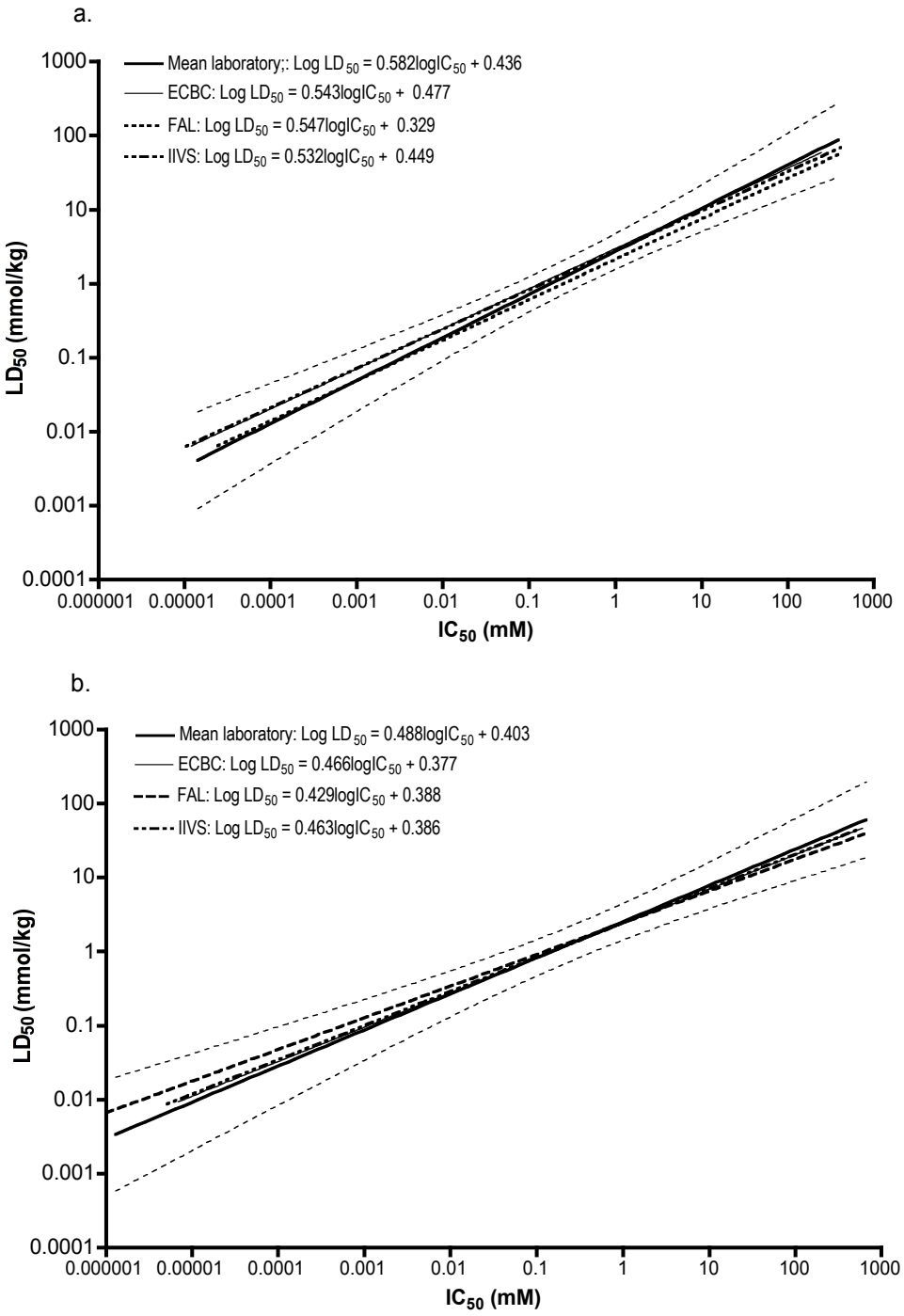
7.2.2.1 *Differences Among the IC_{50} Values in Laboratories Using the 3T3 NRU Test Method*

The ANOVA results in **Table 7-3** show that there were statistically significant ($p < 0.01$) differences among the laboratories for 23 of the 64 (36%) reference substances evaluated. The p values from the contrast analyses, post-hoc tests to determine which laboratory was significantly different from the others at $p < 0.01$ (see **Section 5.5.2.2)**, are also provided in **Table 7-3**. The substances for which statistically significant ANOVA and contrast results were obtained are listed in **Table 7-4** along with columns showing the laboratory with significantly differing values from the other two laboratories. Because significant laboratory differences may have resulted from the insolubility or volatility of the test substance, **Table 7-4** also indicates whether any laboratory reported insolubility or volatility during conduct of the test. Insolubility was suggested by the presence of precipitates in either the stock solutions or in cell culture. Volatility was identified by the need for plate sealers to contain volatile contamination of lower concentration wells by higher concentrations. Insolubility and volatility were reported for only six of the 23 chemicals showing significant

interlaboratory variability. In contrast, 22 of the 41 substances that were classified as generating interlaboratory reproducible data exhibited precipitates and/or volatility.

For the 23 substances that yielded significantly different results among laboratories, contrast analyses indicated that the IC_{50} values produced by ECBC and FAL were frequently different from the other laboratories. ECBC tended to report the lowest IC_{50} values (i.e., highest toxicity) among the laboratories while FAL tended to report the highest values of the three laboratories. ECBC reported significantly different results from the other two laboratories for 15 of the 23 substances; for 13 of the 15, ECBC's mean value IC_{50} was the lowest among the laboratories. FAL reported significantly different results from the other two laboratories for 20 of the 23 substances; for 18 of the 20, FAL's IC_{50} value was the highest among the laboratories. IIVS reported significantly different values for 11 of the 26 substances, with no tendency toward highest or lowest IC_{50} values.

Figure 7-1 Mean Laboratory and Laboratory-Specific 3T3 and NHK NRU Regressions



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; NHK=Normal human epidermal keratinocytes. Solid lines show the mean laboratory linear regressions for the 3T3 NRU (a) and the NHK NRU (b) test methods with dashed curved lines to show the 95% confidence limits of the regression. The regressions were calculated using 64 and 68 reference substances for the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively, as described in **Section 7.1**. Regressions used geometric mean IC_{50} values and reference acute oral LD_{50} values from **Table 4-2**.

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Acetaminophen	50.1	1.6		28	1.7	0.171	
ECBC	40.8		22		1.61		NA
FAL	66.2		35		1.82		NA
IIVS	43.4		26		1.64		NA
Acetonitrile	8484	1.5		21	3.93	0.553	
ECBC	6433		2		3.81		NA
FAL	9690		58		3.99		NA
IIVS	9330		13		3.97		NA
Acetylsalicylic acid	760	3.1		56	2.88	<0.001	
ECBC	646		10		2.81		0.581
FAL	1234		24		3.09		<0.001
IIVS	401		16		2.6		<0.001
5-Aminosalicylic acid	1698	1.4		19	3.23	0.054	
ECBC	1467		14		3.17		NA
FAL	2070		16		3.32		NA
IIVS	1557		12		3.19		NA
Aminopterin	0.007	2.4		54	-2.14	0.036	
ECBC	0.005		20		-2.28		NA
FAL	0.012		46		-1.93		NA
IIVS	0.005		23		-2.33		NA
Amitriptyline HCl	7.23	1.3		14	0.86	0.348	
ECBC	6.03		23		0.78		0.163
FAL	7.86		28		0.9		0.469
IIVS	7.81		18		0.89		0.445
Arsenic trioxide	2.51	3.9		61	0.4	0.004	

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	2.41		33		0.38		0.527
FAL	1.04		7		0.02		0.002
IIVS	4.09		52		0.61		0.006
Atropine sulfate	85.6	2.5		49	1.93	0.049	
ECBC	54.1		55		1.73		NA
FAL	133		31		2.12		NA
IIVS	70		8		1.85		NA
Boric acid	2228	3.3		69	3.35	0.01	
ECBC	1497		32		3.18		NA
FAL	3987		17		3.6		NA
IIVS	1202		48		3.08		NA
Busulfan	135	8.0		119	2.13	0.002	
ECBC	40		48		1.6		0.012
FAL	321		56		2.51		<0.001
IIVS	43.7		4		1.64		0.033
Cadmium chloride	0.565	1.4		39	-0.25	0.124	
ECBC	0.48		14		-0.32		NA
FAL	0.4		32		-0.4		NA
IIVS	0.817		53		-0.09		NA
Caffeine	161	1.4		18	2.21	0.481	
ECBC	133		10		2.12		NA
FAL	157		52		2.2		NA
IIVS	191		7.5		2.28		NA
Carbamazepine	109	1.8		35	2.04	0.049	
ECBC	83		14		1.92		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	152		37		2.18		NA
IIVS	91.8		12		1.96		NA
Carbon tetrachloride	NA	NA		NA	NA	NA	
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	NA		NA		NA		NA
Chloral hydrate	187	1.6		25	2.27	0.004	
ECBC	151		10		2.18		0.008
FAL	241		10		2.38		0.002
IIVS	170		12		2.23		0.181
Chloramphenicol	161	4.9		67	2.21	<0.001	
ECBC	55.3		22		1.74		<0.001
FAL	273		30		2.44		0.001
IIVS	156		18		2.19		0.165
Citric acid	829	2.4		41	2.92	0.002	
ECBC	473		29		2.68		0.001
FAL	1148		13		3.06		0.003
IIVS	865		19		2.94		0.298
Colchicine	0.047	4.7		85	-1.33	0.001	
ECBC	0.02		11		-1.70		0.0028
FAL	0.093		45		-1.03		0.0005
IIVS	0.028		1		-1.55		0.0914
Cupric sulfate pentahydrate	70.6	21.6		85	1.85	<0.001	
ECBC	82.7		4		1.92		0.001
FAL	123		44		2.09		<0.001

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	5.7		31		0.76		<0.001
Cycloheximide	0.293	5.9		104	-0.53	0.021	
ECBC	0.125		45		-0.9		NA
FAL	0.647		70		-0.19		NA
IIVS	0.109		23		-0.96		NA
Dibutyl phthalate	78.3	9.2		124	1.89	<0.001	
ECBC	23.5		17		1.37		0.012
FAL	191		50		2.28		<0.001
IIVS	20.7		7		1.32		0.005
Dichlorvos	20.3	3.3		57	1.31	0.002	
ECBC	9.8		35		0.99		0.001
FAL	32.8		6		1.52		0.002
IIVS	18.3		11		1.26		0.823
Diethyl phthalate	113	1.7		28	2.05	0.127	
ECBC	85.5		34		1.93		0.092
FAL	147		26		2.17		0.07
IIVS	106		24		2.03		0.846
Digoxin	520	2.8		62	2.72	0.043	
ECBC	351		39		2.54		NA
FAL	892		36		2.95		NA
IIVS	317		21		2.5		NA
Dimethylformamide	5242	1.1		6	3.72	0.296	
ECBC	5343		10		3.73		NA
FAL	5483		9		3.74		NA
IIVS	4900		4		3.69		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Diquat dibromide monohydrate	15.1	9.3		120	1.18	0.017	
ECBC	3.9		23		0.59		NA
FAL	36.1		98		1.56		NA
IIVS	5.4		25		0.73		NA
Disulfoton	98.6	2.3		55	1.99	0.003	
ECBC	137		55		2.14		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	60.4		87		1.78		NA
Endosulfan	8.02	4.2		78	0.9	0.046	
ECBC	5.3		57		0.72		NA
FAL	15.2		78		1.18		NA
IIVS	3.6		42		0.56		NA
Epinephrine bitartrate	59.4	1.2		12	1.77	0.048	
ECBC	51.5		12		1.71		NA
FAL	63.4		11		1.8		NA
IIVS	63.4		3		1.8		NA
Ethanol	6731	1.6		23	3.83	0.075	
ECBC	5360		33		3.73		NA
FAL	8420		14		3.93		NA
IIVS	6413		5		3.81		NA
Ethylene glycol	25292	1.7		26	4.4	0.007	
ECBC	18325		9		4.26		0.004
FAL	31650		24		4.50		0.01
IIVS	25900		12		4.41		0.505
Fenpropathrin	27.2	2.5		49	1.43	0.301	

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	22.6		11		1.35		NA
FAL	42.4		63		1.63		NA
IIVS	16.7		12		1.22		NA
Gibberellic Acid	7842	1.0		3	3.89	0.621	
ECBC	8027		11		3.9		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	7657		10		3.88		NA
Glutethimide	192	2.3		43	2.28	<0.001	
ECBC	167		4		2.22		0.029
FAL	284.3		7		2.45		<0.001
IIVS	125.3		7		2.1		<0.001
Glycerol	28904	1.9		33	4.46	0.846	
ECBC	20000		15		4.3		NA
FAL	38878		73		4.59		NA
IIVS	27833		39		4.44		NA
Haloperidol	6.26	1.5		24	0.8	0.006	
ECBC	5.3		12		0.72		0.03
FAL	8		8		0.9		0.002
IIVS	5.5		12		0.74		0.061
Hexachlorophene	4.48	1.7		27	0.65	0.174	
ECBC	5		48		0.7		NA
FAL	5.3		33		0.72		NA
IIVS	3.1		9		0.49		NA
Lactic acid	3073	1.2		12	3.49	0.16	
ECBC	2943		11		3.47		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	3487		16		3.54		NA
IIVS	2790		9		3.45		NA
Lindane	161	2.9		58	2.21	0.066	
ECBC	125		95		2.1		NA
FAL	266		36		2.43		NA
IIVS	90.4		122		1.96		NA
Lithium carbonate	NA	NA		NA	NA	NA	NA
ECBC	564		12		2.75		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	NA		NA		NA		NA
Meprobamate	539	2.5		54	2.73	<0.001	
ECBC	353		14		2.55		NA
FAL	877		15		2.94		NA
IIVS	386		2		2.59		NA
Mercury chloride	4.32	1.7		33	0.64	0.021	
ECBC	3.5		5		0.54		NA
FAL	6		31		0.78		NA
IIVS	3.5		3		0.54		NA
Methanol	NA	NA		NA	NA	NA	NA
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	NA				NA		NA
IIVS	NA				NA		NA
Nicotine	378	1.7		25	2.58	0.128	
ECBC	272		24		2.43		NA
FAL	412		33		2.61		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	450		12		2.65		NA
Paraquat	23.3	1.2		8	1.37	1	
ECBC	21.3		34		1.33		NA
FAL	24.9		67		1.4		NA
IIVS	23.7		64		1.37		NA
Parathion	61.8	6.4		111	1.79	0.014	
ECBC	22.7		53		1.36		NA
FAL	141		70		2.15		NA
IIVS	22		22		1.34		NA
Phenobarbital	612	1.5		21	2.79	0.232	
ECBC	634		21		2.8		NA
FAL	726		35		2.86		NA
IIVS	476		23		2.68		NA
Phenol	70.9	2.1		41		0.011	
ECBC	50.2		22		1.7		NA
FAL	104		24		2.02		NA
IIVS	58.1		12		1.76		NA
Phenylthiourea	119	7.9		90	2.08	0.007	
ECBC	30.1		66		1.48		0.004
FAL	239		28		2.38		0.006
IIVS	89		25		1.95		0.718
Physostigmine	28.8	1.9		30	1.46	0.149	
ECBC	28.2		53		1.45		NA
FAL	37.8		5		1.58		NA
IIVS	20.4		33		1.31		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Potassium chloride	3635	1.1		7	3.56	0.846	
ECBC	3352		14		3.53		NA
FAL	3842		31		3.58		NA
IIVS	3710		11		3.57		NA
Potassium cyanide	64.3	10.4		127	1.81	<0.001	
ECBC	15.3		25		1.18		0.001
FAL	159		52		2.2		<0.001
IIVS	18.9		5		1.28		0.006
Procainamide HCl	443	1.2		11	2.65	0.007	
ECBC	400		4		2.6		0.008
FAL	431		1		2.63		0.396
IIVS	497		8		2.7		0.003
2-Propanol	3563	1.6		23	3.55	0.001	
ECBC	2610		9		3.42		<0.001
FAL	3970		4		3.6		0.004
IIVS	4110		4		3.61		0.002
Propranolol HCl	14.9	1.3		16	1.17	0.488	
ECBC	13.6		32		1.13		NA
FAL	13.5		51		1.13		NA
IIVS	17.6		21		1.25		NA
Propylparaben	29.9	3.0		64	1.48	0.001	
ECBC	20.9		16		1.32		0.045
FAL	51.8		29		1.71		<0.001
IIVS	17.1		12		1.23		0.003
Sodium arsenite	0.873	2.8		55	-0.06	0.028	

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	0.5		6		-0.3		NA
FAL	1.4		57		0.15		NA
IIVS	0.7		17		-0.15		NA
Sodium chloride	4764	1.1		3	3.68	0.759	
ECBC	4790		5		3.68		NA
FAL	4625		13		3.67		NA
IIVS	4877		9		3.69		NA
Sodium dichromate dihydrate	0.602	1.2		9	-0.22	0.822	
ECBC	0.603		14		-0.22		NA
FAL	0.657		37		-0.18		NA
IIVS	0.547		17		-0.26		NA
Sodium fluoride	79.8	1.6		22	1.9	0.016	
ECBC	61.3		9		1.79		NA
FAL	96.1		18		1.98		NA
IIVS	82		7		1.91		NA
Sodium hypochlorite	1211	2.5		57	3.08	0.04	
ECBC	823		13		2.92		NA
FAL	805		46		2.91		NA
IIVS	2005		44		3.3		NA
Sodium oxalate	40.8	1.6		23	1.61	0.643	
ECBC	42		41		1.62		NA
FAL	31		28		1.49		NA
IIVS	49.5		53		1.69		NA
Sodium selenate	34.5	4.3		60	1.54	<0.001	
ECBC	12.7		13		1.1		<0.001

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	54.2		19		1.73		<0.001
IIVS	36.5		14		1.56		0.026
Strychnine	199	4.7		83	2.3	<0.001	
ECBC	389		21		2.59		<0.001
FAL	124		16		2.09		0.018
IIVS	83.5		6		1.92		<0.001
Thallium Sulfate	7.5	4.9		72	0.88	0.165	
ECBC	2.8		24		0.45		NA
FAL	13.4		78		1.13		NA
IIVS	6.3		28		0.8		NA
Trichloroacetic acid	928	1.6		27	2.97	0.005	
ECBC	762		13		2.88		0.022
FAL	1220		6		3.09		0.002
IIVS	801		14		2.9		0.069
1,1,1-Trichloroethane	15538	2.2		52	4.19	<0.001	
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	21250		11		4.33		NA
IIVS	9827		2		3.99		NA
Triethylenemelamine	0.568	16.9		135	-0.25	<0.001	
ECBC	0.086		11		-1.07		<0.001
FAL	1.45		18		0.16		<0.001
IIVS	0.169		29		-0.77		0.002
Triphenyltin hydroxide	0.022	1.7		29	-1.66	0.688	
ECBC	0.026		17		-1.59		NA
FAL	0.026		81		-1.59		NA

Table 7-3 Interlaboratory Reproducibility of the IC_{50} Values from the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	0.015		55		-1.83		NA
Valproic acid	1177	3.3		76	3.07	<0.001	
ECBC	547		12		2.74		NA
FAL	1807		10		3.26		NA
IIVS	NA		NA		NA		NA
Verapamil HCl	35.2	1.2		10	1.55	0.23	
ECBC	32		18		1.51		NA
FAL	34.6		5		1.54		NA
IIVS	38.9		11		1.59		NA
Xylene	NA	NA		NA	NA	NA	NA
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	724		12		2.86		NA

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; NA=No acceptable IC_{50} results reported or calculation was not performed (e.g., for contrast results); CV=Coefficient of variation.

[1]Results reported on the same row with chemical names are the means of all the laboratories. Results reported on the same row as laboratories are the laboratory means.

[2]Maximum laboratory mean IC_{50} divided by minimum laboratory mean IC_{50}.

[3]$p < 0.01$ indicated statistical significance.

[4]Contrasts were performed if ANOVA was significant ($p < 0.01$) to determine which laboratory was different from the other two laboratories. Significant contrasts were denoted by $p < 0.01$. No contrast tests were performed if only two laboratories reported IC_{50} values.

Table 7-4 Reference Substances with Significant ANOVA Differences Among Laboratories for the 3T3 NRU Test Method

Reference Substance	Significant Contrast Results[1]			Insoluble/ Volatile[2]
	ECBC	FAL	IIVS	
Acetylsalicylic acid		H	L	
Arsenic trioxide		L	H	Precipitate
Busulfan		H		
Chloral hydrate	L	H		
Chloramphenicol	L	H		
Citric acid	L	H		
Colchicine	L	H		
Cupric sulfate pentahydrate	M	H	L	
Dibutyl phthalate		H	L	Precipitate
Dichlorvos	L	H		Precipitate
Ethylene glycol	L			
Glutethimide		H	L	
Haloperidol		H		
Meprobamate	L	H	M	
Phenylthiourea	L	H		
Potassium cyanide	L	H	M	Precipitate /Volatile
Procainamide HCl	L		H	
2-Propanol	L	M	H	Volatile
Propylparaben		H	L	
Sodium selenate	L	H		
Strychnine	H		L	Precipitate
Trichloroacetic acid		H		
Triethylenemelamine	L	H		

Abbreviations: ANOVA=Analysis of variance; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; H=Laboratory reported the highest mean IC_{50}; L=Laboratory reported the lowest mean IC_{50}; M=Laboratory reported a mean IC_{50} between the values of the other two laboratories; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

[1]Laboratories significantly different from the other two at $p < 0.01$.

[2]From **Table 5-11**. Precipitate reported by at least one laboratory is indicated by "Precipitate". Use of plate sealers by at least one laboratory to prevent volatile contamination of control wells indicated by "Volatility".

7.2.2.2 *Differences Among the IC_{50} Values in Laboratories Using the NHK NRU Test Method*
The ANOVA results in **Table 7-5** indicate that there were statistically significant ($p < 0.01$) laboratory differences for six of the 68 (9%) reference substances evaluated. These substances are listed in **Table 7-6** along with columns showing which laboratory's IC_{50} values were statistically significantly different from the other two (as indicated by the contrast results), and indications of insolubility or volatility during conduct of the assay. Insolubility was reported for three of the six substances, but none of the six substances were volatile.

For the six substances that yielded significantly different IC_{50} values among the laboratories, ECBC reported the highest IC_{50} value for four substances and the lowest for one, FAL reported the lowest values for three substances and the highest for two, and IIVS reported the highest IC_{50} value for one substance and the lowest for two.

7.2.3 CV Results for the 3T3 and NHK NRU Test Methods
CV values were calculated as described in Section **5.5.2.2**. **Tables 7-3** and **7-5** provide the intra- and inter-laboratory CV values for the individual reference substances. **Table 7-7** summarizes the CV values for each method and shows that median and mean values were often similar. Median CV values were frequently lower than the corresponding means, which indicated that large individual CV values skewed the CV distributions.

7.2.3.1 *Reproducibility of Intralaboratory CV Values*
Table 7-7 shows that the intralaboratory CV values and mean intralaboratory CV values were the same, 26%, for both NRU test methods. The median intralaboratory CV values were also similar: 23% and 24% for the 3T3 and the NHK NRU test method, respectively. Of the three laboratories, FAL had the highest mean and median CV values and IIVS had the lowest for both methods.

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Acetaminophen	526	1.3		13	2.72	0.181	
ECBC	558		15		2.75		NA
FAL	447		19		2.65		NA
IIVS	571		14		2.76		NA
Acetonitrile	10104	1.2		8	4	0.964	
ECBC	10868		72		4.04		NA
FAL	10153		19		4.01		NA
IIVS	9290		4		3.97		NA
Acetylsalicylic acid	613	1.4		15	2.79	0.060	
ECBC	631		3		2.8		NA
FAL	694		14		2.84		NA
IIVS	514		15		2.71		NA
5-Aminosalicylic acid	52.3	2.6		47	1.72	0.044	
ECBC	29.9		22		1.48		NA
FAL	78.2		54		1.89		NA
IIVS	48.8		16		1.69		NA
Aminopterin	682	1.6		27	2.83	0.025	
ECBC	889		20		2.95		NA
FAL	545		8		2.74		NA
IIVS	611		12		2.79		NA
Amitriptyline HCl	9.76	1.4		19	0.99	0.365	
ECBC	10.8		31		1.03		NA
FAL	7.57		72		0.88		NA
IIVS	10.9		10		1.04		NA
Arsenic trioxide	10.4	8.2		91	1.02	<0.001	

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	7.77		33		0.89		0.694
FAL	2.55		75		0.41		<0.001
IIVS	20.9		31		1.32		0.0006
Atropine sulfate	91.9	1.3		13	1.96	0.988	
ECBC	85.4		12		1.93		0.8903
FAL	104		85		2.02		0.9069
IIVS	83.2		25		1.92		0.9832
Boric acid	473	1.2		8	2.67	0.931	
ECBC	440		31		2.64		0.9692
FAL	517		73		2.71		0.7391
IIVS	464		2		2.67		0.768
Busulfan	278	1.2		11	2.44	0.659	
ECBC	253		27		2.4		NA
FAL	268		72		2.43		NA
IIVS	313		12		2.5		NA
Cadmium chloride	1.98	1.2		10	0.3	0.733	
ECBC	2.2		37		0.34		NA
FAL	1.88		65		0.27		NA
IIVS	1.86		8		0.27		NA
Caffeine	661	1.4		21	2.82	0.296	
ECBC	817		31		2.91		NA
FAL	591		32		2.77		NA
IIVS	574		1		2.76		NA
Carbamazepine	128	4.0		85	2.11	0.432	
ECBC	66.1		13		1.82		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	253		129		2.4		NA
IIVS	63.9		8		1.81		NA
Carbon tetrachloride	NA	NA		NA	NA	NA	
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	NA		NA		NA		NA
Chloral hydrate	137	1.4		17	2.14	0.302	
ECBC	140		24		2.15		NA
FAL	159		32		2.2		NA
IIVS	112		2		2.05		NA
Chloramphenicol	366	1.3		13	2.56	0.750	
ECBC	318		45		2.5		NA
FAL	414		44		2.62		NA
IIVS	367		22		2.56		NA
Citric acid	424	1.7		25	2.63	0.006	
ECBC	526		16		2.72		0.009
FAL	312		17		2.49		0.002
IIVS	433		5		2.64		0.483
Colchicine	0.007	1.6		22	-2.16	0.174	
ECBC	0.005		46		-2.28		NA
FAL	0.008		10		-2.12		NA
IIVS	0.008		21		-2.09		NA
Cupric sulfate pentahydrate	197	1.1		4	2.29	0.374	
ECBC	190		10		2.28		NA
FAL	195		6		2.29		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	207		3		2.32		NA
Cycloheximide	0.082	2.3		43	-1.09	0.302	
ECBC	0.053		22		-1.28		NA
FAL	0.12		78		-0.92		NA
IIVS	0.071		19		-1.15		NA
Dibutyl phthalate	32.6	2.2		41	1.51	0.408	
ECBC	28.3		27		1.45		NA
FAL	47.4		73		1.68		NA
IIVS	22		6		1.34		NA
Dichlorvos	11.1	1.4		20	1.05	0.181	
ECBC	8.56		27		0.93		NA
FAL	12.4		30		1.09		NA
IIVS	12.2		3		1.09		NA
Diethyl phthalate	145	2.6		44	2.16	0.049	
ECBC	174		8		2.24		NA
FAL	71.5		94		1.85		NA
IIVS	189		18		2.28		NA
Digoxin	0.00314	107.6		88	-2.5	<0.001	
ECBC	0.00538		13		-2.27		<0.001
FAL	0.00005		36		-4.29		<0.001
IIVS	0.00398		7		-2.4		<0.001
Dimethylformamide	7856	1.5		19	3.9	<0.001	
ECBC	9353		2		3.97		<0.001
FAL	7817		1		3.89		0.508
IIVS	6397		3		3.81		<0.001

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Diquat dibromide monohydrate	4.73	1.9		37	0.67	0.217	
ECBC	3.59		23		0.56		NA
FAL	6.77		55		0.83		NA
IIVS	3.84		8		0.58		NA
Disulfoton	378	5.8		99	2.58	<0.001	
ECBC	140		19		2.15		0.002
FAL	808		26		2.91		<0.001
IIVS	186		32		2.27		0.018
Endosulfan	2.35	2.4		43	0.37	0.029	
ECBC	3.44		17		0.54		NA
FAL	1.42		50		0.15		NA
IIVS	2.19		20		0.34		NA
Epinephrine bitartrate	90.6	1.5		24	1.96	0.119	
ECBC	115		9		2.06		NA
FAL	81.7		35		1.91		NA
IIVS	75		16		1.88		NA
Ethanol	10184	1.4		18	4.01	0.035	
ECBC	8290		5		3.92		NA
FAL	12013		19		4.08		NA
IIVS	10250		9		4.01		NA
Ethylene glycol	42600	1.3		15	4.63	0.063	
ECBC	38000		12		4.58		NA
FAL	49800		9		4.7		NA
IIVS	40000		13		4.6		NA
Fenpropathrin	2.6	2.0		39	0.41	0.031	

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	3.73		27		0.57		NA
FAL	2.23		28		0.35		NA
IIVS	1.82		17		0.26		NA
Gibberellic Acid	2866	1.0		2	3.46	0.862	
ECBC	2850		14		3.45		NA
FAL	2940		9		3.47		NA
IIVS	2807		4		3.45		NA
Glutethimide	177	1.1		5	2.25	0.968	
ECBC	187		34		2.27		NA
FAL	170		14		2.23		NA
IIVS	176		16		2.24		NA
Glycerol	27108	1.9		31	4.43	0.200	
ECBC	34267		45		4.53		NA
FAL	18023		46		4.26		NA
IIVS	29033		16		4.46		NA
Haloperidol	3.57	1.1		7	0.55	0.935	
ECBC	3.69		27		0.57		NA
FAL	3.72		49		0.57		NA
IIVS	3.29		35		0.52		NA
Hexachlorophene	0.031	2.2		41	-1.5	0.097	
ECBC	0.027		16		-1.57		NA
FAL	0.046		44		-1.34		NA
IIVS	0.021		11		-1.67		NA
Lactic acid	1308	1.0		1	3.12	0.904	
ECBC	1290		4		3.11		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	1320		5		3.12		NA
IIVS	1313		11		3.12		NA
Lindane	19.3	1.5		20	1.29	0.203	
ECBC	19.1		17		1.28		NA
FAL	23.2		31		1.37		NA
IIVS	15.6		15		1.19		NA
Lithium carbonate	477	1.3		13	2.68	0.295	
ECBC	411		29		2.61		NA
FAL	486		20		2.69		NA
IIVS	535		6		2.73		NA
Meprobamate	516	4.7		61	2.71	0.027	
ECBC	761		15		2.88		NA
FAL	163		116		2.21		NA
IIVS	624		14		2.8		NA
Mercury chloride	5.87	1.3		15	0.77	0.120	
ECBC	6.87		15		0.84		NA
FAL	5.4		19		0.73		NA
IIVS	5.35		2		0.73		NA
Methanol	1616	1.9		42	3.21	0.007	
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	1133		19		3.05		NA
IIVS	2100		11		3.32		NA
Nicotine	113	1.4		17	2.05	0.700	
ECBC	94.3		26		1.97		NA
FAL	134		59		2.13		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	112		25		2.05		NA
Paraquat	66.1	2.0		40	1.82	0.047	
ECBC	48.3		13		1.68		NA
FAL	96.6		39		1.98		NA
IIVS	53.4		10		1.73		NA
Parathion	31.4	1.2		8	1.5	0.845	
ECBC	34		30		1.53		NA
FAL	31.2		38		1.49		NA
IIVS	29		29		1.46		NA
Phenobarbital	478	1.9		39	2.68	0.027	
ECBC	693		26		2.84		NA
FAL	360		27		2.56		NA
IIVS	381		18		2.58		NA
Phenol	77.7	1.6		22	1.89	0.094	
ECBC	59.1		36		1.77		NA
FAL	93.2		6		1.97		NA
IIVS	80.8		6		1.91		NA
Phenylthiourea	346	1.5		19	2.54	0.133	
ECBC	363		16		2.56		NA
FAL	401		21		2.6		NA
IIVS	272		26		2.44		NA
Physostigmine	172	1.5		22	2.24	0.623	
ECBC	164		3		2.21		NA
FAL	213		112		2.33		NA
IIVS	139		6		2.14		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
Potassium chloride	2279	1.3		13	3.36	0.396	
ECBC	2560		17		3.41		NA
FAL	2287		28		3.36		NA
IIVS	1990		8		3.3		NA
Potassium cyanide	45.1	5.3		86	1.65	0.340	
ECBC	29.3		24		1.47		NA
FAL	89		112		1.95		NA
IIVS	16.9		13		1.23		NA
Procainamide HCl	1764	1.4		16	3.25	0.053	
ECBC	1480		14		3.17		NA
FAL	1787		12		3.25		NA
IIVS	2027		11		3.31		NA
2-Propanol	5541	1.7		26	3.74	0.033	
ECBC	5263		11		3.72		NA
FAL	4273		27		3.63		NA
IIVS	7087		7		3.85		NA
Propranolol HCl	36.9	1.5		21	1.57	0.003	
ECBC	38.27		12		1.58		0.325
FAL	43.8		6		1.64		0.006
IIVS	28.6		11		1.46		0.001
Propylparaben	16.8	1.3		16	1.23	0.066	
ECBC	18.1		13		1.26		NA
FAL	18.6		15		1.27		NA
IIVS	13.8		9		1.14		NA
Sodium arsenite	0.532	2.4		44	-0.27	0.061	

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
ECBC	0.79		32		-0.1		NA
FAL	0.336		56		-0.47		NA
IIVS	0.47		14		-0.33		NA
Sodium chloride	2724	3.2		51	3.44	0.045	
ECBC	3583		7		3.55		NA
FAL	1118		124		3.05		NA
IIVS	3470		9		3.54		NA
Sodium dichromate dihydrate	0.737	1.5		19	-0.13	0.258	
ECBC	0.784		14		-0.11		NA
FAL	0.851		36		-0.07		NA
IIVS	0.576		17		-0.24		NA
Sodium fluoride	47.4	1.4		15	1.68	0.313	
ECBC	48.7		14		1.69		NA
FAL	39.7		24		1.6		NA
IIVS	53.7		13		1.73		NA
Sodium hypochlorite	1580	1.5		20	3.2	0.313	
ECBC	1863		31		3.27		NA
FAL	1243		46		3.09		NA
IIVS	1633		11		3.21		NA
Sodium oxalate	355	1.0		1	2.55	0.926	
ECBC	355		15		2.55		NA
FAL	350		42		2.54		NA
IIVS	360		26		2.56		NA
Sodium selenate	11.2	2.2		40	1.05	0.134	
ECBC	7.47		12		0.87		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
FAL	16.1		59		1.21		NA
IIVS	10		13		1		NA
Strychnine	69.3	1.9		39	1.84	0.364	
ECBC	100		76		2		NA
FAL	52.5		53		1.72		NA
IIVS	55.1		6		1.74		NA
Thallium Sulfate	0.16	1.6		23	-0.8	0.405	
ECBC	0.198		51		-0.7		NA
FAL	0.153		20		-0.82		NA
IIVS	0.127		16		-0.9		NA
Trichloroacetic acid	427	1.6		24	2.63	0.134	
ECBC	348		18		2.54		NA
FAL	541		28		2.73		NA
IIVS	394		13		2.6		NA
1,1,1-Trichloroethane	NA	NA		NA	NA	NA	
ECBC	8137		7		3.91		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	NA		NA		NA		NA
Triethylenemelamine	1.95	1.3		12	0.29	0.562	
ECBC	1.69		57		0.23		NA
FAL	2.03		23		0.31		NA
IIVS	2.13		23		0.33		NA
Triphenyltin hydroxide	0.013	3.0		55	-1.89	0.088	
ECBC	0.021		32		-1.68		NA
FAL	0.007		106		-2.15		NA

Table 7-5 Reproducibility of the IC_{50} Values from the NHK NRU Test Method

Reference Substance/Laboratory	Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	Maximum: Minimum Mean IC_{50} Ratio[2]	Arithmetic IntraLab %CV	Arithmetic InterLab %CV	Log Arithmetic Mean IC_{50} (mg/mL)[1]	ANOVA P[3]	Contrast P[4]
IIVS	0.011		32		-1.96		NA
Valproic acid	533	1.6		28	2.73	0.081	
ECBC	468		25		2.67		0.331
FAL	702		23		2.85		0.032
IIVS	430		17		2.63		0.135
Verapamil HCl	68.7	1.3		14	1.84	0.624	
ECBC	60.5		22		1.78		NA
FAL	79.4		42		1.9		NA
IIVS	66.2		8		1.82		NA
Xylene	NA	NA		NA	NA	NA	
ECBC	NA		NA		NA		NA
FAL	NA		NA		NA		NA
IIVS	486		38		2.69		NA

Abbreviations: NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; NA=No acceptable IC_{50} results reported or calculation was not performed (e.g., for contrast results); CV=Coefficient of variation.

[1]Results reported on the same row with chemical names are the means of all the laboratories. Results reported on the same row as laboratories are the laboratory means.

[2]Maximum laboratory mean IC_{50} divided by minimum laboratory mean IC_{50}.

[3]$p < 0.01$ indicated statistical significance.

[4]Contrasts were performed if ANOVA was significant ($p < 0.01$) to determine which laboratory was different from the other two laboratories. Significant contrasts were denoted by $p < 0.01$. No contrast tests were performed if only two laboratories reported IC_{50} values.

Table 7-6 Reference Substances with Significant ANOVA Differences Among Laboratories for the NHK NRU Test Method

Reference Substance	Significant Contrast Results[1]			Solubility/ Volatility[2]
	ECBC	FAL	IIVS	
Arsenic trioxide		L	H	Precipitate
Citric acid	H	L		Precipitate
Digoxin	H	L		
Dimethylformamide	H		L	
Disulfoton	L	H		Precipitate
Propranolol HCl		H	L	

Abbreviations: ANOVA=Analysis of variance; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; H=Laboratory reported the highest mean IC_{50}; L=Laboratory reported the lowest mean IC_{50}; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
[1]Laboratories significantly different from the other two at $p < 0.01$
[2]From **Table 5-11**. Precipitate reported by at least one laboratory.

7.2.3.2 *Reproducibility of Interlaboratory CV Values*

The mean and median interlaboratory CV for the reference substances were lower in the NHK NRU test method (mean=28%; median=21% vs. mean=47%; median=37% for 3T3 (see **Table 7-7**).

Table 7-7 Summary of CV Results for the 3T3 and NHK NRU Test Methods

CV	3T3 NRU Test Method				NHK NRU Test Method			
	N	Mean	Median	Range	N	Mean	Median	Range
Intralaboratory CV	198	26%	23%	1-122%	204	26%	24%	1-129%
ECBC	64	23%	17%	2-95%	68	23%	20%	2-76%
FAL	64	33%	31%	1-98%	68	43%	34%	1-129%
IIVS	64	21%	14%	1-122%	68	13%	13%	1-35%
Interlaboratory CV	64	47%	37%	3-135%	68	28%	21%	1-91%

Abbreviations: CV=Coefficient of variation; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; N=number of values; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
Note: For the 3T3 method, the following substances were excluded because all laboratories did not obtain sufficient IC_{50} data: carbon tetrachloride; disulfoton; gibberellic acid; lithium carbonate; methanol; 1,1,1-trichloroethane; valproic acid; and xylene. For the NHK method, the following substances were excluded because all laboratories did not obtain sufficient IC_{50} data: carbon tetrachloride; methanol; 1,1,1-trichloroethane; and xylene.

7.2.3.3 *Variation of CV with Chemical Property*

To identify chemical characteristics that may be associated with high or low CV values, their associations were assessed for chemical class along with the following chemical attributes: physical state (i.e., solid or liquid), solubility, volatility, molecular weight, log K_{ow}, IC_{50}, and boiling point. The CVs were also examined with respect to their association with the GHS acute oral toxicity class (UN 2005). For categorical characteristics such as physical form, solubility (i.e., precipitate/no precipitate), volatile/not volatile, and chemical class, the mean

CV values and ranges for the groups were compared to one another and to the overall mean CV and CV range for each method. No statistical analyses were performed for these comparisons. Spearman correlation analyses were performed for chemical characteristics measured by continuous variables, such as molecular weight, log K_{ow}, and IC_{50}, and boiling point.

7.2.3.4 *Results of Intralaboratory CV Analysis*

The intralaboratory CV analysis (see **Table 7-8**) uses one mean intralaboratory CV for each reference substance that was calculated from the intralaboratory CV values from each laboratory. There seemed to be little difference in CV values among the categorical physical/chemical/toxicological attributes. The mean intralaboratory CV values for solids and liquids were similar (26 vs. 23% for 3T3; 27 vs. 24% for NHK). The mean intralaboratory CV values for reference substances for which precipitates were observed were similar to values for substances with no precipitates were observed (32 vs. 23% for 3T3; 24 vs. 27% for NHK). The mean intralaboratory CV values for substances that exhibited volatility were similar to those that did not (31 vs. 25% for 3T3; 27 vs. 26% for NHK). Similarly, the substances grouped by GHS acute oral toxicity category (UN 2005) had mean intralaboratory CV values that were similar (20-33% for 3T3; 19-31% for NHK) to the overall mean CV values (26% for both test methods). However, the mean intralaboratory CV values for both NRU test methods tended to increase with decreasing LD_{50}.

Mean intralaboratory CV values were calculated for the chemical classes that contained at least three of the reference substances included in the reproducibility analyses (i.e., 64 substances for 3T3 and 68 substances for NHK). Reference substances in the amide chemical class had unusually low mean intralaboratory CV values for both the 3T3 (13%) and the NHK (10%) NRU test method compared with the overall mean CV (26% for both test methods), but there were only three substances in this chemical class (acetaminophen, dimethylformamide, procainamide HCl). Organic sulfur compounds had a high mean intralaboratory CV for the 3T3 test method (46%), but not for the NHK NRU test method (29%) compared with the overall mean intralaboratory CV for both test methods (26%). The intralaboratory CV values for the remaining chemical classes were unremarkable compared with the overall mean intralaboratory CV values.

For the characteristics amenable to correlation analysis, none of the Spearman correlation coefficients were large (absolute value of $r_s < 0.6$), but several were statistically significantly different from zero ($p < 0.05$). Molecular weight ($p=0.016$), IC_{50} ($p=0.002$), and boiling point ($p=0.009$) exhibited statistically significant correlations to intralaboratory CV for the 3T3 test NRU method. The higher molecular weight substances had higher intralaboratory CV values and the substances with lower IC_{50} values had higher intralaboratory CV values. The finding that substances with higher boiling points had higher CV values was consistent with the categorical analysis of volatility. The substances that exhibited volatile characteristics (i.e., cross contamination of VC wells) in the 3T3 NRU test method had slightly higher mean intralaboratory CV values (31%) than the substances that did not exhibit volatile characteristics (25%).

Table 7-8 Intralaboratory CV Values by Chemical Characteristics for the 3T3 and NHK NRU Test Methods

Class/Attribute	3T3 NRU Test Method			NHK NRU Test Method		
	N[1]	Range	Mean	N[1]	Range	Mean
All chemicals	64	1-122%	26%	68	1-129%	26%
Chemical form						
Solid	51	4-84	26	53	6-57	27
Liquid	13	6-48	23	15	2-40	24
Solubility						
Precipitate[2]	18	11-84	32	19	2-47	24
No precipitate	46	4-55	23	49	7-57	27
Volatility[3]						
Volatile	10	6-84	31	9	11-50	27
Nonvolatile	54	4-55	25	59[2]	2-57	26
Chemical Class						
Alcohol	9	6-42	22	9	10-37	22
Amide	3	4-28	13	3	2-16	10
Amine	3	9-35	18	3	10-24	18
Carboxylic acid	13	4-41	18	14	2-48	23
Heterocyclic	14	6-59	31	14	13-50	32
Organophosphorous	2	NA	NA	3	20-32	26
Organic sulfur	4	36-59	46	5	21-27	29
Phenol	5	14-30	20	5	11-31	19
Polycyclic	4	19-35	27	5	9-38	20
Inorganic	14	9-43	25	15	6-50	29
Inorganic chlorine	5	9-33	19	5	12-50	32
Inorganic sodium	6	9-34	20	6	17-47	30
GHS Acute Oral Toxicity Class						
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	9-46	27	7	20-40	30
$5 < LD_{50} \leq 50$	12	13-59	32	12	12-50	31
$50 < LD_{50} \leq 300$	12	11-84	33	12	17-37	25
$300 < LD_{50} \leq 2000$	14	4-51	22	16	6-57	25
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	9	9-32	20	9	7-50	30
$LD_{50} > 5000$	11	6-42	20	12	2-40	19
Correlations	**N**	**r_s**	**P value**	**N**	**r_s**	**P value**
Molecular weight	64	0.301	0.016	68	0.181	0.140
Log K_{ow}	45[4]	0.121	0.430	48[4]	0.310	0.032
IC_{50}	64	-0.382	0.002	68	-0.346	0.004
Boiling point	24[5]	0.520	0.009	24[5]	0.226	0.289

Abbreviations: CV=Coefficient of variation; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NA=Not applicable because class had less than three observations; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; N=Number of values; r_s=Spearman correlation coefficient; K_{ow}=Octanol:water partition coefficient.

[1]One intralaboratory CV for each chemical was calculated by averaging the CV values for each reference substance.

[2]Identified by laboratory reports of precipitate in the stock reference substance solutions or in cell culture (see **Table 5-11**).

[3]Identified by laboratory reports of using plate sealers to avoid contamination of the VC wells (see **Table 5-11**).

[4]Number of reference substances with CV values and log K_{ow} data.

[5]Number of reference substances with CV values and boiling point data.

Among the IC_{50} values obtained using the NHK NRU test method, two of the characteristics amenable to correlation analysis were statistically significantly different from zero, although the correlation coefficients did not have large magnitudes (absolute value of r_s <0.4). The log

K_{ow} (p=0.032) and IC_{50} (p=0.004) exhibited statistically significant correlations ($p < 0.05$) to the intralaboratory CV. Log K_{ow} was positively correlated (i.e., higher log K_{ow} values were associated with higher mean intralaboratory CV), but the IC_{50} was negatively correlated (i.e., higher log IC_{50} values were associated with lower mean intralaboratory CV) to mean intralaboratory CV.

7.2.3.5 *Results of the Interlaboratory CV Analysis*

Table 7-9 shows the analysis of the interlaboratory CV values. There seemed to be little difference in interlaboratory CV values for most of the categorical physical/chemical characteristics. The mean interlaboratory CV values for solids and liquids were similar (48% for solids vs. 42% for liquids for 3T3, and 28% for solids vs. 21% for liquids for NHK), as were the values for substances for which precipitates were observed versus no precipitates (58% vs. 43% for 3T3, and 24% vs. 28% for NHK), and the values for substances that exhibited volatile characteristics (51% for volatile substances vs. 46% for nonvolatile substances for 3T3, and 32% for volatile substances vs. 26% for nonvolatile substances for NHK).

Mean interlaboratory CV values were calculated for the chemical classes that contained at least three of the reference substances included in the reproducibility analyses (i.e., 64 substances for 3T3 and 68 substances for NHK). Reference substances in the amide chemical class had low mean interlaboratory CV values for both the 3T3 (15%) and the NHK (16%) NRU test methods compared with the overall mean interlaboratory CV (47% and 28%, respectively). Substances in the amine class also had low mean interlaboratory CV values for the 3T3 NRU (13%), but not for the NHK NRU (20%). Organic sulfur compounds had unusually high mean interlaboratory CV values for the 3T3 test method (100%), but not for the NHK NRU (36%) compared with the overall mean interlaboratory CV (47% and 28%, respectively). Because of the low number of reference substances in these classes, these results were deemed to not be significant.

Mean interlaboratory CV values tended to be large for chemicals in the most toxic GHS acute oral toxicity categories, especially with the 3T3 NRU test method. The mean interlaboratory CV for reference substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg (72%) and $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (78%) classes were larger than the mean overall interlaboratory CV (47%,). For the NHK NRU test method, the mean interlaboratory CV for chemicals in the $5 < LD_{50} \leq 5$ mg/kg (37%) and $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (41%) classes were larger than the mean overall interlaboratory CV (28%).

For the characteristics amenable to correlation analysis, none of the correlation coefficients were large (absolute value of $r_s < 0.6$), but IC_{50} (p=0.015) and boiling point (p=0.007) exhibited statistically significant correlations ($p < 0.05$) to interlaboratory CV in the 3T3 test NRU method. There was a negative correlation between interlaboratory CV and IC_{50}, but the correlation between boiling point and interlaboratory CV was positive. The positive correlation of CV with boiling point was largely consistent with the categorical analysis of volatility. The substances that exhibited volatile characteristics in the 3T3 NRU test method had slightly higher mean CV values than substances that did not exhibit volatile characteristics (51% vs. 46%). Only the IC_{50} was significantly correlated (p=0.014) to

interlaboratory CV with a negative correlation (r_s=-0.271) when the NHK NRU test method was used.

Table 7-9 Interlaboratory 3T3 and NHK NRU Test Method CV Values Sorted by Chemical Characteristics

Class/Attribute	3T3 NRU Test Method			NHK NRU Test Method		
	N	Range	Mean	N	Range	Mean
All chemicals	64[1]	3-135%	47%	68[1]	1-91%	28%
Chemical Form						
Solids	51	3-135	48	53	1-91	28
Liquids	13	6-124	42	15	1-44	21
Solubility						
Precipitate[2]	18	7-127	58	19	1-91	24
No precipitate	46	3-135	43	49	1-88	28
Volatility						
Volatile[3]	10	21-127	51	9	8-86	32
Nonvolatile	54	3-135	46	59	1-91	26
Chemical Class						
Alcohol	9	12-119	38	9	11-31	20
Amide	3	6-28	15	3	13-19	16
Amine	3	10-16	13	3	14-24	20
Carboxylic acid	13	6-124	38	14	1-61	26
Heterocyclic	14	8-135	57	14	5-85	32
Organic sulfur	4	78-119	100	5	8-99	36
Organophosphorous	2	NA	NA	3	8-99	42
Phenol	5	19-64	41	5	15-47	28
Polycyclic	4	14-85	44	5	2-88	30
Inorganic	14	3-127	50	15	4-91	30
Inorganic chlorine	5	3-127	45	5	10-86	35
Inorganic sodium	6	3-60	34	6	15-51	32
GHS Acute Oral Toxicity Class						
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	12-135	72	7	12-99	37
$5 < LD_{50} \leq 50$	12	33-127	78	12	8-91	41
$50 < LD_{50} \leq 300$	12	8-120	37	12	10-41	26
$300 < LD_{50} \leq 2000$	14	11-85	35	16	1-61	20
$2000 < LD_{50} \leq 5000$	9	3-69	29	9	1-85	27
$LD_{50} > 5000$	11	6-124	41	12	2-44	23
Correlations	**N**	**r_s**	**P value**	**N**	**r_s**	**P value**
Molecular weight	64	0.245	0.051	68	0.169	0.168
Log K_{ow}	45[4]	0.151	0.324	48[4]	0.210	0.151
IC_{50}	64	-0.304	0.015	68	-0.297	0.014
Boiling point	22[5]	0.563	0.007	25[5]	-0.051	0.809

Abbreviations: CV=Coefficient of variation; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NA=Not applicable because class had less than three observations; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; N=Number of values; r_s=Spearman correlation coefficient; K_{ow}=Octanol:water partition coefficient.

[1]One intralaboratory CV for each chemical was calculated by averaging the CV values for each reference substance.

[2]Identified by laboratory reports of precipitate in the stock reference substance solutions or in cell culture (see **Table 5-11**).

[3]Identified by laboratory reports of using plate sealers to avoid contamination of the VC wells (see **Table 5-11**).

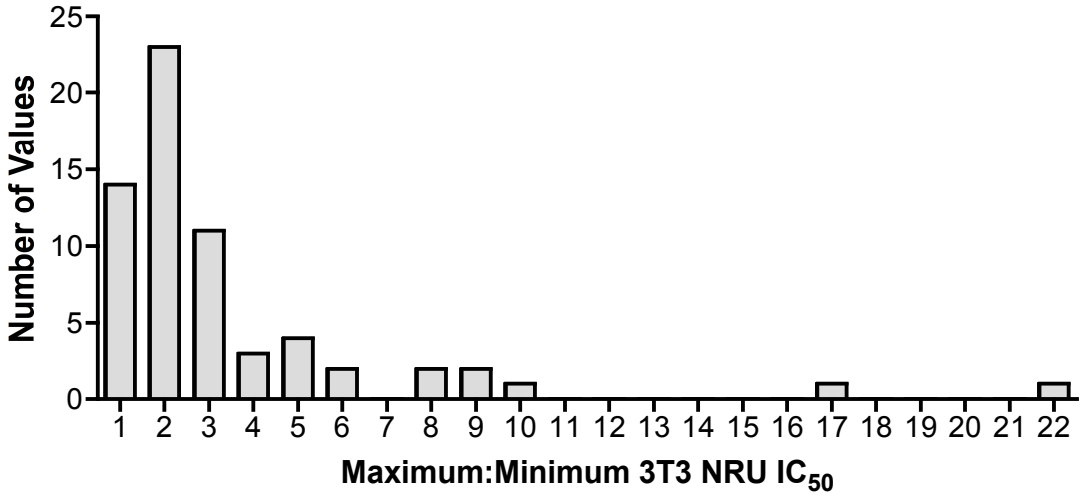
[4]Number of reference substances with CV values and log K_{ow} data.

[5]Number of reference substances with CV values and boiling point data.

7.2.4 Comparison of Maximum to Minimum IC_{50} Values Using Laboratory Means

Interlaboratory reproducibility was also compared by calculating maximum to minimum mean IC_{50} values using the laboratory means from each method, so that the reproducibility of the IC_{50} values could be compared with the reproducibility of the reference LD_{50} values derived in **Section 4.2**. The **Figure 7-2** frequency histogram for the 3T3 NRU test method maximum:minimum mean IC_{50} values shows that approximately half (37) of the 64 reference substances produced ratios less than 2.5-fold of each other, and only nine chemicals had ratios greater than 5.5-fold, including one substance (cupric sulfate pentahydrate) that had a ratio of 22.

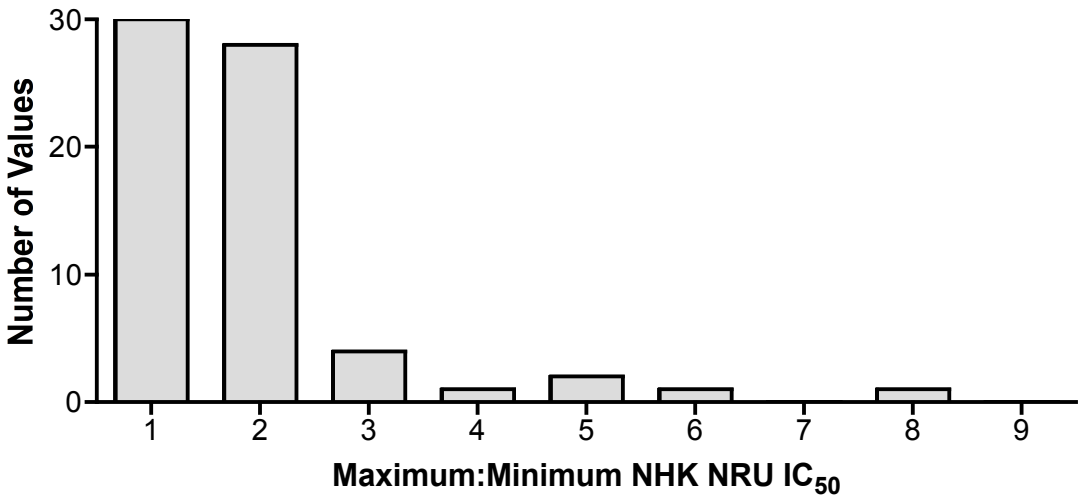
Figure 7-2 Frequency of Maximum:Minimum 3T3 NRU IC_{50} Ratios



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake.
Bars show the number of substances with maximum:minimum 3T3 NRU IC_{50} ratios within ±0.5 units of the bar label (e.g., the first bar indicates that there were 14 reference substances for which the laboratory mean maximum:minimum 3T3 NRU IC_{50} ratios were 0.5 to1.4). The analysis includes 64 reference substances. Carbon tetrachloride, disulfoton, gibberellic acid, lithium carbonate, methanol, 1,1,1-trichloroethane, valproic acid, and xylene were excluded because not all laboratories obtained IC_{50} values.

The **Figure 7-3** frequency histogram for the maximum:minimum mean IC_{50} values for the NHK NRU test method shows that ratios of 58 of the 68 chemicals were less than 2.5-fold of one another. The highest ratio of 108 for digoxin is not shown in the figure. Comparison of **Figures 7-2** and **7-3** shows that the interlaboratory reproducibility of the NHK NRU test method was better than that for the 3T3 NRU test method based on the distribution of the low maximum:minimum IC_{50} ratios.

Figure 7-3 Frequency of Maximum:Minimum NHK NRU IC_{50} Ratios



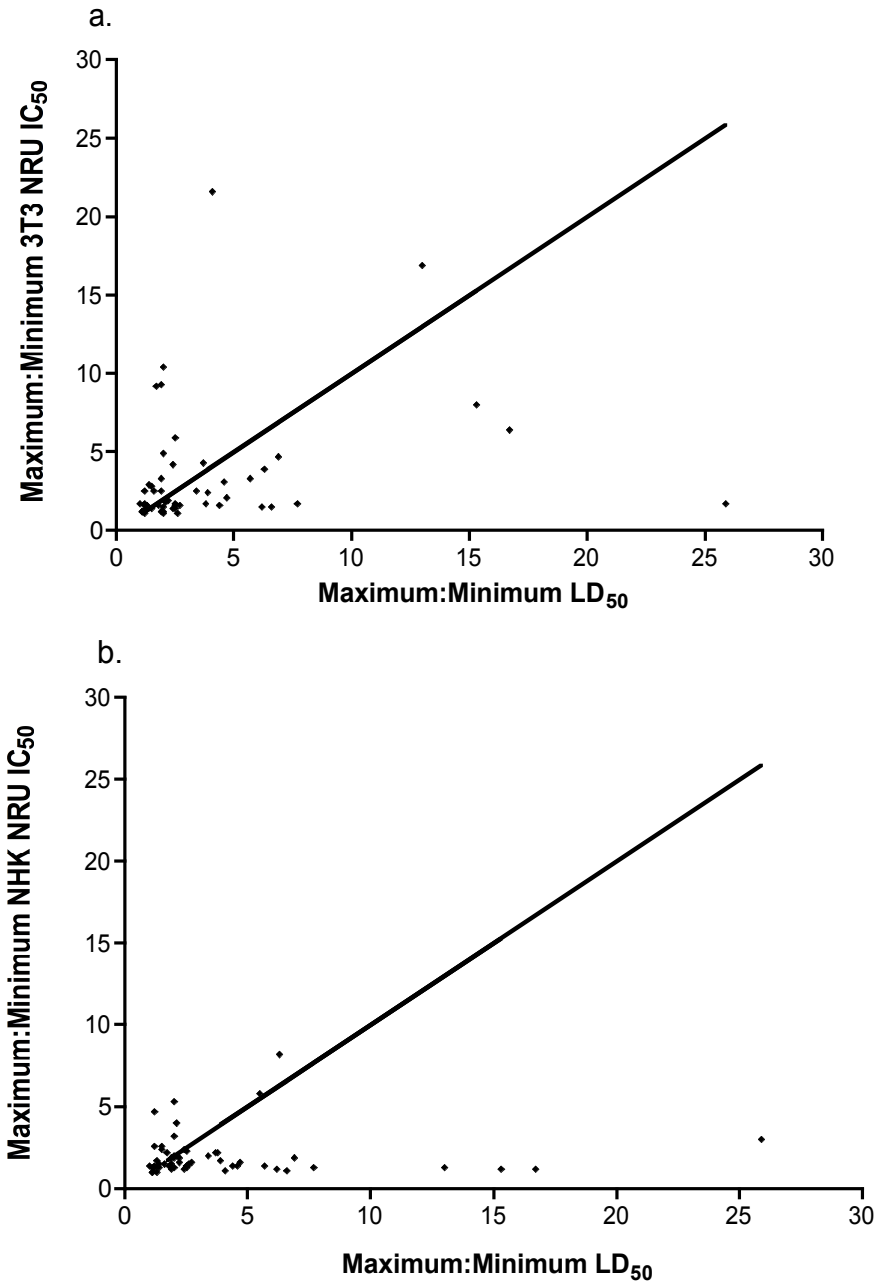
Abbreviations: NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.
Bars show the number of substances with maximum:minimum NHK NRU IC_{50} ratios within ±0.5 units of the bar label (e.g., the first bar indicates that there were 30 reference substances for which the laboratory mean maximim:minimum NHK NRU IC_{50} ratios were 0.5 to 1.4). The analysis includes 68 reference substances. Carbon tetrachloride, methanol, 1,1,1-trichloroethane, and xylene were excluded because not all laboratories obtained IC_{50} values. The maximum:minimum IC_{50} for digoxin of 108 was excluded from this figure.

7.2.5 Comparison of the Maximum:Minimum IC_{50} Ratios with the Maximum:Minimum LD_{50} Ratios

To compare the reproducibility of the NRU IC_{50} values with that of the LD_{50} values, the maximum:minimum IC_{50} ratios for each method (shown in **Tables 7-3** and **7-5**) were compared with the maximum:minimum LD_{50} ratios reported in **Table 4-2**. This analysis excluded reference substances for which fewer than three laboratories reported IC_{50} values, and reference substances for which fewer than two acceptable acute oral LD_{50} values were identified. As a result, there were 53 substances analysed for the 3T3 NRU test method and 57 for the NHK NRU test method. The following substances were excluded from both analyses because fewer than two acceptable LD_{50} values could be identified: aminopterin; colchicine; digoxin; epinephrine bitartrate; gluthethimide; phenylthiourea; physostigmine; procainamide HCl, propranolol HCl; propylparaben; and thallium sulfate. Carbon tetrachloride, disulfoton, gibberellic acid, lithium carbonate, methanol, 1,1,1-trichloroethane, valproic acid, and xylene, were excluded from the 3T3 analysis, and carbon tetrachloride, methanol, 1,1,1-trichloroethane, and xylene, were excluded from the NHK analysis, because fewer than three laboratories reported IC_{50} values.

Figure 7-4 shows that the maximum:minimum LD_{50} ratios tend to be larger than either the 3T3 NRU IC_{50} or NHK NRU IC_{50} ratios because there are more points below the theoretical one-to-one correspondence line than above the line. The difference between the LD_{50} maximum:minimum values and the NRU IC_{50} maximum:minimum values is more striking for the NHK since there are fewer points above the line for the NHK graph (**Figure 7-4b**) than for the 3T3 graph (**Figure 7-4a**).

Figure 7-4 Comparison of Maximum:Minimum NRU IC_{50} Ratios to Maximum:Minimum LD_{50} Ratios



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; NHK=Normal human epidermal keratinocytes. Comparison of maximum:minimum ratios of IC_{50} and LD_{50} for 53 reference substances for the 3T3 NRU test method (a) and 57 reference substances for the NHK NRU test method (b). Solid lines show the theoretical one to one correspondence of maximum:minimum IC_{50} to maximum:minimum LD_{50}.

7.2.6 Normalization of Reference Substance IC_{50} Values Using SLS IC_{50} Values

As an alternate analysis for reproducibility, IC_{50} values for reference substances were normalized to those of the corresponding SLS IC_{50}values. This approach was tested using five reference substances for each test method to determine whether such normalization would reduce the variability, measured using CV values, of the results. The reference substances selected for this evaluation were those for which the ANOVA indicated statistically significant differences among the laboratories. Because there were a number of reference substances that met this criterion for the 3T3 NRU test method, the substances were selected so as to cover a wide range of rodent acute oral toxicity. One reference substance was selected from each GHS category with the exception of the $50 \leq LD_{50} < 300$ mg/kg category. There was no substance represented by this category because there were six acute oral toxicity categories and only five substances were used for this assessment. The reference substances, shown in **Table 7-10**, were busulfan, chloramphenicol, meprobamate, propylparaben, and triethylenemelamine. Because there were only six reference substances with significant ANOVAs in the NHK NRU test method, the last five reference substances in **Table 7-5** (citric acid, digoxin, dimethylformamide, disulfoton, and propranolol HCl) were selected for this analysis.

Millimolar units were used for the IC_{50} values in this analysis since the mole is the most appropriate unit for measuring and comparing biological activity. The IC_{50} value (in mM) for each reference substance was normalized to the corresponding SLS IC_{50} value (in mM) by dividing the SLS IC_{50} by the reference substance IC_{50}. Intra- and inter-laboratory CV values were calculated for both the IC_{50} values and for the SLS IC_{50}:reference substance IC_{50} ratios to determine whether this type of normalization would reduce the interlaboratory CV values.

Table 7-10 shows that the mean intralaboratory CV of the IC_{50} values for the five substances used in the 3T3 evaluation was 22% and the interlaboratory CV was 88%. Normalizing the reference substance IC_{50} values to the SLS IC_{50} yielded a slightly higher intralaboratory CV of 25% and a lower interlaboratory CV of 65%. The mean intralaboratory CV of the IC_{50} values for the five substances used in the NHK evaluation was 14% and the interlaboratory CV was 50%. Normalizing the reference substance IC_{50} values to the SLS IC_{50} yielded a slightly higher intralaboratory CV of 16% and a higher interlaboratory CV of 61%. When the normalization ratios are examined for each chemical-by-laboratory combination (**Table 7-10**), nine CVs increased, five decreased, and one remained the same for the 3T3 NRU test method, and eight increased, six decreased, and one remained the same for the NHK NRU test method. Thus, for the reference substances used in this analysis, normalizing the reference substance IC_{50} to the concurrent SLS IC_{50} did not reduce the overall variability of the measurements, as measured by the CV values.

Table 7-10 CV Values for 3T3 and NHK NRU Test Method IC_{50} Values and Normalized IC_{50} Values

Reference Substance	IC_{50} (mM)[1]	IntraLab CV[2] (%)	InterLab CV[3] (%)	SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[4]	IntraLab CV SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[5] (%)	InterLab CV SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[6] (%)
3T3 NRU Test Method						
Busulfan	0.548		119	0.677		74
ECBC	0.163	48		1.05	70	
FAL	1.30	56		0.109	53	
IIVS	0.177	4		0.877	9	
Chloramphenicol	0.498		67	0.725		29
ECBC	0.171	22		0.847	30	
FAL	0.845	30		0.844	22	
IIVS	0.483	18		0.483	21	
Meprobamate	2.47		54	0.071		39
ECBC	1.62	14		0.085	23	
FAL	4.02	15		0.039	29	
IIVS	1.77	2		0.088	3	
Propylparaben	0.166		64	1.16		49
ECBC	0.116	16		1.29	20	
FAL	0.287	29		0.535	22	
IIVS	0.0949	12		1.65	9	
Triethylene-melamine	0.00278		135	191		87
ECBC	0.000421	11		354	11	
FAL	0.00710	18		21.4	24	
IIVS	0.000827	29		197	23	
Mean		**22**	**88**		**25**	**65**
NHK NRU Test Method						
Citric Acid	2.21		25	0.00587		26
ECBC	2.74	16		0.0053	14	
FAL	1.62	17		0.0076	28	
IIVS	2.25	5		0.0047	16	
Digoxin	4.02E-06		88	62378		168
ECBC	6.89E-06	13		1264	10	
FAL	6.53E-08	36		183479	44	
IIVS	5.10E-06	7		2389	26	
Dimethylform-amide	107		19	0.00011		31
ECBC	128	2		0.00007	7	
FAL	107	1		0.00013	1	
IIVS	87.5	3		0.00013	19	
Disulfoton	1.38		99	0.0140		61
ECBC	0.509	19		0.022	6	
FAL	2.94	26		0.005	5	
IIVS	0.679	32		0.015	20	
Propranolol HCl	0.125		21	0.0947		20
ECBC	0.129	12		0.081	15	

Table 7-10 CV Values for 3T3 and NHK NRU Test Method IC_{50} Values and Normalized IC_{50} Values

Reference Substance	IC_{50} (mM)[1]	IntraLab CV[2] (%)	InterLab CV[3] (%)	SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[4]	IntraLab CV SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[5] (%)	InterLab CV SLS IC_{50}: Substance IC_{50}[6] (%)
FAL	0.148	6		0.087	25	
IIVS	0.0967	11		0.116	9	
Mean		**14**	**50**		**16**	**61**

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; NA=No acceptable IC_{50} results reported or calculation was not performed (e.g., for contrast results); CV=Coefficient of variation.
[1]Results reported on the same row with reference substance names are the arithmetic means of all the laboratories. Results reported on the same row as laboratories are the arithmetic laboratory means.
[2]CV for IC_{50} values from the acceptable tests within each laboratory.
[3]CV calculated using the arithmetic mean IC_{50} values from each laboratory.
[4]Concurrent SLS IC_{50} in mM divided by the reference substance IC_{50}. Results reported on the same row with reference substance names are the arithmetic means of all the laboratories. Results reported on the same row as laboratories are the arithmetic laboratory means.
[5]CV for SLS IC_{50}:reference substance IC_{50} values within each laboratory.
[3]CV calculated using the mean SLS IC_{50}:reference substance IC_{50} values from each laboratory.

7.3 Historical Positive Control (PC) Data

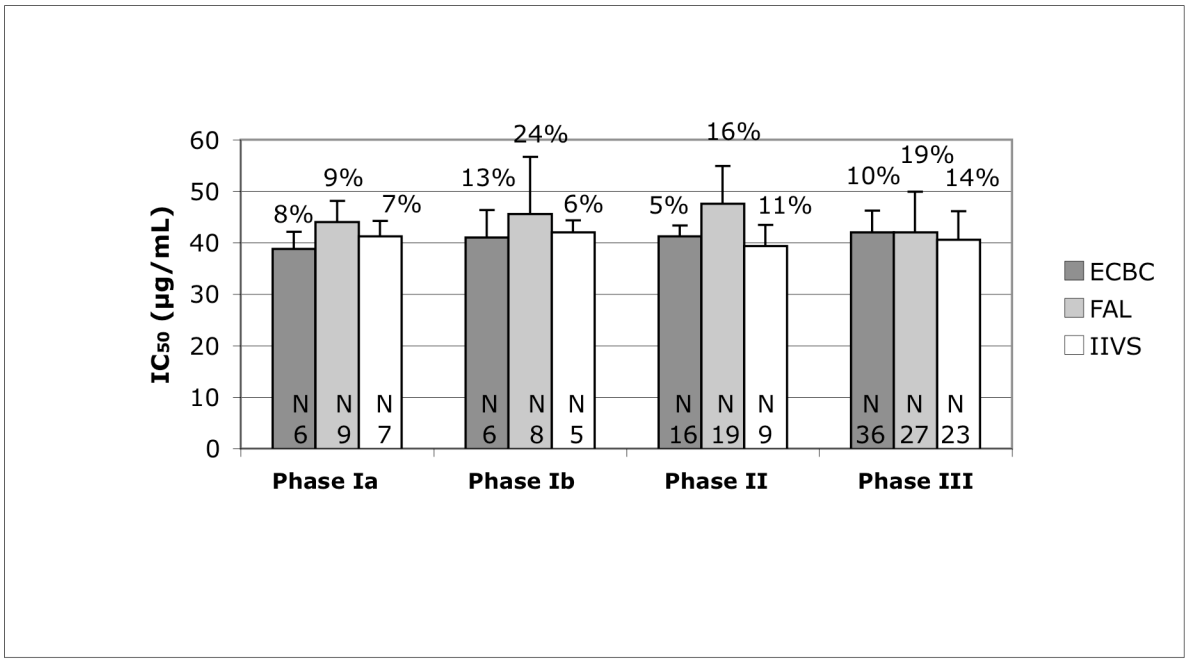
The reproducibility of the PC (SLS) data was assessed by CV analysis, ANOVA, and linear regression over time, as described in **Section 5.5.4.2**. To obtain an assessment of the true variation of SLS IC_{50} values, the reproducibility analyses also included IC_{50} values from SLS tests that failed the test acceptance criterion for the IC_{50} acceptance limits determined for each study phase. Therefore, the values used for this analysis included some that were not included in **Table 5-3**. These additional SLS tests, however, passed all other test acceptance criteria. If more than one SLS test was performed in a single day (for each method and laboratory), the IC_{50} values were averaged to determine a single IC_{50} for the day so that the multiple results from that day would not overly influence the average.

Figure 7-5 shows the average SLS IC_{50} values for each method, laboratory, and study phase. The SLS IC_{50} for the 3T3 test method (**Figure 7-5a**) was relatively consistent over the entire period of the study (approximately 2.5 years). The intralaboratory CV values for the individual study phases ranged from 5% to 24% **(Figure 7-5a)**. With the exception of the Phase Ib CV at FAL, the CV values for each laboratory and phase were less than 20%. The interlaboratory CV values were even smaller, 6% in Phases Ia and Ib, 10% in Phase II, and 2% in Phase III.

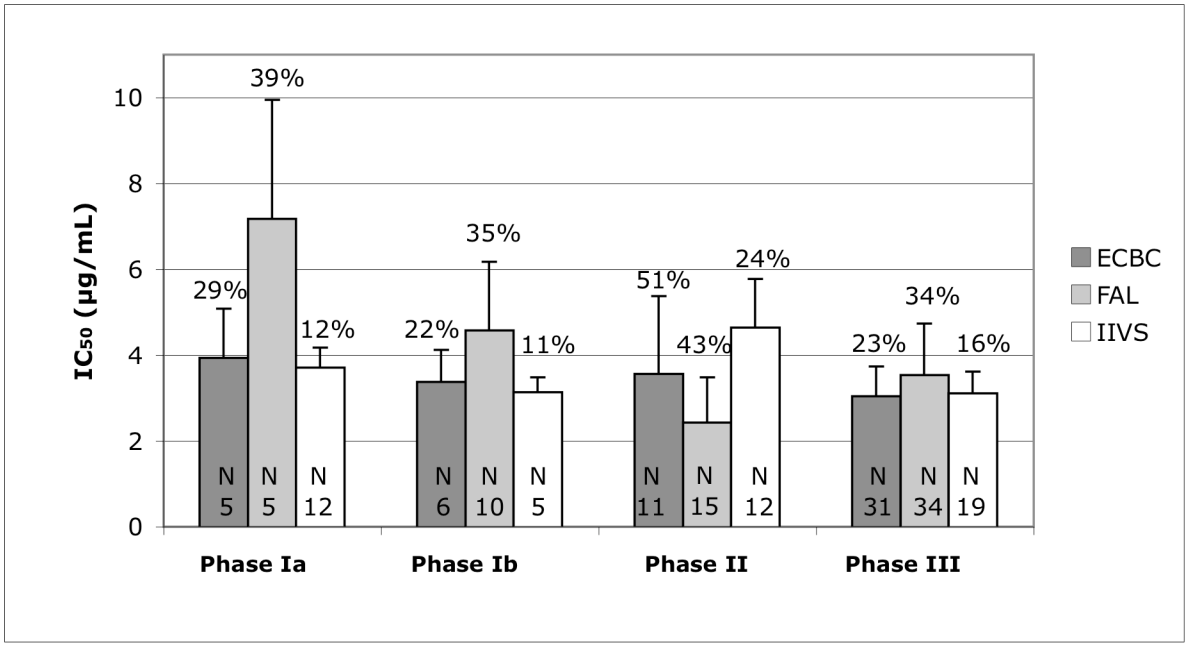
Figure 7-5b shows that the SLS IC_{50} for the NHK NRU test method tended to vary with time, but, with the exception of the values from FAL, there appeared to be no consistent trend. The IC_{50} values from FAL, which changed their cell culture methods after Phase Ib (see **Section 5.3.3.1**), tended to decrease over time. Although the change in cell culture methods reduced the magnitude of the IC_{50}, the variability (as evidenced by the intralaboratory CV values shown in **Figure 7-5b**) remained relatively high (CV $\geq$34% for all FAL study phases).

Figure 7-5 SLS IC_{50} for Each Laboratory and Study Phase

a 3T3 NRU Test Method



b NHK NRU Test Method



Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; N=Number of values.
Note: Bars show mean SLS IC_{50} values. Error bars show standard deviation. Percent values above error bars are intralaboratory CVs.

The CV values for all the laboratories and study phases show that the SLS IC_{50} values in the NHK NRU test method are more variable within laboratories than the corresponding 3T3 SLS IC_{50} values. The CV values for the SLS IC_{50} for the NHK NRU test method ranged from 11 to 51%, with nine of the 12 values greater than 20%. The interlaboratory CV values, which were also greater than those for the 3T3 NRU test method, were 39% in Phase Ia, 21% in Phase Ib, 31% in Phase II, and 8% in Phase III.

7.3.1 ANOVA and Linear Regression Results for the 3T3 NRU Test Method

7.3.1.1 *Variation of SLS IC_{50} Values with Time*

Table 7-11 shows the SLS ANOVA results from the 3T3 test method. When the IC_{50} values in each laboratory were compared, there were no statistically significant differences ($p < 0.01$) among study phases for any laboratory. **Table 7-12** shows that the slopes of the linear regressions of the IC_{50} values over time (expressed as index values) were significantly different from zero for ECBC and FAL ($p=0.001$ and 0.012, respectively), but, because the slopes were so small (0.000204 and -0.000324), and in different directions, these differences were considered to be unimportant, regardless of the statistical conclusions. The slope of the IIVS regression of SLS IC_{50} over time was not significantly different from zero ($p=0.651$; **Table 7-12**), which was consistent with the ANOVA analysis (**Table 7-11**), and showed that SLS IC_{50} from IIVS did not vary with study phase ($p=0.854$). The ANOVA analysis, with study phase as the factor (with laboratories combined), showed that the 3T3 NRU IC_{50} values from all the laboratories were consistent over time ($p=0.304$).

7.3.1.2 *Comparison of SLS IC_{50} Values Among the Laboratories*

When all study phases from each laboratory were combined, ANOVA, with laboratory as the factor, showed that the SLS IC_{50} values in the 3T3 NRU test method differed significantly among the laboratories ($p < 0.006$) **(Table 7-11)**. However, as can be seen in **Figure 7-5a**, the individual laboratory SDs overlap one another.

Table 7-11 ANOVA Results for the SLS IC_{50} Values in the 3T3 NRU Test Method

Study Phase/ Laboratory	ECBC				FAL				IIVS			
	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]
Test for differences between phases within each laboratory												
Phase Ia	-0.876	0.042	6	0.031	-0.811	0.046	9	0.015	-0.850	0.034	7	0.854
Phase Ib	-0.864	0.066	6		-0.846	0.065	8		-0.838	0.025	5	
Phase II	-0.848	0.027	16		-0.796	0.057	19		-0.854	0.025	8	
Phase III	-0.842	0.036	36		-0.851	0.066	27		-0.844	0.041	23	
Test for differences between laboratories (phases combined)												
All Phases	-0.849	0.039	64	0.006	-0.826	0.062	63		-0.847	0.035	44	
Test for differences between phases (laboratories combined)												
Phase Ia	-0.839	0.049	22	0.304								
Phase Ib	-0.850	0.056	19									
Phase II	-0.831	0.047	34									
Phase III	0.845	0.045	86									

Abbreviations: ANOVA=Analysis of variance; SLS=Sodium lauryl sulfate; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NRU=Neutral red uptake; N=Number of values; SD=Standard deviation; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
[1]Statistically significant at $p < 0.01$.

Table 7-12 Linear Regression Analysis of SLS IC_{50} Values Over Time[1]

Laboratory	Slope	P-value (Slope)[2]	Intercept
3T3 NRU Test Method			
ECBC	0.000204	0.001	-0.874
FAL	-0.000324	0.012	-0.796
IIVS	0.0000304	0.651	-0.850
NHK NRU Test Method			
ECBC	-0.000559	0.002	-1.901
FAL	-0.00112	<0.001	-1.737
IIVS	-0.000445	0.002	-1.885

Abbreviations: SLS=Sodium lauryl sulfate; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; N=Number of values; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
[1]Time was expressed as index values. The index value of each test reflected the order of testing without respect to the time lapsing between tests.
[2]Statistically significant from zero at $p < 0.05$.

7.3.2 ANOVA and Linear Regression Results for the NHK NRU Test Method

7.3.2.1 *Variation of SLS IC_{50} Values with Time*

Table 7-13 shows the ANOVA results for the NHK NRU test method. When the IC_{50} values within each laboratory were compared by study phase, the values were statistically different ($p < 0.01$) at each laboratory. The IC_{50} values from the various study phases were also significantly different from one another when the laboratory data were combined ($p < 0.001$). The change in cell culture methods at FAL after Phase Ib (see **Section 5.3.3.1**) contributed to this difference. **Table 7-13** shows that FAL had clearly the lowest log mean SLS IC_{50} for Phases Ia and Ib. Linear regression analyses showed that the IC_{50} slopes over time (expressed as an index values) were statistically significantly less than zero for each laboratory (see **Table 7-12**). Because the slopes were so small (-0.000559, -0.00112, and -0.000445), and negative, their statistical significance was considered to be irrelevant.

7.3.2.2 *Comparison of SLS IC_{50} Values Among the Laboratories*

The ANOVA results, with laboratory as a factor (**Table 7-13),** showed that the SLS IC_{50} was statistically significantly different among the laboratories when the data from the study phases were pooled ($p < 0.001$). **Figure 7-5b** shows that the SLS data from ECBC and IIVS were rather similar to one another for Phases Ia, Ib, and III. The SLS IC_{50} data from FAL are different from the other two laboratories for Phases Ia, Ib, and II, but the SDs for Phase III show that the data from all laboratories produced similar values.

Table 7-13 ANOVA Results for the SLS IC_{50} Values in the NHK NRU Test Method

Study Phase/ Laboratory	ECBC				FAL				IIVS			
	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]	Log Mean IC_{50} (mM)	SD	N	P[1]
Test for differences between phases within each laboratory												
Phase Ia	-1.867	0.135	5	0.001	-1.656	0.125	5	<0.001	-1.904	0.060	12	<0.001
Phase Ib	-1.936	0.092	6		-1.829	0.141	10		-1.965	0.046	5	
Phase II	-2.007	0.109	11		-1.982	0.173	15		-1.863	0.058	12	
Phase III	-1.990	0.098	31		-1.941	0.113	34		-1.972	0.070	19	
Test for differences between laboratories (phases combined)												
All Phases	-1.971	0.113	53	<0.001	-1.879	0.175	64		-1.924	0.073	48	
Test for differences between phases (laboratories combined)												
Phase Ia	-1.833	0.143	22	<0.001								
Phase Ib	-1.891	0.125	21									
Phase II	-1.964	0.139	38									
Phase III	-1.971	0.100	84									

Abbreviations: ANOVA=Analysis of variance; SLS=Sodium lauryl sulfate; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; N=Number of values; SD=Standard deviation; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.
[1]Statistically significant at $p < 0.01$.

7.4 Laboratory Concordance for Solvent Selection

The solvents used for the reference substances are shown in **Table 7-14**. For Phases Ib and II, the SMT based their selection of solvents on the results provided by BioReliance (see **Table 5-9**) using the solubility protocol in **Appendix G2**. Despite the fact that the solubility of an individual substance might be different in 3T3 and NHK growth media, the SMT selected the same solvent (i.e., medium or DMSO) for both test methods, rather than having different solvents for each method.

BioReliance occasionally achieved higher solubility values for the Phase I and II substances than the three cytotoxicity laboratories (e.g., see the results for arsenic trioxide, aminopterin, and chloramphenicol in **Table 5-10**). The laboratories were using the solubility protocols in **Appendices C3** through **C6** (for Phases Ib and II), which were somewhat different from the protocol used by BioReliance. Although all the laboratories used the same protocols, they did not always obtain similar results with respect to the solvent to be used (e.g., see the results for aminopterin, cadmium chloride, and chloramphenicol in **Table 5-10**). In an attempt to avoid the selection of a solvent for which one or more laboratories could not achieve the desired solubility, the SMT used the solubility data from all the laboratories to determine the solvents to be used for each chemical tested in Phase III. **Table 7-14** shows that cell culture medium was used as the solvent for 38 substances and DMSO was used for 34 substances.

Five of the substances were insoluble in medium and DMSO in at least one testing laboratory. Arsenic trioxide was insoluble at all laboratories. IIVS also found sodium oxalate, strychnine, and triethylenemelamine insoluble in media and DMSO, and FAL found thallium sulfate insoluble in both solvents. Therefore, the SMT used the results from the laboratories that did achieve solubility to select the solvents to be used for testing these substances.

The testing laboratories selected the same solvent for 55 of the 72 reference substances (76%). Excluding the five substances that were found to be insoluble in both solvents by at least one laboratory, there were 12 substances on which the laboratories disagreed: acetaminophen, acetylsalicylic acid, carbamazepine, carbon tetrachloride, chloramphenicol, dichlorvos, meprobamate, methanol, phenobarbital, phenylthiourea, physostigmine, and valproic acid. Each laboratory reported relatively low solubility, $\leq$2 mg/mL, in medium for these substances. Because 2 mg/mL in medium is the departure point for the selection of medium or DMSO, small variations in solubility lead the laboratories to select different solvents. The solubility of acetaminophen, for example was reported as 2 mg/mL in culture media by ECBC and FAL, but <2 mg/mL by IIVS. IIVS found it soluble in 200 mg/mL DMSO and selected DMSO as the solvent. ECBC and FAL selected culture media as the solvent. The SMT selected DMSO as the solvent for acetaminophen to be used by all laboratories so that they would all be assured of obtaining usable test results.

Table 7-14 Solvent Determinations by Laboratory

Reference Substance	Solvent Used for Testing[1]	ECBC	FAL	IIVS
Acetaminophen	DMSO	Medium	Medium	DMSO
Acetonitrile	Medium	Medium	Medium	Medium
Acetylsalicylic acid	DMSO	Medium	DMSO	Medium
Aminopterin	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
5-Aminosalicylic acid	Medium	Medium	Medium	Medium
Amitriptyline HCl	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Arsenic III trioxide	Medium	ID	ID	ID
Atropine sulfate	Medium	Medium	Medium	Medium
Boric aid	Medium	Medium	Medium	Medium
Busulfan	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Cadmium II chloride	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Caffeine	Medium	Medium	Medium	Medium
Carbamazepine	DMSO	Medium	DMSO	DMSO
Carbon tetrachloride	DMSO	Medium	DMSO	Medium
Chloral hydrate	Medium	Medium	Medium	Medium
Chloramphenicol	DMSO	DMSO	DMSO	Medium
Citric acid	Medium	Medium	Medium	Medium
Colchicine	Medium	Medium	Medium	Medium
Cupric sulfate pentahydrate	Medium	Medium	Medium	Medium
Cycloheximide	Medium	Medium	Medium	Medium
Dibutyl phthalate	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Dichlorvos	DMSO	Medium	DMSO	Medium
Diethyl phthalate	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Digoxin	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Dimethylformamide	Medium	Medium	Medium	Medium
Diquat dibromide monohydrate	Medium	Medium	Medium	Medium
Disulfoton	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Endosulfan	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Epinephrine bitartrate	Medium	Medium	Medium	Medium
Ethanol	Medium	Medium	Medium	Medium
Ethylene glycol	Medium	Medium	Medium	Medium
Fenpropathrin	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Gibberellic acid	Medium	Medium	Medium	Medium
Glutethimide	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Glycerol	Medium	Medium	Medium	Medium
Haloperidol	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Hexachlorophene	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Lactic acid	Medium	Medium	Medium	Medium
Lindane	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Lithium I carbonate	Medium	Medium	Medium	Medium
Meprobamate	DMSO	Medium	Medium	DMSO
Mercury II chloride	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Methanol	DMSO	Medium	Medium	DMSO
Nicotine	Medium	Medium	Medium	Medium
Paraquat	Medium	Medium	Medium	Medium
Parathion	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Phenobarbital	DMSO	Medium	DMSO	DMSO
Phenol	Medium	Medium	Medium	Medium
Phenylthiourea	DMSO	DMSO	Medium	DMSO

Table 7-14 Solvent Determinations by Laboratory

Reference Substance	Solvent Used for Testing[1]	ECBC	FAL	IIVS
Physostigmine	DMSO	Medium	DMSO	DMSO
Potassium I chloride	Medium	Medium	Medium	Medium
Potassium cyanide	Medium	Medium	Medium	Medium
Procainamide HCl	Medium	Medium	Medium	Medium
2-Propanol	Medium	Medium	Medium	Medium
Propranolol HCl	DMSO	Medium	Medium	Medium
Propylparaben	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Sodium arsenite	Medium	Medium	Medium	Medium
Sodium chloride	Medium	Medium	Medium	Medium
Sodium dichromate dihydrate	Medium	Medium	Medium	Medium
Sodium fluoride	Medium	Medium	Medium	Medium
Sodium hypochlorite	Medium	Medium	Medium	Medium
Sodium oxalate	Medium	Medium	Medium	ID
Sodium selenate	Medium	Medium	Medium	Medium
Strychnine	Medium	Medium	Medium	ID
Thallium I sulfate	Medium	Medium	ID	Medium
Trichloroacetic acid	Medium	Medium	Medium	Medium
1,1,1-Trichloroethane	Medium	Medium	Medium	Medium
Triethylenemelamine	DMSO	Medium	DMSO	ID
Triphenyltin hydroxide	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Valproic acid	DMSO	Medium	DMSO	DMSO
Verapamil HCl	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
Xylene	DMSO	DMSO	DMSO	DMSO
DMSO Total	34	22	29	28
Medium Total	38	49	41	40

Abbreviations: DMSO=Dimethyl sulfoxide; ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL= Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; ID=Insufficient data to select solvent; Medium=Cell culture medium.
[1]Solvents selected by the SMT for use by all laboratories.

7.5 Summary

Intra- and inter-laboratory reproducibility were assessed by comparing the laboratory-specific IC_{50}-LD_{50} regressions to the mean, across-laboratory regression for each method, ANOVA, CV analysis, and comparison of maximum:minimum mean laboratory IC_{50} values. ANOVA permitted statistical comparisons of laboratories and experimental averages, while controlling for other factors. CV analysis compared the relative magnitudes of variability on a standardized scale. Reproducibility was evaluated using the results from the reference substances that yielded IC_{50} values from all three laboratories: 64 and 68 reference substances in the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively. The analysis of intralaboratory reproducibility, by evaluating the similarity of the laboratory specific IC_{50}-LD_{50} regressions, showed that the laboratory regressions for both NRU test methods were within the 95% confidence limits of the laboratory mean regressions.

The ANOVA showed significant interlaboratory differences for 23 substances in the 3T3 NRU test method and six in the NHK NRU test method. Intralaboratory CV values ranged from 1-122% in the 3T3 test method and 1-129% in the NHK NRU test method. Mean interlaboratory CV values were 26% for both NRU test methods, but NHK had a lower mean

interlaboratory CV (28% vs 47% for 3T3 NRU). Interlaboratory CV values ranged from 3-135% in the 3T3 NRU test method and 1-91% in the NHK NRU test method. FAL had the highest mean intralaboratory CV in both NRU test methods (33% in 3T3, 43% in NHK).

An analysis to determine the relationship between the chemical attributes and interlaboratory CV indicated that chemical structure, physical form, solubility, and volatility had little effect on CV. The CV seemed to be related, however, to GHS acute toxicity category, IC_{50}, and boiling point. Mean interlaboratory CV values were larger for substances in the most toxic GHS categories than for substances in the other toxicity categories, especially with the 3T3 NRU test method. The mean interlaboratory CV for substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg (72%) and $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (78%) classes were larger than the mean overall interlaboratory CV (47%) with the 3T3 NRU test method. The mean interlaboratory NHK CV was 37% for substances with $LD_{50} \leq 5$ mg/kg, and 41% for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg, while the mean overall interlaboratory CV was 28%. A Spearman correlation analysis showed that the IC_{50} was inversely correlated to interlaboratory CV for both the 3T3 ($p=0.015$) and NHK ($p=0.014$) test methods, and that boiling point was positively correlated to interlaboratory CV ($p=0.007$) (i.e., higher boiling points were associated with higher CV values) for the 3T3 but not the NHK NRU test method ($p=0.809$).

The ANOVA results for the PC IC_{50} in the 3T3 NRU test method showed that there were significant differences among laboratories ($p=0.006$) but not among study phases within laboratories ($p > 0.01$). However, interlaboratory CV values, which ranged from 2% to 10% for the different study phases, were small and the intralaboratory CV values ranged from 5% to 24%. The SLS IC_{50} values from the NHK NRU test method were more variable than those from the 3T3 NRU test method. The ANOVA results for SLS in the NHK NRU test method indicated that there were significant differences among laboratories ($p < 0.001$) and among study phases within laboratories ($p \leq 0.001$). A change in cell culture methods at FAL after Phase Ib decreased the SLS IC_{50} in subsequent phases, but FAL's CV values still tended to be higher than in the other laboratories. Intralaboratory CV values for the NHK SLS IC_{50} during the various study phases ranged from 11% to 51% and interlaboratory CV values for SLS in the NHK NRU test method ranged from 8% in Phase III to 39% in Phase Ia.

Cell culture medium was used as the solvent for 38 substances and DMSO was used for 34 substances. Concordance among all three laboratories in selecting the solvent for the reference substances was 76% (55/72).

[This Page Intentionally Left Blank]

[This Page Intentionally Left Blank]

8.0 3T3 AND NHK NRU TEST METHOD DATA QUALITY

This section of the BRD presents the extent of adherence to GLP regulations for generation of the validation study data. Data quality is described, along with deviations from the regulations and their effect (if any) on the quality of the data. Statistical analyses are provided to compare the data generation, collection, and reporting by the two GLP compliant laboratories and the one non-GLP compliant laboratory, as well as for the GLP-compliant laboratory that distributed the reference substances and performed solubility studies. Discussions of various quality assurance aspects of the study are included.

8.1 Compliance With Good Laboratory Practice Regulations

8.1.1 Guidelines Followed for Cytotoxicity Testing

8.1.1.1 *Good Laboratory Practices*

The SOW provided the following definition of U.S. Regulatory agency GLPs to each laboratory:

> "Regulations governing the conduct, procedures, and operations of toxicology laboratories; regulations to assure the quality and integrity of the data and to address such matters as organization and personnel, facilities, equipment, facility operations, test and control articles, and validation study protocol, and conduct (U.S. Food and Drug Administration, Title 21 CFR Part 58; U.S. Environmental Protection Agency, Title 40 CFR Part 160)."

IIVS, ECBC, and BioReliance performed testing under GLP guidelines. The details of GLP compliance and training are addressed in **Section 11.2**.

8.1.1.2 *Spirit of GLP*

The SMT determined a definition for "spirit of GLP" and provided the following to the laboratories:

> "Laboratories that are non GLP-compliant shall adhere to GLP principles and other method parameters as put forth in this Statement of Work and the Test Method Protocols (provided by NIEHS/NICEATM); documentation and accountability shall be equal to GLP requirements; laboratories must make assurances that they are equal in performance criteria and that there is parity amongst the laboratories."

FAL performed testing in the "spirit of GLP" (see **Section 11.2.2.1**) by following the international GLP standards referenced in the ECVAM Workshop 37 Report (Cooper-Hannan 1999) and the OECD Principles of GLP (OECD 1998). The laboratory did not have their data and test procedures reviewed by an independent, quality assurance (QA) auditor. The SOW directed FAL to, at a minimum, routinely document their equipment monitoring and record keeping (see **Table 8-1**), and to archive all documents. The FAL already had most of the requested procedures and guidelines in place for routine laboratory procedures before initiation of this study. The various general laboratory-related activities were documented in workbooks and logbooks, and the information was made available to the SMT.

Table 8-1 SMT-Recommended Documentation for FAL

Daily	Per Use	Periodic
Temperatures Laboratory (ambient), incubators, water baths, refrigerators, freezers	Cryogenic Storage Unit Liquid N_2 volume	Laboratory Supplies[1] Lot numbers and expiration dates for stock media formulations and components, NRU reagents, tissue culture plasticware
Humidity/CO_2 Cell culture incubators	Equipment Calibration Balances, pH meters, cell counters	Cells Quantity, and cryogenic storage conditions, for 3T3 and NHK cells
Visual Observations Cell Culture Growth	Reagents Lot numbers and expiration dates of medium/supplements	Equipment Calibration Incubators, laminar flow hoods, autoclaves, micropipettors, spectrophotometer plate readers, computers (software)

Abbreviations: SMT=Study Management Team; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.
[1]Documentation for laboratory supplies begins when supplies are purchased and received by the laboratory

8.1.1.3 *Good Cell Culture Practices (GCCP)*

The SMT provided guidance in the SOW for implementing GLPs in a cell culture laboratory environment. The initial assumption by the SMT was that each laboratory had the basic cell culture skills and knowledge (e.g., as described in Freshney 2000) to reliably perform the *in vitro* NRU cytotoxicity test methods. Reviews of historical laboratory documents, and scientific and professional exchanges with the laboratory personnel, assured the SMT that each laboratory had demonstrated, through previous validation studies and other experience, that the personnel were capable of providing quality scientific data through the use of good cell culture practices. A comparison of the SOW and the *in vitro* NRU cytotoxicity protocols showed that the guidelines developed for the NICEATM/ECVAM study were harmonious with the guidelines in the ECVAM Good Cell Culture Practices Reports (Hartung 2002; Coecke et al. 2005), and the OECD document on GLPs and *in vitro* studies (OECD 2004a).

8.1.2 Quality Assurance (QA) for NRU Cytotoxicity Test Data

8.1.2.1 *Coded Reference Substances*

BioReliance acquired 73 high purity chemicals (72 reference substances and one positive control substance) from reputable commercial sources. Sixty-four of the reference substances were ≥99% pure, and seven were between 90 and 99% pure. Lactic acid had the lowest purity, 89% (See **Appendix F1**). The substances were coded with unique identification numbers and provided to the testing laboratories in a blinded fashion. Procurement of chemicals and their preparation for distribution was performed under GLP guidelines and the SOW provided by the SMT (see **Appendix G**). **Section 3.4** provides detailed information on the acquisition and distribution of reference substances.

8.1.2.2 *Solubility Testing and Data Review*

All laboratories performed solubility tests on all reference substances using the solvents and procedures specified in the protocols provided by the SMT, and submitted solubility data to the SMT in the form of hard copy printouts and electronic worksheets. The Study Directors reviewed all laboratory procedures and all data produced at their respective laboratories, and the QA designee in each GLP-compliant laboratory reviewed all data in their laboratory. The SMT Project Coordinators served as informal QA reviewers for FAL (i.e., reviewed all the raw data sheets). The errors and omissions detected were reported to FAL, and corrections were requested. The SMT reviewed all solubility data and NRU assay data produced by all of the laboratories.

The SMT reviews of the submitted data in Phases Ia and Ib revealed that, even after data review by the Study Directors, the data files contained an unacceptably high frequency of errors (see **Section 2.6.2.5**). The laboratories were alerted to the problem and personnel from all laboratories attended a weeklong training session at the IIVS laboratories in Gaithersburg, Maryland to enhance harmonization among the laboratories. Errors continued to be found in data files submitted for Phase III after the training, albeit less frequently; however, such errors generally resulted from the rush to rapidly complete the data files for submission to the SMT shortly after the conclusion of each test. The formal QA reviews of the files occurred later in each phase of the study.

The most common errors included typographical mistakes, transcriptional and data entry errors in the Microsoft® EXCEL® and the GraphPad PRISM® 3.0 templates, and incorrect labeling of files. The SMT reviewed every electronic file and hard copy printout throughout the study and alerted the Study Directors of the affected laboratories when errors were found. All data files were checked for consistency within the documents, and for compliance with the protocols. The SMT also documented errors on the hard copy printouts in the form of handwritten notations to the files (at NICEATM) and added these notations to the electronic data summary files compiled for data management. Files that were revised and/or corrected by the Study Director were resubmitted to the SMT and identified as corrected files.

8.1.2.3 *NRU Cytotoxicity Test Tallies*

The Study Directors periodically received individualized test tallies specific to their laboratories from NICEATM that detailed:

- The number of range finder tests performed by the laboratory
- The number of definitive tests performed, and the pass/fail status of each
- The number of PC tests performed, and the pass/fail status of each
- The number of acceptable tests completed
- The test completion status for each chemical (i.e., whether one range finder test had been completed, and the number of acceptable definitive tests had been completed)

The laboratories compared the NICEATM tallies to their own records to verify their consistency and accuracy. Discrepancies were resolved through direct communication between the Study Director and the SMT.

8.1.3 Guidelines Followed for Rodent Acute Oral LD_{50} Data Collection

For the purposes of this validation study, the *in vitro* NRU test methods were proposed for predicting starting doses for rodent acute oral toxicity test methods, rather than as replacement tests for the *in vivo* test method. No *in vivo* tests were performed for this validation study. All *in vivo* data (i.e., rat and mouse LD_{50} values) were collected by NICEATM through reviews of the literature and from publicly available databases. All relevant data and pertinent information were gathered and stored in an Excel® spreadsheet.

8.1.3.1 *Rodent Acute Oral LD_{50} Values Used in the Registry of Cytotoxicity (RC)*

The RC is a database of acute oral LD_{50} values for rats and mice obtained primarily from the 1983/84 RTECS® database compiled by NIOSH, and IC_{50} values from *in vitro* cytotoxicity assays using multiple cell lines and cytotoxicity endpoints for chemicals with known molecular weights (Halle 1998, 2003). Collection and reporting methods used for generating the data in RTECS® were not a part of the data collection hierarchy employed by NIOSH, and the data in this database were not evaluated for quality and accuracy. Many of the values come from secondary sources with no citation to the original report. GLP guidelines were not used to determine acceptable data for the database. The only criterion used by NIOSH for reporting acute oral toxicity data in RTECS® was that the LD_{50} value was the most toxic LD_{50} value for a chemical that could be found in the literature, regardless of the number of other values available, or their distribution.

8.1.3.2 *Rodent Acute Oral LD_{50} Values Collected by NICEATM from Other Sources*

One critical aspect of the validation study design was the establishment of a rat acute oral LD_{50} reference value for each of the 72 reference substances (see **Section 4**). These reference values were used to evaluate the extent to which the two *in vitro* NRU test methods could predict rat acute oral LD_{50} values. Primary rat acute oral LD_{50} studies were located through searching electronic databases, published articles, and secondary references. Rat data were not available for three of the reference substances and mouse acute oral LD_{50} values were used. Only seven of the 455 LD_{50} values collected from the literature were produced under GLP guidelines.

8.2 Results of Data Quality Audits

The QA unit or designee in each GLP laboratory provided a systematic and critical comparison of the data provided in the laboratory's study reports to the raw data in the laboratory records. The SOW provided to each laboratory contained the following guidance regarding QA statements:

> "The Final Reports for all phases of the Validation Study shall be audited by the Quality Assurance unit of the Testing Facility for GLP compliance and a QA Statement shall be provided by the Testing Facility. Each Final Report shall identify: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study."

8.2.1 QA Statements

The QA statements from the GLP-compliant laboratories addressed the reviews of:

- Protocols
- Laboratory standard operating procedures (SOPs)

- Laboratory operations, in general
- 3T3 and NHK NRU experiment data
- The report submitted to the SMT

The QA statements from the GLP laboratories affirm that the methods described in the protocols are the methods that the laboratory personnel used, and that the data reported to the SMT accurately reflect the raw data obtained by the laboratory. See **Section 8.2.2** for information about the QA statements for the non-GLP laboratory.

8.2.2 QA Statements from the Laboratories

8.2.2.1 *BioReliance QA Statements*

The Study Director/Laboratory Director provided the following statement in all of the final reports:

> "The solubility studies, acquisition, preparation, and distribution of the test chemicals were conducted in compliance with GLP. Although not audited (per SOW), the work described in this report for Phase X (i.e., Ia, Ib, and II) fully and accurately reflects to the best of my knowledge the raw data generated in the study."

8.2.2.2 *FAL QA Statements*

The Study Director for FAL performed the final review of all data and reports before sending them to the SMT, and provided the following two statements in the final reports provided to the SMT.

- "The laboratory worked under the principles of GLP whilst not being a GLP-compliant laboratory."
- "The report accurately reflects the work undertaken and the results obtained at the FRAME Alternatives Laboratory."

Formal QA statements were not provided to FAL because the SMT performed informal QA reviews.

8.2.2.3 *ECBC QA Statements*

The QA statements reported the particular study phase and laboratory procedures that were examined for GLP compliance. In addition, the laboratory's statement noted that the scope of work, associated protocols, and quality control (QC) acceptance criteria were updated or changed during the study, which made the assessment of the procedures and data for conformance to the SOPs more difficult. However, compliance with the requirements and intent of GLP guidelines was continually assessed during the review of the SOPs and the observance of operations. The QA reviews found the ECBC protocols to be in compliance with the NICEATM/ECVAM study protocols. The aspects of the studies inspected by the QA designee were:

- Review of protocols and laboratory SOPs
- Review of waste handling procedures
- Review of laboratory operations
- Certification of new personnel
- Review of data
- Review of the final report for each testing phase

The QA designee also observed the preparation of reference substances, 96-well plate configuration, application of reference substance, annotation to the workbook, and appropriate sterile technique while performing the testing. The number of inspections of laboratory operations was reduced in the latter phases of the study because the same personnel conducted the testing throughout the entire study.

ECBC Review Dates of the Study Phases

- Phase Ia: July 2002 through May 2003
- Phase Ib: July 2002 through January 2003
- Phase II: May 2003 through February 2004
- Phase III: November 2003 through March 2005

8.2.2.4 *IIVS QA Statements*

Because the IIVS QA unit is small, it carried out reviews of different aspects of the procedures at different times. The IIVS QA Statement reads:

> "This study has been divided into a series of in-process phases. Using a random sampling approach, Quality Assurance monitors each of these phases over a series of studies. Procedures, documentation, equipment records, etc., are examined to assure that the study is performed in accordance with the U.S. FDA Good Laboratory Practice regulations (21 CFR 58), the U.S. EPA GLP Standards (40 CFR 792 and 40 CFR 160) and the OECD Principles of Good Laboratory Practice and to assure that the study is conducted according to the protocol and relevant Standard Operating Procedures."

The aspects of the studies inspected by the QA designee were as follows:

- Protocol and initial paperwork
- Reading of the plates (definitive test)
- Dilution of the test articles (definitive test)
- Treatment of the cells
- Termination of treatment and addition of the NR dye (definitive test)
- Cell concentration determination and seeding of the plates (third definitive test)
- Termination of treatment and addition of the NR dye
- Washing the cells
- Draft report and data
- Final report

IIVS Review Dates of Various Aspects of the Test Phases

- Phase Ia: August 2002 Final Report Review: October 2005
- Phase Ib: January 2003 Final Report Review: October 2005
- Phase II: July-August 2003 Final Report Review: October 2005
- Phase III: January-November 2004 Final Report Review: October 2005

8.2.2.5 *Other QA Information*

Data generated by the laboratories and reviewed by their respective Study Directors were submitted to the SMT. Often, the data were provided electronically within days of the end of testing. The SMT was active as a secondary QA reviewer of all information provided by the

Study Directors. If the SMT found discrepancies, the Project Coordinators corresponded with the appropriate Study Director to identify and rectify the error. The Study Director made corrections/adjustments to the discrepancies in data reporting and presented the changes to the SMT. The SMT did not initiate any external data quality audits.

The quality of the reference substances was assured in the form of certificates of analysis provided by the chemical manufacturer to BioReliance at the time of purchase. The SMT and the laboratories obtained certificates of analysis from CAMBREX for Clonetics® NHK culture medium and supplements. In addition, the SMT obtained QC data directly from CAMBREX technical departments concerning the NHK medium's ability to support keratinocyte growth.

8.3 Effect of Deviations or Non-compliance with GLPs

Rates for several types of errors (i.e., documentation, testing methods, and data management) were determined by the SMT. Many of the errors (particularly in Phases Ia and Ib) were the result of minor mistakes (e.g., typographical, mislabeling) and did not affect the quality of the data.

8.3.1 Laboratory Error Rates

The SMT was concerned about the number of errors that were seen in documentation and testing methods during Phases Ia and Ib, and compiled the detected errors from each laboratory. The types of errors found included errors in documentation (e.g., reference substance identification did not match on all associated data sheets; IC_{20} and IC_{80} values were transposed in the EXCEL® template; a test acceptance criterion flag in a data sheet was incorrect) and in testing (e.g., wrong dilution scheme was used for the PC; wrong SLS IC_{50} was used as the PC IC_{50}). Error rates were compiled as the number of tests with errors per total number of tests. As shown in **Table 2-3**, FAL had the highest error rates: 93% for the 3T3 NRU test method and 41% for the NHK NRU test method. The highest error rates in the other laboratories were 10% for the 3T3 NRU test method and 23% for the NHK NRU test method (both ECBC).

There were relatively few errors detected in the Phase III data files. The SMT did not compile the typographical and transcriptional errors found, but reported them directly to the appropriate Study Director so that the data sheets could be immediately corrected. The SMT did not detect errors in the raw optical density data from the 96-well plates provided in each data file. The laboratories and the SMT corrected typographical and transcriptional errors (e.g., incorrect $logIC_{50}$ value entered) in the EXCEL® templates. The EXCEL® template formulas were used for the statistical analyses.

An assessment of error rates was performed specifically for Phase III for one particular clerical error – the transfer of the final results (e.g., ICx values) from the GraphPad PRISM® 3.0 template to the Microsoft® EXCEL® template. It was often necessary for the SMT to revise the EXCEL® data files provided by the laboratories because the incorrect values had been transferred to EXCEL®. **Table 8-2** summarizes the Phase III error rates resulting from the transfer of data from PRISM® to EXCEL®.

Table 8-2 Phase III Error Rates in the Transfer of Data to the EXCEL® Template

Laboratory	Number of Errors Detected	Number of Definitive Tests	Percentage of Tests with Detected Errors
ECBC	49	402	12
FAL	171	513	33
IIVS	25	419	6

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

8.3.2 Failure Rates for Definitive and PC Tests

Table 8-3 presents the test failure (i.e., did not meet test acceptance criteria) rates experienced in Phase III. Approximately 25% of all 3T3 definitive tests and 18% of all NHK definitive tests failed. If a definitive test (see **Section 2.3.2.2** for the definition of a definitive test) failed, the laboratory repeated the test and attempted to obtain three acceptable definitive tests for each reference substance in each cell type (see **Section 2.5** for criteria for repeating tests). The PC tests failed 0 to 18% of the time with a combined average failure rate of 8% for both cell types. FAL had the highest individual laboratory test failure rates for 3T3 definitive tests (30%), NHK definitive tests (32%), and NHK PC tests (18%). ECBC had the highest failure rate for 3T3 PC tests (11%). IIVS had no PC test failures.

Table 8-3 Definitive Test and Positive Control (PC) Test Failure Rates in Phase III

Test Type	3T3 NRU Test Method				NHK NRU Test Method				Total
	ECBC	FAL	IIVS	Total	ECBC	FAL	IIVS	Total	
Definitive Tests - Acceptable	169	177	176	522	173	175	174	522	1044
Definitive Tests - Total	215	257	225	697	187	256	194	637	1334
% Failed Definitive Tests	21	30	22	25	8	32	10	18	22
PC Tests - Acceptable	66	40	16	122	58	37	20	115	237
PC Tests - Total	74	42	17	133	59	45	20	124	257
% Failed PC Tests	11	5	6	8	2	18	0	7	8
Definitive Tests Failed Only Because PC Tests Failed	14	6	14	34	0	22	0	22	56
% Definitive Tests Failed Only Because PC Tests Failed	7	2	6	5	0	9	0	4	4

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

The Phase III guidelines required each laboratory to provide three acceptable definitive tests for each substance for both cell types (3 x 60 x 2 = 360 definitive tests). PC tests were run concurrently with the definitive tests, and more than one reference substance was usually tested in conjunction with each PC test. Because of test failures, each laboratory performed additional testing to obtain the three acceptable definitive tests required for each substance.

Table 8-4 presents the success rates for each laboratory for Phase III testing and a total for all the laboratories combined.

Table 8-4 Combined Definitive and Positive Control (PC) Test Success Rates for the 3T3 and NHK Methods in Phase III

Test Type	ECBC	FAL	IIVS	Total
Acceptable Definitive Tests/ Total Definitive Tests	342/402	352/513	350/419	1044/1334
% Acceptable Definitive Tests	85%	69%	84%	78%
Acceptable PC Tests/Total PC Tests	124/133	77/87	36/37	237/257
% Acceptable PC Tests	93%	89%	97%	92%

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

8.3.3 Intralaboratory Reproducibility

CV values for each method were determined for each reference substance in each laboratory using the IC_{50} values from the acceptable definitive tests, as described in **Section 5.5.2**. **Table 8-5** presents the average CV values for the substances tested in each of the study phases, and for the entire study.

Table 8-5 CV Values for Definitive Tests

Cell Type	Labs	Phases I & II		Phase III		All Phases	
		Number of Reference Substances	Average % CV	Number of Reference Substances	Average % CV	Number of Reference Substances	Average % CV
3T3	ECBC	12	17	57	24	69	23
	FAL	11	28	55	33	66	33
	IIVS	11	20	56	22	68	21
NHK	ECBC	12	24	57	22	69	23
	FAL	12	31	57	45	69	42
	IIVS	12	14	58	14	70	14

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; CV=Coefficient of variation.

8.3.4 Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Categories

Predicted LD_{50} values were determined using the *in vitro* NRU IC_{50} values in the IC_{50}-LD_{50} regressions presented in **Table 6-5.** The predicted LD_{50} values were used to assign each substance to a predicted GHS acute oral toxicity category (UN 2005). The accuracy of the 3T3 and NHK NRU test methods for predicting GHS categories was determined by comparison with categorization based on *in vivo* rat oral LD_{50} values (in mg/kg) in **Table 4-2**. Using the RC rat-only millimole regression, the accuracy of the predictions and the extent of underprediction or overprediction are shown for each laboratory in **Table 8-6**. The laboratories generally agreed with each other in their predictions. Although FAL had the highest error rates and CV values, their predictions of GHS categories were consistent with the other laboratories. The laboratories determined category matches for 25 to 30% of the reference substances for the 3T3 NRU test method and 29 to 31% of the reference substances for the NHK NRU test method. For the 3T3 NRU test method, toxicity was overpredicted for 38% of the reference substances and underpredicted for 33 to 38% of them. For the NHK NRU test method, toxicity was overpredicted for 35 to 38% of the reference substances and underpredicted for 32 to 34% of them. (See **Appendix J** for additional laboratory comparisons for the other *in vitro – in vivo* regressions evaluated in **Section 6**.)

8.4 Availability of Laboratory Notebooks

All laboratories maintained laboratory notebooks using a template provided by IIVS, and provided copies of the notebooks to the SMT (archived at NICEATM) after completion of each testing phase. The notebooks contained information from all aspects of testing including, but not limited to:

- Environmental conditions
- Reagent identification
- Preparation of 96-well plates
- Preparation of reference substances
- Treatment of cell cultures
- Visual observations of cell cultures
- NRU assays
- Data analysis

Table 8-6 GHS Acute Oral Toxicity Category Predictions by Laboratory[1]

	Labs	Total Reference Substances	Category Match	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted
3T3	ECBC	64	30%	38%	33%
	FAL	64	25%	38%	38%
	IIVS	64	27%	38%	36%
NHK	ECBC	68	31%	35%	34%
	FAL	68	29%	38%	32%
	IIVS	68	31%	37%	32%

Abbreviations: ECBC=Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; GHS=Globally Harmonized System for Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005).

[1]3T3 and NHK NRU test method IC_{50} data (geometric mean of within laboratory replicates) used with the RC rat-only millimole regression, log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 x log IC_{50} (mM) + 0.621, to assign GHS category. *In vivo* category was based on reference rodent oral LD_{50} values (mg/kg) in **Table 4-2**. For each method, the reference substances evaluated were those for which all three laboratories obtained IC_{50} values.

8.5 Summary

- The determinations of test method and data collection errors showed that FAL consistently had the highest error levels; however, the laboratory's GHS acute oral toxicity category predictions were comparable to the other laboratories' results.
- The laboratories reported no significant deviations from the protocols, and deviations that did occur during the testing phases were generally quickly acknowledged and addressed by the Study Directors. If a deviation occurred that would affect the data (e.g., improper concentration of DMSO solvent), the Study Director would reject the test, notify the SMT, and perform an additional test. Improper transfer of data to either the EXCEL® or PRISM® templates, which would affect the data summaries and analyses, were recognized, documented, and rectified by the Study Director and/or the SMT.
- The SMT reviewed all data sheets to ensure that data were not inadvertently attributed to the incorrect data summary files, and that the correct data were used in all statistical analyses.
- An electronic copy of all data for this validation study can be obtained from NICEATM upon request by mail, fax, or e-mail to Dr. William S. Stokes, NICEATM, NIEHS, P. O. Box 12233, MD EC-17, Research Triangle Park, NC, 27709, (phone) 919-541-2384, (fax) 919-541-0947, (e-mail) niceatm@niehs.nih.gov.

[This Page Intentionally Left Blank]

[This Page Intentionally Left Blank]

9.0 OTHER SCIENTIFIC REPORTS AND REVIEWS OF *IN VITRO* CYTOTOXICITY TEST METHODS AND THEIR ABILITY TO PREDICT *IN VIVO* ACUTE TOXICITY AND OTHER TOXIC EFFECTS

In vitro cytotoxicity methods based on NRU have been evaluated for a number of uses. This section reviews studies that used *in vitro* NRU cytotoxicity methods to:

- Predict acute rodent oral toxicity
- Predict starting doses for acute systemic toxicity tests
- Predict other *in vivo* toxicity endpoints, including phototoxicity and eye irritation.

Section 9.1 describes studies that evaluated *in vitro* cytotoxicity test methods that measured NRU for its ability to predict acute systemic toxicity in rodents, and other *in vivo* endpoints. Also reviewed are studies that evaluated the use of *in vitro* cytotoxicity results to reduce animal use in acute toxicity testing. **Section 9.2** reviews independent evaluations of the use of *in vitro* cytotoxicity methods to predict acute oral toxicity, and to determine starting doses for acute systemic toxicity assays. Also discussed is a 3T3 NRU test method that has been validated and accepted for regulatory use for detecting phototoxic potential using a protocol similar to that used in the NICEATM/ECVAM validation study. The conclusions of these reports will be compared to the conclusions reached in this study, wherever possible. **Section 9.3** reviews published studies that used the *Guidance Document* approach (ICCVAM 2001b), which established the current test method performance standard.

9.1 Relevant Studies

9.1.1 Correlation of NRU Cytotoxicity Values with Rodent Lethality

This section reviews five published *in vitro* cytotoxicity studies that correlated cytotoxicity values (i.e., IC_{20} or IC_{50}) from NRU cytotoxicity test methods that used various cell types, to rat and/or mouse acute LD_{50} values from various exposure routes. In these sections, *italics* are used to identify reference substances tested in the reviewed studies that were also tested in the NICEATM/ECVAM validation study. **Table 9-1** characterizes the substances tested in the reviewed studies by providing the ranges of their rat oral LD_{50} values. Also shown for comparison are the mouse and/or rat oral LD_{50} ranges for the NICEATM/ECVAM validation study and the RC. The table shows that the substances tested by Peloux et al. (1992), Fautrel et al. (1993), and Rasmussen (1999), covered a wide range of rat acute LD_{50} values. The substances used by Roguet et al. (1993) and Creppy et al. (2004) covered a much smaller range. **Table 9-2** characterizes the test substances by chemical class based on NLM Medical Subject Heading (MeSH®) descriptors.

Table 9-1 Rat Acute Oral LD_{50} Ranges for Test Substances Used in Previous *In Vitro* NRU Cytotoxicity Studies and the NICEATM/ECVAM Study[1]

Study/Database	N	Rat Acute Oral LD_{50} Range (mg/kg)[2]
Peloux et al. (1992)	30	2 – 14500
Fautrel et al. (1993)	31	2 – 14500
Roguet et al. (1993)	28	0.04 – 176
Rasmussen (1999)	20	1 – 10298
Creppy et al. (2004)	2	48 – 924[5]
NICEATM/ECVAM Validation[3]	72	2 – 19770
RC[4]	347	1 – 31015

Abbreviations: N=Number of substances in the study/database; RC=Registry of Cytotoxicity.
[1]Studies reviewed in **Section 9.1.1**.
[2]Values cited in the studies or from references provided by the studies.
[3]Current study summarized in this BRD.
[4]The RC includes both rat and mouse LD_{50} values.
[5]Upper limit of range is an LD_{50} calculated from the *in vitro* NRU IC_{50} because there was no *in vivo* value available for that substance.

Table 9-2 Chemical Classes Represented by the Substances Used in Published Studies for Correlation of *In Vitro* NRU Cytotoxicity with Rodent Acute Lethality

Chemical Class[1]	Study[2]	Chemical Class[1]	Study[2]	Chemical Class[1]	Study[2]
Alcohols	1, 2, 3, 4	Fluorine	3, 4	Nitriles	1, 2
Amides	1, 2, 3	Heterocyclics	1, 2, 3, 4, 5	Nitrogen	3, 4
Amines	1, 2	Hydrocarbons	1, 2, 3, 4, 5	Organophosphates	3, 4
Arsenicals	3, 4	Iron	3	Phenols	3, 4
Carboxylic Acids	1, 2, 3, 4	Lactones	1, 2	Polycyclics	3
Chlorine	3, 4	Lithium	1, 2, 3, 4	Potassium	3, 4
Copper	3, 4	Mercury	3, 4	Sodium	3, 4
Ethers	1, 2	Metals	3, 4	Sulfur	1, 2, 3, 4

Study references: 1=Peloux et al. (1992) (24/25 substances were organic compounds); 2=Fautrel et al. (1993) (30/31 substances were organic compounds); 3=Roguet et al. (1993) (22/30 substances were organic compounds); 4=Rasmussen (1993) (13/20 substances were organic compounds); 5=Creppy et al. (2004) (2/2 substances were organic compounds).
[1]Classification by NLM Medical Subject Heading (MeSH®) descriptors.
[2]Studies reviewed in **Section 9.1.1.**

9.1.1.1 *Peloux et al. (1992)*

The authors used several different *in vitro* cytotoxicity methods with primary rat hepatocytes to determine the correlation with rat/mouse intraperitoneal (i.p.) or intravenous (i.v.) LD_{50} values for the 25 substances tested. The *in vitro* cytotoxicity methods, which used 20-hour test substance exposure durations, assessed the following endpoints: NRU, total protein content, LDH release, MTT reduction. MTT is metabolized by mitochondrial succinate dehydrogenase of viable cells to yield a purple formazan reaction product. The IC_{50} values

obtained using the four endpoints were highly correlated (r = 0.973 to 0.999) to each other. When performing the IC_{50}-LD_{50} regressions, Peloux et al. (1992) used the lowest reported published LD_{50} value for acute rat or mouse studies that administered the test substances using the i.p. or i.v. routes. The IC_{50} values obtained using NRU as the endpoint had the highest correlation coefficient, r = 0.877, to the rat/mouse i.p./i.v. LD_{50} values. The total protein assay yielded r = 0.872, the MTT reduction assay yielded r = 0.808, and the LDH release assay yielded r = 0.789.

Peloux et al. (1992) followed the recommendations of Fry et al. (1988, 1990) and used parenteral LD_{50} values rather than oral LD_{50} values for comparison with *in vitro* values. Fry et al. (1988, 1990) recommended the use of the i.p./i.v. LD_{50} values for comparisons because they proposed that cells *in vivo* receive a more direct test substance exposure via these routes than through the oral route. They had posited that *in vitro* cell cultures would mirror this (direct) toxicity because they also receive direct exposure to test substances via the cell culture medium. The authors also noted that the oral route of exposure presents confounding variables such as, 1) only a fraction of a test substance would be available in the systemic circulation due to limited absorption or pre-systemic metabolism, and 2), the level of the substance in the systemic circulation decreases due to elimination mechanisms (e.g., metabolism, excretion). Fry et al. (1990) had reported a correlation of only r = 0.49 for *in vivo/in vitro* comparisons of oral LD_{50} and IC_{50} values (from a total protein assay) and a correlation of r = 0.68 for i.p. LD_{50} and ID_{50} values[1].

9.1.1.2 *Fautrel et al. (1993)*

Six laboratories tested the cytotoxicity of 31 substances in primary rat hepatocyte cultures using a 24-hour exposure followed by measurement of NRU. The investigators performed linear regression analyses for the prediction of rat i.v., i.p., and oral LD_{50} values from the NRU IC_{50} values. The regressions for the various *in vivo* administration routes did not use the same substances because LD_{50} values were not available for all of the tested substances in all of the routes. Oral, i.v., and i.p. LD_{50} values were available for 27, 24, and 18 substances, respectively, and IC_{50} values were obtained for 15, 14, and 11 of these substances, respectively. The regression for the i.v. data was statistically significant (r = 0.88, n = 11), but the i.p. (r = 0.48, n = 14) and oral regressions (r = 0.17, n = 15) were not. The finding that the i.v. LD_{50} values corresponded more closely with the *in vitro* cytotoxicity data than did the oral LD_{50} was thought to be the result of having fewer pharmacokinetic variables (i.e., absorption, distribution, etc.) to consider following i.v. administration.

9.1.1.3 *Roguet et al. (1993)*

Roguet et al. (1993) tested the cytotoxicity of 28 MEIC substances in primary rat hepatocytes exposed for 21 hours, followed by the measurement of NRU. A correlation of the NRU IC_{50} values to oral LD_{50} values obtained from the unpublished data of B. Ekwall et al. (personal communication) yielded a statistically significant linear correlation ($p < 0.001$) with r = 0.80 when the *in vivo* and *in vitro* data were in molar units. [NOTE: The LD_{50} values subsequently published by Ekwall et al. (1998) were from the 1997 edition of RTECS®.] The authors reported that the toxicities of thioridazine, malathion, and *copper sulfate* were overestimated, and the toxicity of *potassium cyanide* was underestimated by the correlation, but their criteria for over- and under- estimation were not provided.

[1] ID_{50}: index of cytotoxicity; concentrations (µg/mL) producing a 50% reduction in protein value.

The *in vivo* toxicity of *potassium cyanide* was also underpredicted in the NICEATM/ECVAM validation study. **Table 6-3** shows that *potassium cyanide* was an outlier for which toxicity was underpredicted when using the IC_{50} values from both the 3T3 and NHK NRU test methods in the RC millimole regression (log LD_{50} mmol/kg = 0.435 log IC_{50} mM + 0.625). The GHS category predictions using both NRU test methods and the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} mmol/kg = 0.439 log IC_{50} mM + 0.621), and the RC rat-only weight regression (i.e., log LD_{50} =0.372 log IC_{50} + 2.024), were also higher (i.e., less toxic) than the *in vivo* category (see **Appendix L2**).

9.1.1.4 *Rasmussen (1999)*

Twenty MEIC substances were tested for cytotoxicity using NRU release from 3T3 cells following 24-hr exposure, with and without the addition of a Aroclor-induced rat liver microsomal preparation (S9 mix). Similar to the present validation study, Rasmussen (1999) observed that *xylene* was non-toxic to the cells, even though it was dissolved in ethanol instead of DMSO. In the presence of S9, the cytotoxicities of malathion, 2,4-dichlorophenoxyacetic acid, *propranolol*, thioridazine, *lithium* sulfate, *copper sulfate*, and *thallium sulfate,* were significantly decreased ($p < 0.05$), while the cytotoxicities of *1,1,1-trichloroethane*, *phenol, nicotine*, and *paraquat* were significantly increased ($p < 0.05$).

Because the NICEATM/ECVAM validation study used cells with little or no xenobiotic metabolizing capability, it could be expected that these systems would overpredict the toxicity of substances that would be inactivated by the addition of a metabolizing system, or to underpredict the toxicity of substances that are metabolized to more toxic substances. None of the four substances in common for which toxicity was decreased by the addition of S9 were overpredicted in the NICEATM/ECVAM study. However, the toxicities of two of the four substances in common for which toxicity was increased by the addition of S9, were underpredicted in the NICEATM/ECVAM study. **Table 6-3** shows that *nicotine* was an outlier whose toxicity was underpredicted when using the 3T3 and NHK IC_{50} values in the RC millimole regression (log LD_{50} mmol/kg = 0.435 log IC_{50} mM + 0.625). *Paraquat* was an outlier whose toxicity was underpredicted when using the NHK IC_{50} value in the RC millimole regression. The GHS category predictions for both substances using both NRU test methods with the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} mmol/kg = 0.439 log IC_{50} mM + 0.621) and the RC rat-only weight regression (log LD_{50} mg/kg = 0.357 log IC_{50} µg/mL + 2.194) were also higher than the *in vivo* category (see **Appendix L2**).

Although both the IC_{20} and IC_{50} values were determined in the Rasmussen (1999) study, only the IC_{20} values were used for correlations with the rat acute oral LD_{50} values from RTECS®. The units of the LD_{50} values were not reported, but the correlations were assumed to be in molar units because the IC_{20} and IC_{50} values were reported in µM units. Significant correlations ($p < 0.001$) between IC_{20} and LD_{50} values were obtained with and without rat liver microsomes. The correlation of IC_{20} with LD_{50} was slightly higher with the S9 mix (r = 0.72 vs. 0.68 for oral LD_{50} values, and 0.82 vs. 0.78 for i.p. LD_{50} values).

Although the presence of S9 increased the cytotoxicity of some substances to the 3T3 cells, it decreased the toxicity of others, and yielded only a small improvement in the correlation to *in vivo* data. Rasmussen (1999) concluded that the toxicity of the S9 mix (0.32 mg protein/mL), itself, was insignificant because it reduced cell survival by less than 10% compared with cells

without S9. However, others have shown that S9 microsomal mixes could produce significant cytotoxic effects. Kohn (1993) showed that an S9 mix containing 0.07 mg protein/mL was cytotoxic to all types of murine neurons in culture when the cells were exposed for four days or longer. Non-neuronal cells tolerated higher concentration exposures of S9, but exhibited cytoplasmic inclusions when exposed to S9 at 0.35 mg protein/mL. Dal Negro et al. (2006) reported 100% cell death of human monocyte-derived U-937 cells when the S9 fraction (1 mg protein/mL) and co-factors were applied to the cells for a 72-hour incubation. Both of these studies used longer exposure durations, and/or higher protein concentrations, than the Rasmussen (1999) study.

9.1.1.5 *Creppy et al. (2004)*

Creppy et al. (2004) used a 48-hour NRU assay to determine the cytotoxicity of ochratoxin A (OTA) and fumonisin B1 (FB1) on cultured C6 glioma (rat brain), Caco-2 (human intestinal), and Vero (green monkey kidney) cells. The IC_{50} determined in the NRU assay was used in the RC millimole regression to predict rodent acute oral LD_{50} values. The predicted LD_{50} for OTA using the C6 glioma cells was similar to mouse LD_{50} values generated from four *in vivo* mouse studies, but the LD_{50} values predicted by the other cell lines were about 50 times greater. The authors found the relative insensitivity of the Vero cells surprising because OTA is a kidney toxin. There were no available *in vivo* rodent oral LD_{50} values with which to compare the predicted LD_{50} of FB1, which ranged from 671 to 924 mg/kg for the three cell types tested.

9.1.2 Use of *In Vitro* Cytotoxicity Data to Reduce the Use of Animals in Acute Oral Toxicity Testing

9.1.2.1 *Halle et al. (1997): Animal Savings with the ATC Method Using Cytotoxicity Data*

This study assessed the animal savings that would be produced by using IC_{50} data in an IC_{50}-LD_{50} regression to determine a starting dose for ATC testing. No cytotoxicity testing was performed for this study. Instead, the authors used the IC_{50} values from the RC database and the RC millimole regression to predict the LD_{50} for 347 RC substances. The predicted LD_{50} values were then used to determine the starting doses for simulated ATC testing.

At the time of the Halle et al. (1997) study, the ATC method (1996 version from OECD) was designed to classify substances using three classes of acute oral toxicity and an unclassified group, as defined by the acute oral toxicity classification system of the EU (see **Table 9-3**). As a result, the fixed doses for the ATC testing were 25, 200, and 2000 mg/kg. The authors used the LD_{50} predicted by the RC IC_{50} and the RC millimole regression for the 347 RC substances as a starting point to estimate the number of ATC dose steps, and number of animals, that would be needed to classify the substances in the EU category associated with the rodent oral LD_{50} (i.e., rat or mouse values from RTECS®). The method required the simulated ATC testing for each substance to start at the fixed ATC dose nearest to the predicted LD_{50}. The outcome of the simulated testing of three animals per fixed dose was determined by the *in vivo* LD_{50}. If the test dose was lower than the *in vivo* LD_{50}, animals were assumed to live and, if the test dose was higher than the LD_{50}, the animals were assumed to die. Testing of the substance would proceed with higher (when the animals lived) or lower fixed doses (when the animals died) until the substance was placed into the EU toxicity category indicated by the *in vivo* rodent oral LD_{50}.

Table 9-3 EU[1] Classes of Acute Oral Toxicity

Category	LD_{50} (mg/kg)
1	$LD_{50} \leq 25$
2	$25 < LD_{50} \leq 200$
3	$200 < LD_{50} \leq 2000$
Unclassified	$LD_{50} > 2000$

Abbreviations: EU=European Union
[1]Anon (1993)

The method of Halle et al. (1997) can be illustrated with digoxin, which has an *in vivo* mouse LD_{50} of 18 mg/kg (from RTECS®). The predicted LD_{50} of 414 mg/kg was calculated using the RC IC_{50} in the RC millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.435 x log IC_{50} (mM) + 0.625). Simulated ATC testing would start at the nearest fixed dose, 200 mg/kg. The three animals tested were assumed to die, and then three more animals would be tested at 25 mg/kg. The animals tested at 25 mg/kg were assumed to die and digoxin would be classified in category 1 for $LD_{50} \leq 25$ mg/kg. Thus, the classification of digoxin using the 4-category system required six animals.

Using such simulations of ATC testing, Halle et al. (1997) estimated that 2139 animals would be used to test the 347 substances:

- Three hundred twenty-eight would require testing with two doses using three test animals each.
- Nineteen would require testing with three doses using three animals each.

Halle et al. (1997) cited Schlede et al. (1995) in reporting that the average number of animals required to classify substances using the ATC method was 9.11 animals per test. Using this average, ATC testing of the 347 RC substances would require 3161 animals. Thus, Halle et al. (1997) estimated that there would be a 32% reduction ([3161-2139]/3161) in the number of test animals used when the LD_{50} prediction from the RC millimole regression was used with the 1996 version of the ATC method, in lieu of the standardanimal classification procedure (Halle et al. 1997).

The simulated average animal savings for the ATC in the NICEATM/ECVAM validation study at dose-response slopes of 2.0 and 8.3 was 4.8% to 10.2% (0.51 to 1.09 animals) for the 3T3 (67 reference substances) and NHK (68 reference substances) NRU test methods (see **Section 10.3.3.2**), depending on the regression evaluated. This is considerably lower than the average savings of 32% estimated by Halle et al. (1997). However, there are a number of differences between the evaluation performed by Halle et al. (1997) and the NICEATM/ECVAM study that contribute to the difference in calculated animal savings:

- The NICEATM/ECVAM study used six GHS acute toxicity categories for classification whereas Halle et al. (1997) used the EU toxicity classification scheme, which had only four toxicity categories. The accuracy of category prediction by any method would be higher with fewer categories.

- The NICEATM/ECVAM study used experimentally derived *in vitro* cytotoxicity data from a standardized protocol to estimate starting doses (using two regressions based on the RC substances with rat LD_{50} data), whereas Halle et al. (1997) used IC_{50} data from the RC database.
- The reference substances tested in the NICEATM/ECVAM study poorly fit the RC millimole regression. Nearly half of the reference substances evaluated were outliers (28/70 [40%] in the 3T3 NRU test method, and 31/71 [44%] in the NHK NRU test method) (see **Table 6-3**). The RC database had 95/347 (27.4%) substances outside of the prediction intervals.
- The NICEATM/ECVAM study used computer simulations of ATC testing, which incorporated assumptions about mortality distributions, to determine animals used, whereas Halle et al. (1997) used simplified assumptions (i.e., all animals lived when test dose was less than the *in vivo* LD_{50} and all animals died when test dose was greater than the *in vivo* LD_{50}).
- The NICEATM/ECVAM study determined animal savings by comparing animal use with starting doses determined by the *in vitro* data, to animals used at the default starting dose of 300 mg/kg. Halle et al. (1997) used the average animal use for the ATC for comparison to animal use with simulated testing.

9.1.2.2 *Spielmann et al. (1999): Animal Savings Using Cytotoxicity Data with the UDP*

Spielmann et al. (1999) recommended an *in vitro* cytotoxicity procedure as a range finding test for the *in vivo* toxicity test to reduce the number of animals used in acute toxicity tests. The authors identified nine substances in both the RC database and an evaluation of acute toxicity methods by Lipnick et al. (1995). They then compared the LD_{50} values from Lipnick et al. (1995) to LD_{50} predictions calculated when using the RC IC_{50} values in the RC millimole regression formula ($\log LD_{50}$ [mmol/kg] = 0.435 x $\log IC_{50}$ [mM] + 0.625). For seven of the nine substances, the LD_{50} prediction was within an order of magnitude of the experimental LD_{50} reported by Lipnick et al. (1995). Spielmann et al. (1999) concluded that the RC millimole regression provided an adequate prediction of LD_{50}, and that *in vitro* cytotoxicity data could be used to predict starting doses for the UDP. The authors recommended using the IC_{50}, with the RC millimole regression, to calculate a starting dose (i.e., an estimated LD_{50}) for the UDP, FDP, or ATC method whenever an IC_{50} was available.

If no IC_{50} was available, Spielmann et al. (1997) recommended determining cytotoxicity using a standard cell line and specific cytotoxic endpoint (e.g., NRU, total protein, MTT reduction). They recommended testing 10 to 20 RC substances to demonstrate that the *in vitro* cytotoxicity test methods provide results that are consistent with the RC millimole regression. The resulting IC_{50} values would then be used to calculate a new regression (using the LD_{50} values reported in the RC), which would be compared to the RC millimole regression. If the new regression fit into the acceptance interval ($\pm \log 5$ of the fitted regression line) of the RC millimole regression, the RC millimole regression would be used to predict starting doses for the UDP. If the new regression is parallel to the RC millimole regression, but outside the $\pm \log 5$ acceptance interval, then the new regression would be used for the prediction of the starting dose.

Spielmann et al. (1999) contended that the RC millimole regression provides a sufficient prediction of LD_{50} values from IC_{50} values for substances that do not require metabolic

activation and are not very toxic (i.e., LD_{50} > 200 mg/kg). The authors acknowledged that the fit of substances with LD_{50} <200 mg/kg to the RC millimole regression is not good, and attributed the poor fit of these substances to the need for metabolic activation to a more toxic substance. They suggested that the prediction of starting doses using cytotoxicity data can be used with the UDP and ATC methods, but not with the FDP because dosing is not sequential (which contradicted a claim made earlier in the paper that the approach could be used with the FDP). They did not estimate the number of animals that might be saved with this approach, but did recommend that the approach be validated experimentally using several established cell lines with a limited number of representative substances from the RC.

9.1.2.3 *EPA (2004): U.S. EPA HPV Challenge Program Submission*

In response to the EPA HPV Chemical Challenge Program, PPG Industries, Inc., the manufacturer of Propanoic acid, 2-hydroxy-, compound with 3-[2-(dimethylamino)ethyl] 1-(2-ethylhexyl) (4-methyl-1,3-phenylene)bis[carbamate] (1:1) [CASRN 68227-46-3], and the sponsor of this compound, submitted data to the EPA. This is an isolated intermediate used to produce a resin component of paint products. PPG provided the following types of data in their submission to the EPA: physical-chemical, environmental fate and pathway, ecotoxicity, and toxicology. The acute mammalian toxicology data were generated using both *in vitro* and *in vivo* methods.

An *in vitro* NRU cytotoxicity test was conducted with 3T3 cells to estimate a starting dose for the *in vivo* acute UDP oral toxicity test (OECD 2001a) (see **Appendix M1** for the OECD UDP test guideline). The use of this *in vitro* NRU test method was intended to minimize the number of animals used for *in vivo* testing. The estimated LD_{50} of the compound as determined by the NRU assay was 489 mg/kg. Therefore, the starting dose for the UDP study was set at 175 mg/kg, which is the first default dose below the estimated LD_{50} value; this is also the default starting dose for the UDP, and is used when no information on which to base a starting dose is available. A total of fifteen female rats received the compound at 175, 550, or 2000 mg/kg. Five of nine rats treated at 2000 mg/kg died prematurely on Days 2 and 3, and by Day 15, 2/4 surviving animals at this dose had lost up to 25% of their Day 1 body weights. The LD_{50} was estimated to be 2000 mg/kg, with a 95% confidence interval of 1123-5700 mg/kg. Thus, the *in vitro* NRU test method overpredicted the toxicity of the compound by estimating an LD_{50} value that was lower than that determined in the UDP test. The report authors reported that a greater than predicted number of animals was used for the UDP testing because the estimated LD_{50}, 489 mg/kg and, consequently, the starting dose, was much lower than the *in vivo* LD_{50} of 2000 mg/kg. However, because the UDP started with the default starting dose of 175 mg/kg, the claim that more animals were used is incorrect, because animal use with the default starting dose is the baseline against which other animal use should be compared.

9.1.3 Other Evaluations of 3T3 or NHK NRU Test Methods

This section briefly reviews five studies that evaluated NRU test methods for purposes other than the prediction of starting doses for acute oral toxicity assays. NRU test methods using either 3T3 or NHK cells have been evaluated for use as alternatives to the Draize eye irritation test, to measure phototoxicity, and to predict acute lethality in humans. Except for the 3T3 NRU phototoxicity assay, NRU methods have not been scientifically validated by an independent review for any of these purposes or accepted for regulatory use. The use of the

validated 3T3 NRU test method to determine phototoxic potential is addressed in **Section 9.2**.

The *in vitro* NRU protocols evaluated in the five reviewed studies are similar to those used in the NICEATM/ECVAM validation study, all of which were based on the method of Borenfreund and Puerner (1985). The major difference is that most studies used a 24-hour test substance exposure duration for the 3T3 NRU test method, while the NICEATM/ECVAM 3T3 study used a 48-hour exposure duration. The major difference between the NHK protocols used in the reviewed studies and the protocol used in the NICEATM/ECVAM study is that the cell culture medium was changed at the time of test substance application in the NICEATM/ECVAM study.

9.1.3.1 *Draize Eye Irritation*

Triglia et al. (1989)

Four laboratories collaborated in an interlaboratory validation study to test the NHK NRU assay marketed by Clonetics® Corporation[2] for its intra- and inter-laboratory reproducibility and ability to predict *in vivo* ocular irritancy. Each laboratory tested 11 blind-coded surfactant-based substances and compared the IC_{50} values to *in vivo* Draize ocular irritancy scores.

The test exhibited the following performance characteristics for the comparison of *in vitro* and *in vivo* data:

- Specificity (percentage of non-irritants correctly detected) = 93%
- Sensitivity (percentage of true irritants correctly detected) = 80%
- Predictive values (probability that an unknown agent will be properly classified)
  - Positive predictive value = 90%
  - Negative predictive value = 87%

The authors reported that there was excellent correlation among the laboratories, and good correlation between the *in vitro* IC_{50} values and *in vivo* Draize scores (Spearman Rank correlation coefficients between *in vivo* and *in vitro* data for the laboratories ranged from 0.67-0.76). The authors also concluded that the NRU test could not replace the Draize test, but may be an effective screening tool for use in a battery of *in vitro* alternatives

Sina et al. (1995)

Sina et al (1995) evaluated the NHK NRU test method along with six other *in vitro* methods to determine whether they could be used as complimentary tests in a battery approach to estimate ocular irritation. The NRU data correlated poorly with Draize ocular scores for the 33 pharmaceutical intermediates tested. The Spearman correlation coefficient for the IC_{50} and maximum average Draize score (MAS) was -0.10, and the Pearson correlation coefficient was -0.04.

[2] Clonetics® Corporation sponsored this study. It was not clear in the publication if Clonetics® Corporation participated as one of the testing laboratories.

Brantom et al. (1997)
This study examined the potential of 10 alternative methods to predict the eye irritation potential of cosmetic ingredients. Four laboratories tested 55 coded substances (23 single ingredients and 32 formulations) using the 3T3 NRU test method, and used the resulting IC_{50} values to predict modified maximum average scores (MMAS) for the Draize test.

An endpoint was generated for each test by interpolation from a plot of percent cell survival versus test substance concentration. A prediction model was developed from data of 30 single ingredients (29 surfactants and one substance not classified by the authors) to equate the IC_{50} value to an MMAS.

The interlaboratory CV for the IC_{50} values was 37.3 ± 29.8% (7.5 ± 6.8, log transformed). Most of the mean IC_{50} values from a single laboratory differed by plus or minus an order of magnitude from the means of all the laboratories for each substance, which the authors interpreted as "no significant outliers". Correlations of NRU-predicted MMAS scores with *in vivo* MMAS scores yielded Pearson's r values ranging from 0.25 to 0.32 for the four laboratories.

Although the authors concluded the interlaboratory reproducibility was good, the IC_{50} values did not predict the MMAS. The r values for the *in vitro*/*in vivo* correlations were low (0.246 to 0.316) and the tests all underpredicted irritants and overpredicted non-irritants. Four substances were outside of the 95% confidence intervals and the authors concluded that the 3T3 NRU test method had wide applicability to test the remaining 51 coded substances according to the limitations in the prediction model, but that it was not effective as a stand-alone replacement for the Draize test across the entire irritation scale. The authors did not identify the test substances.

Harbell et al. (1997)
This publication reported the results of the evaluation of 12 *in vitro* cytotoxicity assays to predict ocular irritation. Data were voluntarily submitted to the U.S. Interagency Regulatory Alternatives Group (IRAG), composed of members from CPSC, EPA, and FDA. The NHK NRU test method was one of the tests evaluated by six laboratories testing surfactants and surfactant-containing formulations (the 3T3 NRU test method was not tested). Two laboratories submitted results for the same test substances, but the other four submitted data for various sets of substances and formulations.

The correlation of results from the two laboratories that independently tested the same substances was r=0.99. Correlations between the IC_{50} data and *in vivo* maximum average Draize score (MAS) ranged from -0.92 to -0.54. The IRAG concluded that the assays were suitable as a screening and adjunct assay to assess eye irritation over the range of toxicities found in personal care and household products, and recommended that its use be limited to water-soluble materials. Although the method was also evaluated for surfactants, IRAG recommended that the evaluation continue for its performance in predicting eye irritation for various product classes (e.g., fabric softeners, shampoos). In addition, the substance's physical form should be considered because the *in vitro* toxicity of a solution of the test substance will not necessarily predict toxicity of the parent, solid substance *in vivo*.

9.1.3.2 *Predicting Human Lethal Blood Concentrations (LC)*

Seibert et al. (1992)

This single laboratory study was designed to evaluate various aspects of cellular toxicity in four *in vitro* test systems for their relevance and reliability with respect to acute systemic toxicity, in particular, human LC. The 3T3 NRU test method was one of four methods evaluated with 10 MEIC substances.

The authors stated that final conclusions on the relevance of the *in vitro* systems for *in vivo* data could not be determined because the variations in LC were unknown so that limits for over or underprediction of human *in vivo* toxicity using experimental models could not be defined. In addition, the ability of *in vitro* toxicity to predict *in vivo* toxicity may depend on toxicokinetic factors that were not considered in the *in vitro* systems.

9.2 Independent Scientific Reviews

This section summarizes independent scientific reviews of the use of *in vitro* cytotoxicity methods for the prediction of rodent acute oral toxicity, and for the reduction of animal use in acute toxicity testing. The conclusions of these reviews are compared to the conclusions of the current study. Also discussed is the 3T3 NRU phototoxicity method, because it is similar to the 3T3 NRU test method used in the current validation study and has been validated by ECVAM and is the subject of OECD Test Guideline 432 (OECD 2004).

9.2.1 *In Vitro* Acute Toxicity Testing for the Classification and Labelling of Chemicals

9.2.1.1 *Seibert et al. (1996): ECVAM Workshop 16*

ECVAM sponsored a workshop in 1994 to review the current status of various *in vitro* methods and to determine their potential uses for reducing, refining, and/or replacing the use of laboratory animals for acute systemic toxicity testing. The workshop participants reviewed various types of toxicity, *in vitro* cytotoxicity testing schemes and strategies, inclusion of biokinetic parameters, biotransformation, biodistribution *in vitro* and *in vivo*, and a proposed acute toxicity testing scheme for the classification of substances.

The workshop participants agreed that some studies showed good correlations between *in vitro* cytotoxicity data and LD_{50} values. They also acknowledged that *in vitro* basal cytotoxicity tests could not address all the different of mechanisms of acute systemic toxicity. Additional approaches to replacing animals would have to incorporate the three main types of cellular level toxic effects that can lead to in acute systemic toxicity (i.e., basal cytotoxicity, selective toxicity, and cell-specific function toxicity). The participants determined that it is also important that any alternative method take into account the active concentration and meaningful dose of a test substance in an *in vitro* cell culture system. Quantitative comparisons of test substance concentrations must be made to evaluate the effects of the test substances regarding the three types of cytotoxicity.

The biokinetics of a test substance (determined by its absorption, distribution, metabolism, and elimination) must be considered when making predictions of *in vivo* toxicity using *in vitro* toxicity data. Various methods can be used to convert *in vitro* effective concentrations of a test substance to equivalent body doses. Test substance factors, such as physicochemical characteristics (e.g., pKa, lipophilicity, volatility), estimates of protein binding, and *in vitro*

characteristics (e.g., cell concentration, cell protein concentration, ratio of cell/medium volumes, medium albumin concentration), are needed for such conversions.

An *in vitro* tiered testing scheme was proposed by the workshop participants for using *in vitro* methods to determine the acute oral toxicity of a substance:

- Stage 1: Basal cytotoxicity test
- Stage 2: Hepatocyte-specific cytotoxicity test to assess the role of biotransformation in producing toxicity
- Stage 3: Test system that evaluates non-hepatocyte-specific selective cytotoxicity (i.e., effects on cell-specific functions)

This testing scheme was proposed as an approach to classify substances by their *in vitro* toxicity. The lowest IC_{50} value determined at any of the testing stages would be used to classify a substance (i.e., very toxic, toxic, harmful, and no label). The workshop participants recommended that a feasibility study be conducted to determine the practicability, relevance, and reliability of this tiered testing scheme. As noted in the NICEATM/ECVAM study (see **Section 6.4)**, the *in vitro* basal cytotoxicity tests are not suitable as replacements for rodent acute oral toxicity tests and could only be used as an adjunct test, and not a stand-alone test, for classifying substances for acute oral toxicity. However, *in vitro* tests could be used to identify starting doses for acute toxicity testing to reduce the number of animals used.

9.2.2 Use of *In Vitro* Cytotoxicity Data for Estimation of Starting Doses for Acute Oral Toxicity Testing

9.2.2.1 *ICCVAM (2001a): Estimation of Animal Savings Using Cytotoxicity Data with the ATC Method*

Participants at Workshop 2000 examined the influence of starting dose on animal use in the ATC method (ICCVAM 2001a; Section 2.2.3, pp.12-14; no testing was performed at the Workshop). The participants made inferences from the 1996 version of the ATC method that was based on the EU toxicity classification system (**Table 9-1**). The fixed doses for testing were 25, 200, and 2000 mg/kg. Normally, classification of a substance requires testing three animals in two to four dosing steps (i.e., six to 12 animals). The number of dosing steps increases with increasing distance between the true toxicity class and the starting dose. They estimated that one to three dosing steps could be avoided (i.e., three to nine animals saved) if the optimum starting dose could be predicted by *in vitro* cytotoxicity testing.

The predicted savings of one to three dosing steps was made under ideal conditions. The Workshop 2000 report (ICCVAM 2001a) provides a biometric analysis at a dose-mortality slope of 2.0 that shows that the greatest animal savings would occur for substances with very high and very low toxicity. Three animals are needed to classify a substance in the <25 mg/kg class if the true LD_{50} is 1 mg/kg and 25 mg/kg is the starting dose, but six animals are needed if the test starts from the default starting dose of 200 mg/kg (i.e., an animal savings of 50%). For a substance with a true LD_{50} of 10000 mg/kg, 11.3 animals on average are needed when the default starting dose is used, but only 7.7 animals would be needed at the 2000 mg/kg starting dose (i.e., an animal savings of 31%). For substances with a true LD_{50} of 2000 mg/kg, no animals would be saved by starting at the 2000 mg/kg dose (compared to starting at the default starting dose of 200 mg/kg).

Although these analyses were performed assuming the 1996 ATC method used starting doses of 25, 200, 2000 mg/kg, the Workshop 2000 participants noted that the animal savings that would be produced by improving the starting dose would not be significantly different for the current ATC method that uses GHS doses of 5, 50, 300, and 2000 mg/kg (or up to 5000 mg/kg) (OECD 2001c; see **Appendix M** for the current ATC test guideline). The Workshop 2000 participants did not predict the animal savings when *in vitro* cytotoxicity methods are used to estimate starting doses for the ATC, other than the biometric analysis described above.

The NICEATM/ECVAM study yielded patterns of animal savings with the ATC that were similar to those discussed at the 2000 Workshop (i.e., animal savings were greater for substances with a lower or higher LD_{50} than the default starting dose; see **Section 10.3.3.3**). Depending on the NRU test method and regression evaluated, the average animal savings per test (for the 67 or 68 reference substances evaluated) predicted by the NICEATM/ECVAM 7validation study at a dose-mortality slope of 2.0 were:

- 22.6 to 30.4 % (2.21 to 2.96 animals) for substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg category
- 10.2 to 13.0 % (1.17 to 1.51 animals) for substances in the $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg category
- 3.8 to 4.3 % (0.42 to 0.47 animals) for substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg category
- -9.5 to -6.1% (-0.93 to -0.60 animals) for substances in the $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg category
- -0.03 to 12.7% (-0.30 to 1.43 animals) for substances in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category
- 17.1 to 25.5% (2.03 to 3.02 animals) for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg

The major differences between the evaluation reviewed by the Workshop 2000 participants and the NICEATM/ECVAM study were:

- The NICEATM/ECVAM study used the GHS toxicity categories for classification whereas the Workshop participants used the EU classification scheme, which has fewer toxicity categories. The accuracy of category prediction is higher with fewer categories.
- The NICEATM/ECVAM study used *in vitro* cytotoxicity data to estimate starting doses using two regressions based on the RC substances with rat LD_{50} data, whereas the Workshop 2000 participants used the fixed ATC doses as starting doses.
- The NICEATM/ECVAM study used computer simulations of ATC testing for individual substances whereas Workshop 2000 participants used an evaluation that estimated animal use based on fixed *in vivo* LD_{50} values and the fixed ATC doses.

9.2.2.2 *ICCVAM (2001a): Estimation of Animal Savings Using Cytotoxicity Data with the UDP*

Workshop 2000 participants examined the effect of starting dose on animal usage in the UDP assay by making inferences from the computer simulations of animal use shown in the peer-review BRD for the UDP (ICCVAM 2000). When the rule that requires testing to stop when four animals have been tested after the first reversal is used, and no other stopping rules are considered, the animal use is relatively insensitive to the slope of the dose-mortality curve. The number of animals required when the starting dose equals the true LD_{50} is approximately six. However, approximately nine animals are required when the starting dose is 1% of the true LD_{50}. Thus, animal use is 30% less when the starting dose is the true LD_{50} compared to a starting dose that is 1% of the true LD_{50} (ICCVAM 2001a, section 2.2.4, pg. 16). When UDP testing stops based on the likelihood-ratio stopping rule, the animal use depends principally on the slope of the dose-mortality curve. The Workshop 2000 participants estimated that 25 to 40% of the animals would be saved when the starting dose is equal to the true LD_{50}, compared to the savings at a starting dose 1% of the true LD_{50}.

According to the UDP BRD (ICCVAM 2000) used by the Workshop participants, UDP simulations at a mortality-response slope of 2.0 showed that an average of 12.4 animals per test were used when the starting dose was 1% of the true LD_{50}, but an average of 8.7 animals was used when the starting dose was the true LD_{50} (i.e., a 30% reduction). At a slope of 8.3, an average of 11 animals per test were used when the starting dose was 1% of the true LD_{50}, but an average of only six animals were used when the starting dose was the true LD_{50} (i.e., a 46% reduction). The animal savings predicted by Workshop 2000 participants was 25 to 40% based on starting at the true LD_{50} in comparison to starting at a dose that is 1% of the true LD_{50}.

Depending on the regression evaluated, the average animal savings predicted in the NICEATM/ECVAM validation study at dose-response slopes of 2.0 and 8.3 were 5.8 to 7.8% (0.49 to 0.66 animals) using the 3T3 (67 reference substances) and NHK (68 reference substances) NRU test methods (see **Section 10.2.3**). When averaged for the reference substances in each GHS category, the highest mean animal savings at a mortality-response slope of 2.0 was obtained for reference substances in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg and $LD_{50} > 5000$ mg/kg categories. Animal savings were 11.3 to 16.7% (1.28 to 1.65 animals) using the 3T3 and NHK NRU test methods for the two regressions evaluated. The average animal savings for the substances in these categories at a dose-mortality slope of 8.3 were 12.1 to 21.0% (1.11 to 1.63 animals) for both methods and regressions. The major differences between the evaluation performed by the Workshop 2000 participants and the NICEATM/ECVAM study were that:

- The default starting dose used for the NICEATM/ECVAM simulations was 175 mg/kg (see **Section 10.2.2**), rather than 1% of the true LD_{50} assumed by the Workshop 2000 participants.
- The NRU IC_{50} was used in two regressions of *in vitro* data against *in vivo* data to estimate starting doses. This estimation was not always close to the true LD_{50}, which was the value used by the Workshop 2000 participants. For example, LD_{50} values predicted by the NICEATM/ECVAM study for phenylthiourea were approximately 540 mg/kg by the 3T3 IC_{50} and

approximately 904 mg/kg by the NHK IC_{50} using the RC rat-only millimole regression. The true *in vivo* LD_{50} for phenylthiourea is 3 mg/kg. Workshop 2000 participants used a best-case scenario when they assumed that *in vitro* cytotoxicity precisely predicted the true LD_{50}.

9.2.3 Validation of the 3T3 NRU Assay for Phototoxicity

An NRU assay using 3T3 cells was validated by ECVAM, and accepted for regulatory use, to detect the phototoxic potential of test substances. The 3T3 NRU test for phototoxicity requires a 60-minute exposure to the test substance, a 50-minute exposure to ultraviolet (UVA, 315-400 nm) light, followed by removal of test substance and incubation for another 24 hours in fresh medium (Spielmann et al. 1998). NR medium is then added, and NRU is measured after a 3-hour incubation. Phototoxic potential is assessed by comparing the differences in cytotoxicity between test plates containing the test substance that have not been exposed to UVA and comparable test plates exposed to UVA.

Two different models, employing the Photoinhibition Factor (PIF) and the Mean Photo Effect (MPE), were validated for the prediction of *in vivo* phototoxic potential. The accuracy of the models for classifying the phototoxic potential of the 30 substances tested in nine laboratories was 88% for the PIF, and 92% for the MPE, when compared with *in vivo* classifications. Interlaboratory variability for classification (i.e., phototoxic vs. non-phototoxic) was assessed using a bootstrapping approach. For each substance, the classification based on a single experiment was compared to the classification based on the mean PIF or mean MPE. The interlaboratory variability for classification was 0 to 18.8% using PIF and 0 to 20% using MPE.

The ECVAM Scientific Advisory Committee confirmed the scientific validity of the method in 1997 (ECVAM 1997) and its regulatory acceptance was noted in Annex V of Council Directive 67/548/EEC part B.41 on phototoxicity, in 2000. An OECD Test Guideline, 432, was finalized in 2004 (OECD 2004). The 3T3 NRU phototoxicity test is used in a tiered testing approach to determine the phototoxic potential of test substances.

The performance of the 3T3 NRU phototoxicity assay could not be compared with the performance of the 3T3 NRU test method used in this validation study because different classification schemes were used (i.e., a two-category classification for the phototoxicity vs. a six-class scheme for acute oral toxicity). The ECVAM measurements of interlaboratory variability also used different techniques and were not comparable to those used for the NICEATM/ECVAM study.

9.2.3.1 *NHK NRU Phototoxicity Assay*

FAL participated in the European Union/European Cosmetic, Toiletry and Perfumery Association (EU/COLIPA) study (30 substances tested using NHK and 3T3 cells) and the ECVAM/COLIPA study (20 substances tested using NHK cells) (Clothier et al. 1999). The studies showed that the NHK NRU test method could be used to predict phototoxic potential. The accuracy for predicting *in vivo* results was similar to that of the 3T3 NRU phototoxicity test (see **Table 9-4**). The NHK NRU phototoxicity test uses the same test substance exposure duration (approximately 2 hours) as the 3T3 NRU test method, but the duration of culture after UV exposure is 72 hours rather than 24 hours. NRU was measured after a 45-minute incubation with NR.

Although the NHK NRU phototoxicity method achieved good concordance with *in vivo* phototoxicity, it has not yet been validated for regulatory use.

Table 9-4 Correct Identification of *In Vivo* Phototoxicants by the NHK NRU Phototoxicity Assay

Study	3T3 NRU Phototoxicity Method	NHK NRU Phototoxicity Method
EU/COLIPA (Spielmann et al. 1998)	29/30 (97%)[1]	28/30 (93%)[1]
ECVAM/COLIPA	NA	18/20 (90%)[1] 19/20 (95%)[2]
Combined Study Data	45/45 (100%)[2]	44/45 (98%)[2]

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; EU=European Union; ECVAM=European Centre for the Validation of Alternative Methods; COLIPA=The European Cosmetic Toiletry and Perfumery Association; NA=not available.
[1]Mean Photo Effect (MPF) prediction model.
[2]Photoinhibition Factor (PIF) prediction model.

9.3 Studies Using *In Vitro* Cytotoxicity Methods with Established Performance Standards

The procedure provided in the *Guidance Document* for evaluating basal cytotoxicity assays for use in predicting starting doses for acute oral toxicity assays provides the existing performance standards for the 3T3 and NHK NRU test methods (ICCVAM 2001b).

9.3.1 *Guidance Document* (ICCVAM 2001b)

In addition to guidance for evaluating *in vitro* basal cytotoxicity methods for use in predicting starting doses for rodent acute oral toxicity assays, the *Guidance Document* provided results from testing 11 reference substances using the recommended 3T3 and NHK NRU protocols (ICCVAM 2001b). The 11 substances were chosen from the RC database so as to have a close fit to the RC millimole regression and to cover a wide range of cytotoxicity. The major differences between the *Guidance Document* protocols and the protocols used in this validation study are the reduced NR concentrations (from 50 µg/mL to 25 µg/mL in the 3T3 NRU test method, and from 50 µg/mL to 33 µg/mL in the NHK NRU test method), the increased duration of test substance exposure in the 3T3 NRU test method, from 24 to 48 hours, and the lack of a refeeding step in the NHK NRU test method just prior to substance application (see **Sections 2.6** and **2.7** for further detail). Despite these differences, the *Guidance Document* shows that the test results for the 11 substances in both the 3T3 and NHK NRU test methods were similar to the results in the RC database. The calculated regressions for the 11 *Guidance Document* substances were:

- $\log LD_{50} = 0.506 \log IC_{50} + 0.475$ (R^2=0.985) for the 3T3 NRU test method
- $\log LD_{50} = 0.498 \log IC_{50} + 0.551$ (R^2=0.936) for the NHK NRU test method
- $\log LD_{50} = 0.435 \log IC_{50} + 0.625$ for the RC millimole regression

The 3T3 and NHK NRU regressions were compared with the RC millimole regression (347 substances) to show that the regression lines, as well as all 11 substance data points, were

within the acceptance interval (± 0.5 log around the regression) of the RC millimole regression (see *Guidance Document* Figures 3 and 4, p.13 [ICCVAM 2001b]).

9.3.2 King and Jones (2003)

This study also tested the 11 substances recommend in the *Guidance Document* using the recommended 3T3 NRU protocol. The IC_{50} - LD_{50} regression obtained was comparable to the RC millimole regression and to the 11 substance regression provided in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b). The regression was log LD_{50} = 0.552 log IC_{50} + 0.503 (R^2=0.929) and the RC millimole regression was log LD_{50} = 0.435 log IC_{50} + 0.625. The 11-substance regression fit within the acceptance interval (± 0.5 log) of the RC millimole regression.

King and Jones (2003) also showed that a 3T3 NRU test method that was adapted for high throughput testing by using three test sample concentrations yielded approximately the same IC_{50} as an eight concentration-response. A regression used to compare the IC_{50} values using the two different concentration-response approaches yielded R^2=0.945.

9.3.3 A-Cute-Tox Project: Optimization and Pre-Validation of an *In Vitro* Test Strategy for Predicting Human Acute Toxicity (Clemedson 2005)

The A-Cute-Tox Project is an Integrated Project under the EU 6th framework program that started in January 2005, with a termination date of January 2010. It was initiated in response to the REACH (Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals) Directive and the 7th amendment of the Cosmetics Directive, which calls for the broad replacement of animal experiments for finished products by 2003, and for ingredients by 2009. The project is an extension of the NICEATM/ECVAM validation study and the EDIT program, which is the continuation of the MEIC program. The partnership is made up of the EDIT Consortium, ECVAM, and 35 other European toxicity research group partners.

The aim of the project is to develop a simple and robust *in vitro* testing strategy for prediction of human acute oral toxicity, which could replace the animal acute oral toxicity tests currently used for regulatory purposes. The objectives of A-Cute-Tox are:

- Compilation, critical evaluation, and generation of high quality *in vitro* and *in vivo* data for comparative analysis.
- Identifying factors (e.g., kinetics, metabolism, and organ specificity) that influence the correlation between *in vitro* toxicity (concentration) and *in vivo* toxicity (dosage), and to define an algorithm that accounts for these effects.
- Explore innovative tools and cellular systems to identify new toxicity end-points and strategies to better anticipate animal and human toxicity.
- To design a simple, robust and reliable *in vitro* test strategy associated with the prediction model for acute toxicity that is amenable to high-throughput testing.

The project has been divided into the following workpackages that will be implemented by various configurations of research partners:

- WP1: Generation of a "high quality" *in vivo* database (through literature searches and historical data) and establishment of a depository list of reference substances

- WP2: Generation of a "high quality" *in vitro* database (including data from the NICEATM/ECVAM study, EDIT studies, and MEIC studies)
- WP3: Iterative amendment of the testing strategy
- WP4: New end-points and new cell systems
- WP5: Alerts and correctors in toxicity screening (I): Role of absorption, distribution, and excretion
- WP6: Alerts and correctors in toxicity screening (II): Role of metabolism
- WP7: Alerts and correctors in toxicity screening (III): Role of target organ toxicity (i.e., neuro-, nephro-, hepato-toxicity)
- WP8: Technical optimisation of the amended test strategy
- WP9: Pre-validation of the test strategy

A-Cute-Tox aims to extend the NICEATM/ECVAM and MEIC/EDIT approaches toward a full replacement test strategy by improving the prediction of acute oral toxicity using *in vitro* methods, and then validating the testing procedure.

9.4 Summary

- *In vitro* NRU cytotoxicity test methods using various cell types have been evaluated for their correlation with rodent lethality endpoints (e.g., rat/mouse i.v., i.p., and oral toxicity). Peloux et al. (1992) and Fautrel et al. (1993) showed good correlations (r=0.877 and 0.88, respectively) of *in vitro* cytotoxicity with rodent i.p./i.v. and i.v. toxicity data, respectively.
- 3T3 and NHK NRU test methods have been evaluated for purposes other than the prediction of starting doses for acute toxicity studies (e.g., ocular irritancy; human LC values, *in vivo* phototoxicity).
- A 3T3 NRU test method has been validated by ECVAM for the identification of *in vivo* phototoxic potential.
- No *in vitro* test methods have been validated for the prediction of acute oral toxicity. Estimations of animal savings using *in vitro* cytotoxicity data to estimate starting doses for the UDP did not use actual *in vitro* cytotoxicity data. Instead, animal savings were estimated by assuming that the *in vivo* starting dose equals the true LD_{50}, which is an approach that assumes that cytotoxicity data can perfectly predict *in vivo* lethality. These theoretical predictions of animal savings in the UDP ranged from 25 to 40% (ICCVAM 2001a), as compared with the average animal savings of 5.3 to 7.8% predicted using computer simulation modeling of the UDP for the reference substances tested in the NICEATM/ECVAM study. Halle et al. (1997) used the *in vitro* cytotoxicity data in the RC to determine that an animal savings of 32% can be attained for the ATC method by using the LD_{50} predicted by the RC regression as the starting dose. For the reference substances tested in the NICEATM/ECVAM validation study, most of which were a poor fit to the RC millimole regression, the average animal savings for the ATC, as determined by computer simulation modeling, was 4.8 to 10.2%.

[This Page Intentionally Left Blank]

10.0 ANIMAL WELFARE CONSIDERATIONS (REFINEMENT, REDUCTION, AND REPLACEMENT)

As demonstrated in **Section 6***, in vitro* basal cytotoxicity methods cannot be used as replacement assays[1] for rodent acute oral toxicity test methods for hazard classification. However, as described in this section, these methods can be used to reduce[2] and refine[3] animal use in the UDP or ATC acute oral toxicity assays, as shown by the computer simulations of such testing. Although the use of *in vitro* cytotoxicity data to determine starting doses for the FDP may reduce the use of animals for the FDP, even though death is not the primary endpoint, such an evaluation will not be provided in this document.

The test guidelines recommend using information on structurally-related substances and the results of any other toxicity tests (EPA 2002b) for the test substance, including *in vitro* cytotoxicity results, to approximate the LD_{50} and the slope of the dose-mortality curve (OECD 2001a; OECD 2001d; EPA 2002a). However, for the purposes of the reduction and refinement evaluation conducted in this section, it was assumed that no information other than 3T3 and NHK NRU IC_{50} data would be available. To determine the extent of animal reduction or refinement that would occur in the UDP and the ATC method when using a starting dose based on 3T3 or NHK NRU IC_{50} values rather than the default starting dose, computer models were used to simulate the *in vivo* testing of the reference substances used in the validation study.

Section 10.1 lists the regressions that were used with IC_{50} data from the 3T3 and NHK NRU test methods to determine starting doses for the UDP and the ATC. **Sections 10.2.1** and **10.3.1** summarize the animal testing procedures in the current test guidelines for the UDP and the ATC, respectively. The procedures for using computer simulation of the animal testing of the reference substances are described in **Sections 10.2.2** and **10.3.2**. The computer simulations were used to determine the numbers of animals used and the numbers of animals that "died" for each test. The modeling was performed using five different dose-mortality slopes[4] (i.e., 8.3, 4.0, 2.0, 0.8, and 0.5) because such slope information was not available for all of the reference substances used. To simplify the presentation of results, the animal use figures provided in **Sections 10.2.3**, **10.2.4**, **10.3.3**, and **10.3.4** include the data for only two of the slopes, 8.3 and 2.0. The slope of 2.0 is the default used for the calculation of LD_{50} by the UDP method (OECD 2001a; EPA 2002a) and the slope of 8.3 is shown to represent substances, such as pesticides, with higher slopes. The results for the other three slopes were calculated, and are provided in **Appendices N** and **Q**. The numbers of animals used are summarized to show the mean number of animals tested when the default starting dose is used and the mean number of animals used when the starting dose was determined from the 3T3 or NHK NRU IC_{50} values. The difference in animal use between the default starting doses and the IC_{50}-based starting doses is referred to as the animal savings. Differences were

[1] Replacement alternative: a new or modified test method that replaces animals with nonanimal systems or one animal species with a phylogenetically lower one (e.g., a mammal with an invertebrate).
[2] Reduction alternative: a new or modified test method that reduces the number of animals required.
[3] Refinement alternative: a new or modified test method that refines procedures to lessen or eliminate pain or distress in animals or enhances animal well-being.
[4] The dose-mortality slope is the slope of the dose-response curve for mortality.

tested for statistical significance (at $p < 0.05$) using a one-sided Wilcoxon signed ranked test based on the number of substances evaluated. **Sections 10.2** and **10.3** summarize mean animal use by the total number of substances tested and by the number of substances in each GHS category. **Sections 10.2.4** and **10.3.4** provide the mean number of animal deaths compared to the mean number of animals used for each default and IC_{50}-based starting dose to determine whether the IC_{50}-based starting doses lead to a reduction in the number of animals used and the number that die (i.e., refinement). **Sections 10.2.5** and **10.3.5** discuss concordance for the reference substance outcomes of simulated testing using the IC_{50}-based starting doses, with the outcomes of the default starting doses. Sections 10.4 and 10.5 discuss the impact of accuracy and the impact of prevalence (i.e., the number of substances to be tested in each GHS category) on animal savings.

10.1 Use of the 3T3 and NHK NRU Test Methods to Predict Starting Doses for Rodent Acute Oral Toxicity Assays

The IC_{50} values developed from the 3T3 and NHK NRU test methods were used to predict starting doses for rodent acute oral toxicity tests using the following linear regressions of IC_{50}-LD_{50} values (from **Section 6.3**):

- The RC rat-only millimole regression: log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621
- The RC rat-only weight regression: log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (μg/mL) + 2.024

The IC_{50} values from each *in vitro* NRU test method were evaluated with each regression and simulated acute oral toxicity test method,. The criteria for the use of a reference substance for this evaluation were that it must have:

- Replicate IC_{50} values from at least one laboratory
- A rat acute oral LD_{50} reference value (from **Table 4-2**)

Sixty-seven and 68 reference substances were evaluated for the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively. Of the 72 reference substances tested, epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben were excluded because they did not have associated rat oral LD_{50} data. Carbon tetrachloride and methanol were excluded from the 3T3 evaluations, and carbon tetrachloride was excluded from the NHK evaluations, because none of the laboratories achieved sufficient toxicity in any test for the calculation of an IC_{50}.

10.2 Reduction and Refinement of Animal Use for the UDP

10.2.1 *In Vivo* Testing Using the UDP

This section describes the general dosing procedure for the UDP (OECD 2001a; EPA 2002a). Although doses, interval between doses, and dose progression, may be adjusted as necessary, the procedures described reflect the default guidance. Guidance on the types of animals that can be used, animal housing, clinical observations, etc., are outside the scope of the current discussion and are provided in the test guidelines (see **Appendices M1** and **M2**).

10.2.1.1 *Main Test*

The UDP is based on a staircase design in which single animals are dosed, in sequence, at 48-hour intervals. The effect on the first animal determines the dose of the next animal. If the first animal dies or is in a moribund state within 48 hours after dosing, the dose administered

to the next animal is lowered by dividing the original dose by one-half log (i.e., 3.2, which is the default dose progression). If the first animal survives, the dose administered to the next animal is increased by one-half log times the original dose. A dose progression of one-half log unit corresponds to a dose-mortality slope of 2.0. The default dose progression can be adjusted if the analyst has prior information upon which to estimate a slope.

The starting dose recommended by the guideline is one dose progression step below the analyst's best estimate of the LD_{50}, because, in the UDP test method, the LD_{50} estimate tends to move toward the starting dose. A default starting dose of 175 mg/kg is used if there is no information on which to base a starting dose. The default dosing scheme, using the dose progression of 3.2, is 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 1750, and 5000 mg/kg (EPA 2002a) or 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, and 2000 mg/kg (OECD 2001a). The difference between the two reflects the different maximum doses emphasized in the different guidelines. Dosing single animals, upward or downward, in sequence proceeds until the first of three conditions, referred to as stopping rules, is met:

- Three consecutive animals survive at the upper dose limit (2000 or 5000 mg/kg)
- Five reversals[5] occur in any six consecutive animals tested
- Four or more animals have followed the first reversal, and the likelihood-ratios specified by the guideline exceed the critical value. For a wide variety of LD_{50} values and dose-mortality slopes, this rule is satisfied with four to six animals after the first reversal. Three likelihood values are calculated: a likelihood at an LD_{50} point estimate (called the rough estimate or dose-averaging estimate); a likelihood at a value below the point estimate (the point estimate divided by 2.5); and a likelihood at a value above the point estimate (the point estimate multiplied by 2.5). The ratios of the likelihoods are examined to determine whether they exceed a critical value.

If none of these conditions is met, the dosing stops after 15 animals have been used.

10.2.1.2 *Limit Test*

The UDP guidelines include a limit test using three to five animals dosed sequentially at 2000 mg/kg (OECD 2001a) or 5000 mg/kg (EPA 2002a). The EPA guideline for testing at a limit dose calls for proceeding to the main test if the first animal dosed at 5000 mg/kg dies (EPA 2002a). If the first animal lives, two more animals are dosed, in sequence, with 5000 mg/kg. If both animals live, then testing is terminated, and the substance is designated as having an LD_{50} >5000 mg/kg. If one or both animals die, then two more animals are dosed in sequence. As soon as a total of three animals survive, the test is terminated, with the conclusion that LD_{50} >5000 mg/kg. However, the main test is conducted if three animals die.

[5] Reversal: a situation where a nonresponse (i.e., animal lives) is observed at some dose, and a response is observed at the next dose tested (i.e. animal dies), or vice versa. Reversal is created by a pair of responses. (See **Appendices M1** and **M2**)

The OECD guideline for testing at a limit dose calls for proceeding to the main test if the first animal dosed at 2000 mg/kg dies (OECD 2001a). If the animal lives, four more animals are sequentially dosed. The main test is performed if three animals die. If three or more animals survive, testing is terminated with the conclusion that the LD_{50} >2000 mg/kg.

10.2.2 Computer Simulation Modeling of the UDP

Ten thousand UDP testing simulations were run for each substance, *in vitro* NRU test method, and dose-mortality slope. Because the analysis assumed there was no information upon which to estimate a dose-mortality slope, the modeling used the default dose progression factor of 3.2, and 5000 mg/kg as the upper limit dose because this upper limit is emphasized in the EPA guideline (EPA 2002a)[6]. If the starting dose estimated from the *in vitro* IC_{50} value was ≥4000 mg/kg, then the limit test, rather than the main test, was performed. If, during the dose progression, the next highest dose to be administered was approximately 4000 mg/kg or greater, then the limit dose of 5000 mg/kg was administered. If a dose one step below the IC_{50}-estimated LD_{50} was used as the starting dose, the other doses administered corresponded to the default doses specified in the guidelines (OECD 2001a; EPA 2002a). The simulation modeling procedures also used a lower limit of 1 mg/kg. Thus, a dose of 1 mg/kg was administered if the dose progression fell below 1 mg/kg. To estimate animal use by the default method, a starting dose of 175 mg/kg was used; the other doses administered after the default starting dose corresponded to the doses specified in the guidelines (OECD 2001a; EPA 2002a).

The simulation was performed using SAS® version 8 (SAS 1999) and implemented the distributional assumptions underlying the dose-mortality relationship. The lowest dose at which an animal dies in response to the administration of a toxic substance varies from animal to animal. For an entire population of animals, mortality is assumed to have a log-normal distribution, with the mean equal to the log of the true LD_{50}. Sigma (σ), the variability of the simulated population, is the inverse of the slope of the dose-mortality curve. Because of a lack of information concerning the actual dose-mortality curves, the simulations assumed several different values of the slope, but no corresponding changes were made in the dose progression. Dose-mortality slopes of 0.5, 0.8, 2.0, 4.0, and 8.3 were used because these were used in the simulation modeling used to evaluate the current version of the UDP guidelines (ICCVAM 2001c).

To model the variability of the IC_{50} values within and among laboratories, the values for each reference substance were log-transformed to normalize their distribution. The mean and variance of these log-transformed values were used to generate a log-normal distribution from which an IC_{50} value was randomly selected. This IC_{50} value was used with the regressions to determine starting doses using two different methods. One method used the LD_{50} estimated from the IC_{50} and the regression as the starting dose, while the other used the closest default dose that was lower than the estimated LD_{50}. The latter method is recommended by the EPA and OECD test guidelines (EPA 2002a; OECD 2001a), and the results from that simulation are presented in **Section 10.2**. The UDP is only usable for regulatory purposes if the starting dose is set below the expected LD_{50}. **Appendix Q** contains

[6] The results from UDP simulations for a limit dose of 2000 mg/kg will be presented in a future addendum to this document.

the results obtained when the LD_{50} that was estimated by the IC_{50} and the regression was used as the starting dose.

The simulation procedure used the following steps for each reference substance:

1. The LD_{50} value (in mg/kg) from **Table 4-2** was entered as the true LD_{50} value and the choices of assumed slope were entered as the true slopes for the dose-mortality curve.
2. An IC_{50} value was selected from a distribution identified by the mean and variance of the IC_{50} values for each chemical to reflect the variation in IC_{50} values produced by the different laboratories (see **Tables 5-4** and **5-5** for mean IC_{50} values and standard deviations for the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively).
3. The IC_{50} value from Step 2 was used in the regression model being evaluated to predict a LD_{50} value, which was used to determine the starting dose.
4. The dosing simulation was run three times: once with the default starting dose of 175 mg/kg, once at the next default dose below the LD_{50} estimated by the regression being evaluated, and once at a dose equal to that of the LD_{50} estimated by the regression being evaluated.
5. For each simulated trial, the animals are dosed sequentially; therefore for each animal (i) there is a corresponding dose (i) that is administered to the animal. For the first animal in each trial, it is the starting dose for that trial. For each subsequent animal, the dose is dependent on the previous dose and the previous animal's response, as described in **Section 10.2.1**. For animal (i), the probability of a response is computed with the cumulative log-normal distribution at the dose administered. That is,

   $$P(response) = P(x < \log[dose(i)]) \text{ where } x \sim N(\mu, \sigma),$$

   where μ is the log of the true LD_{50} value, and σ is the inverse of the assumed slope of the dose-mortality curve. One observation is then sampled from a binomial distribution with this calculated probability of success to determine whether the animal lives or dies.
6. Dosing simulation is stopped as soon as one of the stopping rules is satisfied.

Steps 2-6 were repeated 10,000 times in order to compute an average animal use for each method evaluated.

10.2.3 Animal Savings in the UDP When Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses

10.2.3.1 *The Effect of the Dose-Mortality Slope on Animal Use*

As described in **Section 10.2.2**, the simulation modeling of animal use for the UDP assumed five different dose-mortality slopes in order to assess animal use under various conditions of population variability. **Table 10-1** shows that the number of animals used for the UDP decreases with increasing slope for both the default starting dose and the IC_{50}-determined starting dose when based on the RC rat-only millimole regression. The IC_{50}-determined starting dose was the next default dose lower than the regression-estimated LD_{50}. For example, because the LD_{50} predicted for cadmium chloride by the 3T3 NRU IC_{50} with the RC rat-only millimole regression was 16 mg/kg, the starting dose was 1.75 mg/kg (i.e., the next default dose below the predicted LD_{50}). This approach is consistent with the UDP

guidelines (OECD 2001a; EPA 2002a) as a means of reducing the number of animals that might experience pain and suffering from a treatment. This approach also overcomes the nonconservative bias of the UDP, which tends to yield an LD_{50} close to the starting dose.

Table 10-1 shows that, for each dose-mortality slope, the mean number of animals saved was statistically significant ($p<0.05$) when compared to mean number of animals needed when the default starting dose was used. When expressed as a percentage of the number of animals used when the default starting dose is used, animal savings also generally increased with increasing slope of the dose-response. The animal savings is the same at all slopes tested, but fewer animals are used at the steeper slopes, which increases the relative percentages of animals saved.

Table 10-1 Change in Animal Use[1] with Dose-Mortality Slope for the UDP[2]

Dose-Mortality Slope	With Default Starting Dose[1,3]	With IC_{50}-Based Starting Dose[1,4]	Animals Saved[5]
3T3 NRU Test Method			
0.5	10.01 ±0.10	9.48 ±0.11	0.53* (5.3%)
0.8	9.95 ±0.13	9.34 ±0.14	0.61* (6.1%)
2.0	9.35 ±0.16	8.80 ±0.17	0.54* (5.8%)
4.0	8.68±0.18	8.15 ±0.19	0.52* (6.0%)
8.3	7.95 ±0.18	7.42 ±0.20	0.53* (6.6%)
NHK NRU Test Method			
0.5	10.01 ±0.09	9.53 ±0.12	0.49* (4.9%)
0.8	9.96 ±0.13	9.41 ±0.15	0.55* (5.5%)
2.0	9.36 ±0.16	8.86 ±0.18	0.50* (5.3%)
4.0	8.66 ±0.17	8.18 ±0.20	0.48* (5.6%)
8.3	7.92 ±0.18	7.43 ±0.20	0.49* (6.2%)

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

*Statistically significant ($p<0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference is shown in parentheses.

[1]Mean numbers of animals ±standard errors for 10,000 simulations for each of the 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]OECD (2001a); EPA (2002a).

[3]Default starting dose = 175 mg/kg.

[4]The starting dose = next lower default dose to the predicted LD_{50}, which was calculated from the IC_{50} value in the RC rat-only millimole regression: log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[5]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.

To simplify the presentation of animal savings and the comparison of the various regressions and starting doses, the results of subsequent analyses presented in **Section 10.2.3** are limited to the dose-mortality slopes of 2.0 and 8.3. The slope of 2.0 is the default used for the calculation of LD_{50} by the UDP method (OECD 2001a; EPA 2002a) and the slope of 8.3 is shown to represent substances, such as pesticides, with higher slopes. Animal savings results for the other dose-mortality slopes were calculated, and are presented in **Appendices N1-N3.** Although using the next lower default dose to the *in vitro*-determined LD_{50} value overcomes

the bias of the UDP toward the starting dose (OECD 2001a, EPA 2002a) and is the appropriate approach for regulatory use, animal savings results using the estimated LD_{50} as the starting dose were also calculated (see **Appendix Q**).

10.2.3.2 *Mean Animal Use for UDP Simulations – Comparison of Regressions and Predictions from the 3T3 and NHK NRU Test Methods*

Table 10-2 shows the mean animal use for the simulated UDP testing of the reference substances described in **Section 10.1**. Mean animal use is shown for the default starting dose and for starting doses that were one default dose lower than the LD_{50} predicted from the *in vitro* NRU methods and the regressions evaluated in **Section 6.4** for the prediction of GHS category. The difference in animal use between the two starting doses is the mean animal savings produced by using the starting dose based on the *in vitro* NRU methods. All differences (i.e., mean animal savings) were statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Mean animal savings ranged from 0.49 to 0.66 (6.2% to 7.0%) animals per test depending upon the *in vitro* NRU test method, regression, and dose-mortality slope. The lowest mean animal savings were obtained for the RC rat-only millimole regression (0.49 [6.2%] to 0.54 [5.8%] animals for the different test methods and dose-mortality slopes), and the greatest mean animal savings were obtained with the RC rat-only weight regression (0.54 [6.8%] to 0.66 [7.0%] animals per test).

The animal savings using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only regressions apply only to the reference substances evaluated in this validation study, and are based on substances pre-selected for their known *in vivo* toxicities and may not be broadly applicable to other substances. **Table 3-4** shows that 22 (38%) of the 58 RC substances selected for testing were known to have a poor fit to the RC millimole regression (i.e., the *in vivo* LD_{50} was outside the RC acceptance interval for the predicted LD_{50}). **Table 6-3** shows that 40% (28/70 for the 3T3) and 44% (31/71 for the NHK) of the reference substances that produced IC_{50} values were outliers. The RC rat-only millimole regression evaluated here is very similar to the RC millimole regression (see **Table 6-5**). Substances with better fits to the regression are more likely to yield greater animal savings.

10.2.3.3 *Animal Savings in the UDP by GHS Acute Oral Toxicity Category Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses*

Tables 10-3 and **10-4** show mean animal use and mean animal savings for the UDP when the default starting dose and the IC_{50}-predicted starting doses were used, and when the reference substances are grouped by GHS category (UN 2005). The data come from the same analyses as the data provided in **Table 10-2**. The IC_{50}-predicted starting doses were based on the:

- RC rat-only millimole regression (**Table 10-3**)
- RC rat-only weight regression (**Table 10-4**)

Table 10-2 Mean Animal Use[1] in the UDP[2] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the Different Regressions

Assay/Regression	With Default Starting Dose[3]	With IC_{50}-Based Starting Dose[4]	Animals Saved[5]	With Default Starting Dose[3]	With IC_{50}-Based Starting Dose[5]	Animals Saved[5]
3T3 NRU Test Method	**Dose-mortality Slope = 2.0**			**Dose-mortality Slope = 8.3**		
RC rat-only millimole[6]	9.35 ±0.16	8.80 ±0.17	0.54* (5.8%)	7.95 ±0.18	7.42 ±0.20	0.53* (6.6%)
RC rat-only weight[7]	9.36 ±0.16	8.70 ±0.16	0.66* (7.0%)	7.94 ±0.18	7.32 ±0.19	0.62* (7.8%)
NHK NRU Test Method	**Dose-mortality Slope = 2.0**			**Dose-mortality Slope = 8.3**		
RC rat-only millimole[6]	9.36 ±0.16	8.86 ±0.18	0.50* (5.3%)	7.92 ±0.18	7.43 ±0.20	0.49* (6.2%)
RC rat-only weight[7]	9.36 ±0.16	8.80 ±0.17	0.56* (6.0%)	7.92 ±0.18	7.38 ±0.20	0.54* (6.8%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity; UDP=Up-and-Down Procedure.
*Statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference is shown in parentheses.
[1]Mean numbers of animals ±standard errors for 10,000 simulations for each of the 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Upper limit dose =5000 mg/kg.
[2]OECD (2001a); EPA (2002a).
[3]Default starting dose =175 mg/kg.
[4]The starting dose = one default dose lower than the predicted acute oral LD_{50} calculated using the IC_{50} value in the specified regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the *in vitro* testing with each test method.
[5]Difference between mean animal use with default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.
[6]$\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.
[7]$\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (μg/mL) + 2.024.

These analyses showed that:

- For each *in vitro* NRU test method and regression, animal savings were statistically significant for substances in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg and $LD_{50} > 5000$ mg/kg toxicity categories.
- For substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg and $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg, both *in vitro* NRU test methods with each regression used slightly more animals than the default-starting dose, but the differences were not statistically significant.

Animal Savings for the UDP by GHS Acute Oral Toxicity Category Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses with the RC Rat-Only Millimole Regression

Table 10-3 shows the animal savings by GHS category when the IC_{50} values are used with the RC rat-only millimole regression. Mean animal savings were statistically significant ($p < 0.05$) by a one-tailed Wilcoxon signed rank test for the following GHS toxicity categories, test methods, and dose-mortality slopes:

- The use of the NHK NRU test method at both dose-mortality slopes for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg that produced savings of 0.49 (6.5%) to 0.52 (6.1%) animals per test.
- The use of the 3T3 NRU test method at the 8.3 dose-mortality slope for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg that produced a saving of 0.31 (4.1%) animals per test.
- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg that produced savings of 1.11 (12.1%) to 1.28 (11.9%) animals per test.
- The use of both *in vitro* NRU test methods and both dose-mortality slopes for substances with an $LD_{50} > 5000$ mg/kg that produced savings of 1.47 (14.8%) to 1.58 (20.3%) animals per test.

The mean animal savings for the 3T3 and NHK NRU test methods were similar for most toxicity categories at both dose-mortality slopes, with the mean savings with the 3T3 slightly higher than with the NHK. For the dose-mortality slope of 2.0, the mean animal savings with the 3T3 NRU test method ranged from -0.42 (-5.5%) to 1.58 (16.0%) animals per test for the various toxicity categories, and savings for the NHK NRU test method ranged from -0.34 (-3.5%) to 1.47 (14.8%) animals per test. For the dose-mortality slope of 8.3, animal savings for the 3T3 NRU test method ranged from -0.29 (-4.3%) to 1.58 (20.3%) animals per test and savings for the NHK NRU test method ranged from -0.33 (-3.9%) to 1.47 (19.2%) animals per test. Animal savings were also obtained for highly toxic substances ($LD_{50} \leq 5$ mg/kg) with both the 3T3 (0.96 [9.9%] to 1.14 [10.0%] animals per test) and NHK (0.71 [7.3%] to 0.75 [6.7%] animals per test) NRU test methods, but the savings were not statistically significant.

No mean animal savings (≤-0.28 animal per test) were observed for substances with $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg by either the 3T3 or the NHK NRU test method. This category includes the default starting dose of 175 mg/kg. Animal savings were not expected for this category because savings were determined by comparing animal use with the IC_{50}-based starting dose with animal use at the default starting dose. No animal savings (-0.07 to -0.34 animals per test) were observed for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg for either NRU test method. None of these differences in animal use was statistically significant.

Table 10-3 Animal Use[1] for the UDP[2] by GHS Acute Oral Toxicity Category[3] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Rat-Only Millimole Regression[4]

		Dose-mortality Slope = 2.0			Dose-mortality Slope = 8.3		
GHS Acute Oral Toxicity Category[3]	**Number of Reference Substances**	**With Default Starting Dose[5]**	**With IC_{50}-Based Starting Dose[6]**	**Animals Saved[7]**	**With Default Starting Dose[5]**	**With IC_{50}-Based Starting Dose[6]**	**Animals Saved[7]**
		3T3 NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.32 ±0.20	10.19 ±0.70	1.14 (10.0%)	9.70 ±0.28	8.74 ±0.43	0.96 (9.9%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.68 ±0.23	9.74 ±0.45	-0.07 (-0.7%)	8.46 ±0.28	8.54 ±0.47	-0.08 (-1.0%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.76 ±0.10	8.18 ±0.21	-0.42 (-5.5%)	6.61 ±0.19	6.90 ±0.19	-0.29 (-4.3%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.53 ±0.21	8.14 ±0.21	0.38 (4.5%)	7.46 ±0.24	7.15 ±0.19	0.31* (4.1%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.73 ±0.10	9.46 ±0.15	1.28* (11.9%)	9.17 ±0.23	7.96 ±0.31	1.21* (13.2%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	12	9.87 ±0.34	8.29 ±0.49	1.58* (16.0%)	7.76 ±0.59	6.18 ±0.69	1.58* (20.3%)
		NHK NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.21 ±0.24	10.47 ±0.71	0.75 (6.7%)	9.66 ±0.27	8.95 ±0.52	0.71 (7.3%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.65 ±0.16	9.99 ±0. 45	-0.34 (-3.5%)	8.43 ±0.26	8.77 ±0.49	-0.33 (-3.9%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.78 ±0.11	8.12 ±0.21	-0.34 (-4.4%)	6.57 ±0.19	6.85 ±0.19	-0.28 (-4.2%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.55 ±0.22	8.03 ±0.23	0.52* (6.1%)	7.49 ±0.25	7.00 ±0.20	0.49* (6.5%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.75 ±0.08	9.54 ±0.20	1.21* (11.3%)	9.17 ±0.23	8.06 ±0.29	1.11* (12.1%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	13	9.87 ±0.32	8.41 ±0.44	1.47* (14.8%)	7.66 ±0.59	6.18 ±0.69	1.47* (19.2%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity; UDP=Up-and-Down Procedure.

*Statistically significant ($p<0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference shown in parentheses.

[1]Mean numbers of animals used ±standard errors for 10,000 simulations for each substance with an upper limit dose of 5000 mg/kg. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Results are provided for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Substances were categorized using the rat acute oral LD_{50} reference values in mg/kg from **Table 4-2**.

[2]OECD (2001a); EPA (2002a).

[3]UN (2005).

[4]The RC rat-only millimole regression is $\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.

[5]Default starting dose = 175 mg/kg.

[6]The starting dose was one default dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} value for each reference substance in the RC rat-only millimole regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[7]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the predicted starting dose.

The animal savings from the future use of these *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only millimole regression will depend on the proportion of test substances that will fall into each of the GHS categories.

Animal Savings for the UDP by GHS Category Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses with the RC Rat-Only Weight Regression

Table 10-4 shows the mean animal savings by GHS acute oral toxicity category when the IC_{50} values are used with the RC rat-only weight regression. A comparison of mean animal savings, by category, with the RC rat-only millimole regression, indicates that, in most cases, animal savings were slightly higher for the RC rat-only weight regression than for the millimole regression. In the RC rat-only weight regression, the mean differences between animal use for the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-determined starting dose were statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test for the following GHS categories, NRU test methods, and dose-mortality slopes:

- The use of the 3T3 NRU test method at the 8.3 mortality-slope for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg that produced a savings of 0.28 (3.8%) animals per test.
- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose mortality slopes for substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg that produced savings of 1.28 (14.0%) to 1.64 (15.2%) animals per test.
- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg that produced savings of 1.53 (20.0%) to 1.65 (16.7%) animals per test.

For the dose-mortality slope of 2.0, the mean animal savings (for the various GHS categories) with the 3T3 NRU test method ranged from -0.25 (-3.3%) to 1.65 (16.7%) animals per test, and from -0.24 (-3.1%) to 1.54 (15.6%) animals per test using the NHK NRU test method. At the dose-mortality slope of 8.3, animal savings with the 3T3 NRU test method ranged from -0.18 (-2.7%) to 1.63 (21.0%) animals per test, and savings for the NHK NRU test method ranged from -0.18 (-2.7%) to 1.53 (20.0%) animals per test. Animal savings were also obtained for highly toxic substances ($LD_{50} \leq 5$ mg/kg) with both the 3T3 (0.78 [8.0%] to 0.90 [8.0%] animals per test) and NHK (0.69 [7.1%] to 0.72 [6.4%] animals per test) NRU test methods, but these savings were not statistically significant.

There were no mean animal savings (≤-0.18 animals per test) for substances with $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg with either *in vitro* NRU test method. This category includes the default starting dose of 175 mg/kg. Animal savings were not expected for this category because savings were determined by comparing animal use at the IC_{50}-based starting dose with animal use at the default starting dose. For the NHK NRU test method, there were no animal savings (-0.07 to -0.13 animals per test) when used for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg. None of these small changes in animal use were statistically significant.

The animal savings from testing new substances with these *in vitro* NRU test methods using the RC rat-only weight regression will depend on the proportion of test substances that fall into each of the GHS categories.

Table 10-4 Animal Use[1] for the UDP[2] by GHS Acute Oral Toxicity Category[3] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Rat-Only Weight Regression[4]

		Dose-mortality Slope = 2.0			Dose-mortality Slope = 8.3		
GHS Acute Oral Toxicity Category[3]	**Number of Reference Substances**	**With Default Starting Dose[5]**	**With IC_{50}-Based Starting Dose**	**Animals Saved[7]**	**With Default Starting Dose[5]**	**With IC_{50}-Based Starting Dose**	**Animals Saved[7]**
		3T3 NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.29 ±0. 20	10.38 ±0.62	0.90 (8.0%)	9.70 ±0.28	8.92 ±0.37	0.78 (8.0%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.71 ±0.22	9.58 ±0.42	0.13 (1.3%)	8.47 ±0.28	8.41 ±0.44	0.06 (0.8%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.74 ±0.10	7.99 ±0.18	-0.25 (-3.3%)	6.58 ±0.19	6.76 ±0.18	-0.18 (-2.7%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.52 ±0.21	8.16 ±0.19	0.35 (4.1%)	7.46 ±0.24	7.17 ±0.16	0.28* (3.8%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.78 ±0.11	9.14 ±0.24	1.64* (15.2%)	9.20 ±0.24	7.61 ±0.37	1.59* (17.3%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	12	9.87 ±0.34	8.23 ±0.48	1.65* (16.7%)	7.76 ±0.59	6.14 ±0.69	1.63* (21.0%)
		NHK NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	11.21 ±0.24	10.49 ±0.71	0.72 (6.4%)	9.66 ±0.27	8.97 ±0.52	0.69 (7.1%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	9.70 ±0.18	9.78 ±0.41	-0.07 (-0.8%)	8.45 ±0.27	8.59 ±0.44	-0.13 (-1.6%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	7.75 ±0.11	7.99 ±0.21	-0.24 (-3.1%)	6.58 ±0.19	6.76 ±0.18	-0.18 (-2.7%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	8.54 ±0.21	8.20 ±0.22	0.34 (3.9%)	7.48 ±0.23	7.17 ±0.16	0.31 (4.1%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	10.77 ±0.08	9.40 ±0.25	1.38*(12.8%)	9.18 ±0.23	7.90 ±0.33	1.28* (14.0%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	13	9.88 ±0.32	8.34 ±0.44	1.54*(15.6%)	7.66 ±0.56	6.12 ±0.63	1.53* (20.0%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity; UDP=Up-and-Down Procedure.

*Statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percent difference is shown in parentheses.

[1]Mean number of animals used ±standard errors for 10,000 simulations for each substance with a limit dose of 5000 mg/kg. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Results are provided for 67 substances for the 3T3 NRU test method and 68 substances for the NHK NRU test method categorized using the rat acute oral LD_{50} reference values in mg/kg from **Table 4-2**.

[2]OECD (2001a); EPA (2002a).

[3]UN (2005).

[4]The RC rat-only weight regression is $\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (µg/mL) + 2.024

[5]Default starting dose = 175 mg/kg.

[6]The starting dose was one default dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} values for each reference substance in the RC rat-only weight regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[7]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the predicted starting dose.

10.2.4 Refinement of Animal Use for the UDP When Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses

A procedure refines animal use when it lessens or eliminates pain or distress in animals or enhances animal well-being (ICCVAM 2003). This section evaluates whether the use of 3T3- and NHK-based starting doses refines animal use by reducing the number of animals that die and experience accompanying pain and distress during UDP testing, compared to the number of animals that die when the default starting dose of 175 mg/kg is used. **Table 10-5** reports the results for the UDP simulation modeling using the 5000 mg/kg limit dose. For every regression evaluated, the mean number of deaths when using the IC_{50}-based starting doses were essentially equal to the mean number of deaths when using the default starting dose. The percentage of deaths, however, was slightly higher for the IC_{50}-based starting doses than for the default starting dose because the total number of animals used was lower for the IC_{50}-based starting doses. Thus, fewer animals were used when using an IC_{50}-based starting dose compared with use of the default starting dose, but the same numbers of animals died.

Table 10-5 Animal Deaths[1] in the UDP[2] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods

Assay/Regression	With Default Starting Dose[3]			With IC_{50}-Based Starting Dose[4]		
	Used	Dead	% Deaths	Used	Dead	% Deaths
3T3 NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**					
RC rat-only millimole[5]	9.35	4.11	44.0%	8.80	4.09	46.5%
RC rat-only weight[6]	9.36	4.11	43.9%	8.70	4.05	46.6%
	Dose-Mortality Slope = 8.3					
RC rat-only millimole[5]	7.95	3.44	43.3%	7.42	3.43	46.2%
RC rat-only weight[6]	7.94	3.43	43.2%	7.32	3.39	46.3%
NHK NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**					
RC rat-only millimole[5]	9.36	4.08	43.6%	8.86	4.07	45.9%
RC rat-only weight[6]	9.36	4.08	43.6%	8.80	4.02	45.7%
	Dose-Mortality Slope = 8.3					
RC rat-only millimole[5]	7.92	3.39	42.8%	7.43	3.39	45.6%
RC rat-only weight[6]	7.92	3.39	42.8%	7.38	3.35	45.4%

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity; UDP=Up-and-Down Procedure.

[1]Numbers are mean numbers of animals used for 10,000 simulations for each substance. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Upper limit dose = 5000 mg/kg. Results are provided for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test methods.

[2]OECD (2001a); EPA (2002a).

[3]Default starting dose = 175 mg/kg.

[4]The starting dose was one default dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} value in the regression specified. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[5]$\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.

[6]$\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (μg/mL) + 2.024.

10.2.5 Accuracy of UDP Outcomes Using the IC_{50}-Based Starting Doses

For each of the reference substances, the outcome of the simulated UDP testing, the simulated LD_{50} was used to classify the substance into a GHS acute oral toxicity category. The accuracy of GHS toxicity category assignments using the IC_{50}-based starting doses was determined by calculating the proportion of reference substances for which the GHS acute oral toxicity category obtained using the IC_{50}-based starting dose matched the categories obtained using the default starting dose.

The concordance between the GHS categories determined using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only millimole regression, and those determined using the UDP default starting dose, was 96% for 3T3 and 97% for NHK (see **Appendix N1**). The discordant reference substances were acetaminophen and sodium dichromate dihydrate in the 3T3 NRU test method, and acetaminophen, caffeine, and sodium dichromate dihydrate in the NHK NRU test method. The use of the IC_{50}-based starting dose from both *in vitro* NRU test methods resulted in a higher GHS category (i.e., higher simulated LD_{50}) for acetaminophen (simulated LD_{50} = 2047 vs. 1765 mg/kg for 3T3, and LD_{50} = 2174 vs. 1755 mg/kg for NHK), and a lower GHS category for sodium dichromate dihydrate (simulated LD_{50} = 44 vs. 52 mg/kg for 3T3 and LD_{50} = 45 vs. 52 mg/kg for NHK) than when using the default starting dose. The NHK-based starting dose resulted in a lower GHS category for caffeine (simulated LD_{50} = 280 vs. 357 mg/kg).

The concordance of GHS acute toxicity category predictions with those determined using the default starting dose was 97% for the 3T3 and NHK NRU test methods when the RC rat-only weight regression was used (see **Appendix N2**). The discordant reference substances were caffeine and sodium dichromate dihydrate. The simulated LD_{50} outcome for caffeine was lowered from 338 mg/kg for the default starting dose to 272 mg/kg for the 3T3-based starting dose, and from 339 mg/kg to 270 mg/kg for the NHK-based starting dose. The simulated LD_{50} outcome for sodium dichromate dihydrate was lowered from 51 mg/kg for the default starting dose to 48 mg/kg for the 3T3-based starting dose, and from 51 mg/kg to 49 mg/kg for the NHK-based starting dose.

Thus, the use of the IC_{50}-based starting doses did not significantly alter the outcome of the simulated UDP tests compared with the outcome obtained using the default starting doses.

10.3 Reduction and Refinement of Animal Use in the ATC Method

10.3.1 *In Vivo* Testing Using the ATC Method

This section describes the general dosing procedure for the conduct of the ATC procedure (OECD 2001d). The ATC is used to assign a test substance to the appropriate GHS category for classification and labeling. This is done by estimating the range of the LD_{50} values for the test substance, rather than calculating a point estimate of the LD_{50}. The time between administration of test substance doses is determined by the onset, duration, and severity of toxic signs. Guidance on the types of animals to use, animal housing, clinical observations, etc., which are outside the scope of the current discussion, are provided in the test guideline (See **Appendix M3**).

10.3.1.1 *Main Test*

The ATC method uses a stepwise administration of test substances to three animals at a time, at one of a number of fixed doses: 5, 50, 300, and 2000 mg/kg (and 5000 mg/kg, if necessary). The starting dose is selected so that at least some of the animals die at that dose. If no information on which to base a starting dose is available, a default starting dose of 300 mg/kg is used. The next step is determined by the starting dose and the outcome of the three animals tested at the starting dose and may be a decision to stop testing, test additional animals at the same dose, test at the next higher dose, or test at the next lower dose. For example, if two to three animals die or are in a moribund state after receiving the 300 mg/kg starting dose, the next step is to administer 50 mg/kg to three more animals. However, if no, or one, animal dies at 300 mg/kg, three additional animals are tested at that dose. Most substances require two to four dosing steps before they can be classified, and testing can be stopped. See **Appendix M3** for the outcome-based testing sequence for each starting dose.

10.3.1.2 *Limit Test*

For test substances that are likely to be nontoxic, the ATC guideline includes a limit test in which six animals (three animals per step [see **Appendix M3**]) are tested at the limit dose of 2000 mg/kg or three animals are tested at a limit dose of 5000 mg/kg (OECD 2001d).

10.3.2 Computer Simulation Modeling of the ATC Method

The simulation for the ATC method was performed using MATLAB® (The MathWorks, Inc. 1996-2004) computational software, which is functionally comparable with SAS® version 8. Two thousand simulations of ATC testing were run for each substance, *in vitro* NRU test method, and dose-mortality slope, using an upper limit dose of 2000 mg/kg[7]. The simulation implements the distributional assumptions underlying the dose-mortality response. The lowest dose at which an animal dies in response to the administration of a toxic substance varies from animal to animal. For an entire population of animals, mortality is assumed to have a log-normal distribution with the mean equal to the log of the true LD_{50}. Sigma (σ), the variability of the simulated population, is the inverse of the slope of the dose-mortality curve. For any given dose, the probability that an animal will die is computed by the cumulative log-normal distribution:

$$\text{Probability (death)} = \frac{1}{\sigma\sqrt{2\pi}} \int_{-\infty}^{\log dose} e^{\frac{-(t-\log trueLD_{50})^2}{2\sigma^2}} dt$$

Because of a lack of information regarding the real dose-mortality curves, the simulations assumed several different values of the slope (i.e., the inverse of σ). Dose-mortality slopes of 0.5, 0.8, 2.0, 4.0, and 8.3 were chosen, so as to be comparable to the slopes chosen for simulation modeling of the UDP (see **Section 10.2.2**).

To model the variability of the IC_{50} values within and among laboratories, the values for each substance were log-transformed to normalize their distribution. The mean and variance of

[7] The results from ATC simulations for a limit dose of 5000 mg/kg will be presented in a future addendum to this document.

these log-transformed values were used to generate a log-normal distribution from which to randomly select an IC_{50} value.

The simulation procedure used the following steps for each substance:

1. The rodent acute oral LD_{50} value (in mg/kg) from **Table 4-2** was entered as the true LD_{50} value and the choices of assumed slope were entered as the true slope for the dose-mortality curve.
2. An IC_{50} value was selected from a distribution identified by the mean and variance of the IC_{50} values computed from the data to reflect that different laboratories produce different IC_{50} values in different situations (see **Tables 5-4** and **5-5** for mean IC_{50} values and standard deviations for the 3T3 and NHK NRU test methods, respectively).
3. The IC_{50} value from Step 2 was used in the regression model being evaluated to compute a predicted LD_{50} value for determining the starting dose.
4. The dosing simulation (of 2000 iterations) was run twice: once with the default starting dose of 300 mg/kg and once with a starting dose equal to the next fixed dose below the predicted LD_{50}, which was estimated by the regression being evaluated (i.e., the IC_{50}-based starting dose). If the IC_{50}-based starting dose was greater than the 2000 mg/kg limit dose, then testing proceeded using the 2000 mg/kg limit test rather than the main test.
5. For every dose group of three animals, one observation was sampled from a binomial distribution with the probability of death calculated by the probability equation for a population of three. The sampled value, referred to as N1, indicates the number of animals, 0, 1, 2, or 3, in the dosing group that die.
6. If N1 $\leq$1, step 4 is repeated with the same dose. The resulting sampled value from the binomial distribution is referred to as N2.
7. If N2 $\leq$1 and the dose is the highest dose tested, or the dose has already been decreased, a toxicity category is assigned and testing is terminated. If the dose is not the highest dose tested, or if the dose has not been decreased, the next higher fixed dose is administered and step 4 is repeated.
8. If N1 >1 or N2 >2, and the dose is the lowest dose tested, or if the dose has already been increased, a toxicity category is assigned and testing is terminated. If the dose is not the lowest dose tested, or if the dose has not already been increased, the next lower fixed dose is administered and step 4 is repeated.

10.3.3 Animal Savings for the ATC Method When Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses

10.3.3.1 *The Effect of the Dose-Mortality Slope on Animal Use*

As described in **Section 10.3.2**, the simulation modeling of animal use for the ATC used five different dose-mortality slopes to assess animal use under various conditions of population variability. **Table 10-6** shows how mean animal use for the simulated ATC changes with dose-mortality slope for both the default starting dose of 300 mg/kg and a starting dose that was one fixed dose lower than that predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} values with the RC rat-only millimole regression. The mean number of animals used for the ATC method

decreased slightly with increasing slope for both the default starting dose and the IC_{50}-based starting dose.

The mean numbers of animals saved at all dose-mortality slopes were statistically significant ($p < 0.05$ by one-sided Wilcoxon signed rank tests) when compared with mean animal use with the default dose, and tended to decrease with increasing slope. To simplify the presentation of animal savings and comparisons of the various regressions and starting doses, subsequent results in **Section 10.3.3** are shown only for dose-mortality slopes of 2.0 and 8.3. As stated earlier, these slopes are shown here because the slope of 2.0 is the default used for the calculation of LD_{50} by the UDP method (OECD 2001a; EPA 2002a) and the slope of 8.3 is shown to represent substances, such as pesticides, with higher slopes. Results for the other dose-mortality slopes were computed, and are presented in **Appendices N3** and **N4**.

Table 10-6 Change in Animal Use[1] with Dose-Mortality Slope in the ATC Method[2]

Dose-Mortality Slope	With Default Starting Dose[1,3]	With IC_{50}- Based Starting Dose[1,4]	Animals Saved[5]
3T3 NRU Test Method			
0.5	11.25 ±0.05	10.56 ±0.17	0.69* (6.1%)
0.8	11.10 ±0.07	10.46 ±0.19	0.64* (5.8%)
2.0	10.89 ±0.12	10.27 ±0.24	0.62* (5.7%)
4.0	10.73 ±0.15	10.15 ±0.26	0.58* (5.4%)
8.3	10.64 ±0.17	10.13 ±0.27	0.51* (4.8%)
NHK NRU Test Method			
0.5	11.25 ±0.05	10.43 ±0.16	0.82* (7.3%)
0.8	11.10 ±0.07	10.31 ±0.18	0.79* (7.1%)
2.0	10.91 ±0.11	10.11 ±0.24	0.80* (7.3%)
4.0	10.75 ±0.15	9.98 ±0.27	0.77* (7.1%)
8.3	10.67 ±0.17	9.96 ±0.29	0.70* (6.6%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ATC=Acute Toxic Class method; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

*Statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon rank test. Percent difference is shown in parentheses.

[1]Mean numbers of animals used ± standard errors for 2000 simulations each for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Upper limit dose = 2000 mg/kg.

[2]OECD (2001d).

[3]Default starting dose = 300 mg/kg.

[4]Next fixed dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} value for each reference substance in the RC rat-only millimole regression: log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[5]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.

10.3.3.2 *Mean Animal Use for ATC Simulations – Comparison of Regressions and Predictions from the 3T3 and NHK NRU Test Methods*

Table 10-7 shows the mean animal use for testing the reference substances using the simulated ATC method, when the starting dose was the default starting dose and when the starting dose was one fixed dose lower than that determined by the 3T3 and NHK-predicted LD_{50}, and the regressions evaluated in **Section 6.4** for prediction of GHS category. The mean difference in animal use between the two starting doses is the mean animal savings. All mean animal savings were statistically significant ($p < 0.05$ using one-sided Wilcoxon signed rank tests), and ranged from 0.51 (4.8%) to 1.09 (10.2%) animals per test depending upon the NRU test method, regression, and dose-mortality slope. The lowest mean animal savings were obtained for the RC rat-only millimole regression (0.51 [4.8%] to 0.80 [7.3%] animals per test), and the highest were obtained with the RC rat-only weight regression (0.91 [8.6%] to 1.09 [10.2%] animals per test).

The animal savings obtained using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only regressions apply only to the reference substances evaluated in this validation study, and are based on substances pre-selected for their known *in vivo* toxicities and may not be broadly applicable to other substances. **Table 3-4** shows that 22 (38%) of the 58 RC substances selected for testing were known to have a poor fit to the RC millimole regression (i.e., the predicted LD_{50} was outside the RC acceptance interval). **Table 6-3** shows that 40% (28/70 in the 3T3) and 44% (31/71 in the NHK) of the reference substances that yielded IC_{50} values were outliers. Substances that better fit the regression are likely to yield greater animal savings.

Table 10-7 Animal Use[1] for the ATC[2] Method Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the Different Regressions

Method/Regression	With Default Starting Dose[3]	With IC_{50}- Based Starting Dose[4]	Animals Saved[5]	With Default Starting Dose[3]	With IC_{50}- Based Starting Dose[5]	Animals Saved[5]
3T3 NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**			**Dose-Mortality Slope = 8.3**		
RC rat-only millimole[6]	10.89 ±0.12	10.27 ±24	0.62* (5.7%)	10.64 ±0.17	10.13 ±0.27	0.51* (4.8%)
RC rat-only weight[7]	10.89 ±0.12	9.85 ±0.24	1.04* (9.6%)	10.64 ±0.17	9.55 ±0.29	1.09* (10.2%)
NHK NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**			**Dose-Mortality Slope = 8.3**		
RC rat-only millimole[6]	10.91 ±0.11	10.11 ±0.24	0.80* (7.3%)	10.67 ±0.17	9.96 ±0.29	0.70* (6.6%)
RC rat-only weight[7]	10.91 ±0.11	9.95 ±0.24	0.96* (8.8%)	10.67 ±0.17	9.75 ±0.30	0.91* (8.6%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ATC=Acute Toxic Class method; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.
*Statistically significant ($p<0.05$) using a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference is shown in parentheses.
[1]Mean numbers of animals used ±standard errors for 2000 simulations each for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.
[2]OECD (2001d).
[3]Default starting dose =300 mg/kg.
[4]Starting dose was one fixed dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} value for each reference substance in the regression specified. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each test method.
[5]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.
[6]$\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.
[7]$\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (μg/mL) + 2.024.

10.3.3.3 *Animal Savings in the ATC Method by GHS Acute Oral Toxicity Category Using the 3T3- and NHK -Based Starting Doses*

Tables 10-8 and **10-9** show mean animal use and mean animal savings for the ATC when used with the *in vitro* NRU test methods, organized by GHS category (UN 2005), and when based on the:

- RC rat-only millimole regression (**Table 10-8**)
- RC rat-only weight regression (**Table 10-9**)

The following data come from the same analyses as the data provided in **Table 10-7**.

The analyses showed that:

- For each *in vitro* NRU test method and regression, the highest mean animal savings were generally in the LD_{50} ≤5 mg/kg and LD_{50} >5000 mg/kg toxicity categories.
- For each NRU test method and regression, the lowest mean animal savings were in the 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg toxicity category.

Animal Savings in the ATC Method by GHS Category Using the 3T3- and NHK-Based Starting Doses with the RC Rat-Only Millimole Regression

Table 10-8 shows the mean animal savings in the ATC method by GHS category for the *in vitro* NRU test methods used with the RC rat-only millimole regression. Mean differences between animal use for the default starting dose and with the IC_{50}-determined starting dose were statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test for the following GHS toxicity categories, NRU test methods, and dose-mortality slopes:

- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with 5 < LD_{50} ≤50 mg/kg produced savings of 1.15 (9.8%) to 1.33 (11.4%) animals per test
- The use of the 3T3 NRU test method at both dose-mortality slopes for substances with 300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg used more animals per test (i.e., produced savings of -0.92 [-9.5%] to -1.30 [-14.0%] animals per test)
- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with LD_{50} >5000 mg/kg produced savings of 2.03 (17.1%) to 2.66 (22.2%) animals per test

At the dose-mortality slope of 2.0, the mean animal savings with the 3T3 NRU test method ranged from -0.92 (-9.5%) to 2.68 (27.4%) animals per test, and the animal savings with the NHK NRU test method ranged from -0.60 (-6.1%) to 2.96 (30.4%) animals per test. At the dose-mortality slope of 8.3, the mean animal savings with the 3T3 NRU test method ranged from -1.30 (-14.0%) to 2.70 (29.7%) animals per test, and the animal savings with the NHK NRU test method ranged from -0.85 (-9.2%) to 2.99 (33.0%) animals per test.

Table 10-8 Animal Savings[1] for the ATC[2] Method by GHS Acute Oral Toxicity Category[3] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Rat-Only Millimole Regression[4]

		Dose-Mortality Slope = 2.0			Dose-Mortality Slope = 8.3		
GHS Acute Oral Toxicity Category[3]	**Number of Reference Substances**	**With Default Starting Dose[5]**	**With IC_{50}-Based Starting Dose[6]**	**Animals Saved[7]**	**With Default Starting Dose[5]**	**WithIC_{50}-Based Starting Dose[6]**	**Animals Saved[7]**
		3T3 NRU Test Method					
LD_{50} ≤5 mg/kg	6	9.77 ±0.17	7.09 ±1.09	2.68 (27.4%)	9.08 ±0.08	6.38 ±1.09	2.70 (29.7%)
5 < LD_{50} ≤50 mg/kg	11	11.56 ±0.21	10.39 ±0.52	1.17* (10.2%)	11.75 ±0.16	10.60 ±0.43	1.15* (9.8%)
50 < LD_{50} ≤300 mg/kg	12	10.81 ±0.20	10.39 ±0.17	0.42 (3.9%)	9.42 ±0.26	9.27 ±0.11	0.15 (1.6%)
300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg	16	9.75 ±0.07	10.67 ±0.48	-0.92* (-9.5%)	9.26 ±0.10	10.56 ±0.62	-1.30* (-14.0%)
2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg	10	11.22 ±0.08	11.14 ±0.08	0.08 (0.7%)	11.88 ±0.10	11.77 ±0.10	0.11 (0.9%)
LD_{50} >5000 mg/kg	12	11.85 ±0.04	9.82 ±0.78	2.03* (17.1%)	12.00 ±0.000	9.81 ±0.84	2.19* (18.3%)
		NHK NRU Test Method					
LD_{50} ≤5 mg/kg	6	9.74 ±0.16	6.78 ±1.31	2.96 (30.4%)	9.09 ±0.08	6.09 ±1.23	2.99 (33.0%)
5 < LD_{50} ≤50 mg/kg	11	11.56 ±0.21	10.38 ±0.35	1.18* (10.2%)	11.76 ±0.17	10.42 ±0.45	1.33* (11.4%)
50 < LD_{50} ≤300 mg/kg	12	10.83 ±0.21	10.39 ±0.29	0.44 (4.0%)	9.44 ±0.26	9.63 ±0.49	-0.20 (-2.1%)
300 < LD_{50} ≤2000 mg/kg	16	9.77 ±0.06	10.37 ±0.49	-0.60 (-6.1%)	9.26 ±0.10	10.11 ±0.63	-0.85 (-9.2%)
2000 < LD_{50} ≤5000 mg/kg	10	11.22 ±0.08	11.25 ±0.12	-0.03 (-0.3%)	11.87 ±0.10	11.89 ±0.15	-0.02 (-0.2%)
LD_{50} >5000 mg/kg	13	11.86 ±0.03	9.43 ±0.73	2.43* (20.5%)	12.00 ±0.000	9.34 ±0.80	2.66* (22.2%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ATC=Acute Toxic Class method; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

*Statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference is shown in parentheses.

[1]Mean number of animals used ±standard errors for 2000 simulations for each substance with an upper limit dose of 2000 mg/kg. Results are provided for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method categorized using the rat acute oral LD_{50} reference values in mg/kg from **Table 4-2**. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers.

[2]OECD (2001d).

[3]GHS for acute oral toxicity (UN 2005).

[4]The RC rat-only millimole regression is log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621.

[5]Default starting dose =300 mg/kg.

[6]The starting dose was the next fixed dose lower than the predicted LD_{50} using the IC_{50} for each reference substance in the RC rat-only millimole regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[7]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.

At both the 2.0 and 8.3 dose-mortality slopes, the mean animal savings using the 3T3 NRU test method were lower than the corresponding savings using the NHK NRU test method, for substances in at least four of the six toxicity categories: $LD_{50} \leq 5$ mg/kg; $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg; $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg; and $LD_{50} > 5000$ mg/kg. The mean animal savings per test were higher with the 3T3 NRU test method than the NHK NRU test method for substances in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category at both dose-mortality slopes. For substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg category, the mean animal savings using the 3T3 NRU test method was greater than the savings using the NHK NRU test method, when the dose-mortality slope equaled 8.3. When the 3T3 NRU test method was used, the highest mean animal savings occurred when testing substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg category (2.68 [27.4%] animals per test at dose-mortality slope = 2.0, and 2.70 [29.7%] at dose-mortality slope = 8.3). When the NHK NRU test method was used, the highest mean animal savings occurred when testing substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg category (2.96 [30.4%] animals per test at dose-mortality slope = 2.0, and 2.99 [33.0%] animals per dose at dose-mortality slope = 8.3). However, the animal savings were not statistically significant with either *in vitro* NRU test method.

The smallest mean animal savings (≤0.44) in both *in vitro* NRU test methods were observed for substances with LD_{50} values between 50 and 5000 mg/kg. Because the default starting dose was 300 mg/kg, little change in mean animal use was expected for substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg and $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg categories. The mean animal savings from both *in vitro* NRU test methods and both dose-mortality slopes for the substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg category were -0.20 to 0.44 animals per test. There were no animal savings for substances in the $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg category using either NRU test method or dose-mortality slope. In fact, significantlyore animals were used when the starting doses were based on the 3T3 NRU IC_{50} than using the default starting dose (-0.92 to -1.30 animals per test). More animals were also used when the starting doses were based on the NHK NRU IC_{50} (-0.85 to -0.60 animals/test), but the difference was not statistically significant.

The animal savings in the various GHS acute oral toxicity categories using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only millimole regression applies only to the reference substances evaluated in this validation study, and may not be broadly applicable to other substances. The animal savings for future testing using the *in vitro* NRU test methods with the RC rat-only millimole regression will depend on the prevalence of test substances in each of the GHS acute oral toxicity categories.

Animal Savings with the ATC Method by GHS Category Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses with the RC Rat-Only Weight Regression

Table 10-9 shows the animal savings for the simulated ATC method by GHS category for the *in vitro* NRU methods used with the RC rat-only weight regression. Mean animal savings were statistically significant ($p < 0.05$) by a one-tailed Wilcoxon signed rank test for the following GHS toxicity categories, NRU test methods, and dose-mortality slopes.

- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg produced savings of 1.25 (10.8%) to 1.51 (13.0%) animals per test.

Table 10-9 Animal Savings[1] for the ATC[2] Method by GHS Acute Oral Toxicity Category[3] Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Rat-Only Weight Regression[4]

GHS Acute Oral Toxicity Category[3]	Number of Reference Substances	Dose-Mortality Slope = 2.0			Dose-Mortality Slope = 8.3		
		With Default Starting Dose[5]	With IC_{50}-Based Starting Dose[6]	Animals Saved[7]	With Default Starting Dose[5]	With IC_{50}-Based Starting Dose[6]	Animals Saved[7]
		3T3 NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	9.77 ±0.17	7.56 ±1.03	2.21 (22.6%)	9.08 ±0.08	6.85 ±0.99	2.24 (24.6%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	11.56 ±0.21	10.06 ±0.38	1.51* (13.0%)	11.75 ±0.16	10.27 ±0.33	1.48* (12.6%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	10.81 ±0.20	10.35 ±0.18	0.47* (4.3%)	9.42 ±0.26	9.20 ±0.10	0.22 (2.4%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	9.75 ±0.07	10.67 ±0.50	-0.93* (-9.5%)	9.26 ±0.10	10.65 ±0.66	-1.39 (-15.0%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	11.22 ±0.08	9.80 ±0.51	1.43* (12.7%)	11.88 ±0.10	9.44 ±0.88	2.43 (20.5%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	12	11.85 ±0.04	8.83 ±0.83	3.02* (25.5%)	12.00 ±0.00	8.67 ±0.91	3.33* (27.7%)
		NHK NRU Test Method					
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg	6	9.74 ±0.16	6.87 ±1.28	2.87 (29.4%)	9.09 ±0.08	6.18 ±1.20	2.91 (32.0%)
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg	11	11.56 ±0.21	10.31 ±0.19	1.25* (10.8%)	11.76 ±0.17	10.40 ±0.33	1.36* (11.5%)
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg	12	10.83 ±0.21	10.41 ±0.28	0.42 (3.8%)	9.44 ±0.26	9.63 ±0.49	-0.20 (-2.1%)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg	16	9.77 ±0.62	10.46 ±0.50	-0.69 (-7.1%)	9.26 ±0.10	10.23 ±0.65	-0.97 (-10.4%)
$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg	10	11.22 ±0.09	10.69 ±0.37	0.53 (4.7%)	11.87 ±0.10	11.03 ±0.60	0.84 (7.1%)
$LD_{50} > 5000$ mg/kg	13	11.86 ±0.03	8.91 ±0.78	2.94* (24.8%)	12.00 ±0.00	8.75 ±0.85	3.25* (27.1%)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ATC=Acute Toxic Class method; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

*Statistically significant ($p < 0.05$) by a one-sided Wilcoxon signed rank test. Percentage difference is shown in parentheses.

[1]Mean number of animals used ±standard errors for 2000 simulations for each substance with an upper limit dose of 2000 mg/kg. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Results are provided for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method categorized using the rat acute oral reference LD_{50} values in mg/kg from **Table 4-2**.

[2]OECD (2001d).

[3]GHS for acute oral toxicity (UN 2005).

[4]From **Table 6-2;** $\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (µg/mL) + 2.024

[5]Default starting dose = 300 mg/kg.

[6]The starting dose was one fixed dose lower than the predicted LD_{50} calculated using the IC_{50} for each reference substance in the RC rat-only weight regression. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[7]Difference between mean animal use with the default starting dose and mean animal use with the IC_{50}-based starting dose.

- The use of the 3T3 NRU test method at the 2.0 dose-mortality slope for substances with $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg produced savings of 0.47 (4.3%) animals per test.
- The use of the 3T3 NRU test method at the 2.0 dose-mortality slope for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg produced savings of -0.93 (-9.5%) animals per test (i.e., used more animals per test than the default starting dose).
- The use of the 3T3 NRU test method at the 2.0 dose-mortality slope for substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg produced savings of 1.43 (12.7%) animals per test.
- The use of both *in vitro* NRU test methods at both dose-mortality slopes for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg produced savings of 2.94 (24.8%) to 3.33 (27.7%) animals per test.

The mean animal savings with the 3T3 and NHK NRU test methods were similar for most acute oral toxicity categories at both dose-mortality slopes; the mean savings for the 3T3 NRU test method was slightly higher than for the NHK NRU test method for most toxicity categories. At the dose-mortality slope of 2.0, the mean animal savings for the 3T3 NRU test method (for the various toxicity categories) ranged from -0.93 (-9.5%) to 3.02 (25.5%) animals per test, and savings for the NHK NRU test method ranged from -0.69 (-7.1%) to 2.94 (24.8%) animals per test. At the dose-mortality slope of 8.3, animal savings with the 3T3 NRU test method ranged from -1.39 (-15.0%) to 3.33 (27.7%) animals per test, and savings with the NHK NRU test method ranged from -0.97 (-10.4%) to 3.25 (27.1%) animals per test.

There were no mean animal savings ($\leq$-0.69 animals) for substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ when either *in vitro* NRU test method was used. The mean animal savings for the substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg category using both *in vitro* NRU test methods and dose-mortality slopes were also relatively small (-0.20 to 0.47 animals per test). Because the default starting dose was 300 mg/kg, little change in mean animal use was expected for substances in the $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg and $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg categories.The highest mean animal savings ($\leq$-0.69 animals) occurred for substances with LD50 >5000 mg/kg when either *in vitro* NRU test method was used. For both test methods and dose-mortality slopes, the mean animal savings for substances in this category were 2.94 (24.8%) to 3.33 (27.7%) animals per test and were statistically significant. Mean animal savings were also high (2.21 [22.6%] to 2.91 [32.0%] animals per test) for substances with $LD_{50} \leq 5$ mg/kg, but these savings were not statistically significant.

The animal savings in the various GHS categories using the two *in vitro NRU* test methods with the RC rat-only weight regression applies only to the reference substances evaluated in this validation study, and may not be broadly applicable to other substances.

10.3.4 Refinement of Animal Use in the ATC Method When Using 3T3- and NHK-Based Starting Doses

A procedure refines animal use when it lessens or eliminates pain or distress in animals, or enhances animal well-being (ICCVAM 2003). This section evaluates whether the use of 3T3- and NHK-based starting doses refines animal use by reducing the number of animals that die

when the IC_{50}-predicted starting doses are used, compared to the number of animals that die when using the default ATC starting dose of 300 mg/kg. **Table 10-10** reports the results for the ATC simulation modeling using the 2000 mg/kg limit dose. For every regression evaluated, the mean number of deaths when using the 3T3- and NHK-based starting doses was less than the mean number of deaths when using the default starting dose, by approximately 0.4 to 0.5 deaths per test. For the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression, the percentage of deaths (compared with the numbers of animals used) was also slightly lower with the *in vitro*-based starting dose compared with the default starting dose. In general, fewer animals were used with the *in vitro*-based starting dose, and fewer animals died.

Table 10-10 Animal Deaths[1] for the ATC[2] Method Using Starting Doses Based on the 3T3 and NHK NRU Test Methods

Method/Regression	Default Starting Dose[3]			IC_{50}- Based Starting Dose[4]		
	Used	Dead	% Deaths	Used	Dead	% Deaths
3T3 NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**					
RC rat-only millimole[5]	10.89	3.77	34.6%	10.27	3.31	32.2%
RC rat-only weight[6]	10.89	3.77	34.6%	9.85	3.27	33.2%
	Dose-Mortality Slope = 8.3					
RC rat-only millimole[5]	10.64	3.20	30.1%	10.13	2.77	27.3%
RC rat-only weight[6]	10.64	3.20	30.1%	9.55	2.73	28.6%
NHK NRU Test Method	**Dose-Mortality Slope = 2.0**					
RC rat-only millimole[5]	10.91	3.72	34.1%	10.11	3.19	31.6%
RC rat-only weight[6]	10.91	3.72	34.1%	9.95	3.21	32.3%
	Dose-Mortality Slope = 8.3					
RC rat-only millimole[5]	10.67	3.15	29.5%	9.96	2.67	26.8%
RC rat-only weight[6]	10.67	3.15	29.5%	9.75	2.67	27.4%

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; ATC=Acute Toxic Class method; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]Mean numbers of animals used for 2000 simulations for each of 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Although the simulations used whole animals, averaging the results over a large number of simulations produced fractional numbers. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]OECD (2001d).

[3]Default starting dose =300 mg/kg.

[4]The starting dose was one fixed dose lower than the predicted LD_{50} calculated by using the IC_{50} for each reference substance in the regression evaluated. The IC_{50} value for each reference substance was randomly selected from the distribution of values obtained during the testing with each method.

[5]$\log LD_{50}$ (mmol/kg) = 0.439 $\log IC_{50}$ (mM) + 0.621.

[6]$\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (μg/mL) + 2.024.

10.3.5 Accuracy of the ATC Method Outcomes Using the IC_{50}-Based Starting Doses

The accuracy of the outcome of the simulated ATC testing (i.e., the simulated GHS acute oral toxicity category) using the IC_{50}-based starting dose was determined by calculating the proportion of reference substances for which the simulated GHS category for the IC_{50}-based starting dose matched the simulated GHS category for the default starting dose.

When the RC rat-only millimole regression with the 3T3 and NHK NRU test methods was used, the concordance of simulated GHS categories for the IC_{50}-based starting doses with those for the default starting dose was 99% for both *in vitro* NRU test methods (see **Appendix N3**). The discordant reference substance in the 3T3 NRU test method was caffeine. The simulated GHS category using the 3T3-based starting dose was $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg, and the simulated GHS category using the default starting dose was $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg.

The discordant reference substance in the NHK NRU test method was sodium dichromate dihydrate. The simulated GHS acute oral toxicity category using the NHK-based starting dose was $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg and the simulated GHS category using the default starting dose was $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg. Both discordant substances were predicted to have a starting dose one category below the actual category.

When the RC rat-only weight regression was used with the 3T3 and NHK NRU test methods, the concordance of simulated GHS acute toxicity category predictions with those determined using the default starting dose was 99% and 97% for the 3T3 and the NHK NRU test methods, respectively (see **Appendix N4**). The discordant reference substance in the 3T3 NRU test method was caffeine. The simulated GHS acute oral toxicity category for caffeine using the 3T3-based starting dose was $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg and that using the default starting dose was $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg. The discordant reference substances in the NHK NRU test method were caffeine and sodium dichromate dihydrate. The simulated GHS acute oral toxicity category for caffeine using the NHK-based starting dose was $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg and the simulated GHS category using the default starting dose was $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg. The simulated GHS acute oral toxicity category for sodium dichromate dihydrate using the NHK-based starting dose was $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg while that for the default starting dose was $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg. Similar to what was seen with the RC millimole regression, the predicted starting doses for the discordant substances were one GHS category below the actual category.

Thus, the use of the IC_{50}-based starting doses did not significantly alter the outcomes of the simulated ATC tests compared with the outcome based on the default starting dose.

10.4 The Impact of Accuracy on Animal Savings

Two types of accuracy analyses were performed for the NICEATM/ECVAM validation study. The first analyses determined the accuracy of using the NRU IC_{50} values with an IC_{50}-LD_{50} regression to predict LD_{50} values. It calculated the concordance for GHS acute oral toxicity category by comparing the GHS categorization yielded by the NRU-predicted LD_{50} values (using the *in vitro* NRU IC_{50} values in the regressions presented in **Table 6-5)** with the GHS categorization based on rat acute oral LD_{50} data (see **Section 6.4**). The second analysis determined the accuracy of the simulation outcomes using the IC_{50}-based starting doses (see **Sections 10.2.5** and **10.3.5**). It calculated the concordance for the GHS acute oral toxicity category outcomes obtained using the IC_{50}-based starting doses with the GHS category outcomes obtained using the default starting dose. The magnitude of animal savings did not correlate with either determination of accuracy and the accuracy determinations for IC_{50}-based predictions and IC_{50}-based outcomes for GHS category did not correlate with one another.

Animal savings did not correlate with the accuracy of the GHS acute oral toxicity category predictions based on the LD_{50} values calculated using the IC_{50} values in the RC rat-only regressions (see **Sections 6.4.2** and **6.4.3**). Substances in categories with the lowest accuracy produced the highest animal savings. For example, using the RC rat-only millimole regression with the *in vitro* NRU IC_{50} values yielded very low accuracy (0 to 17%) for GHS acute oral toxicity category prediction for substances with LD_{50} >5000 mg/kg (see **Table 6-7**), but the highest animal savings of 14.8 to 20.3% occurred in this category (see **Table 10-3**). Animal savings were small, 4.5 to 6.5%, for substances with $300 \leq LD_{50} \leq 2000$ mg/kg, but the accuracy of 75-81% for GHS acute oral toxicity category prediction was relatively high. The reason that animal savings is unrelated to the accuracy of prediction of GHS acute oral toxicity category based on the LD_{50} values calculated using IC_{50} values in the RC rat-only regressions is because two different standards are used for comparison in the two analyses:

- GHS acute oral toxicity category predictions using IC_{50} values in the RC rat-only regressions are compared with the GHS categories derived from the *in vivo* reference LD_{50}
- The number of animals used (to determine animal savings) was compared with the animal use at the default starting dose of 175 mg/kg for the UDP or 300 mg/kg for the ATC

Despite the relatively poor GHS accuracy for the low toxicity chemicals (the toxicity of almost all were overpredicted by one GHS category), animal savings were greatest due to the fact that testing goes to the limit dose faster.

The accuracy of the simulated GHS toxicity category assignments using the IC_{50}-based starting doses for UDP and ATC test simulations was determined by calculating the proportion of reference substances for which the GHS acute oral toxicity category obtained using the IC_{50}-based starting dose matched the categories obtained using the default starting dose (see **Sections 10.2.5** and **10.3.5**). The accuracy of these GHS toxicity category assignments based on the simulation outcomes does not correlate with animal savings using the IC_{50} values in the RC rat-only regressions (see **Sections 6.4.2** and **6.4.3**). For example, the accuracy of GHS acute oral toxicity category outcomes for the ATC test method when using the RC rat-only millimole regression was 100% for the 3T3 NRU test method for substances with $300 \leq LD_{50} \leq 2000$ mg/kg (see **Appendix N3**). In contrast, the animal savings for those substances was negative at -6.1 to -14.0% (i.e., more animals were used compared with the default starting dose) (see **Table 10-8**). The reason the outcome-based GHS acute oral toxicity category predictions is unrelated to animal savings is that two different parameters are being measured in the two analyses:

- The accuracy of the simulatedGHS acute oral toxicity outcomes using the IC_{50}-based starting doses measured outcome (i.e., simulated GHS category based on the simulated LD_{50} outcome for the UDP and simulated GHS category for the ATC)
- The animal savings analysis measured the number of animals used at the IC_{50}-based starting dose and the default starting dose of 175 mg/kg for the UDP or 300 mg/kg for the ATC

Thus, the measurements for the two analyses are different: outcome (i.e., GHS category) and number of animals used to achieve the outcome.

In addition, accuracy of the GHS toxicity category assignments based on the simulation outcomes does not correlate with the accuracy of the GHS acute oral toxicity category predictions using the IC_{50} values in the RC rat-only regressions (see **Section 6.4.2** and **6.4.3**). For example, the overall accuracy of GHS acute oral toxicity category outcomes for the ATC test method when using the RC rat-only millimole regression was 99% for both *in vitro* NRU test methods (see **Section 10.3.5** and **Appendix N3**). In contrast, the overall accuracy of GHS acute oral toxicity category predictions using the using the IC_{50} values in the RC rat-only millimole regression was 31% for the 3T3 NRU test method and 29% for the NHK NRU test method (see **Table 6-7**). The reason the simulated outcome-based GHS acute oral toxicity category predictions differed from the accuracy of the GHS acute oral toxicity category predictions based on the calculation of LD_{50} using the IC_{50} in the IC_{50}-LD_{50} regression is because two different standards are used for comparison in the two analyses:

- Simulated GHS acute oral toxicity outcomes for the IC_{50}-based starting doses were compared with the simulated GHS category outcomes using the default starting doses
- GHS acute oral toxicity category predictions using the IC_{50} values in the RC rat-only regressions were compared with the GHS category derived from the *in vivo* reference LD_{50}

Thus, despite that the IC_{50} values and IC_{50}-LD_{50} regressions predicted GHS acute oral toxicity categories poorly, the GHS acute oral toxicity category outcomes using the IC_{50}-based starting doses were practically the same as the GHS acute oral toxicity category outcomes using the default starting dose.

10.5 The Impact of Prevalence on Animal Savings

As stated several times in this section, the animal savings for substances tested in the futureusing the 3T3 and NHK NRU test methods to determine the staring dose for rodent acute oral toxicity test methods will depend on the proportion of test substances that fall into each of the GHS acute toxicity hazard categories. Although the prevalence of substances among the different categories will depend, to a large extent, on the mandate of a particular regulatory agency, Spielmann et al. (1999) indicated that 76% (845/1115) of the industrial substances submitted to the Federal Institute for Health Protection of Consumers and Veterinary Medicine in Berlin, Germany, since 1982 had LD_{50} >2000 mg/kg. The extent to which these substances represent the population of substances in commerce is not known. However, if the results of the validation study are broadly applicable to substances to be tested in the future, and if such substances are relatively nontoxic, the selection of starting doses using the *in vitro* NRU test methods may save a considerable number of animals since animal savings for the validation study were highest for the least toxic substances.

10.6 Summary

Computer simulation modeling of UDP testing using the default dose progression shows that, for the subset of reference substances evaluated, the prediction of starting doses using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only millimole regression resulted in a statistically significant ($p < 0.05$) decrease in the number of animals used by an average of 0.49 (6.2%) to 0.54 (5.8%) animals per test, depending upon the *in vitro* NRU test method and the dose-mortality slope (2.0 or 8.3) used. The mean animal savings improved slightly, to 0.54 (6.8%) to 0.66 (7.0%) animals per test, when the RC rat-only weight regression was used.

When reference substances were grouped by GHS category, there were no mean animal savings by simulated UDP testing for substances with $50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg. The highest, and statistically significant, animal savings were observed with both *in vitro* NRU test methods when testing substances with $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg and $LD_{50} > 5000$ mg/kg. When using the RC rat-only millimole regression, animal savings for these categories ranged from 1.28 (11.9%) to 1.58 (20.3%) animals per test. The use of the RC rat-only weight regression improved animal savings slightly for the substances in these toxicity categories to 1.28 (14.0%) to 1.65 (16.7%) animals per test. Although the use of IC_{50} values to estimate starting doses for the simulated UDP deceased the number of animals used per test, it did not change the number of animals that would have died during the procedures.

Computer simulation modeling of ATC testing showed that, for the reference substances tested in this validation study, the prediction of starting doses using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only millimole regression resulted in a statistically significant ($p < 0.05$) decrease in the number of animals for ATC testing by an average of 0.51 (4.8%) to 0.80 (7.3%) animals per test, depending upon the *in vitro* NRU test method and the dose-mortality slope (2.0 or 8.3) used. Animal savings improved to a mean of 0.91 (8.6%) to 1.09 (10.2%) animals per test when the RC rat-only weight regression was used.

When test substances were grouped by GHS category, the mean animal savings for ATC testing using the RC rat-only millimole regression were statistically significant with the 3T3 NRU test method at both dose-mortality slopes for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (1.15 [9.8%] to 1.17 [10.2%] animals per test), and for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg (2.03 [17.1%] to 2.19 [18.3%] animals per test). Significantly more animals were needed when the 3T3-based starting doses were used, than the default starting dose for reference substances with $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg (i.e., the animal savings were negative: -0.92 [-9.5%] to -1.30 [-14.0%] animals). The mean animal savings with the NHK NRU test method and the RC rat-only millimole regression were statistically significant at both dose-mortality slopes for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (1.18 [10.2%] to 1.33 [11.4%] animals per test), and for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg (2.43 [20.5%] to 2.66 [22.2%] animals per test). When the RC rat-only weight regression was used, statistically significant savings in animals used were observed with both *in vitro* NRU test methods and dose-mortality slopes for substances with $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg (1.25 [10.8%] to 1.51 [13.0%] animals per test), and for substances with $LD_{50} > 5000$ mg/kg (2.94 [24.8%] to 3.33 [27.7%] animals per test). The use of IC_{50} values to estimate starting doses for the ATC refined animal use by producing

approximately 0.5 to 0.6 fewer mean animal deaths per test than when the default starting dose of 300 mg/kg was used.

The use of the IC_{50}-based starting doses did not significantly alter the GHS category outcomes of the simulated UDP or ATC when compared with the outcomes based on the default starting dose. The concordance for GHS acute oral toxicity category for the IC_{50}-based starting dose with the default starting dose was 97 to 99% for both *in vitro* NRU methods and IC_{50}-LD_{50} regressions evaluated.

The magnitude of animal savings did not correlate with the accuracy of GHS categorization yielded by the NRU-predicted LD_{50} values (using the *in vitro* NRU IC_{50} values in the IC_{50}-LD_{50} regressions) or with the accuracy of GHS category outcomes since the accuracy and animals savings analyses used different standards for comparison.

The specific animal savings using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only regressions apply only to the reference substances evaluated in this validation study, and may not be broadly applicable to other substances. Spielmann et al. (1999) indicated that 76% (845/1115) of the industrial substances submitted to the Federal Institute for Health Protection of Consumers and Veterinary Medicine in Berlin, Germany, since 1982 had LD_{50} >2000 mg/kg. The extent to which these substances represent the population of substances in commerce is not known. However, if the results of the validation study are broadly applicable to substances to be tested in the future, and if such substances are relatively nontoxic, the selection of starting doses using the *in vitro* NRU test methods may save a considerable number of animals since animal savings for the validation study were highest for the least toxic substances.

[This Page Intentionally Left Blank]

11.0 PRACTICAL CONSIDERATIONS

The 3T3 and NHK NRU test methods are proposed as adjuncts, rather than replacements for, *in vivo* acute oral toxicity assays. Data from these *in vitro* basal cytotoxicity test methods are used with a linear regression model to predict the rat acute oral LD_{50} of the test substance, which is then used to determine the starting dose for subsequent rat acute oral toxicity tests, as described in **Sections 10.2.2** and **10.3.2**. This section discusses practical issues involved in using these two *in vitro* NRU test methods for predicting starting doses for rat acute oral toxicity tests. Practical issues that need to be considered with respect to the implementation of these cell culture methods include the need for, and availability of, specialized equipment, personnel training and expertise requirements, cost considerations, and time expenditures.

11.1 Transferability of the 3T3 and NHK NRU Test Methods

Transferability of a test method is defined as the ability of a method or procedure to be accurately and reliably performed in different, competent laboratories (ICCVAM 2003). Accuracy and reliability of these NRU test methods are discussed in **Sections 6** and **7**, respectively.

Protocols for the 3T3 and NHK NRU test methods, including solubility testing, and prequalification of keratinocyte growth medium, have been optimized and are available on the ICCVAM/NICEATM website (http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm). The protocols were designed with GLP-compliance in mind and can be easily implemented or adapted by scientists with the appropriate technical experience.

Although the *in vitro* and *in vivo* test methods require some similar, general laboratory skills (e.g., preparation of solutions and test substance doses, record keeping), *in vitro* testing requires skills specific to cell culture systems (e.g., aseptic techniques, microscopic evaluation of cell cultures, propagation of cells in medium) but not to the maintenance, handling, or treatment of rodents.

11.1.1 Facilities and Major Fixed Equipment

The following lists of facility requirements, equipment and supplies, and training and expertise are common to most *in vitro* mammalian cell culture laboratories. Required equipment and supplies are also described in detail in the validation study 3T3 and NHK protocols (**Appendices B** and **C**), the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), and Hartung et al. (2002).

11.1.1.1 *Facility Requirements*

The testing facility should be appropriate for operating a scientific laboratory (e.g., laboratory space, air handling procedures, access to utilities, shipping/receiving department [for appropriate receipt and handling of cell culture materials], etc.). Each facility should provide:

- Adequate facilities, equipment, and supplies
- Proper health and safety guidelines
- Satisfactory quality assurance procedures

Each facility should conform to all appropriate statutes (i.e., local, state, provincial, federal, national, international) concerning safety guidelines (e.g., general workplace safety

guidelines, chemical handling and disposal guidelines, biohazard guidelines). Hartung et al. (2002) provides recommended safety guidelines for working with potentially infectious materials (e.g., HIV, hepatitis B, hepatitis C) and human materials (e.g., cells, tissues, fluids).

11.1.1.2 *Cell Culture Laboratory*

The testing facility should have a designated cell culture laboratory to ensure that *in vitro* cytotoxicity assays are performed under clean and proper aseptic conditions. The dedicated laboratory should be located such that through traffic is minimal to reduce possible disturbances that can lead to contamination which could compromise the cell culture assays. The room temperature of the laboratory should be regulated, monitored, and documented. Access to the laboratory and its supplies and test chemicals should be restricted to appropriate personnel.

11.1.1.3 *Major Equipment*

Each testing facility should have at a minimum the following equipment:

- Incubator (37ºC ± 1ºC, 90% ± 10% humidity, 5.0% ± 1% CO_2/air)
- Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
- Inverted phase contrast microscope
- 96-well plate spectrophotometric plate reader equipped with 540 nm ± 10 nm filter (if testing in 96-well plates)
- Autoclave
- Refrigerator
- Freezer (-70ºC)
- Cryogenic (liquid nitrogen) freezer/storage unit
- Computer

Equipment maintenance and calibration should be routinely performed and documented according to GLP guidelines and testing facility SOPs.

11.1.2 Availability of Other Necessary Equipment and Supplies

11.1.2.1 *General Equipment*

Each testing facility should have at a minimum the following equipment:

- Low speed centrifuge
- Adjustable temperature waterbath
- Pipettors
- Balance
- pH meter
- Cell counting system
- Water bath sonicator
- Magnetic stirrer
- Vortex mixer
- Antistatic bar ionizer (for reduction of static on tissue culture plates)

Equipment maintenance and calibration should be routinely performed and documented as per GLP guidelines and testing facility SOPs. The types of equipment listed in this section are available from scientific and laboratory supply companies (e.g., Thomas Scientific - http://www.thomassci.com/index.jsp; Fisher Scientific - https://www.fishersci.com/).

11.1.2.2 *Cell Culture Materials and Supplies*

The following supplies are needed for the *in vitro* NRU test methods. Specific product and private company names are provided either as an identification of actual materials/brands used in the validation study or as examples. Mention of these names does not imply endorsement of the product or company.

- Tissue culture plasticware (flasks [e.g., 25 cm^2, 75-80 cm^2], 96-well plates, disposable pipettes)
- Laboratory glassware (e.g., flasks, bottles, graduated cylinders)
- Adhesive film plate sealers (e.g., Excel Scientific SealPlate™)
- Sterile filtration systems (e.g., vacuum filtration units with 0.22 µm and 0.45 µm sterile filters)
- Culture medium and supplements (e.g., DMEM; prequalified NHK medium)
- NCS (bovine)
- Balanced salt solutions (e.g., HBSS, D-PBS)

Cell culture supplies are generally available through the major scientific and laboratory supply companies and through specialty companies (e.g., GIBCO, SIGMA-Aldrich, CAMBREX/Biowhittaker, Becton Dickinson). Compositions of culture media, supplements/additives, salt solutions, NRU assay chemicals, and the volumes of each needed for each test method, should be defined. All tissue culture flasks and dishes needed to assure proper cell propagation should be identified.

11.1.2.3 *Cell Cultures*

3T3 Mouse Fibroblasts: BALB/c 3T3 cells, clone 31, can be obtained from national/international cell culture repositories (e.g., American Type Culture Collection [ATCC], Manassas, VA, product # CCL-163).

NHKs: These non-transformed keratinocyte cells from cryopreserved primary or secondary cells can be obtained from national/international cell culture repositories (e.g., CAMBREX Bio Science, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD), or isolated from donated tissue using proper collection, preparation, and propagation techniques. It may be difficult, at times, to obtain adequate supplies of keratinocytes; the preparation of a pool of cells depends on the availability of tissue donors. It is recommended that testing laboratories procure of a commercially available stock pool of cells and store them indefinitely in a cryogenic freezer.

All cell stock and cultures used for testing must be certified as free of contamination by mycoplasma and bacteria.

11.1.3 Problems Specific to the NHK NRU Test Method

FAL had difficulty obtaining an adequate supply of NHK medium during the validation study. Communication between the UK distributor and the laboratory was uneven and the SMT attempted to resolve the supply issue on several occasions. The other laboratories periodically had difficulties in obtaining NHK medium and supplements that adequately supported keratinocyte growth. Although the purchased medium and supplements met the manufacturer's QA/QC standards, certain lots of the medium and supplements did not support the growth of NHK cells to the extent needed in the test protocol. To deal with these problems, an NHK medium prequalification protocol was incorporated into the study to

avoid unnecessarily repeating studies because of medium and supplements that did not adequately support cell growth. These experiences illustrate the need for multiple sources of keratinocyte cell culture medium. They also suggest that the NHK results could be more variable than the 3T3 results because of the batch-to-batch differences in NHK growth medium and supplements.

11.2 3T3 and NHK NRU Test Method Training Considerations

The ECVAM Good Cell Culture Practice Task Force Report 1 (Hartung et al. 2002) encouraged the establishment of practices and principles that will reduce uncertainty in the development and application of *in vitro* test methods. Training in good cell culture practices, in conjunction with good laboratory practices, are essential for all *in vitro* cytotoxicity testing and should be employed to ensure that data produced from the 3T3 and NHK NRU test methods are reproducible, credible, and acceptable.

In vitro cytotoxicity test methods require personnel trained specifically in sterile tissue/cell culture techniques and general laboratory procedures. Personnel should have mandatory training in good cell culture practices, in the specialized culture procedures needed for these assays, and in safety and handling practices appropriate to the types of substances that may be tested in the laboratory (Hartung et al. 2002).

The facility management should establish scientific guidelines and procedures, train and supervise professional and technical staff, and evaluate results and performance within their discipline area relative to the testing requirements. Performance of the tests requires a moderate degree of technical capability and a high degree of skill in monitoring and maintaining appropriate cell growth conditions, troubleshooting the potential and real problems in culture systems, and analyzing and interpreting *in vitro* cytotoxicity data. Each individual engaged in the conduct of a study, or responsible for its supervision, shall have education, training, and experience, or combination thereof, to enable that individual to perform the assigned duties. The NRU test methods do not require that personnel be trained to perform *in vivo* testing.

11.2.1 Required Training and Expertise

Personnel performing *in vitro* testing should have training in basic cell culture aspects such as: sterile technique, handling culture media, feeding cultures, cell counting, subculture (trypsinization), detection and elimination of contamination, cell growth and measurement of growth curves, viability assays, and storage and freezing/thawing of cells. Additionally, training is encouraged for special culture procedures such as primary cell and tissue cultures, toxicity testing, and viability assays. Laboratory personnel should be trained in the application of GLP requirements (see **Section 8.1.1**), and in the safe storage, handling, and disposal of toxic substances.

11.2.1.1 *Specific Training and Expertise Needed*

Personnel performing the *in vitro* cytotoxicity test methods should be well experienced in general cell culture techniques and should be able to:

- Work with cryogenic freezing apparatus
- Pipette solutions with large volume pipettors and multi-channel pipettors

- Establish cells in culture vessels under aseptic conditions and monitor growth; recognize normal and abnormal cell growth characteristics; and document observations of cell cultures throughout all aspects of the procedure
- Perform the *in vitro* assays by following the protocols to grow the cells, count, transfer, and feed the cells, treat the cells with test substances, perform application of adhesive plate sealers to culture plates for control of volatile substances, perform the NRU assay, perform optical density measurements, transfer data to electronic templates
- Operate equipment necessary for maintaining cell culture laboratories (e.g., incubators, biohazard hoods, spectrophotometric microtiter plate readers)

11.2.1.2 *General Laboratory Expertise Needed*

Personnel should also be able to understand and perform basic laboratory techniques and laboratory management:

- Prepare cell culture solutions (e.g., culture medium, NRU solutions), measure pH, know proper storage conditions, and maintain proper documentation
- Prepare test substances for application to cell cultures, follow solubility protocols to adequately prepare test chemicals in solution, recognize solubility issues (e.g., insolubility nature of chemical, precipitation), and implement procedures for dissolving the test chemicals
- Monitor and control laboratory environment (e.g., temperature, humidity, lighting, traffic), maintain equipment to support cell cultures (e.g., temperature, humidity, gas flow, calibrations)

11.2.2 Training Requirements to Demonstrate Proficiency

Laboratories establish their own criteria for proficiency but, over the course of training, laboratory personnel should be able to understand the protocol, perform the protocol with guidance from an experienced supervisor/trainer and, eventually, perform the protocol with minimal or no supervision. An experienced supervisor determines when a technician is adequately trained because there are no standardized criteria or tasks that can be used to accurately measure competence. After the technician demonstrates competence in executing all the aspects of the test protocols(s), it is appropriate to perform routine assessments of technical competence using a benchmark, coded control test substance (e.g., SLS). It is essential that the laboratory staff be certified as proficient in using the test methods to test unknowns.

The laboratories in the validation study were selected because of their experience in performing *in vitro* cytotoxicity assays but were required to develop additional skills through Phases I and II (e.g., data collection and transfer to Excel® and PRISM® templates). Inexperienced laboratory personnel were trained by having them perform "training" assays using SLS. In the early phases of the validation study, the laboratories continued training by testing coded reference substances of various toxicities, and performing solubility testing on substances of varying solubilities. These procedures helped improve proficiency among the laboratories for the final phase of the validation study.

11.2.2.1 *Proficiency With GLP-Compliance*

Results from these test methods will be submitted to regulatory agencies that will, for the most part, require GLPs. Laboratories should work toward attaining GLP compliance. GLP compliance in each laboratory is determined by its independent QA unit. ECBC and IIVS conducted this validation study in compliance with GLP (see **Section 8.1.1**). Their respective QA units (as per GLPs) reviewed the various aspects of the study and issued QA statements that addressed whether the test methods and the results described in the Final Report accurately followed the test protocol and reflected the raw data produced during the study, and provided assurance that all testing was done under according to GLP. FAL (which was non-GLP-adherent) followed the GLP standards referenced in **Section 8.1.1** as guidelines for conducting this study. FAL had no QA unit to judge GLP compliance.

11.2.3 Personnel Needed to Perform the *In Vitro* NRU Test Methods

The facility management will be responsible for determining which qualified personel meet the criteria (e.g., scientific knowledge, specialized training) for the following positions needed for adequate performance of the *in vitro* NRU test methods and oversight of the testing.

- Study Director: the individual with the overall responsibility for the technical conduct of the testing (e.g., is familiar with the test procedures, provides SOPs and ensures GLP compliance, analyzes and interprets the data, determines test acceptance, oversees recordkeeping procedures, and produces the test reports.
- Quality Assurance Officer: monitors the testing to assure conformance with GLP requirements; must be independent of the Study Director.
- Laboratory Technician(s): individuals trained in sterile tissue/cell culture techniques and general laboratory procedures and who are capable of performing the test methods according to GLPs.

11.3 Cost Considerations

11.3.1 3T3 and NHK NRU Test Methods

11.3.1.1 *Equipment Costs*

Major instruments and equipment needed to implement the *in vitro* cytotoxicity test methods are described in **Section 11.1.1**. Ranges of costs for some of the equipment were obtained from on-line catalogues for two major scientific equipment and supplies companies (Thomas Scientific - http://www.thomassci.com/index.jsp; Fisher Scientific - https://www.fishersci.com/). These prices are for equipment that will meet the minimum needs of the NRU test methods (see **Table 11-1**). These costs were researched in August 2006.

11.3.1.2 *Costs for Cell Cultures and Supplies*

Supplies such as cell culture chemicals, the reagents used to measure NRU, and cell culture plasticware are available from numerous suppliers, and are not cost prohibitive.

Table 11-1 Costs for Major Laboratory Equipment

Equipment	Range of Costs[1]
Class II Biological Safety Cabinet	$7,300 – $12,200
CO_2 Incubator	$5,100 – $16,400
Spectrophotometer Microplate Reader	$5,000 – $7,500
Freezer (capable of -70°C)	$8,000 – $15,300
Refrigerator	$1,300 – $9,800
Centrifuge (benchtop model)	$2,100 – $8,500
Microscope (inverse phase contrast)	$3,000 – $14,500
Coulter Counter[2, 3]	$3,000 – $9,000
Autoclave (benchtop model)[2]	$3,500 – $15,400
Cryogenic (liquid nitrogen) Storage	$1,000 – $3,700

[1]From on-line scientific equipment catalogues (Thomas Scientific - http://www.thomassci.com/index.jsp; Fisher Scientific - https://www.fishersci.com/). [searched August 2006]
[2]May be useful, but not required for performing the tests.
[3]Other automatic cell counters may be used.

The 3T3 NRU test method is generally less expensive to perform than the NHK NRU test method. One vial of the immortalized 3T3 cells (~$200 [ATCC]) can be propagated indefinitely by passaging cells and periodically cryopreserving batches of cells. The NHK NRU test method requires a fresh sample of primary cells for each test run (~$380 per vial [CAMBREX]). Because primary NHK cells are passaged only once after initiating the culture, there are no cells available to cryopreserve a stock batch of cells. The DMEM medium used for the 3T3 cells is less expensive, more "generic", and more readily available than keratinocyte-specific NHK medium. (See **Table 11-2.**)

11.3.1.3 *Commercial Testing*

The following price quotes are provided as examples of test costs and were acquired from commercial laboratories through Internet contact or through personal communication. Use of information from these specific laboratories does not imply endorsement of them.

A representative of MB Research Laboratories (Spinnerstown, PA, http://www.mbresearch.com/) provided a quote (personal communication, 2005) for an *in vitro* 24-hr cytotoxicity test (but not a 48-hour test period) of $1050 (USP standards[1]) or $1950 (ISO standards[1]) for a set of three test chemicals. The lead laboratory for the NICEATM/ECVAM study, IIVS (Gaithersburg, MD, http://www.iivs.org/) provides

[1] USP=United States Pharmacopeia; ISO=International Standards Organization. These organizations provide international standard testing requirements for products that require high quality for public use.

commercial laboratory GLP-compliant testing using this study's protocols (48-hour test period) at a cost of $1120 - $1850 per chemical/sample for one cell type (personal communication 2005) (see **Table 11-2**).

Table 11-2 Costs for Cell Culture Materials and Commercial Laboratory *In Vitro* Cytotoxicity Testing

Item	Cost (approximate)	Number of Tests Possible	Other
3T3 Cells	~$200/vial[1]	indefinite	One vial can produce an indefinite supply of cells by propagating the cells in culture and periodically freezing a pool of cells.
NHK Cells	~$380/vial[2]	~5 (96-well plates)	Since cells are passaged only once beyond cryopreservation, new vials should be thawed as needed to maintain continuous testing.
Dulbeccos' Minimum Essential Medium (D-MEM) with supplements	~$20/500mL[3]	~15 (96-well plates)	Establish cells in culture (~20 mL/vial of cells; 60 mL/3 vials), seed cells in 96-well plates (12 mL/plate; 180 mL/15 plates); prepare stock solution and eight concentration dilutions (~20 mL/chemical; 300 mL/15 plates).
NHK Medium with supplements	~$80/500 mL[2]	~15 (96-well plates)	Same as DMEM (above)
Commercial Laboratory Testing (MB Research Laboratories [GLP-compliant])	$1050/$1950 (USP/ISO) per 3 test materials[4]	1 test/material	*in vitro* NRU cytotoxicity test (24-hour test period)
Commercial Laboratory Testing (Institute for *In Vitro* Sciences [GLP-compliant])	$1120 (GLP) per test material (minimum of 5 materials tested simultaneously)[4]	1 range finder, 2 definitive tests per test material	*in vitro* NRU cytotoxicity test (48-hour test period)
Commercial Laboratory Testing (Institute for *In Vitro* Sciences)	$1850 (GLP) per single test material (tested individually)[4]	1 range finder, 2 definitive tests per test material	*in vitro* NRU cytotoxicity test (48-hour test period)

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; USP/ISO= United States Pharmacopeia/International Standards Organization GLP=Good Laboratory Practices

[1]Catalogue price from American Type Culture Collection (ATCC) (http://www.atcc.org/)
[2]Catalogue price from CAMBREX (http://www.cambrex.com/Welcome.asp)
[3]Catalogue price from INVITROGEN (http://www.invitrogen.com/content.cfm?pageid=1)
[4]Personal communication (Raabe 2005)

11.3.2 Rodent Acute Oral Toxicity Testing

As stated in **Section 11.3.1.3**, presentation of price quotes from commercial laboratories provides examples of test costs and does not imply an endorsement of that laboratory. **Table 11-3** provides some commercial prices for acute oral systemic toxicity testing. MB Research Laboratories performs the UDP test at a cost of $750 for three rats and charges $250 for each additional rat needed. In the best-case scenario, the UDP test needs only three rats ($750). In the worst-case scenario, this test would need an additional 12 rats (15 maximum for the test); the total cost of the test would be $3,750. In this costing strategy, $250 is saved for each rat not used by an accurate prediction of the starting dose by the 3T3 or NHK NRU test method. Because the *in vitro* cytotoxicity test costs from $350 to $1850 per chemical, there is no net savings in animal costs if fewer than two to six animals are saved.

Table 11-3 Commercial Prices for Conducting *In Vivo* Acute Rat Toxicity Testing

Test	GLP-Compliant	Non GLP-Compliant	Company
Acute Oral Toxicity UDP: Limit Test - 2000 mg/kg	$1200	$1000	Product Safety Laboratories
Acute Oral Toxicity UDP: Limit Test - 5000 mg/kg	$800	$650	Product Safety Laboratories
Acute Oral Toxicity UDP: LD_{50}	$2700	$2200	Product Safety Laboratories[1]
Acute Oral Rat Toxicity: single dose[2]	$950	NA	Bio Research Laboratories
Acute Oral Rat Toxicity: two doses[2]	$1500	NA	Bio Research Laboratories
Acute Oral Rat Toxicity: LD_{50}	$3000	NA	Bio Research Laboratories
Acute Oral Toxicity – UDP	$730 for the first 3 animals; $250 each additional animal	NA	MB Research Laboratories[1]

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure; GLP=Good Laboratory Practices; NA=Not available.
[1]Personal communication (Wnorowski 2005).
[2]Washington State Biological Testing Methods #80-12 For the Designation of Dangerous Waste; Part B: Acute Oral Rat Toxicity Test [http://www.ecy.wa.gov/pubs/80012.pdf]. This test method is an adaptation of the EPA Health Affects Test Guidelines OPPTS 870.110 Acute Oral Toxicity and American Society for Testing and Materials (ASTM) methods E 1163-90 (Standard test method for estimating acute oral toxicity in rats) and E 1372-90 (Standard test method for conducting a 90-day oral toxicity study in rats).

The President of Product Safety Laboratories, Gary Wnorowski, (Dayton, NJ, http://www.productsafetylabs.com/), provided a cost quote of $2700 for determination of a rat LD_{50} value using the UDP test; the cost is independent of the number of rats that are needed. Each test dose is administered ~24-48 hours after the previous dose and each animal test generally does not exceed four days. The time involved in providing the LD_{50} value is approximately three months (initiation of the test to provision of the final report). Having the estimated LD_{50} value would not affect the cost of the *in vivo* test but could reduce the number of animals needed.

Bio Research Laboratories performs the rat acute oral toxicity test using a test method that determines lethality and signs of acute toxicity from a waste sample administered in a single dose, by gavage, to a limited number of rats. The bioassay determines if the test sample

produces an LD_{50} either greater than or less than a regulatory threshold corresponding to a hazardous waste designation (i.e., 5000, 500, 50 mg/kg). A minimum of 10 rats is used at the tested dose for the regulatory threshold value that is relevant to the test sponsor. In this testing scenario, knowledge of the estimated LD_{50} would not reduce animal use or test costs if a single predetermined dose is tested.

11.4 Time Considerations for Performing the 3T3 and NHK NRU Tests

11.4.1 The 3T3 NRU Test Method

Approximately one week is needed to thaw cryopreserved 3T3 cells, propagate them, and passage them at least two times before subculturing them into the 96-well test plates. After subculture into 96-well plates, the cells are incubated another 24 hours to reach the proper confluence, and then exposed to test chemical for 48 hours. The initial 3T3 NRU test (range finder or definitive test) takes approximately 10 days. However, after the cells are established in culture, they can be passaged for approximately two months before having to go back to the cryopreserved cells to start a new culture. A 3T3 NRU test can be completed in less than four consecutive days when started from an established stock culture. Multiple substances can be tested at the same time, and different tests can overlap each other; thus, many substances can be tested in a relatively short time.

11.4.2 The NHK NRU Test Method

Approximately one week is needed to thaw cryopreserved NHK cells, propagate them, and passage them into the 96-well test plates. After subculture into 96-well plates, the cells are incubated another 48-72 hours to reach the proper confluence and then exposed to test chemical for 48 hours. The entire NHK NRU test (range finder or definitive test) requires approximately 11-12 days. Cells can be seeded at different densities from one starter vial in the culture flasks so that passaging the cultures can take place on different days. Once the cells are established in culture, they are passaged once to the 96-well test plates and an NHK NRU test can usually be completed in five to six consecutive days. Multiple substances can be tested at the same time, and different tests can overlap each other; thus, many substances can be tested in a relatively short time.

11.4.3 Prequalification of NHK Medium

The protocol for the prequalification of NHK medium requires nearly identical steps, and similar time-line (i.e., 11-12 days), as required for the NHK rangefinder and definitive tests. **Table 11-2** provides an estimate of how many tests could be performed using one 500 mL bottle of medium with supplements (~15 tests in 96-well plates).

11.4.4 *In Vivo* Testing

According to guidelines for acute oral toxicity testing, single animals or groups of animals are dosed in sequence, usually at 2-4 day intervals, and observations are generally made for up to 14 days (for animals that are not moribund) for the main test and limit dose test (EPA 2002a; OECD 2001a; OECD 2001b, OECD 2001c). The addition of 3T3 or NHK NRU testing to estimate a starting dose prior to the implementation of the UDP main test or limit dose test would take 10-12 days, but could save up to 14 days of observation for every animal not used.

11.4.5 The Limit Test

The *in vitro* NRU test methods can provide a savings of time when used to determine if an *in vivo* acute oral toxicity limit test can be employed as the initial test for a substance with unknown *in vivo* toxicity. If the IC_{50} value from an *in vitro* NRU test could accurately predict an LD_{50} that is greater than, or equal to, the limit dose (i.e., 2000 mg/kg or 5000 mg/kg), the *in vivo* test could start at the limit test dose. This approach has the potential to eliminate the need to do the main test and could result in a net savings of six days for the UDP test method and about one day for the ATC test method. **Table 11-4** illustrates the following:

- Time needed to perform the 3T3 and NHK NRU test
- Time needed to reach the limit test starting dose when initiating the *in vivo* main test using the default starting doses (UDP and ATC)

The times presented in **Table 11-4** use the following assumptions:

- 3T3 cells reach ≤50% confluence in approximately 24 hours
- NHK cells reach >20% confluence in approximately 48 hours
- Animals show no evident toxicity 48 hours post-dosing, and additional animals are dosed at the next higher default dose
- Limit test dose = 5000 mg/kg for the UDP and 2000 mg/kg for the ATC method

Table 11-4 Comparison of Time Needed for *In Vitro* and *In Vivo* Testing

Time	3T3 NRU Test Method	NHK NRU Test Method	UDP (5000 mg/kg upper limit)	ATC (2000 mg/kg upper limit)
Day 1	Seed cells in 96-well plate Incubate for 24 ±2 hr	Seed cells in 96-well plate Incubate for approximately 48 to 72 hr	Dose 1 animal at default dose (175 mg/kg) Observe for 48 hr	Dose 3 animals at default dose (300 mg/kg) Observe for 48 hr
Day 2	Apply test substance Incubate for 48 ±0.5 hr	Incubate	Observe	Observe
Day 3	Incubate	Apply test substance Incubate for 48 ±0.5 hr	No death Dose 1 animal at next default dose (550 mg/kg) Observe 48 hr	0 – 1 animal dies Dose 3 animals at default dose (300 mg/kg) Observe 48 hr
Day 4	NRU: 3 ±0.1 hr Elute NR: 0.33 to 0.75 hr OD_{540} measurement Calculate IC_{50} Estimate LD_{50} and Starting Dose*	Incubate	Observe	Observe
Day 5		NRU: 3 ±0.1 hr Elute NR: 0.33 to 0.75 hr OD_{540} measurement Calculate IC_{50} Estimate LD_{50} and Starting Dose*	No death Dose 1 animal at next default dose (1750 mg/kg) Observe 48 hr	0 – 1 animal dies Dose 3 animals at next default dose (2000 mg/kg) **Starting Point for the Limit Test**
Day 6			Observe	
Day 7			No death Dose 1 animal at next default dose (5000 mg/kg) **Starting Point for the Limit Test**	

Abbreviations: 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; UDP=Up-and-Down Procedure; ATC=Acute Toxic Class method; hr=Hour; NR=Neutral red; OD_{540}=Optical density at 540 nm.

11.5 Summary

- All equipment and supplies should be readily commercially available. During the validation study, direct communication with the NHK medium supplier insured that specific lots of medium were available to the laboratories. The test methods are expected to be transferable to laboratories experienced with mammalian cell culture methods.

- Much of the training and expertise needed to perform the 3T3 and NHK NRU test methods are common to mammalian cell culture procedures. Additional technical training would not be extensive because these test methods are similar to other *in vitro* mammalian cell culture assays, and no extraordinary techniques are necessary. GLP training should be provided to technicians to ensure proper adherence to protocols and documentation procedures.
- Prices for commercial testing for one chemical are $1,120 to $1,850 (**Table 11-2**) for *in vitro* cytotoxicity testing in the 3T3 and NHK test methods, respectively, to determine the IC_{50} (Raabe 2005, personal communication). In contrast, the *in vivo* rat acute oral testing for LD_{50} determination could cost from $750 - $3,750 (**Table 11-3**), depending on the test method used and the toxicity of the test substance. Comparison of costs of *in vitro* testing to *in vivo* testing is difficult because the *in vitro* NRU test methods are not replacements for the animal testing, and animal testing would be performed regardless of the responses of the 3T3 or NHK cells. The use of these *in vitro* NRU test methods may not reduce the overall cost of the *in vivo* rat acute oral toxicity test, but has the potential to reduce the number of animals needed for a study.

[This Page Intentionally Left Blank]

12.0 REFERENCES

Adegunloye BI, Sofola OA. 1997. Differential responses of rat aorta and mesenteric artery to norepinephrine and serotonin *in vitro*. Pharmacology 55:25-31.

Ames A III. 2000. CNS energy metabolism as related to function. Brain Res Rev 34:42-68.

Anon. 1993. Annexes I, II, III, and IV to Commission Directive 93/21/EEC of 27 April 1993 adapting to technical progress for the 18th time Council Directive 67/548/EEC on the approximation of laws, regulations and administrative provisions relating to the classification, packaging and labeling of dangerous substances. Official Journal of the European Communities L110A, 1-86.

ASTM. 1999. American Society of Testing and Materials (ASTM) Standard E691-99, Standard Practice for Conducting an Interlaboratory Study to Determine the Precision of a Test Method. American National Standards Institute. Washington, D.C. Available: http://www.ansi.org/ [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 1999a. Toxicological Profile for Cadmium. Update PB/99/166621. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 1999b. Toxicological Profile for Diethyl phthalate. PB/95/264214/AS. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 2000a. Toxicological Profile for Endosulfan. Update. PB/2000/108023. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 2000b. Toxicological Profile for Chromium. Update. PB/2000/108022. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry.Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 2001. Toxicological Profile for Di-n-butyl phthalate. Update. PB/2001/109104/AS. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 2004a. Toxicological Profile for Pyrethrins and Pyrethroids. Update. PB2004-100004. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

ATSDR. 2004b. Toxicological Profile for Selenium. Update. PB2004-100005. U.S. Dept. of Health and Human Services. Atlanta, GA:Agency for Toxic Substances and Disease Registry. Available: http://www.atsdr.cdc.gov/toxpro2.html [accessed 01 November 2006].

Babich H, Martin-Alguacil N, Raul C, Rosenberg DW, Borenfreund E. 1991. Response of human cell cultures to cytotoxicants requiring metabolic activation. In: Alternative Methods in Toxicology (Goldberg AM, ed.), Vol. 8. New York:Mary Ann Liebert, Inc., 263-276.

Balls M, Botham PA, Bruner LH, Spielmann H. 1995. The EC/HO international validation study on alternatives to the Draize eye irritation test for classification and labelling of chemicals. Toxicol *In Vitro* 9:871-929.

Bernson V, Bondesson I, Ekwall B, Stenberg K, Walum E. 1987. A Multicentre evaluation study of *in vitro* cytotoxicity. Altern Lab Anim 14:144-146.

Bliss CI. 1938. The determination of the dosage-mortality curve from small numbers. Q J Pharm Pharmacol 11:192-214.

Bondesson I, Ekwall B, Hellberg S, Romert L, Stenberg K, Walum E. 1989. MEIC - A new international multicenter project to evaluate the relevance to human toxicity of *in vitro* cytotoxicity tests. Cell Biol Toxicol 5:331-347.

Borenfreund E, Puerner J. 1984. A simple quantitative procedure using monolayer cultures for cytotoxicity assays (HTD/ NR-90). J Tissue Culture Meth 9:7-9.

Borenfreund E, Puerner JA. 1985. Toxicity determination *in vitro* by morphological alterations and neutral red absorption. Toxicol Lett 24:119-124.

Botham PA. 2004. The validation of *in vitro* methods for skin irritation. Toxicol Lett 149:387-390.

Brantom PG, Bruner LH, Chamberlain M, De Silva O, Dupuis J, Earl LK, et al. 1997. A summary report of the COLIPA international validation study on alternatives to the Draize rabbit eye irritation test. Toxicol *In Vitro* 11:141-179.

Calabrese EJ. 2005. Cancer biology and hormesis: human tumor cell lines commonly display hormetic (biphasic) dose responses. Crit Rev Toxicol 35:463-582.

Canadian Centre for Occupational Health and Safety. 2005. IPCS INTOX Database. Available: http://www.intox.org/databank/index.htm [accessed 01 November 2006].

Casarett LJ, Klaassen CD, Doull J, eds. 2001. Casarett and Doull's Toxicology, The Basic Science of Poisons. 6th Edition. New York:McGraw-Hill.

Charles River Laboratories Catalog. 2002. Available: http://www.criver.com [accessed 01 November 2006].

Clemedson C, McFarlane-Abdulla E, Andersson M, Barile FA, Calleja MC, Chesné C, et al. 1996a. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part I. Methodology of 68 *in vitro* toxicity assays used to test the first 30 reference chemicals. Altern Lab Anim 24 (suppl 1):51-272.

Clemedson C, McFarlane-Abdulla E, Andersson M, Barile FA, Calleja MC, Chesné C, et al. 1996b. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part II. *In vitro* results from 68 toxicity assays used to test the first 30 reference chemicals and a comparative cytotoxicity analysis. Altern Lab Anim 24 (suppl 1):273-311.

Clemedson C, Barile FA, Ekwall Ba, Gómez-Lechón MJ, Hall T, Imai K, et al. 1998a. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part III. *In vitro* results from 16 additional methods used to test the first 30 reference chemicals and a comparative cytotoxicity analysis. Altern Lab Anim 26 (suppl 1):93-129.

Clemedson C, Andersson M, Aoki Y, Barile FA, Bassi AM, Calleja MC, et al. 1998b. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part IV. *In vitro* results from 67 toxicity assays used to test reference chemicals 31-50 and a comparative cytotoxicity analysis. Altern Lab Anim 26 (suppl 1):131-183.

Clemedson C, Nordin-Andersson M, Bjerregaard H.F, Clausen J, Forsby A, Gustafsson H, Hansson U, Isomaa B, Jorgensen C, et al. 2002. Development of an *in vitro* test battery for the estimation of acute human systemic toxicity: an outline of the EDIT project. Altern Lab Anim 30:313-321.

Clemedson C. 2005. A-Cute-Tox project, an integrated project under the EU 6FP with the aim to optimize and pre-validate an *in vitro* test strategy for predicting human acute toxicity. European Society of Toxicology *In Vitro* Newsletter 18:6.

Clothier R, Willshaw A, Cox H, Garle M, Bowler H, Combes R. 1999. The use of human keratinocytes in the EU/COLIPA international *in vitro* phototoxicity test validation study and the ECVAM/COLIPA study on UV filter chemicals. Altern Lab Anim 27:247-259.

Coeck S, Balls M, Bowe G, Davis J, Gstraunthaler G, Hartung T, et al. 2005. Guidance on Good Cell Culture Proactice. A Report of the Second ECVAM Task Force on Good Cell Culture Practice. Altern Lab Anim 33:261-287.

Coldwell BB, Boyd EM. 1966. The acute rectal toxicity of acetylsalicylic acid. Can J Physiol Pharmacol 44: 909-918.

Conolly RB, Lutz WK. 2004. Nonmonotonic dose-response relationships: mechanistic basis, kinetic modeling, and implications for risk assessment. Toxicol Sci 77:151-157.

Cooper-Hannan R, Harbell JW, Coecke S, Balls M, Bowe G, Cervinka, et al. 1999. The Principles of Good Laboratory Practice: application to *in vitro* toxicology studies. Altern Lab Anim 27:539-577.

Cosmetic Ingredient Review Panel. 1983. Final report on the safety assessment of sodium borate and boric acid. J Am Coll Toxicol 2:87-125.

CPSC. 2003. Commercial Practices. Hazardous Substances and Articles; Administration and Enforcement Regulations. 16CFR1500.42.

Creppy EE, Chiarappa P, Baudrimont I, Borracci P, Moukha S, Carratu MR. 2004. Synergistic effects of fumonisin B1 and ochratoxin A: are *in vitro* cytotoxicity data predictive of in vivo acute toxicity? Toxicology 201:115-23.

Curren R, Bruner L, Goldberg A, Walum E. 1998. 13th meeting of the Scientific Group on Methodologies for the Safety Evaluation of Chemicals (SGOMSEC): validation and acute toxicity testing. Environ Health Perspect 106 (suppl 2): 419-425.

Curren RD, Moyer GO, Wilt N, Clear ML, Sizemore AM, Mun G. 2003. Assessment of protocol variables in cytotoxicity assays utilizing BALB/c 3T3 cells and normal human keratinocytes [Abstract]. Toxicologist 72:157. Available: http://www.iivs.org/pages/publication_view.php?doc_id=43 [accessed 01 November 2006].

Dal Negro G, Vandin L, Bonato M, Sciuscio D. 2006. Toward refinement of the colony-forming unit-granulocyte/macrophage clonogenic assay: inclusion of a metabolic system. Toxicol *In Vitro* 20:743-9.

DOT. 2003. Shippers--General Requirements for Shipments and Packagings. Class 6, Division 6.1 – Definitions. 49CFR173.132. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

DOT. 2003. Shippers--General Requirements for Shipments and Packagings. Assignment of Packing Group and Hazard Zones for Division 6.1 Materials. 49CFR173.133. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

DOT. 1999. Assignment of packing group and hazard zones for Division 6.1 materials. 49CFR. SubChapter C. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

Deichmann WB. 1969. Toxicology of Drugs and Chemicals. New York:Academic Press, Inc., 67.

Dixon WJ, Massey FJ. 1981. Introduction to Statistical Analysis, 4th ed. Milwaukee:Quality Press.

Ekwall B. 1983. Screening of toxic compounds in mammalian cell cultures. Ann New York Acad Sci 407:64-77.

Ekwall B, Clemedson C, Craaford B, Ekwall B, Hallander S, Walum E, Bondesson I. 1998a. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part V. Rodent and human toxicity data for the 50 reference chemicals. Altern Lab Anim 26 (suppl 2):571-616.

Ekwall B, Clemedson C, Craaford B, Ekwall B, Hallander S, Walum E, Bondesson I. 1998b. MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part VI. The prediction of human toxicity by rodent LD50 values and results from 61 *in vitro* methods. Altern Lab Anim 26 (suppl 2):617-658.

Ekwall B, Clemedson C, Ekwall B, Ring P, Romert L. 1999. EDIT: A new international multicentre programme to develop and evaluate batteries on *in vitro* tests for acute and chronic systemic toxicity. Altern Lab Anim 27:339-349.

Ekwall B, Ekwall B, Sjostrom M. 2000. MEIC evaluation of acute systemic toxicity: Part VIII. Multivariate partial least squares evaluation, including the selection of a battery cell line tests with a good prediction of human acute lethal peak blood concentrations for 50 chemicals. Altern Lab Anim 28 (suppl 1):201-234.

EPA. 1992. Reregistration Eligibility Document Citric Acid. List D, Case 4204. Office of Pesticide Programs. Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/oppsrrd1/REDs/factsheets/4024fact.pdf [accessed 01 November 2006].

EPA. 1995. Reregistration Eligibility Decision (RED) Diquat Dibromide. EPA 738-R-95-016. Office of Prevention, Pesticides and Toxic Substances. Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/oppsrrd1/REDs/0288.pdf [accessed 01 November 2006].

EPA. 1996. Trichloroacetic acid (CASRN 76-03-9) file in the Integrated Risk Information System. Office of Research and Development. Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/iris [accessed 01 November 2006].

EPA. 1998. Product Properties Test Guidelines OPPTS 830.7840 Water Solubility: Column Elution Method; Shake Flask Method. EPA 712–C–98–041. Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency.

EPA. 2000a. High Production Challenge Program. Office of Pollution Prevention and Toxics (OPPT). Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/chemrtk/ [accessed 01 November 2006].

EPA. 2000b. Toxicological Review of Chloral Hydrate. EPA/635/R-00/006. Washington, DC:U.S. Environmental Protection Agency. Available: www.epa.gov/iris [accessed 01 November 2006].

EPA. 2002a. Health Effects Test Guidelines OPPTS 870.1100 Acute Oral Toxicity. EPA 712–C–02–190. Washington, DC: U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/opptsfrs/home/testmeth.htm [accessed 01 November 2006].

EPA. 2002b. Statements of Policies and Interpretations. Toxicological and Ecological Studies. 40CFR159.165. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

EPA. 2002c. Health Effects Test Guidelines OPPTS 870.1000 Acute Toxicity Testing - Background. EPA 712–C–02–189. Washington, DC: U.S. Environmental Protection Agency. Available: http://www.epa.gov/opptsfrs/home/testmeth.htm/ [accessed 01 November 2006].

EPA. 2002d. Emergency Planning and Notification. 40CFR355. Available: http://www.access.gpo.gov/nara/cfr/waisidx_00/40cfr355_00.html [accessed 01 November 2006].

EPA. 2003a. Good Laboratory Practice Standards. Toxic Substances Control Act. 40CFR792. Available: http://www.access.gpo.gov/nara/cfr/waisidx_03/40cfr792_03.html [accessed 01 November 2006].

EPA. 2003b. Good Laboratory Practice Standards. Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act. 40CFR160. Available: http://www.access.gpo.gov/nara/cfr/waisidx_03/40cfr160_03.html [accessed 01 November 2006].

EPA. 2004. U.S. EPA HPV Challenge Program Submission. Propanoic acid, 2-hydroxy-, compd. with 3-[2-(dimethylamino)ethyl] 1-(2-ethylhexyl) (4-methyl-1,3-phenylene)bis[carbamate] (1:1) [CASRN 68227-46-3]. Submitted by PPG Industries, Inc. Revised December 17, 2004. Available: http://www.epa.gov/chemrtk/pubs/hpvrstp.htm [accessed 01 November 2006].

European Centre for the Validation of Alternative Methods. (ECVAM). 1997. Statement on the scientific validity of the 3T3 NRU PT test (an *in vitro* test for phototoxic potential). Available: http://ecvam.jrc.it/index.htm [accessed 01 November 2006].

EU. 2003. Report from the Commission to the Council and the European Parliament. Third Report from the commission to the Council and the European Parliament of the statistics on the number of animals used for experimental and other scientific purposes in the member states of the European Union. Brussels, 22.01.2003, COM (2003) 19 final.

Fautrel A, Chesné C, Guillouzo A, De Sousa G, Placidi M, Rahmani R, et al. 1993. A multicentre study of acute *in vitro* cytotoxicity in rat hepatocytes: tentative correlation between *in vitro* toxicity and *in vivo* data. Altern Lab Anim 21:281-284.

FDA. 1993. Toxicological Principles for the Safety Assessment of Direct Food Additives and Color Additives Used in Food. Center for Food Safety and Applied Nutrition. Washington, DC: U.S. Food and Drug Administration.

FDA. 2003. Good Laboratory Practice for Nonclinical Laboratory Studies. 21CFR Part 58. Available: http://www.access.gpo.gov/nara/cfr/waisidx_03/21cfr58_03.html [accessed 01 November 2006].

Fentem J, Fry J, Garle M, Gülden M, Seibert H, Voss J-U, et al. 1993. An International Evaluation of Selected *In Vitro* Toxicity Test Systems for Predicting Acute Systemic Toxicity. A report prepared for DGXI, CEC; Contract Numbers B92/B4-3063/14086 & B92/B4-3040/14087. Nottingham, UK:Fund for Replacement of Animals in Medical Experiments.

Fentem JH, Archer GEB, Balls M, Botham PA, Curren RD, Earl LK, et al. 1998. The ECVAM international validation study on *in vitro* tests for skin corrosivity. 2. Results and evaluation by the Management Team. Toxicol *In Vitro* 12:483-524.

Fentem JH, Briggs D, Chesne C, Elliott GR, Harbell JW, Heylings JR, et al. 2001. A prevalidation study on *in vitro* tests for acute skin irritation: results and evaluation by the Management Team. Toxicol *In Vitro* 15:57-93.

Freshney RI. 2000. Culture of Animal Cells: A Manual of Basic Technique, 4th edition. New York:Wiley-Liss.

Garle M., Fentem JH, Fry JR. 1994. *In vitro* cytotoxicity tests for the prediction of acute toxicity *in vivo*. Toxicol *In Vitro* 8:1303-1312.

Gennari A, van den Berghe C, Casati S, Castell J, Clemedson C, Coecke S, et al. 2004. Strategies to replace *in vivo* acute systemic toxicity testing. The report and recommendations of ECVAM Workshop 50. Altern Lab Anim 32:437-459.

Gettings SD, Bagley DM, Demetrulias JL, Dipasquale LC, Hintze KL, Rozen MG, et al. 1991. The CTFA evaluation alternatives program: An evaluation of *in vitro* alternatives to the Draize primary eye irritation test. (Phase I) Hydro-alcoholic formulations; (Part 2) Data analysis and biological significance. *In Vitro* Toxicol 4:247-288.

Gettings SD, Bagley DM, Chudkowski M, Demetrulias JL, Dipasquale LC, Galli CL et al. 1992. Development of potential alternatives to the Draize eye test - The CTFA evaluation of alternatives program - Phase II - Review of materials and methods. Altern Lab Anim 20:164-171.

Gettings SD, Dipasquale LC, Bagley DM, Casterton PL, Chudkowski M, Curren RD, et al. 1994a. The CTFA evaluation of alternatives program: An evaluation of *in vitro* alternatives to the Draize primary eye irritation test. (Phase II) Oil/water emulsions. Food Chem Toxicol 32:943-976.

Gettings SD, Hintze KL, Bagley DM, Casterton PL, Chudkowski M, Curren RD, et al. 1994b. The CTFA evaluation of alternatives program: Phase III (surfactant-based formulations). *In Vitro* Toxicol 7:166.

Gettings SD, Lordo RA, Hintze KL, Bagley DM, Casterton PL, Chudkowski M, et al. 1996. The CFTA evaluation of alternatives program: An evaluation of *in vitro* alternatives to the Draize primary eye irritation test. (Phase III) Surfactant-based Formulations. Food Chem Toxicol 34:79-117.

Gilman AG, Goodman LS, Rall TW, Murad F (eds.). 1985. Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 7th Edition. New York:Macmillan Publishing Co.

Glaxo Wellcome. 2000. Myleran (busulfan) Product Information. Research Triangle Park, NC:Glaxo Wellcome, Inc.

GraphPad Software. 1994-2000. Prism® version 3.0a for Macintosh. GraphPad Software, San Diego, California. Available: www.graphpad.com [accessed 01 November 2006].

Grisham JW, Smith GJ. 1984. Predictive and Mechanistic Evaluation of Toxic Responses in Mammalian Cell Culture Systems. Pharmacol Rev 36(suppl):151S-171S.

Gülden M, Dierickx P, Seibert H. 2006. Validation of a prediction model for estimating serum concentrations of chemicals which are equivalent to toxic concentrations *in vitro*. Toxicol *In Vitro* 20:1114-1124.

Guzzie PJ. 1994. Lethality testing. In: *In Vitro* Toxicology (Gad SC, ed). New York:Raven Press, 57-86.

Hackenberg U, Bartling H. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch Exp Pathol Pharmakol 235:437-463.

Halle W, Liebsch M, Traue D, Spielmann H. 1997. Reduktion der Tierzahlen bei der Einstufung von Stoffen in die EU-Toxizitätsklassen fur akute orale Toxizität mit Hilfe von Daten aus dem Register der Zytotoxizität (RC). ALTEX 14:8-15.

Halle W. 1998. Toxizitätsprüfungen in Zellkulturen für eine Vorhersage der akuten Toxizität (LD_{50}) zur Einsparung von Tierversuchen. Life Sciences/ Lebenswissenschaften, Volume 1, Jülich: Forschungszentrum Jülich.

Halle W. 2003. The Registry of Cytotoxicity: Toxicity testing in cell cultures to predict acute toxicity (LD50) and to reduce testing in animals. Altern Lab Anim 31:89-198. (*English translation of Halle 1998*)

Halle W, Spielmann H. 1992. Two procedures for the prediction of acute toxicity (LD50) from cytotoxicity data. Altern Lab Anim 20:40-49.

Hardman JG, Limbird LE, Molinoff PB, Ruddon RW, Gilman AG, eds. 1996. Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 9th Edition. New York:McGraw-Hill.

Harlan Company. 2002. Available: http://www.harlan.com/us/index.htm [accessed 01 November 2006].

Harbell JW, Koontz SW, Lewis RW, Lovell D, Acosta D. 1997. IRAG working group 4. Cell cytotoxicity assays. Interagency Regulatory Alternatives Group. Food Chem Toxicol 35:79-126.

Hartung T, Balls M, Bardouille C, Blanck O, Coecke S, Gstrauthaler G, et al. 2002. Good cell culture practice: ECVAM Good Cell Culture Practice Task Force report 1. Altern Lab Anim 30:407-414. Available: http://ecvam.jrc.it/publication/index5007.html [accessed 01 November 2006].

Heimann R, Rice RH. 1983. Rat esophageal and epidermal-keratinocytes - intrinsic differences in culture and derivation of continuous lines. J Cell Physiol 117:362-367.

Hintze KL, Janus J, Marenus KD, Muscatiello MJ, Pape WJW, Renskers KJ, et al. 1992. Development of potential alternatives to the Draize eye test - The CTFA evaluation of alternatives program - Phase II - Review of materials and methods. Altern Lab Anim 20:164-171.

Hunter WJ, Lingk W, Recht JP. 1979. Intercomparison study on the determination of single administration toxicity in rats. J Assoc Off Anal Chem 62:864-873.

Hyclone®. 1996. Heat inactivation – are you wasting your time? Art to Science 15:1-5. Available: http://www.hyclone.com/library/arttoscience.htm [accessed 27 July 2006].

ICCVAM. 2000. The Revised Up-and-Down Procedure: A Test Method for Determining the Acute Oral Toxicity of Chemicals and Products. Proposed Test Method and Background Review Document. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [01 November 2006].

ICCVAM. 2001a. Report Of The International Workshop On *In Vitro* Methods For Assessing Acute Systemic Toxicity. NIH Publication No. 01-4499. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ICCVAM. 2001b. Guidance Document On Using *In Vitro* Data To Estimate In Vivo Starting Doses For Acute Toxicity. NIH Publication No. 01-4500. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ICCVAM. 2001c. The Revised Up-and-Down Procedure: A Test Method for Determining the Acute Oral Toxicity of Chemicals. NIH Publication No. 02-4501. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ICCVAM. 2003. ICCVAM Guidelines for the Nomination and Submission of New, Revised, and Alternative Test Methods. NIH Publication No. 03-4508. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

ICCVAM. 2006. Peer Review Panel Report: The Use of *In Vitro* Basal Cytotoxicity Test Methods for Estimating Starting Doses for Acute Oral Systemic Toxicity Testing. Research Triangle Park, NC: National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm [accessed 02 August 2006].

IOM. 2004. Forging a Poison Prevention and Control System. Washington: National Academies Press.

INVITTOX. 1991. The FRAME Modified Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. Protocol Number 3 (IP-3A). Available: http://embryo.ib.amwaw.edu.pl/invittox/ [accessed 01 November 2006].

Karczmar A. 1998. Invited review: Anticholinesterases: dramatic aspects of their use and misuse. Neurochem Int 32:401-411.

King AV, Jones PA. 2003. In-house assessment of a modified *in vitro* cytotoxicity assay for higher throughput estimation of acute toxicity. Toxicol *In Vitro* 17:717-22.

Knox P, Uphill PF, Fry JR, Benford J, Balls M. 1986. The FRAME multicentre project on *in vitro* cytotoxicity. Food Chem Toxicol 24:457-463.

Kohn J, Durham HD. 1993. S9 liver fraction is cytotoxic to neurons in dissociated culture. Neurotoxicology 14:381-386.

Life Technologies, Inc. 1997. Culture of human keratinocytes in defined serum-free medium. Focus 19:1-5. Available: http://www.invitrogen.co.jp/focus/191002.pdf [accessed 27 July 2006].

Lipnick RL, Cotruvo JA, Hill RN, Bruce RD, Stitzel KA, Walker AP, et al. 1995. Comparison of the up-and-down, conventional LD50, and fixed-dose acute toxicity procedures. Food Chem Toxicol 33:223-231.

Litchfield JT, Wilcoxon F. 1949. A simplified method of evaluating dose-effect experiments. J Pharmacol Exp Therap 96:99-113.

Litovitz TL, Klein-Schwartz W, White S, Cobaugh DJ, Youniss J, Drab A, et al. 2000. 1999 Annual report of the american association of poison control centers toxic exposure surveillance system. Am J Emerg Med 18:517-574.

The MathWorks. 1996-2004. MATLAB® software. Natick, MA:The MathWorks, Inc.

Matsuno T, Masuda, Shimizu. 1971. Pipobroman: acute toxicity and general toxicological reaction. Kiso to Rinsho Clinical Report 5:1894-1917.

MDL Information Systems 2001, 2002. Registry of Toxic Effects of Chemical Substances (RTECS\) accessed online by subscription.

Mediatech, Inc. 2006. Heat Inactivation of Serum. Technical Information #S055.0303.001. Available: http://cellgro.bizatomic.net/shop/customer/home.php [accessed 27 July 2006].

Microsoft Corporation. 1998-2001. Microsoft® Excel® 2000 software for Mac®. Redmond, WA:Microsoft Corporation.

Miller LC, Tainter ML. 1944. Estimation of the LD50 and its error by means of logarithmic-probit graph paper. Proc Soc Exp Biol Med 57:261-264.

Miyazaki H, Sekine T, Endou H. 2004. The multispecific organic anion transport family: properties and pharmacological significance. Trends Pharmacol Sci 25:654-662.

National Toxicology Program. 2002. Annual Plan For Fiscal Year 2002. Public Health Service, Department of Health and Human Services. NIH Publication No. 03-5309. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://ntp.niehs.nih.gov/index.cfm?objectid=03611496-026C-BB0F-B2A1527014B2D4B1 [accessed 01 November 2006].

NLM. 2005. Haz-Map, Occupational Exposure to Hazardous Agents, Specialized Information Services, National Institutes of Health, Department of Health & Human Services. Washington, DC:National Library of Medicine. Available: http://hazmap.nlm.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

NLM. 2000, 2001, 2002, 2005. Hazardous Substances Data Bank. Accessed online via TOXNET. National Institutes of Health, Department of Health & Human Services. Washington, DC:National Library of Medicine. Available: http://toxnet.nlm.nih.gov/cgi-bin/sis/htmlgen?HSDB [accessed 01 November 2006].

Occupational Safety and Health Act. 2003. Toxic and Hazardous Substances. Hazard Communication 29CFR1910.1200. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

Occupational Safety and Health Act. 2000. Labeling Requirements for Pesticides and Devices. Labeling Requirements. 40CFR156.10. Available: http://www.gpoaccess.gov/cfr/index.html [accessed 01 November 2006].

OECD. 1998. OECD Series on Principles of Good Laboratory Practice and Compliance Monitoring Number 1: OECD principles on Good Laboratory Practice. (as revised in 1997). ENV/MC/CHEM(98)17. Paris:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2000. Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No. 19. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2001a. Guideline for Testing of Chemicals, 425, Acute Oral Toxicity – Up-and-Down Procedure. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2001b. OECD Series on Testing and Assessment, 33, Harmonized Integrated Classification System for Human Health and Environmental Hazards of Chemical Substances and Mixtures. ENV/JM/MONO(2001)6. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2001c. Guideline for Testing of Chemicals, 420, Acute Oral Toxicity – Fixed Dose Method. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2001d. Guideline For Testing of Chemicals, 423, Acute Oral Toxicity – Acute Toxic Class Method. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2001e. Guidance Document on Acute Oral Toxicity Testing. 24. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2004a. OECD Series on Principles of Good Laboratory Practice and Compliance Monitoring Number 14: Advisory Document of the Working Group on Good Laboratory Practice: The Application of the Principles of GLP to *In Vitro* Studies. ENV/JM/MONO (2004)26. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

OECD. 2004b. Guideline for Testing of Chemicals, 432, *In Vitro* 3T3 NRU Phototoxicity Test. Paris, France:Organisation for Economic Co-operation and Development. Available: http://www.oecd.org [accessed 01 November 2006].

Orphan Medical, Inc. 1999. NDA 20-954 Busulfex™ (busulfan) Injection. NDA 20-954. Available: www.fda.gov/cder/foi/label/1999/20954lbl.pdf [accessed 01 November 2006].

Pesticide Action Network North America. 2005. Pesticide Action Network [PAN] Pesticides Database. Available: http://www.pesticideinfo.org/Index.html [accessed 01 November 2006].

Peloux AF, Federici C, Bichet N, Gouy D, Cano JP. 1992. Hepatocytes in primary culture: an alternative to LD_{50} testing? Validation of a predictive model by multivariate analysis. Altern Lab Anim 20:8-26.

Phillips JC, Gibson WB, Yam J, Alden CL, Hard GC. 1990. Survey of the QSAR and *in vitro* approaches for developing non-animal methods to supersede the *in vivo* LD50 test. Food Chem Toxicol 28:375-394.

Raabe HA, Moyer GO, Mun GC, Sizemore AM, Harbell JW, Merrill JC. 2004. Induction of a zone of cell death in multi-well plates by refeeding [Abstract]. Toxicologist 78:50. Available: http://www.iivs.org/pages/publication_view.php?doc_id=45 [accessed 28 August 2006].

Rasmussen ES. 1999 Cytotoxicity of MEIC chemicals nos. 11-30 in 3T3 mouse fibroblasts with and without microsomal activation. In Vitr Mol Toxicol 12:125-132.

Riddell RJ, Panacer DS, Wilde SM, Clothier RH, Balls M. 1986. The importance of exposure period and cell type in *in vitro* cytotoxicity tests. Altern Lab Anim 14:86-92.

Roguet R. Colovio J, Gaetani Q., Sossou KG, Rogier A. 1993. Cytotoxicity of 28 MEIC chemicals to rat hepatocytes using two viability endpoints: correlation with acute toxicity data in rat and man. Altern Lab Anim 21:216-224.

SAS Institute, Inc. 1999. SAS/STAT User's Guide Version 8. Cary, NC:SAS Institute, Inc.

Schlede E, Mischke U, Roll R, Kayser D. 1992. A national validation study of the acute-toxic-class method--an alternative to the LD50 test. Arch Toxicol 66:455-470.

Schlede E, Mischke U, Diener W, Kayser D. 1995. The international study of the acute toxic class method (oral). Arch Toxicol 69:659-670.

Schmahl D, Osswald H. 1970. Experimental studies on the carcinogenic effects of anticancer chemotherapeutics and immunosuppressive agents. Arzneimittelforschung 20:1461-1467.

Seibert H, Gulden M, Kolossa M, Schepers G. 1992. Evaluation of the relevance of selected *in vitro* toxicity test systems for acute systemic toxicity. Altern Lab Anim 20:240-245.

Seibert H, Balls M, Fentem JH, Bianchi V, Clothier RH, Dierickx PJ, et al. 1996. Acute toxicity testing *in vitro* and the classification and labelling of chemicals. The report and recommendations of ECVAM Workshop 16. Altern Lab Anim 24:499-510.

Sina JF, Galer DM, Sussman RG, Gautheron PD, Sargent EV, Leong B, et al. 1995. A collaborative evaluation of seven alternatives to the Draize eye irritation test using pharmaceutical intermediates. Fundam Appl Toxicol 26:20-31.

Sekine T, Cha SH, Endou H. 2000. The multispecific organic anion transporter (OAT) family. Pflugers Arch 440:337-350.

Spielmann H, Genschow E, Liebsch M, Halle W. 1999. Determination of the starting dose for acute oral toxicity (LD_{50}) testing in the up and down procedure (UDP) from cytotoxicity data. Altern Lab Anim 27:957-966.

Spielmann H, Balls M, Dupuis J, Pape WJW, Pechovitch G, de Silva O, et al. 1998. EU/COLIPA "*In Vitro P*hototoxicity" Validation Study, Results of Phase II (blind trial), Part 1: the 3T3 NRU phototoxicity test. Toxicol *In Vitro* 12:305-327.

Spielmann H, Balls M, Dupuis J, Pape WJW, De Silva O, Holzhütter HG, et al. 1998b. A study on the phototoxic potential of UV filter chemicals from Annex VII of EU Directive 76/768/EEC in the 3T3 NRU *in vitro* phototoxicity test. Altern Lab Anim 26:679-705.

Spielmann H, Liebsch M, Kalweit S, Moldenhauer F, Wirnsberger T, Holzhütter HG, et al. 1996. Results of a validation study in Germany on two *in vitro* alternatives to the Draize eye irritation test, the HET-CAM test and the 3T3 NRU cytotoxicity test. Altern Lab Anim 24**:**741-858.

Spielmann H, Kalweit S, Liebsch M, Wirnsberger T, Gerner I, Bertram-Neis E, et al. 1993. Validation study of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany: Cytotoxicity testing and HET-CAM test with 136 industrial chemicals. Toxicol *In Vitro* 7:505-510.

Spielmann H, Gerner S, Kalweit S, Moog R, Wirnserberger T, Krauser K, et al. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol *In Vitro* 5:539-542.

Stallard N, Whitehead A. 2004. A statistical evaluation of the fixed dose procedure. Altern Lab Anim 32(suppl 2):13-21.

Taconic Farms, Inc. 2002. Taconic Farms Animal Models, Sprague Dawley® Outbred Rats. Available: http://www.taconic.com/anmodels/spragued.htm [accessed 01 November 2006].

Thompson WR. 1947. Use of moving averages and interpolation to estimate median-effective dose. Bacteriol Rev 11:115-145.

Thomson PDR®. 2004. Physicians' Desk Reference, 58th edition. Montvale, NJ:Thomson PDR.

Triglia D, Wegener PT, Harbell J, Wallace K, Mathesen D, Shopsis C. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In: *In Vitro* Toxicology, New Directions (Goldberg A, ed). Alternative Methods in Toxicology, Volume 7. New York:Mary Ann Liebert, 357-365.

Tsao MC, Walthall BJ, Ham RG. 1982. Clonal growth of normal human epidermal-keratinocytes in a defined medium. J Cell Physiol 110: 219-229.

UN. 1977. United Nations Economic and Social Council. Joint meeting of the RID safety committee and the group of experts on the transportation of dangerous goods. Trans/GE 15/R 274, 2. New York and Geneva:United Nations.

UN. 2005. Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS), First Revised Edition. [ST/SG/AC.10/30/Rev.1]. New York and Geneva:United Nations. Available: http://www.unece.org/trans/danger/publi/ghs/ghs_rev01/01files_e.html [accessed 01 November 2006].

Vernot EH, MacEwen JD, Haun CC, Kinkead ER. 1977. Acute toxicity and skin corrosion data for some organic and inorganic compounds and aqueous solutions. Toxicol Appl Pharmacol 42:417-423.

Wallum E. 1998. Acute oral toxicity. Environ Health Perspect 106:497-503.

Weil CS. 1952. Tables for convenient calculation of median effective dose (LD50 or ED50) and instructions in their use. Biometrics 8:249-263.

Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and interlaboratory comparative evaluation of single oral test. Toxicol Appl Pharmacol 11:378-388.

WHO. 1998. The WHO Recommended Classification of Pesticides by Hazard and Guidelines to Classification 1998-1999. International Programme of Chemical Safety. WHO/PCS/98.21. Geneva:World Health Organization.

Willshaw A, Moore LJ, Balls M. 1994. *In vitro* alternatives for the detection of photoirritant chemicals - the EEC COLIPA trial. Toxicol *In Vitro* 8:723-725.

Zbinden G, Flury-Roversi M. 1981. Significance of the LD50-test for the toxicological evaluation of chemical substances. Arch Toxicol 47:77-99.

Zuang V, Balls M, Botham PA, Coquett A, Corsini E, Curren RD, et al. 2002. Follow-up to the ECVAM prevalidation study on *in vitro* tests for acute skin irritation. Altern Lab Anim 30:109-129.

[This Page Intentionally Left Blank]

13.0 GLOSSARY[1]

Accuracy[2]: (a) The closeness of agreement between a test method result and an accepted reference value. (b) The proportion of correct outcomes of a test method. It is a measure of test method performance and one aspect of "relevance". Accuracy is highly dependent on the prevalence of positives in the population being examined.

Acute Toxic Class (ATC) method: An acute oral systemic toxicity test method based on testing groups of animals at fixed doses in a sequential manner. The lethality outcomes are used to classify a test substance into the appropriate GHS acute oral toxicity category.

ANOVA: One-way (and two-way) analysis of variance. ANOVA compares the measurements (continuous variables) of three or more groups when the data are categorized in one way (one-way) or two ways (two-way). ANOVA assumes that the populations compared are normally distributed and that the variances for the groups to be compared are approximately equal.

Assay[2]: The experimental system used. Often used interchangeably with "test" and "test method."

Biphasic dose-response: Dose-response in which cytotoxicity increases (as dose increases), plateaus, and then increases again. See **Section 2.6.3**.

Category prediction: The acute oral GHS hazard category that includes the predicted LD_{50} value for a test chemical.

Coded substances: Substances labeled by code rather than name so that they can be tested and evaluated without knowledge of their identity or anticipation of test results. Coded substances are used to avoid intentional or unintentional bias when evaluating laboratory or test method performance.

Coefficient of determination: In linear regression, it denotes the proportion of the variance in Y and X that is shared. Its value ranges between zero and one and it is commonly called called "R^2." For example, $R^2 = 0.45$, indicates that 45% of the variance in Y can be explained by the variation in X and that 45% of the variance in X can be explained by the variation in Y.

[1] The definitions in this Glossary are restricted to their uses with respect to *in vitro* cytotoxicity testing and the NRU test methods.
[2] Definition used by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM 2003).

Coefficient of variation: A statistical representation of the precision of a test. It is expressed as a percentage and is calculated as follows:

$$\left(\frac{standard\ deviation}{mean}\right) \times 100\%$$

Concordance[2]: The proportion of all substances tested that are correctly classified as positive or negative. It is a measure of test method performance and one aspect of "relevance." The term is often used interchangeably with "accuracy." Concordance is highly dependent on the prevalence of positives in the population being examined. In the NICEATM/ECVAM study, concordance was used to describe the proportion of test substances that were correctly classified into GHS acute oral toxicity hazard categories, or to describe the proportion of test substances for which the laboratories obtained the same classification result.

Confluence: A state in which cells in culture come into contact with other cells in the same culture to form a complete sheet of cells (monolayer). For this study, confluence is determined as a percentage of cell coverage of the tissue culture vessel growth surface (e.g., cell monolayer has 80% confluency).

Cytotoxicity: The adverse effects resulting from interference with structures and/or processes essential for cell survival, proliferation, and/or function. For most chemicals, toxicity is a consequence of non-specific alterations in "basal cell functions" (i.e., via mitochondria, plasma membrane integrity, etc.), which may then lead to effects on organ-specific functions and/or death of the organism. These effects may involve the integrity of membranes and the cytoskeleton, cellular metabolism, the synthesis and degradation or release of cellular constituents or products, ion regulation, and cell division.

Definitive test: The main test of the cytotoxicity assay for determining the IC_{50}. The concentration closest to the range finder test IC_{50} serves as the midpoint of the concentrations tested in a definitive test. Compared to the range finder test, the definitive test uses a smaller dilution factor for the concentrations tested.

Discordant chemicals: Chemicals for which the LD_{50} is not accurately predicted by the IC_{50} (and the associated regression formula) or the GHS toxicity category is not accurately predicted by the IC_{50} (and the associated regression formula). Also referred to as "outliers."

EDIT: Evaluation-guided Development of New *In vitro* Test Batteries. An international project initiated by Björn Ekwall in 1998 and continued by the Scandinavian Society for Cell Toxicology to develop new *in vitro* tests for toxicity and toxicokinetics to be incorporated into test batteries for predicting acute and chronic systemic toxicity.

Endpoint[2]: The biological process, response, or effect assessed by a test method.

Fixed Dose Procedure (FDP): An acute oral systemic toxicity test method based on testing groups of animals at fixed doses. Evident toxicity outcomes are used to classify a test substance into the appropriate GHS acute oral toxicity category.

Geometric mean: The antilog of the mean of the logarithm of the values. It is less affected by extreme values than the arithmetic mean.

Globally Harmonized System (GHS): A classification system presented by the United Nations that provides (a) a harmonized criteria for classifying substances and mixtures according to their health, environmental and physical hazards, and (b) a harmonized hazard communication elements, including requirements for labeling and safety data sheets.

Good Laboratory Practices (GLP)[2]: Regulations promulgated by the U.S. Food and Drug Administration and the U.S. Environmental Protection Agency, and principles and procedures adopted by the Organization for Economic Cooperation and Development and Japanese authorities that describe record keeping and quality assurance procedures for laboratory records that will be the basis for data submissions to national regulatory agencies.

Guidance Document: *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity* (ICCVAM 2001b).

Hazard[2]: The potential for an adverse health or ecological effect. A hazard potential results only if an exposure occurs that leads to the possibility of an adverse effect being manifested.

Hill function: The IC_{50} values are determined from the concentration-response using a Hill function which is a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of the test chemical to the response (typically following a sigmoidal shape).

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\log EC50 - \log X)\text{HillSlope}}}$$

where Y=response (i.e., % viability), X is the substance concentration producing the response, Bottom is the minimum response (0% viability, maximum toxicity), Top is the maximum response (maximum viability), EC_{50} is the substance concentration at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the slope of the curve. When Top=100% viability and Bottom=0% viability, the EC_{50} is the equal to the IC_{50}.

Hill function (rearranged): Some unusual dose-responses did not fit the Hill function well. To obtain a better model fit, the Bottom parameter was estimated without constraints (the previous practice was to use Bottom=0). However, when Bottom≠0, the EC_{50} reported by the Hill function was not the same as the IC_{50} since the Hill function defines EC_{50} as the point midway between Top and Bottom. Thus, the Hill function calculation using the Prism® software was rearranged to calculate the concentration corresponding to the IC_{50} as follows:

$$\log IC_{50} = \log EC_{50} - \frac{\log\left(\frac{Top - Bottom}{Y - Bottom} - 1\right)}{HillSlope}$$

where IC_{50} is the concentration producing 50% toxicity, EC_{50} is the concentration producing a response midway between the Top and Bottom responses; Top is the maximum response (maximum survival), Bottom is the minimum response (0% viability, maximum toxicity), Y=50 (i.e., 50% response), and HillSlope describes the slope of the response. The X from the standard Hill function equation is replaced, in the rearranged Hill function equation, by the IC_{50}.

Hormesis: a dose-response characterized by a compound's ability to cause an opposite effect at low doses than it causes at high doses. A stimulatory effect at low doses and an inhibitory effect in high doses is often the observed manifestation of hormesis.

IC_{50}: test chemical concentration producing 50% inhibition of the endpoint measured (i.e., cell viability).

Interlaboratory reproducibility[2]: A measure of whether different qualified laboratories using the same protocol and test substances can produce qualitatively and quantitatively similar results. Interlaboratory reproducibility is determined during the prevalidation and validation processes and indicates the extent to which a test method can be transferred successfully among laboratories.

Intralaboratory repeatability[2]: The closeness of agreement between test results obtained within a single laboratory when the procedure is performed on the same substance under identical conditions within a given time period.

Intralaboratory reproducibility[2]: The first stage of validation; a determination of whether qualified people within the same laboratory can successfully replicate results using a specific test protocol at different times.

In vitro: In glass. Refers to assays that are carried out in an artificial system (e.g., in a test tube or petri dish) and typically use single-cell organisms, cultured cells, cell-free extracts, or purified cellular components.

In vivo: In the living organism. Refers to assays performed in multicellular organisms.

K_{ow}: Octanol:water partition coefficient.

LC_{50}: Acute lethal serum or blood concentrations.

LD_{50}: The calculated value of the oral dose that produces lethality in 50% of test animals (rats and mice). The LD_{50} values serve as reference values for the *in vitro* tests.

LD_{50} (initial): Acute oral rat and mouse LD_{50} values used during the chemical selection process. For RC chemicals, LD_{50} values were those used in the RC database, which were largely from the 1983/84 RTECS®. For chemicals that were not included in the RC, the initial LD_{50} values came from HSDB or 2002 RTECS®.

LD_{50} (reference): Acute oral rodent LD_{50} values from rats and mice were located through literature searches and references from major toxicity databases such as RTECS®. Studies were reviewed to identify the most appropriate LD_{50} values for each chemical. Values obtained using feral animals, preanesthetized animals, or animals less than 4 weeks of age were not used. Values reported as inequalities were not used. Reference LD_{50} values were determined by calculating the geometric mean of the acceptable LD_{50} values. Data were used in generation of the laboratory-specific and combined-laboratory 3T3 and NHK NRU regressions.

Maximum:minimum value: Ratio of minimum acceptable LD_{50} (or IC_{50}) to maximum acceptable LD_{50} (or IC_{50}).

MEIC: Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity. An international effort established by the Scandinavian Society for Cell Toxicology and initiated in 1983 to evaluate the relationship and relevance of *in vitro* cytotoxicity for predicting the acute toxicity of chemicals in humans.

Millimolar regressions: Linear regressions with IC_{50} values in mmol/L and LD_{50} values in mmol/kg.

Negative control: An untreated sample containing all components of a test system, except the test substance solvent, which is replaced with a known non-reactive material, such as water. This sample is processed with test substance-treated samples and other control samples to determine whether the solvent interacts with the test system.

Neutral red (NR): A weakly cationic water-soluble dye that stains living cells by readily diffusing through the plasma membrane and concentrating in lysosomes where it electrostatically binds to the anionic lysosomal matrix.

Neutral red uptake (NRU): Concentration of neutral red dye in the lysosomes of living cells. Altering the cell surface or the lysosomal membrane by a toxicological agent causes lysosomal fragility and other adverse changes that gradually become irreversible. The NRU test method makes it possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells because these changes result in decreased uptake and binding of NR measurable by optical density absorption readings in a spectrophotometer.

NHK: Normal **H**uman epidermal **K**eratinocytes (from neonatal foreskin).

Optical density (OD): The absorption (i.e., OD measurement) of the resulting colored solution (colorimetric endpoint) in the NRU assay measured at 540 nm ± 10 nm in a spectrophotometric microtiter plate reader using blanks as a reference

Outlier: For any measurement, an extreme value in the NICEATM/ECVAM study was referred to as an "outlier" if it passes a statistical test for outliers at the 99% level. With respect to chemicals, it refers to chemicals that do not fit (using the specified criteria) an IC_{50}-LD_{50} linear regression model. It may also refer to chemicals for which the predicted

acute oral GHS toxicity category does not match the reference *in vivo* GHS acute oral toxicity category.

Performance[2]: The accuracy and reliability characteristics of a test method (see "accuracy", "reliability").

pH: A measure of the acidity or alkalinity of a solution. pH 7.0 is neutral; higher pHs are alkaline, lower pHs are acidic.

Plate reader: A spectrophotometric device for measuring light intensity as a function of color/wavelength (i.e., optical density/absorption at 540 nm ± 10 nm for NRU) in 96-well microtiter tissue culture plates.

Positive control: A sample containing all components of a test system and treated with a substance known to induce a positive response, which is processed with the test substance-treated and other control samples to demonstrate the sensitivity of each experiment and to allow for an assessment of variability in the conduct of the assay over time.

Predictivity[2]: Proportion of *in vivo* category matches for all substances with *in vitro* predictions for a particular category. Predictivity is an indicator of test accuracy.

Protocol[2]: The precise, step-by-step description of a test, including the listing of all necessary reagents, criteria and procedures for the evaluation of the test data.

Quality assurance (QA)[2]: A management process by which adherence to laboratory testing standards, requirements, and record keeping procedures is assessed independently by individuals other than those performing the testing.

Quality control (QC): A management process for ensuring products or services are designed and produced to adhere to a defined set of quality criteria to meet or exceed customer requirements; similar to quality assurance.

Range finder: Initial test performed to determine starting doses for the main (definitive) test. The NRU assays test eight concentrations of the test chemical or the PC by diluting the stock solution in log dilutions to cover a large concentration range.

RC millimole regression: $\log (LD_{50}) = 0.435 \times \log (IC_{50}) + 0.625$; for estimating an LD_{50} value in mmol/kg (body weight) from an IC_{50} value in mM. Developed using the 347 IC_{50} and oral LD_{50} (282 rat and 65 mouse) values from the RC.

RC rat-only millimole regression: $\log (LD_{50}) = 0.439 \times \log (IC_{50}) + 0.621$; for estimating an LD_{50} value in mmol/kg (body weight) from an IC_{50} value in mM. Developed from the IC_{50} values (in mM) and acute oral LD_{50} values (in mmol/kg) for the 282 substances with rat LD_{50} values in the RC database (Halle 1998, 2003).

RC rat-only weight regression: log (LD_{50}) = 0.372 x log (IC_{50}) + 2.024; for estimating an LD_{50} value in mg/kg (body weight) from an IC_{50} value in μg/mL. Developed from the IC_{50} values (in μg/mL) and acute oral LD_{50} values (in mg/kg) for the 282 substances with rat LD_{50} values in the RC database (Halle 1998, 2003).

Reduction alternative[2]: A new or modified test method that reduces the number of animals required.

Reference substances: Substances selected for use during the research, development, prevalidation, and validation of a proposed test method because their response in the *in vivo* reference test method or the species of interest is known (see "reference test"). Reference substances should represent the classes of chemicals for which the proposed test method is expected to be used and cover the range of expected responses (negative, weak to strong positive).

Reference test method[2]: The accepted *in vivo* test method used for regulatory purposes to evaluate the potential of a test substance to be hazardous to the species of interest.

Refinement alternative[2]: A new or modified test method that refines procedures to lessen or eliminate pain or distress in animals or enhances animal well-being.

Registry of Cytotoxicity (RC): Database that consists of *in vivo* acute oral toxicity data (i.e., LD_{50} values) from rats and mice and *in vitro* cytotoxicity data (i.e., IC_{50} values) from multiple cell lines and cytotoxicity endpoints for 347 chemicals with known molecular weights (Halle 1998, 2003). A regression model constructed from these data was proposed by ZEBET, as a method to reduce animal use by identifying the most appropriate starting doses for acute oral systemic toxicity tests.

Relevance[2]: The extent to which a test method correctly predicts or measures the biological effect of interest in humans or another species of interest. Relevance incorporates consideration of the "accuracy" or "concordance" of a test method.

Reliability[2]: A measure of the degree to which a test method can be performed reproducibly within and among laboratories over time. It is assessed by calculating intra- and inter-laboratory reproducibility and intralaboratory repeatability.

Replacement alternative[2]: A new or modified test method that replaces animals with nonanimal systems or one animal species with a phylogenetically lower one (e.g., a mammal with an invertebrate).

Reproducibility[2]: The consistency of individual test results obtained in a single laboratory (intralaboratory reproducibility) or in different laboratories (interlaboratory reproducibility) using the same protocol and test substances (see intra- and inter-laboratory reproducibility).

RTECS®: Registry of Toxic Effects for Chemical Substances**.** Compendium of data extracted from the open scientific literature. The database includes toxicity data (e.g., acute

toxicity) and specific numeric toxicity values (e.g., LD_{50}). Compiled by the U.S. National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH) and now licensed to MDL Information Systems, Inc.

Sensitivity[2]: The proportion of all positive substances that are classified correctly as positive in a test method. It is a measure of test method accuracy.

Simulation modeling: Computer simulation modeling of the acute systemic toxicity assays to determine animal use. The simulation process uses a simulated population of animals for testing, a reference endpoint (i.e., "true" LD_{50} value), and its assumed log-normal distribution. Mortality is assumed to have a mean equal to the log of the true LD_{50}. The SD, which reflects the variability of the simulated population, is the inverse of the slope of the dose-mortality curve. Due to a lack of information for the real dose-mortality curve, the simulations assumed slopes of 0.5, 0.8, 2, 4, and 8.3.

Solubility: The amount of a test substance that can be dissolved (or thoroughly mixed with) culture medium or solvent. The solubility protocol was based on a U.S. EPA guideline (EPA 1998) that involves testing for solubility in a particular solvent, beginning at a relatively high concentration and proceeding to successively lower concentrations by adding more solvent as necessary for dissolution. Testing stops when, upon visual observation, the procedure produces a clear solution with no cloudiness or precipitate.

Solvent control: An untreated sample containing all components of a test system, including the solvent that is processed with the test substance-treated and other control samples to establish the baseline response for the samples treated with the test substance dissolved in the same solvent. When tested with a concurrent negative control, this sample also demonstrates whether the solvent interacts with the test system.

Specificity[2]: The proportion of all negative substances that are classified correctly as negative in a test method. It is a measure of test method accuracy.

Spirit of GLP: Guidance provided in the Statement of Work specifically for the non GLP-compliant laboratory that participated in the validation study. Based on the GLP standards referenced in the ECVAM Workshop 37 Report (Cooper-Hannan et al. 1999) and the OECD Principles of GLP (OECD 1998). "*Laboratories that are non GLP-compliant shall adhere to GLP principles and other method parameters. Documentation and accountability shall be equal to GLP requirements. Laboratories must make assurances that they are equal in performance criteria and that there is parity amongst the laboratories."*

TESS: Toxic Exposure Surveillance System. A comprehensive poisoning surveillance database maintained by the American Association of Poison Control Centers (AAPCC).

Test[2]: The experimental system used; used interchangeably with "test method" and "assay".

Test method[2]: A process or procedure used to obtain information on the characteristics of a substance or agent. Toxicological test methods generate information regarding the ability of a

substance or agent to produce a specified biological effect under specified conditions. Used interchangeably with "test" and "assay". See also "validated test method" and "reference test".

Test method component: Structural, functional, and procedural elements of a test method that are used to develop the test method protocol. These components include unique characteristics of the test method, critical procedural details, and quality control measures.

3T3: BALB/c 3T3 clone A31 mouse fibroblasts developed in 1968 from disaggregated 14- to 17-day-old BALB/c mouse embryos (American Type Culture Collection [ATCC]; # CCL-163).

Tiered testing: A testing strategy where all existing information on a test substance is reviewed, in a specified order, before *in vivo* testing.

Toxicity underpredicted: Measured l LD_{50} value of a test substance is lower than the predicted LD_{50} value.

Toxicity overpredicted: Measured LD_{50} value of a test substance is higher than the predicted LD_{50} value.

Transferability[2]: The ability of a test method or procedure to be accurately and reliably performed in different, competent laboratories.

Up-and-Down Procedure (UDP): An acute oral systemic toxicity test method used to minimize the number of animals required to estimate the acute oral toxicity of a chemical, estimate the LD_{50} and confidence interval (CI), and observe signs of toxicity. Single animals are tested sequentially. Subsequent doses are based on the outcome of the previous animal.

Validated test method[2]: An accepted test method for which validation studies have been completed to determine the accuracy and reliability of this method for a specific proposed use.

Validation[2]: The process by which the reliability and accuracy of a procedure are established for a specific purpose.

Vehicle control (VC): The VC consists of appropriate cell culture medium for the cells in the test (i.e., DMEM for 3T3 cells and keratinocyte growth medium for the NHK cells). For chemicals dissolved in DMSO, the VC consists of medium with the same amount of solvent as that used in the test chemical concentrations that are applied to the 96-well test plate. The final DMSO concentration is ≤0.5% (v/v) in the VCs.

Volatility: Ability of a test chemical to evaporate. A general indicator of volatility issues in the NRU test methods is the percent difference in the mean OD values for the two VC columns on the test plate. If the difference is greater than 15%, then chemical volatility can be suspected, especially if the VC adjacent to the highest test concentration had a

significantly reduced OD value. Volatility may be an issue for compounds with a specific gravity of less than 1.

Weight of evidence (process): The strengths and weaknesses of a collection of information are used as the basis for a conclusion that may not be evident from the individual data.

Weight regressions: Linear regressions with IC_{50} values in µg/mL and LD_{50} values in mg/kg.

ZEBET: The German National Center for the Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments.

NIH Publication No: 07-4518

BACKGROUND REVIEW DOCUMENT

In Vitro Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity

Volume 2 of 2

Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

National Institute of Environmental Health Sciences
National Institutes of Health
U. S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

THE INTERAGENCY COORDINATING COMMITTEE ON THE VALIDATION OF ALTERNATIVE METHODS
and
THE NTP INTERAGENCY CENTER FOR THE EVALUATION OF ALTERNATIVE TOXICOLOGICAL METHODS

In 1997, the National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), one of the National Institutes of Health (NIH), established the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) to:

- Coordinate interagency technical reviews of new and revised toxicological test methods, including alternative test methods that reduce, refine, or replace the use of animals

- Coordinate cross-agency issues relating to validation, acceptance, and national and international harmonization of new, modified, and alternative toxicological test methods

On December 19, 2000, the ICCVAM Authorization Act (42 U.S.C. § 2851-2, 2851-5 [2000]) established ICCVAM as a permanent interagency committee of NIEHS under the National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM).

ICCVAM is comprised of representatives from 15 U.S. Federal regulatory and research agencies that use, generate, or disseminate toxicological information. ICCVAM conducts technical evaluations of new, revised, and alternative methods with regulatory applicability. The Committee promotes the scientific validation and regulatory acceptance of toxicological test methods that more accurately assess the safety or hazards of chemicals and products and that refine (decrease or eliminate pain and distress), reduce, and/or replace animal use. NICEATM administers ICCVAM and provides scientific and operational support for ICCVAM-related activities. More information about ICCVAM and NICEATM can be found on the ICCVAM/NICEATM web site (http://iccvam.niehs.nih.gov) or obtained by contacting NICEATM (telephone: [919] 541-2384, e-mail: iccvam@niehs.nih.gov).

The following Federal regulatory and research agencies are ICCVAM members:

Consumer Product Safety Commission
Department of Agriculture
Department of Defense
Department of Energy
Department of Health and Human Services
- Agency for Toxic Substances and Disease Registry
- Food and Drug Administration
- National Cancer Institute
- National Institute of Environmental Health Sciences
- National Institutes of Health, Office of the Director
- National Institute of Occupational Safety and Health
- National Library of Medicine

Department of the Interior
Department of Labor
- Occupational Safety and Health Administration

Department of Transportation
Environmental Protection Agency

On the Cover
The ICCVAM/NICEATM graphic symbolizes the important role of new and alternative toxicological methods in protecting and advancing the health of people, animals, and our environment.

In Vitro Cytotoxicity Test Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity

Background Review Document

Volume 2 of 2

Prepared by
The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center
for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
P.O. Box 12233
Mail Drop: EC-17
Research Triangle Park, NC 27709

November 2006
NIH Publication No. 07-4518

National Institute of Environmental Health Sciences
National Institutes of Health
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

This document is available electronically at:
http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm

Printed: 11/30/2006

TABLE OF CONTENTS

APPENDICES

VOLUME 2 OF 2

LIST OF FIGURES

LIST OF TABLES

LIST OF ACRONYMS AND ABBREVIATIONS

A-CUTE-TOX	A-Cute-Tox Project (EU Research & Development Integrated Project)
ADME	Absorption, distribution, metabolism, and elimination
ANOVA	Analysis of variance
ASTDR	Agency for Toxic Substances and Disease Registry
ASTM	American Society for Testing and Materials
ATC	Acute Toxic Class method
ATCC	American Type Culture Collection
ATWG	Acute Toxicity Working Group
BBB	Blood:brain barrier
BPE	Bovine pituitary extract
BRD	Background Review Document
^{o}C	Degrees Celsius
CAS	Chemical Abstracts Service
CASRN	Chemical Abstracts Service Registry Number
CCOHS	Canadian Centre for Occupational Health and Safety (CCOHS)
CDER	U.S. FDA Center for Drug Evaluation and Research
CESARS	Chemical Evaluation Search and Retrieval System
CFU	Colony forming units
CHRIS	Chemical Hazard Response
CI	Confidence interval
CICADS	Concise International Chemical Assessment Documents
CIS	ILO Occupational Safety and Health Information Centre
CNS	Central nervous system
COLIPA	The European Cosmetic Toiletry and Perfumery Association
CPSC	U.S. Consumer Product Safety Commission
CSF	Colony stimulating factor
CTFA	Cosmetic, Toiletries and Fragrance Association
CV	Coefficient of variation
DART®/ETIC	Developmental and Reproductive Toxicology/Environmental Teratology Information Center
DEA	U.S. Drug Enforcement Administration
DHHS	U.S. Department of Health and Human Services
DIMDI	Deutsches Institut fur Medizinische Dokumentation und Information (The German Institute for Medical Documentation and Information)
DNA	Deoxyribose nucleic acid
DMEM	Dulbecco's Modification of Eagle's Medium
DMSO	Dimethyl sulfoxide
D-PBS	Dulbecco's phosphate buffered saline
DOD	U.S. Department of Defense
DOT	U.S. Department of Transportation
EC	European Commission
EC_{50}	Concentration of a substance that produces 50% of the maximum possible response for that substance

ECBC	U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center
ECETOC	European Centre for Ecotoxicology and Toxicology of Chemicals
EC/HO	European Commission/British Home Office
ECVAM	European Centre for the Validation of Alternative Methods
EDIT	Evaluation-guided development of new *in vitro* tests
EHC	Environmental Health Criteria
EHS	EPA's Extremely Hazardous Substance list
EPA	U.S. Environmental Protection Agency
ERG	Emergency Response Guidebook
ETOH	Ethanol (Ethyl alcohol)
EU	European Union
EXTONET	The Extension Toxicology Network
FAL	FRAME Alternatives Laboratory
FAO	UN Food and Agriculture Organization
FB1	Fumonisin B1
FDA	U.S. Food and Drug Administration
FDP	Fixed Dose Procedure
FIFRA	U.S. Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticide Act
FR	Federal Register
FRAME	Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments
GABA	Gamma amino butyric acid
GCCP	Good cell culture practices
GHS	Globally Harmonized System (of Classification and Labeling of Chemicals)
GLP	Good Laboratory Practices
gm	Grams
HBSS	Hanks' balanced salt solution
HPV	High Production Volume
hr	Hour(s)
HSDB	Hazardous Substances Data Bank
HSG	Health and Safety Guides
HTD	Highest tolerated dose
IARC	International Agency for Research on Cancer
IC_{20}	Concentration producing 20% inhibition of the endpoint measured
IC_{50}	Concentration producing 50% inhibition of the endpoint measured
IC_{80}	Concentration producing 80% inhibition of the endpoint measured
ICCVAM	Interagency Coordinating Committee for the Validation of Alternative Methods
ICSC	International Chemical Safety Cards
ID	Insufficient data
ID_{50}	Index of cytotoxicity; dose producing a 50% reduction in protein value
IIVS	Institute for *In Vitro* Sciences
ILO	International Labour Organisation
i.m.	Intramuscular
INVITOXX	*In Vitro* Techniques in Toxicology (ERGATT FRAME ECVAM Data bank)

IOM	Institute of Medicine
i.p.	Intraperitoneal
IPCS	International Programme on Chemical Safety
IRAG	Interagency Regulatory Alternatives Group
IRPTC	International Register of Potentially Toxic Chemicals
ISO	International Standards Organization
IUCLID	International Uniform Chemical Information Database
i.v.	Intravenous
JECFA	Joint Expert Committee on Food Additives
JMPR	Joint Meeting on Pesticide Residues
KBM®	Keratinocyte basal medium
kg	Kilogram
K_{ow}	Octanol-water partition coefficient
L	Liter
LC	Lethal blood concentration
LD_{50}	Dose that produces lethality in 50% of test animals
LDH	Lactate dehydrogenase
MAS	Maximum average Draize score
MEIC	Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity
MeSH®	Medical Subject Heading
µL	Microliters
µm	Micrometers
µM	Micromoles
mg	Milligram
MIT	Metabolic inhibition test
mL	Milliliter
mM	Millimolar
MMAS	Modified maximum average score
mmol	Millimoles
MPE	Mean photo effect
MSDS	Material Safety Data Sheets
MTT	3-(4,5-Dimethylthiazol-2-yl)-2,5-diphenyl tetrazolium bromide
N	Number (of substances)
NA	Not applicable
NADH	Nicotine adenine dinucleotide (reduced)
NC	Not calculated
NCS	Newborn calf serum
NCTR	U.S. FDA National Center for Toxicological Research
n.d.	Not detectable
NHK	Normal human epidermal keratinocytes
NICEATM	National Toxicology Program Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods
NIEHS	U.S. National Institute of Environmental Health Sciences
NIH	U.S. National Institutes of Health
NIOSH	U.S. National Institute for Occupational Safety and Health
NLM	National Library of Medicine

NR	Neutral red
NRU	Neutral red uptake
NTP	U.S. National Toxicology Program
OAT	Organic anionic transporters
OD	Optical density
OD_{540}	Optical density (absorbance) at a wavelength of 540 nm
OECD	Organisation for Economic Co-operation and Development
OHM/TADS	EPA Oil and Hazardous Materials/Technical Assistance Data System
OPP	U.S. EPA Office of Pesticide Programs
OPPTS	EPA Office of Prevention, Pesticides and Toxic Substances
ORD	U.S. EPA Office of Research and Development
OSHA	U.S. Occupational Safety and Health Administration
OTA	Ochratoxin A
PBS	Phosphate buffered saline
PC	Positive control
PDS	Pesticide Data Sheets
pg	Picogram
PG	Packing group
PIF	Photoinhibition factor
PIMS	Poisons Information Monographs
pK	Acid/base dissociation constant
PLS	Partial Least Squares (analysis)
PPIS	EPA Pesticide Product Information System
PPT	Precipitate
QA	Quality assurance
QC	Quality control
R^2	Coefficient of determination
r_s	Spearman correlation coefficient
RC	Registry of Cytotoxicity
REACH	Registration, evaluation, authorisation and restriction of chemicals
RTECS®	Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
RTK NET	The Right-to-Know Network
SD	Standard deviation
SIDS	OECD Screening Information Data Sets
SIS	Scientific Information Service
SLS	Sodium lauryl sulfate
SMT	Study management team
SOP	Standard operating procedure
3T3	BALB/c mouse fibroblasts, clone A31 (ATCC # CCL-163)
TESS	Toxic Exposure Surveillance System
TG	Test guideline
TRI	U.S. EPA Toxics Release Inventory
TSCA	Toxic Substances Control Act
UDP	Up-and-Down Procedure
UN	United Nations

UNEP	United Nations Environment Programme
USP	U.S. Pharmacopoeia
UV	Ultraviolet (light)
VC	Vehicle control
WHO	World Health Organization
XTT	2,3-Bis(2-methoxy-4-nitro-5-sulfophenyl)-2H-tetrazolium-5-carboxanilide
ZEBET	Zentralstelle zur Erfassung und Bewertung von Ersatz- und Ergänzungsmethoden zum Tierversuch (German Center for Documentation and Evaluation of Alternative Methods to Animal Experiments)

ACKNOWLEDGMENTS

The following individuals are acknowledged for their contributions to the in vitro acute toxicity test method review process.

Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) Acute Toxicity Working Group (ATWG)

Consumer Product Safety Commission (CPSC)

Kailash Gupta, D.V.M., Ph.D.
Cassandra Prioleau, Ph.D.
Marilyn Wind, Ph.D. (ATWG Chair, ICCVAM Vice Chair)

Department of Energy (DOE)

Po-Yung Lu, Ph.D.

Environmental Protection Agency (EPA)

Karen Hamernik, Ph.D.
Masih Hashim, Ph.D.
Marianne Lewis
Elizabeth Margosches, Ph.D.
Deborah McCall
John Redden, Ph.D.
Amy Rispin, Ph.D.

Food and Drug Administration (FDA)

Leonard Schechtman, Ph.D. (ICCVAM Chair)
Kenneth Hastings, Ph.D.
Abigail Jacobs, Ph.D.
David Morse, Ph.D.
Thomas Umbreit, Ph.D.

National Institute for Occupational Safety & Health (NIOSH)

Steven Reynolds, Ph.D.

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)

Rajendra Chhabra, Ph.D., D.A.B.T.
William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (ICCVAM Executive Director; NICEATM Director)
Raymond Tice, Ph.D. (NICEATM Deputy Director)

European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) Liaisons

Silvia Casati, Ph.D.
Pilar Prieto, Ph.D.

National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Dave Allen, Ph.D.
ILS, Inc.

Bradley Blackard, M.S.P.H.
ILS, Inc.

Sue Brenzel
ILS, Inc.

Thomas Burns, M.S.
ILS, Inc.

Patricia Ceger, M.S.
ILS, Inc.

Jeffery Charles, Ph.D., M.B.A., D.A.B.T.
ILS, Inc.

Neepa Choksi, Ph.D.
ILS, Inc.

Frank Deal, M.S.
ILS, Inc.

Linda Litchfield
ILS, Inc.

Deborah McCarley
NIEHS

Michael Paris
ILS, Inc.

William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (Director)
NIEHS

Judy Strickland, Ph.D., D.A.B.T.
ILS, Inc.

Raymond Tice, Ph.D. (Deputy Director)
NIEHS

Jim Truax, M.A.
ILS, Inc.

Participants in the *In Vitro* Cytotoxicity Validation Study

NICEATM gratefully acknowledges the generous contributions of the individuals who directly participated in the NICEATM/ECVAM Validation Study. Their time and efforts are greatly appreciated.

BioReliance Corp.
(Chemical Distribution)
Martin Wenk, Ph.D. – Principal Investigator

Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS)
(Lead Laboratory – Protocols)
Hans Raabe, M.S. – Study Director
Greg Mun – Laboratory Manager
Angela Sizemore – Research Technician
Gregory O. Moyer – Research Technician
John Harbell, Ph.D. – Scientific Director

U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC)
(Testing Laboratory)
Cheng Cao, Ph.D. – Study Director
Janna Madren-Whalley – Research Technician
Chundakkadu Krishna, Ph.D. – Research Technician
James J. Valdes, Ph.D. – Scientific Advisor

FRAME Alternatives Laboratory (FAL)
University of Nottingham, UK
(Lead Laboratory – Software)
Richard Clothier, Ph.D. – Study Director
Nicola Bourne – Research Technician
Monika Owen – Research Technician
Rachel Budworth – Research Technician

Constella Group (Statistical Analyses)
Patrick Crockett, Ph.D.
Eric Harvey, Ph.D.
Wendell Jones, Ph.D.
Robert Lee, M.S.
Jessica L. Matthews, M.S.
Michael Riggs, Ph.D.
Janine Wilcox
Nicole Williams

Statistical Consultant
Joseph Haseman, Ph.D.

NIEHS
Grace Kissling, Ph.D. – Contract Project Officer
Molly Vallant - Contract Project Officer

Study Management Team (SMT)
NICEATM
William Stokes, D.V.M., D.A.C.L.A.M. (NIEHS) – Director, NICEATM
Raymond Tice, Ph.D. (NIEHS) – Deputy Director, NICEATM – Advisor
Judy Strickland, Ph.D., D.A.B.T. (ILS, Inc.) – Project Coordinator
Michael Paris (ILS, Inc.) – Assistant Project Coordinator
Jeffrey Charles, Ph.D., D.A.B.T. (ILS, Inc.) – Advisor

ECVAM
Thomas Hartung, Ph.D., M.D. – Head of Unit from 2002
Silvia Casati, Ph.D. – Task Leader
Michael Balls, D. Phil.– Head of Unit until June 2002

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix A

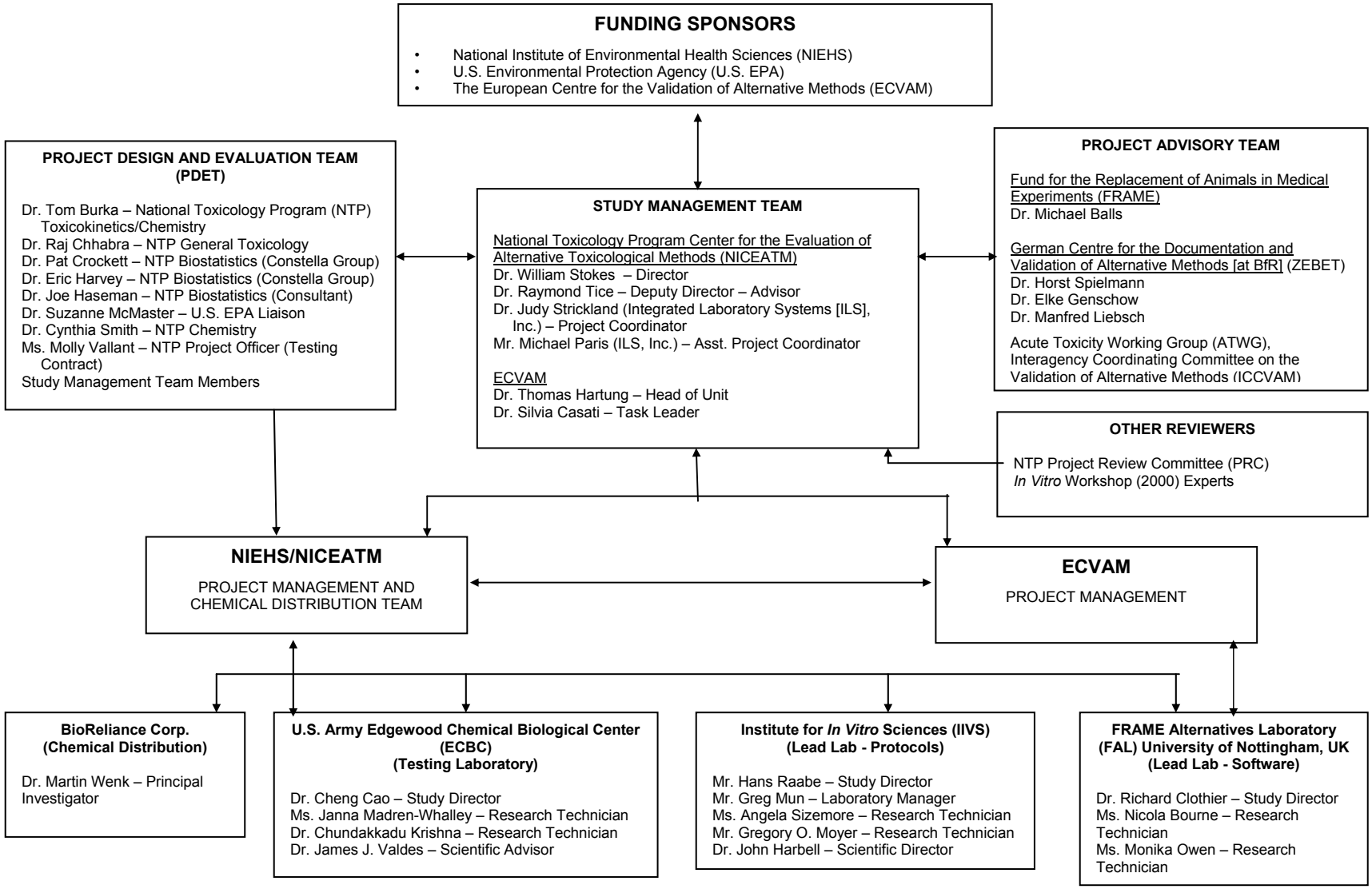
NICEATM/ECVAM Validation Study Management

[This Page Intentionally Left Blank]

NICEATM/ECVAM Validation Study Management

NICEATM and ECVAM staff managed the study as shown in **Figure A-1**. The NICEATM-ECVAM Study Management Team (SMT), in consultation with the Project Design and Evaluation Team and other advisors shown in **Figure A-1**, designed the study, selected the reference substances (see **Section 3**), and selected the laboratories that would purchase and distribute chemicals and perform solubility and cytotoxicity testing. BioReliance Corporation (Rockville, MD) purchased the reference substances, tested the solubility, and distributed the coded reference substances to the laboratories that performed the cytotoxicity testing. The Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS; Gaithersburg, MD), U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center (ECBC; Edgewood, MD), and Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments (FRAME) Alternatives Laboratory, University of Nottingham, Queen's Medical Center (FAL; Nottingham, UK) were the participating laboratories that performed the solubility and cytotoxicity testing.

Figure A-1 Study Management Chart



Appendix B

Validation Study Test Method Protocols
(Phase III)

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix B1

Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) Cytotoxicity Test

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study
Phase III

November 4, 2003

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity
Phase III

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and supports the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The 3T3 NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of 60 blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded Chemicals (60)*

B. Controls:

Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative):	Assay medium (DMEM containing 5% NBCS, 4 mM L-Glutamine, 100 IU/mL Penicillin, 100 µg/mL Streptomycin)
Solvent:	Assay medium, DMSO, or ethanol directed by the Study Management Team, for preparation of test chemicals

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

A. Facility Information

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:
7) Safety Manager:
8) Facility Management:

B. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

1. Cell Lines

BALB/c 3T3 cells, clone 31
CCL-163, LGC Reference Materials, Customer Service, Queens Road, Teddington, Middlesex, TW110LY, UK
CCL-163, American Type Culture Collection [ATCC], Manassas, VA, USA)

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5 mL)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel; multichannel repeater pipette), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (e.g., 75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Falcon tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)
q) Multichannel reagent reservoir
r) Waterbath sonicator
s) Magnetic stirrer
t) Antistatic bar ionizer/antistatic gun (optional for neutralizing static on 96-well plates)
u) Dry heat block (optional)
v) Adhesive film plate sealers (e.g., Excel Scientific SealPlate™,Cat # STR-SEAL-PLT or equivalent)
w) Vortex mixer
x) Filters/filtration devices

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of 3T3 cells. Multi-channel repeater pipettes may be used for plating cells in the 96-well plates, dispensing plate rinse solutions, NR medium, and desorb solution. Do not use the repeater pipette for dispensing test chemicals to the cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
b) L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
c) New Born Calf Serum (NBCS or NCS) (e.g., Biochrom # SO 125)
d) 0.05 % Trypsin/0.02 % EDTA solution (e.g., SIGMA T 3924, ICN-Flow, # 16891-49)
e) Phosphate buffered saline (PBS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(for trypsinization)
f) Hanks' Balanced Salt Solution (HBSS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(CMF-HBSS)
g) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
h) Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)
i) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
j) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
k) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
l) Glacial acetic acid, analytical grade
m) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture and NR desorb solution (sterile)
n) Sterile/non-sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

[Note: Due to lot variability of NBCS/NCS, first check a lot for growth stimulating properties with 3T3 cells (approximately 20-24 h doubling time) and then reserve a sufficient amount of NBCS/NCS. May use pre-tested serum lot from Phases Ia, Ib, and II of the validation study if the serum has been stored under appropriate conditions and shelf-life has not expired.]

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

DMEM (buffered with sodium bicarbonate) supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

a) for freezing (Freeze Medium); contains 2X concentration of NBCS/NCS and DMSO of final freezing solution

40 %	NBCS/NCS
20 %	DMSO

b) for routine culture (Routine Culture Medium)

10 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine

c) for test chemical dilution (Chemical Dilution Medium)

4 mM	Glutamine
200 IU/mL	Penicillin
200 µg/mL	Streptomycin

d) for dilution of NR stock solution (NR Dilution Medium)

5 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine
100 IU/mL	Penicillin
100 µg/mL	Streptomycin

[Note: The Chemical Dilution Medium with test chemical will dilute the serum concentration of the Routine Culture Medium in the test plate to 5 %. Serum proteins may mask the toxicity of the test substance, but serum cannot be totally excluded because cell growth is markedly reduced in its absence.]

Completed media formulations should be kept at approximately 2-8° C and stored for no longer than two weeks.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.25 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

0.758 mL (3.3 mg NR dye/mL solution)	NR Stock Solution
99.242 mL	NR Dilution Medium (pre-warmed to 37° C)

The final concentration of the NR Medium is **25 µg NR dye/mL** and aliquots will be prepared on the day of application.

[Note: The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 μm pore size) to reduce NR crystals. Aliquots of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding to the cells and used within 30 min of preparation but also used within 15 min after removing from 37° C storage.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

BALB/c 3T3 cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 75 - 80 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved BALB/c 3T3 Cells

Upon receipt of cryopreserved BALB/c 3T3 cells, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells

Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C ± 1ºC. Leave for as brief a time as possible.

a) Resuspend the cells in pre-warmed Routine Culture Medium and transfer into pre-warmed Routine Culture Medium in a tissue-culture flask.

b) Incubate at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air.

c) When the cells have attached to the bottom of the flask (within 4 to 24 h), decant the supernatant and replace with fresh pre-warmed (37ºC) medium. Culture as described above.

d) Passage at least two times before using the cells in a cytotoxicity test.

A fresh batch of frozen cells from the stock lot of cells should be thawed out and cultured approximately every two months. This period resembles a sequence of about 18 passages.

4. Routine Culture of BALB/C 3T3 Cells

When cells exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent) they should be removed from the flask by trypsinization:

a) Decant medium, briefly rinse cultures with 5 mL PBS or Hanks' BSS (without Ca^{2+}, Mg^{2+}) per 25 cm^2 flask (15 mL per 75 cm^2 flask). Wash cells by gentle agitation to remove any remaining serum that might inhibit the action of the trypsin.

b) Discard the washing solution. Repeat the rinsing procedure and discard the washing solution.

c) Add 1-2 mL trypsin-EDTA solution per 25 cm^2 to the monolayer for a few seconds (e.g., 15-30 seconds).

d) Remove excess trypsin-EDTA solution and incubate the cells at room temperature.

e) After 2-3 minutes (min), lightly tap the flask to detach the cells into a single cell suspension.

5. Cell Counting

After detaching the cells, add 0.1-0.2 mL of pre-warmed (37ºC) Routine Culture Medium/cm^2 to the flask (e.g., 2.5 mL for a 25 cm^2 flask). Disperse the monolayer by gentle trituration. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension obtained using a hemocytometer or cell counter (e.g., Coulter counter).

6. Subculture of Cells

After determination of cell number, the culture can be sub-cultured into other flasks or seeded into 96-well microtiter plates. BALB/c 3T3 cells are routinely passaged at suggested cell densities as listed in the table (approximate doubling time is 20-24 h). The individual laboratories will need to determine and adjust the final density to achieve appropriate growth.

Table 1. Cell Density Guidelines for Subculturing

Days in Culture	Seeding Density (cells/cm^2)	Total Cells per 25 cm^2 flask	Total Cells per 75 cm^2 flask
2	16800	4.2×10^5	1.26×10^6
3	8400	2.1×10^5	6.3×10^5
4	4200	1.05×10^5	3.15×10^5

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test.]

7. Freezing Cells (procedure required only if current stock of cells is depleted)

Stocks of BALB/c 3T3 cells can be stored in sterile, freezing tubes in a liquid nitrogen freezer. DMSO is used as a cryoprotective agent.

a) Centrifuge trypsinized cells at approximately 200 x g.

b) Suspend the cells in cold Routine Culture Medium (half the final freezing volume) so a final concentration of 1-5x10^6 cells/mL can be attained.

c) Slowly add cold Freeze Medium to the cells so that the solvent will equilibrate across the cell membranes. Bring the cell suspension to the final freezing volume. The final cell suspension will be 10 % DMSO. Aliquot the cell suspension into freezing tubes and fill to 1.8 mL.

d) Place the tubes into an insulated container (e.g., styrofoam trays) and place in a freezer (-70 to -80°C) for 24 h. This gives a freezing rate of approximately 1°C/min. The laboratory needs to ensure that the freezing protocol is applicable to the 3T3 cells and that the cells are viable when removed from cryopreservation.

e) Place the frozen tubes into liquid nitrogen for storage.

8. Preparation of Cells for Assays

a) Cultured cells that are going to be used in seeding the 96-well plates should be fed fresh medium the day before subculturing to the plates. On the day of plate seeding, prepare a cell suspension of 2.0 – 3.0x10^4 cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 100 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate (See **Section VII.F.1**). In the remaining wells, dispense 100 µl of a cell suspension of 2.0 – 3.0x10^4 cells/mL (= 2.0 – 3.0x10^3 cells/well). The seeding density should be noted to ensure that the cells in the control wells are not overgrown after three days (i.e., 24 h incubation in step **b** and 48 h exposure to test chemicals). Prepare one plate per chemical to be tested.

b) Incubate cells for 24 ± 2 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a less than half (< 50%) confluent monolayer. This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

c) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

9. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase III if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in NR Dilution Medium (5 % NBCS/NCS). Seed cells at 4200 cells/cm^2.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4 - 6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue; Nigrosin) if Study Director sees a need. Use appropriate size exclusion limits if using a Coulter counter. Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 h, 48 h, 72 h, and 96 h post inoculation. Change culture medium at 72 h or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Preparation of Test Chemicals

The Study Management Team will provide direction on the solvent to be used for each test chemical. [Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemicals in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. Test chemical solutions should not be prepared in bulk for use in subsequent tests. Ideally, the solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate. The SMT may direct the Study Director to store an aliquot (e.g., 1 mL) of the highest 2X stock solution (e.g., low solubility chemicals) in a freezer (e.g., -70°C) for use in future chemical analyses.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test conducted per the *Test Method Protocol for Solubility Determination*. Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:
   - 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in Chemical Dilution Medium, or

- 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in Chemical Dilution Medium before application to 3T3 cells.

Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.

2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.

3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).

4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)

5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.

6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of Chemical Dilution Medium (e.g., 0.1 mL test chemical in DMSO + 9.9 mL Chemical Dilution Medium) to derive the eight 2X concentrations for application to 3T3 cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The 3T3 cells will have 0.05 mL Routine Culture Medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.05 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.1 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

7) A test article prepared in Chemical Dilution Medium, DMSO, or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions should be evaluated for precipitates and the results recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay and main experiments. However, doses containing test article precipitates should be avoided and generally will not be used in the ICx determinations for the definitive tests. Precipitates in 2X dosing solutions are permissible for range finder tests but not for definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Prior to or immediately after application of the test chemical to the 96-well plate, measure the pH of the highest 2X dosing concentration of the test chemical (i.e., C1 in the test plate, see Figure 1) in culture medium. Use pH paper (e.g., pH 0 - 14 to estimate and pH 5 – 10 to determine more precise value; or Study Director's discretion) for measurements. The pH paper should be in contact with the solution for approximately one minute. Document the pH and note the color of the 2X concentration medium (i.e., in the EXCEL® template). Medium color for all dosing dilutions should be noted in the workbooks. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

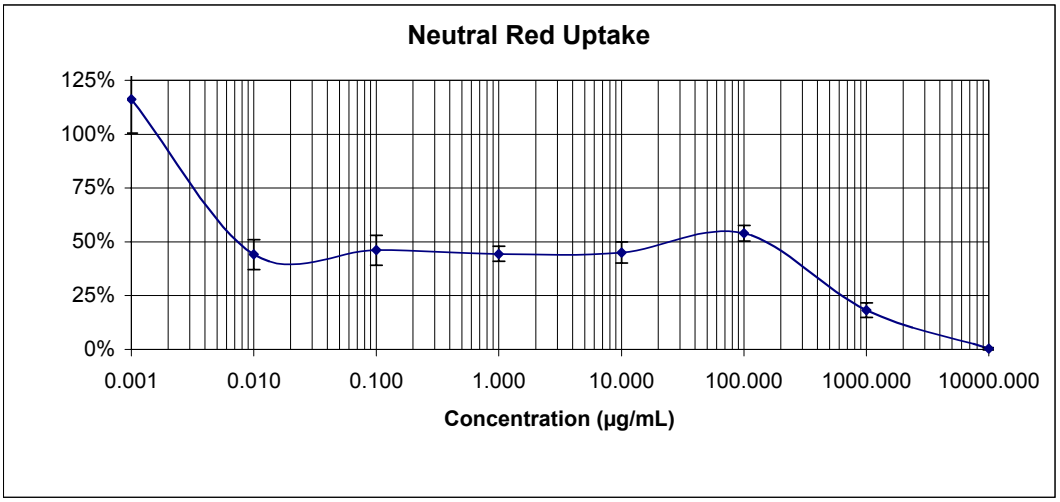
a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

If a range finder experiment does not generate enough cytotoxicity, then higher doses should be attempted. If cytotoxicity is limited by solubility, then more stringent solubility procedures to increase the stock concentration (to the maximum concentration specified in Section VII.D.3.b.) should be employed. Place the test chemical concentration into an incubator (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) and stir or rock for up to 3 hours, if necessary, to facilitate dissolution. For stocks prepared in medium, vessel caps should be loose to allow for CO_2 exchange. Proceed with dosing solution preparation and dosing.

- If a range finding test produces a biphasic curve, then the doses selected for the subsequent main experiments should cover the most toxic dose-response range (see Example 1 – the most toxic range is 0.001 – 0.1 µg/mL).

Example 1 – Biphasic Curve



b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the definitive concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical.]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller (e.g., dilution factor of $^{6}\sqrt{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range around the IC_{50} (> 0 % and < 100 % effect) preferably with several points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the estimated IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor (see **Section VII.E.5.a.4**). Each experiment should have at least one cytotoxicity value > 0 % and ≤ 50.0 % viability and at least one cytotoxicity value > 50.0 % and < 100 % viability. A progression factor of 1.21 [$^{12}\sqrt{10}$] is regarded the smallest factor achievable and will be the lowest dosing interval required.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments
If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Chemical Dilution Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Chemical Dilution Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 µg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed using the mechanical procedures that produced solubility when performing the solubility test specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mechanical procedures specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. More stringent solubility procedures may be employed if needed based on results from the range finder experiment (**Section VII.D.3.a.**). The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Weigh the test chemical into a glass tube and document the weight. Add the appropriate solvent (determined from the original solubility test) to the vessel so

that the concentration is 500,000 μg/mL (500 mg/mL). Mix the solution using the sequence of mechanical procedures specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by again using the sequence of mixing procedures. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- If precipitates are observed in the 2X dilutions, continue with the experiment, make the appropriate observations and documentation, and report data to the SMT.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 ($= \sqrt[2]{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 ($= \sqrt[3]{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 ($= \sqrt[6]{10}$) divides a log into six equidistant steps, the factor of 1.78 ($\sqrt[4]{10}$) divides a log into four equidistant steps, and the factor of 1.21 ($= \sqrt[12]{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

E. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The 3T3 NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration as shown in **Figure 1**.

Figure 1. 96-Well Plate Configuration for Positive Control (PC) and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb
B	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
C	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
D	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
E	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
F	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
G	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
H	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb

VC1 and VC2 = VEHICLE CONTROL
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or PC (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (Test chemical or PC, but contain **no** cells)
VCb = VEHICLE CONTROL BLANK (contain **no** cells)

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized.

1) The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs; or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel; or other multichannel reservoirs).

2) The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 50 µl/well) should be in the wells of the dummy plate.

At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing.

Do not use a multichannel repeater pipette for dispensing test chemical to the plates.

b) After 24 h ± 2 h incubation of the cells, remove Routine Culture Medium from the cells by careful inversion of the plate (i.e., "dump") over an appropriate receptacle. Gently blot the plate on a sterile paper towel so that the monolayer is minimally disrupted. Do not use automatic plate washers for this procedure nor vacuum aspiration.

c) Immediately add 50 µL of fresh pre-warmed Routine Culture Medium to all of the wells, including the blanks. Fifty microliters (50 µL) of dosing solution will be rapidly transferred from the 8-channel reservoir (or dummy plate) to the appropriate wells of the test plate using a single delivery multi-channel pipettor. For example, the VC may be transferred first (into columns 1, 2, 11, and 12), followed by the test article dosing solutions from lowest to highest dose, so that the same pipette tips on the multi-channel pipettor can be used for the whole plate. [The Vehicle Control blank (VCb) wells (column 1, column 12, wells A2, A11, H2, H11) will receive the Vehicle Control dosing solutions (which should include any solvents used). Blanks for wells A3 – A10 and H3 – H10 shall receive the appropriate test chemical solutions for each concentration (e.g., wells A3 and H3 receive C_1 solution).

d) Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

e) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase I of the Validation Study. If multiple sets of test chemical plates are set up, then clearly designate the positive control plates for each set; each set will be an individual entity. The Study Director will decide how many test chemical plates will be run with a positive control plate. The mean IC_{50} ± two and a half standard deviations (SD) for the SLS acceptable tests from Phases Ia, Ib, and II (after the removal of outliers) are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates (including appropriate chemical concentrations in the appropriate wells and meeting test acceptance criteria – see **sections VII.E.1, E.2, and E.5**).

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions. Numerical scoring of the cells (see **Section VII.E.3**) should be determined and documented in the Study Workbook and in the appropriate section of Addendum II of the EXCEL® study template.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the medium with test chemical and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., between 2 and 3 h – Study Director's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.

b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µl pre-warmed D-PBS.

c) Decant and blot D-PBS from the plate.

d) Add exactly 100 µl NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.

e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution. Plates should be protected from light by using a cover during shaking.

f) Plates should be still for at least five minutes after removal from the plate shaker (or orbital mixer). If any bubbles are observed, assure that they have been ruptured prior to reading the plate. Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Note: Phases Ia and Ib data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.057 ± 0.043 for 3T3 cells (± 2.5 standard deviations; data from 3 labs; N = 189). Use this range as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the SMT.

5. Quality Check of 3T3 NRU Assay

a) Test Acceptance Criteria

All acceptance criteria (i.e., criteria 1, 2, and 3) must be met for a test to be acceptable.

1) The PC (SLS) IC_{50} must be within ± two and a half (2.5) standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.E.2.e**), and must meet criteria 2 and 3, and must have an r^2 (coefficient of determination) value calculated for the Hill model fit (i.e., from PRISM® software) ≥ 0.85.

2) The left and right mean of the VCs do not differ by more than 15% from the mean of all VCs.

3) At least one calculated cytotoxicity value > 0 % and ≤ 50.0 % viability and at least one calculated cytotoxicity value > 50.0 % and < 100 % viability must be present.

Exception: If a test has only one point between 0 and 100 % **and** the smallest dilution factor (i.e., 1.21) was used **and** all other test acceptance criteria were met, then the test will be considered acceptable.

Stopping Rule for Insoluble Chemicals: If the most rigorous solubility procedures have been performed and the assay cannot achieve adequate toxicity to meet the test acceptance criteria after three definitive trials, then the Study Director may end all testing for that particular chemical.

[Note: A corrected mean $OD_{540 \pm 10nm}$ of 0.103 - 0.813 for the VCs is a target range but will not be a test acceptance criterion. Range determined from Phase Ib VC OD values from 3 laboratories (mean ± 2.5 standard deviations, N = 98).]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay. If volatility is suspected, then proceed to **Section VII.E.6**.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

6. Volatility of Test Chemicals

Highly volatile test chemicals may generate vapors from the treatment medium during the test chemical treatment incubation period. These vapors may become resorbed into the treatment medium in adjacent wells, such that culture wells nearest the highest doses may become contaminated by exposure to resorbed test article vapors. If the test chemical is particularly toxic at the doses tested, the cross contamination may be evident as a

significant reduction in viability in the vehicle control cultures (i.e., VC1) adjacent to the highest test chemical doses.

If potential test article volatility is suspected (e.g., for low density liquids) or if the initial range finder test (non-sealed plate) results show evidence of toxic effects in the control cultures (i.e., > 15 % difference in viability between VC1 [column 2] and VC2 [column 11]), then seal the subsequent test plates by the following procedure.

a) Plate Sealer Method

1) Plates and chemicals will be prepared as usual according to **Sections VII.D and VII.E**.
2) Immediately after the 96-well culture plate has been treated with the suspected volatile chemical (**Section VII.E.2.b**), apply the adhesive plate sealer (e.g., using a hand, microplate roller, etc.) directly over the culture wells. Assure that the sealer adheres to each culture well (well tops should be dry). Place the 96-well plate cover over the sealed plate and incubate the plate under specified conditions (**Section VII.E.2.b**). [Note: Do not jam the plate lid over the film to avoid deforming the sealer and causing the sealer to detach from culture wells. Loose fit of the plate lid is acceptable.]
3) At the end of the treatment period, the plate sealer should be carefully removed to avoid spillage. Continue with the NRU assay as per **Section VII.E.4**.

F. Data Analysis

The Study Director will use good biological/scientific judgment for determining "unusable" wells that will be excluded from the data analysis and provide explanations for the removal of any data from the analysis.

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate well) per test concentration (blanks will be subtracted). This value is compared with the mean NRU of all VC values. Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet template provided by the SMT. The template will automatically determine cell viability, IC_{50} values by linear interpolation, and perform statistical analyses (including statistical identification of outliers). The template will also calculate the concentrations associated with 20 %, 50 %, and 80 % viability using the Hill slope and EC_{50} (i.e., IC_{50}) from the Hill function analysis.

The Hill function analysis shall be performed using statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) and a template specified by the SMT to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical.

The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the SMT through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Spielmann, H., S. Gerner, S. Kalweit, R. Moog, T. Wirnserberger, K. Krauser, R. Kreiling, H. Kreuzer, N.P. Luepke, H.G. Miltenburger, N. Müller, P. Murmann, W. Pape, B. Siegmund, J. Spengler, W. Steiling, and F.J. Wiebel. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol. *In Vitro* 5: 539-542.

Test Method Protocol for Solubility Determination. In Vitro Cytotoxicity Validation Study. Phase III. August 29, 2003. Prepared by The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM).

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**
(Print or type name)

_____ _____

Test Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix B2

Test Method Protocol for the Normal Human Epidermal Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake (NRU) Cytotoxicity Test

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an In Vitro Validation Study
Phase III

November 4, 2003

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity
Phase III

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and is in support of the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The NHK NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of 60 blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded chemicals (60)*

B. Controls:

Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative):	Assay medium
Solvent (as directed):	Assay medium, DMSO, or ethanol as directed by the Study Management Team, for preparation of test chemicals

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

A. Facility Information

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:
7) Safety Manager:
8) Facility Management:

B. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A.. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the

spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used unless otherwise noted.]

1. Cell Lines

Normal Human Epidermal Keratinocytes (NHK)

Non-transformed cells; from cryopreserved primary or secondary cells (**Clonetics #CC-2507 or equivalent).** Cells will be Clonetics NHK cells.

Cambrex [Cambrex Bio Science, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793-0127

Cambrex Europe [Cambrex Bio Science Verviers, S.P.R.L. Parc Industriel de Petit Rechain, B-4800 Verviers, BELGIUM]

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5mL)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel; multichannel repeater pipette), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Corning/COSTAR tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)
q) Multichannel reagent reservoir
r) Waterbath sonicator
s) Magnetic stirrer

t) Antistatic bar ionizer/antistatic gun (optional for neutralizing static on 96-well plates)
u) Dry heat block (optional)
v) Adhesive film plate sealers (e.g., Excel Scientific SealPlate™,Cat # STR-SEAL-PLT or equivalent)
w) Vortex mixer
x) Filters/filtration devices

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of NHK. Multi-channel repeater pipettes may be used for plating cells in the 96-well plates, dispensing plate rinse solutions, NR medium, and desorb solution. Do not use the repeater pipette for dispensing test chemicals to the cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, 300 mM $CaCl_2$, Clonetics # CC-4202).
b) HEPES Buffered Saline Solution (HEPES-BSS) (e.g., Clonetics # CC-5022)
c) 0.025 % Trypsin/EDTA solution (e.g., Clonetics # CC-5012)
d) Trypsin Neutralizing Solution (TNS) (e.g., Clonetics # CC-5002)
e) Phosphate Buffered Saline (PBS)
f) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
g) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
h) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
i) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
j) Glacial acetic acid, analytical grade
k) Hanks' Balanced Salt Solution without Ca^{2+} or Mg^{2+} (CMF-HBSS) (e.g., Invitrogen # 14170)
l) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture and NR desorb solution (sterile)
m) Sterile/non-sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

a) Routine Culture Medium/Treatment Medium

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500 mL medium. Final concentration of supplements in medium are:

0.0001 ng/mL	Human recombinant epidermal growth factor
5 μg/mL	Insulin
0.5 μg/mL	Hydrocortisone
30 μg/mL	Gentamicin
15 ng/mL	Amphotericin B
0.10 mM	Calcium
30 μg/mL	Bovine pituitary extract

Complete media should be kept at 2-8°C and stored for no longer than two weeks.

NOTE:
KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:

0.1 ng/mL	hEGF	0.5 mL
5.0 mg/mL	Insulin	0.5 mL
0.5 mg/mL	Hydrocortisone	0.5 mL
30 mg/mL	Gentamicin, 15 ug/mL Amphotericin-B	0.5 mL
7.5 mg/mL	Bovine Pituitary Extract (BPE)	2.0 mL

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 mL of 300mM calcium.

165 μl of solution per 500 mL calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.33 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1.0 mL (3.3 mg NR dye/mL)	NR Stock Solution
99.0 mL	Routine Culture Medium (pre-warmed to 37° C.)

The final concentration of the NR Medium is **33 µg NR dye/mL** and aliquots will be prepared on the day of application.

[Note: The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 µm pore size) used to reduce NR crystals. Aliquots of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding to the cells and used within 30 min of preparation but also used within 15 min after removing from 37° C storage.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

NHK cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 25 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties must be noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved Keratinocytes

Upon receipt of cryopreserved keratinocytes, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells and Establishing Cell Cultures

a) Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C for as brief a time as possible. Do not thaw cells at room temperature or by hand. Seed the thawed cells into culture flasks as quickly as possible and with minimal handling.

b) Slowly (taking approximately 1-2 min) add 9 mL of pre-warmed Routine Culture Medium to the cells suspended in the cryoprotective solution and transfer cells into flasks containing pre-warmed Routine Culture Medium (See Table 1).

c) Incubate the cultures at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air until the cells attach to the flask (within 4 to 24 h), at which time the Routine Culture Medium should be removed and replaced with fresh Routine Culture Medium.

d) Unless otherwise specified, the cells should be incubated at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air and fed every 2-3 days until they exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent).

Table 1. Guidelines for Establishing Cell Cultures

Cells/25 cm^2 flask (in approximately 5 mL) 1 flask each cell concentration	6.25×10^4 ($2500/cm^2$)	1.25×10^5 ($5000/cm^2$)	2.25×10^5 ($9000/cm^2$)
Approximate Time to Subculture	96+ hours	72 - 96 hours	48 - 72 hours
Cells to 96-Well Plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates

Cell growth guidelines – actual growth of individual cell lots may vary.

4. Subculture of NHK Cells to 96-Well Plates

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test. Keratinocytes will be passaged only into the 96-well plates and will not be subcultured into flasks for use in later assays]

a) When the keratinocyte culture in a 25 cm^2 flask exceeds 50 % confluence (but less than 80 % confluent), remove the medium and rinse the culture twice with 5 mL HEPES-BSS. The first rinse may be left on the cells for up to 5 minutes and the second rinse should remain on the cells for approximately 5 minutes. Discard the washing solutions.

b) Add 2 mL trypsin/EDTA solution to each flask and remove after 15 to 30 seconds. Incubate the flask at room temperature for 3 to 7 min. When more than 50 % of the cells become dislodged, rap the flask sharply against the palm of the hand.

c) When most of the cells have become detached from the surface, rinse the flask with 5 mL of room temperature TNS. If more than one flask is subcultured, the same 5 mL of TNS may be used to rinse a total of up to two flasks.

d) Then rinse the flask with 5 mL CMF-HBSS and transfer the cell suspension to a centrifuge tube.

e) Pellet the cells by centrifugation for 5 min at approximately 220 x g. Remove the supernatant by aspiration.

f) Resuspend the keratinocyte pellet by gentle trituration (to have single cells) in Routine Culture Medium. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension using a hemocytometer or cell counter.

g) Prepare a cell suspension –1.6 – 2.0 $x10^4$ cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 125 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate. In the remaining wells, dispense 125 µl of the cell suspension ($2x10^3 – 2.5x10^3$ cells/well). Prepare one plate per chemical to be tested (see **Figure 1**, **Section VII.E.1**).

h) Incubate cells (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5.0 % humidity, and 5 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a 20+ % monolayer (~48-72 h). This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

i) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

5. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase III if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in appropriate culture medium. Use **Table 1** to determine seeding densities.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4-6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue; Nigrosin). Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 hr, 48 hr, 72 hr, and 96 hr post inoculation. Change culture medium at 72 hr or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. The doubling time will be in the log (exponential) phase of the growth curve. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Preparation of Test Chemicals

The Study Management Team will provide direction on the solvent to be used for each test chemical. [Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemical in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. Test chemical solutions should not be prepared in bulk for use in subsequent tests. Ideally, the solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate. The SMT may direct the Study Director to store an aliquot (e.g., 1 mL) of the

highest 2X stock solution (e.g., low solubility chemicals) in a freezer (e.g., -70°C) for use in future chemical analyses.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test (*Test Method Protocol for Solubility Determination*). Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:
   - 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in medium, or
   - 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in medium before application to NHK cells.

   Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

   If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

   1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.

   2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.

   3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).

   4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)

   5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.

   6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of culture medium (e.g., 0.1 mL of test chemical in DMSO + 9.9 mL culture medium) to derive the eight 2X concentrations for application to NHK cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The NHK cells will have 0.125 mL of culture medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.125 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.250 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

7) A test article prepared in DMSO or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions should be evaluated for precipitates and the results recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay and main experiments. However, doses containing test article precipitates should be avoided and generally will not be used in the ICx determinations for the definitive tests. Precipitates in 2X dosing solutions are permissible for range finder tests but not for definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Prior to or immediately after application of the test chemical to the 96-well plate, measure the pH of the highest 2X dosing concentration of the test chemical (i.e., C1 in the test plate, see Figure 1) in culture medium. Use pH paper (e.g., pH 0 – 14 to estimate and pH 5 – 10 to determine more precise value; or Study Director's discretion). The pH paper should be in contact with the solution for approximately one minute. Document the pH and note the color of the 2X concentration medium (i.e., in the EXCEL® template). Medium color for all dosing dilutions should be noted in the workbooks. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

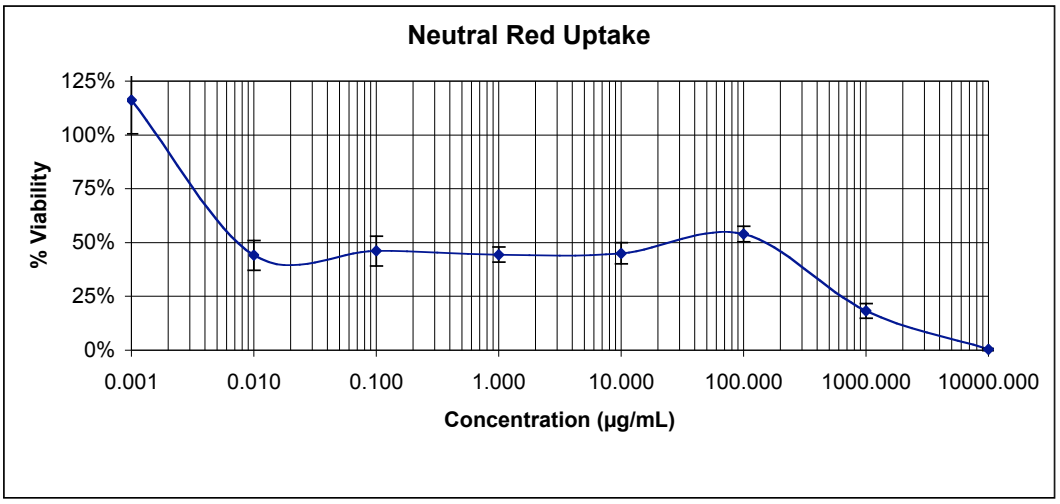
a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

If a range finder experiment does not generate enough cytotoxicity, then higher doses should be attempted. If cytotoxicity is limited by solubility, then more stringent solubility procedures to increase the stock concentration (to the maximum concentration specified in Section VII.D.3.b.) should be employed. Place the highest test chemical concentration into an incubator (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) and stir or rock for up to 3 hours, if necessary, to facilitate dissolution. For stocks prepared in medium, vessel caps should be loose to allow for CO_2 exchange. Proceed with dosing solution preparation and dosing.

- If a range finding test produces a biphasic curve, then the doses selected for the subsequent main experiments should cover the most toxic dose-response range (see Example 1 – the most toxic range is 0.001 – 0.1 μg/mL).

Example 1 – Biphasic Curve



b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the definitive concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical).]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller (e.g., dilution factor of $^{6}\sqrt{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range around the IC_{50} (> 0 % and < 100 % effect) preferably with several points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the estimated IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor (see **Section VII.E.5.a.4**). Each experiment should have at least one cytotoxicity value > 0 % and ≤ 50.0 % viability and at least one cytotoxicity value > 50.0 % and < 100 % viability. A progression factor of 1.21 [$^{12}\sqrt{10}$] is regarded the smallest factor achievable and will be the lowest dosing interval required.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments
If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Routine Culture Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Routine

Culture Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 μg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed using the mechanical procedures specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. More stringent solubility procedures may be employed if needed based on results from the range finder experiment (**Section VII.D.3.a.**). The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of the appropriate solvent (determined from the original solubility test) will be added to the vessel so that the concentration is 500,000 μg/mL (500 mg/mL). The solution is mixed as specified in *Test Method Protocol for Solubility Determination*. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- If precipitates are observed in the 2X dilutions, continue with the experiment, make the appropriate observations and documentation, and report data to the SMT.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 ($= \sqrt[2]{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 ($= \sqrt[3]{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 ($= \sqrt[6]{10}$) divides a log into six equidistant steps, the factor of 1.78 ($\sqrt[4]{10}$) divides a log into four equidistant steps, and the factor of 1.21 ($= \sqrt[12]{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

E. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The NHK NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in **Figure 1**.

Figure 1. 96-Well Plate Configuration for Positive Control (PC) and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb
B	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
C	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
D	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
E	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
F	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
G	VCb	VC1	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC2	VCb
H	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb

VC1 and VC2	=	VEHICLE CONTROL
$C_1 - C_8$	=	Test Chemicals or PC (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b	=	BLANKS (Test chemical or PC, but contain **no** cells)
VCb	=	VEHICLE CONTROL BLANK (contain **no** cells)

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized.

1) The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel; or other multichannel reservoirs).

2) The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate

(with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 125 µl/well) should be in the wells of the dummy plate.

At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing. Do not use a multichannel repeater pipette for dispensing test chemical to the plates.

b) After 48 - 72 h (i.e., after cells attain 20+ % confluency [see **Section VII.C.4(h)**]) incubation of the cells, add 125 µl of the appropriate concentration of test chemical, the PC, or the VC (see **Figure 1** for the plate configuration) directly to the test wells. Do not remove Routine Culture Medium for re-feeding the cells. The dosing solutions will be rapidly transferred from the 8-channel reservoir (or dummy plate) to the test plate using a single delivery multi-channel pipettor. For example, the VC may be transferred first (into columns 1, 2, 11, and 12), followed by the test article dosing solutions from lowest to highest dose, so that the same pipette tips on the multi-channel pipettor can be used for the whole plate. [The Vehicle Control blank (VCb) wells (column 1, column 12, wells A2, A11, H2, H11) will receive the Vehicle Control dosing solutions (which should include any solvents used). Blanks for wells A3 – A10 and H3 – H10 shall receive the appropriate test chemical solution for each concentration (e.g., wells A3 and H3 receive C_1 solution).] Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase I of the Validation Study. If multiple sets of test chemical plates are set up, then clearly designate the positive control plates for each set; each set will be an individual entity. The Study Director will decide how many test chemical plates will be run with a positive control plate. The mean IC_{50} ± two and a half standard deviations (SD) for the SLS acceptable tests from Phases Ia, Ib, and II (after the removal of outliers) are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the NHK NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates (including appropriate chemical concentrations in the appropriate wells and meeting test acceptance criteria see **Sections VII.E.1, E.2, and E.5**).

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions. Numerical scoring of the cells (see **Section**

VII.E.3) should be determined and documented in the Study Workbook and in the appropriate section of Addendum II of the EXCEL® study template.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the Routine Culture Medium (with test chemical) and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., between 2 and 3 h – Study Director's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.

b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µL pre-warmed D-PBS.

c) Decant and blot D-PBS from the plate. (Optionally: centrifuge the reversed plate.)

d) Add exactly 100 µL NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.

e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution. Plates should be protected from light by using a cover during shaking.

f) Plates should be still for at least five minutes after removal from the plate shaker (or orbital mixer). If any bubbles are observed, assure that they have been ruptured prior to reading the plate. Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Phases Ia and Ib data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.055 ± 0.035 for NHK cells (± 2.5 standard deviations; data from 3 labs; N = 156). Use this range as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the SMT.

5. Quality Check of Assay

a) Test Acceptance Criteria

All acceptance criteria (i.e., criteria 1, 2, and 3) must be met for a test to be acceptable.

1) The PC (SLS) IC_{50} must be within two and a half (2.5) standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.E.2.c**), and must meet criteria 2 and 3, and must have an r^2 (coefficient of determination) value calculated for the Hill model fit (i.e., from PRISM® software) ≥ 0.85.

2) The left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15 % from the mean of all VCs.

3) At least one calculated cytotoxicity value > 0 % and ≤ 50.0 % viability and at least one calculated cytotoxicity value > 50.0 % and < 100 % viability must be present.

Exception: If a test has only one point between 0 and 100 % **and** the smallest dilution factor (i.e., 1.21) was used **and** all other test acceptance criteria were met, then the test will be considered acceptable.

Stopping Rule for Insoluble Chemicals: If the most rigorous solubility procedures have been performed and the assay cannot achieve adequate toxicity to meet the test acceptance criteria after three definitive trials, then the Study Director may end all testing for that particular chemical.

[Note: A corrected mean $OD_{540 \pm 10nm}$ of 0.205 - 1.645 for the VCs is a target range but will not be a test acceptance criterion. Range determined from Phase Ib VC OD values from 3 laboratories (mean ± 2.5 standard deviations, N = 69).]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay. If volatility is suspected, then proceed to **Section VII.E.6**.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

6. Volatility of Test Chemicals

Highly volatile test chemicals may generate vapors from the treatment media during the test chemical treatment incubation period. These vapors may become resorbed into the treatment medium in adjacent wells, such that culture wells nearest the highest doses may become contaminated by exposure to resorbed test article vapors. If the test chemical is

particularly toxic at the doses tested, the cross contamination may be evident as a significant reduction in viability in the vehicle control cultures (i.e., VC1) adjacent to the highest test chemical doses.

If potential test article volatility is suspected (e.g., for low density liquids) or if the initial range finder test (non-sealed plate) results show evidence of toxic effects in the control cultures (i.e., > 15 % difference in viability between VC1 [column 2] and VC2 [column 11]), then seal the subsequent test plates by the following procedure.

a) Plate Sealer Method

1) Plates and chemicals will be prepared as usual according to **Sections VII.D and VII.E**.
2) Immediately after the 96-well culture plate has been treated with the suspected volatile chemical (**Section VII.E.2.b**), apply the adhesive plate sealer (e.g., using a hand, microplate roller, etc.) directly over the culture wells. Assure that the sealer adheres to each culture well (well tops should be dry). Place the 96-well plate cover over the sealed plate and incubate the plate under specified conditions (**Section VII.E.2.b**). [Note: Do not jam the plate lid over the film to avoid deforming the sealer and causing the sealer to detach from culture wells. Loose fit of the plate lid is acceptable.]
3) At the end of the treatment period, the plate sealer should be carefully removed to avoid spillage. Continue with the NRU assay as per **Section VII.E.4**.

F. Data Analysis

The Study Director will use good biological/scientific judgment for determining "unusable" wells that will be excluded from the data analysis and provide explanations for the removal of any data from the analysis.

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicates wells) per test concentration. This value is compared with the mean NRU of all VC values. Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet template provided by the SMT. The template will automatically determine cell viability, IC_{50} values by linear interpolation, and perform statistical analyses (including statistical identification of outliers). The template will also calculate the concentrations associated with 20 %, 50 %, and 80 % viability using the Hill slope and EC_{50} (i.e., IC_{50}) from the Hill function analysis.

The Hill function analysis shall be performed using statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) and a template specified by the SMT to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical.

The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the SMT through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Triglia, D., P.T. Wegener, J. Harbell, K. Wallace, D. Matheson, and C. Shopsis. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In *Alternative Methods in Toxicology*, Volume 7. A.M. Goldberg, ed., pp. 357-365. Mary Ann Liebert, Inc., New York.

Test Method Protocol for Solubility Determination. In Vitro Cytotoxicity Validation Study. Phase III. August 29, 2003. Prepared by The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM).

IX. APPROVAL

_____ _____
SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**

(Print or type name)

_____ _____
Testing Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix B3

Test Method Protocol for Solubility Determination (Phase III)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for Solubility Determination

In Vitro Cytotoxicity Validation Study
Phase III

September 24, 2003

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

Solubility Determination
Phase III

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) and normal human keratinocyte (NHK) cytotoxicity tests. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing solubility determinations for the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the solubility testing.

A. Solubility Test

The solubility tests will be performed to determine the best solvent to use for each of the 60 blinded/coded test chemicals to be tested in the 3T3 and NHK NRU cytotoxicity tests

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST SUBSTANCES AND SOLVENTS

A. Test Chemicals: *60 Coded Chemicals (60)*

B. Solvents: Chemical Dilution Medium for 3T3 assay (See **Section VII.B.1**)
Treatment Medium for NHK assay (See **Section VII.B.2**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

A. Facility Information

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:

7) Safety Manager:
8) Facility Management:

B. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The solubility test procedure is based on attempting to dissolve chemicals in various solvents with a increasingly rigorous mechanical techniques. The solvents to be used, in the order of preference, are cell culture media, DMSO, and ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical in the solvents (in the order of preference) at relatively high concentrations using the sequence of mechanical procedures (**Section VII.C.2.a**). If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations.

Determination of whether a chemical has dissolved is based entirely on visual observation. A chemical has dissolved if the solution is clear and shows no signs of cloudiness or precipitation.

VI. DEFINITIONS

A. *Soluble:* Chemical exists in a clear solution without visible cloudiness or precipitate.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, solubility testing, laboratory balance calibration); solubility reports will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

1. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Water bath: 37ºC ± 1ºC
b) Glass tubes with caps (e.g., 5 mL)
c) Laboratory balance
d) Pipetting aid
e) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel; multichannel repeater pipette), dilution block
f) Waterbath sonicator
g) Dry heat block (optional)

2. Chemicals, Media, and Sera

a) Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
b) L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
c) Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)
d) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
e) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
f) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, 300 mM $CaCl_2$, Clonetics # CC-4202).

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented. Completed media formulations should be kept at approximately 2-8° C and stored for no longer than two weeks.]

1. 3T3 Chemical Dilution Medium

DMEM (buffered with sodium bicarbonate) supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

4 mM	Glutamine
200 IU/mL	Penicillin
200 μg/mL	Streptomycin

2. NHK Treatment Medium

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500 mL medium. Final concentration of supplements in medium are:

0.0001 ng/mL	Human recombinant epidermal growth factor
5 μg/mL	Insulin
0.5 μg/mL	Hydrocortisone
30 μg/mL	Gentamicin
15 ng/mL	Amphotericin B
0.10 mM	Calcium
30 μg/mL	Bovine pituitary extract

NOTE:
KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:

0.1 ng/mL	hEGF	0.5 mL
5.0 mg/mL	Insulin	0.5 mL
0.5 mg/mL	Hydrocortisone	0.5 mL
30 mg/mL	Gentamicin, 15 ug/mL Amphotericin-B	0.5 mL
7.5 mg/mL	Bovine Pituitary Extract (BPE)	2.0 mL

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 mL of 300 mM calcium.

165 µl of solution per 500 mL calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.

C. Determination of Solubility

The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical at a relatively high concentration with the sequence of mechanical procedures specified in **Section VII.C.2.a.** If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures in **Section VII.C.2.a** are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations. For testing solubility in medium, the starting concentration is 20,000 µg/ml (i.e., 20 mg/mL) in Tier 1, but for DMSO and ethanol the starting concentration is 200,000 µg/ml (i.e., 200 mg/mL) in Tier 2. Weighing out chemical for each solvent (i.e., medium, DMSO, ethanol) can be done all at once, if convenient, but solubility testing (at each tier that calls for more than one solvent) is designed to be sequential - medium, then DMSO, then ethanol – in accordance with the solvent hierarchy (see **Figure 1**). This allows for testing to stop, rather than continue testing with less preferred solvents, if the test chemical dissolves in a more preferred solvent. For example, if a chemical is soluble in medium at a particular tier, testing may stop. Likewise, if a chemical is soluble in DMSO at any tier, testing need not continue with ethanol. However, since the issue of primary importance is testing the solvents and concentrations of test chemical required by any one tier, sequential testing of solvents may be abandoned if the lab can test more efficiently in another way.

1. Method

a) Tier 1 begins with testing 20 mg/mL each in Chemical Dilution Medium and Treatment Medium (see **Table 1**). For each medium, weigh approximately 10 mg (10,000 µg) of the test chemical into glass tubes. Document the chemical weight. Add approximately 0.5 mL of each medium into its respective tube so that the concentration is 20,000 µg/ml (20 mg/mL). Mix the solution as specified in **Section VII.C.2.a.** If complete solubility is achieved in each medium, then additional solubility procedures are not needed.

b) If the test chemical is insoluble in either Chemical Dilution Medium or Treatment Medium, proceed to Tier 2 by adding enough medium, approximately 4.5 mL, to attempt to dissolve the chemical at 2 mg/mL by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.C.2.a**. If the test chemical dissolves in medium at 2 mg/mL, no further procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve in one medium or the other (if both are tested in this tier), weigh out approximately 100 mg test chemical in a second glass tube and add enough DMSO to

make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL) and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.C.2.a**. If the test chemical does not dissolve in DMSO, weigh out approximately 100 mg test chemical in another glass tube and add enough ethanol to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL) and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.C.2.a**. If the chemical is soluble in either solvent, no additional solubility procedures are needed.

c) If the chemical is NOT soluble in one or both media, DMSO, or ethanol at Tier 2, then continue to Tier 3 in Table 1 by adding enough solvent to increase the volume of the three (or four) Tier 2 solutions by 10 and attempt to solubilize again using the sequence of mixing procedures in **Section VII.C.2.a.** If the test chemical dissolves, no additional solubility procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, continue with Tier 4 and, if necessary, Tier 5 using DMSO and ethanol. Tier 4 begins by diluting the Tier 3 samples with DMSO or ethanol to bring the total volume to 50 mL. The mixing procedures in **Section VII.C.2.a** are again followed to attempt to solubilize the chemical. Tier 5 is performed, if necessary, by weighing out another two samples of test chemical at ~10 mg each and adding ~50 mL DMSO or ethanol for a 200 μg/mL solution, and following the mixing procedures in **Section VII.C.2.a**.

Example: If complete solubility is not achieved at 20,000 μg/mL in either Chemical Dilution Medium or Treatment Medium at Tier 1 using the mixing procedures specified in **Section VII.C.2.a,** then the procedure continues to Tier 2 by diluting the solution to 5 mL (with either of the appropriate media) and mixing again as specified in **Section VII.C.2.a.** If the chemical is not soluble in Chemical Dilution Medium or Treatment Medium, two samples of ~ 100 mg test chemical are weighed to attempt to solubilize in DMSO and ethanol at 200,000 μg/mL (i.e., 200 mg/mL). Solutions are mixed following the sequence of procedures prescribed in **Section VII.C.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Tier 2, then the solutions (Chemical Dilution Medium and/or Treatment Medium, DMSO, and ethanol) prepared in Tier 2 are diluted by 10 so as to test 200 μg/mL in media, and 20,000 μg/mL in DMSO and ethanol. This advances the procedure to Tier 3. Solutions are again mixed as prescribed in **Section VII.C.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved in Tier 3, the procedure continues to Tier 4, and to 5 if necessary (see **Figure 1** and **Table 1**).

Table 1. Determination of Solubility in Chemical Dilution Medium, Treatment Medium, DMSO, or Ethanol

TIER	1	2	3	4	5
Total Volume Chemical Dilution Medium/Treatment Medium	0.5 mL	5 mL	50 mL		
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a tube. Add enough medium to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)	20,000 μg/mL (20 mg/mL)	2,000 μg/mL (2 mg/mL)	200 μg/mL (0.20 mg/mL)		
Total Volume DMSO/Ethanol		0.5 mL	5 mL	50 mL	
Concentration of Test Chemical (Add ~100 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal the first volume. Dilute with subsequent volumes if necessary.)		200,000 μg/mL (200 mg/mL)	20,000 μg/mL (20 mg/mL)	2,000 μg/mL (2 mg/mL)	
Total Volume DMSO/Ethanol					50 mL
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal 50 mL.)					200 μg/mL (0.2 mg/mL)
Equivalent Concentration on Cells	10,000 μg/mL (10 mg/mL)	1000 μg/mL (1 mg/mL)	100 μg/mL (0.1 mg/mL)	10 μg/mL (0.01 mg/mL)	1 μg/mL (0.001 mg/mL)

[NOTE: The amounts of test chemical weighed and Chemical Dilution Medium and Treatment Medium added may be modified from the amounts given above, provided that the targeted concentrations specified for each tier are tested.]

Figure 1. Solubility Flow Chart

TIER 1

STEP 1:	20 mg/mL test chemical (TC) in 0.5 mL Chemical Dilution Medium and Treatment Medium: • if TC soluble in both media, then **STOP**. • if TC insoluble in one medium, then go to STEP 2.

TIER 2

STEP 2:	2 mg/mL TC in medium (one or both) – increase volume from STEP 1 by 10 (i.e., to 5 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble in one medium, then go to STEP 3.

STEP 3:	200 mg/mL TC in DMSO
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 200 mg/mL in ETOH.
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • If TC insoluble, go to STEP 4.

TIER 3

STEP 4:	0.2 mg/mL TC in medium (one or both) – increase volume from STEP 2 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble in both media, then **STOP**.
	• if TC insoluble in one medium, test at 20 mg/mL in DMSO – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 5.

TIER 4

STEP 5:	2 mg/mL TC in DMSO – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP.**
	• if TC insoluble, test at 2 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 6.

TIER 5

STEP 6:	0.2 mg/mL TC in 50 mL DMSO • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 0.2 mg/mL in 50 mL ETOH • **STOP**

2. Mechanical Procedures

a) The following hierarchy of mixing procedures will be followed to dissolve the test chemical:

1) Add test chemical to solvent as in Tier 1 of **Table 1**. (Test chemical and solvent should be at room temperature.)

2) Gently mix at room temperature. Vortex the tube (1 –2 minutes).

3) If test chemical hasn't dissolved, use waterbath sonication for up to 5 minutes.

4) If test chemical is not dissolved after sonication, then warm solution to 37°C for 5 - 60 min. This can be performed by warming tubes in a 37°C water bath or in a CO_2 incubator at 37°C. The solution may be stirred during warming (stirring in a CO_2 incubator will help maintain proper pH).

5) Proceed to Tier 2 (and Tiers 3-5, if necessary of Table 1 and repeat procedures 2-4).

b) The preference of solvent for dissolving test chemicals is Chemical Dilution Medium or Treatment Medium, DMSO, and then ethanol. Thus, if all solvents for a particular tier are tested simultaneously and a test chemical dissolves in more than one solvent, then the choice of solvent follows this hierarchy. For example, if, at any tier, a chemical is soluble in Chemical Dilution Medium and DMSO, but not in Treatment Medium or ethanol, the choice of solvent would be medium for the 3T3 assay and DMSO for the NHK assay. If the chemical were insoluble in both media, but soluble in DMSO and ethanol, the choice of solvent would be DMSO for both assays.

After the lab has determined the preferred solvent for the test chemical and before proceeding to the cytotoxicity testing, the Study Director will submit the solubility test results (laboratory worksheets are preferable), and discuss the solvent selection with the Study Management Team (SMT) of the validation study. <u>The SMT will provide direction on the solvent to be used in each assay for each chemical prior to cytotoxicity testing</u>. If the laboratory has attempted all solubility testing without success, then the SMT will provide additional guidance for achieving test chemical solubility. The SMT anticipates that all validation study test chemicals will be tested in the NRU assays.

The Testing Facility shall forward the results from the solubility tests assay to the SMT through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

U. S. Environmental Protection Agency. 1996. Product Properties Test Guidelines. OPPTS 803.7840. Water Solubility: Column Elution Method; Shake Flask Method. EPA712-C-96-041, Prevention, Pesticides and Toxic Substances, Washington DC.

IX. APPROVAL

_____	_____
SPONSOR REPRESENTATIVE	**DATE**
(Print or type name)	
_____	_____
Test Facility STUDY DIRECTOR	**DATE**
(Print or type name)	

Appendix B4

Test Method Procedure for Prequalification of Normal Human Epidermal Keratinocyte Growth Medium (Phase III)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROCEDURE
Prequalification of Normal Human Epidermal Keratinocyte Growth Medium

In Vitro Cytotoxicity Validation Study
Phase III

January 28, 2004

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

I. PROPOSAL

The following document provides the guidelines and testing requirements for qualifying lots of Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM® [CAMBREX/Clonetics # CC-3104]) and the medium supplements (SingleQuots® [CAMBREX/Clonetics # CC-4131]) for use in the normal human epidermal keratinocyte (NHK) neutral red uptake (NRU) assays for Phase III of the In Vitro Cytotoxicity Validation Study. The medium and supplements will be tested so as to demonstrate their ability to perform adequately in the NHK NRU assay prior to purchase by the validation study laboratories for use in Phase III.

The Testing Facility will request the quality control test data from CAMBREX/Clonetics for each potential lot of medium and supplements. Based upon the QC test data, the Testing Facility will purchase and test the one or two most current lots of medium and supplements in stock with CAMBREX/Clonetics that appear to have the potential to support NHK cultures according to the requirements of the In Vitro Cytotoxicity Validation Study NHK neutral red uptake assay.

This test method procedure is based on the Phase III NHK NRU protocol (IIVS Protocol No. SP100066) and outlines the procedures needed for performing the cytotoxicity test specifically for prequalifying NHK culture medium. The test method procedure and NHK NRU protocol support the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method procedure applies to all personnel involved with performing media/supplement testing.

A. NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The NHK NRU test will be performed to analyze NHK growth characteristics and the *in vitro* toxicity of Sodium Lauryl Sulfate (SLS), as measured by the IC_{50}, with each NHK medium/supplement being tested.

The Testing Facility will select the lots of medium/supplements and combinations based on the maximum available quantity and shelf life, as well as growth test results provided by Cambrex. Potential medium testing/supplement combinations are:

- One lot of medium/one lot of SingleQuots®: Test the lot of medium using the lot of SingleQuots® (one test of three plates).
- Two or more lots of medium/one lot of SingleQuots®: Test each lot of medium using the one lot of SingleQuots® (one test of three plates for each lot of medium)
- One lot of medium/two or more lots of SingleQuots®: Test the lot of medium using each lot of SingleQuots® (one test of three plates for each lot of SingleQuots®).

NHK cultures will be established using each medium/supplement combination, and will be subcultured on 3 different days into 96-well plates for three subsequent SLS cytotoxicity tests using each appropriate test medium/supplement combination.

B. Testing Conditions

The work will be performed in the IIVS Good Laboratory Practice (GLP)-compliant laboratories, but will not be performed in full compliance with national and international GLP guidelines, and neither a protocol nor an audited report will be generated.

The Study Director will provide recommendations and appropriate test data for acceptance/rejection of the tested media/supplements to the Study Management Team (SMT).

The Testing Facility will maintain the following documentation: study workbooks noting all methods and procedures; logs for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, SLS preparation, incubator function); electronic and paper formats of all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader; electronic and paper format of all calculations of ICx values and other derived data.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: Molly Vallant, Project Officer, NIEHS

D. Study Management Team Representatives: William Stokes, Silvia Casati, Raymond Tice, Judy Strickland, Michael Paris

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Substances: Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104)

KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131)

B. Controls: Positive: Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative): Assay medium

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

- Name: Institute for In Vitro Sciences, Inc.
- Address: 21 Firstfield Road, Suite 220
  Gaithersburg, Maryland 20878
- Study Director: Hans Raabe, M.S.
- Laboratory Technician(s): Greg Mun, B.A., Laboratory Manager
  Robin Anderson, B.S.
  Filomena Diaco, B.S.
  Gregory Moyer, B.S.
  Massod Rahimi, B.S.
  Angela Sizemore, B.S.
  Teri Beth Wallace, B.S.

Nathan Wilt, B.S.

V. PROCEDURES

A. Materials

NHK cells used for this procedure will come from the same lot of NHK cells used in Phases I and II of the validation study. Equipment, chemicals, and other media will be the same as in IIVS Protocol No. SP100066.

B. Preparations of Media and Solutions

All media and solutions will be prepared as in IIVS Protocol No. SP100066.

C. Methods

All culture procedures will be performed as in IIVS Protocol No. SP100066..

NHK cultures will be established with cryopreserved cells seeded into individual tissue culture flasks using the existing medium/supplement combination (the "control" medium) and each test medium/supplement combination. It may be acceptable to suspend freshly-thawed cells initially into 9 mL of control medium. The cell suspension will then be added to culture flasks containing pre-warmed control or test medium. The cells will be subcultured on three different days into 96-well plates for three subsequent NRU tests using each appropriate test medium/ supplement combination and control.

D. Preparation of SLS

The preparation of SLS (IIVS code 02AD92) will follow the procedures in Sections VII.D.1.a, b, and d of IIVS Protocol No. SP100066. SLS will be dissolved only in Routine Culture Medium. Determination of the pH will follow Section VII.D.2.

Preparation of SLS concentrations/dilutions will follow the main experiment procedures specifically for testing compounds in Routine Culture Medium as outlined in Section VII.D.3.b of IIVS Protocol No. SP100066. The concentrations/dilutions should be the same or similar to those used for SLS as a positive control in Phase II of the validation study.

E. Test Procedure

The 96-well plate configuration will be the same as that outlined in Section VII.E.1 of IIVS Protocol No. SP100066. The C_1 test concentration will be the highest SLS concentration. Application of the SLS, subsequent toxicity testing, and measurement of NRU will follow procedures outlined in Sections VII.E.2.a and b and Section VII.4 of IIVS Protocol No. SP100066.

Cells cultured in control medium and in each test medium/supplement combination will be tested in parallel for their sensitivity to SLS.

F. Microscopic Evaluation

Observations of the cell cultures in the culture flasks, as well as in the 96-well plates will be performed and documented and should include cell morphology (e.g., overall appearance, colony formation and proliferation, presence of mitotic figures, and distribution). Representative observations of the cultures in the culture flasks will be performed every working day. Representative observations of the cultures in the 96-well plates will be performed daily prior to treatment with SLS; at the end of the 48 hour treatment incubation;

and during the neutral red incubation period (to evaluate relative neutral red uptake in the vehicle control cultures).

Changes in morphology of the cells due to cytotoxic effects of the SLS (prior to measurement of NRU) should be recorded as per procedures outlined in Section VII.E.3 of IIVS Protocol No. SP100066.

G. Data Analysis and Test Evaluation

Data analysis will be performed as in Section VII.F of IIVS Protocol No. SP100066. The following parameters will be evaluated to determine whether the NHK media and supplements are adequate to support the NHK NRU assay:

1) SLS IC_{50}

2) r^2 (coefficient of determination) value calculated for the Hill model fit (i.e., from PRISM® software.

3) Difference between the mean of all vehicle controls (VC) and (a) the left mean VC, and (b) the right mean VC.

4) Number of points between 0 % and 50.0 % viability and between 50.0 % 100 % viability.

5) Mean corrected $OD_{540\text{-}550}$ of the VCs.

6) Cell morphology and confluence of the VCs at the end of the 48 h treatment

The Study Director will utilize all observed growth characteristics and test results to determine whether the media/supplements perform adequately, and provide the test data and a recommendation for the use or rejection of the media/supplements to the SMT. IIVS will request CAMBREX/Clonetics reserve a portion of an acceptable lot based on estimates of media needed by the three laboratories.

V. REFERENCES

IIVS Protocol No. SP100066. Test Method Protocol for the NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. A Test for Basal Cytotoxicity for an In Vitro Validation Study. November 11, 2003. Prepared by the National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM).

VI. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**

(Print or type name)

_____ _____

Testing Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix C

Validation Study Test Method Protocols
(Phases Ia, Ib, and II)

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix C1

Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase Ia)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study

June 14, 2002

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and supports the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. Determination of Positive Control Database

An historical database of IC_{50} values for the positive control chemical (Sodium Lauryl [dodecyl] Sulfate {SLS}) must be established and maintained by performing 10 concentration-response assays on the 3T3 cells before performing the NRU assay on test chemicals. Once the mean IC_{50} and the 95 % confidence interval (CI) of the IC_{50} of SLS are established, the values will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU assay.

B. BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

After acceptable positive control mean IC_{50} and 95 % CI values have been established, the 3T3 NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for a predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded Chemicals*

B. Controls:

Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative):	Assay medium
Solvent (as needed):	Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

- Name:
- Address:
- Study Director:
- Laboratory Technician(s):
- Scientific Advisor:
- Quality Assurance Director:
- Safety Manager:
- Facility Management:

A. Test Schedule

- Proposed Experimental Initiation Date:
- Proposed Experimental Completion Date:
- Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed

as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\log IC50 - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

1. Cell Lines

BALB/c 3T3 cells, clone 31
CCL-163, LGC Reference Materials, Customer Service, Queens Road, Teddington, Middlesex, TW110LY, UK
CCL-163, American Type Culture Collection [ATCC], Manassas, VA, USA)

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5 ml)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer

k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (e.g., 75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Falcon tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of 3T3 cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
b) L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
c) New Born Calf Serum (NBCS or NCS) (e.g., Biochrom # SO 125)
d) 0.05 % Trypsin/0.02 % EDTA solution (e.g., SIGMA T 3924, ICN-Flow, # 16891-49)
e) Phosphate buffered saline (PBS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(for trypsinization)
f) Hanks' Balanced Salt Solution (HBSS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(CMF-HBSS)
g) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) with glucose) formulation containing calcium and magnesium cations, and supplemented with 1000mg/L glucose) (for rinsing)
h) Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)
i) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
j) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
k) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
l) Glacial acetic acid, analytical grade
m) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
n) Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

[Note: Due to lot variability of NBCS/NCS, first check a lot for growth stimulating properties with 3T3 cells (approximately 20-24 h doubling time) and then reserve a sufficient amount of NBCS/NCS.]

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

DMEM (buffered with sodium bicarbonate) supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

a) for freezing (Freeze Medium); contains 2X concentration of NBCS/NCS and DMSO of final freezing solution

40 %	NBCS/NCS
20 %	DMSO

b) for routine culture (Routine Culture Medium)

10 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine

c) for treatment with Test Chemicals (Treatment Medium)

5 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine
100 IU	Penicillin
100 µg/ml	Streptomycin

[Note: The serum concentration of treatment medium is reduced to 5 %, since serum proteins may mask the toxicity of the test substance. Serum cannot be totally excluded because cell growth is markedly reduced in its absence.]

Complete media should be kept at approximately 4° C and stored for no longer than two weeks.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay. If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

0.4 g NR Dye powder in 100 ml of H_2O

Make up prior to use and store dark at room temperature. May store for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1 ml (4mg NR dye/ml)	NR Stock Solution
79 ml	DMEM

The final concentration of the NR Medium is 50 µg NR dye/ml.
[Note: The NR medium should be incubated overnight at 37ºC ± 1ºC and centrifuged at approximately 600 x g for 10 min (to remove NR crystals) before adding to the cells. Alternative procedures (e.g., Millipore filtering) can be used as long as they guarantee that NR medium is free of crystals.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

BALB/c 3T3 cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 75 - 80 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be examined on a daily basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties noted in a Study Workbook (see **Section VII.F.3**).

2. Receipt of Cryopreserved BALB/c 3T3 Cells

Upon receipt of cryopreserved BALB/c 3T3 cells, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells

Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C ± 1ºC. Leave for as brief a time as possible.

a) Resuspend the cells and transfer into Routine Culture Medium in a tissue-culture flask (see **Section 6**).
b) Incubate at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air.
c) When the cells have attached to the bottom of the flask (this may take up to 4 h), decant the supernatant and replace with fresh medium. Culture as described above.
d) Passage two to three times before using the cells in a cytotoxicity test.

A fresh batch of frozen cells from the stock lot of cells should be thawed out and cultured approximately every two months. This period resembles a sequence of about 18 passages.

4. Routine Culture of BALB/C 3T3 Cells

When cells exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent) they should be removed from the flask by trypsinization:

a) Decant medium, rinse cultures with 5 ml PBS or Hanks' BSS (<u>without Ca^{2+}, Mg^{2+}</u>) per 25 cm^2 flask (15 ml per 75 cm^2 flask). Wash cells by gentle agitation to remove any remaining serum that might inhibit the action of the trypsin.
b) Discard the washing solution.
c) Add 1-2 ml trypsin-EDTA solution per 25 cm^2 to the monolayer for a few seconds (e.g., 15-30 seconds).
d) Remove excess trypsin-EDTA solution and incubate the cells at room temperature.
e) After 2-3 minutes (min), lightly tap the flask to detach the cells into a single cell suspension.

5. Cell Counting

After detaching the cells, add 0.1-0.2 ml of Routine Culture Medium/cm^2 to the flask (e.g., 2.5 ml for a 25 cm^2 flask). Disperse the monolayer by gentle trituration. It is

important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension obtained using a hemocytometer or cell counter (e.g., Coulter counter).

6. Subculture of Cells

After determination of cell number, the culture can be sub-cultured into other flasks or seeded into 96-well microtiter plates. BALB/c 3T3 cells are routinely passaged at suggested cell densities as listed in the table (approximate doubling time is 20-24 h). The individual laboratories will need to determine and adjust the final density to achieve growth as outlined in **Section VII.C.1**.

Table 1. Cell Densities for Subculturing

Days in Culture	Seeding Density (cells/cm^2)	Total Cells per 25 cm^2 flask	Total Cells per 75 cm^2 flask
2	16800	4.2×10^5	1.26×10^6
3	8400	2.1×10^5	6.3×10^5
4	4200	1.05×10^5	3.15×10^5

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test.]

7. Freezing Cells

Stocks of BALB/c 3T3 cells can be stored in sterile, freezing tubes in a liquid nitrogen freezer. DMSO is used as a cryoprotective agent.

a) Centrifuge trypsinized cells at approximately 200 x g.
b) Suspend the cells in cold Routine Medium (half the final freezing volume) so a final concentration of $1\text{-}5 \times 10^6$ cells/ml can be attained.
c) Slowly add cold Freeze Medium to the cells so that the solvent will equilibrate across the cell membranes. Bring the cell suspension to the final freezing volume. The final cell suspension will be 10 % DMSO. Aliquot the cell suspension into freezing tubes and fill to 1.8 ml.
d) Place the tubes into an insulated container (e.g., styrofoam trays) and place in a freezer (-70 to -80°C) for 24 h. This gives a freezing rate of approximately 1°C/min. The laboratory needs to ensure that the freezing protocol is applicable to the 3T3 cells and that the cells are viable when removed from cryopreservation.
e) Place the frozen tubes into liquid nitrogen for storage.

8. Preparation of Cells for Assays

a) Cultured cells that are going to be used in seeding the 96-well plates should be fed fresh medium the day before subculturing to the plates. On the day of plate seeding, prepare a cell suspension of 2.5×10^4 cells/ml in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 100 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate (See **Section IV.F**). In the remaining wells, dispense 100 µl of a cell suspension of 2.5×10^4

cells/ml (= $2.5x10^3$ cells/well). The seeding density should be noted to ensure that the cells in the control wells are not overgrown after three days (i.e., 24 h incubation in **b** and 48 h exposure to test chemicals). Prepare one plate per chemical to be tested.

b) Incubate cells for 24 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a less than half confluent monolayer. This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

c) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

9. Determination of Doubling Time

a) Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section C.4** for subculture. Resuspend cells in about 5ml Treatment Medium (5 % NBCS/NCS). Seed cells at 4200 cells/cm^2.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4 - 6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue) if Study Director sees a need. Use appropriate size exclusion limits if using a Coulter counter. Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 h, 48 h, 72 h, and 96 h post inoculation. Change culture medium at 72 h or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per ml of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Establishing the Positive Control Database

An historical database of IC_{50} values for the positive control chemical (Sodium Lauryl [dodecyl] Sulfate {SLS}) must be established and maintained by performing 10 concentration-response assays on the 3T3 cells.

1. Positive Control Chemical Preparation

The positive control chemical (SLS) is prepared in the same manner as the test chemical (**Sections E.1 and E.2**) by following the instructions and substituting "test chemical" with "SLS."

2. Range Finder Experiment

Before initiating the 10 concentration-response assays, a range finder experiment will be performed using eight concentrations of SLS by diluting the stock solution with a constant factor as per **Sections E.3.a** and **E.3.b**. The eight chemical concentrations will

be tested as per the test procedure outlined in **Section F** and analyzed as per procedures outlined in **Section G**.

3. Test Procedure

Once a range has been determined that satisfies the criteria in **Section E.3.b**, the definitive concentration-response assays shall use a $^{6}\sqrt{10} = 1.47$ dilution scheme centered on the IC_{50}. The Test Facility will perform two tests per day on five different days. The 95 % CI of the IC_{50} of SLS will be established and defined as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU assay. The confidence intervals shall be calculated using the average of the individual IC_{50} values from each positive control assay performed. An example of an historical mean IC_{50} of SLS in mammalian cultures is **93 µg/ml** and the 95 % CI is **70 - 116 µg/ml** (Spielmann et. al., 1991). All testing will follow the instructions in **Section F** using the 96-well plate configuration in Figure 1. The test meets acceptance criteria if the conditions in **Sections F.5.a.2** and **F.5.a.3** are met.

Figure 1. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Test chemical must be freshly prepared immediately prior to use. Each stock dilution should have at least 1-2 ml total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Test chemicals must be at room temperature before dissolving and diluting. Preparation under red or yellow light may be necessary, if rapid photodegradation is likely to occur.]

1. Dissolving Test Chemical

a) Approximately 200,000 µg (200 mg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. Assay-specific culture medium will be added to the vessel so that the concentration is 2,000,000 µg/ml (2000 mg/ml) and mixed using the mixing procedures outlined in **Section E.1.c**. If complete solubility is achieved, then additional solubility procedures are not needed. The test chemical can then be prepared and diluted for use in an assay. If only partial solubility is achieved, then add additional medium in the steps outlined in Table 1 until the concentration is a minimum of 200,000 µg /ml. If complete solubility at 200,000 µg/ml in culture medium can't be attained, then repeat the solubility steps in Table 1 using the other solvent(s) in the solubility hierarchy outlined in **Section E.1.c**. Test chemicals that are only soluble in DMSO or ethanol will be prepared at 2,000,000 µg/ml as the highest concentration of stock solution.

Table 2 Determination of Solubility

Solubility Data	Step 1	Step 2	Step 3
Total volume of medium added (ml)	0.1	0.5	1.0
Total volume of DMSO or ethanol added (ml)	0.1	0.5	1.0
Approximate solubility (µg/ml)	≥ 2,000,000	400,000	200,000

Example: If complete solubility is not achieved in 0.1 ml medium (Step 1), then 0.4 ml must be added to obtain a total volume of 0.5 ml (Step 2). No additional weighing of chemical is needed. Chemical and medium are again mixed in an attempt to dissolve.

b) Each test chemical will be prepared such that the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is 100,000 µg/ml in culture medium (10,000 µg/ml if DMSO or ethanol is used). If 100,000 µg/ml in culture medium cannot be achieved, then the highest concentration attainable will be used. If the range finding experiment shows that 10,000 µg/ml is not high enough for the range of chemicals dissolved in DMSO or ethanol to meet the acceptance criteria, then higher concentrations will be used for the definitive experiment.

c) The following mixing and solvent hierarchy will be followed in dissolving the test chemical:

1) Dissolve test chemical in Treatment Medium.
2) Gently mix. Vortex the tube (1 – 2 minutes).
3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.
4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C.

If the test chemical doesn't dissolve (i.e., solution is cloudy or has precipitate) in the Treatment Medium, then follow the steps 1) through 4) using DMSO instead of Treatment Medium.

If the test chemical doesn't dissolve in DMSO, then follow steps 1) through 4) using ethanol instead of DMSO.

d) For the range finding experiments, the highest 2x concentration of test chemical dissolved only in culture medium will be 200,000 µg/ml (200 mg/ml). The highest 2x concentration of test chemical first dissolved in DMSO or ethanol then transferred to culture medium will be 20,000 µg/ml (20 mg/ml). Dissolve test chemical in appropriate medium/solvent (at 200-fold the desired final test concentration in the case of DMSO or ethanol solvents, i.e., 20,000µg/ml). The final solvent (DMSO or ethanol) concentration for application to the cells should be kept at a constant level of 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in medium before application to 3T3 cells.

Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 ml solvent (e.g., DMSO or ethanol) to tubes 2 -- 8.
2) Prepare stock solution of 2,000,000 µg test chemical/ml solvent in tube # 1.
3) Add 0.1 ml of 2,000,000 µg/ml dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 200,000 µg/ml).
4) Add 0.1 ml of 200,000 µg/ml dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 20,000 µg/ml)
5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.
6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, dilute 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of culture medium (e.g., 0.1 ml of test chemical in DMSO + 9.9 ml culture medium) to derive the 8 2x concentrations for application to 3T3 cells. Each test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The 3T3 cells will have 0.05 ml Treatment Medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.05 ml of the appropriate 2x test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 10,000 µg/ml) in a total of 0.100 ml and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

Check carefully to determine whether the chemical is still dissolved after the transfer from solvent stock solution to medium, and reduce the highest test concentration, if necessary. Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper. Document the pH and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical/PC by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

b) Main Experiment

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller (e.g., $\sqrt[6]{10} = 1.47$; NOTE: this dilution factor will be used for the definitive positive control assays [**Section VII.D.3**]). Cover the relevant concentration range (≥10 % and ≤ 90 % effect) with at least three points of a graded effect, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than three cytotoxic concentrations in the relevant range shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

c) Test Chemical Dilutions

- A factor of $\sqrt[2]{10} = 3.16$ could be used for covering a large range: (e.g., 1 ⇒3.16 ⇒10 ⇒31.6 ⇒100 ⇒316 ⇒1000 ⇒3160 µg/ml).

- The simplest geometric concentration series (i.e., constant dilution / progression factor) are dual geometric series (e.g., a factor of 2). These series have the disadvantage of numerical values that permanently change between logs of the series: (e.g., *log0*-2, 4, 8; *log1*- 16, 32, 64; *log2*- 128, 256, 512; *log3*- 1024, 2048,).

- The decimal geometric series, first described by Hackenberg and Bartling (1959) for use in toxicological and pharmacological studies, has the advantage that independent experiments with wide or narrow dose factors can be easily compared because they share identical concentrations. Furthermore, under certain circumstances, experiments can even be merged together:

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The dosing factor of 3.16 ($= \sqrt[2]{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 ($= \sqrt[3]{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 ($= 6\sqrt{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 ($= \sqrt[12]{10}$) divides the log into 12 steps.

For an easier biometrical evaluation of several related concentration response experiments use decimal geometric concentration series rather than dual geometric series. The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

- Determine which test chemical concentration is closest to the IC50 value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

F. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The 3T3 NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in Figure 1.

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized. The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs and/or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel). The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 50 µl/well) should be in the wells of the dummy plate. At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing. A third option, though not a recommended option, is to transfer test chemical solutions well by well using a single channel pipettor or repeat pipettor. This option will increase the amount of time needed for test chemical application. The use of a repeat pipettor increases the risk of dislodging cells from the culture plate.

b) After 24 h ± 1 h incubation of the cells, remove Routine Culture Medium from the cells by careful inversion of the plate (i.e., "dump") over an appropriate receptacle. Gently blot the plate on a sterile paper towel so that the monolayer is minimally disrupted. Do not use automatic plate washers for this procedure nor vacuum aspiration.

c) Immediately add 50 µl of Treatment Medium to each well. Then add 50 µl Treatment Medium containing either the appropriate concentration of test chemical, the PC, or the VC (see Figure 1 for the plate configuration). The solutions will be transferred from the dummy plate to the test plate by adding the vehicle control first then lowest to highest dose so that the same pipette tips on the eight channel pipettor can be used for the whole plate.

d) Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

e) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in developing the positive control database. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates.

3. Microscopic Evaluation

After at least 46h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the Treatment Medium and rinse the cells very carefully with 250 µl pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by gentle tapping. Add 250 µl NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3 h.
b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µl D-PBS.
c) Decant and blot D-PBS from the plate. (Optionally: centrifuge the reversed plate.)
d) Add exactly 100 µl NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.
e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution.
f) Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader

(spectrophotometer), using the blanks as a reference. Save raw data in the Excel format as provided by the Study Management Team.

5. Quality Check of 3T3 NRU Assay

a) *Test Acceptance Criteria*

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS is within the 95 % CI of the historical mean established by the Test Facility (as per **Section D**).

2) A test meets acceptance criteria if the mean OD_{540} of VCs is ≥ 0.3 and ≤ 1.1.

3) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15 % from the mean of all VCs.

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

The absolute value of optical density (OD_{540} of NRU) obtained in the untreated vehicle control may indicate whether the 2.5×10^3 cells seeded per well have grown exponentially with normal doubling time during the two days of the assay. If doubling time experiments were performed using the NRU assay, then the historical optical densities observed during the doubling time experiments can be used for comparison to determine exponential growth.

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) *Quality Check of Concentration-Response*

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals will be backed by at least three responses ≥ 10 % and ≤ 90 % inhibition of NRU. If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. Numerical scoring of the cells (see **Section F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate well) per test concentration (blanks will be subtracted). This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet provided by the Study Management Team for determining cell viability and

performing statistical analyses.

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. It will not be necessary for the Testing Facilities to derive the equation since statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the Study Management Team shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the Study Management Team shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the Study Management Team/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The Study Management Team will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Spielmann, H., S. Gerner, S. Kalweit, R. Moog, T. Wirnserberger, K. Krauser, R. Kreiling, H. Kreuzer, N.P. Luepke, H.G. Miltenburger, N. Müller, P. Murmann, W. Pape, B. Siegmund, J. Spengler, W. Steiling, and F.J. Wiebel. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol. *In Vitro* 5: 539-542.

IX. APPROVAL

SPONSOR REPRESENTATIVE (Print or type name)	**DATE**
Test Facility STUDY DIRECTOR (Print or type name)	**DATE**

Appendix C2

Test Method Protocol for the Normal Human Epidermal Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase Ia)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an In Vitro Validation Study

June 14, 2002

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and is in support of the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. Determination of Positive Control Database

An historical database of IC_{50} values for the positive control chemical (Sodium Lauryl [dodecyl] Sulfate {SLS}) must be established and maintained by performing 10 concentration-response assays on the NHK cells before performing the NRU assay on test chemicals. Once the mean IC_{50} and the 95 % confidence interval (CI) of the IC_{50} of SLS are established, the values will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the NHK NRU assay.

B. NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

After acceptable positive control mean IC_{50} and 95 % CI values have been established, the NHK NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for a predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded chemicals 1*

B. Controls: Positive: Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative): Assay medium
Solvent (as needed): Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

- Name:
- Address:
- Study Director:
- Laboratory Technician(s):
- Scientific Advisor:
- Quality Assurance Director:
- Safety Manager:
- Facility Management:

A. Test Schedule

- Proposed Experimental Initiation Date:
- Proposed Experimental Completion Date:
- Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A.. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used unless otherwise noted.]

1. Cell Lines

Normal Human Epidermal Keratinocytes (NHK)

Non-transformed cells; from cryopreserved primary or secondary cells (**Clonetics #CC-2507 or equivalent).** Cells will be Clonetics NHK cells.

Clonetics/BioWhittaker [BioWhittaker, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793-0127

BioWhittaker Europe [BioWhittaker Europe, S.P.R.L. Parc Industriel de Petit Rechain, B-4800 Verviers, BELGIUM]

2. Technical Equipment

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5ml)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Corning/COSTAR tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of NHK.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, CC-4202).
b) HEPES Buffered Saline Solution (HEPES-BSS) (e.g., Clonetics # CC-5022)
c) 0.025 % Trypsin/EDTA solution (e.g., Clonetics # CC-5012)
d) Trypsin Neutralizing Solution (TNS) (e.g., Clonetics # CC-5002)
e) Phosphate Buffered Saline (PBS)
f) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) with glucose) formulation containing calcium and magnesium cations, and supplemented with 1000 mg/L glucose)
g) Fetal bovine serum (FBS)
h) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
i) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
j) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
k) Glacial acetic acid, analytical grade
l) Hanks' Balanced Salt Solution without Ca^{2+} or Mg^{2+} (CMF-HBSS) (e.g., Invitrogen # 14170)
m) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
n) Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard).]

1. Media

a) Routine Culture Medium/Treatment Medium

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500ml of medium. Final concentration of supplements in medium are:

0.0001 ng/ml	Human recombinant epidermal growth factor
5 μg/ml	Insulin
0.5 μg/ml	Hydrocortisone
30 μg/ml	Gentamicin
15 ng/ml	Amphotericin B
0.10 mM	Calcium
30 μg/ml	Bovine pituitary extract

Complete media should be kept at 4°C and stored for no longer than two weeks.

NOTE:
KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:

0.1 ng/ml	hEGF	0.5 ml
5.0 mg/ml	Insulin	0.5 ml
0.5 mg/ml	Hydrocortisone	0.5 ml
30 mg/ml	Gentamicin, 15 ug/ml Amphotericin-B	0.5 ml
7.5 mg/ml	Bovine Pituitary Extract (BPE)	2.0 ml

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 ml of 300mM concentration of calcium.

165 ul of solution per 500 ml calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay. If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

0.4 g NR Dye powder in 100 ml of H_2O

Make up prior to use and store dark at room temperature. May store for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1 ml (4mg NR dye/ml)	NR Stock Solution
79 ml	KGM

The final concentration of the NR Medium is 50 μg NR dye/ml.

[Note: The NR medium should be incubated overnight at 37ºC ± 1ºC and centrifuged at approximately 600 x g for 10 min (to remove NR crystals) before adding to the cells. Alternative procedures (e.g., Millipore filtering) can be used as long as they guarantee that NR medium is free of crystals.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

NHK cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 25 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be

examined on a daily basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties must be noted in a Study Workbook (See **Section VII.F.3**)

2. Receipt of Cryopreserved Keratinocytes

Upon receipt of cryopreserved keratinocytes, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells and Establishing Cell Cultures

a) Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C for as brief a time as possible. Do not thaw cells at room temperature or by hand. Seed the thawed cells into culture flasks as quickly as possible and with minimal handling.
b) Slowly (taking approximately 1-2 min) add 9 ml of Routine Culture Medium to the cells suspended in the cryoprotective solution and transfer cells into flasks containing pre-warmed Routine Culture Medium (See Table 1).
c) Incubate the cultures at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air until the cells attach to the flask, at which time the Routine Culture Medium should be removed and replaced with fresh Routine Culture Medium.
d) Unless otherwise specified, the cells should be incubated at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air and fed every 2-3 days until they exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent).

Table 1. Establishing Cell Cultures

Cells/25 cm^2 flask (in approximately 5 ml) 1 flask each cell concentration	6.25×10^4 (2500 cm^2)	1.25×10^5 (5000 cm^2)	2.25×10^5 (9000 cm^2)
Approximate Time to Subculture	96+ hours	72 - 96 hours	48 - 72 hours
Cells to 96-Well Plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates

Cell growth guidelines – actual growth of individual cell lots may vary.

4. Subculture of NHK Cells to 96-Well Plates

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test. Keratinocytes will be passaged only into the 96-well plates and will not be subcultured into flasks for use in later assays]

(a) When the keratinocyte culture in a 25 cm^2 flask exceeds 50 % confluence (but less than 80 % confluent), remove the medium and rinse the culture twice with 5 ml HEPES-BSS. The second rinse should be left on the cells for approximately 5 minutes. Discard the washing solution.
(b) Add 2 ml trypsin/EDTA solution to each flask and remove after 15 to 30 seconds. Incubate the flask at room temperature for 3 to 7 min. When more than 50 % of the cells become dislodged, rap the flask sharply against the palm of the hand.
(c) When most of the cells have become detached from the surface, rinse the flask with 5 ml of room temperature TNS.
(d) Then rinse the flask with 5 ml CMF-HBSS and transfer the cell suspension to a centrifuge tube.

(e) Pellet the cells by centrifugation for 5 min at approximately 220 x g. Remove the supernatant by aspiration.
(f) Resuspend the keratinocyte pellet by gentle trituration (to have single cells) in Routine Culture Medium. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension using a hemocytometer or cell counter.
(g) Prepare a cell suspension of 0.8 - 1x10^4 cells/ml in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 250 µl PBS only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate. In the remaining wells, dispense 250 µl of the cell suspension (2x10^3 – 2.5x10^3 cells/well). Prepare one plate per chemical to be tested.
(h) Incubate cells (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5.0 % humidity, and 5 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a 30+ % monolayer (~48-72 h). This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.
(i) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

5. Determination of Doubling Time

a) Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section C.4** for subculture. Resuspend cells in appropriate culture medium. Use Table 1 to determine seeding densities.
b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).
c) After 4-6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue). Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 hr, 48 hr, 72 hr, and 96 hr post inoculation. Change culture medium at 72 hr or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.
d) Plot cell concentration (per ml of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. The doubling time will be in the log (exponential) phase of the growth curve. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Establishing the Positive Control Database

An historical database of IC_{50} values for the positive control chemical (Sodium Lauryl [dodecyl] Sulfate {SLS}) must be established and maintained by performing 10 concentration-response assays on the NHK cells.

1. Positive Control Chemical Preparation

The positive control chemical (SLS) is prepared in the same manner as the test chemical (**Sections E.1 and E.2**) by following the instructions and substituting "test chemical" with "SLS."

2. Range Finder Experiment

Before initiating the 10 concentration-response assays, a range finder experiment will be performed using eight concentrations of SLS by diluting the stock solution with a constant factor as per **Section E.3.a** and **E.3.b**. The eight chemical concentrations will be tested as per the test procedure outlined in **Section F** and analyzed as per procedures outlined in **Section G**.

3. Test Procedure

Once a range has been determined that satisfies the criteria in **Section E.3.b**, the definitive concentration-response assays shall use a $^{6}\sqrt{10} = 1.47$ dilution scheme centered on the IC_{50}. The Test Facility will perform two tests per day on five different days. The 95 % CI of the IC_{50} of SLS will be established and defined as an acceptance criterion for test sensitivity for the NHK NRU assay. The confidence intervals shall be calculated using the average of the individual IC_{50} values from each positive control assay performed. An example of an historical mean IC_{50} of SLS in NHK cultures is **4.4 µg/ml ± 0.97 µg/ml [**two standard deviations] (Triglia, 1989). All testing will follow the instructions in **Section F** using the 96-well plate configuration in Figure 1. The test meets acceptance criteria if the conditions in **Sections F.5.a.2** and **F.5.a.3** are met.

Figure 1. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Test chemical must be freshly prepared immediately prior to use. Each stock dilution should have at least 1-2 ml total volume to ensure adequate solution for the test wells in a

single 96-well plate. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Test chemicals must be at room temperature before dissolving and diluting. Preparation under red or yellow light may be necessary, if rapid photodegradation is likely to occur.]

1. Dissolving Test Chemical

a) Approximately 200,000 μg (200 mg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. Assay-specific culture medium will be added to the vessel so that the concentration is 2,000,000 μg/ml (2000 mg/ml) and mixed using the mixing procedures outlined in **Section E.1.c**. If complete solubility is achieved, then additional solubility procedures are not needed. The test chemical can then be prepared and diluted for use in an assay. If only partial solubility is achieved, then add additional medium in the steps outlined in Table 1 until the concentration is a minimum of 200,000 μg /ml. If complete solubility at 200,000 μg/ml in culture medium can't be attained, then repeat the solubility steps in Table 1 and **Section E.1.c** using the other solvent(s) in the solubility hierarchy. Test chemicals that are only soluble in DMSO or ethanol will be prepared at 2,000,000 μg/ml as the highest concentration of stock solution.

Table 2 Determination of Solubility

Solubility Data	Step 1	Step 2	Step 3
Total volume of medium added (ml)	0.1	0.5	1.0
Total volume of DMSO or ethanol added (ml)	0.1	0.5	1.0
Approximate solubility (μg /ml)	≥ 2,000,000	400,000	200,000

Example: If complete solubility is not achieved in 0.1 ml medium (Step 1), then 0.4 ml is added to obtain a total volume of 0.5 ml (Step 2). No additional weighing of chemical is needed. Chemical and medium are again mixed in an attempt to dissolve.

b) Each test chemical will be prepared such that the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is 100,000 μg/ml in culture medium (10,000 μg/ml if DMSO or ethanol is used). If 100,000 μg/ml in culture medium cannot be achieved, then the highest concentration attainable will be used. If the range finding experiment shows that 10,000 μg/ml is not high enough for the range of chemicals dissolved in DMSO or ethanol to meet the acceptance criteria, then higher concentrations will be used for the definitive experiment.

c) The following mixing and solvent hierarchy will be followed in dissolving the test chemical:

1) Dissolve test chemical in Treatment Medium.
2) Gently mix. Vortex the tube (1 –2 minutes).
3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.
4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C.

If the test chemical doesn't dissolve (i.e., solution is cloudy or has precipitate) in the Treatment Medium, then follow the steps 1) through 4) using DMSO instead of Treatment Medium.

If the test chemical doesn't dissolve in DMSO, then follow steps 1) through 4) using ethanol instead of DMSO.

d) For the range finding experiments, the highest 2x concentration of test chemical dissolved only in culture medium will be 200,000 μg/ml (200 mg/ml). The highest 2x concentration of test chemical first dissolved in DMSO or ethanol then transferred to culture medium will be 20,000 μg/ml (20 mg/ml). Dissolve test chemical in appropriate medium/solvent (at 200-fold the desired final test concentration in the case of DMSO or ethanol solvents, i.e., 20,000 μg/ml). The final solvent (DMSO or ethanol) concentration for application to the cells should be kept at a constant level of 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in medium before application to NHK cells.
Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme
1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 ml solvent (e.g., DMSO or ethanol) to tubes 2 -- 8.
2) Prepare stock solution of 2,000,000 μg test chemical/ml solvent in tube # 1.
3) Add 0.1 ml of 2,000,000μg/ml dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 200,000 μg/ml).
4) Add 0.1 ml of 200,000 μg/ml dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 20,000 μg/ml)
5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.
6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, dilute 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of culture medium (e.g., 0.1 ml of test chemical in DMSO + 9.9 ml culture medium) to derive the 8 2x concentrations for application to NHK cells. Each test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The NHK cells will have 0.125 ml of culture medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.125 ml of the appropriate 2x test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 10,000 μg/ml) in a total of 0.250 ml and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

Check carefully to determine whether the chemical is still dissolved after the transfer from solvent stock solution to medium, and reduce the highest test concentration, if necessary. Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper. Document the pH and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical/PC by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

b) Main Experiment

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller (e.g., $^{6}\sqrt{10} = 1.47$; NOTE: this dilution factor will be used for the definitive positive control assays [**Section VII.D.3]**). Cover the relevant concentration range (≥10 % and ≤ 90 % effect) with at least three points of a graded effect, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than three cytotoxic concentrations in the relevant range shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

c) Test Chemical Dilutions

- A factor of $^{2}\sqrt{10} = 3.16$ could be used for covering a large range: (e.g., 1 ⇒3.16 ⇒10 ⇒31.6 ⇒100 ⇒316 ⇒1000 ⇒3160 µg/ml).

- The simplest geometric concentration series (i.e., constant dilution / progression factor) are dual geometric series (e.g., a factor of 2). These series have the disadvantage of numerical values that permanently change between logs of the series: (e.g., *log0*-2, 4, 8; *log1*- 16, 32, 64; *log2*- 128, 256, 512; *log3*- 1024, 2048,).

- The decimal geometric series, first described by Hackenberg and Bartling (1959) for use in toxicological and pharmacological studies, has the advantage that independent experiments with wide or narrow dose factors can be easily compared because they share identical concentrations. Furthermore, under certain circumstances, experiments can even be merged together:

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The dosing factor of 3.16 (= $^{2}\sqrt{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 (= $^{3}\sqrt{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 (= $6\sqrt{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 (= $^{12}\sqrt{10}$) divides the log into 12 steps.

For an easier biometrical evaluation of several related concentration response experiments use decimal geometric concentration series rather than dual geometric series. The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

- Determine which test chemical concentration is closest to the IC50 value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

F. Test Procedure

1. The NHK NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in Figure 1.

2. Application of Test Chemical

   a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized. The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs and/or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel). The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 125 µl/well) should be in the wells of the dummy plate. At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing. A third option, though not a recommended option, is to transfer test chemical solutions well by well using a single channel pipettor or repeat pipettor. This option will increase the amount of time needed for test chemical application. The use of a repeat pipettor increases the risk of dislodging cells from the culture plate.
   b) After 24 - 72 h incubation of the cells, remove Routine Culture Medium from the cells by careful inversion of the plate (i.e., "dump") over an appropriate receptacle. Gently blot the plate on a sterile paper towel so that the monolayer is minimally disrupted. Do not use automatic plate washers for this procedure nor vacuum aspiration.
   c) Immediately add 125 µl of fresh Routine Culture Medium to each well. Add 125 µl of the appropriate concentration of test chemical, the PC, or the VC (see Figure 1 for the plate configuration).
   d) Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).
   e) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in developing the positive control database. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates.

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the Routine Culture Medium (with test chemical) and rinse the cells very carefully with 250 µl pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by gentle tapping and blot the plate. Add 250 µl NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3 h.
b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µl D-PBS.
c) Decant and blot D-PBS from the plate. (Optionally: centrifuge the reversed plate.)
d) Add exactly 100 µl NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.
e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution.
f) Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. Save raw data in the Excel format as provided by the Study Management Team.

5. Quality Check of Assay

a) *Test Acceptance Criteria*

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS is within the 95 % CI of the historical mean established by the Test Facility (as per **Section D**).
2) A test meets acceptance criteria if the mean OD_{540} of VCs is ≥ 0.3 and ≤ 1.1.
3) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15 % from the mean of all VCs.

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

The absolute value of optical density (OD_{540} of NRU) obtained in the untreated vehicle control may indicate whether the $2x10^3 – 2.5x10^3$ cells seeded per well have grown exponentially with normal doubling time during the assay. Historical optical densities observed during doubling time experiments can be used for comparison to determine exponential growth.

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) *Quality Check of Concentration-Response*

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals should be backed by at least three responses between 10 and 90 % inhibition of NRU. If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. Numerical scoring of the cells (see **Section F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicates wells) per test concentration. This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet provided by the Study Management Team for determining cell viability and performing statistical analyses.

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. It will not be necessary for the Testing Facilities to derive the equation since statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the Study Management Team shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the Study Management Team shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the Study Management Team/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The Study Management Team will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Triglia, D., P.T. Wegener, J. Harbell, K. Wallace, D. Matheson, and C. Shopsis. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In *Alternative Methods in Toxicology*, Volume 7. A.M. Goldberg, ed., pp. 357-365. Mary Ann Liebert, Inc., New York.

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**

(Print or type name)

_____ _____

Testing Facility STUDY DIRECTOR **DATE**

(Print or type name)

Appendix C3

Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase Ib)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study
Phase Ib

November 15, 2002
Revised November 22, 2002
Revised by IIVS Nov. 26, 2002

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity
Phase Ib

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and supports the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The 3T3 NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of three (3) blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded Chemicals (3)*

B. Controls:

Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative):	Assay medium (DMEM containing 5% NBCS, 4 mM L-Glutamine, 100 IU/mL Penicillin, 100 µg/mL Streptomycin)
Solvent (as needed):	Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:
7) Safety Manager:
8) Facility Management:

A. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the

spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

1. Cell Lines

BALB/c 3T3 cells, clone 31
CCL-163, LGC Reference Materials, Customer Service, Queens Road, Teddington, Middlesex, TW110LY, UK
CCL-163, American Type Culture Collection [ATCC], Manassas, VA, USA)

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

1) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
2) Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
3) Water bath: 37ºC ± 1ºC
4) Inverse phase contrast microscope
5) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5 mL)
6) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
7) Laboratory balance
8) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
9) Shaker for microtiter plates
10) Cell counter or hemocytometer
11) Pipetting aid
12) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel), dilution block
13) Cryotubes
14) Tissue culture flasks (e.g., 75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
15) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Falcon tissue culture-treated)
16) pH paper (wide and narrow range)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of 3T3 cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

- Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
- L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
- New Born Calf Serum (NBCS or NCS) (e.g., Biochrom # SO 125)
- 0.05 % Trypsin/0.02 % EDTA solution (e.g., SIGMA T 3924, ICN-Flow, # 16891-49)
- Phosphate buffered saline (PBS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(for trypsinization)

- Hanks' Balanced Salt Solution (HBSS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(CMF-HBSS)
- Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
- Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)
- Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
- Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
- Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
- Glacial acetic acid, analytical grade
- Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
- Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

[Note: Due to lot variability of NBCS/NCS, first check a lot for growth stimulating properties with 3T3 cells (approximately 20-24 h doubling time) and then reserve a sufficient amount of NBCS/NCS. May use pre-tested serum lot from Phase Ia of the validation study if the serum has been stored under appropriate conditions and shelf-life has not expired.]

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

DMEM (buffered with sodium bicarbonate) supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

a) for freezing (Freeze Medium); contains 2X concentration of NBCS/NCS and DMSO of final freezing solution

40 %	NBCS/NCS
20 %	DMSO

b) for routine culture (Routine Culture Medium)

10 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine

c) for solubility testing and test chemical dilution (Chemical Dilution Medium)

4 mM	Glutamine
200 IU/mL	Penicillin
200 µg/mL	Streptomycin

d) for dilution of NR stock solution (NR Dilution Medium)

5 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine
100 IU/mL	Penicillin
100 µg/mL	Streptomycin

[Note: The Chemical Dilution Medium with test chemical will dilute the serum concentration of the Routine Culture Medium in the test plate to 5 %. Serum proteins may mask the toxicity of the test substance, but serum cannot be totally excluded because cell growth is markedly reduced in its absence.]

Completed media formulations should be kept at approximately 2-8° C and stored for no longer than two weeks.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.33 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1 mL (3.3 mg NR dye/mL)	NR Stock Solution
99 mL	NR Dilution Medium (pre-warmed to 37° C)

The final concentration of the NR Medium is 33 μg NR dye/mL.
[Note: The NR medium may be centrifuged at approximately 600 x g for 10 min (to remove NR crystals). The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 μm pore size) to reduce NR crystals. The temperature of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding tothe cells and will be used within 15 minutes after removing from 37° C storage. Aliquots of NR Medium can be made on the day of testing and maintained at 37° C for later use.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

BALB/c 3T3 cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 75 - 80 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells

should be examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved BALB/c 3T3 Cells

Upon receipt of cryopreserved BALB/c 3T3 cells, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells

Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C ± 1ºC. Leave for as brief a time as possible.

a) Resuspend the cells in pre-warmed Routine Culture Medium and transfer into pre-warmed Routine Culture Medium in a tissue-culture flask.
b) Incubate at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air.
c) When the cells have attached to the bottom of the flask (within 4 to 24 h), decant the supernatant and replace with fresh pre-warmed (37ºC) medium. Culture as described above.
d) Passage at least two times before using the cells in a cytotoxicity test.

A fresh batch of frozen cells from the stock lot of cells should be thawed out and cultured approximately every two months. This period resembles a sequence of about 18 passages.

4. Routine Culture of BALB/C 3T3 Cells

When cells exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent) they should be removed from the flask by trypsinization:

a) Decant medium, rinse cultures with 5 mL PBS or Hanks' BSS (without Ca^{2+}, Mg^{2+}) per 25 cm^2 flask (15 mL per 75 cm^2 flask). Wash cells by gentle agitation to remove any remaining serum that might inhibit the action of the trypsin.
b) Discard the washing solution.
c) Add 1-2 mL trypsin-EDTA solution per 25 cm^2 to the monolayer for a few seconds (e.g., 15-30 seconds).
d) Remove excess trypsin-EDTA solution and incubate the cells at room temperature.
e) After 2-3 minutes (min), lightly tap the flask to detach the cells into a single cell suspension.

5. Cell Counting

After detaching the cells, add 0.1-0.2 mL of pre-warmed (37ºC) Routine Culture Medium/cm^2 to the flask (e.g., 2.5 mL for a 25 cm^2 flask). Disperse the monolayer by gentle trituration. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension obtained using a hemocytometer or cell counter (e.g., Coulter counter).

6. Subculture of Cells

After determination of cell number, the culture can be sub-cultured into other flasks or seeded into 96-well microtiter plates. BALB/c 3T3 cells are routinely passaged at suggested cell densities as listed in the table (approximate doubling time is 20-24 h). The individual laboratories will need to determine and adjust the final density to achieve appropriate growth.

Table 1. Cell Densities for Subculturing

Days in Culture	Seeding Density (cells/cm^2)	Total Cells per 25 cm^2 flask	Total Cells per 75 cm^2 flask
2	16800	4.2×10^5	1.26×10^6
3	8400	2.1×10^5	6.3×10^5
4	4200	1.05×10^5	3.15×10^5

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test.]

7. Freezing Cells (procedure required only if current stock of cells is depleted)

Stocks of BALB/c 3T3 cells can be stored in sterile, freezing tubes in a liquid nitrogen freezer. DMSO is used as a cryoprotective agent.

a) Centrifuge trypsinized cells at approximately 200 x g.
b) Suspend the cells in cold Routine Culture Medium (half the final freezing volume) so a final concentration of $1\text{-}5 \times 10^6$ cells/mL can be attained.
c) Slowly add cold Freeze Medium to the cells so that the solvent will equilibrate across the cell membranes. Bring the cell suspension to the final freezing volume. The final cell suspension will be 10 % DMSO. Aliquot the cell suspension into freezing tubes and fill to 1.8 mL.
d) Place the tubes into an insulated container (e.g., styrofoam trays) and place in a freezer (-70 to -80°C) for 24 h. This gives a freezing rate of approximately 1°C/min. The laboratory needs to ensure that the freezing protocol is applicable to the 3T3 cells and that the cells are viable when removed from cryopreservation.
e) Place the frozen tubes into liquid nitrogen for storage.

8. Preparation of Cells for Assays

e) Cultured cells that are going to be used in seeding the 96-well plates should be fed fresh medium the day before subculturing to the plates. On the day of plate seeding, prepare a cell suspension of 2.5×10^4 cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 100 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate (See **Section VII.F.1**). In the remaining wells, dispense 100 µl of a cell suspension of 2.5×10^4 cells/mL (= 2.5×10^3 cells/well). The seeding density should be noted to ensure that the cells in the control wells are not overgrown after three days (i.e., 24 h incubation

in step **b** and 48 h exposure to test chemicals). Prepare one plate per chemical to be tested.

e) Incubate cells for 24 ± 1 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a less than half confluent monolayer. This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

e) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

9. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase Ib if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in NR Dilution Medium (5 % NBCS/NCS). Seed cells at 4200 cells/cm^2.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4 - 6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue) if Study Director sees a need. Use appropriate size exclusion limits if using a Coulter counter. Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 h, 48 h, 72 h, and 96 h post inoculation. Change culture medium at 72 h or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Solubility Test

The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical at a relatively high concentration with the sequence of mechanical procedures specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures in **Section VII.D.2.a** are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations. For testing solubility in medium, the starting concentration is 20,000 µg/ml (i.e., 20 mg/mL) in Tier 1, but for DMSO and ethanol the starting concentration is 200,000 µg/ml (i.e., 200 mg/mL) in Tier 2. Weighing out chemical for each solvent (i.e., medium, DMSO, ethanol) can be done all at once, if convenient, but solubility testing (at each tier that calls for more than one solvent) is designed to be sequential - medium, then DMSO, then ethanol – in accordance with the solvent hierarchy (see **Figure 1**). This allows for testing to stop, rather than continue testing with less preferred solvents, if the test chemical dissolves in a more preferred solvent. For example, if a chemical is soluble in medium at a particular tier, testing may stop. Likewise, if a chemical is soluble in DMSO

at any tier, testing need not continue with ethanol. However, since the issue of primary importance is testing the solvents and concentrations of test chemical required by any one tier, sequential testing of solvents may be abandoned if the lab can test more efficiently in another way.

1. Determination of Solubility

a) Tier 1 begins with testing 20 mg/mL in Chemical Dilution Medium (see **Table 2**). Approximately 10 mg (10,000 μg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Chemical Dilution Medium, approximately 0.5 mL, will be added to the vessel so that the concentration is 20,000 μg/ml (20 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a.** If complete solubility is achieved in medium, then additional solubility procedures are not needed.

b) If the test chemical is insoluble in Chemical Dilution Medium, proceed to Tier 2 by adding enough medium, approximately 4.5 mL, to attempt to dissolve the chemical at 2 mg/mL by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. If the test chemical dissolves in Chemical Dilution Medium at 2 mg/mL, no further procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, weigh out approximately 100 mg test chemical in a second glass tube and add enough DMSO to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL). In another glass tube, also add approximately 100 mg test chemical to enough ethanol to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL). Mix both solutions as specified in **Section VII.D.2.a** in an attempt to solubilize the test chemical. If the chemical is soluble in either solvent, no additional solubility procedures are needed.

c) If the chemical is NOT soluble in Chemical Dilution Medium, DMSO, or ethanol at Tier 2, then continue to Tier 3 in Table 2 by adding enough solvent to increase the volume of the three Tier 2 solutions by 10 and attempt to solubilize again using the sequence of mixing procedures in **Section VII.D.2.a.** If the test chemical dissolves, no additional solubility procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, continue with Tier 4 and, if necessary, Tier 5 using DMSO and ethanol. Tier 4 begins by diluting the Tier 3 samples with DMSO or ethanol to bring the total volume to 50 mL. The mixing procedures in **Section VII.D.2.a** are again followed to attempt to solubilize the chemical. Tier 5 is performed, if necessary, by weighing out another two more samples of test chemical at ~10 mg each and adding ~50 mL DMSO or ethanol for a 200 μg/mL solution, and following the mixing procedures in **Section VII.D.2.a**.

Example: If complete solubility is not achieved at 20,000 μg/mL in Chemical Dilution Medium at Tier 1 using the mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a,** then the procedure continues to Tier 2 by diluting the solution to 5 mL and mixing again as specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical is not soluble in Chemical Dilution Medium, two samples of ~ 100 mg test chemical are weighed to attempt to solubilize in DMSO and ethanol at 200,000 μg/mL (i.e., 200 mg/mL). Solutions are mixed following the sequence of procedures prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Tier 2, then the solutions (Chemical Dilution Medium, DMSO, and ethanol) prepared in Tier 2 are diluted by 10 so as to test 200 μg/mL in media, and 20,000 μg/mL in DMSO and

ethanol. This advances the procedure to Tier 3. Solutions are again mixed as prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved in Tier 3, the procedure continues to Tier 4, and to 5 if necessary (see **Figure 1** and **Table 2**).

Table 2 Determination of Solubility in Chemical Dilution Medium, DMSO, or Ethanol

TIER	1	2	3	4	5
Total Volume Chemical Dilution Medium	0.5 mL	5 mL	50 mL		
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a tube. Add enough medium to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	200 µg/mL (0.20 mg/mL)		
Total Volume DMSO/Ethanol		0.5 mL	5 mL	50 mL	
Concentration of Test Chemical (Add ~100 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)		200,000 µg/mL (200 mg/mL)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	
Total Volume DMSO/Ethanol					50 mL
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal 50 mL.)					200 µg/mL (0.2 mg/mL)
Equivalent Concentration on Cells	10,000 µg/mL (10 mg/mL)	1000 µg/mL (1 mg/mL)	100 µg/mL (0.1 mg/mL)	10 µg/mL (0.01 mg/mL)	1 µg/mL (0.001 mg/mL)

NOTE: The amounts of test chemical weighed and Chemical Dilution Medium added may be modified from the amounts given above, provided that the targeted concentrations specified for each tier are tested.

Figure 1. Solubility Flow Chart

TIER 1

STEP 1:	20 mg/mL test chemical (TC) in 0.5 mL Chemical Dilution Medium: • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 2.

TIER 2

STEP 2:	2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 1 by 10 (i.e., to 5 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 3.

STEP 3:	200 mg/mL TC in DMSO
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 200 mg/mL in ETOH.
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • If TC insoluble, go to STEP 4.

TIER 3

STEP 4:	0.2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 2 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 20 mg/mL in DMSO – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 5.

TIER 4

STEP 5:	2 mg/mL TC in DMSO – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP.**
	• if TC insoluble, test at 2 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 6.

TIER 5

STEP 6:	0.2 mg/mL TC in 50 mL DMSO • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 0.2 mg/mL in 50 mL ETOH • **STOP**

2. Mechanical Procedures

a) The following hierarchy of mixing procedures will be followed to dissolve the test chemical:

1) Add test chemical to solvent as in Tier 1 of **Table 2**.
2) Gently mix. Vortex the tube (1 –2 minutes).
3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.
4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C. This can be performed by warming 5 mL tubes in a 37°C water bath for at least 5-10 minutes before evaluating solubility. Warm larger vessels for at least 15-20 minutes in a 37°C water bath before evaluating solubility.
5) Proceed to Tier 2 (and Tiers 3-5, if necessary of Table 2 and repeat procedures 2-4).

b) The preference of solvent for dissolving test chemicals is Chemical Dilution Medium, DMSO, and then ethanol. Thus, if (all solvents for a particular tier are tested simultaneously and) a test chemical dissolves in more than one solvent, then the choice of solvent follows this hierarchy. For example, if, at any tier, a chemical is soluble in Chemical Dilution Medium and DMSO, but not ethanol, the choice of solvent would be medium. If the chemical were insoluble in medium, but soluble in DMSO and ethanol, the choice of solvent would be DMSO.

After the lab has determined the preferred solvent for the test chemical and before proceeding to the cytotoxicity testing, the Study Director will discuss the solvent selection with the Study Management Team (SMT) of the validation study. The SMT will relate what solvent should be used in the assay for each chemical.

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemicals in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test. Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:

- 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in Chemical Dilution Medium, or
- 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in Chemical Dilution Medium before application to 3T3 cells.

Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.
2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.
3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).
4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)
5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.
6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of Chemical Dilution Medium (e.g., 0.1 mL test chemical in DMSO + 9.9 mL Chemical Dilution Medium) to derive the eight 2X concentrations for application to 3T3 cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The 3T3 cells will have 0.05 mL Routine Culture Medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.05 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.1 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.
7) A test article prepared in Chemical Dilution Medium, DMSO, or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions should be evaluated for precipitates and the results will be recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay only. Doses containing test article precipitates should be avoided, and will not be used in the ICx determinations for either the range finding experiments or the definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper. Document the pH and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

The data from any well that has precipitate will be excluded from any calculations.

b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical.]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller ($\sqrt[6]{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range ($\geq$10 % and $\leq$ 90 % effect) preferably with three points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays (i.e., definitive assays), if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments

If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Chemical Dilution Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Chemical Dilution Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 µg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of the appropriate solvent (determined from the original solubility test) will be added to the vessel so that the concentration is 500,000 µg/mL (500 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 (= $^{2}\sqrt{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 (= $^{3}\sqrt{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 (= $^{6}\sqrt{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 (= $^{12}\sqrt{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

F. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The 3T3 NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in **Figure 2**.

Figure 2. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized. The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs and/or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel). The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 50 µl/well) should be in the wells of the dummy plate. At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing.

b) After 24 h ± 1 h incubation of the cells, remove Routine Culture Medium from the cells by careful inversion of the plate (i.e., "dump") over an appropriate receptacle. Gently blot the plate on a sterile paper towel so that the monolayer is minimally disrupted. Do not use automatic plate washers for this procedure nor vacuum aspiration.

c) Immediately add 50 µL of fresh pre-warmed Routine Culture Medium to all of the wells, including the blanks. Add 50 µL of Chemical Dilution Medium to the blank wells. Then add 50 µL Chemical Dilution Medium containing either the appropriate

concentration of test chemical, the PC, or the VC (see **Figure 2** for the plate configuration). The solutions will be transferred from the dummy plate to the test plate by adding the vehicle control first then lowest to highest dose so that the same pipette tips on the eight channel pipettor can be used for the whole plate.

d) Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

e) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase Ia of the Validation Study. The mean IC_{50} and ± two standard deviations (SD) of the IC_{50} of SLS (mutually agreed upon by the Testing Facility and the SMT) are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates.

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the medium with test chemical and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on sterile paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., at 1, 2, and 3 h – Study Director's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.

b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µl pre-warmed D-PBS.

c) Decant and blot D-PBS from the plate.
d) Add exactly 100 µl NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.
e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution.
f) Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Phase Ia data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.051 ± 0.022 for 3T3 cells (± two standard deviations; data from 3 labs; N = 59). Use this value as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the SMT.

5. Quality Check of 3T3 NRU Assay

a) Test Acceptance Criteria

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS (PC) is within ± two (2) standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.F.2.e**).
2) A test meets acceptance criteria if the corrected mean OD_{540} of VCs is ≥ 0.30 and ≤ 0.80.
3) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15 % from the mean of all VCs.
4) A test meets acceptance criteria if a minimum of two points, one on each side of the IC_{50} value, are determined and fall within the range ≥10 % and ≤ 90 % effect.

[Note: All acceptance criteria must be met for an assay to be considered acceptable.]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) Quality Check of Concentration-Response

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals will be backed by preferably three responses ≥ 10 % and ≤ 90 % inhibition of NRU and at least two responses, one on either side of the IC_{50} value (see **VII.E.3.b**). If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays, if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. Numerical scoring of the cells (see **VII.F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate well) per test concentration (blanks will be subtracted). This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet provided by the SMT for determining cell viability and performing statistical analyses.

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. Statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the SMT shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the SMT shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the SMT/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Spielmann, H., S. Gerner, S. Kalweit, R. Moog, T. Wirnserberger, K. Krauser, R. Kreiling, H. Kreuzer, N.P. Luepke, H.G. Miltenburger, N. Müller, P. Murmann, W. Pape, B. Siegmund, J. Spengler, W. Steiling, and F.J. Wiebel. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol. *In Vitro* 5: 539-542.

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**
(Print or type name)

_____ _____

Test Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix C4

Test Method Protocol for the Normal Human Epidermal Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase Ib)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an In Vitro Validation Study
Phase Ib

November 15, 2002
Revised November 22, 2002
Revised by IIVS Nov. 26, 2002

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity
Phase Ib

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and is in support of the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The NHK NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of three (3) blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded chemicals (3)*

B. Controls:
Positive: Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative): Assay medium
Solvent (as needed): Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

- Name:
- Address:

- Study Director:
- Laboratory Technician(s):
- Scientific Advisor:
- Quality Assurance Director:
- Safety Manager:
- Facility Management:

A. Test Schedule

1. Proposed Experimental Initiation Date:
2. Proposed Experimental Completion Date:
3. Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A.. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used unless otherwise noted.]

1. Cell Lines

Normal Human Epidermal Keratinocytes (NHK)

Non-transformed cells; from cryopreserved primary or secondary cells (**Clonetics #CC-2507 or equivalent).** Cells will be Clonetics NHK cells.

Cambrex [Cambrex Bio Science, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793-0127

Cambrex Europe [Cambrex Bio Science Verviers, S.P.R.L. Parc Industriel de Petit Rechain, B-4800 Verviers, BELGIUM]

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5mL)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Corning/COSTAR tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of NHK.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone,

antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, 300 mM $CaCl_2$, Clonetics # CC-4202).
b) HEPES Buffered Saline Solution (HEPES-BSS) (e.g., Clonetics # CC-5022)
c) 0.025 % Trypsin/EDTA solution (e.g., Clonetics # CC-5012)
d) Trypsin Neutralizing Solution (TNS) (e.g., Clonetics # CC-5002)
e) Phosphate Buffered Saline (PBS)
f) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
g) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
h) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
i) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
j) Glacial acetic acid, analytical grade
k) Hanks' Balanced Salt Solution without Ca^{2+} or Mg^{2+} (CMF-HBSS) (e.g., Invitrogen # 14170)
l) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
m) Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard).). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

a) Routine Culture Medium/Treatment Medium

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500 mL medium. Final concentration of supplements in medium are:

0.0001 ng/mL	Human recombinant epidermal growth factor
5 µg/mL	Insulin
0.5 µg/mL	Hydrocortisone
30 µg/mL	Gentamicin
15 ng/mL	Amphotericin B
0.10 mM	Calcium
30 µg/mL	Bovine pituitary extract

Complete media should be kept at 2-8°C and stored for no longer than two weeks.

NOTE:
KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:

0.1 ng/mL	hEGF	0.5 mL
5.0 mg/mL	Insulin	0.5 mL
0.5 mg/mL	Hydrocortisone	0.5 mL

30 mg/mL	Gentamicin, 15 ug/mL Amphotericin-B	0.5 mL
7.5 mg/mL	Bovine Pituitary Extract (BPE)	2.0 mL

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 mL of 300mM calcium.

165 ul of solution per 500 mL calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.33 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1 mL (3.3 mg NR dye/mL)	NR Stock Solution
99 mL	Routine Culture Medium (pre-warmed to 37° C.)

The final concentration of the NR Medium is 33 μg NR dye/mL.
[Note: The NR medium may be centrifuged at approximately 600 x g for 10 min (to remove NR crystals). The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 μm pore size) used to reduce NR crystals. The temperature of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding to the cells and will be used within 15 minutes after removing from 37° C storage. Aliquots of NR Medium can be made on the day of testing and maintained at 37° C. for later use.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

NHK cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 25 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be

examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties must be noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved Keratinocytes

Upon receipt of cryopreserved keratinocytes, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells and Establishing Cell Cultures

a) Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C for as brief a time as possible. Do not thaw cells at room temperature or by hand. Seed the thawed cells into culture flasks as quickly as possible and with minimal handling.
b) Slowly (taking approximately 1-2 min) add 9 mL of pre-warmed Routine Culture Medium to the cells suspended in the cryoprotective solution and transfer cells into flasks containing pre-warmed Routine Culture Medium (See Table 1).
c) Incubate the cultures at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air until the cells attach to the flask (within 4 to 24 h), at which time the Routine Culture Medium should be removed and replaced with fresh Routine Culture Medium.
d) Unless otherwise specified, the cells should be incubated at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air and fed every 2-3 days until they exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent).

Table 1. Establishing Cell Cultures

Cells/25 cm^2 flask (in approximately 5 mL) 1 flask each cell concentration	6.25 x 10^4 (2500/cm^2)	1.25 x 10^5 (5000/cm^2)	2.25 x 10^5 (9000/cm^2)
Approximate Time to Subculture	96+ hours	72 - 96 hours	48 - 72 hours
Cells to 96-Well Plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates

Cell growth guidelines – actual growth of individual cell lots may vary.

4. Subculture of NHK Cells to 96-Well Plates

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test. Keratinocytes will be passaged only into the 96-well plates and will not be subcultured into flasks for use in later assays]

a) When the keratinocyte culture in a 25 cm^2 flask exceeds 50 % confluence (but less than 80 % confluent), remove the medium and rinse the culture twice with 5 mL HEPES-BSS. The second rinse should be left on the cells for approximately 5 minutes. Discard the washing solution.
b) Add 2 mL trypsin/EDTA solution to each flask and remove after 15 to 30 seconds. Incubate the flask at room temperature for 3 to 7 min. When more than 50 % of the cells become dislodged, rap the flask sharply against the palm of the hand.
c) When most of the cells have become detached from the surface, rinse the flask with 5 mL of room temperature TNS. If more than one flask is subcultured, the same 5 mL of TNS may be used to rinse a total of up to 2 flasks.

d) Then rinse the flask with 5 mL CMF-HBSS and transfer the cell suspension to a centrifuge tube.
e) Pellet the cells by centrifugation for 5 min at approximately 220 x g. Remove the supernatant by aspiration.
f) Resuspend the keratinocyte pellet by gentle trituration (to have single cells) in Routine Culture Medium. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension using a hemocytometer or cell counter.
g) Prepare a cell suspension –1.6 – 2.0 x10^4 cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 250 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate. In the remaining wells, dispense 125 µl of the cell suspension (2x10^3 – 2.5x10^3 cells/well). Prepare one plate per chemical to be tested (see **Figure 2**, **Section VII.F.1**).
h) Incubate cells (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5.0 % humidity, and 5 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a 20+ % monolayer (~48-72 h). This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.
i) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

5. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase Ib if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in appropriate culture medium. Use **Table 1** to determine seeding densities.
b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).
c) After 4-6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue). Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 hr, 48 hr, 72 hr, and 96 hr post inoculation. Change culture medium at 72 hr or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.
d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. The doubling time will be in the log (exponential) phase of the growth curve. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Solubility Test

The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical at a relatively high concentration with the sequence of mechanical procedures specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is

increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures in **Section VII.D.2.a** are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations. For testing solubility in media, the starting concentration is 20,000 μg/ml (i.e., 20 mg/mL) in Tier 1, but for DMSO and ethanol the starting concentration is 200,000 μg/ml (i.e., 200 mg/mL) in Tier 2. Weighing out chemical for each solvent (i.e., media, DMSO, ethanol) can be done all at once, if convenient, but solubility testing (at each tier that calls for more than one solvent) is designed to be sequential - media, then DMSO, then ethanol – in accordance with the solvent hierarchy (see **Figure 1**). This allows for testing to stop, rather than continue testing with less preferred solvents, if the test chemical dissolves in a more preferred solvent. For example, if a chemical is soluble in medium at a particular tier, testing may stop. Likewise, if a chemical is soluble in DMSO at any tier, testing need not continue with ethanol. However, since the issue of primary importance is testing the solvents and concentrations of test chemical required by any one tier, sequential testing of solvents may be abandoned if the lab can test more efficiently in another way.

1. Determination of Solubility

a) Tier 1 begins with testing 20 mg/mL in Routine Culture Medium (see **Table 2**). Approximately 10 mg (10,000 μg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Routine Culture Medium, approximately 0.5 mL, will be added to the vessel so that the concentration is 20,000 μg/ml (20 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a.** If complete solubility is achieved in media, then additional solubility procedures are not needed.

b) If the test chemical is insoluble in medium, proceed to Tier 2 by adding enough medium, approximately 4.5 mL, to attempt to dissolve the chemical at 2 mg/mL by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. If the test chemical dissolves in medium at 2 mg/mL, no further procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, weigh out approximately 100 mg test chemical in a second glass tube and add enough DMSO to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL). In another glass tube, also add approximately 100 mg test chemical to enough ethanol to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL). Mix both solutions as specified in **Section VII.D.2.a** in an attempt to solubilize the test chemical. If the chemical is soluble in either solvent, no additional solubility procedures are needed.

Table 2 Determination of Solubility in Routine Culture Medium, DMSO, or Ethanol

TIER	1	2	3	4	5
Total Volume Medium	0.5 mL	5 mL	50 mL		
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a tube. Add enough medium to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	200 µg/mL (0.20 mg/mL)		
Total Volume DMSO/Ethanol		0.5 mL	5 mL	50 mL	
Concentration of Test Chemical (Add ~100 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)		200,000 µg/mL (200 mg/mL)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	
Total Volume DMSO/Ethanol					50 mL
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal 50 mL.)					200 µg/mL (0.2 mg/mL)
Equivalent Concentration on Cells	10,000 µg/mL (10 mg/mL)	1000 µg/mL (1 mg/mL)	100 µg/mL (0.1 mg/mL)	10 µg/mL (0.01 mg/mL)	1 µg/mL (0.001 mg/mL)

c) If the chemical is NOT soluble in media, DMSO, or ethanol at Tier 2, then continue to Tier 3 in **Table 2** by adding enough solvent to increase the volume of the three Tier 2 solutions by 10 and attempt to solubilize again using the sequence of mixing procedures in **Section VII.D.2.a.** If the test chemical dissolves, no additional solubility procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, continue with Tier 4 and, if necessary, Tier 5 using DMSO and ethanol. Tier 4 begins by diluting the Tier 3 samples with DMSO or ethanol to bring the total volume to 50 mL. The mixing procedures in **Section VII.D.2.a** are again followed to attempt to solubilize the chemical. Tier 5 is performed, if necessary, by weighing out another two more samples of test chemical at ~10 mg each and adding ~50 mL DMSO or ethanol for a 200 µg/mL solution, and following the mixing procedures in **Section VII.D.2.a**.

Example: If complete solubility is not achieved at 20,000 µg/mL in Routine Culture Medium at Tier 1 using the mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a,** then the procedure continues to Tier 2 by diluting the solution to 5 mL and mixing again

as specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical is not soluble in medium, two samples of ~ 100 mg test chemical are weighed to attempt to solubilize in DMSO and ethanol at 200,000 μg/mL (i.e., 200 mg/mL). Solutions are mixed following the sequence of procedures prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Tier 2, then the solutions (media, DMSO, and ethanol) prepared in Tier 2 are diluted by 10 so as to test 200 μg/mL in media, and 20,000 μg/mL in DMSO and ethanol. This advances the procedure to Tier 3. Solutions are again mixed as prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved in Tier 3, the procedure continues to Tier 4, and to 5 if necessary (see **Figure 1** and **Table 2**).

NOTE: The amounts of test chemical weighed and Routine Culture Medium added may be modified from the amounts given above, provided that the targeted concentrations specified for each tier are tested.

Figure 1. Solubility Flow Chart

TIER 1

STEP 1:	20 mg/mL test chemical (TC) in 0.5 mL medium: • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 2.

TIER 2

STEP 2:	2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 1 by 10 (i.e., to 5 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 3.
STEP 3:	200 mg/mL TC in DMSO j) if TC soluble, then **STOP**. k)if TC insoluble, test at 200 mg/mL in ETOH. l) if TC soluble, then **STOP.** m) If TC insoluble, go to STEP 4.

TIER 3

STEP 4:	0.2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 2 by 10 (i.e., to 50 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in DMSO – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL). • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL). • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, then go to STEP 5.

TIER 4

STEP 5:	2 mg/mL TC in DMSO – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL) • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 2 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL). • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, then go to STEP 6.

TIER 5

STEP 6:	0.2 mg/mL TC in 50 mL DMSO • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 0.2 mg/mL in 50 mL ETOH • **STOP**

2. Mechanical Procedures

a) The following hierarchy of mixing procedures will be followed to dissolve the test chemical:

1) Add test chemical to solvent as in Tier 1 of Table 2.
2) Gently mix. Vortex the tube (1 –2 minutes).
3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.
4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C. This can be performed by warming 5 mL tubes in a 37°C water bath for at least 5-10 minutes before evaluating solubility. Warm larger vessels for at least 15-20 minutes in a 37°C water bath before evaluating solubility.
5) Proceed to Tier 2 (and Tiers 3-5, if necessary of Table 2 and repeat procedures 2-4).

b) The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Thus, if a test chemical dissolves in more than one solvent at any one solubility-testing tier, then the choice of solvent follows this hierarchy. For example, if, at any tier, a chemical is soluble in medium and DMSO, but not ethanol, the choice of solvent would be medium. If the chemical were insoluble in medium, but soluble in DMSO and ethanol, the choice of solvent would be DMSO.

After the lab has determined the preferred solvent for the test chemical and before proceeding to the cytotoxicity testing, the Study Director will discuss the solvent selection with the Study Management Team (SMT) of the validation study. The SMT will relate what solvent should be used in the assay for each chemical.

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemical in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test. Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:
- 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in medium, or

- 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in medium before application to NHK cells.

Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.
2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.
3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).
4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)
5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.
6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of culture medium (e.g., 0.1 mL of test chemical in DMSO + 9.9 mL culture medium) to derive the eight 2X concentrations for application to NHK cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The NHK cells will have 0.125 mL of culture medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.125 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.250 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.
7) A test article prepared in DMSO or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions should be evaluated for precipitates and the results will be recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay only. Doses containing test article precipitates should be avoided, and will not be used in the ICx determinations for either the range finding experiments or the definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper. Document the pH and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

The data from any well that has precipitate will be excluded from any calculations.

b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical).]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller ($\sqrt[6]{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range ($\geq$10 % and $\leq$ 90 % effect) preferably with three points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays (i.e., definitive assays), if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments

If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Routine Culture Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Routine Culture Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 µg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of the appropriate solvent (determined from the original solubility test) will be added to the vessel so that the concentration is 500,000 μg/mL (500 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 (= $^{2}\sqrt{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 (= $^{3}\sqrt{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 (= $^{6}\sqrt{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 (= $^{12}\sqrt{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

F. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The NHK NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in Figure 2.

Figure 2. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized. The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs and/or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel). The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 125 µl/well) should be in the wells of the dummy plate. At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing.

b) After 48 - 72 h (i.e., after cells attain 20-30+ % confluency [see Section VII.C.4(h)[) incubation of the cells, add 125 µl of the appropriate concentration of test chemical, the PC, or the VC (see Figure 2 for the plate configuration) directly to the test wells. Do not remove Routine Culture Medium for re-feeding the cells.Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase Ia of the Validation Study. The mean IC_{50} and two standard deviations (SD) of the IC_{50} of SLS are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the NHK NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates.

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

b) Carefully remove (i.e., "dump") the Routine Culture Medium (with test chemical) and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on sterile paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., at 1, 2, and 3 h – Study Director 's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.
c) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µL pre-warmed D-PBS.
d) Decant and blot D-PBS from the plate. (Optionally: centrifuge the reversed plate.)
e) Add exactly 100 µL NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.
f) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution.

g) Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Phase Ia data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.058 ± 0.032 for NHK cells (mutually agreed upon by Testing Facility and SMT; data from 3 labs; N = 75). Use this value as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the Study Management Team.

5. Quality Check of Assay

a) Test Acceptance Criteria

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS is within two standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.F.2.c**).
2) A test meets acceptance criteria if the corrected mean OD_{540} of VCs is ≥ 0.60 and ≤ 1.70
3) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15 % from the mean of all VCs.
4) A test meets acceptance criteria if a minimum of two points, one on each side of the IC_{50} value, are determined and fall within the range ≥10 % and ≤ 90 % effect.

[Note: All acceptance criteria must be met for an assay to be considered acceptable.]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) Quality Check of Concentration-Response

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals should be backed by preferably three responses ≥ 10 and ≤ 90 % inhibition of NRU and at least two responses, one on either side of the IC_{50} value (see **VII.E.3.b**). If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays, if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. Numerical scoring of the cells (see **VII.F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicates wells) per test concentration. This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet provided by the Study Management Team for determining cell viability and performing statistical analyses.

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. Statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the Study Management Team shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the Study Management Team shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the Study Management Team/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The Study Management Team will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Triglia, D., P.T. Wegener, J. Harbell, K. Wallace, D. Matheson, and C. Shopsis. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In *Alternative Methods in Toxicology*, Volume 7. A.M. Goldberg, ed., pp. 357-365. Mary Ann Liebert, Inc., New York.

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**

(Print or type name)

_____ _____

Testing Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix C5

Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase II)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study
Phase II

May 15, 2003

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test
A Test for Basal Cytotoxicity
Phase II

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and supports the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The 3T3 NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of nine (9) blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name:	National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)	
B. Address:	P.O. Box 12233 Research Triangle Park, NC 27709	
C. Representative:	*Named Representative*	

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals:	*Blinded Chemicals (9)*	
B. Controls:	Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
	Vehicle (Negative):	Assay medium (DMEM containing 5% NBCS, 4 mM L-Glutamine, 100 IU/mL Penicillin, 100 µg/mL Streptomycin)
	Solvent (as needed):	Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

A. Facility Information

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:
7) Safety Manager:
8) Facility Management:

B. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\log IC50 - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test

chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

1. Cell Lines

BALB/c 3T3 cells, clone 31
CCL-163, LGC Reference Materials, Customer Service, Queens Road, Teddington, Middlesex, TW110LY, UK
CCL-163, American Type Culture Collection [ATCC], Manassas, VA, USA)

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench/cabinet (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5 mL)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel; multichannel repeater pipette), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (e.g., 75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Falcon tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)
q) Multichannel reagent reservoir
r) Waterbath sonicator
s) Magnetic stirrer
t) Antistatic bar ionizer/antistatic gun (optional for neutralizing static on 96-well plates)
u) Dry heat block (optional)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of 3T3 cells. Multi-channel repeater pipettes may be used for plating cells in the 96-well plates, dispensing plate rinse solutions, NR medium, and desorb solution. Do not use the repeater pipette for dispensing test chemicals to the cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
b) L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
c) New Born Calf Serum (NBCS or NCS) (e.g., Biochrom # SO 125)
d) 0.05 % Trypsin/0.02 % EDTA solution (e.g., SIGMA T 3924, ICN-Flow, # 16891-49)
e) Phosphate buffered saline (PBS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(for trypsinization)
f) Hanks' Balanced Salt Solution (HBSS) without Ca^{2+} and Mg^{2+}(CMF-HBSS)
g) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
h) Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)
i) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
j) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
k) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
l) Glacial acetic acid, analytical grade
m) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
n) Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

[Note: Due to lot variability of NBCS/NCS, first check a lot for growth stimulating properties with 3T3 cells (approximately 20-24 h doubling time) and then reserve a sufficient amount of NBCS/NCS. May use pre-tested serum lot from Phases Ia and Ib of the validation study if the serum has been stored under appropriate conditions and shelf-life has not expired.]

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

DMEM (buffered with sodium bicarbonate) supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

a) for freezing (Freeze Medium); contains 2X concentration of NBCS/NCS and DMSO of final freezing solution
   40 % NBCS/NCS
   20 % DMSO

b) for routine culture (Routine Culture Medium)
   10 % NBCS/NCS
   4 mM Glutamine

c) for solubility testing and test chemical dilution (Chemical Dilution Medium)

4 mM	Glutamine
200 IU/mL	Penicillin
200 µg/mL	Streptomycin

d) for dilution of NR stock solution (NR Dilution Medium)

5 %	NBCS/NCS
4 mM	Glutamine
100 IU/mL	Penicillin
100 µg/mL	Streptomycin

[Note: The Chemical Dilution Medium with test chemical will dilute the serum concentration of the Routine Culture Medium in the test plate to 5 %. Serum proteins may mask the toxicity of the test substance, but serum cannot be totally excluded because cell growth is markedly reduced in its absence.]

Completed media formulations should be kept at approximately 2-8° C and stored for no longer than two weeks.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.25 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

0.758 mL (3.3 mg NR dye/mL solution)	NR Stock Solution
99.242 mL	NR Dilution Medium (pre-warmed to 37° C)

The final concentration of the NR Medium is **25 µg NR dye/mL** and aliquots will be prepared on the day of application.

[Note: The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 µm pore size) to reduce NR crystals. Aliquots of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding to the cells and used within 30 min of preparation but also used within 15 min after removing from 37° C storage.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

BALB/c 3T3 cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 75 - 80 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved BALB/c 3T3 Cells

Upon receipt of cryopreserved BALB/c 3T3 cells, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells

Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C ± 1ºC. Leave for as brief a time as possible.

a) Resuspend the cells in pre-warmed Routine Culture Medium and transfer into pre-warmed Routine Culture Medium in a tissue-culture flask.

b) Incubate at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air.

c) When the cells have attached to the bottom of the flask (within 4 to 24 h), decant the supernatant and replace with fresh pre-warmed (37ºC) medium. Culture as described above.

d) Passage at least two times before using the cells in a cytotoxicity test.

A fresh batch of frozen cells from the stock lot of cells should be thawed out and cultured approximately every two months. This period resembles a sequence of about 18 passages.

4. Routine Culture of BALB/C 3T3 Cells

When cells exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent) they should be removed from the flask by trypsinization:

a) Decant medium, briefly rinse cultures with 5 mL PBS or Hanks' BSS (without Ca^{2+}, Mg^{2+}) per 25 cm^2 flask (15 mL per 75 cm^2 flask). Wash cells by gentle agitation to remove any remaining serum that might inhibit the action of the trypsin.

b) Discard the washing solution. Repeat the rinsing procedure and discard the washing solution.

c) Add 1-2 mL trypsin-EDTA solution per 25 cm^2 to the monolayer for a few seconds (e.g., 15-30 seconds).

d) Remove excess trypsin-EDTA solution and incubate the cells at room temperature.

e) After 2-3 minutes (min), lightly tap the flask to detach the cells into a single cell suspension.

5. Cell Counting

After detaching the cells, add 0.1-0.2 mL of pre-warmed (37ºC) Routine Culture Medium/cm^2 to the flask (e.g., 2.5 mL for a 25 cm^2 flask). Disperse the monolayer by gentle trituration. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension obtained using a hemocytometer or cell counter (e.g., Coulter counter).

6. Subculture of Cells

After determination of cell number, the culture can be sub-cultured into other flasks or seeded into 96-well microtiter plates. BALB/c 3T3 cells are routinely passaged at suggested cell densities as listed in the table (approximate doubling time is 20-24 h). The individual laboratories will need to determine and adjust the final density to achieve appropriate growth.

Table 1. Cell Densities for Subculturing

Days in Culture	Seeding Density (cells/cm^2)	Total Cells per 25 cm^2 flask	Total Cells per 75 cm^2 flask
2	16800	4.2×10^5	1.26×10^6
3	8400	2.1×10^5	6.3×10^5
4	4200	1.05×10^5	3.15×10^5

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test.]

7. Freezing Cells (procedure required only if current stock of cells is depleted)

Stocks of BALB/c 3T3 cells can be stored in sterile, freezing tubes in a liquid nitrogen freezer. DMSO is used as a cryoprotective agent.

a) Centrifuge trypsinized cells at approximately 200 x g.

b) Suspend the cells in cold Routine Culture Medium (half the final freezing volume) so a final concentration of $1\text{-}5 \times 10^6$ cells/mL can be attained.

c) Slowly add cold Freeze Medium to the cells so that the solvent will equilibrate across the cell membranes. Bring the cell suspension to the final freezing

volume. The final cell suspension will be 10 % DMSO. Aliquot the cell suspension into freezing tubes and fill to 1.8 mL.

d) Place the tubes into an insulated container (e.g., styrofoam trays) and place in a freezer (-70 to -80°C) for 24 h. This gives a freezing rate of approximately 1°C/min. The laboratory needs to ensure that the freezing protocol is applicable to the 3T3 cells and that the cells are viable when removed from cryopreservation.

e) Place the frozen tubes into liquid nitrogen for storage.

8. Preparation of Cells for Assays

a) Cultured cells that are going to be used in seeding the 96-well plates should be fed fresh medium the day before subculturing to the plates. On the day of plate seeding, prepare a cell suspension of 2.0 – 3.0x10^4 cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 100 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate (See **Section VII.F.1**). In the remaining wells, dispense 100 µl of a cell suspension of 2.0 – 3.0x10^4 cells/mL (= 2.0 – 3.0x10^3 cells/well). The seeding density should be noted to ensure that the cells in the control wells are not overgrown after three days (i.e., 24 h incubation in step **b** and 48 h exposure to test chemicals). Prepare one plate per chemical to be tested.

b) Incubate cells for 24 ± 2 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a less than half (< 50%) confluent monolayer. This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

c) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

9. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase II if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in NR Dilution Medium (5 % NBCS/NCS). Seed cells at 4200 cells/cm^2.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4 - 6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count

cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue; Nigrosin) if Study Director sees a need. Use appropriate size exclusion limits if using a Coulter counter. Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 h, 48 h, 72 h, and 96 h post inoculation. Change culture medium at 72 h or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Solubility Test

The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical at a relatively high concentration with the sequence of mechanical procedures specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures in **Section VII.D.2.a** are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations. For testing solubility in medium, the starting concentration is 20,000 μg/ml (i.e., 20 mg/mL) in Tier 1, but for DMSO and ethanol the starting concentration is 200,000 μg/ml (i.e., 200 mg/mL) in Tier 2. Weighing out chemical for each solvent (i.e., medium, DMSO, ethanol) can be done all at once, if convenient, but solubility testing (at each tier that calls for more than one solvent) is designed to be sequential - medium, then DMSO, then ethanol – in accordance with the solvent hierarchy (see **Figure 1**). This allows for testing to stop, rather than continue testing with less preferred solvents, if the test chemical dissolves in a more preferred solvent. For example, if a chemical is soluble in medium at a particular tier, testing may stop. Likewise, if a chemical is soluble in DMSO at any tier, testing need not continue with ethanol. However, since the issue of primary importance is testing the solvents and concentrations of test chemical required by any one tier, sequential testing of solvents may be abandoned if the lab can test more efficiently in another way.

1. Determination of Solubility

a) Tier 1 begins with testing 20 mg/mL in Chemical Dilution Medium (see **Table 2**). Approximately 10 mg (10,000 μg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Chemical Dilution Medium, approximately 0.5 mL, will be added to the vessel so that the concentration is 20,000 μg/ml (20 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a.** If complete solubility is achieved in medium, then additional solubility procedures are not needed.

b) If the test chemical is insoluble in Chemical Dilution Medium, proceed to Tier 2 by adding enough medium, approximately 4.5 mL, to attempt to dissolve the chemical at 2 mg/mL by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. If the test chemical dissolves in Chemical Dilution Medium at 2 mg/mL, no further procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, weigh out approximately 100 mg test chemical in a second glass tube and add enough DMSO to

make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL) and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.D.2.a**. If the test chemical does not dissolve in DMSO, weigh out approximately 100 mg test chemical in another glass tube and add enough ethanol to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL) and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.D.2.a**. If the chemical is soluble in either solvent, no additional solubility procedures are needed.

c) If the chemical is NOT soluble in Chemical Dilution Medium, DMSO, or ethanol at Tier 2, then continue to Tier 3 in Table 2 by adding enough solvent to increase the volume of the three Tier 2 solutions by 10 and attempt to solubilize again using the sequence of mixing procedures in **Section VII.D.2.a.** If the test chemical dissolves, no additional solubility procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, continue with Tier 4 and, if necessary, Tier 5 using DMSO and ethanol. Tier 4 begins by diluting the Tier 3 samples with DMSO or ethanol to bring the total volume to 50 mL. The mixing procedures in **Section VII.D.2.a** are again followed to attempt to solubilize the chemical. Tier 5 is performed, if necessary, by weighing out another two more samples of test chemical at ~10 mg each and adding ~50 mL DMSO or ethanol for a 200 µg/mL solution, and following the mixing procedures in **Section VII.D.2.a**.

Example: If complete solubility is not achieved at 20,000 µg/mL in Chemical Dilution Medium at Tier 1 using the mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a,** then the procedure continues to Tier 2 by diluting the solution to 5 mL and mixing again as specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical is not soluble in Chemical Dilution Medium, two samples of ~ 100 mg test chemical are weighed to attempt to solubilize in DMSO and ethanol at 200,000 µg/mL (i.e., 200 mg/mL). Solutions are mixed following the sequence of procedures prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Tier 2, then the solutions (Chemical Dilution Medium, DMSO, and ethanol) prepared in Tier 2 are diluted by 10 so as to test 200 µg/mL in media, and 20,000 µg/mL in DMSO and ethanol. This advances the procedure to Tier 3. Solutions are again mixed as prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved in Tier 3, the procedure continues to Tier 4, and to 5 if necessary (see **Figure 1** and **Table 2**).

Table 2 Determination of Solubility in Chemical Dilution Medium, DMSO, or Ethanol

TIER	1	2	3	4	5
Total Volume Chemical Dilution Medium	0.5 mL	5 mL	50 mL		
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a tube. Add enough medium to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	200 µg/mL (0.20 mg/mL)		
Total Volume DMSO/Ethanol		0.5 mL	5 mL	50 mL	
Concentration of Test Chemical (Add ~100 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)		200,000 µg/mL (200 mg/mL)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	
Total Volume DMSO/Ethanol					50 mL
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal 50 mL.)					200 µg/mL (0.2 mg/mL)
Equivalent Concentration on Cells	10,000 µg/mL (10 mg/mL)	1000 µg/mL (1 mg/mL)	100 µg/mL (0.1 mg/mL)	10 µg/mL (0.01 mg/mL)	1 µg/mL (0.001 mg/mL)

[NOTE: The amounts of test chemical weighed and Chemical Dilution Medium added may be modified from the amounts given above, provided that the targeted concentrations specified for each tier are tested.]

Figure 1. Solubility Flow Chart

TIER 1

STEP 1:	20 mg/mL test chemical (TC) in 0.5 mL Chemical Dilution Medium: • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 2.

TIER 2

STEP 2:	2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 1 by 10 (i.e., to 5 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 3.

STEP 3:	200 mg/mL TC in DMSO
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 200 mg/mL in ETOH.
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • If TC insoluble, go to STEP 4.

TIER 3

STEP 4:	0.2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 2 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 20 mg/mL in DMSO – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 5.

TIER 4

STEP 5:	2 mg/mL TC in DMSO – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP.**
	• if TC insoluble, test at 2 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 6.

TIER 5

STEP 6:	0.2 mg/mL TC in 50 mL DMSO • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 0.2 mg/mL in 50 mL ETOH • **STOP**

2. Mechanical Procedures

a) The following hierarchy of mixing procedures will be followed to dissolve the test chemical:

1) Add test chemical to solvent as in Tier 1 of **Table 2**.

2) Gently mix. Vortex the tube (1 –2 minutes).

3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.

4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C for 5 - 60 min. This can be performed by warming tubes in a 37°C water bath or in a CO_2 incubator at 37°C. The solution may be stirred during warming (stirring in a CO_2 incubator will help maintain proper pH).

5) Proceed to Tier 2 (and Tiers 3-5, if necessary of Table 2 and repeat procedures 2-4).

b) The preference of solvent for dissolving test chemicals is Chemical Dilution Medium, DMSO, and then ethanol. Thus, if (all solvents for a particular tier are tested simultaneously and) a test chemical dissolves in more than one solvent, then the choice of solvent follows this hierarchy. For example, if, at any tier, a chemical is soluble in Chemical Dilution Medium and DMSO, but not ethanol, the choice of solvent would be medium. If the chemical were insoluble in medium, but soluble in DMSO and ethanol, the choice of solvent would be DMSO.

After the lab has determined the preferred solvent for the test chemical and before proceeding to the cytotoxicity testing, the Study Director will discuss the solvent selection with the Study Management Team (SMT) of the validation study. The SMT will relate what solvent should be used in the assay for each chemical. If the laboratory has attempted all solubility testing without success, then the SMT will provide additional guidance for achieving test chemical solubility. The SMT anticipates that all validation study test chemicals will be tested in the NRU assays.

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemicals in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. Test chemical solutions should not be prepared in bulk for use in subsequent tests. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate. The SMT may direct the Study Director to store an aliquot (e.g., 1 mL) of the highest 2X

stock solution (e.g., low solubility chemicals) in a freezer (e.g., -70°C) for use in future chemical analyses.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test. Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:
   - 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in Chemical Dilution Medium, or
   - 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in Chemical Dilution Medium before application to 3T3 cells.

Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.

2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.

3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).

4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)

5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.

6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of Chemical Dilution Medium (e.g., 0.1 mL test chemical in DMSO + 9.9 mL Chemical Dilution Medium) to derive the eight 2X concentrations for application to 3T3 cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The 3T3 cells will have 0.05 mL Routine Culture Medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.05 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.1 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

7) A test article prepared in Chemical Dilution Medium, DMSO, or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions

should be evaluated for precipitates and the results will be recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay only. Doses containing test article precipitates should be avoided, and will not be used in the ICx determinations for either the range finding experiments or the definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper (e.g., pH 0 - 14 to estimate and pH 5 – 10 to determine more precise value). The pH paper should be in contact with the solution for approximately one minute. Document the final pH (i.e., in the EXCEL template) and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

The data from any well that has precipitate will be excluded from any calculations.

b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical.]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller ($\sqrt[6]{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range (≥10 % and ≤ 90 % effect) preferably with three points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the estimated IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. Each experiment should have at least one cytotoxicity value ≥ 10.0 % and ≤ 50.0 % viability and at least one cytotoxicity value > 50.0 % and ≤ 90.0 % viability. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays (i.e., definitive assays), if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments

If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Chemical Dilution Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Chemical Dilution Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 µg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of the appropriate solvent (determined from the original solubility test) will be added to the vessel so that the concentration is 500,000 µg/mL (500 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 (= $\sqrt[2]{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 (= $\sqrt[3]{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 (= $\sqrt[6]{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 (= $\sqrt[12]{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

F. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The 3T3 NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration as shown in **Figure 2**.

Figure 2. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb
B	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
C	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
D	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
E	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
F	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
G	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
H	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)
VCb = VEHICLE CONTROL BLANK

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized.

1) The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs; or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel; or other multichannel reservoirs).

2) The second method utilizes a “dummy” plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the

plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 50 µl/well) should be in the wells of the dummy plate.

At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing. Do not use a multichannel repeater pipette for dispensing test chemical to the plates.

b) After 24 h ± 2 h incubation of the cells, remove Routine Culture Medium from the cells by careful inversion of the plate (i.e., "dump") over an appropriate receptacle. Gently blot the plate on a sterile paper towel so that the monolayer is minimally disrupted. Do not use automatic plate washers for this procedure nor vacuum aspiration.

c) Immediately add 50 µL of fresh pre-warmed Routine Culture Medium to all of the wells, including the blanks. Fifty microliters (50 µL) of dosing solution will be rapidly transferred from the 8-channel reservoir (or dummy plate) to the appropriate wells of the test plate using a single delivery multi-channel pipettor. For example, the VC may be transferred first (into columns 1, 2, 11, and 12), followed by the test article dosing solutions from lowest to highest dose, so that the same pipette tips on the multi-channel pipettor can be used for the whole plate. [The Vehicle Control blank (VCb) wells (column 1, column 12, wells A2, A11, H2, H11) will receive the Vehicle Control dosing solutions (which should include any solvents used). Blanks for wells A3 – A10 and H3 – H10 shall receive the appropriate test chemical solutions for each concentration (e.g., wells A3 and H3 receive C_1 solution). [The test chemical blanks in rows A and H will be used for their respective test chemical concentrations.]

d) Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

e) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase I of the Validation Study. If multiple sets of test chemical plates are set up, then clearly designate the positive control plates for each set; each set will be an individual entity. The mean IC_{50} ± two and a half standard deviations (SD) for the SLS acceptable tests from Phases Ia and Ib (after the removal of outliers) are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates (including appropriate chemical concentrations in the appropriate wells – see sections VII.F.1 and F.2).

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the

test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the medium with test chemical and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on sterile paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., between 2 and 3 h – Study Director's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.

b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µl pre-warmed D-PBS.

c) Decant and blot D-PBS from the plate.

d) Add exactly 100 µl NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.

e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution. Plates should be protected from light by using a cover during shaking.

f) Plates should be still for at least five minutes after removal from the plate shaker (or orbital mixer). Observe the wells for bubbles. Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Note: Phases Ia and Ib data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.057 ± 0.043 for 3T3 cells (± 2.5 standard deviations; data from 3 labs; N = 189). Use this range as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the SMT.

5. Quality Check of 3T3 NRU Assay

a) Test Acceptance Criteria

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS (PC) is within ± two and a half (2.5) standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.F.2.e**).

2) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15.0 % from the mean of all VCs.

3) A test meets acceptance criteria if:
   - at least one calculated cytotoxicity value ≥ 10.0 % and ≤ 50.0 % viability and
   - at least one calculated cytotoxicity value > 50.0 % and ≤ 90.0 % viability.

4) A test meets acceptance criteria if the r^2 (coefficient of determination) value calculated for the Hill model fit (i.e., from PRISM® software) is ≥ 0.90. A test does not meet acceptance criteria if the r^2 value is < 0.80. If the r^2 value is ≥ 0.80 and < 0.90 ("gray zone"), then the SMT will evaluate the model fit and make the determination of whether or not the test meets the acceptance criteria and relate the information to the Study Director.

   [Note: All acceptance criteria must be met for an assay to be considered acceptable.]

   [A corrected mean $OD_{540 \pm 10nm}$ of 0.103 - 0.813 for the VCs is a target range but will not be a test acceptance criterion. Range determined from Phase Ib VC OD values from 3 laboratories (mean ± 2.5 standard deviations, N = 98).]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) Quality Check of Concentration-Response

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals will be backed by preferably three responses ≥ 10 % and ≤ 90 % inhibition of NRU and at least two responses, one on either side of the IC_{50} value (see sections **VII.E.3.b** and **VII.F.5.a.3**). If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays, if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. Numerical scoring of the cells (see **VII.F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate well) per test concentration (blanks will be subtracted). The Study Director will use good biological/scientific judgment for determining "unusable" wells that will be excluded from the statistical analysis. This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet (template with macros provided by the SMT) that will automatically determine cell viability and perform statistical analyses (including determination of outliers).

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. Statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the SMT shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the SMT shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the SMT/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Spielmann, H., S. Gerner, S. Kalweit, R. Moog, T. Wirnserberger, K. Krauser, R. Kreiling, H. Kreuzer, N.P. Luepke, H.G. Miltenburger, N. Müller, P. Murmann, W. Pape, B. Siegmund, J. Spengler, W. Steiling, and F.J. Wiebel. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol. *In Vitro* 5: 539-542.

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**
(Print or type name)

_____ _____

Test Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix C6

Test Method Protocol for the Normal Human Epidermal Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test (Phase II)

[This Page Intentionally Left Blank]

TEST METHOD PROTOCOL
for the NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

A Test for Basal Cytotoxicity for an In Vitro Validation Study
Phase II

May 15, 2003

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

TEST METHOD PROTOCOL

The Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test A Test for Basal Cytotoxicity Phase II

I. PURPOSE

The purpose of this study is to evaluate the cytotoxicity of test chemicals using the Normal Human Keratinocyte (NHK) Neutral Red Uptake (NRU) cytotoxicity test. The data will be used to evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assay and effectiveness of the cytotoxicity assay to predict the starting doses for rodent acute oral systemic toxicity assays. This test method protocol outlines the procedures for performing the cytotoxicity test and is in support of the *in vitro* validation study organized by NICEATM and the European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) and sponsored by NIEHS, U.S. Environmental Protection Agency, and ECVAM. This test method protocol applies to all personnel involved with performing the cytotoxicity assay.

A. NHK Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test

The NHK NRU test will be performed to analyze the *in vitro* toxicity of nine (9) blinded/coded test chemicals. This test will be used to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for the predetermined set of test chemicals of varying toxicities.

II. SPONSOR

A. Name: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

B. Address: P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

C. Representative: *Named Representative*

III. IDENTIFICATION OF TEST AND CONTROL SUBSTANCES

A. Test Chemicals: *Blinded chemicals (9)*

B. Controls:

Positive:	Sodium Lauryl Sulfate
Vehicle (Negative):	Assay medium
Solvent (as needed):	Assay medium with appropriate solvent used to prepare the test chemicals (**Section VII.E**)

IV. TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

A. Facility Information

1) Name:
2) Address:
3) Study Director:
4) Laboratory Technician(s):
5) Scientific Advisor:
6) Quality Assurance Director:
7) Safety Manager:
8) Facility Management:

B. Test Schedule

1) Proposed Experimental Initiation Date:
2) Proposed Experimental Completion Date:
3) Proposed Report Date:

V. TEST SYSTEM

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

VI. DEFINITIONS

A.. *Hill function*: a four parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

B. *Documentation*: all methods and procedures will be noted in a Study Workbook; logs will be maintained for general laboratory procedures and equipment (e.g., media preparation, test chemical preparation, incubator function); all optical density data obtained from the

spectrophotometer plate reader will be saved in electronic and paper formats; all calculations of ICx values and other derived data will be in electronic and paper format; all data will be archived.

VII. PROCEDURES

A. Materials

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used unless otherwise noted.]

1. Cell Lines

Normal Human Epidermal Keratinocytes (NHK)

Non-transformed cells; from cryopreserved primary or secondary cells (**Clonetics #CC-2507 or equivalent).** Cells will be Clonetics NHK cells.

Cambrex [Cambrex Bio Science, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793-0127

Cambrex Europe [Cambrex Bio Science Verviers, S.P.R.L. Parc Industriel de Petit Rechain, B-4800 Verviers, BELGIUM]

2. Technical Equipment

[Note: Suggested brand names/vendors are listed in parentheses. Equivalents may be used.]

a) Incubator: 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air
b) Laminar flow clean bench (standard: "biological hazard")
c) Water bath: 37ºC ± 1ºC
d) Inverse phase contrast microscope
e) Sterile glass tubes with caps (e.g., 5mL)
f) Centrifuge (optionally: equipped with microtiter plate rotor)
g) Laboratory balance
h) 96-well plate spectrophotometer (i.e., plate reader) equipped with 540 nm ± 10 nm filter
i) Shaker for microtiter plates
j) Cell counter or hemocytometer
k) Pipetting aid
l) Pipettes, pipettors (multi-channel and single channel; multichannel repeater pipette), dilution block
m) Cryotubes
n) Tissue culture flasks (75 - 80 cm^2, 25 cm^2)
o) 96-well flat bottom tissue culture microtiter plates (e.g., Nunc # 167 008; Corning/COSTAR tissue culture-treated)
p) pH paper (wide and narrow range)
q) Multichannel reagent reservoir
r) Waterbath sonicator
s) Magnetic stirrer

t) Antistatic bar ionizer/antistatic gun (optional for neutralizing static on 96-well plates)
u) Dry heat block (optional)

[Note: Tissue culture flasks and microtiter plates should be prescreened to ensure that they adequately support the growth of NHK. Multi-channel repeater pipettes may be used for plating cells in the 96-well plates, dispensing plate rinse solutions, NR medium, and desorb solution. Do not use the repeater pipette for dispensing test chemicals to the cells.]

3. Chemicals, Media, and Sera

a) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, 300 mM $CaCl_2$, Clonetics # CC-4202).
b) HEPES Buffered Saline Solution (HEPES-BSS) (e.g., Clonetics # CC-5022)
c) 0.025 % Trypsin/EDTA solution (e.g., Clonetics # CC-5012)
d) Trypsin Neutralizing Solution (TNS) (e.g., Clonetics # CC-5002)
e) Phosphate Buffered Saline (PBS)
f) Dulbecco's Phosphate Buffered Saline (D-PBS) [formulation containing calcium and magnesium cations; glucose optional] (for rinsing)
g) Neutral Red (NR) Dye – tissue culture-grade; liquid form (e.g., SIGMA N 2889); powder form (e.g., SIGMA N 4638)
h) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P analytical grade (Store under nitrogen @ -20ºC)
i) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100 %, non-denatured for test chemical preparation; 95 % can be used for the desorb solution)
j) Glacial acetic acid, analytical grade
k) Hanks' Balanced Salt Solution without Ca^{2+} or Mg^{2+} (CMF-HBSS) (e.g., Invitrogen # 14170)
l) Distilled H_2O or any purified water suitable for cell culture (sterile)
m) Sterile paper towels (for blotting 96-well plates)

B. Preparations of Media and Solutions

[Note: All solutions (except NR stock solution, NR medium and NR desorb), glassware, pipettes, etc., shall be sterile and all procedures should be carried out under aseptic conditions and in the sterile environment of a laminar flow cabinet (biological hazard standard). All methods and procedures will be adequately documented.]

1. Media

a) Routine Culture Medium/Treatment Medium

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500 mL medium. Final concentration of supplements in medium are:

0.0001 ng/mL	Human recombinant epidermal growth factor
5 µg/mL	Insulin
0.5 µg/mL	Hydrocortisone

30 μg/mL	Gentamicin
15 ng/mL	Amphotericin B
0.10 mM	Calcium
30 μg/mL	Bovine pituitary extract

Complete media should be kept at 2-8°C and stored for no longer than two weeks.

NOTE:
KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:

0.1 ng/mL	hEGF	0.5 mL
5.0 mg/mL	Insulin	0.5 mL
0.5 mg/mL	Hydrocortisone	0.5 mL
30 mg/mL	Gentamicin, 15 ug/mL Amphotericin-B	0.5 mL
7.5 mg/mL	Bovine Pituitary Extract (BPE)	2.0 mL

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 mL of 300mM calcium.

165 μl of solution per 500 mL calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.

2. Neutral Red (NR) Stock Solution

The liquid tissue culture-grade stock NR Solution will be the first choice for performing the assay (e.g., SIGMA #N2889, 3.3 mg/mL). Store liquid tissue culture-grade NR Stock Solution at the storage conditions and shelf-life period recommended by the manufacturer.

If the liquid form is not available, the following formulation can be prepared.

EXAMPLE: 0.33 g NR Dye powder in 100 mL H_2O

The NR Stock Solution (powder in water) should be stored in the dark at room temperature for up to two months.

3. Neutral Red (NR) Medium

EXAMPLE:

1.0 mL (3.3 mg NR dye/mL)	NR Stock Solution
99.0 mL	Routine Culture Medium (pre-warmed to 37° C.)

The final concentration of the NR Medium is **33 μg NR dye/mL** and aliquots will be prepared on the day of application.

[Note: The NR Medium shall be filtered (e.g., Millipore filtering, 0.2 – 0.45 μm pore size) used to reduce NR crystals. Aliquots of the NR Medium should be maintained at 37° C (e.g., in a waterbath) before adding to the cells and used within 30 min of preparation but also used within 15 min after removing from 37° C storage.]

4. Ethanol/Acetic Acid Solution (NR Desorb)

1 %	Glacial acetic acid solution
50 %	Ethanol
49 %	H_2O

C. Methods

1. Cell Maintenance and Culture Procedures

NHK cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks (e.g., 25 cm^2) at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air. The cells should be examined on a daily (i.e., on workdays) basis under a phase contrast microscope, and any changes in morphology or their adhesive properties must be noted in a Study Workbook.

2. Receipt of Cryopreserved Keratinocytes

Upon receipt of cryopreserved keratinocytes, the vial(s) of cells shall be stored in a liquid nitrogen freezer until needed.

3. Thawing Cells and Establishing Cell Cultures

a) Thaw cells by putting ampules into a water bath at 37°C for as brief a time as possible. Do not thaw cells at room temperature or by hand. Seed the thawed cells into culture flasks as quickly as possible and with minimal handling.

b) Slowly (taking approximately 1-2 min) add 9 mL of pre-warmed Routine Culture Medium to the cells suspended in the cryoprotective solution and transfer cells into flasks containing pre-warmed Routine Culture Medium (See Table 1).

c) Incubate the cultures at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air until the cells attach to the flask (within 4 to 24 h), at which time the Routine Culture Medium should be removed and replaced with fresh Routine Culture Medium.

d) Unless otherwise specified, the cells should be incubated at 37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air and fed every 2-3 days until they exceed 50 % confluence (but less than 80 % confluent).

Table 1. Establishing Cell Cultures

Cells/25 cm^2 flask (in approximately 5 mL) 1 flask each cell concentration	6.25 x 10^4 (2500/cm^2)	1.25 x 10^5 (5000/cm^2)	2.25 x 10^5 (9000/cm^2)
Approximate Time to Subculture	96+ hours	72 - 96 hours	48 - 72 hours
Cells to 96-Well Plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates	6 – 8 plates

Cell growth guidelines – actual growth of individual cell lots may vary.

4. Subculture of NHK Cells to 96-Well Plates

[Note: It is important that cells have overcome the lag growth phase when they are used for the test. Keratinocytes will be passaged only into the 96-well plates and will not be subcultured into flasks for use in later assays]

a) When the keratinocyte culture in a 25 cm^2 flask exceeds 50 % confluence (but less than 80 % confluent), remove the medium and rinse the culture twice with 5 mL HEPES-BSS. The first rinse may be left on the cells for up to 5 minutes and the second rinse should remain on the cells for approximately 5 minutes. Discard the washing solutions.

b) Add 2 mL trypsin/EDTA solution to each flask and remove after 15 to 30 seconds. Incubate the flask at room temperature for 3 to 7 min. When more than 50 % of the cells become dislodged, rap the flask sharply against the palm of the hand.

c) When most of the cells have become detached from the surface, rinse the flask with 5 mL of room temperature TNS. If more than one flask is subcultured, the same 5 mL of TNS may be used to rinse a total of up to two flasks.

d) Then rinse the flask with 5 mL CMF-HBSS and transfer the cell suspension to a centrifuge tube.

e) Pellet the cells by centrifugation for 5 min at approximately 220 x g. Remove the supernatant by aspiration.

f) Resuspend the keratinocyte pellet by gentle trituration (to have single cells) in Routine Culture Medium. It is important to obtain a single cell suspension for exact counting. Count a sample of the cell suspension using a hemocytometer or cell counter.

g) Prepare a cell suspension –1.6 – 2.0 $x10^4$ cells/mL in Routine Culture Medium. Using a multi-channel pipette, dispense 125 µl Routine Culture Medium only into the peripheral wells (blanks) of a 96-well tissue culture microtiter plate. In the remaining wells, dispense 125 µl of the cell suspension ($2x10^3$ – $2.5x10^3$ cells/well). Prepare one plate per chemical to be tested (see **Figure 2**, **Section VII.F.1**).

h) Incubate cells (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5.0 % humidity, and 5 % ± 1 % CO_2/air) so that cells form a 20+ % monolayer (~48-72 h). This incubation period assures cell recovery and adherence and progression to exponential growth phase.

i) Examine each plate under a phase contrast microscope to assure that cell growth is relatively even across the microtiter plate. This check is performed to identify experimental and systemic cell seeding errors. Record observations in the Study Workbook.

5. Determination of Doubling Time

a) A cell doubling time procedure was performed on the initial lot of cells that was used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined in Phase II if there is a change in the lot of cells used. Establish cells in culture and trypsinize cells as per **Section VII.C.4** for subculture. Resuspend cells in appropriate culture medium. Use **Table 1** to determine seeding densities.

b) Seed five sets of cell culture vessels in triplicate for each cell type (e.g., 15 tissue culture dishes [60mm x 15mm]). Use appropriate volume of culture medium for the culture vessels. Note number of cells placed into each culture dish. Place dishes into the incubators (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) After 4-6 hours (use the same initial measurement time for each subsequent doubling time experiment), remove three culture dishes and trypsinize cells. Count cells using a cell counter or hemocytometer. Cell viability may be determined by dye exclusion (e.g., Trypan Blue; Nigrosin). Determine the total number of cells and document. Repeat sampling at 24 hr, 48 hr, 72 hr, and 96 hr post inoculation. Change culture medium at 72 hr or sooner in remaining dishes if indicated by pH drop.

d) Plot cell concentration (per mL of medium) on a log scale against time on a linear scale. Determine lag time and population doubling time. The doubling time will be in the log (exponential) phase of the growth curve. Additional dishes and time are needed if the entire growth curve is to be determined (lag phase, log phase, plateau phase).

D. Solubility Test

The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Solubility shall be determined in a step-wise procedure that involves attempting to dissolve a test chemical at a relatively high concentration with the sequence of mechanical procedures specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical does not dissolve, the volume of solvent is increased so as to decrease the concentration by a factor of 10, and then the sequence of mechanical procedures in **Section VII.D.2.a** are repeated in an attempt to solubilize the chemical at the lower concentrations. For testing solubility in media, the starting concentration is 20,000 μg/ml (i.e., 20 mg/mL) in Tier 1, but for DMSO and ethanol the starting concentration is 200,000 μg/ml (i.e., 200 mg/mL) in Tier 2. Weighing out chemical for each solvent (i.e., media, DMSO, ethanol) can be done all at once, if convenient, but solubility testing (at each tier that calls for more than one solvent) is designed to be sequential - media, then DMSO, then ethanol – in accordance with the solvent hierarchy (see **Figure 1**). This allows for testing to stop, rather than continue testing with less preferred solvents, if the test chemical dissolves in a more preferred solvent. For example, if a chemical is soluble in medium at a particular tier, testing may stop. Likewise, if a chemical is soluble in DMSO at any tier, testing need not continue with ethanol. However, since the issue of primary importance is testing the solvents and concentrations of test chemical required by any one tier, sequential testing of solvents may be abandoned if the lab can test more efficiently in another way.

1. Determination of Solubility

a) Tier 1 begins with testing 20 mg/mL in Routine Culture Medium (see **Table 2**). Approximately 10 mg (10,000 μg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Routine Culture Medium, approximately 0.5 mL, will be added to the vessel so that the concentration is 20,000 μg/ml (20 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a.** If complete solubility is achieved in media, then additional solubility procedures are not needed.

b) If the test chemical is insoluble in medium, proceed to Tier 2 by adding enough medium, approximately 4.5 mL, to attempt to dissolve the chemical at 2 mg/mL by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. If the test chemical dissolves in medium at 2 mg/mL, no further procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, weigh out approximately 100 mg test chemical in a second glass tube and add enough DMSO to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL), and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.D.2.a**. If the chemical does not dissolve in DMSO, weigh out approximately 100 mg test chemical in another glass tube and add enough ethanol to make the total volume approximately 0.5 mL (for 200 mg/mL) and attempt to dissolve the chemical as specified in **Section VII.D.2.a**. If the chemical is soluble in either solvent, no additional solubility procedures are needed.

c) If the chemical is NOT soluble in media, DMSO, or ethanol at Tier 2, then continue to Tier 3 in **Table 2** by adding enough solvent to increase the volume of the three Tier 2 solutions by 10 and attempt to solubilize again using the sequence of mixing procedures in **Section VII.D.2.a.** If the test chemical dissolves, no additional solubility procedures are necessary. If the test chemical does NOT dissolve, continue with Tier 4 and, if necessary, Tier 5 using DMSO and ethanol. Tier 4 begins by diluting the Tier 3 samples with DMSO or ethanol to bring the total volume to 50 mL. The mixing procedures in **Section VII.D.2.a** are again followed to attempt to solubilize the chemical. Tier 5 is performed, if necessary, by weighing out another two more samples of test chemical at ~10 mg each and adding ~50 mL DMSO or ethanol for a 200 μg/mL solution, and following the mixing procedures in **Section VII.D.2.a**.

Example: If complete solubility is not achieved at 20,000 μg/mL in Routine Culture Medium at Tier 1 using the mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a,** then the procedure continues to Tier 2 by diluting the solution to 5 mL and mixing again as specified in **Section VII.D.2.a.** If the chemical is not soluble in medium, two samples of ~ 100 mg test chemical are weighed to attempt to solubilize in DMSO and ethanol at 200,000 μg/mL (i.e., 200 mg/mL). Solutions are mixed following the sequence of procedures prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Tier 2, then the solutions (media, DMSO, and ethanol) prepared in Tier 2 are diluted by 10 to test 200 μg/mL in media, and 20,000 μg/mL in DMSO and ethanol. This advances the procedure to Tier 3. Solutions are again mixed as prescribed in **Section VII.D.2.a** in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved in Tier 3, the procedure continues to Tier 4, and to 5 if necessary (see **Figure 1** and **Table 2**).

Table 2 Determination of Solubility in Routine Culture Medium, DMSO, or Ethanol

TIER	1	2	3	4	5
Total Volume Medium	0.5 mL	5 mL	50 mL		
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a tube. Add enough medium to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	200 µg/mL (0.20 mg/mL)		
Total Volume DMSO/Ethanol		0.5 mL	5 mL	50 mL	
Concentration of Test Chemical (Add ~100 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal the first volume. Dilute to subsequent volumes if necessary.)		200,000 µg/mL (200 mg/mL)	20,000 µg/mL (20 mg/mL)	2,000 µg/mL (2 mg/mL)	
Total Volume DMSO/Ethanol					50 mL
Concentration of Test Chemical (Add ~10 mg to a large tube. Add enough DMSO or ethanol to equal 50 mL.)					200 µg/mL (0.2 mg/mL)
Equivalent Concentration on Cells	10,000 µg/mL (10 mg/mL)	1000 µg/mL (1 mg/mL)	100 µg/mL (0.1 mg/mL)	10 µg/mL (0.01 mg/mL)	1 µg/mL (0.001 mg/mL)

NOTE: The amounts of test chemical weighed and Routine Culture Medium added may be modified from the amounts given above, provided that the targeted concentrations specified for each tier are tested.

Figure 1. Solubility Flow Chart

TIER 1

STEP 1:	20 mg/mL test chemical (TC) in 0.5 mL medium: • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 2.

TIER 2

STEP 2:	2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 1 by 10 (i.e., to 5 mL) • if TC soluble, then **STOP**. • if TC insoluble, then go to STEP 3.

STEP 3:	200 mg/mL TC in DMSO
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 200 mg/mL in ETOH.
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • If TC insoluble, go to STEP 4.

TIER 3

STEP 4:	0.2 mg/mL TC in medium – increase volume from STEP 2 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP**.
	• if TC insoluble, test at 20 mg/mL in DMSO – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, test at 20 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 3 by 10 (i.e., to 5 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 5.

TIER 4

STEP 5:	2 mg/mL TC in DMSO – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL)
	• if TC soluble, then **STOP.**
	• if TC insoluble, test at 2 mg/mL in ETOH – increase volume from STEP 4 by 10 (i.e., to 50 mL).
	  • if TC soluble, then **STOP.**
	  • if TC insoluble, then go to STEP 6.

TIER 5

STEP 6:	0.2 mg/mL TC in 50 mL DMSO • if TC soluble, then **STOP.** • if TC insoluble, test at 0.2 mg/mL in 50 mL ETOH • **STOP**

2. Mechanical Procedures

a) The following hierarchy of mixing procedures will be followed to dissolve the test chemical:

1) Add test chemical to solvent as in Tier 1 of **Table 2**.

2) Gently mix. Vortex the tube (1 –2 minutes).

3) If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to 5 minutes.

4) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C for 5 – 60 minutes. This can be performed by warming tubes in a 37°C water bath or in a CO_2 incubator at 37°C. The solution may be stirred during warming (stirring in a CO_2 incubator will help maintain proper pH).

5) Proceed to Tier 2 (and Tiers 3-5, if necessary of Table 2 and repeat procedures 2-4).

b) The preference of solvent for dissolving test chemicals is medium, DMSO, and then ethanol. Thus, if a test chemical dissolves in more than one solvent at any one solubility-testing tier, then the choice of solvent follows this hierarchy. For example, if, at any tier, a chemical is soluble in medium and DMSO, but not ethanol, the choice of solvent would be medium. If the chemical were insoluble in medium, but soluble in DMSO and ethanol, the choice of solvent would be DMSO.

After the lab has determined the preferred solvent for the test chemical and before proceeding to the cytotoxicity testing, the Study Director will discuss the solvent selection with the Study Management Team (SMT) of the validation study. The SMT will relate what solvent should be used in the assay for each chemical. If the laboratory has attempted all solubility testing without success, then the SMT will provide additional guidance for achieving test chemical solubility. The SMT anticipates that all validation study test chemicals will be tested in the NRU assays.

E. Preparation of Test Chemicals

[Note: Preparation under red or yellow light is recommended to preserve chemicals that degrade upon exposure to light.]

1. Test Chemical in Solution

a) Allow test chemicals to equilibrate to room temperature before dissolving and diluting.

b) Prepare test chemical immediately prior to use. Test chemical solutions should not be prepared in bulk for use in subsequent tests. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate. Each stock dilution should have at least 1-2 mL total volume to ensure adequate solution for the test wells in a single 96-well plate. The SMT may direct the Study Director to store an aliquot (e.g., 1 mL) of the highest 2X

stock solution (e.g., low solubility chemicals) in a freezer (e.g., -70°C) for use in future chemical analyses.

c) For chemicals dissolved in DMSO or ethanol, the final DMSO or ethanol concentration for application to the cells must be 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations.

d) The stock solution for each test chemical should be prepared at the highest concentration found to be soluble in the solubility test. Thus, the highest test concentration applied to the cells in each range finding experiment is:
   - 0.5 times the highest concentration found to be soluble in the solubility test, if the chemical was soluble in medium, or
   - 1/200 the highest concentration found to be soluble in the solubility test if the chemical was soluble in ethanol or DMSO.

e) The seven lower concentrations in the range finding experiment would then be prepared by successive dilutions that decrease by one log unit each. The following example illustrates the preparation of test chemical in solvent and the dilution of dissolved test chemical in medium before application to NHK cells.

   Example: Preparation of Test Chemical in Solvent Using a Log Dilution Scheme

   If DMSO was determined to be the preferred solvent at Tier 2 of the solubility test (i.e., 200,000 μg/mL), dissolve the chemical in DMSO at 200,000 μg/mL for the chemical stock solution.

   1) Label eight tubes 1 – 8. Add 0.9 mL solvent (e.g., DMSO) to tubes 2 -- 8.

   2) Prepare stock solution of 200,000 μg test chemical/mL solvent in tube # 1.

   3) Add 0.1 mL of 200,000 μg/mL dilution from tube #1 to tube #2 to make a 1:10 dilution in solvent (i.e., 20,000 μg/mL).

   4) Add 0.1 mL of 20,000 μg/mL dilution from tube #2 to tube #3 to make another 1:10 dilution (i.e., 1:100 dilution from stock solution) in solvent (i.e., 2,000 μg/mL)

   5) Continuing making serial 1:10 dilutions in the prepared solvent tubes.

   6) Since each concentration is 200 fold greater than the concentration to be tested, make a 1:100 dilution by diluting 1 part dissolved chemical in each tube with 99 parts of culture medium (e.g., 0.1 mL of test chemical in DMSO + 9.9 mL culture medium) to derive the eight 2X concentrations for application to NHK cells. Each 2X test chemical concentration will then contain 1 % v/v solvent. The NHK cells will have 0.125 mL of culture medium in the wells prior to application of the test chemical. By adding 0.125 mL of the appropriate 2X test chemical concentration to the appropriate wells, the test chemical will be diluted appropriately (e.g., highest concentration in well will be 1,000 μg/mL) in a total of 0.250 mL and the solvent concentration in the wells will be 0.5% v/v.

7) A test article prepared in DMSO or ethanol may precipitate upon transfer into the Routine Culture Medium. The 2X dosing solutions should be evaluated for precipitates and the results will be recorded in the workbook. It will be permissible to test all of the dosing solutions in the dose range finding assay only. Doses containing test article precipitates should be avoided, and will not be used in the ICx determinations for either the range finding experiments or the definitive tests.

Document all test chemical preparations in the Study Workbook.

2. pH of Test Chemical Solutions

Measure the pH of the highest concentration of the test chemical in culture medium using pH paper (e.g., pH 0 – 14 to estimate and pH 5 – 10 to determine more precise value). The pH paper should be in contact with the solution for approximately one minute. Document the pH and note the color of the medium for all dilutions. Do not adjust the pH.

3. Concentrations of Test Chemical

a) Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor covering a large range. The initial dilution series shall be log dilutions (e.g., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.).

The data from any well that has precipitate will be excluded from any calculations.

b) Main Experiment

[Note: After the range finding assay is completed, the concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each chemical (i.e., one plate per day per chemical)]

Depending on the slope of the concentration-response curve estimated from the range finder, the dilution/progression factor in the concentration series of the main experiment should be smaller ($\sqrt[6]{10} = 1.47$). Cover the relevant concentration range ($\geq$10 % and $\leq$ 90 % effect) preferably with three points of a graded effect, but with a minimum of two points, one on each side of the estimated IC_{50} value, avoiding too many non-cytotoxic and/or 100 %-cytotoxic concentrations. Experiments revealing less than one cytotoxic concentration on each side of the IC_{50} value shall be repeated, where possible, with a smaller dilution factor. Each experiment should have at least one cytotoxicity value $\geq$ 10.0 % and $\leq$ 50.0 % viability and at least one cytotoxicity value > 50.0 % and $\leq$ 90.0 % viability. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays (i.e., definitive assays), if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. (Taking into account pipetting errors, a progression factor of 1.21 is regarded the smallest factor achievable.)

Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as a central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

Maximum Doses to be Tested in the Main Experiments

If minimal or no cytotoxicity was measured in the dose range finding assay, a maximum dose for the main experiments will be established as follows:

- For test chemicals prepared in Routine Culture Medium, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 100 mg/mL, or the maximum soluble dose. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of Routine Culture Medium will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 µg/mL (200 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in medium, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 200 mg/mL 2X stock. If the test chemical is insoluble in medium at 200 mg/ml, proceed by adding medium, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

- For test chemicals prepared in either DMSO or ethanol, the highest test article concentration that may be applied to the cells in the main experiments will be either 2.5 mg/mL, or less, depending upon the maximum solubility in solvent. Test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. A volume of the appropriate solvent (determined from the original solubility test) will be added to the vessel so that the concentration is 500,000 µg/mL (500 mg/mL). The solution is mixed as specified in **Section VII.D.2.a**. If complete solubility is achieved in the solvent, then 7 additional serial stock dosing solutions may be prepared from the 500 mg/mL 200X stock. If the test chemical is insoluble in solvent at 500 mg/ml, proceed by adding solvent, in small incremental amounts, to attempt to dissolve the chemical by using the sequence of mixing procedures specified in **Section VII.D.2.a**. The highest soluble stock solution will be used to prepare the 7 additional serial stock dosing solutions.

c) Test Chemical Dilutions

The dosing factor of 3.16 ($= \sqrt[2]{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of 2.15 ($= \sqrt[3]{10}$) divides a decade into three steps. The factor of 1.47 ($= \sqrt[6]{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of 1.21 ($= \sqrt[12]{10}$) divides the log into 12 steps.

EXAMPLE:

10						31.6						100
10				21.5				46.4				100
10		14.7		21.5		31.6		46.4		68.1		100
10	12.1	14.7	17.8	21.5	26.1	31.6	38.3	46.4	56.2	68.1	82.5	100

The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration, dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

F. Test Procedure

1. 96-Well Plate Configuration

The NHK NRU assay for test chemicals will use the 96-well plate configuration shown in Figure 2.

Figure 2. 96-Well Plate Configuration for Positive Control and Test Chemical Assays

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb
B	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
C	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
D	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
E	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
F	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
G	VCb	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	VCb
H	VCb	VCb	C_1b	C_2b	C_3b	C_4b	C_5b	C_6b	C_7b	C_8b	VCb	VCb

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = Test Chemicals or Positive Control (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)
VCb = VEHICLE CONTROL BLANK

2. Application of Test Chemical

a) Two optional methods for rapidly applying the 2X dosing solutions onto the 96-well plates may be utilized.

1) The first method is to add each of the 2X dosing solutions into labeled, sterile reservoirs (e.g., Corning/Costar model 4870 sterile polystyrene 50 mL reagent reservoirs or Corning/Transtar model 4878 disposable reservoir liners, 8-channel; or other multichannel reservoirs).

2) The second method utilizes a "dummy" plate (i.e., an empty sterile 96-well plate) prepared to hold the dosing solutions immediately prior to treatment of the test plate (with cells). The test chemical and control dosing solutions should be dispensed into the dummy plate in the same pattern/order as will be applied to the plate containing cells. More volume than needed for the test plate (i.e. greater than 125 µl/well) should be in the wells of the dummy plate.

At the time of treatment initiation, a multi-channel micropipettor is used to transfer the 2X dosing solutions, from the reservoirs or dummy plate, to the appropriate wells on the treatment plate (as described in step c. below). These methods will ensure that the dosing solutions can be transferred rapidly to the appropriate wells of the test plate to initiate treatment times and to minimize the range of treatment initiation times across a large number of treatment plates, and to prevent "out of order" dosing. Do not use a multichannel repeater pipette for dispensing test chemical to the plates.

b) After 48 - 72 h (i.e., after cells attain 20+ % confluency [see Section VII.C.4(h)]) incubation of the cells, add 125 µl of the appropriate concentration of test chemical, the PC, or the VC (see Figure 2 for the plate configuration) directly to the test wells. Do not remove Routine Culture Medium for re-feeding the cells. The dosing solutions will be rapidly transferred from the 8-channel reservoir (or dummy plate) to the test plate using a single delivery multi-channel pipettor. For example, the VC may be transferred first (into columns 1, 2, 11, and 12), followed by the test article dosing solutions from lowest to highest dose, so that the same pipette tips on the multi-channel pipettor can be used for the whole plate. [The Vehicle Control blank (VCb) wells (column 1, column 12, wells A2, A11, H2, H11) will receive the Vehicle Control dosing solutions (which should include any solvents used). Blanks for wells A3 – A10 and H3 – H10 shall receive the appropriate test chemical solution for each concentration (e.g., wells A3 and H3 receive C_1 solution). The test chemical blanks in rows A and H will be used for their respective test chemical concentrations.] Incubate cells for 48 h ± 0.5 h (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air).

c) **Positive Control**: For each set of test chemical plates used in an assay, a separate plate of positive control concentrations will be set up following the concentration range established in the development of the positive control database in Phase I of the Validation Study. If multiple sets of test chemical plates are set up, then clearly designate the positive control plates for each set; each set will be an individual entity. The mean IC_{50} ± two and a half standard deviations (SD) for the SLS acceptable tests from Phases Ia and Ib (after the removal of outliers) are the values that will be used as an acceptance criterion for test sensitivity for the NHK NRU assay. This plate will follow the same schedule and procedures as used for the test chemical plates (including appropriate chemical concentrations in the appropriate wells – see sections VII.F.1 and F.2)..

3. Microscopic Evaluation

After at least 46 h treatment, examine each plate under a phase contrast microscope to identify systematic cell seeding errors and growth characteristics of control and treated cells. Record any changes in morphology of the cells due to the cytotoxic effects of the test chemical, but do not use these records for any quantitative measure of cytotoxicity. Undesirable growth characteristics of control cells may indicate experimental error and

may be cause for rejection of the assay. Use the following Visual Observations Codes in the description of cell culture conditions.

Visual Observations Codes

Note Code	Note Text
1	Normal Cell Morphology
2	Low Level of Cell Toxicity
3	Moderate Level of Cell Toxicity
4	High level of Cell Toxicity
1P	Normal Cell Morphology with Precipitate
2P	Low Level of Cell Toxicity with Precipitate
3P	Moderate Level of Cell Toxicity with Precipitate
4P	High level of Cell Toxicity with Precipitate
5P	Unable to View Cells Due to Precipitate

4. Measurement of NRU

a) Carefully remove (i.e., "dump") the Routine Culture Medium (with test chemical) and rinse the cells very carefully with 250 µL pre-warmed D-PBS. Remove the rinsing solution by dumping and remove excess by gently blotting on sterile paper towels. Add 250 µL NR medium (to all wells including the blanks) and incubate (37ºC ± 1ºC, 90 % ± 5 % humidity, and 5.0 % ± 1 % CO_2/air) for 3±0.1 h. Observe the cells briefly during the NR incubation (e.g., between 2 and 3 h – Study Director's discretion) for NR crystal formation. Record observations in the Study Workbook. Study Director can decide to reject the experiment if excessive NR crystallization has occurred.

b) After incubation, remove the NR medium, and carefully rinse cells with 250 µL pre-warmed D-PBS.

c) Decant and blot D-PBS from the plate. (Optionally: centrifuge the reversed plate.)

d) Add exactly 100 µL NR Desorb (ETOH/acetic acid) solution to all wells, including blanks.

e) Shake microtiter plate rapidly on a microtiter plate shaker for 20 – 45 min to extract NR from the cells and form a homogeneous solution. Plates should be protected from light by using a cover during shaking.

f) Plates should be still for at least five minutes after removal from the plate shaker (or orbital mixer). Observe the wells for bubbles. Measure the absorption (within 60 minutes of adding NR Desorb solution) of the resulting colored solution at 540 nm ± 10 nm in a microtiter plate reader (spectrophotometer), using the blanks as a reference. [Phases Ia and Ib data show the mean OD value for the plate blanks to be 0.055 ± 0.035 for NHK cells (± 2.5 standard deviations; data from 3 labs; N = 156). Use this range as a **guide** for assessment of the blank values.] Save raw data in the Excel format as provided by the SMT.

5. Quality Check of Assay

a) Test Acceptance Criteria

1) A test meets acceptance criteria, if the IC_{50} for SLS is within two and a half (2.5) standard deviations of the historical mean established by the Test Facility (as per **VII.F.2.c**).

2) A test meets acceptance criteria if the left and the right mean of the VCs do not differ by more than 15.0 % from the mean of all VCs.

3) A test meets acceptance criteria if:
   - at least one calculated cytotoxicity value ≥ 10.0 % and ≤ 50.0 % viability and
   - at least one calculated cytotoxicity value > 50.0 % and ≤ 90.0 % viability.

4) A test meets acceptance criteria if the r^2 (coefficient of determination) value calculated for the Hill model fit (i.e., from PRISM® software) is ≥ 0.90. A test does not meet acceptance criteria if the r^2 value is < 0.80. If the r^2 value is ≥ 0.80 and < 0.90 ("gray zone"), then the SMT will evaluate the model fit and make the determination of whether or not the test meets the acceptance criteria and relate the information to the Study Director.

[Note: All acceptance criteria must be met for an assay to be considered acceptable.]

[A corrected mean $OD_{540 \pm 10nm}$ of 0.205 - 1.645 for the VCs is a target range but will not be a test acceptance criterion. Range determined from Phase Ib VC OD values from 3 laboratories (mean ± 2.5 standard deviations, N = 69).]

b) Checks for Systematic Cell Seeding Errors

To check for systematic cell seeding errors, untreated VCs are placed both at the left side (row 2) and the right side (row 11 for the test plates) of the 96-well plate. Aberrations in the cell monolayer for the VCs may reflect a volatile and toxic test article present in the assay.

Checks for cell seeding errors may also be performed by examining each plate under a phase contrast microscope to assure that cell quantity is consistent.

c) Quality Check of Concentration-Response

The IC_{50} derived from the concentration-response of the test chemicals should be backed by preferably three responses ≥ 10 and ≤ 90 % inhibition of NRU and at least two responses, one on either side of the IC_{50} value (see sections **VII.E.3.b and VII.F.5.a.3**). If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, reject the experiment and repeat it with a smaller progression factor. In addition, the dilution scheme shall be adjusted in subsequent replicate assays, if necessary, to increase the number of points on both sides of the IC_{50} in the 10-90% response range. Numerical scoring of the cells (see **VII.F.3**) should be determined and documented in the Study Workbook.

G. Data Analysis

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicates wells) per test concentration. The Study Director will use good biological/scientific judgment for determining "unusable" wells that will be excluded from the statistical analysis. This value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability. Data from the microtiter plate reader shall be transferred to the Excel® spreadsheet (template with macros provided by the SMT) that will automatically determine cell viability and perform statistical analyses (including determination of outliers).

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response by applying a Hill function to the concentration-response data. Statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the SMT shall be used to calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and the associated confidence limits) for each test chemical. In addition, the SMT shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the SMT/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of testing. The SMT will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

VIII. REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

Hackenberg, U. and H. Bartling. 1959. Messen und Rechnen im pharmakologischen Laboratorium mit einem speziellen Zahlensystem (WL24-System). Arch. Exp. Pathol. Pharmakol. 235: 437-463.

Triglia, D., P.T. Wegener, J. Harbell, K. Wallace, D. Matheson, and C. Shopsis. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In *Alternative Methods in Toxicology*, Volume 7. A.M. Goldberg, ed., pp. 357-365. Mary Ann Liebert, Inc., New York.

IX. APPROVAL

_____ _____

SPONSOR REPRESENTATIVE **DATE**

(Print or type name)

_____ _____

Testing Facility STUDY DIRECTOR **DATE**
(Print or type name)

Appendix D

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix D1

SAS Code for ANOVA and Contrasts

[This Page Intentionally Left Blank]

```
 options nodate nonumber;
libname lib "S:\NIEHS\EXP Studies\BasicResearch\Haseman\Cytotoxicity
Validation\Post Phase III Analysis and Data\data sets";


proc sort data=lib.anovadata; by chemical cell lab;

ods trace on;
ods listing close;
ods output OverallANOVA=temp;
ods output Contrasts=temp1;
proc glm data=lib.anovadata;
class lab;
by chemical cell;
model log_ic50=lab;
contrast 'Comparing IIVS to FRAME and ECBC'
lab -.5 -.5 1;
contrast 'Comparing ECBC to FRAME and IIVS'
lab 1 -.5 -.5;
contrast 'Comparing FRAME to ECBC and IIVS'
lab -.5 1 -.5;

run;ods listing;
*proc print data=temp1;run;

data lib.contrast_results; set temp1;
keep chemical cell Source ProbF;
run;

*proc print data=lib.contrast_results;run;

data lib.anova_results; set temp;
if Source="Error" then delete;
if Source="Corrected Total" then delete;
keep chemical cell ProbF;
run;

proc sort data=lib.anova_results; by chemical cell;

/*proc print data=lib.anova_results;
var chemical cell ProbF;
run;*/

data temp;
set lib.anova_results;
keep chemical cell ProbF;
run;
proc export data=temp
   outfile='S:\NIEHS\EXP Studies\BasicResearch\Haseman\Cytotoxicity
Validation\Post Phase III Analysis and Data\data sets\Anova Results.txt'
   dbms=TAB;

run;
```

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix D2

SAS Code for Regression Comparisons

[This Page Intentionally Left Blank]

```
dm 'output; clear';
dm 'log; clear';
*************************************************************************
*
*filename: task3.sas
*creation date: 08/02/06
*study:niceatm
*investigator:
*purpose: perform the individual lab regressions (tasks 1-4)
* note: 3 models are fit:
* (a) full model
* (b) reduced model with separate intercepts + common slope
* (c) separate intercepts + separate slopes model
*authors:mike riggs
*input data medium: sas data sets
*
*************************************************************************;
*
*
*compare rc to niceatm regressions, by cell type
*note: the input data set anal3 was created by taking the 47 3t3
*chemicals and the 51 nhk chemicals and computing their
*means by cell line
*
*
*
*************************************************************************;
proc mixed data=anal3 maxiter=200;
 by celline;
 class est_type;
 model log_ld50=est_type logic50_lab est_type*logic50_lab/outpredm=predat;
 title1 'ancova model (estimation type = trt) log-scale lab regressions, by
cell line';
 title2 '(test for slope differences)';
run;
quit;

****compute the full-model rsquare from the model residuals and predictions
***;
****note: proc mixed does not compute rsq, so you need to do it
yourself***;

data pred3t3 prednhk;
 set predat;
 if celline='3t3' then output pred3t3;
else output prednhk;
run;

proc summary data=pred3t3 nway;
 var log_ld50;
 output out=sumdat
mean=_mean_;
run;

data pred3t3;
 if _n_=1 then set sumdat;
 set pred3t3;
```

```
run;

data comp;
 set pred3t3 end=eof;
 sst+((log_ld50-_mean_)**2);
 sse+(resid**2);
 n=_n_ ;
 if eof then output;
run;

data comp;
 set comp;
 rsq=(sst-sse)/sst;
 label _mean_='response*mean'
sst='total sum*of squares'
sse='error sum*of squares'
rsq='r-squared';
run;

proc print data=comp split='*';
 var n _mean_ sst sse rsq;
 format rsq 5.3;
title1 'full ancova model r-square for 3t3 cell line (task 3)';
run;


proc summary data=prednhk nway;
 var log_ld50;
 output out=sumdat
mean=_mean_;
run;

data prednhk;
 if _n_=1 then set sumdat;
 set prednhk;
run;

data comp;
 set prednhk end=eof;
 sst+((log_ld50-_mean_)**2);
 sse+(resid**2);
 n=_n_ ;
 if eof then output;
run;

data comp;
 set comp;
 rsq=(sst-sse)/sst;
 label _mean_='response*mean'
sst='total sum*of squares'
sse='error sum*of squares'
rsq='r-squared';
run;

proc print data=comp split='*';
 var n _mean_ sst sse rsq;
 format rsq 5.3;
```

```
title1 'full ancova model r-square for nhk cell line (task 3)';
run;


proc mixed data=anal3 maxiter=200;
 by celline;
 class est_type;
 model log_ld50=est_type est_type*logic50_lab/noint solution cl alpha=0.05;
 * the following contrast is the simultaneous test of equal intercepts and
slopes ***;
 contrast 'lab vs. rc' est_type -1 1,
 est_type*logic50_lab -1 1;
 title1 'ancova model (trt=estimation type) log-scale lab regressions, by
cell line';
 title2 '(separate slope estimates)';
run;
quit;

proc mixed data=anal3 maxiter=200;
 by celline;
 model log_ld50=logic50_lab/solution cl alpha=0.05;
 title1 'ancova model (estimation type = trt) log-scale lab regressions, by
cell line';
 title2 '(estimate homogeneous slope with single intercept)';
run;
quit;
```

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix E

Neutral Red Dye Experiments

[This Page Intentionally Left Blank]

APPENDIX E
Neutral Red Dye Experiments

Appendix E1: Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS) Assessment of Protocol Variables in the NICEATM/ECVAM Evaluation of Cytotoxicity Assays

IIVS performed experiments using the 3T3 cells and the NRU test methods before the NICEATM/ECVAM validation study was initiated. The laboratory examined: optimal solvent concentrations (DMSO and ETOH), cell seeding densities, doubling times, and exposure duration of a test chemical (24, 48, and 72-hour exposures). Data are presented in the appendix.

Appendix E2: Neutral Red (NR) Dye Experiments – 3T3 Cells

IIVS performed three sets of experiments to compare the optical density (OD) readings obtained in an NRU assay using various concentrations of NR dye and different incubation periods.

- Experiment 1: NR Stain Time Course in 3T3 Cells; NRU incubation times: 0.25, 0.50, 1.0, 2.0, and 3.0 hour.
- Experiment 2: Neutral Red Stain Prepared in DMEM/5%NCS; Test of NR Preparation 1 Day Prior to Use; Tested in 90-100% Confluent 3T3 Cultures
- Experiment 3: Neutral Red Stain Prepared in DMEM/5%NCS; Filtered Immediately before Use; Tested in 90-100% Confluent 3T3 Cultures

Appendix E3: Neutral Red (NR) Dye Experiments – NHK Cells

IIVS performed three sets of experiments to compare the optical density (OD) readings obtained in an NRU assay using various concentrations of NR dye and different incubation periods.

- Experiment 1: NR Stain Time Course in NHK Cells; NRU incubation times: 0.25, 0.50, 1.0, 2.0, and 3.0 hour.
- Experiment 2: Neutral Red Stain Prepared in KGM; Test of NR Preparation 1 Day Prior to Use; Tested in 90-100% Confluent NHK Cultures
- Experiment 3: Neutral Red Stain Prepared in KGM; Filtered Immediately before Use; Tested in 90-100% Confluent NHK Cultures

Appendix E4: Neutral Red (NR) Dye Experiments – Concentration vs Time – 3T3 Cells

ECBC performed experiments using the 3T3 cells and the NRU test methods.

- *in vitro* cytotoxicity NRU tests (3T3 cells) using SLS (range = 100 μg/mL to 6.7 μg/mL)
- NR dye mixed with DMEM culture medium with 10% NCS; final concentrations = 25 μg/mL and 50 μg/mL
- Tests performed with two NRU incubation times: 1 hour and 3 hours

μg NR dye/mL	NRU Incubation Time (hours)	Mean Vehicle Control OD_{540} Value
25	1	0.255
25	3	0.508
50	1	0.330
50	3	0.457

Appendix E1

Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS) Assessment of Protocol Variables in the NICEATM/ECVAM Evaluation of Cytotoxicity Assays

[This Page Intentionally Left Blank]

INSTITUTE FOR *IN VITRO* SCIENCES (IIVS)
ASSESSMENT OF PROTOCOL VARIABLES IN THE NTP EVALUATION OF CYTOTOXICITY ASSAYS
APRIL 2002

BALB/c 3T3 Cells

I. What is the acceptable solvent concentration?

Two solvents, DMSO and ETOH, were assayed in the 3T3 assay to determine acceptable concentrations. Multiple exposure times were assessed since the final assay exposure time was not yet established. Various cell seeding concentrations were tested since these experiments were run concurrently with others which used to determine optimal seeding density.

Table 1.

ETOH										
	Date	**2%**	**1%**	**0.50%**		**Seeding Density**				
48hour	2/26/02	58%	72%	100%		$9X10^3$ cells/ml				
	2/26/02	49%	73%	102%		$4.5X10^3$ cells/ml				
72hour	2/26/02	67%	75%	105%		$9X10^3$ cells/ml				
	2/26/02	68%	82%	108%		$4.5X10^3$ cells/ml				

DMSO										
	Date	**2%**	**1%**	**0.5%**	**0.4%**	**0.3%**	**0.2%**	**0.1%**	**Seeding Density**	
24hour	3/19/02		76%	91%	92%	99%	100%	101.6%	$2X10^4$ cells/ml	
48hour	2/26/02	25%	54%	83%					$9X10^3$ cells/ml	
	2/26/02	27%	56%	78%					$4.5X10^3$ cells/ml	
	3/19/02		116%	123%	122%	120%	117%	108.8%	$1X10^4$ cells/ml	
72hour	2/26/02	20%	52%	86%					$9X10^3$ cells/ml	
	2/26/02	19%	56%	93%					$4.5X10^3$ cells/ml	
	3/19/02		58%	89%	102%	102%	112%	110.1%	$5X10^3$ cells/ml	

We concluded from these experiments that 0.5% ETOH was the optimal ETOH concentration (little to no toxicity), and that 0.5% was probably acceptable for DMSO as a trade-off between slight toxicity and ability to test chemicals to higher does levels.

From about the middle of March 2002 on, we used 0.5% in all of our experiments where DMSO was called for as a solvent. This gave us a number of opportunities to further determine the toxicity of DMSO by comparing the solvent control wells with the media control wells in the same experiment.

Table 2.

DMSO			
Date & Exposure Time	OD Assay Medium Wells	OD Solvent Wells	% Survival in Solvent
24hour 3/19/02	0.502	0.474	94.5%
	0.441	0.394	89.4%
48hour 3/19/02	0.587	0.536	91.4%
	0.582	0.545	93.6%
72hour 3/19/02	0.687	0.601	87.6%
	0.666	0.588	88.3%

The average survival in 0.5% DMSO from **Table 2** was 90.8%.

II. Doubling Time Experiments

We ran a series of experiments designed primarily to determine the appropriate original seeding density for 24, 48, and 72 hour exposure times. We judged our results on visual observations of the cells at the conclusion of the experiment (control cells should be just confluent at 24, 48, or 72 hours), and on the shape of the growth curve.

Figure 1.

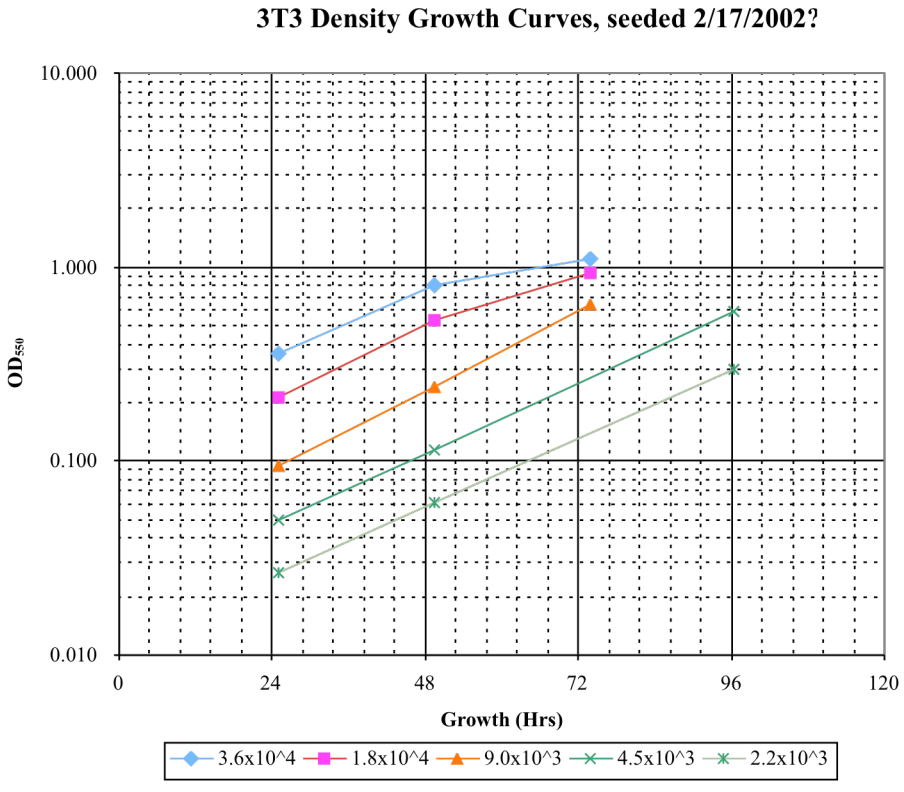
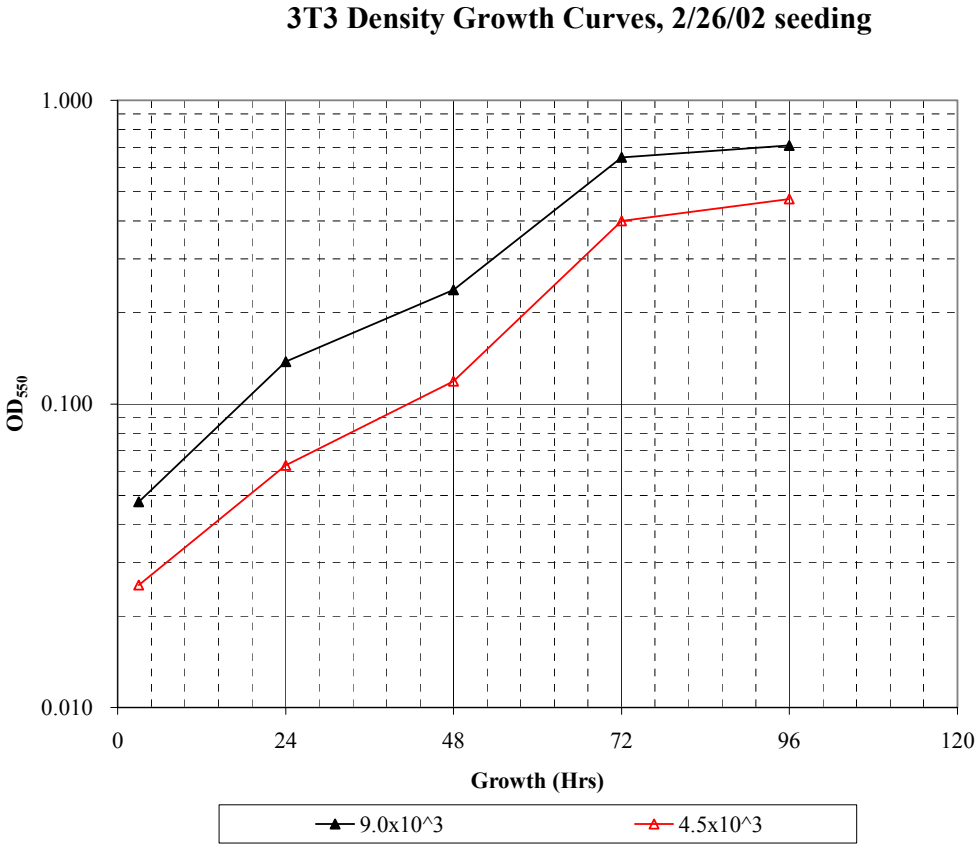


Figure 2.



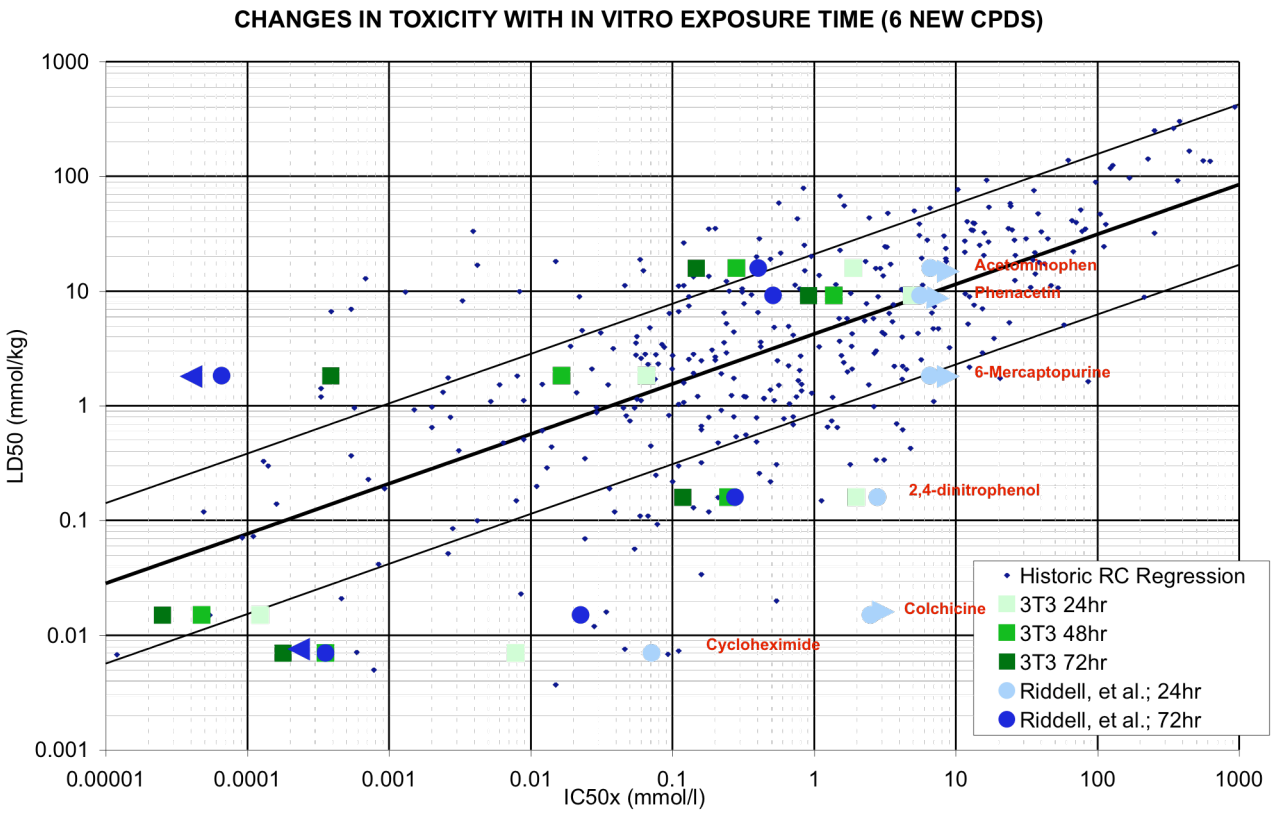
We have concluded from these growth curves that our 3T3 cells have a doubling time of about 19 hours and that cell concentration of: $1x10^4$ cells/ml (24hour); $5x10^3$ cells/ml (48hour); and $2.5x10^3$ (72hour) are acceptable.

III. Exposure Duration

The exposure question was first raised by Richard Clothier who indicated that a paper by Riddell, et al. (1986) showed a number of chemicals whose toxicity changed greatly between a 24 hour and a 72 hour exposure (for 25/50 materials there was little change and for 25/50 materials there was a change). We examined the paper and chose to investigate six chemicals that showed some of the largest differences between 24 hour and 72 hour.

Our initial studies gave similar results to those of Riddell et al. (1986). However we felt that the cell number for the longer exposures was not optimal, and we conducted additional studies to determine a standard seeding density for each exposure period. Using this methodology we looked at the 6 materials in a standardized fashion at 24, 48 and 72 hours. Our results are shown in **Fig. 3**.

Figure 3.

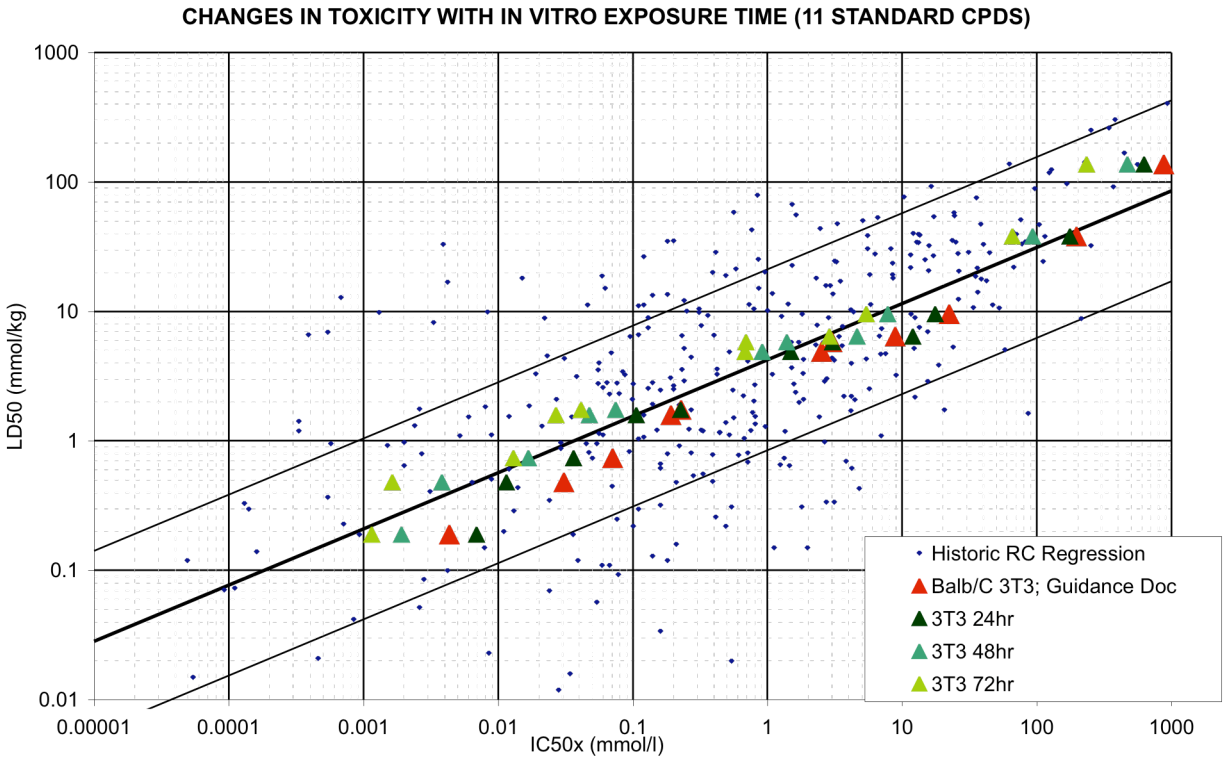


In this figure the historic Halle et al. (1992) data are shown as small blue dots and the regression line as a dark black line. To add perspective we have included the Riddell, et al. (1986) data as a light blue diamond (24hour) or a dark blue diamond (72hour). Arrows emerging from certain points indicate that the value is less than or greater than that point. Our values are graphed in increasing shades of green from light (24hour) to dark (72hour). All green values are averages of at least two separate experiments. It appears that our data are somewhat different than Riddell, et al. (1986), i.e., most differences are not as great as originally seen. Nonetheless the values, as expected, do become more toxic with increased exposure time. We feel that 48 hours is probably the optimal time for these data if the Halle regression is considered some type of a standard.

Next we asked whether a 48 hour exposure time would affect our earlier results with the 11 chemicals presented in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b). If these numbers were changed significantly, this might cause us to make significant modification to our guidance.

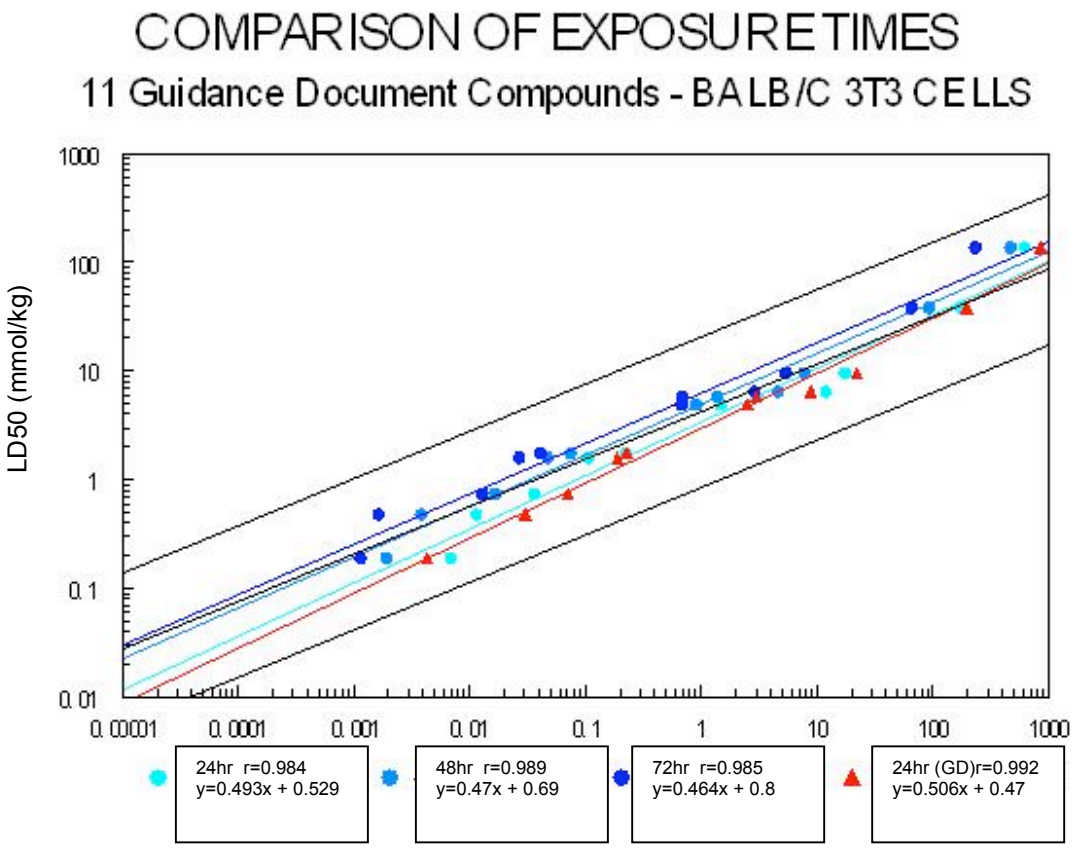
To assess the effect of increasing exposure time on the 11 chemicals, we tested them with exposure times of 24, 48 and 72 hours as shown in **Fig. 4**.

Figure 4.



The data shown on the graph are averages of duplicate experiments. It can be seen that although each of the chemicals becomes more toxic with increased exposure, all points are still within the 0.5 log range of the regression line. It again appears that 48 hour exposure fits the regression more closely, however we regraphed the data in **Fig. 5** to show the regression line and statistics for each of the new sets of data.

Figure 5.



In this figure it can be seen that all the regression lines for the 3 new time points plus the *Guidance Document* data (red triangles) fall with in the regression boundaries. It again appears that the 48 hour values best fit the original regression line.

We now feel that for the 3T3 cells an extended exposure period (>24hour) should be used, and that 48 hours seems to help identify the more toxic compounds while not over estimating the less toxic ones.

REFERENCES

Halle W, Spielmann H. 1992. Two procedures for the prediction of acute toxicity (LD50) from cytotoxicity data. Altern Lab Anim 20:40-49.

ICCVAM. 2001b. Guidance Document On Using *In Vitro* Data To Estimate In Vivo Starting Doses For Acute Toxicity. NIH Publication No. 01-4500. Research Triangle Park, NC:National Institute for Environmental Health Sciences. Available: http://iccvam.niehs.nih.gov/ [accessed 01 November 2006].

Riddell RJ, Panacer DS, Wilde SM, Clothier RH, Balls M. 1986. The importance of exposure period and cell type in *in vitro* cytotoxicity tests. Altern Lab Anim 14:86-92.

Appendix E2

Neutral Red (NR) Dye Experiments – 3T3 Cells – IIVS

[This Page Intentionally Left Blank

Test Facility : IIVS
Chemical Code : N/A
2nd Chem. Code*: NRU

Study Number.: R&D - NR Stain Time Course in 3T3
96-Well Plate ID : 1
Experiment ID : RD96023T

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank											Blank
C	Blank											Blank
D	Blank	3 hr	3 hr	2 hr	2 hr	1 hr	1 hr	30 min	30 min	15 min	15 min	Blank
E	Blank											Blank
F	Blank											Blank
G	Blank											Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.048	0.046	0.045	0.047	0.047	0.046	0.046	0.044	0.044	0.043	0.044	0.038
B	0.048	0.753	0.794	0.595	0.607	0.415	0.396	0.267	0.282	0.219	0.213	0.039
C	0.047	0.866	0.766	0.668	0.668	0.406	0.391	0.257	0.256	0.227	0.220	0.038
D	0.046	0.844	0.794	0.607	0.622	0.393	0.387	0.228	0.262	0.213	0.217	0.038
E	0.046	0.717	0.805	0.627	0.610	0.384	0.375	0.239	0.266	0.210	0.206	0.038
F	0.044	0.776	0.769	0.618	0.665	0.378	0.398	0.277	0.301	0.186	0.202	0.038
G	0.043	0.717	0.807	0.639	0.616	0.385	0.349	0.265	0.269	0.211	0.195	0.036
H	0.044	0.044	0.045	0.044	0.045	0.045	0.043	0.043	0.045	0.045	0.041	0.036

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

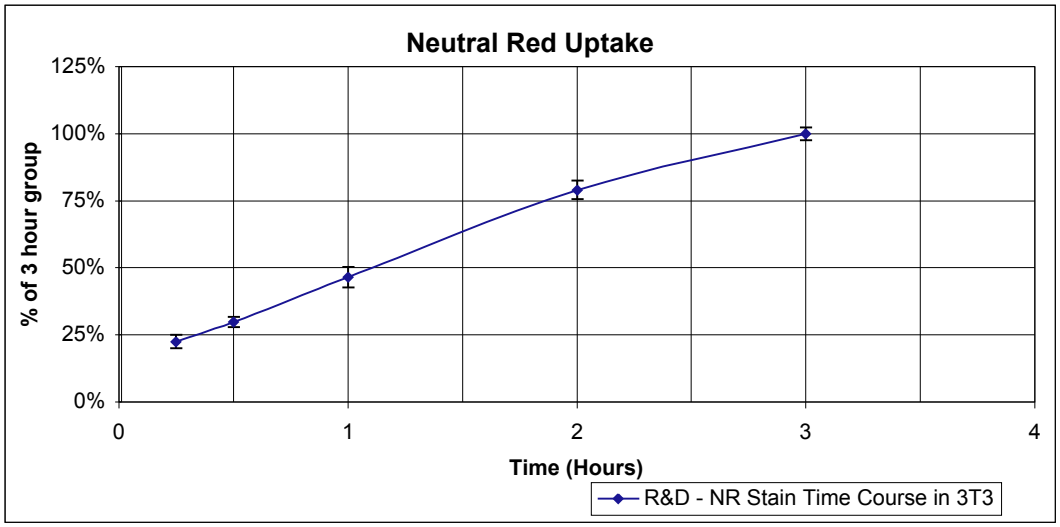
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.005	0.003	0.002	0.004	0.004	0.003	0.003	0.001	0.001	0.000	0.001	-0.005
B	0.005	0.710	0.751	0.552	0.564	0.372	0.353	0.224	0.239	0.176	0.170	-0.004
C	0.004	0.823	0.723	0.625	0.625	0.363	0.348	0.214	0.213	0.184	0.177	-0.005
D	0.003	0.801	0.751	0.564	0.579	0.350	0.344	0.185	0.219	0.170	0.174	-0.005
E	0.003	0.674	0.762	0.584	0.567	0.341	0.332	0.196	0.223	0.167	0.163	-0.005
F	0.001	0.733	0.726	0.575	0.622	0.335	0.355	0.234	0.258	0.143	0.159	-0.005
G	0.000	0.674	0.764	0.596	0.573	0.342	0.306	0.222	0.226	0.168	0.152	-0.007
H	0.001	0.000	0.002	0.001	0.002	0.002	0.000	0.000	0.002	0.002	-0.002	-0.007

Mean Blank =	0.043

RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		95.8%	101.4%	74.5%	76.1%	50.2%	47.6%	30.2%	32.2%	23.7%	22.9%	
C		111.1%	97.6%	84.3%	84.3%	49.0%	46.9%	28.9%	28.7%	24.8%	23.9%	
D		108.1%	101.4%	76.1%	78.1%	47.2%	46.4%	24.9%	29.5%	22.9%	23.5%	
E		91.0%	102.8%	78.8%	76.5%	46.0%	44.8%	26.4%	30.1%	22.5%	22.0%	
F		98.9%	98.0%	77.6%	83.9%	45.2%	47.9%	31.6%	34.8%	19.3%	21.4%	
G		91.0%	103.1%	80.4%	77.3%	46.1%	41.3%	29.9%	30.5%	22.6%	20.5%	
H												

	3 hr	3 hr	2 hr	2 hr	1 hr	1 hr	30 min	30 min	15 min	15 min
Conc. (µg/mL) :										
Mean Corr. OD :	0.736	0.746	0.582	0.588	0.350	0.339	0.212	0.229	0.168	0.166
SD :	0.064	0.018	0.026	0.028	0.014	0.018	0.019	0.016	0.014	0.010
Mean 3 hour :	0.741									
Mean Blank :	0.043									
% of 3 hour:	99.3%	100.7%	78.6%	79.4%	47.3%	45.8%	28.6%	31.0%	22.6%	22.3%
SD :	8.6%	2.4%	3.5%	3.7%	1.9%	2.5%	2.5%	2.2%	1.9%	1.3%
% CV :	8.63%	2.37%	4.42%	4.72%	4.08%	5.42%	8.73%	7.14%	8.22%	5.76%
hours			3	2	1	0.50	0.25			
% of 3 hour:			100.0%	79.0%	46.5%	29.8%	22.5%			


Neutral Red Uptake
125%
100%
75%
50%
25%
0%
% of 3 hour group
0
1
2
3
4
Time (Hours)
R&D - NR Stain Time Course in 3T3

Neutral Red Stain Prepared in DMEM5%NCS - TEST OF NR PREP 1 DAY PRIOR TO USE
Tested in 90-100% Confluent 3T3 Cultures

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank											Blank
C	Blank		50 ug/ml			50 ug/ml				33 ug/ml		Blank
D	Blank		Prepared and filtered			Filtered before use				Filtered before use		Blank
E	Blank		in evening before use									Blank
F	Blank		Filtered before use									Blank
G	Blank											Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.045	0.045	0.045	0.044	0.056	0.056	0.056	0.057	0.053	0.051	0.051	0.052
B	0.043	0.383	0.459	0.417	0.541	0.631	0.639	0.635	0.637	0.686	0.656	0.052
C	0.045	0.389	0.397	0.379	0.557	0.536	0.621	0.559	0.590	0.618	0.612	0.051
D	0.043	0.383	0.429	0.350	0.539	0.575	0.545	0.629	0.613	0.658	0.652	0.053
E	0.042	0.361	0.345	0.334	0.579	0.585	0.577	0.573	0.626	0.635	0.599	0.051
F	0.044	0.368	0.412	0.374	0.582	0.588	0.578	0.572	0.687	0.647	0.641	0.050
G	0.042	0.415	0.451	0.422	0.600	0.620	0.616	0.632	0.572	0.744	0.637	0.050
H	0.044	0.042	0.043	0.043	0.057	0.059	0.055	0.057	0.050	0.057	0.050	0.054

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.002	0.002	0.002	0.001	0.013	0.013	0.013	0.014	0.010	0.008	0.008	0.009
B	0.000	0.340	0.416	0.374	0.498	0.588	0.596	0.592	0.594	0.643	0.613	0.009
C	0.002	0.346	0.354	0.336	0.514	0.493	0.578	0.516	0.547	0.575	0.569	0.008
D	0.000	0.340	0.386	0.307	0.496	0.532	0.502	0.586	0.570	0.615	0.609	0.010
E	-0.001	0.318	0.302	0.291	0.536	0.542	0.534	0.530	0.583	0.592	0.556	0.008
F	0.001	0.325	0.369	0.331	0.539	0.545	0.535	0.529	0.644	0.604	0.598	0.007
G	-0.001	0.372	0.408	0.379	0.557	0.577	0.573	0.589	0.529	0.701	0.594	0.007
H	0.001	0.000	0.000	0.000	0.014	0.016	0.012	0.014	0.007	0.014	0.007	0.011

Mean Blank =	0.052	(Only the 14 wells from the 33 ug/ml group)

	Neutral Red Stain Concentration									
Conc. (µg/mL) :		50.0			50.0				33.0	
Mean Corr. OD :	0.340	0.372	0.336	0.523	0.546	0.553	0.557	0.578	0.621	0.590
SD :	0.019	0.042	0.035	0.025	0.034	0.035	0.035	0.040	0.045	0.023
Group mean corr OD:		0.349			0.545				0.596	

Note: Significant crystal formation was observed in the DMEM5%NCS/NR prepared 1 day prior,
and the color was essentailly medium-colored. Much NR stain stripped out of solution.
No ppt or crystalization observed in the wells during the NR loading of cells.

Neutral Red Stain Prepared in DMEM5%NCS/Filtered immediately before use
Tested in 90-100% Confluent 3T3 Cultures

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	
B	Blank	50 ug/ml	50 ug/ml	28 ug/ml	28 ug/ml	16 ug/ml	16 ug/ml	9 ug/ml	9 ug/ml	5 ug/ml	5 ug/ml	
C	Blank											
D	Blank											Empty
E	Blank											
F	Blank											
G	Blank											
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.076	0.051	0.05	0.045	0.044	0.041	0.041	0.041	0.039	0.038	0.037	0.037
B	0.058	0.553	0.535	0.58	0.587	0.421	0.353	0.225	0.221	0.149	0.145	0.037
C	0.053	0.561	0.503	0.517	0.549	0.338	0.345	0.213	0.203	0.144	0.155	0.035
D	0.048	0.493	0.527	0.489	0.495	0.351	0.331	0.196	0.196	0.143	0.161	0.038
E	0.047	0.491	0.497	0.528	0.571	0.312	0.321	0.188	0.195	0.132	0.172	0.038
F	0.073	0.606	0.697	0.53	0.6	0.36	0.373	0.239	0.218	0.143	0.163	0.036
G	0.072	0.63	0.497	0.563	0.592	0.399	0.39	0.235	0.21	0.145	0.157	0.037
H	0.056	0.089	0.055	0.043	0.045	0.041	0.04	0.039	0.039	0.042	0.04	0.036

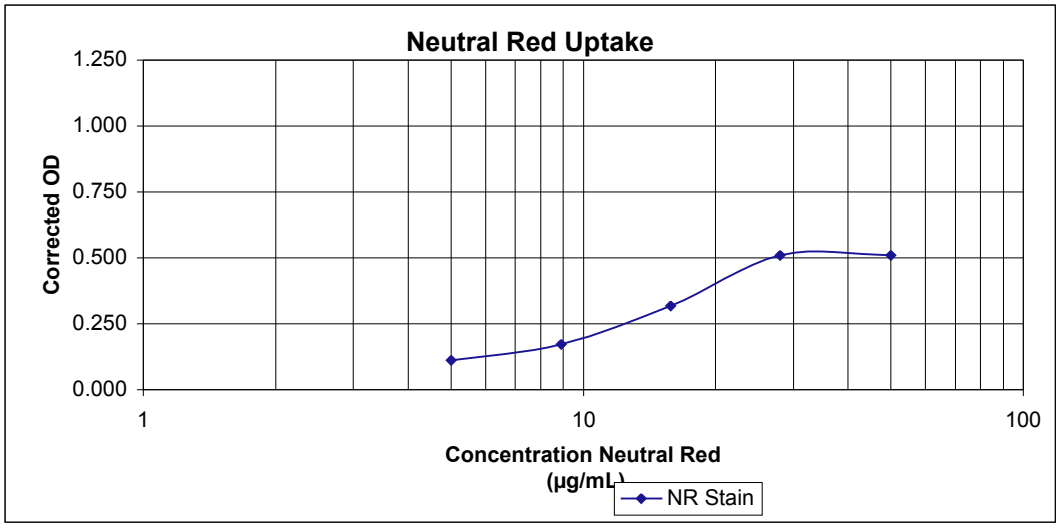
CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.033	0.008	0.007	0.002	0.001	-0.002	-0.002	-0.002	-0.004	-0.005	-0.006	-0.006
B	0.015	0.510	0.492	0.537	0.544	0.378	0.310	0.182	0.178	0.106	0.102	-0.006
C	0.010	0.518	0.460	0.474	0.506	0.295	0.302	0.170	0.160	0.101	0.112	-0.008
D	0.005	0.450	0.484	0.446	0.452	0.308	0.288	0.153	0.153	0.100	0.118	-0.005
E	0.004	0.448	0.454	0.485	0.528	0.269	0.278	0.145	0.152	0.089	0.129	-0.005
F	0.030	0.563	0.654	0.487	0.557	0.317	0.330	0.196	0.175	0.100	0.120	-0.007
G	0.029	0.587	0.454	0.520	0.549	0.356	0.347	0.192	0.167	0.102	0.114	-0.006
H	0.013	0.000	0.012	0.000	0.002	-0.002	-0.003	-0.004	-0.004	-0.001	-0.003	-0.007

Mean Blank =	0.039	(Only the 4 wells from the 5.0 ug/ml group)

	Neutral Red Stain Concentration									
Conc. (µg/mL) :	50.0	50.0	28.0	28.0	15.8	15.8	8.9	8.9	5.0	5.0
Mean Corr. OD :	0.512	0.499	0.491	0.522	0.320	0.309	0.173	0.164	0.099	0.116
SD :	0.057	0.077	0.033	0.039	0.040	0.026	0.021	0.011	0.006	0.009
Group mean corr OD:	0.506		0.507		0.315		0.168		0.107	

graph	x	50.0	28.0	15.8	8.9	5.0	
	y	0.506	0.507	0.315	0.168	0.107	



Appendix E3

Neutral Red (NR) Dye Experiments – NHK Cells – IIVS

[This Page Intentionally Left Blank]

Test Facility : IIVS
Chemical Code : N/A
2nd Chem. Code*: NRU

Study Number.: R&D - NR Stain Time Course in NHK
96-Well Plate ID : 1
Experiment ID : RD9602NK

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank											Blank
C	Blank											Blank
D	Blank	3 hr	3 hr	2 hr	2 hr	1 hr	1 hr	30 min	30 min	15 min	15 min	Blank
E	Blank											Blank
F	Blank											Blank
G	Blank											Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.057	0.053	0.059	0.058	0.054	0.055	0.053	0.052	0.051	0.048	0.049	0.035
B	0.068	1.501	1.564	1.311	1.327	0.998	1.052	0.671	0.649	0.438	0.474	0.037
C	0.057	1.549	1.482	1.376	1.372	1.082	1.076	0.714	0.697	0.494	0.474	0.034
D	0.058	1.540	1.503	1.415	1.422	1.026	0.995	0.724	0.698	0.482	0.474	0.036
E	0.057	1.553	1.532	1.388	1.453	1.060	1.010	0.675	0.634	0.459	0.462	0.034
F	0.057	1.632	1.600	1.396	1.380	1.066	1.074	0.656	0.628	0.470	0.429	0.033
G	0.054	1.462	1.514	1.357	1.439	1.069	1.010	0.708	0.606	0.474	0.437	0.035
H	0.057	0.054	0.053	0.052	0.051	0.055	0.051	0.049	0.047	0.050	0.046	0.034

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

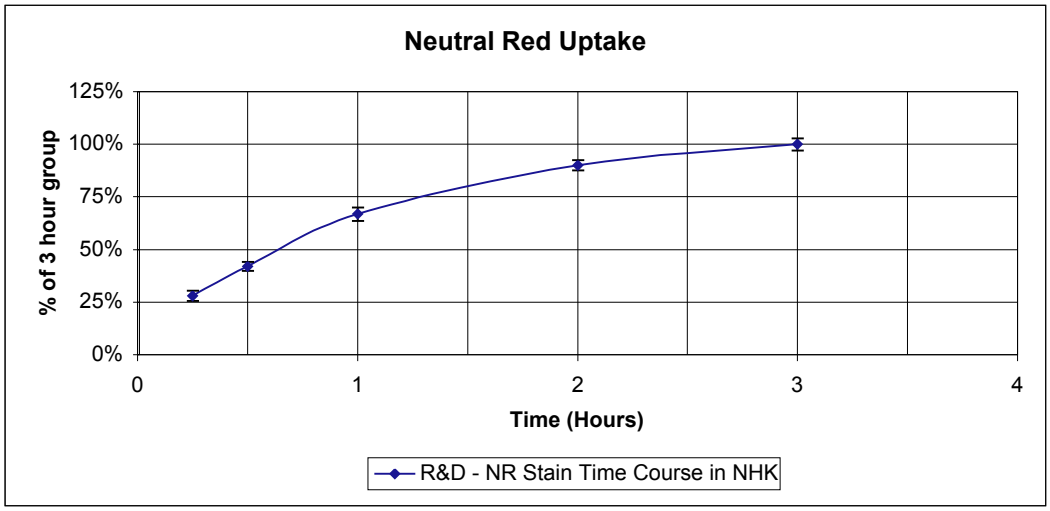
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.007	0.003	0.009	0.008	0.004	0.005	0.003	0.002	0.001	-0.002	-0.001	-0.015
B	0.018	1.451	1.514	1.261	1.277	0.948	1.002	0.621	0.599	0.388	0.424	-0.013
C	0.007	1.499	1.432	1.326	1.322	1.032	1.026	0.664	0.647	0.444	0.424	-0.016
D	0.008	1.490	1.453	1.365	1.372	0.976	0.945	0.674	0.648	0.432	0.424	-0.014
E	0.007	1.503	1.482	1.338	1.403	1.010	0.960	0.625	0.584	0.409	0.412	-0.016
F	0.007	1.582	1.550	1.346	1.330	1.016	1.024	0.606	0.578	0.420	0.379	-0.017
G	0.004	1.412	1.464	1.307	1.389	1.019	0.960	0.658	0.556	0.424	0.387	-0.015
H	0.007	0.000	0.003	0.002	0.001	0.005	0.001	-0.001	-0.003	0.000	-0.004	-0.016

Mean Blank =	0.050

RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		97.6%	101.9%	84.9%	85.9%	63.8%	67.4%	41.8%	40.3%	26.1%	28.6%	
C		100.9%	96.4%	89.2%	89.0%	69.5%	69.1%	44.7%	43.6%	29.9%	28.6%	
D		100.3%	97.8%	91.9%	92.3%	65.7%	63.6%	45.4%	43.6%	29.1%	28.6%	
E		101.1%	99.7%	90.0%	94.4%	68.0%	64.6%	42.1%	39.3%	27.5%	27.7%	
F		106.5%	104.3%	90.6%	89.5%	68.4%	68.9%	40.8%	38.9%	28.3%	25.5%	
G		95.0%	98.5%	88.0%	93.5%	68.6%	64.6%	44.3%	37.4%	28.6%	26.1%	
H												

	3 hr	3 hr	2 hr	2 hr	1 hr	1 hr	30 min	30 min	15 min	15 min
Conc. (µg/mL) :										
Mean Corr. OD :	1.490	1.483	1.324	1.349	1.001	0.987	0.642	0.602	0.420	0.409
SD :	0.057	0.043	0.036	0.048	0.032	0.036	0.028	0.038	0.019	0.020
Mean 3 hour :	1.486									
Mean Blank :	0.050									
% of 3 hour:	100.2%	99.8%	89.1%	90.8%	67.3%	66.4%	43.2%	40.5%	28.3%	27.5%
SD :	3.8%	2.9%	2.4%	3.2%	2.1%	2.4%	1.9%	2.5%	1.3%	1.4%
% CV :	3.83%	2.91%	2.75%	3.53%	3.17%	3.61%	4.29%	6.28%	4.62%	4.97%
hours			3	2	1	0.50	0.25			
% of 3 hour:			100.0%	89.9%	66.8%	41.9%	27.9%			


Neutral Red Uptake
125%
100%
75%
50%
25%
0%
% of 3 hour group
0
1
2
3
4
Time (Hours)
R&D - NR Stain Time Course in NHK

Neutral Red Stain Prepared in KGM - TEST OF NR PREP 1 DAY PRIOR TO USE
Tested in 90-100% Confluent NHK Cultures

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank										
C	Blank		50 ug/ml			50 ug/ml				33 ug/ml	
D	Blank		Prepared and filtered			Filtered before use				Filtered before use	
E	Blank		in evening before use								
F	Blank		Filtered before use								
G	Blank										
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A	0.062	0.061	0.063	0.064	0.063	0.062	0.060	0.060	0.052	0.053	0.051
B	0.055	1.306	1.545	1.530	1.514	1.403	1.421	1.297	1.249	1.136	1.134
C	0.060	1.530	1.520	1.554	1.471	1.536	1.416	1.415	1.308	1.160	1.189
D	0.062	1.454	1.527	1.513	1.511	1.472	1.491	1.438	1.217	1.192	1.173
E	0.067	1.423	1.433	1.505	1.577	1.469	1.448	1.474	1.199	1.249	1.158
F	0.057	1.423	1.591	1.577	1.577	1.403	1.431	1.347	1.250	1.235	1.102
G	0.065	1.430	1.468	1.393	1.319	1.432	1.304	1.416	1.243	1.117	1.110
H	0.064	0.059	0.060	0.064	0.064	0.065	0.061	0.064	0.060	0.055	0.060

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
A	0.012	0.011	0.013	0.014	0.013	0.012	0.010	0.010	0.002	0.003	0.001
B	0.005	1.256	1.495	1.480	1.464	1.353	1.371	1.247	1.199	1.086	1.084
C	0.010	1.480	1.470	1.504	1.421	1.486	1.366	1.365	1.258	1.110	1.139
D	0.012	1.404	1.477	1.463	1.461	1.422	1.441	1.388	1.167	1.142	1.123
E	0.017	1.373	1.383	1.455	1.527	1.419	1.398	1.424	1.149	1.199	1.108
F	0.007	1.373	1.541	1.527	1.527	1.353	1.381	1.297	1.200	1.185	1.052
G	0.015	1.380	1.418	1.343	1.269	1.382	1.254	1.366	1.193	1.067	1.060
H	0.014	0.000	0.010	0.014	0.014	0.015	0.011	0.014	0.010	0.005	0.010

Mean Blank = 0.055 (Only the 14 wells from the 33 ug/ml group)

	Neutral Red Stain Concentration									
Conc. (µg/mL) :	50.0			50.0				33.0		
Mean Corr. OD :	1.378	1.464	1.462	1.445	1.403	1.369	1.348	1.195	1.132	1.095
SD :	0.072	0.056	0.064	0.096	0.051	0.062	0.064	0.037	0.053	0.035
Group mean corr OD:		1.435			1.391				1.141	

Note: No crystal formation was observed in the KGM/NR prepared 1 day prior.
No ppt or crystalization observed in the wells during the NR loading of cells.

Neutral Red Stain Prepared in KGM/Filtered immediately before use
Tested in 90-100% Confluent NHK Cultures

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	
B	Blank	50 ug/ml	50 ug/ml	28 ug/ml	28 ug/ml	16 ug/ml	16 ug/ml	9 ug/ml	9 ug/ml	5 ug/ml	5 ug/ml	
C	Blank											
D	Blank											empty
E	Blank											
F	Blank											
G	Blank											
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{550})

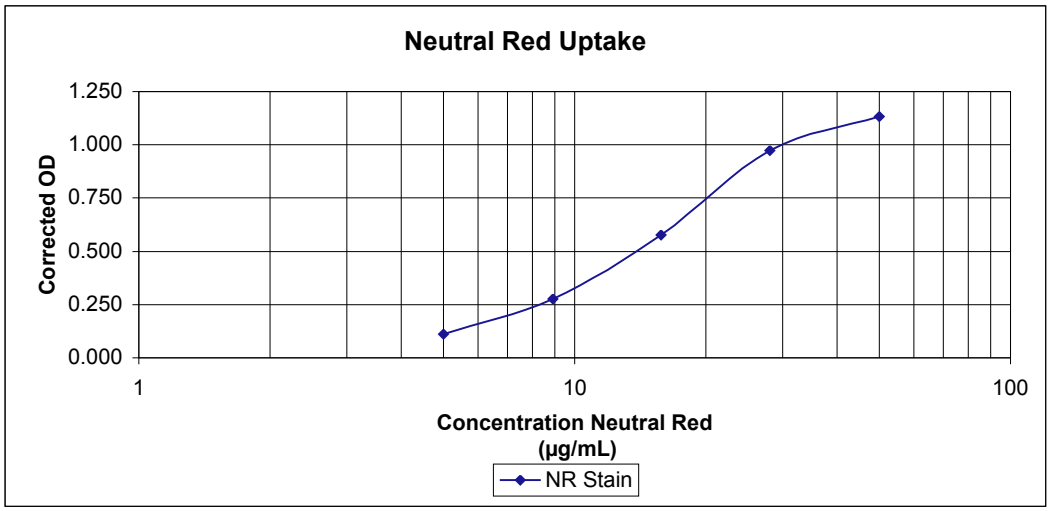
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.067	0.064	0.066	0.049	0.049	0.040	0.040	0.038	0.038	0.036	0.037	0.035
B	0.048	1.255	1.119	1.103	1.054	0.623	0.605	0.325	0.334	0.156	0.150	0.034
C	0.050	1.035	1.004	1.020	0.956	0.624	0.601	0.345	0.312	0.151	0.154	0.034
D	0.047	1.131	1.352	1.094	1.078	0.643	0.635	0.331	0.314	0.157	0.147	0.035
E	0.047	1.117	1.227	0.923	0.893	0.595	0.618	0.323	0.302	0.155	0.150	0.035
F	0.046	1.245	1.129	0.976	0.988	0.607	0.617	0.308	0.313	0.156	0.156	0.035
G	0.047	1.136	1.282	1.061	0.995	0.624	0.582	0.283	0.282	0.131	0.127	0.037
H	0.063	0.056	0.060	0.061	0.048	0.042	0.042	0.038	0.039	0.040	0.038	0.036

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{550} - Mean Blank OD_{550})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.017	0.014	0.016	-0.001	-0.001	-0.010	-0.010	-0.012	-0.012	-0.014	-0.013	-0.015
B	-0.002	1.205	1.069	1.053	1.004	0.573	0.555	0.275	0.284	0.106	0.100	-0.016
C	0.000	0.985	0.954	0.970	0.906	0.574	0.551	0.295	0.262	0.101	0.104	-0.016
D	-0.003	1.081	1.302	1.044	1.028	0.593	0.585	0.281	0.264	0.107	0.097	-0.015
E	-0.003	1.067	1.177	0.873	0.843	0.545	0.568	0.273	0.252	0.105	0.100	-0.015
F	-0.004	1.195	1.079	0.926	0.938	0.557	0.567	0.258	0.263	0.106	0.106	-0.015
G	-0.003	1.086	1.232	1.011	0.945	0.574	0.532	0.233	0.232	0.081	0.077	-0.013
H	0.013	0.000	0.010	0.011	-0.002	-0.008	-0.008	-0.012	-0.011	-0.010	-0.012	-0.014

Mean Blank = 0.038 (Only the 4 wells from the 5.0 ug/ml group)

	Neutral Red Stain Concentration									
Conc. (µg/mL) :	50.0	50.0	28.0	28.0	15.8	15.8	8.9	8.9	5.0	5.0
Mean Corr. OD :	1.104	1.136	0.980	0.944	0.570	0.560	0.270	0.260	0.101	0.098
SD :	0.083	0.126	0.070	0.067	0.017	0.018	0.021	0.017	0.010	0.010
Group mean corr OD:	1.120		0.962		0.565		0.265		0.100	
	graph	x	50.0	28.0	15.8	8.9	5.0			
		y	1.120	0.962	0.565	0.265	0.100			



Appendix E4

Neutral Red (NR) Dye Experiments – 3T3 Cells – ECBC

[This Page Intentionally Left Blank]

Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-1
Experiment ID : SLS-B(25ug NR/ml 1hr)

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
C	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
D	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
E	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
F	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
G	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.049	0.051	0.048	0.052	0.048	0.050	0.050	0.046	0.044	0.045	0.046	0.047
B	0.050	0.262	0.050	0.046	0.130	0.274	0.254	0.322	0.315	0.329	0.333	0.046
C	0.052	0.283	0.053	0.051	0.145	0.231	0.252	0.276	0.283	0.293	0.321	0.050
D	0.050	0.307	0.055	0.053	0.135	0.242	0.252	0.291	0.280	0.302	0.314	0.049
E	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
F	0.000	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
G	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
H	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{540} - Mean Blank OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.000	0.002	-0.001	0.003	-0.001	0.001	0.001	-0.003	-0.005	-0.004	-0.003	-0.002
B	0.001	0.214	0.001	-0.003	0.082	0.226	0.206	0.274	0.267	0.281	0.285	-0.003
C	0.003	0.235	0.004	0.002	0.097	0.183	0.204	0.228	0.235	0.245	0.273	0.001
D	0.001	0.259	0.006	0.004	0.087	0.194	0.204	0.243	0.232	0.254	0.266	0.000
E	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
F	-0.049	-0.049	0.052	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
G	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
H	-0.049	0.000	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049

Mean Blank =	0.049

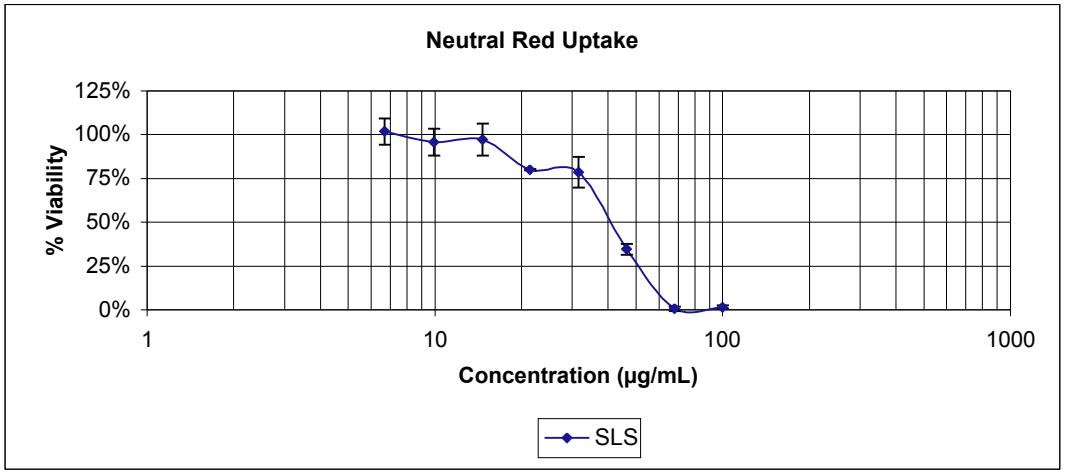
RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		83.8%	0.6%	-1.0%	32.0%	88.5%	80.6%	107.3%	104.6%	110.1%	111.6%	
C		92.0%	1.8%	1.0%	37.9%	71.6%	79.9%	89.3%	92.0%	95.9%	106.9%	
D		101.4%	2.6%	1.8%	33.9%	75.9%	79.9%	95.2%	90.8%	99.5%	104.2%	
E		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
F		-19.0%	20.2%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
G		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
H												

Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-1
Experiment ID : SLS-B(25ug NR/ml 1hr)

	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2
Conc. (µg/mL) :	0.0	100.0	68.0	46.3	31.5	21.4	14.6	9.9	6.7	0.0
Mean Corr. OD :	0.236	0.004	0.001	0.088	0.201	0.204	0.248	0.244	0.260	0.274
SD :	0.023	0.003	0.004	0.008	0.022	0.001	0.023	0.019	0.019	0.010
Mean Vehicle Control :	0.255									
Mean Blank :	0.049									
% of Vehicle Control :	92.4%	1.6%	0.6%	34.6%	78.7%	80.1%	97.3%	95.8%	101.8%	107.6%
SD :	8.8%	1.0%	1.4%	3.0%	8.8%	0.5%	9.2%	7.6%	7.4%	3.8%
% CV :	9.56%	60.40%	240.37%	8.66%	11.14%	0.57%	9.47%	7.95%	7.22%	3.50%
Mean VC - VC1 (%) :	7.59%									
Mean VC - VC2 (%) :	-7.59%									
Mean Absolute OD :	0.303									



Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(50ug NR/ml 1hr)

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
C	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
D	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
E	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
F	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
G	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.056	0.061	0.063	0.055	0.052	0.051	0.058	0.050	0.050	0.052	0.050	0.051
B	0.088	0.377	0.057	0.053	0.192	0.315	0.325	0.364	0.402	0.403	0.396	0.053
C	0.058	0.378	0.062	0.058	0.158	0.277	0.337	0.379	0.400	0.391	0.386	0.051
D	0.061	0.373	0.054	0.051	0.182	0.308	0.343	0.367	0.425	0.420	0.409	0.050
E	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
F	0.000	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
G	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
H	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{540} - Mean Blank OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.007	0.013	0.015	0.006	0.003	0.002	0.009	0.001	0.001	0.003	0.001	0.002
B	0.040	0.329	0.008	0.004	0.144	0.267	0.277	0.316	0.354	0.355	0.348	0.004
C	0.009	0.330	0.014	0.009	0.110	0.229	0.289	0.331	0.352	0.343	0.338	0.002
D	0.013	0.325	0.005	0.002	0.134	0.260	0.295	0.319	0.377	0.372	0.361	0.001
E	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
F	-0.049	-0.049	0.052	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
G	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
H	-0.049	0.000	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049

Mean Blank =	0.056

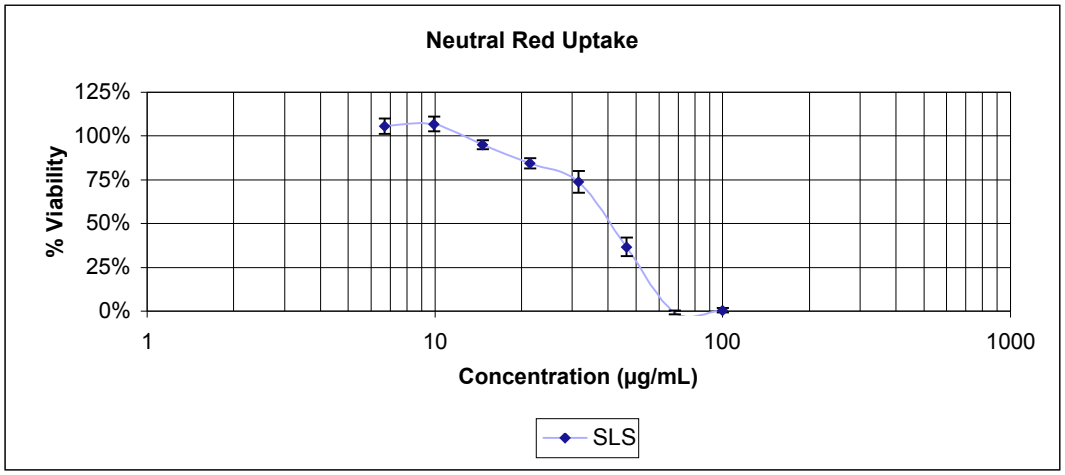
RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		128.9%	3.3%	1.8%	56.3%	104.6%	108.5%	123.8%	138.7%	139.1%	136.4%	
C		129.3%	5.3%	3.7%	43.0%	89.7%	113.2%	129.7%	137.9%	134.4%	132.4%	
D		127.3%	2.2%	1.0%	52.4%	101.8%	115.6%	125.0%	147.7%	145.8%	141.5%	
E		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
F		-19.0%	20.2%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
G		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
H												

Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(50ug NR/ml 1hr)

	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2
Conc. (µg/mL) :	0.0	100.0	68.0	46.3	31.5	21.4	14.6	9.9	6.7	0.0
Mean Corr. OD :	0.328	0.009	0.005	0.129	0.252	0.287	0.322	0.361	0.356	0.349
SD :	0.003	0.004	0.004	0.017	0.020	0.009	0.008	0.014	0.015	0.012
Mean Vehicle Control :	0.338									
Mean Blank :	0.056									
% of Vehicle Control :	128.5%	3.6%	2.2%	50.6%	98.7%	112.4%	126.2%	141.5%	139.8%	136.8%
SD :	1.0%	1.6%	1.4%	6.9%	7.9%	3.6%	3.1%	5.5%	5.7%	4.5%
% CV :	0.81%	44.09%	65.56%	13.56%	8.04%	3.20%	2.47%	3.85%	4.09%	3.31%
Mean VC - VC1 (%) :	3.11%									
Mean VC - VC2 (%) :	-3.11%									
Mean Absolute OD :	0.387									



Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(25ug NR/ml 3hr)

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
C	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
D	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
E	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
F	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
G	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.052	0.047	0.050	0.048	0.046	0.048	0.046	0.048	0.046	0.046	0.046	0.046
B	0.049	0.559	0.047	0.050	0.175	0.387	0.506	0.474	0.580	0.489	0.610	0.048
C	0.052	0.613	0.051	0.061	0.183	0.414	0.525	0.518	0.487	0.444	0.520	0.047
D	0.052	0.554	0.052	0.052	0.195	0.364	0.507	0.523	0.527	0.555	0.485	0.057
E	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
F	0.000	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
G	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
H	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{540} - Mean Blank OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.003	-0.002	0.001	-0.001	-0.003	-0.001	-0.003	-0.001	-0.003	-0.003	-0.003	-0.003
B	0.000	0.511	-0.002	0.001	0.127	0.339	0.458	0.426	0.532	0.441	0.562	-0.001
C	0.003	0.565	0.002	0.013	0.135	0.366	0.477	0.470	0.439	0.396	0.472	-0.002
D	0.003	0.506	0.003	0.003	0.147	0.316	0.459	0.475	0.479	0.507	0.437	0.008
E	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
F	-0.049	-0.049	0.052	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
G	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
H	-0.049	0.000	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049

Mean Blank =	0.049

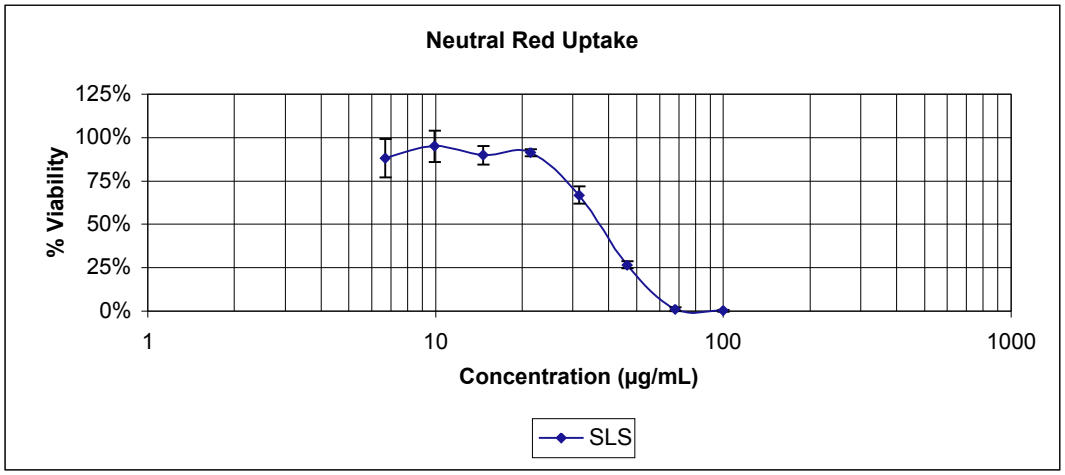
RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		200.3%	-0.6%	0.6%	49.6%	132.8%	179.5%	167.0%	208.6%	172.9%	220.3%	
C		221.5%	1.0%	4.9%	52.8%	143.4%	187.0%	184.2%	172.1%	155.2%	185.0%	
D		198.4%	1.4%	1.4%	57.5%	123.8%	179.9%	186.2%	187.8%	198.8%	171.3%	
E		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
F		-19.0%	20.2%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
G		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
H												

Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(25ug NR/ml 3hr)

	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2
Conc. (µg/mL) :	0.0	100.0	68.0	46.3	31.5	21.4	14.6	9.9	6.7	0.0
Mean Corr. OD :	0.527	0.001	0.006	0.136	0.340	0.464	0.457	0.483	0.448	0.490
SD :	0.033	0.003	0.006	0.010	0.025	0.011	0.027	0.047	0.056	0.064
Mean Vehicle Control :	0.508									
Mean Blank :	0.049									
% of Vehicle Control :	206.7%	0.6%	2.3%	53.3%	133.4%	182.1%	179.1%	189.5%	175.6%	192.2%
SD :	12.8%	1.0%	2.3%	4.0%	9.8%	4.2%	10.6%	18.3%	21.9%	25.3%
% CV :	6.21%	176.38%	100.45%	7.41%	7.36%	2.30%	5.91%	9.66%	12.48%	13.16%
Mean VC - VC1 (%) :	-3.64%									
Mean VC - VC2 (%) :	3.64%									
Mean Absolute OD :	0.557									



Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(50ug NR/ml 3hr)

96-WELL PLATE MAP

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
C	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
D	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
E	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
F	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
G	Blank	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank

RAW ABSORBANCE DATA (OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.059	0.065	0.053	0.052	0.054	0.052	0.054	0.053	0.056	0.053	0.054	0.051
B	0.057	0.513	0.057	0.056	0.154	0.302	0.416	0.485	0.473	0.457	0.485	0.050
C	0.059	0.488	0.058	0.056	0.152	0.326	0.420	0.460	0.500	0.438	0.562	0.059
D	0.059	0.516	0.054	0.056	0.146	0.326	0.496	0.447	0.478	0.455	0.508	0.051
E	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
F	0.000	0.000	0.100	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
G	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
H	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000

CORRECTED ABSORBANCE (Sample OD_{540} - Mean Blank OD_{540})

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.011	0.017	0.004	0.003	0.005	0.003	0.005	0.004	0.007	0.004	0.005	0.002
B	0.008	0.465	0.008	0.007	0.106	0.254	0.368	0.437	0.425	0.409	0.437	0.001
C	0.011	0.440	0.009	0.007	0.104	0.278	0.372	0.412	0.452	0.390	0.514	0.011
D	0.011	0.468	0.005	0.007	0.098	0.278	0.448	0.399	0.430	0.407	0.460	0.002
E	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
F	-0.049	-0.049	0.052	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
G	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049
H	-0.049	0.000	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049	-0.049

Mean Blank =	0.055

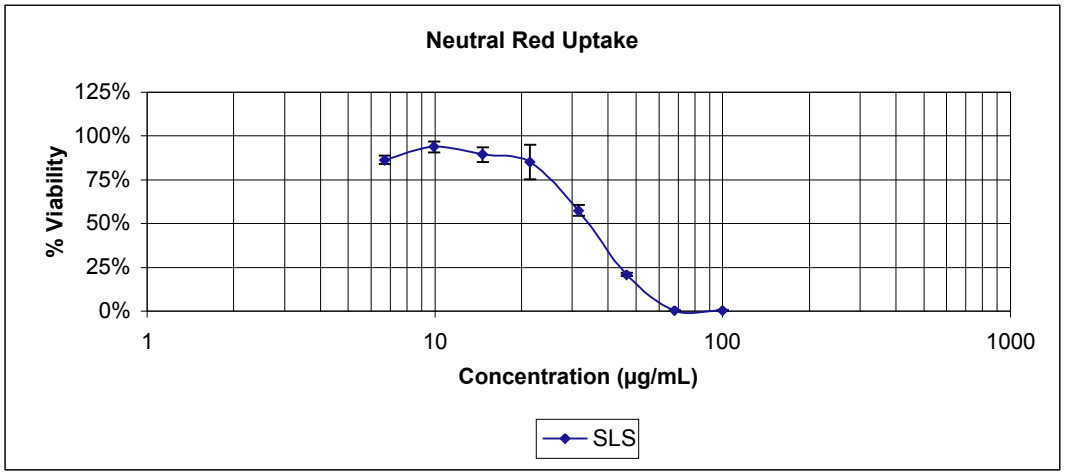
RELATIVE VIABILITY (% OF VEHICLE CONTROL)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		182.3%	3.3%	2.9%	41.4%	99.5%	144.2%	171.3%	166.6%	160.3%	171.3%	
C		172.5%	3.7%	2.9%	40.6%	108.9%	145.8%	161.5%	177.2%	152.8%	201.5%	
D		183.5%	2.2%	2.9%	38.3%	108.9%	175.6%	156.4%	168.5%	159.5%	180.3%	
E		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
F		-19.0%	20.2%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
G		-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	-19.0%	
H												

Test Facility : ECBC
Chemical Code : SLS
2nd Chem. Code*: none

Study Number.: ECBC-3T3 Ia 0#
96-Well Plate ID : 090602-2
Experiment ID : SLS-B(50ug NR/ml 3hr)

	VC1	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	VC2
Conc. (µg/mL) :	0.0	100.0	68.0	46.3	31.5	21.4	14.6	9.9	6.7	0.0
Mean Corr. OD :	0.457	0.008	0.007	0.102	0.270	0.396	0.416	0.435	0.402	0.470
SD :	0.015	0.002	0.000	0.004	0.014	0.045	0.019	0.014	0.010	0.040
Mean Vehicle Control :	0.464									
Mean Blank :	0.055									
% of Vehicle Control :	179.4%	3.1%	2.9%	40.1%	105.8%	155.2%	163.0%	170.8%	157.6%	184.4%
SD :	6.0%	0.8%	0.0%	1.6%	5.4%	17.7%	7.6%	5.6%	4.1%	15.5%
% CV :	3.36%	26.57%	0.00%	4.08%	5.14%	11.40%	4.65%	3.30%	2.60%	8.41%
Mean VC - VC1 (%) :	1.37%									
Mean VC - VC2 (%) :	-1.37%									
Mean Absolute OD :	0.512									



Appendix F

Reference Substance Information

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix F1

NRU Test Information for the 72 Reference Substances

[This Page Intentionally Left Blank]

Table F-1 NRU Test Information for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	Purity (%)	Supplier	pH in 3T3 Medium[a]	Concentrations Tested in 3T3 Assay (μg/mL)	pH in NHK Medium[b]	Concentrations Tested in NHK Assay (μg/mL)
Acetaminophen	103-90-2	99	Sigma	8.1	4.7-1000	7.7	11.8-4000
Acetonitrile	75-05-8	99.5	Sigma	8.4	118-100000	7.9	8.12-200000
Acetylsalicylic acid	50-78-2	99.5	Sigma	7.5	9.4-2500	6.9	11.8-2500
Aminopterin	54-62-6	100.3	Fluka	8.1	0.00005-0.1	7.2	67.4-1000
5-Aminosalicylic acid	89-57-6	99	Sigma	6.7	169-2500	7.5	2.4-500
Amitriptyline HCl	549-18-8	100	Sigma	8.1	0.4-100	7.6	0.24-100
Arsenic III trioxide	1327-53-3	99.9	Sigma	7.9	0.169-100	7.5	0.46-100
Atropine sulfate monohydrate	5908-99-6	100	Fluka	7.9	4.7-1000	7.5	3.8-10000
Boric aid	10043-35-3	101.1	Fluka	7.1	4.7-10000	7.4	28.3-10000
Busulfan	55-98-1	100.2	Fluka	8.1	2.4-500	7.8	2.35-800
Cadmium II chloride	10108-64-2	99.8	Fluka	8.1	0.135-5	7.7	0.337-100
Caffeine	58-08-2	99.9	Fluka	8.3	1.6-5000	7.8	3.25-10000
Carbamazepine	298-46-4	> 99	Sigma	8.0	0.3-1000	7.9	1.88-1000
Carbon tetrachloride	56-23-5	> 99.5	Sigma-Aldrich	NA	169-7000	7.7	11.8-7000
Chloral hydrate	302-17-0	100.1	Sigma	8.4	4.7-1000	7.6	4.7-1000
Chloramphenicol	56-75-7	> 99	Fluka	8.3	4.7-2500	7.8	9.15-2500
Citric acid	77-92-9	98	Sigma	2.9	23.5-10000	4.0	23.5-10000

Table F-1 NRU Test Information for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	Purity (%)	Supplier	pH in 3T3 Medium[a]	Concentrations Tested in 3T3 Assay (μg/mL)	pH in NHK Medium[b]	Concentrations Tested in NHK Assay (μg/mL)
Colchicine	64-86-8	> 98	Fluka	8.2	0	7.7	0.0014-0.10
Cupric sulfate pentahydrate	7758-99-8	99.7	Sigma	7.8	0.0059-5.0	7.4	2.4-750
Cycloheximide	66-81-9	100	Sigma	8.0	0.01-50	7.8	0.0040-100
Dibutyl phthalate	84-74-2	> 99	Sigma	8.0	3.7-2500	7.7	0.9-1000
Dichlorvos	62-73-7	99.5	Chem Service, Inc.	8.1	0.5-100	7.7	0.235-500
Diethyl phthalate	84-66-2	99.5	Aldrich	8.1	4.7-2000	7.8	2.35-2000
Digoxin	20830-75-5	98.6	Sigma	8.2	3.5-1000	7.8	0.0000047-0.100
Dimethylformamide	68-12-2	99.95	Sigma-Aldrich	8.1	236-50000	7.7	70.6-30000
Diquat dibromide monohydrate	6385-62-2	99	Chem Service, Inc.	7.9	0.03-100	7.7	0.47-500
Disulfoton	298-04-4	99.4	Chem Service, Inc.	8.0	2.4-2500	7.8	2.4-2500
Endosulfan	115-29-7	99.5	Chem Service, Inc.	8.3	0.1-100	7.8	0.67-50
Epinephrine bitartrate	51-42-3	> 99	Sigma-Aldrich	7.9	6.74-200	7.6	4.7-1000
Ethanol	64-17-5	100	Sigma-Aldrich	8.6	1011-50000	7.8	118-150000
Ethylene glycol	107-21-1	99.99	Sigma	8.4	1770-100000	7.8	1770-100000
Fenpropathrin	39515-41-8	91.8	Valent	8.3	2.4-500	7.8	0.301-100
Gibberellic acid	77-06-5	99	Acros	4.5	1348-100000	6.5	23.6-10000
Glutethimide	77-21-4	> 99	Sigma-Aldrich	8.0	19-1000	7.7	4.7-1000

Table F-1 NRU Test Information for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	Purity (%)	Supplier	pH in 3T3 Medium[a]	Concentrations Tested in 3T3 Assay (μg/mL)	pH in NHK Medium[b]	Concentrations Tested in NHK Assay (μg/mL)
Glycerol	56-81-5	99.9	Sigma	8.2	4586-100000	7.8	47-101960
Haloperidol	52-86-8	99	Sigma	8.3	0.1-25	7.7	0.188-100
Hexachlorophene	70-30-4	99.2	Sigma-Aldrich	8.1	0.5-100	7.5	0.002-1
Lactic acid	50-21-5	88.6	Sigma	3.2	47.1-10000	3.0	47.1-10000
Lindane	58-89-9	100	Sigma	8.1	0.8-2500	7.7	2.35-2000
Lithium I carbonate	554-13-2	99.4	Sigma	9.3	74.3-1102.5	9.5	4.7-2000
Meprobamate	57-53-4	> 99	Sigma	8.1	9.4-2500	7.7	4.71-2500
Mercury II chloride	7487-94-7	99.5	Sigma	8.1	0.05-10	7.6	0.67-10
Methanol	67-56-1	99.97	Sigma-Aldrich	8.0	398-3500 (no toxicity)	7.6	9.42-2500
Nicotine	54-11-5	> 99.0	Fluka	8.8	94.9-1000	8.5	8.02-5000
Paraquat	1910-42-5	100	Sigma	7.9	0.5-100	7.8	2.4-1000
Parathion	56-38-2	98	Supelco	8.2	0.5-2500	7.7	0.47-1500
Phenobarbital	50-06-6	100	Spectrum	7.7	11.8-2500	7.4	7.06-3000
Phenol	108-95-2	> 99	Sigma	8.0	0.3-1500	7.7	4.7-1000
Phenylthiourea	103-85-5	98	Sigma	8.1	0.8-2500	7.7	9.42-2500
Physostigmine	57-47-6	100	Sigma	8.1	5.4-200	7.7	0.32-1000
Potassium I chloride	7447-40-7	100	Sigma	8.3	163-15000	7.8	23.5-10000

Table F-1 NRU Test Information for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	Purity (%)	Supplier	pH in 3T3 Medium[a]	Concentrations Tested in 3T3 Assay (μg/mL)	pH in NHK Medium[b]	Concentrations Tested in NHK Assay (μg/mL)
Potassium cyanide	151-50-8	99.4	Mallinckrodt Baker	9.0	0.5-1500	8.2	0.401-500
Procainamide HCl	51-06-9	99.7	Sigma-Aldrich	8.3	67-1000	7.5	47-10000
2-Propanol	67-63-0	> 99.9	Sigma	8.5	1011-50000	7.7	47.1-20000
Propranolol HCl	3506-09-0	100	Sigma	7.9	1.78-1000	7.4	1.8-350
Propylparaben	94-13-3	> 99	Fluka	8.1	2.4-1000	7.7	0.47-300
Sodium arsenite	7784-46-5	> 99.0	Fluka	8.0	0.05-10.0	7.7	0.038-30
Sodium chloride	7647-14-5	99.5	Sigma	8.2	94-20000	7.9	4.71-10000
Sodium dichromate dihydrate	7789-12-0	100.4	Sigma	8.0	0.03-10.0	7.7	0.0318-100
Sodium I fluoride	7681-49-4	100	Sigma	8.1	10.1-1000	7.7	0.3-1000
Sodium hypochlorite	7681-52-9	12.9% Cl	Sigma-Aldrich	8.0	24-10000	7.7	47.1-10000
Sodium oxalate	62-76-0	99.99	Sigma-Aldrich	8.1	1.2-500	7.7	40.5-2000
Sodium selenate	13413-01-0	100	Sigma-Aldrich	8.2	6.8-300	7.8	0.47-556
Strychnine	57-24-9	99	Sigma	8.4	9.5-800	7.8	1.18-500
Thallium I sulfate	7446-18-6	99.995	Aldrich	8.3	0.1-500	7.8	0.0047-2
Trichloroacetic acid	76-03-9	> 99	Aldrich	2.3	24-10000	1.9	33.0-10000
1,1,1-Trichloroethane	71-55-6	99.78	Sigma-Aldrich	8.4	1686-50000	8.0	674-10000
Triethylenemelamine	51-18-3	98	Acros	8.0	0.02-4	7.6	0.024-10

Table F-1 NRU Test Information for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	Purity (%)	Supplier	pH in 3T3 Medium[a]	Concentrations Tested in 3T3 Assay (μg/mL)	pH in NHK Medium[b]	Concentrations Tested in NHK Assay (μg/mL)
Triphenyltin hydroxide	76-87-9	~ 99.5	Sigma-Aldrich	8.0	0.0002-0.1	7.6	0.005-0.1
Valproic acid	99-66-1	100	Sigma	6.9	12-2500	6.0	11.8-2500
Verapamil HCl	152-11-4	98	Sigma-Aldrich	8.1	3.4-100	7.5	3.8-1500
Xylene	1330-20-7	99.9	Mallinckrodt Baker	6.8	398-2500	7.5	190-2000

Abbreviations:NRU=Neutral red uptake; CASRN=Chemical Abstracts Service Registry Number; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; pH=Mean pH of the highest concentration tested (of all acceptable NRU tests)
[a]3T3 Medium - Dulbecco's Modification of Eagle's Medium, with supplements.
[b]NHK medium - Keratinocyte Growth Medium (KGM® from Cambrex).

.

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix F2

Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

[This Page Intentionally Left Blank]

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Acetaminophen	103-90-2	2404	151.20	Organic compound; Amide	Slightly in cold, much more in hot; 1-5 mg/mL @ 22°C	NA	0.8	NA	Liver toxin	Free?	More toxic intracellular metabolites	Covalent NAPQI binding and lipid peroxidation.
Acetonitrile	75-05-8	3798	41.05	Organic compound; Nitrile	Miscible; ≥100 mg/mL @ 22.5°C	-4.30	-0.34	81.6	CNS stimulant	Presumed	Must be metabolized to hydrogen cyanide for effect.	Assumed to be same as cyanide: General enzyme inhibition. High affinity for Fe^{+++}. Inhibits cell respiration by inhibition of cytochrome oxidase; solvent
Acetylsalicylic acid	50-78-2	1000	180.20	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	3.3 mg/mL @ 25°C; 4.6 mg/mL @ 25°C; <1 mg/mL @ 23°C	3.49@ 25°C	1.19	NA	Gastric irritant, CNS (encephalo-pathy), kidney toxin	Restricted	Salicylic acid is an active metabolite	General cell poison, works by uncoupling oxidation phosphorylation and inhibition of Kreb's cycle dehydrogenases.
Aminopterin	54-62-6	3 (mouse)	476.45	Organic compound; Heterocyclic compound	NA	5.5	NA	NA	Hematotoxin	Presumed to be minimal (like methotrexate)	Not expected to require metabolism for toxicity	Hypothetical: Inhibits folic acid utilization and thus cell proliferation.
5-Aminosalicylic acid	89-57-6	7749 (mouse)	153.10	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	2 mg/mL; <1 mg/mL @ 21°C	3.25	1.32	NA	Kidney toxin	Yes	Not activated	Unknown
Amitriptyline HCl	549-18-8	319	313.90	Organic compound; Polycyclic compound	0.0097 mg/mL @ 24°C/HCl is freely soluble	9.4	5.04	NA	Cardiotoxin	Free	Nortriptyline, a metabolite, also active	Hypothetical: Blocks norepinephrine, 5-hydroxytryptamine, and dopamine presynaptic uptake; prevents reuptake of heart norepinephrine.

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Arsenic III trioxide	1327-53-3	20	197.80	Inorganic compound; Arsenical	sparingly in cold; in 15 parts boiling; 17 mg/mL @ 16°C	NA	NA	465	CNS toxin (encephalo-pathy)	Restricted	No	Cellular poison. Multisystem failure due to uncoupling oxidative phosphorylation & inhibition of pyruvate and succinate oxidative pathways; Apoptosis induction; angiogenesis inhibition; cellular growth inhibition
Atropine sulfate monohydrate	5908-99-6	623	694.80	Organic compound; Heterocyclic compound	2.2 mg/mL	NA	1.83	NA	CNS stimulant	Free	No	Antimuscarinic, anticholinergic action. Competitive antagonism of anticholinesterase at cardiac & CNS receptor sites.
Boric aid	10043-35-3	2660	61.83	Inorganic compound; Boron compound; Acids	56 mg/mL in cold water; 10-50 mg/mL @ 19°C	NA	NA	300	Skin, kidney, liver, testicular toxin	Yes	No	Inhibits enzymes involved in metabolism and RNA synthesis.[g]
Busulfan	55-98-1	2	246.31	Organic compound; Alcohol; Acyclic hydrocarbon; Sulfur compound	Decomposes	NA	-0.52	NA	Hematotoxin	Freely (similar to plasma concentration[h]	Reactive intermediates[h]	Hypothetical: Alkylation of sufhydryl groups[i]; antineoplastic
Cadmium II chloride	10108-64-2	88	183.31	Organic compound; Cadmium compound	1400 mg/mL @ 20°C; ≥100 mg/mL @ 20°C	NA	NA	960	Kidney, liver toxin, corrosive	Yes[j]	No	Alters Ca^{++} translocation, affects membrane ATPase & mitochondrial respiration.

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Caffeine	58-08-2	192	194.20	Organic compound; Heterocyclic compound	21 mg/mL @ 25°C; 10-50 mg/mL @ 23°C	14 @ 25°C; pK_b=14 .15 @ 19°C	-0.07	17 (sublimes)	CNS stimulant	Free	No	Hypothetical: Inhibition of phosphodiesterase leading to AMP accumulation. Translocation of intracellular Ca^{++}? Adenosine receptor antagonism?; neurotoxic
Carbamazepine	298-46-4	1957	236.30	Organic compound; Heterocyclic compound	Practically insoluble	NA	2.45	NA	CNS depressant, hematotoxin	Free	10,11-epoxide metabolite as active as parent	Not known. Therapeutically decreases firing of noradrenergic neurons.
Carbon tetrachloride	56-23-5	2799	153.82	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	0.793 mg/mL at 25°C; <1 mg/mL @ 21°C	NA	2.83	76.8	Liver, kidney toxin, CNS depressant	Free	More toxic intracellular metabolites?	Hypothetical: Covalent binding of toxic intracellular metabolites. Free radicals inducing lipid peroxidation?
Chloral hydrate	302-17-0	479	165.40	Organic compound; Alcohol	9310 mg/mL @ 25°C; ≥10 mg/mL @ 20.5°C	NA	0.99	96	CNS depressant & cardiotoxin	Freely	Active metabolite trichloroethanol is partly[f] or totally[k] responsible for CNS effect	Proposed: potentiation of $GABA_A$ receptor activity, inhibition of N-methyl-D-aspartate activity, & modulation of 5-$hydroxytryptamine_3$ receptor-mediated depolarization of the vagas nerve.[k]
Chloramphenicol	56-75-7	3393	323.14	Organic compound; Alcohol; Cyclic hydrocarbon; Nitro compound	2.5 mg/mL @ 25°C	NA	1.14	NA	Hematotoxin	Free	No	Hypothetical: Binds to mitochondrial ribosomes & inhibits enzyme syntheses (e.g., those necessary for oxidative phosphorylation)

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Citric acid	77-92-9	3000	192.10	Organic compound; Carboxylic acid	592 mg/mL @ 20°C; ≥100 mg/mL @ 22°C	1=3.128 2=4.761 3=6.396 @ 25°C	-1.72	decomposes	Acidosis	NA	NA	NA
Colchicine	64-86-8	6 (mouse)	399.45	Organic compound; Polycyclic compound	45 mg/mL; ≥100 mg/mL @ 21°C	pK=12.35 @ 20°C; pKa=1.7 & 12.4	1.03		GI, liver, kidney, hemato-, PNS toxin	No	Not expected	Depresses respiratory center.
Cupric sulfate pentahydrate	7758-99-8	300	249.70	Inorganic compound; Sulfur compound; Metal	148 & 316 mg/mL @ 0°C; 2033 mg/mL @ 100°C; 230.5 mg/mL @ 25°C; 32 mg/mL @ 20°C; ≥100 mg/mL @ 21°C	NA	NA	decomposes @ 150°C	Liver, kidney toxin	Restricted	No	Hypothetical: Copper is reduced by thiol groups in cell membranes. superoxide is formed by reoxidation of copper, inducing lipid peroxidation.
Cycloheximide	66-81-9	2	281.40	Organic compound; Heterocyclic compound	21 mg/mL @ 2°C; 10-50 mg/mL @ 20°C	NA	0.55	NA	Liver toxin	Unknown	Metabolically activated	Inhibition of protein synthesis?; metabolic inhibitor
Dibutylphthalate	84-74-2	11998	278.30	Organic compound; Carboxylic acid	0.013 mg/mL @ 25°C; 0.01 mg/mL @ 20°C; <1 mg/mL @ 20°C	NA	4.9	340	CNS depressant; pulmonary, liver, testicular toxin	Yes[p]	Monobutyl metabolite has greater toxicity than parent in rats	Peroxisome proliferator[u]
Dichlorvos	62-73-7	17	220.98	Organic compound; Organophos-phorous compound	10 mg/mL @ 20°C; 5 g/mL; 10-50 mg/mL @ 20°C	NA	1.43, 1.45	245; 140 @ 20 mmHg	CNS depressant	Assumed due to CNS effects	Rapidly inactivated by hepatic metabolism	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS & effector organs; irreversible cholinesterase inhibitor

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Diethyl phthalate	84-66-2	8602	222.20	Organic compound; Carboxylic acid	<1 mg/mL @ 19°C and 25°C	NA	2.47	298	CNS depressant, liver toxin	Yes[m]	Monoethyl metabolite has greater toxicity than parent in rats	Peroxisome proliferator[u]
Digoxin	20830-75-5	18 (mouse)	780.90	Organic compound; Polycyclic compound; Carbohydrate	0.0648 mg/mL @ 25°C	NA	1.26	NA	Cardiotoxin	Restricted	Also active metabolites	Impairs ion transport & increases sarcoplasmic calcium by binding to Na^+/K^+ ATPase, increasing automaticity of cardiac cells.
Dimethylformamide	68-12-2	2800	73.10	Organic compound; Amide	Miscible; ≥100 mg/mL @ 22°C	-0.01 @ -20°C	-1.01	153	Liver, kidney toxin	NA	NA	Hepatocellular necrosis[u]
Diquat dibromide monohydrate	6385-62-2	231	362.10	Organic compound; Heterocyclic compound	700 mg/mL @ 20°C; ≥100 mg/mL @ 20°C	NA	-3.05	NA	GI, pulmonary, liver, kidney toxin	Free[n]	No[n]	Assumed to be same as Paraquat; Hypothetical: Multisystem failure due to depletion of superoxide dismutase, formation of free radicals & lipid peroxidation. Lung fibrosis due to accumulation.
Disulfoton	298-04-4	2	274.42	Organic compound; Organo-phosphorous compound; Sulfur compound	0.012 mg/mL @ 20°C	NA	4.02	132-33 @ 1.5 mmHg; 108 and 62 @ 0.01 mmHg	CNS depressant	Yes	More toxic metabolites	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS & effector organs; irreversible cholinesterase inhibitor
Endosulfan	115-29-7	18	406.91	Organic compound; Heterocyclic compound; Sulfur compound	0.00053 mg/mL @ 25°C	NA	3.83	106 @ 0.7 mm, partial decom-position	CNS depressant	Yes[o]	No[o]	Affects brain neurotransmitter levels.[o]

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Epinephrine bitartrate	51-42-3	4 (mouse)	333.30	Organic compound; Alcohol; Amine	1 mg/mL @ 25°C; < 0.1 mg/mL @ 18°C (for base)	NA	-1.52	NA	Cardiovascular toxin	No	Large first pass metabolism to inactive metabolites	Adrenergic receptor stimulation.
Ethanol	64-17-5	14008	46.07	Organic compound; Alcohol	>10% why include; ≥ 100 mg/ml @ 23°C	15.9 @ 25°C	-0.31	78.5	CNS depressant	Free	Acetaldehyde, active metabolite	Hypothetical: Interferes with cell membrane fluidity, perturbing proteins such as ion channels. Depression of postsynaptic potentials in CNS; solvent
Ethylene glycol	107-21-1	8567	62.07	Organic compound; Alcohol	Miscible; ≥ 100 mg/mL @ 17.5°C	NA	-1.36	197.6 @ 760 mmHg	CNS depressant, kidney toxin	Free	Glyoxalate, glycolate, & oxalate, active metabolites	Hypothetical: Metabolites inhibit mitochondria to produce metabolic acidosis. Oxalate decreases sarcoplasmic Ca^{++}; affects kidney function; oxalic acid is toxic metabolite
Fenpropathrin	39515-41-8	18	349.43	Organic compound; Nitrile; Ester; Ether	0.00033 mg/mL @ 25°C	NA	6.0 @ 20°C	377	PNS toxin	Yes[p]	Rapidly hydrolyzed to inactive products in mammals[e,p]	Delays closure of sodium channel causing persistent depolarization of membrane.
Gibberellic acid	77-06-5	6305	346.38	Organic compound; Polycyclic compound	5 mg/mL; slightly	4	0.24	NA	NA	NA	NA	NA
Glutethimide	77-21-4	600	217.30	Organic compound; Heterocyclic compound	Practically insoluble	4.2	1.9	NA	CNS depressant	Presumed	2X active metabolite: 4-hydroxyglu-thethimide	CNS depression; anticholinergic activity
Glycerol	56-81-5	12691	92.09	Organic compound; Alcohol	Soluble in all proportions; ≥ 100 mg/mL @ 18°C	14.4	-1.76	182; 290 @ 760 mmHg, decomposes	Body fluids	No evidence found	No	Cellular dehydration; osmotic effect

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Haloperidol	52-86-8	128	375.90	Organic compound; Ketone	0.014 mg/mL	8.3	3.36	NA	CNS depressant	Presumed	No	Blocks dopamine receptors
Hexachlorophene	70-30-4	61	406.91	Organic compound; Cyclic hydrocarbon; Phenol	0.140 mg/mL @ 25°C; < 1 mg/mL @ 20°C	4.95	6.91	NA	CNS depressant	Restricted	No	Hypothetical: Uncoupling of oxidative phosphorylation. Binding to proteins in cytoplasmic membrane & cell organelles.
Lactic acid	50-21-5	3730	90.08	Organic compound; Carboxylic acid	Soluble	3.86 @ 25°C	-0.72	122 @ 14-15 mmHg	Acidosis, corrosive	Yes[g]	Unknown	Disturbance of metabolism (lactic acidosis).
Lindane	58-89-9	76	290.80	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	0.0073 mg/mL @ 25°C; < 1 mg/mL @ 24°C	NA	3.72	323.4 @ 760 mmHg	CNS stimulant	Free	No?	CNS depression through inhibition of GABA receptor linked chloride channel at the picrotoxin binding site, leading to blockade of chloride influx into neurons?
Lithium I carbonate	554-13-2	1187 (sulfate salt; mouse)	73.89	Inorganic compound; Lithium compound; Alkalies; Inorganic carbon compound	1.5 mg/mL @ 0°C; 1.3 mg/mL @ 20°C; 1.2 mg/mL @ 40°C; 12.2 mg/mL cold; 7 mg/mL hot	NA	NA	NA	CNS depressant	Restricted (assumed same as lithium sulfate)	No	Unknown: Partial substitution for normal cations of cells may disturb energy processes?
Meprobamate	57-53-4	794	218.30	Organic compound; Carboxylic acid	3.4 mg/mL @ 20°C; 7.9 mg/mL @ 37°C; < 1 mg/mL @ 20°C	9.2	NA	NA	CNS depressant cardiotoxin	NA	Rapidly inactivated by hepatic metabolism	Unknown

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Mercury II chloride	7487-94-7	1	271.50	Inorganic compound; Mercury compound; Chlorine compound	69 mg/mL at 20°C; 5-50 mg/mL @ 22°C	NA	0.22	302	Corrosive, kidney toxin	Restricted	No	Hypothetical: Changes membrane potentials & blocks enzyme reactions in cells by targeting the sulfhydryl part of active sites of some enzymes.
Methanol	67-56-1	13012	32.04	Organic compound; Alcohol	Completely miscible at 20°C; ≥100 mg/mL @ 21°C	15.3	-0.77	64.7 @ 760 mmHg	CNS depressant	Free	Active metabolites: formadehyde, formic acid	Hypothetical: Accumulation of formic acid leads to metabolic acidosis. Lactate inhibits mitochondrial respiration; formaldehyde metabolite
Nicotine	54-11-5	50	162.20	Organic compound; Heterocyclic compound	Miscible below 60°C	pK_{b1}=6.16 @ 15°C; pK_{b2}=10.96	1.17	247	CNS stimulant	Free	No	CNS nicotinic receptor; cholinergic block causing polarization of CNS and PNS synapses.
Paraquat	1910-42-5	58	257.20	Organic compound; Heterocyclic compound	Soluble; ≥100 mg/mL @ 19°C	NA	-4.22 @ pH 7.4	175-180 @ 760 mmHg, decomposes	Pulmonary toxin	Free?	No	Multisystem failure due to depletion of superoxide dismutase, with formation of free radicals & lipid peroxidation. Lung fibrosis due to accumulation; interferes with ATP synthesis.
Parathion	56-38-2	2	291.28	Organic compound; Organo-phosphorous compound; Sulfur compound	0.011 mg/mL @ 20°C; <1 mg/mL @ 23°C	NA	3.83	375 @ 760 mm Hg	CNS depressant	Free (assumed the same as malathion)	Paraoxon is active metabolite.	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS & effector organs; irreversible cholinesterase inhibitor

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Phenobarbital	50-06-6	163	232.23	Organic compound; Heterocyclic compound	1 mg/mL; 1.3 mg/mL at 25°C; <0.1 mg/mL @ 14°C	pK_1=7.3, pK_2=11.8	1.47	NA	CNS depressant	Free	No	Neurotoxic; CNS depression through inhibition of GABA synapses? Inhibits hepatic NADH cytochrome oxidoreductase;
Phenol	108-95-2	414	94.11	Organic compound; Phenol	67 mg/mL; 82.8 mg/mL @ 25°C; 93 mg/mL @ 25°C; 50-100 mg/mL @ 19°C	NA	1.46	182 @ 760 mm Hg	Corrosive; CNS depressant	Free	No	General protoplasmic poison that denatures proteins; depresses vasomotor center
Phenylthiourea	103-85-5	3.0	152.20	Organic compound; Sulfur compound; Urea	2.5 mg/mL @ 25°C; <1 mg/mL @ 21°C	NA	0.71	NA	Pulmonary toxin	NA	Humans & animals have high capacity to detoxify sulfides	Destroys cytochrome p450; interferes with pulmonary, thyroid functions.
Physostigmine	57-47-6	4.5	275.40	Organic compound; Carboxylic acid; Heterocyclic compound	Slightly soluble	NA	NA	NA	CNS depressant	Easily	None known	Inhibition of acetylcholinesterase resulting in acetylcholine accumulation in CNS & effector organs.
Potassium I chloride	7447-40-7	2602	74.55	Inorganic compound; Potassium compound; Chlorine compound	342 mg/mL @ 20°C; >100 mg/mL @ 20°C	NA	NA	1500	Cardiotoxin	Free?	No	Essential cellular electrolyte maintains normal transmembrane potential, necessary for heart conduction.
Potassium cyanide	151-50-8	10	65.12	Inorganic compound; Potassium compound; Nitrogen compound	500 mg/mL cold; 1000 mg/mL hot	NA	NA	NA	CNS stimulant, corrosive	Free	No	General enzyme inhibition. Interferes with ATP synthesis. High affinity for Fe^{+++}. Inhibits cell respiration by inhibition of cytochrome oxidase.
Procainamide HCl	51-06-9	1950	271.79	Organic compound; Carboxylic	Freely soluble	NA	NA	NA	CNS depressant, cardiotoxin	Some	Less potent[r]; active metabolite[c]	Slows impulse conduction in the heart?[r]

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
				acid; Amide								
2-Propanol	67-63-0	5843	60.10	Organic compound; Alcohol	≥100 mg/mL @ 22°C	NA	0.05	82.3	CNS depressant	Free	No.	CNS depression through membrane effects[u]
Propranolol HCl	350-60-90	470 (mouse)	295.80	Organic compound; Alcohol; Amine; Polycyclic compound	Soluble	NA	3.09	NA	Cardiotoxin	Free	No?	Unknown: Beta-adrenergic blockade?
Propylparaben	94-13-3	6326 (mouse)	180.20	Organic compound; Carboxylic acid; Phenol	0.463 mg/mL @ 25°C; <1 mg/mL @ 12°C	NA	3.04	NA	CNS depressant	NA	NA	NA
Sodium arsenite	7784-46-5	41	129.90	Inorganic compound; Arsenical; Sodium compound	Very to freely soluble	NA	NA	NA	PNS, liver, hematotoxin	Yes	Not expected	Assumed the same as arsenic trioxide - causes multisystem failure due to uncoupling of oxidative phosphorylation & inhibition of pyruvate & succinate oxidative pathways.
Sodium chloride	7647-14-5	2998	58.44	Inorganic compound; Sodium compound; Chlorine compound	357 mg/mL @ 0°C; 391.2 mg/mL @ 100°C	NA	NA	1413°C	Body fluids	Restricted	No	Acute dehydration of brain cells caused by osmotic shift of water to the outside of the blood:brain barrier.
Sodium dichromate dihydrate	7789-12-0	50	298.00	Inorganic compound; Sodium compound; Chromium compound	2380 mg/mL @ 0°C	NA	NA	decomposes @ 400	Kidney, liver toxin	Yes[s]	Less active in presence of metabolizing system	Inhibition of respiratory chain activity; carcinogenic

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Sodium I fluoride	7681-49-4	180	41.99	Inorganic compound; Sodium compound; fluorine compound	43 mg/mL @ 25˚C; 10-50 mg/mL @ 23˚C	NA	NA	NA	GI irritant, CNS depressant	Restricted	No	Hypothetical: Protoplasmic poison interfering with many enzymes. May lower sarcoplasmic Ca^{++} & induce K^{+} efflux from cells.
Sodium hypochlorite	7681-52-9	8910	74.44	Inorganic compound; Sodium compound; Oxygen compound; chlorine compound	293 mg/mL @ 0˚C	NA	NA	111	Corrosive, body fluids	NA	NA	NA
Sodium oxalate	62-76-0	155	134.00	Organic compound; Carboxylic acid	220 mg/mL @ 25˚C	NA	NA	NA	Corrosive, body fluids, kidney & cardiotoxin, CNS depressant	Restricted	No	Hypothetical: Ca^{++}-complexing action, depressing the level of ionized Ca^{++} in body fluids, but doesn't explain action on GI, vasculature, & kidney. Corrosivity not due to acidity.
Sodium selenate	13413-01-0	1.6	188.90	Inorganic compound; Sodium compound; Selenium compound	≥ 100 mg/mL @ 21˚C	NA	NA	NA	Liver, kidney toxin	Yes[t]	Not expected	Inactivates sulfhydryl enzymes for oxidative reactions in cellular respiration.[t]
Strychnine	57-24-9	2	334.40	Organic compound; Heterocyclic compound	0.16 mg/mL @ 25˚C	8.26 @ 25˚C	1.93	270 @ 5 mmHg	CNS stimulant	Expected	No	Increases glutamic acid in the CNS. Alkaloid poison.

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Thallium I sulfate	7446-18-6	29 (mouse)	504.80	Inorganic compound; Metal; Sulfur compound	48.7 mg/mL @ 15°C; 191.4 mg/mL @ 100°C	NA	NA	NA	GI irritant, CNS toxin (encephalo-pathy)	Restricted	No	Hypothetical: Enzyme inhibition by binding sulfhydryl groups of mitochondrial membranes. Interferes with oxidative phosphorylation by inhibition of Na^+/K^+ ATPase.
Trichloroacetic acid	76-03-9	4999	163.40	Organic compound; Carboxylic acid	10 g/mL @ 25°C; 1200 mg/mL @ 25°C; 13.06 g/mL @ 25°C; ≥100 mg/mL @ 22°C	NA	1.33	196	GI corrosion, acidosis	Expected	Not expected	Corrosive; possible carcinogen
1,1,1-Trichloroethane	71-55-6	10298	133.41	Organic compound; Halogenated hydrocarbon	4.4 mg/mL @ 20°C; <1 mg/mL @ 20°C	NA	2.49	76	CNS depressant; liver toxin	Free	No.	Arrhythmogenic[u]
Triethylenemelamine	51-18-3	1.0	204.23	Organic compound; Heterocyclic compound	400 mg/mL @ 26°C; <1 mg/mL @ 16°C	NA	-0.54	139 (decomposes)	Hemato-, liver, kidney toxin	Unknown	Expected since it's an alkylator	Genotoxic; binds with DNA; alkylating agent; alkylates proteins
Triphenyltin hydroxide	76-87-9	44	367.02	Organic compound; Organo-metallic compound	0.0012 mg/mL; <1 mg/mL @ 21°C	NA	NA	NA	CNS toxin (encephalo-pathy), skin & GI irritant	Rapidly	No	Affects a number of enzymes involved in cellular energy production and use. Affects immune system; causes lymphopenia; clastogenic
Valproic acid	99-66-1	670 (mouse)	144.20	Organic compound; Carboxylic acid; Lipids	2 mg/mL @ 20°C; 1.27 mg/mL; <1 mg/mL @ 22°C	NA	2.75	220	CNS depressant, liver toxin	Yes	Some metabolites may be active	Increases GABA in the CNS?

Table F-2 Chemical, Physical, and Biological Information from the Literature for the 72 Reference Substances

Chemical	CASRN	LD_{50} (mg/kg)[a]	MW (g/mol)	Chemical Class[b]	Water Solubility[c]	pK[d]	log Kow[c]	Boiling Point (°C)[d]	Toxic Effect Class[f]	Passage of Blood: Brain Barrier[g]	Metabolic Activation/ Inactivation[f]	Mechanism of Lethaliy[f]
Verapamil HCl	152-11-4	108	491.08	Organic compound; Amine	70 mg/mL	NA	3.79	NA	Cardiotoxin	Restricted?	Also active metabolites	Inhibition of transmembrane Ca^{++} flux in excitatory tissues. Cardiac-Ca^{++} channel blocker. Also alpha-adrenergic blockade.
Xylene	1330-20-7	4300	106.17	Organic compound; Cyclic hydrocarbon	Practically insoluble; <1 mg/mL @ 22°C	NA	3.12-3.2	136-140	CNS depressant	Free	No	Unknown: Heart failure caused by sensitization of heart to catecholamines?; solvent

Abbreviations: MW=Molecular weight; NA=No information found; NADPQI=N-acetyl-*p*-benzoquinoneimine; CNS=Central nervous system; AMP=Adenosine monophosphate; GABA=Gamma aminobutyric acid; GI=Gastrointestinal; PNS=Peripheral nervous system; NADH=Nicotine adenine dinucleotide (reduced).

[a]LD_{50} data from Registry of Cytotoxicity (Halle 1998), Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002), or Registry of Toxic Effects of Chemical Substances® (MDL information Systems 2001, 2002). Rat data unless otherwise noted. Rounded to the nearest one.

[b]Based on the Medical Subject Heading [MeSH] index (NLM 2005).

[c]Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002) and NTP Chemical Health and Safety Data (2001) at http://ntp-server.niehs.nih.gov/Main_Pages/Chem-HS.html. The NTP database is no longer available. NTP values can be identified by the use of the following symbols: <, >, and ≥. Conditions are reported if available.

[d]Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002) unless otherwise specified. pK measured under the conditions specified. If no conditions were specified, none are reported.

[e]Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002) or Material Safety Data Sheets. Boiling point measured under the conditions specified. If no conditions were specified, none are given.

[f]Ekwall et al. (1998) or Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001, 2002) unless otherwise noted.

[g]Cosmetic Ingredient Review Panel (1983).

[h]Orphan Medical (1999).

[i]Glaxo Wellcome (2000).

[j]ATSDR (1999).

[k]EPA (2000b).

[l]ATSDR (2001).

[m]ATSDR (1995).

[n]EPA (1995).

[o]ATSDR (2000a).

[p]ATSDR (2004a).

[q]Ames (2000).

[r]Hardman et al. (1996).

[s]ATSDR (2000b).

[t]ATSDR (2004b).

[u]Casarett et al. (2001).

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix F3

Candidate Reference Substances

[This Page Intentionally Left Blank]

F.3 Candidate Reference Substances

F.3.1 Sources of Candidate Substances

The process of identifying the 72 reference substances started with the compilation of a database that ultimately contained 116 candidate substances. The intent of the SMT was to compile a database with more than 12 substances in each toxicity category that also met the other criteria, and then to prioritize the substances in each category to select the 72 reference substances to be tested. As recommended by the Workshop 2000 participants (ICCVAM 2001a), the following publicly available databases and other indicated sources were used to identify candidate chemicals:

- The MEIC program, which collected human toxicity data and *in vitro* toxicity data from 61 test methods for the first 50 chemicals (Ekwall et al. 1998). The ECVAM members of the SMT preferred these chemicals since human acute toxicity data had already been collected.
- The RC (Halle 1998, 2003), which contains a compilation of *in vitro* cytotoxicity and *in vivo* rodent LD_{50} data for 347 chemicals
- The Toxic Exposure Surveillance System (TESS) (Litovitz et al. 2000), which compiles reports of toxic human exposures from poison control centers throughout the United States
- Pesticides recommended for consideration by the EPA Office of Pesticide Programs (OPP)
- The *Guidance Document* (ICCVAM 2001b), which reported *in vitro* NRU results for 11 RC chemicals using protocols similar to those used in the NICEATM/ECVAM validation study
- The U.S. NTP test database, which contains information on the toxicity of chemicals relevant to human exposure (NTP 2002)
- The EPA High Production Volume (HPV) Challenge Program, which is a voluntary testing program to provide the public with a complete set of baseline health and environmental effects data for each chemical that is manufactured within or imported into the United States at amounts > 1 million pounds/year (EPA 2000a)

F.3.2 Selection of Candidate Substances

The 116 candidate substances consisted of the 72 reference substances selected for testing in the NICEATM/ECVAM validation study (see **Table 3-2**) and the alternate substances that were not selected for testing (see **Table F3-1**). The alternate candidate substances in **Table F3-1** are grouped by GHS acute oral toxicity classification. For each reference substance, the table provides the corresponding rat or mouse oral LD_{50} value, the database(s) or other source(s) used to identify the chemical as a potential candidate, notes on volatility and/or DEA restrictions, and the type of product and/or use for the substance. Product/use categories were identified from HSDB (NLM 2001, 2002) or RTECS® (MDL Information Systems 2001, 2002).

The final list of candidate substances, which includes the substances in **Table 3-2** and **Table F3-1**, included:

- Sixty-five MEIC chemicals. These include the first 50 chemicals evaluated by MEIC as well as another 15 chemicals that were identified for future evaluation (C. Clemedson, personal communication 2001). Twenty of these chemicals were identified for the EDIT program, a follow-on project to the MEIC study to develop supplementary toxicity and kinetic tests (to determine distribution of chemicals in the body and biotransformation of chemicals to more toxic metabolites) to improve the prediction of human toxicity by the battery of tests identified as the best predictors in the MEIC program (Clemedson et al. 2002). The EDIT chemicals were selected by excluding MEIC chemicals that were volatile, those that precipitated at the IC_{50} dose level, and those with sparse or insufficient data on human toxicity or mechanism of acute toxicity.
- Sixteen pesticides with extensive human exposure nominated by the EPA OPP. These included fenpropathrin, endosulfan, bromoxynil (phenol), fipronil, carbaryl, rotenone, metaldehyde, molinate, 1,3-dichloropropene, dichlorvos, chlorpyrifos, sodium arsenite, triphenyltin hydroxide,

cycloheximide, acrolein, and boric acid. Pentachlorophenol was also nominated, but was already on the candidate list since it was a MEIC chemical.

- Five substances associated with the highest incidence of toxic exposures reported by U.S. poison control centers participating in the TESS (Litovitz et al. 2000): hypochlorite, acetaminophen, ethanol, diphenhydramine, and isopropanol. The five chemicals with the greatest incidence of toxic exposures among children were the same, except that oxalate replaced ethanol. Most of these chemicals were already identified as candidate substances due to their inclusion in the MEIC study. Since hypochlorite (sodium salt) and diphenhydramine, were not already included, they were added to the list of candidates.
- Eleven substances recommended in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b) for qualifying *in vitro* cytotoxicity assays for the prediction of starting doses using the RC regression. These substances were recommended because the IC_{50} and LD_{50} data for these substances fit the RC regression line extremely well. These chemicals were sodium dichromate dihydrate, cadmium chloride, p-phenylenediamine, DL-propranolol HCl, trichlorfon, ibuprofen, nalidixic acid, salicylic acid, antipyrene, dimethylformamide, and glycerol
- Sixteen substances from the NTP database
    - Furfural, methyleugenol, and methylphenidate, scheduled for testing by the NTP National Center for Toxicogenomics (NCT) (G. Boorman, personal communication 2001), were added. Acetaminophen, another hepatotoxin to be tested by the NCT, was already a candidate substance because it was included in the MEIC study. Chromium (VI), recommended by the NTP for consideration due to the potential for human exposure via drinking water (NTP 2002) was represented in the list of candidate substances by sodium dichromate dihydrate, which was also recommended in the *Guidance Document* (ICCVAM 2001b).

  - Dibutyl phthalate, 5-aminosalicylic acid, propylparaben, gibberellic acid, and diethyl phthalate were added to increase the number of chemicals with LD_{50} values >5000 mg/kg.
  - Trichloroacetic acid was added to increase the number of substances in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category.
  - Sodium selenate was added to increase the number of chemicals in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg category to 12.
  - Six chemicals that were also on the HPV list were added. Lactic acid, citric acid, and acetonitrile were added to increase the number of chemicals in the $2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg category. Tert-butylamine, 2,4-dinitrophenol, and acrolein were added to increase the number of chemicals in the $5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg category.
- Eight additional RC substances in the $LD_{50} \leq 5$ mg/kg category. These were: triethylenemelamine, busulfan, disulfoton, parathion, aminopterin, phenylthiourea, epinephrine bitartrate, and aflatoxin B1.

The goal to identify more than 12 candidate substances for each toxicity category was unrealized for three toxicity categories. The most toxic category ($LD_{50} \leq 5$ mg/kg), and least toxic categories ($2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg, $LD_{50} > 5000$ mg/kg), contained only 12 candidate substances each. The intermediate toxicity categories ($50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg, $300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg), however, contained two to three times the minimum number of candidate chemicals.

Table F3-1 Alternate Candidate Substances

GHS Category[1]/Chemical	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Notes[5]	Product/Use[4]
$LD_{50} \leq 5$ mg/kg				
Aflatoxin B1	5.0	RC (outlier)	Prohibitively expensive	Food contaminant
$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg				
2,4-Dinitrophenol	30	RC (outlier), NTP, HPV		Pesticide (fungicide/ insecticide) manufacturing
t-Butylamine	44[a]	EPA, NTP, HPV		Manufacturing
Acrolein	46	RC, TESS, EPA, NTP, HPV	Volatile (BP=52°C)	Pesticide (herbicide/ rodenticide/ algicide), manufacturing
$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg				
Pentachlorophenol	51	MEIC, RC (outlier), NTP		Disinfectant
Amphetamine sulfate	55	MEIC, EDIT, RC (outlier), TESS, NTP	DEA	Pharmaceutical (stimulant)
Rotenone	60	RC, TESS, EPA, NTP		Pesticide (insecticide/ piscicide)
Furfural	65[a]	NTP, HPV		Solvent, food additive
p-Phenylenediamine	80	RC, GD, NTP, HPV		Dyeing
Chlorpyrifos	82[a]	TESS, EPA, NTP		Pesticide (insecticide)
Dextropropoxyphene HCl	83	MEIC, RC (outlier), TESS		Pharmaceutical (analgesic)
Methadone	86[a]	MEIC,TESS, NTP	DEA	Pharmaceutical (analgesic)
Fipronil	92[a]	EPA		Pesticide (insecticide)
Pentobarbital	125	MEIC, RC TESS	DEA	Pharmaceutical (sedative)
Bromoxynil (phenol)	190[a]	EPA		Pesticide (herbicide)
Diphenylhydantoin	199	MEIC, RC, TESS, NTP		Pharmaceutical (anticonvulsant)
Metaldehyde	227[a]	TESS, EPA		Pesticide (molluscicide)
Carbaryl	230	RC, EPA. NTP		Pesticide (insecticide)
$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg				
Ferrous sulfate	319	MEIC, RC, TESS		Food additive
Warfarin	324	MEIC, RC, TESS, EPA		Pharmaceutical (anticoagulant), pesticide
Disopyramide	333[a]	MEIC, TESS		Pharmaceutical (antiarrythmic)
Barium II nitrate	355	MEIC, RC, TESS, NTP		Pyrotechnic
Thioridazine HCl	358	MEIC, RC, TESS		Pharmaceutical (antipsychotic)
Methylphenidate	367[a]	NTP	DEA	Pharmaceutical (stimulant)
Molinate	369[a]	EPA, NTP		Pesticide (herbicide)

Table F3-1 Alternate Candidate Substances

GHS Category[1]/Chemical	Rodent Oral LD_{50}[2] (mg/kg)	Source[3]	Notes[5]	Product/Use[4]
2,4-Dichlorophenoxy-acetic acid	369	MEIC, RC, TESS, EPA, NTP, HPV		Pesticide (herbicide)
Orphenadrine HCl	425	MEIC, RC, NTP		Pharmaceutical (analgesic)
Trichlorfon	451	RC, EPA, GD, NTP		Pesticide (insecticide)
Quinidine sulfate	456	MEIC, RC, NTP (base)		Pharmaceutical (antiarrhythmic)
1,3-Dichloropropene	470[a]	TESS, EPA, NTP		Pesticide (nematocide)
Theophylline	600 [b]	MEIC, RC, TESS, NTP		Pharmaceutical (antiasthmatic)
Isoniazid	650	MEIC, RC, TESS, NTP		Pharmaceutical (antibiotic)
Diazepam	709	MEIC, EDIT, RC, TESS, NTP	DEA	Pharmaceutical (anxiolytic)
Maprotiline	760[a]	MEIC, TESS		Pharmaceutical (antidepressant)
Methyleugenol	810[a]	NTP		Food additive
Diphenhydramine HCl	855	MEIC, RC, TESS, NTP		Pharmaceutical (antihistamine)
Malathion	885	MEIC, EDIT, RC, TESS, EPA, NTP		Pesticide (insecticide)
Salicylic acid	891	RC, TESS, GD, NTP, HPV		Pharmaceutical (analgesic)
Chloroform	908	MEIC, RC, NTP, HPV	Volatile (BP=61°C)	Solvent
Chloroquine diphosphate	970	MEIC, RC		Pharmaceutical (antimalarial))
Ibuprofen	1009	RC, TESS, GD		Pharmaceutical (analgesic)
Nalidixic acid	1349	RC, GD, NTP		Pharmaceutical (antibiotic)
Dichloromethane	1597	MEIC, RC, TESS, NTP, HPV	Volatile (BP=40°C)	Solvent
Antipyrene	1800	RC, GD		Pharmaceutical (analgesic)

[1]GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals for acute oral toxicity (UN 2005).
[2]LD_{50} data are from the Registry of Cytotoxicity (Halle 1998) and are for rats, the preferred species for oral acute toxicity studies, unless otherwise noted. Data with decimal places are rounded to the nearest one.
[3]Sources used to identify candidate chemicals: EDIT=Evaluation-guided Development of New *In Vitro* Test Batteries; EPA=Pesticides registered with the Environmental Protection Agency; EHS=EPA's Extremely Hazardous Substance list; HPV=High Production Volume chemicals (i.e., those that are imported into or produced in the United States in amounts ≥ 1,000,000 lbs/year; GD=*Guidance Document* (ICCVAM 2001b); MEIC=Multicentre Evaluation of *In Vitro* Cytotoxicity; NTP=National Toxicology Program; RC=Registry of Cytotoxicity with chemicals classified as regression outliers shown in parentheses; TESS=Toxic Exposure Surveillance System (Litovitz et al. 2000).
[4]Product/use categories from Hazardous Substances Data Bank (NLM 2002) or Registry of Toxic Effects of Chemical Substances ([RTECS®], MDL Information Systems 2002). Pharmaceutical uses from Gilman et al. (1985) or Thomson PDR® (2004).
[5]Only chemicals expected to be too volatile for the cytotoxicity assay system have "volatile" notations. BP=Boiling point. DEA (U.S. Drug Enforcement Agency) refers to Schedule II controlled substances. Chemicals with no "DEA" notation are expected to be under less strict control.
[a]RTECS® (MDL Information Systems 2002).
[b]Mouse

Appendix G

STATEMENT OF WORK (SOW)

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix G1

A Validation Study For *In Vitro* Basal Cytotoxicity Testing

[This Page Intentionally Left Blank]

STATEMENT OF WORK

A VALIDATION STUDY FOR *IN VITRO* BASAL CYTOTOXICITY TESTING

BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Assay
and
Normal Human Keratinocyte Neutral Red Uptake Cytotoxicity Assay

June 21, 2002

Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

Based on Standard Operating Procedure Recommendations from an International Workshop Organized by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

Table of Contents

STATEMENT OF WORK

A VALIDATION STUDY FOR *IN VITRO* BASAL CYTOTOXICITY TESTING

BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Assay
and
Normal Human Keratinocyte Neutral Red Uptake Cytotoxicity Assay

1.0 PROJECT OBJECTIVES AND GENERAL REQUIREMENTS

1.1 Project Objectives

This Statement of Work outlines and supports the procedures for performing two *in vitro* basal cytotoxicity assays (the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake [NRU] assay and the Normal Human Keratinocyte [NHK] Neutral Red Uptake [NRU] assay) for analysis of test chemicals for a multi-laboratory *in vitro* Validation Study. These *in vitro* assays, recommended in *Guidance Document On Using In Vitro Data To Estimate In Vivo Starting Doses For Acute Toxicity* (ICCVAM, 2001a) use mammalian cell culture techniques to assess the basal cytotoxicity of chemicals.

A primary goal of this Validation Study is to evaluate the usefulness and effectiveness of *in vitro* basal cytotoxicity assays for reducing and refining animal use for acute oral toxicity determinations of chemicals by predicting starting doses for *in vivo* rodent acute lethality assays. Participants at an international workshop (ICCVAM, 2001b) suggested that a validation study for *in vitro* assays is needed to continue the development of alternative tests as replacements for animal testing. This is the first step to further standardization and evaluation of two test methods that may be used in conjunction with other methods as components of a test battery which may eventually replace the rodent acute oral toxicity tests.

Data will be used to:

1) Develop standardized *in vitro* basal cytotoxicity protocols with sufficient detail and instruction for distribution to other laboratories (e.g., Federal regulatory agencies) for their immediate use,
2) Evaluate the intra- and inter-laboratory reproducibility of the assays (i.e., to access test reproducibility and optimize to further enhance reproducibility),
3) Determine the reduction in the number of animals that would be used and/or killed in lethality assays compared with the conventional method of predicting starting doses, and
4) Assess the relevance of the two standardized *in vitro* cytotoxicity assays for estimating rodent oral LD50 values across the six Globally Harmonised System (GHS; OECD, 2001) categories of acute oral toxicity and estimating human lethal concentrations.

This study will test the hypothesis of the Registry of Cytotoxicity (RC) prediction model (Halle, 1998) by comparing the NRU regressions that are developed from the two assays to the RC regression. The hypothesis is that the two NRU assays will provide the same regression as the RC (i.e., comparison of IC_{50} data vs. LD_{50} data).

The proposed Validation Study will provide the means to determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for a test set of 72 chemicals with varying degrees of toxicity. This set of chemicals was selected separate and prior to this Statement of Work by the Study Management Team. The

basis for selection of this test set is discussed in the Study Design document prepared by the Study Management Team.

1.2 Response to the Statement of Work

The proposals submitted in response to the Statement of Work to the designated contacts shall include:

a) A timetable for project milestones
b) A cost estimate for performing all testing (both assays) in all phases of the Validation Study.
c) Cost estimates for repeating Phases Ia, Ib, and II as options, if necessary (see **Sections 4.2.2, 4.2.4, and 4.3.2**).
d) Cost for a third replicate of Phase III testing as an option, if necessary
e) Cost of software for data analysis (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) not to exceed $500.

1.2.1 *General Capabilities*

The contracted laboratories (Testing Facilities) shall be capable of performing the following:

a) The Testing Facilities shall prepare Standard Operating Procedures (SOPs) for the 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay (see **Section 1.4** – Definitions - SOPs)
b) The Testing Facilities shall perform the 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay (under aseptic *in vitro* laboratory conditions) for the three phase Validation Study as identified in **Section 4.0**.
c) The Testing Facilities shall provide IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for each tested chemical and other information addressed in this document (e.g., phase reports) to the Study Management Team through the designated contacts (**Section 2.2**).
d) Testing Facilities that are compliant with Good Laboratory Practices (GLP) shall perform all aspects of the Validation Study in accordance with GLPs.
e) Testing Facilities that are not GLP-compliant shall perform all aspects of the Validation Study "in the spirit" of GLP which is defined in **Section 1.4** and addressed throughout this Statement of Work.
f) All Testing Facilities shall adhere to this Statement of Work throughout the Validation Study.

1.3 Guidelines

The Management Team and/or its representatives may inspect and audit the Testing Facilities used for this study to ensure that the Study Management Team's minimum requirements and guidelines are being followed. The contractor shall notify the Study Management Team of any changes in Key Personnel (identified in Section 3.1.1)

1.4 Definitions

Blinded/Coded Chemicals: Test chemicals supplied to the Testing Facilities that are coded (by an NIEHS/NTP-designated contractor) such that the Testing Facilities do not know the identity of the chemicals. Only the Project Officer, Management Team, and contractor know the contents of each test chemical vessel. The test chemicals will be purchased, aliquoted, coded, and distributed by a contractor under the guidance of the NIEHS Project Officer and the Management Team.

Good Laboratory Practices (GLPs): Regulations governing the conduct, procedures, and operations of toxicology laboratories; regulations to assure the quality and integrity of the data and to address such matters as organization and personnel, facilities, equipment, facility operations, test and control articles, and Validation Study protocol (Statement of Work) and

conduct (U.S. Food and Drug Administration, Title 21 CFR Part 58; Environmental Protection Agency, Title 40 CFR Part 160).

IC_X: Inhibitory concentration estimated to affect endpoint in question by X % (IC_{20} = 20 % affected; IC_{50} = 50 % affected; IC_{80} = 80 % affected).

Lead Laboratory (Protocols): A designated laboratory (identified by the Study Management Team and different from the lead laboratory for data analysis) with experience in each cytotoxicity method. The laboratory will assist the Study Management Team with troubleshooting laboratory challenges; the lead laboratory shall develop a study protocol from the Statement of Work and the Test Method Protocols that shall be used by all laboratories in the Validation Study.

Lead Laboratory (Data Analysis): A designated laboratory (identified by the Study Management Team and different from the lead laboratory for protocols) with experience in data analysis specific to the software that will be used in the study; The laboratory will assist the Study Management Team with troubleshooting data analysis challenges.

Replicate: An independent test run on different days (e.g., duplicate 96-well plates for a particular test chemical, each plate a replicate assay); replicate wells within the 96-well plate (e.g., six wells of one test chemical concentration equals six replicate wells).

Spirit of GLP: Laboratories that are non GLP-compliant shall adhere to GLP principles and other method parameters as put forth in this Statement of Work and the Test Method Protocols (provided by NIEHS/NICEATM); documentation and accountability shall be equal to GLP requirements; laboratories must make assurances that they are equal in performance criteria and that there is parity amongst the laboratories.

Standard Operating Procedures (SOPs): Written documents that describe, in great detail, the routine procedures to be followed for a specific operation, analysis, or action; consistent use of an approved SOP ensures conformance with organizational practices, reduced work effort, reduction in error occurrences, and improved data comparability, credibility, and defensibility; SOPs also serve as resources for training and for ready reference and documentation of proper procedures; each Testing Facility involved in the Validation Study shall draft SOPs specifically for its laboratories based on: protocols supplied by commercial sources specifically for cell culture products and cell lines; this Statement of Work and the Test Method Protocols provided by NIEHS/NICEATM, and the study protocol developed by the lead laboratory.

Statement of Work: A description of testing required for the *in vitro* Validation Study; defines all phases of the Validation Study and the purpose of the procedures; provides the details of the experimental design, data acquisition, data analysis, and preparation of reports; supports Test Method Protocols (equivalent to GLP protocols) and acts as a study plan.

Study Protocol: A description of the objectives and all methods for the conduct of the study (i.e., same as "protocol" according to GLP guidelines, 40 CFR 792, at http://www.ovpr.uga.edu/qau/tscatoc.html. The Study Protocol shall be developed from the Test Method Protocols for NHK and 3T3 NRU assays, which accompany this Statement of Work. The Study Protocol shall contain information such as the title and purpose of the study, name and address of the sponsor, the name and address of the testing facility at which the study is being conducted, proposed experimental start and termination dates, and other items specified in 40 CFR 792.

Test Method Protocols: Specific and detailed guides for performing the 3T3 NRU and NHK NRU cytotoxicity assays; adapted by NICEATM from protocols included in ICCVAM (2001a); equivalent to GLP protocols; protocols shall be incorporated into the SOPs specific to each Test Facility in the Validation Study.

2.0 ORGANIZATION

2.1 Validation Study Sponsors

- National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
- The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)
- U.S. Environmental Protection Agency (U.S. EPA)
- The European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM).

2.2 Management Team

2.2.1 *Study Management Team*

2.2.1.1 ***NIEHS/NICEATM***

Dr. William S. Stokes (NICEATM/NIEHS) – Co-chair – Study Management Team
Dr. Judy Strickland (NICEATM/ILS) – Project Coordinator
Mr. Michael Paris (NICEATM/ILS) – Assistant Project Coordinator
Dr. Ray Tice (NICEATM/ILS) – Technical Advisor

NICEATM
79 T.W. Alexander Drive
Bldg. 4401, MD-EC-17
3rd Floor, Room 3126
P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

2.2.1.2 ***ECVAM***

Professor Michael Balls – Co-chair – Study Management Team
Dr. Silvia Casati
Dr. Andrew Worth

European Commission
Joint Research Centre
Institute for Health and Consumer Protection
Management Support Unit - TP 202
I-21020 Ispra (VA) - Italy

2.2.2 *Project Management and Chemical Distribution Team*

Ms. Molly Vallant (NIEHS) – NIEHS Project Officer for BioReliance, Inc.
Dr. Martin L. Wenk (BioReliance, Inc., Rockville, MD) – Principal Investigator/Chemical Distribution

2.2.3 *Contract Management*

Ms. Jackie Osgood (NIEHS) – Contracting Officer
Mr. Don Gula (NIEHS) – Contracting Officer

3.0 TESTING FACILITY AND KEY PERSONNEL

3.1 Testing Facility

The Testing Facility shall have competence in performing *in vitro* cytotoxicity assays under aseptic laboratory conditions and shall provide competent personnel, adequate facilities, equipment, supplies, proper health and safety guidelines, and satisfactory quality assurance procedures.

3.1.1 *Personnel*

3.1.1.1 ***Facility Management***

The facility management is responsible for establishing scientific guidelines and procedures, training and supervision of professional and technical staff, and evaluation of results and performance within their discipline area relative to the Study Management Team requirements. The manager must maintain records of the qualifications, training and experience, and a job description for each professional and technical individual involved in the Validation Study.

3.1.1.2 ***Study Director***

A scientist or other professional of appropriate education, training, and experience in *in vitro* cytotoxicity assay performance, or combination thereof, shall be the Study Director. The Study Director has the overall responsibility for the technical conduct of the Validation Study (e.g., GLP adherence or implementation of spirit of GLP) at the Testing Facility and shall be responsible for determining test acceptance. The Study Director shall be responsible for providing SOPs for the Validation Study and incorporating pertinent information obtained from the Statement of Work and the Test Method Protocols. Other duties include the interpretation and analysis of data, documentation of all Validation Study aspects (including maintenance of a Study Workbook), and production of all draft and final written Validation Study reports.

3.1.1.3 ***Quality Assurance (QA) Director***

For Testing Facilities that are GLP-compliant, the Quality Assurance Director shall **monitor** the Validation Study to assure conformance with GLP requirements for all aspects of the Validation Study (i.e., facilities, equipment, personnel, methods, practices, records, controls, transference of data into software, SOPs). The Quality Assurance Director or unit can be any person or organizational element, except the Study Director, designated by Testing Facility management to perform the duties relating to quality assurance of the studies. The Quality Assurance duties are not a substitute for the Study Director duties.

For Testing Facilities performing the Validation Study in the spirit of GLP, management shall appoint an individual to assure that all records, documents, raw data, reports, and specimens are available to the Management Team through the designated contacts if an inspection is requested.

3.1.1.4 ***Scientific Advisor(s)***

Scientists or other professionals of appropriate education, training, and experience in *in vitro* laboratory methods and techniques who provide scientific guidance to the Study Director and other laboratory personnel.

3.1.1.5 ***Laboratory Technician(s)***

In vitro cytotoxicity assays require personnel trained in sterile tissue culture techniques and general laboratory procedures. At least two individuals must be capable of performing the *in vitro* assays for the Validation Study. Performance of the assays requires a relatively moderate degree of technical capability and a high degree of technical accuracy. Each individual engaged in the conduct of or responsible for the supervision of a Validation Study shall have education, training, and experience, or combination thereof, to enable that individual to perform the assigned duties. The individuals in a GLP-compliant laboratory must be trained in GLP requirements and technical ability must be documented as per GLP requirements. Non GLP-compliant laboratory personnel must be able to perform all aspects of the Validation Study in the spirit of GLP.

3.1.1.6 ***Safety Officer***

A designated Safety Officer (someone not involved in the actual conduct of the Validation Study) at each participating laboratory will receive the blinded (coded) test chemicals from an NIEHS/NTP-designated contractor (BioReliance) and shall transfer the test chemicals to the Study Director without revealing the contents of the test chemical containers. A sealed health and safety information package will accompany the test chemicals and the Safety Officer shall retain the package until the completion of the Validation Study. At the end of the Validation Study, the Safety Officer shall return the unopened package to the contractor (BioReliance). If any Test Facility personnel should open the package at any time during the Validation Study, the Safety Officer shall notify the Management Team through the designated contacts.

3.1.2 *Facilities, Equipment, and Supplies*

3.1.2.1 ***Cell Culture Laboratory***

Each Testing Facility must provide a designated cell culture laboratory to ensure that *in vitro* cytotoxicity assays can be performed under clean and proper aseptic conditions. The laboratory must be located such that there is minimal through traffic to reduce possible disturbances that may compromise the cell culture assays. Room temperature of the laboratory must be easily regulated, monitored, and documented. Access to the Validation Study assays and test chemicals shall be restricted to appropriate personnel as determined by facility management.

3.1.2.2 ***Equipment***

Each Testing Facility must provide at a minimum the following equipment:

a) Laminar flow hood (biohazard type and restricted to cell culture assays)
b) Cell culture incubators
   - $37^{o}C \pm 1^{o}C$, 5 % ± 1 % CO_2, 90 ± 5 % humidified
c) Low-speed centrifuge
d) Water bath ($37^{o}C$)
e) Inverse phase microscope
f) Pippettors (multichannel pipettor, micropipettors, multichannel pipette units)

g) Spectrophotometric plate reader (equipped with a 540 nm ± 10 nm filter)
h) Computer (for data transformation and analysis)
i) Liquid nitrogen freezer (for storage of cryopreserved cells)
j) Refrigerator (4°C)
k) Freezers (-20°C and -70°C to -80°C)
l) Autoclave (for instruments and for biohazardous waste materials)
m) Balance
n) pH meter
o) Cell counting system (e.g., hemocytometer, Coulter counter)
p) General cell culture laboratory equipment (e.g., glassware, filtration systems, cell culture plasticware, etc.)
q) pH paper (wide and narrow range)

All equipment maintenance and calibration shall be routinely performed and documented as per GLP guidelines (or spirit of GLP for non GLP-compliant laboratories) and Testing Facility procedures. Additional detail is provided in **Section 10.3** and Addendum IV.

3.1.2.3 ***Supplies***

a) General cell culture materials and supplies are needed and are specifically described in the provided Test Method Protocols and in the *Guidance Document* (ICCVAM, 2001a). All cell culture reagents must be labeled so as to indicate source, identity, concentration, stability, preparation and expiration dates, and storage conditions.
b) BALB/c 3T3 mouse cells, clone 31
   - Cryopreserved (5 vials, same lot)
   - CCL-163, *LGC Reference Materials*, Customer Service, Queens Road, Teddington, Middlesex, TW110LY, UK (http://www.lgc.co.uk/atcc/)
   - CCL-163, *American Type Culture Collection (ATCC),* Manassas, VA, USA (http://www.atcc.org/)
c) Normal Human Epidermal Keratinocytes (NHK)
   - Cryopreserved (20 vials, same lot, first passage)
   - Non-transformed cells; from cryopreserved primary cells (**Clonetics #CC-2507** [pooled neo-natal keratinocytes]**)**
   - *Clonetics/BioWhittaker* [BioWhittaker, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793-0127 (http://www.cambrex.com/subsidiaries/s%2Dbw%5Finc/s%2Dbiowhittaker%2Dinc%2Dcontact2.htm)
   - *BioWhittaker Europe* [BioWhittaker Europe, S.P.R.L. Parc Industriel de Petit Rechain, B-4800 Verviers, BELGIUM] (http://www.biowhittaker.be/index.htm)

3.1.3 *Health and Safety*

Each Testing Facility shall conform to all local, state, and federal statutes in effect at the time of this Validation Study. The designated Safety Officer shall be the point of contact for health and safety issues.

3.1.4 *Quality Assurance*

3.1.4.1 ***GLP-Compliant Laboratories***

GLP-compliant laboratories shall conduct this Validation Study in compliance with Good Laboratory Practice (GLP) Standards (U.S. Food and Drug Administration, Title 21 CFR Part 58; Environmental Protection Agency, Title 40 CFR Part 160). The appropriate QA unit (as per GLPs) shall review the protocol and audit the in-life phase, laboratory notebooks, and final report data.

The Final Reports for all phases of the Validation Study shall be audited by the Quality Assurance unit of the Testing Facility for GLP compliance and a QA Statement shall be provided by the Testing Facility. Each Final Report shall identify: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study.

3.1.4.2 ***Non GLP-Compliant Laboratories***

Non GLP-compliant laboratories shall use GLP standards referenced in the ECVAM Workshop 37 Report (Cooper-Hannan, 1999) and the OECD Principles of GLP (OECD, 1998) as guidelines for conducting the Validation Study in the spirit of GLP.

At a minimum, the following laboratory parameters and equipment must be routinely documented (e.g., log books; see Addendum IV). The documents shall be archived such that they can be available to the Study Management Team through the designated contacts upon request.

Daily Documentation (value, time, and date)

- Laboratory: room temperature
- Incubators: temperature, %CO_2, %humidity
- Water bath: temperature
- Refrigerators and freezers: temperature
- Cell cultures: visual observations (see Test Method Protocols)

Per Use Documentation (value, time, and date)

- Cryogenic storage unit: amount of liquid N_2 in container; when liquid N_2 added
- Balance: standard weight used to calibrate
- pH meter: values for standards used to determine slope
- Cell counter: standard used
- Media: identification of all media and components used

Periodic Documentation

- Media and components: date of receipt; lot numbers; expiration dates
- 3T3 and NHK cells: date of receipt; lot number; storage conditions
- Plastic tissue-culture ware (sterile, disposable): stock and lot numbers
- Computer software: identification and description
- Calibration of Instruments: SOPs for laboratory equipment
  - Incubators
  - Laminar flow hoods
  - Autoclaves

Micropipettors
Balances
pH meters
Cell counters
Refrigerators
Freezers
Water baths
Spectrophotometer plate readers

A statement from the Testing Facility shall be included with each Final Report and shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study and provide assurance that all testing was done in the spirit of GLP.

4.0 TEST PHASES AND SCHEDULE

See Addendum VI for Gantt Chart of study timelines and deliverables.

4.1 Study Timeline and Deliverables

TASK	WEEK	ESTIMATED DATE
Statement of Work issued by NIEHS to the Testing Facility	0	March 29, 2002
Response /Proposal received from the Testing Facility	6	May 10, 2002
Award of Contracts	13	June 28, 2002
Submission of Study Protocol, CVs of Key Personnel and SOPs	15	July 12, 2002
Start Testing – Phase I (Phase Ia)	18	July 29, 2002
End Phase Ia	22	August 26, 2002
Begin Phase Ib	26	September 26, 2002
End Phase Ib	31	October 29, 2002
Begin Phase II	36	December 2, 2002
End Phase II	46	February 10, 2003
Begin Phase III	52	March 26, 2003
Final Report (Phase III) to SMT	89	December 9, 2003

4.1.1 Deliverables

	ESTIMATED DUE DATES			
REPORTS	**PHASE 1a**	**PHASE Ib**	**PHASE II**	**PHASE III**
Biweekly	*	*	*	*
Draft	Week 24 Sept. 9, 2002	Week 33 Nov. 11, 2002	Week 48 Feb. 25, 2003	Week 82 Oct. 24, 2003
Final	Week 33 Nov. 11, 2002	Week 42 Jan. 13, 2003	Week 57 April 28, 2003	Week 89 Dec.9, 2003
Study Workbook (Draft)	Week 24 Sept. 9, 2002	Week 33 Nov. 11, 2002	Week 48 Feb. 25, 2003	Week 82 Oct. 24, 2003
Study Workbook (Final)	Week 33 Nov. 11, 2002	Week 42 Jan. 13, 2003	Week 57 April 28, 2003	Week 89 Dec.9, 2003

* Biweekly reports shall begin at the time of implementation of the contracts and continue until the final report is submitted.

4.2 Phase I

Phase I will be the training phase for laboratory personnel. This phase includes developing a positive control database (Phase Ia) and testing three unknown chemicals (Phase Ib). SOPs for the two NRU cytotoxicity assays shall be developed by the appropriate laboratory personnel prior to implementation of test procedures (See **Section 1.4** – Definitions – SOPs). They will be submitted along with the signed protocols to the designated contacts before initiation of Phase I.

4.2.1 *Study Procedures*

4.2.1.1 ***Phase Ia: Positive Control Database***

An historical database of **IC_{50}** values for the positive control chemical (Sodium Lauryl Sulfate [SLS]) will be established and maintained for each NRU assay by performing 10 concentration-response assays (10 microtiter plates, one plate per assay) on both cell types. A range finder experiment will be performed before initiating the 10 concentration-response assays (**Section 9.3**). The Test Facility personnel shall prepare and test eight concentrations (per microtiter plate) of the positive control chemical by diluting the stock solution with a constant factor for the range finder experiment (e.g., log dilutions [1:10, 1:00, 1:1000, etc.]). For the definitive concentration-response assays, the Study Director shall use a $\sqrt[6]{10} = 1.47$ dilution scheme centered on the IC_{50} identified in the range-finding assay.

Once a range has been determined that satisfies the criteria in **Section 11.2**, then the Test Facility shall perform two tests per day (each assay) on five different days. Control limits for the positive control chemical shall be established and a draft report (including range finding data) shall be provided to the designated contacts. After evaluation of the data, the Management Team will decide when to advance to the next phase of the Validation Study.

The 95 % confidence interval (CI) of the IC_{50} of SLS will be established and defined as an acceptance criterion for test sensitivity for the 3T3 NRU and NHK

NRU assays. The confidence intervals shall be calculated using the average of the individual IC_{50} values from each positive control assay performed. An example of an historical mean IC_{50} of SLS in mammalian cultures is **93 µg /ml** and the 95 % CI is **70 - 116 µg /ml** (Spielmann et. al., 1991). An example of an historical mean IC_{50} of SLS in NHK cultures is **4.4 µg/ml ± 0.97 µg/ml [**two standard deviations] (Triglia, 1989).

The following 96-well plate configuration will be used for the positive control assays.

Figure 1. 96-Well Plate Configuration for Positive Control Assays (Phase Ia)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = POSITIVE CONTROL (SLS) at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

4.2.1.2 ***Reporting Positive Control Data (Phase Ia)***

Biweekly Reports: Each testing facility will provide a biweekly progress report to the designated contacts. These reports will be provided in electronic format (i.e., email with attachments) and will include raw and interim data as the study progresses. The Management Team will in turn provide a weekly progress report addressing the Validation Study as a whole to all of the Testing Facilities.

Draft Report: At the conclusion of Phase Ia, a draft report of the positive control data shall be provided by the Study Director to the designated contacts. The draft report (entitled: *In Vitro Validation Study – Phase Ia: Development of a Positive Control Database in Rodent and Human Cell Systems*) shall include everything noted in Addendum I (Draft Report – Phase Ia). If the Phase Ia data does not meet test acceptance criteria, then the Management Team (through the designated contacts) will work with the Test Facility and lead laboratory to identify problems and make corrections as needed. Once unresolved issues have been resolved, the

Validation Study will proceed. The Validation Study will advance to Phase Ib once all participating laboratories have submitted acceptable draft reports. The draft report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the unaudited Study Workbook pages may be submitted as attachments in hard copy format.

Final Report: Once the draft report provides data that meets test acceptance criteria, then the Project Coordinator shall inform the Study Director to prepare a Quality Assurance audited final report for Phase Ia. The final report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the audited Study Workbook pages may be submitted in hard copy format as an attachment to the report. The final report will not need to be completed to continue to Phase Ib. (See Validation Study timelines in **Section 4.1** and Report submission timelines in **Section 4.5**.)

4.2.2 *Criteria for Advancing to Phase Ib*

If there is excessive variation of ICx data within or among laboratories involved in the Validation Study, the lead laboratory for each method shall assist the Management Team (through the designated contacts) to determine the cause and recommend appropriate actions needed to reduce the variation. The Statement of Work, Test Method Protocols, and SOPs shall be revised if necessary, and testing repeated until acceptable proficiency is achieved. The Management Team will decide when all laboratories will advance to the next phase of the Validation Study. A teleconference shall be held with all of the appropriate participants of the Validation Study and the Management Team will relate information concerning the advancement of the Validation Study.

4.2.3 *Study Procedures*

4.2.3.1. ***Phase Ib: Chemical Testing***

Three blinded/coded chemicals with varying cytotoxicity (high, medium, and low) will be tested in both NRU assays. Eight concentrations of each chemical will be tested in a 96-well plate (six wells per concentration) with at least four replicates per concentration required for data analysis (**Section 12.0**). Only one test chemical will be tested on each plate. The assay setup will follow the 96-well (microtiter) plate configuration in Figure 2. A range finder experiment will be performed before initiating concentration-response assays (**Section 9.3**). After the range finding assay is completed, the concentration-response experiment shall be performed three times on three different days for each assay and each chemical. Laboratories will **calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values in µg/ml,** calculate confidence limits for each value, and report this and all raw data to the Management Team through the designated contacts.

Figure 2. Plate Configuration for 3T3 NRU and NHK NRU Assays (Phase Ib)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b
B	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
C	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
D	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
E	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
F	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
G	b	VC	C_1	C_2	C_3	C_4	C_5	C_6	C_7	C_8	VC	b
H	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b	b

VC = untreated VEHICLE CONTROL (mean viability set to 100 %)
$C_1 – C_8$ = TEST CHEMICAL at eight concentrations (C1 = highest, C8 = lowest)
b = BLANKS (contain **no** cells)

4.2.3.2 ***Reporting Test Chemical Data (Phase Ib)***

Biweekly Reports: Each testing facility will provide a biweekly progress report to the designated contacts (See Addendum I). These reports will be in electronic format (i.e., email with attachments) and will include raw and interim data as the study progresses. The Management Team will in turn provide a weekly progress report addressing the Validation Study as a whole to all of the Testing Facilities. Problems and issues shall be resolved in this manner.

Draft Report: At the conclusion of Phase Ib, a draft report of the Phase Ib test chemical data shall be provided by the Study Director to the designated contacts. The draft report (entitled: *In Vitro Validation Study – Phase Ib: Training Phase for Cytotoxicity Study of Three Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems*) shall include everything noted in Addendum I (Draft Report – Phase Ib). If the Phase Ib data does not meet test acceptance criteria, then the Management Team (through the designated contacts) will work with the Test Facility and lead laboratory to identify problems and make corrections as needed. Once unresolved issues have been resolved, the Validation Study will proceed. The Validation Study will advance to Phase II once all participating laboratories have submitted acceptable draft reports. The draft report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be

copied to the designated contacts. Copies of the unaudited Study Workbook pages may be submitted as attachments in hard copy format.

Final Report: Once the draft report provides data that meets test acceptance criteria, then the Project Coordinator shall inform the Study Director to prepare a Quality Assurance audited final report for Phase Ib. The final report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the audited Study Workbook pages may be submitted in hard copy format as an attachment to the report. The final report will not need to be completed to continue to Phase II. (See Validation Study timelines in **Section 4.1** and Report submission timelines in **Section 4.5**.)

4.2.4 *Criteria for Advancing to Phase II*

If there is excessive variation of ICx data within or among laboratories involved in the Validation Study, the lead laboratory for each method shall assist the Management Team (through the designated contacts) to determine the cause and recommend appropriate actions needed to reduce the variation. The Statement of Work, Test Method Protocols, and SOPs shall be revised if necessary, and testing repeated until acceptable proficiency is achieved. The Management Team will decide when all laboratories will advance to the next phase of the Validation Study. A teleconference shall be held with all of the appropriate participants of the Validation Study and the Management Team will relate information concerning the advancement of the Validation Study.

4.3 Phase II

4.3.1 *Study Procedures*

Phase II of this Validation Study is the qualification phase. This phase requires testing nine blinded/coded chemicals in the same *in vitro* cytotoxicity assays and in the same concentration-response fashion as in Phase Ib. After a range-finding assay is completed, the concentration-response experiment for each chemical shall be performed three times, once each on three different days. Laboratories will **calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values in µg/ml,** calculate confidence limits for each value, and report this and all raw data to the Study Management Team through the designated contacts.

4.3.1.1 ***Reporting Test Chemical Data (Phase II)***

Biweekly Reports: Each testing facility will provide a biweekly progress report to the designated contacts (See Addendum I). These reports will be in electronic format (i.e., email with attachments) and will include raw and interim data as the study progresses. The Management Team will in turn provide a weekly progress report addressing the Validation Study as a whole to all of the Testing Facilities. Problems and issues shall be resolved in this manner.

Draft Report: At the conclusion of Phase II, a draft report of the Phase II test chemical data shall be provided by the Study Director to the designated contacts. The draft report (entitled: *In Vitro Validation Study – Phase II: Qualification Phase for Cytotoxicity Study of Nine Coded Chemicals*) shall include everything noted in Addendum I (Draft Report – Phase II). If the Phase II data does not meet test acceptance criteria, then the Management Team (through the designated contacts)

will work with the Test Facility and lead laboratory to identify problems and make corrections as needed. Once unresolved issues have been resolved, the Validation Study will proceed. The Validation Study will advance to Phase III once all participating laboratories have submitted acceptable draft reports. The draft report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the unaudited Study Workbook pages may be submitted as attachments in hard copy format.

Final Report: Once the draft report provides data that meets test acceptance criteria, then the Project Coordinator shall inform the Study Director to prepare a Quality Assurance audited final report for Phase II. The final report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the audited Study Workbook pages may be submitted in hard copy format as an attachment to the report. The final report will not need to be completed to continue to Phase III. (See Validation Study timelines in **Section 4.1** and Report submission timelines in **Section 4.5**.)

Any solubility problems/issues with the test chemicals shall be addressed by the lead laboratory and Management Team (through the designated contacts) and resolved at the end of Phase II before proceeding to Phase III.

4.3.2 *Criteria for Advancing to Phase III*

If there is excessive variation of ICx data within or among laboratories in the Validation Study, the lead laboratory/testing facility shall assist the Management Team (through the designated contacts) to determine the cause and recommend appropriate actions needed to reduce the variation. The Statement of Work, Test Method Protocols, and SOPs shall be revised if necessary and testing repeated until acceptable proficiency and reproducibility is achieved in all participating laboratories. The Management Team will decide when all laboratories will advance to the next phase of the Validation Study. A teleconference shall be held with all of the appropriate participants of the Validation Study and the Management Team will relate information concerning the advancement of the Validation Study.

4.4 Phase III

4.4.1 *Study Procedures*

Phase III of this Validation Study requires testing 60 blinded/coded chemicals in the same manner as in Phases I and II (i.e., in the *in vitro* cytotoxicity assays in a concentration-response fashion with two - three replicate assays [see Figure 2] after completing a range-finding assay for each chemical). ***The definitive number of replicate assays will be determined based on recommendations of the Management Team and projected costs for doing replicates (see Section 1.4).*** Laboratories will **calculate IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values in μg/ml,** calculate confidence limits for each value, and report this and all raw data to the Study Management Team through the designated contacts.

4.4.1.1 ***Reporting Data (Phase III)***

Biweekly Reports: Each testing facility will provide a biweekly progress report to the designated contacts of the Management Team (See Addendum I). These reports will be in electronic format (i.e., email with attachments) and will include raw and interim data as the study progresses. The Management Team will in turn provide a weekly progress report addressing the Validation Study as a whole to all of the Testing Facilities. Problems and issues shall be resolved in this manner.

Draft Report: At the conclusion of Phase III, a draft report of the Phase III test chemical data shall be provided by the Study Director to the designated contacts. The draft report (entitled: *In Vitro Validation Study – Phase III: Cytotoxicity Study of 60 Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems*) must include everything noted in Addendum I Draft Report – Phase III). If the Phase III data does not meet test acceptance criteria, then the Management Team (through the designated contacts) will work with the Test Facility and lead laboratory to identify problems and make corrections as needed. Once unresolved issues have been resolved, the Validation Study will proceed. The draft report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the unaudited Study Workbook pages may be submitted as attachments in hard copy format.

Final Report: Once the draft report provides data that meets test acceptance criteria, then the Project Coordinator shall inform the Study Director to prepare a Quality Assurance audited final report for Phase III. The final report shall be submitted in email and five (5) hard copy formats. File attachments in email shall be submitted in Microsoft® Word (or equivalent) and Excel format and all email correspondence shall be copied to the designated contacts. Copies of the audited Study Workbook pages may be submitted in hard copy format as an attachment to the report. (See Validation Study timelines in **Section 4.1** and Report submission timelines in **Section 4.5**.)

4.4.2 *Criteria for Completion of Phase III*

Phase III will be complete once all of the test chemicals (60) have been tested and the Study Director provides a final report to the designated contacts. The Validation Study will be complete (for all Testing Facilities) after the Study Management Team has received final reports from each Testing Facility and has statistically analyzed all of the data provided by all Testing Facilities.

4.5 Report Submission Timelines

4.5.1 *Draft Reports*

Draft reports for each phase shall be submitted to the Management Team through the designated contacts as per **Section 4.1.1**. The Management Team will respond to the Test Facility within two – four weeks after receipt of the report. If data are acceptable, then the Management Team (through the designated contacts) will instruct the Test Facility to continue to the next phase (teleconference with all participants). If the data do

not meet the criteria and adjustments to the Validation Study are needed, a new timeline will be created and relayed to the Test Facility.

4.5.2 *Final Report*

Once the Management Team (through the designated contacts) declares to a Test Facility that the Validation Study testing phase is complete, then the Test Facility shall provide a final report (electronic and hard copy) for the identified phase of the Validation Study to the Management Team through the designated contacts as per **Section 4.1.1**.

5.0 IDENTIFICATION OF TEST CHEMICALS AND CONTROL SUBSTANCES

The NIEHS/NTP designated contractor (BioReliance) will supply all test chemicals and the positive control to all Testing Facilities. Phase I chemicals will be shipped as a unit as will the Phase II chemicals. Phase III chemicals will be shipped as one unit of 60 chemicals. The Management Team will have all pertinent information for each chemical (e.g., purity, CAS #, supplier, etc.) and will make all decisions concerning any questions about or problems/issues with the chemicals.

5.1 Test Chemicals

5.1.1 *Range of Toxicities*

The chemicals proposed for the Validation Study are representative of a range of toxicities and are relevant with regard to human exposure potential. The test chemicals will represent each of the Globally Harmonized System (GHS) classification groups for rat oral LD50s: ≤ 5 mg/kg, >5 ≤ 50 mg/kg, >50 ≤ 300 mg/kg, >300 ≤ 2000 mg/kg, >2000 ≤ 5000 mg/kg, and >5000 mg/kg (OECD, 2001).

5.1.2 *Receipt of Chemicals*

Test chemicals will be packaged so as to minimize damage during transit and will be shipped to the Testing Facility according to proper regulatory procedures. Chemicals are to be packaged and shipped so as to conceal their identities. The Study Management Team and the Testing Facility shall be notified by the contractor (BioReliance) when the test chemicals are shipped so as to prepare for receipt.

Upon receipt at the facility, the test chemicals shall be stored in appropriate storage conditions as per recommendations provided by the contractor (BioReliance). The Testing Facility shall immediately notify the Project Coordinator and the contractor about receipt of chemicals. The blinded/coded test chemicals as well as a sealed health and safety information package will be shipped to the Safety Officer. The Safety Officer shall retain the package and pass the test chemicals to the Study Director. The package will contain necessary information about the chemical hazards and provide instructions for emergency actions. A disclosure key for identifying test chemicals by code will also be included. At the end of the Validation Study, the Safety Officer shall return the unopened health and safety package to the contractor (BioReliance) who supplied the chemicals (through the designated contacts). If the health and safety package must be opened by the laboratory, the Safety Officer shall immediately notify the designated contacts.

If regulatory transportation requirements dictate that each package must display a list of the chemicals it contains on the outside of the package, the list can be removed by shippers before delivery to the participating Testing Facility. If shippers have not

removed this information, the Safety Officer shall remove it prior to passing the chemicals to the Study Director.

5.1.3 ***Test Chemical Information for the Study Director***
Each test chemical will be accompanied by data sheets giving a minimum of essential information, including color, odor, physical state, weight or volume of sample, specific density for liquid test chemicals, and storage instructions (which will be the same for each chemical). The Study Director shall receive this information.

5.2 Control Materials

5.2.1 *Vehicle Control (VC)*

5.2.1.1 *3T3 NRU Assay (VC)*
Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) buffered with sodium bicarbonate and supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted): 5 % NBCS, 4 mM Glutamine, 100 IU Penicillin, 100 µg/ml Streptomycin. (See specifics in Test Method Protocol) [Note: Vehicle control may also be known as negative control.]

5.2.1.2 *NHK NRU Assay (VC)*
A modified MCDB 153 formulation such as Clonetics® Keratinocyte Basal Medium (KBM®) supplemented with**:** 0.1 ng/ml Human recombinant epidermal growth factor, 5 g/ml Insulin, 0.5 g/ml Hydrocortisone, 50 g/ml Gentamicin, 50 ng/ml Amphotericin B, 0.1 mM Calcium, 2 ml 7.5 mg/ml Bovine pituitary extract. (See specifics in Test Method Protocol) [Note: Vehicle control may also be known as negative control.]

5.2.2 *Positive Control (PC)*
Sodium Lauryl Sulfate ([SLS], CAS # 151-21-3) will be the positive control for both assays. A dose-response assay of SLS dilutions will be run in one plate for each set of test chemical assays. There will be no PC in the test chemical assay plates.

5.3 Inventory of Test Chemicals
The amount of test chemical received, the amount used for specific tests, and the amount remaining shall be documented by the Testing Facility.

5.4 Disposition of Test Chemicals
After the studies are completed, the remaining test chemicals will be returned to the contractor (BioReliance) or appropriately disposed of by the Testing Facility.

5.5 Handling of Test Chemicals
Appropriate routine safety procedures shall be followed in handling the test chemicals unless the contractor (BioReliance) otherwise specifies more cautious procedures. Test Facility personnel shall be instructed to treat all blinded/coded test chemicals as ***very hazardous and potentially carcinogenic*** and to dispose of laboratory wastes as toxic wastes. The health and safety information package provided to the Testing Facility Safety Officer shall be examined by the Testing Facility only in an emergency/need-to-know situation.

5.6 Determination of Purity, Composition, and Stability of Test Chemicals

The contractor (BioReliance) will be responsible for collecting information on the analytical purity, composition, and stability of the test chemicals and the positive control material from manufacturer and supplier documentation. The contractor will provide information on chemical homogeneity in the vehicle via solubility studies. Chemicals shall be stored in an appropriate manner as stated by the contractor.

6.0 TEST SYSTEM

All testing procedures and data analyses shall follow the Test Method Protocols and Statement of Work provided by the Management Team which are based on the NIEHS Publication # 01-4500, *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity* (ICCVAM, 2001a).

6.1 Neutral Red Uptake (NRU) Cytotoxicity Assay

6.1.1 *Background*

The NRU cytotoxicity assay procedure is a cell survival/viability chemosensitivity assay based on the ability of viable cells to incorporate and bind neutral red (NR), a supravital dye. NR is a weak cationic dye that readily penetrates cell membranes by non-ionic diffusion and accumulates intracellularly in lysosomes. Alterations of the cell surface or the sensitive lysosomal membrane lead to lysosomal fragility and other changes that gradually become irreversible. Such changes brought about by the action of xenobiotics result in a decreased uptake and binding of NR. It is thus possible to distinguish between viable, damaged, or dead cells, which is the basis of this assay.

Healthy mammalian cells, when maintained in culture, continuously divide and multiply over time. A toxic chemical, regardless of site or mechanism of action, will interfere with this process and result in a reduction of the growth rate as reflected by cell number. Cytotoxicity is expressed as a concentration dependent reduction of the uptake of the NR after chemical exposure, thus providing a sensitive, integrated signal of both cell integrity and growth inhibition.

6.1.2 *Sterility of the Test System*

All cell culture applications shall be conducted under aseptic conditions. The test system shall be deemed free of mycoplasmal, fungal, and/or bacterial contamination. The cell suppliers ship cryopreserved cells that have been tested for mycoplasma and are deemed mycoplasma-free. If mycoplasma contamination is suspected, then the Testing Facility shall have the cells tested in an appropriate manner. If mycoplasma is present, all old cells of the specific lot of cells shall be eliminated and new cell stocks shall be prepared or purchased. The presence of bacterial or fungal contamination in the cultures shall be determined by gross visual inspection during and at the conclusion of each assay. If bacterial or fungal contamination is present in the cultures, the Study Director shall determine the course of action.

7.0 EXPERIMENTAL DESIGN AND METHODOLOGY – 3T3 NRU ASSAY

7.1 Major Steps in the Performance of the Assay

BALB/c 3T3 cells are seeded into 96-well plates and maintained in culture for 24 hours (h) (~ 1 doubling period) to form a semi-confluent monolayer

⇓

Remove culture medium

⇓

Cells are then exposed to the test chemical in treatment medium over a range of 8 concentrations for 48 h exposure

⇓

Microscopic evaluation of morphological alterations

⇓

Remove treatment medium; wash once with PBS; add Neutral Red (NR) medium; incubate for 3 h.

⇓

Discard NR medium; wash once with PBS; add NR desorbing fixative

⇓

Shake plate for 20 minutes

⇓

Detect NR Absorption at optical density (OD) 540nm

⇓

Perform Neutral Red Uptake data calculations (% viability; calculations of IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values)

7.2 Procedures for Conducting the Test

All testing procedures and data analyses shall follow the Test Method Protocols and Statement of Work provided by the Management Team and SOPs produced by the Testing Facility. All deviations from Statement of Work or SOPs shall be documented in the Study Workbook. The following abbreviated descriptions of the SOPs provide an overview of the assay, but must not be used in place of the formal SOPs.

7.2.1 *Cell Maintenance and Culture Procedures*

Ampules of cryopreserved BALB/c 3T3 cells are quickly thawed in a 37°C water bath. The cells are resuspended in cell culture medium and transferred to cell culture flasks. The thawed cells are incubated at 37°C in a 90 % humidified 5.0 % CO_2 atmosphere. Cells are passaged two to three times before using them in a cytotoxicity test. A fresh batch of cryopreserved cells should be thawed out approximately every two months (See **Section 7.2.1.1**). This period resembles a sequence of about 18 passages.

The cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks, at 37°C in a 90 % humidified atmosphere of 5.0 % CO_2 and are examined on a daily basis under a phase contrast microscope.

When cells approach a predetermined confluency, they must be detached from the flask by trypsinization, resuspended in culture medium, and counted using a hemocytometer or cell counter. After determination of cell number, the cell culture must be sub-cultured into other flasks or seeded into 96-well microtiter plates. Stocks of BALB/c 3T3 cells are

prepared in a medium with DMSO as a cryoprotective agent and stored in sterile, freezing tubes in a liquid nitrogen freezer for long-term storage.

7.2.1.1 ***Cryopreserved Lots of Cells***
After the initial establishment of the 3T3 cells in culture from an ampule of cryopreserved cells (from the cell supplier), laboratory personnel shall grow enough cells for cryopreservation in a number of freeze tubes (e.g., 10 – 20 tubes). These tubes will form the stock pool from which subsequent cultures will be established for use in the assays (See **Section 7.2.1**).

7.2.1.2 ***Determination of Cell Doubling Time***
A cell doubling time procedure shall be performed on the initial lot of cells that will be used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined again if there is a change in the lot of cells used. The Test Method Protocol will provide the basic procedures for this determination.

8.0 EXPERIMENTAL DESIGN AND METHODOLOGY – NHK NRU ASSAY

8.1 Major Steps in the Performance of the Assay

NHK cells are seeded into 96-well plates and maintained in culture for 24 – 72 hours (h) to form a semi-confluent (30 – 50 %) monolayer
⇓
Remove culture medium
⇓
Cells are then exposed to the test chemical in treatment medium over a range of 8 concentrations for 48 h exposure
⇓
Microscopic evaluation of morphological alterations
⇓
Remove treatment medium; wash once with PBS; add Neutral Red (NR) medium; incubate for 3 h.
⇓
Discard NR medium; wash once with PBS; add NR desorbing fixative
⇓
Shake plate for 20 minutes
⇓
Detect NR Absorption at optical density (OD) 540nm
⇓
Perform Neutral Red Uptake data calculations (% viability; calculations of IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values)

8.2 Procedures for Conducting the Test

All testing procedures and data analyses shall follow the Test Method Protocols and Statement of Work provided by the Management Team and SOPs produced by the Testing Facility. All deviations from the Statement of Work or SOPs shall be documented in the Study Workbook. The following abbreviated descriptions of the SOPs provide an overview of the assay, but must not be used in place of the formal SOPs. Information specific to the keratinocytes as provided by the supplier (e.g., Clonetics) shall be considered when preparing SOPs.

8.2.1 ***Cell Maintenance and Culture Procedures***

Ampules of cryopreserved NHK cells are quickly thawed in a 37°C water bath. The cells are resuspended in cell culture medium and transferred to cell culture flasks. The thawed cells are incubated at 37°C in a 90 % humidified 5.0 % CO_2 atmosphere. NHK cells will be sustained in culture through only one passage after establishing cells in culture.

The cells are routinely grown as a monolayer in tissue culture grade flasks, at 37°C in a 90 % humidified atmosphere of 5.0 % CO_2 and are examined on a daily basis under a phase contrast microscope.

When cells approach a predetermined confluency, they must be detached from the flask by trypsinization, resuspended in culture medium, and counted using a hemocytometer or cell counter. After determination of cell number, the cell culture must be seeded into 96-well microtiter plates.

8.2.1.1 ***Determination of Cell Doubling Time***

A cell doubling time procedure shall be performed on the initial lot of cells that will be used in the first cell culture assays of Phase Ia of the Validation Study. The doubling time only needs to be determined again at the initiation of the cells in culture if there is a change in the lot of cells used. The Test Method Protocol will provide the basic procedures for this determination.

9.0 PREPARATION AND DELIVERY OF TEST CHEMICAL

9.1 Preparation of Test Chemical

The test chemical must be freshly prepared immediately prior to use. All chemicals shall be weighed on a calibrated balance (including liquid test chemicals) and added to the appropriate solvent (**Section 9.1.1**). Test chemicals must be at room temperature before dissolving and diluting. Preparation under red or yellow light may be necessary, if rapid photodegradation is likely to occur. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate.

The following hierarchy (culture medium, DMSO, ethanol) shall be followed for dissolving the test chemical.

9.1.1. ***Dissolving the Test Chemical***

9.1.1.1 ***Treatment Medium/Routine Culture Medium)***

a) Dissolve test chemical in Treatment Medium [3T3] or Routine Culture Medium [NHK] (See Test Method Protocols).
b) Gently mix. Vortex (1 –2 minutes).
c) If test chemical hasn't dissolved, use sonication (up to five minutes).
d) If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C.

9.1.1.2 ***DMSO***

If the test chemical doesn't dissolve in the Treatment Medium/Routine Culture Medium, then follow steps a) through d) in **Section 9.1.1.1** using DMSO instead of Treatment Medium/Routine Culture Medium.

9.1.1.3 ***Ethanol***

If the test chemical doesn't dissolve in DMSO, then follow steps a) through d) in **Section 9.1.1.1** using ethanol instead of DMSO.

9.1.2. ***Test Chemical Solubility***

Each test chemical will be prepared such that the highest test concentration in each range finding experiment is 100 mg/ml (100,000 μg/ml) in culture medium (10 mg/ml [10,000 μg/ml] in culture medium if DMSO or ethanol is used as a solvent). If the range finding experiment shows that 100,000 μg/ml is not high enough for the IC_{50} values in the range to meet the acceptance criteria, then higher concentrations will be used for the definitive experiment.

Solubility of the test chemical will be determined by following a modified version of EPA Product Properties Test Guidelines OPPTS 830.7840 (EPA, 1998). (See Test Method Protocols).

Dissolve the test chemical (at 200-fold the desired final concentration in the case of solvents) in an appropriate solvent. The final solvent (i.e., DMSO or ethanol) concentration should be kept at a constant level of no more than 0.5 % (v/v) in the vehicle controls and in all of the eight test concentrations (i.e., each concentration shall have the same amount of solvent). This means the test chemical is dissolved in the vehicle first, and then 1 part of this stock solution is added to 199 parts of sterile pre-warmed (37°C) medium. Check carefully to determine whether the chemical is still dissolved after the transfer from solvent stock solution to medium, and reduce the highest test concentration, if necessary.

The test chemicals selected for the Validation Study will be soluble. If an appropriate concentration cannot be achieved for the range finding experiments, then the Study Director shall contact the Study Management Team through the designated contacts. Prior to initiating any test chemical assay (and after performing solubility tests on the chemicals), the Study Director shall contact the Study Management Team (through the designated contacts) for discussion of the solvent to be used for test chemical application. The Management Team will provide direct guidance to the Study Director as to which solvent will be used for the assay.

9.1.3 ***pH of Dilutions***

Measure the pH (using pH paper) of the highest concentration of the test chemical to be tested in the assay. Document the pH and note the color of the medium. Do not adjust the pH of the test chemical solutions.

9.2 Delivery of Test Chemical

The test chemical will be administered by direct addition (pipetting) to the 96-well microtiter plate with a vehicle compatible with the test system. The cells will be exposed to the test chemical for approximately 48 hours..

[Note: The 3T3 and NHK cells in the 96-well plate will have freshculture medium on the cells immediately prior to dosing with the test chemical. Each well will receive a volume of test chemical concentration therefore diluting the concentration by a factor of two.]

9.3 Range Finder Experiment

Test eight concentrations of the test chemical by diluting the stock solution with a constant factor. The initial dilution series will be log dilutions (i.e., 1:10, 1:100, 1:1000, etc.). If this dilution series meets test acceptance criteria (**Section 11.0**), then the range finding experiment dilutions can be used as the actual dilutions in the separate definitive test chemical experiment. If the dilution factor needs to be adjusted for the actual definitive experiment, then follow dilution schemes provided in **Section 9.4.**

9.4 Test Chemical Dilutions

a) A factor of $^{2}\sqrt{10} = 3.16$ could be used for covering a large range:
(e.g., 1 ⇒3.16 ⇒10 ⇒31.6 ⇒100 ⇒316 ⇒1000 ⇒3160 µg/ml).

b) The simplest geometric concentration series (i.e., constant dilution / progression factor) are **dual geometric series** (e.g., a factor of 2). These series have the disadvantage of numerical values that permanently change between logs of the series:
(e.g., *log0*-2, 4, 8; *log1*- 16, 32, 64; *log2*- 128, 256, 512; *log3*- 1024, 2048,).

c) The **decimal geometric series**, first described by Hackenberg and Bartling (1959) for use in toxicological and pharmacological studies, has the advantage that independent experiments with wide or narrow dose factors can be easily compared because they share identical concentrations. Furthermore, under certain circumstances, experiments can even be merged together:

EXAMPLE:

10						**31.6**						**100**
10				**21.5**				**46.4**				**100**
10		**14.7**		**21.5**		**31.6**		**46.4**		**68.1**		**100**
10	**12.1**	**14.7**	**17.8**	**21.5**	**26.1**	**31.6**	**38.3**	**46.4**	**56.2**	**68.1**	**82.5**	**100**

The dosing factor of **3.16** (= $^{2}\sqrt{10}$) divides a log into two equidistant steps, a factor of **2.15** (= $^{3}\sqrt{10}$) divides a decade into three steps. The factor of **1.47** (= $^{6}\sqrt{10}$) divides a log into six equidistant steps, and the factor of **1.21** (= $^{12}\sqrt{10}$) divides the log into 12 steps.

For an easier biometrical evaluation of several related concentration response experiments use decimal geometric concentration series rather than dual geometric series. The technical production of decimal geometric concentration series is simple. An example is given for factor 1.47:

Dilute 1 volume of the highest concentration by adding 0.47 volumes of diluent. After equilibration dilute 1 volume of this solution by adding 0.47 volumes of diluent...(etc.).

d) Determine which test chemical concentration is closest to the IC_{50} value (e.g., 50 % cytotoxicity). Use that value as the central concentration and adjust dilutions higher and lower in equal steps for the definitive assay.

10.0 DATA COLLECTION

10.1 Nature of Data to be Collected

After the test is performed and the NR is desorbed from the cells, measure the absorption of the resulting colored solution at 540 nm in a microtiter spectrophotometric plate reader, using the blanks as a reference. Save raw data in the file format provided by the Study Management

Team (Microsoft® Excel template [Addendum II]) for further analysis of the concentration-response (% viability calculations). Data from the OD analyses will be used for the calculation of IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (μg/ml).

10.2 Type of Media Used for Data Storage

Originals of the raw data (the Study Workbook and computer printouts of absorbance readings from the plate reader) and copies of other raw data such as instrument logs shall be collected and archived at the end of the Validation Study (under the direction of the Study Director), according to GLP-compliant procedures. The electronic files of plate reader data and any derived data shall be saved, and a backup of these electronic files shall be produced and maintained. Calculations to convert the raw data to derived data shall be performed using Microsoft® Excel (Addendum II). The derived assay data that are stored electronically shall be periodically copied, and backup files shall be produced and maintained.

10.3 Documentation

Original raw data that shall be collected shall include but are not limited to the following:

- Data recorded in the Study Workbook, which shall consist of all recordings of all activities related to preparing the 3T3 and NHK cultures and test chemicals and performing the NRU assay;
- Computer printouts of absorbance readings from the plate reader spectrophotometer;
- Other data collected as part of GLP compliance
  - Equipment logs
  - Equipment calibration records
  - Test chemical logs
  - Cryogenic freezer inventory logs
  - Cell culture media preparation logs

Addendum IV provides examples of equipment logs.

11.0 ACCEPTANCE CRITERIA FOR NRU ASSAYS

11.1 Test Acceptance Criteria

The test method protocols provide the definitive test acceptance criteria which include a specific mean OD_{540} of all vehicle controls, a set percent difference of the mean OD_{540} between two sets of vehicle controls, and a set range of the IC_{50} for SLS.

The Study Director shall decide if a test meets acceptance criteria and the Study Management Team will make decisions concerning re-testing of test chemicals.

11.2 IC_{50} Acceptance Criteria

The IC_{50} derived from the concentration-response assays shall be based on at least three responses that are ≥ 10 % and ≤ 90 % inhibition of NRU. If this is not the case, and the concentration progression factor can be easily reduced, the experiment shall be rejected and a retest shall be performed with a smaller progression factor.

The raw data output from the plate reader shall be converted into the derived data using Microsoft® Excel (Addendum II). The PC and VC from each assay shall be compared to the acceptable historical ranges as noted. If the assay is found to be valid by these criteria, then the data from that assay is considered to be acceptable. If the PC or VC values are not acceptable,

the assay shall be repeated. Results of all assays, acceptable and failed, shall be forwarded to the designated contacts via the previously identified reports.

12.0 EVALUATION OF TEST RESULTS

12.1 Cell Viability Determination

A calculation of cell viability expressed as NRU is made for each concentration of the test chemical by using the mean NRU of the six replicate values (minimum of four acceptable replicate wells) per test concentration. The Study Director shall determine if any wells do not meet expected performance criteria through visual microscopic evaluation (i.e., experimental conditions within the wells are compromised due to situations such as insufficient cell population, mechanical disruption of the monolayer, etc.). The Study Director shall decide if any of the wells of the plate need to be excluded from data analyses. If a concentration does not have a minimum of four replicate wells, then data from that concentration will not used. The test may still be acceptable if all criteria in **Section 11.1** are met (e.g., the IC_{50} derived from the concentration-response assays is backed by at least three responses ≥ 10 % and ≤ 90 % inhibition of NRU.) If any wells have bacterial or fungal contamination, the entire plate must be repeated.

The cell viability value is compared with the mean NRU of all VC values (provided VC values have met the VC acceptance criteria). Relative cell viability is then expressed as percent of untreated VC. If achievable, the eight concentrations of each chemical tested will span the range of no effect up to total inhibition of cell viability.

12.2 IC_X Determination

The concentration of a test chemical reflecting a 20 %, 50 %, and 80 % inhibition of cell viability (i.e., the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80}) is determined from the concentration-response and shall be done by applying a Hill function to the concentration-response data. It will not be necessary for the Testing Facilities to derive the equation. The Testing Facility shall calculate the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for each test chemical and the confidence limits for each value using statistical software (e.g., GraphPad PRISM® 3.0) specified by the Study Management Team. In addition, the Study Management Team shall provide guidelines for calculating ICx values and confidence limits. The Testing Facility shall report data using at least three (3) significant figures and shall forward the results from each assay to the Study Management Team/biostatistician through the designated contacts in electronic format and hard copy upon completion of all testing. The Study Management Team will be directly responsible for the statistical analyses of the Validation Study data.

Hill function: a four-parameter logistic mathematical model relating the concentration of test chemical to the response being measured in a sigmoidal shape.

$$Y = \text{Bottom} + \frac{\text{Top} - \text{Bottom}}{1 + 10^{(\text{logIC50} - X)\text{HillSlope}}}$$

where Y= response, X is the logarithm of dose (or concentration), Bottom is the minimum response, Top is the maximum response, logIC50 is logarithm of X at the response midway between Top and Bottom, and HillSlope describes the steepness of the curve.

13.0 DRAFT AND FINAL REPORTS

A draft report shall be submitted to the Management Team through the designated contacts at the completion of each study phase (Ia, Ib, II, III). A Final Report for each phase of the Validation Study shall be prepared by the Testing Facility, signed by the Study Director, and provided to the Management Team through the designated contacts upon acceptance of data provided in the corresponding draft report. The submitted results shall accurately describe all methods used for generation and analysis of the data, provide a complete record of the preparation of test chemicals, and present any relevant data necessary for the assessment of the results (See Addendum I).

14.0 RECORDS AND ARCHIVES

At the end of the Validation Study, the original raw and derived assay data, as well as copies of other raw data not exclusive to this Validation Study (instrument logs, calibration records, facility logs, etc.), shall be submitted to NIEHS/NICEATM for storing and archiving according to the facility's SOP and in compliance with GLP Standards.

Originals of all raw and derived data, or copies where applicable, shall be stored and archived at NIEHS/NICEATM.

Copies of all raw and derived data shall be stored and archived at the participating Testing Facility for at least five years after completion of the Validation Study.

15.0 ALTERATIONS OF THE STATEMENT OF WORK

No changes in the Statement of Work shall be made without the consent of the Management Team. A Statement of Work Amendment detailing any change(s) and the basis for the change(s) shall be approved and prepared by the Study Director, and the amendment shall be signed and dated by the Study Director and the NIEHS representative. The amendment shall be retained with the original Statement of Work.

16.0 REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

Cooper-Hannan, R., J.W. Harbell, S. Coecke, M. Balls, G. Bowe, M., Cervinka, R. Clothier, F. Hermann, L.K. Klahm, J. de Lange, M. Liebsch and P. Vanparys. 1999. The Principles of Good Laboratory Practice: application to in vitro toxicology studies. The Report and Recommendations of the ECVAM Workshop 37. ATLA. 27 (4). July/August. Pp. 539 – 577.

EPA Product Properties Test Guidelines. OPPTS 830.7840. Water Solubility: Column Elution Method; Shake Flask Method. United States Environmental Protection Agency. Prevention, Pesticides and Toxic Substances (7101). EPA 712-C-98-041. March 1998.

Halle, W. 1998. Toxizitätsprüfungen in Zellkulturen für eine Vorhersage der akuten Toxizität (LD_{50}) zur Einsparung von Tierversuchen. Life Sciences/ Lebenswissenschaften, Volume 1, 94 pp., Jülich: Forschungszentrum Jülich.

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods). 2001a. Guidance document on using *in vitro* data to estimate *in vivo* starting doses for acute toxicity NIH publication 01-4500. NIEHS, Research Triangle Park, North Carolina. http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invidocs/guidance/iv_guide.pdf

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods). 2001b. Report of the international workshop on *in vitro* methods for assessing acute systemic toxicity. NIH Publication 01-4499. NIEHS, Research Triangle Park, North Carolina. http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invidocs/finalall.pdf

National Toxicological Program, September 2000, Attachment 2 revised. Specifications for the Conduct of Studies to Evaluate the Toxic and Carcinogenic Potential of Chemical, Biological and Physical Agents in Laboratory Animals for the National Toxicology Program (NTP).

NICEATM (The National Toxicology Program [NTP] Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods). 2001. Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study.

NICEATM (The National Toxicology Program [NTP] Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods). 2001. Test Method Protocol for the Normal Human Keratinocyte [NHK] Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study.

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development). 2001. Harmonised Integrated Classification System for Human Health and Environmental Hazards of Chemical Substances and Mixtures as Endorsed by the 28th Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals in November 1998, Part 2, p.21. OECD, Paris. http://www.oecd.org/ehs/class/HCL6htm.

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development). 1998. Organisation for Economic Cooperation and Development series on Principles of Good Laboratory Practice and compliance monitoring. Number 1. OECD Principles on Good Laboratory Practice (as reused in 1997), OECD. Environmental Health and Safety Publications, Environment Directorate: ENV/MC/CHEM(98) 17. Paris, France: OECD.

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development). 1992. Environment Monograph No 50, Series on Principles of Good Laboratory Practice and Compliance Monitoring: Number 6, The Application of the GLP Principles to Field Studies. Paris, France: OECD.

Spielmann, H., S. Gerner, S. Kalweit, R. Moog, T. Wirnserberger, K. Krauser, R. Kreiling, H. Kreuzer, N.P. Luepke, H.G. Miltenburger, N. Müller, P. Murmann, W. Pape, B. Siegmund, J. Spengler, W. Steiling, and F.J. Wiebel. 1991. Interlaboratory assessment of alternatives to the Draize eye irritation test in Germany. Toxicol. *In Vitro* 5: 539-542.

Triglia, D., P.T. Wegener, J. Harbell, K. Wallace, D. Matheson, and C. Shopsis. 1989. Interlaboratory validation study of the keratinocyte neutral red bioassay from Clonetics Corporation. In *Alternative Methods in Toxicology*, Volume 7. A.M. Goldberg, ed., pp. 357-365. Mary Ann Liebert, Inc., New York.

17.0 APPROVAL OF STATEMENT OF WORK

Sponsor Representative	**Date**
Testing Facility Management	**Date**

ADDENDUM I

SUGGESTED REPORT FORMAT

TITLE PAGE

- **Study Title**
  - Draft/Final Report 1: *In Vitro Validation Study – Phase Ia: Development of a Positive Control Database in Rodent and Human Cell Systems*
  - Draft/Final Report 2: *In Vitro Validation Study – Phase Ib: Training Phase for Cytotoxicity Study of Three Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems*
  - Draft/Final Report 3: *In Vitro Validation Study – Phase II: Qualification Phase for Cytotoxicity Study of Nine Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems*
  - Draft/Final Report 4: *In Vitro Validation Study – Phase III: Cytotoxicity Study of 60 Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems*

- ***In Vitro* Assay**
  - Identify the assays: 3T3 NRU and NHK NRU

c) **Test Articles**
  - Draft/Final Report 1: (Phase Ia) identify the positive control chemical
  - Draft/Final Report 2: (Phase Ib) identify the three (3) test chemicals
  - Draft/Final Report 3: (Phase II) identify the nine (9) test chemicals
  - Draft/Final Report 4: (Phase III) identify the sixty (60) test chemicals

- **Authors**
- **Study Completion Date**
- **Testing Facility**
- **Validation Study Number/Identification**

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

SIGNATURE PAGE

- **Validation Study Initiation Date**
  Date Protocol was signed by Study Director
- **Initiation Date of Laboratory Studies**
  Actual laboratory start date
- **Validation Study Completion Date**
  Date report signed by Study Director
- **Sponsor Representative**
  The National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
  The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

  NICEATM
  79 T.W. Alexander Drive
  Bldg. 4401, MD-EC-17
  3rd Floor, Room 3126
  P.O. Box 12233
  Research Triangle Park, NC 27709
- **Study Management Team Representatives**
  Judy Strickland, Ph.D. (Project Coordinator)
  Michael Paris (Assistant Project Coordinator)
- **Testing Facility**
  Name and address
- **Archive Location**
  Name and address
- **Study Director**
  Name and signature and date
- **Key Personnel**
  Laboratory technicians, QA Director, Safety Officer
- **Facility Management**
  Name
- **Scientific Advisor**
  Name

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

TEST CHEMICAL RECEIPT PAGE

Test Chemical Receipt Reporting Template for *In Vitro* Validation Study

Test Facility Test Chemical Identification Number	Sponsor Test Chemical Identification Number	Test Chemical Physical Description	Storage Conditions	Test Chemical Receipt Date	Test Chemical Received By	Comments

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

DRAFT/FINAL REPORT 1

In Vitro Validation Study – Phase Ia: Development of a Positive Control Database in Rodent and Human Cell Systems

- **Table of Contents**
- **Objectives:** The reports shall provide specific objectives
- **Description of the Test System Used:** Description of 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay
- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for range finding experiments
- **Narrative Description of the Assays:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical will be included in the description. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report as attachments. The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.
- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the Validation Study was conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP), or for non GLP-compliant laboratories, confirm that the Validation Study adhered to the spirit of GLP. Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Validation Study.
- **Quality Assurance Statement: (For Final Report only)**
- For GLP-Compliant Laboratories: QA Statement identifying: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study.
- For Non GLP-Compliant Laboratories: A statement from the Testing Facility shall be included with the Final Report of Phase III. This statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study and provide assurance that all testing was done in the spirit of GLP.
- **Data Analysis:** (for each NRU assay) calculate the % viability for each positive control chemical concentration (eight concentrations per assay); determine the IC_{50} values for the positive control in each assay; follow guidelines/procedures in Statement of Work and Test Method Protocols.
- **Other Information: (All copies of printouts, documents, and spreadsheets will be noted as exact duplicates of the data.)**
  - Copies of spectrometric plate reader raw data
  - Copies of the completed Microsoft® Excel spreadsheets (Addendum II) used for calculation of cytotoxicity values
  - Copies of data pages showing IC_{50} calculations for the positive control
  - Copy of the protocols
  - Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
  - Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

DRAFT/FINAL REPORT 2

In Vitro Validation Study – Phase Ib: Training Phase for Cytotoxicity Study of Three Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems

- **Table of Contents**

- **Objectives:** The reports shall provide specific objectives

- **Description of the Test System Used:** Description of 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay

- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for range finding experiments

- **Narrative Description of the Assays:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical shall be included in the description. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report as attachments. The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.

- **Statement Signed by the Study Director**: Confirm that the Validation Study was conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP), or for non GLP-compliant laboratories, confirm that the Validation Study adhered to the spirit of GLP. Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Validation Study.

- **Quality Assurance Statement: (For Final Report only)**
- For GLP-Compliant Laboratories: QA Statement identifying: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study.
- For Non GLP-Compliant Laboratories: A statement from the Testing Facility shall be included with the Final Report of Phase III. This statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study and provide assurance that all testing was done in the spirit of GLP.

- **Data Analysis:** (for each assay) calculate the % viability for the positive control and each test chemical concentration (eight concentrations per assay); determine the IC_{50} value for the positive control; determine the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each of the three (3) test chemicals.

- **Other Information: (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)**
  - Copies of spectrometric plate reader raw data
  - Copies of the completed Microsoft® Excel spreadsheets (Addendum II) used for calculation of cytotoxicity values

- Copies of data pages showing IC_{50} calculations for the positive control and the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each test chemical
- Copy of the protocols
- Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
- Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

DRAFT/FINAL REPORT 3

In Vitro Validation Study – Phase II: Qualification Phase for Cytotoxicity Study of Nine Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems

- **Table of Contents**

- **Objectives:** The reports shall provide specific objectives

- **Description of the Test System Used:** Description of 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay

- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for range finding experiments

- **Narrative Description of the Assays:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical will be included in the description. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report as attachments. The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.

- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the Validation Study was conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP), or for non GLP-compliant laboratories, confirm that the Validation Study adhered to the spirit of GLP. Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Validation Study.

- **Quality Assurance Statement: (For Final Report only)**
- For GLP-Compliant Laboratories: QA Statement identifying: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study.
- For Non GLP-Compliant Laboratories: A statement from the Testing Facility shall be included with the Final Report of Phase III. This statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study and provide assurance that all testing was done in the spirit of GLP.

- **Data Analysis:** (for each assay) calculate the % viability for the positive control and each test chemical concentration (eight concentrations per assay); determine the IC_{50} value for the positive control; determine the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each of the nine (9) test chemicals.

- **Other Information: (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)**
  - Copies of spectrometric plate reader raw data
  - Copies of the completed Microsoft® Excel spreadsheets (Addendum II) used for calculation of cytotoxicity values

- Copies of data pages showing IC_{50} calculations for the positive control and the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each test chemical
- Copy of the protocols
- Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
- Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

DRAFT/FINAL REPORT 4

- ***In Vitro Validation Study – Phase III: Cytotoxicity Study of 60Coded Chemicals in Rodent and Human Cell Systems***
- **Table of Contents**

- **Objectives:** The draft report shall provide specific objectives

- **Description of the Test System Used:** Description of 3T3 NRU assay and the NHK NRU assay

- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for range finding experiments

- **Narrative Description of the Assays:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical shall be included in the description. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report as attachments. The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.

- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the Validation Study was conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP), or for non GLP-compliant laboratories, confirm that the Validation Study adhered to the spirit of GLP. Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Validation Study.

- **Quality Assurance Statement: (For Final Report only)**
- For GLP-Compliant Laboratories: QA Statement identifying: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study.
- For Non GLP-Compliant Laboratories: A statement from the Testing Facility shall be included with the Final Report of Phase III. This statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Validation Study and provide assurance that all testing was done in the spirit of GLP.

- **Data Analysis:** (for each assay) calculate the % viability for the positive control and each test chemical concentration (eight concentrations per assay); determine the IC_{50} value for the positive control; determine the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each of the 60 (or 30) test chemicals.

- **Other Information: (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)**
  - Copies of spectrometric plate reader raw data
  - Copies of the completed Microsoft® Excel spreadsheets (Addendum II) used for calculation of cytotoxicity values

- Copies of data pages showing IC_{50} calculations for the positive control and the IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values (and confidence limits) for each test chemical
- Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
- Copy of the protocols
- A list of all SOPs used by the laboratory for the assays (SOP title and laboratory identification code)
- The Statement of Work and The Test Method Protocols

ADDENDUM I (cont.)

SUGGESTED REPORT FORMAT

BIWEEKLY REPORTS

Testing Facility:

Chemicals Received:

Chemicals Tested:
3T3 NRU Assay:
NHK NRU Assay:

Solubility Determinations: (solvents used and concentrations obtained)

Range Finding Experiments: (number performed; outcomes)

Successful Tests: (number of tests and calculated IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values; include Excel® spreadsheets)

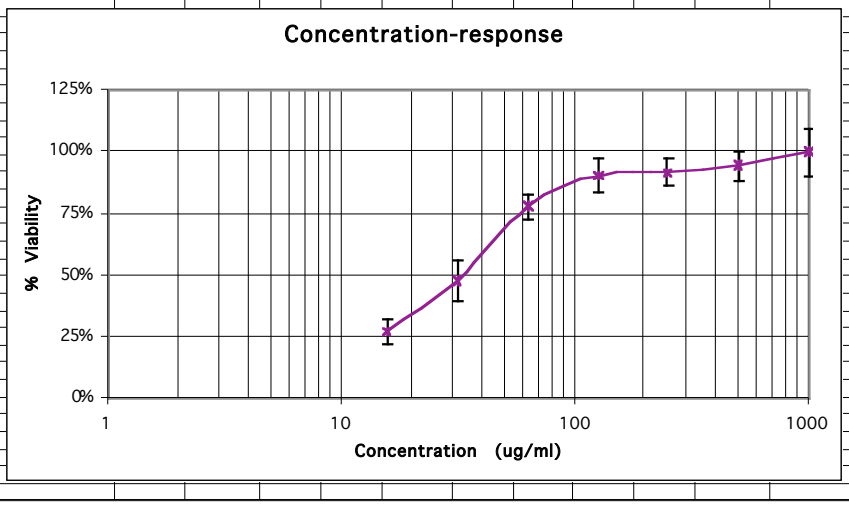
Failed Tests: (number of failed tests and reasons for failure)

Problems Encountered/Resolutions:

Projected Testing Schedule:

ADDENDUM II
EXCEL SPREADSHEET TEMPLATE FOR ASSAY DATA

Test Facility	dfdgs			Cell Line/Type		3T3						
Chemical Code	4567			Vehicle Contol		0.5% DMSO						
Plate ID	qa789											
Date Read	######											
	Plate Map											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
B	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
C	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
D	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
E	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
F	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
G	Blank	VC 1	Conc 1	Conc 2	Conc 3	Conc 4	Conc 5	Conc 6	Conc 7	Conc 8	VC2	Blank
H	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank	Blank
	Plate Data											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0.004	0.006	0.036	0.004	0.028	0.019	0.023	0.029	0.012	0.003	0.004	0.011
B	0.009	0.832	0.832	0.855	0.780	0.755	0.693	0.419	0.265	0.052	0.832	0.008
C	0.014	0.894	0.894	0.916	0.884	0.83	0.73	0.368	0.213	0.105	0.935	0.012
D	-0.006	0.918	0.918	0.87	0.914	0.835	0.806	0.450	0.270	0.098	0.918	0.009
E	-0.004	0.915	0.915	0.826	0.903	0.879	0.73	0.591	0.295	0.086	0.915	0.015
F	-0.004	1.098	1.098	0.984	0.814	0.952	0.746	0.436	0.201	0.151	1.098	0.014
G	0.016	0.948	0.948	0.845	0.842	0.832	0.663	0.431	0.319	0.09	0.89	0.015
H	-0.001	-0.006	0.017	-0.005	0.009	0.004	0.002	0.014	-0.013	-0.003	-0.061	0.012
Mean blank OD	0.0068											
	Corrected OD = OD- mean blank OD											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A												
B		0.825	0.825	0.848	0.773	0.748	0.686	0.412	0.258	0.045	0.825	
C		0.887	0.887	0.909	0.877	0.823	0.723	0.361	0.206	0.098	0.928	
D		0.911	0.911	0.863	0.907	0.828	0.799	0.443	0.263	0.091	0.911	
E		0.908	0.908	0.819	0.896	0.872	0.723	0.584	0.288	0.079	0.908	
F		1.091	1.091	0.977	0.807	0.945	0.739	0.429	0.194	0.144	1.091	
G		0.941	0.941	0.838	0.835	0.825	0.656	0.420	0.312	0.083	0.883	
H												
	blanks	**Vehicle Control 1**	**Conc 1**	**Conc 2**	**Conc 3**	**Conc 4**	**Conc 5**	**Conc 6**	**Conc 7**	**Conc 8**	**Vehicle Control 2**	**blanks**
Concentration [µg/ml]		0	1000	500	250	125	62.5	31.25	15.625	7.2	0	
Mean Corrected OD		0.927	0.927	0.876	0.849	0.840	0.721	0.442	0.254	0.090	0.925	
SD of Mean OD	0.0158	0.089	0.089	0.058	0.053	0.065	0.049	0.075	0.046	0.032	0.089	
Corrected Mean ------	**All VCs**	0.926										
% Viability = Mean Corrected OD/Mean Corrected VC	100%	100%	100%	95%	92%	91%	78%	48%	27%	10%	100%	
SD (% Viability) = SD OD/Mean OD All VCs		10%	10%	6%	6%	7%	5%	8%	5%	3%	10%	
%CV = SD/mean OD*100	9%	9.6%	9.6%	6.6%	6.3%	7.7%	6.8%	17.0%	18.1%	35.7%	9.7%	
Mean Vehicle Control - VC1 (%)		-0.15%										
Mean Vehicle Control - VC2 (%)		0.15%										



ADDENDUM III

SUGGESTED STANDARD TEST REPORTING TEMPLATE FOR *IN VITRO* VALIDATION STUDY WORKBOOK

TEST CHEMICAL								
Test Facility				96-Well Plate ID _____				
Chemical Code				Experiment ID _____				
PREPARATION OF TEST CHEMICAL								
Solvent _____Culture Medium _____DMSO _____Ethanol								
Highest Percent Solvent (v/v) in Dilutions _____%				Highest Concentration Tested_____µg/ml				
Aids Used to Dissolve _____Vortex _____Ultra-sonicaton _____Heat to 37°C								
pH (Highest Test Concentration)_____ Media color of test chemical solutions:								
Concentration Series (µg/ml)	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8
Positive Control [SLS]_____µg/ml				Vehicle Control _____% solvent				

CELL LINE/TYPE		
Name	Supplier	From Cell Lot No._____
Total Passage No.	No. of Passages after Thawing	From:____ proliferating ____frozen
CELL CULTURE CONDITIONS		
Name of Medium	Supplier/ID	Lot No./Lab I.D.
Name of Serum	Supplier/ID	Lot No.
Serum Concentration	During Growth: _____%	During Exposure: _____%

TEST ACCEPTANCE CRITERIA			
VC: Mean Absolute OD_{540}	Mean OD =_____	____Accept	____Reject
VC: Difference Between Col.2 and Col. 10	Difference =_____%	____Accept	____Reject
PC: IC_{50} of Concurrent SLS Test	IC_{50} =_____µg/ml	____Accept	____Reject

TIMELINE		
Assay Start Date (cells to plates)	Application of Test Chemical Date	NRU/OD_{540} Measurement Date

ADDENDUM IV

EXAMPLES OF LABORATORY EQUIPMENT LOGS

INCUBATOR

INCUBATOR I.D._____

MONTH:_____ YEAR:_____ LOCATION:_____

DATE	TIME	INITIALS	CO_2 %	RH %	TEMP. (^{O}C.)	CO_2 TANK (PSI)	CO_2 TANK (NEW)
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							

FYRITE CHECK OF CO2:

ADDITION OF WATER:

TOTAL INCUBATOR DISINFECTION:

ADDENDUM IV (cont.)

EXAMPLES OF LABORATORY EQUIPMENT LOGS

pH METER

pH METER I.D._____

MONTH:_____ YEAR:_____ LOCATION:_____

DATE	TIME	INITIALS	pH STD. 7.00	pH STD. 10.00	pH STD. 4.00	pH STD. 7.40	SLOPE
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
pH STANDARDS		7.00	10.00	4.00	7.40		
SUPPLIER/I.D.							
LOT NUMBER							
EXPIRATION DATE							

NOTES:

ADDENDUM IV (cont.)

EXAMPLES OF LABORATORY EQUIPMENT LOGS

MONTH_____ YEAR_____			RERIGERATOR I.D. NUMBER_____ LOCATION_____	FREEZER I.D. NUMBER_____ LOCATION_____
DATE	**TIME**	**INITIALS**	**TEMPERATURE (^{O}C.)**	**TEMPERATURE (^{O}C.)**
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
31				
NOTES:				

ADDENDUM V

SUGGESTED STANDARD TEST REPORTING TEMPLATE FOR STUDY WORKBOOK

[1]SOLUBILITY TESTING
Test Chemicals for the *In Vitro* Validation Study

Study No._____

Test Chemical_____ Test Chemical Code_____ CAS #_____

Physical Description_____ Liquid Density_____

Solubility Determined by_____
Date_____

Solvent	Amount of Test Chemical	Volume Added	Total Volume	pH and medium color	Vortex (V) Sonication (S) Heating-37°C (H)	Comments
Treatment Medium (3T3 NRU)		0.1ml				
		0.5ml				
		1.0ml				
Routine Culture Medium (NHK NRU)		0.1ml				
		0.5ml				
		1.0ml				
DMSO		0.1ml				
Ethanol		0.1ml				

Reference Color of Treatment Medium_____

Reference Color of Routine Culture Medium_____

Balance I.D._____
Treatment Medium and Routine Culture Medium: minimum concentration of 100mg/ml.
DMSO and Ethanol: minimum concentration of 1000mg/ml.

[1] Adaptation of Institute of In Vitro Sciences (IIVS) form – 350 [2/2002]

ADDENDUM VI

GANTT CHART OF STUDY TIMELINES AND DELIVERABLES

In Vitro Cytotoxicity Validation Study			MARCH 2002	APRIL 2002	MAY 2002	JUNE 2002	JULY 2002	AUGUST 2002	SEPTEMBER 2002	OCTOBER 2002	NOVEMBER 2002	DECEMBER 2002	JANUARY 2003	FEBRUARY 2003	MARCH 2003	APRIL 2003	MAY 2003	JUNE 2003	JULY 2003	AUGUST 2003	SEPTEMBER 2003	OCTOBER 2003	NOVEMBER 2003	DECEMBER 2003
TASK	**START**	**FINISH**																						
Statement of Work Issued by NIEHS		3/29/02	29																					
Proposal received		5/10/02			10																			
Contracts Awarded		6/29/02				29																		
Submission of Study Protocol, CVs of Key Personnel, and SOPs		7/12/02					12																	
Phase Ia Positive control	7/29/02	8/26/02					July 29 Aug. 26																	
Phase Ia Draft Report		9/9/02					Sept. 9																	
Phase Ia Final Report		11/11/02					Nov. 11																	
Phase Ib 3 chemicals	9/26/02	10/29/02							Sept. 26 Oct. 29															
Phase Ib Draft Report		11-11/02							Nov. 11															
Phase Ib Final Report		1/13/03							Jan. 13															
Phase II 9 chemicals	12/2/02	2/10/03										Dec. 2 Feb. 10												
Phase II Draft Report		2/25/03										Feb. 25												
Phase II Final Report		4/28/03										April 28												
Phase III 60 chemicals	3/26/03	12/9/03													Mar. 26 Dec. 9									
Phase III Draft Report		10/24/03													Oct. 24									
Phase III Final Report		12/9/03													Dec. 9									
Biweekly Reports	7/10/02	12/9/03				July 10, 2002 – December 9, 2003																		

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix G2

Procedures for Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals for a Validation Study for *In Vitro* Basal Cytotoxicity Testing

[This Page Intentionally Left Blank]

NOTE: This Statement of Work shall not be cited, quoted, nor distributed to any Testing Facility participating in the In Vitro Validation Study. Confidentiality must be maintained to ensure that test chemicals remain unknown to the Testing Facilities.

STATEMENT OF WORK

Procedures for Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals for a Validation Study for *In Vitro* Basal Cytotoxicity Testing

April 26, 2002
Revision 1: May 8, 2002
Revision 2: June 21, 2002
Revision 3: September 17, 2002
Revision 4: October 11, 2002
Prepared by

The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
National Institutes of Health (NIH)
U.S. Public Health Service
Department of Health and Human Services

Table of Contents

NOTE: Revisions in this document are identified by footnotes, strike-out text (i.e., ~~deleted~~), and added verbiage (i.e., *italicized text*).

[3] Revised 9/17/02

STATEMENT OF WORK

Procedures for Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals for a Validation Study for *In Vitro* Basal Cytotoxicity Testing

1.0 PROJECT OBJECTIVES AND GENERAL REQUIREMENTS

1.1 Project Objectives

This Statement of Work outlines and supports the procedures that the Contractor will initiate for the acquisition, preparation, solubility testing, and distribution of the test chemicals needed to perform two *in vitro* basal cytotoxicity assays (the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake [NRU] assay and the Normal Human Keratinocyte [NHK] Neutral Red Uptake [NRU] assay) for a multi-laboratory Validation Study. These assays, recommended in *Guidance Document On Using In Vitro Data To Estimate In Vivo Starting Doses For Acute Toxicity* (ICCVAM, 2001), use mammalian cell culture techniques to assess the basal cytotoxicity of chemicals.

A primary goal of this Validation Study is to evaluate the usefulness of the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) and the Normal Human Keratinocyte (NHK) NRU assays for reducing and refining animal use for acute oral toxicity determinations of chemicals by predicting starting doses for *in vivo* rodent acute lethality assays.

The proposed Validation Study will determine IC_{20}, IC_{50}, and IC_{80} values for a test set of 72 chemicals with varying degrees of toxicity. This set of chemicals was selected separate and prior to this Statement of Work by the Study Management Team. The basis for selection of this test set is discussed in the Study Design document prepared by the Study Management Team.

The Contractor shall perform the following activities:

- Acquire 73 high quality and high purity (99% or greater when economically feasible) chemicals from reputable commercial sources
- Perform solubility tests on all chemicals using solvents and procedures that have been recommended to the test laboratories
- Repackage chemicals into multiple smaller units
- Code chemicals with a unique identification number so that chemicals can be provided to testing laboratories in a blinded fashion
- Distribute chemicals and health and safety information to the Testing Facilities
- Provide draft and final reports of these activities.

1.2 Response to the Statement of Work

Proposals submitted in response to this Statement of Work shall include:

a) A Work Plan
b) A timetable for project milestones
c) A cost estimate based on chemical acquisition, performance of solubility tests for all test chemicals, chemical coding, repackaging, and distribution to two U. S labs and one U. K. lab.

1.2.1 *General Capabilities*

The Contractor shall be capable of performing the following:

a) Prepare/provide Standard Operating Procedures (SOPs) for the performance of the activities outlined in **Section 1.1** (see **Section 1.4** – Definitions - SOPs)

b) Perform all aspects of the Test Chemical Preparation in accordance with Good Laboratory Practices (GLP).
c) Adhere to this Statement of Work throughout the Validation Study.

1.3 Guidelines

The Project Officer and/or her/his representatives (e.g., Study Management Team) may inspect and audit the Contractor to ensure that the Project Officer's minimum requirements and guidelines are being followed.

1.4 Definitions

Blinded/Coded Chemicals: Test chemicals supplied to the Testing Facilities that are coded and distributed by the Contractor such that only the Project Officer, Management Team, and the Contractor have knowledge of the contents of each test chemical vessel. The test chemicals will be purchased, aliquoted, coded, and distributed by the Contractor under the guidance of the NIEHS/NTP Project Officer and the Management Team.

Contractor: Facility that will initiate the acquisition, preparation, solubility testing, and distribution of the test chemicals needed to perform two *in vitro* basal cytotoxicity assays for a multi-laboratory *in vitro* Validation Study.

Good Laboratory Practices (GLPs): Regulations governing the conduct, procedures, and operations of toxicology laboratories; regulations to assure the quality and integrity of the data and to address such matters as organization and personnel, facilities, equipment, facility operations, test chemicals, and study protocol (Statement of Work) and conduct (U.S. Food and Drug Administration, Title 21 CFR Part 58; Environmental Protection Agency, Title 40 CFR Part 160).

Standard Operating Procedures (SOPs): Written documents that describe, in great detail, the routine procedures to be followed for a specific operation, analysis, or action; consistent use of an approved SOP ensures conformance with organizational practices, reduced work effort, reduction in error occurrences, and improved data comparability, credibility, and defensibility; SOPs also serve as resources for training and for ready reference and documentation of proper procedures;

Statement of Work: A description of test chemical preparation required for the *in vitro* Validation Study; defines all phases of the Validation Study and the purpose of the procedures; provides the details of test chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution; provides guidance for the preparation of reports

Testing Facility: A laboratory that has been designated to participate in the *In Vitro* Validation Study; facilities identified in **Section 2.2.4**.

2.0 ORGANIZATION

2.1 Validation Study Sponsors

- National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
- The National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM)
- U.S. Environmental Protection Agency (U.S. EPA)
- The European Centre for the Validation of Alternative Methods (ECVAM).

2.2 Management Team

2.2.1 *Project Management and Chemical Distribution Team*

Ms. Molly Vallant (NIEHS) – NIEHS Project Officer for BioReliance, Inc.
NIEHS
MD E1-03
P.O. BOX 12233
RTP, NC 27709

Dr. Martin L. Wenk (BioReliance, Inc.) – Chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution
BioReliance Corporation
14920 Broschart Road
Rockville, Maryland 20850-3349

2.2.2 *Contract Management*

Ms. Jackie Osgood (NIEHS) – Contracting Officer
Mr. Don Gula (NIEHS) – Contracting Officer

2.2.3 *Study Management Team*

2.2.3.1 ***NIEHS/NICEATM***

Dr. William S. Stokes (NICEATM/NIEHS) – Co-chair – Study Management Team
Dr. Judy Strickland (NICEATM/ILS) – Project Coordinator
Mr. Michael Paris (NICEATM/ILS) – Assistant Project Coordinator
Dr. Ray Tice (NICEATM/ILS) – Technical Advisor

NICEATM
79 T.W. Alexander Drive
Bldg. 4401, MD-EC-17
3rd Floor, Room 3126
P.O. Box 12233
Research Triangle Park, NC 27709

2.2.3.2 ***ECVAM***

Professor Michael Balls – Co-chair – Study Management Team
Dr. Silvia Casati
Dr. Andrew Worth

European Commission
Joint Research Centre
Institute for Health and Consumer Protection
Management Support Unit - TP 202
I-21020 Ispra (VA) - Italy

2.2.4 *Testing Facilities*

XXX, Safety Officer
Institute for *In Vitro* Sciences (IIVS)
21 Firstfield Road
Suite 220
Gaithersburg, MD 20878

Bill Cappuccio, Safety Officer
5183 Blackhawk Rd
E3330/Room 278
Aberdeen Proving Ground-EA, MD 21010
410-436-7462

Rodger Dainty, Safety Officer
School of Biomedical Sciences
University of Nottingham Medical School
Queen's Medical Centre
Nottingham, NG7 2UH UK

3.0 CONTRACTOR AND KEY PERSONNEL

3.1 Contractor

The Contractor shall have competence in chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution and shall provide competent personnel, adequate facilities, equipment, supplies, proper health and safety guidelines, and satisfactory quality assurance procedures.

3.1.1 *Personnel*

3.1.1.1 ***Facility Management***

The facility management is responsible for establishing scientific guidelines and procedures, training and supervision of professional and technical staff, and evaluation of results and performance within their discipline area relative to the Project Officer's stated requirements. The manager must maintain records of the qualifications, training and experience, and a job description for each professional and technical individual involved in test chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution.

3.1.1.2 ***Study Director***

A scientist or other professional of appropriate education, training, and experience in chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution, or combination thereof, shall be the Study Director. The Study Director has the overall responsibility for the technical conduct of chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution for the Validation Study (e.g., GLP adherence) and shall be responsible for determining test acceptance. The Study Director shall be responsible for providing SOPs that incorporate pertinent information obtained from the Statement of Work. Other duties include the interpretation and analysis of test chemical solubility data, documentation of all study aspects (including maintenance of a Study Workbook), and production of all draft and final written reports.

3.1.1.3 ***Quality Assurance (QA) Director***

The Quality Assurance Director shall **monitor** all tasks and assure conformance with GLP requirements (i.e., facilities, equipment, personnel, methods, practices, records, controls, transference of data into software, SOPs). Quality Assurance Director or unit can be any person or organizational element, except the Study Director, designated by Contractor management to perform the duties relating to quality assurance of the studies and tasks. The Quality Assurance duties are not a substitute for the Study Director duties.

3.1.1.4 ***Scientific Advisor(s)***
Scientists or other professionals of appropriate education, training, and experience in chemical acquisition, preparation, solubility testing, and distribution who provide scientific guidance to the Study Director and other laboratory personnel.

3.1.1.5 ***Laboratory Technician(s)***
Each individual engaged in the conduct of or responsible for the supervision of a study shall have education, training, and experience, or combination thereof, to enable that individual to perform the assigned duties. The individuals must be trained in GLP requirements and technical ability must be documented as per GLP requirements.

3.1.1.6 ***Safety Officer***
The Contractor shall designate a Safety Officer who will provide a sealed health and safety information package that will accompany the test chemicals to the Test Facilities. A duplicate package will be provided to the Project Officer and Management Team.

3.1.2 ***Facilities, Equipment, and Supplies***

3.1.2.1 ***Laboratory***
The Contractor must provide a designated laboratory/area to ensure that test chemical preparation and solubility testing can be performed under clean conditions. Potential for cross-contamination of chemicals should be minimal.

3.1.2.2 ***Equipment***
The Contractor must provide at a minimum the following equipment:
a) Water bath (37^{o}C)
b) Sonication unit
c) Vortex unit
d) Pippettors (micropipettors,)
e) Computer (for data transformation and analysis)
f) Balance
g) pH meter

All equipment maintenance and calibration shall be routinely performed and documented as per GLP guidelines and Contractor procedures

3.1.2.3 ***Supplies***
All cell culture reagents must be labeled so as to indicate source, identity, concentration, stability, preparation and expiration dates, and storage conditions.
a) Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) without L-Glutamine; should have Hanks' salts and high glucose [4.5gm/l] (e.g., ICN-Flow Cat. No. 12-332-54)
b) L-Glutamine 200 mM (e.g., ICN-Flow # 16-801-49)
c) New Born Calf Serum (NBCS) (e.g., Biochrom # SO 125)
d) Dimethyl sulfoxide (DMSO), U.S.P. analytical grade. DMSO shall be stored under nitrogen at –20^{o}C.
e) Ethanol (ETOH), U.S.P. analytical grade (100%, non-denatured)

f) Keratinocyte Basal Medium without Ca^{++} (KBM®, Clonetics CC-3104) that is completed by adding the *KBM® SingleQuots®* ~~Bullet Kit®~~[2] (Clonetics CC-4131) to achieve the proper concentrations of epidermal growth factor, insulin, hydrocortisone, antimicrobial agents, bovine pituitary extract, and calcium (e.g., Clonetics Calcium SingleQuots®, CC-4202)*.

g) Penicillin/streptomycin solution (e.g. ICN-Flow # 16-700-49)

* BioWhittaker, 8830 Biggs Ford Road, Walkersville, MD 21793 (http://www.cambrex.com/subsidiaries/s%2Dbw%5Finc/s%2Dbiowhittaker%2Dinc%2Dcontact2.htm)

3.1.3 *Health and Safety*

The Contractor shall conform to all local, state, and federal statutes in effect at the time of this study.

3.1.4 *Quality Assurance*

The Contractor shall conduct the acquisition, preparation, solubility testing, and distribution of test chemicals in compliance with Good Laboratory Practice (GLP) Standards (U.S. Food and Drug Administration, Title 21 CFR Part 58; Environmental Protection Agency, Title 40 CFR Part 160). The appropriate QA unit (as per GLPs) shall audit the procedures and final report.

The Final Report shall be audited by the Quality Assurance unit of the Contractor for GLP compliance and a QA Statement shall be provided by the Contractor. The Final Report shall identify: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Contractor management. The QA Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the study.

4.0 TEST PHASES AND SCHEDULE

4.1 Study Timeline

The following timeline is for the **laboratory testing aspect** of the *In Vitro* Validation Study. The Contractor shall provide the required chemicals in a timely fashion so that each phase of the study can start on the appointed date.

[2] Revised 6/21/02

TASK	WEEK	ESTIMATED DATE
Statement of Work issued by NIEHS to the Testing Facility	0	March 29, 2002
Response /Proposal received from the Testing Facility	6	May 10, 2002
~~Award of Contracts~~[2]	~~9~~[2]	~~May 29, 2002~~[2]
Submission of *Study Protocol, CVs of Key Personnel,* SOPs[2]	11	June 12, 2002
Award of Contracts[2]	*13*[2]	*June 28, 2002*[2]
Start Testing – Phase I (Phase Ia)	~~14~~*18*[2]	July ~~1~~*29*[2], 2002
End Phase Ia	~~18~~*22*[2]	~~July~~ *August* 2~~6~~9[2], 2002
Begin Phase Ib	~~22~~*26*[2]	~~August~~ *September* ~~29~~*26*[2], 2002
End Phase Ib	~~27~~*31*[2]	October ~~1~~*29*[2], 2002
Begin Phase II	~~31~~*36*[2]	~~October~~ *December* 2~~9~~[2], 2002
End Phase II	~~42~~*46*[2]	~~January~~ *February* ~~13~~*10*[2], 2003
Begin Phase III	~~48~~*52*[2]	~~February~~ *March*[2] 26, 2003
Final Report (Phase III) to SMT	~~85~~*89*[2]	~~November~~ *December* ~~11~~*9*[2], 2003

4.2 Deliverables

The following schedule of deliverables is for **the acquisition, preparation, solubility testing and distribution of test chemicals**.

	ESTIMATED DUE DATES (to Project Officer)			
Submission of SOPs for **Section 1.1** activities	**Week 11**		**June 12, 2002**	
REPORTS	**PHASE Ia**	**PHASE Ib**	**PHASE II**	**PHASE III**
Biweekly Reports	a	a	a	a
Draft Phase Reports	Week ~~13~~*17* ~~June~~ *July* 2~~4~~6[2], 2002 [b]		Week ~~29~~*33* ~~Oct~~*Nov.* ~~1~~6*13*[2], 2002 [b]	Week ~~44~~*48* ~~Jan~~*Feb.* ~~29~~*26*[2], 2003 [b]
Draft Final Report (all phases combined)	Week ~~48~~*52* *March*~~Feb.~~[2] 26, 2003 [c]			
Final Report (all phases combined)	Week ~~50~~*54* ~~March~~ *April* 9~~12~~[2], 2003 [d]			

a Biweekly reports shall begin at the time of implementation of the contracts and continue until the final report is submitted.

b Draft Phase Reports shall be submitted to the Project Officer no later than the dates provided (at least two weeks before shipment of chemicals to the Test Facilities).

c Draft Final Report shall be submitted to the Project Officer no later than the date provided (at the most one month after final shipment of chemicals to the Test Facilities).

d Final Report shall be submitted to the Project Officer no later than the date provided (at the most one month after the Project Officer receives the Draft Final Report.

[2] Revised 6/21/02

The following schedule is for the **distribution of test chemicals** to the Testing Facilities.

	ESTIMATED DUE DATES (to Testing Facilities)			
CHEMICAL SHIPPING TO TESTING FACILITIES[a]	**PHASE Ia**	**PHASE Ib**	**PHASE II**	**PHASE III**
Positive Control (SLS)	Before July ~~1~~*29*[2], 2002	---	---	---
Phase Ib (3 chemicals)	---	Before ~~August~~ *September* ~~29~~*26*[2], 2002	---	---
Phase II (9 chemicals)	---	---	Before ~~October~~ *December* 2~~9~~[2], 2002	---
Phase III (60 chemicals)	---	---	---	Before ~~February~~ *March*[1] 26, 2003

a Dates for chemical shipments are to ensure that the Testing Facilities receive Test Chemicals prior to the start dates of each lab testing phase. Phase III chemicals shall be shipped as one group of 60 chemicals. Chemicals for each phase are identified in Addendum IV.

4.3 *In Vitro* Validation Study Phases

Phase I: The training phase for laboratory personnel. This phase includes developing a positive control database (Phase Ia) and testing three unknown chemicals (Phase Ib).
Phase II: The qualification phase. This phase requires testing nine blinded/coded chemicals in the same *in vitro* cytotoxicity assays and in the same concentration-response fashion as in Phase Ib.
Phase III: Testing 60 blinded/coded chemicals in the same manner as in Phases I and II.

4.4 Report Submission Timelines

4.4.1 *Draft Reports*

Draft reports for each phase shall be submitted to the Project Officer as per **Section 4.2**.

4.4.2 *Final Report*

The Final report shall be submitted to the Project Officer as per **Section 4.2**.

5.0 ACQUISITION, PREPARATION, AND DISTRIBUTION OF TEST CHEMICALS

5.1 Test Chemicals

5.1.1 *Range of Toxicities*

The chemicals proposed for the Validation Study are representative of a range of toxicities and are relevant with regard to human exposure potential. The test chemicals

[2] Revised 6/21/02

will represent each of the Globally Harmonized System (GHS) classification groups for rat oral LD50s: ≤ 5 mg/kg, >5 ≤ 50 mg/kg, >50 ≤ 300 mg/kg, >300 ≤ 2000 mg/kg, >2000 ≤ 5000 mg/kg, and >5000 mg/kg (OECD, 2001). Addenda III and IV provide the list of test chemicals for the *In Vitro* Validation Study.

5.1.2 ***Procurement of Test Chemicals***
The Contractor shall purchase 73 chemicals specified in Addenda III and IV (72 "test chemicals" and one "positive control") from commercial manufacturers. Chemical purity shall be 99% or greater when economically feasible. Chemical information from the manufacturers shall be collected as specified in **Section 7.1.2** and reported as indicated in Addendum I. Chemicals shall be stored as recommended by the manufacturer.

5.1.3 ***Dispensing Chemicals***
While preparing the purchased chemicals for distribution to the Testing Facilities, only one bulk substance shall be dispensed at any time. All test samples shall be sealed and labeled before dispensing the next substance. Once test samples have been dispensed into aliquots, they shall be returned to appropriate storage conditions until they are dispatched.

During dispensing, all test chemicals, with the exception of the positive control, will be randomly blinded/coded so that testing by the Testing Facilities will be conducted on chemicals with a masked identity. Each chemical shall have a code that is unique for each Testing Facility (i.e., no chemical shall have the same code in any Testing Facility). The Contractor shall dispense 4 g of test chemical/Testing Facility (see Addendum V for assumptions used to determine the amount of chemical/Testing Facility) into clean, sterile containers, and assign unique code identifiers, and archive two additional samples. About 100 g of the positive control shall be distributed to each lab and one additional sample shall be archived.

5.1.4 ***Shipment of Chemicals***
After dispensing and labeling chemical aliquots with unique codes, the Contractor shall ship a set of the test chemicals, including the positive control, to the each of three Testing Facilities. Two Facilities will be in the US and one will be in the United Kingdom. The Contractor will package test chemicals so as to minimize damage during transit and will ship them to each Testing Facility according to proper regulatory procedures. Except for the positive control in Phase Ia, chemicals are to be packaged and shipped so as to conceal their identities. Test chemicals shall be shipped under conditions that will preserve the integrity of the chemicals. The Contractor shall notify the Testing Facilities (and the Project Officer) when the test chemicals are shipped so as to prepare for receipt.

The Contractor will retain the archived chemicals, which may be required for retesting or purity analysis, until the completion of the Validation Study.

5.1.4.1 ***Distribution Phases***
Phase Ia: For Phase I, the positive control chemical identified in Addendum III shall be distributed to all three Testing Facilities.
Phase Ia: For Phase Ib, the three (3) blinded/coded chemicals identified in Addendum III shall be distributed to all three Testing Facilities.
Phase II: Nine (9) blinded/coded chemicals identified in Addendum III shall be distributed to all three Testing Facilities.

Phase III: Sixty (60) blinded/coded chemicals identified in Addendum III shall be distributed to the Test Facilities. Chemicals will be shipped –as a group of 60 chemicals.

5.1.5 ***Receipt of Chemicals by the Testing Facilities***

With the exception of the positive control shipment, which shall be shipped directly to the Study Director, the chemical shipments shall be addressed to the Testing Facility Safety Officers and accompanied by a sealed information packet containing the appropriate health and safety procedures for use (i.e., Material Safety Data Sheets (MSDS) or equivalent documentation with proper protection, procedures for accidental ingestion or contact with skin or eyes, and procedures for containing and recovering spills) and a disclosure key for identifying test chemicals by code. The shipment shall include instructions for the Testing Facility Safety Officer to:

1) Immediately notify the Contractor and Study Project Coordinator upon receipt of chemicals,
2) Retain the health and safety package and pass the test chemicals to the Study Director without revealing the identities of the test chemicals,
3) Notify the Management Team if Test Facility personnel open the health and safety packet at any time during the Validation Study, and
4) Return the unopened health and safety package to the Contractor after testing is complete. The Contractor shall immediately notify the Project Officer regarding chemical receipt.

If regulatory transportation requirements dictate that each package must display a list of the chemicals it contains on the outside of the package, the Contractor shall direct the Testing Facility Safety Officer to remove it prior to passing the chemicals to the Study Director.

5.1.6 ***Test Chemical Information for the Study Director***

The Contractor shall supply, with each test chemical, data sheets giving a minimum of essential information, including color, odor, physical state, weight or volume of sample, specific density for liquid test chemicals, and storage instructions. The Study Director shall receive this information from the Safety Officer.

5.2 Handling of Test Chemicals

Appropriate routine safety procedures shall be followed in handling the test chemicals. The Contractor shall include instructions to the Test Facilities to treat all blinded/coded test chemicals as ***very hazardous and potentially carcinogenic.*** After the studies are completed, the remaining test chemicals will be returned by the Testing Facilities to the Contractor.

5.3 Determination of Purity, Composition, and Stability of Test Chemicals

As indicated in **Section 7.1.2**, the Contractor will be directly responsible for collecting information (from manufacturer and supplier documentation) on the analytical purity, composition, and stability of the test chemicals and the positive control material, and their homogeneity (via Contractor solubility studies) in the vehicle.

6.0 SOLUBILITY DETERMINATION OF TEST CHEMICALS

The Contractor shall determine solubility of the test chemicals in the same manner as recommended to the Testing Facilities (i.e., by following the hierarchy below).

6.1 Cell Culture Media and Control Material

6.1.1 *Test Chemical Medium Solvents*

6.1.1.1 ~~*Treatment*~~ *Chemical Dilution*[3] *Medium (BALB/c 3T3 NRU)*

Serum-free[3] Dulbecco's Modification of Eagle's Medium (DMEM) [see **Section 3.1.2.3.a**] buffered with sodium bicarbonate and supplemented with (final concentrations in DMEM are quoted):

~~5% NBCS~~[3]
4 mM Glutamine
~~100~~ *200* IU/*mL*[3] Penicillin
~~100~~ *200* µg/ml[3] Streptomycin

This *serum-free*[3] medium is used in the assay for ~~application of~~*dissolving*[3] test chemicals *prior to application*[3] to the 3T3 cells.

6.1.1.2 *Routine Culture Medium (NHK NRU)*

KBM® (Clonetics CC-3104) supplemented with KBM® SingleQuots® (Clonetics CC-4131) and Clonetics Calcium SingleQuots® (CC-4202) to make 500ml of medium. Final concentration of supplements in medium are: ~~A modified MCDB 153 formulation such as Clonetics® Keratinocyte Basal Medium (KBM®) supplemented with (final concentrations in KBM® are quoted):~~[2]

0.*000*1 ng/ml[2] Human recombinant epidermal growth factor
5 *µ*g/ml[2] Insulin
0.5 g/ml[2] Hydrocortisone
~~50~~ *30 µ*g/ml[2] Gentamicin
~~50~~ *15* ng/ml[2] Amphotericin B
0.10 mM Calcium
~~2 ml 7.5 mg/ml~~*30 µg/ml*[2] Bovine pituitary extract.

This medium is used in the assay as the routine culture medium and for application of test chemicals to the NHK cells. *Complete media should be kept at 4°C and stored for no longer than two weeks.*[2]

NOTE: KBM® SingleQuots® contain the following stock concentrations and volumes:[2]

0.1 ng/ml	*hEGF*	*0.5 ml*[2]
5.0 mg/ml	*Insulin*	*0.5 ml*[2]
0.5 mg/ml	*Hydrocortisone*	*0.5 ml*[2]
30 mg/ml	*Gentamicin, 15 ug/ml Amphotericin-B*	*0.5 ml*[2]
7.5 mg/ml	*Bovine Pituitary Extract (BPE)*	*2.0 ml*[2]

Clonetics Calcium SingleQuots® are 2 ml of 300mM concentration of calcium.[2] *165 ul of solution per 500 ml calcium-free medium equals 0.10 mM calcium in the medium.*[2]

[3] Revised 9/17/02
[2] Revised 6/21/02

6.1.2 ***Positive Control (PC)***
Sodium Lauryl Sulfate ([SLS], CAS # 151-21-3) will be the positive control material for the *In Vitro* Validation Study.

6.2 Preparation of Test Chemical

All chemicals (including the positive control [SLS]) shall be weighed on a calibrated balance (including liquid test chemicals) and added to the appropriate solvent (**Section 6.2.1**). Test chemicals must be at room temperature before dissolving. Preparation under red light or yellow light may be necessary, if rapid photodegradation is likely to occur. The solutions must not be cloudy nor have noticeable precipitate.

6.2.1 ***Dissolving the Test Chemical***[3]
The hierarchy specified in **Sections 6.2.1.1 to 6.2.1.3** (i.e., culture medium, DMSO, ethanol) shall be followed for dissolving the test chemicals and positive control. Both assay-specific culture media specified in **Section 6.1.1** *(i.e., Chemical Dilution Medium for 3T3 cells and Routine Culture Medium for NHK cells)* must be tested.

Approximately 100 mg (100,000 μg) of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. Assay-specific media will be added to the vessel so that the concentration is 200,000 μg/ml (200 mg/mL) (i.e., approximately 0.5 mL). The solution is mixed as specified in Section 6.2.1.1. If complete solubility is achieved, then additional solubility procedures are not needed. If only partial solubility is achieved, follow the test chemical dissolving steps in Table 1, derived from EPA (1998), to add additional medium in steps until the concentration is a minimum of 2,000 μg/mL (2 mg/mL). If complete solubility at 2,000 μg/mL in medium can't be attained, then repeat the solubility steps using the other solvent(s) in the solubility hierarchy. Test chemicals that are only soluble in DMSO or ethanol will be prepared at 500,000 μg/mL as the highest concentration of stock solution.

Table 1: Determination of Solubility in Media

STEP	***1***	***2***	***3***	***4***	***5***
Total Volume of Medium	*0.5 mL*	*2.5 mL*	*5.0 mL*	*2.0 mL*	*10.0 mL*
Concentration of Test Chemical (Add 100 mg to a tube. Add the first volume of medium. Dilute with subsequent volumes if necessary.)	*200,000 μg/mL (200 mg/mL)*	*40,000 μg/mL (40 mg/mL)*	*20,000 μg/mL (20 mg/mL)*		
Concentration of Test Chemical (Add 20 mg to a large tube. Add the first volume of medium. Dilute with subsequent volume if necessary.)				*10,000 μg/mL (10 mg/mL)*	*2,000 μg/mL (2.0 mg/mL)*
If test chemical is insoluble in medium at 2000 μg/mL, then attempt to dissolve chemical in DMSO. Actual volume of solution can be determined after test chemical is dissolved and solution is measured using a calibrated instrument (e.g., micropipettor, or serological pipette). The actual stock concentration can be calculated accordingly.					

Example: If complete solubility is not achieved in 0.5 mL medium (Step 1) using the mixing procedures specified in ***Section 6.2.1.1, b-d,*** *then 2.0 mL must be added to obtain a total volume of 2.5 mL (Step 2). Chemical and medium are again mixed as prescribed in* ***Section 6.2.1.1*** *in an attempt to dissolve. If solubility is not achieved at Step 2, then 2.5 mL medium is added in Step 3.*

[3] Section 6.2.1 replaced 9/17/02

*Chemical and medium are again mixed as prescribed in Section **6.2.1.1** in an attempt to dissolve. No additional weighing of the chemical is required until Step 4.*

6.2.1.1 Chemical Dilution Medium/Routine Culture Medium

a) *Dissolve test chemical in Chemical Dilution Medium and Routine Culture Medium as in Step 1 of **Table 1**.*
b) *Gently mix. Vortex for 1-2 minutes.*
c) *If test chemical hasn't dissolved, use sonication for up to five minutes.*
d) *If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C.*
e) *Proceed to Step 2 (and Steps 3-5, if necessary) of **Table 1** and repeat procedures b-d.*

6.2.1.2 DMSO

*If the test chemical doesn't dissolve in the Chemical Dilution Medium or Routine Culture Medium, then follow the dilution steps in **Table 1A** and mixing steps a) through e) in **Section 6.2.1.1** using DMSO instead of Chemical Dilution Medium/Routine Culture Medium.*

6.2.1.3 Ethanol

*If the test chemical doesn't dissolve in DMSO, then follow the dilution steps in **Table 1A** and mixing steps a) through e) in **Section 6.2.1.1** using ethanol instead of DMSO.*

Table 1A: Determination of Solubility in DMSO and Ethanol

Steps	***1***	***2***	***3***	***4***	***5***	***6***
Total Volume of DMSO or Ethanol	*0.2 mL*	*0.5 mL*	*2.5 mL*	*5.0 mL*	*2.0 mL*	*10.0 mL*
Concentration of Test Chemical (Add 100 mg to a tube. Add the first volume of solvent. Dilute with subsequent volumes if necessary.)	*500,000 µg/mL (500 mg/mL)*	*200,000 µg/mL (200 mg/mL)*	*40,000 µg/mL (40 mg/mL)*	*20,000 µg/mL (20 mg/mL)*		
Concentration of Test Chemical (Add 20 mg to a tube. Add the first volume of solvent. . Dilute with subsequent volume if necessary.)					*10,000 µg/mL (10 mg/mL)*	*2,000 µg/mL (2.0 mg/mL)*
If test chemical is insoluble in DMSO at 2000 µg/mL, then attempt to dissolve chemical in ethanol. Actual volume of solution can be determined after test chemical is dissolved and solution is measured using a calibrated instrument (e.g., micropipettor, or serological pipette). The actual stock concentration can be calculated accordingly.						

*If the test chemical does not dissolve in Chemical Dilution Medium/Routine Culture Medium, DMSO, or ethanol, at 2 mg/mL, then repeat the entire solubility procedure with each solvent (in the order of Chemical Dilution Medium/Routine Culture Medium, DMSO, and ethanol) using the dilution steps in **Table 1B** and mixing steps a) through e) in **Section 6.2.1.1**.*[4]

[4] Added 10/11/02

Table 1B: Further Determination of Solubility in Chemical Dilution Medium/Routine Culture Medium, DMSO, or Ethanol[4]

STEP	*6*	*7*	*8*	*9*	*10*
Total Volume of Solvent	*5 mL*	*10 mL*	*20 mL*	*40 mL*	*100 mL*
Concentration of Test Chemical (Add 5 mg to a tube. Add the first volume of solvent. Dilute with subsequent volumes if necessary.)	*1,000 µg/mL (1 mg/mL)*	*500 µg/mL (0.5 mg/mL)*	*250 µg/mL (0.25 mg/mL)*	*125 µg/mL (0.125 mg/mL)*	*50 µg/mL (0.05 mg/mL)*
If test chemical is insoluble in medium at 50 µg/mL, then attempt to dissolve chemical in DMSO and then ethanol. Actual volume of solution can be determined after test chemical is dissolved and solution is measured using a calibrated instrument. The concentration can be calculated accordingly.					

~~Approximately 100 *200* mg (100*200*,000 µg)[2] of the test chemical will be weighed into a glass tube and the weight will be documented. Assay-specific culture media will be added to the vessel so that the concentration is 1*2*,000,000 µg/ml (1000 *2000* mg/ml)[2] (i.e., approximately 0.1 ml). If complete solubility is achieved, then additional solubility procedures are not needed. If only partial solubility is achieved, follow the test chemical dissolving steps in Table 1, derived from EPA (1998), to add additional medium in steps until the concentration is a minimum of 100*200*,000 µg/ml (100 *200* mg/ml)[2]. If complete solubility at 100,000 µg/ml in culture medium can't be attained, then repeat the solubility steps using the other solvent(s) in the solubility hierarchy. Test chemicals that are only soluble in DMSO or ethanol will be prepared at 1*2*,000,000 µg/ml[2] as the highest concentration of stock solution.~~

~~Table 1: Determination of Solubility~~

~~**Solubility Data**~~	~~**Step 1**~~	~~**Step 2**~~	~~**Step 3**~~
~~Total volume of medium added (ml)~~	~~0.1~~	~~0.5~~	~~1.0~~
~~Total volume of DMSO or ethanol added (ml)~~	~~0.1~~	~~****0.5*~~[2]	~~****1.0*~~[2]
~~Approximate solubility (µg/ml)~~	~~≥ 1*2*,000,000~~[2]	~~200*400*,000~~[2]	~~100*200*,000~~[2]

~~**6.2.1.1 *Treatment Medium/Routine Culture Medium)***~~

~~*a)f)* Dissolve test chemical in Treatment Medium and Routine Culture Medium~~
~~*b)g)* Gently mix. Vortex for 5-10 seconds*1-2 minutes*.[2]~~
~~*c)h)* If test chemical hasn't dissolved, use sonication (up to five minutes).~~
~~*d)i)* If sonication doesn't work, then warm solution to 37°C.~~

~~**6.2.1.2 *DMSO***~~

~~If the test chemical doesn't dissolve in the Treatment Medium/Routine Culture Medium, then follow steps a) through d) in **Section 6.2.1.1** using DMSO instead of Treatment Medium/Routine Culture Medium.~~

6.2.1.3 *Ethanol*

~~If the test chemical doesn't dissolve in DMSO, then follow steps a) through d) in **Section 6.2.1.1** using ethanol instead of DMSO.~~

[2] Revised 6/21/02
[2] Revised 6/21/02

6.2.2 *pH of Solutions*

Measure the pH (using pH paper) of the highest concentration of test chemical dissolved in the culture media. Document the pH and note the color of each test chemical concentration in medium.

7.0 DATA COLLECTION

7.1 Nature of Data to be Collected

7.1.1 *Solubility Studies*

The Contractor shall record all information pertinent to the solubility of the test chemical:

a) *Approximate t*~~T~~[3]est chemical solubility in *all solvents tested (i.e., media, DMSO, and/or ethanol) in weight per unit volume (i.e. mg/mL) estimated by following the step-wise solubility protocol* ~~culture medium at a minimum of 100~~*200*,000[2] ~~µg/ml~~[3]
b) pH of test chemical in culture medium; color of culture medium
~~c) Test chemical solubility in DMSO or ethanol at 1~~*2*,000,000[2] ~~µg/ml~~[3]
d) Need of vortexing, sonication, and/or heating

The Contractor shall provide this information to the Study Management Team via the Project Officer by the avenues described in Section 8. **This information shall NOT be provided to the Testing Facilities.** Information to be provided to the Testing Facilities is specified in Sections 5.1.5 and 5.1.6.

7.1.2 *Chemical Information*

The Contractor shall supply at a minimum the following information about each test chemical and report as specified in Addendum I.

a) Purity
b) CAS #
c) Supplier
d) Specification sheets
e) Certificates of analysis
f) Material Safety Data Sheet (MSDS)
g) Color
h) Odor
i) Physical state
j) Weight or volume of sample distributed to the Testing Facility
k) Specific density for liquid test chemicals
l) Storage instructions
m) Chemical hazards
n) Special handling instructions
o) Amount of material archived

[Note: Much of the information will be in the MSDS.]

7.2 Type of Media Used for Data Storage

Originals of the raw data (the Study Workbook) and copies of other raw data such as instrument logs shall be collected and archived at the end of the study (under the direction of the Study Director), according to GLP-compliant procedures. Data that are stored electronically shall be periodically copied, and backup files shall be produced and maintained.

[2] Revised 6/21/02
[3] Revised 9/17/02

7.3 Documentation

Original raw data that shall be collected shall include but are not limited to the following:

- Data recorded in the Study Workbook, which shall consist of all recordings of all activities related to acquisition, preparation, solubility testing, and distribution of the test chemicals;
- Other data collected as part of GLP compliance
  - Equipment logs
  - Equipment calibration records

8.0 DRAFT AND FINAL REPORTS

Biweekly Reports: The Contractor will provide a biweekly progress report to the Project Officer and copied to the Project Coordinators of the Study Management Team (See **Section 4.2** and Addendum I). These reports will include raw and interim data as the study progresses. These reports will be in electronic format (i.e., email with Microsoft® Word (or equivalent) or Excel attachments).

Draft Reports: A draft report shall be submitted to the Project Officer for each Validation Study phase (See **Section 4.2** and Addendum I). A Draft Final Report detailing the Contractor's involvement in all phases of the Validation Study shall be prepared by the Contractor, signed by the Study Director, and provided to the Project Officer. The submitted results shall accurately describe all methods used for generation and analysis of the data, provide a complete record of the preparation of test chemicals, and present any relevant data necessary for the assessment of the results (See Addendum I).

Final Report: The Draft Final Report shall be revised according to comments from the Project Officer and submitted as the Final Report (**See Section 4.2** and Addendum I).

9.0 RECORDS AND ARCHIVES

At the conclusion of the Contractor's participation in the distribution of chemicals for the Validation Study, the original raw and derived data, as well as copies of other raw data not exclusive to this Validation Study (instrument logs, calibration records, facility logs, etc.), shall be submitted to NIEHS/NICEATM (via the Project Officer) for storing and archiving according to the facility's SOP and in compliance with GLP Standards.

Originals of all raw and derived data, or copies where applicable, shall be stored and archived at NIEHS/NICEATM.

10.0 ALTERATIONS OF THE STATEMENT OF WORK

No changes in the Statement of Work shall be made without the consent of the Project Officer and Study Management Team. A Statement of Work Amendment detailing any change(s) and the basis for the change(s) shall be approved and prepared by the Study Director, and the amendment shall be signed and dated by the Study Director and the NIEHS representative. The amendment shall be retained with the original Statement of Work.

11.0 REFERENCES

Clonetics Normal Human Keratinocyte Systems Instructions for Use, AA-1000-4-Rev.03/00. (http://www.clonetics.com).

EPA Product Properties Test Guidelines. OPPTS 830.7840. 1998. Water Solubility: Column Elution Method; Shake Flask Method. United States Environmental Protection Agency. Prevention, Pesticides and Toxic Substances (7101). EPA 712-C-98-041. March 1998.

National Toxicological Program, September 2000, Attachment 2 revised. Specifications for the Conduct of Studies to Evaluate the Toxic and Carcinogenic Potential of Chemical, Biological and Physical Agents in Laboratory Animals for the National Toxicology Program (NTP).

NICEATM (The National Toxicology Program [NTP] Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods). 2001. Test Method Protocol for the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study.

NICEATM (The National Toxicology Program [NTP] Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods). 2001. Test Method Protocol for the Normal Human Keratinocyte [NHK] Neutral Red Uptake Cytotoxicity Test. A Test for Basal Cytotoxicity for an *In Vitro* Validation Study.

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods). 2001. Guidance document on using *in vitro* data to estimate *in vivo* starting doses for acute toxicity NIH publication 01-4500. NIEHS, Research Triangle Park, North Carolina.

OECD (Organisation for Economic Co-operation and Development). 2001. Harmonised Integrated Classification System for Human Health and Environmental Hazards of Chemical Substances and Mixtures as Endorsed by the 28th Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals in November 1998, Part 2, p. 21. OECD, Paris. http://www.oecd.org/ehs/class/HCL6htm.

12.0 APPROVAL OF STATEMENT OF WORK

_____	_____
Sponsor Representative	**Date**
_____	_____
Testing Facility Management	**Date**

ADDENDUM I

SUGGESTED REPORT FORMAT

TITLE PAGE

- **Study Title**
  - Draft Report 1: *Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase I of the In Vitro Validation Study*
  - Draft Report 2: *Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase II of the In Vitro Validation Study*
  - Draft Report 3: *Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase III of the In Vitro Validation Study*
  - Draft/Final Report: *Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Final Report for the In Vitro Validation Study*
- **Test Articles**
  - Draft Report 1: Identify the positive control chemical of Phase Ia and the three (3) test chemicals of Phase Ib
  - Draft Report 2: Identify the nine (9) test chemicals of Phase II
  - Draft Report 3: Identify the sixty (60) test chemicals of Phase III
  - Draft/Final Report: Identify all seventy-two (72) test chemicals and positive control of the *In Vitro* Validation Studies
- **Authors**
- **Study Completion Date**
- **Contract Facility**
- **Study Number/Identification**

SIGNATURE PAGE

- **Study Initiation Date:** Date Statement of Work was signed
- **Initiation Date of Laboratory Studies:** Actual laboratory start date
- **Study Completion Date:** Date report signed by Study Director
- **Sponsor Representative:**
  Ms. Molly Vallant – Project Officer
  The National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)
- **Study Management Team Representatives**
  Judy Strickland, Ph.D. (Project Coordinator)
  Michael Paris (Assistant Project Coordinator)
- **Contractor Facility:** Name and address
- **Archive Location:** Name and address
- **Study Director:** Name and signature and date
- **Key Personnel:** Laboratory technicians, QA Director, Safety Officer
- **Facility Management:** Name
- **Scientific Advisor:** Name

ADDENDUM I (cont.)

DRAFT REPORT 1

Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase I of the In Vitro Validation Study

- **Table of Contents**
- **Objectives :**The report shall provide specific objectives
- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for the positive control (SLS) and the three (3) Phase Ib chemicals.
- **Narrative Description of the Solubility Studies:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical will be included in the description. Provide the information requested in **Section 7.1.1**. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report (as attachments). The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.
- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the solubility studies, acquisition, preparation, and distribution of the test chemicals were conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP). Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Study.
- **Other Information:** (All copies of documents will be noted as exact duplicates of the data.)
  - Information requested in **Section 7.1.2**
  - Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
  - Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

DRAFT REPORT 2

Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase II of the In Vitro Validation Study

- **Table of Contents**
- **Objectives:** The report shall provide specific objectives
- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for the nine (9) Phase II chemicals.
- **Narrative Description of the Solubility Studies:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical shall be included in the description. Provide the information requested in **Section 7.1.1**. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report (as attachments). The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.
- **Statement Signed by the Study Director**: Confirm that the solubility studies, acquisition, preparation, and distribution of the test chemicals were conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP). Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Study.
- **Other Information:** (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)
  - Information requested in **Section 7.1.2**
  - Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
  - Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

ADDENDUM I (cont.)

DRAFT REPORT 3

Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Phase III of the In Vitro Validation Study

- **Table of Contents**
- **Objectives:** The report shall provide specific objectives
- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for sixty (60) Phase III chemicals.
- **Narrative Description of the Solubility Studies:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical will be included in the description. Provide the information requested in **Section 7.1.1**. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report (as attachments). The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.
- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the solubility studies, acquisition, preparation, and distribution of the test chemicals were conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP). Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Study.
- **Other Information:** (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)
  - Information requested in **Section 7.1.2**
  - Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
  - Revisions/amendments to the protocols, SOPs, and Statement of Work

DRAFT/FINAL REPORT

Acquisition, Preparation, Solubility Testing, and Distribution of Test Chemicals: Draft/Final Report for the In Vitro Validation Study

- **Table of Contents**
- **Objectives:** The draft/final report shall provide specific objectives
- **Summary of the Findings:** Referenced to the raw data where appropriate; Include all information for the seventy-two (72) test chemicals and the positive control (SLS).
- **Narrative Description of the Solubility Studies:** Describe any problems that were encountered and how such problems were solved. Justifications for solvents used for each test chemical shall be included in the description. Provide the information requested in **Section 10.1.1**. Deviations from the protocols, SOPs, and/or the Statement of Work shall be addressed in this section. Copies of appropriate sections of the Study Workbook shall be included with the report (as attachments). The draft report will include unaudited Study Workbook pages. The final report will include a copy of the audited Study Workbook with a statement (signed and dated by the Study Director) on the front of it stating that it is an exact copy of the original audited workbook.
- **Statement Signed by the Study Director:** Confirm that the acquisition, preparation, solubility studies, and distribution of the test chemicals were conducted in compliance with GLP (or indicating where the Study deviated from GLP). Confirm that the report fully and accurately reflects the raw data generated in the Study.
- **Quality Assurance Statement: (For Final Report only)**
  QA Statement identifying: 1) the phases and data inspected, 2) dates of inspection, and 3) dates findings were reported to the Study Director and Testing Facility management. The QA

Statement shall identify whether the methods and results described in the Final Report accurately reflect the raw data produced during the Study.

- **Other Information:** (All copies of printouts, documents, and spreadsheets shall be noted as exact duplicates of the data.)
  - Deviations to the protocols, SOPs, and Statement of Work
  - A list of all SOPs used by the laboratory (SOP title and laboratory identification code)
  - The Statement of Work

BIWEEKLY REPORTS

Contract Facility:

Chemicals Acquired:

Chemicals Tested for Solubility:

Results of Solubility Tests:

Chemicals Shipped to Testing Facilities:

Date of Shipping:

Problems Encountered/Resolutions:

Projected Shipping Schedule:

ADDENDUM II
SUGGESTED STANDARD TEST REPORTING TEMPLATE FOR STUDY WORKBOOK

[1]SOLUBILITY TESTING
Test Chemicals for the *In Vitro* Validation Study

Study No._____

Test Chemical_____ Test Chemical Code_____ CAS #_____

Physical Description_____ Liquid Density_____

Solubility Determined by_____
Date_____

Solvent	Amount of Test Chemical	Volume Added	Total Volume	pH and medium color	Vortex (V) Sonication (S) Heating-37°C (H)	Comments
Treatment Medium (3T3 NRU)		0.1ml				
		0.5ml				
		1.0ml				
Routine Culture Medium (NHK NRU)		0.1ml				
		0.5ml				
		1.0ml				
DMSO		0.1ml				
Ethanol		0.1ml				

Reference Color of Treatment Medium_____

Reference Color of Routine Culture Medium_____

Balance I.D._____
Treatment Medium and Routine Culture Medium: minimum concentration of 100mg/ml.
DMSO and Ethanol: minimum concentration of 1000mg/ml.

[1] Adaptation of Institute of In Vitro Sciences (IIVS) form – 350 [2/2002]

ADDENDUM III
TEST CHEMICALS FOR THE *IN VITRO* VALIDATION STUDY (ALPHABETICAL)

[NOTE: TESTING FACILITIES MUST NOT SEE THIS LIST OF CHEMICALS]

CHEMICAL	CAS NO.
1,1,1-Trichloroethane	71-55-6
2-Propanol	67-63-0
5-Aminosalicylic acid	89-57-6
Acetaminophen	103-90-2
Acetonitrile	75-05-8
Acetylsalicylic acid	50-78-2
~~**To be determined**~~[1]	
Aminopterin	54-62-6
Amitriptyline *HCl*[3]	~~50-48-6~~*549-18-8*[3]
Arsenic III trioxide	1327-53-3
Atropine sulfate *monohydrate*[3]	~~55-48-1, (~~*17108-73-5*~~)~~*73791-47-6*[3]
Boric aid	10043-35-3
Busulphan	55-98-1
Cadmium II chloride	10108-64-2
Caffeine	58-08-2
Carbamazepine	298-46-4
Carbon tetrachloride	56-23-5
Chloral hydrate	302-17-0
Chloramphenicol	56-75-7
Citric Acid	77-92-9
Colchicine	64-86-8
Cupric sulfate * 5 H2O	7758-99-8
Cycloheximide	66-81-9
Dibutylphthalate	84-74-2
Dichlorvos (DDVP)	62-73-7
Diethyl phthalate	84-66-2
Digoxin	20830-75-5
Dimethylformamide	68-12-2
Diquat	2764-72-9
Disulfoton	298-04-4
Endosulfan	115-29-7
Epinephrine bitartrate	51-42-3
Ethanol	64-17-5
Ethylene glycol	107-21-1
Fenpropathrin	39515-41-8
Gibberellic acid	77-06-5
Glutethimide	77-21-4
Glycerol	56-81-5
Haloperidol	52-86-8
Hexachlorophene	70-30-4
Lactic acid	50-21-5
Lindane	58-89-9

[1] Revised 5/23/02
[3] Revised 9/17/02

ADDENDUM III (CONT.)

CHEMICAL	CAS NO.
Lithium I ~~sulfate~~*carbonate*[3]	*554-13-2*~~10377-48-7~~[3]
Meprobamate	57-53-4
Mercury II chloride	7487-94-7
Methanol	67-56-1
Nicotine	54-11-5
Paraquat	1910-42-5, (*3765-78-4,57593-74-5,65982-50-5,136338-65-3,205105-68-6,247050-57-3*)[3]
Parathion	56-38-2
Phenobarbital	50-06-6
Phenol	108-95-2
Phenylthiourea	103-85-5
Physostigmine[1]	*57-47-6*[1]
Potassium cyanide	151-50-8
Potassium I chloride	7447-40-7
Procainamide *HCl*[3]	~~51-06-9~~*614-39-1*[3]
Propranolol HCl	318-98-9, (*3506-09-0, 146874-86-4*)[1]
Propylparaben	94-13-3
Sodium arsenite	7784-46-5
Sodium chloride	7647-14-5
Sodium dichromate dihydrate	7789-12-0
Sodium hypochlorite	8007-59-8, (*7681-52-9*)[3]
Sodium I fluoride	7681-49-4
Sodium oxalate	62-76-0
Sodium selenate~~*10 H20~~[1]	~~13413~~*13410*-01-0[1]
Strychnine	57-24-9
Thallium I sulfate	7446-18-6
Trichloroacetic acid	76-03-9
Triethylene melamine	51-18-3
Triphenyltin hydroxide	76-87-9
Valproic acid	99-66-1
Verapamil HCl	152-11-4
Xylene	1330-20-7

[3] Revised 9/17/02
[1] Revised 5/23/02

ADDENDUM IV
TEST CHEMICALS FOR THE *IN VITRO* VALIDATION STUDY BY STUDY PHASE

PHASE Ia	
Sodium laurel sulfate	151-21-3
PHASE Ib	
Arsenic III trioxide	1327-53-3
Ethylene glycol	107-21-1
Propranolol HCl	318-98-9, (*3506-09-0, 146874-86-4*)[1]
PHASE II	
Aminopterin	54-62-6
Chloramphenicol	56-75-7
Colchicine	64-86-8
Cupric sulfate * 5 H2O	7758-99-8
Lithium I ~~sulfate~~*carbonate*[3]	*554-13-2*~~10377-48-7~~[3]
Potassium I chloride	7447-40-7
2-Propanol	67-63-0
Sodium I fluoride	7681-49-4
Sodium selenate~~*10 H20~~[1]	~~13413~~*13413410*-01-0[1]
PHASE III	
1,1,1-Trichloroethane	71-55-6
5-Aminosalicylic acid	89-57-6
Acetaminophen	103-90-2
Acetonitrile	75-05-8
Acetylsalicylic acid	50-78-2
~~**To be determined**~~[1]	
Amitriptyline *HCl*[3]	*549-18-8*~~50-48-6~~[3]
Atropine sulfate *monohydrate*[3]	*73791-47-6*~~55-48-1, (17108-73-5)~~[3]
Boric aid	10043-35-3
Busulphan	55-98-1
Cadmium II chloride	10108-64-2
Caffeine	58-08-2
Carbamazepine	298-46-4
Carbon tetrachloride	56-23-5
Chloral hydrate	302-17-0
Citric Acid	77-92-9
Cycloheximide	66-81-9
Dibutylphthalate	84-74-2
Dichlorvos (DDVP)	62-73-7
Diethyl phthalate	84-66-2
Digoxin	20830-75-5
Dimethylformamide	68-12-2
Diquat	2764-72-9
Disulfoton	298-04-4
Endosulfan	115-29-7
Epinephrine bitartrate	51-42-3

[3] Revised 9/17/02
[1] Revised 5/23/02

ADDENDUM IV (CONT.)

PHASE III (cont.)

Ethanol	64-17-5
Fenpropathrin	39515-41-8
Gibberellic acid	77-06-5
Glutethimide	77-21-4
Glycerol	56-81-5
Haloperidol	52-86-8
Hexachlorophene	70-30-4
Lactic acid	50-21-5
Lindane	58-89-9
Meprobamate	57-53-4
Mercury II chloride	7487-94-7
Methanol	67-56-1
Nicotine	54-11-5
Paraquat	1910-42-5, (*3765-78-4,57593-74-5,65982-50-5,136338-65-3,205105-68-6,247050-57-3*)[3]
Parathion	56-38-2
Phenobarbital	50-06-6
Phenol	108-95-2
Physostigmine[1]	*57-47-6*[1]
Phenylthiourea	103-85-5
Potassium cyanide	151-50-8
Procainamide *HCl*[3]	~~51-06-9~~*614-39-1*[3]
Propylparaben	94-13-3
Sodium arsenite	7784-46-5
Sodium chloride	7647-14-5
Sodium dichromate dihydrate	7789-12-0
Sodium hypochlorite	8007-59-8, (*7681-52-9*)[3]
Sodium oxalate	62-76-0
Strychnine	57-24-9
Thallium I sulfate	7446-18-6
Trichloroacetic acid	76-03-9
Triethylene melamine	51-18-3
Triphenyltin hydroxide	76-87-9
Valproic acid	99-66-1
Verapamil HCl	152-11-4
Xylene	1330-20-7

[1] Revised 5/23/02
[3] Revised 9/17/02

ADDENDUM V

ASSUMPTIONS FOR CALCULATION OF AMOUNT OF TEST MATERIAL NEEDED FOR EACH TESTING FACILITY

	Chemical Amount	Assumption
Phase I		
Test in 3 solvents	300 mg	Chemical must be tested in all 3 solvents
Test in 3 replicate assays	300	3 replicate assays must be performed
Repeat 3 times	300	3 replicate assays must be repeated 3 times
Phase I Amount/Testing Facility	900 mg	
x 3 Testing Facilities	2700	Assumes 3 labs participate in study
2 Archive samples (3 solubility + 3 assays)	1200	Archive samples use same amount of chemical as testing sample
Total Phase I Amount	3900 mg	
Phase II		
Test in 3 solvents	300 mg	Chemical must be tested in all 3 solvents
Test in 3 replicate assays	300	3 replicate assays must be performed
Repeat 2 times	200	2 replicate assays must be repeated 3 times
Phase II Amount/Testing Facility	800 mg	
x 3 Testing Facilities	2400	Assumes 3 labs participate in study
2 Archive samples (3 solubility + 3 assays)	1200	Archive samples use same amount of chemical as testing sample
Total Phase II Amount	3600 mg	
Phase III		
Test in 3 solvents	300 mg	Chemical must be tested in all 3 solvents
Test in 3 replicate assays	300	3 replicate assays must be performed
Phase III Amount/Testing Facility	600 mg	
x 3 Testing Facilities	1800	Assumes 3 labs participate in study
2 Archive samples (3 solubility + 3 assays)	1200	Archive samples use same amount of chemical as testing sample
Total Phase III Amount	3000 mg	

Specification of 4 g of chemical per Testing Facility in **Section 5.1.3** was chosen to allow a generous amount of error (in the direction of the Testing Facilities being provided with more chemical than necessary) in the calculations and assumptions made here.

Appendix H

Candidate Reference Oral LD_{50} Data

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix H1

Rat and Mouse Oral LD_{50} Database

[This Page Intentionally Left Blank]

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
1,1,1-Trichloroethane	9600	9600	7384 - 12480	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Russian	NA	Paligov VI, Khananaev LI, Goinatskii MG, Gavrilyuk VM. 1990. Hygienic substantiation of content of methylchloroform in water bodies. Gigiena Naselennykh Mest 29:45-49. **(RTECS REFERENCE)**
1,1,1-Trichloroethane	9600	10300	8270 - 12800 (95% CL)	Thompson method of moving averages	Wistar white rats; 175 - 250 g	female	oral; stomach tube	single dose; undiluted; no more than 7 cc administered	all surviving rats observed up to 2 weeks; 35 rats used	NA	NA	Torkelson TR, Oyen F, McCollister DD, Rowe VK. 1958. Toxicity of 1,1,1-trichloroethane as determined on laboratory animals and human subjects. Am Ind Hyg Assoc J 19:353-362. *The Dow Chemical Company, Midland, MI*
1,1,1-Trichloroethane	9600	12300	11000 - 13700 (95% CL)	Thompson method of moving averages	Wistar white rats; 175 - 250 g	male	oral; stomach tube	single dose; undiluted; no more than 7 cc administered	all surviving rats observed up to 2 weeks; 35 rats used	this compound is an inhibited form	NA	Torkelson TR, Oyen F, McCollister DD, Rowe VK. 1958. Toxicity of 1,1,1-trichloroethane as determined on laboratory animals and human subjects. Am Ind Hyg Assoc J 19:353-362. *The Dow Chemical Company, Midland, MI*
1,1,1-Trichloroethane	9600	12600	926 - 17100 (CL)	Litchfield and Wilcoxon	Holtzman, Sprague-Dawley albino rats; 215-330 g; adult	male	oral; gastric intubation	single dose; undiluted; 464, 1000, 2150, 4660, 10000, 21500 mg/kg doses	observations recorded at 1, 4, 24 hours, daily thereafter for 7 days; 5 dead at highest dose; depression, ataxia, labored respiration, salivation, ptosis, excessive urination, diarrhea	3-4 hour fasting period; stabilized 1,1,1-trichloroethane; inhibited formulation	NA	from EPA TSCATS database; Acute Oral Administration-Rats Acute Dermal Application-Rabbits Acute Eye Irritation-Rabbits Primary Skin Irritation-Rabbits Subacute (Four-Week) Inhalation; 1969. EPA Doc. No. 878210366, Fiche No. OTS0205891; *Ethyl Corp.*
1,1,1-Trichloroethane	9600	12627	5356 - 29765 (CL)	Litchfield and Wilcoxon	Holtzman, Sprague-Dawley albino rats; 215-330 g; adult	male	oral; gastric intubation	single dose; undiluted; 464, 1000, 2150, 4660, 10000, 21500 mg/kg doses	observations recorded at 1, 4, 24 hours, daily thereafter for 7 days; 5 dead at highest dose; depression, ataxia, labored respiration, salivation, ptosis	3-4 hour fasting period; stabilized 1,1,1-trichloroethane; inhibited formulation	NA	from EPA TSCATS database; Acute Oral Administration-Rats Acute Dermal Application-Rabbits Acute Eye Irritation-Rabbits Primary Skin Irritation-Rabbits Subacute (Four-Week) Inhalation; 1969. EPA Doc. No. 878210366, Fiche No. OTS0205891; *Ethyl Corp.*
1,1,1-Trichloroethane	9600	16000	no CL ("all-or-none" response)	Litchfield and Wilcoxon	Holtzman, Sprague-Dawley albino rats; 215-330 g; adult	male	oral; gastric intubation	single dose; undiluted; 464, 1000, 2150, 4660, 10000, 21500 mg/kg doses	observations recorded at 1, 4, 24 hours, daily thereafter for 7 days; 4 dead at highest dose; depression, ataxia, labored respiration, excessive urination, diarrhea, ruffled fur, salivation, piloerection	3-4 hour fasting period; unstabilized 1,1,1-trichloroethane	NA	from EPA TSCATS database; Acute Oral Administration-Rats Acute Dermal Application-Rabbits Acute Eye Irritation-Rabbits Primary Skin Irritation-Rabbits Subacute (Four-Week) Inhalation; 1969. EPA Doc. No. 878210366, Fiche No. OTS0205891; *Ethyl Corp.*
2-Propanol	5045	4074 (5.19 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	3015 - 5503	moving average method	Wistar rats; 90-120 g; 3-4 weeks old	male	oral; stomach intubation	doses differ by a factor of 2 in a geometric series	14 day observation; dose, number of dead/total: 16 mL/kg -- 3/3; 8 mL/kg -- 5/5; 4 mL/kg -- 1/5	non-fasted; tested in 1975; 13 rats used	NA	from EPA TSCATS database; Range Finding Toxicity Studies With Isopropanol Recovery Column, Side Stream Decanter Make With Cover Letter Dated 020987; EPA Document No. 86870000097 Fiche No. OTS0513282; *Union Carbide Corp.; Carnegi Mellon 1976*
2-Propanol	5045	4396 (5.6 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	3297 - 5809 (95% CL; 4.2 - 7.4 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 16-50 g; 14 days	male and female	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; 6-12 rats of both sexes used for studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
2-Propanol	5045	4500	3500 - 5800 (95% CL)	UDP	Sprague-Dawley rats; ~ 7 weeks	female	oral gavage	undiluted dose (g/kg) 3.5, 4.5, 5.8, 7.5	clinical observations: soft stools, diarrhea, decreased limb tone, hypoactivity, hypothermia, lacrimation, pinna and pain reflex absent, red-stained nose, mouth, and eyes, dyspnea, brown-stained urogenital or anal region, bradypnea and piloerection, ataxia; dose (g/kg), rats dead: 3.5-0/2; 4.5-2/4; 5.8-2/2; 7.5-1/1	18-20 hour fasted rats; 1-4 rats per dose; GLP study	NA	from EPA TSCATS database; Acute Oral Toxicity (Up/Down Method) Report with Cover Letter Dated 020987; 1983. EPA Document No. 86870000160, Fiche No. OTS0513345; *Hazelton Labs;* Hazelton 1983
2-Propanol	5045	4710 (6.0 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	4082 - 5495 (95% CL; 5.2 - 7.0 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 80-160 g; young adult (4-6 weeks according to Taconic Farms)	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
2-Propanol	5045	5045	4650 - 5400	NA	rats	female?	oral	NA	NA	reference in Russian	NA	Antonova VI, Salmina ZH. 1978. The maximal permissible concentration of isopropyl alcohol in water bodies with due regards for its action on the gonads and the progeny. Gigiena i Sanitariya 43(1):9-11. **(RTECS REFERENCE)**
2-Propanol	5045	5087 (6.48 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	3768 - 6877	moving average method	Wistar rats; 90-120 g; 3-4 weeks old	male	oral; stomach intubation	doses differ by a factor of 2 in a geometric series	14 day observation;dose, number of dead/total: 10mL/kg - 5/5; 5 mL/kg - 1/5	non-fasted; tested in 1971; 10 rats used	NA	from EPA TSCATS database; Isopropanol, Anhydrous Range Finding Toxicity Studies with Cover Letter Dated 020987, (1971), EPA Document No. 86870000102, Fiche No. OTS0513287; *Carnegie-Mellon Inst. of Res. 1971*
2-Propanol	5045	5300	4100 - 7000 (95% CL)	UDP	Sprague-Dawley rats; ~ 7 weeks	male	oral gavage	undiluted dose (g/kg) 4.5, 5.8, 7.5, 9.8	clinical observations: soft stools, diarrhea, ataxia, decreased limb tone, hypoactivity, hypothermia, lacrimation, pinna and pain reflex absent, red-stained nose, mouth and eyes, brown-stained urogenital or anal region, dyspnea, bradypnea and piloerection; dose (g/kg), rats dead:4.5-0/2; 5.8-2/3; 7.5-3/3; 9.8-1/1	18-20 hour fasted rats; 1-3 rats per dose; GLP study	NA	from EPA TSCATS database; Acute Oral Toxicity (Up/Down Method) Report with Cover Letter Dated 020987, (1983), EPA Document No. 86870000160, Fiche No. OTS0513345; *Hazelton Labs;* Hazelton 1983
2-Propanol	5045	5338 (6.8 mL/kg; sp.density is 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	4161 - 6908 (95% CL; 5.3 - 8.8 mL/kg; sp. density = 0.78505; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 300-470 g; older adult (9-18 weeks according to Taconic Farms)	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
2-Propanol	5045	5840	NA	based on assumption that probit mortality vs log dose has same slope as similar chemical	Sherman rats; 90 -120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; doses (in g/kg) differ by 1 log to bracket LD50, then refine LD50 with doses in a series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc.	LD50 based on mortalities during a 14 day period	6 rats/dose at doses that differ by 1 log to bracket LD50 (given 1 week apart); then refined LD50 with 10 rats/dose in a dose series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc.; assumed to use materials/methods of Smyth & Carpenter (1944) except for reported changes	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1948. Further experience with the range finding test in the industrial toxicology laboratory. J Ind Hyg Toxicol 30: 63-68. (LD50 value) Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1944. The place of the range-finding test in the industrial toxicology laborotory. J Ind Hyg Toxicol 26:269-273. (most materials/methods).
5-Aminosalicylic acid	2800	2800	1781 - 3819 (95% CL)	Miller and Tainter (1944)	CDR Sprague-Dawley albino rats; male 288-346 g; 9-12 weeks old	male	oral; intubation	single dose; 2500, 3500, 5000 mg/kg doses; conc. 250, 350, 500 mg/mL; 10 mL dose vol.; methylcellulose vehicle	14 day observation; initial checks at 1, 2, and 4 hours after administration; 2 daily thereafter	15 rats used (five/dose level); fasted overnight; GLP	Monsanto Company	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity Study in Rats Administered 10 Materials (final report) with Cover Letter dated 062669, (1969), EPA Doc. No. 40-6942188, Fiche No. OTS0519234; *Monsanto Co./Bio/dynamics*
5-Aminosalicylic acid	2800	3450	2513 - 4387 (95% CL)	Miller and Tainter (1944)	CDR Sprague-Dawley albino rats; male 288-346 g; female 225-267 g; 9-12 weeks old	male and female (equal numbers)	oral; intubation	single dose; 2500, 3500, 5000 mg/kg doses; conc. 250, 350, 500 mg/mL; 10 mL dose vol.; methylcellulose vehicle	14 day observation; initial checks at 1, 2, and 4 hours after administration; 2 daily thereafter	30 rats used (five/sex/dose level); fasted overnight; GLP; used same animals as 2800 and 4200 mg/kg values from Monsanto 1969	Monsanto Company	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity Study in Rats Administered 10 Materials (final report) with Cover Letter dated 062669, (1969), EPA Doc. No. 40-6942188, Fiche No. OTS0519234; *Monsanto Co./Bio/dynamics*
5-Aminosalicylic acid	2800	4200	2863 - 5537 (95% CL)	Miller and Tainter (1944)	CDR Sprague-Dawley albino rats; female 225-267 g; 9-12 weeks old	female	oral; intubation	single dose; 2500, 3500, 5000 mg/kg doses; conc. 250, 350, 500 mg/mL; 10 mL dose vol.; methylcellulose vehicle	14 day observation; initial checks at 1, 2, and 4 hours after administration; 2 daily thereafter; toxicologic signs: soft stool, hyponea, hypoactivity; urinary and fecal staining	15 rats used (five/dose level); fasted overnight; GLP	Monsanto Company	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity Study in Rats Administered 10 Materials (final report) with Cover Letter dated 062669, (1969), EPA Doc. No. 40-6942188, Fiche No. OTS0519234; *Monsanto Co./Bio/dynamics*
Acetaminophen	1944	1944	NA	Litchfield and Wilcoxon	Wistar rats; 130-150 g	male and female	stomach tube	5 mL/kg bw in 1% carboxymethyl-cellulose	observed 3 weeks	fasted 18 hours before dosing	NA	Kammerer F-J, Schleyerbach R. 1987. U.S. Patent 4,636,513. Isoxazole derivatives and medicaments containing these compounds (January 13, 1987). **(RTECS REFERENCE)**
Acetaminophen	1944	2404	+/- 95 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Charles River CD and Sprague-Dawley rat strains; >100 g; adult	NA	oral intubation	up to 50 mL/kg	rats observed for 7 days; observed up to 14 days when heavy metals or other compounds that produce latent death were investigated	fasted overnight	NA	Yeary RA, Benish RA, Finkelstein M. 1966. Acute Toxicity of Drugs in Newborn Animals. Journal of Pediatrics 69(4):663-667. *Dept. of Veterinary Preventive Medicine, Ohio State University, Columbus, OH*
Acetonitrile	2460	157 (0.2 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg	79 - 236 (95% CL; 0.1 - 0.3 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 16-50 g; 14 days	male and female	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; 6-12 rats of both sexes used for studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Acetonitrile	2460	1320 (1.68 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	972 - 1799 (1.24 - 2.27 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-112g	male	oral gastric intubation	undiluted empd; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	1453	1123 - 1879 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, ataxia, convulsions; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 5 days; 5 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Acetonitrile	2460	1623 (2.07 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg	1050 - 2524 (1.34 - 3.22 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-112g	male	oral gastric intubation	undiluted empd; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	1730	1100 - 2720	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-112g	female	oral gastric intubation	0.1 in corn oil; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	> 2000	NA	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: Ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, ataxia, convulsions; time to onset of signs < 1day; duration of signs 5 days; 5 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 female each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures		Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28: (7) 469-482.
Acetonitrile	2460	2230	1900 - 2620	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 30-54 g; weanlings	female	oral gastric intubation	0.1 in 1% aqueous Tergitol 7; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Acetonitrile	2460	2340	2030 - 2700	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-112g	female	oral gastric intubation	0.1 in 1% aqueous Tergitol 7; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	2460	1600 - 2780	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-120g	male	oral gastric intubation	0.1 in water; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	2460	NA	NA	rat	NA	oral	NA	NA	Duplicate record. Assumed to be the same values from Pozzani et al. (1959), Mellon Institute and Union Carbide.	NA	UCDS** Bibliographic Data: Union Carbide Data Sheet. (Union Carbide Corp., 39 Old Ridgebury Rd., Danbury, CT 06817) (see Pozzani et al. 1959) **(RTECS REFERENCE)**
Acetonitrile	2460	2830	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels=2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	3064 (3.9 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	2593 - 3614 (95% CL; 3.3 - 4.6 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 80-160 g; young adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Acetonitrile	2460	3360	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels=2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	3457 (4.4 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	2200 - 5343 (95% CL; 2.8 - 6.8 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 300-470 g; older adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Acetonitrile	2460	3504 (4.47 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	2187 - 5613 (2.79 - 7.16 mL/kg; sp. density is 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 84-114 g	male	oral gastric intubation	undiluted cmpd; single dose	NA	fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	3520 (4.49 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	1419 - 8748 (1.81 - 11.16 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-120g	male	oral gastric intubation	undiluted cmpd; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	3570	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels=2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	3717 (4.49 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	1921 - 6436 (2.45 - 8.21mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 250 - 318 g; yearlings	female	oral gastric intubation	undiluted cmpd; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	3800	NA	based on assumption that probit mortality vs log dose has same slope as similar chemical	Sherman rats; 90 -120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; doses (in g/kg) differ by 1 log to bracket LD50, then refine LD50 with doses in a series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc	LD50 based on mortalities during a 14 day period	6 rats/dose at doses (in g/kg) that differ by 1 log to bracket LD50 (given 1 week apart); then refined LD50 with 10 rats/dose in a dose series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc.; assumed to use materials/methods of Smyth & Carpenter (1944) except for reported changes. RC reference	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1948. Further experience with the range finding test in the industrial toxicology laboratory. J Ind Hyg Toxicol 30:63-68. *(RC and 1983/84 RTECS LD50 value)* Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1944. The place of the range-finding test in the industrial toxicology laborotory. J Ind Hyg Toxicol 26:269-273. (most materials/methods)
Acetonitrile	2460	4050		Litchfield and Wilcoxon (1948)	Sprague-Dawley rats; 175-260 g		oral	undiluted; 3220 - 4970 mg/kg doses	observatons recorded frequently on the day of dosing, daily thereafter for 14 days; tremors, clonic/tonic convulsions, weight loss; clinical signs appeared within 3 hour after dosing and progessed to death in 24-72 hour	overnight fasted; groups of at least 5 rats per dose	99+%; Aldrich Chemical Co.	Freeman JJ, Hayes EP. 1985. Acetone potentiation of acute acetonitrile toxicity in rats. J Toxicol Environ Hlth 15:609-621. *Rutgers University, Piscataway, NJ*
Acetonitrile	2460	4240	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight		Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Acetonitrile	2460	4490	2460 - 8210	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 240-425 g; yearlings	female	oral gastric intubation	0.1 in 1% aqueous Tergitol 7; single dose		non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	4850	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight		Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	5244 (6.69 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	3222 - 8545 (1.34 - 3.22 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 82-109 g	male	oral gastric intubation	undiluted cmpd; single dose	NA	fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	5450	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	5900	4580 - 7220	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Acetonitrile	2460	6498 (8.27 mL/kg; sp. density = 0.7857; convert LD50 to mg/kg)	NA	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90 - 120 g; 4 - 5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF, Weil CS, West JS, Carpenter CP. 1970. An exploration of joint toxic action:II. Equitoxic versus equivolume mixtures. Toxicol Appl Pharmacol 17:498-503. (LD50 value) Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., Striegel, JA. And Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA.* Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., and Striegel, JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters).
Acetonitrile	2460	6500	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetonitrile	2460	6687 (8.53 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	4797 - 9328 (6.12 - 11.9 mL/kg; sp. density = 0.7839; convert LD50 to mg/kg)	NA	Carworth Farms Wistar or Nelson albino rats; 90-114 g	female	oral gastric intubation	undiluted cmpd; single dose	NA	non-fasted	Union Carbide Chemicals Company	Pozzani UC, Carpenter CP, Palm PE, Weil CS, Nair JH. 1959. An investigation of the mammalian toxicity of acetonitrile. J Occup Med 1: 634-642. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Acetonitrile	2460	8120	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Acetylsalicylic acid	200	200	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	RTECS reference for 200 mg/kg (from Deichman 1969) is a typo; this is a secondary reference which cites Caldwell and Boyd 1966; the value should be 920 mg/kg	NA	Toxicology of Drugs and Chemicals. Deichmann, W.B., New York, Academic Press, Inc., 1969 **(RTECS REFERENCE)**
Acetylsalicylic acid	200	616	+/- 46 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 100 days	female	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Acetylsalicylic acid	200	920	+/- 43 (S.E.)	Croxton (1953) and Waugh (1952)	Wistar albino rats; 213 +/- 16 g; 3-5 months	female	oral; stomach tube	single dose; suspension of cmpd in 0.2% gum tragcanth solution in distilled water; 15 mL/kg dose; dose (mg/kg), rats per dose: 0-14; 750-10; 875-10; 1000-10;1125-10; 1250-2; 1500 2; 2000-2	within 1 hour of dosing rats were drowsy, withdrawn, hearing and vision impared, confused, tense, liquid stool, nasal bleeding, convulsionsrespiratory failure, cardiovascular shock	fasted overnight (16 hour); 60 rats used; 26/46 rats dead from compound	USP grade	Boyd EM. 1959. The acute oral toxicity of acetylsalicylic acid. Toxic Appl Pharmac 1: 229-239. *Queen's University, Ontario, Canada*
Acetylsalicylic acid	200	1360	NA	Reed and Muench (1938)	Wistar albino rats	male and female (75% male)	oral; stomach tube	single dose; solution in 2% acaia in physiological saline; volume of dose is 10 mL/kg	observed for one week; more than 80% of fatalities occurred within 48 hour	182 rats used; fasted for 18 hour	G.D. Searle and Co.	Eagle E, Carlson AJ. 1950. Toxicity, antipyretic and analgesic studies on 39 compounds including aspirin, phenacetin and 27 derivatives of carbazole and tetrahydrocarbazole. J Pharm Exp Ther 99:450-457. *University of Chicago, Chicago, IL*
Acetylsalicylic acid	200	1430	1065 - 1921 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	HLA strain albino rats; 95-180 g (mean wt. 122 g)	male	oral intubation	10-20 mL/kg in 10% gum acacia suspension; 4 doses	toxic effects included neurological abnormality; LD50 at 168 hour (7days); same result at 96 hour; observed at 24 & 48 hour with higher LD50	rats fasted 15-17 hours before dosing and for 6 hours after intubation; 40 rats used (10/dose)	NA	Boxill GC, Nash CB, Wheeler AG. 1958. Comparative pharmacological and toxicological evaluation of N-acetyl-p-aminophenol, salicylamide, and acetylsalicylic acid. J Am Pharm Assoc 47:479-487.
Acetylsalicylic acid	200	1430	1065 - 1921 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	HLA strain albino rats; 95-180 g (mean wt. 122 g)	male	oral intubation	10-20 mL/kg in 10% gum acacia suspension; 4 doses	toxic effects included neurological abnormality; this LD50 at 96 hour (same as 158 hour); observed at 24 & 48 hour with higher LD50	rats fasted 15-17 hours before dosing and for 6 hours after intubation; 40 rats used (10/dose)		Boxill GC, Nash CB, Wheeler AG. 1958. Comparative pharmacological and toxicological evaluation of N-acetyl-p-aminophenol, salicylamide, and acetylsalicylic acid. J Am Pharm Assoc 47:479-487.

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Acetylsalicylic acid	200	1459 (value converted from mM/kg to mg/kg)	1009 - 2108 (95% CL)	Weil (1952)	Homozygous Gunn rat (Gunn strain bred from mutant Wistar stock); 137-230 g	male	oral; gastric lavage	single dose; solution in 0.5 - 1.0% (w/v) aqueous methyl cellulose; 10 mL/kg dose vol.; low dose (mg/kg): 176.6, 281.1, 450.4, 720.7, 1153.1; high dose (mg/kg): 450.4, 720.7, 1153.1, 1844.9, 2951.2	low dose experiment observed for 3 days; high dose observed for 7 days; LD50 determined at 7 days; dose (mg/kg), rats dead per dose: 176.6-0/6; 281.1-0/6; 450.4-0/12; 720.7-1/12; 1153.1-1/12; 1844.9-5/6; 2951.2-5/6	fasted overnight (16 hour); 6 rats per dose; 60 rats used	NA	Axelsen RA. 1976. Analgesic-induced renal papillary necrosis in the Gunn rat: the comparative nephrotoxicity of aspirin and phenacetin. J Path 120:145-150. *University of Queensland, Queensland, Australia*
Acetylsalicylic acid	200	1500	NA	determined graphically	rats	NA	oral; stomach tube	aqueous with gum ragacanth (cmpd at 5 - 10% concen)	rats dead within 48 hours considered for determination of LD50	15 rats used	NA	Hart ER. 1947. The toxicity and analgetic potency of salicylamide and certain of its derivatives as compared with established analgetic-antipyretic drugs. J Pharmacol Exp Ther 89:205-209. *Jefferson Medical College, Philadelphia, PA*
Acetylsalicylic acid	200	1500	NA	Litchfield and Wilcoxon	Wistar rats; 130-150 g	male and female	stomach tube	5 mL/kg bw in 1% carboxymethylcellulose	observed 3 weeks	Fasted 18 hour before dosing	NA	Kammerer F-J, Schleyerbach R. 1987. U.S. Patent 4,636,513. Isoxazole derivatives and medicaments containing these compounds (January 13, 1987). **(RTECS REFERENCE)**
Acetylsalicylic acid	200	1523	NA	NA	Upjohn Sprague-Dawley strain albino rats; ~140 g; young	male	oral	single dose; cmpd suspended in 1% aqueous carboxymethylcellulose; 13 dose groups from 400 - 2500 mg/kg	observed for 7 days post-treatment; most deaths occurred during the first day; frequently, animals observed in convulsions prior to death	fasted overnight (12+ hour); 5 rats per dose; 65 rats used	NA	Gray JE, Jones PM, Feeenstra ES. 1960. Comparative effect of acetylsalicylic acid and acetylsalicylic acid anhydride on the non-glandular portion of the stomach. Toxic Appl Pharmac 2:514-522. *The Upjohn Company, Kalamazoo, MI*
Acetylsalicylic acid	200	1528	+/- 156 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Charles River CD and Sprague-Dawley rat strains; > 100 g	NA	oral intubation	dose up to 50 mL/kg	rats observed for 7 days; observed up to 14 days when heavy metals or other compounds that produce latent death were investigated	fasted overnight	NA	Veary RA, Benish RA, Finkelstein M. 1966. Acute Toxicity of Drugs in Newborn Animals. Journal of Pediatrics. 69 (4):663-667. *Dept. of Veterinary Preventive Medicine, Ohio State University, Columbus, OH*
Acetylsalicylic acid	200	1600	1194 - 2144 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	HLA strain albino rats; 95-180 g (mean wt. 122 g)	male	oral intubation	10-20 mL/kg in 10% gum acacia suspension; 4 doses	toxic effects included neurological abnormality; this LD50 at 24 hour (same as 48 hour); observed at 96 & 168 hour with lower LD50	rats fasted 15-17 hours before dosing and for 6 hours after intubation; 40 rats used (10/dose)	NA	Boxill GC, Nash CB, Wheeler AG. 1958. Comparative pharmacological and toxicological evaluation of N-acetyl-p-aminophenol, salicylamide, and acetylsalicylic acid. J Am Pharm Assoc 47:479-487.
Acetylsalicylic acid	200	1600	1194 - 2144 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	HLA strain albino rats; 95-180 g (mean wt. 122 g)	male	oral intubation	10-20 mL/kg in 10% gum acacia suspension; 4 doses	toxic effects included neurological abnormality; this LD50 at 48 hour (same as 24 hour); observed at 96 & 168 hour with lower LD50	rats fasted 15-16 hours before dosing and for 6 hours after intubation; 10 rats used	NA	Boxill GC, Nash CB, Wheeler AG. 1958. Comparative pharmacological and toxicological evaluation of N-acetyl-p-aminophenol, salicylamide, and acetylsalicylic acid. J Am Pharm Assoc 47:479-487.
Acetylsalicylic acid	200	1761	+/- 162 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 100 days	male	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Acetylsalicylic acid	200	1880	1528 - 2312 (95% CL; slope = 1.27)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar SPF rats; 150-200 g	female	oral	cmpd suspended in a solution of 10% gum arabic in distilled water	observed for 7 days post-treatment	10 animals per dose	NA	Zapatero J, Sanfeliu C, Bruseghini L. 1981. Toxicological studies of Plafibride Part 1: Acute toxicity and its determination after several administrations of plafibride. Arsneim Forsch 31:1816-1819. *Chemical Pharmaceutical Research Centre, Barcelona, Spain*
Acetylsalicylic acid	200	1960	1441 - 2666 (95% CL; slope = 1.64)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar SPF rats; 150-200 g;	male	oral	cmpd suspended in a solution of 10% gum arabic in distilled water	observed for 7 days	10 animals per dose	NA	Zapatero J, Sanfeliu C, Bruseghini L. 1981. Toxicological studies of Plafibride Part 1: Acute toxicity and its determination after several administrations of plafibride. Arsneim Forsch 31:1816-1819. *Chemical Pharmaceutical Research Centre, Barcelona, Spain*
Acetylsalicylic acid	200	1992	1692 - 2345 (95% CL; slope = 1.45)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar SPF rats; 150-200 g;	male and female	oral	cmpd suspended in a solution of 10% gum arabic in distilled water	observed for 7 days post-treatment	10 animals per dose	NA	Zapatero J, Sanfeliu C, Bruseghini L. 1981. Toxicological studies of Plafibride Part 1: Acute toxicity and its determination after several administrations of plafibride. Arsneim Forsch 31:1816-1819. *Chemical Pharmaceutical Research Centre, Barcelona, Spain*
Acetylsalicylic acid	200	> 2000		Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley SPF rats (Charles River, France); 100-110 g	male	oral	suspended in 0.25% carboxymethylcellulose with 0.2% polysorbate 80; doses in geometrical progression	observed for 7 days post-treatment; rats presented no signs	10 animals per dose; fasted 6 h prior to dosing	NA	Glomot R, Chevalier B, Vannier B. 1976. Toxicological studies on floctafenine. Toxicol Appl Pharmac 36:173-185.
Acetylsalicylic acid	200	> 2000		Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley SPF rats (Charles River, France); 100-110 g	female	oral	suspended in 0.25% carboxymethylcellulose with 0.2% polysorbate 80; doses in geometrical progression	observed for 7 days post-treatment; rats presented no signs	10 animals per dose; fasted 6 h prior to dosing	NA	Glomot R, Chevalier B, Vannier B. 1976. Toxicological studies on floctafenine. Toxicol Appl Pharmac 36:173-185.
Acetylsalicylic acid	200	2840	2075 - 3890 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley CD strain albino rats	male	oral; gavage	single dose; 5 mL/kg dose; min. of 3 dose levels; cmpd suspended in solution of 1% gum acacia vehicle	observed for 7 days post-treatment; LD50 based on number of deaths at 7 days	20 animals per dose level; 60 animals used; not fasted	Aldrich Chemical Company	Sofia RD. 1977. Alteration of hepatic microsomal enzyme systems and the lethal action of non-steroidal anti-arthritic drugs in acute and chronic models of inflammation. Agents and Actions 7: 289-297. *Wallace Laboratories, Cranbury, NJ*
Aminopterin	NA	7	NA	Maximum likelihood estimation using log probit model (BMDS by US EPA)	Wistar albino rats; 100-200 g	male and female	oral	used measured samples neutralized before drying or added 2 molar eq NaHCO3 to weighed amounts of free acid; in 09% NaCl at 1 mL/100 g bw	observed for 14 days; deaths delayed until 3rd day; moderate weight loss by 1st day; intoxicated animals lost 20% by 3rd day; severe, watery diarrhea after 48 hour; yellowish brown fees, terminally, grossly stained with blood; deaths/dose: 40 mg/kg-5/6 (3 at 3-4 days, 2 at 5-7 days), 20 mg/kg-5/6 (2 at 3-4 days, 2 at 5-7 days, 1 at 8-14 days), 10 mg/kg-4/6 (3 at 3-4 days, 1 at 5-7 days); 5 mg/kg-2/6 (1 at 3-4 days, 1 at 8-14 days), 2.5 mg/kg-2/6 (2 at 3-4 days), 1.25 mg/kg-0/6	LD50 calculated by NICEATM; 36 rats used	ampuled and bulk samples from Lederle Laboratories	Philips FS, Thiersch JB. 1949. Studies of the actions of 4-amino-pteroylglutamic acid in rats and mice. J Pharmacol Exp Ther 95:303-311.
Amitriptyline	320	320	286 - 359	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	rats	NA	oral	NA	lethality counted after 7 days	40-50 rats used; reference in German	NA	Ribbentrop VA, Schaumann W. 1965. Pharmakologische Untersuchungen mit Doxepin, einem Antidepressivum mit zentral anticholinerger und sedierender Wirkung. Arzneimittel-Forschung 15:863-868. *Aus den Pharmakologischen Laboratorien der Firma C.F. Boehringer & Soehne Gmbh, Mannheim, Germany* **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Amitriptyline	320	380	300 - 486 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar strain rats; 200 -300 g	male	oral	NA	72 hour observations	8 rats per group used; hydrochloride salt	NA	Tobe A, Yoshida Y, Ikoma H, Tonomura S, Kikumoto R. 1981. Pharmacological evaluation of 2-(4-methylaminobutoxy)diphenylmethane hydrochloride (MCI-2016), a new psychotropic drug with antidepressant activity. Arzneimittelforschung 31(8):1278-85.
Arsenic III trioxide	14.6	13	NA	NA	rats		oral; stomach tube	NA	violent gastroenteritis, diarrhea, rice water stools	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Arsenic III trioxide	14.6	14.6	NA	NA	rats	male	oral	NA	no clinical picture given	reference is in Russian; not translated	NA	Tulakino NV, Novikov JV. 1987. On the question of reglameutation of arsenic in drinking water of different hardness. Gigiena i Sanitariya. 52 (1):21 -24. **(RTECS REFERENCE)**
Arsenic III trioxide	14.6	19.9 (15.1 mg As/kg)	+/- 2.4 (reported as +/- 1.8 mg As/kg)	de Beer (1945)	Sprague-Dawley Albino rats; 125 - 200 g	male	oral; intra-esophageally	pure arsenic trioxide dissolved in distilled water; 0.03 mL per g of bw; max volume 8 mL; dose range 10 - 50 mg As/kg	observed over 96 hours for LD50; experiment lasted 2 weeks; no significance between male or female; 95 dead at 24 hour; No of deaths/dose at 96 hour (male): 10 mg As/kg - 9/30; 20 mg As/kg - 20/30; 30 mg As/kg - 27/30; 40 mg As/kg - 28/30; 50 mg As/kg - 30/30	rats fasted 24 hour before dosing; 5 groups of 30 rats each (150 total); male and female rats tested; results and information given for male	99.999% pure	Harrison JWE, Packman EW, Abbott DD. 1958. Acute oral toxicity and chemical and physical properties of arsenic trioxides. AMA Arch ind Health, 17:118-123. *LaWall and Harrison Research Laboratories*
Arsenic III trioxide	14.6	32.6	28.4 - 36.7 (95% CI)	Finney (1971). Probit Analysis.	NA	male	intubated; single dose	dissolved in distilled water; administered by gavage in volume of 2mL/kg	rats dosed with one of 5 or 6 doses of chemical; deaths recorded daily for 7 days	animals acclimated to environment for 2 weeks before testing; used only healthy rats; all rats assigned to one of 5 to 6 groups of 8 to 10 rats each	Mallinckrodt	Pryor GT, Uyeno ET, et al. 1983. "Assessment of chemicals using a battery of neurobehavioral tests: a comparative study." Neurobehav Toxicol Teratol 5(1): 91-117. *SRI International, Menlo Park, CA; NIEHS, Research Triangle Park, NC*
Arsenic III trioxide	14.6	81.5	70.5 - 94.3	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 51.2, 66.5, 86.5, 112.5, 146.2	rats observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1 - 2 weeks; most rats found dead within 3 days; 27 of 50 rats died; toxic symptoms: vomiting and diarrhea; No of deaths/dose (mg As/kg) at 14 days: 51.2 mg - 0/10; 66.5 mg - 2/10; 86.5 mg - 6/10; 112.5 mg - 9/10; 146.2 mg - 10/10	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 5 groups of10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% lethal dose = 143.2 mg/kg; 0% lethal dose = 51.2 mg/kg	Kishida Chemical Co., Ltd.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diispropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Arsenic III trioxide	14.6	138	+/- 13 (standard error)	Litchfield and Fetig (1941)	wild Norway rats (trapped in Baltimore, MD); 148-493 g (ave = 253 g), adult	male and female	oral gavage	chemical suspended in 10% acacia solution; received appropriate doses in 1mL per 100 g bw	rats survived from 6 - 72 hours	41 rats used (approx. equal number of male and female); overnight fasting before dosing; assays performed in winter, repeated in summer; LD50s from combined information; final LD50 higher than winter LD50; attributed to not having enough rats in winter.	Merck U.S.P.	Dieke SH, Richter CP. 1946. Comparative assays of rodenticides on wild Norway rats. I. Toxicity. Publ. Health Rep 61:672-679. *Johns Hopkins Hospital, Baltimore, MD*
Arsenic III trioxide	14.6	140	NA	statistical formula based on mortality rates	wild Norway rats	unknown	oral, stomach tube; single dose	a number of individual doses of a cmpd, each dose at a different conc level are given to an equal number of test animals	enteritis and neuritis	NA	NA	Peardon DL, Kilbourn E, et al. 1972. "New selective rodenticides." Soap Cosmet Chem Spec 48(12):6. *Rohm and Haas Company, Philadelphia, PA*
Arsenic III trioxide	14.6	191.8 (145.2 mg As/kg)	+/- 11.5 (reported as +/- 8.7 mg As/kg)	de Beer (1945)	Sprague-Dawley Albino rats; 125- 200 g	male	oral	pure arsenic trioxide incorporated into 3 g rat Purina chow; rats consumed meal in 1 hour; dose range 301 - 338 mg As/kg	observed over 96 hours for LD50; 2 week experiment; no significance between male or female; 76 dead at 24 hour; No of deaths/dose (mg As/kg) at 96 hour: 301 mg - 0/20; 91 mg - 2/20; 1281 mg - 6/20; 1809 mg -12/20; 2078 mg -18/20; 269 mg - 20/20; 338 mg - 20/20	rats fasted 24 hour before dosing; 7 groups of 20 rats each (140 total); male and female rats tested; results and information given for male	99.999% pure	Harrison JWE, Packman EW, Abbott DD. 1958. Acute oral toxicity and chemical and physical properties of arsenic trioxides. AMA Arch ind Health 17:118-123. *LaWall and Harrison Research Laboratories*
Arsenic III trioxide	14.6	385	350 - 424 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method	Holtsman rats; 300 -500 g; 100-300 days old (13 - 41 weeks)	male and female	oral; gelatin capsules	20, 50, 100, 250, 500, 750, 1000 (all in mg/kg)	rats dosed under light anesthesia; death occurred within 4 days	approximately 70 rats used; 24 hour fasting before dosing	Baker Analyzed Reagent with 0.02% impurities	Done AK and Peart AJ. 1971. Acute Toxicities of Arsenical Herbicides. Cinical Toxicology, 4(3):343 - 355. *University of Utah, Salt Lake City, UT*
Atropine sulfate	600	600	530 - 675	Litchfield and Wilcoxon method	rats	NA	oral	NA	NA	reference in German	NA	Wirth W, Gosswald R. 1965. Pharmakologische Untersuchungen in der Reihe der Diphenylcarbamidsaurethioester. Arch Int Pharmacodyn 155 (2):393 - 417. **(RTECS REFERENCE)**
Atropine sulfate	600	622	+/- 36	NA	Sprague-Dawley rats; from Charles River; adult	male	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185 -207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*
Atropine sulfate	600	698.7	629.2 - 776.0	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 500, 625, 781, 977	rats observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1 - 2 weeks; most rats dead within 3 days; 20 of 40 rats died; toxic symptoms: decrease of spontaneous movement, myasthenia and coma observed at 10 minutes; stretching of the limbs, abdominal posture, anaerosis and cardiac arrest after convulsions; dose (mg/kg), dead rats per dose: 500 - 1/10; 625 -- 4/10; 781 -- 6/10; 977 -- 10/10	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 4 groups of 10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% lethal dose = 977 mg/kg; 0% lethal dose = 500 mg/kg	Tokyo Kasei Kogyo Co.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diispropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Atropine sulfate	600	840	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	200, 400, 800, 1000, 1600 mg/kg	200 mg/kg: 0/3 dead; 400 mg/kg: 0/3 dead; 800 mg/kg: 1/3 dead; 1600 mg/kg: 3/3 dead; 4 of 12 rats dead; LD50 based on 12 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 1000 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 900 mg/kg	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group, 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Atropine sulfate	600	874	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	200, 400, 800, 1000, 1600 mg/kg	200 mg/kg: 0/5 dead; 400 mg/kg: 0/5 dead; 800 mg/kg: 1/5 dead; 1600 mg/kg: 5/5 dead; 6 of 20 rats dead; LD50 based on 20 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 1000 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 950 mg/kg	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Atropine sulfate	600	878	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	200, 400, 800, 1000, 1600 mg/kg	200 mg/kg: 0/11 dead; 400 mg/kg: 0/11 dead; 800 mg/kg: 2/11 dead; 1600 mg/kg: 11/11 dead; 13 of 44 rats dead; LD50 based on 44 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 1000 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 900 mg/kg	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Atropine sulfate	600	1135	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	200, 400, 800, 1000, 1600 mg/kg	200 mg/kg: 0/1 dead; 400 mg/kg: 0/1 dead; 800 mg/kg: 0/1 dead; 1600 mg/kg: 1/1 dead; 1 of 4 rats dead; LD50 based on 4 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 1000 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 950 mg/kg	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Atropine sulfate	600	1136	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	200, 400, 800, 1000, 1600 mg/kg	200 mg/kg: 0/2 dead; 400 mg/kg: 0/2 dead; 800 mg/kg: 0/2 dead; 1600 mg/kg: 2/2 dead; 2 of 8 rats dead; LD50 based on 8 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 1000 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 950 mg/kg	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Boric acid	2662	2660	+/- 220 (S.E.; slope = 7.7)	Litchfield and Fetig (1941)	rats	NA	oral	NA	NA	45 rats used	NA	Pfeiffer CC, Hallman LF, Gersh IG. 1945. Boric Acid Ointment. A study of possible intoxication in the treatment of burns. Journal of the American Medical Association 128:266 - 274. *National Naval Medical Center, Bethesda, MD* **(RTECS REFERENCE)**
Boric acid	2662	2660	+/- 200 (S.E.)	NA	rats; 220 +/- 40 g		oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided); reference in Russian;	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Boric acid	2662	3160 (estimate)	NA	NA	Long Evans rats from Diablo Laboratories; 85-118 g	male	oral; stomach intubation	50% w/v in distilled water suspension	observed for 14 days; signs included depression, ataxia, convulsion and death	fasted rats; 6 groups of 5 rats each; total of 30 rats	NA	Weir RJ Jr, Fisher RS. 1972. Toxicologic studies on borax and boric acid. Toxicol Appl Pharmac 23:351-364.
Boric acid	2662	3450	2950-4040 (CL)	NA	Albino Sprague-Dawley rats (Charles River SPF); 267-310 g	male	oral; stomach intubation	50% w/v in 0.5% aqueous methylcellulose suspension	observed for 14 days; signs included depression, ataxia, convulsion and death	fasted rats; 6 groups of 5 rats each; total of 30 rats	NA	Weir RJ Jr, Fisher RS. 1972. Toxicologic studies on borax and boric acid. Toxicol Appl Pharmac 23:351-364.
Boric acid	2662	4080	3640-4560 (CL)	NA	Albino Sprague-Dawley rats (Charles River SPF); 206-248 g	female	oral; stomach intubation	50% w/v in 0.5% aqueous methylcellulose suspension	observed for 14 days; signs included depression, ataxia, convulsion and death	fasted rats; 6 groups of 5 rats each; total of 30 rats	NA	Weir RJ Jr, Fisher RS. 1972. Toxicologic studies on borax and boric acid. Toxicol Appl Pharmac 23:351-364.
Boric acid	2662	5140	4750 - 5580 (range is +/- 1.96 S.D.)	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 200 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30: 470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* (LD50 value) Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Busufan	110 (mouse) no rat oral value	2	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	Value used by RC from 1983/84 RTECS. No rat oral LD50 in current RTECS. This study treated rats with 0.13 mg/kg busulfan, which was 7% LD50. LD50 = 1.9 mg/kg	NA	Schmahl D, Osswald H. 1970. Experimental studies on the carcinogenic effects of anticancer chemotherapeutics and immunosuppressive agents. Arzneimittelforschung. Oct;20(10):1461-1467.
Busufan	110 (mouse) no rat oral value	14	6 (SE)	probit method Finney (1962)	JO13 strain rats; 170-250 g; 10-12 weeks	male and female	oral	as aqueous emulsion with tragacanth powder	30 day observation	fasted rats; rats from CEN Breeding Centre Mol, Belgium from former L strain of Institute of Cancer	NA	Dunjic A, Cuvelier A-M. 1973. Survival of rat bone marrow cells after treatment with Myleran and Endoxan. Experimental Hematology 1:11-21.
Busufan	110 (mouse) no rat oral value	28	21 - 38 (95% CL)	NA	Sprague-Dawley strain rats	male	oral	doses (mg/kg): 20, 30, 40, 50, 100, 150, 200	observed for 14 days; doses (mg/kg, deaths at 14 days: 20 -- 1/5; 30 -- 2/5; 40, 50, 100, 150, and 200 -- 5/5	5 rats per dose; 35 rats used	NA	Kiso to Rinsho. Clinical Report. 1971. (Yubunsha Co., Ltd., 1-5, Kanda Suda-Cho, Chiyoda-ku, KS Bldg., Tokyo 101, Japan. 5(12): 1894. **(RTECS REFERENCE)**
Busufan	110 (mouse) no rat oral value	29	23 - 38 (95% CL)	NA	Sprague-Dawley strain rats	female	oral	doses (mg/kg): 10, 30, 40, 50, 100, 150, 200	observed for 14 days; doses (mg/kg, deaths at 14 days: 10 -- 1/5; 30 -- 2/5; 40 -- 4/5; 50, 100, 150, and 200 -- 5/5	5 rats per dose; 35 rats used	NA	Kiso to Rinsho. Clinical Report. 1971. (Yubunsha Co., Ltd., 1-5, Kanda Suda-Cho, Chiyoda-ku, KS Bldg., Tokyo 101, Japan. 5(12): 1894. **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Cadmium II chloride	88	47	43 - 51 (95% CL)	Thompson and Weil (1952); method of moving averages	albino rats; 2 weeks	male and female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Cadmium II chloride	88	88	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	salivation, vomiting, diarrhea; onset within 30 minutes	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Quarterly Bulletin--Association of Food and Drug Officials of the United States. (Denver, CO) V.3-38, 1939-74. Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol. 15:122 - 133. *U.S. Food and Drug Administration* **(RTECS REFERENCE)**
Cadmium II chloride	88	109	86 - 136 (95% CL)	Thompson and Weil (1952); method of moving averages	albino rats; 54 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200g bw	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used;	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Cadmium II chloride	88	132	109.4 - 159.3 (95% CL)	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 66.5, 86.5, 112.5, 146.2, 190.1, 247.1	rats observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1 - 2 weeks; most rats found dead within 3 days; 29 of 60 rats died; toxic symptoms: drooling, diarrhea, nasal bleeding; dose (mg/kg), rats dead per dose: 66.5-0/10; 86.5-1/10; 112.5-3/10; 146.2-6/10; 190.1-9/10; 247.1-10/10	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 6 groups of10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% lethal dose = 247.1 mg/kg; 0% lethal dose = 66.5 mg/kg	MITSUWA Chemical Co., Ltd.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diospropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Cadmium II chloride	88	170	140 - 206 (95% CL)	Thompson and Weil (1952); method of moving averages	albino rats; 18 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Cadmium II chloride	88	211	182 - 252 (95% CL)	Thompson and Weil (1952); method of moving averages	albino rats; 6 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw; 6 dose levels in each group	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic, T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Cadmium II chloride	88	240	198 - 291 (95% CL)	Thompson and Weil; 1952; method of moving averages	albino rats; 3 weeks	male and female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw; 6 dose levels in each group	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic, T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Caffeine	192	192	+/- 18 (S.E.)	NA	albino rats	NA	oral	NA	NA	see Boyd 1959	NA	Boyd EM. 1965. Caffeine addiction and drug toxicity. The Journal of New Drugs 5:252. (secondary reference) *Queen's University, Canada* **(RTECS REFERENCE)**
Caffeine	192	192	+/- 18 (S.E.)	NA	albino rats; 203 +/-28 g; 3-6 months	female	oral; stomach tube	aqueous solution; 2 mL/kg dose; 0 mg/kg-20 rats; 160 mg/kg-8 rats; 180 mg/kg-16 rats; 200 mg/kg-8 rats; 220 mg/kg-8 rats	19 rats survived; 21 rats died; death time 300 +/- 96 hours after dosing; survivors: lack of curiosity, weak, tense, hyperreflexia, ataxic, cataleptic stances, swollen and inflammed eyelids,loose stools, tremors, anorexia, loss of body weight, fluctuation in body temperature; normal clinical appearance at 72 hours; dead rats: similar clinical signs as survivors, clinical deterioration progressive from 10th hour till death, didn't eat or drink, diarrhea, loss of body weight, anuric, drop in body temp.; two-thirds died of respiratory failure following tetanic convulsions; remainder died of cardiovascular collapse	fasted for 16 hours; 60 rats used	NA	Boyd EM. 1959. The acute oral toxicity of caffeine. Toxic Appl Pharmac 1: 250-257. *Queen's University, Ontario, Canada*
Caffeine	192	247	220 - 277 (95% CL; slope=7.7)	Cornfield and Mantel (1950)	Sprague-Dawley CD rats; mean wt. of 164 g; young adult	female	oral intubation	single dose	observed for 15 days; death usually 1-2 days after dosing; diarrhea, wt loss/gain; 40% of female rats died	15 rats per dose level; 16 hour fasting before dosing; 5 -6 dose levels; 75-90 rats	Schwarz/Mann - Becton Dickinson Co.	Palm PE, Arnold EP, Rachwall PC, Leyczeeh JC, Teague KW, Kensler CJ. 1978. Evaluation of the teratogenic potential of fresh brewed coffee and caffeine in the rat. Toxic Appl Pharmac 44:1 - 16. *Arthur D. Little, Inc., Cambridge, MA*
Caffeine	192	264	+/- 10 (S.E.)		CBL Wistar albino rats; 150-200 g	female	intragastric	single dose; range of 200 - 350 mg/kg; dissolved in distilled water; 20 mL/kg volume to each rat	observed for 5 days	no overnight fasting; 50 rats used; groups of 10 rats	Merck Reagent	Boyd EM, Dolman M, Knight LM, Sheppard EP. 1965. The chronic oral toxicity of caffeine. Canad J Physiol Pharm 43:995 - 1007. *Queen's University, Ontario, Canada*
Caffeine	192	279	259 - 302 (95% CI)	Probit analysis	Crl-CD rats; Charles River Breeding lab; 220 -280 g; 60 days old	male	oral; intragastric intubation	0.5 - 3.9% suspension; dissolved/suspended in corn oil; single dose; 100, 200, 250, 300, 500 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 2 days; toxic symptoms: staining of the face, wet perineal area, slight weight loss, lacrimation, lethargy, diarrhea	fasted 24 hours before dosing; 5 groups of 10; 50 rats used; 19 rats died	99+% pure; Aldrich Chemical Co.	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. *E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE*
Caffeine	192	288	+/- 6 (S.E.)	Linear regression. Boyd (1965)	Wistar albino rats; 125-200 g	male	oral; intragastric dosing	dissolved in distilled water; 20 mL/kg dose; 14 doses ranging from 162 to 354 mg/kg; each dose given to 6 - 10 rats	observations recorded hourly 1st day then at 24 hour intervals; ave time to death is 14 hours; 1 - 40 hours range; cause of early deaths: tonic-clonic convulsions followed by resipiratory failure; for delayed death, immediate cause was hypothermic coma and respiratory failure following loss of corneal reflexes, impaired respiration, pallor, cyanosis, anuria; drop in colonic temperature; hypothermia appeared within 2 hours, peaked at 8 - 24 hour at which time it was dose dependent; hypothermia associated with stupor, anorexia, oligodipsia, loss of body weight, oliguria, aciduria, proteinuria	fasted for 16 hours; 84 - 140 rats used; unanethetized rats	U.S.P. grade	Boyd EM, Liu SJ, Singh J. 1968. The toxicity of aspirin, phenacetin, and caffeine following rectal administration. Clin Toxicol 1:425 - 430. *Queen's University, Ontario, Canada*
Caffeine	192	300	+/- 29 (S.E.)	Linear regression. Boyd (1965)	Wistar albino rats; 125-200 g	male	oral; intragastric dosing	dissolved in distilled water; 20 mL/kg dose; 14 doses ranging from 162 to 354 mg/kg; each dose given to 6 - 10 rats	observations recorded hourly 1st day then at 24 hour intervals; ave time to death is 14 hours; 1 - 40 hours range; cause of early deaths: tonic-clonic convulsions followed by resipiratory failure; for delayed death, immediate cause was hypothermic coma and respiratory failure following loss of corneal reflexes, impaired respiration, pallor, cyanosis, anuria; drop in colonic temperature; hypothermia appeared within 2 hours, peaked at 8 - 24 hour at which time it was dose dependent; hypothermia associated with stupor, anorexia, oligodipsia, loss of body weight, oliguria, aciduria, proteinuria	fasted for 16 hours; 84 - 140 rats used; rats used; rats given thiopental before dosing (anesthetized rats before dosing)	U.S.P. grade	Boyd EM, Liu SJ, Singh J. 1968. The toxicity of aspirin, phenacetin, and caffeine following rectal administration. Clin Toxicol 1:425 - 430. *Queen's University, Ontario, Canada*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Caffeine	192	310	+/- 33	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Caffeine	192	344	307 - 383 (95% CI)	Probit analysis	Sprague-Dawley rats; 190-300 g	male	oral gavage	geometric progression of 14 for dosing	observed for 14 days after dosing;	fasted 18 - 20 hours before dosing; conventional LD50 method; groups of 10; 40 rats used	NA	Bruce RD. 1987. A confirmatory study of the up-and-down method for acute oral toxicity testing. Fundam Appl Toxicol 8(1): 97-100. *The Proctor and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Caffeine	192	355	312 - 403 (95% CL; slope=5.1)	Cornfield and Mantel (1950)	Sprague Dawley CD rats; mean wt. of 210 g; young adult	male	oral intubation	single dose; dose in water	observed for 15 days; death usually 1-2 days after dosing; diarrhea, wt loss/gain; 21% of male mice died	15 rats per dose level; 16 hour fasting before dosing; 5 -6 dose levels; 75-90 rats	Schwarz/Mann - Becton Dickinson Co.	Palm PE, Arnold EP, Rachwall PC, Leyczech JC, Teague KW, Kensler CJ. 1978. Evaluation of the teratogenic potential of fresh brewed coffee and caffeine in the rat. Toxic Appl Pharmac 44:1 - 16. *Arthur D. Little, Inc., Cambridge, MA*
Caffeine	192	421	320 - 553 (95% CI)	Probit analysis	Sprague-Dawley rats; 190-300 g	male	oral gavage	NA	observed for 7 days	fasted 18 - 20 hours before dosing; Up-and-down LD50 method; 9 rats used	NA	Bruce RD. 1987. A confirmatory study of the up-and-down method for acute oral toxicity testing. Fundam Appl Toxicol 8(1): 97-100. *The Proctor and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Caffeine	192	483	433 -562 (95% CI)	Probit analysis	Crl-CD rats; Charles River Breeding lab; 220 -280 g; 60 days old	male	oral; intragastric intubation	0.5 - 3.9% suspens; dissolved or suspended in corn oil; single dose; 300, 400, 450, 650 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 3 days; toxic symptoms: staining of the face, wet perineal area, slight weight loss, lacrimation, lethargy, diarrhea	non fasted; 4 groups of 10; 40 rats used; 15 rats died	99+% pure; Aldrich Chemical Co.	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. *E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE*
Carbamazepine	1957	1957	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Japanese	NA	Japanese Kokai Tokyo Koho Patents. 54-163823 (U.S. Patent and Trademark Office. 79-163823) **(RTECS REFERENCE)**
Carbamazepine	1957	4025	NA	NA	rats; 120-140 g	female	oral	suspension in arabica gum	observed for 8 days	reference paper in German; 20 animals per dose	NA	Stenger Von EG, Roulet FC. 1964. Zur Toxikologie des Antiepilepticum Tegretol. Medicina Experimentalis 11:191-201.
Carbon tetrachloride	2350	1020	861 - 1211 (95% CL)	Weil (1952)	Wistar-derived Porton strain rats (SPF); 100 - 160 g	male	oral gastric intubation	1:1 (v/v) mixture in liquid paraffin; lightly anesthetized w/ether; geometric doses by factor of 12 or 144	deaths observed for 1 week	18 hour fasting before dosing; 20 - 25 rats used; groups of 5 rats; normal stock diet	NA	McLean AEM, McLean EK. 1966. The effect of diet and 1,1,1-trichloro-2,2-bis (p-chlorophenyl) ethane (DDT) on microsomal hydroxilating enzymes and on sensitivity of rats to carbon tetrachloride poisoning. Biochem J 100:564-571. *Royal Free Hospital, London, UK*
Carbon tetrachloride	2350	2343	2136 - 2566 (95% CL)	Weil (1952)	Wistar-derived Porton strain rats (SPF); 100 - 160 g	male	oral gastric intubation	1:1 (v/v) mixture in liquid paraffin; lightly anesthetized w/ether; geometric doses by factor of 1.2 or 1.44	deaths observed for 1 week	18 hour fasting before dosing; 20 - 25 rats used; groups of 5 rats; protein-free diet; rats fed protein-free diet 1 - 3 weeks before dosing; continued protein-free diet through out observation period	NA	McLean AEM, McLean EK. 1966. The effect of diet and 1,1,1-trichloro-2,2-bis (p-chlorophenyl) ethane (DDT) on microsomal hydroxilating enzymes and on sensitivity of rats to carbon tetrachloride poisoning. Biochem J 100:564-571. *Royal Free Hospital, London, UK*
Carbon tetrachloride	2350	2350	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	1500, 2000, 2800, 3900 mg/kg	1500 mg/kg: 0/1 dead; 2000 mg/kg: 0/1 dead; 2800 mg/kg: 1/1 dead; 3900 mg/kg: 1/1 dead; 2 of 4 rats dead; LD50 based on 4 rats used	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Carbon tetrachloride	2350	2500	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	1500, 2000, 2800, 3900 mg/kg	1500 mg/kg: 0/2 dead; 2000 mg/kg: 2/2 dead; 2800 mg/kg: 1/2 dead; 3900 mg/kg: 2/2 dead; 5 of 8 rats dead; LD50 based on 8 rats used	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group, 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Carbon tetrachloride	2350	2500	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	1500, 2000, 2800, 3900 mg/kg	1500 mg/kg: 0/5 dead; 2000 mg/kg: 3/5 dead; 2800 mg/kg: 3/5 dead; 3900 mg/kg: 5/5 dead; 11 of 20 rats dead; LD50 based on 20 rats used	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group, 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Carbon tetrachloride	2350	2500	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	1500, 2000, 2800, 3900 mg/kg	1500 mg/kg: 0/11 dead; 2000 mg/kg: 5/11 dead; 2800 mg/kg: 6/11 dead; 3900 mg/kg: 11/11 dead; 22 of 44 rats dead; LD50 based on same rats used for other Lorke (1983) values	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Archives of Toxicology. (Springer-Verlag, Heidelberger Pl. 3, D-1000 Berlin 33, Fed. Rep. Ger.) V.32- 1974. Lorke D. 1983. "A new approach to practical acute toxicity testing." Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany* **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Carbon tetrachloride	2350	2821 (1.77 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg	NA	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF, Weil CS, West JS, Carpenter CP. (1970). An exploration of joint toxic action:II. Equitoxic versus equivolume mixtures. Toxicol Appl Pharmacol. 17:498-503. (LD50 value) Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Carbon tetrachloride	2350	2850	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	1500, 2000, 2800, 3900 mg/kg	1500 mg/kg: 0/3 dead; 2000 mg/kg: 0/3 dead; 2800 mg/kg: 1/3 dead; 3900 mg/kg: 3/3 dead; 4 of 412 rats dead; LD50 based on 12 rats used	rats acclimated for 5 days; rats observed for 14 days; 4 groups of rats used for each dose (1, 2, 3, 5 rats per group; 11 rats per dose); 9 rats for initial range finding;10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 0/3 dead; 1000 mg/kg - 2/3 dead	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Carbon tetrachloride	2350	2920	2450 - 3470 (95% CL)	NA	rats	male and female	oral; stomach intubation	10 dosage levels; suspended in corn oilk with acacia; single dose	190 rats used	NA	NA	McCollister DD, Hollingsworth RL, Oyen F, Rowe VK. 1955. Comparative inhalation toxicity of fumigant mixtures. Arch Ind Health pp.1 - 7. *Dow Chemical, Midland, MI*
Carbon tetrachloride	2350	2981 (1.87 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	slope = 1.62	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Scho:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 4	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	3682 (2.31 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	slope = 1.83	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Scho:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 3	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	4081 (2.56 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	slope = 1.60	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Zam:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 4	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	4288 (2.69 ml/kg; sp.density is 1.594; converted LD50 to mg/kg	slope = 1.59	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Zam:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 3	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	4336 (2.72 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	slope = 1.44	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Zam:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 2	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	4670 (2.93 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	slope = 1.57	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Zam:Wistar C rats; 150-180 g; 56 +/- 2 days	female	oral	single dose; 50 mg/kg bw carbon tetrachloride in 5 mL peanut oil/kg bw	48 hour observation; LD50 determined on rats monthly for a year and average reported for whole year	reference in German; year 1	NA	Von Schmidt P, Wolff DL, Burck D, Wilhelm M. 1979. Sensitivity of female Wistar rats to carbon tetrachloride, determined by the LD50, and the hexobarbital sleeping time after a single oral dose. Z Versuchstierkd. 21(3):153-162. *Zentralinstitut fur Arbeitsmedizin der DDR, Berlin, Germany*
Carbon tetrachloride	2350	> 5000	NA	Dixon (1965) and Bruce (1985)	Fischer 344 rats; 77 days old at test	female	oral gavage	in deionized water; maximum volume dose 10 mL/kg; 5 dose levels: 0, 150, 500, 1500, 5000 mg/kg; single dose	7 day survival time	fasted overnight; initial dose levels = 100, 1000, and 5000 mg/kg; subsequent doses selected by up-and-down method (Bruce, 1985, 1987); 5 groups of 8 rats each; 40 rats used; 7 15 rats used in first LD50 estimate	analytical grad_; 99+% pure; Aldrich Chemical Co.	Berman E, Schlicht M, Moser VC, MacPhail RC. 1995. A multidisciplinary approach to toxicological screening: I. Systemic toxicity. J Toxicol Environ Health 45(2): 127-43. *Health Effects Res. Lab., U.S.EPA, Research Triangle Park, NC*
Carbon tetrachloride	2350	5453	4660 - 6404 (95% CI)	Probit analysis	Crl-CD rats from Charles River Breeding lab; 220-280 g; 60 days old	male	oral; intragastric intubation	15 - 45% solution dissolved or suspended in corn oil; single dose; 2500, 3000, 4000, 5000, 8000, 10000, 11000 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 2 days; toxic symptoms: salivation, weakness, pallor, lethargy, diarrhea, weight loss	24 hour fast before dosing; 7 groups of 10; 70 rats used; 35 rats died; doses of 10000 mg/kg or greater administered in 2 portions at 15 minutes apart	99+% pure; E.I. Du Pont de Nemours	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. *E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Carbon tetrachloride	2350	6200	5082 - 7564	NA	rats; 220 +/- 40 g		oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Carbon tetrachloride	2350	7540 (4.73 mL/kg; sp. density is 1.594; convert LD50 to mg/kg)	6631 - 8576 (95% CL)	Weil (1952)	Sprague-Dawley rats; 260-360 g; 12-16 weeks	male	oral; stomach tube	solution in 1.5 mL peanut oil; light anesthesia; doses (mL/kg)=3.6, 4.5, 5.4, 6.4	observed for 48 hour; doses (mL/kg), dead animals: 3.6 -- 0/4; 4.5 -- 1/4; 5.4 -- 3/4; 6.4 -- 4/4	16 rats used	British Drug Houses Ltd, Pool, Great Britain	Pound AW, Horn L, Lawson TA. 1973. Decreased toxicity of dimethylnitrosamine in rats after treatment with carbon tetrachloride. Pathology 5:233-242. *University of Queensland, Brisbane, Australia*
Carbon tetrachloride	2350	10054	8758 - 11009 (95% CI; slope = 9.2)	Finney (1971) Probit Analysis	Crl-CD rats from Charles River Breeding lab; 220-280 g; 60 days old	male	oral; intragastric intubation	0.5 - 3.9% suspension; dissolved or suspended in corn oil; single dose; 2000, 2700, 3500, 4500, 8000, 10000, 11000, 12000, 14000, 15000, 17000 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 3 days; toxic symptoms: salivation, weakness, pallor, lethargy, diarrhea, weight loss	non fasted; 11 groups of 10; 110 rats used; 49 rats died; doses of 10000 mg/kg or greater were administered in 2 portions at 15 minutes apart	99+% pure; E.I. Du Pont de Nemours	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE data from EPA TSCATS database; Oral LD50 test in rats with methane,tetrachloro-* with cover letter dated 081092;. (1981) EPA Document No. 88-920010018 Fiche No. OTS0571676; *E.I Dupont DeNemours & Co., Inc./Haskell Labs*
Chloral hydrate	479	285	+/- 21 (S.E.)	NA	Charles River Sprague-Dawley rats; 1-2 days	NA	oral	NA	NA	data is from Yeary et al.1966	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharmacology 18:185-207.
Chloral hydrate	479	479	+/- 42 (S.E.)	NA	Charles River Sprague-Dawley rats; adult	NA	oral	NA	NA	data is from Yeary et al.1966	NA	Toxicology and Applied Pharmacology. (Academic Press, Inc., 1 E. First St., Duluth, MN 55802) V.1 1959 Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207
Chloral hydrate	479	479	+/- 42 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Charles River CD and Sprague-Dawley rat strains; > 100 g; adult	NA	oral intubation; up to 50 mL/kg	NA	rats observed for 7 days; observed up to 14 days when heavy metals or other compounds that produce latent death were investigated	fasted overnight	NA	Yeary RA, Benish RA, Finkelstein M. 1966. Acute Toxicity of Drugs in Newborn Animals. Journal of Pediatrics 69 (4):663-667. *Dept. of Veterinary Preventive Medicine, Ohio State University, Columbus, OH*
Chloral hydrate	479	500	NA	NA	NA	rat	oral	aqueous solution or suspension	produced degree of CNS depression	NA	NA	Finnegan JK, Larson PS, Haag HB, Page SG Jr. 1951. March. Sedative and toxic effects of several chloral derivatives. Federation Proceedings v. 10:294. *Medical College of Virginia, Richmond, VA*
Chloral hydrate	479	800	NA	graphically	white rats; 125-250 g	male and female	oral;stomach tube	single dose; 4% solutions in distilled water; dose is mg/kg, rats per dose: 700-25; 800-34; 900-22; 1000-32; 1100-24	acute toxicity same for male and female;	fasted for 16 hour; 137 rats used; first report for chloral hydrate LD50	NA	Adams WL. 1943. The comparative toxicity if chloral alcoholate and chloral hydrate. J Pharm Exp Ther 78:340-345. *Union University, Albany, NY*
Chloral hydrate	479	863	622.9 - 832.1	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 417, 583, 816, 1143, 1600	rats observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1 - 2 weeks; most rats found dead within 3 days; 29 of 50 rats died; toxic symptoms: sleep to coma	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 5 groups of 10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% mortality = 1600 mg/kg; 0% mortality = 417 mg/kg	Wako Pure Chemicals Co.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diiospropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Chloramphenicol	2500	692.9	-/+ 70 (SEM)	Bliss (1938)	Harlan rats; < 4 days; 6-9 g	NA	intragastric	cmpd suspended in 4% acacia saline solution; 2% solution doses at 400, 500, 620, 800 mg/kg	observed for 7 days; death within 24 h; 400 mg/kg-0/5, 500 mg/kg-0/5, 620 mg/kg-3/5, 800 mg/kg-3/5	NA	NA	Worth HM, Kachman C, Anderson RC. 1963. Inartistric injection for toxicity studies with newborn rats. Toxic Appl Pharmac 5:719-727. *Eli Lilly and Company, Indianapolis, IN*
Chloramphenicol	2500	1040	776 - 1394	NA	MJ rats; 1-2 days	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology. 18. Pp. 185 -207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*
Chloramphenicol	2500	2188	NA	Bliss (1938)	Harlan rats; 30-40 g; 21-25 days; weanling	NA	gavage	cmpd suspended in 4% acacia saline solution; 20% solution administ; 1800, 2500, 3300 mg/kg doses	observed for 7 days; death within 3 days; 1800 mg/kg-0/5, 2500 mg/kg-4/5, 3300 mg/kg-5/5	NA	NA	Worth HM, Kachman C, Anderson RC. 1963. Inartistric injection for toxicity studies with newborn rats. Toxic Appl Pharmac 5:719-727. *Eli Lilly and Company, Indianapolis, IN*
Chloramphenicol	2500	2500	NA	NA	albino rats	NA	oral	NA	NA	reference paper in Italian;. 1983/84 RTECS used the same reference but RC had a different LD50 and ZEBET did not provide the reference)	NA	Farmaco, Edizione Scientifica. (Casella Postale 227, 27100 Pavia, Italy) V.8-43 1953-88 ---- Almirante L, Caprio L, de Carneri I, Defranceschi A, Zamboni V. 1955. Studi sul cloroamfenicolo: (1) nuove sintesi della d-treo-2-dichlorometil-4-[(4'-nitrofenil)Ossimetil] Ossazolina (2) E dati sur potere antibiotico della stessa. Farmaco, Edizione Scientifica 10(1):3-13. **(RTECS REFERENCE)**
Chloramphenicol	2500	3400	2252 - 5139	NA	MJ rats; adult	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.* This value used by RC (1977 RTECS).
Chloramphenicol	2500	5000	NA	NA	Harlan Wistar rats	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Chloramphenicol	2500	> 5000	NA	Bliss (1938) method	Harlan rats; 150 g; adult	NA	gavage	cmpd suspended in 4% acacia saline solution; 30% solution dose at 5000 mg/kg	observed for either 7 or 14 days; 10 rats used; 2 dead; death on 1st day	NA	NA	Worth HM, Kachman C, Anderson RC. 1963. Inartistric injection for toxicity studies with newborn rats. Toxic Appl Pharmac 5:719-727. *Eli Lilly and Company, Indianapolis, IN*
Citric acid	3000	3000	NA	approximative	THOM (SPF) rats; 151-213 g; 48 days-males; 62 days-female	male and female	oral gavage	2500 - 5000mg/kg doses; cmpd in hydroxyethylcellulose	NA	32 male and 32 female rats; 64 rats used; performed under GLPs	NA	Schneider PM, Bauer A, Eckenfels C, Hohbach L, Lutzen H, Puschner R, Serbedija J, Wiegleb P, Lehmann H. 1992. Acute, subacute and chronic toxicity studies of pimobendan in laboratory animals. Oyo Yakuri/Pharmacometrics 43(6):561-578. **(RTECS REFERENCE)**
Citric acid	3000	11700	10080 - 13570 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method	SD-JCL rats; 110-140 g; 5 weeks	male	oral	2 mL/100 g bw	observed for 7 days; stimulation within several minutes, then ataxia and prostration at 50 minutes; mydriasis, decreased heart rate and respiration; death at 12500 and 18000 mg/kg in 20-180 minutes by resp. failure; 1 rat at 10420 mg/kg died at 20 hours; autopsy showed hemorrage of gastric mucosa	6 rats/dose; number of doses not reported	TAKEDA-citric acid (refined product produced by yeast fermention of paraffins)	Yokotani H, Usui T, Nakaguchi T, Kanabayashi T, Tanda M, Aramaki Y. 1971. Acute and subacute toxicological studies of TAKEDA-citric acid in mice and rats. J Takeda Res Lab 30(1):25-31.
Colchicine	NA	5.886 (mouse)	3.901 - 7.508	NA	B6D2F1 (BDF1) mice	NA	Oral	in saline	NA	Mice fasted prior to dosing	NA	National Cancer Institute Screening Program Data Summary, Developmental Therapeutics Program. (Bethesda, MD 20205) JAN1986. **(RTECS REFERENCE)**
Colchicine	NA	18 (mouse)	NA	Lorke (1983)	MS/Ae mice from Hitachi Medical Laboratories (Sanwa, Japan); 317-346 g; 7 weeks	male	oral	1.0, 10.0, 14.0, 22.5, 37.5, 60.0, 100.0 mg/kg in physiological saline	Dose and Deaths: 1.0 - 0/3; 10.0 - 0/3; 14.0 - 0/1; 22.5 -1/1; 37.5 - 1/1; 60.0 - 1/1;100.0 - 3/3	13 mice used; acclimated for 1 week before test	Wako Pure Chemical Industries Ltd. (Osaka, Japan)	Asano N, Morita T, Watanabe Y. 1989. Micronucleus test with colchicine given by intraperitoneal injection and oral gavage. Mutat Res 223:391-394.
Colchicine	NA	29 (mouse)	NA	Lorke (1983)	CD-1 mice from Charles River Japan Inc (Hino, Japan); 312-382 g; 7 weeks	male	oral	1.0, 10.0, 14.0, 22.5, 37.5, 60.0, 100.0 mg/kg in physiological saline	Dose and Deaths: 1.0 - 0/3; 10.0 - 0/3; 14.0 - 0/1; 22.5 -0/1; 37.5 - 1/1; 60.0 - 1/1; 100.0 - 3/3	13 mice used; acclimated for 1 week before test	Wako Pure Chemical Industries Ltd. (Osaka, Japan)	Asano N, Morita T, Watanabe Y. 1989. Micronucleus test with colchicine given by intraperitoneal injection and oral gavage. Mutat Res 223:391-394.
Cupric sulfate pentahydrate	300	236.2	NA	NA	Sprague-Dawley rats	NA	oral	200, 500, 1000, 2000	NA	NA	T.C. copper sulfate powdered (50% in water)	U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. 002705
Cupric sulfate pentahydrate	300	300	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	value assumed to be from Lehman 1951	NA	Agricultural Chemicals. Thomson, W.T., 4 vols., Fresno, CA, Thomson Publications, 1976/77 revision **(RTECS REFERENCE)**
Cupric sulfate pentahydrate	300	300	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	violent retching, muscular spasms and collapse; onset within minutes	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). v15:22 - 133. *U.S. FDA* **(RTECS SOURCE)**
Cupric sulfate pentahydrate	300	450	346 - 585 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; 155-175 g	female	oral gavage	single dose; 9 dose levels from 100 - 5000mg/kg	animals observed daily and survivors killed 14 days post-dose; all deaths within first week of dosing; weight loss, lethargy and death; dose (mg/kg), no dead/no dosed: 100 - 0/5; 200 - 0/5; 300 - 3/10; 500 - 0/5; 625 - 0/10; 750 - 4/5; 5000 - 5/5	tested under GLPs; groups of rats (5/sex/dose group) were administered vehicle (10 mL/kg) or test article; 45 animals used	powder 99% pure	Deenihan MJ.1987; Fine 20 Copper Sulfate Pentahydrate - Acute Toxicology Testing: (A) Acute Oral Toxicity. Northview Pacific laboratories, Inc. U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.433962-01A; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. acceptable; 011521; Apr. 20, 1995
Cupric sulfate pentahydrate	300	472.5	NA	NA	rat	NA	oral	NA	NA	NA	copper sulfate (powder)	WARF Institute, Inc.; WARF No. 5032161; Jan. 1, 1975; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.00058839; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. supplementary 004457
Cupric sulfate pentahydrate	300	790	416 - 1501 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; 225-250 g	male	oral gavage	single dose; 9 dose levels from 100 - 5000 mg/kg	animals observed daily and survivors killed 14 days post-dose; all deaths within first week of dosing; weight loss, lethargy and death; dose (mg/kg), no dead/no dosed: 100 - 0/5; 300 - 2/5; 750 - 1/5; 1000 - 3/5; 1250 - 2/5; 5000 - 5/5	tested under GLPs; groups of rats (5/sex/dose group) were administered vehicle (10 ml/kg) or test article; 30 animals used	powder 99% pure	Deenihan MJ.1987; Fine 20 Copper Sulfate Pentahydrate - Acute Toxicology Testing: (A) Acute Oral Toxicity. Northview Pacific laboratories, Inc. U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.433962-01A; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. acceptable; 011521; Apr. 20, 1995
Cupric sulfate pentahydrate	300	960	710 - 1300 (these limits are +/- 1.96 S.D.)	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 50 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* (LD50 value) Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Cupric sulfate pentahydrate	300	1570	1030 - 2400	NA	rat	NA	oral	NA	NA	low purity (20%)	copper sulfate pentahydrate 20% (Odor inhibitor/bactericide)	Hazleton Laboratories America, Inc.; HLA B1100274; Feb 27, 1989; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 41043001; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. Guideline 009092; Feb. 5, 1992
Cupric sulfate pentahydrate	300	2300	1150 - 3390	NA	rat	female	oral	NA	NA	low purity (11%)	copper sulfate 11%	BASF; 82/168; Aug. 11, 1986; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00149179; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. Guideline 006197
Cupric sulfate pentahydrate	300	2530	2010 - 3170	NA	rat	male and female	oral	NA	NA	low purity (11%)	copper sulfate 11%	BASF; 82/168; Aug. 11, 1986; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00149179; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. Guideline 006197
Cupric sulfate pentahydrate	300	2610	1890 - 4140	NA	rat	male	oral	NA	NA	low purity (11%)	copper sulfate 11%	BASF; 82/168; Aug. 11, 1986; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00149179; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. Guideline 006197

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Cupric sulfate pentahydrate	300	> 0.5mL/kg < 2.0 mL/kg	NA	NA	Sprague-Dawley rats	male	oral	0.5, 2.0, 5.0 mL/kg	no toxic signs	NA	Cutrine (28% copper sulfate)	WARF Institute, Inc.; WARF No. 1052198; Mar. 20, 1978; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.00157309; EPA Chem. Code: 024401; Core Grade/Tox Record No. supplementary 002707
Cycloheximide	2	1 (calculated by NICEATM)	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	aqueous solutions or suspensions; 0.5, 0.75, 1.0, 1.5, 2.0, 2.5, 5.0, 7.5, 10, 15, 25, 50, 75, 100, 150, 200 mg/kg dose range	rats at higher doses had bloody urine and profuse watery feces	2 rats/dose; 32 rats used; 27/32 rats dead; 75-200 mg/kg: all dead within 5 hour; 10-50 mg/kg: all dead overnight; 7.5 mg/kg: 1 dead overnight, other at 26 hour; 5.0 mg/kg: 1 dead overnight, other at 24 hour; 2.5 mg/kg: all dead at 24 and 25 hour; 2.0 mg/kg: all dead overnight and 23 hour; 1.5 mg/kg: all dead at 25 hour; 1.0 mg/kg: 1 dead at 25 hour, 1 survived; 0.5 - 0.75 mg/kg: all survived	Upjohn Company	Traub R, DeWitt JB, Welch JF, Newman DJ. 1950. Toxicity and repellency to rats of actidione. J Am Pharm Assoc (Sci. Ed.) 39(10):552 - 555. *Army Medical Department Research and Graduate School, Washington, D.C.*
Cycloheximide	2	1.8	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Compounds Available for Fundamental Research, Volume II-6, Antibiotics, A Program of Upjohn Company Research Labo (Kalamazoo, MI 49001).1971. **(RTECS REFERENCE)**
Cycloheximide	2	2.5	NA	NA	rats	NA	oral	NA	excessive salivation, diarrhea, nervousness, depression	NA	Upjohn Company	Ford JH, Klomparens W. 1960. Cycloheximide (Acti-dione) and its non agricultural uses. Antibiotics and Chemotherapy 10:682 - 687. *The Upjohn Co., Kalamazoo, MI*
Dibutyl phthalate	7499	7499	7072 - 8006 (95% CL)	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Weisheng Dulixue Zazhi. Journal of Health Toxicology. (Weisheng Dulixue Zazhi Bianjibu, Dongdaqiao, Chaoyang Menwai, Beijing, Peop. Rep. China) V.1- 1987, 1991. **(RTECS REFERENCE)**
Dibutyl phthalate	7499	8000	NA	NA	Sprague-Dawley rats; 60-75 g; 5-6 weeks	male	oral	single undiluted doses; 4000, 8000, 16000, 32000 mg/kg doses	7 day observation	4000 mg/kg - 0/3 dead; 8000 mg/kg - 4/9 dead; 16000 mg/kg - 6/6 dead; 32000 mg/kg - 6/6 dead; 24 rats used	NA	Smith CC. 1953. Toxicity of butyl stearate, dibutyl sebacate, dibutyl phthalate, and methoxyyethyl oleate. Arch Ind Hyg 7:310-318.
Dibutyl phthalate	7499	8380	6860 - 10230	NA	Sherman strain rats; 120 g	NA	NA	dosage series when expressed in /kg constitutes the antilogarithms of 1.0, 1.1, 1.2, etc	NA	NA	NA	Smyth HF, Carpenter CP. 1948. Further experience with the range finding test in the industrial toxicology laboratory. J Ind Hyg Toxicol 30:63-68. *Melon Institute, Pittsburgh, PA*
Dibutyl phthalate	7499	12436 (11.9 mL/kg)	NA	Karber's method	white rats; 60-75 g; 6 weeks	NA	oral	NA	degenerative liver changes noted	reference is untranslated Russian with English abstract; NICEATM converted 11.9 mL/kg LD50 to mg/kg using provided density of 1.045 g/mL	NA	Homrowski S, Nikonorow M. 1959. Toksycznose ostra ftalanu dwubutylu oraz ftalanu dwu-2-etyloheksylu produkcji krajowej. Roczniki Panstwowego Zakladu Higieny 10:321-327.
Dichlorvos (DDVP)	17	17	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	unknown primary reference	NA	Japan Pesticide Information. (Japan Plant Protection Assoc., 1-43-11, Komagome, Toshima-ku, Tokyo 170, Japan) No.1-61, 1969-92. 1972. **(RTECS REFERENCE)**
Dichlorvos (DDVP)	17	50	NA	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	CFY strain rats; 120+ g; adult	female	oral	NA	NA	NA	93% pure; Ciba-Geigy, Switzerland	Desi I. 1983. Neurotoxicological investigaton of pesticides in animal experiments. Neurobehav Toxicol 5:503-515. *National Institute of Hygiene, Hungary*
Dichlorvos (DDVP)	17	54 (calculated from negative log in mol/kg [3.61])	24 - 111 (CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar rats; 150 g	female	intragastric-ally (metal tube)	ethanol: water 1:4 solution used as solvent; 2 mL/kg dosage;	observed for 72 hours; decreased body weight	30 rats tested (5 groups of 6 rats)	95% pure	Gajewski D, Katkiewicz M. 1981. Activity of certain enzymes and histomorphological changes in subacute intoxication of rats with selected organophosphates. Acta Physiol Pol 32(5):507-520. *Agricultural Academy (and others), Warsaw, Poland*
Dichlorvos (DDVP)	17	56	48 - 65 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min.wt.: female = 200 g; min.age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival = died within 1 hour	80 rats tested; LD50 value from Durham et al. 1957	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA* Mattson AM, Spillane JT, Pearce GW. 1955. Dimethyl 2,2-dichlorvinyl phosphate (DDVP), an organic phosphorous compound highly toxic to insects. J Agr Food Chem 3:319-321. *Communicable Disease Center, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	56	48 - 65 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman albino rats	female	oral; stomach tube	dissolved in peanut oil; dosage rate of 5uL/g; DDVP concentration varied	bulging eyes, excessive lacrimation, sialorrhea, generalized muscle fasciulations, tremors; killed rats dead within 1 hour; all survivors completely recovered within 24 hours	NA	technical grade, 90%DDVP	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	68	59 - 79 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman albino rats	female	oral; stomach tube	dissolved in peanut oil; dosage rate of 5uL/g; DDVP concentration varied	bulging eyes, excessive lacrimation, sialorrhea, generalized muscle fasciulations, tremors; killed rats dead within 1 hour; all survivors completely recovered within 24 hours	NA	99% pure DDVP	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	80	62 - 104 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt.: male = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival = died within 1 hour	59 rats tested; LD50 value from reseach paper of Durham et al. 1957	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA* Mattson AM, Spillane JT, Pearce GW. 1955. Dimethyl 2,2-dichlorvinyl phosphate (DDVP), an organic phosphorous compound highly toxic to insects. J Agr Food Chem 3:319-321. *Communicable Disease Center, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	80	NA	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	CFY strain rats; 120+ g; adult	male	oral	NA	NA	NA	93% pure; Ciba-Geigy, Switzerland	Desi I. 1983. Neurotoxicological investigaton of pesticides in animal experiments. Neurobehav Toxicol 5:503-515. *National Institute of Hygiene, Hungary*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Dichlorvos (DDVP)	17	80	62 - 104 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman albino rats	male	oral; stomach tube	dissolved in peanut oil; dosage rate of 5 ul/g; DDVP concentration varied	bulging eyes, excessive lacrimation, sialorrhea, generalized muscle fasiculations, tremors; killed rats dead within 1 hour; all survivors completely recovered within 24 hours	NA	technical grade, 90%DDVP	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	80	71 - 90 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman albino rats	female	oral; stomach tube	dissolved in peanut oil; dosage rate of 5 ul/g; DDVP concentration varied	bulging eyes, excessive lacrimation, sialorrhea, generalized muscle fasiculations, tremors; killed rats dead within 1 hour; all survivors completely recovered within 24 hours	NA	technical grade, 90%DDVP	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Dichlorvos (DDVP)	17	97.5	88.6 - 107 (95% CL; slope = 1.24 [1.15 - 1.34])	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Fischer 344 rats; 7 weeks	male	oral gavage	dissolved in olive oil; 5 mL/kg dosing solution; 4 -5 dosages	24 hour observation; anti-cholinesterase signs of salivation, fasiculation, lacrimation, tremors, irregular respiration, prostration; all deaths observed between 2 -24 hours	aclimated for 1 week before dosing; 5 - 10 animals per each dosage	98.7% pure; Nippon Chemical Industrial Company, Ltd.	Ikeda T, Kojima T, Yoshida M, Takahashi H, Tsuda S, Shirasu Y. 1990. Pretreatment of rats with an organophosphorous insecticide, chlorfenvinphos, protects against subsequent challenge with the same compound. Fundam Appl Toxicol 14(3):560-567. *Mitsukaido Laboratories, Institute of Environmental Toxicology, Japan*
Diethyl phthalate	8600	> 5590 (reported as > 5.0 mL/kg; specific density = 1.118)	95% CL (where possible);	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar albino rats; 139-164 g	male and female	oral; gavage	0.5, 1, 2, 5 mL/kg; single dose	observed at 1, 3, 6, and 24 hours after dosing; then observed daily for 14 days; 2 rats dead	8 groups of 10 rats (5M, 5F); 80 rats used; fasted overnight	NA	data from EPA TSCATS database; ORAL LD50 TEST IN RATS OF DIETHYL PHTHALATE WITH COVER LETTER DATED 05/09/94 (SANITIZED) (1978) EPA Document No. 86-940000887S Fiche No. OTS0557297; *Consumer Product Testing, Fairfield, NJ*
Diethyl phthalate	8600	8600	7840 - 9890	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Gigiena Truda i Professional'nye Zabolevaniya. Labor Hygiene and Occupational Diseases. (V/O Mezhdunarodnaya Kniga, 113095 Moscow, USSR) V.1-36, 1957-1992. 1980. Timofeevshaia LA, Ivanova NI, Balinina ES. 1980. Toxicology of O-phthalate acid esters and hygiene reglamentation. Gigiena Truda i Professional'nye Zabolevaniya 24(3):25-27.**(RTECS REFERENCE)**
Diethyl phthalate	8600	10100	8920 - 11280	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Digoxin	28.3	28.27	24.85 - 32.17 (limits of error [P=0.95])	Probit method	rats; 250-310 g	male and female (equal numbers)	oral	NA	mortality rate computed 7 days after administration	3 or 4 groups of 10; 30 - 40 rats used; fasted overnight	NA	Archives Internationales de Pharmacodynamie et de Therapie. (Heymans Institute of Pharmacology, DePintelaan 185, B-9000 Ghent, Belgium) V.4- 1898, 1966. Georges A, Page J, Duvernay G. 1966. Cardiotonic properties of formiloxin: a semi-synthetic cardiac glycoside. Arch Int Pharmacodyn 164(1):47-55. Research Dept., A. Christianens, S.A., Brussels, Belgium **(RTECS REFERENCE)**
Dimethylformamide	2800	1425 (1.5 mL/kg; converted to mg/kg using density = 0.950)	855 - 2565 (95% CL; 0.9 - 2.7 mL/kg; converted to mg/kg using density = 0.950)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 16-50 g; 14 days	male and female	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; 6-12 rats of both sexes used for studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Dimethylformamide	2800	> 2000	NA	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male and female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: Ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, tremors, convulsions, prostrate coma; time to onset of signs --; duration of signs -- no signs reported; 0 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male and 5 female each); 30 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Dimethylformamide	2800	2800	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Druckery H, Preussmann R, Ivankovic S, Schmahl D. 1966. Organotrope carcinogene Wirkungen bei 65 verschiedenen N-Nitroso-Verbindungen an BD-Ratten. Zeitschrift fur Krebsforschung 69:103-201. **(RTECS REFERENCE)**
Dimethylformamide	2800	3990 (4.2 mL/kg; converted to mg/kg using density = 0.950)	2565 - 6270 (95% CL; 2.7 - 6.6 mL/kg; converted to mg/kg using density = 0.950)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 80-160 g; young adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Dimethylformamide	2800	5800	+/- 1200	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Dimethylformamide	2800	6840 (7.2 mL/kg; sp. density = 0.950; convert LD50 to mg/kg)	5700 - 8170 (95% CL; 6.0 - 8.6 mL/kg; sp. density is 0.950; convert LD50 to mg/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 300-470 g; older adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Dimethylformamide	2800	7000	NA	based on assumption that probit mortality vs log dose has same slope as similar chemical	Sherman rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; doses (in g/kg) differ by 1 log to bracket LD50, then refine LD50 with doses in a series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc	LD50 based on mortalities during a 14 day period	6 rats/dose at doses that differ by 1 log to bracket LD50 (given 1 week apart); then refined LD50 with 10 rats/dose in a dose series of antilog 1.1, 1.3, 1.5, etc.; assumed to use materials/methods of Smyth & Carpenter (1944) except for reported changes	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1948. Further experience with the range finding test in the industrial toxicology laboratory. J Ind Hyg Toxicol 30: 63-68. **(LD50 value)** Smyth HF Jr, Carpenter CP. 1944. The place of the range-finding test in the industrial toxicology laborotory. J Ind Hyg Toxicol 26:269-273. (most materials/methods)
Dimethylformamide	2800	7182 (7.6 mL/kg; sp. density listed as 0.945; convert LD50 to mg/kg)	6804 - 7655 (95% CL; 7.2 - 8.1 mL/kg; sp. density listed as 0.945; convert LD50 to mg/kg; slope=1.11)	Finney (1962) Probit Analysis	Sprague-Dawley SPF rats; 170-230 g	male and female	oral; stomach tube	diluted in 0.9% saline; 20 - 30 mL/kg dose	observed up to 7 days after administration; all deaths occurred within 24 hour	10 animals per dose (5 male, 5 female)	pure DMF	Bartsch W, Sponer G, Dietmann K, Fuchs G. 1976. Acute toxicity of various solvents in the mouse and rat. LD50 of ethanol, diethylacetamide, dimethylformamide, dimethylsulfoxide, glycerine, N-methylpyrrolidone, polyethylene glycol 400, 1,2- propanediol and Tween 20. Arzneimittelforschung 26(8):1581-1583.
Diquat dibromide	231	231	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	assumed to be the value from Clark & Hurst 1970	NA	Pesticide Manual. (The British Crop Protection Council, 20 Bridport Rd., Thornton Heath CR4 7QG, UK) V.1- 1968. 1991. **(RTECS REFERENCE)**
Diquat dibromide	231	121	108 - 136 (95% CL; slope = 12.2)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats (SPF); min. wt. = 200 g; min. age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed for at least 14 days after dosing or until recovered from signs of toxicity	40 rats used; min. of 10 animals per group tested	technical grade	Gaines TB, Linder RE. 1986. Acute toxicity of pesticides in adult and weanling rats. Fundam Appl Toxicol 7(2):299-308. *Health Effects Research Laboratory, U.S. EPA, Research Triangle Park, NC*
Diquat dibromide	231	147	138 - 155 (95% CL; slope = 22.5)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats (SPF); min. wt. = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed for at least 14 days after dosing or until recovered from signs of toxicity	40 rats used; min. of 10 animals per group tested	technical grade	Gaines TB, Linder RE. 1986. Acute toxicity of pesticides in adult and weanling rats. Fundam Appl Toxicol 7(2):299-308. *Health Effects Research Laboratory, U.S. EPA, Research Triangle Park, NC*
Diquat dibromide	231	231 (diquat ion per kg bw)	194 - 274 (95% CL)	Thompson (1947); moving average interpolation method	Alderly Park albino rats (SPF); 180-200 g; young, mature	female	oral; stomach tube	chemical dissolved in water or physiological saline	observed for 14 days; lethargy, weight loss, respiratory difficulty	NA	99% pure diquat dichloride or diquat dibromide	Clark DG, Hurst EW. 1970. The toxicity of diquat. Br J Ind Med Jan;27(1):51-55. *Imperial Chemical Industries Limited, Cheshire, UK*
Disulfoton	2.6	2.3	1.7 - 3.1 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 200 g; min. age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 3 days	50 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3): 515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Disulfoton	2.6	2.6	NA	estimated by the logarithm-probability method	Sprague-Dawley rats; 175 - 225 g	female	NA	dissolved in 10% ETOH, 90% propylene glycol; strength of solutions adjusted so that less than 0.3% bw was administered to the rats	animals observed for 10 days; death or complete recovery occurred within this time; acute toxic dose symptoms typical of those produced by cholinergic organic phosphates; single doses produced effects resembling those resulting from excessive stimulation of the central nervous system, the patasympathetic nervous system and somatic motor nerves; after lethal doses death usually occurred within 48 hour	25 rats used	Chemagro Corp., New York	Bombinski TJ, Dubois KP. 1958. Toxicity and mechanism of action of Di-syston. AMA Arch Ind Health 17:192-199.
Disulfoton	2.6	2.6	NA	NA	rats	female	oral	NA	NA	reference is a review article in Japanese; this LD50 value is assumed to be from Bombinski and Dubois 1958	NA	Yakkyoku. Pharmacy. (Nanzando, 4-1-11, Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, Japan) V.1- 1950. 1986. (see Bombinski and Dubois [1958]) **(RTECS REFERENCE)**
Disulfoton	2.6	3.2	3.0 - 3.3 (95% CL)	NA	Hindustan Antibiotics strain rats; adult	female	oral	1 - 10 mg/kg doses; 6 different dose levels	acute 24 hour LD50 determination; percent mortality given for different timepoints within the 24 hour period; pretreatment of rats reduced mortality in some cases	overnight fasted; rats pretreated with one of the following: saline, oil, phenobarbital, 3-methyl-cholanthourene, nickel chloride, cobalt chloride, cycloheximide or ethylmorphine; reference doesn't adequately define which rats received what and if all data were used in LD50 determinations	NA	Pawar SS, Fawade MM. 1978. Alterations in the toxicity of thiodemeton due to the pretreatment of inducers, substrate, and inhibitors of mixed function oxidase system. Bull Environ Contam Toxicol 20:805-810. *Marathwada University, India*
Disulfoton	2.6	6.8	5.9 - 7.8 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 175 g; min age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 2 days	69 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol. Appl. Pharmacol. 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Disulfoton	2.6	7.2	7.0 - 7.3 (95% CL)	NA	Hindustan Antibiotics strain rats; adult	male	oral	1 - 10 mg/kg doses; 6 different dose levels	acute 24 hour LD50 determination; percent mortality given for different timepoints within the 24 hour period; pretreatment of rats reduced mortality in some cases	overnight fasted; rats pretreated with one of the following: saline, oil, phenobarbital, 3-methyl-cholanthourene, nickel chloride, cobalt chloride, cycloheximide or ethylmorphine; reference doesn't define which rats received what and if all data were used in LD50 determinations	NA	Pawar SS, Fawade MM. 1978. Alterations in the toxicity of thiodemeton due to the pretreatment of inducers, substrate, and inhibitors of mixed function oxidase system. Bull Environ Contam Toxicol 20:805-810. *Marathwada University, India*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Disulfoton	2.6	12.6	NA	estimated by the logarithm-probability method	Sprague-Dawley rats; 175-225 g	male	NA	dissolved in 10% ETOH, 90% propylene glycol; strength of solutions adjusted so that less than 0.3% bw was administered to the rats	animals observed for 10 days; death or complete recovery occurred within this time; acute toxic dose symptoms typical of those produced by cholinergic organic phosphates; single doses produced effects resembling those resulting from excessive stimulation of the central nervous system, the patasympathetic nervous system and somatic motor nerves; after lethal doses death usually occurred within 48 hour	39 rats used	Chemagro Corp., New York	Bombinski TJ, Dubois KP. 1958. Toxicity and mechanism of action of Di-syston. AMA Arch Ind Health 17:192-199.
Endosulfan	18	18	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	assumed to be the values from Gaines 1969	NA	Agricultural Research Service, USDA Information Memorandum. (Beltsville, MD 20705): 20,9,1966. (see Gaines 1969) **(RTECS REFERENCE)**
Endosulfan	18	18	15 - 21 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min wt. = 200 g; min age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 2 days	60 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Endosulfan	18	43	41 - 46 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min wt. = 175 g; min age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 5 days	70 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Epinephrine bitartrate	4 (mouse - oral)	NA	+/- 1	NA	NA	NA	NA	NA	observed for 5 days	NA	NA	Acta Pharmacologica et Toxicologica. (Copenhagen, Denmark) V.1-59, 1945-86. 1972. **(RTECS REFERENCE)**
Ethanol	7060	6162 (7.8 mL/kg; converted to mg/kg using density of 0.790)	4977 - 7663 (95% CL; 6.3 - 9.7 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; (16-50 g); 14 days	male and female	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; 6-12 rats of both sexes used for studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Ethanol	7060	7060	6670 - 7460 (95% CL)	moving average of Weil (1952) or Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar albino rats; old adult; 11-12 months	male	oral	dose interval 1.1; ethanol concentration of 40% w/v	acute (24 hour) toxicity; respiratory failure	fasted overnight; 6 - 8 grouped of 10 rats each	NA	Wiberg GS, Trenholm HL, Coldwell BB. 1970. Increased ethanol toxicity in old rats: changes in LD50, in vivo and in vitro metabolism, and liver alcohol dehydrogenase activity. Toxicol Appl Pharmacol May 16(3):718-727. *Dept. of National Health and Welfare, Ottawa, Canada* **(RTECS REFERENCE)**
Ethanol	7060	7400	NA	NA	rats; 150-250 g; 70- 100 days	male (predominately)	oral	NA	observed for 6 days	18 hour fasting before dosing	NA	Welch H, Slocum GG. 1943. Relation of length of carbon chain to the primary and functional toxicities of alcohols. J Lab Chem Med 28:1440-1445. *U.S. FDA, Washington, D.C.*
Ethanol	7060	10600	10000 - 11200 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949) or moving average of Weil (1952)	Wistar albino rats; young adult; 100 days	male	oral	dose interval 1.1; ethanol concentration of 40% w/v	acute (24 hour) toxicity; respiratory failure	fasted overnight; 6 - 8 grouped of 10 rats each	NA	Wiberg GS, Trenholm HL, Coldwell BB. 1970. Increased ethanol toxicity in old rats: changes in LD50, in vivo and in vitro metabolism, and liver alcohol dehydrogenase activity. Toxicol. Appl. Pharmacol. May. 16(3):718-727. *Dept. of National Health and Welfare, Ottawa, Canada*
Ethanol	7060	11290 - A 11204 - B (A = 14.31 mL/kg; B = 14.20 mL/kg; used density of 0.789 to convert to mg/kg)	NA	A: Behrens (1929) B: Bliss (1938)	rats	NA	oral	NA	NA	40 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a compound. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378. *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Ethanol	7060	11534 (14.6 mL/kg; used density of 0.790 to convert to mg/kg)	10112 - 13193 (95% CL; 12.8 - 16.7 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 300-470 g; older adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Ethanol	7060	13660	11170 - 16710 (95% probability; +/- 1.96 S.D.; slope = 4.57)	probits (Bliss)	Wistar albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube; single doses	50% concentration in water; largest dose given was 50 g/kg	most deaths occurred in 2 days; all deaths occurred in 14 days	groups of 10 animals; 10 animals per dose	purified commercial grade	Smyth HF Jr, Seaton J, Fischer, L. 1941. The single dose toxicity of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 23:259-268. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA* (This was the value used by the RC [from 1977 RTECS]).
Ethanol	7060	15543 (19.7 mL/kg; used density of 0.789 to convert to mg/kg)		Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF, Weil CS, West JS, Carpenter CP. 1970. An exploration of joint toxic action:II. Equitoxic versus equivolume mixtures. Toxicol Appl Pharmacol 17:498-503. (LD50 value) Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., Striegel, JA. And Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., and Striegel, JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Ethanol	7060	17775 (22.5 mL/kg; used density of 0.790 to convert to mg/kg)	14852 - 21330 (95% CL; 18.8 - 27.0 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 80-160 g); young adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Ethylene glycol	4700	4000	3100 - 5200 (95% CI; slope = 258)	Litchfield and Wilcoxon method	Fischer 344 (COB CD F/Crl BR) rats; 150-200 g; 12-14 weeks	female	oral intubation	0.1 log dosages with 5 rats per level	animals observed for mortality daily for 14 days	fasted overnight; no dosage exceeded 24 g/kg bw; LD50 and 95% confidence limits calculated at 24 hour post-treatment; no deaths beyond 72 hour post-treatment	Aldrich Chemical Co.; high purity; > 99% ethylene glycol	Clark CR, Marshall TC, Merickel BS, et al. 1979. Toxicological assessment of heat transfer fluids proposed for use in solar energy applications. Toxicol Appl Pharmacol 5(1):529-535. *Inhalation Toxicology Research Institute, Lovelace Biomedical and Environmental research Institute, Albuquerque, NM*
Ethylene glycol	4700	4700	NA		rats	NA	oral	NA	NA	reference in intranslated Russian; same reference was cited in 1983/84 RTECs, but this is not the LD50 used by RC (ZEBET did not provide the reference)	NA	Filatova VS, Smirkova ES. 1982. Derivation of the maximum permissable concentration of ethylen glycol in the air of worksites. Gigiena Truda i Professional'nye Zabolevaniya. 26(6):28-30. **(RTECS REFERENCE)**
Ethylene glycol	4700	>5000	NA	NA	Holzman Sprague-Dawley rats	male	oral gavage	50 mg/kg, 500 mg/kg, and 5000 mg/kg in corn oil	clinical observations included depression, labored breathing, emaciation, and alopecia	3 groups of 10 males; no mortalities were observed	NA	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity Study in Rats Administered 10 Materials (final report) with Cover Letter dated 062669, (1969), EPA Doc. No. 40-6942188, Fiche No. OTS0519234; *FMC Corporation*
Ethylene glycol	4700	5890 (5.28 cc/kg; converted to mg/kg using density of 1.1155)	5053 - 7106 (95% probability; 4.53 - 6.37 cc/kg)	probits (Bliss)	rats from the same strain; 275 +/- 25 g; 3 months +/- 9 days	NA	oral; stomach tube; single doses	single doses; 3904 mg/kg--7028 mg/kg; log doses 0.544, 0.608, 0.672, 0.735, 0.799; diluted 1 + 3	most deaths occurred in 1 - 5 days; weakness and lack of muscular coordination; no deaths per dose: 3904 mg/kg -- 2/11; 4440 mg/kg -- 3/11; 5243 mg/kg -- 3/11; 6057 mg/kg -- 5/11; 7028 mg/kg -- 8/11	5 doses for 11 animals each dose; 55 rats used	NA	Laug EP, Calvery HO, Morris HJ, Woodard G. 1939. The toxicology of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 21:173-201. *Division of Pharmacology, Food and Drug Administration, U.S. Dept. of Agriculture, Washington, D.C.*
Ethylene glycol	4700	6135 (5.50 cc/kg; converted to mg/kg using density of 1.1155)	5578 - 6749 (95% probability; 5.00 - 6.05 cc/kg)	probits (Bliss)	rats from different sources; 175-325 g	male and female (~ equal)	oral; stomach tube; single doses	single doses; 3904 mg/kg -- 8366 mg/kg	most deaths occurred in 1 - 5 days; weakness and lack of muscular coordination; no deaths per dose: 3904 mg/kg - 0/7; 4462 mg/kg - 4/20; 5020 mg/kg - 3/10; 5578 mg/kg - 11/20; 6135 mg/kg - 15/20; 6693 mg/kg - 4/10; 6972 mg/kg - 7/10; 7251 mg/kg - 2/10; 7809 mg/kg - 13/20; 8366 mg/kg - 17/20	rats fasted for about 18 hours; 147 rats used; 76 died	NA	Laug EP, Calvery HO, Morris HJ, Woodard G. 1939. The toxicology of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 21:173-201. *Division of Pharmacology, Food and Drug Administration, U.S. Dept. of Agriculture, Washington, D.C.*
Ethylene glycol	4700	6500	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation;	single dose; geometric factor between dosage levels=2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	6537 (5.86 cc/kg; converted to mg/kg using density of 1.1155)	5064 - 8455 (95% probability; 4.54 - 7.58 cc/kg)	probits (Bliss)	rats from the same strain; 275 +/- 25 g; 3 months +/- 9 days		oral; stomach tube; single doses	single doses; 3904 mg/kg -- 7028 mg/kg; log doses 0.544, 0.608, 0.672, 0.735, 0.799; undiluted	most deaths occurred in 1 - 5 days; weakness and lack of muscular coordination; no deaths per dose: 3904 mg/kg -- 2/11; 4440 mg/kg -- 2/11; 5243 mg/kg -- 4/11; 6057 mg/kg -- 5/11; 7028 mg/kg -- 6/11	5 doses for 11 animals each dose; 55 rats used	NA	Laug EP, Calvery HO, Morris HJ, Woodard G. 1939. The toxicology of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 21:173-201. *Division of Pharmacology, Food and Drug Administration, U.s. Dept. of Agriculture, Washington, D.C.*
Ethylene glycol	4700	6860	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	7460	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	7887 (7.07 mL/kg; converted to mg/kg using density of 1.1155)	NA	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF, Weil CS, West JS, Carpenter CP. 1970. An exploration of joint toxic action:II. Equitoxic versus equivolume mixtures. Toxicol Appl Pharmacol 17:498-503. (LD50 value) Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., Striegel, JA. And Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., and Striegel, JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Ethylene glycol	4700	8000	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Ethylene glycol	4700	8120	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	8480	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	8540	7310 - 9990 (95% probability; +/- 1.96 S.D.; slope = 5.71)	probits (Bliss)	Wistar albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube; single doses	50% concentration in water; largest dose given was 50 g/kg	most deaths occurred in 2 days; all deaths occurred in 14 days	groups of 10 animals; 10 animals per dose	commercial grade	Smyth HF Jr, Seaton J, Fischer L. 1941. The single dose toxicity of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 23:259-268. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA.* (This is the value used by the RC [from 1981/82 RTECS]).
Ethylene glycol	4700	9058 (8.12 mL/kg; converted to mg/kg using density of 1.1155)	NA	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF, Weil CS, West JS, Carpenter CP. 1970. An exploration of joint toxic action:II. Equitoxic versus equivolume mixtures. Toxicol Appl Pharmacol 17:498-503. (LD50 value) Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., Striegel, JA. And Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* Smyth HF Jr., Carpenter CP., Weil CS., Pozzani, UC., and Striegel, JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Ethylene glycol	4700	9850	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats; 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	9900	NA	Thompson (1947) and Weil (1952); moving average tables	Manor farms Wistar rats (SPF); 150-200 g	male	oral; stomach intubation	single dose; geometric factor between dosage levels = 2; undiluted	14 day observation	5 rats per dosage level; fasted overnight	NA	Weil CS, Wright GJ. 1967. Intra- and Interlaboratory Comparative Evaluation of Single Oral Test. Toxicology and Applied Pharmacology 11:378-388. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA and The Dow Chemical Company, Midland, MI*
Ethylene glycol	4700	> 10000	NA	NA	Sprague-Dawley rats	female	oral; gavage	single dose; 1250, 2500, 5000, 10000 mg/kg doses	14 day observation; no rats died	ethylene glycol engine coolant; test material is 50/50 (vol.) ethylene glycol and water mix with 1.5 oz./gal of DCA inhibitor	NA	from EPA TSCATS database; Initial Submission: Acute Toxicological Properties & Handling Hazards With Ethylene Glycol Tested In Rats (Final Report) With Cover Letter Dated 051492; EPA Doc. No. 88-920003189 Fiche No.OTS0539777. *The Dow Chemical Co.*
Ethylene glycol	4700	17800	NA	Litchfield and Wilcoxon method	Holzman Sprague-Dawley rats; 243- 274 g	male	oral intubation	316 mg/kg, 1000 mg/kg, 3160 mg/kg, 10000 mg/kg, 31600 mg/kg in corn oil	clinical observations included depression, rapid respiration and hunching; 2 rats dead at highest dose	5 groups of 2 males; only mortalities were both rats at the 31600 mg/kg dose; fasted overnight	NA	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity Study in Rats Administered One of 10 Materials (final report) with Cover Letter dated 090869, (1969), EPA Doc. No. 40-6942189, Fiche No. OTS0519235. *FMC Corporation*
Fenpropathrin	18	18 - 24	NA	NA	Charles River (?) rats	female	oral	5% solution in DMSO	mortalities recorded 10 days after dosing	15 male, 15 female rats used; 30 total rats; rats injected with 0.9% saline i.p. (1 mL/kg) 2 hour before dosing	NA	Crawford MJ, Hutson DH. 1977. The metabolism of the pyrthroid insecticide (+/-)-a-cyano-3-phenoxybenzyl 2,2,3,3-tetramethyl-cyclopropanecarboxylate, WL 41706, in the rat. Pestic Sci 8:579-599. *Shell Research Limited, Kent, UK* **(RTECS REFERENCE)**
Fenpropathrin	18	24 - 36	NA	NA	Charles River (?) rats	male	oral	5% solution in DMSO	mortalities recorded 10 days after dosing	15 male, 15 female rats used; 30 total rats; rats injected with 0.9% saline i.p. (1 mL/kg) 2 hour before dosing	NA	Crawford MJ, Hutson DH. 1977. The metabolism of the pyrthroid insecticide (+/-)-a-cyano-3-phenoxybenzyl 2,2,3,3-tetramethyl-cyclopropanecarboxylate, WL 41706, in the rat. Pestic Sci 8:579-599. *Shell Research Limited, Kent, UK*
Fenpropathrin	18	24 - 36	NA	NA	Charles River (?) rats	female	oral	5% solution in DMSO	mortalities recorded 10 days after dosing	12 male, 12 female rats used; 24 total rats; rats pretreated with corn oil 18 hour before dosing	NA	Crawford MJ, Hutson DH. 1977. The metabolism of the pyrthroid insecticide (+/-)-a-cyano-3-phenoxybenzyl 2,2,3,3-tetramethyl-cyclopropanecarboxylate, WL 41706, in the rat. Pestic Sci 8:579-599. *Shell Research Limited, Kent, UK*
Fenpropathrin	18	24 - 36	NA	NA	Charles River (?) rats	male	oral	5% solution in DMSO	mortalities recorded 10 days after dosing	12 male, 12 female rats used; 24 total rats; rats pretreated with corn oil 18 hour before dosing	NA	Crawford MJ, Hutson DH. 1977. The metabolism of the pyrthroid insecticide (+/-)-a-cyano-3-phenoxybenzyl 2,2,3,3-tetramethyl-cyclopropanecarboxylate, WL 41706, in the rat. Pestic Sci 8:579-599. *Shell Research Limited, Kent, UK*
Fenpropathrin	18	48.5	37.6 - 62.6 (CL)	NA	rats	female	oral gavage	single doses (mg/kg): 15, 20, 30, 50, 59, 77, 100, 120, 169; doses in corn oil	observed for 14 days; decrease of spontaneous motor activity, hypersensitivity, fibrillation, tremor, clonic convulsion, salivation, lacrimation, incontinence, hind limb ataxia; deaths resulted within 24 hour and signs of intoxication dissapeared in 24 - 48 hour; min. toxic dose was 20 mg/kg	8 groups of 10 rats; 80 rats used	Fenpropathrin 97% (S-3206 lot. No. 022018)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-50-0018; Jan. 1, 1979; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127343; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. minimum 004567; EPA Accession No. 249937
Fenpropathrin	18	49	NA	NA	rats	female	oral	NA	NA	assumed to be same LD50 value as Sumitomo 1979	NA	Fujita Y. 1981. Meothrin (Fenpropathrin). Japan Plant Protection Assoc. Japan Pesticide Information 38:21 -25.
Fenpropathrin	18	54	43.5 - 67.0 (CL)	NA	rats	male	oral gavage	single doses (mg/kg): 15, 20, 30, 50, 59, 77, 100, 120, 169; doses in corn oil	observed for 14 days; decrease of spontaneous motor activity, hypersensitivity, fibrillation, tremor, clonic convulsion, salivation, lacrimation, incontinence, hind limb ataxia; deaths resulted within 24 hour and signs of intoxication dissapeared in 24 - 48 hour; min. toxic dose was 20 mg/kg	9 groups of 10 rats; 90 rats used	Fenpropathrin 97% (S-3206 lot. No. 022018)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-50-0018; Jan. 1, 1979; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127343; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. minimum 004567; EPA Accession No. 249937
Fenpropathrin	18	54	NA	NA	rats	male	oral	NA	NA	assumed to be same LD50 value as Sumitomo 1979	NA	Fujita Y. 1981. Meothrin (Fenpropathrin). Japan Plant Protection Assoc. Japan Pesticide Information 38:21-25.

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Fenpropathrin	18	66.7	50.6 - 87.9 (CL)	NA	Sprague Dawley rats	female	oral gavage	single doses (mg/kg): 0, 10, 25, 50, 60, 72, 86, 104, 125; doses in corn oil	observed for 14 days; signs of intoxication with doses 25 mg/kg and above; muscular fibrillation, soft feces, diarrhea, tremor, decreased spontaneous activity, ataxia, limb paralysis, irregular respiration, slight salivation, urinary incontinence; signs developed an hour after dosing but rats recovered after 3 days; deaths resulted on day of dosing or day after dosing	rats fasted 20 hour before dosing; 9 groups of 10 rats; 90 rats used	Fenpropathrin 91.8% (S-3206 technical grade, lot. No. 2TC019)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-30-0081; Jan. 17, 1983; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127342; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 004567; EPA Accession No. 249937
Fenpropathrin	18	70.6	53.7 - 92.7 (CL)	NA	Sprague Dawley rats	male	oral gavage	single doses (mg/kg): 0, 10, 25, 50, 60, 72, 86, 104, 125; doses in corn oil	observed for 14 days; signs of intoxication with doses 25 mg/kg and above; muscular fibrillation, soft feces, diarrhea, tremor, decreased spontaneous activity, ataxia, limb paralysis, irregular respiration, slight salivation, urinary incontinence; signs developed an hour after dosing but rats recovered after 3 days; deaths resulted on day of dosing or day after dosing	rats fasted 20 hour before dosing; 9 groups of 10 rats; 90 rats used	Fenpropathrin 91.8% (S-3206 technical grade, lot. No. 2TC019)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-30-0081; Jan. 17, 1983; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127342; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 004567; EPA Accession No. 249937
Fenpropathrin	18	71.6	56.1 - 92.0	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	Danitol S-3206 (2.4 lb/GEC)	International Reseach & Development Corp.; 491-003; FT-11-0052; Oct. 26, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00128341; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 003814
Fenpropathrin	18	72.1	53.0 - 82.5	NA	rats	male and female	oral	NA	NA	NA	Danitol S-3206 (2.4 lb/GEC)	International Reseach & Development Corp.; 491-003; FT-11-0052; Oct. 26, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00128341; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 003814
Fenpropathrin	18	72.4	62.1 - 84.3	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	Danitol S-3206 (2.4 lb/GEC)	International Reseach & Development Corp.; 491-003; FT-11-0052; Oct. 26, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00128341; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 003814
Fenpropathrin	18	107	69.8 - 164 (CL)	NA	Sprague Dawley rats	female	oral gavage	single doses (mg/kg): 0, 25, 50, 90, 120, 160, 220, 300	observed for 14 days; toxic signs noted at 50 mg/kg and above; muscular fibrillation, tremor, ataxia, limb paralysis, irregular respiration, lacrimation, salivation, urinary incontinence, diarrhea	8 groups of 10 rats; 80 rats used	Fenpropathrin 97.3% (S-3206 lot. No. T-1)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-20-0076; Sept. 12, 1982; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127344; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 004567; EPA Accession No. 249937
Fenpropathrin	18	164	115 - 234 (CL)	NA	Sprague Dawley rats	male	oral gavage	single doses (mg/kg): 0, 25, 50, 90, 120, 160, 220, 300	observed for 14 days; toxic signs noted at 50 mg/kg and above; muscular fibrillation, tremor, ataxia, limb paralysis, irregular respiration, lacrimation, salivation, urinary incontinence, diarrhea	8 groups of 10 rats; 80 rats used	Fenpropathrin 97.3% (S-3206 lot. No. T-1)	Sumitomo Chemical Co., Japan; FT-20-0076; Sept. 12, 1982; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00127344; EPA Chem. Code: 127901; Core Grade/Tox Record No. guideline 004567; EPA Accession No. 249937
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	rats	male and female	oral	NA	NA	NA	Gibberellins Tech. GA47A, 90%	Hazleton Laboratories, Inc.; HLA 80602323; Aug. 29, 1988; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 40873201; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 007756; FEB. 9, 1990
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	Pro Gibb 4% (gibberellic acid); Lot 28-T80-CF	Abbott Research Center; TA89-363; Feb. 20, 1990; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.41558201; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 008645; Oct. 8, 1991
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	rats	NA	oral	5000 mg/mL	NA	NA	cytokinin (as kinetin) 0.012%; Gibberellic acid 0.0007%	University of Utah Reearch Institute 03-80; TR 05-485-002A; Jan. 20, 1984; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00142864; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 006198
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	Pro Gibb (gibberellic acid 10%);	Ricerca, Inc.; 90-0138; May 31, 1990; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 41560401; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. supplementary 008876; Dec. 5, 1991
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	rats	male and female	oral	NA	NA	NA	Gibberellic acid 7.5% a.i.	Ricerca, Inc.; 90-0138; May 31, 1990; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 41591103; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 008571; Sept. 11, 1991
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	Charles River Crl CD; 271-293 g; young adult	male	oral	5000 mg/mL in corn oil; 10 mL/kg dose;	14 day observation; 0/5 animals dead; dyspnea	5 animals used; tan to white powder	Gibberellins Tech., 88.0%	Hazleton Laboratories, Inc.; HLA 90305639; June 22, 1989; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 41605801; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 008916; Dec. 17, 1991
Gibberellic acid	6300	> 5000	NA	NA	Charles River Crl CD; 245-271 g; young adult	female	oral	5000 mg/mL in corn oil	14 day observation; 0/5 animals dead; dyspnea	5 animals used; tan to white powder	Gibberellins Tech., 88.0%	Hazleton Laboratories, Inc.; HLA 90305639; June 22, 1989; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 41605801; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 008916; Dec. 17, 1991
Gibberellic acid	6300	5780	NA	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	Pro Gibb 4% (gibberellic acid); Lot 28-T80-CF	Abbott Research Center; TA89-363; Feb. 20, 1990; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No.41558201; EPA Chem. Code: 043801; Core Grade/Tox Record No. Guideline 008645; Oct. 8, 1991
Gibberellic acid	6300	6300	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Agricultural Chemicals. Thomson, W.T., 4 vols., Fresno, CA, Thomson Publications, 1976/77 revision **(RTECS REFERENCE)**
Glutethimide	600	600	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Psychotropic Drugs and Related Compounds," 2nd ed., Usdin, E., and D.H. Efron, Dept. of Health, Education and Welfare, Washington, DC, 1972. **(RTECS REFERENCE)**
Glycerol	12600	12600	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Russian	NA	Farmatsevtichnii Zhurnal (Kiev). (V/O Mezhdunarodnaya Kniga, 113095 Moscow, USSR) V.3-1930. 1977. **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Glycerol	12600	15890 (12.6 cc/kg; used density of 1.261 for conversion)	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	Reference provided by ZEBET as source of RC value (i.e., from 1983/84 RTECS), but mg/kg value calculated from cc/kg value is different from RC value (12691 vs 15890 mg/kg). Maybe ZEBET didn't use density? This is not a primary reference.	NA	Woodard G, Johnson VD, Nelson AA. 1945. Acute toxicity of 2-methyl, 2-4 pentanediol. Fed Proc 4:142-143. (Supposed 1983/84 RTECS reference)
Glycerol	12600	27500	23950 - 31610 (95% probability; +/- 1.96 S.D.; slope = 8.90)	probits (Bliss)	Wistar albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube; single doses	50% concentration in water; largest dose given was 50 g/kg	most deaths occurred in 2 days; all deaths occurred in 14 days	groups of 10 animals; 10 animals per dose	purified commercial grade	Smyth HF Jr, Seaton J, Fischer L. 1941. The single dose toxicity of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 23:259-268. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Glycerol	12600	26730 - A 27650 - B (A = 21.2 mL/kg; B = 21.93 mL/kg; used density of 1.261 to convert to mg)	NA	A: Behrens (1929) B: Bliss (1938)	rats	NA	oral	NA	NA	40 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a compound. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378. *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Haloperidol	128	128	77 - 212	NA	rat	NA	oral	NA	NA	unknown primary source of information	NA	Niemegeers CJC, Janssen PAJ. 1974. Bromoperidol, a new potent neuroleptic of the butyrophenone series. Arzneimittel-Forschung Drug Research 24 (1):45-52. *Janssen Pharmaceutica, Belgium* **(RTECS REFERENCE)**
Haloperidol	128	165	NA	NA	CFN; newborn	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*
Haloperidol	128	850	617 - 1173	NA	Holtzman; adult	male	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*
Hexachlorophene	56	9	2 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 10 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 28 rats	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	42	5 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 20 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 22 rats; values from graph	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	56	8 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 300 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 14 rats; values from graph	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	56	51 - 62 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats (SPF); adult;	female	oral; stomach tube	peanut oil solution	died within 3 days; severe depression and diarrhea	5 or more groups of 10 rats each	USP	Gaines TB, Kimbrough RD, Linder RE. 1973. The oral and dermal toxicity of hexachlorophene. Toxicology and Applied Pharmacology 25:332-343. **(RTECS REFERENCE)**
Hexachlorophene	56	57	52 - 61 (95% CL; slope = 13.5)	Finney's maximum likelihood probit	Sherman strain rats (SPF); min wt. = 200 g; min age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005mL/g of bw	observed for at least 14 days after dosing or until recovered from signs of toxicity	At least 40 rats used; min. of 10 animals per group tested; min. of 4 doses; animals used are the same as Gaines 1973	technical grade	Gaines TB, Linder RE. 1986. Acute toxicity of pesticides in adult and weanling rats. Fundam Appl Toxicol 7(2):299-308. *Health Effects Research Laboratory, U.S. EPA, Research Triangle Park, NC*
Hexachlorophene	56	57.6	50.8 - 65.5 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 400 g; 17 weeks	male	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	60	4 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley; 70 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 84 rats; values from graph	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	60.3	55.0 - 66.0 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 100 g; 45 weeks	male	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	63	55.5 - 71.8 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 300 g; 10 weeks	male	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	63	45.9 - 87.2 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 200 g; 9 weeks	female	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Hexachlorophene	56	66	59 - 75 95% CL; slope 10.6	Finney's maximum likelihood probit	Sherman strain rats (SPF); min wt. = 175 g; min age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed for at least 14 days after dosing or until recovered from signs of toxicity	At least 40 rats used; min. of 10 animals per group tested; min. of 4 doses; animals used are the same as Gaines 1973	technical grade	Gaines TB, Linder RE. 1986. Acute toxicity of pesticides in adult and weanling rats. Fundam Appl Toxicol 7(2):299-308. *Health Effects Research Laboratory, U.S. EPA, Research Triangle Park, NC*
Hexachlorophene	56	66	57 - 75 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats (SPF); adult	male	oral; stomach tube	peanut oil solution	died within 12 days; severe depression and diarrhea	5 or more groups of 10 rats each;	NA	Gaines TB, Kimbrough RD, Linder RE. 1973. The oral and dermal toxicity of hexachlorophene. Toxicology and Applied Pharmacology 25:332 -343. *Environmental Protection Agency, Chamblee, GA*
Hexachlorophene	56	69.1	64.6 - 94.2 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 100 g; 5 weeks	female	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	69.2	55.5 - 86.2 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 200 g; 7 weeks	male	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 1.2	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	83	6 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 25 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 12 rats; values from graph	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	84	8 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 50 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 day	approximately equal numbers of males and females; 16 rats; values from graph	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	87	79.2 - 95.5 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 67 g; 4 weeks	male	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 12	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	87	79.5 - 95.0 (95% CI)	Weil (1952) method	Wistar albino rats; 68 g; 4 weeks	female	oral	corn oil solution; geometric dose factor of 12	preliminary observations over a 1 - 2 week period after dosing; no significant mortalities occurred after 5 days; toxicity signs: lethargy, posterior paralysis, increased rate of respiration, hyperthermia, and diarrhea	16 rats at 4 dosage levels; fasted overnight	U.S.P. grade; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Nakaue HS, Dost FN, Buhler DR. 1973. Studies On The Toxicity Of Hexachlorophene In Rats. Toxicol Appl Pharmacol 24:239-49.A19 *Oregon State University, Corvallis, OR*
Hexachlorophene	56	104.03	84.45 - 128.20 (95% fiducial limit)	Bliss method	normal white rats; 150-250 g	NA	NA	40, 80, 120, 160, 200 mg/kg	25 rats used; 12 dead within 40 hours	5 groups of 5 rats each	NA	Chung HL., 1963. Hexachlorophene (G-11) as a new specific drug against Clonorchiasis Sinensis. Chinese Medical Journal. 82. No. 11. November. *Peking Sino-Soviet Friendship Hospital, Peking, China*
Hexachlorophene	56	111	12 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Sprague-Dawley rats; 32 day	male and female	oral; stomach tube	1% carboxymethylcellulose	observed for 10 days	approximately equal numbers of males and females; 66 rats	NA	Nieminen L, Bjondahn K, Mottonen M. 1973. Effect of hexachlorophene on the rat brain during ontogenesis. Fd Cosmet Toxicol 11:635-639.
Hexachlorophene	56	120	110 - 131 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxin 1949	Sherman strain rats (SPF); weanling	female	oral; stomach tube	peanut oil solution	died within 5 days; depression and posterior paralysis	5 or more groups of 10 rats each	NA	Gaines TB, Kimbrough RD, Linder RE. 1973. The oral and dermal toxicity of hexachlorophene. Toxicology and Applied Pharmacology 25:332 -343. *Environmental Protection Agency, Chamblee, GA*
Hexachlorophene	56	121	112 - 133 95% CL; slope 14.8	Finney's maximum likelihood probit	Sherman strain rats (SPF); 4-6 weeks	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed for at least 14 days after dosing or until recovered from signs of toxicity	At least 40 rats used; min. of 10 animals per group tested; min. of 4 doses; animals used are the same as Gaines 1973	technical grade	Gaines TB, Linder RE. 1986. Acute toxicity of pesticides in adult and weanling rats. Fundam Appl Toxicol 7(2):299-308. *Health Effects Research Laboratory, U.S. EPA, Research Triangle Park, NC*
Hexachlorophene	56	165	149 - 179 (95% CI)	Probit analysis	Crl-CD rats from Charles River Breeding lab; 220 -280 g; 60 days	male	oral; intragastric intubation	0.5 - 3.9% suspens; dissolved or suspended in corn oil; single dose; 100, 140, 175, 200 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 6 days; toxic symptoms: staining of the face and perineal area, weakness, diarrhea, weight loss	non fasted; 4 groups of 10; 40 rats used; 17 rats died	99+% pure; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. *E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE*
Hexachlorophene	56	215	191 - 237 (95% CI)	Probit analysis	Crl-CD rats from Charles River Breeding lab; 220 -280 g; 60 days	male	oral; intragastric intubation	0.26 - 1.4% suspens dissolved or suspended in corn oil; single dose; 50, 100, 170, 225, 275 mg/kg doses	observed daily for 14 days; death within 6 days; toxic symptoms: staining of the face and perineal area, weakness, diarrhea, weight loss	fasted 24 hours before dosing; 5 groups of 10; 50 rats used; 16 rats died	99+% pure; Givaudan Corp., Clifton, NJ	Dashiell OL, Kennedy GL Jr. 1984. The effects of fasting on the acute oral toxicity of nine chemicals in the rat. J Appl Toxicol 4(6): 320-325. *E.I. Du Pont de Nemours & Co., Newark, DE*
Lactic acid	3543	3543	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	Farm Chemicals Handbook. (Meister Pub., 37841 Euclid Ave., Willoughy, OH 44094). 1991. **(RTECS REFERENCE)**
Lactic acid	3543	3730	3020 - 4610 (95% probability; +/- 1.96 S.D. slope = 4.04)	probits (Bliss)	Wistar albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube; single doses	concentration in water; largest dose given was 50 g/kg	most deaths occurred in 2 days; all deaths occurred in 14 days	groups of 10 animals; 10 animals per dose	purified commercial grade	Smyth HF Jr, Seaton J, Fischer L. 1941. The single dose toxicity of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 23:259-268. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA*
Lindane	76	76 - 200	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	secondary source; unknown primary source	NA	Special Publication of the Entomological Society of America. (4603 Calvert Rd., College Park, MD 20740). 1978. Kenaga EE, Morgan RW. 1978. Commercial and Experimental Organic Insecticides. 1978 Revision. Special Publication 78-1:1-76. *The Dow Chemical Company, Midland, MI* **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Lindane	76	88	76 - 101 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 8 days; 14 days observation	89 rats tested; not fasted	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99 *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA*
Lindane	76	91	83 - 100 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 200 g; min. age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 7 days; 14 days observation	69 rats tested; not fasted	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99 *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA*
Lindane	76	100	NA	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	CFY strain rats; 120+ g; adult	female	oral	NA	NA	NA	99.5% pure; Budapest Chemical Works	Desi I. 1983. Neurotoxicological investigaton of pesticides in animal experiments. Neurobehav Toxicol 5:503-515. *National Institute of Hygiene, Hungary*
Lindane	76	125	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	hypersensitivity and convulsions	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol. 15:122-133. *U.S. FDA*
Lithium I carbonate	525 553	525	460-598 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method	Wistar rats; 180 g (ave)	female	oral	in solution; 347, 417, 500, 600, 720, 864 mg/kg	7 days observation; deaths/dose (mg/kg): 347-0/10, 417-1/10, 500-3/10, 600-5/10, 720-8/10, 864-10/10; 14 deaths on day 1, 12 deaths on day 2 , 1 death on day 3; all rats at highest dose dead by day 2	Used 10 rats/dose; RTECS reference: in Japanese	reagent grade	Nakasawa M, et al. 1973. Lithium carbonate toxicity tests, rat and mouse acute toxicity. Kiso to Rinsho Clinical Report 7:1273-1277. **(RTECS REFERENCE)**
Lithium I carbonate	525 553	553	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	RTECS reference that provides summary data only. LD50 value is unreferenced and unsupported	reagent grade	Filov VA, Ivin BA, Bandman AL (eds).1993. Harmful Chemical substances. Volume 1: Elements in Groups I-IV of the Periodic Table and their Inorganic Compounds. Ellis Horwood Limited (publisher). First published in Russian asVrednye khimicheskiye veehestra. Neorganicheskiye soyedineniga elementor I-IV grup. VA Filov, ed. Khimiya, St. Petersburg. 1988.
Lithium I carbonate	525 553	590	505-691 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method	Wistar rats; 220 g (ave)	male	oral	in solution; 347, 417, 500, 600, 720, 864 mg/kg	7 d observation; deaths/dose (mg/kg): 347- 0/10, 417- 2/10, 500- 3/10, 600- 5/10, 720 - 8/10, 864- 10/10; most deaths on day 2; 3 deaths on day 1 at highest dose; 3 deaths at lower doses on day 3	Used 10 rats/dose; RTECS reference, in Japanese	reagent grade	Nakasawa M, et al. 1973. Lithium carbonate toxicity tests, rat and mouse acute toxicity. Kiso to Rinsho Clinical Report 7:1273-1277.
Lithium I carbonate	525 553	710	NA	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 200 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period;	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30:470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* (LD50 value). Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Meprobamate	794	486	+/- 24 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 21 days	female	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	794 (outlier)	584 - 1080 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	rats; 117-180 g; adult	female	oral	suspension; 2.3 - 23.2 mg/kg dose levels	hypothermia, prostration, bradypnea, ptosis, sluggish corneal reflex	5 rats per dose level; 20 rats used	NA	Franko BV, Ward JW, Gilbert DL, Woodard G. 1971. Toxicologic studies of glycopyrralate in combination with other drugs. Toxicology and Appled Pharmacology 19:93-102. *Woodard Research Corporation, Herndon, VA* **(RTECS REFERENCE)**
Meprobamate	794	1286	+/- 81 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 100 days	male	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	1290	+/- 104 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 63 days	male	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	1346	+/- 82 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 21 days	male	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	1361	+/- 76 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 100 days	female	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	1410	+/- 83 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	FDRL-strain rats; 63 days	female	oral	NA	observed for 7 days post-treatment	NA	NA	Weinberg MS, Goldhamer RE, Carson S. 1966. Acute oral toxicity of various drugs in newborn rats after treatment of the dam during gestation. Toxic Appl Pharmac 9:234-239. *Food and Drug Research Laboratories, Inc., Maspeth, NY*
Meprobamate	794	1470		Litchfield and Wilcoxon method (1949)	rats; 117-180 g; adult	male	oral	suspension; 2.3 - 23.2 mg/kg dose levels	hypothermia, prostration, bradypnea, ptosis, sluggish corneal reflex	5 rats per dose level; 20 rats used	NA	Franko BV, Ward JW, Gilbert DL, Woodard G. 1971. Toxicologic studies of glycopyrralate in combination with other drugs. Toxicology and Appled Pharmacology 19:93-102. *Woodard Research Corporation, Herndon, VA*
Meprobamate	794	1522	+/- 16 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Charles River CD and Sprague-Dawley strains; > 100 g; adult	NA	oral intubation	up to 50 mL/kg	rats observed for 7 days; observed up to 14 days when heavy metals or other compounds that produce latent death were investigated	fasted overnight	NA	Yeary RA, Benish RA, Finkelstein M. 1966. Acute Toxicity of Drugs in Newborn Animals. Journal of Pediatrics 69 (4):663-667. *Dept. of Veterinary Preventive Medicine, Ohio State University, Columbus, OH*
Mercury II chloride	1	1 - 5	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	lists LD50 range as 1 - 5 mg/kg	NA	Pesticide Manual. (The British Crop Protection Council, 20 Bridport Rd., Thornton Heath CR4 7QG, UK) V.1- 1968. 1991. **(RTECS REFERENCE)**
Mercury II chloride	1	12	9 - 17 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats; 190-300 g	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: motor activity decrease, respiratory effects, tremors, blanching, piloerection, diarrhea, chouromodacryorrhoea; time to onset of signs < 1day; duration of signs 11 days; animals fasted 16 -20 hours before administration	UDP Test	NA	Yam J, Reer PJ, Bruce RD. 1991. Comparison of the up-and-down method and the fixed-dose procedure for acute oral toxicity testing. Food Chem Toxicol 29(4):259-264. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Mercury II chloride	1	24	17.9 - 32.2	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 10.6, 13.8, 17.9, 23.3, 30.3, 39.7	observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1-2 weeks; most dead within 3 days; 25/60 died; toxic symptoms: piloerection, drooling, hypothermia, abdominal posture, tremor, and diarrhea; dose (mg/kg), dead rats per dose: 10.6-0/10; 13.8-1/10; 17.9-1/10; 23.3-4/10; 30.3-9/10; 39.7-10/10	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 6 groups of10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% lethal dose = 39.7 mg/kg; 0% lethal dose = 10.6 mg/kg	Kishida Chemical Co., Ltd.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diospropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Mercury II chloride	1	32	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	10, 15, 25, 40, 60, 100 mg/kg	15 mg/kg: 0/3 dead; 25mg/kg: 0/3 dead; 40 mg/kg: 3/3 dead; 60 mg/kg: 3/3 dead; 6/12 rats dead; LD50 from 12 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose soft-ware; Lorke used data from 10 and 100 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 32 mg/kg	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose; range finder: 10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 3/3 dead; 1000 mg/kg - 3/3 dead; 9 rats in range finder	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Mercury II chloride	1	39	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	10, 15, 25, 40, 60, 100 mg/kg	15 mg/kg: 1/11 dead; 25mg/kg: 1/11 dead; 40 mg/kg: 7/11 dead; 60 mg/kg: 10/11 dead; 19/44 rats dead; LD50 from 44 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 10 and 100 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; Orginial LD50 from Lorke = 37 mg/kg; this value based on accumulated data from 4 different test groups	acclimated for five days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose; range finder showed: 10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 3/3 dead; 1000 mg/kg - 3/3 dead; 9 rats in range finder	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Mercury II chloride	1	40	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	10, 15, 25, 40, 60, 100 mg/kg	15 mg/kg: 1/5 dead; 25mg/kg: 1/5 dead; 40 mg/kg: 3/5 dead; 60 mg/kg: 5/5 dead; 10/20 rats dead; LD50 based on 20 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 10 and 100 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 32 mg/kg	acclimated for five days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose; range finder showed: 10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 3/3 dead; 1000 mg/kg - 3/3 dead; 9 rats in range finder	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Mercury II chloride	1	49	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	10, 15, 25, 40, 60, 100 mg/kg	15 mg/kg: 0/1 dead; 25mg/kg: 0/1 dead; 40 mg/kg: 0/1 dead; 60 mg/kg: 1/1 dead; 1/4 rats dead; LD50 from 4 rats used; T306	acclimated for five days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose; range finder showed: 10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 3/3 dead; 1000 mg/kg - 3/3 dead; 9 rats in range finder	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Mercury II chloride	1	50	40 - 63	Thompson and Weil; 1952; method of moving averages	albino rats; 18 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic, T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-8. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Mercury II chloride	1	50	43 - 59	Thompson and Weil; 1952; method of moving averages	albino rats; 54 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic, T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Mercury II chloride	1	51	39 - 66 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, prostrate coma, salivation; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 5 days	3 dose levels (5 male each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures; 8 rats dead (average per test)	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Mercury II chloride	1	52	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	10, 15, 25, 40, 60, 100 mg/kg	15 mg/kg: 0/2 dead; 25mg/kg: 0/2 dead; 40 mg/kg: 1/2 dead; 60 mg/kg: 1/2 dead; 2/8 rats dead; LD50 based on 8 rats used; LD50 recalculated using US EPA Benchmark Dose software; Lorke used data from 10 and 100 mg/kg in range finder for all animal groups; omitted this data in recalculation; orginial LD50 from Lorke = 50 mg/kg	acclimated for five days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose; range finder showed: 10 mg/kg - 0/3 dead; 100 mg/kg - 3/3 dead; 1000 mg/kg - 3/3 dead; 9 rats in range finder	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Mercury II chloride	1	92	77 - 108	Thompson and Weil; 1952; method of moving averages	albino rats; 6 weeks	female	oral; stomach tube	1 mL/200 g bw; 6 dose levels in each group	observed after 8 days after single oral administration	6 dose levels per group, 6 rats per group; 36 rats used	NA	Kostial K, Kello D, Jugo S, Rabar I, Maljkovic, T. 1978. Influence of age on metal metabolism and toxicity. Environ Health Perspect 25:81-86. *Yugoslav Academy of Sciences and Art, Zagreb, Yugoslavia*
Mercury II chloride	1	160 (outlier)	119 - 235 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, prostrate coma, salivation; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 5 days	3 dose levels (5 female each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures; 8 rats dead (average per test)	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Methanol	5628	5628	4613 - 6866	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Russian; was also cited in 1983/84 RTECS but value was different from that used by RC and reference was not provided by ZEBET	NA	Lazinov AG, Broitman AT. 1975. On the combined action of 2, 6-dimethylphenol and methanol. Gigiena Truda i Professional'nye Zabolevaniya 19(11):27-30. **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Methanol	5628	5890 (7.4 mL/kg; used density of 0.796 to convert to mg/kg)	4776 - 7244 (95% CL; 6.0 - 9.1 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 16-50 g; 14 days	male and female	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; 6-12 rats of both sexes used for studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Methanol	5628	7005 (8.8 mL/kg; used density of 0.796 to convert to mg/kg)	5731 - 8597 (95% CL; 7.2 - 10.8 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 300-470 g; older adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Methanol	5628	7400	NA	NA	rats; 150-250 g; 70- 100 days	male (predominately)	oral	NA	observed for 6 days	18 hour fasting before dosing	NA	Welch, H, Slocum GG. 1943. Relation of length of carbon chain to the primary and functional toxicities of alcohols. J Lab Chem Med 28:1440-1445. *U.S. FDA, Washington, D.C.*
Methanol	5628	10348 (13.0 mL/kg; used density of 0.796 to convert to mg/kg)	9472 - 11303 (95% CL; 11.9 - 14.2 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method and probit analysis	Sprague-Dawley rats; 80-160 g; young adult	male	oral	solvent used in undiluted form	animals observed for a week after medication	nonfasted rats; groups of 6 rats used for the studies; solvent used in undiluted form	analytical grade meeting A.C.S. specifications	Kimura ET, Ebert DM, Dodge PW. 1971. Acute toxicity and limits of solvent residue for sixteen organic solvents. Toxicol Appl Pharmacol 19:699-704. *Abbott Laboratories, Chicago, IL*
Methanol	5628	12086 - A 11303 - B (A = 15.28 mL/kg; B = 14.29 mL/kg; used density of 0.791 for conversion to mg/kg)	NA	A= Behrens (1929) B = Bliss (1938)	rats	NA	oral	NA	NA	40 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a compound. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378 *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Methanol	5628	12880	11440 - 14460 (95% probability; +/- 1.96 S.D. slope = 8.53)	probits (Bliss)	Wistar albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube; single doses	50% concentration in water; largest dose given was 50 g/kg	most deaths occurred in 2 days; all deaths occurred in 14 days	groups of 10 animals; 10 animals per dose	purified commercial grade	Smyth HF Jr, Seaton J, Fischer, L. 1941. The single dose toxicity of some glycols and derivatives. J Ind Hyg Toxicol 23:259-268. *Mellon Institute, Pittsburgh, PA* (This was the value used by the RC [from 1977 RTECS]).
Nicotine	50	50 - 60	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference is secondary; assumed to be values from Lehman (1951)	NA	Farm Chemicals Handbook. (Meister Pub., 37841 Euclid Ave., Willoughy, OH 44094). 1991. **(RTECS REFERENCE)**
Nicotine	50	50 - 60	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	clonic convulsions; onset within minutes; paralysis of respiratory muscles and death	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Nicotine	50	68	41 -129 (95% CL; slope = 3.0 [S.E. 0.8])	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: Ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, tremors, convulsions, prostrate coma; time to onset of signs < 1day; duration of signs 3 days; 13 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Nicotine	50	70	49 - 109 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male and female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: Ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, tremors, convulsions, prostrate coma; time to onset of signs < 1day; duration of signs 3 days; 13 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male each and 5 female); 30 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Nicotine	50	70	51 - 96 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats; 190-300 g	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: motor activity decrease, respiratory effects, tremors, blanching, piloerection, ataxia, convulsions, extension of the limbs; time to onset of signs < 1day; duration of signs 5 days; animals fasted 16 -20 hours before administration	UDP Test	NA	Yam J, Reer PJ, Bruce RD. 1991. Comparison of the up-and-down method and the fixed-dose procedure for acute oral toxicity testing. Food Chem Toxicol 29(4):259-264. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Nicotine	50	71	42 - 128 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: Ptosis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait, tremors, convulsions, prostrate coma; time to onset of signs < 1day; duration of signs 3 days; 13 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 female each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Paraquat	57	57	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	*Residue Reviews. (Springer-Verlag New York, Inc., Service Center, 44 Hartz Way, Secaucus, NJ 07094) V.1- 1962. 1965.* Bailey GW, White JL. 1965. Herbicides: a compilation of their physical, chemical, and biological properties. Journal paper no. 2413. Purdue University Agricultural Experiment Station. Residue Reviews 10:7-122. **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Paraquat	57	95	79-114 (95 % CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Wistar rats; 292 +/- 13 g	male	oral intubation	single dose	observe several times daily and at least once on weekends for 30 days; most of the rats that died did so within 5 days of administration; weight loss, diarrhea, piloerection and red drainage around mouth, eyes, and nose	used 29 paraquat-dichloride	Ortho Chemical Co.	Sharp CW, Ottolenghi A, Posner HS. 1972. Correlation of paraquat toxicity woth tissue concentrations and weight loss of the rat. Toxicology and Appied Pharmacology 22:241-251. *NIEHS, RTP, NC USA*
Paraquat	57	100	85 - 117 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 14 days	50 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Paraquat	57	110	90 - 134 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 200 g; min. age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 13 days	50 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Paraquat	57	112 (paraquat ion)	104-122 (95% CL)	Thompson (1947); moving average interpolation method	rats; 130-160 g	male and female	oral; in food	single dose; mixed salt of paraquat in food with 20% malt extract and fed to rats	fasted overnight; observed up to 12 days	6 rats per group	99.9% pure paraquat dichloride	Clark DG, McElligott TF, Hurst EW. 1966. The toxicity of paraquat. Br J Ind Med 23:126-132. *Imperial Chemical Industries Limited, Cheshire, UK*
Paraquat	57	115	90-150 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sprague Dawley rat; 290 +/- 37 g	male	oral intubation	single dose	observe several times daily and at least once on weekends for 30 days; most of the rats that died did so within 5 days of administration; weight loss, diarrhea, piloerection and red drainage around mouth, eyes, and nose	used 29 paraquat-dichloride	Ortho Chemical Co.	Sharp CW, Ottolenghi A, Posner HS. 1972. Correlation of paraquat toxicity woth tissue concentrations and weight loss of the rat. Toxicology and Appied Pharmacology 22:241-251. *NIEHS, RTP, NC USA*
Paraquat	57	141 (paraquat ion)	140-142 (95% CL)	Thompson (1947); moving average interpolation method	rats; 130-160 g	male and female	oral; in food	single dose; mixed salt of paraquat in food with 20% malt extract and fed to rats	fasted overnight; observed up to 12 days	6 rats per group	99.9% pure paraquat dimetho-sulfate	Clark DG, McElligott TF, Hurst EW. 1966. The toxicity of paraquat. Br J Ind Med 23:126-132. *Imperial Chemical Industries Limited, Cheshire, UK*
Paraquat	57	150 (paraquat ion)	139-162 (95% CL)	Thompson (1947); moving average interpolation method	rats; 150-205 g	male and female	oral; in food	single dose; mixed salt of paraquat in food with 20% malt extract and fed to rats	fasted overnight; observed up to 12 days	10 rats per group	99.9% pure paraquat dichloride	Clark DG, McElligott TF, Hurst EW. 1966. The toxicity of paraquat. Br J Ind Med 23:126-132. *Imperial Chemical Industries Limited, Cheshire, UK*
Parathion	2	1.8 (actual value)	1.26 - 2.57 (95% CL; slope = 1.5 [1.0 - 2.25 95% CL])	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Osborne-Mendel (?) rats	female	oral	5 dose levels; constant vol. dose of solvent of 5 mL/kg; single dose; aqueous solution (sodium carboxymethyl-cellulose, 0.5%; NaCl, 0.9%; benzyl alcohol, 0.2% v/v; Tween 80, 0.4%)	observed for 24 hours; deaths infrequent after 24 hour; onset of anticholinesterase poisoning syptoms slower with corn oil than DMSO or aqueous	fasted for 20 hours	NA	Weis LR, Orzel RA. 1967. Some comparative toxicologic and pharmacologic effects of dimethyl sulfoxide as a pesticide solvent. Toxicology and Applied Pharmacology 11:546-557. *U.S. FDA, Washington, D.C.* **(RTECS REFERENCE)**
Parathion	2	2.1	1.72 - 2.56 (95% CL; slope = 1.25 [1.01 - 1.55 95% CL])	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Osborne-Mendel (?) rats	female	oral	5 dose levels; constant vol. dose of solvent of 5 mL/kg; single dose; cmpd dissolved in DMSO (industrial grade, 99% pure)	observed for 24 hours; deaths infrequent after 24 hour; onset of anticholinesterase poisoning syptoms slower with corn oil than DMSO or aqueous	fasted for 20 hours	NA	Weis LR, Orzel RA. 1967. Some comparative toxicologic and pharmacologic effects of dimethyl sulfoxide as a pesticide solvent. Toxicology and Applied Pharmacology 11:546-557. *U.S. FDA, Washington, D.C.*
Parathion	2	3	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	generalized fibrillary tremors, salivation, lacrimation, diarrhea, and convulsions; onset within 1 hour	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals; LD50 value is from research by Frawley et al. 1952	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Parathion	2	3	+/- 0.25 (S.E.)	Litchfield and Fertig (1941)	Osborne-Mendel strain rats; 180-200 g	female	oral; stomach tube	cmpd in corn oil	toxicity symptoms: muscle fibrillation, red colored lacrimation, diarrhea, dyspnea, convulsions; respiratory paralysis, anoxia, terminal convulsion	rats fasted for 24 hours; LD50 value was used in Lehman 1951	NA	Frawley JP, Hagan EC, Fitzhugh OG. 1952. A comparative pharmacological and toxicological study of organic phosphate-anticholinesterase compounnds. J Pharmacol Exp Ther 152:156-165. *U.S. FDA, Washington, D.C.*
Parathion	2	3.6	3.2 - 4.0 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 200 g; min. age of 90 days	female	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 3 days	70 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA* Mattson AM, Spillane JT, Pearce GW. 1955. Dimethyl 2,2-dichlorvinyl phosphate (DDVP), an organic phosphorous compound highly toxic to insects. J Agr Food Chem 3:319-321. *Communicable Disease Center, Savannah, GA*
Parathion	2	3.6	3.2 - 4.0 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sherman albino rats	female	oral; stomach tube	NA	NA	LD50 value from research in Gaines 1960	NA	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Parathion	2	4.7	3.98 - 5.55 (95% CL; slope = 1.21 [0.98 - 1.50 95% CL])	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Osborne-Mendel (?) rats	female	oral	5 dose levels; constant vol. dose of solvent of 5 mL/kg; single dose; cmpd dissolved in corn oil mixture (90% corn oil, 10% N, N-dimethyl formamide)	observed for 24 hours; deaths infrequent after 24 hour; onset of anticholinesterase poisoning syptoms slower with corn oil than DMSO or aqueous	fasted for 20 hours	NA	Weis LR, Orzel RA. 1967. Some comparative toxicologic and pharmacologic effects of dimethyl sulfoxide as a pesticide solvent. Toxicology and Applied Pharmacology 11:546-557. *U.S. FDA, Washington, D.C.*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Parathion	2	6	4.6 - 7.8 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	CD (COBS) rats Charles River, France; 120-200 g	female	oral gavage	cmpd dissolved in 1 mL methylene chloride; emulsified in 10% arabic gum solution with Tween 80; dose 5 mL/kg	LD50 determined after 10 days of observation	5 dose levels; 10 female per dose; 50 rats used	95+% pure	Pasquet J, Mazuret A, et al. 1976. Acute oral and percutaneous toxicity of phosalone in the rat, in comparison with azinphosmethyl and parathion. Toxicol Appl Pharmacol 37(1):85-92. *Rhone-Poulenc, France*
Parathion	2	10	8 - 13 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	CD (COBS) rats Charles River, France; 120-200 g	male and female	oral gavage	cmpds dissolved in 1 mL methylene chloride and emulsified in 10% arabic gum solution with Tween 80; dose 5mL/kg	LD50 determined after 10 days of observation	5 dose levels; 10 male and 10 female per dose; 100 rats used	95+% pure	Pasquet J, Mazuret A, et al. 1976. Acute oral and percutaneous toxicity of phosalone in the rat, in comparison with azinphosmethyl and parathion. Toxicol Appl Pharmacol 37(1):85-92. *Rhone-Poulenc, France*
Parathion	2	13	10 - 17 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival 3 days	50 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1960. The acute toxicity of pesticides to rats. Toxicol Appl Pharmacol 2:88-99. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Savannah, GA* Mattson AM, Spillane JT, Pearce GW. 1955. Dimethyl 2,2-dichlorvinyl phosphate (DDVP), an organic phosphorous compound highly toxic to insects. J Agr Food Chem 3:319-321. *Communicable Disease Center, Savannah, GA*
Parathion	2	15	10.2 - 16.5 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sherman albino rats	male	oral; stomach tube	NA	NA	LD50 value from research in Gaines 1960	NA	Durham WF, Gaines TB, McCauley RH, Sedlak VA, Mattson MA, Hayes WJ. 1957. Studies on the toxicity of 0,0-dimethyl-2,2-dichlorovinyl phosphate (DDVP). AMA Arch Ind Health 15:340-349. *U.S. Dept. of Health, Education and Welfare, Savannah, GA*
Parathion	2	16	13 - 20 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	CD (COBS) rats Charles River, France; 120-200 g	male	oral gavage	cmpds dissolved in 1 mL methylene chloride and emulsified in 10% arabic gum solution with Tween 80; dose 5 mL/kg	LD50 determined after 10 days of observation	5 dose levels; 10 male per dose; 50 rats used	95+% pure	Pasquet J, Mazuret A, et al. 1976. Acute oral and percutaneous toxicity of phosalone in the rat, in comparison with azinphosmethyl and parathion. Toxicol Appl Pharmacol 37(1):85-92. *Rhone-Poulenc, France*
Parathion	2	30	+/- 3.6 (S.E.)	Litchfield and Fertig (1941)	Osborne-Mendel strain rats; 180 - 200 g	male	oral; stomach tube	cmpd in corn oil	toxicity symptoms: muscle fibrillation, red colored lacrimation, diarrhea, dyspnea, convulsions; respiratory paralysis, anoxia, terminal convulsion	rats fasted for 24 hours;	NA	Frawley JP, Hagan EC, Fitzhugh OG. 1952. A comparative pharmacological and toxicological study of organic phosphate-anticholinesterase compounnds. J Pharmacol Exp Ther 152:156-165. *U.S. FDA, Washington, D.C.*
Phenobarbital	162	162	+/- 14	NA	Wistar rats; adult	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.* **(RTECS REFERENCE)**
Phenobarbital	162	220	NA	NA	MJ rats; 80 - 100 days	NA	oral	NA	NA	information from: drug applications from pharmaceutical manufacturers, the literature, and FDA labs	NA	Goldenthal EI. 1971. A compilation of LD50 values in newborn and adult animals. Toxicology and Applied Pharamacology 18:185-207. *Bureau of Drugs, Food and Drug Administration, Dept. of Health, Education, and Welfare, Rockville, MD.*
Phenobarbital	162	318	+/- 23 (S.E.)	Miller and Tainter (1944)	Charles River CD and Sprague-Dawley rat strains; > 100 g; adult	NA	oral intubation; up to 50 mL/kg	NA	rats observed for 7 days; observed up to 14 days when heavy metals or other cmpds that produce latent death were investigated	fasted overnight	NA	Yeary RA, Benish RA, Finkelstein M. 1966. Acute Toxicity of Drugs in Newborn Animals. Journal of Pediatrics 69 (4):663-667. *Dept. of Veterinary Preventive Medicine, Ohio State University, Columbus, OH*
Phenol	317	317 (0.30 cc/kg of drug lethal to 50% of rats; density = 1.055)	NA	graphically	white rats	NA	oral; stomach tube	5% ethylene glycol added to phenol to liquify it so that it would pass through the stomach tube	most rats died within 2 - 6 hour; practically all dead within 8 - 12 hour; convulsions began several minutes after dosing and continued for several hours	NA	NA	*Gigiena i Sanitariya. (V/O Mezhdunarodnaya Kniga, 113095 Moscow, USSR) V.1- 1936. 1976.*---- Brown HW, Lamson PD. 1935. Oral Toxicity of Ortho-n-alkylphenols to White Rats. Proc Soc Exp Biol Med 32:592-594. **(RTECS REFERENCE)**
Phenol	317	340	NA	NA	Wistar rats; 100- 200 g	male and female	oral	20% aqueous emulsion 0.3, 0.4, 0.5 g/kg doses	45 rats used; 30 dead; death within 1 hour; twitching, weak pulse and respiration, salivation, dyspnea	45 rats used (equal numbers of male and female used)	Merck reagent quality	Deichmann WB, Witherup S. 1944. Phenol Studies VI: the acute and comparative toxicity of phenol and o-, m-, and p-cresols for experimental animals. J of Pharmacol and Exp Therapeutics 80:233-240. *College of Medicine, University of Cincinnati, Cincinnati, OH.*
Phenol	317	400	297 - 539 (95% CL)	Dixon (1965) and Bruce (1985)	Fischer 344 rats; 77 days old at test	female	oral gavage	in deionized water; maximum volume dose 10mL/kg; 5 dose levels: 0, 12, 40, 120, 224 mg/kg; single dose	7 day survival time	fasted overnight; initial dose levels were 100, 1000, and 5000 mg/kg; subsequent doses selected by up-and-down method (Bruce, 1985, 1987); 5 groups of 8 rats each; 40 rats used; 7 15 rats used in first LD50 estimate	analytical grad_; 99+% pure; Aldrich Chemical Co.	Berman E, Schlicht M, Moser VC, MacPhail RC. 1995. A multidisciplinary approach to toxicological screening: I. Systemic toxicity. J Toxicol Environ Health 45(2): 127-43. *Health Effects Res. Lab., U.S.EPA, Research Triangle Park, NC*
Phenol	317	445	NA	Probit method	Sprague-Dawley rats; 190-200 g	female	oral	geometric progression of 14 for dosing; in water or neat	9 dead; observed for 14 days	non-fasted; 4 groups of 5 female; 20 rats used	Polysciences, Inc. Warrington, PA	Thompson ED, Gibson DP. 1984. A method for determining the maximum tolerated dose for acute in vivo cytogenetic studies. Food Chem Toxicol 22(8):665-76. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Phenol	317	512	455 - 568	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Phenol	317	520	NA	Probit method	Sprague-Dawley rats; 190-200 g	male	oral	geometric progression of 14 for dosing; in water or neat	10 dead; observed for 14 days	non-fasted; 3 groups of 5 male; 1 group of 10 male; 25 rats used	Polysciences, Inc. Warrington, PA	Thompson ED, Gibson DP. 1984. A method for determining the maximum tolerated dose for acute in vivo cytogenetic studies. Food Chem Toxicol 22(8):665-76. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Phenol	317	530	NA	NA	Wistar rats; 100- 200 g	male and female	oral	2% aqueous solution; 0.4, 0.5, 0.6, 0.7, 0.8 g/kg doses	45 rats used; 32 dead; death within 3 hours; twitching, weak pulse and respiration, salivation, dyspnea	45 rats used (equal numbers of male and female used)	Merck reagent quality	Deichmann WB, Witherup S. 1944. Phenol Studies VI: the acute and comparative toxicity of phenol and o-, m-, and p-cresols for experimental animals. J of Pharmacol and Exp Therapeutics 80:233-240. *College of Medicine, University of Cincinnati, Cincinnati, OH.*
Phenol	317	530	NA	NA	Wistar rats; 100- 200 g	male and female	oral	5% aqueous solution; 0.4, 0.5, 0.6, 0.7 g/kg doses	45 rats used; 27 dead; death within 80 minutes twitching, weak pulse and respiration, salivation, dyspnea	45 rats used (equal numbers of male and female used)	Merck reagent quality	Deichmann WB, Witherup S. 1944. Phenol Studies VI: the acute and comparative toxicity of phenol and o-, m-, and p-cresols for experimental animals. J of Pharmacol and Exp Therapeutics 80:233-240. *College of Medicine, University of Cincinnati, Cincinnati, OH.*
Phenol	317	540	NA	NA	Wistar rats; 100- 200 g	male and female	oral	10% aqueous emulsion 0.5, 0.6, 0.7, 0.8 g/kg doses	40 rats used; 28 dead; death within 120 minutes; twitching, weak pulse and respiration, salivation, dyspnea	40 rats used (equal numbers of male and female used)	Merck reagent quality	Deichmann WB, Witherup S. 1944. Phenol Studies VI: the acute and comparative toxicity of phenol and o-, m-, and p-cresols for experimental animals. J of Pharmacol and Exp Therapeutics 80:233-240. *College of Medicine, University of Cincinnati, Cincinnati, OH.*
Phenol	317	550 - A 530 - B	NA	A= Behrens (1929) B = Bliss (1938)	rats	NA	oral	2% aqueous solution	NA	41 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a cmpd. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378. *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Phenol	317	580 - A 540 - B	NA	A= Behrens (1929) B = Bliss (1938)	rats	NA	oral	10% aqueous solution	NA	42 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a compound. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378. *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Phenol	317	550 - 650	NA	NA	Normal albino rats	male and female	oral	single doses in mg/kg: 400, 450, 500, 550, 600, 650, 700; phenol as 5% aqueous solution	dose (mg/kg), percent mortality, minutes till death: 400, 10%, 20; 450, 20%, 10 to 80; 500, 30%, 10 to 30; 500, 30%, 10 to 30; 550, 50%, 5 to 90; 600, 60%, 3 to 8; 650, 60%, 4 to 60; 700, 90%, 4 to 50; 500 mg/kg repeated in reference paper	rats divided into 5 test groups and 1 control; 10 rats per group; 80 rats used	NA	Deichmann W, Oesper P. 1940. Ingestion of phenol: effects on the albino rat. Industr Med 9:296-298.
Phenol	317	650	490 - 860 (95% CL)	NA	albino rats	male	oral; stomach intubation	4 doses: 200, 398, 795, 1580 mg/kg; single dose	observed for 14 days; 9 of 20 rats dead; dose (mg/kg), rats dead: 200 - 0/5; 398 - 0/5; 795 - 4/5 (dead within 1 day after dosing); 1580 - 5/5 (dead < 2 hour after dosing)	4 groups of 5 rats; 20 rats used; test procedures outlined in the Federal Hazardous Substances Act (FSHA) in the Federeal Register 8/12/61, pages 7333-7341, entitled "Part 191 - Hazardous Sub-stances: Definitions and Procedural and Interpretive Regulations, Final Order"	Fisher Scientific Co.	Flickinger CW. 1976. The benzenediols: catechol, resorcinol and hydroquinone -- a review of the industrial toxicoloogy and current industrial exposure limits. Am Ind Hyg Assoc J 37:596-606. *Koppers Company, Inc., Monroeville, PA*
Phenol	317	1030	940 - 1120	NA	albino rats; 90-120 g	male	oral; stomach tube	5% phenol solution in water; single dose	observed for 14 days; 10 rats dead	non-fasted; 4 groups of 10 rats	rwagent grade	from EPA TSCATS database; Acute Toxicity of Phenol (1949), EPA Document No. 86-870001405 Fiche No. OTS0515567 *Mellon Institute of Industrial research, Univ. of Pittsburgh, Pittsburgh, PA*
Phenol	317	1460 - A 1500 - B	NA	A= Behrens (1929) B = Bliss (1938)	rats	NA	oral	10% solution in olive oil	NA	40 - 90 animals used; NICEATM used value B since authors stated it was more accurate	NA	Deichmann WB, Mergard EG. 1948. Comparative evaluation of methods employed to express the degree of toxicity of a cmpd. J Ind Hyg Toxicol 30:373-378. *Albany Medical College, Albany, NY; University of Cincinnati, Cincinnati, OH*
Phenylthiourea	3	3.1	NA	NA	rats		oral	NA	NA	value cited from unknown reference	NA	Scheline RR, Smith RL, Williams RT. 1961. The metabolism of arylthioureas -- II. The metabolism of ^{14}C- and ^{35}S-labelled 1-phenyl-2-thiourea and its derivatives. Journal of Medicinal and Pharmaceutical Chemistry 4(1):109-134. *University of London, UK* **(RTECS REFERENCE)**
Phenylthiourea	3	< 21.5	NA	NA	Fischer rats; 6 weeks	male and female	oral intubation	NA	observed up to 14 days	NA	NA	Carcinogenesis bioassay of environmental chemicals annual progress report NIH-NCI-E-C-72-3252. 5/13/71 -- 8/6/73 and Final report NIH-NCI-E-71-2146. Submitted to The National Cancer Institute, National Institutes of Health, Bethesda, MD. 8/15/73 (revised 8/10/73). *Litton Bionetics, Inc. Bethesda, MD.*
Physostigmine (Eserine)	4.5	4.5	NA	NA	rat	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Alisi MA, Brufani M, Cesta MC, Filocamo L, Gostoli G, Lappa S, et al. 1994. U.S. Patent 5,302,593. Aminoalkylcarbamic esters of eseroline suitable for use as cholinesterase activity inhibitors (April 12, 1994). **(RTECS REFERENCE)**
Potassium I chloride	2600	2600	2330 - 2900	Bliss method	Wistar rats; 110- 140 g	male	oral gavage	approximately 5 doses; in water or oil solution	14 day observation period;	reference in Czechoslovakian; intro to reference in English; generally 10 animals per dose; up to 50 rats used	NA	Sbornik Vysledku Toxixologickeho Vysetreni Latek A Pripravku. Marhold, J.V., Institut Pro Vychovu Vedoucicn Pracovniku Chemickeho Prumyclu Praha, Czechoslovakia, 1972. **(RTECS REFERENCE)**
Potassium I chloride	2600	3020	+/- 140 (S.E.)	Croxton (1953) Least squares linear regression.	Wistar albino rats; adult	female	oral; stomach tube	in distilled water: 0, 2.1, 2.4, 2.7, 3.3, 3.6, and 3.9 g/kg bw doses; volume of 20 mL/kg bw	respiratory failure, convulsions, gastroenteritis, anorexia, polydipsia, polyurea, fever; 14 day observation; death occurred in about half the rats	109 female rats used; fasted for 16 hours	NA	Boyd EM, Shanas MN. 1961. The Acute Oral Toxicity of Potassium Chloride. Arch Int Pharmacodyn 133.275. *Queen's University, Kingston, Ontario, Canada*
Potassium cyanide	5	5	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/11 dead; 4 mg/kg:2/11 dead; 9 mg/kg:10/11 dead; 14 mg/kg:11/11 dead; 23 of 44 rats dead; LD50 based on groups containing 3 and 5 rats	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany* **(RTECS REFERENCE)**

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Potassium cyanide	5	5	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/3 dead; 4 mg/kg: 1/3 dead; 9 mg/kg: 3/3 dead; 14 mg/kg: 3/3 dead; 7 of 12 rats dead; LD50 based on 12 rats used; used same rats as experiments using 44 or 20 rats	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Potassium cyanide	5	5	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/5 dead; 4 mg/kg: 1/5 dead; 9 mg/kg: 5/5 dead; 14 mg/kg: 5/5 dead; 11 of 20 rats dead; LD50 based on 20 rats used	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Potassium cyanide	5	6	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/1 dead; 4 mg/kg: 0/1 dead; 9 mg/kg:1/1 dead; 14 mg/kg:1/1 dead; 2 of 4 rats dead; LD50 based on 4 rats used; used same rats as experiments using 44 rats	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Potassium cyanide	5	6	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/11 dead; 4 mg/kg:2/11 dead; 9 mg/kg:10/11 dead; 14 mg/kg:11/11 dead; 23 of 44 rats dead; LD50 based on all rats used (44); summary data from four tests; Test 1 = 4 rats; test 2 = 8 rats; test 3 = 12 rats; test 4 = 20 rats	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Potassium cyanide	5	7.26	6.50 - 8.09	Bliss-Probit method	Sprague-Dawley rats; 5 weeks	male	oral gavage	dissolved in saline; range (mg/kg) of doses 4.9, 5.8, 7.0, 8.4, 10.1, 12.1	rats observed at 6 hours after dosing and a once a day for 1-2 weeks; most dead within 3 days; 33/60 rats died; toxic symptoms: decrease in spontaneous movement, abdominal posture, apsychia and hyperventilation within seconds or minutes of all rats dosed with 84 mg/kg or greater; in all dead rats, convulsion due to asphyxia; dose (mg/kg), dead rats per dose: 49-0/10; 58-3/10; 70-5/10; 84-7/10; 101-8/10; 121-10/10	animals acclimated to environment for 1 week before testing; 6 groups of 10 rats each; fasted 16 hours before dosing; 100% mortality = 12.1 mg/kg; 0% mortality = 4.9 mg/kg	Wako Pure Chemicals Co.	Kitagawa H, Saito H, Sugimoto T, Yanaura S, Kitagawa H, Hosokawa T, Sakamoto K. 1982. Effects of diospropyl-1,3-dithiol-2-ylidene malonate (NKK-105) on acute toxicity of various drugs and heavy metals. J Toxicol Sci 7(2):123-34. *Chiba University; Hoshi College of Pharmacy; Showa University -- Japan*
Potassium cyanide	5	9	NA	Rosiello (1979) and Bliss (1938)	rats	male	oral	2, 4, 9, 14 mg/kg	2 mg/kg: 0/2 dead; 4 mg/kg: 0/2 dead; 9 mg/kg: 1/2 dead; 14 mg/kg: 2/2 dead; 3 of 8 rats dead; LD50 based on 8 rats used	acclimated for 5 days; observed for 14 days; 4 groups used for each dose (1, 2, 3, 5 animals per group; total of 11 rats per dose); 9 rats used for initial range finding	NA	Lorke D. 1983. A new approach to practical acute toxicity testing. Arch Toxicol 54(4):275-288. *Institut fur Toxikologie, Wuppertal, Federal Republic of Germany*
Potassium cyanide	5	10	8.7 - 11.5 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sherman strain rats; min. wt. = 175 g; min. age of 90 days	male	oral; stomach tube	chemical in peanut oil; 0.005 mL/g of bw	observed hourly on first day of dosage and twice a day thereafter until time of death; max survival = died within 1 hour	50 rats tested	technical grade	Gaines TB. 1969. Acute toxicity of pesticides. Toxicol Appl Pharmacol 14(3):515-34. *U.S. Dept. of Health, Education, and Welfare, Atlanta, GA*
Potassium cyanide	5	10	9 - 12 (95% CL; slope = 14.5)	Finney (1971)	Crl: CD rats; ave bw = 243-251 g; young adult	male	oral; intragastric intubation	single dose as suspension in corn oil (0.1% susp.); 5, 8, 10, 15 mg/kg dose; dose = 126-377 mL	observed for 14 days; 16 rats dead; all deaths occurred within 1 hour; convulsions, tremors, fascilations, gasping, lethargy, weakness, hyperemia, weight loss	4 groups of 10 rats	NA	from EPA TSCATS database; INITIAL SUBMISSION: ORAL LD50 TEST OF POTASSIUM CYANIDE IN RATS WITH COVER LETTER DATED 08/10/92; EPA Document No. 88-920009041 Fiche No. OTS0555358; *E.I Dupont DeNemours & Co., Inc./Haskell Labs*
Procainamide	1950	1950	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	no source given for LD50 value	NA	Protiva M, Valenta V, Trcka V, Hladovec J, Nemec J. 1977. Basic amided of 3,4,5-trimethoxyphenoxyacetic acid; synthesis and phaarmacology of trimethoxamide and analogues. Collection of Czechoslovak Chemical Communications 42:3628-3642. *Research Institute for Pharmacy and Biochemistry, Prague, Czechoslovakia* **(RTECS REFERENCE)**
Procainamide	1950	> 2000	NA	Litchfield and Wilcoxon method or Thompson method	Wistar rats	male	oral	single dose	NA	20 rats used	NA	Turba C, Sanna GP, Bianchi C. 1968. 1: Acute toxicity and general pharmacologic properties of 1,5-dimorpholino-3-(1-naphthyl)-pentane: DA 1686. Arzneimittelforschung Sep. 18(9):1127-1132. *LABORATORI RICERCHE ISTITUTO DE ANGLELI, MILANO, ITALY*
Propranolol HCl	466	466	NA	Litchfield and Wilcoxon method	Sprague-Dawley rats; 2 months	male	gastric intubation; single high oral doses	NA	determined at 10 days by administering po to groups of 5 animals for each dose a series of doses increasing serially by a factor of 2	fasted 12 hour before dosing	pharmaceu-tical grade	Maura A, Carlo P, et al. 1985. Absence of DNA damage in mice and rats given high doses of five beta adrenergic blocking agents. Arzneimittelforschung 35(8):1236-1238. *University of Genova, Italy* **(RTECS REFERENCE)**
Propylparaben	6332 (mouse oral)	6332 (mouse)	5740 - 6984 (S.E.)	NA	dd strain mice	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Sado I. 1973. Synergistic toxicity of officially permitted food preservatives. Nippon Eiseigaku Zasshi 28(5):463-476. **(RTECS REFERENCE)**
Propylparaben	6332 (mouse oral)	> 8000 (mouse)	NA	Miller and Tainter (1944)	uniform strain of albino mice from a single source	NA	oral	suspended in 3% starch, proplene glycol, or olive oil	rapid onset of ataxia, deep depression resembling anesthesia; deaths usually occurred within 1 hour; recovery from nonfatal doses seldom lasted > 30 minutes	fasted 12 hour prior to dosing	NA	Matthews C, Davidson J, Bauer E, Morrison JL, Richardson AP. 1956. p- Hydroxybenzoic acide esters as preservatives II. Acute and chronic toxicity in dogs, rats, and mice. J Am Pharmaceut Assoc 45:260-267.
Sodium arsenite	41	36	27 - 52 (95% CL; slope = 7.6 [S.E. 2.7])	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: diarrhea, diuresis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait; time to onset of signs < 1day; duration of signs 3 days; 9 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Sodium arsenite	41	41	31 - 53 (these limits are +/- 1.96 S.D.)	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 10 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30: 470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA (LD50 value)* **(RTECS REFERENCE)** Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA (experimental parameters)*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Sodium arsenite	41	42	35 - 50 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method	Holtsman rats; 300- 500 g; 100-300 days (13 - 41 weeks)	male and female	oral, gelatin capsules	20, 50, 100, 200 (all in mg/kg)	death occurred within 4 days	approximately 40 rats used; 24 hour fasting before dosing; rats dosed under light anesthesia	Baker Analyzed Reagent with 0.02% impurities	Done AK, Peart AJ. 1971. Acute Toxicities of Arsenical Herbicides. Cinical Toxicology, 4(3):343-355. *University of Utah, Salt Lake City, UT*
Sodium arsenite	41	42	35 - 58 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	male and female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: diarrhea, diuresis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 3 days; 9 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 male each and 5 female); 30 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Sodium arsenite	41	48	37 - 76 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: diarrhea, diuresis, posture, respiratory effects, lethargy, abnormal gait; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 3 days; 9 rats dead (average per test)	3 dose levels (5 female each); 15 rats used; OECD TG401 (1981) followed for experimental procedures	NA	Vandenheuvel MJ, Clark DG, Fielder RJ, Koundakjian PP, Oliver GJA, Pelling D, Tomlinson NJ, Walker AP. 1990. Jul. The International Validation Of A Fixed-Dose Procedure As An Alternative To The Classical LD50 Test Food And Chemical Toxicology 28(7):469-482.
Sodium arsenite	41	53	39 - 74 (95% CL)	acceptable methods (e.g., Bliss, Litchfield and Wilcoxon, Weil, Thompson, etc.)	Sprague-Dawley rats; 190-300 g	female	oral gavage	single dose	14 day observation; toxicity symptoms: motor activity decrease, respiratory effects, blanching, piloerection, salivation, diarrhea; time to onset of signs < 1 day; duration of signs 3 days; animals fasted 16 -20 hours before administration	UDP Test	NA	Yam J, Reer PJ, Bruce RD. 1991. Comparison of the up-and-down method and the fixed-dose procedure for acute oral toxicity testing. Food Chem Toxicol 29(4):259-264. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Sodium chloride	3000	3000	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	No information/reference provided.	NA	Tucker RK, Haegel MA. 1971. Compararive acute oral toxicity of pesticides to six species of birds. Toxicology and Applied Pharmacology 20:57-65. **(RTECS REFERENCE)**
Sodium chloride	3000	3620	+/-300 (S.E.)	Croxton (1953) and Waugh (1952)	Wistar albino rats; female: 167+/-27 g; young adult	female	oral; intragastric tube	doses = 0, 0.8, 3, 3.2, 3.5, 3.8, 4, 5, 10, 16 g/kg in water; 20 mL/kg dose; 2 largest doses in larger volumes	convulsive movements, diarrhea, muscular rigidity, prostration, respiratory failure; death within 14 hours	fasted for 16 hours; 84 rats used; 12 - 44 rats per dose	NA	Boyd EM, Shanas MN. 1963. The acute oral toxicity of sodium chloride. Arch Internat Pharmacodyn 144:86-96. *Quebecs' University, Kingston, Ontario, Canada*
Sodium chloride	3000	3750	+/-430 (S.E.)	Croxton (1953) and Waugh (1952)	Wistar albino rats; male: 202+/-42 g; female: 167+/-27 g; young adult	male and female (equal numbers)	oral; intragastric tube	doses = 0, 0.8, 3, 3.2, 3.5, 3.8, 4, 5, 10, 16 g/kg in water; 20 mL/kg dose; 2 largest doses in larger volumes	convulsive movements, diarrhea, muscular rigidity, prostration, respiratory failure; death within 14 hours	fasted for 16 hours; 168 rats used; equal numbers of male and female; 12-44 rats per dose; this LD50 is determined from the data used to determine LD50 of 3620 mg/kg (female) and 3890 mg/kg (male) also reported in this reference [Boyd and Shanas 1963]	NA	Boyd EM, Shanas MN. 1963. The acute oral toxicity of sodium chloride. Arch Internat Pharmacodyn 144:86-96. *Quebecs' University, Kingston, Ontario, Canada*
Sodium chloride	3000	3890	+/-300 (S.E.)	Croxton (1953) and Waugh (1952)	Wistar albino rats; male: 202+/-42 g; young adult	male	oral; intragastric tube	doses = 0, 0.8, 3, 3.2, 3.5, 3.8, 4, 5, 10, 16 g/kg in water; 20 mL/kg dose; 2 largest doses in larger volumes	convulsive movements, diarrhea, muscular rigidity, prostration, respiratory failure; death within 14 hours	fasted for 16 hours; 84 rats used; 12 - 44 rats per dose	NA	Boyd EM, Shanas MN. 1963. The acute oral toxicity of sodium chloride. Arch Internat Pharmacodyn 144:86-96. *Quebecs' University, Kingston, Ontario, Canada*
Sodium chloride	3000	4200	3980 - 4430 (95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Italian	NA	Scognamiglio WP, Amorico L, Gatti GL. 1972. Esperienze di tossicita e di tolleranza al monosioglutammato con un saggio di condizionamento di salvaguardia. Il Farmaco Edizone Pratica 27:19-27.
Sodium chloride	3000	6140	+/-310 (S.E.)	NA	CBL Wistar albino rats; 150-200 g	male	oral; intragastric tube	single dose; 5000 - 7500 mg/kg dose range; cmpd dissolved in distilled water; 20 mL/kg dosage	observed for 5 days; premortal diarrhea; convulsive movements	5 rats per dose; 30 rats used; rats not fasted	Merck Reagent	Boyd EM, Abel MM, Knight LM. 1966. The chronic oral toxicity of sodium chloride at the range of the LD50 (0.1L). Canad J Physiol Pharmacol 44:157-172. *Queen's University, Ontario, Canada*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	34.17	+/- 20.95 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	female	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1,0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 10% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals used	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	38.55	+/- 7.79 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	female	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1,0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 5% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	39.02	+/- 13.54 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	female	oral gavage	single dose: 40, 50, 60, 80, 100 mg/kg; dosing solution 50% (w/v); 0.8-2.0 mL/kg dosing volume; doses in distilled water	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 male and 5 female rats per dose; 10 rats/dose; 5 female rats/dose for this value	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	48.98	+/- 10.50 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 10% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	50	NA	NA	rats	NA	NA	NA	NA	reference in Russian	NA	Gigiena Truda i Professional'nye Zabolevaniya. Labor Hygiene and Occupational Diseases. (V/O Mezhdunarodnaya Kniga, 113095 Moscow, USSR) V.1-36, 1957-1992. 1978. **(RTECS REFERENCE)**
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	51.1	+/- 5.93 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male and female	oral gavage	single dose: 40, 50, 60, 80, 100 mg/kg; dosing solution 50% (w/v); 0.8-20 mL/kg dosing volume; doses in distilled water	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 male and 5 female rats per dose; 10 rats/dose; this LD50 is determined from the data used to determine LD50 of 39.02 mg/kg (female) and 58.84 mg/kg (male) also reported in this reference	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	55.75	+/- 15.98 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 5% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	57.13	+/- 8.81 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	female	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 0.5% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	58.84	+/- 5.78 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male	oral gavage	single dose: 40, 50, 60, 80, 100 mg/kg; dosing solution 50% (w/v); 0.8-20 mL/kg dosing volume; doses in distilled water	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 male and 5 female rats per dose; 10 rats/dose; 5 male rats/dose for this value	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	59.84	+/- 7.74 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 0.5% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium dichromate (Sodium bichromate VI)	50	59.84	+/- 7.74 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	male	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 1% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium Dichromate (Sodium Bichromate VI)	50	64.5	+/- 10.18 (S.D.)	Gad and Weil (1982) Probit analysis	Fischer 344 rats (Harlen Sprague Dawley)	female	oral gavage	single dose: 40,60,80 mg/kg; dosing solution: 10,5,1.0.5% (w/v); dosing vol: 0.4-8.0 mL/kg (40 mg/kg); 0.6-12 mL/kg (60 mg/kl); 0.8-16 mL/kg (80 mg/kg); doses in distilled water; 1% dose	observed first 6 hours then day 1, 7 and 14; hypoactivity, lacrimation, mydriasis, diarrhea, change in body weight; LD50 increased as the concentration of the dosing solution increased	animals acclimated for 2 weeks before dosing; animals fasted overnight; 5 animals/dose	member companies of the Industrial Health Foundation	Gad SC, Powers WJ, Dunn BJ, Hoffman GM, Siino KM, Walsh RD. 1986. Acute toxicity of four chromate salts. Proceedings of the Chromium Symposium, pp. 43-58. *G.D. Searle and Co., Skokie, IL*
Sodium hypochlorite	8910 (from HSDB)	8200	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	12.5% hypochlorite solution	NA	Sodium Hypochlorite Toxicity Profile. 1990. British Industrial Biological Research Association (BIBRA).
Sodium hypochlorite	8910 (from HSDB)	9360 - 11700	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	12.5% hypochlorite solution	NA	Colgate-Palmolive. 1990. Internal Report: Investigation of the properties of the wash water in connection with washing using "Klorin" bleach. Unpublished.
Sodium hypochlorite	8910 (from HSDB)	>11800	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	3.6% hypochlorite solution	NA	Colgate-Palmolive. 1990. Internal Report: Investigation of the properties of the wash water in connection with washing using "Klorin" bleach. Unpublished.

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Sodium hypochlorite	8910 (from HSDB)	13000	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	5.25% hypochlorite solution	NA	MSDS Chlorine Institute 1982
Sodium I fluoride	115	64 (29 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	60 - 69 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949); Bliss (1938)	rats; mean bw = 169 g; 3 months	female	oral	5 mL/kg	22 rats died within 3 hour; 15 rats died after 3 hour; observed for 7 days; signs of toxicity appeared from 5-15 minutes after administration of NaF: muscle weakness, salivation, diarrhea, lacrimation, tremor, convulsion, hypopnea, cynosis, urinary incontinence; most animals died within 24 hour after dosing	reference paprer in Japanese; English summary and table/graph headers; see paper for information about regression coefficient of log dose-NED mortality curve	NA	Sakama H. 1980. Toxicological studies of fluorine compounds. I. Acute toxicity of sodium fluoride to rats and mice in relation to age, sex, animal genus, and administration route. Shika Gakuho. Journal of Dentistry. 80: 1519. *Tokyo Dental College, Japan.*
Sodium I fluoride	115	69 (31 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	55 - 84 (CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; mean bw and ranges 250 g (200-359 g); 90 days	female	stomach tube	NaF in aqueous solution (0.2 - 1.6 mL/dose)	mortality confined to 24 hour; when doses equal to or greater than the LD50 were administered, half of the 250 g rats died within 3 hours	fasted 24 hour before dosing; at least seven dose levels used for each population; groups of 8 -15 rats	NA	DeLopez OH, Smith FA, Hodge HC. 1976. Plasma fluoride concentrations in rats acutely poisoned with sodium fluoride. Toxicol Appl Pharmacol 37:75-83. *Univ. of Rochester School of Med. And Dent., Rochester, NY*
Sodium I fluoride	115	73 (33 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	66 - 80 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949); Bliss (1938)	rats; mean bw = 295 g; 3 months	male	oral	3 mL/kg	6 rats died within 3 hour; 35 rats died after 3 hour; observed for 7 days; signs of toxicity appeared from 5-15 minutes after administration of NaF: muscle weakness, salivation, diarrhea, lacrimation, tremor, convulsion, hypopnea, cynosis, urinary incontinence; most animals died within 24 hour after dosing	reference paprer in Japanese; English summary and table/graph headers; see paper for information about regression coefficient of log dose-NED mortality curve	NA	Sakama H. 1980. Toxicological studies of fluorine compounds. I. Acute toxicity of sodium fluoride to rats and mice in relation to age, sex, animal genus, and administration route. Shika Gakuho. Journal of Dentistry. 80: 1519. *Tokyo Dental College, Japan.*
Sodium I fluoride	115	80	+/- 5 (S.E.)	Winthrop logarithmic probit graph paper; Miller and Tainter (1944)	Albino rats; 200- 300 g	NA	oral; stomach tube	single dose; 25% solution; 22 - 288 mg/kg doses;	percentage mortality observed in 24 hour calculated, then LD50 determined	98 rats used	NA	Shourie KL, Hein JW, Hodge HC. 1950. Preliminary studies of the caries inhibiting potential and acute toxicity of sodium monofluorophosphate. J Dent Res 29:529-533. *Univeristy of Rochester, School of Medicine and Denistry, Rochester, NY.*
Sodium I fluoride	115	84 (38 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	77 - 93 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949); Bliss (1938)	rats; mean bw = 60 g; 3 weeks	female	oral	5 mL/kg	16 rats died within 3 hour; 32 rats died after 3 hour; observed for 7 days; signs of toxicity appeared from 5-15 minutes after administration of NaF: muscle weakness, salivation, diarrhea, lacrimation, tremor, convulsion, hypopnea, cynosis, urinary incontinence; most animals died within 24 hour after dosing	reference paprer in Japanese; English summary and table/graph headers; see paper for information about regression coefficient of log dose-NED mortality curve.	NA	Sakama H. 1980. Toxicological studies of fluorine compounds. I. Acute toxicity of sodium fluoride to rats and mice in relation to age, sex, animal genus, and administration route. Shika Gakuho. Journal of Dentistry. 80: 1519. *Tokyo Dental College, Japan.*
Sodium I fluoride	115	107 (46 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	95 - 110 (95% CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949); Bliss (1938)	rats; mean bw = 58 g; 3 weeks	male	oral	5 mL/kg	2 rats died within 3 hour; 32 rats died after 3 hour; observed for 7 days; signs of toxicity appeared from 5-15 minutes after administration of NaF: muscle weakness, salivation, diarrhea, lacrimation, tremor convulsion, hypopnea, cynosis, urinary incontinence; most animals died within 24 hour after dosing	reference paprer in Japanese; English summary and table/graph headers; see paper for information about regression coefficient of log dose-NED mortality curve.	NA	Sakama H. 1980. Toxicological studies of fluorine compounds. I. Acute toxicity of sodium fluoride to rats and mice in relation to age, sex, animal genus, and administration route. Shika Gakuho. Journal of Dentistry. 80: 1519. *Tokyo Dental College, Japan.*
Sodium I fluoride	115	115 (52 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	106 - 126 (slope = 1.23 [1.06 - 1.43]; 95% CL)	Litchfield and Wilcoxin method (1949)	Sprague-Dawley rats; mean bw and ranges 150 g (112-184 g); 30-45 days	female	stomach tube	NaF in aqueous solution (0.2 - 1.6 mL/dose); 30 - 100 mg F/kg doses;	mortality confined to 24 hour; when doses > the LD50 were administered, one-third of the 150 g rats died within 7 hours; dose in mg F/kg and 24 hour mortality: 75-2/2 dead; 70-9/10 dead; 65-7/9 dead; 62-6/8 dead; 58-4/10 dead; 55-9/15 dead; 50-8/12 dead; 45-3/10 dead; 42-2/10 dead; 40-0/2 dead; 35-0/2 dead; salivation, diarrhea, thirst, lethargy	fasted 24 hour before dosing; 11 dose levels used; groups of 2 -15 rats; 90 rats used; 50 dead; detailed information from RTECS reference (master thesis for de Lopez 1970)	NA	DeLopez OH, Smith FA, Hodge HC. 1976. Plasma fluoride concentrations in rats acutely poisoned with sodium fluoride. Toxicol Appl Pharmacol 37:75-83. *Univ. of Rochester School of Med. And Dent., Rochester, NY*
Sodium I fluoride	115	115 (52 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	108 - 119 (slope = 1.28 [1.0 - 1.6]; 95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; mean bw and ranges 80 g (50-108 g); 30-45 days	female	stomach tube	NaF in aqueous solution (0.2 - 1.6 mL/dose); 30 - 100 mg F/kg doses;	mortality confined to 24 hour; when doses equal to or greater than the LD50 were administered, half of the 80 g rats died within 6 hours; dose in mg F/kg and 24 hour mortality: 100-9/12 dead; 75-8/9 dead; 70-8/10 dead; 60-8/10 dead; 50-2/10 dead; 40-2/10 dead; 30-0/2 dead; salivation, diarrhea, thirst, lethargy	fasted 24 hour before dosing; at least seven dose levels used for each population; groups of 2 -12 rats; 63 rats used; 36 dead; detailed information from RTECS reference (master thesis for de Lopez 1970)	NA	DeLopez OH. 1970. Acute fluoride toxicity: plasma fluoride concentrations following acute oral doses of sodium fluoride in the rat. Master of Science thesis. *Univ. of Rochester School of Med. And Dent., Rochester, NY* (see DeLopez 1976) **(RTECS REFERENCE)**
Sodium I fluoride	115	119 (54 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	108 - 119 (slope = 1.28 [1.0 - 1.6]; 95% CL)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; mean bw and ranges 80 g (50-108 g); 30-45 days	female	stomach tube	NaF in aqueous solution (0.2 - 1.6 mL/dose); 30 - 100 mg F/kg doses	mortality confined to 24 hour; when doses equal to or greater than the LD50 were administered, half of the 80 g rats died within 6 hours; dose in mg F/kg and 24 hour mortality: 100-9/12 dead; 75-8/9 dead; 70-8/10 dead; 60-8/10 dead; 50-2/10 dead; 40-2/10 dead; 30-0/2 dead; salivation, diarrhea, thirst, lethargy	fasted 24 hour before dosing; at least seven dose levels used for each population; groups of 2 -12 rats; 63 rats used; 36 dead; detailed information from RTECS reference (master thesis for de Lopez 1970)	NA	DeLopez OH, Smith FA, Hodge HC. 1976. Plasma fluoride concentrations in rats acutely poisoned with sodium fluoride. Toxicol Appl Pharmacol 37:75-83. *Univ. of Rochester School of Med. And Dent., Rochester, NY*
Sodium I fluoride	115	180	120 - 260 (these limits are +/- 1.96 S.D.)	Thompson method; Weil tables	Carworth-Wistar rats; 90-120 g; 4-5 weeks	male	oral gastric intubation	in aqueous solution; concentration intubated = 5 mg/mL; dosages arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2	LD50 based on mortalities during a 14 day period	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity	reagent grade	Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA, Nycum, JS. 1969. Range-finding toxicity data: List VII. Am Ind Hyg Assoc J 30: 470-476. *Carnegie-Mellon University, Pittsburgh, PA* (LD50 value) Smyth HF Jr, Carpenter CP, Weil CS, Pozzani UC, Striegel JA. 1962. Range-finding toxicity data: List VI. Am Ind Hyg Assoc J 23:95-107. *Mellon Institute of Industrial Research, Pittsburg, PA* (experimental parameters)
Sodium I fluoride	115	189 (85.5 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	#2: 170 -209 (95%CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; 152-202 g	male	oral; intragastric	50 to 220 mg F/kg (111 - 486 mg NaF/kg) in water	number of deaths determined at 1, 2, 4, 8, 24 hour and daily thereafter; 20 rats dead at 24 hour; 26 rats dead at 14 days; monitored for 2 weeks but no deaths after 4 days; deaths/dose (mg/kg): 111-0/10, 122-0/10, 134-1/10, 147-0/10, 162-0/10, 166-4/10, 183-4/10, 201-3/10, 221-6/10, 243-8/10	fasted 18 hour before dosing; 10 day acclimatization before dosing; 8 rats in each dosage group; 80 rats used	>99.5% purity	Whitford GM, Birdsong-Whitford NL, et al. 1990. Acute oral toxicity of sodium fluoride and monofluorophosphate separately or in combination in rats. Caries Res 24(2):121-126. *Medical College of Georgia, Augusta, GA; Dept. of Odonto-Stomatologie, Laboratoires Goupil SA, Cachan, France.*
Sodium I fluoride	115	200	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	abdominal distress, diarrhea, cyanosis, dyspnea, fibrillation of skeletal muscles; onset within 6 hours	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Sodium I fluoride	115	223	NA	Probit analysis	Sprague-Dawley rats; 190-315 g	male	oral gavage	0.101 - 0.500 g NaF/kg bw	animals observed for mortality frequently during first 4 hour after dosing; observed daily thereafter for 14 days	fasted 18 - 20 hour before dosing; 8 rats per group; 48 total rats used; mortality confined to 24 hour after dosing except 3 animals died on day 2, 3, and 5	J.T. Baker Chemical Co.	Skare JA, Schrotei KR, Nixon GA. 1986. Lack of DNA-strand breaks in rat testicular cells after in vivo treatment with sodium fluoride. Mutat Res 170:85-92. *The Proctor and Gamble Company, Cincinnati, OH*

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Sodium I fluoride	115	279 (126.3 mg F/kg; converted to mg NaF/kg)	#1: 218 - 358 (95%CI)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Sprague-Dawley rats; 152-202 g	male	oral; intragastric	50 to 220 mg F/kg (111 - 486 mg NaF/kg) in water	number of deaths determined at 1, 2, 4, 8, 24 hour after dose and each day thereafter; 32% rats dead during 1st day; 23 rats dead at 14 days; monitored for 2 weeks but no deaths after 4 days; deaths/dose (mg/kg): 160- 1/10, 207- 4/10, 254-5/10, 330-6/10, 428-7/10	fasted 18 hour before dosing; 10 day acclimatization before dosing; 10 rats in each dosage group; 50 rats used	>99.5% purity	Whitford GM, Birdsong-Whitford NL, et al. 1990. Acute oral toxicity of sodium fluoride and monofluorophosphate separately or in combination in rats. Caries Res 24(2):121-126. *Medical College of Georgia, Augusta, GA; Dept. of Odonto-Stomatologie, Laboratoires Goupil SA, Cachan, France.*
Sodium oxalate	11160	11160	NA	NA	rat	NA	oral	NA	NA	Value derived from 7500 mg/kg from RTECS for oxalic acid, which is a typo. Original reference (Vernot et al 1977) has 7.5 ml/kg)	NA	EHP, Environmental Health Perspectives. (U.S. Government Printing Office, Supt of Documents, Washington, DC 20402) No.1-1971. 106(Suppl). **(RTECS REFERENCE)**
Sodium oxalate	11160	558.13 (converted from 7.5 mL/kg 5% oxalic acid)	372 - 819	moving average (Thompson & Weil)	Sprague-Dawley; 200-300 g	female	oral gastric intubation	5% aqueous solution; doses arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2 (assumed from Smyth et al. 1962)	LD50 based on mortalities during a 14 day period (assumed from Smyth et al. 1962)	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity (assumed from Smyth et al 1962); reported as 7.5 ml/kg of 5% oxalic acid	NA	Vernot EH, MacEwen JD, Haun CC, Kinkead ER. 1977. Acute toxicity and skin corrosion data for some organic and inorganic compounds and aqueous solutions. Toxicology and Applied Pharmacology 42:417-423. *(Indicates methods of Smyth et al. 1962 were used.)*
Sodium oxalate	11160	706.96 (converted from 9.5 mL/kg 5% oxalic acid)	402 - 915	moving average (Thompson & Weil)	Sprague-Dawley; 200-300 g	male	oral gastric intubation	5% aqueous solution; doses arranged in a logarithmic series differing by a factor of 2 (assumed from Smyth et al. 1962)	LD50 based on mortalities during a 14 day period (assumed from Smyth et al. 1962)	non-fasted; groups of 5 rats; single oral dose toxicity (assumed from Smyth et al 1962); reported as 9.5 ml/kg of 5% oxalic acid	NA	Vernot EH, MacEwen JD, Haun CC, Kinkead ER. 1977. Acute toxicity and skin corrosion data for some organic and inorganic compounds and aqueous solutions. Toxicology and Applied Pharmacology 42:417-423. *(Indicates methods of Smyth et al. 1962 were used.)*
Sodium selenate	1.6	1.6	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference in Russian	NA	Novikov JV, Plitman SE, et al. 1984. Selenium in water and its effect on the human body. Gigiena i Sanitariya 49(9):66-68. **(RTECS REFERENCE)**
Sodium selenate	1.6	5.98	NA	NA	rats	NA	oral; stomach tube	NA	violent gastroenteritis, diarrhea, rice water stools,garlic breath, nervousness, CNS depression; onset within 15 min.	information from the laboratories of Division of Pharmacology, U.S. FDA.; fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Strychnine	2.35	2.35	NA	mortality curves	adult white rats	female	oral, stomach tube; single dose	2.25 - 15 mg/kg dose; single dose; cmpd mixed in gum acacia and water; 1 mg/mL dose solution	15, 10, 7.5, 6, 5mg/kg dose killed 90 rats (100% mortality); 4 mg/kg, 17/18 rats dead (95%); 3 mg/kg, 20/27 rats dead (74%); 2.5 mg/kg 19/27 rats dead (70%); 2.25 mg/kg, 7/18 rats dead (39%); 7.3 - 14.1 minutes average time to death	180 rats used	U.S.P IX Strychnine alkaloid	Ward JC, Crabtree DG. 1942. Strychnine X. Comparative accuracies of stomach tube and intraperitoneal injection methods of bioassay. Journal of the American Pharmaceutical Association, Scientific Edition 31:113-115. *U.S. Fish and Wildlife Service, Denver, CO* **(RTECS REFERENCE)**
Strychnine	2.35	6.5	NA	mortality curves	adult white rats	male	oral, stomach tube; single dose	5 - 15 mg/kg dose; single dose; cmpd mixed in gum acacia and water; 1 mg/mL dose solution	15 mg/kg, 16/18 rats dead (89% mortality); 10 mg/kg, 15/18 rats dead (83%); 7.5 mg/kg, 16/18 rats dead (89%); 6 mg/kg 6/18 rats dead (33%); 5 mg/kg, 4/18 rats dead (39%); 10.8 - 19.5 minutes average time to death	90 rats used	U.S.P IX Strychnine alkaloid	Ward JC, CrabtreeDG. 1942. Strychnine X. Comparative accuracies of stomach tube and intraperitoneal injection methods of bioassay. Journal of the American Pharmaceutical Association, Scientific Edition 31:113-115. *U.S. Fish and Wildlife Service, Denver, CO*
Strychnine	2.35	16.2	NA	NA	rats	NA	oral, stomach tube; single dose	NA	tonic convulsions; deaths from medullary paralysis and exhaustion and usually occur within a 12 hour period	NA	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Strychnine	2.35	25	NA	statistical formula based on mortality rates	wild Norway rats	NA	oral, stomach tube; single dose	a number of individual doses of a cmpd, each dose at a different concentration level, are given to an equal number of test animals	convulsions	NA	NA	Peardon DL, Kilbourn E, et al. 1972. New selective rodenticides. Soap Cosmet Chem Spec 48(12):6. *Rohm and Haas Company, Philadelphia, PA*
Thallium I sulfate	16	15.8	+/- 0.9 (S.E.)	Litchfield and Fetig (1941)	wild Norway rats (trapped in Baltimore, MD); 134-579 g (ave = 298 g), adult	male and female	oral gavage	chemical suspended in 10% acacia solution; received appropriate doses in 1 mL per 100 g bw	rats survived from 6 - 72 hours	37 rats used (approx. equal number of male/female); overnight fasting before dosing; assays performed in winter, repeated in summer; LD50 values from combined information; final LD50 was higher than winter LD50; attributed to not having enough rats in winter.	GIBCO brand; 99.0% pure	Dieke SH, Richter CP. 1946. Comparative assays of rodenticides on wild Norway rats. I. Toxicity. Publ Health Rep 61:672-679. *Johns Hopkins Hospital, Baltimore, MD*
Thallium I sulfate	16	16	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	reference is a review article in Japanese; this LD50 value assumed to be from Peardon et al. 1972.	NA	Gekkan Yakuji. Pharmaceuticals Monthly. (Yakugyo Jihosha, Inaoka Bldg., 2-36 Jinbo-cho, Kanda, Chiyoda-ku, Tokyo 101, Japan) V.1- 1959. 1980. **(RTECS REFERENCE)**
Thallium I sulfate	16	16	NA	statistical formula based on mortality rates	wild Norway rats	NA	oral, stomach tube; single dose	a number of individual doses of a cmpd; each dose at a different conc level given to equal number of test animals	respiratory failure	NA	NA	Peardon DL, Kilbourn E, et al. 1972. New selective rodenticides. Soap Cosmet Chem Spec 48(12):6. *Rohm and Haas Company, Philadelphia, PA*
Thallium I sulfate	16	25	NA	NA	rats	NA	oral, stomach tube; single dose	NA	72 hour observation; most rats dead within this period	fasted animals	NA	Lehman AJ. 1951. Chemicals in Foods: a report to the association of food and drug officials on current developments. Part II. Pesticides. Quarterly Bulletine (Association of Food and Drug Officials of the United States). Vol.15:122-133. *U.S. FDA*
Trichloroacetic acid	NA	400	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Worthing CR, Walker SB, eds. 1987. Pesticide Manual. 8th edition. 765-766.
Trichloroacetic acid	NA	3320	3160 - 3480 (95% certainty; slope = 20.97)	Bliss	rats (raised in the laboratory); 150- 250 g; 70-100 days	male and female (mostly male)	oral intubation	single dose; acid adjusted with sodium hydroxide to pH range of 6 -7; 10 mL/kg dose volume	observed for 6 days; passed into narcosis to seminarcosis and died or recovered within 36 hours; dose in g/kg versus mortality: 2.594-0/5; 3.000-3/10; 3.153 - 1/5; 3.400-5/10; 3.800-9/10; 3991-5/5; 4.200-10/10; 4.600-10/10	fasted 18 hours before dosing; 65 rats used; 43 of 65 dead	NA	Woodard G, Lange SW, Nelson KW, Calvery HO. 1941. The acute oral toxicity of acetic, chloroacetic, dichloroacetic, and trichloroacetic acids. J Ind Hyg Toxicol 23(2):78-82.

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Trichloroacetic acid	NA	5000			rats	male	oral	NA	NA	NA	NA	Farm Chemicals Handbook. 1992. Meister Pub., 37841 Euclid Ave., Willoughy, OH. p. C326.
Trichloroacetic acid	NA	5060			rats	female	oral	NA	NA	NA	NA	Farm Chemicals Handbook. 1992. Meister Pub., 37841 Euclid Ave., Willoughy, OH. p. C326.
Trichloroacetic acid	NA	8900	7000 - 9900	NA	rats; 220 +/- 40 g	NA	oral; intragastric	NA	NA	(source of information not provided)	NA	Izmerov NF, Sanotsky IV, Sidorov KK. 1982. Toxicometric Parameters of Industrial Toxic Chemicals under Single Exposure. International Register of Potentially Toxic Chemicals (IRPTC). United Nations Environment Programme (UNEP). Centre of International Projects, GKNT. Moscow, Russia.
Triethylenemelamine	13	1	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	Reference offers neither experimental details nor the primary reference for LD50. Value reported as "ca. 1"	NA	Hayes WJ Jr. 1964. The toxicology of chemosterilants. Bulletin of the World Health Organization. 31:721-736. *(RC's reference from 1983/84 RTECS.)*
Triethylenemelamine	13	4	NA	Probit method	Sprague-Dawley rats; 190-200 g	female	oral	geometric progression of 14 for dosing; in water or neat	20 rats used; 11 dead; observed for 14 days	non-fasted; 4 groups of 5 female; 20 rats used	Polysciences, Inc. Warrington, PA	Thompson ED, Gibson DP. 1984. A method for determining the maximum tolerated dose for acute in vivo cytogenetic studies. Food Chem Toxicol 22(8):665-76. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Triethylenemelamine	13	6.9	NA	Probit method	Sprague-Dawley rats; 190-200 g	male	oral	geometric progression of 14 for dosing; in water or neat	20 rats used; 9 dead; observed for 14 days	non-fasted; 4 groups of 5 male; 20 rats used	Polysciences, Inc. Warrington, PA	Thompson ED, Gibson DP. 1984. A method for determining the maximum tolerated dose for acute in vivo cytogenetic studies. Food Chem Toxicol 22(8):665-76. *The Procter and Gamble Co., Cincinnati, OH*
Triethylenemelamine	13	13	8 - 20 (95% CL; slope = 2.1)	Litchfield and Wilcoxin (1949)	Wistar rats; 150- 350 g	male and female	oral; stomach tube	dissolved in isotonic saline within 30 minutes of dosing; less than 5% weight of insoluble matter filtered out; highest dose 500 mg/kg	14 observation period; absence of acute toxicity signs	information not grouped according to sex since differences not evident; 6 rats per dose; animals fasted overnight	NA	Philips FS, Thiersch JB. 1950. The nitrogen mustard-like actions of 2,4,6-tris(ethylenimino)-s-triazine and other bis(ethylenimines). Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics 100:398-407. *Sloan Kettering Institute for Cancer Research, New York, NY* **(RTECS REFERENCE)**
Triphenyltin hydroxide	46	46.4	NA	NA	Fischer rats; 6 weeks	male and female	oral intubation	single dose followed by daily doses up to 14 days	observed up to 14 days	NA	NA	Carcinogenesis bioassay of environmental chemicals annual progress report NIH-NCI-E-C-72-3252. 5/13/71 -- 8/6/73 and Final report NIH-NCI-E-71-2146. Submitted to The National Cancer Institute. National Institutes of Health, Bethesda, MD. 8/15/73 (revised 8/10/73). FM Garner (princ. investigat.) *Litton Bionetics, Inc., Bethesda, MD.* **(RTECS REFERENCE)**
Triphenyltin hydroxide	46	156	115 - 208 (CL)	NA	rats	female	oral	single dose; 80, 160, 315, or 630 mg/kg doses	observed for 19 days; toxicity develops slowly; toxic signs 2 days after dose; deaths 5 - 9 days after initial dose; dose (mg/kg), number dead: 80 - 1/10; 160 - 4/10; 315 - 10/10; 630 - 10/10; toxic signs included squatting, ataxy, bristled hair, blood-crusted adherent margins of the eyelid, decreased respiratory rate and poor general condition	fasted animals; 4 groups of 10 female rats each; each received one dose; 35 of 40 died	triphenyltin hydroxide 96%	Pharma Forschung Toxikologie; Report 183/81; A 21593; Apr. 22, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00124210 and 00139030; Hoechst Aktiengesellschaft; EPA Acc. No. 071364; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 005275
Triphenyltin hydroxide	46	160	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	triphenyltin hydroxide 80.0%	Products Safety Labs; T-1399; May 8, 1992; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 42265507; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. Guideline 009941; Jan. 5, 1993;
Triphenyltin hydroxide	46	165	113 - 230 (CL)	NA	rats	male	oral	single dose; 80, 160, 315, or 630 mg/kg doses	observed for 19 days; toxic signs 2 days after dose; toxicity develops slowly; deaths 5 - 13 days after initial dose; dose (mg/kg), number dead: 160 - 6/10; 315 - 10/10; 630 - 9/10; toxic signs included squatting, ataxy, bristled hair, blood-crusted adherent margins of the eyelid, decreased respiratory rate, dischourage of mucous feces, and poor general condition	fasted animals; 4 groups of 10 male rats each; each received one dose; 25 of 40 died	triphenyltin hydroxide 96%	Pharma Forschung Toxikologie; Report 182/81; A 21353; Apr. 22, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00124209; Hoechst Aktiengesellschaft; EPA Acc. No. 071364; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 005275, minimum 003116
Triphenyltin hydroxide	46	240	NA	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	triphenyltin hydroxide tech	U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. 001493
Triphenyltin hydroxide	46	313	232 - 422	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	triphenyltin hydroxide tech	Cannon Laboratories, Inc.; Jan. 31, 1978; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 099049; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 001492
Triphenyltin hydroxide	46	345	138 - 862	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	triphenyltin hydroxide tech	Cannon Laboratories, Inc.; Jan. 31, 1978; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 099049; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 001492
Triphenyltin hydroxide	46	360	NA	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	triphenyltin hydroxide tech	U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. 001493
Triphenyltin hydroxide	46	375	280 - 502	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	Duter WP (TPTH 47%)	Cannon Laboratories, Inc.; Feb. 23, 1978; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 099049; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 001492
Triphenyltin hydroxide	46	375		NA	rats	male and female	oral	NA	NA	NA	50% WP (Reg. No. 148-1195	U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 099049; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum
Triphenyltin hydroxide	46	380	288 - 502	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	Duter WP (TPTH 47%)	Cannon Laboratories, Inc.; Feb. 23, 1978; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 099049; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 001492

Rat and Mouse Oral LD50 Database

Reference Substance	Rat Oral LD_{50}[1] mg/kg	Rat Oral LD_{50}[2] mg/kg Primary Reference	LD_{50}[3] mg/kg (range) Primary Reference	LD_{50} Calculation Method[4] Primary Reference	Animal Information (stock, weight, age)	Gender	Route and/or Method of Exposure	Dose	Observations	Notes	Reference Substance Source	Primary Reference
Triphenyltin hydroxide	46	720	520 - 920	NA	rats	female	oral	NA	NA	NA	Kansai Robamame soin B A/F 1000B (Red Point)	Bio/dynamics, Inc.; 6584-81; Sept. 30, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00086072; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. Guideline 001881
Triphenyltin hydroxide	46	830	580 - 1080	NA	rats	male and female	oral	NA	NA	NA	Kansai Robamame soin B A/F 1000B (Red Point)	Bio/dynamics, Inc.; 6584-81; Sept. 30, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00086072; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. Guideline 001881
Triphenyltin hydroxide	46	840	512 - 1378	NA	rats	unknown	oral	NA	NA	NA	Duter Flowable 30 (TPTH 19.7%)	Cannon Laboratories, Inc.; 9E-6359; Nov. 13, 1979; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00086591; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. minimum 001496
Triphenyltin hydroxide	46	1200	600 - 1800	NA	rats	male	oral	NA	NA	NA	Kansai Robamame soln B A/F 1000B (Red Point)	Bio/dynamics, Inc.; 6584-81; Sept. 30, 1981; U.S. EPA, Office of Pesticide Programs; Health Effects Division; Tox Oneliners; MRID No. 00086072; EPA Chem. Code: 083601; Core Grade/Tox Record No. Guideline 001881
Valproic acid	670	670	598 - 750 (95% CL; slope = 1.2 [1.0 - 1.4; 95% CL])	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Osborne-Mendel rats; young adult	male and female	oral intubation	2% in water	usual observaton time of 2 weeks; depression, scrawny appearance, diarrhea; dead within 2 hour - 2 days	18 hours fasting; groups of 10 rats; evenly divided between male and female	commercially available material	Jenner PM, Hagan EC, Taylor JM, Cook EL, Fitzhugh OG. 1964. Food flavorings and compounds of related structure I. Acute Oral Toxicity. Fd Cosmet Toxicol 2:327-334. *U.S. Food and Drug Administration, Washington, D.C.* **(RTECS REFERENCE)**
Valproic acid	670	1480	NA	NA	rats	male and female	oral	NA	NA	reference in French	NA	Deboeck AM. Valproic acid salt, its preparation and utilization. European Patent Office, Publication No. EP 0078785A1. Application date 11/03/82.
Verapamil HCl	108	108	NA	NA	rats	NA	oral	NA	NA	NA	NA	Drugs in Japan (Ethical Drugs). (Yakugyo Jiho Co., Ltd., Tokyo, Japan). 1982. **(RTECS REFERENCE)**
Verapamil HCl	108	114	97 - 135	Litchfield and Wilcoxin (1949)	rats	NA	oral	NA	NA	reference in German	NA	Haas VH, Hartfelder G. 1962. A-Isopropyl-a-[(N-methyl-N-homoveratryl-g-amino-propyl]-3,4-dimethoxyphenylacetonitrile, eine Substanz mit coronargefaferweiternden Eigenschaften 12:549-558.
Xylene	4300	1537	1294 - 1781 (95% CL; slope = 9.6)	Finney (1971) Probit Analysis	ChR-CD; ave bw for each group = 253, 251, and 256 g; young adults	male	oral; intragastric intubation	single dose in aqueous solution (25%); doses = 1200, 1600, 2000 mg/kg; dose = 1.2 - 2.0 mL	16 dead; observed over 14-day recovery period; 1200 dose: lacrimation and wet perineal area (1/10 dead); 1600 dose: tremors, salivation, prostration, piloerection, lacrimation, wet perineal area, ataxia (7/10 dead; death within 15 hours after dosing); 2000 dose: tremors, severe fascicutations, ataxia, lacrimation, prostration, piloerection, lethargy, wet and stained perineal area, weakness (8/10 dead)	3 groups of 10 rats each; date of test is 1979	NA	from EPA TSCATS database; Oral LD50 test (1979), EPA Document No. 878221390 Fiche No. OTS0215213; *E.I Dupont DeNemours & Co., Inc./Haskell Labs*
Xylene	4300	4300	NA	NA	white rats; Wistar; 175- 250 g	male	oral; stomach tube	single dose in either olive oil or corn oil solution emulsified with aqueous solution of acacia; or undiluted; no more than 7 cc administered	all surviving rats observed up to 2 weeks; 20 rats used	percent of isomers: *o* = 19; *p* = 24; *m* = 52	NA	Wolfe MA, Rowe VK, McCollister DD, Hollingsworth RL, Oyen F. 1956. Toxicological studies of certain alkylated benzenes and benzene: experiments on laboratory animals. AMA Archives of Industrial Health. 14:387-397. *The Dow Chemical Co. Midland, MI.* **(RTECS REFERENCE)**
Xylene	4300	8314	7716 - 8803 (95% CL)	Finney (1971) Probit Analysis	ChR-CD; ave bw each group = 276, 258, 286, 262, 256 g; young adults	male	oral; intragastric intubation	single dose in corn oil (50% solution); doses = 7500, 8000, 9000, and 9500 mg/kg; dose = 3.93-5.25 mL	16 dead; observed over 14-day recovery period; 7500 dose: (3/10 dead); 8000 dose: (3/10 dead); 9000 dose: (6/10 dead); 9500 dose (10/10 dead); salivation, lethargy, ruffled fur, diarrhea, respiratory congestion, wet/bloody perineal areas	4 groups of 10 rats each; date of test is 1975	NA	from EPA TSCATS database; Oral LD50 test (1975), EPA Document No. 878221390 Fiche No. OTS0215213; *E.I Dupont DeNemours & Co., Inc./Haskell Labs*
Xylene	4300	8620 (10 mL/kg; density = 0.862)	6465 - 11465 (CL; reported as 7.5 - 13.3 mL/kg)	Litchfield and Wilcoxon method (1949)	Long-Evans rats; 150-300 g	male	oral; intragastric intubation	single dose; graded doses up to 25 mL/kg; undiluted samples	observed for 14 days; mortality values based on the number of animals which died during this time; 6 rats per dose	ortho, meta, and para xylene; ethyl benzene	aromatic concentrated from commercial source by an absorption technique; 98% aromatic.	Hine CH, Zuidema HH. 1970. The toxicological properties of hydrocarbon solvents. Industrial Medicine. 39(5):39-44.

Abbreviations: NA=Not available; CL=Confidence limit; CI=Confidence interval; SE=Standard error; UDP=Up-and-Down Procedure; TSCATS=Toxic Substances Control Act Test Submissions; RTECS=Registry of Toxic Effects of Chemical Substances; min=Minimum; HSDB=Hazardous Substances Data Bank (NLM 2001).

Gray cells highlight the rationale for exclusion of reference value.

[1] RTECS® database value at the time of database search by NICEATM (2002). If rat oral LD_{50} was unavailable, rat oral LD_{50} from HSDB was used, or mouse oral LD_{50} from RTECS was used.

[2] Value reported in the reference publication.

[3] Range (if provided in the reference publication).

[4] Method reported from the reference publication.

Appendix H2

Evaluation of the Candidate Reference Oral LD_{50} Data

[This Page Intentionally Left Blank]

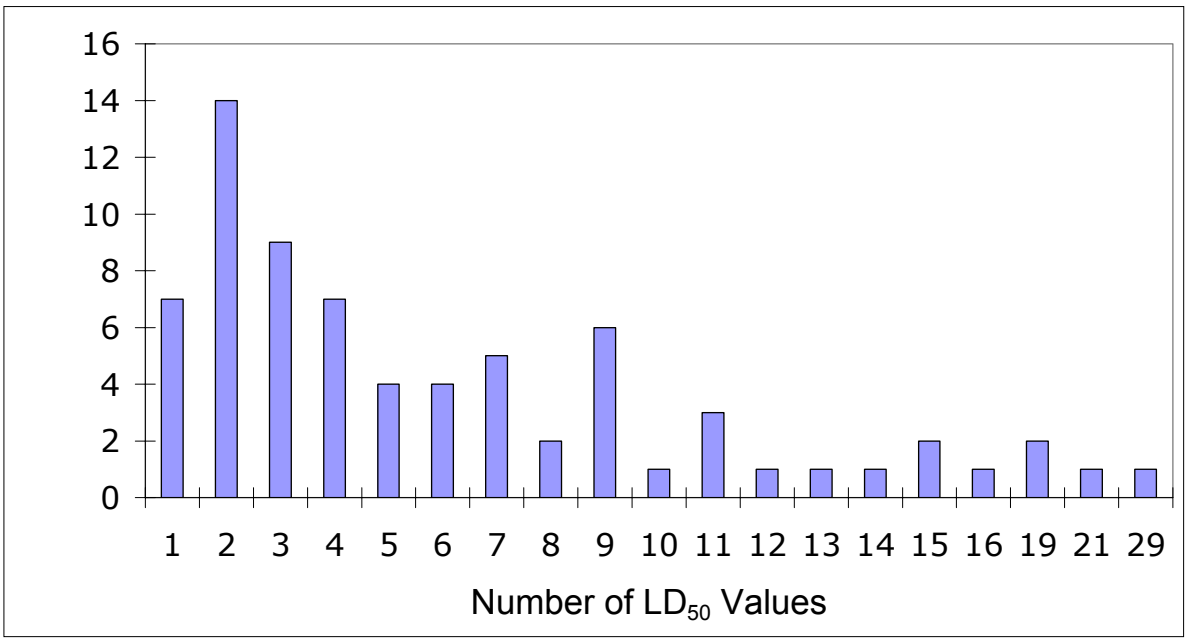
H.2 Evaluation of the Candidate Reference Oral LD_{50} Data

The 491 LD_{50} values identified by the literature search consisted of 485 rat oral LD_{50} values and six mouse oral LD_{50} values. Mouse oral LD_{50} values were used to determine reference values for colchicine, epinephrine bitartrate, and propylparaben since rat oral LD_{50} values for these three reference substances could not be located. Thirty rat oral LD_{50} values were believed to be duplicates of other reported values because the LD_{50} values and the experimental information matched exactly those cited by other publications from the same author(s) or because the same animal data were used to calculate multiple LD_{50} values (e.g., to evaluate various methods of calculation).

Two rat oral LD_{50} values provided by RTECS® were incorrect, possibly due to typographical errors. For the value of 200 mg/kg for acetylsalicylic acid, RTECS® cited a review by Diechmann (1969) that referred to a paper by Coldwell and Boyd (1966). Coldwell and Boyd (1966), however, actually reported an LD_{50} of 920 mg/kg. For sodium oxalate, RTECS® cited a review paper by Walum (1998) for an LD_{50} value of 11160 mg/kg. Although Walum (1998) provided no source, the LD_{50} is the same as that used in the MEIC study (Ekwall et al. 1998b). That LD_{50} was calculated from the LD_{50} for oxalic acid (Ekwall et al. 1998b) which is 7500 mg/kg according to RTECS®. The source for this figure, however, provides a value of 7.5 mL/kg of 5% oxalic acid (Vernot et al. 1977). Extrapolating this to sodium oxalate (MW=134.0 g/mole vs 90.04 g/mole for oxalic acid) yields an LD_{50} of 558 mg/kg.

After exclusion of the 30 duplicate values and the two erroneous values for acetylsalicylic acid and sodium oxalate, 459 records remained for further evaluation. **Figure H2-1** shows the frequency of the number of LD_{50} values retrieved for the 72 reference substances. The number of LD_{50} values identified for any one reference substance ranged from one to 29. The highest frequency was two LD_{50} values per reference substance (14 reference substances). The highest number of LD_{50} values retrieved for an individual reference substance (acetonitrile) was 29. A large number of LD_{50} values were also identified for hexachlorophene (21), ethylene glycol (19), and carbon tetrachloride (19). Only one LD_{50} value was identified for seven reference substances: aminopterin, digoxin, epinephrine bitartrate, glutethimide, physostigmine, and propranolol HCl.

Figure H2-1 Distribution of the Number of LD_{50} Values Per Reference substance



Bars show number of reference substances with the noted number of LD_{50} values for the 459 oral LD_{50} values remaining after the exclusion of 30 duplicate values and two erroneous values.

H.2.1 Protocols Used for the Candidate Reference Data

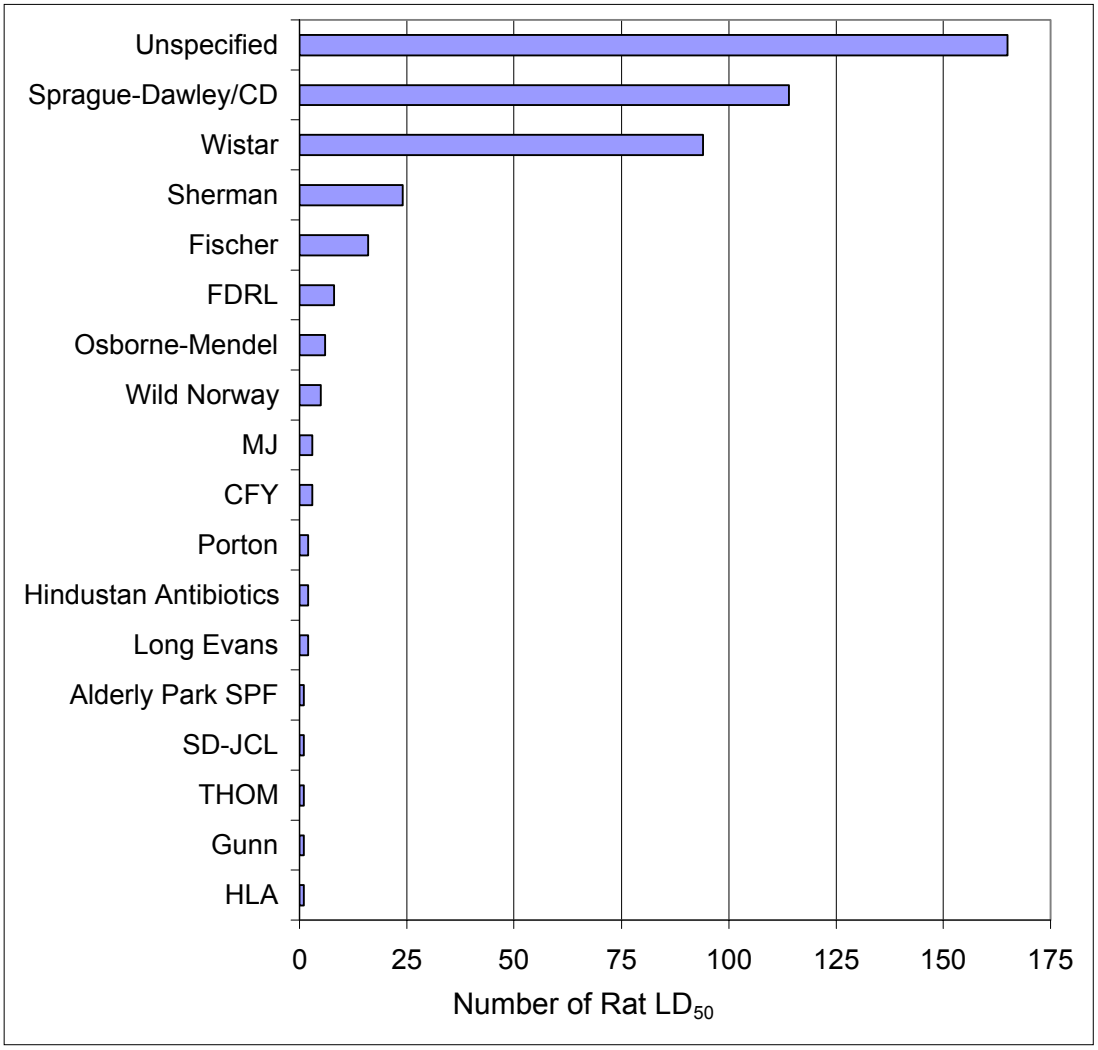
The LD_{50} data were collected using various protocols; however, information on the protocol details was often incomplete due to limited documentation in the reports. The 459 remaining data records exhibited the following characteristics:

- 64% (293/459) specified the stock or strain of rodent used. The remaining 36% (167/459) that did not specify the stock/strain described rats as rats, albino rats, white rats, rats of different strains, and mice were described as mice.
- 63% (290/459) included age or weight information for the rodents.
- 77% (354/459) specified the gender of the rodent.
- 66% (305/459) stated the method used to calculate the LD_{50}.
- 48% (221/459) reported the number of rodents used at each dose and 47% (216/459) reported the total number of rodents used.
- 26% (118/459) specified the doses used.
- 14% (66/459) quantitatively specified the purity of the reference substance used. Of the remaining records, 18% (83/459) described the purity qualitatively using such terms as “technical grade,” “pure,” “reagent grade,” and “pharmaceutical grade,” 11% (51/459) named only the source of the reference substance, and 56% (259/459) provided no information on the reference substance.
- 13% (61/459) reported the deaths at each dose.

Although many LD_{50} studies did not specify the strain or stock of rat used, the 293 studies that provided this information indicated that Sprague-Dawley/CD rats were the strain most frequently used (see **Figure H2-2**). Wistar rats were also frequently used. Strains such as Alderly Park, SD-JCL, THOM, Gunn, and HLA were the least frequently used. Of the six mouse LD_{50} values, the strain was unspecified for two studies. The other four LD_{50} values were obtained using CD-1, MS/Ae, dd, and B6D1F1(BDF1) mice.

Of the 354 studies that reported rodent gender, the most frequently used gender for both rodents was male, which was used for 193 (55%) LD_{50} values. Female rodents were used for 104 (29%) LD_{50} values, both sexes were used for 55 (16%) LD_{50} values, and rodents of unspecified gender were used for 104 (29%) LD_{50} values.

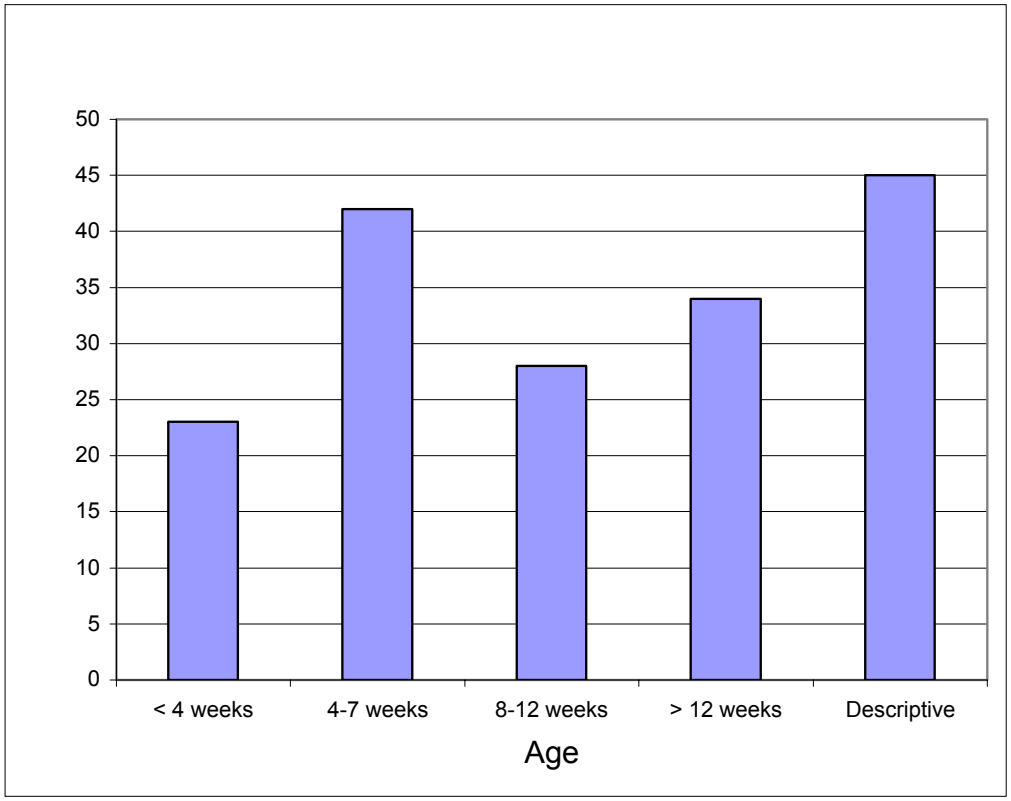
Figure H2-2 Distribution of Rat Stocks/Strains



Bars show number of rat oral LD_{50} records for each rat strain for the 453 rat values remaining after the exclusion of 30 duplicate values, two erroneous values, and six mouse values.

The age of the rodents used for the acute oral lethality studies also varied. Of the 174 LD_{50} studies that reported age, the most frequently used age was 4-7 weeks, which was reported for 42 (24%) LD_{50} values (see **Figure H2-3**). The majority of the reported ages were descriptive. Forty-five (26%) LD_{50} values used rodents that were described as young, adults, young adults, or older adults. Thirty (17%) LD_{50} studies used 8-12 week old rodents, which is the age recommended by current oral acute toxicity test guidelines (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a). Twenty-three (13%) LD_{50} values were determined using rodents less than four weeks of age, and 34 (20%) LD_{50} values were determined using rodents greater than 12 weeks old.

Figure H2-3 Distribution of Rat and Mouse Ages



Bars show the number of rat and mouse LD_{50} records that report using animals of the specified ages. Descriptive indicates that age was described qualitatively (e.g., adult, juvenile).

The duration of animal observation was not specified for 39% (179/459) of the LD_{50} reports. Of the 280 (61%) studies that reported the duration of observation, 136 (48%) reported an observation period of 14 days, which is recommended in the current oral acute toxicity test guidelines (OECD 2001a, c, d; EPA 2002a). The second most commonly used observation period was seven days, which was reported by 59 (21%) studies. Clinical signs were reported in 30% (137/459) of the studies.

Of the 305 studies that reported the method used to calculate the LD_{50} value, the most frequently used were the graphical log-probit methods such as Litchfield and Wilcoxon (1949), with 99 (33%) LD_{50} values, and Miller and Tainter (1944), with 24 (8%) LD_{50}

values. The maximum likelihood probit method of Bliss (1938) and modifications were used for the calculation of 46 (15%) LD_{50} values. An additional 36 (12%) LD_{50} values were calculated using methods referred to in a general way as probit or log probit methods. The moving average method, such as that of Thompson (1947) or Weil (1952), was cited for 57 (19%) LD_{50} values. Thirteen (4%) LD_{50} values were described as being calculated by one method or another (e.g., by Weil or Litchfield and Wilcoxon), or by methods that were described generally, such as graphical or approximative. Some of the least frequently used methods were linear regression (six values), UDP (four values), and linear interpolation (one value). Estimates of variability such as confidence limits, standard error, or standard deviation were included in 62% (283/459) of the LD_{50} reports, but only 6% (28/459) included slopes.

H.2.2 Final Reference Values

Based on the study exclusion criteria described in **Section 4.1.2**, 73 (16%) of the 459 records identified were excluded. Thirty-one LD_{50}values were excluded because they were reported as ranges, 21 were excluded because the rats were less than four weeks old, five were excluded because the rats were feral, five were excluded because the rats were anesthetized, and four were excluded because the reference substance administered was mixed with food. Additionally, four LD_{50} values for copper sulfate pentahydrate were excluded because very low purity (i.e., ≤20%) reference substance was used. Three LD_{50} values were excluded because they were outliers at the 99% level (Dixon and Massey 1981) compared with the rest of the values for the particular reference substance. These included one ethylene glycol value of 17,800 mg/kg (range of the other 16 values=4000-9900 mg/kg), one meprobamate value of 794 mg/kg (range of other six values=1286-1522 mg/kg), and one mercury chloride value of 160 mg/kg (range of other 10 values=12-92 mg/kg). **Appendix H-1** provides the individual rationale for each LD_{50} value excluded by shading the cell that contains the reason for exclusion.

Triethylenemelamine, trichloroacetic acid, and xylene had the largest confidence limits in proportion to the geometric means. The confidence limits for triethylenemelamine and xylene were calculated from four LD_{50} values while those for trichloroacetic acid were calculated with five LD_{50} values. Nicotine and 2-propanol had the smallest confidence limits even though the number of values per reference substance were similar to that for the reference substances with large confidence limits (nicotine N=4, 2-propanol N=6).

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix I

In Vitro NRU Data

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix I1

3T3 NRU Reference Substance Data

[This Page Intentionally Left Blank]

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
ACETAMINOPHEN															
IIVS															
A1	RF	AA61HU	30.8	0.203	0.266	0.88%	2	6	0.9628	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61HU	32.1	0.212	0.457	0.71%	3	5	0.9728	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61HU	54.8	0.363	0.402	4.77%	2	5	0.9221	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61HU	43.3	0.286	0.356	1.85%	3	5	0.9794	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61LR-A1	RF	AA61LR	66.8	0.442	0.253	4.38%	2	0	0.9619	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-14
AA61LR-B1	DF	AA61LR	30.3	0.200	0.449	13.54%	5	3	0.9875	200, 136, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	YES			SLS-P38
AA61LR-B2	DF	AA61LR	46.1	0.305	0.298	3.30%	4	4	0.9557	200, 136, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	YES			SLS-P39
AA61LR-B3	DF	AA61LR	46.1	0.305	0.407	3.13%	4	4	0.9855	200, 136, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	YES			SLS-P42
FRAME															
FAL.3T3.PY.A1.21.10.04	RF	AA61PY	62.1	0.411	0.212	1.41%	2	6	0.9541	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.PY.B1.26.11.04	DF	AA61PY	92.3	0.610	0.290	3.71%	4	2	0.9374	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.PY.B2.02.12.04	DF	AA61PY	57.1	0.378	0.194	4.85%	6	2	0.9518	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.03.12.04
FAL.3T3.PY.B3.09.12.04	DF	AA61PY	49.1	0.325	0.416	1.16%	6	2	0.9672	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.09.12.04
ACETONITRILE															
IIVS															
A1	RF	AA61GF	NA	NA	0.393	2.29%	0.0	7	0.0319	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61GF	18100	441.25	0.305	45.66%	2	3	0.8837	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	NO	% VC difference >15	VC1 ODs lower than VC2 values; volatility issues. VC1 removed from subsequent analysis.	SLS-B6
B2	DF	AA61GF	10500	256.854	0.426	0.14%	4	1	0.9638	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES		OD measured 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength; plate sealer used; outliers removed by SD; ppt in 1X C1-C4	SLS-B11
B3	DF	AA61GF	8070	196.647	0.330	3.56%	6	2	0.9540	20000, 16667,13889, 11574, 9645, 8038, 6698, 5582	1.2	YES		plate sealer used	SLS-B12
B4	DF	AA61GF	9420	229.449	0.336	0.05%	4	4	0.8516	20000, 16667,13889, 11574, 9645, 8038, 6698, 5582	1.2	YES		plate sealer used; outliers removed by SD	SLS-B13
B5	DF	AA61GF	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
ECBC															
AA61PH-A1	RF	AA61PH	NA	NA	0.309	4.26%	0	0	NA	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	no toxicity detected	SLS-P1
AA61PH-A2	RF	AA61PH	NA	NA	0.308	36.98%	2	3	NA	200000, 20000, 2000, 200, 20, 2, 0.2, 0.02	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61PH-B1(sealer)	DF	AA61PH	NA	NA	0.372	19.13%	5	2	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15		SLS-P38

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61PH-B2 (sealer)	DF	AA61PH	NA	NA	0.257	29.42%	6	1	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15		SLS-P39
AA61PH-B3 (sealer)	DF	AA61PH	6340	154.414	0.448	7.35%	6	2	0.9770	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			SLS-P41
AA61PH-B4 (sealer)	DF	AA61PH	6580	160.209	0.445	14.54%	4	2	0.9796	40000, 27211, 18511, 12592, 8566, 5827, 3964, 2697	1.47	YES			SLS-P43
AA61PH-B5 (sealer)	DF	AA61PH	6380	155.484	0.453	4.90%	5	3	0.9823	40000, 27211, 18511, 12592, 8566, 5827, 3964, 2697	1.47	YES			SLS-P45
FRAME															
FAL3T3.PL.A1.22-01-04	RF	AA61PL	NA	NA	0.439	1.52%	0	3	0.0000	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.PL.B1.29-01-04	DF	AA61PL	56800	1382.569	0.404	17.45%	1	4	0.8826	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	NO	%VC difference >15	volatility problem; C1 alkaline	FAL3T3.SLS.29-01-04
FAL3T3.PL.B2.05-02-04	DF	AA61PL	6920	168.534	0.230	62.44%	2	2	0.9721	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	NO	PC failed; % VC difference > 15	problem with reservoir liners; volatility issue; VC1 <<< VC2	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL3T3.PL.B4.25-02-04	DF	AA61PL	NA	NA	0.331	71.55%	3	1	NA	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	NO	%VC difference >15; possible volatility problem		FAL3T3.SLS.25.02.04
FAL3T3.PL.B5.29-04-04	DF	AA61 PL	15200	371.267	0.327	2.12%	2	4	0.8985	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES		heated C1-C3 to dissolve	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL3T3.PL.B6.06-05-04	DF	AA61 PL	9930	241.928	0.334	5.53%	3	5	0.9631	30000, 20408, 13883, 9444, 6425, 4371, 2973, 2023	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.06/05/04
FAL3T3.PL.B7.20/05/04	DF	AA61 PL	6490	158.011	0.344	19.62%	2	4	0.8881	30000, 13953, 6490, 3019, 1404, 653, 304, 141	2.15	NO	%VC difference >15; possible volatility problem	SD having difficulty in using plate covers for volatility problems	FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL3T3.PL.B8.27/05/04	DF	AA61 PL	3940	95.871	0.354	7.19%	3	3	0.9226	30000, 13953, 6490, 3019, 1404, 653, 304, 141	2.15	YES		C1-C3 heated to dissolve	FAL.3T3.SLS.27/05/04

ACETYLSALICYLIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61HM	480	2.662	0.371	2.14%	1	2	0.9294	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61HM	344	1.911	0.413	7.89%	5	3	0.9635	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61HM	467	2.590	0.394	1.04%	4	4	0.9853	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61HM	392	2.174	0.383	1.33%	4	4	0.9724	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61ME-A1	RF	AA61ME	175	0.969	0.256	7.03%	1	6	0.7065	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P9
AA61ME-B1	DF	AA61ME	589	3.268	0.344	6.13%	2	2	0.9566	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P30
AA61ME-B2	DF	AA61ME	711	3.947	0.304	4.93%	2	6	0.9182	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P32
AA61ME-B3	DF	AA61ME	637	3.534	0.345	0.84%	2	4	0.9244	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P34
FRAME															
FAL.3T3.JA.A1.21.05.04	RF	AA61JA	1110	6.169	0.190	4.35%	0	1	0.5653	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points 0 - 50%		FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.JA.B1.04.06.04	DF	AA61JA	1290	7.149	0.358	12.22%	2	6	0.9869	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.06.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.JA.B2.18.06.04	RF	AA61JA	1500	8.342	0.471	8.60%	1	5	0.9217	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES		outlier removed by SD from VC1	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.JA.B3.08.07.04	DF	AA61JA	912	5.061	0.262	0.73%	3	5	0.9499	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.08.07.04
AMINOPTERIN															
IIVS															
A1	RF	AA61JD	0.006	0.00001	0.449	1.25%	6	1	0.8361	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61JD	0.006	0.00001	0.310	1.69%	4	4	0.8810	0.02, 0.013, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026, 0.0018, 0.0012	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61JD	0.004	0.00001	0.402	1.66%	5	3	0.8854	0.02, 0.013, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026, 0.0018, 0.0012	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61JD	0.003	0.00001	0.461	0.11%	6	2	0.8529	0.02, 0.013, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026, 0.0018, 0.0012	1.5	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61JD	0.005	0.00001	0.300	0.33%	5	1	0.8025	0.02, 0.013, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026, 0.0018, 0.0012	1.5	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61MB-A1	RF	AA61MB	0.012	0.00003	0.373	14.44%	6	2	0.6985	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	low r2; range finder		SLS-P4
AA61MB-A2	RF	AA61MB	0.014	0.00003	0.470	22.09%	6	1	0.7532	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	NO	low r2;% VC difference > 15; range finder		SLS-P5
AA61MB-B1	DF	AA61MB	0.007	0.00002	0.435	3.5%	4	1	0.8625	0.1000, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P7
AA61MB-B2	DF	AA61MB	0.004	0.00001	0.400	5.46%	5	1	0.8409	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0013	1.47	NO	PC failed		SLS-P9
AA61MB-B3	DF	AA61MB	0.005	0.00001	0.383	11.29%	5	1	0.8251	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0013	1.47	YES			SLS-P11
AA61MB-B4	DF	AA61MB	0.005	0.00001	0.544	7.46%	5	2	0.8840	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0013	1.47	YES			SLS-P14
FRAME															
A1PU190603	RF	AA61PU	0.146	0.00033	0.550	2.01%	6	0	0.6490	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	PC failed; no points between 50 - 90%; low r2		A1SLS190603
FAL.3T3.PU.A2.26.06.03	RF	AA61PU	NA	NA	0.446	4.4%	8	0	0.0669	3.50, 2.38, 1.62, 1.10, 0.75, 0.51, 0.35, 0.24	1.47	NO	no points between 10 - 50%; low r2; range finder		FAL.3T3.SLS.A2.26.06.03
FAL.3T3.PU.B1.03.07.03	DF	AA61PU	NA	NA	0.453	0.09%	8	0	NA	0.100, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005, 0.002, 0.001, 0.0005	2.13	NO	PC failed; no points between 10 - 50; r2 not available		FAL.3T3.SLS.B1.03.07.03
FAL.3T3.B2.PU.10.07.03	DF	AA61PU	NA	NA	0.451	3.11%	8	0	0.0018	0.100, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005, 0.002, 0.001, 0.0005	2.13	NO	no points between 50 - 90%; low r2		FAL.3T3.SLS.10.07.03
FAL.3T3.B7.PU.17.10.03	DF	AA61PU	0.00583	0.00001	0.302	10.79%	1	4	0.8196	0.010, 0.005, 0.002, 0.0010, 0.0005, 0.0002, 0.0001, 0.00005	2.5	YES			FAL.3T3.SLS.171003
FAL.3T3.B8.PU.30.10.03	DF	AA61PU	0.0129	0.00003	0.361	0.21%	1	4	0.9443	0.022, 0.010, 0.005, 0.0022, 0.0010, 0.0005, 0.0002, 0.0001	2.2	YES			FAL.3T3.SLS.301003
FAL.3T3.B9.PU.31.10.03	DF	AA61PU	0.0166	0.00004	0.289	8.80%	2	2	0.8698	0.046, 0.021, 0.010, 0.0046, 0.0022, 0.001, 0.0005, 0.0002	2.2	YES			FAL.3T3.SLS.301003 (should be 311003)

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
5-AMINOSALICYLIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61GZ	NA	NA	0.448	0.95%	0	5	0.7520	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61GZ	1360	8.872	0.447	3.00%	1	7	0.9462	1500, 1154, 888, 683, 525, 404, 311, 239	1.3	YES			SLS-B6
B2	DF	AA61GZ	1610	10.520	0.451	0.98%	0	8	0.9642	1500, 1154, 888, 683, 525, 404, 311, 239	1.3	NO	no points between 0 - 50%	plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61GZ	1710	11.144	0.349	4.42%	2	6	0.9177	2500, 1786, 1276, 911, 651, 465, 332, 237	1.4	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B12
B4	DF	AA61GZ	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B5	DF	AA61GZ	1600	10.472	0.409	0.65%	2	6	0.9854	2500, 1786, 1276, 911, 651, 465, 332, 237	1.4	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B15
ECBC															
AA61KD-A1	RF	AA61KD	NA	NA	0.318	12.19%	0	4	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-11
AA61KD-B1	DF	AA61KD	1530	10.024	0.709	2.06%	1	7	0.9218	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			SLS-P46
AA61KD-B2	DF	AA61KD	1240	8.110	0.413	0.16%	2	6	0.9375	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			SLS-P47
AA61KD-B3	DF	AA61KD	1630	10.642	0.386	0.26%	2	6	0.9711	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			SLS-P49
FRAME															
FAL.3T3.PA.A1.21.05.04	RF	AA61PA	NA	NA	0.394	4.59%	0	1	0.5658	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.PA.B1.04.06.04	DF	AA61PA	1770	11.535	0.501	0.57%	1	7	0.9637	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.PA.B2.18.06.04	DF	AA61PA	2010	13.123	0.491	14.06%	1	4	0.8978	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.PA.B3.08.07.04	DF	AA61PA	2430	15.850	0.343	1.34%	1	4	0.8650	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.08.07.04
AMITRIPTYLINE HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61RF	5.45	0.017	0.327	1.25%	1	2	0.9939	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-A1
B1	DF	AA61RF	8.83	0.03	0.349	0.19%	2	5	0.9858	25.0, 16.7, 11.1, 7.41, 4.94, 3.29, 2.19, 1.46	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61RF	8.35	0.03	0.344	1.92%	2	2	0.9464	25.0, 16.7, 11.1, 7.41, 4.94, 3.29, 2.19, 1.46	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61RF	6.24	0.02	0.357	0.02%	2	2	0.9701	25.0, 16.7, 11.1, 7.41, 4.94, 3.29, 2.19, 1.46	1.5	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61PR-A1	RF	AA61PR	10.6	0.034	0.352	8.18%	0	5	0.8920	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-P4
AA61PR-B1	DF	AA61PR	6.26	0.020	0.384	2.37%	2	4	0.9661	80.0, 37.2, 17.3, 8.05, 3.74, 1.74, 0.81, 0.38	2.15	YES			SLS-P20
AA61PR-B2	DF	AA61PR	4.55	0.014	0.451	1.05%	2	5	0.9214	15.0, 10.2, 6.94, 4.72, 3.21, 2.19, 1.49, 1.01	1.47	YES			SLS-P22
AA61PR-B3	DF	AA61PR	7.28	0.023	0.577	2.79%	2	4	0.9701	15.0, 10.2, 6.94, 4.72, 3.21, 2.19, 1.49, 1.01	1.47	YES			SLS-P24
FRAME															
FAL.3T3.LE.A1.090104	RF	AA61LE	12.9	0.041	0.463	1.62%	1	3	0.9739	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.09/01/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL3T3.LE.B1.16.01.04	DF	AA61 LE	10.4	0.033	0.500	7.09%	3	4	0.9391	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL3T3.LE.B2.23.01.04	DF	AA61LE	6.48	0.021	0.347	13.33%	5	2	0.9709	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			FAL3T3.23-01-04
FAL3T3.LE.B3.30.01.04	DF	AA61LE	NA	NA	0.262	13.73%	5	3	NA	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	NO	SD rejects this experiment	serious NR crystal problem; SD rejects this experiment	FAL.3T3.SLS.29/01/04
FAL3T3.LE.B4.06-02-04	DF	AA61LE	6.70	0.021	0.325	5.48%	5	3	0.9586	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES		possible NR crystals present; blanks slightly higher than usual	FAL.3T3.SLS.06/02/04
ARSENIC III TRIOXIDE															
IIVS															
A1 Preliminary	RF	AA61FX	1.50	0.008	0.409	2.18%	0	1	0.9861	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61FX	3.17	0.016	0.529	5.69%	1	2	0.9787	100, 46.4, 21.6, 10.0, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.16	YES		not fully soluble at 200 ug/ml; part. observed at 100 ug/ml	SLS-B1
B2	DF	AA61FX	2.47	0.012	0.485	1.29%	1	2	0.9875	100, 46.4, 21.6, 10.0, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.16	YES		not fully soluble at 200 ug/ml; part. observed at 100 ug/ml	SLS-B2
B3	DF	AA61FX	6.63	0.034	0.599	6.19%	1	3	0.9597	100, 46.4, 21.6, 10.0, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.16	YES		not fully soluble at 200 ug/ml; part. observed at 100 ug/ml	SLS-B3
ECBC															
ECBC-3T3-lb-01 AA61KU-A1	RF	AA61KU	18.3	0.093	0.414	3.18%	1	2	0.6456	25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025,0.00025, 0.000025, 0.0000025	10	RF	range finder		SLS-P1
ECBC-3T3-lb-02 AA61KU-B1	DF	AA61KU	2.39	0.012	0.340	0.32%	3	0	0.8812	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	NO	No points between 50 and 90%; PC failed		SLS-P3
ECBC-3T3-lb-03 AA61KU-B2	DF	AA61KU	2.57	0.013	0.405	4.55%	3	1	0.9221	34.2, 23.2, 15.8, 10.8, 7.3, 5.0, 3.4, 2.3	1.47	NO	PC failed		SLS-P4
ECBC-3T3-lb-04 AA61KU-B3	DF	AA61KU	3.07	0.016	0.777	7.74%	3	2	0.9511	25.0, 17.0, 11.6, 7.9, 5.4, 3.6, 2.5, 1.7	1.47	YES			SLS-P5
ECBC-3T3-lb-05 AA61KU-B4	DF	AA61KU	2.53	0.013	0.419	0.20%	4	1	0.9580	25.0, 17.0, 11.6, 7.9, 5.4, 3.6, 2.5, 1.7	1.47	YES			SLS-P7
ECBC-3T3-lb-06 AA61KU-B5	DF	AA61KU	2.74	0.014	0.606	3.92%	2	2	0.9663	25.0, 17.0, 11.6, 7.9, 5.4, 3.6, 2.5, 1.7	1.47	YES			SLS-P9
ECBC-3T3-lb-07 AA61KU-B6	DF	AA61KU	1.28	0.006	0.393	6.66%	3	1	0.9680	15.0, 10.2, 6.9, 4.7, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0	1.47	YES			SLS-P12
FRAME															
1b3T3RF01FALNC	RF	AA61NC	6.85	0.035	0.426	3.32%	1	4	0.9380	100, 20, 4, 0.8, 0.16, 0.032, 0.0064, 0.00128	5	RF	range finder		1b3T3CTRFALSLS 12/17/02
1b3T3RF02FALNC	RF	AA61NC	2.77	0.014	0.543	8.42%	0	0	0.6786	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5, 3.4	1.47	RF	range finder	NR crystals in plate	1b3T3CTRFALSLS 1/7/03
1b3T3RF02FALNC	RF	AA61NC	1.48	0.007	0.247	12.73%	2	3	0.8760	10, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	RF	range finder	NR crystals in plate; stopped after 1 h	1b3T3CTRFALSLS 1/8/03
1b3T3DF01FALNC	DF	AA61NC	0.328	0.002	0.669	4.88%	1	0	0.5431	24, 16.33, 11.11, 7.56, 5.14, 3.5, 2.38, 1.61	1.47	NO	No points between 50 & 90% viability; r2 < 0.8	Didn't reach 50% viability	1b3T3CTRFALSLS 1/14/03
1b3T3DF02FALNC	DF	AA61NC	1.74	0.009	0.363	3.42%	3	0	0.9517	28.5, 19.39, 13.19, 8.97, 6.1, 4.15, 2.82, 1.92	1.47	NO	No points between 50 & 90% viability; PC failed	Didn't reach 50% viability	1b3T3CTRFALSLS 1/15/03
1b3T3DF03FALNC	DF	AA61NC	1.05	0.005	0.742	0.84%	3	3	0.9163	7.000, 4.762, 3.239, 2.204, 1.499, 1.020, 0.694, 0.472	1.47	YES			1b3T3CTRFALSLS 1/21/03
1b3T3DF04FALNC	DF	AA61NC	1.39	0.007	0.303	15.26%	2	4	0.9591	7, 4.76, 3.24, 2.20, 1.50, 1.02, 0.69, 0.47	1.47	NO	NR crystals in plate; stopped after 1 h; PC failed		1b3T3CTRFALSLS 1/28/03
1b3T3DF09FALNC	DF	AA61NC	1.25	0.006	0.624	1.40%	1	3	0.9671	7, 4.76, 3.24, 2.20, 1.50, 1.02, 0.69, 0.47	1.47	NO	PC failed		1b3T3CTRFALSLS 1/29/03

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
1b3T3DF06FALNC	DF	AA61NC	0.984	0.005	0.569	0.76%	1	2	0.9099	2.500, 1.701, 1.157, 0.787, 0.535, 0.364, 0.248, 0.169	1.47	YES			1b3T3CTRFALSLS 2/403
1b3T3DF07FALNC	DF	AA61NC	1.00	0.005	0.639	1.80%	2	3	0.9303	5.000, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	YES			1b3T3CTRFALSLS 2/5/03
1b3T3DF07(2)FALNC	DF	AA61NC	1.14	0.006	0.651	2.48%	2	2	0.9256	7, 4.76, 3.24, 2.20, 1.50, 1.02, 0.69, 0.47	1.47	YES			1b3T3CTRFALSLS 2/5/03
ATROPINE SULFATE															
IIVS															
A1	RF	AA61NE	50.4	0.072	0.391	0.62%	1	2	0.9941	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61NE	63.8	0.092	0.485	4.11%	3	5	0.8808	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		outlier removed by study dire	SLS-B4
B2	DF	AA61NE	71.1	0.102	0.374	1.70%	3	5	0.9230	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		G11 in VC2 not used; rec'd extra 100ul medium during seeding process;SD removed	SLS-B7
B3	DF	AA61NE	75.0	0.108	0.436	3.00%	2	6	0.9070	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		SD note: response curves in 3 valid DF similar & don't follow classic Hill response curve	SLS-B8
ECBC															
AA61KX-A1	RF	AA61KX	87.9	0.127	0.390	11.37%	1	5	0.9664	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P13
AA61KX-B1	DF	AA61KX	31.3	0.045	0.510	7.40%	3	3	0.9452	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P31
AA61KX-B2	DF	AA61KX	43.4	0.062	0.465	9.34%	3	4	0.9483	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P33
AA61KX-B3	DF	AA61KX	87.5	0.126	0.686	5.74%	3	4	0.9275	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P35
FRAME															
FAL.3T3.FU.A1.10.09.04	RF	AA61FU	461	0.664	0.384	4.08%	1	0	0.9358	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.FU.B1.16.09.04	DF	AA61FU	160	0.231	0.350	1.76%	5	3	0.9137	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.FU.B2.15.10.04	DF	AA61FU	153	0.221	0.342	2.06%	4	4	0.9807	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.FU.B3.28.10.04	DF	AA61FU	85.5	0.123	0.184	5.35%	5	3	0.9528	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.28.10.04
BORIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61LD	979	15.842	0.433	3.67%	1	6	0.9184	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61LD	1090	17.571	0.403	0.04%	4	4	0.9456	5000, 3125, 1953, 1221, 763, 477, 298, 186	1.6	YES			SLS-B6
B2	DF	AA61LD	685	11.087	0.486	2.50%	5	3	0.9462	5000, 3125, 1953, 1221, 763, 477, 298, 186	1.6	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61LD	1830	29.635	0.349	0.52%	2	4	0.9129	5000, 3125, 1953, 1221, 763, 477, 298, 186	1.6	YES			SLS-B12
ECBC															
AA61JH-A1	RF	AA61JH	897	14.514	0.329	0.46%	2	6	0.8984	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P12

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61JH-B1	DF	AA61JH	1150	18.570	0.477	1.66%	3	5	0.9684	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P31
AA61JH-B2	DF	AA61JH	1290	20.932	0.423	0.14%	4	4	0.9524	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P33
AA61JH-B3	DF	AA61JH	2050	33.098	0.691	5.22%	3	3	0.9571	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P35
FRAME															
FAL.3T3.GR.A1.10.09.04	RF	AA61GR	2000	32.270	0.394	4.32%	1	1	0.8608	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.GR.B1.16.09.04	DF	AA61GR	4320	69.791	0.351	10.82%	2	3	0.8630	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.GR.B2.23.09.04	DF	AA61GR	4450	71.912	0.336	3.84%	2	4	0.8582	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.GR.B3.14.10.04	DF	AA61GR	3190	51.618	0.319	3.58%	3	5	0.7925	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.14.10.04
BUSULFAN															
IIVS															
A1	RF	AA61RL	29.2	0.118	0.387	12.48%	1	6	0.8879	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61RL	41.7	0.169	0.425	3.61%	3	5	0.8760	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.4	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61RL	44.9	0.18	0.332	5.19%	5	3	0.8920	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61RL	44.6	0.18	0.332	3.79%	4	4	0.8775	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		plate sealer used	SLS-B10
ECBC															
AA61LH-A1	RF	AA61LH	97.3	0.395	0.360	3.64%	1	5	0.8554	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P4
AA61LH-B1	DF	AA61LH	57.3	0.233	0.293	3.70%	3	5	0.8885	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.88, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P18
AA61LH-B2	DF	AA61LH	44.6	0.181	0.385	6.29%	3	5	0.8764	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.88, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P20
AA61LH-B3	DF	AA61LH	19.4	0.079	0.463	0.58%	5	3	0.8778	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.88, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P21
FRAME															
FAL.3T3.JE.A1.09/01/04	RF	AA61JE	38.7	0.156	0.677	5.72%	1	4	0.9065	250, 25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025, 0.00025, 0.000025	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.09/01/04
FAL.3T3.JE.A2.16/01/04	DF	AA61JE	528	2.145	0.597	9.65%	1	7	0.7176	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL.3T3.JE.B1.23/01/04	DF	AA61JE	234	0.952	0.361	10.07%	1	6	0.9558	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		morphological changes seen at C5 but not noted in NRU	FAL3T3.23-01-04
FAL.3T3.JE.B2.30/01/04	DF	AA61JE	NA	NA	0.266	3.00%	0	6	NA	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	no points between 0-50; SD rejects this experiment	serious NR crystal problem; SD rejects this experiment	FAL.3T3.SLS.29/01/04
FAL.3T3.JE.B3.06-02-04	DF	AA61JE	202	0.819	0.308	7.09%	1	7	0.8537	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		possible NR crystals present; blanks slightly higher than usual	FAL.3T3.SLS.06/02/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
CADMIUM II CHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61NK	0.462	0.003	0.442	2.10%	1	3	0.9959	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61NK	1.31	0.007	0.325	0.39%	2	5	0.9811	3.0, 2.0, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61NK	0.575	0.003	0.382	8.48%	3	4	0.9735	3.0, 2.0, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61NK	0.529	0.003	0.407	1.25%	4	3	0.9907	3.0, 2.0, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61NK	0.565	0.003	0.336	4.71%	3	4	0.9832	3.0, 2.0, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61KR-A1	RF	AA61KR	0.620	0.003	0.346	0.53%	0	0	0.9671	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	no points between 10 -90%; range finder		SLS-P4
AA61KR-B1	DF	AA61KR	0.514	0.003	0.542	7.85%	2	4	0.8434	2.0, 1.361, 0.926, 0.630, 0.428, 0.291, 0.198, 0.135	1.47	YES			SLS-P6
AA61KR-B2	DF	AA61KR	0.530	0.003	0.496	3.06%	3	4	0.9625	2.0, 1.361, 0.926, 0.630, 0.428, 0.291, 0.198, 0.135	1.47	YES			SLS-P7
AA61KR-B3	DF	AA61KR	0.406	0.002	0.389	3.87%	2	3	0.9474	2.0, 1.361, 0.926, 0.630, 0.428, 0.291, 0.198, 0.135	1.47	YES			SLS-P10
FRAME															
A1JP190603	RF	AA61JP	0.973	0.005	0.523	1.02%	1	0	0.9777	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		A1SLS190603
FAL.3T3.JP.B1 .26.06.03	RF	AA61JP	0.547	0.003	0.463	3.71%	1	2	0.9748	5.0, 3.4, 2.3, 1.5, 1.1, 0.7, 0.5, 0.3	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.A2.26.06.03
FAL.3T3.JP.B2.03.07.03	DF	AA61JP	0.817	0.004	0.364	4.50%	1	1	0.9422	3.0, 2.04, 1.39, 0.94, 0.64, 0.44, 0.30, 0.20	1.47	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.B1.03.07.03
FAL.3T3.B3.JP.10.07.03	DF	AA61JP	0.343	0.002	0.484	1.25%	2	2	0.9894	3.0, 2.04, 1.39, 0.94, 0.64, 0.44, 0.30, 0.20	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.10.07.03
FAL.3T3.B4.JP.17.07.03	DF	AA61JP	0.309	0.002	0.549	0.47%	2	2	0.9837	3, 2.04, 1.39, 0.94, 0.64, 0.44, 0.30, 0.20	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17.07.03
CAFFEINE															
IIVS															
A1	RF	AA61JM	176	0.905	0.439	6.89%	1	1	0.9381	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61JM	183	0.941	0.510	0.72%	4	4	0.9939	1000, 625, 391, 244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61JM	208	1.073	0.379	8.66%	4	4	0.9793	1000, 625, 391, 244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	YES		outlier removed bySD	SLS-B7
B3	DF	AA61JM	183	0.944	0.452	1.60%	4	4	0.9857	1000, 625, 391, 244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61NU-A1	RF	AA61NU	119	0.613	0.457	8.10%	1	5	0.9548	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61NU-B1	DF	AA61NU	130	0.668	0.469	0.04%	3	4	0.9366	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P17
AA61NU-B2	DF	AA61NU	148	0.760	0.539	2.01%	3	5	0.9798	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P19
AA61NU-B3	DF	AA61NU	122	0.631	0.543	0.37%	3	5	0.9791	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P22

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FRAME															
FAL.3T3.GW.A1.09/01/04	RF	AA61GW	198	1.018	0.632	5.54%	1	6	0.8800	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.09/01/04
FAL.3T3.GW.A2.16.01.04 revised by NICEATM; bottom set to 0 as constant	DF	AA61GW	67.9	0.350	1.046	2.64%	6	2	0.9544	5000, 2325.6, 1081.7, 503.1, 234.0, 108.8, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL.3T3.GW.B1.23.01.04 revised by NICEATM; bottom set to 0 as constant	DF	AA61GW	228	1.174	0.562	0.19%	3	4	0.9827	5000, 1582, 501, 158, 50.1, 15.9, 5.02, 1.59	3.16	YES			FAL3T3.23-01-04
FAL.3T3.GW.B2.30.01.04	DF	AA61GW	NA	NA	0.315	1.72%	2	4	NA	5000, 1587, 504, 160, 51, 16, 5.1, 1.6	3.15	NO	SD rejects this experiment	serious NR crystal problem; SD rejects this experiment	FAL.3T3.SLS.29/01/04
FAL.3T3.GW.B3.06-02-04	DF	AA61GW	176	0.907	0.460	3.57%	3	5	0.9731	5000, 1587, 504, 160, 51, 16, 5.1, 1.6	3.15	YES			FAL.3T3.SLS.06/02/04
CARBAMAZEPINE															
IIVS															
A1	RF	AA61NB	NA	NA	0.281	6.74%	0	4	NA	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61NB	164	0.694	0.397	2.68%	0	8	0.5447	50.0, 38.5, 29.6, 22.8, 17.5, 13.5, 10.4, 7.97	1.3	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B6
B2	DF	AA61NB	88.7	0.375	0.381	8.51%	6	1	0.9179	300, 250, 208, 174, 145, 121, 100, 83.7	1.2	YES		C1 data removed from Hill analyses; plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61NB	104	0.441	0.318	1.57%	3	5	0.9379	200, 154, 118, 91.0, 70.0, 53.9, 41.4, 31.9	1.3	YES			SLS-B13
B4	DF	AA61NB	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4 (should be B5)	DF	AA61NB	82.6	0.350	0.403	5.68%	4	4	0.9465	200, 154, 118, 91.0, 70.0, 53.9, 41.4, 31.9	1.3	YES			SLS-B15
ECBC															
AA61LX-A1	RF	AA61LX	88.9	0.376	0.438	9.61%	1	0	0.8266	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-16
AA61LX-B1	DF	AA61LX	93.8	0.397	0.601	3.55%	3	5	0.9413	250, 170, 116, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	YES			SLS-P45
AA61LX-B2	DF	AA61LX	85.1	0.360	0.614	1.82%	2	6	0.9155	250, 170, 116, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	YES			SLS-P46
AA61LX-B3	DF	AA61LX	70.1	0.297	0.314	9.73%	3	5	0.9105	170, 116, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.8, 11.5	1.47	YES			SLS-P48
FRAME															
FAL.3T3.HD.A1.21.10.04	RF	AA61HD	107	0.451	0.190	1.01%	1	1	0.9436	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	outliers removed by SD; ppt in 1X C1 and 2X C1	FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.HD.B1.11.11.04	DF	AA61HD	217	0.917	0.217	2.35%	2	1	0.7684	1000, 318, 101, 32.0, 10.2, 3.2, 1.0, 0.3	3.15	YES		ppt in 2X C1-C2; &1X in C1	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.HD.B3.18.11.04 (should be B2 and 19.11.04)	DF	AA61HD	130	0.550	0.237	4.35%	3	2	0.9861	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2 & 1X in C1-C2	FAL.3T3.SLS.19.11.04
FAL.3T3.HD.B3.18.11.04	DF	AA61HD	110	0.466	0.241	0.24%	3	1	0.9107	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2 & 1X in C1-C3;	FAL.3T3.SLS.25.11.04
CARBON TETRACHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61JK	NA	NA	0.349	15.06%	0	2	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C3	SLS-A2
B1	DF	AA61JK	NA	NA	0.391	6.82%	0	5	NA	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C3	SLS-B6

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61JK	NA	NA	0.394	7.97%	0	1	NA	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C8; no toxicity detected	SLS-B9
B3	DF	AA61JK	NA	NA	0.368	3.76%	0	5	NA	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C8; some toxicity detected; C1 has lower toxicity than C2	SLS-B10
ECBC															
AA61NZ-A1	RF	AA61NZ	NA	NA	0.328	16.23%	0	6	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P9
AA61NZ-A2	RF	AA61NZ	NA	NA	0.419	7.89%	0	1	NA	3000, 300, 30, 3, 0.3, 0.03, 0.003, 0.0003	10	RF	range finder		SLS-P19
AA61NZ-B1	DF	AA61NZ	NA	NA	0.416	2.67%	0	8	NA	4500, 3719, 3074, 2540, 2099, 1735, 1434, 1185	1.21	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P65
AA61NZ-B2	DF	AA61NZ	NA	NA	0.567	3.83%	0	7	NA	7000, 5785, 4781, 3951, 3266, 2699, 2230, 1843	1.21	NO	no points between 0 - 50%	dilution factor is 1.21; no points between 0-50%; test would pass due to dilution factor	SLS-P67
AA61NZ-B3	DF	AA61NZ	NA	NA	0.536	8.16%	0	7	NA	7000, 5785, 4781, 3951, 3266, 2699, 2230, 1843	1.21	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1 - C5; oily	SLS-P73
FRAME															
FAL.3T3.HC.A1.30/04/04	RF	AA61HC	NA	NA	0.179	1.46%	0	1	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.30/04/04
FAL.3T3.HC.B1.06/05/0404	DF	AA61HC	NA	NA	0.218	2.75%	0	0	NA	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0 - 100%	SD ends testing and returns as non-toxic at 2500ug/ml	FAL.3T3.SLS.06/05/04
FAL.3T3.HC.B2.26.11.04	DF	AA61HC	NA	NA	0.253	12.16%	0	5	NA	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0 - 50%	the toxicity curve appears reversed; higher conc. less toxic than lower conc.	FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.HC.B3.03.12.04	DF	AA61HC	2430	15.776	0.179	3.22%	1	0	0.5412	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.03.12.04
FAL.3T3.HC.B4.09.12.04	DF	AA61HC	NA	NA	0.286	7.61%	0	6	NA	2500, 2066, 1708, 1411, 1166, 964, 797, 658	1.21	NO	no points between 0 - 50%		FAL.3T3.SLS.09.12.04
CHLORAL HYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FJ	56.2	0.340	0.469	87.75%	2	4	0.9868	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A2
B1	DF	AA61FJ	156	0.943	0.509	2.80%	2	6	0.9655	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61FJ	193	1.165	0.336	2.36%	2	5	0.9653	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		outliers removed by SD; plate sealer used	SLS-B7
B3	DF	AA61FJ	162	0.981	0.447	5.20%	2	6	0.9613	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		plate sealer used	SLS-B8
ECBC															
AA61KB-A1	RF	AA61KB	NA	NA	0.189	94.19%	3	0	NA	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	probable volatility problem; VC1 <<< VC2	SLS-P6
AA61KB-A2	RF	AA61KB	107	0.648	0.295	0.25%	0	1	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-P7
AA61KB-B1	DF	AA61KB	160	0.965	0.474	0.63%	3	5	0.9590	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P22
AA61KB-B2	DF	AA61KB	160	0.969	0.703	2.49%	3	5	0.9682	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P24
AA61KB-B3	DF	AA61KB	133	0.806	0.588	0.17%	3	5	0.9604	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P26
FRAME															

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.LK.A1.01/04/04	RF	AA61LK	711	4.300	0.271	69.44%	2	0	0.2684	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	possible volatility problem	FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.LK.B1.29/04/04	DF	AA61LK	243	1.470	0.287	5.23%	2	2	0.9262	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.LK.B2.06/05/04	DF	AA61LK	265	1.605	0.313	8.07%	4	4	0.9706	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.06/05/04
FAL.3T3.LK.B3.20/05/04	DF	AA61LK	1450	8.739	0.347	12.28%	0	1	0.9010	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	NO	no points between 0 - 50%	curve very different compared to other curves	FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL.3T3.LK.B4.27/05/04	DF	AA61LK	215	1.302	0.412	4.39%	4	4	0.9575	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.27/05/04
CHLORAMPHENICOL															
IIVS															
A1	RF	AA61GJ	98.9	0.306	0.323	27.15%	1	1	0.1298	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61GJ	187	0.579	0.307	4.85%	2	6	0.9661	558, 310, 172, 95.7, 53.2, 29.5, 16.4, 9.11	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61GJ	148	0.458	0.421	0.91%	3	5	0.9649	558, 310, 172, 95.7, 53.2, 29.5, 16.4, 9.11	1.8	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61GJ	142	0.439	0.428	0.12%	3	5	0.9668	558, 310, 172, 95.7, 53.2, 29.5, 16.4, 9.11	1.8	NO	PC failed		SLS-B3
B3 with plate cover	DF	AA61GJ	171	0.529	0.345	4.49%	2	5	0.9683	558, 310, 172, 95.7, 53.2, 29.5, 16.4, 9.11	1.8	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61GJ	133	0.412	0.350	3.69%	3	5	0.9171	593, 329, 183, 102, 56.5, 31.4, 17.4, 9.69	1.8	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61JS-A1	RF	AA61JS	54.5	0.169	0.401	14.20%	1	4	0.7119	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	low r2; range finder		SLS-P4
AA61JS-B1	DF	AA61JS	88.5	0.274	0.440	20.33%	2	3	0.8484	1000, 300, 100, 30, 10, 3, 1, 0.3	3.33	NO	% VC difference > 15; range finder		SLS-P6
AA61JS-B2	DF	AA61JS	39.1	0.121	0.461	1.90%	2	4	0.9618	1000, 465.1, 216.3, 100.6, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P7
AA61JS-B3	DF	AA61JS	61.1	0.189	0.395	1.46%	3	4	0.8537	1000, 465.1, 216.3, 100.6, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P10
AA61JS-B4	DF	AA61JS	55.1	0.171	0.504	2.80%	3	4	0.9541	1000, 465.1, 216.3, 100.6, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P14
AA61JS-B5	DF	AA61JS	68.5	0.212	0.448	5.20%	3	4	0.9401	1000, 465.1, 216.3, 100.6, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P15
FRAME															
A1MU190603	RF	AA61MU	568	1.758	0.550	1.44%	1	0	0.9021	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	PC failed; no points between 50 - 90%; range finder		A1SLS190603
FAL.3T3.MU.B1.26.06.03	DF	AA61MU	276	0.854	0.491	13.66%	5	3	0.8425	1500, 1020, 690, 470, 320, 220, 150, 100	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.A2.26.06.03
FAL.3T3.MU.B2.03.07.03	DF	AA61MU	520	1.609	0.306	3.63%	2	2	0.8810	1250, 580, 270, 125, 58.5, 27.2, 12.6, 5.9	2.15	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.B1.03.07.03
FAL.3T3.B3.MU.10.07.03	DF	AA61MU	NA	NA	0.486	1.00%	0	2	NA	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	NO	no points between 10 - 50%		FAL.3T3.SLS.10.07.03
FAL.3T3.B3.MU.17.07.03 (should be B4?)	DF	AA61MU	237	0.733	0.455	1.91%	3	2	0.9782	2500, 1160, 540, 251, 117, 54.4, 25.3, 11.7	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.17.07.03
FAL.3T3.B4.MU.25.07.03 (should be B5?)	DF	AA61MU	385	1.191	0.379	0.65%	2	2	0.9291	2500, 1160, 540, 251, 117, 54.4, 25.3, 11.7	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.25.07.03
FAL.3T3.B5.MU.070803 (should be B6?)	DF	AA61MU	64.4	0.199	0.721	1.63%	4	4	0.8501	2500, 1160, 540, 251, 117, 54.4, 25.3, 11.7	2.15	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.070803
FAL.3T3.MU.B7.120903	DF	AA61MU	193	0.597	0.363	0.80%	4	4	0.9490	2500, 1162, 540, 251, 117, 54.4, 25.3, 11.7	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.120903

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
CITRIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61MH	1030	5.376	0.363	7.76%	1	2	0.8924	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61MH	681	3.54	0.389	3.15%	2	3	0.9722	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61MH	942	4.90	0.379	5.58%	1	4	0.9742	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61MH	971	5.05	0.381	1.66%	1	4	0.9858	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61HH-A1	RF	AA61HH	409	2.130	0.341	0.32%	2	5	0.9275	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P1
AA61HH-B1	DF	AA61HH	598	3.115	0.299	2.62%	4	4	0.9879	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P5
AA61HH-B2	DF	AA61HH	325	1.692	0.418	9.20%	4	2	0.9800	4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1, 21.9	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P8
AA61HH-B3	DF	AA61HH	497	2.585	0.423	1.95%	3	5	0.9732	4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1, 21.9	2.15	YES			SLS-P17
FRAME															
FAL.3T3.RB.A1.08/01/04	RF	AA61RB	1050	5.489	0.557	1.11%	1	1	0.8824	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.080104
FAL3T3.RB.A2.15-01-04	DF	AA61RB	668	3.479	0.730	5.04%	4	4	0.9467	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO	PC failed;		FAL.3T3.SLS.15/01/04
FAL3T3.RB.B1.22-01-04	DF	AA61RB	1080	5.617	0.411	1.38%	3	2	0.9403	5000, 2325.6, 1081.7, 503.1, 234.0, 108.8, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.RB.B2.29-01-04	DF	AA61RB	1050	5.476	0.423	12.11%	4	4	0.9575	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES		pH 3 fpr C1; SD suggests high pH may be cause of toxicity for this concentration;	FAL3T3.SLS.29-01-04
FAL3T3.RB.B3.05.02.04	DF	AA61RB	345	1.797	0.344	4.03%	7	0	0.8104	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	NO	PC failed; no points between 50-100	problem with reservoir liners; SD incorrectly determined 4 points between 50-100 instead of 0 points	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL3T3.RB.25-02-04	DF	AA61RB	1100	5.721	0.481	11.65%	4	4	0.9805	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES		definitive test B4	FAL3T3.SLS.25.02.04
FAL3T3.RB.B5.17.03.04	DF	AA61RB	1360	7.087	0.304	6.25%	2	2	0.9139	5000, 2325.6, 1081.7, 503.1, 234.0, 108.8, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.17/03/04
COLCHICINE															
IIVS															
A1	RF	AA61FL	0.027	0.0001	0.514	1.69%	5	1	0.9699	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61FL	0.028	0.0001	0.416	3.16%	4	4	0.9768	0.1, 0.067, 0.044, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059	1.49	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FL	0.028	0.0001	0.527	2.34%	4	4	0.9809	0.1, 0.067, 0.044, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059	1.49	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FL	0.037	0.0001	0.578	6.33%	3	2	0.9522	0.1, 0.067, 0.044, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059	1.49	NO	PC failed		SLS-B3

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B4	DF	AA61FL	0.028	0.0001	0.406	0.86%	4	2	0.9508	0.1, 0.067, 0.044, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059	1.49	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61JZ-A1	RF	AA61JZ	0.008	0.0000	0.369	3.91%	2	0	0.9383	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	PC failed; no points between 50 - 90%; range finder		SLS-P2
AA61JZ-B2	DF	AA61JZ	0.023	0.0001	0.595	8.49%	6	2	0.8811	0.200, 0.136, 0.093, 0.063,0.043, 0.029, 0.020, 0.013	1.47	YES			SLS-P8
AA61JZ-B3	DF	AA61JZ	0.018	0.0001	0.494	0.43%	6	2	0.9020	0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013, 0.009	1.47	YES			SLS-P9
AA61JZ-B4	DF	AA61JZ	0.019	0.0001	0.549	0.68%	4	2	0.9658	0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013, 0.009	1.47	YES			SLS-P12
AA61JZ-B5	DF	AA61JZ	0.022	0.0001	0.664	1.90%	6	1	0.9584	0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013, 0.009	1.47	YES			SLS-P13
FRAME															
FAL.3T3.A1.NW.200603	RF	AA61NW	0.088	0.0003	0.699	5.16%	6	0	0.4881	10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 50 - 90%; low r2; range finder		FAL.3T3.SLS2.A1.200603
FAL.3T3.A2.NW.27.06.03	RF	AA61NW	NA	NA	0.519	0.16%	8	0	0.2194	2.50, 1.16, 0.54, 0.25, 0.12, 0.05, 0.025, 0.012	2.15	RF	no points between 50 - 90%; low r2		FAL.3T3.SLS.A2.27.06.03
FAL.3T3.B1.NW.04.07.03	DF	AA61NW	0.184	0.0006	0.503	2.71%	5	1	0.7952	2.50, 1.16, 0.54, 0.25, 0.12, 0.05, 0.025, 0.012	2.15	NO	PC failed; low r2		FAL.3T3.SLS.04.07.03
FAL.3T3.B2.NW.11.07.03	DF	AA61NW	0.046	0.0001	0.532	4.41%	6	2	0.8093	2.50, 1.16, 0.54, 0.25, 0.12, 0.05, 0.025, 0.012	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.11.07.03
FAL.3T3.B3.NW.18.07.03 (recalculated to fit bottom)	DF	AA61NW	0.127	0.0004	0.481	5.60%	5	2	0.8882	5.00, 2.33, 1.08, 0.50, 0.234, 0.109, 0.051, 0.024	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.18.07.03
FAL.3T3.B5.NW.25.07.03	DF	AA61NW	0.106	0.0003	0.397	3.23%	5	3	0.8590	2.50, 1.16, 0.54, 0.25, 0.12, 0.05, 0.025, 0.012	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.25.07.03
CUPRIC SULFATE PENTAHYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61LA	4.02	0.016	0.496	4.40%	2	5	0.9647	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61LA	4.26	0.017	0.395	23.78%	3	1	0.6017	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	NO	% VC difference > 15	excessive variability within treatment and cotrol groups	SLS-B4
B2	DF	AA61LA	4.58	0.018	0.463	1.04%	3	3	0.9765	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES			SLS-B6
B3	DF	AA61LA	4.84	0.019	0.418	0.86%	3	3	0.9887	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B4	DF	AA61LA	7.73	0.031	0.375	2.20%	1	2	0.8726	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES			SLS-B12
ECBC															
AA61HX-A1	RF	AA61HX	50.7	0.203	0.461	2.51%	2	1	0.9661	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P8
AA61HX-B1	DF	AA61HX	86.3	0.346	0.604	0.57%	3	3	0.9913	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P26
AA61HX-B2	DF	AA61HX	81.7	0.327	0.668	3.02%	3	3	0.9623	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES			SLS-P28
AA61HX-B3	DF	AA61HX	80.2	0.321	0.447	5.54%	5	3	0.9336	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES			SLS-P29
FRAME															

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.LP.A1.21.05.04	RF	AA61LP	85.9	0.344	0.266	1.47%	2	0	0.5809	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.LP.B1.04.06.04	DF	AA61LP	99.1	0.397	0.415	9.90%	6	1	0.9314	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.LP.B2.17/06/04	DF	AA61LP	204	0.816	0.492	0.27%	3	1	0.9641	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.LP.B3.09.07.04	DF	AA61LP	106	0.425	0.408	0.31%	5	0	0.9552	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.LP.B4.14.10.04	DF	AA61LP	101	0.404	0.304	1.01%	3	0	0.9749	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.LP.B5.15.10.04	DF	AA61LP	138	0.552	0.303	7.50%	4	0	0.9352	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	no points between 50 - 100%	outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.LP.B6.21.10.04	DF	AA61LP	NA	NA	0.284	10.97%	7	0	0.0000	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.LP.B7.28.10.04	DF	AA61LP	91.8	0.368	0.211	3.94%	4	1	0.9658	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.28.10.04
FAL.3T3.LP.B8.04.11.04	DF	AA61LP	97.9	0.392	0.329	2.47%	5	2	0.9464	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	YES		outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.04.11.04
CYCLOHEXIMIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61GL	0.0873	0.0003	0.403	1.70%	5	1	0.9733	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61GL	0.101	0.0004	0.500	4.13%	6	2	0.9567	2.00, 1.11, 0.617, 0.343, 0.191, 0.106, 0.059, 0.033	1.8	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61GL	0.136	0.0005	0.363	2.02%	5	3	0.9053	2.00, 1.11, 0.617, 0.343, 0.191, 0.106, 0.059, 0.033	1.8	YES		outlier removed bySD	SLS-B7
B3	DF	AA61GL	0.0887	0.0003	0.444	0.43%	6	2	0.9577	2.00, 1.11, 0.617, 0.343, 0.191, 0.106, 0.059, 0.033	1.8	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61KK-A1	RF	AA61KK	0.102	0.0004	0.377	10.52%	5	0	0.9586	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P13
AA61KK-B1	DF	AA61KK	0.11	0.0004	0.659	9.97%	5	3	0.9666	3.00, 1.40, 0.649, 0.302,0.140, 0.065, 0.030, 0.014	2.15	YES			SLS-P37
AA61KK-B2	DF	AA61KK	0.0767	0.0003	0.412	3.79%	5	3	0.9698	3.00, 1.40, 0.649, 0.302,0.140, 0.065, 0.030, 0.014	2.15	YES			SLS-P40
AA61KK-B3	DF	AA61KK	0.187	0.0007	0.553	9.02%	4	4	0.9535	3.00, 1.40, 0.649, 0.302,0.140, 0.065, 0.030, 0.014	2.15	YES			SLS-P41
FRAME															
FAL.3T3.PF.A1.10.09.04	RF	AA61PF	1.89	0.0067	0.435	1.28%	4	2	0.9465	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.PF.B1.16.09.04	DF	AA61PF	0.0796	0.0003	0.334	6.16%	8	0	0.9819	465, 148, 46.9, 14.9, 4.7, 1.5, 0.476, 0.151	3.15	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.PF.B2.15.10.04	DF	AA61PF	1.12	0.0040	0.333	0.40%	4	2	0.8800	50.0, 15.9, 5.04, 1.60, 0.508, 0.161, 0.0512, 0.0162	3.15	YES			FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.PF.28.10.04	DF	AA61PF	0.00946	0.0000	0.272	2.42%	8	0	0.9126	50.0, 15.9, 5.04, 1.60, 0.508, 0.161, 0.0512, 0.0162	3.15	NO	no points between 0 - 50%	outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.28.10.04
FAL.3T3.PF.B4.04.11.04	DF	AA61PF	0.221	0.0008	0.282	7.83%	5	2	0.9566	50.0, 15.9, 5.04, 1.60, 0.508, 0.161, 0.0512, 0.0162	3.15	YES			FAL.3T3.SLS.04.11.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.PF.B5.11.11.04	DF	AA61PF	0.601	0.0021	0.266	5.33%	4	2	0.9235	50.0, 15.9, 5.04, 1.60, 0.508, 0.161, 0.0512, 0.0162	3.15	YES		outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.10.11.04
DIBUTYL PHTHALATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FD	13.5	0.048	0.371	2.38%	2	1	0.9701	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1-C2	SLS-A3
B1	DF	AA61FD	19.5	0.070	0.474	7.57%	4	2	0.9692	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-B5
B2	DF	AA61FD	20.4	0.073	0.393	4.01%	4	4	0.9786	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1	SLS-B9
B3	DF	AA61FD	22.2	0.080	0.338	1.43%	4	4	0.9749	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B10
ECBC															
AA61JX-A1	RF	AA61JX	127	0.458	0.245	7.41%	0	2	0.9266	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1 and 1X C1; higher than usual blank OD	SLS-P10
AA61JX-B1	DF	AA61JX	NA	NA	0.643	4.39%	NA	NA	NA	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	NO	odd toxicity curve; couldn't accurately calculate ICx values	toxicity curve goes up at the higher concentrations	SLS-P44
AA61JX-B2	DF	AA61JX	NA	NA	0.551	4.45%	N/A	N/A	NA	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	NO	odd toxicity curve; couldn't accurately calculate ICx values	toxicity curve goes up at the higher concentrations	SLS-P46
AA61JX-B3	DF	AA61JX	NA	NA	0.627	6.38%	0	8	NA	60.0, 40.8, 27.8, 18.9, 12.8, 8.74, 5.95, 4.05	1.47	NO	PC failed; no points between 0 - 50%		SLS-P60
AA61JX-B4	DF	AA61JX	19.8	0.071	0.491	8.85%	5	3	0.8450	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES			SLS-P63
AA61JX-B5	DF	AA61JX	27.7	0.099	0.442	3.39%	3	5	0.7470	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES		1X C1-C4 have small globules; highest conc. (C7, C8) less toxicity than C3-C6	SLS-P67
AA61JX-B6	DF	AA61JX	22.9	0.082	0.342	4.56%	4	3	0.9178	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES		1X C1-C4 have small globules; highest conc. (C7, C8) less toxicity than C3-C4	SLS-P69
FRAME															
FAL.3T3.MK.A1.21.05.04	RF	AA61MK	104	0.372	0.225	1.44%	1	1	0.7617	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.MK.B1.04.06.04	DF	AA61MK	306	1.100	0.429	4.08%	3	5	0.8027	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		ppt in 1X C1-C8 and 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.MK.B2.17.06.04	DF	AA61MK	74.6	0.268	0.410	0.20%	5	3	0.9555	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 1X C1-C4 and 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.MK.B3.09.07.04	DF	AA61MK	190	0.683	0.304	0.47%	4	4	0.9592	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 1X C1-C8 and 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.MK.B4.25.11.04	DF	AA61MK	192	0.689	0.319	2.64%	3	5	0.9167	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C3;	FAL.3T3.SLS.25.11.04
DICHLORVOS															
IIVS															
A1	RF	AA61NP	8.66	0.039	0.341	83.42%	1	1	0.9677	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	VC1 Ods < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A3
B1	DF	AA61NP	16.9	0.076	0.347	8.46%	3	5	0.9602	70.0, 38.9, 21.6, 12.0, 6.67, 3.70, 2.06, 1.14	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61NP	17.3	0.078	0.321	0.23%	3	3	0.9593	70.0, 38.9, 21.6, 12.0, 6.67, 3.70, 2.06, 1.14	1.8	YES			SLS-B2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61NP	20.7	0.093	0.366	4.92%	3	2	0.9733	70.0, 38.9, 21.6, 12.0, 6.67, 3.70, 2.06, 1.14	1.8	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61PZ-A1	RF	AA61PZ	NA	NA	0.121	98.38%	3	0	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	probable volatility problem; VC1 <<< VC2; higher than usual blank OD	SLS-P10
AA61PZ-A2 (sealer)	RF	AA61PZ	13.7	0.062	0.473	4.53%	0	5	0.9461	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P43
AA61PZ-B1 (sealer)	DF	AA61PZ	NA	NA	0.242	11.12%	3	4	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed		SLS-P50
AA61PZ-B2 (sealer)	DF	AA61PZ	NA	NA	0.256	6.09%	4	4	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed		SLS-P52
AA61PZ-B3 (sealer)	DF	AA61PZ	12.1	0.055	0.503	12.85%	2	5	0.9711	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P54
AA61PZ-B4 (sealer)	DF	AA61PZ	NA	NA	0.322	25.27%	2	5	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed; % VC difference > 15		SLS-P56
AA61PZ-B5 (sealer)	DF	AA61PZ	5.90	0.027	0.298	7.56%	3	4	0.9166	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P58
AA61PZ-B6 (sealer)	DF	AA61PZ	11.1	0.050	0.421	3.01%	3	4	0.9466	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed		SLS-P60
AA61PZ-B7 (sealer)	DF	AA61PZ	11.5	0.052	0.347	2.26%	2	5	0.9275	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		C1 conc. seems to interact with NR; toxicity curve going in opposite direction at this point	SLS-P62
FRAME															
FAL.3T3.HS.A1.21.05.04	RF	AA61HS	57.8	0.262	0.119	90.83%	2	0	0.1864	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; % VC difference > 15; no points between 50 - 100%	volatility problem	FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.HS.B1.04.06.04	DF	AA61HS	35.0	0.158	0.371	5.60%	3	3	0.9832	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.HS.B2.18.06.04	DF	AA61HS	30.9	0.140	0.685	1.85%	3	4	0.9772	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.HS.B3.08.07.04	DF	AA61HS	32.5	0.147	0.209	11.98%	2	2	0.9328	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.08.07.04

DIETHYL PHTHALATE

IIVS															
A1	RF	AA61NX	276	1.242	0.232	5.28%	1	1	0.1408	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	the solvent controls treated with 1% DMSO instead of 0.5%	SLS-A4
B1	DF	AA61NX	135	0.607	0.369	9.08%	3	2	0.9536	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B5
B2	DF	AA61NX	97.1	0.437	0.338	6.11%	4	3	0.9853	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B9
B3	DF	AA61NX	87.1	0.392	0.342	4.96%	5	3	0.9870	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B10
ECBC															
AA61GA-A1	RF	AA61GA	115	1.086	0.230	6.44%	1	1	0.9260	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P12
AA61GA-B1	DF	AA61GA	119	0.536	0.323	6.29%	4	4	0.9776	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P32
AA61GA-B2	DF	AA61GA	68.1	0.306	0.324	4.70%	5	3	0.9414	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P34
AA61GA-B3	DF	AA61GA	69.5	0.313	0.552	0.35%	5	3	0.9527	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.3T3.KZ.A1.10.09.04	RF	AA61KZ	148	0.666	0.259	12.82%	1	2	0.7507	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.KZ.B1.16.09.04	DF	AA61KZ	176	0.791	0.239	15.05%	3	3	0.9712	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		outlier removed bySD; ppt in 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.16.09.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.KZ.B2.15.10.04	DF	AA61KZ	160	0.720	0.244	1.62%	3	5	0.9759	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.KZ.B3.28.10.04	DF	AA61KZ	104	0.469	0.185	4.87%	3	3	0.9759	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.28.10.04
DIGOXIN															
IIVS															
A1	RF	AA61MF	310	0.398	0.350	0.21%	1	1	0.9022	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	*ppt in 2X C1 and in 1X C1*	SLS-A3
B1	DF	AA61MF	269	0.344	0.427	6.41%	1	3	0.8853	1000, 588, 346, 204, 120, 70.4, 41.4, 24.4	1.7	YES		ppt in 1X C1-C3 & 2X C1; SD removed C1 & C2 from PRISM to get Hill analysis; ppt in 1X C1 and C2 caused upswing in the toxicity curve	SLS-B5
B2	DF	AA61MF	NA	NA	0.308	9.13%	0	3	NA	400, 267, 178, 119, 79.0, 52.7, 35.1, 23.4	1.5	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1	SLS-B13
B3	DF	AA61MF	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61MF	365	0.467	0.296	2.70%	0	4	0.5436	1000, 556, 309, 171, 95, 53, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1-C2; SD removed C1 & C2 from PRISM analyses; no points left between 0-50% viability; SD accepts test	SLS-B15
B5	DF	AA61MF	1500	1.925	0.335	4.20%	0	4	0.3342	1000, 556, 309, 171, 95, 53, 29.4, 16.3	1.8	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C2; SD ends testing of chemical; solubility limits have been reached	SLS-B16
ECBC															
AA61PP-A1	RF	AA61PP	123	0.157	0.238	3.43%	1	4	0.8888	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1 and 2X C1; higher than usual blank OD	SLS-P10
AA61PP-B1	DF	AA61PP	NA	NA	0.344	6.81%	0	6	NA	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	NO	no points between 0 - 50%	crystals in !x C1-C2; not like NR crystals	SLS-P40
AA61PP-B2	DF	AA61PP	475	0.609	0.463	6.42%	2	3	0.8877	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES		crystals in 1X C1-C2; not like NR crystals; C1 toxicity less than C2	SLS-P42
AA61PP-B3	DF	AA61PP	204	0.261	0.452	4.45%	5	3	0.6366	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99, 67	1.47	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C5 (large chemical crystals in wells);	SLS-P72
AA61PP-B4	DF	AA61PP	373	0.478	0.452	10.52%	2	6	0.6692	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99, 67	1.47	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C4	SLS-P74
FRAME															
FAL.3T3.HN.A1.27/05/04	RF	AA61HN	918	1.176	0.381	7.78%	1	0	0.6117	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points 50 - 100%	ppt in 1X C1-C3	FAL.3T3.SLS.27/05/04
FAL.3T3.HN.B1.04/06/04 FAULT	DF	AA61HN	873	1.118	0.419	6.70%	1	2	0.8308	750, 347, 162, 75.0, 35.0, 16.3, 7.6, 3.5	2.15	YES		ppt in 1X C1-C3; dilution factor not provided	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.HN.B2.18/06/04	RF	AA61HN	387	0.496	0.451	4.84%	NA	NA	0.5399	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	can't determine which points are true toxicity points	ppt in 2X C1 and ppt in 1X C1-C3	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.HN.B3.09/07/04	DF	AA61HN	75900	97.141	0.317	1.92%	0	6	0.8417	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1 and ppt in 1X C1-C5	FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.HN.B4.16/07/04	DF	AA61HN	NA	NA	0.262	0.86%	0	4	0.3528	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1-C2 and ppt in 1X C1-C4	FAL.3T3.SLS.16.07.04
FAL.3T3.HN.B5.17.09.04	DF	AA61HN	NA	NA	0.304	0.27%	0	4	NA	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	NO	no points between 0 - 50%	problem with stimulation of NRU; toxicity increases then as conc. rises NRU also rises & IC50 not reached	FAL.3T3.SLS.17.09.04
FAL.3T3.HN.B6.23.09.04	DF	AA61HN	582	0.745	0.310	3.38%	2	2	0.6844	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		outlier removed by SD; ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C4	FAL.3T3.SLS.23.09.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.HN.B7.14.10.04	DF	AA61HN	1220	1.568	0.322	4.77%	1	7	0.4589	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		outlier removed bySD; ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C6	FAL.3T3.SLS.14.10.04
DIMETHYLFORMAMIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61FN	6870	93.990	0.392	1.04%	1	5	0.7331	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61FN	5060	69.196	0.485	3.39%	4	4	0.9915	20000, 13333, 8889, 5926, 3951, 2634, 1756, 1171	1.5	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61FN	4940	67.621	0.375	8.71%	4	4	0.9900	20000, 13333, 8889, 5926, 3951, 2634, 1756, 1171	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61FN	4700	64.281	0.413	5.07%	4	4	0.9892	20000, 13333, 8889, 5926, 3951, 2634, 1756, 1171	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61MW-A1	RF	AA61MW	6410	87.717	0.522	4.15%	1	2	0.9137	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-15
AA61MW-B1	DF	AA61MW	4750	65.025	0.522	3.30%	4	4	0.9866	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P42
AA61MW-B2	DF	AA61MW	5680	77.639	0.697	1.26%	3	5	0.9610	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P43
AA61MW-B3	DF	AA61MW	5600	76.574	0.616	0.92%	4	4	0.9830	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P45
FRAME															
FAL.3T3.KF.A1.21.10.04	RF	AA61KF	8990	123.050	0.315	7.39%	1	0	0.3085	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.KF.B1.11.11.04	DF	AA61KF	5180	70.808	0.276	14.58%	4	2	0.9649	50000, 23256, 10817, 5031, 2340, 1088, 506, 236	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.KF.B2.18.11.04	DF	AA61KF	673	9.206	0.305	26.13%	3	2	0.9507	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	NO	% VC difference >15	ppt in 2X C1; concentraton range may be off by factor of 10; C1 probably 50000	FAL.3T3.SLS.19.11.04
FAL.3T3.KF.B3.25.11.04	DF	AA61KF	6080	83.192	0.382	0.74%	2	3	0.9630	50000, 23256, 10817, 5031, 2340, 1088, 506, 236	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.KF.B4.26.11.04	DF	AA61KF	5190	70.971	0.381	9.84%	2	3	0.8958	50000, 23256, 10817, 5031, 2340, 1088, 506, 236	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.26.11.04
DIQUAT DIBROMIDE MONOHYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61GN	4.65	0.013	0.448	3.20%	2	4	0.9862	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61GN	3.83	0.011	0.485	2.39%	3	4	0.9675	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61GN	6.04	0.017	0.353	0.24%	2	3	0.9379	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61GN	6.31	0.017	0.442	3.25%	2	4	0.9544	10.0, 7.14, 5.10, 3.64, 2.60, 1.86, 1.33, 0.949	1.4	YES			SLS-B8
ECBC															

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61KS-A1	RF	AA61KS	5.48	0.015	0.301	6.79%	2	1	0.9864	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P11
AA61KS-B1	DF	AA61KS	3.47	0.010	0.518	5.60%	4	3	0.9823	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P31
AA61KS-B2	DF	AA61KS	3.26	0.009	0.423	8.46%	4	3	0.9818	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P33
AA61KS-B3	DF	AA61KS	4.89	0.013	0.721	3.07%	5	3	0.9904	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P35
FRAME															
FAL.3T3.NV.A1.21.05.04	RF	AA61NV	9.05	0.025	0.484	4.80%	2	0	0.9320	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.NV.B1.04.06.04	DF	AA61NV	76.7	0.212	0.468	11.19%	1	1	0.7598	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.NV.B2.18.06.04	DF	AA61NV	20.4	0.056	0.720	0.86%	8	0	0.9479	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES		C8 % viability < 20; used lowest dilution factor; pass even though not enough points between 0-100%	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.NV.B3.08.07.04	DF	AA61NV	NA	NA	0.370	4.61%	6	0	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.01, 0.47	2.15	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.08.07.04
FAL.3T3.NV.B4.16.07.04	DF	AA61NV	11.1	0.031	0.384	6.76%	2	1	0.8922	100, 31.6, 10.0, 3.2, 1.0, 0.3, 0.100, 0.032	3.16	YES			FAL.3T3.SLS.16.07.04

DISULFOTON

IIVS															
A1	RF	AA61FC	95.1	0.346	0.255	12.80%	2	1	0.4754	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	*the solvent controls were treated with 1% DMSO, rather than 0.5%;*	SLS-A4
B1	DF	AA61FC	25.4	0.093	0.437	5.32%	5	3	0.9601	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		ppt in 2X C1-C4; outlier removed by SD	SLS-B5
B2	DF	AA61FC	46.3	0.169	0.269	7.62%	3	4	0.9111	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		ppt in 2X C1-C4	SLS-B13
B3	DF	AA61FC	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61FC	138	0.504	0.294	0.57%	1	7	0.9243	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		ppt in 2X C1	SLS-B15
B5	DF	AA61FC	31.8	0.116	0.259	11.99%	5	3	0.9540	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		ppt in 2x C1-C4	SLS-B16
ECBC															
AA61NY-A1	RF	AA61NY	NA	NA	0.247	1.18%	0	6	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; PC failed; no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C2	SLS-P51
AA61NY-B1	DF	AA61NY	155	0.564	0.379	1.45%	3	4	0.9199	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C3	SLS-P67
AA61NY-B2	DF	AA61NY	NA	NA	0.356	4.07%	0	8	NA	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	no points between 0 - 50%	small pieces of chemical in 1X C1-C4	SLS-P69
AA61NY-B3	DF	AA61NY	54.6	0.199	0.398	0.71%	4	4	0.9654	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		small globules in 1X C1-C5 & 2X C1-C3; SD removed C1 from PRISM analysis; C1 toxicity < C2	SLS-P72
AA61NY-B4	DF	AA61NY	201	0.734	0.406	2.30%	1	7	0.8792	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		small globules in 1X C1-C6; ppt in 2X C1-C5; SD removed C1 & C2 from PRISM analysis; C1 & C2 toxicity < C3	SLS-P74
FRAME															
FAL.3T3.LC.A1.10.09.04	RF	AA61LC	1070	3.914	0.258	10.84%	0	3	0.3989	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 -- 50%	ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.10.09.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.LC.B1.16.09.04	DF	AA61LC	11200	40.793	0.254	2.23%	1	6	0.8311	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		outlier removed bySD; ppt in 1X C1 and 2X C1-C5; IC50 out of synch with other IC50s	FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.LC.B2.15.10.04	DF	AA61LC	NA	NA	0.257	1.49%	0	8	0.4810	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1-C6;	FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.LC.B3.19.11.04	DF	AA61LC	NA	NA	0.260	13.68%	0	6	0.6459	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1-C6; ppt in 2X C1-C3	FAL.3T3.SLS.19.11.04
ENDOSULFAN															
IIVS															
A1	RF	AA61HZ	1.3	0.003	0.366	49.45%	1	6	0.9673	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	VC1 Ods < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; ppt in 2X C1 and 1X C1;volatility issues	SLS-A2
B1	DF	AA61HZ	5.35	0.013	0.397	1.30%	3	5	0.9207	30.0, 16.7, 9.26, 5.14, 2.86, 1.59, 0.882, 0.490	1.8	YES		ppt in 2X C1; outlier removed by SD; plate sealer	SLS-B5
B2	DF	AA61HZ	13.6	0.033	0.261	20.27%	3	3	0.9195	50.0, 27.8, 15.4,8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	NO	% VC difference > 15	ppt in 2X C1; very high OD value in VC1	SLS-B13
B3	DF	AA61HZ	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61HZ	1.64	0.004	0.302	42.29%	6	2	0.7300	50.0, 27.8, 15.4,8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	NO	% VC difference > 15	ppt in 2X C1-C2; low ODs in VC1; used VC2 value for viability calculations	SLS-B15
B5	DF	AA61HZ	2.52	0.006	0.256	3.03%	6	2	0.6745	50.0, 27.8, 15.4,8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B16
B6	DF	AA61HZ	2.95	0.007	0.256	14.77%	5	2	0.7624	50.0, 27.8, 15.4,8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B17
ECBC															
AA61LG-A1	RF	AA61LG	NA	NA	0.237	18.26%	2	2	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; PC failed; % VC difference > 15	ppt in 2X C1	SLS-P51
AA61LG-B1	DF	AA61LG	NA	NA	0.383	25.75%	5	2	NA	80.0, 37.2, 17.3, 8.05, 3.74, 1.74, 0.81, 0.38	2.15	NO	% VC difference > 15	ppt in 2X C1	SLS-P55
AA61LG-B2 (sealer)	DF	AA61LG	NA	NA	0.445	5.26%	7	1	NA	60.0, 27.9, 13.0, 6.04, 2.81, 1.31, 0.61, 0.28	2.15	NO	PC failed	ppt in 2X C1	SLS-P56
AA61LG-B3 (sealer)	DF	AA61LG	4.15	0.010	0.217	8.65%	3	5	0.9066	30.0, 14.0, 6.49, 3.02, 1.40, 0.65, 0.30, 0.14	2.15	YES			SLS-P58
AA61LG-B4 (sealer)	DF	AA61LG	2.98	0.007	0.319	13.07%	3	5	0.8831	30.0, 14.0, 6.49, 3.02, 1.40, 0.65, 0.30, 0.14	2.15	YES			SLS-P63
AA61LG-B5 (sealer)	DF	AA61LG	8.68	0.021	0.338	4.57%	2	6	0.9264	30.0, 14.0, 6.49, 3.02, 1.40, 0.65, 0.30, 0.14	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-P64
FRAME															
FAL.3T3.PW.A1.01/04/04	RF	AA61PW	52500	128.974	0.209	16.91%	0	2	0.3175	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001,	10	RF	range finder	possible volatility problem	FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.PW.B1.29/04/04 (should be A2)	DF	AA61PW	0.249	0.001	0.261	24.71%	2	5	0.4825	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	NO	%VC difference > 15	NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.PW.B2.29/04/04 (should be B1)	DF	AA61PW	22.9	0.056	0.241	29.31%	2	6	0.3954	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	NO	%VC difference > 15	possible volatility problem	FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.PW.B2.20/05/04	DF	AA61PW	32.7	0.080	0.324	10.51%	1	7	0.3827	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL.3T3.PW.B3.27/05/04	DF	AA61PW	6.47	0.016	0.444	1.54%	6	2	0.7075	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.27/05/04
FAL.3T3.PW.B4.17/06/04	DF	AA61PW	11.2	0.028	0.396	5.49%	7	1	0.7541	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.PW.B5.24/06/04	DF	AA61PW	10.4	0.026	0.408	5.45%	1	6	0.8455	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.24.06.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
EPINEPHRINE BITARTRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61LT	34.4	0.103	0.460	5.31%	0	2	0.9689	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61LT	61.8	0.185	0.429	3.46%	1	6	0.8482	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.4	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61LT	65.5	0.196	0.413	3.71%	0	6	0.8365	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.4	YES		SMT accepts this test in spite of no points between 0-50%; agreed to on 8/12/04	SLS-B2
B3	DF	AA61LT	62.8	0.188	0.388	2.42%	2	6	0.8693	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.4	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61HW-A1	RF	AA61HW	25.4	0.076	0.280	0.36%	2	1	0.9466	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P5
AA61HW-B1	DF	AA61HW	58.5	0.175	0.682	5.06%	1	6	0.8963	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			SLS-P23
AA61HW-B2	DF	AA61HW	46.8	0.140	0.582	3.32%	2	6	0.9135	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			SLS-P27
AA61HW-B3	DF	AA61HW	49.3	0.148	0.440	2.56%	1	6	0.9306	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			SLS-P29
FRAME															
FAL.3T3.RK.A1.01/04/04	RF	AA61RK	37.2	0.112	0.361	17.45%	3	0	0.8041	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	possible volatility problem	FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.RK.B1.29/04/04	DF	AA61RK	79.4	0.238	0.349	2.51%	1	0	0.9283	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.RK.B2.06/05/04	DF	AA61RK	70.5	0.211	0.341	4.84%	2	1	0.9573	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.06/05/04
FAL.3T3.RK.B3.20/05/04	DF	AA61RK	62.2	0.187	0.407	6.36%	1	0	0.9364	200, 165, 137, 113, 93.3, 77.1, 63.7, 52.7	1.21	YES		lowest dilution factor used; SMT will accept this test	FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL.3T3.RK.B4.27/05/04	DF	AA61RK	57.4	0.172	0.490	12.09%	2	1	0.8531	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.27/05/04
ETHANOL															
IIVS															
A2	RF	AA61FH	NA	NA	0.416	0.36%	0	8	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61FH	12500	270.758	0.154	83.09%	4	1	0.9319	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	NO	% VC difference > 15	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-B6
B2	DF	AA61FH	7140	155.089	0.400	8.34%	4	0	0.9518	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	NO	no points between 50--100%	ppt in 1X C1-C3; plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength; outliers removed by SD; plate sealer used	SLS-B11
B3	DF	AA61FH	5200	112.871	0.388	2.54%	8	0	0.8605	20000, 16667, 13889, 11574, 9645, 8038, 6698, 5582	1.2	NO	no points between 50--100%;	plate sealer used	SLS-B12
B4	DF	AA61FH	6760	146.751	0.384	4.75%	6	2	0.8518	20000, 16667, 13889, 11574, 9645, 8038, 6698, 5582	1.2	YES		plate sealer used; outliers removed bySD	SLS-B13
B5	DF	AA61FH	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B6	DF	AA61FH	6070	131.699	0.458	1.89%	4	4	0.9316	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B15
B7	DF	AA61FH	6410	139.182	0.322	8.21%	4	3	0.9515	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES		plate sealer used; outliers removed by SD	SLS-B16

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
ECBC															
AA61JU-A1	RF	AA61JU	NA	NA	0.322	0.67%	0	2	NA	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	no toxicity detected	SLS-P6
AA61JU-A2	RF	AA61JU	NA	NA	0.193	57.54%	2	2	NA	100000, 10000, 1000, 100, 10, 10, 0.1, 0.01	10	RF	range finder	probable volatility problem; VC1 <<< VC2	SLS-P8
AA61JU-B1(sealer)	DF	AA61JU	NA	NA	0.134	49.27%	6	1	NA	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	% VC difference > 15	volatility problem	SLS-P37
AA61JU-B2 (sealer)	DF	AA61JU	NA	NA	0.255	10.33%	4	0	NA	68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9910, 6742, 4586	1.47	NO	no points between 50 - 100%		SLS-P39
AA61JU-B3(sealer)	DF	AA61JU	NA	NA	0.218	19.55%	8	0	NA	40000, 33058, 27321, 22579, 18660, 15422, 12745, 10533	1.21	NO	no points between 50 - 100%		SLS-P47
AA61JU-B4 (sealer)	DF	AA61JU	NA	NA	0.234	15.04%	7	0	NA	30000, 24793, 20490, 16934, 13995, 11566, 9559, 7900	1.21	NO	PC failed	dilution factor is 1.21; no points between 50-100%; test would pass due to dilution factor	SLS-P50
AA61JU-B5 (sealer)	DF	AA61JU	NA	NA	0.250	9.95%	7	1	NA	20000, 16529, 13660, 11289, 9330, 7711, 6373, 5267	1.21	NO	PC failed		SLS-P52
AA61JU-B6 (sealer)	DF	AA61JU	5400	117.107	0.556	6.34%	3	5	0.8953	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	NO	PC failed		SLS-P60
AA61JU-B7 (sealer)	DF	AA61JU	6300	136.641	0.478	17.05%	3	5	0.9477	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	NO	% VC difference > 15		SLS-P62
AA61JU-B8 (sealer)	DF	AA61JU	4860	105.580	0.389	3.72%	3	5	0.9188	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			SLS-P64
AA61JU-B9 (sealer)	DF	AA61JU	7310	158.702	0.416	6.29%	2	6	0.8826	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			SLS-P66
AA61JU-B10 (sealer)	DF	AA61JU	3910	84.836	0.393	5.15%	4	4	0.9316	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			SLS-P68
FRAME															
FAL.3T3.PC.A1.30/04/04	RF	AA61PC	NA	NA	0.224	10.66%	0	1	0.0000	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.30/04/04
FAL.3T3.PC.B1.06/05/04	DF	AA61PC	NA	NA	0.190	26.31%	0	5	0.7166	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	no points between 0 - 50%; %VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.06/05/04
FAL.3T3.PC.B2.20/05/04	DF	AA61PC	14200	308.732	0.223	34.53%	3	3	0.8898	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15; volatility problem		FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL.3T3.PC.B2.27/05/04 should be B3	DF	AA61PC	8300	180.128	0.412	19.58%	4	3	0.9538	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15; volatility problem		FAL.3T3.SLS.27/05/04
FAL.3T3.PC.B4.17/06/04	DF	AA61PC	44000	954.073	0.462	10.31%	0	0	0.9212	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	no points between 0 - 100%		FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.PC.B5.24/06/04	DF	AA61PC	7110	154.377	0.311	6.43%	6	2	0.9785	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.24.06.04
FAL.3T3.PC.B6.08.07.04	DF	AA61PC	9480	205.865	0.234	14.05%	4	4	0.8796	40000, 27211, 18511, 12592, 8566, 5827, 3964, 2697	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.08.07.04
FAL.3T3.PC.B7.16.07.04	DF	AA61PC	8670	188.184	0.308	13.82%	4	4	0.9668	40000, 27211, 18511, 12592, 8566, 5827, 3964, 2697	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.16.07.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
ETHYLENE GLYCOL															
IIVS															
A1 Preliminary	RF	AA61HR	15700	252.899	0.430	9.87%	0	1	0.5803	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61HR	27100	436.534	0.489	7.90%	2	2	0.9878	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61HR	22400	360.825	0.505	4.97%	2	3	0.9713	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61HR	28200	454.253	0.573	5.77%	2	5	0.9449	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B3
ECBC															
ECBC-3T3-lb-01 AA61LM-A1	RF	AA61LM	13000	209.407	0.288	17.62%	0	3	0.05128	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P1
ECBC-3T3-lb-02 AA61LM-A2	RF	AA61LM	18000	289.948	0.238	13.45%	0	3	0.7979	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	No points between 10 and 50%; r2 < 0.8; PC failed; range finder		SLS-P3
ECBC-3T3-lb-03 AA61LM-B1	DF	AA61LM	21200	341.495	0.408	19.53%	3	2	0.9087	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	NO	VC difference > 15%: PC failed		SLS-P4
ECBC-3T3-lb-04 AA61LM-B2	DF	AA61LM	19200	309.278	0.839	4.60%	3	3	0.9718	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	YES			SLS-P5
ECBC-3T3-lb-05 AA61LM-B3	DF	AA61LM	16100	259.343	0.445	8.06%	3	3	0.9290	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	YES			SLS-P7
ECBC-3T3-lb-06 AA61LM-B4	DF	AA61LM	19900	320.554	0.554	2.47%	3	3	0.9186	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	YES			SLS-P9
ECBC-3T3-lb-07 AA61LM-B5	DF	AA61LM	16500	265.786	0.480	16.31%	3	3	0.9611	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	NO	VC difference > 15%		SLS-P12
ECBC-3T3-lb-08 AA61LM-B6	DF	AA61LM	18100	291.559	0.529	1.25%	3	3	0.9695	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	YES			SLS-P13
FRAME															
A1 1b3T3RF01FALPD	RF	AA61PD	NA	NA	0.527	11.89%	0	0	NA	985, 98.5, 9.9, 1.0, 0.1, 0.0099, 0.0010, 0.0001		RF	range finder		1b3T3CRTFALSLS 12/4/02
A2 1b3T3RF02FALPD	RF	AA61PD	34800	560.567	0.449	6.05%	1	0	0.9623	263510, 52702, 10540.4, 2108.1, 421.6, 84.3, 16.9, 3.4		NO	no points between 50 anad 100%		1b3T3CRTFALSLS 12/10/02
1b3T3DF01FALPD	DF	AA61PD	34200	550.902	0.443	1.22%	2	3	0.9645	182500, 124150, 85460, 57450, 39080, 26590, 18090, 12304		NO	PC failed		1b3T3CRTFALSLS 12/17/02
1b3T3DF02FALPD	DF	AA61PD	36500	587.951	0.612	12.90%	2	5	0.9340	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742		YES		NR crystals in plate	1b3T3CRTFALSLS 1/7/03
1b3T3DF03FALPD	DF	AA61PD	40500	652.384	0.306	12.08%	1	4	0.8911	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742		NO	NR crystals in plate; stopped after 1 h; PC failed		1b3T3CRTFALSLS 1/8/03
1b3T3DF04FALPD	DF	AA61PD	27200	438.144	0.489	11.17%	2	5	0.9232	85300, 58027, 39474, 26853, 18268, 12427, 8454, 5751		YES			1b3T3CRTFALSLS 1/14/03
1b3T3DF05FALPD	DF	AA61PD	41700	671.714	0.463	6.48%	1	5	0.9483	100000, 68100, 46100, 31500, 21400, 14600, 9900, 6700		NO	PC failed		1b3T3CRTFALSLS 1/15/03
1b3T3DF06FALPD	DF	AA61PD	23600	380.155	0.557	13.34%	4	3	0.8834	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742		YES			1b3T3CRTFALSLS 1/21/03

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
1b3T3DF07FALPD	DF	AA61PD	39300	633.054	0.281	12.56%	2	3	0.8509	100000, 68100, 46100, 31500, 21400, 14600, 9900, 6700		YES			1b3T3CRTFALSLS 2/26/03
FENPROPATHRIN															
IIVS															
A1	RF	AA61HY	15.3	0.044	0.359	2.00%	2	6	0.9682	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1-C2	SLS-A1
B1	DF	AA61HY	17.7	0.051	0.454	5.40%	4	4	0.9881	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C3	SLS-B5
B2	DF	AA61HY	18.1	0.05	0.362	1.43%	4	3	0.9827	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C3	SLS-B9
B3	DF	AA61HY	14.4	0.04	0.371	0.16%	5	3	0.9848	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C2	SLS-B10
ECBC															
AA61LJ-A1	RF	AA61LJ	29.5	0.084	0.290	2.90%	2	2	0.8956	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1-C2	SLS-P2
AA61LJ-B1	DF	AA61LJ	20.3	0.058	0.316	1.48%	6	2	0.9404	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	YES		slope & IC50 similar for B1, B2, and B3; ppt does not appear to be a factor;ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C3	SLS-P6
AA61LJ-B2	DF	AA61LJ	22.3	0.064	0.254	6.77%	3	4	0.9379	60.0, 40.8, 27.8, 18.9, 12.9, 8.7, 6.0, 4.1	1.47	YES		slope & IC50 similar for B1, B2, and B3; ppt does not appear to be a factor;ppt in 2X C1-C3	SLS-P7
AA61LJ-B3	DF	AA61LJ	25.1	0.072	0.471	3.22%	2	5	0.9274	60.0, 40.8, 27.8, 18.9, 12.9, 8.74, 5.95, 4.05	1.47	YES		slope & IC50 similar for B1, B2, and B3; ppt does not appear to be a factor	SLS-16
FRAME															
FAL.3T3.PT.A1.080104	RF	AA61PT	142	0.405	0.407	9.41%	1	4	0.6639	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	well B7 outlier; no cells; not removed by SD	FAL.3T3.SLS.080104
FAL3T3.PT.A2.15-01-04	DF	AA61PT	54.7	0.157	0.386	2.12%	5	3	0.9203	1000, 680, 465, 216, 100, 46.5, 21.6, 10.1	2.15	NO	PC failed;	ppt in 1X C1-C5; ppt in 2X C1-C5	FAL.3T3.SLS.15/01/04
FAL3T3.PT.B1.22-01-04	DF	AA61PT	59.7	0.171	0.310	1.66%	5	3	0.8978	1000, 680, 465, 216, 100, 46.5, 21.6, 10.1	2.15	YES		ppt in 1X C1-C6 and 2X C1-C5	FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.PT.B2.29-01-04	DF	AA61PT	69.0	0.198	0.362	7.84%	3	2	0.9594	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 1X C1-C2; ppt in 2X C1-C4	FAL3T3.SLS.29-01-04
FAL3T3.PT.B3.05.02.04	DF	AA61PT	21.6	0.062	0.259	4.89%	4	1	0.9415	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	PC failed;	problem with reservoir liners; ppt in 1X C1-C5 & 2X C1-C4	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL3T3.PT.B4.25-02-04	DF	AA61 PT	29.8	0.085	0.523	3.33%	4	2	0.9173	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 1X C1-C3 & 2X C1-C2	FAL3T3.SLS.25.02.04
FAL3T3.PT.B5.17.03.04	DF	AA61PT	10.9	0.031	0.238	10.23%	3	3	0.8792	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 1X C1-C4 & 2X C1-C4	FAL.3T3.SLS.17/03/04
GIBBERELLIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61RE	NA	NA	0.403	3.68%	0	4	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61RE	13300	38.322	0.557	0.22%	0	8	0.4182	5000, 3846, 2959, 2276, 2276, 1751, 1347, 1036, 797	1.3	NO	no points between 0-50%		SLS-B6
B2	DF	AA61RE	7830	22.618	0.457	1.39%	1	7	0.9631	10000, 7692, 5917, 4552, 3501, 2693, 2072, 1594	1.3	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength; ppt in 2X C1-C3	SLS-B11

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61RE	6840	19.745	0.340	7.57%	2	6	0.9288	10000, 7692, 5917, 4552, 3501, 2693, 2072, 1594	1.3	YES		ppt in 2X C1-C4; outlier removed bySD because well didn't receive 50 ul of growth medium during refeeding	SLS-B12
B4	DF	AA61RE	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B5	DF	AA61RE	8300	23.958	0.413	2.36%	1	7	0.8974	10000, 7692, 5917, 4552, 3501, 2693, 2072, 1594	1.3	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B15
ECBC															
AA61FR-A1	RF	AA61FR	NA	NA	0.472	0.90%	0	7	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P14
AA61FR-B1	DF	AA61FR	NA	NA	0.385	3.16%	0	8	NA	5000, 4132, 3415, 2822, 2333, 1928, 1593, 1317	1.21	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P47
AA61FR-B2	DF	AA61FR	9020	26.028	0.430	3.16%	1	7	0.8611	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		ppt in 2X C1	SLS-P65
AA61FR-B3	DF	AA61FR	7820	22.566	0.436	1.89%	2	5	0.9515	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1	SLS-P67
AA61FR-B4	DF	AA61FR	7240	20.914	0.356	2.99%	3	4	0.9605	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES		ppt in 2X C1-C4	SLS-P69
FRAME															
FAL.3T3.GY.A1.10.09.04	RF	AA61GY	78.3	0.226	0.293	5.52%	2	0	0.9008	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.GY.B1.16.09.04	DF	AA61GY	NA	NA	0.317	23.98%	0	0	0.0000	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	no points between 0 - 100%; %VC difference >15		FAL.3T3.SLS.16.09.04 addendum lists incorrect PC
FAL.3T3.GY.B2.15.10.04	DF	AA61GY	NA	NA	0.286	4.02%	0	4	0.0000	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	NO	no points between 0 - 50%	outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.GY.B3.25.11.04	DF	AA61GY	NA	NA	0.342	6.74%	0	2	0.0000	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	NO	no points between 0 - 50%		FAL.3T3.SLS.25.11.04

GLUTETHIMIDE

IIVS															
A1	RF	AA61NN	80.5	0.371	0.294	7.00%	2	6	0.9499	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-A5
B1	DF	AA61NN	139	0.640	0.374	6.19%	3	5	0.9421	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES			SLS-B6
B2	DF	AA61NN	119	0.548	0.263	2.36%	4	4	0.9536	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES		outliers removed bySD	SLS-B13
B3	DF	AA61NN	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61NN	122	0.561	0.350	9.49%	4	4	0.9580	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES			SLS-B15
B5	DF	AA61NN	121	0.558	0.339	0.00%	4	4	0.9484	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES			SLS-B17
ECBC															
AA61FE-A1	RF	AA61FE	256	1.177	0.486	2.55%	1	7	0.9256	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-16
AA61FE-B1	DF	AA61FE	160	0.736	0.605	10.75%	5	3	0.9842	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99, 67	1.47	YES		ppt in 2X C1-C2; appear oily	SLS-P44
AA61FE-B2	DF	AA61FE	174	0.800	0.575	4.13%	5	3	0.9784	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99, 67	1.47	YES		ppt in 2X C1-C2; appear oily	SLS-P46
AA61FE-B3	DF	AA61FE	167	0.767	0.256	3.42%	5	3	0.9456	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99, 67	1.47	YES			SLS-P48
FRAME															
FAL.3T3.KY.A1.21.10.04	RF	AA61KY	508	2.339	0.227	5.39%	1	1	0.8073	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.21.10.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.KY.B1.11.11.04	DF	AA61KY	303	1.396	0.268	4.20%	3	5	0.9424	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.KY.B2.19.11.04	DF	AA61KY	262	1.208	0.207	3.18%	2	5	0.9086	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.19.11.04
FAL.3T3.KY.B3.25.11.04	DF	AA61KY	288	1.327	0.350	10.56%	2	5	0.7829	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.25.11.04
GLYCEROL															
IIVS															
A1	RF	AA61JF	NA	NA	0.402	3.00%	0	4	0.5520	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61JF	38200	414.75	0.453	1.93%	3	5	0.9665	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES			SLS-B6
B2	DF	AA61JF	28800	313.175	0.460	1.18%	4	4	0.9609	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61JF	16500	178.973	0.392	5.33%	4	2	0.9540	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES		outlier removed bySD	SLS-B12
ECBC															
AA61HG-A1	RF	AA61HG	31800	344.975	0.345	4.28%	0	4	0.3823	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P1
AA61HG-A2	RF	AA61HG	1870	20.314	0.446	5.59%	1	2	0.9208	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61HG-B1	DF	AA61HG	23400	254.558	0.471	0.04%	4	4	0.9245	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			SLS-P17
AA61HG-B2	DF	AA61HG	18800	204.544	0.434	1.94%	4	3	0.9732	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			SLS-P23
AA61HG-B3	DF	AA61HG	11600	125.831	0.341	18.42%	6	2	0.9815	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	%VC difference > 15		SLS-P30
AA61HG-B4	DF	AA61HG	17800	193.102	0.642	0.19%	4	4	0.9798	68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9910, 6742, 4586	1.47	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.3T3.RA.A1.08/01/04	RF	AA61RA	NA	NA	0.777	13.65%	0	8	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 0-50; range finder	straight line; no toxicity	FAL.3T3.SLS.080104
FAL3T3.RA.A2.15-01-04	DF	AA61RA	11400	123.819	0.717	1.03%	2	6	0.6816	100000, 31646, 10014, 3169, 1003, 317, 100, 31.8	3.16	NO	PC failed;		FAL.3T3.SLS.15/01/04
FAL3T3.RA.B1.22-01-04	DF	AA61RA	5710	62.057	0.447	3.38%	3	5	0.9498	100000, 31646, 10014, 3169, 1003, 317, 100, 31.8	3.16	YES			FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.RA.B2.29-01-04	DF	AA61RA	71800	779.449	0.481	1.42%	1	7	0.9674	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES		little variation in curve; no acidity at C1; morpholog. score didn't match NRU which was lower than expected; affect lysosomes?	FAL3T3.SLS.29-01-04
FAL3T3.RA.B3.05.02-04	DF	AA61RA	18900	205.016	0.370	3.33%	4	4	0.8908	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	PC failed;	problem with reservoir liners	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL3T3.RA.B4.25-02-04	DF	AA61RA	49200	534.303	0.513	2.62%	2	3	0.9772	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			FAL3T3.SLS.25.02.04
FAL3T3.RA.B5.17-03-04	DF	AA61RA	28800	313.175	0.438	7.92%	4	4	0.9627	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17/03/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
HALOPERIDOL															
IIVS															
A1	RF	AA61LW	7.60	0.020	0.290	0.23%	0	1	0.4600	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	the solvent controls were treated with 1% DMSO, rather than 0.5%.; ppt in 1X C1-C2	SLS-A4
B1	DF	AA61LW	5.98	0.016	0.399	1.50%	3	5	0.9242	10.0, 7.69, 5.92, 4.55, 3.50, 2.69, 2.07, 1.59	1.3	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61LW	5.69	0.015	0.318	4.32%	4	4	0.9350	20.0, 14.3, 10.2, 7.29, 5.21, 3.72, 2.66, 1.90	1.4	YES			SLS-B13
B3	DF	AA61LW	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61LW	4.73	0.013	0.358	6.35%	3	4	0.9252	20.0, 14.3, 10.2, 7.29, 5.21, 3.72, 2.66, 1.90	1.4	YES			SLS-B15
ECBC															
AA61JC-A1	RF	AA61JC	3.45	0.009	0.346	9.78%	2	5	0.9328	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-P14
AA61JC-B1	DF	AA61JC	5.01	0.013	0.454	8.40%	3	4	0.9612	20.0, 13.6, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES			SLS-P38
AA61JC-B2	DF	AA61JC	4.89	0.013	0.320	12.12%	4	4	0.8878	20.0, 13.6, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES			SLS-P39
AA61JC-B3	DF	AA61JC	6.07	0.016	0.433	1.12%	2	5	0.9620	20.0, 13.6, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES			SLS-P42
FRAME															
FAL.3T3.PM.A1.10.09.04	RF	AA61PM	NA	NA	0.373	3.11%	0	1	0.0000	100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 0 -- 50%	ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.PM.B1.16.09.04	DF	AA61PM	NA	NA	0.269	3.91%	0	0	0.0000	250, 170, 116, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.PM.B2.23.09.04	DF	AA61PM	10.1	0.027	0.199	6.98%	1	0	0.8164	25.0, 11.6, 5.4, 2.5, 1.2, 0.544, 0.253, 0.118	2.15	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.PM.B3.14.10.04	DF	AA61PM	8.75	0.023	0.232	1.04%	2	2	0.9504	25.0, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.PM.B4.21.10.04	DF	AA61PM	7.60	0.020	0.251	12.27%	3	1	0.9286	25.0, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.PM.B5.04.11.04	DF	AA61PM	7.63	0.020	0.190	12.15%	3	3	0.9797	25.0, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES		outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.04.11.04
HEXACHLOROPHENE															
IIVS															
A1	RF	AA61JN	3.21	0.008	0.353	1.04%	1	2	0.9799	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-A1
B1	DF	AA61JN	2.90	0.01	0.440	0.93%	5	3	0.9582	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61JN	3.39	0.01	0.367	0.61%	4	4	0.9595	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61JN	2.88	0.01	0.341	3.03%	5	3	0.9868	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61ND-A1	RF	AA61ND	9.47	0.023	0.329	9.12%	2	2	0.9700	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and ppt in 1X C1	SLS-P4
AA61ND-B1	DF	AA61ND	7.81	0.019	0.293	3.27%	3	3	0.9653	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P18
AA61ND-B2	DF	AA61ND	3.70	0.009	0.426	9.89%	3	3	0.9878	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P20
AA61ND-B3	DF	AA61ND	3.56	0.009	0.371	3.77%	5	3	0.9882	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P21
FRAME															

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.HB.A1.09/01/04	RF	AA61HB	9.80	0.024	0.387	8.80%	1	4	0.9858	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	did'nt dissolve properly; top 2 conc. prepared from stock & C2 from C1. C3 prepared by diluting stock and C4-8 from the respective C3-7 (from SD); ppt at 100 ug/mL.	FAL.3T3.SLS.09/01/04
FAL.3T3.HB.B1.16.01.04	DF	AA61 HB	7.35	0.018	0.558	6.11%	4	3	0.9833	100, 47.0, 22.0, 10.0, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL.3T3.HB.B2.23.01.04	DF	AA61HB	4.59	0.011	0.393	5.57%	3	3	0.8846	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL3T3.23-01-04
FAL.3T3.HB.B3.30.01.04	DF	AA61HB	NA	NA	0.264	12.04%	2	6	NA	100, 47.0, 22.0, 10.0, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	SD rejects this experiment	serious NR crystal problem; SD rejects this experiment	FAL.3T3.SLS.29/01/04
FAL.3T3.HB.B4.06-02-04	DF	AA61HB	4.10	0.010	0.455	3.82%	5	3	0.9631	100, 47.0, 22.0, 10.0, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		possible NR crystals present; blanks slightly higher than usual	FAL.3T3.SLS.06/02/04
LACTIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61FW	1710	18.940	0.443	13.41%	1	2	0.8766	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61FW	3020	33.525	0.447	0.32%	1	2	0.9050	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES		plate sealer used	SLS-B4
B2	DF	AA61FW	3210	35.594	0.371	3.03%	0	5	0.9595	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	NO	no points between 0-50%		SLS-B7
B3	DF	AA61FW	2770	30.787	0.422	6.41%	0	5	0.9166	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	NO	no points between 0-50%		SLS-B8
B4	DF	AA61FW	2840	31.577	0.494	1.43%	2	5	0.8914	5000, 4167, 3472,2894,2411, 2009, 1674, 1395	1.2	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B5	DF	AA61FW	2510	27.821	0.349	3.18%	2	5	0.8772	5000, 4167, 3472,2894,2411, 2009, 1674, 1395	1.2	YES		outliers removed bySD	SLS-B12
ECBC															
AA61NL-A1	RF	AA61NL	1890	20.959	0.260	14.18%	1	1	0.8301	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P5
AA61NL-B1	DF	AA61NL	2630	29.199	0.587	4.77%	3	5	0.9427	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P26
AA61NL-B2	DF	AA61NL	2940	32.687	0.526	1.28%	3	5	0.9463	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P27
AA61NL-B3	DF	AA61NL	3260	36.172	0.441	1.38%	3	4	0.9660	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P29
FRAME															
FAL.3T3.JT.A1.01/04/04	RF	AA61JT	5750	63.881	0.314	3.27%	1	0	0.7232	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.JT.B1.29/04/04	DF	AA61JT	3000	33.294	0.315	0.03%	2	2	0.9638	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES		NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.JT.B2.07/05/04	DF	AA61JT	3590	39.845	0.361	17.30%	4	2	0.9759	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	NO	%VC difference > 15	possible volatility problem	FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.JT.B3.20/05/04	DF	AA61JT	4100	45.538	0.377	2.39%	4	1	0.9730	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.JT.B4.27/05/04	DF	AA61JT	3360	37.271	0.363	1.72%	4	4	0.8950	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.27/05/04
LINDANE															
IIVS															
A1	RF	AA61PJ	15.9	0.055	0.403	35.64%	1	7	0.9488	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; ppt in 2X C1; volatility issues.	SLS-A3
B1	DF	AA61PJ	39.0	0.134	0.403	5.91%	2	4	0.9245	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2; plate sealer used	SLS-B5
B2	DF	AA61PJ	51.2	0.176	0.244	10.19%	3	4	0.9211	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		SD removed C1 from Hill function due to upswing in response curve; C1 toxicity< C2-C4; plate sealer used; ppt in 2X C1-C4	SLS-B13
B3	DF	AA61PJ	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61PJ	35.2	0.121	0.239	1.50%	4	3	0.9526	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		ppt in 2X C1-C5; ppt in 1X C1-C3	SLS-B15
B5	DF	AA61PJ	288	0.989	0.251	0.40%	1	5	0.8492	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B16
B6	DF	AA61PJ	38.8	0.133	0.324	4.98%	4	3	0.8974	500, 278, 154, 85.7, 47.6, 26.5, 14.7, 8.17	1.8	YES		ppt in 2X C1-C6	SLS-18
ECBC															
AA61FK-A1	RF	AA61FK	38.9	0.134	0.191	14.03%	2	6	0.9093	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1; higher than usual blank OD	SLS-P10
AA61FK-B1	DF	AA61FK	42.9	0.147	0.242	3.72%	3	5	0.9082	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C2	SLS-P65
AA61FK-B2	DF	AA61FK	262	0.902	0.340	0.96%	2	6	0.8636	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1	SLS-P66
AA61FK-B3	DF	AA61FK	71.0	0.244	0.240	5.46%	3	4	0.8190	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C3; SD removed data for C1 from PRISM analysis	SLS-P69
FRAME															
FAL.3T3.KN.A1.27/05/04	RF	AA61KN	37.1	0.127	0.252	24.49%	2	2	0.7351	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	ppt in 1X C1; volatility proble	FAL.3T3.SLS.27/05/04
FAL.3T3.KN.B1.04/06/04	DF	AA61KN	125	0.431	0.363	11.01%	3	5	0.7052	2500, 791, 250, 79.2, 25.1, 7.9, 2.5, 0.8	3.16	YES		odd graph; ppt in 2X C1-C4 and ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.KN.B2.18/06/04	DF	AA61KN	45.5	0.156	0.404	11.01%	4	0	0.8725	1500, 475, 150, 47.5, 15.0, 4.76, 1.51, 0.48	3.16	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 1X C1-C3 and 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.KN.B3.24.06.04	DF	AA61KN	153	0.528	0.355	17.86%	3	1	0.9198	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	% VC difference > 15	volatility problem; ppt in 2X C1-C3	FAL.3T3.SLS.24.06.04
FAL.3T3.KN.B4.08.07.04	DF	AA61KN	308	1.060	0.250	11.89%	1	7	0.7219	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES		ppt in 2X C1-C3 and ppt in 1X C1-C3	FAL.3T3.SLS.08.07.04
FAL.3T3.KN.B5.09.07.04	DF	AA61KN	303	1.041	0.333	4.48%	2	6	0.7443	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES		ppt in 2X C1-C5 and ppt in 1X C1-C3	FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.KN.B6.16.07.04	DF	AA61KN	329	1.131	0.238	6.21%	2	3	0.9111	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES		ppt in 2X C1-C4 and ppt in 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.16.07.04
LITHIUM I CARBONATE															
IIVS															
A1	RF	AA61RN	625	8.459	0.557	5.35%	0	2	-0.1197	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61RN	877	11.869	0.378	2.23%	0	6	0.1322	300, 214, 153, 109, 78.1,55.8, 39.8, 28.5	1.4	NO	no points between 0.1 - 50%; low r2		SLS-B1

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61RN	NA	NA	0.499	7.37%	0	4	0.2402	300, 214, 153, 109, 78.1,55.8, 39.8, 28.5	1.4	NO	No points between 0.1 - 50%; low r2		SLS-B2
B3	DF	AA61RN	2.74	0.037	0.573	2.02%	0	3	-0.0036	300, 214, 153, 109, 78.1,55.8, 39.8, 28.5	1.4	NO	no points 0.1- 50%; PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61RN	NA	NA	0.500	8.09%	0	5	NA	300, 214, 153, 109, 78.1,55.8, 39.8, 28.5	1.4	NO	no points between 0.1 - 50%; low r2		SLS-B4
ECBC															
AA61RR-A1	RF	AA61RR	NA	NA	0.363	7.10%	0	0	0.2245	100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	no points between 10 - 90%; low r2; range finder		SLS-P1
AA61RR-A2	RF	AA61RR	561	7.592	0.387	11.51%	0	3	0.2234	500, 50, 5.0, 0.5, 0.05, 0.005, 0.0005	10	NO	no points between 10 - 50%; low r2; range finder		SLS-P3
AA61RR-B1	DF	AA61RR	656	8.878	0.574	2.50%	1	5	0.7540	750, 510.2, 347.1, 236.1, 160.6, 109.3, 74.3, 50.6	1.47	NO	low r2	cloudy stock solution	SLS-P6
AA61RR-B2	DF	AA61RR	762	10.313	0.568	2.56%	1	5	0.7590	750, 510.2, 347.1, 236.1, 160.6, 109.3, 74.3, 50.6	1.47	NO	low r2		SLS-P8
AA61RR-B3	DF	AA61RR	574	7.768	0.545	0.11%	2	6	0.8864	1102.5, 750, 510.2, 347.1, 236.1, 160.6, 109.3, 74.3	1.47	YES			SLS-P10
AA61RR-B4	DF	AA61RR	630	8.526	0.608	3.32%	2	4	0.9561	1102.5, 750, 510.2, 347.1, 236.1, 160.6, 109.3, 74.3	1.47	YES		ppts. In C1-C3	SLS-P15
AA61RR-B5	DF	AA61RR	498	6.740	0.195	1.42%	2	5	0.9176	1102.5, 750, 510.2, 347.1, 236.1, 160.6, 109.3, 74.3	1.47	YES		ppts. In C1-C3	SLS-P16
FRAME															
FAL.3T3.A1.RM.200603	RF	AA61RM	28200	381.648	0.729	6.72%	0	0	0.2031	100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	no points between 10 - 90%; low r2; range finder		FAL.3T3.SLS2.A1.200603
FAL.3T3.RM.B1.04.07.03	DF	AA61RM	0.002	0.000	0.509	0.53%	0	0	-0.3160	250, 170, 115.7, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	NO	PC failed; no points between 10 - 90%	straight cytotoxicity line; can't perform proper calculations	FAL.3T3.SLS.04.07.03
FAL.3T3.B2.RM.11.07.03	DF	AA61RM	NA	NA	0.490	2.31%	0	0	NA	250, 170, 115.7, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	NO	PC failed; no points between 10 - 90%		FAL.3T3.SLS.11.07.03
FAL.3T3.B3.RM.18.07.03	DF	AA61RM	NA	NA	0.517	2.17%	0	0	NA	250, 170, 115.7, 78.7, 53.5, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	NO	no points between 10 - 90%; No toxicity		FAL.3T3.SLS.18.07.03
FAL.3T3.RM.B4.070803	DF	AA61RM	24.7	0.334	0.738	5.09%	0	8	0.6965	1000, 680, 462, 314, 214, 145, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed; no points between 0 & 50% viability; cytotoxicity curve goes in opposite direction		FAL.3T3.SLS.070803
FAL.3T3.RM.B5.080803	DF	AA61RM	1190	16.105	0.474	18.96%	1	7	0.2883	1000, 680, 462, 314, 214, 145, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed; low r2; % VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.080803

MEPROBAMATE

IIVS															
A1	RF	AA61LS	390	1.786	0.329	5.97%	1	7	0.9290	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61LS	395	1.811	0.544	1.09%	3	5	0.9490	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B5
B2	DF	AA61LS	385	1.762	0.367	1.27%	3	5	0.9715	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61LS	377	1.726	0.381	5.07%	3	5	0.9719	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES			SLS-B10
ECBC															

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61RJ-A1	RF	AA61RJ	283	1.297	0.266	3.58%	1	5	0.8633	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P2
AA61RJ-B1	DF	AA61RJ	309	1.416	0.336	9.11%	2	6	0.8967	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P6
AA61RJ-B2	DF	AA61RJ	344	1.577	0.285	3.34%	3	4	0.9449	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P8
AA61RJ-B3	DF	AA61RJ	407	1.866	0.345	0.70%	3	5	0.8884	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES		outlier not removed from from C6	SLS-P18
FRAME															
FAL.3T3.HV.A1.080104	RF	AA61HV	798	3.655	0.505	5.60%	1	1	0.8944	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.080104
FAL3T3.HV.A2.15-01-04	DF	AA61HV	1030	4.720	0.526	6.07%	2	6	0.9564	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	PC failed;		FAL.3T3.SLS.15/01/04
FAL3T3.HV.B1.22-01-04	DF	AA61HV	984	4.508	0.311	13.54%	2	5	0.7904	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		solubility a problem above 2500 ug/ml	FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.HV.B2.29-01-04	DF	AA61HV	904	4.139	0.377	3.07%	3	5	0.9632	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL3T3.SLS.29-01-04
FAL3T3.HV.B3.05.02.04	DF	AA61HV	80	0.366	0.341	11.28%	8	0	0.5764	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	PC failed; no points between 50-100	problem with reservoir liners	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL.3T3.HV.B4.25.02.04	DF	AA61HV	927	4.246	0.437	3.66%	3	5	0.9673	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL3T3.SLS.25.02.04
FAL3T3.HV.B5.17.03.04	DF	AA61HV	692	3.169	0.378	0.13%	4	4	0.9275	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17/03/04

MERCURY II CHLORIDE

IIVS															
A1	RF	AA61MX	1.21	0.004	0.316	58.59%	1	4	0.9661	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A1
B1	DF	AA61MX	3.39	0.012	0.320	2.63%	1	6	0.9147	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61MX	3.50	0.013	0.311	5.10%	1	1	0.9564	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61MX	3.63	0.013	0.346	7.05%	2	5	0.9477	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61KP-A1	RF	AA61KP	NA	NA	0.152	58.91%	2	2	0.9275	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	low ODs for VC1; ppt in C1	SLS-P2
AA61KP-A2	RF	AA61KP	1.43	0.005	0.373	3.96%	0	1	0.9241	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-P4
AA61KP-B1	DF	AA61KP	3.26	0.012	0.278	2.28%	2	1	0.8937	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	YES			SLS-P18
AA61KP-B2	DF	AA61KP	3.61	0.013	0.353	5.88%	2	5	0.9465	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			SLS-P20
AA61KP-B3	DF	AA61KP	3.48	0.013	0.384	6.51%	2	5	0.9682	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			SLS-P21
FRAME															
FAL.3T3.HA.A1.080104	RF	AA61HA	4.11	0.015	0.399	9.97%	1	0	0.9558	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	no points between 50-100 range finder	ppt in 1000ug/ml	FAL.3T3.SLS.080104
FAL3T3.HA.A2.15-01-04	DF	AA61HA	6.77	0.025	0.363	6.52%	2	6	0.8549	10.0, 7.7, 5.9, 4.6, 3.5, 2.7, 2.1, 1.6	1.3	NO	PC failed;		FAL.3T3.SLS.15/01/04
FAL3T3.HA.B1.22-01-04	DF	AA61HA	5.71	0.021	0.371	3.49%	1	6	0.8036	10.0, 7.7, 5.9, 4.6, 3.5, 2.7, 2.1, 1.6	1.3	YES			FAL.3T3.SLS.22/01/04
FAL3T3.HA.B2.29-01-04	DF	AA61HA	7.98	0.029	0.481	1.42%	1	5	0.9674	10.0, 7.7, 5.9, 4.6, 3.5, 2.7, 2.1, 1.6	1.3	YES			FAL3T3.SLS.29-01-04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL3T3.HA.B3.05.02.04	DF	AA61HA	0.967	0.004	0.380	7.96%	8	0	0.8305	10.0, 7.7, 5.9, 4.6, 3.5, 2.7, 2.1, 1.6	1.3	NO	PC failed; no points between 50-100	problem with reservoir liners	FAL.3T3.SLS.5/02/04
FAL3T3.HA.B4.17.03.04	DF	AA61HA	4.28	0.016	0.223	2.28%	3	5	0.9519	10, 7.63, 5.83, 4.45, 3.40, 2.59, 1.98, 1.51	1.31	YES			FAL.3T3.SLS.17/03/04
METHANOL															
IIVS															
A1	RF	AA61FZ	NA	NA	0.256	7.10%	0	6	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61FZ	NA	NA	0.380	5.76%	0	2	0.4933	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B9
B2	DF	AA61FZ	NA	NA	0.284	2.14%	0	1	NA	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B13
B3	DF	AA61FZ	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61FZ	NA	NA	0.400	2.42%	0	2	NA	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B15
ECBC															
AA61MJ-A1	RF	AA61MJ	NA	NA	0.443	6.04%	0	3	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-16
AA61MJ-B1	DF	AA61MJ	NA	NA	0.709	5.19%	0	8	NA	3000, 2479, 2049, 1693, 1400, 1157, 956, 790	1.21	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity detected; need larger conc; dilut. factor 1.21	SLS-P44
AA61MJ-B2	DF	AA61MJ	NA	NA	0.512	2.61%	0	7	NA	3500, 2893, 2391, 1976, 1633, 1349, 1115, 922	1.21	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity was detected	SLS-P72
AA61MJ-B3	DF	AA61MJ	NA	NA	0.375	14.56%	0	0	NA	3500, 2893, 2391, 1976, 1633, 1349, 1115, 922	1.21	NO	no points between 0 - 100%	no toxicity was detected	SLS-P74
FRAME															
FAL.3T3.RG.A1.21.10.04	RF	AA61RG	NA	NA	0.203	7.09%	0	0	NA	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.RG.B1.04.11.04	DF	AA61RG	NA	NA	0.175	6.75%	0	0	NA	2500, 1701, 1157, 787, 535, 264, 248, 169	1.47	NO	no points between 0-100%		FAL.3T3.SLS.04.11.04
FAL.3T3.RG.B2.25.11.04	DF	AA61RG	NA	329085	0.258	0.36%	0	0	-1.2340	2500, 2066, 1708, 1411, 1166, 964, 797, 658	1.21	NO	no points between 0-100%		FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.RG.B3.26.11.04	DF	AA61RG	NA	NA	0.263	5.11%	0	0	NA	2500, 2066, 1708, 1411, 1166, 964, 797, 658	1.21	NO	no points between 0-100%	no toxicity detected; 1.21 dilut. factor doesn't affect acceptability; outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.26.11.04
NICOTINE															
IIVS															
A1	RF	AA61HL	339	2.089	0.457	7.49%	0	5	0.9490	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61HL	422	2.600	0.539	5.98%	1	2	0.9929	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61HL	508	3.133	0.392	3.15%	2	0	0.8900	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	NO	no points between 50 - 100%		SLS-B7
B3	DF	AA61HL	513	3.162	0.469	2.05%	2	1	0.9111	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B8
B4	DF	AA61HL	415	2.558	0.440	1.63%	3	2	0.9953	1000, 833, 694, 579, 482, 402, 335, 279	1.2	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
ECBC															
AA61NA-A1	RF	AA61NA	NA	NA	0.410	19.57%	0	5	NA	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P49
AA61NA-B1	DF	AA61NA	NA	NA	0.532	3.40%	3	5	NA	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	NO	PC failed		SLS-P53
AA61NA-B2 (sealer)	DF	AA61NA	292	1.803	0.603	4.02%	3	5	0.8541	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P54

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61NA-B3 (sealer)	DF	AA61NA	NA	NA	0.399	9.58%	4	4	NA	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	NO	PC failed		SLS-P56
AA61NA-B4 (sealer)	DF	AA61NA	325	2.004	0.451	5.32%	3	5	0.7971	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P58
AA61NA-B5 (sealer)	DF	AA61NA	199	1.227	0.536	5.08%	5	3	0.8836	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P62
FRAME															
FAL.3T3.KL.A1.10.09.04	RF	AA61KL	582	3.589	0.402	9.59%	1	0	0.9633	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.KL.B1.16.09.04	DF	AA61KL	460	2.838	0.375	1.07%	3	0	0.9720	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.KL.B2.23.09.04	DF	AA61KL	481	2.964	0.356	3.30%	4	2	0.9817	1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319, 263	1.21	YES		outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.KL.B3.14.10.04	DF	AA61KL	499	3.076	0.359	4.34%	2	1	0.9323	1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319, 263	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.KL.B4.04.11.04	DF	AA61KL	255	1.574	0.227	6.96%	6	2	0.9486	750, 620, 512, 423, 350, 289, 239, 197	1.21	YES		outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.04.11.04

PARAQUAT

IIVS															
A1	RF	AA61GD	14.1	0.055	0.454	0.61%	1	1	0.9683	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61GD	7.91	0.031	0.491	0.08%	6	2	0.9744	86.8 ,54.3, 33.9, 21.2, 13.3, 8.28, 5.18, 3.24	1.6	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61GD	22.7	0.088	0.386	6.81%	3	5	0.9777	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61GD	39.4	0.153	0.478	2.70%	2	6	0.9759	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61MP-A1	RF	AA61MP	11.9	0.046	0.345	1.23%	1	1	0.9870	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P5
AA61MP-B1	DF	AA61MP	23.6	0.092	0.654	5.58%	2	5	0.9673	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P23
AA61MP-B2	DF	AA61MP	13.1	0.051	0.632	7.30%	3	5	0.9128	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P26
AA61MP-B3	DF	AA61MP	27.1	0.105	0.622	7.05%	2	5	0.9779	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P27
FRAME															
FAL.3T3.HP.A1.01/04/04	RF	AA61HP	62.4	0.243	0.396	1.11%	3	0	0.8909	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.HP.B1.29/04/04	DF	AA61HP	39.8	0.155	0.275	10.84%	1	0	0.8164	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	no points between 50 - 100%	NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.HP.B2.07/05/04	DF	AA61HP	7.35	0.029	0.347	7.92%	4	2	0.9791	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.HP.B3.20/05/04	DF	AA61HP	40.2	0.156	0.360	0.93%	4	1	0.9192	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04
FAL.3T3.HP.B4.27/05/04	DF	AA61HP	27.0	0.105	0.425	2.86%	4	4	0.9183	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	YES		outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.27/05/04

PARATHION

IIVS															
A1	RF	AA61PS	50.6	0.174	0.402	5.64%	1	3	0.9458	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C3	SLS-A3
B1	DF	AA61PS	20.7	0.071	0.435	5.34%	3	3	0.8956	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		SD removed C1 & C2 from Hill function in PRISM due to upswing in response curve	SLS-B5

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61PS	27.5	0.095	0.348	13.21%	5	3	0.9431	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		ppt in 2X C1-C4	SLS-B9
B3	DF	AA61PS	17.9	0.062	0.353	5.03%	3	3	0.9864	300, 167, 92.6, 51.4, 28.6, 15.9, 8.82, 4.90	1.8	YES		ppt in 2X C1-C4 & 1X C1-C2; SD removed C1 & C2 from Hill function in PRISM due to ppts & flat response curve	SLS-B10
ECBC															
AA61MD-A1	RF	AA61MD	NA	NA	0.329	7.11%	2	6	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; PC failed	ppt in 1X C1 & 2X C1-C2 (cloudy)	SLS-P50
AA61MD-B1	DF	AA61MD	18	0.062	0.648	8.54%	3	5	0.9126	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P55
AA61MD-B2	DF	AA61MD	13.6	0.047	0.418	10.70%	3	5	0.8929	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P57
AA61MD-B3	DF	AA61MD	36.4	0.125	0.321	10.09%	2	5	0.9559	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P59
FRAME															
FAL.3T3.KE.A1.28.05.04	RF	AA61KE	407	1.399	0.396	3.60%	1	4	0.9626	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.28.05.04
FAL.3T3.KE.B1.04.06.04	DF	AA61KE	51.9	0.178	0.330	7.50%	5	3	0.7298	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.KE.B2.18.06.04	DF	AA61KE	NA	0.121	0.714	6.99%	3	0	0.8485	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1-C2; tox.curve going in wrong direction; SD suggests ppt is cause of bad curve	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.KE.B3.09.07.04	DF	AA61KE	123	0.423	0.283	6.74%	2	6	0.9136	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.KE.B4.16.07.04	DF	AA61KE	247	0.847	0.263	3.84%	2	3	0.8273	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.16.07.04
PHENOBARBITAL															
IIVS															
A1	RF	AA61FG	77.4	0.333	0.283	14.30%	1	5	0.9228	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61FG	813	3.500	0.359	8.28%	0	8	0.4992	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B6
B2	DF	AA61FG	379	1.633	0.342	1.76%	3	5	0.9762	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B2 (should be B3)	DF	AA61FG	624	2.686	0.302	13.14%	2	6	0.8659	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES		outliers removed bySD	SLS-B13
B4	DF	AA61FG	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B5	DF	AA61FG	497	2.138	0.335	2.24%	3	5	0.9744	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B15
B6	DF	AA61FG	405	1.742	0.302	1.43%	3	5	0.9775	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B16
ECBC															
AA61KV-A1	RF	AA61KV	351	1.510	0.324	3.98%	1	2	0.9078	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P68
AA61KV-B1	DF	AA61KV	624	2.686	0.405	1.63%	3	5	0.9793	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P70
AA61KV-B2	DF	AA61KV	505	2.173	0.412	8.99%	3	5	0.7926	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P71
AA61KV-B3	DF	AA61KV	773	3.327	0.410	6.44%	2	6	0.9504	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P72
FRAME															
FAL.3T3.NJ.A1.21.10.04	RF	AA61NJ	796	3.428	0.169	1.18%	1	0	0.5114	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.NJ.B1.11.11.04	DF	AA61NJ	435	1.871	0.311	4.08%	4	4	0.8929	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198,135	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.NJ.B2.25.11.04	DF	AA61NJ	832	3.582	0.295	9.31%	2	2	0.8514	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.NJ.B3.26.11.04	DF	AA61NJ	912	3.927	0.204	1.06%	2	2	0.9435	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.26.11.04
PHENOL															
IIVS															
A1	RF	AA61PG	3.12	0.033	0.418	100.04%	2	4	0.9933	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A3
B1	DF	AA61PG	NA	NA	0.465	1.52%	0	3	0.5739	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	NO	no points between 0 - 50%	plate sealer used	SLS-B4
B2	DF	AA61PG	54.8	0.583	0.422	2.43%	3	5	0.9767	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		plate sealer used	SLS-B6
B3	DF	AA61PG	33.6	0.357	0.392	34.71%	4	4	0.9925	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	NO	% VC difference > 15	plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength; VC2 used to calculate viability; volatility problem	SLS-B11
B4	DF	AA61PG	65.9	0.700	0.337	1.73%	3	5	0.9669	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B12
B5	DF	AA61PG	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B6	DF	AA61PG	53.6	0.569	0.411	3.44%	3	5	0.9775	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B15
ECBC															
AA61FV-A1	RF	AA61FV	NA	NA	0.140	99.80%	4	0	NA	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	probable volatility problem; VC1 <<< VC2	SLS-11
AA61FV-A2 (sealer)	RF	AA61FV	56.0	0.595	0.430	3.64%	2	1	0.8997	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P45
AA61FV-B1(sealer)	DF	AA61FV	50.6	0.537	0.305	4.48%	4	4	0.9861	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1	2.15	YES			SLS-P47
AA61FV-B2 (sealer)	DF	AA61FV	NA	NA	0.280	0.51%	5	3	NA	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	PC failed		SLS-P50
AA61FV-B3 (sealer)	DF	AA61FV	NA	NA	0.341	7.61%	4	4	NA	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	NO	PC failed		SLS-P52
AA61FV-B4 (sealer)	DF	AA61FV	60.8	0.646	0.552	2.48%	3	3	0.9615	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P54
AA61FV-B5 (sealer)	DF	AA61FV	NA	NA	0.354	3.58%	4	4	NA	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	NO	PC failed		SLS-P56
AA61FV-B6 (sealer)	DF	AA61FV	39.1	0.415	0.416	4.85%	4	4	0.9808	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P58
FRAME															
FAL.3T3.MS.A1.21.05.04	RF	AA61MS	10.4	0.110	0.176	99.85%	2	1	0.4657	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	volatility problem	FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.MS.B1.17/06/04	DF	AA61MS	NA	NA	0.387	40.08%	2	1	NA	1000, 317, 100, 31.7, 10.0, 3.2, 1.0, 0.3	3.16	NO	% VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.MS.B2.24/06/04	DF	AA61MS	375	3.984	0.154	18.61%	1	4	0.9472	1000, 317, 100, 31.7, 10.0, 3.2, 1.0, 0.3	3.16	NO	% VC difference > 15	used plate sealer; volatility problem	FAL.3T3.SLS.24.06.04
FAL.3T3.MS.B3.08.07.04	DF	AA61MS	142	1.504	0.308	26.58%	4	1	0.9369	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	NO	% VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.08.07.04
FAL.3T3.MS.B4.09.07.04	DF	AA61MS	37.8	0.401	0.301	25.71%	3	2	0.5823	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	NO	% VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.MS.B5.16.07.04	DF	AA61MS	110	1.168	0.360	7.07%	3	2	0.9794	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16.07.04
FAL.3T3.MS.B6.17.09.04	DF	AA61MS	124	1.322	0.530	17.30%	3	2	0.9579	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	NO	% VC difference > 15	did not use plate sealer	FAL.3T3.SLS.17.09.04
FAL.3T3.MS.B7.23.09.04	DF	AA61MS	126	1.335	0.313	7.13%	3	2	0.9717	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	YES		outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.23.09.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.MS.B8.14.10.04	DF	AA61MS	116	1.231	0.234	27.97%	4	2	0.9535	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.1	2.15	NO	% VC difference > 15	volatility problem	FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.MS.B9.21.10.04	DF	AA61MS	77.3	0.821	0.339	13.82%	4	3	0.9581	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.21.10.04
PHENYLTHIOUREA															
IIVS															
A1	RF	AA61PV	49.4	0.325	0.369	1.67%	2	3	0.8971	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61PV	113	0.741	0.446	4.65%	3	4	0.9548	300, 188, 117, 73.2, 45.8, 28.6, 17.9, 11.2	1.6	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61PV	83.9	0.552	0.262	5.15%	6	2	0.9737	1000, 625, 391,244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	YES			SLS-B13
B3	DF	AA61PV	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B4	DF	AA61PV	70.0	0.460	0.335	8.85%	6	2	0.9580	1000, 625, 391,244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	YES			SLS-B15
ECBC															
AA61LN-A1	RF	AA61LN	NA	#VALUE!	0.284	5.42%	2	6	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; PC failed		SLS-P51
AA61LN-B1	DF	AA61LN	NA	#VALUE!	0.350	14.50%	4	4	NA	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	NO	PC failed		SLS-P53
AA61LN-B2	DF	AA61LN	48.6	0.320	0.613	11.02%	4	4	0.9747	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P55
AA61LN-B3	DF	AA61LN	9.11	0.060	0.601	9.45%	5	3	0.9428	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P57
AA61LN-B4	DF	AA61LN	32.7	0.215	0.374	8.69%	4	4	0.9730	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P59
FRAME															
FAL.3T3.JB.A1.27/05/04	RF	AA61JB	34.0	0.223	0.302	7.47%	2	1	0.9382	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.27/05/04
FAL.3T3.JB.B1.04/06/04	DF	AA61JB	164	1.075	0.320	7.72%	3	5	0.8392	2500, 791, 250, 79.2, 25.1, 7.9, 2.5, 0.8	3.16	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.JB.B2.18/06/04	DF	AA61JB	288	1.891	0.388	2.92%	2	3	0.9514	2500, 791, 250, 79.2, 25.1, 7.9, 2.5, 0.8	3.16	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.18.06.04
FAL.3T3.JB.B3.08.07.04	DF	AA61JB	264	1.736	0.250	6.43%	2	6	0.8568	2500, 791, 250, 79.2, 25.1, 7.9, 2.5, 0.8	3.16	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.08.07.04
PHYSOSTIGMINE															
IIVS															
A1	RF	AA61NF	673	2.444	0.262	11.85%	1	4	0.9016	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61NF	75.9	0.275	0.517	10.55%	2	0	0.8901	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	NO	no points between 50 - 100%		SLS-B5
B2	DF	AA61NF	30.1	0.109	0.411	6.64%	2	4	0.9115	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B6
B3	DF	AA61NF	19.8	0.072	0.338	7.64%	2	3	0.9406	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES		outliers removed bySD	SLS-B13
B4	DF	AA61NF	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NA	NO	PC failed		SLS-B14
B5	DF	AA61NF	16.0	0.058	0.350	0.98%	3	2	0.9600	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B15
B6	DF	AA61NF	15.8	0.057	0.365	1.30%	4	2	0.9575	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B16
ECBC															
AA61FT-A1	RF	AA61FT	NA	NA	0.281	7.43%	2	4	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; PC failed		SLS-P51
AA61FT-B1	DF	AA61FT	42.8	0.155	0.678	8.75%	2	6	0.9263	80.0, 54.4, 37.0, 25.2, 17.1, 11.7, 7.93, 5.39	1.47	YES			SLS-P55

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61FT-B2	DF	AA61FT	13.0	0.047	0.592	9.27%	5	3	0.8332	80.0, 54.4, 37.0, 25.2, 17.1, 11.7, 7.93, 5.39	1.47	YES			SLS-P57
AA61FT-B3	DF	AA61FT	28.8	0.105	0.354	8.67%	5	3	0.9265	80.0, 54.4, 37.0, 25.2, 17.1, 11.7, 7.93, 5.39	1.47	YES			SLS-P59
FRAME															
FAL.3T3.GT.A1.21.10.04	RF	AA61GT	34.4	0.125	0.217	3.30%	1	0	0.9835	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.GT.B1.25.11.04	DF	AA61GT	38.2	0.139	0.344	4.78%	4	2	0.9738	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	YES		ppt in 2X C1-C2;	FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.GT.B2.26.11.04	DF	AA61GT	35.7	0.130	0.167	1.60%	4	3	0.6701	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	YES		ppt in 2X C1-C2;	FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.GT.B3.02.12.04	DF	AA61GT	77.1	0.280	0.179	5.82%	0	1	0.2009	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	NO	no points between 0-50%	most values above 125%	FAL.3T3.SLS.02.12.04 (RB)
FAL.3T3.GT.B4.09.12.04	DF	AA61GT	39.5	0.144	0.286	6.43%	2	2	0.9799	100, 75.2, 56.5, 42.5, 32.0, 24.0, 18.1, 13.6	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.09.12.04
POTASSIUM I CHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61FF	611	8.196	0.457	25.09%	1	1	0.8205	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF			SLS-A1
B1	DF	AA61FF	4150	55.667	0.394	5.13%	2	6	0.9627	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FF	3660	49.095	0.536	1.54%	2	5	0.9837	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FF	3230	43.327	0.561	1.06%	2	5	0.9387	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61FF	3320	44.534	0.442	4.82%	2	4	0.9856	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61KM-A1	RF	AA61KM	2160	28.974	0.424	3.92%	0	0	0.8877	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 10 - 90%; range finder		SLS-P1
AA61KM-B1	DF	AA61KM	3140	42.119	0.607	0.88%	1	4	0.8821	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P6
AA61KM-B2	DF	AA61KM	4060	54.460	0.552	4.78%	1	1	0.9805	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P8
AA61KM-B3	DF	AA61KM	3160	42.388	0.526	0.98%	1	3	0.9435	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P10
AA61KM-B4	DF	AA61KM	3080	41.315	0.676	1.49%	1	4	0.9563	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P13
FRAME															
FAL.3T3.A1.MY.200603	RF	AA61MY	1290	17.304	0.745	1.93%	0	1	0.9580	10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 10 - 50%; range finder		FAL.3T3.SLS2.A1.200603
FAL.3T3.MY.A2.27.06.03	RF	AA61MY	9440	126.626	0.511	2.94%	0	2	0.7401	6000, 4080, 2780, 1890, 1280, 874, 595, 405	1.47	NO	no points between 10 - 50%; low r2; range finder		FAL.3T3.SLS.A2.27.06.03
FAL.3T3.MY.B1.04.07.03	DF	AA61MY	4470	59.960	0.551	2.97%	0	4	0.9514	20000, 13600, 9260, 6300, 4280, 2910, 1980, 1350	1.47	NO	PC failed; no points between 10 - 50%		FAL.3T3.SLS.04.07.03

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.B2.MY.11.07.03	DF	AA61MY	4350	58.350	0.583	0.25%	1	4	0.9622	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.11.07.03
FAL.3T3.B3.MY.18.07.03	DF	AA61MY	4760	63.850	0.499	0.50%	2	2	0.9202	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.18.07.03
FAL.3T3.B4.MY.25.07.03	DF	AA61MY	4740	63.581	0.478	6.48%	1	2	0.9631	10000, 7519, 5633, 4251, 3196, 2403, 1807, 1350	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.25.07.03
FAL.3T3.B5.MY.070803	DF	AA61MY	3440	46.144	1.263	6.60	3	5	0.9364	10000, 6802, 4627, 3148, 2141, 1456, 991, 674	1.47	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.070803
FAL.3T3.B6.MY.080803	DF	AA61MY	1160	15.560	0.432	11.91	5	2	0.6458	10000, 6802, 4627, 3148, 2141, 1456, 991, 674	1.47	NO	PC failed; low r2		FAL.3T3.SLS.080803
FAL.3T3.MY.B7.120903	DF	AA61MY	1920	25.755	0.629	1.58	4	2	0.9144	10000, 7519, 5633, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.120903
FAL.3T3.MY.B8.180903	DF	AA61MY	3450	46.278	0.367	6.74	3	5	0.8706	10000, 7519, 5633, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.180903
POTASSIUM CYANIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61KW	25.5	0.392	0.116	99.22%	1	5	0.9238	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs;VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A5
B1	DF	AA61KW	19.8	0.304	0.403	7.47%	3	3	0.9494	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES		plate sealer used	SLS-B4
B2	DF	AA61KW	18.9	0.291	0.366	0.25%	5	3	0.9756	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61KW	17.9	0.275	0.408	5.75%	5	3	0.9767	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61MN-A1	RF	AA61MN	421	6.461	0.085	0.69%	1	6	0.9516	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P49
AA61MN-B1 (sealer)	DF	AA61MN	NA	NA	0.125	6.06%	7	0	NA	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	NO	no points between 50-100%; PC failed	ppt in 1X C1-C5	SLS-P52
AA61MN-B2 (sealer)	DF	AA61MN	NA	NA	0.434	3.69%	0	8	NA	200, 136, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P62
AA61MN-B3 (sealer)	DF	AA61MN	19.6	0.301	0.325	1.90%	3	5	0.9619	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P64
AA61MN-B4 (sealer)	DF	AA61MN	13.9	0.213	0.435	9.17%	3	5	0.9485	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C5	SLS-P66
AA61MN-B5 (sealer)	DF	AA61MN	12.5	0.192	0.446	0.73%	3	5	0.8689	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P68
FRAME															
FAL.3T3.GP.A1.21.10.04	RF	AA61GP	153	2.357	0.029	97.12%	0	0	0.9807	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0-100%	ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.GP.B1.11.11.04	DF	AA61GP	219	3.360	0.203	10.87%	8	0	0.8961	1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319, 263	1.21	NO	no points between 50-100%	ppt in 1X C1-C8; viability not above 50% for any conc	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.GP.B2.26.11.04	DF	AA61GP	253	3.884	0.184	5.76%	2	6	0.3284	500, 413, 342,282, 233,193,159, 132	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.GP.B3.09.12.04	DF	AA61GP	172	2.638	0.195	22.57%	6	1	0.6436	500, 413, 342,282, 233,193,159, 132	1.21	NO	% VC difference >15		FAL.3T3.SLS.09.12.04
FAL.3T3.GP.B4.10.12.04	DF	AA61GP	106	1.634	0.236	5.84%	4	2	0.5610	500, 376, 283, 213, 160, 120, 90.3, 67.9	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.10.12.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.GP.B5.15.12.04	DF	AA61GP	117	1.804	0.126	2.18%	4	4	0.6827	500, 376, 283, 213, 160, 120, 90.3, 67.9	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.15.12.04
PROCAINAMIDE HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61ML	406	1.492	0.421	5.01%	0	1	0.9614	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61ML	453	1.666	0.485	3.11%	1	1	0.9213	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61ML	485	1.786	0.400	0.77%	1	0	0.8992	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	NO	no points between 50-100%	outliers removed bySD	SLS-B7
B3	DF	AA61ML	528	1.944	0.453	4.01%	1	1	0.8702	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.4	YES			SLS-B8
B4	DF	AA61ML	511	1.878	0.457	3.83%	3	1	0.9248	1000, 833, 694, 579, 482, 402, 335, 279	1.2	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
ECBC															
AA61KC-A1	RF	AA61KC	363	1.336	0.365	3.67%	0	1	0.9503	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P13
AA61KC-B1	DF	AA61KC	406	1.495	0.499	11.41%	3	3	0.9929	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			SLS-P37
AA61KC-B2	DF	AA61KC	412	1.516	0.392	0.00%	4	1	0.9682	800, 661, 546, 452, 373, 308, 255, 211	1.21	YES			SLS-P40
AA61KC-B3	DF	AA61KC	383	1.409	0.528	4.19%	3	1	0.9813	800, 661, 546, 452, 373, 308, 255, 211	1.21	YES			SLS-P41
FRAME															
FAL.3T3.GV.A1.10.09.04	RF	AA61GV	550	2.022	0.582	11.63%	2	0	0.8758	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.GV.B1.16.09.04	DF	AA61GV	423	1.555	0.367	5.86%	4	0	0.8061	1000, 752, 565, 425, 320, 240, 181, 136	1.33	NO	no points between 50 - 100%	outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.GV.B2.23.09.04	DF	AA61GV	433	1.591	0.405	3.52%	1	1	0.4667	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.GV.B3.14.10.04	DF	AA61GV	426	1.566	0.340	7.26%	3	1	0.5102	750, 620, 512, 423, 350, 289, 239, 197	1.21	YES		C5-C8 show % viabilities >144%; outlier removed bySD	FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.GV.B4.04.11.04	DF	AA61GV	435	1.599	0.238	1.58%	3	1	0.4580	750, 620, 512, 423, 350, 289, 239, 197	1.21	YES		4 concentrations with values >150%	FAL.3T3.SLS.04.11.04
2-PROPANOL															
IIVS															
A1	RF	AA61GC	NA	NA	0.486	1.76%	0	8	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
A1 with plate cover	RF	AA61GC	4380	72.879	0.421	6.01%	1	6	0.8257	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61GC	11000	183.028	0.082	89.61%	3	1	0.8759	100000, 62500, 39063, 24414, 15259, 9537, 5960, 3725	1.6	NO	% VC difference > 15		SLS-B1
B1 with plate cover	DF	AA61GC	6280	104.493	0.216	15.53%	4	1	0.9691	100000, 62500, 39063, 24414, 15259, 9537, 5960, 3725	1.6	NO	% VC difference > 15		SLS-B1
B2	DF	AA61GC	9620	160.067	0.098	87.70%	3	1	0.9420	100000, 62500, 39063, 24414, 15259, 9537, 5960, 3725	1.6	NO	% VC difference > 15		SLS-B2
B2 with plate cover	DF	AA61GC	3160	52.579	0.404	2.68%	5	0	0.9710	100000, 62500, 39063, 24414, 15259, 9537, 5960, 3725	1.6	NO	no points between 50 - 99.9%		SLS-B2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61GC	11200	186.356	0.223	61.18%	4	2	0.8927	50000, 33333, 22222, 14815, 9877, 6584, 4390, 2926	1.5	NO	% VC difference > 15; PC failed		SLS-B3
B3 with plate cover	DF	AA61GC	4280	71.215	0.525	6.06%	5	1	0.9764	50000, 33333, 22222, 14815, 9877, 6584, 4390, 2926	1.5	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61GC	16600	276.206	0.230	22.95%	0	6	0.6865	20500, 14643, 10459, 7471, 5336, 3812, 2723, 1945	1.4	NO	% VC difference > 15; no points between 0.1 - 50%; low r2		SLS-B4
B4 with plate cover	DF	AA61GC	4690	78.037	0.418	15.64%	4	3	0.9516	20500, 14643, 10459, 7471, 5336, 3812, 2723, 1945	1.4	NO	% VC difference > 15		SLS-B4
B5 with plate cover	DF	AA61GC	3940	65.557	0.432	3.99%	5	3	0.9607	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B5
B6 with plate cover	DF	AA61GC	4260	70.882	0.344	2.04%	5	3	0.9911	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B6
B7 with plate cover	DF	AA61GC	5860	97.504	0.344	9.77%	4	4	0.6186	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	NO	low r2; study director also rejected due to excessive well to well variability		SLS-B7
B8 with plate cover	DF	AA61GC	4130	68.719	0.452	0.86%	5	3	0.9399	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B8
B8 with DYNEX plate cover - for research only	DF	AA61GC	3210	53.411	0.347	1.34%	6	2	0.9369	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	NO	for research; gives lower OD values than the EXCEL plate sealers		SLS-B8
ECBC															
AA61JL-A1	RF	AA61JL	NA	NA	0.405	7.48%	0	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 10 - 90; range finder	high volatility	SLS-P1
AA61JL-A2	RF	AA61JL	NA	NA	0.19	62.97%	1	2	NA	100000, 10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01	10	RF	% VC difference > 15; range finder	high volatility	SLS-P3
AA61JL-B1	DF	AA61JL	NA	NA	0.133	75.92%	3	2	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370	1.47	NO	PC failed; % VC difference > 15	high volatility	SLS-P9
AA61JL-B2	DF	AA61JL	NA	NA	0.119	75.18%	4	1	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370	1.47	NO	PC failed; % VC difference > 15	high volatility	SLS-P11
AA61JL-B3 sealer	DF	AA61JL	NA	NA	0.256	30.03	4	1	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370	1.47	NO	% VC difference > 15	high volatility	SLS-P17
AA61JL-B4 sealer	DF	AA61JL	NA	NA	0.446	19.53	7	1	NA	34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370, 2293	1.47	NO	% VC difference > 15	high volatility	SLS-P19
AA61JL-B6	DF	AA61JL	NA	NA	0.204	46.32	0	4	NA	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	% VC difference > 15; no points between 0 -50 %		SLS-P20
AA61JL-B5 sealer	DF	AA61JL	NA	NA	0.117	67.16	5	2	NA	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	% VC difference > 15		SLS-P20
AA61JL-B7 sealer	DF	AA61JL	NA	NA	0.475	15.59	5	3	NA	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	% VC difference > 15: no r2		SLS-P21
AA61JL-B8 sealer	DF	AA61JL	NA	NA	0.373	31.51	5	2	NA	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	% VC difference > 15		SLS-P21

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61JL-B9 sealer	DF	AA61JL	2440	40.599	0.324	0.26	5	3	0.9415	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			SLS-P22
AA61JL-B10 sealer	DF	AA61JL	2780	46.256	0.214	11.21	5	3	0.9572	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	YES			SLS-P23
AA61JL-B11 sealer	DF	AA61JL	2710	45.092	0.171	16.20	5	3	0.9661	15000, 10204, 6942, 4722, 3212, 2185, 1487, 1011	1.47	NO	% VC difference > 15		SLS-P24
FRAME															
A1NG190603	RF	AA61NG	> 10,000	NA	0.965	0.22%	0	8	0.0127	10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	PC failed; no points between 10 -50%; low r2; range finder		A1SLS190603
F_L.3T3.NG.A2.26.06.03	RF	AA61NG	11700	194.676	0.251	42.34%	0	2	0.7469	100000,10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01	10	RF	VC difference greater than 15%; no points between 10 - 50; r2 too low; range finder		FAL.3T3.SLS.A2.26.06.03
FAL.3T3.NG.B1.03.07.03	DF	AA61NG	92500	1539.101	0.404	12.52%	0	2	0.5706	50000, 23256, 10817, 3031, 2340, 1088, 506, 235	2.15	NO	no points between 10 - 50; r2 too low		FAL.3T3.SLS.B1.03.07.03
FAL.3T3.B2.NG.10.07.03	DF	AA61NG	NA	NA	0.157	56.97%	NA	NA	NA	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	% VC difference > 15; range finder	high volatility	FAL.3T3.SLS.10.07.03
FAL.3T3.NG.B3.120903	DF	AA61NG	34900	580.699	0.251	42.34	0	2	0.7468	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	No points between 0 & 50%viability; low r2; %VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.120903
FAL.3T3.NG.B5.180903 plate sealer	DF	AA61NG	3900	64.892	0.417	3.46	4	1	0.9517	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.180903
FAL.3T3.NG.B5.180903 mineral oil	DF	AA61NG	5940	98.835	0.366	8.45	5	2	0.9380	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	Mineral oil		FAL.3T3.SLS.180903
FAL.3T3.NG.B6.190903 plate sealer	DF	AA61NG	4570	76.040	0.258	17.26	5	1	0.8993	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.190903
FAL.3T3.NG.B6.190903 mineral oil	DF	AA61NG	4740	78.869	0.384	7.46	5	2	0.9301	50000, 34014, 23139, 15741, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	Mineral oil		FAL.3T3.SLS.190903
FAL.3T3.NG.B7.25.09.03 plate sealer	DF	AA61NG	4130	68.719	0.347	10.58	3	4	0.9244	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.250903
FAL.3T3.NG.B8.25.09.03 mineral oil	DF	AA61NG	4220	70.216	0.361	7.83	4	4	0.9513	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	Mineral oil		FAL.3T3.SLS.250903
FAL.3T3.NG.B8-03-10-03 plate sealer	DF	AA61NG	3880	64.559	0.510	2.39	5	3	0.9519	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.031003

PROPRANOLOL

IIVS															
A1 Preliminary	RF	AA61GU	19.3	0.065	0.320	5.15%	0	1	0.9764	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61GU	21.1	0.071	0.384	7.68%	1	1	0.9906	1000, 559.5, 313.0, 175.0, 98.0, 54.5, 30.6, 17.0 [IIVS retested; used wrong dilution scheme]	1.79	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61GU	19.7	0.067	0.386	4.75%	0	1	0.9834	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10.0, 5.63, 3.16, 1.78	1.78	NO	No points between 10 and 50%		SLS-B2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61GU	13.6	0.046	0.484	4.31%	1	4	0.9443	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10.0, 5.63, 3.16, 1.78	1.78	YES			SLS-B3
B4	DF	AA61GU	18.3	0.062	0.444	0.43%	1	3	0.9816	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10.0, 5.63, 3.16, 1.78	1.78	NO	PC failed		SLS-B4
B5	DF	AA61GU	18.2	0.062	0.319	0.94%	1	2	0.9927	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10.0, 5.63, 3.16, 1.78	1.78	YES			SLS-B5
ECBC															
ECBC-3T3-lb-01 AA61KH-A1	RF	AA61KH	17.5	0.059	0.279	6.15%	0	1	0.8598	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P1
ECBC-3T3-lb-02 AA61KH-B1	DF	AA61KH	11.4	0.039	0.204	1.02%	2	2	0.9384	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	PC failed		SLS-P3
ECBC-3T3-lb-03 AA61KH-B2	DF	AA61KH	16.2	0.055	0.249	4.55%	1	2	0.9601	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	PC failed		SLS-P4
ECBC-3T3-lb-04 AA61KH-B3	DF	AA61KH	12.2	0.041	0.476	16.18%	2	4	0.8629	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	NO	VC difference > 15%		SLS-P5
ECBC-3T3-lb-05 AA61KH-B4	DF	AA61KH	11.3	0.038	0.297	4.17%	2	4	0.9493	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			SLS-P7
ECBC-3T3-lb-06 AA61KH-B5	DF	AA61KH	8.90	0.030	0.474	9.70%	2	3	0.8932	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			SLS-P9
ECBC-3T3-lb-07 AA61KH-B6	DF	AA61KH	18.7	0.063	0.306	3.70%	2	2	0.9475	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			SLS-P12
ECBC-3T3-lb-08 AA61KH-B7	DF	AA61KH	15.6	0.053	0.311	11.73%	2	2	0.9549	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			SLS-P13
FRAME															
A1 1b3T3RF01FALNM	RF	AA61NM	57.7	0.195	0.413	12.84%	0	0	0.9454	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		1b3T3CRTFALSLS 12/4/02
A2 1b3T3RF02FALNM	RF	AA61NM	0.022	0.000	0.479	8.47%	1	3	0.9694	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		1b3T3CRTFALSLS 12/10/02
1b3T3DF02FALNM	DF	AA61NM	19.8	0.067	0.350	6.58%	1	3	0.8123	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	NO	PC failed		1b3T3CRTFALSLS 12/17/02
1b3T3DF02FALNM	DF	AA61NM	23.1	0.078	0.477	10.31%	1	1	0.8691	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	YES		NR crystals in plate	1b3T3CRTFALSLS 1/7/03
1b3T3DF02FALNM	DF	AA61NM	23.9	0.081	0.220	13.61%	0	2	0.8821	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	NO	NR crystals in plate; stopped after 1 h; no point between 10 & 50% viability; PC failed		1b3T3CRTFALSLS 1/8/03
1b3T3DF05FALNM	DF	AA61NM	13.8	0.047	0.449	8.47%	1	3	0.9401	35.000, 23.810, 16.197, 11.018, 7.495, 5.099, 3.469, 2.360	1.47	YES			1b3T3CRTFALSLS 1/14/03
1b3T3DF06FALNM	DF	AA61NM	33.3	0.113	0.300	11.67%	1	2	0.8052	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	NO	PC failed		1b3T3CRTFALSLS 1/15/03
1b3T3DF07FALNM	DF	AA61NM	8.80	0.030	0.538	9.69%	1	5	0.9020	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	YES			1b3T3CRTFALSLS 1/21/03
1b3T3DF08FALNM A2650	DF	AA61NM	15.2	0.051	0.223	5.91%	1	4	0.8979	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	NO	NR crystals in plate; stopped after 1 h; PC failed		1b3T3CRTFALSLS 1/28/03
1b3T3DF09FALNM	DF	AA61NM	22.2	0.075	0.582	4.98%	1	0	0.9438	35.000, 23.810, 16.197, 11.018, 7.495, 5.099, 3.469, 2.360	1.47	NO	No points between 50 & 90% viability		1b3T3CRTFALSLS 2/4/03
1b3T3DF10FALNM	DF	AA61NM	8.36	0.028	0.426	12.59%	4	3	0.8917	35.000, 23.810, 16.197, 11.018, 7.495, 5.099, 3.469, 2.360	1.47	YES			1b3T3CRTFALSLS 2/5/03
1b3T3DF11FALNM	DF	AA61NM	18.5	0.063	0.227	13.72%	1	4	0.6461	35, 23.81, 16.20, 11.02, 7.50, 5.10, 3.47, 2.36	1.47	NO	r2< 0.8	Nonmonotonic curve.	1b3T3CRTFALSLS 2/26/03

PROPYLPARABEN

IIVS															
A1	RF	AA61PX	19.4	0.108	0.451	0.06%	1	2	0.9659	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-A2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61PX	19.2	0.106	0.445	3.97%	3	4	0.9395	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		C8 removed from PRISM by SD due to the upswing of the response curve at that conc.	SLS-B5
B2	DF	AA61PX	17.0	0.094	0.354	9.68%	4	4	0.9707	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61PX	15.0	0.083	0.368	7.51%	4	4	0.9675	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61PK-A1	RF	AA61PK	22.9	0.127	0.231	2.13%	1	2	0.9271	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P7
AA61PK-B1	DF	AA61PK	18.2	0.101	0.561	6.97%	4	4	0.9538	215, 100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01	2.15	YES			SLS-P26
AA61PK-B2	DF	AA61PK	19.8	0.110	0.543	6.49%	4	4	0.9827	215, 100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01	2.15	YES			SLS-P28
AA61PK-B3	DF	AA61PK	21.8	0.121	0.367	17.33%	3	5	0.9431	215, 100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01	2.15	NO	% VC difference > 15		SLS-P30
AA61PK-B4	DF	AA61PK	24.6	0.137	0.341	7.63%	2	5	0.9812	215, 100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01	2.15	YES			SLS-P32
FRAME															
FAL.3T3.HT.A1.01/04/04	RF	AA61HT	73.5	0.408	0.229	5.88%	2	1	0.8795	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.HT.B1.29/04/04	DF	AA61HT	41.3	0.229	0.193	7.55%	1	4	0.7787	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.HT.B2.07/05/04	DF	AA61HT	45.3	0.251	0.278	8.04%	4	2	0.9762	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.HT.B3.20/05/04	DF	AA61HT	68.7	0.381	0.332	10.50%	3	3	0.9633	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04
SODIUM ARSENITE															
IIVS															
A1	RF	AA61MV	0.454	0.003	0.368	14.66%	2	3	0.9583	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61MV	0.745	0.006	0.418	11.53%	3	3	0.9754	3.00, 2.00, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES		SD removed 7 data points from PRISM analysis; considered them outliers even though EXCEL macros did not identify as such	SLS-B4
B2	DF	AA61MV	0.755	0.006	0.414	5.16%	3	4	0.9674	3.00, 2.00, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61MV	0.548	0.004	0.464	4.40%	4	4	0.9506	3.00, 2.00, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61KA-A1	RF	AA61KA	0.483	0.004	0.506	2.78%	3	3	0.9940	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-16
AA61KA-B1	DF	AA61KA	0.482	0.004	0.565	4.68%	4	4	0.9795	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			SLS-P41
AA61KA-B2	DF	AA61KA	0.528	0.004	0.739	1.30%	2	4	0.9661	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			SLS-P43
AA61KA-B3	DF	AA61KA	0.477	0.004	0.617	1.99%	2	4	0.9795	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			SLS-P43
FRAME															
FAL.3T3.GS.A1.21.10.04	RF	AA61GS	1.11	0.009	0.254	4.69%	0	3	0.9858	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0-50%	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.21.10.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.GS.B1.11.11.04	DF	AA61GS	0.678	0.005	0.731	1.75%	8	0	0.9745	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	no points between 50-100%	ppt in 1X C1-C8	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.GS.B2.25.11.04	DF	AA61GS	0.872	0.007	0.381	2.01%	3	1	0.9740	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.GS.B3.26.11.04	DF	AA61GS	1.07	0.008	0.299	7.88%	1	2	0.9795	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES		outliers removed bySD	FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.GS.B4.02.12.04	DF	AA61GS	2.38	0.018	0.232	12.64%	2	2	0.9073	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.02.12.04 (SW)
SODIUM CHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61PE	3400	58.249	0.474	1.86%	1	6	0.9680	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61PE	5160	88.367	0.496	1.02%	2	6	0.9548	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61PE	5120	87.557	0.391	6.63%	3	3	0.9651	20000, 13333, 8889, 5926, 3951, 2634, 1756, 1171	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61PE	4350	74.352	0.450	5.91%	2	4	0.9484	20000, 13333, 8889, 5926, 3951, 2634, 1756, 1171	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61JW-A1	RF	AA61JW	4140	70.842	0.365	0.96%	1	6	0.9393	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-11
AA61JW-B1	DF	AA61JW	5050	86.355	0.538	7.42%	2	6	0.9446	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-27
AA61JW-B2	DF	AA61JW	4720	80.777	0.449	8.39%	2	6	0.9401	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-29
AA61JW-B3	DF	AA61JW	4600	78.757	0.519	5.06%	2	6	0.9369	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P31
FRAME															
FAL.3T3.FM.A1.21.05.04	RF	AA61FM	3540	60.574	0.396	0.86%	1	4	0.9371	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.21.05.04
FAL.3T3.FM.B1.04.06.04	DF	AA61FM	3010	51.557	0.452	18.08%	2	3	0.8138	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94.2	2.15	NO	% VC difference > 15		FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.FM.B2.17.06.04	DF	AA61FM	4500	76.964	0.538	0.15%	2	6	0.9728	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94.2	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.FM.B3.08.07.04	DF	AA61FM	4010	68.595	0.322	7.57%	2	4	0.9618	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94.2	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.08.07.04
FAL.3T3.FM.B4.09.07.04	DF	AA61FM	4520	77.320	0.384	3.06%	2	3	0.7556	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94.2	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.09.07.04
FAL.3T3.FM.B5.16.07.04	DF	AA61FM	5470	93.603	0.399	4.36%	1	3	0.9361	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94.2	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16.07.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
SODIUM DICHROMATE DIHYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FP	0.642	0.002	0.380	5.57%	1	1	0.9860	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4
B1	DF	AA61FP	0.548	0.002	0.502	2.42%	5	3	0.9910	3.00, 2.00, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61FP	0.527	0.002	0.435	0.54%	4	4	0.9751	2.47, 1.65, 1.10, 0.733, 0.489, 0.326, 0.217, 0.145	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61FP	0.455	0.002	0.449	3.30%	5	3	0.9931	3.00, 2.00, 1.33, 0.889, 0.593, 0.395, 0.263, 0.176	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61NT-A1	RF	AA61NT	0.561	0.002	0.291	2.92%	2	1	0.9850	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P12
AA61NT-B1	DF	AA61NT	0.555	0.002	0.438	5.78%	4	4	0.9835	6.00, 2.79, 1.30, 0.604, 0.281, 0.131, 0.061, 0.028	2.15	YES			SLS-P32
AA61NT-B2	DF	AA61NT	0.550	0.002	0.409	9.10%	4	4	0.9713	6.00, 2.79, 1.30, 0.604, 0.281, 0.131, 0.061, 0.028	2.15	YES			SLS-P34
AA61NT-B3	DF	AA61NT	0.703	0.002	0.654	1.90%	3	5	0.9871	6.00, 2.79, 1.30, 0.604, 0.281, 0.131, 0.061, 0.028	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.3T3.HK.A1.10.09.04	RF	AA61HK	0.871	0.003	0.496	11.79%	5	0	0.9710	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.HK.B1.16.09.04	DF	AA61HK	NA	NA	0.343	4.69%	0	0	NA	10.0, 4.7, 2.2, 1.0, 0.5, 0.2, 0.101, 0.047	2.15	NO	no points between 0 - 100%		FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.HK.B2.23.09.04	DF	AA61HK	0.388	0.001	0.367	3.41%	2	1	0.9713	1.00, 0.680, 0.463, 0.315, 0.214, 0.146, 0.099, 0.067	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.HK.B3.14.10.0404	DF	AA61HK	0.864	0.003	0.340	3.67%	1	7	0.9167	1.00, 0.752, 0.565, 0.425, 0.320, 0.240, 0.181, 0.136	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.HK.B4.04.11.04	DF	AA61HK	0.719	0.002	0.265	8.67%	2	3	0.7857	1.00, 0.752, 0.565, 0.425, 0.320, 0.240, 0.181, 0.136	1.33	YES			FAL.3T3.SLS.04.11.04
SODIUM I FLUORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61HF	59.2	1.410	0.526	0.64%	1	3	0.9854	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61HF	86.7	2.065	0.391	0.28%	2	4	0.9788	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61HF	75.5	1.798	0.512	5.46%	3	3	0.9857	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61HF	71.4	1.700	0.541	9.13%	2	2	0.9894	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61HF	83.8	1.996	0.465	2.42%	3	3	0.9676	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61MG-A1	RF	AA61MG	61.7	1.469	0.361	7.05%	0	0	0.9569	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	PC failed; no points between 10 - 90%; range finder		SLS-P2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61MG-B1	DF	AA61MG	59.7	1.422	0.597	4.34%	1	2	0.9567	200, 136.1, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	YES			SLS-P6
AA61MG-B2	DF	AA61MG	56.8	1.353	0.566	1.90%	3	4	0.9553	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES			SLS-P7
AA61MG-B3	DF	AA61MG	67.5	1.608	0.522	6.32%	3	2	0.9336	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES			SLS-P10
FRAME															
FAL.3T3.A1.RH.200603	RF	AA61RH	208	4.954	0.716	0.48%	1	0	0.9733	10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 50 - 90%; range finder		FAL.3T3.SLS2.A1.200603
FAL.3T3.B1.RH.27.06.03	DF	AA61RH	102	2.429	0.425	2.23%	2	1	0.9119	150, 102.0, 69.4, 47.2, 32.1, 21.8, 14.9, 10.1	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.A2.27.06.03
FAL.3T3.B2.RH.04.07.03	DF	AA61RH	85.9	2.046	0.568	0.12%	2	1	0.9438	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.04.07.03
FAL.3T3.B3.RH.11.07.03	DF	AA61RH	76.0	1.810	0.575	3.23%	2	1	0.9762	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.11.07.03
FAL.3T3.B4.RH.18.07.03	DF	AA61RH	110	2.620	0.552	4.70%	2	1	0.9301	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.18.07.03
SODIUM HYPOCHLORITE															
IIVS															
A1	RF	AA61RD	310	4.171	0.414	28.60%	1	4	0.9878	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	VC1 ODs < VC2 ODs; VC1 removed from subsequent analysis; volatility issues.	SLS-A1
B1	DF	AA61RD	NA	NA	0.464	1.53%	0	5	NA	1000, 667, 444, 296, 198, 132, 87.8, 58.5	1.5	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B4
B1 (should be B2)	DF	AA61RD	1110	14.866	0.425	2.24%	2	1	0.9708	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES		plate sealer used	SLS-B6
B3	DF	AA61RD	1600	21.537	0.446	5.64%	3	2	0.9810	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES		plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength; plate sealer used	SLS-B11
B4	DF	AA61RD	2170	29.187	0.404	9.58%	2	6	0.8825	4000, 2857, 2041, 1458, 1041, 744, 531, 379	1.4	YES			SLS-B12
B5	DF	AA61RD	3140	42.188	0.431	0.64%	1	3	0.9519	4000, 2857, 2041, 1458, 1041, 744, 531, 379	1.4	YES		plate sealer used	SLS-B15
ECBC															
AA61HE-A1	RF	AA61HE	NA	NA	0.241	44.19%	1	1	0.0000	10000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61HE-A2	RF	AA61HE	600	8.057	0.409	0.71%	1	1	0.6930	1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P17
AA61HE-B1	DF	AA61HE	728	9.777	0.418	6.56%	2	6	0.9476	1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319, 263	1.21	YES			SLS-P19
AA61HE-B2	DF	AA61HE	802	10.769	0.550	3.94%	3	5	0.8389	1210, 1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319	1.21	YES			SLS-P22
AA61HE-B3	DF	AA61HE	940	12.624	0.603	3.31%	2	5	0.9363	1210, 1000, 826, 683, 565, 467, 386, 319	1.21	YES			SLS-P23
FRAME															
FAL.3T3.LU.A1.09/01/04	RF	AA61LU	1060	14.295	0.483	0.62%	0	1	0.9323	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.09/01/04
FAL3T3.LU.A2.16.01.04	DF	AA61LU	391	5.250	0.897	4.13%	3	5	0.7288	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL3T3.LU.B1.23.01.04	DF	AA61LU	1090	14.696	0.505	7.27%	1	2	0.9546	5000, 2325.6, 1081.7, 503.1, 234.0, 108.8, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL3T3.23-01-04
FAL3T3.LU.B2.30.01.04	DF	AA61LU	935	12.566	0.401	11.07%	3	2	0.9787	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES		steep toxicity curve; will adjust concentrations for B3 to 2500 ug/ml (1.47 dil)	FAL.3T3.SLS.29/01/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL3T3.LU.B3.06-02-04	DF	AA6 LU	923	12.393	0.361	18.60%	1	3	0.9557	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	NO	%VC difference >15; possible volatility problem	VC1 ODs lower than VC2 ODs	FAL.3T3.SLS.06/02/04
SODIUM OXALATE															
IIVS															
A1	RF	AA61GX	24.9	0.186	0.341	1.34%	1	4	0.9800	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1 and 2X C1	SLS-A5
B1	DF	AA61GX	19.7	0.147	0.435	3.04%	5	3	0.9762	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C3	SLS-B6
B2	DF	AA61GX	37.9	0.283	0.472	1.09%	3	5	0.9774	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES		ppt in 2X C1-C4; plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61GX	80.2	0.598	0.349	13.14%	1	4	0.9617	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C4	SLS-B12
B4	DF	AA61GX	60.1	0.449	0.509	1.26%	2	6	0.9495	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.5	YES		ppt in 2X C1	SLS-B15
ECBC															
AA61LZ-A1	RF	AA61LZ	55.3	0.413	0.544	0.17%	1	4	0.9689	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1; ppt in 1X in C1-C2	SLS-15
AA61LZ-B1	DF	AA61LZ	49.9	0.372	0.455	3.70%	3	5	0.9871	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C5	SLS-P65
AA61LZ-B2	DF	AA61LZ	54.0	0.403	0.527	6.96%	3	5	0.9578	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X in C1-C5	SLS-P66
AA61LZ-B3	DF	AA61LZ	22.2	0.166	0.450	3.43%	3	3	0.9836	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C1-C6	SLS-P68
FRAME															
FAL.3T3.RC.A1.21.10.04	RF	AA61RC	74.6	0.557	0.291	1.60%	3	0	0.9198	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50-100%	ppt in 2X C1; ppt in 1X in C1-C3	FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.RC.B1.11.11.04	DF	AA61RC	28.8	0.215	0.471	13.15%	5	0	0.8505	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	NO	no points between 50-100%	ppt in 1X C1-C8	FAL.3T3.SLS.10.11.04
FAL.3T3.RC.B2.25.11.04	DF	AA61RC	34.5	0.258	0.369	4.78%	1	1	0.8807	250, 116, 54.1, 25.2, 11.7,5.44, 2.53, 1.18	2.15	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X in C1-C4	FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.RC.B3.26.11.04	DF	AA61RC	37.3	0.279	0.309	3.13%	1	1	0.9655	250, 116, 54.1, 25.2, 11.7,5.44, 2.53, 1.18	2.15	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X in C1-C4;	FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.RC.B4.02.12.04	DF	AA61RC	235	1.753	0.282	2.19%	1	0	0.2212	250, 116, 54.1, 25.2, 11.7,5.44, 2.53, 1.18	2.15	NO	no points between 50-100%	C7 gives > 200% viability; ppt in 2X C1 and 1X C1-C2	FAL.3T3.SLS.02.12.04 (RB)
FAL.3T3.RC.B5.09.12.04	DF	AA61RC	21.1	0.157	0.380	8.96%	2	2	0.8788	250, 116, 54.1, 25.2, 11.7,5.44, 2.53, 1.18	2.15	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X in C1-C4	FAL.3T3.SLS.09.12.04
SODIUM SELENATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FS	39.2	0.208	0.540	3.31%	1	2	0.9909	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61FS	42.3	0.224	0.407	0.61%	5	3	0.9884	300, 200, 133, 89, 59.3, 39.5, 26.3, 17.6	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FS	35.2	0.186	0.507	2.69%	6	2	0.9874	300, 200, 133, 89, 59.3, 39.5, 26.3, 17.6	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FS	40.0	0.212	0.504	9.65%	5	2	0.9879	300, 200, 133, 89, 59.3, 39.5, 26.3, 17.6	1.5	NO	PC failed		SLS-B3
B4	DF	AA61FS	32.1	0.170	0.458	0.02%	5	2	0.9884	300, 200, 133, 89, 59.3, 39.5, 26.3, 17.6	1.5	YES			SLS-B4
ECBC															
AA61LF-A1	RF	AA61LF	6.04	0.032	0.438	0.99%	1	2	0.9663	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	PC failed; range finder		SLS-P2
AA61LF-B1	DF	AA61LF	13.6	0.072	0.537	2.38%	3	2	0.9271	100, 68.1, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.8	1.47	YES			SLS-P6

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61LF-B2	DF	AA61LF	13.8	0.073	0.597	3.18%	4	2	0.9754	100, 68.1, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.8	1.47	YES			SLS-P8
AA61LF-B3	DF	AA61LF	10.8	0.057	0.569	3.10%	3	2	0.9626	100, 68.1, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.8	1.47	YES			SLS-P10
FRAME															
FAL.3T3.A1.NS.200603	RF	AA61NS	221	1.170	0.670	1.17%	0	0	0.9739	10000,1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 10 - 90%; range finder		FAL.3T3.SLS2.A1.200603
FAL.3T3.B1.NS.27.06.03	DF	AA61NS	62.4	0.330	0.497	3.76%	1	1	0.8042	120, 81.6, 55.5, 37.8, 25.7, 17.5, 11.9, 8.1	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.A2.27.06.03
FAL.3T3.B2.NS.04.07.03	DF	AA61NS	52.6	0.278	0.525	2.86%	2	1	0.9189	200, 136, 92.6, 63, 42.8, 29.2, 19.8, 13.5	1.47	NO	PC failed		FAL.3T3.SLS.04.07.03
FAL.3T3.B3.NS.11.07.03	DF	AA61NS	57.7	0.305	0.555	5.84%	2	1	0.9734	200, 136, 92.6, 63, 42.8, 29.2, 19.8, 13.5	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.11.07.03
FAL.3T3.B4.NS.17.07.03	DF	AA61NS	42.4	0.224	0.666	2.83%	2	1	0.9758	200, 136, 92.6, 63, 42.8, 29.2, 19.8, 13.5	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.17.07.03
STRYCHNINE															
IIVS															
A1	RF	AA61JY	77.8	0.233	0.337	1.56%	1	0	0.8728	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61JY	89.7	0.268	0.489	1.52%	1	3	0.8961	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES			SLS-B4
B2	DF	AA61JY	80.2	0.240	0.355	6.46%	1	2	0.8383	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61JY	80.7	0.241	0.434	7.93%	1	2	0.9277	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES		ppt in 2X C1; slight film of powder on medium surface	SLS-B8
ECBC															
AA61NR-A1	RF	AA61NR	NA	NA	0.317	12.60%	1	4	NA	500, 50.0, 5.0, 0.5, 0.05, 0.005, 0.0005, 0.00005	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P49
AA61NR-B1	DF	AA61NR	NA	NA	0.431	6.47%	8	0	NA	800, 661, 546, 452, 373, 308, 255, 211	1.21	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1-C7; dilution is 1.21 but no points have greater than 50% viability	SLS-P65
AA61NR-B2	DF	AA61NR	452	1.351	0.526	5.34%	2	6	0.8969	800, 544, 370, 252, 171, 117, 79.3, 53.9	1.47	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1	SLS-P66
AA61NR-B3	DF	AA61NR	418	1.249	0.461	0.27%	2	5	0.9559	800, 544, 370, 252, 171, 117, 79.3, 53.9	1.47	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-P68
AA61NR-B4	DF	AA61NR	298	0.891	0.410	5.55%	1	6	0.8163	800, 544, 370, 252, 171, 117, 79.3, 53.9	1.47	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1	SLS-P70
FRAME															
FAL.3T3.FY.A1.21.10.04	RF	AA61FY	133	0.397	0.362	10.70%	1	0	0.5214	250, 25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025, 0.00025, 0.000025	10	RF	range finder; no points between 50-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.FY.B1.25.11.04	DF	AA61FY	108	0.322	0.436	8.15%	5	2	0.8455	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.FY.B2.26.11.04	DF	AA61FY	118	0.352	0.289	2.16%	5	2	0.9110	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	YES		steep toxicity curve	FAL.3T3.SLS.26.11.04
FAL.3T3.FY.B3.02.12.04	DF	AA61FY	NA	NA	0.258	2.30%	0	0	NA	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	NO	no points between 0-100%	no toxicity values less than 140% viability	FAL.3T3.SLS.02.12.04 (SW)
FAL.3T3.FY.B4.09.12.04	DF	AA61FY	147	0.440	0.350	0.00%	4	3	0.7540	250, 207, 171, 141, 117, 96.4, 79.7, 65.8	1.21	YES			FAL.3T3.SLS.09.12.04
THALLIUM I SULFATE															
IIVS															
A1	RF	AA61KJ	7.74	0.015	0.407	4.94%	2	3	0.9809	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A1
B1	DF	AA61KJ	5.31	0.011	0.466	2.22%	6	2	0.9348	50.0, 31.3, 19.5, 12.2, 7.63, 4.77, 2.98, 1.86	1.6	YES			SLS-B4

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61KJ	8.29	0.02	0.357	10.53%	4	4	0.9392	50.0, 31.3, 19.5, 12.2, 7.63, 4.77, 2.98, 1.86	1.6	YES		outlier removed bySD	SLS-B7
B3	DF	AA61KJ	5.22	0.01	0.454	0.66%	5	3	0.9603	50.0, 31.3, 19.5, 12.2, 7.63, 4.77, 2.98, 1.86	1.6	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61PB-A1	RF	AA61PB	5.41	0.011	0.362	9.63%	3	5	0.9706	500, 50.0, 5.0, 0.5, 0.05, 0.005, 0.0005, 0.00005	10	RF	range finder		SLS-P49
AA61PB-B1	DF	AA61PB	NA	NA	0.509	7.59%	6	2	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed		SLS-P53
AA61PB-B2	DF	AA61PB	3.46	0.007	0.703	7.58%	5	3	0.9831	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P54
AA61PB-B3	DF	AA61PB	2.12	0.004	0.539	11.54%	6	2	0.9629	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P57
AA61PB-B4	DF	AA61PB	2.86	0.006	0.399	3.57%	3	5	0.9627	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P59
FRAME															
FAL.3T3.GB.A1.09/01/04	RF	AA61GB	0.015	0.000	0.664	4.29%	1	3	0.9201	0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001, 0.0000001, 0.00000001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.09/01/04
FAL3T3.GB.A2.16.01.04	DF	AA61GB	2.01	0.004	0.861	8.61%	7	1	0.8562	250.0, 116.0, 54.1, 25.2, 11.8, 5.4, 2.5, 1.2	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16/01/04
FAL3T3.GB.B1.23.01.04	DF	AA61GB	13.6	0.027	0.552	1.48%	3	3	0.9318	250, 79.1, 25.0, 7.9, 2.5, 0.8, 0.25, 0.08	3.16	YES		difficult to get above 250 ug/ml; unlikely to reach 100% toxicity	FAL3T3.23-01-04
FAL3T3.GB.B2.30.01.04	DF	AA61GB	27.1	0.054	0.422	2.70%	3	3	0.9382	500, 158.7, 50.4, 16.0, 5.1, 1.6, 0.5, 0.2	3.15	YES		slow increase in toxicity; reached 90% toxicity;	FAL.3T3.SLS.29/01/04
FAL3T3.GB.B3.06-02-04	DF	AA61 GB	10.9	0.022	0.412	3.80%	3	5	0.9648	500, 158.7, 50.4, 16.0, 5.1, 1.6, 0.5, 0.2	3.15	YES			FAL.3T3.SLS.06/02/04

TRICHLOROACETIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61MR	637	3.897	0.387	5.74%	2	1	0.9378	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-A4
B1	DF	AA61MR	861	5.269	0.510	3.85%	3	5	0.9807	3000, 2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176	1.5	YES		outlier removed bySD	SLS-B4
B2	DF	AA61MR	873	5.343	0.351	6.44%	3	5	0.9556	3000, 2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176	1.5	YES			SLS-B7
B3	DF	AA61MR	670	4.100	0.423	0.22%	4	4	0.9652	3000, 2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176	1.5	YES			SLS-B8
ECBC															
AA61KT-A1	RF	AA61KT	977	5.981	0.403	6.66%	2	2	0.9703	10000,1000, 100, 10, 1,0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P13
AA61KT-B1	DF	AA61KT	859	5.257	0.408	5.82%	4	3	0.9878	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P33
AA61KT-B2	DF	AA61KT	NA	NA	0.585	1.42%	1	0	NA	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO	no points between 50 - 100%; closest point is 100.0%	SD rejected test; ppt in 1X C1	SLS-P35
AA61KT-B3	DF	AA61KT	767	4.696	0.491	0.48%	4	4	0.9890	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P37
AA61KT-B4	DF	AA61KT	661	4.043	0.403	0.04%	4	4	0.9878	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P40
FRAME															
FAL.3T3.GH.A1.10.09.04	RF	AA61GH	1380	8.428	0.459	10.90%	1	2	0.9027	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.GH.1.16.09.04	DF	AA61GH	1240	7.564	0.394	2.96%	2	3	0.9170	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.16.09.04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.GH.B2.15.10.04	DF	AA61GH	1140	6.962	0.302	14.14%	2	3	0.9396	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.15.10.04
FAL.3T3.GH.B3.28.10.04	DF	AA61GH	1280	7.830	0.188	9.65%	2	2	0.9091	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.28.10.04
1,1,1-TRICHLOROETHANE															
IIVS															
A1	RF	AA61KG	5900	44.240	0.312	5.85%	1	6	0.6051	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A5
B1	DF	AA61KG	9710	72.746	0.446	10.58%	1	0	0.9158	10000, 7692, 5917, 4552, 3501, 2693, 2072, 1594	1.3	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1	SLS-B6
B2	DF	AA61KG	9840	73.758	0.474	5.24%	1	6	0.7420	10000, 8333, 6944, 5787, 4823, 4019, 3349, 2791	1.2	YES		ppt in 2X C1; plates read 15-16 hr late; orignial reading used wrong OD wavelength	SLS-B11
B3	DF	AA61KG	10000	75.303	0.355	0.14%	0	4	0.8872	10000, 8333, 6944, 5787, 4823, 4019, 3349, 2791	1.2	YES	no points between 0 - 50%;	ppt in 2X C1; passes because of 1.2 dilution factor	SLS-B12
B4	DF	AA61KG	9640	72.246	0.490	2.52%	1	2	0.9252	10000, 8333, 6944, 5787, 4823, 4019, 3349, 2791	1.2	YES		ppt in 2X C1	SLS-B15
ECBC															
AA61JV-A1	RF	AA61JV	NA	NA	0.565	0.77%	0	4	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-15
AA61JV-B1 (sealer)	DF	AA61JV	NA	NA	0.621	5.88%	0	8	NA	30000, 24793, 20490, 16934, 13995, 11566, 9559, 7900	1.21	NO	PC failed; no points between 0 - 50%	dilution factor is 1.21; no points between 0-50%; test would pass due to dilution factor; ppt in 2X C4	SLS-P61
AA61JV-B2 (sealer)	DF	AA61JV	41100	308.185	0.353	2.97%	3	5	0.6525	50000, 41322, 34151, 28224, 23325, 19277, 15932, 13167	1.21	YES		ppt in 2X C1-C5; chemical made pipets sticky and corrosive to the reservoir	SLS-P64
AA61JV-B3 (sealer)	DF	AA61JV	NA	NA	0.448	5.01%	?	?	NA	50000, 41322, 34151, 28224, 23325, 19277, 15932, 13167	1.21	NO	can't properly determine points between 0 - 100%	"roller coaster" toxicity curve; chemical physically intereacted with plastic pipets; ppt in 2X C1-C8 (oily)	SLS-P73
FRAME															
FAL.3T3.PN.A1.21.10.04	RF	AA61PN	NA	NA	0.315	6.33%	0	0	0.0000	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0-100%		FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.PN.B1.04.11.04	DF	AA61PN	18400	137.661	0.285	9.94%	1	2	0.6655	25000, 17007, 11569, 7870, 5354, 3642, 2478, 1686	1.47	YES		ppt in 1X C1	FAL.3T3.SLS.04.11.04
FAL.3T3.PN.B2.19.11.04	DF	AA61PN	20600	154.458	0.278	4.29%	2	0	0.7843	25000, 20661, 17075, 14112, 11663, 9639, 7966, 6583	1.21	YES	no points between 50-100%	test passes because lowest dilution factor used (1.21); ppt in 2X C1-C2	FAL.3T3.SLS.19.11.04
FAL.3T3.PN.B3.25.11.04	DF	AA61PN	22000	165.125	0.365	1.64%	1	2	0.6250	25000, 20661, 17075, 14112, 11663, 9639, 7966, 6583	1.21	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1; C8 concentration shows high toxicity	FAL.3T3.SLS.25.11.04
FAL.3T3.PN.B4.26.11.04	DF	AA61PN	24000	179.809	0.331	2.57%	2	4	0.1704	25000, 20661, 17075, 14112, 11663, 9639, 7966, 6583	1.21	YES		ppt in 2X C1-C4;	FAL.3T3.SLS.26.11.04
TRIETHYLENEMELAMINE															
IIVS															
A1	RF	AA61MT	0.214	0.0010	0.338	10.51%	2	4	0.9591	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder	ppt in 2000ug/ml stock in DMSO	SLS-A2

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61MT	0.223	0.0011	0.497	2.36%	4	4	0.9169	1.00, 0.625, 0.391, 0.244, 0.153, 0.095, 0.060, 0.037	1.6	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61MT	0.127	0.0006	0.377	3.14%	5	3	0.9339	2.00, 1.11, 0.617, 0.343, 0.191, 0.106, 0.059, 0.033	1.8	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61MT	0.156	0.0008	0.321	8.67%	5	3	0.9469	2.00, 1.11, 0.617, 0.343, 0.191, 0.106, 0.059, 0.033	1.8	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61GE-A1 revised by	RF	AA61GE	0.2	0.0010	0.256	6.24%	2	5	0.9389	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-P9
AA61GE-B1	DF	AA61GE	0.117	0.0006	0.424	19.49%	5	3	0.9178	4.00, 1.86, 0.685, 0.402, 0.187, 0.087, 0.40, 0.019	2.15	NO	% VC difference > 15	ppt in 2X C1	SLS-P19
AA61GE-B2	DF	AA61GE	0.0766	0.0004	0.375	6.15%	6	2	0.9339	4.00, 1.86, 0.685, 0.402, 0.187, 0.087, 0.40, 0.019	2.15	YES			SLS-P21
AA61GE-B3	DF	AA61GE	0.0951	0.0005	0.599	3.52%	2	6	0.9594	4.00, 1.86, 0.685, 0.402, 0.187, 0.087, 0.40, 0.019	2.15	YES			SLS-P24
AA61GE-B4	DF	AA61GE	0.0861	0.0004	0.563	11.19%	2	6	0.9512	4.00, 1.86, 0.685, 0.402, 0.187, 0.087, 0.40, 0.019	2.15	YES			SLS-P26
FRAME															
FAL.3T3.LB.A1.01/04/04	RF	AA61LB	2.83	0.0138	0.270	4.91%	1	1	0.7626	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001,	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.LB.B1.29/04/04	DF	AA61LB	1.44	0.0071	0.289	3.08%	3	3	0.8508	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	YES		NR crystals; high background	FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.LB.B2.07/05/04	DF	AA61LB	1.72	0.0084	0.269	3.01%	7	1	0.9859	25.0, 17.0, 11.6, 7.9, 5.4, 3.6, 2.5, 1.7	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.LB.B3.20/05/04	DF	AA61LB	1.19	0.0058	0.336	5.70%	4	3	0.9404	25.0, 11.6, 5.4, 2.5, 1.2, 0.5, 0.3, 0.1	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04

TRIPHENYLTIN HYDROXIDE

IIVS															
A1	RF	AA61JR	0.013	0.00004	0.456	8.54%	0	1	0.9726	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61JR	0.0206	0.00006	0.434	2.34%	3	4	0.9576	0.100, 0.0625, 0.0391, 0.0244, 0.0153, 0.00954, 0.00596, 0.00373	1.6	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61JR	0.00547	0.00001	0.371	8.48%	3	1	0.9569	0.100, 0.0625, 0.0391, 0.0244, 0.0153, 0.00954, 0.00596, 0.00373	1.6	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61JR	0.0184	0.00005	0.367	0.57%	3	4	0.9073	0.100, 0.0625, 0.0391, 0.0244, 0.0153, 0.00954, 0.00596, 0.00373	1.6	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61LL-A1	RF	AA61LL	0.0132	0.00004	0.297	4.91%	1	2	0.9825	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-P7
AA61LL-B1	DF	AA61LL	0.0258	0.00007	0.569	0.10%	2	6	0.9539	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P24

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61LL-B2	DF	AA61LL	0.0296	0.00008	0.519	1.61%	2	5	0.9359	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P26
AA61LL-B3	DF	AA61LL	0.0212	0.00006	0.486	8.28%	2	6	0.9428	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P28
FRAME															
FAL.3T3.GG.A1.01/04/04	RF	AA61GG	0.0143	0.00004	0.267	9.46%	3	5	0.9563	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001,	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.GG.B1.29/04/04	DF	AA61GG	0.00286	0.00001	0.239	5.43%	1	1	0.9869	0.100, 0.047, 0.022, 0.010, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.GG.B2.07/05/04	DF	AA61GG	0.0314	0.00009	0.340	1.06%	1	1	0.7735	0.100, 0.0233, 0.0108, 0.0050, 0.0023, 0.0011, 0.0005, 0.0002	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.07/05/04
FAL.3T3.GG.B3.20/05/04	DF	AA61GG	0.0438	0.00012	0.367	1.82%	2	6	0.8325	0.100, 0.047, 0.022, 0.010, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04

VALPROIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61MZ	665	4.614	0.415	7.61%	1	2	0.8257	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	small immiscible droplets initially coated insides of dilution tube in the highest 2X solution	SLS-A2
B1	DF	AA61MZ	574	3.981	0.353	10.44%	3	4	0.6749	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES		ppt in 2X C1-C2; test article adherred to glass pipettes upon transference to the 8-well reservoir	SLS-B6
B2	DF	AA61MZ	NA	NA	0.372	15.70%	0	4	NA	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	NO	no points between 0-50%; %VC difference >15; no toxicity detected	ppt in 2X C1	SLS-B9
B3	DF	AA61MZ	NA	NA	0.354	4.99%	0	6	NA	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	NO	no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C4	SLS-B10
B4	DF	AA61MZ	NA	NA	0.366	1.91%	0	3	NA	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	NO	no points between 0-50%	ppt in 2X C1-C3	SLS-18
ECBC															
AA61JJ-A1	RF	AA61JJ	723	5.012	0.252	3.67%	1	3	0.8319	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P9
AA61JJ-B1	DF	AA61JJ	624	4.325	0.537	3.43%	4	2	0.9027	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES		highest 2X solution clear, oily, & orange; DMSO < 0.5%; no diff. in JJ-B2 & JJ-B3 when compared to JJ-B1 (no ppt)	SLS-P26
AA61JJ-B2	DF	AA61JJ	519	3.598	0.433	11.56%	3	4	0.8624	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES		ppt in 2X C1 - C5; oily; no diff. in JJ-B2 & JJ-B3 when compared to JJ-B1 (no ppt)	SLS-P28
AA61JJ-B3	DF	AA61JJ	499	3.460	0.379	5.14%	4	4	0.9240	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES		ppt in 2X C1 - C5; no diff. in JJ-B2 & JJ-B3 when compared to JJ-B1 (no ppt)	SLS-P30
FRAME															
FAL.3T3.GK.A1.01/04/04	RF	AA61GK	NA	NA	0.280	5.02%	0	1	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.01/04/04
FAL.3T3.GK.B1.29/04/04	DF	AA61GK	1660	11.535	0.228	7.54%	1	2	0.7855	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.29/04/04
FAL.3T3.GK.B2.07/05/04	DF	AA61GK	1760	12.219	0.284	7.69%	1	2	0.4313	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.3T3.SLS.07/05/04

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD^2	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.3T3.GK.B3.20/05/04	DF	AA61GK	2000	13.837	0.337	0.94%	1	2	0.5501	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.20/05/04
VERAPAMIL HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61NH	38.1	0.078	0.266	2.04%	0	0	0.5147	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	solvent controls treated with 1% DMSO, rather than 0.5%.	SLS-A4
B1	DF	AA61NH	35.9	0.073	0.480	1.13%	1	2	0.9635	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES			SLS-B5
B2	DF	AA61NH	43.7	0.089	0.352	7.48%	2	2	0.9750	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES			SLS-B9
B3	DF	AA61NH	37.1	0.075	0.359	12.81%	1	5	0.9378	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61LY-A1	RF	AA61LY	15.1	0.031	0.287	1.45%	0	6	0.9401	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P14
AA61LY-B1	DF	AA61LY	26.7	0.054	0.347	12.36%	3	4	0.9375	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			SLS-P34
AA61LY-B2	DF	AA61LY	38.3	0.078	0.523	5.85%	2	4	0.9789	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES			SLS-P36
AA61LY-B3	DF	AA61LY	31.6	0.064	0.444	15.05%	3	4	0.9643	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	YES		potential volatility problem	SLS-P38
FRAME															
FAL.3T3.MC.A1.10.09.04	RF	AA61MC	62.8	0.128	0.369	12.62%	2	0	0.9133	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1 and 1X C1	FAL.3T3.SLS.10.09.04
FAL.3T3.MC.B1.16.09.04	DF	AA61MC	48.1	0.098	0.277	7.34%	0	1	0.9557	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.16.09.04
FAL.3T3.MC.B2.23.09.04	DF	AA61MC	23.1	0.047	0.201	2.68%	3	0	0.8298	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	NO	no points between 50 - 100%	1.21 dilution factor doesn't affect outcome since no values > 50% viability; ppt in 2X C1; outlier removed by SD	FAL.3T3.SLS.23.09.04
FAL.3T3.MC.B3.14.10.04.04	DF	AA61MC	32.7	0.067	0.268	12.64%	2	1	0.9323	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.3T3.SLS.14.10.04
FAL.3T3.MC.B4.21.10.04	DF	AA61MC	36.1	0.073	0.169	0.30%	1	1	0.1575	50.0, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	YES		ppt in 2X C1; very high viability values for C3-C7	FAL.3T3.SLS.21.10.04
FAL.3T3.MC.B5.04.11.04	DF	AA61MC	34.9	0.071	0.199	8.03%	2	1	0.6920	75.0, 51.0, 34.7, 23.6, 16.1, 10.9, 7.43, 5.06	1.47	YES			FAL.3T3.SLS.04.11.04
XYLENE															
IIVS															
A1	RF	AA61MA	NA	NA	0.415	0.04%	0	1	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-A3
B1	DF	AA61MA	728	6.855	0.371	3.21%	5	3	0.9121	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	YES			SLS-B6
B2	DF	AA61MA	809	7.621	0.371	4.51%	5	3	0.9567	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	YES		ppt in 2X C1	SLS-B9
B3	DF	AA61MA	635	5.984	0.311	4.85%	6	2	0.9597	2500, 1923, 1479, 1138, 875, 673, 518, 398	1.3	YES			SLS-B10
ECBC															
AA61GM-A1	RF	AA61GM	NA	NA	0.232	5.68%	0	5	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-12
AA61GM-B1	DF	AA61GM	NA	NA	0.754	7.45%	0	8	NA	3000, 2479, 2049, 1693, 1400, 1157, 956, 790	1.21	NO	PC failed; no points between 0 - 50%	test could pass due to dilution factor	SLS-P61
AA61GM-B2	DF	AA61GM	NA	NA	0.624	4.21%	0	7	NA	4000, 3306, 2732, 2258, 1866, 1542, 1275, 1053	1.21	NO	no points between 0 - 50%	test could pass due to dilution factor	SLS-P63

3T3 NRU Reference Substance Data

Experiment ID 3T3 Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61GM-B3	DF	AA61GM	NA	NA	0.553	15.44%	2	6	NA	4000, 3306, 2732, 2258, 1866, 1542, 1275, 1053	1.21	NO	can't properly determine points between 0 - 100%	roller coaster toxicity curve; ppt in 2X C1-C8 (oily)	SLS-P73
FRAME															
FAL.3T3.JG.A1.28.05.04	RF	AA61JG	NA	NA	0.327	3.31%	0	3	0.6108	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.3T3.SLS.28.05.04
FAL.3T3.JG.B1.04.06.04	DF	AA61JG	NA	NA	0.250	0.50%	0	0	NA	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 100%	ppt in 2X C1-C3;	FAL.3T3.SLS.04.06.04
FAL.3T3.JG.B2.17.06.04	DF	AA61JG	NA	NA	0.448	0.74%	0	NA	NA	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 100%	ppt in 2X C1-C3; toxicity did not reach 50%	FAL.3T3.SLS.17.06.04
FAL.3T3.JG.B2.24.06.04 (should be B3)	DF	AA61JG	NA	NA	0.396	9.40%	0	5	0.1548	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity detected; SD ends testing	FAL.3T3.SLS.24.06.04

Abbreviations: ppt=Precipitate; SD=Study Director; RF=Range Finder; DF=Definitive Test; PC=Positive Control; C1 - C8=Concentration series applied to the the cells. C1 is the highest concentration and C8 is lowest; NA=Not Available; RC=Registry of Cytotoxicity; 2X=Two times the concentration applied to the cells; VC=Vehicle Control; R2=Coefficient of Determination; OD=Optical Density; ID=Identification. Substance ID was the code assigned by the chemical distributor (BioReliance Corp.). Experiment ID and PC ID are test identification numbers assigned by the cytotoxicity testing laboratory.

[1] Range finder or definitive test
[2] Mean OD value for all VC wells in test plate
[3] Difference of right and left VC column of wells in the test plate
[4] % Viability values between 0 and 50% viability; test acceptance criterion. Phase Ib used the range of 10 -50%.
[5] % Viability values between 50 and 100% viability; test acceptance criterion. Phase Ib used the range of 50 - 90%.
[6] Calculated value from the Prism® software
[7] Reference substance concentrations applied to the cells
[8] Step-wise dilution factor used to determine reference substance exposure concentrations
[9] Determination for whether test meets or doesn't meet test acceptance criteria; not applied to RF tests
Shaded boxes identify values that do not meet the specific test acceptance criteria

Appendix I2

NHK NRU Reference Substance Data

[This Page Intentionally Left Blank]

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
ACETAMINOPHEN															
IIVS															
A1	RF	AA61HU	1450	9.560	0.525	0.11%	0	1	0.5444	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61HU	541	3.576	0.678	1.54%	5	3	0.9557	2500, 1786, 1276, 911, 651, 465, 332, 237	1.4	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61HU	661	4.370	0.622	9.36%	5	3	0.9738	2500, 1786, 1276, 911, 651, 465, 332, 237	1.4	YES			SLS-B13-N041029B
B3	DF	AA61HU	512	3.384	0.777	0.82%	5	3	0.9526	2500, 1786, 1276, 911, 651, 465, 332, 237	1.4	YES			SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61LR-A1	RF	AA61LR	196	1.299	0.972	0.43%	1	6	0.8186	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P19
AA61LR-B1	DF	AA61LR	467	3.086	0.731	1.13%	3	5	0.9694	4000, 1861, 865, 403, 187, 87.1, 40.5, 18.8	2.15	YES			SLS-P41
AA61LR-B2	DF	AA61LR	586	3.877	0.704	2.81%	3	4	0.9642	4000, 1861, 865, 403, 187, 87.1, 40.5, 18.8	2.15	YES			SLS-P43
AA61LR-B3	DF	AA61LR	621	4.106	1.019	4.94%	3	4	0.9495	4000, 1861, 865, 403, 187, 87.1, 40.5, 18.8	2.15	YES			SLS-P45
FRAME															
FAL.NHK.PY.A1.24.09.04	RF	AA61PY	137	0.907	0.578	8.76%	1	3	0.6981	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.PY.B1.01.10.04	DF	AA61PY	1130	7.489	1.026	8.47%	2	5	0.9753	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.PY.B2.07.10.04	DF	AA61PY	421	2.783	0.575	3.20%	4	3	0.6590	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		C1 shows high toxicity; should this point be removed & new calc. be made?	FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.PY.B3.05.11.04	DF	AA61PY	541	3.576	0.418	10.47%	3	1	0.9335	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.05.11.04
FAL.NHK.PY.B4.10.11.04	DF	AA61PY	380	2.514	1.156	1.74%	3	5	0.7537	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.10.11.04
ACETONITRILE															
IIVS															
A1	RF	AA61GF	43700	1063.376	0.479	4.37%	0	4	0.5946	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61GF	6810	165.839	0.494	99.86%	3	2	0.9841	200000, 111111, 61728, 34294, 19052, 10584, 5880, 3267	1.8	NO	%VC difference >15	Left VC was removed from calc. due to volatility	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61GF	9730	236.966	0.624	3.54%	3	2	0.9960	200000, 111111, 61728, 34294, 19052, 10584, 5880, 3267	1.8	YES		plate seal used; SD removed top dose from analysis since only 4 wells of 8 were treated	SLS-B10-N040903A
B3	DF	AA61GF	9230	224.743	0.693	4.62%	3	2	0.9964	200000, 111111, 61728, 34294, 19052, 10584, 5880, 3267	1.8	YES		plate seal used	SLS-B11-N040904H
B4	DF	AA61GF	8910	217.114	0.605	5.04%	3	3	0.9878	40000, 25000,15625, 9766, 6104, 3815, 2384, 1490	1.6	YES			SLS-B12-N041022B
ECBC															
AA61PH-A1	RF	AA61PH	NA	NA	0.635	1.57%	0	5	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	no toxicity detected	SLS-P1
AA61PH-A2	RF	AA61PH	NA	NA	0.231	97.27%	3	1	NA	200000, 20000, 2000, 200, 20, 2, 0.2, 0.02	10	RF	range finder	probable volatility problem	SLS-P3
AA61PH-B1	DF	AA61PH	22600	551.679	0.911	13.28%	1	3	0.8640	50000, 23256, 10817, 5031, 2340, 1088, 506, 235	2.15	YES			SLS-P7

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61PH-B2	DF	AA61PH	31800	775.688	0.865	21.14%	1	5	0.8532	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	NO	%VC difference > 15	possible volatility problem	SLS-P9
AA61PH-B3(sealer)	DF	AA61PH	7110	173.255	0.561	4.36%	6	2	0.9839	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			SLS-P17
AA61PH-B4(sealer)	DF	AA61PH	7050	171.667	0.643	1.06%	5	2	0.9812	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			SLS-P18
AA61PH-B5	DF	AA61PH	6710	163.564	0.484	0.05%	5	2	0.9783	40000, 27211, 18511, 12592, 8566, 5827, 3964, 2697	1.47	YES			SLS-P24
FRAME															
FAL.NHK.PL.A1.18.02.04	RF	AA61PL	NA	NA	0.107	11.79%	0	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	no values calculated by PRISM; % viability are "nonsense" values	FAL.NHK.SLS.18.02.04
FAL.NHK.PL.26.02.04	RF	AA61PL	8220	200.303	0.138	32.31%	1	0	0.4136	100000, 10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01	10	RF	range finder	chem. needs to be tested at high conc. but have volatility problems even w/plate sealer	FAL.NHK.SLS/NB.26.02.03
FAL.NHK.PL.B1.25.03.04	DF	AA61PL	8790	214.135	0.502	3.22%	1	2	0.9338	25000, 7937, 2520, 800, 254, 80.6, 25.6, 8.12	3.15	YES		did SD use plate film cover?	FAL.NHK.SLS.25.03.03
FAL.NHK.PL.B3.26.03.04	DF	AA61PL	7480	182.258	0.549	4.16%	2	0	0.8428	25000, 7911, 2504, 792, 251, 79.3, 25.1, 7.9	3.16	NO	no points between 50-100%	wrong solvent reported but correct one used (correction by SD); pts between 50 - 100% but several > 100%	FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.PL.B4.25.04.04	DF	AA61PL	12400	302.473	0.860	5.09%	1	1	0.9371	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.PL.B5.28.04.04	DF	AA61PL	8020	195.293	0.909	6.73%	0	1	0.8109	25000, 7937, 2520, 800, 254, 80.6, 25.6, 8.12	3.15	NO	no points between 0-50%	wells D3,D4,E3,E4 data removed by SD after NICEATM recomm. to review potential outliers; revised data eliminates point between 0-50% and test	FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.PL.B5.19.08.04(rb) should be B6	DF	AA61PL	10800	262.233	0.266	7.45%	2	0	0.5395	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	NO	PC failed; no points between 50-100%		FAL.NHK.SLS-RB.19.08.04
FAL.NHK.PL.B6.20.08.04 should be B7	DF	AA61PL	9270	225.781	0.824	2.53%	2	2	0.9559	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.08.04

ACETYLSALICYLIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61HM	552	3.064	0.748	3.52%	1	4	0.9540	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61HM	509	2.826	0.653	1.76%	5	3	0.9836	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES			SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61HM	596	3.306	0.599	5.27%	4	4	0.9664	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES			SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61HM	438	2.428	0.607	3.62%	5	3	0.9107	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61ME-A1	RF	AA61ME	631	3.501	0.916	2.80%	1	7	0.9492	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C2 and 1X C1	SLS-P14
AA61ME-B1	DF	AA61ME	614	3.406	0.765	3.36%	3	5	0.9409	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P53
AA61ME-B2	DF	AA61ME	653	3.624	0.791	2.60%	3	5	0.9719	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P54
AA61ME-B3	DF	AA61ME	627	3.477	0.983	0.71%	3	5	0.9596	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	YES			SLS-P56
FRAME															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.JA.A1.14.05.04	RF	AA61JA	340	1.889	0.764	4.39%	1	2	0.9410	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.JA.B1.08.10.04	DF	AA61JA	719	3.993	0.722	0.54%	2	3	0.9913	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.JA.B2.22.10.04	DF	AA61JA	778	4.318	0.715	2.72%	3	5	0.9753	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (MO)
FAL.NHK.JA.B3.28.10.04	DF	AA61JA	586	3.253	0.635	3.07%	4	4	0.9817	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04
AMINOPTERIN															
IIVS															
A2	RF	AA61JD	1480	3.360	0.809	5.29%	0	6	0.7064	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61JD	561	1.274	0.476	6.77%	2	6	0.9289	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.40	YES		evidence of precipitate at highest dose	SLS-B1
B2	DF	AA61JD	661	1.501	0.328	4.35%	2	6	0.9353	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.40	YES		evidence of precipitate at highest dose	SLS-B2
B3	DF	AA61JD	986	2.239	0.34	6.44%	0	5	0.9305	1000, 714, 510, 364, 260, 186, 133, 94.9	1.40	NO	No points 0-50%	evidence of precipitate at highest dose	SLS-B3
ECBC															
AA61MB-A1	RF	AA61MB	627	1.424	0.566	1.64%	1	3	0.8101	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	range finder	SLS-P4
AA61MB-B1	DF	AA61MB	962	2.184	1.042	1.45%	1	7	0.7701	1000, 680.3, 462.8, 314.8, 214.2, 145.7, 99.1, 67.4	1.47	NO	low r2		SLS-P8
AA61MB-B2	DF	AA61MB	718	1.630	0.914	0.84%	3	5	0.8326	1200, 991.7, 819.6, 677.4, 559.8, 462.7, 382.4, 316.0	1.21	YES			SLS-P10
AA61MB-B3	DF	AA61MB	1080	2.452	0.778	2.61%	1	7	0.7956	1200, 991.7, 819.6, 677.4, 559.8, 462.7, 382.4, 316	1.21	YES			SLS-P12
AA61MB-B4	DF	AA61MB	944	2.143	0.904	5%	3	5	0.7754	1200, 991.7, 819.6, 677.4, 559.8, 462.7, 382.4, 316.0	1.21	YES			SLS-P20
FRAME															
FAL.NHK.PU.30.07.03	RF	AA61PU	NA	NA	1.355	3.29%	0	8	0.0373	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	solution is yellow and may bind to the cells thus affecting NRU	FAL.NHK.SLS.30.07.03
FAL.NHK.PU.B1.07.08.03	DF	AA61PU	516	1.172	0.245	10.54%	2	6	0.2733	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	NO	low r2	biphasic response	FAL.NHK.SLS.07.08.03
FAL.NHK.PU.B2.13.08.03	DF	AA61PU	NA	NA	0.722	30.35%	0	7	NA	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed; no points between 0 - 50%; no r2; %VC difference > 15	SD rejects this assay; can't explain the variability of cell growth in the wells	FAL.NHK.SLS.13.08.03
FAL.NHK.PU.B3.23.08.03	DF	AA61PU	366	0.831	0.408	5.58%	3	5	0.8213	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.PU.B4.28.08.05	DF	AA61PU	593	1.346	0.470	8.87%	2	6	0.7804	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	YES		challenging chemical; SMT accepts this test	FAL.NHK.SLS.280803
FAL.NHK.PU.B5.05.09.03	DF	AA61PU	515	1.169	0.217	7.60%	2	6	0.7145	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	YES		challenging chemical; SMT accepts this test	FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.PU.B6.01.10.03	DF	AA61PU	NA	NA	1.373	5.40%	0	8	0.0149	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	no points between 50 - 100%; low r2		FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.PU.B6.19.10.03	DF	AA61PU	157	0.356	0.170	1.73%	0	7	0.4794	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.47	2.15	NO	low r2; no points between 0-50%	SD worked with wrong dilution range; wanted to start at 1000	FAL.NHK.SLS.19.10.03
FAL.NHK.PU.B7.23.10.03	DF	AA61PU	526	1.194	0.236	3.75%	2	6	0.6618	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	YES		challenging chemical; SMT accepts this test	FAL.NHK.SLS.23.10.03
FAL.NHK.PU.B8.24.10.03	DF	AA61PU	9950	22.591	0.869	1.69%	1	7	0.2607	1000, 680, 463, 314.8, 214.1, 145.6, 99.1, 67.4	1.47	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.24.10.03
FAL.NHK.PU.B9.07.11.03	DF	AA61PU	5400	12.260	0.385	2.23%	1	7	0.1515	2000, 930, 433, 201, 94, 44, 20.2, 9.4	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.07.11.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
5-AMINOSALICYLIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61GZ	93.1	0.608	0.631	0.67%	1	0	0.8972	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	SD did not use data from the highest dose in Hill analyses due to the effects of the ppts; ppt in 2X C1 & 1X C1	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61GZ	41.7	0.272	0.548	2.71%	6	2	0.9682	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61GZ	47.3	0.309	0.557	3.54%	5	2	0.9749	500, 313, 195, 122, 76.3, 47.7, 29.8, 18.6	1.6	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61GZ	57.3	0.374	0.438	9.57%	3	3	0.9328	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9 ,7.45	1.6	YES		flattening of the curve at 35% viability	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61KD-A1	RF	AA61KD	NA	NA	0.856	3.85%	1	4	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P12
AA61KD-B1	DF	AA61KD	34.8	0.228	0.529	0.76%	4	1	0.9692	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			SLS-P32
AA61KD-B2	DF	AA61KD	32.4	0.212	0.539	0.94%	5	2	0.9214	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	YES			SLS-P34
AA61KD-B3	DF	AA61KD	22.5	0.147	0.401	3.53%	6	2	0.9529	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.NHK.PA.A1.14.05.04	RF	AA61PA	35.6	0.232	0.784	2.17%	2	0	0.8834	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1; NR taken up by C1 ppt	FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.PA.B1.19.08.04 rb	DF	AA61PA	62.1	0.406	0.234	1.25%	6	2	0.7433	500, 340, 231, 157, 108, 72.8, 50.0, 33.7	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS-RB.19.08.04
FAL.NHK.PA-NB.B2.25.08.04	DF	AA61PA	127	0.830	0.988	1.33%	2	3	0.8882	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.PA.17.09.04	DF	AA61PA	54.3	0.355	0.705	2.54%	2	1	0.8385	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		outlier removed by SD; ppt in C1; interference with NRU in C1-C3 conc.; SD consider removing C1-C3 data from PRISM analyses?	FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.PA.B4.30.09.04	DF	AA61PA	53.3	0.348	0.753	2.27%	3	2	0.9753	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		toxicity curve begins to rise at high concentrations; maybe affecting NRU; outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.30.09.03
AMITRIPTYLINE HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61RF	10.3	0.033	0.516	5.22%	0	1	0.9945	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61RF	10.1	0.032	0.543	3.51%	2	3	0.9878	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61RF	10.6	0.034	0.636	2.41%	2	3	0.9899	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61RF	12.1	0.039	0.496	1.03%	2	2	0.9713	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61PR-A1	RF	AA61PR	7.64	0.024	0.518	3.91%	2	3	0.9625	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P4
AA61PR-B1	DF	AA61PR	12.4	0.040	0.647	4.74%	2	3	0.9678	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P21
AA61PR-B2	DF	AA61PR	13.0	0.042	0.921	1.85%	3	3	0.9817	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P23
AA61PR-B3	DF	AA61PR	6.94	0.022	0.648	2.47%	3	4	0.9710	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P24
FRAME															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.LE.A1.13.02.03	RF	AA61LE	6.52	0.021	0.114	4.66%	2	2	0.8453	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	SD rejected due to bacterial contamination in some plates in test series; ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.13.02.03
FAL.NHK.LE.A2.20.02.03	DF	AA61LE	3.08	0.010	0.213	0.12%	3	3	0.9449	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.02.03
FAL.NHK.LE.B1.27.02.04new	DF	AA61LE	13.6	0.043	0.548	1.40%	3	4	0.9200	50, 34.0, 23.1, 15.7, 10.7, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	YES		file corrected by SD	FAL.NHK.SLS.27.02.03
FAL.NHK.LE.B3.19.03.04	DF	AA61LE	6.04	0.019	0.528	4.71%	3	5	0.9296	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.51, 0.24	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
ARSENIC III TRIOXIDE															
IIVS															
Preliminary	RF	AA61FX	5.16	0.026	0.585	3.78%	1	0	0.9828	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		Preliminary
B1	DF	AA61FX	26.4	0.133	0.487	0.24%	2	2	0.9238	100, 46.4, 21.6, 10, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.15	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FX	22.5	0.114	0.633	7.02%	2	1	0.9682	100, 46.4, 21.6, 10, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.15	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FX	22.5	0.114	0.817	7.11%	2	0	0.9900	100, 46.4, 21.6, 10, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.15	NO	No points between 50 & 90%		SLS-B3
B4	DF	AA61FX	13.9	0.070	0.826	6.84%	1	1	0.9850	100, 46.4, 21.6, 10, 4.64, 2.16, 1.00, 0.46	2.15	YES			SLS-B4
ECBC															
ECBC-NHK-Ib-01 AA61KU-A1	RF	AA61KU	32.2	0.163	0.811	7.13%	0	1	-0.8980	25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025,0.00025, 0.000025, 0.0000025	10	RF	range finder		SLS-P2
ECBC-NHK-Ib-02 AA61KU-B1	DF	AA61KU	4.51	0.023	0.978	2.63%	3	1	0.9577	50, 34, 23.1, 15.7, 10.7, 7.3, 5.0, 3.4	1.47	YES			SLS-P3
ECBC-NHK-Ib-03 AA61KU-B2	DF	AA61KU	7.76	0.039	1.200	2.58%	3	1	0.9757	25, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES			SLS-P4
ECBC-NHK-Ib-04 AA61KU-B3	DF	AA61KU	8.11	0.041	1.080	5.57%	3	2	0.8912	25, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES			SLS-P5
ECBC-NHK-Ib-05 AA61KU-B4	DF	AA61KU	10.7	0.054	1.086	3.26%	2	1	0.9369	25, 17.0, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	YES			SLS-P7
FRAME															
A1 1b/NHKRF1/FAL/NC	RF	AA61NC	1.49	0.008	0.160	0.52%	1	1	0.6560	12.5, 2.5, 0.5, 0.1, 0.02, 0.004, 0.00080, 0.00016	5	RF	range finder		A1 1b/NHKCTR1/FAL/SLS
A2 1b/NHKRF2/FAL/NC	RF	AA61NC	3.01	0.015	0.685	10.17%	4	4	0.5164	12.5, 8.5, 5.78, 3.93, 2.67, 1.82, 1.23, 0.84	1.47	NO	low r2		A2 1b/NHKCTR2/FAL/SLS
A3 1b/NHK/DF2/FAL/NC	DF	AA61NC	0.00016	0.000	0.051	18.01%	0	0	-0.9880	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.13, 1.45, 0.98, 0.67	1.47	NO	VC difference > 15%; no points between 10 & 90%; R^2 < 0.8; PC failed	NR crystal problems; used different medium; % viability values are negative; PRISM curve below 0	A3 1b/NHK/CTR4/FAL/
A4 1b/NHK/DF3/FAL/NC	DF	AA61NC	0.502	0.003	0.144	1.97%	5	0	0.7012	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.13, 1.45, 0.98, 0.67	1.47	NO	No point between 50 & 90%; R^2 < 0.8	NR crystal problems; used medium not normally used	A4 1b/NHK/CTR5/FAL
A5 1b/NHK/DF4/FAL/NC	DF	AA61NC	NA	NA	-0.003	83.48%	0	0	NC	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.13, 1.45, 0.98, 0.67	1.47	NO	VC difference > 15%; no points between 10& 90%; no R^2 or ICx; PC failed	NR crystal problems; used different medium; OD values of test wells no different than background ODs; negative values for VC	A5 1b/NHK/CTR6/FAL
A6 1b/NHK/DF5/FAL/NC	DF	AA61NC	2.95	0.015	1.145	11.51%	2	3	0.8929	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.13, 1.45, 0.98, 0.67	1.47	YES			A6 1b/NHK/CTR7/FAL
A8 1b/NHK/DF7/FAL/NC	DF	AA61NC	6.26	0.032	0.740	2.23%	1	2	0.8855	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	YES			A8 1b/NHK/CTR9/FAL

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
A9 1b/NHK/DF8/FAL/NC	DF	AA61NC	6.25	0.032	0.798	9.28%	1	6	0.7381	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	NO	R^2 < 0.8; PC failed		A9 1b/NHK/CTR10/FAL
A10 1b/NHK/DF9/FAL/NC	DF	AA61NC	1.29	0.007	1.108	3.81%	4	1	0.8550	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	YES		no outliers	A10 1b/NHK/CTR11/FAL
A11 1b/NHK/DF10/FAL/SLS//NC	DF	AA61NC	1.54	0.008	1.439	0.51%	4	1	0.8443	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	YES		removed outliers from VCs	A11 1b/NHK/CTR12/FAL
A12 1b/NHK/DF11/FAL/NC	DF	AA61NC	1.88	0.010	0.459	1.00%	5	2	0.8901	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	YES			A12 1b/NHK/CTR13/FAL/SLS
1b/NHK/DF4/FAL/NC	DF	AA61NC	1.36	0.007	0.755	1.17%	4	1	0.8346	15, 10.2, 6.93, 4.72, 3.21, 2.18, 1.48, 1.01	1.47	YES			1b/NHK/CTR14/FAL/SLS

ATROPINE SULFATE

IIVS															
A1	RF	AA61NE	91.6	0.132	0.544	0.93%	2	1	0.9667	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61NE	106	0.152	0.578	5.65%	5	3	0.9599	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61NE	64.6	0.093	0.492	0.17%	5	3	0.9862	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61NE	78.9	0.114	0.705	3.13%	5	3	0.9915	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		outlier removed by SD	SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KX-A1	RF	AA61KX	57.5	0.083	0.549	2.70%	3	2	0.9435	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P16
AA61KX-B1	DF	AA61KX	79.4	0.114	0.798	3.96%	4	4	0.9761	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES			SLS-P30
AA61KX-B2	DF	AA61KX	97.5	0.140	0.673	1.08%	3	5	0.9491	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES			SLS-P40
AA61KX-B3	DF	AA61KX	79.4	0.114	0.675	2.42%	4	2	0.9655	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES			SLS-P42
FRAME															
FAL.NHK.FU.A1.28.07.04	RF	AA61FU	33.3	0.048	0.059	10.09%	3	3	0.7561	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.FU.B1.11.08.04	DF	AA61FU	202	0.291	0.809	8.32%	3	3	0.9333	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.FU-NB.B2.25.08.04	DF	AA61FU	80.7	0.116	1.010	3.32%	6	2	0.9459	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.FU.B3.27.08.04	DF	AA61FU	30.4	0.044	0.526	4.53%	5	1	0.9696	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.08.04

BORIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61LD	724	11.717	0.536	2.15%	1	1	0.9101	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61LD	455	7.359	0.583	4.16%	4	4	0.9594	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93	1.6	YES		ppt in 1X C1	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61LD	460	7.444	0.541	3.17%	4	4	0.9778	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93	1.6	YES		ppt in 1X C1	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61LD	476	7.705	0.553	4.25%	4	4	0.9713	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93	1.6	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61JH-A1	RF	AA61JH	449	7.258	0.449	0.45%	2	2	0.9280	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P17
AA61JH-B1	DF	AA61JH	598	9.678	0.690	6.95%	4	4	0.9413	6000, 2791, 1298, 604, 281, 131, 60.7, 28.3	2.15	YES			SLS-P32
AA61JH-B2	DF	AA61JH	371	5.995	0.736	3.27%	4	3	0.9757	6000, 2791, 1298, 604, 281, 131, 60.7, 28.3	2.15	YES			SLS-P35
AA61JH-B3	DF	AA61JH	350	5.660	0.438	3.54%	4	4	0.9848	6000, 2791, 1298, 604, 281, 131, 60.7, 28.3	2.15	YES			SLS-P37
FRAME															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.GR.A1.28.07.04	RF	AA61GR	1020	16.474	0.055	0.90%	1	1	0.6145	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.GR.B1.11.08.04	DF	AA61GR	592	9.568	0.739	0.12%	4	4	0.9157	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.GR-NB.B2.25.08.04	DF	AA61GR	851	13.766	0.943	0.07%	4	4	0.9741	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.GR.B3.27.08.04	DF	AA61GR	107	1.733	0.534	8.67%	6	2	0.9607	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.08.04
BUSULFAN															
IIVS															
A1	RF	AA61RL	1150	4.683	0.500	10.83%	0	3	0.5430	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61RL	274	1.113	0.732	7.46%	2	4	0.9237	750, 417, 231, 129, 71.4, 39.7, 22.1, 12.3	1.8	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61RL	317	1.287	0.598	3.83%	2	5	0.9721	500, 333, 222, 148, 98.8, 65.8, 43.9, 29.3	1.5	YES			SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61RL	348	1.414	0.792	2.36%	2	6	0.9429	500, 333, 222, 148, 98.8, 65.8, 43.9, 29.3	1.5	YES			SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61LH-A1	RF	AA61LH	NA	NA	0.624	3.53%	0	7	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001,0.00001	10	RF	range finder		SLS-P4
AA61LH-B1	DF	AA61LH	217	0.882	1.103	1.81%	1	7	0.6962	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.10, 3.77	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P47
AA61LH-B2	DF	AA61LH	211	0.856	0.792	1.88%	2	6	0.8550	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.10, 3.77	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P48
AA61LH-B3	DF	AA61LH	332	1.347	1.344	2.99%	1	7	0.6216	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.10, 3.77	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P51
FRAME															
FAL.NHK.JE.A1.13.02.03	RF	AA61JE	29.8	0.121	0.152	15.63%	1	2	0.7100	250, 25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025, 0.00025	10	RF	range finder	SD rejected due to bacterial contamination in some of the plates in this test series	FAL.NHK.SLS.13.02.03
FAL.NHK.JE.A2.20.02.03	DF	AA61JE	171	0.694	0.195	6.46%	2	3	0.6939	250, 116.3, 54.1, 25.2, 11.7, 5.4, 2.5, 1.2	2.15	YES		DF since conc. series is different from A1 RF	FAL.NHK.SLS.20.02.03
FAL.NHK.JE.B1.27.02.04	DF	AA61JE	142	0.575	0.622	3.35%	2	6	0.8940	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.02.03
FAL.NHK.JE.B2.19.03.03	DF	AA61JE	490	1.988	0.573	1.40%	1	6	0.8387	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
CADMIUM II CHLORIDE															
IIVS															
A2	RF	AA61NK	2.05	0.011	0.841	4.19	2	2	0.9692	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61NK	1.84	0.010	0.444	6.37	5	3	0.9906	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.47	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61NK	1.72	0.009	0.344	6.83	3	3	0.9819	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.47	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61NK	2.02	0.011	0.338	4.78	2	2	0.9738	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.47	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61KR-A1	RF	AA61KR	1.75	0.010	0.492	0.22	3	3	0.9218	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P4
AA61KR-B1	DF	AA61KR	2.31	0.013	0.918	6.16	4	3	0.9738	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.47	2.15	YES			SLS-P8
AA61KR-B3	DF	AA61KR	3.29	0.018	0.749	0.44	2	2	0.9446	8.00, 5.44, 3.70, 2.52, 1.71, 1.17, 0.793, 0.539	1.47	YES			SLS-P12
AA61KR-B5	DF	AA61KR	1.16	0.006	0.143	12.96	2	3	0.8299	8.00, 5.44, 3.70, 2.52, 1.71, 1.17, 0.793, 0.539	1.47	YES			SLS-P15

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61KR-B6	DF	AA61KR	2.57	0.014	0.867	2.57	3	3	0.9730	8.00, 5.44, 3.70, 2.52, 1.71, 1.17, 0.793, 0.539	1.47	YES			SLS-P16
AA61KR-B7	DF	AA61KR	1.66	0.009	0.507	6.37	3	4	0.9495	8.00, 5.44, 3.70, 2.52, 1.71, 1.17, 0.793, 0.539	1.47	YES			SLS-P18
FRAME															
FAL.NHK.JP.A1.30.07.03	RF	AA61JP	1.71	0.009	1.263	6.60	3	5	0.9364	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.30.07.03
FAL.NHK.JP.B1.07.08.03	DF	AA61JP	0.722	0.004	0.253	4.61	4	0	0.9034	12.0, 8.2, 5.6, 3.2, 2.6, 1.8, 1.2, 0.8	1.47	NO	No points between 50 & 100% viability		FAL.NHK.SLS.07.08.03
FAL.NHK.JP.B2.13.08.03	DF	AA61JP	NA	NA	0.219	9.58	0	3	NA	3.0, 2.04, 1.39, 0.94, 0.64, 0.44, 0.3, 0.2	1.47	NO	PC failed; no points between 0 - 50%; no r2;	SD rejects this assay; can't explain the variability of cell growth in the wells	FAL.NHK.SLS.13.08.03
FAL.NHK.JP.B3.23.08.03	DF	AA61JP	2.19	0.012	0.384	4.86	2	6	0.9507	5.0, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.JP.B4.28.08.03	DF	AA61JP	2.96	0.016	0.504	7.31	1	1	0.8321	5.0, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.280803
FAL.NHK.JP.B5.05.09.03	DF	AA61JP	0.553	0.003	0.180	4.62	3	2	0.8972	5.0, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.JP.B6.01.10.03	DF	AA61JP	2.46	0.013	1.289	6.38	2	6	0.4951	5.0, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.JP.B6.15.10.03 (should be B7?)	DF	AA61JP	2.12	0.012	0.482	1.44	2	4	0.9753	5.0, 3.401, 2.314, 1.574, 1.071, 0.728, 0.496, 0.337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.15.10.03

CAFFEINE

IIVS															
A1	RF	AA61JM	390	2.008	0.440	7.52%	2	3	0.9708	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61JM	565	2.909	0.489	3.92%	3	4	0.9805	10000, 4545, 2066, 939, 427, 194, 88.2, 40.1	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61JM	578	2.977	0.554	4.28%	4	4	0.9817	10000, 4545, 2066, 939, 427, 194, 88.2, 40.1	2.2	YES		two phase dose response curve	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61JM	579	2.984	0.456	2.91%	3	3	0.9762	10000, 4545, 2066, 939, 427, 194, 88.2, 40.1	2.2	YES		ppt in 1X C2	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61NU-A1	RF	AA61NU	221	1.137	0.469	5.83%	2	3	0.9546	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61NU-B1	DF	AA61NU	1070	5.492	1.065	6.83%	1	7	0.9140	2000, 930, 433,201,93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P7
AA61NU-B2	DF	AA61NU	824	4.244	1.076	0.91%	4	4	0.9433	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P9
AA61NU-B3	DF	AA61NU	558	2.876	0.777	7.01%	4	4	0.9590	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P11
FRAME															
FAL.NHK.GW.A1.13.02.03	RF	AA61GW	340	1.753	0.189	12.28%	2	2	0.8133	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.13.02.03
FAL.NHK.GW.A2.13.02.03	DF	AA61GW	553	2.849	0.247	2.26%	3	4	0.9267	10000, 3175, 1008, 320, 102, 32.2, 10.2, 3.25	3.15	YES		DF because conc. series is different from A1 RF	FAL.NHK.SLS.20.02.03
FAL.NHK.GW.B1.27.02.04	DF	AA61GW	794	4.090	0.456	0.75%	2	2	0.9523	10000, 3175, 1008, 320, 102, 32.2, 10.2, 3.25	3.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.02.03
FAL.NHK.GW.B3.18.03.04	DF	AA61GW	427	2.197	0.522	9.68%	3	5	0.9542	10000, 3175, 1008, 320, 102, 32.2, 10.2, 3.25	3.15	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
CARBAMAZEPINE															
IIVS															
A1	RF	AA61NB	NA	NA	0.575	4.51%	0	1	NA	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61NB	67.3	0.285	0.698	0.74%	1	7	0.9759	75.0, 46.9, 29.3, 18.3, 11.4, 7.15, 4.47, 2.79	1.6	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61NB	88.3	0.374	0.609	1.12%	0	5	0.8732	75.0, 46.9, 29.3, 18.3, 11.4, 7.15, 4.47, 2.79	1.6	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61NB	57.8	0.245	0.726	1.01%	1	5	0.9378	75.0, 46.9, 29.3, 18.3, 11.4, 7.15, 4.47, 2.79	1.6	YES			SLS-B14-N041030A
B4	DF	AA61NB	66.5	0.282	0.691	8.74%	3	5	0.9237	200, 125, 78.1, 48.8, 30.5, 19.1, 11.9, 7.45	1.6	YES			SLS-B15-N041110A
ECBC															
AA61LX-A1	RF	AA61LX	40.7	0.17240	0.827	3.59%	1	4	0.9327	200, 20, 2, 0.2, 0.02, 0.002, 0.0002, 0.00002	10	RF	range finder		SLS-P19
AA61LX-B1	DF	AA61LX	56.5	0.239	0.669	1.51%	3	4	0.9784	400, 186, 86.5, 40.2, 18.7, 8.71, 4.05, 1.88	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P41
AA61LX-B2	DF	AA61LX	71.9	0.304	0.693	3.27%	3	3	0.9477	400, 186, 86.5, 40.2, 18.7, 8.71, 4.05, 1.88	2.15	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-P43
AA61LX-B3	DF	AA61LX	70.0	0.296	1.100	2.84%	2	5	0.9566	400, 186, 86.5, 40.2, 18.7, 8.71, 4.05, 1.88	2.15	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-P45
FRAME															
FAL.NHK.HD.A1.24.09.04	RF	AA61HD	594	2.515	0.292	5.56%	1	2	-0.5440	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.HD.B1.01.10.04	DF	AA61HD	187	0.78983	1.037	6.43%	2	5	0.9721	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.HD.B2.07.10.04	DF	AA61HD	58.2	0.24634	0.631	2.15%	4	4	0.9855	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		ppt In 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.HD.B3.05.11.04	DF	AA61HD	71.3	0.30167	0.521	2.51%	4	4	0.9236	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		ppt In 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.05.11.04
FAL.NHK.HD.B4.10.11.04	DF	AA61HD	628	2.65789	1.114	4.71%	3	5	0.9316	1000, 8870, 756, 658, 572, 497, 432, 376	1.15	YES		ppt In 1X C1-C2; ppt in 2X C1-C2	FAL.NHK.SLS.10.11.04
CARBON TETRACHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61JK	NA	NA	0.627	0.48%	0	0	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 100%		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61JK	1540	10.023	0.679	3.90%	0	2	0.7803	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	NO	no points between 0 - 50%	SD removed highest dose from Hill analyses due to ppt and upswing in response curve; ppt in 2X C1-C8	SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61JK	NA	NA	0.634	6.32%	0	2	NA	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1-C4	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61JK	NA	NA	0.755	0.42%	0	1	NA	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1-C4	SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61NZ-A1	RF	AA61NZ	NA	NA	0.844	3.30%	0	3	NA	3000, 300, 30, 3, 0.3, 0.03, 0.003, 0.0003	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-P13
AA61NZ-B1	DF	AA61NZ	NA	NA	0.642	0.54%	0	4	NA	4500, 3719, 3074, 2540, 2099, 1735, 1434, 1185	1.21	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1- C5	SLS-P52
AA61NZ-B2	DF	AA61NZ	NA	NA	0.770	0.36%	NA	N/A	NA	7000, 5785, 4781, 3951, 3266, 2699, 2230, 1843	1.21	NO	SD rejects	ppt in 2X C1-C5; chemical globules in 1X C1-C4; plate columns C6 and C7 show no cells were plated	SLS-P56
AA61NZ-B3	DF	AA61NZ	NA	NA	0.668	1.36%	6	1	NA	7000, 5785, 4781, 3951, 3266, 2699, 2230, 1843	1.21	NO	can't properly determine points between 0 - 100%	"roller coaster" toxicity curve; ppt in 2X C1-C8; outliers removed by SD	SLS-P59
FRAME															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.HC.A1.25.04.04	RF	AA61HC	NA	NA	0.920	2.74%	0	0	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder ; no points between 0 - 100%		FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.HC.B1.11.06.04	DF	AA61HC	NA	NA	1.044	2.28%	0	8	NA	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	PC failed; no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.HC.B2.25.06.04	DF	AA61HC	1380	8.953	1.023	7.07%	0	2	0.8467	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.HC.B3.19.08.04 nb	DF	AA61HC	NA	NA	0.419	8.26%	0	7	0.0000	2500, 2066, 1708, 1411, 1166, 964, 797, 658	1.21	NO	curve unacceptable; no points between 0 - 50% would be acceptable due to	no toxicity detectedd	FAL.NHK.SLS-NB.19.08.04
FAL.NHK.HC.B4.20.08.04	DF	AA61HC	NA	NA	0.739	2.93%	0	1	0.0000	2500, 2066, 1708, 1411, 1166, 964, 797, 658	1.21	NO	curve unacceptable; no points between 0 - 50% would be acceptable due to 1.21 dilution	no toxicity detected; outliers removed by SD	FAL.NHK.SLS.20.08.04
CHLORAL HYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FJ	104	0.626	0.650	59.25%	2	1	0.9885	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; %VC difference >0	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis by SD	SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61FJ	114	0.686	0.601	3.48%	5	3	0.9882	5000, 2273, 1033, 470, 213, 97.0, 44.1, 20.0	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61FJ	111	0.674	0.513	0.29%	5	3	0.9904	5000, 2273, 1033, 470, 213, 97.0, 44.1, 20.0	2.2	YES		used plate sealer	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61FJ	111	0.672	0.517	6.49%	3	3	0.9917	5000, 2273, 1033, 470, 213, 97.0, 44.1, 20.0	2.2	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61KB-A1	RF	AA61KB	NA	NA	0.268	59.01%	1	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	probable volatility problem	SLS-P6
AA61KB-B1	DF	AA61KB	170	1.027	0.553	2.62%	3	5	0.9314	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P20
AA61KB-B2	DF	AA61KB	148	0.892	0.825	2.87%	4	4	0.9619	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P22
AA61KB-B3	DF	AA61KB	103	0.62153	0.394	3.13%	4	4	0.9671	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			SLS-P24
FRAME															
FAL.NHK.LK.A1.25.03.04	RF	AA61LK	103	0.620	0.412	65.79%	2	1	0.3337	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; %VC difference > 15	possible volatility problem	FAL.NHK.SLS.25.03.03
FAL.NHK.LK.B1.25.04.04	DF	AA61LK	NA	NA	0.039	12.80%	2	1	NA	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	wrong desorb solution used in NRU; SD rejects this test		FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.LK.B2.28.04.04	DF	AA61LK	142	0.860	0.825	0.16%	3	5	0.9864	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7,	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.LK.B2.11.06.04 (should be B3)	DF	AA61LK	135	0.816	0.797	3.73%	3	3	0.9586	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7,	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.LK.B4.23.06.04	DF	AA61LK	215	1.299	0.970	1.58%	3	3	0.9863	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.23.06.04
FAL.NHK.LK.B5.25.06.04	DF	AA61LK	119	0.722	0.927	2.14%	3	3	0.9801	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7,	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
CHLORAMPHENICOL															
IIVS															
A2	RF	AA61GJ	355	1.099	0.801	5.41%	0	2	0.6374	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61GJ	296	0.916	0.487	7.17%	2	6	0.9691	560, 311, 173, 96, 53.3, 29.6, 16.5, 9.15	1.80	YES			SLS-B1

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61GJ	351	1.086	0.358	5.44%	1	6	0.9165	560, 311, 173, 96, 53.3, 29.6, 16.5, 9.15	1.80	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61GJ	453	1.402	0.377	0.99%	1	5	0.93	560, 311, 173, 96, 53.3, 29.6, 16.5, 9.15	1.80	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61JS-A1	RF	AA61JS	239	0.740	0.706	3.80%	1	7	0.8464	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P4
AA61JS-B1	DF	AA61JS	252	0.780	1.175	3.03%	2	5	0.9626	2000, 930.2, 432.7, 201.2, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P8
AA61JS-B2	DF	AA61JS	222	0.687	0.975	0.22%	3	5	0.9452	2000, 930.2, 432.7, 201.2, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P10
AA61JS-B3	DF	AA61JS	481	1.488	0.767	0.14%	2	6	0.9349	2000, 930.2, 432.7, 201.2, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES			SLS-P12
FRAME															
FAL.NHK.MU.A1.30.07.03	RF	AA61MU	232	0.718	1.246	1.87%	1	6	0.8736	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.30.07.03
FAL.NHK.MU.B1.07.08.03	DF	AA61MU	160	0.495	0.187	55.29%	5	2	0.0978	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	NO	VC difference > 15%; low r2		FAL.NHK.SLS.07.08.03
FAL.NHK.MU.B2.15.08.03	DF	AA61MU	873	2.702	0.394	6.64%	1	2	0.6646	2500, 1163, 541, 252, 117, 54, 25, 12	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.MU.B3.23.08.03	DF	AA61MU	587	1.816	0.329	2.15%	2	3	0.8892	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.MU.B4.28.08.03	DF	AA61MU	476	1.473	0.472	15.82%	1	5	0.8489	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	NO	% VC difference >15		FAL.NHK.SLS.280803
FAL.NHK.MU.B5.05.09.03	DF	AA61MU	473	1.464	0.171	10.94%	2	4	0.8686	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.MU.B6.01.10.03	DF	AA61MU	173	0.535	1.304	7.20%	2	6	0.5745	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.MU.B6.15.10.03 (should be B7?)	DF	AA61MU	625	1.934	0.485	0.38%	2	5	0.9212	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.15.10.03
FAL.NHK.MU.B7.19.10.03	DF	AA61MU	916	2.835	0.164	2.34%	1	2	0.7152	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.19.10.03
FAL.NHK.MU.B8.23.10.03	DF	AA61MU	362	1.120	0.249	8.70%	2	5	0.8807	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.23.10.03
FAL.NHK.MU.B9.24.10.03	DF	AA61MU	194	0.600	0.861	4.38%	3	4	0.8814	2500, 1162, 541, 251, 171, 79.6, 54.1, 25.2	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.24.10.03
CITRIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61MH	298	1.551	0.413	4.09%	2	1	0.9217	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61MH	447	2.325	0.547	4.83%	4	4	0.9681	10000, 4545, 2066, 939, 427, 194, 88.2, 40.1	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61MH	407	2.121	0.562	0.18%	2	4	0.9655	10000, 4545, 2066, 939, 427, 194, 88.2, 40.1	2.2	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61MH	444	2.309	0.477	2.95%	2	5	0.9609	3000, 1667, 926, 514, 286, 159, 88.2, 49.0	1.8	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61HH-A1	RF	AA61HH	295	1.54	0.511	3.95%	2	1	0.9327	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P1
AA61HH-B1	DF	AA61HH	557	2.900	1.160	3.05%	2	6	0.9595	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			SLS-P7
AA61HH-B2	DF	AA61HH	589	3.065	1.191	1.62%	2	6	0.9588	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			SLS-P9
AA61HH-B3	DF	AA61HH	433	2.252	0.740	2.11%	2	6	0.9690	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			SLS-P11
FRAME															
FA.NH.HV.A1.11.02.04 (should be RB)	RF	AA61RB	406	2.111	1.459	3.77%	2	6	0.9700	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	pH and color of 2X matches citric acid for 3T3	FAL.NHK.SLS.11.02.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.RB.A2.18.02.04	DF	AA61RB	362	1.886	0.210	4.13%	6	0	0.7857	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	NO	PC failed; no points between 50-100%	this is a definitive test since conc. series is different from A1 range finder	FAL.NHK.SLS.18.02.04
FAL.NHK.RB.B1.26.02.04	DF	AA61RB	348	1.809	0.183	5.10%	3	5	0.9225	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS/MO.26.02.03
FAL.NHK.RB.B2.27.02.04	DF	AA61RB	361	1.881	0.415	5.54%	4	3	0.9577	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES		ppt detected in C1-C3 at end of test	FAL.NHK.SLS.27.02.04
FAL.NHK.RB.B3.18.03.04	DF	AA61RB	288	1.501	0.361	12.24%	4	3	0.9324	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.RB.B4.19.03.04	DF	AA61RB	251	1.308	0.510	2.65%	4	4	0.9369	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
COLCHICINE															
IIVS															
A2	RF	AA61FL	3.94	0.010	0.705	0.78%	4	3	0.4952	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61FL	0.00184	0.0000046	0.384	4.49%	8	0	0.6346	1.0, 0.56, 0.31, 0.17, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	NO	No points 50-100%; low R2		SLS-B1
B2	DF	AA61FL	0.000675	0.0000017	0.289	9.86%	8	0	0.5984	1.0, 0.56, 0.31, 0.17, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	NO	No points 50-100%; low R2		SLS-B2
B3	DF	AA61FL	0.0000306	0.0000001	0.335	7.90%	8	0	0.3037	1.0, 0.56, 0.31, 0.17, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	NO	No points 50-100%; low R2		SLS-B3
B4	DF	AA61FL	0.0215	0.0000538	0.2	4.67%	5	0	0.7647	1.0, 0.313, 0.098, 0.031, 0.0095, 0.0030, 0.00093, 0.00029	3.19	NO	No points 50-100%; low R2		SLS-B4
B7	DF	AA61FL	0.000733	0.0000018	0.624	0.50%	6	2	0.06259	0.03, 0.02, 0.013, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026, 0.0018	1.5	NO	Low R2		SLS-B7
B8* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00507	0.0000127	0.677	4.22%	1	5	0.4741	0.1, 0.056, 0.031, 0.017, 0.0095, 0.0053, 0.0029,0.0016	1.8	NO	PC failed	slow NHK growth; media problems	SLS-B8
B9* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00506	0.0000127	0.598	3.21%	0	6	0.5162	0.1, 0.056, 0.031, 0.017, 0.0095, 0.0053, 0.0029,0.0016	1.8	NO	PC failed; no points between 0 - 50%	slow NHK growth; media problems	SLS-B9
B10* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	NA	NA	0.44	22.49%	0	7	0.6108	0.1, 0.056, 0.031, 0.017, 0.0095, 0.0053, 0.0029,0.0016	1.8	NO	PC failed; no points between 0 - 50%; low r2; %VC difference > 15	slow NHK growth; media problems	SLS-B10
B11* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00609	0.0000152	0.436	4.74%	5	1	0.8455	0.1, 0.056, 0.031, 0.017, 0.0095, 0.0053, 0.0029,0.0016	1.8	NO	PC failed	slow NHK growth; media problems	SLS-B11
B12* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00927	0.0000232	0.727	5.52%	3	3	0.7899	0.045, 0.030, 0.020, 0.0133, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026	1.5	YES		morning (a.m.) harvest; SMT accepts this test	SLS-B12
B13* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00892	0.0000223	0.237	1.66%	5	1	0.9513	0.045, 0.030, 0.020, 0.0133, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026	1.5	YES		afternoon (p.m.) harvest	SLS-B13
B14* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00617	0.0000154	0.351	8.77%	5	1	0.9223	0.045, 0.030, 0.020, 0.0133, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026	1.5	YES			SLS-B14
B15* Hill function w/unconstrained bottom	DF	AA61FL	0.00571	0.0000143	0.276	4.29%	5	2	0.873	0.045, 0.030, 0.020, 0.0133, 0.0089, 0.0059, 0.0040, 0.0026	1.5	NO	PC failed		SLS-B15
ECBC															
AA61JZ-A1	RF	AA61JZ	NA	NA	0.326	23.32%	5	2	0.0097	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	low r2; couldn't calc. ICx values; range finder	range finder	SLS-P3

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61JZ-A2	RF	AA61JZ	NA	NA	0.202	3.41%	6	2	NA	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	NO	no r2 nor ICx values could be calculated	range finder	SLS-P5
AA61JZ-B1	DF	AA61JZ	557	1.394	0.770	0.63%	4	4	0.9016	10000, 4651.2, 2163.3, 1006.2, 468, 217.7, 101.2, 47.1	2.15	NO	PC failed		SLS-P11
AA61JZ-B2	DF	AA61JZ	817	2.045	0.099	1.01%	3	4	0.9437	10000, 4651.2, 2163.3, 1006.2, 468, 217.7, 101.2, 47.1	2.15	NO	PC failed		SLS-P13
AA61JZ-B3	DF	AA61JZ	0.017	0.00004	0.089	9.22%	1	2	0.4165	0.02140, 0.00995, 0.00463, 0.00215, 0.001, 0.00046, 0.00022, 0.0001	2.15	NO	PC failed; low r2		SLS-P13
AA61JZ-B4	DF	AA61JZ	0.012	0.00003	0.089	9.29%	2	3	0.5530	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0014	1.47	NO	low r2		SLS-P15
AA61JZ-B5	DF	AA61JZ	0.003	0.00001	0.884	5.21%	5	3	0.8528	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0014	1.47	YES			SLS-P16
AA61JZ-B6	DF	AA61JZ	0.011	0.00003	0.494	4.09%	3	2	0.7228	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0014	1.47	YES			SLS-P18
AA61JZ-B7	DF	AA61JZ	0.009	0.00002	0.687	1.01%	4	3	0.7162	0.0200, 0.0136, 0.0093, 0.0063, 0.0043, 0.0029, 0.0020, 0.0014	1.47	YES			SLS-P19
FRAME															
FAL.NHK.NW.A1.010803	RF	AA61NW	0.198	0.00050	0.305	17.20%	5	3	0.6953	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001		RF	range finder	SD says toxicity biphasic; chemical may be volatile	FAL.NHK.SLS.010803
FAL.NHK.NW.B1.080803	DF	AA61NW	0.024	0.00006	0.713	705.50%	7	1	0.6233	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001		NO	RF format	high background; biphasic response; determined ICx values with only 3 points	FAL.NHK.SLS.07.08.03
FAL.NHK.NW.B2.15.08.03	DF	AA61NW	1.00	0.00250	0.510	4.47%	6	1	0.5677	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001		NO	RF format; low r2	biphasic response	FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.NW.B3.19.10.03	DF	AA61NW	0.008	0.00002	0.312	8.59%	4	2	0.8637	0.100, 0.047, 0.022, 0.01006, 0.00468, 0.00218, 0.00101, 0.00047		YES			FAL.NHK.SLS.19.10.03
FAL.NHK.NW.B4.23.10.03	DF	AA61NW	0.007	0.00002	0.340	0.96%	4	1	0.9166	0.100, 0.047, 0.022, 0.01006, 0.00468, 0.00218, 0.00101, 0.00047		YES			FAL.NHK.SLS.23.10.03
FAL.NHK.NW.B5.24.10.03	DF	AA61NW	0.008	0.00002	0.974	0.55%	4	4	0.8869	0.100, 0.047, 0.022, 0.01006, 0.00468, 0.00218, 0.00101, 0.00047		YES			FAL.NHK.SLS.24.10.03

CUPRIC SULFATE PENTAHYDRATE

IIVS															
A1	RF	AA61LA	NA	NA	0.643	3.80%	0	2	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61LA	213	0.854	0.646	5.61%	3	3	0.9907	750, 536, 383, 273, 195, 139, 99.6, 71.1	1.4	YES		ppt in 2X C1 (homogeneous blue suspension); ppt in 1X C1-C8	SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61LA	199	0.797	0.583	1.02%	3	3	0.9957	750, 536, 383, 273, 195, 139, 99.6, 71.1	1.4	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C8	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61LA	208	0.833	0.675	1.17%	3	3	0.9811	750, 536, 383, 273, 195, 139, 99.6, 71.1	1.4	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C8	SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61HX-A1	RF	AA61HX	NA	NA	0.487	1.42%	0	1	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-P6
AA61HX-B1	DF	AA61HX	195	0.783	0.880	2.81%	6	1	0.9370	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P47
AA61HX-B2	DF	AA61HX	168	0.672	0.675	3.43%	6	2	0.9871	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P48

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61HX-B3	DF	AA61HX	206	0.823	1.320	1.52%	5	3	0.9814	500, 413, 342, 282, 233, 193, 159, 132	1.21	YES			SLS-P50
FRAME															
FAL.NHK.LP.A1.20.10 .04	RF	AA61LP	8.41	0.034	0.998	4.10%	3	0	0.9793	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder ; no points between 50 - 100%	outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.LP.B1.29.10.04	DF	AA61LP	NA	NA	0.545	7.44%	0	1	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.LP.B2.10.11.04	DF	AA61LP	189	0.756	1.026	0.20%	5	3	0.9474	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		outliers removed by SD	FAL.NHK.SLS.10.11.04
FAL.NHK.LP.B3.12.11.04	DF	AA61LP	186	0.746	0.696	6.80%	2	1	0.9794	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.12.11.04
FAL.NHK.LP.B4.17.11.04	DF	AA61LP	209	0.837	0.999	3.03%	2	1	0.9822	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.17.11.04
CYCLOHEXIMIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61GL	0.0589	0.0002	0.518	2.80%	5	1	0.9832	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61GL	0.0753	0.0003	0.534	1.79%	4	3	0.9783	1.00, 0.455, 0.207, 0.094, 0.043, 0.019, 0.0088, 0.0040	2.2	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61GL	0.0566	0.0002	0.499	1.72%	4	4	0.9931	1.00, 0.455, 0.207, 0.094, 0.043, 0.019, 0.0088, 0.0040	2.2	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61GL	0.0822	0.0003	0.712	3.28%	4	2	0.9858	1.00, 0.455, 0.207, 0.094, 0.043, 0.019, 0.0088, 0.0040	2.2	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KK-A1	RF	AA61KK	0.0441	0.0002	0.456	2.74%	6	1	0.9660	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P17
AA61KK-B1	DF	AA61KK	0.0558	0.0002	0.737	3.19%	4	4	0.9741	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P33
AA61KK-B2	DF	AA61KK	0.0634	0.0002	0.823	3.39%	4	4	0.9764	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	YES			SLS-P35
AA61KK-B3	DF	AA61KK	0.0401	0.0001	0.418	6.74%	5	3	0.9655	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.NHK.PF.A1.28.07.04	RF	AA61PF	0.0873	0.0003	0.042	0.79%	4	2	0.8106	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.PF.B1.12.08.04	DF	AA61PF	0.432	0.0015	0.862	1.46%	6	2	0.9511	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.PF-NB.B2.25.08.04	DF	AA61PF	0.0675	0.0002	1.104	1.57%	7	1	0.9690	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	YES			FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.PF.B3.20.10 .04	DF	AA61PF	0.2285	0.0010	1.179	5.59%	5	3	0.9771	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.PF.B4.29.10.04	DF	AA61PF	NA	0.0000	0.507	2.36%	8	0	0.9378	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	NO	no points between 50 - 100%	toxicity curve doesn't go above 20% viability	FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.PF.B5.05.11.04	DF	AA61PF	NA	NA	0.475	3.35%	6	0	NA	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	NO	no points between 50 - 100%		FAL.NHK.SLS.05.11.04
FAL.NHK.PF.B6.12.11.04	DF	AA61PF	0.0647	0.0002	0.725	2.10%	4	4	0.9513	1.00, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05, 0.02, 0.010, 0.0047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.12.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
DIBUTYL PHTHALATE															
IIVS															
A1	RF	AA61FD	25.2	0.090	0.684	8.39%	2	1	0.9676	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1-C2; ppt in 2X C1-C2	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61FD	23.2	0.083	0.562	2.55%	5	3	0.9704	1000, 455, 207, 93.9, 42.7, 19.4, 8.82, 4.01	2.2	YES		ppt in 1X C1-C4; ppt in 2X C1-C5	SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61FD	22.3	0.080	0.613	1.33%	3	3	0.9866	1000, 455, 207, 93.9, 42.7, 19.4, 8.82, 4.01	2.2	YES		ppt in 1X C1-C5; ppt in 2X C1-C5	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61FD	20.6	0.074	0.515	7.46%	4	4	0.9634	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES		ppt in 1X C1-C4; ppt in 2X C1-C4	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61JX-A1	RF	AA61JX	26.8	0.096	0.892	1.40%	2	2	0.9594	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C2	SLS-P15
AA61JX-B1	DF	AA61JX	34.0	0.122	0.957	0.03%	3	5	0.9281	200, 93.0, 43.3, 20.1, 9.4, 4.4, 2.0, 0.9	2.15	YES			SLS-P46
AA61JX-B2	DF	AA61JX	19.6	0.071	0.698	0.13%	3	5	0.9518	200, 93.0, 43.3, 20.1, 9.4, 4.4, 2.0, 0.9	2.15	YES		ppt in 2X C2; 1X C1-C3 has small chunks-possibly chemical crystals	SLS-P49
AA61JX-B3	DF	AA61JX	31.2	0.112	1.251	5.20%	3	4	0.9461	200, 93.0, 43.3, 20.1, 9.4, 4.4, 2.0, 0.9	2.15	YES		chunks of chemical in 1X C1-C3; ppt in 2X C4	SLS-P51
FRAME															
FAL.NHK.MK.A1.14.05.04	RF	AA61MK	152	0.546	0.692	8.77%	1	1	0.7744	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.MK.B1.19.08.04 nb	DF	AA61MK	NA	NA	0.342	2.58%	8	0	0.0000	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 1X C1-C8	FAL.NHK.SLS-NB.19.08.04
FAL.NHK.MK-RB.B2.25.08.04	DF	AA61MK	17.5	0.063	0.972	4.85%	4	4	0.9053	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS-RB.20.08.04
FAL.NHK.MK.B3.07.10.04	DF	AA61MK	39.7	0.143	0.602	7.72%	4	4	0.9531	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 1X C1-C5	FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.MK.B4.20.10 .04	DF	AA61MK	84.9	0.305	1.289	5.24%	3	3	0.9716	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS.20.10.04
DICHLORVOS															
IIVS															
A1	RF	AA61NP	12.6	0.057	0.702	59.99%	2	1	0.9650	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis by SD	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61NP	12.1	0.055	0.599	10.60%	5	3	0.9934	500, 227,103, 47.0, 21.3, 9.70, 4.41, 2.00	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61NP	11.9	0.054	0.627	7.89%	4	3	0.9912	500, 227,103, 47.0, 21.3, 9.70, 4.41, 2.00	2.2	YES		used plate sealer	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61NP	12.7	0.057	0.581	1.03%	4	2	0.9802	200, 90.9, 41.3, 18.8, 8.54, 3.88, 1.76, 0.802	2.2	YES		used plate sealer	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61PZ-A1	RF	AA61PZ	NA	NA	0.532	72.53%	1	2	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P15
AA61PZ-B1(sealer)	DF	AA61PZ	8.44	0.038	0.631	6.94%	4	4	0.9304	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P32
AA61PZ-B2 (sealer)	DF	AA61PZ	10.9	0.049	0.860	3.50%	3	5	0.9861	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P34
AA61PZ-B3 (sealer)	DF	AA61PZ	6.35	0.029	0.381	4.51%	4	4	0.9428	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.NHK.HS.A1.14.05.04	RF	AA61HS	9.55	0.043	0.391	72.35%	3	0	0.4969	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; %VC difference > 0; no points between 50 - 100%	volatility problem	FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.HS.B1.25.06.04	DF	AA61HS	13.2	0.060	1.094	9.37%	2	3	0.9630	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.HS.B2.12.08.04	DF	AA61HS	18.9	0.085	0.677	5.08%	2	2	0.6304	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.HS.B3.19.08.04 nb	DF	AA61HS	NA	NA	0.510	1.27%	0	7	0.0466	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity detected; SD removed column of data; odd toxicity curve	FAL.NHK.SLS-NB.19.08.04
FAL.NHK.HS-RB.B4.25.08.04	DF	AA61HS	15.7	0.071	0.773	1.27%	2	1	0.6376	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	YES			FAL.NHK.SLS-RB.20.08.04
FAL.NHK.HS.B5.27.08.04	DF	AA61HS	8.35	0.038	0.506	9.96%	2	6	0.8021	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.506, 0.235	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.08.04
DIETHYL PHTHALATE															
IIVS															
A1	RF	AA61NX	116	0.523	0.556	0.99%	1	1	0.8983	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2	SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61NX	192	0.863	0.570	3.77%	3	4	0.9757	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61NX	221	0.996	0.505	1.47%	3	3	0.9758	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61NX	155	0.695	0.790	6.15%	3	3	0.9904	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61GA-A1	RF	AA61GA	122	0.551	0.898	5.79%	1	3	0.9642	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P14
AA61GA-B1	DF	AA61GA	168	0.757	1.039	5.26%	2	4	0.9636	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES			SLS-P27
AA61GA-B2	DF	AA61GA	163	0.732	0.920	1.89%	3	2	0.9498	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-P29
AA61GA-B3	DF	AA61GA	190	0.854	0.776	1.33%	2	3	0.9633	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; oily	SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.KZ.A1.28.07.04	RF	AA61KZ	124	0.560	0.079	10.77%	1	1	0.6487	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.KZ.B1.11.08.04	DF	AA61KZ	27.7	0.125	0.765	6.15%	1	2	0.9160	2000, 930, 433, 201, 94, 44, 20, 9	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4 and 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.KZ.B2.08.10.04	DF	AA61KZ	147	0.660	0.737	18.98%	2	5	0.9382	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	NO	% VC difference > 15	volatility issue; incorrect solvent listed in Addendum III; SD corrected	FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.KZ.B3.22.10.04	DF	AA61KZ	149	0.670	0.731	9.65%	2	4	0.9568	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (MO)
FAL.NHK.KZ.B4.28.10.04	DF	AA61KZ	37.9	0.171	0.650	11.96%	4	4	0.9425	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04
DIGOXIN															
IIVS															
A1	RF	AA61MF	0.00075	0.0000010	0.695	0.29%	7	0	0.9294	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	ppt in 1X C1 and 2X C1	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61MF	0.00390	0.0000050	0.575	3.87%	3	1	0.9597	0.020, 0.0091, 0.0041, 0.0019, 0.00085, 0.00039, 0.00018, 0.000080	2.2	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61MF	0.00374	0.0000048	0.543	0.21%	3	1	0.9615	0.020, 0.0091, 0.0041, 0.0019, 0.00085, 0.00039, 0.00018, 0.000080	2.2	YES		outlier removed by SD	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61MF	0.00431	0.0000055	0.804	1.90%	2	3	0.9848	0.020, 0.0091, 0.0041, 0.0019, 0.00085, 0.00039, 0.00018, 0.000080	2.2	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61PP-A1	RF	AA61PP	0.00865	0.0000111	1.002	8.88%	5	0	0.9920	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	ppt in 1X C1 and 2X C1	SLS-P13
AA61PP-B1	DF	AA61PP	0.00518	0.0000066	0.864	4.37%	4	4	0.9591	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P33
AA61PP-B2	DF	AA61PP	0.00615	0.0000079	0.890	1.28%	4	4	0.9932	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P35
AA61PP-B3	DF	AA61PP	0.00481	0.0000062	0.477	0.96%	5	2	0.9770	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			SLS-P37
FRAME															
FAL.NHK.HN.A1.14.05.04	RF	AA61HN	0.00002	0.0000000	0.756	7.58%	5	0	0.9437	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	outlier removed by SD; ppt in 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.HN.B1.25.06.04	DF	AA61HN	0.00006	0.0000001	1.205	0.03%	4	3	0.9543	0.0010000, 0.0004651, 0.0002163, 0.0001006, 0.0000468, 0.0000218, 0.0000101, 0.0000047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.HN.B2.20.08.04	DF	AA61HN	0.00006	0.0000001	0.845	3.03%	4	3	0.9762	0.0010000, 0.0004651, 0.0002163, 0.0001006, 0.0000468, 0.0000218, 0.0000101, 0.0000047	2.15	YES		row C data removed by SD; most of wells were outliers	FAL.NHK.SLS.20.08.04
FAL.NHK.HN.B3.27.08.04	DF	AA61HN	0.00003	0.0000000	0.404	5.62%	5	3	0.9091	0.0010000, 0.0004651, 0.0002163, 0.0001006, 0.0000468, 0.0000218, 0.0000101, 0.0000047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.08.04

DIMETHYLFORMAMIDE

IIVS															
A1	RF	AA61FN	5750	78.720	0.495	3.49%	1	1	0.8849	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61FN	6180	84.544	0.553	1.90%	3	4	0.9725	15000, 10714, 7653, 5466, 3905, 2789, 1992, 1423	1.4	YES		ppt in 1X C1	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61FN	6580	89.967	0.543	5.48%	3	3	0.9801	15000, 10714, 7653, 5466, 3905, 2789, 1992, 1423	1.4	YES		ppt in 1X C1	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61FN	6430	87.919	0.544	0.29%	3	3	0.9823	15000, 10714, 7653, 5466, 3905, 2789, 1992, 1423	1.4	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61MW-A1	RF	AA61MW	NA	NA	0.773	5.14%	1	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		SLS-P19
AA61MW-B1	DF	AA61MW	9350	127.962	0.595	0.67%	2	4	0.9730	30000, 20408, 13883, 9444, 6425, 4371, 2973, 2023	1.47	YES			SLS-P40
AA61MW-B2	DF	AA61MW	9510	130.042	0.722	1.78%	3	4	0.9847	30000, 20408, 13883, 9444, 6425, 4371, 2973, 2023	1.47	YES			SLS-P42
AA61MW-B3	DF	AA61MW	9200	125.916	0.961	1.49%	2	4	0.9788	30000, 20408, 13883, 9444, 6425, 4371, 2973, 2023	1.47	YES			SLS-P44
FRAME															
FAL.NHK.KF.A1.24.09.04	RF	AA61KF	1940	26.551	0.501	2.32%	1	1	0.3487	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.KF.B1.01.10.04	DF	AA61KF	7690	105.216	0.990	2.68%	1	7	0.9741	15000, 6977, 3245, 1509, 702, 327, 152, 70.6	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.KF.B2.10.11.04	DF	AA61KF	7930	108.413	1.031	2.19%	1	4	0.9290	15000, 6977, 3245, 1509, 702, 327, 152, 70.6	2.15	YES		ppt In 2X C1-C5	FAL.NHK.SLS.10.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.KF.B3.12.11.04	DF	AA61KF	6040	82.620	0.668	16.78%	1	2	0.8929	15000, 6977, 3245, 1509, 702, 327, 152, 70.6	2.15	NO	%VC difference >15	outliers removed bySD	FAL.NHK.SLS.12.11.04
FAL.NHK.KF.B4.17.11.04	DF	AA61KF	7780	106.435	1.146	1.64%	1	2	0.9281	15000, 6977, 3245, 1509, 702, 327, 152, 70.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.17.11.04
FAL.NHK.KF.B5.19.11.04	DF	AA61KF	7740	105.946	0.465	5.14%	1	2	0.8514	15000, 6977, 3245, 1509, 702, 327, 152, 70.6	2.15	YES		outliers removed bySD	FAL.NHK.SLS.19.11.04
DIQUAT DIBROMIDE MONOHYDRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61GN	5.71	0.016	0.711	0.12%	4	2	0.9904	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61GN	4.10	0.011	0.570	1.86%	6	2	0.9823	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61GN	3.49	0.010	0.513	5.54%	6	2	0.9793	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61GN	3.92	0.011	0.652	0.15%	4	2	0.9871	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.53, 5.29, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KS-A1	RF	AA61KS	3.04	0.008	0.862	7.32%	4	4	0.9730	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P14
AA61KS-B1	DF	AA61KS	3.62	0.010	0.671	2.01%	5	3	0.9904	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P33
AA61KS-B2	DF	AA61KS	4.40	0.012	0.570	0.19%	5	2	0.9601	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P34
AA61KS-B3	DF	AA61KS	2.75	0.008	0.361	4.41%	5	3	0.9603	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.NHK.NV.A1.14.05.04	RF	AA61NV	3.88	0.011	0.640	4.87%	4	1	0.9854	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.NV.B1.12.08.04	DF	AA61NV	7.22	0.020	0.899	3.27%	6	2	0.9571	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	PC failed	row of data removed from analysis by the SD due to low cell growth	FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.NV.B2.19.08.04 rb	DF	AA61NV	43.3	0.119	0.271	2.15%	4	1	0.7846	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS-RB.19.08.04
FAL.NHK.NV.B3.20.08.04	DF	AA61NV	6.09	0.017	0.762	8.68%	6	2	0.9750	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		row C data removed by SD; several wells were outliers	FAL.NHK.SLS.20.08.04
FAL.NHK.NV-RB.B4.25.08.04	DF	AA61NV	11.9	0.033	0.583	7.52%	5	3	0.9780	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS-RB.20.08.04
FAL.NHK.NV.B5.27.08.04	DF	AA61NV	0.812	0.002	0.493	3.41%	7	0	0.8924	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	no points between 50 - 100%		FAL.NHK.SLS.27.08.04
FAL.NHK.NV.30.09.04	DF	AA61NV	2.97	0.008	0.677	0.21%	5	3	0.9830	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.30.09.03
FAL.NHK.NV.B7.07.10.04	DF	AA61NV	6.13	0.017	0.665	1.98%	4	4	0.9794	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
DISULFOTON															
IIVS															
A1	RF	AA61FC	140	0.509	0.559	3.49%	1	2	0.5182	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C2	SLS-A4-N040331N

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61FC	176	0.641	0.619	10.61%	4	4	0.9647	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		ppt in 1X C1-C5; ppt in 2X C1-C7; visual observations of the cells are different from the NRU viability results.	SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61FC	133	0.486	0.566	5.12%	4	4	0.9650	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		ppt in 1X C1-C6; ppt in 2X C1-C6;	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61FC	250	0.911	0.668	3.22%	3	5	0.9138	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		ppt in 1X C1-C5; ppt in 2X C1-C6;	SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61NY-A1	RF	AA61NY	NA	NA	0.798	10.85%	1	3	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C2	SLS-P39
AA61NY-B1	DF	AA61NY	139	0.508	0.623	2.86%	2	5	0.8924	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4	SLS-P55
AA61NY-B2a	DF	AA61NY	167	0.610	0.781	1.34%	1	6	0.8173	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES		chem. pieces C1-C4 in 96-well plate; ppt in 2X C1-C2; C1 toxicity < C2; curve rises; SD originally failed test; good toxicity curve when C1 removed by SD	SLS-P56
AA61NY-B3	DF	AA61NY	NA	NA	0.533	0.92%	0	8	NA	300, 204, 139, 94, 64, 44, 30, 20	1.47	NO	no points between 0-50%	no PRISM file generated; globules of chemical in 1X C1-C6; ppt in 2X C1-C4	SLS-P57
AA61NY-B4a	DF	AA61NY	113	0.413	0.128	6.62%	1	6	0.7376	300, 204, 139, 94, 64, 44, 30, 20	1.47	YES		chem. globules in all conc. in test plate; ppt in 2X C1-C5;C1 toxicity< C2 and C3; curve rises; SD originally failed test; good tox. curve when C1 and C2 removed by SD	SLS-P58
FRAME															
FAL.NHK.LC.A1.28.07.04	RF	AA61LC	NA	NA	0.052	15.74%	1	2	-0.3837	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; % VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.LC.B1.11.08.04	DF	AA61LC	828	3.017	0.764	7.18%	1	5	0.7436	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		ppt in C3	FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.LC.B2.17.09.04	DF	AA61LC	1670	6.104	0.685	4.15%	0	7	0.8707	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in C1-C4;outliers removed	FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.LC.B3.08.10.04	DF	AA61LC	586	2.136	0.681	9.54%	2	6	0.8830	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4; 1X C1	FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.LC.B4.20.10 .04	DF	AA61LC	1010	3.678	1.071	13.87%	2	6	0.9319	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1; ppt in 1X C1-C8	FAL.NHK.SLS.20.10.04

ENDOSULFAN

IIVS															
A1	RF	AA61HZ	0.817	0.002	0.637	37.84%	2	3	0.9532	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; %VC difference >0	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis by SD	SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61HZ	2.66	0.007	0.690	3.49%	1	3	0.9857	50.0, 27.8, 15.4, 8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	YES		ppt in 2X C2	SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61HZ	2.10	0.005	0.674	1.76%	3	2	0.9910	50.0, 27.8, 15.4, 8.57, 4.76, 2.65, 1.47, 0.817	1.8	YES		ppt in 2X C2; ppt in 1X C1	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61HZ	1.80	0.004	0.554	0.89%	3	2	0.9590	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61LG-A1	RF	AA61LG	NA	NA	0.612	31.27%	2	1	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	ppt in 2X C1 and C1	SLS-P39
AA61LG-B1(sealer)	DF	AA61LG	4.46	0.011	0.935	2.18%	0	5	0.8732	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P46
AA61LG-B2 (sealer)	DF	AA61LG	4.09	0.010	1.218	0.21%	2	6	0.9121	9.00, 6.12, 4.17, 2.83, 1.93, 1.31, 0.892, 0.607	1.47	YES			SLS-P51

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61LG-B3 (sealer)	DF	AA61LG	3.00	0.007	0.613	0.94%	3	5	0.9278	9.00, 6.12, 4.17, 2.83, 1.93, 1.31, 0.892, 0.607	1.47	YES			SLS-P52
AA61LG-B4 (sealer)	DF	AA61LG	3.24	0.008	0.631	4.02%	3	4	0.9089	9.00, 6.12, 4.17, 2.83, 1.93, 1.31, 0.892, 0.607	1.47	YES			SLS-P54
FRAME															
FAL.NHK.PW.A1.28.04.04	RF	AA61PW	1.79	0.004	0.592	24.69%	1	2	0.4155	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder; %VC difference > 15	possible volatility problem	FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.PW.B1.11.06.04	DF	AA61PW	1.05	0.003	0.953	2.52%	5	1	0.6822	10, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	PC failed	incorrect solvent listed; biphasic response	FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.PW.B2.25.06.04	DF	AA61PW	2.19	0.005	1.109	6.72%	5	3	0.9113	10, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.PW.B3.17.09.04	DF	AA61PW	1.24	0.003	0.820	0.67%	5	2	0.8280	10, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES		outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.PW.B4.07.10.04	DF	AA61PW	0.822	0.002	0.731	4.68%	7	1	0.7929	10, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
EPINEPHRINE BITARTRATE															
IIVS															
A1	RF	AA61LT	91.2	0.274	0.637	6.28%	2	1	0.9359	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61LT	61.1	0.183	0.430	3.51%	5	3	0.9623	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 1X C1	SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61LT	83.8	0.251	0.562	3.01%	2	3	0.9796	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61LT	80.0	0.240	0.513	2.26%	2	5	0.9398	200, 143, 102, 72.9, 52.1, 37.2, 26.6, 19.0	1.4	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61HW-A1	RF	AA61HW	73.5	0.220	0.337	4.12%	2	0	0.6969	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P6
AA61HW-B1	DF	AA61HW	124	0.371	0.897	6.82%	2	2	0.8018	200, 136, 92.6, 63.0, 42.8, 29.1, 19.8, 13.5	1.47	YES			SLS-P26
AA61HW-B2	DF	AA61HW	118	0.354	0.959	3.84%	3	3	0.9373	200, 165, 137, 113, 93.3, 77.1, 63.7, 52.7	1.21	YES			SLS-P29
AA61HW-B3	DF	AA61HW	103	0.308	0.692	0.84%	4	2	0.9411	200, 165, 137, 113, 93.3, 77.1, 63.7, 52.7	1.21	YES			SLS-P31
FRAME															
FAL.NHK.RK.A1.26.03.04	RF	AA61RK	93.5	0.281	0.552	10.97%	3	0	0.7362	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	pts between 50 - 100% but several above 100% ; ppt in C1	FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.RK.B1.25.04.04	DF	AA61RK	112	0.337	0.705	1.25%	3	1	0.8428	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		two "outliers" in C4 removed b SD due to low OD	FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.RK.B2.28.04.04	DF	AA61RK	77.3	0.232	0.887	5.93%	4	1	0.9755	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7,	2.15	YES		two "outliers" in C4 removed by SD; no NR uptake	FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.RK.B3.13.05.04	DF	AA61RK	55.8	0.168	0.606	0.81%	4	3	0.9907	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.13.05.04
ETHANOL															
IIVS															
A1	RF	AA61FH	NA	NA	0.628	2.73%	0	1	0.4299	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61FH	7240	157.247	0.461	100.30%	3	2	0.9851	150000, 83333, 46296, 25720, 14289, 7938, 4410, 2450	1.8	NO	%VC difference >15	Left VC was removed from calculations due to volatility	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61FH	6430	139.502	0.509	100.04%	2	2	0.9844	150000, 83333, 46296, 25720, 14289, 7938, 4410, 2450	1.8	NO	%VC difference >15	Left VC was removed from calculations due to volatility	SLS-B9-N040820A

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61FH	10800	234.197	0.586	1.92%	2	3	0.9760	150000, 83333, 46296, 25720, 14289, 7938, 4410, 2450	1.8	YES			SLS-B11-N040904H
B4	DF	AA61FH	9250	200.716	0.709	2.59%	1	3	0.9781	150000, 83333, 46296, 25720, 14289, 7938, 4410, 2450	1.8	YES			SLS-B10-N040903A
B5	DF	AA61FH	10700	232.050	0.627	1.78%	3	4	0.9858	50000, 31250, 19531, 12207, 7629, 4768, 2980, 1863	1.6	YES			SLS-B12-N041022B
ECBC															
AA61JU-A1	RF	AA61JU	NA	NA	0.436	7.58%	0	1	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P5
AA61JU-B1(sealer)	DF	AA61JU	7940	172.418	0.701	3.02%	6	1	0.9000	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			SLS-P28
AA61JU-B2(sealer)	DF	AA61JU	8710	189.052	0.741	5.60%	5	3	0.9616	50000, 34014, 23139, 15740, 10708, 7284, 4955, 3371	1.47	YES			SLS-P31
AA61JU-B3(sealer)	DF	AA61JU	8220	178.477	0.788	1.41%	3	4	0.9617	30000, 20408, 13883, 9444, 6425, 4371, 2973, 2023	1.47	YES			SLS-P34
FRAME															
FAL.NHK.PC.A1.25.04.04	RF	AA61PC	11800	256.792	0.646	14.49%	0	1	-0.7906	100000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.PC.A2.28.04.04	DF	AA61PC	9640	209.210	0.959	3.42%	2	6	0.9428	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.PC.B2.11.06.04	DF	AA61PC	11400	247.504	0.753	2.64%	1	3	0.8972	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	NO	PC failed	incorrect solvent listed	FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.PC.B3.23.06.04	DF	AA61PC	14200	308.022	0.896	9.81%	1	4	0.8958	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.23.06.04
FAL.NHK.PC.B4.25.06.04	DF	AA61PC	12200	265.816	0.899	4.29%	1	3	0.8875	25000, 11628, 5408, 2516, 1170, 544, 253, 118	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
ETHYLENE GLYCOL															
IIVS															
Preliminary	RF	AA61HR	44900	723.027	0.588	4.11%	0	1	0.6185	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		Preliminary
B1	DF	AA61HR	40900	658.615	0.552	1.95%	1	2	0.9752	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61HR	32200	518.519	0.734	3.50%	1	3	0.9755	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61HR	43200	695.652	0.798	1.30%	1	1	0.9797	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B3
B4	DF	AA61HR	43700	703.704	0.826	4.36%	1	1	0.9780	100000, 56250, 31600, 17800, 10000, 5600, 3160, 1770	1.78	YES			SLS-B4
ECBC															
ECBC-NHK-Ib-01 AA61LM-A1	RF	AA61LM	NA	NA	0.788	1.16%	0	0	-0.5039	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P2
ECBC-NHK-Ib-02 AA61LM-A2	RF	AA61LM	17700	285.024	1.125	7.69%	0	1	0.9617	100000, 10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01	10	NO	No points between 10 and 50%		SLS-P3
ECBC-NHK-Ib-03 AA61LM-B1	DF	AA61LM	42100	677.939	1.282	1.23%	2	2	0.9764	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	YES			SLS-P4

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
ECBC-NHK-Ib-04 AA61LM-B2 (correction rec'd 4/30/03)	DF	AA61LM	39000	628.019	1.148	5.83%	1	2	0.9491	84869.6, 57656.0, 39168.5, 26609.0, 18076.8, 12280.4, 8342.7, 5667.6	1.47	YES			SLS-P5
ECBC-NHK-Ib-05 AA61LM-B3	DF	AA61LM	44000	708.535	1.119	0.98%	0	2	0.9719	100000, 68000, 46300, 31500, 21400, 14600, 9910, 6740	1.47	NO	No points between 10 and 50%		SLS-P7
ECBC-NHK-Ib-06 AA61LM-B4	DF	AA61LM	32900	529.791	0.910	3.05%	3	3	0.9383	60030, 46200, 35500, 27300, 21000, 16200, 12400, 9570	1.3	YES			SLS-P8
FRAME															
A3 1b/NHK/DF1/FAL/PD	DF	AA61PD	16.1	0.259	0.047	1.95%	5	1	0.3772	100, 68.02, 46.27, 31.47, 21.40, 14.50, 9.90, 6.70	1.47	RF	R^2 < 0.8; PC failed; range finder	NR crystal problems; used medium not normally used	A3 1b/NHK/CTR4/FAL/
A4 1b/NHK/DF2/FAL/PD	DF	AA61PD	4.17	0.067	0.125	25.74%	4	1	0.1465	100, 68.02, 46.27, 31.47, 21.41, 14.56, 9.90, 6.74	1.47	NO	VC difference > 15%; R^2 < 0.8	NR crystal problems; used medium not normally used	A4 1b/NHK/CTR5/FAL
A5 1b/NHK/DF3/FAL/PD	DF	AA61PD	NA	NA	0.140	1.78%	6	1	NA	100, 68.02, 46.27, 31.47, 21.41, 14.56, 9.90, 6.74	1.47	NO	No R^2 or ICx; PC failed	Used different medium; OD values of test wells slightly higher than bkgd. ODs; negative values for VC	A5 1b/NHK/CTR6/FAL
A6 1b/NHK/DF4/FAL/PD	DF	AA61PD	67.1	1.081	0.920	0.29%	1	0	0.5955	100, 68.02, 46.27, 31.47, 21.40, 14.50, 9.90, 6.70	1.47	NO	No point between 50 & 90%; R^2 < 0.8	recalc w/o outlier didn't improve fit, so outlier was not removed	A6 1b/NHK/CTR7/FAL
A10 1b/NHK/DF5/FAL/PD	DF	AA61PD	48400	779.388	1.203	10.37%	1	6	0.8164	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES		no outliers	A10 1b/NHK/CTR11/FAL
A11 1b/NHK/DF6/FAL/PD	DF	AA61PD	54700	880.837	1.706	4.22%	2	2	0.8960	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			A11 1b/NHK/CTR12/FAL
A12 1b/NHK/DF7/FAL/PD	DF	AA61PD	33200	534.622	0.372	17.37%	1	5	0.8678	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	VC difference > 15%		A12 1b/NHK/CTR13/FAL/SLS
1b/NHK/DF3/FAL/PD	DF	AA61PD	46300	745.572	0.773	12.10%	1	5	0.9074	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			1b/NHK/CTR14/FAL/SLS

FENPROPATHRIN

IIVS															
A1	RF	AA61HY	1.38	0.004	0.552	4.86%	3	1	0.9698	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1-C2	SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61HY	2.18	0.006	0.580	3.12%	5	3	0.9412	75.0, 34.1, 15.5, 7.04, 3.20, 1.46, 0.661, 0.301	2.2	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61HY	1.67	0.005	0.600	4.40%	5	2	0.9440	75.0, 34.1, 15.5, 7.04, 3.20, 1.46, 0.661, 0.301	2.2	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61HY	1.62	0.005	0.528	1.77%	5	2	0.9228	75.0, 34.1, 15.5, 7.04, 3.20, 1.46, 0.661, 0.301	2.2	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61LJ-A1	RF	AA61LJ	4.46	0.013	0.569	6.52%	3	3	0.9479	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1	SLS-P2
AA61LJ-B1	DF	AA61LJ	3.71	0.0106	1.025	3.17%	8	0	0.8224	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74	1.47	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1-C5 and 1X C1	SLS-P8
AA61LJ-B2	DF	AA61LJ	2.94	0.008	1.265	0.48%	5	3	0.9897	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-P10
AA61LJ-B3	DF	AA61LJ	3.38	0.010	0.779	5.84%	5	3	0.9503	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3 and 1X C1	SLS-P11
AA61LJ-B4	DF	AA61LJ	4.87	0.014	0.991	1.87%	5	3	0.9448	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3 and 1X C1	SLS-P23
FRAME															
FAL.NHK.A1.11/02/04	RF	AA61PT	5.51	0.016	1.226	1.06%	3	5	0.9610	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	C5 outliers removed by SD; ppt in 2X C1 and 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.11.02.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.PT.B1.26.02.04	DF	AA61PT	0.012	0.000	0.185	9.24%	8	0	0.4977	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	no points between 50-100%	ppt in 2X C1-C5 and 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS/MO.26.02.03
FAL.NHK.PT.18.03.04 (B2 not in identifier)	DF	AA61PT	2.77	0.008	0.321	1.46%	4	1	0.7108	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.51, 0.24	2.15	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1	FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.PT.B3.19.03.04	DF	AA61PT	2.37	0.007	0.587	8.52%	5	2	0.9693	50.0, 23.3, 10.8, 5.03, 2.34, 1.09, 0.51, 0.24	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.19.03.03
FAL.NHK.PT.B4.25.03.04	DF	AA61PT	1.56	0.004	0.693	8.69%	6	2	0.9644	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1 and 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS.25.03.03
GIBBERELLIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61RE	NA	NA	0.542	1.18%	0	1	0.0000	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%	outlier in C7 removed by SD	SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61RE	2820	8.155	0.594	4.88%	1	4	0.9686	3750, 2344, 1465, 916, 572, 358, 224, 140	1.6	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61RE	2920	8.442	0.499	1.94%	1	2	0.9503	3750, 2679, 1913, 1367, 976, 697, 498, 356	1.4	YES			SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61RE	2680	7.735	0.646	1.50%	1	5	0.9492	3750, 2679, 1913, 1367, 976, 697, 498, 356	1.4	YES			SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61FR-A1	RF	AA61FR	NA	NA	0.958	1.55%	0	6	NA	2500, 250, 25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025, 0.00025	10	RF	range finder		SLS-P22
AA61FR-B1	DF	AA61FR	2470	7.136	0.689	0.27%	4	4	0.9209	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		ppt in 2X C1-C4 and 1X C1	SLS-P49
AA61FR-B2	DF	AA61FR	3270	9.429	1.151	0.64%	3	5	0.9334	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		ppt in 2X C1-C5	SLS-P50
AA61FR-B3	DF	AA61FR	2810	8.118	0.643	1.28%	4	4	0.9736	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		ppt in 2X C1-C3 and 1X C1	SLS-P53
FRAME															
FAL.NHK.GY.***A1.28.07.04 (should be 11.08.04)***	RF	AA61GY	NA	NA	0.596	2.46%	0	1	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.GY.B1.08.10.04	DF	AA61GY	3030	8.739	0.629	2.48%	1	7	0.8918	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.GY.B2.20.10 .04	DF	AA61GY	3160	9.130	1.110	2.21%	1	2	0.9820	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.GY.B3 .22.10.04	DF	AA61GY	2630	7.594	0.641	8.86%	1	1	0.8601	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (MO)
GLUTETHIMIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61NN	119	0.546	0.579	1.28%	0	1	0.9782	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1	SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61NN	190	0.873	0.634	3.05%	4	3	0.9710	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61NN	193	0.889	0.541	0.86%	4	2	0.9455	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61NN	144	0.664	0.806	8.24%	4	4	0.9734	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES		ppt in 1X C1 and 2X C1	SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61FE-A1	RF	AA61FE	171	0.789	0.574	1.65%	1	6	0.9668	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P25
AA61FE-B1	DF	AA61FE	114	0.524	0.799	6.19%	3	5	0.9192	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P40
AA61FE-B2	DF	AA61FE	236	1.086	0.688	1.79%	2	1	0.9489	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P43

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61FE-B3	DF	AA61FE	210	0.966	1.015	6.51%	3	4	0.9724	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P45
FRAME															
FAL.NHK.KY.A1.24.09.04	RF	AA61KY	200	0.922	0.492	0.10%	1	1	0.0402	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.KY.B1.01.10.04	DF	AA61KY	222	1.021	1.023	10.48%	5	3	0.8909	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.KY.B2.07.10.04	DF	AA61KY	147	0.674	0.668	1.24%	6	2	0.9631	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.KY.B3.05.11.04	DF	AA61KY	195	0.899	0.502	0.78%	3	5	0.9246	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.05.11.04
FAL.NHK.KY.B4.10.11.04	DF	AA61KY	167	0.771	1.009	9.60%	3	3	0.9317	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.10.11.04
GLYCEROL															
IIVS															
A1	RF	AA61JF	NA	NA	0.446	6.43%	0	2	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61JF	27500	298.392	0.509	14.14%	3	3	0.9818	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61JF	34200	371.354	0.519	9.50%	3	5	0.9761	101960, 72829, 52020, 37157, 26541, 18958, 13541, 9672	1.4	YES		130 ul of 2X doses were applied. Final conc. values adjusted in data sheets by SD; data from wells G3-G10 removed from EXCEL and PRISM analyses (by SD) since they were not dosed	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61JF	25400	275.923	0.627	0.03%	3	4	0.9671	100000, 71429, 51020, 36443, 26031, 18593, 13281, 9486	1.4	YES			SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61HG-A1	RF	AA61HG	NA	NA	0.612	4.48%	0	7	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	no toxicity detected	SLS-P1
AA61HG-A2	RF	AA61HG	15600	168.961	0.497	3.56%	1	1	0.8792	100000, 10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61HG-B1	DF	AA61HG	51200	555.693	1.001	1.36%	1	3	0.9717	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	YES			SLS-P8
AA61HG-B2	DF	AA61HG	30500	330.969	0.880	0.09%	3	5	0.9505	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			SLS-P14
AA61HG-B3	DF	AA61HG	21100	229.503	0.481	14.05%	5	2	0.9533	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	YES			SLS-P16
FRAME															
FAL.NHK.RA.A1.11/02/04	RF	AA61RA	NA	NA	0.662	0.55%	0	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.11.02.04
FAL.NHK.RA.A2.18.02.04	DF	AA61RA	57300	621.996	0.180	11.45%	1	3	0.2547	100000, 68027, 46277, 31481, 21416, 14568, 9911, 6742	1.47	NO	PC failed	this is a definitive test since conc. series is different from A1 range finder	FAL.NHK.SLS.18.02.04
FAL.NHK.RA.B1.26.02.04	DF	AA61RA	21800	237.021	0.205	15.32%	2	1	0.9389	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	YES			FAL.NHK.SLS/NB.26.02.03
FAL.NHK.RA.B2.18.03.04	DF	AA61RA	8470	92.000	0.438	7.92%	4	4	0.9629	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.RA.B3.19.03.04	DF	AA61RA	23800	258.100	0.407	10.70%	2	4	0.9425	100000, 46512, 21633, 10062, 4680, 2177, 1012, 471	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
HALOPERIDOL															
IIVS															
A1	RF	AA61LW	2.86	0.008	0.589	2.46%	2	5	0.9764	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61LW	4.51	0.012	0.585	0.93%	2	5	0.9715	50.0, 22.7, 10.3, 4.70, 2.13, 0.970, 0.441, 0.200	2.2	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61LW	3.11	0.008	0.576	4.43%	3	4	0.9736	50.0, 22.7, 10.3, 4.70, 2.13, 0.970, 0.441, 0.200	2.2	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61LW	2.24	0.006	0.764	4.42%	3	4	0.9571	50.0, 22.7, 10.3, 4.70, 2.13, 0.970, 0.441, 0.200	2.2	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61JC-A1	RF	AA61JC	4.88	0.013	0.947	6.60%	2	6	0.9383	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P19
AA61JC-B1	DF	AA61JC	2.70	0.007	0.700	2.99%	4	3	0.9630	80.0, 37.2, 17.3, 8.05, 3.74, 1.74, 0.81, 0.38	2.15	YES			SLS-P41
AA61JC-B2	DF	AA61JC	3.66	0.010	0.687	7.99%	4	3	0.9516	40.0, 18.6, 8.65, 4.03, 1.87, 0.871, 0.405, 0.188	2.15	YES			SLS-P42
AA61JC-B3	DF	AA61JC	4.72	0.013	1.060	1.49%	4	4	0.9411	40.0, 18.6, 8.65, 4.03, 1.87, 0.871, 0.405, 0.188	2.15	YES			SLS-P44
FRAME															
FAL.NHK.PM.A1.11.08.04	RF	AA61PM	0.329	0.001	0.803	11.63%	3	3	0.8526	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.PM.B1.08.10.04	DF	AA61PM	4.52	0.012	0.680	14.55%	2	4	0.9665	100, 31.8, 10.1, 3.2, 1.02, 0.322, 0.102, 0.0325	3.15	YES			FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.PM.B2.22.10.04	DF	AA61PM	4.99	0.013	0.743	2.20%	2	5	0.9658	100, 31.8, 10.1, 3.2, 1.02, 0.322, 0.102, 0.0325	3.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (MO)
FAL.NHK.PM.B3.29.10.04	DF	AA61PM	1.64	0.004	0.629	7.30%	5	3	0.9621	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01,0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.29.10.04
HEXACHLOROPHENE															
IIVS															
A1	RF	AA61JN	0.025	0.00006	0.509	3.75%	2	3	0.9760	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	Due to high ppt in 2X C1-C2and 1X C1-C2; SD removed these two doses from Hill function analyses and set the bottom to 0	SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61JN	0.0223	0.00005	0.609	3.49%	3	3	0.9868	0.500, 0.227, 0.103, 0.047, 0.021, 0.010, 0.004, 0.002	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61JN	0.0186	0.00005	0.611	0.44%	4	1	0.9891	0.500, 0.227, 0.103, 0.047, 0.021, 0.010, 0.004, 0.002	2.2	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61JN	0.0227	0.00006	0.520	1.39%	3	2	0.9885	0.500, 0.227, 0.103, 0.047, 0.021, 0.010, 0.004, 0.002	2.2	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61ND-A1	RF	AA61ND	NA	NA	0.421	16.43%	3	0	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2 and 1X C1-C2	SLS-P4
AA61ND-B1	DF	AA61ND	0.0294	0.00007	0.684	6.18%	5	3	0.9590	0.200, 0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013	1.47	YES			SLS-P21

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61ND-B2	DF	AA61ND	0.0301	0.00007	0.891	1.12%	5	3	0.9862	0.200, 0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013	1.47	YES			SLS-P23
AA61ND-B3	DF	AA61ND	0.0221	0.00005	0.586	1.63%	2	6	0.9707	0.200, 0.136, 0.093, 0.063, 0.043, 0.029, 0.020, 0.013	1.47	YES			SLS-P25
FRAME															
FAL.NHK.HB.A2.26.02.03	RF	AA61HB	NA	NA	0.249	7.29%	NA	NA	0.0000	NA	NA	RF	range finder	SD says ppt binds or reacts with NR;gives "nonsense" data; tox. curve goes wrong direction; ppt in 1X C1-C3	FAL.NHK.SLS/MO.26.02.03
FAL.NHK.HB.B1.18.03.04	DF	AA61HB	NA	NA	0.654	5.98%	0	0	-1.2210	0.010, 0.003, 0.001, 0.00032, 0.00010, 0.0000322, 0.0000102, 0.0000032	3.15	NO	no points between 0-100%	SD notes incorrect range used; considers 100 ug/ml as start conc. w/ dil. factor 2.15	FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.HB.B2.19.03.04	DF	AA61HB	NA	NA	0.523	6.30%	0	0	-1.2210	0.010, 0.003, 0.001, 0.00032, 0.00010, 0.0000322, 0.0000102, 0.0000032	3.15	NO	no points between 0-100%	SD notes incorrect range used; considers 100 ug/ml as start conc. w/ dil. factor 2.15	FAL.NHK.SLS.19.03.03
FAL.NHK.HB.B2.25.03.04 (should be B3)	DF	AA61HB	NA	NA	0.544	7.76%	0	0	0.1438	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	curve is going in the wrong direction	Data not analysed; chem. reacts w/ NR & gives false + results in columns C1-C4; cells in first 3-4 col. incorp. large amount of dye	FAL.NHK.SLS.25.03.03
FAL.NHK.HB.B3.26.03.04 (should be B4)	DF	AA61HB	NA	NA	0.652	15.30%	0	0	-1.2210	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	curve is going in the wrong direction	Data not analysed; chem. seems to react w/ NR & gives false + results in col. C1-C4; cells in first 3-4 col. Incorp. large amount of dye; ppt in 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.HB.B4.25.04.04 (should be B5)	DF	AA61HB	0.0521	0.00013	0.850	3.86%	4	2	0.9900	1.0, 0.465, 0.216, 0.101, 0.046, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.HB.B5.28.04.04 (should be B6)	DF	AA61HB	0.0619	0.00015	0.928	2.72%	4	1	0.9862	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.HB.13.05.04 (should be B7)	DF	AA61HB	NA	NA	0.603	2.36%	4	1	NA	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	NO	no points between 50-100%; SD rejects test	odd plate; looks as if the dilutions ran left to right for top three wells & right to left for bottom three.	FAL.NHK.SLS.13.05.04
FAL.NHK.HB.B7.10.06.04 (should be B8)	DF	AA61HB	0.0233	0.00006	0.922	1.93%	5	3	0.9799	1.0, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05, 0.022, 0.010, 0.0047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.10.06.04

LACTIC ACID

IIVS															
A1	RF	AA61FW	1360	15.114	0.573	1.92%	1	1	0.9351	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61FW	1260	13.976	0.552	3.33%	4	2	0.9915	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61FW	1210	13.377	0.561	10.36%	2	2	0.9868	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61FW	1470	16.344	0.458	4.02%	4	2	0.9836	5000, 3333, 2222, 1481, 988, 658, 439, 293	1.5	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61NL-A1	RF	AA61NL	1060	11.786	0.411	3.08%	1	1	0.8632	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P6

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61NL-B1	DF	AA61NL	1330	14.770	0.999	0.10%	3	4	0.9731	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P26
AA61NL-B2	DF	AA61NL	1310	14.418	0.909	0.66%	3	3	0.9901	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P28
AA61NL-B3	DF	AA61NL	1230	13.658	0.824	3.46%	3	5	0.9532	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.JT.A1.25.04.04	RF	AA61JT	1880	20.863	0.777	7.41%	1	1	0.7636	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.JT.B1.28.04.04	DF	AA61JT	1350	15.010	0.904	0.04%	3	5	0.9767	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.JT.B2.13.05.04	DF	AA61JT	1360	15.079	0.597	1.07%	3	4	0.9702	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.13.05.04
FAL.NHK.JT.B3.10.06.04	DF	AA61JT	1250	13.879	0.670	6.11%	3	1	0.9322	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.10.06.04

LINDANE

IIVS															
A1	RF	AA61PJ	46.8	0.161	0.634	0.78%	1	1	0.7927	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 2x C1 and 1X C1	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61PJ	15.7	0.054	0.547	10.52%	5	2	0.9540	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES		ppt in 1X C1-C3 & 2X C1-C3; SD removed top 3 doses from Hill analyses; ppts and flattening of response curve were observed	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61PJ	18.0	0.062	0.582	6.00%	4	2	0.9704	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES		ppt in 1X C1-C3 & 2X C1-C2; SD removed top 3 doses from Hill analyses; ppts and flattening of response curve were observed	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61PJ	13.2	0.045	0.532	6.43%	2	3	0.9626	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES		ppt in 1X C1-C4 & 2X C1-C3; SD removed top 3 doses from Hill analyses; ppts and flattening of response curve were observed	SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61FK-A1	RF	AA61FK	40.6	0.140	0.821	9.29%	2	2	0.8809	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C	SLS-P15
AA61FK-B1	DF	AA61FK	21.4	0.074	0.550	6.75%	5	2	0.9657	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C4;	SLS-P49
AA61FK-B2	DF	AA61FK	15.5	0.053	0.558	2.09%	5	2	0.8770	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C4	SLS-P53
AA61FK-B3	DF	AA61FK	20.3	0.070	0.619	6.30%	4	4	0.9653	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C4	SLS-P55
FRAME															
FAL.NHK.KN.A1.14.05.04	RF	AA61KN	61.7	0.212	0.694	7.78%	2	1	0.8847	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.KN.B1.20.08.04	DF	AA61KN	30.8	0.106	0.752	5.39%	6	2	0.9626	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C6	FAL.NHK.SLS.20.08.04
FAL.NHK.KN.B2.29.10.04	DF	AA61KN	16.8	0.058	0.450	9.76%	7	1	0.9529	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C5	FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.KN.B3.05.11.04	DF	AA61KN	21.9	0.075	0.453	7.72%	6	2	0.9894	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 1X C1-C5	FAL.NHK.SLS.05.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
LITHIUM I CARBONATE															
IIVS															
A2	RF	AA61RN	839	11.355	0.736	1.65%	1	0	0.9100	1000, 100, 10, 1, 0.1,0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61RN	524	7.092	0.364	1.54%	3	2	0.9453	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61RN	519	7.024	0.26	7.33%	3	2	0.9436	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61RN	571	7.728	0.315	8.55%	3	2	0.958	2000, 1333, 889, 593, 395, 263, 176, 117	1.5	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61RR-A1	RF	AA61RR	767	10.380	0.750	3.35%	1	1	0.8957	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	range finder	SLS-P2
AA61RR-B1	DF	AA61RR	308	4.168	0.361	2.25%	6	2	0.9095	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P5
AA61RR-B2	DF	AA61RR	541	7.322	1.107	4.03%	4	4	0.9425	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P7
AA61RR-B3	DF	AA61RR	384	5.197	0.803	0.21%	5	3	0.9639	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P9
FRAME															
FAL.NHK.RM.A1.010803	RF	AA61RM	78.5	1.062	0.568	13.97%	2	5	0.7509	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.010803
FAL.NHK.RM.B1.080803	DF	AA61RM	378	5.116	0.794	1.03%	2	6	0.8188	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		high background	FAL.NHK.SLS.08.08.03
FAL.NHK.RM.B2.15.08.03	DF	AA61RM	518	7.010	0.433	6.00%	1	4	0.8092	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.RM.B3.23.08.03	DF	AA61RM	478	6.469	0.614	1.71%	2	4	0.8168	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.RM.B4.05.09.03	DF	AA61RM	303	4.101	0.095	9.10%	2	2	0.5447	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.RM.B5.01.10.03	DF	AA61RM	887	12.004	1.302	0.06%	1	3	0.8807	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.RM.B5.15.10.03 (should be B6?)	DF	AA61RM	471	6.374	0.529	0.71%	2	6	0.2797	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.15.10.03
FAL.NHK.RM.28.11.03	DF	AA61RM	561	7.592	0.153	3.93%	1	5	0.7316	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES		challenging chemical; SMT accepts this test	FAL.NHK.SLS.28.11.03
MEPROBAMATE															
IIVS															
A1	RF	AA61LS	507	2.322	0.431	13.02%	1	2	0.8210	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61LS	631	2.890	0.650	3.10%	3	4	0.9748	2000, 1250, 781, 488, 305, 191, 119, 74.5	1.6	YES			SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61LS	705	3.228	0.691	2.97%	3	4	0.9666	2000, 1250, 781, 488, 305, 191, 119, 74.5	1.6	YES			SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61LS	537	2.460	0.649	2.00%	3	3	0.9670	2000, 1250, 781, 488, 305, 191, 119, 74.5	1.6	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61RJ-A1	RF	AA61RJ	324	1.49	0.677	2.99%	1	5	0.9463	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P2
AA61RJ-B1	DF	AA61RJ	746	3.419	1.112	0.28%	3	4	0.9663	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P8
AA61RJ-B2	DF	AA61RJ	883	4.045	1.180	2.65%	2	6	0.9767	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P10
AA61RJ-B3	DF	AA61RJ	653	2.992	0.784	1.54%	3	5	0.9321	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	YES			SLS-P11
FRAME															
FAL.NHK.HV.A1.11/02/04	RF	AA61HV	982	4.497	1.600	0.24%	1	4	0.8090	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	C8 outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.11.02.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.HV.A2.18/02/04	DF	AA61HV	4980	22.801	1.600	0.24%	1	4	0.4736	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	NO	PC failed	this is a definitive test since conc.series is different from A1 range finder	FAL.NHK.SLS.18.02.04
FAL.NHK.HV.B1.26/02/04	DF	AA61HV	30.8	0.141	0.254	10.02%	6	2	0.9661	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS/NB.26.02 .03
FAL.NHK.HV.B2.18/03/04	DF	AA61HV	77.8	0.356	0.378	0.13%	4	4	0.9274	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.HV.B3.25.03.04	DF	AA61HV	379	1.738	0.803	0.65%	2	5	0.7687	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.03.03
MERCURY II CHLORIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61MX	3.25	0.012	0.485	7.23%	3	0	0.9831	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	ppt in 1X C1	SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61MX	4.54	0.017	0.632	0.90%	4	0	0.9852	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	NO	no points between 50 - 100%		SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61MX	5.17	0.019	0.568	4.76%	0	2	0.9915	20.0, 12.5, 7.81, 4.88, 3.05, 1.91, 1.19, 0.745	1.6	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61MX	5.10	0.019	0.495	6.71%	0	1	0.9819	20.0, 15.0, 11.3, 8.50, 6.39, 4.81, 3.61, 2.72	1.33	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B3-N040506A
B4	DF	AA61MX	5.26	0.019	0.785	2.29%	2	3	0.9359	8.00, 7.27, 6.61, 6.01, 4.46, 4.97, 4.52, 4.11	1.1	YES			SLS-B6-N040716A
B5	DF	AA61MX	5.44	0.020	0.715	4.31%	1	3	0.9529	8.00, 7.27, 6.61, 6.01, 4.46, 4.97, 4.52, 4.11	1.1	YES			SLS-B7-N040717B
B6	DF	AA61MX	5.35	0.020	0.612	0.00%	2	2	0.9585	8.00, 7.27, 6.61, 6.01, 4.46, 4.97, 4.52, 4.11	1.1	YES			SLS-B8-N040819A
ECBC															
AA61KP-A1	RF	AA61KP	2.24	0.008	0.432	8.13%	3	1	0.9582	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-P2
AA61KP-B1	DF	AA61KP	6.95	0.026	1.076	3.04%	1	1	0.9276	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			SLS-P8
AA61KP-B2	DF	AA61KP	7.87	0.029	1.169	3.40%	2	6	0.9666	10.0, 8.26, 6.83, 5.65, 4.67, 3.86, 3.19, 2.63	1.21	YES			SLS-P10
AA61KP-B3	DF	AA61KP	5.79	0.021	0.831	1.85%	2	5	0.9856	10.0, 8.26, 6.83, 5.65, 4.67, 3.86, 3.19, 2.63	1.21	YES			SLS-P11
FRAME															
FAL.NHK.HA.A1.11/02/04	RF	AA61HA	3.56	0.013	1.321	3.96%	3	0	0.9647	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.11.02.04
FAL.NHK.HA.B1.18.03.04	DF	AA61HA	4.66	0.017	0.486	2.93%	2	3	0.9663	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.HA.B2.19.03.04	DF	AA61HA	4.98	0.018	0.533	9.73%	2	6	0.9174	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
FAL.NHK.HA.B2.25.03.04 (should be B3)	DF	AA61HA	6.56	0.024	0.533	4.35%	2	6	0.8230	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.25.03.03
METHANOL															
IIVS															
A1	RF	AA61FZ	601	18.763	0.567	1.73%	1	1	0.9073	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61FZ	2160	67.345	0.597	1.70%	1	7	0.8425	2000, 1250, 781, 488, 305, 191, 119, 74.5	1.6	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61FZ	1850	57.851	0.546	2.01%	1	4	0.9223	2000, 1250, 781, 488, 305, 191, 119, 74.5	1.6	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61FZ	2290	71.336	0.790	3.64%	1	3	0.9218	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93.1	1.6	YES			SLS-B6-N040716A
B4	DF	AA61FZ	NA	NA	0.707	6.86%	0	3	0.9030	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93.1	1.6	NO	no points between 0 - 50%		SLS-B7-N040717B
ECBC															

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61MJ-A1	RF	AA61MJ	NA	NA	0.909	0.96%	0	8	NA	2500, 250, 25, 2.5, 0.25, 0.025, 0.0025, 0.00025	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-P19
AA61MJ-B1	DF	AA61MJ	NA	NA	0.606	0.30%	0	4	NA	3500, 2381, 1620, 1102, 750, 510, 347, 236	1.47	NO	no points between 0 - 50%	0.02% DMSO in dosing solutions; highest stock conc. is 700,087 ug/ml	SLS-P48
AA61MJ-B2	DF	AA61MJ	NA	NA	0.759	0.65%	0	8	NA	3500, 2893, 2391, 1976, 1633, 1349, 1115, 922	1.21	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity	SLS-P60
AA61MJ-B3	DF	AA61MJ	NA	NA	0.831	3.88%	0	8	NA	3500, 2893, 2391, 1976, 1633, 1349, 1115, 922	1.21	NO	no points between 0 - 50%	slight toxicity	SLS-P61
FRAME															
FAL.NHK.RG.A1.24.09.04	RF	AA61RG	635	19.829	0.632	0.55%	1	3	0.6562	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.RG.B1.01.10.04	DF	AA61RG	8610	268.725	1.078	6.69%	0	8	0.4209	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	PC failed; no points between 50-100%		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.RG.B2.07.10.04	DF	AA61RG	1360	42.297	0.649	3.62%	1	7	0.9324	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.RG.B3.22.10.04	DF	AA61RG	2170	67.812	0.809	0.56%	0	8	0.9463	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	NO	no points between 0-50%		FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)
FAL.NHK.RG.B4.28.10.04	DF	AA61RG	1100	34.301	0.625	8.71%	2	1	0.9422	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04
FAL.NHK.RG.B5.05.11.04	DF	AA61RG	938	29.262	0.467	6.43%	2	6	0.5431	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.05.11.04

NICOTINE

IIVS															
A1	RF	AA61HL	143	0.881	0.498	34.80%	1	1	0.9606	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis by SD	SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61HL	127	0.785	0.572	1.82%	4	4	0.9551	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		outlier in C6 removed by SD: used plate sealer	SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61HL	128	0.791	0.552	4.42%	4	4	0.9558	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61HL	79.6	0.491	0.736	1.75%	5	3	0.9593	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61NA-A1	RF	AA61NA	225	1.390	0.541	27.12%	1	2	0.8258	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	volatility problem	SLS-P38
AA61NA-B1(sealer)	DF	AA61NA	69.7	0.429	0.718	4.19%	5	2	0.8884	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 51, 24	2.15	YES			SLS-P40
AA61NA-B2 (sealer)	DF	AA61NA	94.2	0.581	0.680	5.37%	5	3	0.9635	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES			SLS-P42
AA61NA-B3 (sealer)	DF	AA61NA	119	0.734	0.871	4.38%	5	3	0.9418	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES			SLS-P44
FRAME															
FAL.NHK.KL.A1.11.08.04	RF	AA61KL	277	1.706	0.455	16.01%	1	1	0.5525	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.KL.B1.17.09.04	DF	AA61KL	553	3.412	0.487	26.34%	2	5	0.9450	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	NO	% VC difference > 15	outlier removed by SD; possible volatility problem	FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.KL.B2.30.09.04	DF	AA61KL	80	0.493	0.478	10.61%	2	2	0.4411	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	NO	SD rejects curve	"roller coaster" curve; some low concentrations give high toxicity; SD rejects test	FAL.NHK.SLS.30.09.03
FAL.NHK.KL.B3.08.10.04	DF	AA61KL	193	1.191	0.552	19.76%	2	5	0.8957	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	NO	% VC difference > 15	volatility issue	FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.KL.B4 .22.10.04	DF	AA61KL	91	0.561	0.730	2.67%	6	2	0.8631	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)
FAL.NHK.KL.B5.29.10.04	DF	AA61KL	118	0.726	0.455	17.69%	5	3	0.9316	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	NO	% VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.KL.B6.05.11.04	DF	AA61KL	224	1.380	0.376	14.23%	3	5	0.8894	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.05.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.KL.B7.12.11.04	DF	AA61KL	85.7	0.528	0.727	2.28%	5	3	0.9249	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.12.11.04
PARAQUAT															
IIVS															
A1	RF	AA61GD	84.5	0.329	0.578	2.76%	3	0	0.9874	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61GD	50.4	0.196	0.564	3.71%	6	2	0.9776	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61GD	59.8	0.233	0.544	0.60%	5	3	0.9719	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61GD	50.1	0.194	0.496	3.71%	6	2	0.9679	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61MP-A1	RF	AA61MP	57.0	0.222	0.407	2.19%	2	2	0.9152	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P5
AA61MP-B1	DF	AA61MP	41.4	0.161	0.597	0.17%	5	3	0.9912	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P20
AA61MP-B2	DF	AA61MP	50.7	0.197	1.009	3.67%	4	4	0.9822	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P22
AA61MP-B3	DF	AA61MP	52.7	0.205	0.528	7.61%	5	3	0.9820	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			SLS-P24
FRAME															
FAL.NHK.HP.A1.26.03.04	RF	AA61HP	74.5	0.290	0.562	6.58%	2	1	0.9098	100000, 1000, 100,10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.HP.B1.25.04.04	DF	AA61HP	57.9	0.225	0.795	3.51%	4	4	0.9828	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.HP.B2.28.04.04	DF	AA61HP	60.1	0.234	0.815	1.88%	8	0	0.9066	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	no points between 50 - 100%		FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.HP.B3.11.06.04	DF	AA61HP	28.1	0.109	0.790	4.43%	4	4	0.8649	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.HP.B4.23.06.04	DF	AA61HP	103	0.399	0.811	17.53%	3	3	0.9562	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	% VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.23.06.04
FAL.NHK.HP.B5.25.06.04	DF	AA61HP	99.8	0.388	0.850	0.84%	3	2	0.9498	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.HP.B6.12.08.04	DF	AA61HP	55.7	0.217	0.880	2.31%	3	5	0.9207	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.HP-RB.B7.25.08.04	DF	AA61HP	132	0.515	0.635	4.72%	2	2	0.8927	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.1, 2.4	2.15	YES			FAL.NHK.SLS-RB.20.08.04
PARATHION															
IIVS															
A1	RF	AA61PS	95.7	0.329	0.684	5.51%	0	3	0.8685	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	SD didn't use data from highest dose in Hill analyses due to the effects of ppts; ppt in 2X C1-C2 & 1X C1-C2	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61PS	21.2	0.073	0.719	5.83%	6	2	0.9735	1000, 455, 207, 93.9, 42.7, 19.4, 8.82, 4.01	2.2	YES		ppt in 2X C1-C6; ppt in 1X C1-C4	SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61PS	37.8	0.130	0.656	1.73%	3	3	0.9754	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61PS	28.1	0.097	0.752	0.68%	3	4	0.9677	100, 62.5, 39.1, 24.4, 15.3, 9.54, 5.96, 3.73	1.6	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C2	SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61MD-A1	RF	AA61MD	16.0	0.055	0.846	0.38%	2	2	0.9789	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1-C2; ppt in 1X C	SLS-P39
AA61MD-B1	DF	AA61MD	25.8	0.088	0.995	5.19%	2	3	0.9372	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-P47
AA61MD-B2	DF	AA61MD	45.2	0.155	1.228	1.72%	2	6	0.9633	200, 93.0, 43.3, 20.1, 9.4, 4.4, 2.0, 0.9	2.15	YES		chunks in1X C1; ppt in 2X C1-C3	SLS-P51

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61MD-B3	DF	AA61MD	31.1	0.107	0.737	1.12%	3	5	0.9554	200, 93.0, 43.3, 20.1, 9.4, 4.4, 2.0, 0.9	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; ppt in 1X C1-C2	SLS-P53
FRAME															
FAL.NHK.KE.A1.20.10 .04	DF	AA61KE	87.1	0.299	1.237	0.40%	2	6	0.9819	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.KE.B1.29.10.04	DF	AA61KE	33.3	0.114	0.455	24.83%	6	2	0.9604	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	NO	%VC difference >15	ppt in 2X C1-C3; ppt in C1-C5; volatility problem	FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.KE.B2.03.11.04	DF	AA61KE	18.9	0.065	0.606	8.86%	6	2	0.9440	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES		ppt in 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS.03.11.04
FAL.NHK.KE.B3.10.11.04	DF	AA61KE	NA	NA	1.144	4.04%	8	0	NA	1500, 1020, 694, 472, 321, 219, 149, 101	1.47	NO	no points between 50 - 100%	ppt in 2X C1-C5; ppt in 1X C1-C7	FAL.NHK.SLS.10.11.04
FAL.NHK.KE.B4.12.11.04	DF	AA61KE	32.1	0.110	0.809	3.24%	6	2	0.9806	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4; ppt in 1X C1-C3	FAL.NHK.SLS.12.11.04
FAL.NHK.KE.B5.17.11.04	DF	AA61KE	42.7	0.146	0.855	10.63%	5	3	0.9385	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES		ppt in 2X C1-C4	FAL.NHK.SLS.17.11.04
PHENOBARBITAL															
IIVS															
A1	RF	AA61FG	378	1.630	0.575	0.41%	1	1	0.9186	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61FG	458	1.973	0.629	3.11%	3	4	0.9782	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES		ppt in 1X C1 and 2X C1	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61FG	362	1.560	0.655	0.89%	3	4	0.9861	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61FG	322	1.387	0.623	0.79%	4	4	0.9867	2000, 1111, 617, 343, 191, 106, 58.8, 32.7	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61KV-A1	RF	AA61KV	436	1.875	0.953	0.85%	1	7	0.8831	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P56
AA61KV-B1	DF	AA61KV	569	2.450	0.593	0.65%	3	5	0.9763	3000, 1395, 649, 302, 140, 65, 30, 14	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P57
AA61KV-B2	DF	AA61KV	899	3.873	0.114	1.69%	2	4	0.8199	3000, 1395, 649, 302, 140, 65, 30, 14	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P58
AA61KV-B3	DF	AA61KV	611	2.631	0.831	1.41%	3	5	0.9887	3000, 1395, 649, 302, 140, 65, 30, 14	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P59
FRAME															
FAL.NHK.NJ.A1.24.09.04	RF	AA61NJ	253	1.089	0.619	11.58%	1	1	0.7751	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.NJ.B1.08.10.04	DF	AA61NJ	361	1.553	0.654	3.81%	2	6	0.9642	1500, 698, 3.25, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.NJ.B2.22.10.04	DF	AA61NJ	455	1.959	0.827	4.81%	3	4	0.9826	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)
FAL.NHK.NJ.B3.28.10.04	DF	AA61NJ	264	1.135	0.683	11.67%	3	5	0.9342	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04
PHENOL															
IIVS															
A1	RF	AA61PG	34.4	0.366	0.617	98.64%	2	3	0.9801	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis by SD	SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61PG	79.3	0.842	0.522	2.09%	5	3	0.9749	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61PG	76.6	0.814	0.548	2.89%	3	3	0.9575	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		ppt in 1X C1	SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61PG	86.5	0.919	0.473	0.39%	4	3	0.9620	2000, 909, 413, 188, 85.4, 38.8, 17.6, 8.02	2.2	YES		used plate sealer; ppt in 1X C1-C2	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61FV-A1	RF	AA61FV	NA	NA	0.421	99.34%	1	1	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15	volatility problem	SLS-P12

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61FV-B1(sealer)	DF	AA61FV	62.8	0.667	0.622	8.17%	4	3	0.9585	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P32
AA61FV-B2 (sealer)	DF	AA61FV	78.5	0.834	0.668	7.31%	3	4	0.9576	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P34
AA61FV-B3 (sealer)	DF	AA61FV	36.1	0.383	0.318	2.99%	5	3	0.9402	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.7	2.15	YES			SLS-P36
FRAME															
FAL.NHK.MS.A1.14.05.04	RF	AA61MS	91.0	0.967	0.279	98.26%	3	0	0.2986	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; %VC difference > 15; no pts between 50-100%		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.MS.B1.12.08.04	DF	AA61MS	381	4.049	0.654	13.72%	1	2	0.8273	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.MS.B2.19.08.04 (RB)	DF	AA61MS	170	1.805	0.168	46.79%	3	1	0.4991	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	PC failed; % VC difference > 15		FAL.NHK.SLS-RB.19.08.04
FAL.NHK.MS-NB.B3.25.08.04	DF	AA61MS	86.7	0.921	1.034	8.73%	4	3	0.9822	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.MS.B4.17.09.04	DF	AA61MS	94.6	1.005	0.760	15.15%	3	4	0.9736	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES		outlier removed by SD; potential volatility problem	FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.MS.B5.30.09.04	DF	AA61MS	793	8.421	0.589	5.43%	1	0	0.8202	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	no points between 50 - 100%	SD removed data from C8 due to low OD; "roller coaster" curve	FAL.NHK.SLS.30.09.03
FAL.NHK.MS.B6.07.10.04	DF	AA61MS	98.4	1.046	0.650	8.37%	4	3	0.9794	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
PHENYLTHIOUREA															
IIVS															
A1	RF	AA61PV	467	3.066	0.775	1.12%	1	2	0.9466	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61PV	252	1.658	0.643	1.48%	5	3	0.9786	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61PV	352	2.321	0.623	0.41%	4	4	0.9605	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	YES		ppt in 2X C1	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61PV	213	1.401	0.654	4.04%	5	3	0.9788	2500, 1389, 772, 429, 238, 132, 73.5, 40.8	1.8	YES		ppt in 2X C1-C2	SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61LN-A1	RF	AA61LN	294	1.930	0.995	4.15%	1	7	0.8497	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P39
AA61LN-B1	DF	AA61LN	362	2.380	0.577	2.20%	3	2	0.9609	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES			SLS-P41
AA61LN-B2	DF	AA61LN	306	2.012	0.705	1.12%	3	5	0.9632	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES			SLS-P43
AA61LN-B3	DF	AA61LN	422	2.771	0.972	5.43%	3	5	0.9477	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P45
FRAME															
FAL.NHK.JB.A1.14.05.04	RF	AA61 JB	555	3.644	0.678	3.82%	1	7	0.9193	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.JB.B1.29.10.04	DF	AA61JB	335	2.201	0.575	8.89%	3	5	0.9804	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.JB.B2.03.11.04	DF	AA61JB	373	2.452	0.526	0.65%	3	5	0.9615	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.03.11.04
FAL.NHK.JB.B3.05.11.04	DF	AA61JB	495	3.255	0.371	11.87%	3	1	0.8795	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.05.11.04
PHYSOSTIGMINE															
IIVS															
A1	RF	AA61NF	136	0.494	0.555	4.16%	1	2	0.9514	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61NF	146	0.531	0.647	3.80%	4	4	0.9767	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B4-N040513C

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B2	DF	AA61NF	129	0.467	0.596	5.79%	3	3	0.9845	1000, 556, 309, 171, 95.3, 52.9, 29.4, 16.3	1.8	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61NF	141	0.511	0.834	1.84%	3	4	0.9527	500, 357, 255, 182, 130, 93.0, 66.4, 47.4	1.4	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61FT-A1	RF	AA61FT	123	0.447	0.863	2.71%	1	6	0.9452	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P38
AA61FT-B1	DF	AA61FT	158	0.575	0.691	3.04%	2	5	0.9669	700, 326, 151, 70.4, 32.8, 15.2, 7.09, 3.30	2.15	YES			SLS-P41
AA61FT-B2	DF	AA61FT	164	0.596	0.674	5.99%	2	3	0.9348	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	YES			SLS-P43
AA61FT-B3	DF	AA61FT	169	0.612	1.001	2.86%	2	6	0.8953	300, 204, 139, 94.4, 64.2, 43.7, 29.7, 20.2	1.47	YES			SLS-P45
FRAME															
FAL.NHK.GT.A1.24.09.04	RF	AA61GT	153	0.555	0.662	6.01%	1	1	0.6638	1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.GT.B1.01.10.04	DF	AA61GT	225	0.819	1.035	7.61%	2	6	0.9354	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.GT.B2.07.10.04	DF	AA61GT	107	0.387	0.508	1.13%	3	2	0.9741	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	wrong solvent used (medium); should be DMSO; SD will retest		FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.GT.B3.08.10.04	DF	AA61GT	157	0.570	0.695	5.70%	3	5	0.9843	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	wrong solvent used (medium); should be DMSO; SD will retest		FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.GT.B4.20.10 .04	DF	AA61GT	470	1.706	1.324	1.47%	1	5	0.9382	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.GT.B5.22.10.04	DF	AA61GT	0.366	0.001	0.767	7.78%	7	1	0.9929	1000, 317, 101, 32.0, 10.2, 3.22, 1.02, 0.32	3.15	YES		reach 100% cytotoxicityat C7	FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)
FAL.NHK.GT.B6.28.10.04	DF	AA61GT	167	0.605	0.596	9.68%	3	4	0.9740	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04

POTASSIUM I CHLORIDE

IIVS															
A2	RF	AA61FF	1490	19.987	0.680	4.54	0	1	0.9413	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF			SLS-A2
B1	DF	AA61FF	2040	27.364	0.355	1.41	4	4	0.9755	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FF	2120	28.437	0.274	8.41	2	4	0.9809	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FF	1810	24.279	0.295	8.80	4	3	0.984	10000, 6667, 4444, 2963, 1975, 1317, 878, 585	1.5	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61KM-A1	RF	AA61KM	1460	19.584	0.687	3.96	1	6	0.8761	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF		range finder	SLS-P3
AA61KM-B1	DF	AA61KM	2650	35.547	0.949	0.35	3	5	0.9297	8000, 5442, 3702, 2518, 1714, 1166, 793, 539	1.47	YES			SLS-P7
AA61KM-B2	DF	AA61KM	2090	28.035	0.960	0.99	3	4	0.9645	8000, 5442, 3702, 2518, 1714, 1166, 793, 539	1.47	YES			SLS-P9
AA61KM-B3	DF	AA61KM	2250	30.181	0.797	5.97	3	4	0.9805	8000, 5442, 3702, 2518, 1714, 1166, 793, 539	1.47	NO	PC failed		SLS-P11
AA61KM-B4	DF	AA61KM	2940	39.437	0.666	2.17	3	3	0.9170	8000, 5442, 3702, 2518, 1714, 1166, 793, 539	1.47	YES			SLS-P19
FRAME															
FAL.NHK.MY.A1.010803	RF	AA61MY	1030	13.816	0.503	3.16	0	6	0.7001	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF			FAL.NHK.SLS.010803
FAL.NHK.MY.B1.080803	DF	AA61MY	1610	21.596	0.625	3.72	3	5	0.8175	5000, 3401, 2313, 1574, 1070, 728, 496, 337	1.47	YES		high background	FAL.NHK.SLS.08.08.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.MY.B2.15.08.03	DF	AA61MY	4760	63.850	0.250	36.21	1	2	0.2925	5000, 3401, 2313, 1574, 1070, 728, 496, 337	1.47	NO	% VC difference >15; low r2		FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.MY.B3.23.08.03	DF	AA61MY	1880	25.218	0.554	7.67	2	6	0.7555	5000, 3401, 2313, 1574, 1070, 728, 496, 337	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.MY.B4.28.08.04	DF	AA61MY	2860	38.364	0.385	5.19	2	6	0.8496	5000, 3401, 2313, 1574, 1070, 728, 496, 337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.280803
FAL.NHK.MY.B5.05.09.03	DF	AA61MY	NA	NA	0.113	NA	NA	NA	NA	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO		curve going in wrong direction; plate reversed 180 degrees when reading?	FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.MY.B5.15.10.03 (should be B6?)	DF	AA61MY	2390	32.059	0.482	3.11	1	6	0.8444	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.5	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.15.10.03
POTASSIUM CYANIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61KW	0.0006	0.00001	0.173	100.39%	3	0	0.7469	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%; % VC difference > 15	volatility problem; VC1 OD values much lower than VC2; VC1 removed from subsequent analysis bySD	SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61KW	NA	NA	0.656	2.12%	0	1	NA	0.100, 0.045, 0.021, 0.0094, 0.0043, 0.0019, 0.00088, 0.00040	2.2	NO	no points between 0 - 50%	used plate sealer; induced shift in response	SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61KW	NA	NA	0.541	1.12%	0	0	NA	0.100, 0.045, 0.021, 0.0094, 0.0043, 0.0019, 0.00088, 0.00040	2.2	NO	no points between 0 - 100%	no toxicity detected	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61KW	19.2	0.295	0.670	0.68%	3	3	0.9761	100, 45.5, 20.7, 9.39, 4.27, 1.94, 0.882, 0.401	2.2	YES			SLS-B6-N040716A
B4	DF	AA61KW	16.6	0.255	0.613	5.27%	3	3	0.9799	100, 45.5, 20.7, 9.39, 4.27, 1.94, 0.882, 0.401	2.2	YES			SLS-B7-N040717B
B5	DF	AA61KW	14.8	0.227	0.584	5.68%	3	3	0.9770	100, 45.5, 20.7, 9.39, 4.27, 1.94, 0.882, 0.401	2.2	YES			SLS-B8-N040819A
ECBC															
AA61MN-A1	RF	AA61MN	NA	NA	0.017	103.07%	4	0	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no ponts between 50 - 100%; % VC difference > 15		SLS-P38
AA61MN-A2 (sealer)	RF	AA61MN	15.3	0.235	0.758	2.90%	2	3	0.9585	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P44
AA61MN-B1 (sealer)	DF	AA61MN	36.1	0.554	0.744	0.85%	3	4	0.9264	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P46
AA61MN-B2 (sealer)	DF	AA61MN	29.4	0.452	0.939	0.10%	3	5	0.8814	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P50
AA61MN-B3 (sealer)	DF	AA61MN	22.3	0.342	0.498	4.97%	3	2	0.9697	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P52
FRAME															
FAL.NHK.GP.A1.24.09.04	RF	AA61GP	NA	NA	0.005	87.41%	0	0	-0.0679	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.GP.B1.01.10.04	DF	AA61GP	4.07	0.062	1.025	7.20%	0	6	0.2038	0.100, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	NO	PC failed; no points between 0-50%		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.B2.07.10.04	DF	AA61GP	16.4	0.251	0.331	40.76%	6	1	0.8792	5000, 1587, 504, 160, 50.8, 16.1, 5.12, 1.62	3.15	NO	%VC difference >15	volatility problems	FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.GP.B3.20.10 .04	DF	AA61GP	NA	NA	1.150	0.46%	0	0	NA	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	NO	no points between 0-100%		FAL.NHK.SLS.20.10.04
FAL.NHK.GP.B4.11.11.04	DF	AA61GP	NA	NA	0.679	9.53%	6	0	NA	2000, 1361, 926, 630, 428, 291,198,135	1.47	NO	no points between 50-100%	all concentrations were toxic	FAL.NHK.SLS.10.11.04
FAL.NHK.GP.B5.17.11.04	DF	AA61GP	71.9	1.105	0.622	22.40%	5	0	0.9016	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	no points between 50-100%; %VC difference >15	outlier removed bySD	FAL.NHK.SLS.17.11.04
FAL.NHK.GP.B6.24.11.04	DF	AA61GP	53.2	0.817	0.906	10.92%	3	4	0.9588	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.24.11.04
FAL.NHK.GP.B7.26.11.04	DF	AA61GP	11.9	0.182	0.460	1.72%	3	3	0.9363	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.26.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.GP.B8.10.12.04	DF	AA61GP	202	3.107	0.993	1.92%	1	7	0.9318	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	YES		SD has little confidence in values due to chem. volatility & interaction with plate sealer	FAL.NHK.SLS(MO).10.12.04
FAL.NHK.GP.B9.10.12.04	DF	AA61GP	31.6	0.484	0.903	1.34%	2	3	0.9469	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	NO	PC failed	SD has little confidence in values due to chem. volatility & interaction with plate sealer	FAL.NHK.SLS.10.12.04
PROCAINAMIDE HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61ML	3890	14.314	0.499	3.99%	0	0	0.9391	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 100%		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61ML	2210	8.143	0.558	0.88%	3	2	0.9836	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61ML	1770	6.498	0.510	6.82%	4	1	0.8603	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61ML	2100	7.740	0.694	1.43%	3	2	0.9920	10000, 7519, 5653, 4251, 3196, 2403, 1807, 1358	1.33	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KC-A1	RF	AA61KC	5120	18.826	0.703	1.72%	0	4	0.9439	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-P18
AA61KC-B1	DF	AA61KC	1380	5.091	0.752	4.76%	5	2	0.9773	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P32
AA61KC-B2	DF	AA61KC	1350	4.963	0.410	2.83%	4	2	0.9664	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			SLS-P37
AA61KC-B3	DF	AA61KC	1710	6.277	0.647	0.26%	2	4	0.9710	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			SLS-P38
FRAME															
FAL.NHK.GV.A1.28.07.04	RF	AA61GV	1330	4.884	0.055	6.80%	1	1	0.6423	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.GV.B1.11.08.04	DF	AA61GV	1730	6.365	0.464	0.97%	1	1	0.9180	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.GV.B2.17.09.04	DF	AA61GV	2030	7.478	0.775	4.46%	2	1	0.9417	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.17.09.04
FAL.NHK.GV.B3.07.10.04	DF	AA61GV	1600	5.885	0.613	7.61%	3	3	0.9809	5000, 3401, 2314, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
2-PROPANOL															
IIVS															
A2	RF	AA61GC	28100	467.554	0.731	5.06	0	4	0.6596	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
A2 with plate cover	RF	AA61GC	9820	163.394	0.556	2.40	1	1	0.8691	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3
B1	DF	AA61GC	15100	251.248	0.296	20.61	2	4	0.8006	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	NO	VC difference > 15%		SLS-B1
B1 with plate cover	DF	AA61GC	6610	109.983	0.316	4.51	3	3	0.9817	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61GC	13600	226.290	0.233	23.35	2	4	0.8	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	NO	VC difference > 15%		SLS-B2
B2 with plate cover	DF	AA61GC	7570	125.957	0.243	9.58	2	3	0.9695	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B2

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B3	DF	AA61GC	19200	319.468	0.25	26.08	0	5	0.617	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	NO	VC difference > 15%; no points 50-100%; low R2		SLS-B3
B3 with plate cover	DF	AA61GC	7080	117.804	0.313	3.69	4	4	0.9821	20000, 14286, 10204, 7289, 5206, 3719, 2656, 1897	1.4	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61JL-A1	RF	AA61JL	NA	NA	0.726	0.28	0	5	NA	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	no points between 0.1 - 50%; no r2 nor ICx values could be calculated	range finder	SLS-P2
AA61JL-B1	DF	AA61JL	NA	NA	0.457	63.96	6	1	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370	1.47	NO	%VC difference > 15; no r2 nor ICx values could be calculated	Volatility of largest conc contaminated VC & others	SLS-P9
AA61JL-B2	DF	AA61JL	NA	NA	0.554	35.73	4	2	NA	50000, 34014, 23139, 15740, 10707, 7284, 4955, 3370	1.47	NO	PC failed; %VC difference > 15; no r2 nor ICx values could be calculated;	Volatility of largest conc contaminated VC & others	SLS-P11
AA61JL-B3 sealer	DF	AA61JL	4610	76.705	0.646	7.33	3	4	0.9280	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P12
AA61JL-B4 sealer	DF	AA61JL	5450	90.682	0.480	2.76	2	5	0.8957	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P18
AA61JL-B5 sealer	DF	AA61JL	5730	95.341	0.582	1.85	4	3	0.9429	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	YES			SLS-P19
FRAME															
FAL.NHK.NG.A1.30.07.03	RF	AA61NG	NA	NA	1.332	1.06	0	7	0.3849	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0.1 - 50%	Little toxicity	FAL.NHK.SLS.30.07.03
FAL.NHK.NG.B1.07.08.03	DF	AA61NG	1220	20.300	0.400	5.06	3	5	0.1851	10000, 6802, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674.1	1.47	NO	low r2	SD wonders if chemical is a mitotic inhibitor	FAL.NHK.SLS.07.08.03
FAL.NHK.NG.B2.15.08.03	DF	AA61NG	2390	39.767	0.474	3.95	2	1	0.6756	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.NG.B4.05.09.03 (plate sealer)	DF	AA61NG	21800	362.729	0.129	15.55	1	3	0.7750	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	NO	% VC difference >15	SD provided revised file to correct data entry error	FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.NG.B5.15.10.03 plate sealer and mineral oil	DF	AA61NG	7460	124.126	0.624	3.14	1	5	0.6032	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	NO	RF format; low r2		FAL.NHK.SLS.15.10.03
FAL.NHK.NG.B6.19.10.03 plate sealer	DF	AA61NG	5850	97.338	0.262	19.17	4	3	0.9245	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	% VC difference >15		FAL.NHK.SLS.19.10.03
FAL.NHK.NG.B6.19.10.03 mineral oil	DF	AA61NG	5020	83.527	0.182	3.99	1	4	0.7943	20000, 13605, 9255, 6296, 4283, 2914, 1982, 1348	1.47	NO	Mineral oil	experimental	FAL.NHK.SLS.19.10.03
FAL.NHK.NG.B7.23.10.03 plate sealer	DF	AA61NG	2410	40.100	0.236	9.93	4	4	0.6362	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.23.10.03
FAL.NHK.NG.B7.23.10.03 mineral oil	DF	AA61NG	4710	78.369	0.251	8.11	3	3	0.5306	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.23.10.03
FAL.NHK.NG.B8.24.10.03 plate sealer	DF	AA61NG	5220	86.855	0.622	0.92	2	3	0.8150	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.24.10.03
FAL.NHK.NG.B8.24.10.03 mineral oil	DF	AA61NG	4730	78.702	0.709	2.74	2	4	0.7880	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	NO	low r2; Mineral oil	experimental	FAL.NHK.SLS.24.10.03
FAL.NHK.NG.B9.05.11.03ps plate sealer	DF	AA61NG	4590	76.373	0.561	4.88	2	1	0.8354	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.05.11.03 (revised by study director)
FAL.NHK.NG.B9.05.11.03 min oil (mineral oil)	DF	AA61NG	4480	74.542	0.564	20.01	2	2	0.7822	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO	low r2; VC difference >15%; Mineral oil	experimental	FAL.NHK.SLS.05.11.03 (revised by study director)
FAL.NHK.NG.B10.07.11.03Ps plate sealer	DF	AA61NG	3010	50.083	0.243	1.37	3	1	0.7256	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	YES		challenging chemical; SMT accepts this test	FAL.NHK.SLS.07.11.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.NG.B10.07.11.03.mo (mineral oil)	DF	AA61NG	2610	43.428	0.270	5.07	2	1	0.8214	20000, 9302, 4327, 2012, 936, 435, 202, 94	2.15	NO	Mineral oil	experimental	FAL.NHK.SLS.07.11.03
PROPRANOLOL															
IIVS															
Preliminary	RF	AA61GU	23.1	0.078	0.606	4.44%	0	0	0.9617	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001		RF	range finder		Preliminary
B1	DF	AA61GU	29.6	0.100	0.582	4.61%	2	1	0.9576	100, 56.3, 31.6, 17.8, 10.0, 5.6, 3.2, 1.8		YES			SLS-B1
B2	DF	AA61GU	26.9	0.091	0.764	0.61%	2	2	0.9790	100, 56.3, 31.6, 17.8, 10.0, 5.6, 3.2, 1.8		YES			SLS-B2
B3	DF	AA61GU	25.2	0.085	1.001	0.94%	2	4	0.9652	100, 56.3, 31.6, 17.8, 10.0, 5.6, 3.2, 1.8		YES			SLS-B3
B4	DF	AA61GU	32.7	0.111	0.907	4.02%	1	2	0.9864	100, 56.3, 31.6, 17.8, 10.0, 5.6, 3.2, 1.8		YES			SLS-B4
ECBC															
ECBC-NHK-Ib-01 AA61KH-A1	RF	AA61KH	15.8	0.053	1.006	0.13%	0	2	0.9629	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001		RF	range finder		SLS-P1
ECBC-NHK-Ib-02 AA61KH-B1	DF	AA61KH	33.1	0.112	1.153	0.37%	1	3	0.9724	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74		YES			SLS-P3
ECBC-NHK-Ib-03 AA61KH-B2	DF	AA61KH	40.1	0.136	1.216	7.40%	2	1	0.9856	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74		YES			SLS-P4
ECBC-NHK-Ib-04 AA61KH-B3	DF	AA61KH	41.6	0.141	1.153	5.14%	2	1	0.9683	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.91, 6.74		YES			SLS-P5
FRAME															
A1 1b/NHKRF1b/FAL/NM	RF	AA61NM	3.53	0.012	0.149	7.05%	0	3	0.8056	100, 20, 4, 0.8, 0.16, 0.032, 0.0064, 0.00128	5	RF	range finder		A1 1b/NHKCTR1/FAL/SLS
A2 1b/NHKRF2/FAL/NM	RF	AA61NM	8.66	0.029	0.475	9.32%	1	2	0.8193	100, 68.02, 46.27, 31.47, 21.40, 14.50, 9.90, 6.70	1.47	RF	range finder		A2 1b/NHKCTR2/FAL/SLS
A3 1b/NHK/DF2/FAL/NM	DF	AA61NM	24.4	0.082	0.042	11.04%	0	2	0.3257	30, 20.4, 13.8, 9.4, 6.42, 4.37, 2.97, 2.02	1.47	NO	No point between 10 & 50%; R^2 < 0.8; PC failed	NR crystal problems; used medium not normally used; removing outlier doesn't significantly improve R2	A3 1b/NHK/CTR4/FAL/
A4 1b/NHK/DF3/FAL/NM	DF	AA61NM	1.22	0.004	0.140	15.20%	0	4	0.0680	30, 20.4, 13.8, 9.4, 6.42, 4.37, 2.97, 2.02	1.47	NO	No point between 10 & 50% viability; R^2 < 0.8	NR crystal problems; used medium not normally used	A4 1b/NHK/CTR5/FAL
A5 1b/NHK/DF4/FAL/NM	DF	AA61NM	NA	NA	0.008	9.78%	0	0	NC	30, 20.4, 13.8, 9.4, 6.42, 4.37, 2.97, 2.02	1.47	NO	No points between 10 & 90%; no R^2 or ICx; PC failed	NR crystal problems; used medium not normally used; OD values of test wells no different than the background ODs; negative values for VC	A5 1b/NHK/CTR6/FAL
A6 1b/NHK/DF5/FAL/NM recalculated w/o outliers	DF	AA61NM	54.0	0.183	1.686	2.60%	0	8	0.7186	30, 20.4, 13.8, 9.4, 6.42, 4.37, 2.97, 2.02	1.47	NO	No point between 10 & 50%; R^2 < 0.8	removed two outliers; didn't reach IC50	A6 1b/NHK/CTR7/FAL
A8 1b/NHK/DF7/FAL/NM	DF	AA61NM	NA	NA	1.045	2.91%	0	5	NC	50, 34.01, 23.13, 15.74, 10.70, 7.28, 4.95,3.36	1.47	NO	No point between 10 & 50%; no R^2 or ICx	PRISM couldn't do calculations; didn't reach IC50; recalc w/o outliers didn't improve curve fit, so they have not been removed	A8 1b/NHK/CTR9/FAL
A9 1b/NHK/DF8/FAL/NM	DF	AA61NM	3.21	0.011	1.026	25.70%	0	4	0.1476	50, 34.01, 23.13, 15.74, 10.70, 7.28, 4.95,3.36	1.47	NO	VC difference > 15%; no point between 10 & 50%; R^2 < 0.8; PC failed	U-shaped dose-response	A9 1b/NHK/CTR10/FAL
A10 1b/NHK/DF9/FAL/NM	DF	AA61NM	42.8	0.145	0.954	2.32%	1	3	0.5573	350, 238.1, 162.0, 110.2, 75.0, 51.0, 34.7, 23.6	1.47	NO	R^2 < 0.8	no outliers; nonmonotonic response	A10 1b/NHK/CTR11/FAL
A11 1b/NHK/DF10/FAL/NM	DF	AA61NM	46.5	0.157	1.280	0.27%	1	2	0.8686	350, 238.1, 162.0, 110.2, 75.0, 51.0, 34.7, 23.6	1.47	YES		removed 3 outliers	A11 1b/NHK/CTR12/FAL
A12 1b/NHK/DG11/FAL/NM	DF	AA61NM	26.0	0.088	0.539	6.14%	3	0	0.8391	350, 238.1, 162.0, 110.2, 75.0, 51.0, 34.7, 23.6	1.47	NO	No point between 50 & 90%		A12 1b/NHK/CTR13/FAL/SLS

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
1b/NHK/DF12/FAL/NM	DF	AA61NM	43.4	0.147	0.650	5.04%	1	2	0.9265	350, 238.1, 162.0, 110.2, 75.0, 51.0, 34.7, 23.6	1.47	YES			1b/NHK/CTR14/FAL/SLS
1b/NHK/DF13/FAL/NM	DF	AA61NM	41.5	0.140	0.897	2.57%	2	2	0.9555	350, 238.1, 162.0, 110.2, 75.0, 51.0, 34.7, 23.6	1.47	YES			1b/NHK/CTR15/FAL/SLS
PROPYLPARABEN															
IIVS															
A1	RF	AA61PX	15.0	0.083	0.719	1.51%	2	2	0.9878	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61PX	13.4	0.075	0.631	1.14%	5	3	0.9849	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61PX	15.2	0.085	0.664	3.40%	5	3	0.9935	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61PX	12.9	0.072	0.512	1.92%	4	3	0.9841	200, 111, 61.7, 34.3, 19.1, 10.6, 5.88, 3.27	1.8	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61PK-A1	RF	AA61PK	14.8	0.082	0.534	9.07%	2	1	0.8856	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1 and 1X C1	SLS-P5
AA61PK-B1	DF	AA61PK	20.7	0.115	0.960	0.09%	4	4	0.9856	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P27
AA61PK-B2	DF	AA61PK	15.9	0.088	1.059	0.57%	4	4	0.9647	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P29
AA61PK-B3	DF	AA61PK	17.7	0.098	0.760	0.66%	4	4	0.9877	300, 140, 64.9, 30.2, 14.0, 6.53, 3.04, 1.41	2.15	YES			SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.HT.A1.26.03.04	RF	AA61HT	23.4	0.130	0.486	8.29%	2	2	0.7353	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.HT.A2.25.04.04	RF	AA61HT	NA	NA	0.729	50.05%	2	2	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; wrong desorb solution used in NRU; SD rejects test	same application date and PC as HT A1	FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.HT.B1.28.04.04	DF	AA61HT	20.4	0.113	1.018	5.66%	2	3	0.9749	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.HT.B2.11.06.04	DF	AA61HT	10.7	0.060	0.892	2.02%	4	4	0.9211	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.HT.B3.23.06.04	DF	AA61HT	NA	NA	0.521	99.17%	NA	NA	NA	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	NO	% VC difference > 15	no cells in VC2; no PRISM file	FAL.NHK.SLS.23.06.04
FAL.NHK.HT.B4.25.06.04	DF	AA61HT	15.3	0.085	1.063	4.00%	3	5	0.9548	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.HT.B5.20.08.04	DF	AA61HT	20.0	0.11072	0.906	0.85%	2	2	0.9443	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.68, 2.18, 1.01, 0.47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.08.04
SODIUM ARSENITE															
IIVS															
A1	RF	AA61MV	0.581	0.004	0.393	15.03%	2	1	0.9631	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	volatile effects in VC1 and VC2	SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61MV	0.440	0.003	0.590	11.98%	3	1	0.9426	30.0, 13.6, 6.20, 2.82, 1.28, 0.582, 0.265, 0.120	2.2	YES		used plate sealer	SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61MV	0.546	0.004	0.580	1.54%	4	1	0.9724	30.0, 13.6, 6.20, 2.82, 1.28, 0.582, 0.265, 0.120	2.2	YES		plate sealer used	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61MV	0.424	0.003	0.666	3.98%	3	2	0.9931	30.0, 13.6, 6.20, 2.82, 1.28, 0.582, 0.265, 0.120	2.2	YES		plate sealer used	SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KA-A1	RF	AA61KA	0.506	0.004	0.850	0.23%	3	2	0.9923	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P18

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61KA-B1	DF	AA61KA	1.05	0.008	0.822	1.69%	3	3	0.9450	8.00, 3.72, 1.73, 0.805, 0.374, 0.174, 0.081, 0.038	2.15	YES			SLS-P26
AA61KA-B2	DF	AA61KA	0.764	0.006	1.005	1.85%	4	4	0.9892	8.00, 3.72, 1.73, 0.805, 0.374, 0.174, 0.081, 0.038	2.15	YES			SLS-P28
AA61KA-B3	DF	AA61KA	0.555	0.004	0.801	0.43%	4	4	0.9804	8.00, 3.72, 1.73, 0.805, 0.374, 0.174, 0.081, 0.038	2.15	YES			SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.GS.A1.24.09.04	RF	AA61GS	0.056	0.0004	0.652	2.90%	1	3	0.9075	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.GS.B1.01.10.04	DF	AA61GS	1.07	0.008	0.961	3.18%	2	4	0.9814	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.GS.B2.07.10.04	DF	AA61GS	0.275	0.002	0.516	3.33%	5	3	0.9843	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.07.10.03
FAL.NHK.GS.B3 .22.10.04	DF	AA61GS	0.545	0.004	0.712	5.53%	4	1	0.9815	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.22.10.04 (MO)
FAL.NHK.GS.B4 .28.10.04	DF	AA61GS	0.187	0.001	0.759	3.27%	6	2	0.9854	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.10.04

SODIUM CHLORIDE

IIVS															
A1	RF	AA61PE	2100	35.999	0.630	2.05%	1	1	0.9570	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61PE	NA	NA	0.549	1.11%	0	0	NA	1000, 625, 391, 244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	NO	no points between 0 - 100%		SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61PE	NA	NA	0.518	0.68%	0	2	NA	1000, 625, 391, 244, 153, 95.4, 59.6, 37.3	1.6	NO	no points between 0 - 100%	toxicity not detected	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61PE	3170	54.236	0.707	4.08%	3	4	0.9471	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES		outlier removed by SD	SLS-B6-N040716A
B4	DF	AA61PE	3470	59.332	0.599	10.23%	3	5	0.9518	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES			SLS-B7-N040717B
B5	DF	AA61PE	3770	64.460	0.550	2.04%	2	3	0.9280	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	YES			SLS-B8-N040819A
ECBC															
AA61JW-A1	RF	AA61JW	2250	38.485	0.817	2.63%	1	5	0.9346	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P12
AA61JW-B1	DF	AA61JW	3730	63.869	0.949	2.37%	3	5	0.9583	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P26
AA61JW-B2	DF	AA61JW	3740	64.016	0.999	4.56%	3	4	0.9559	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P28
AA61JW-B3	DF	AA61JW	3280	56.142	0.746	0.28%	3	5	0.9504	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES			SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.FM.A1.14.05.04	RF	AA61FM	2330	39.837	0.715	0.68%	1	4	0.9613	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.FM.B1.25.06.04	DF	AA61FM	366	6.256	0.954	1.08%	1	4	0.9769	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
FAL.NHK.FM.B2.12.08.04	DF	AA61FM	NA	NA	0.658	6.32%	0	0	NA	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	PC failed; no points between 0 - 100%		FAL.NHK.SLS.12.08.04
FAL.NHK.FM.B3.19.08.04 nb	DF	AA61FM	NA	NA	0.397	0.95%	0	1	NA	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	NO	no points between 0 - 50%	no toxicity detected	FAL.NHK.SLS-NB.19.08.04
FAL.NHK.FM.B4.30.09.04	DF	AA61FM	NA	NA	0.558	4.48%	0	4	0.7866	2500, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.3, 9.42	2.15	NO	no points between 0 - 50%	toxicity curve begins to rise at high concentrations; maybe affecting NRU	FAL.NHK.SLS.30.09.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.FM.B5.05.11.04	DF	AA61FM	268	4.584	0.455	0.60%	1	6	0.8717	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.05.11.04
FAL.NHK.FM.B3. 12.11.04 (should be B6)	DF	AA61FM	NA	NA	0.694	14.43%	0	3	NA	1000, 465, 216, 101, 46.8, 21.8, 10.1, 4.71	2.15	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1-C4	FAL.NHK.SLS.12.11.04
FAL.NHK.FM.B7.17.11.04	DF	AA61FM	NA	NA	0.919	5.26%	0	8	NA	2000, 1527, 1165, 890, 679, 518, 396, 302	1.31	NO	no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.17.11.04
FAL.NHK.FM.B8.26.11.04	DF	AA61FM	2720	46.590	0.636	2.88%	2	6	0.9214	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.26.11.04

SODIUM DICHROMATE DIHYDRATE

IIVS															
A1	RF	AA61FP	0.390	0.001	0.545	2.40%	2	2	0.9955	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61FP	0.527	0.002	0.587	1.15%	3	4	0.9863	5.00, 2.78, 1.54, 0.857, 0.476, 0.265, 0.147, 0.082	1.8	YES			SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61FP	0.511	0.002	0.522	0.67%	4	4	0.9863	5.00, 2.78, 1.54, 0.857, 0.476, 0.265, 0.147, 0.082	1.8	YES			SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61FP	0.691	0.002	0.711	0.67%	4	4	0.9841	5.00, 2.78, 1.54, 0.857, 0.476, 0.265, 0.147, 0.082	1.8	YES			SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61NT-A1	RF	AA61NT	0.284	0.0010	0.542	1.94%	4	3	0.9819	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P16
AA61NT-B1	DF	AA61NT	0.781	0.003	0.837	1.68%	1	7	0.8935	1.00, 0.680, 0.463, 0.315, 0.214, 0.146, 0.099, 0.067	1.47	YES			SLS-P26
AA61NT-B2	DF	AA61NT	0.899	0.003	0.915	2.34%	2	6	0.9495	2.00, 1.361, 0.926, 0.630, 0.428, 0.291, 0.198, 0.135	1.47	YES			SLS-P28
AA61NT-B3	DF	AA61NT	0.673	0.002	0.762	1.72%	3	5	0.9680	2.00, 1.361, 0.926, 0.630, 0.428, 0.291, 0.198, 0.135	1.47	YES			SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.HK.A1.28.07.04	RF	AA61HK	0.112	0.000	0.059	15.81%	5	3	0.7460	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; % VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.HK.***A1.28.07.04 (should be 11.08.04)***	RF	AA61HK	0.770	0.003	0.623	6.22%	1	1	0.9797	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	YES			FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.HK-NB.B2.25.08.04	DF	AA61HK	48.8	0.164	0.877	4.03%	1	4	0.9276	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	NO	SD rejects		FAL.NHK.SLS.25.08.04
FAL.NHK.HK.B3.03.11.04	DF	AA61HK	0.512	0.002	0.518	1.50%	1	3	0.9921	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	YES		solvent listed as DMSO--should be medium; SD confirmed medium was used	FAL.NHK.SLS.03.11.04
FAL.NHK.HK.B3.12.11.04 (should be B4)	DF	AA61HK	0.882	0.003	0.792	0.95%	5	3	0.9919	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	YES			FAL.NHK.SLS.12.11.04
FAL.NHK.HK.B4.24.11.04 (should be B5)	DF	AA61HK	1.24	0.004	1.060	0.46%	1	2	0.9962	100, 31.6, 10.0, 3.17, 1.00, 0.317, 0.100, 0.0318	3.16	YES			FAL.NHK.SLS.24.11.04

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
SODIUM I FLUORIDE															
IIVS															
A2	RF	AA61HF	50.2	1.196	0.624	2.61%	2	1	0.9754	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61HF	50.1	1.193	0.355	6.81%	5	1	0.9643	300, 188, 117, 73.2, 45.8, 28.6, 17.9, 11.2	1.6	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61HF	51.9	1.236	0.275	12.46%	5	2	0.9713	300, 188, 117, 73.2, 45.8, 28.6, 17.9, 11.2	1.6	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61HF	49.1	1.169	0.321	2.29%	5	3	0.9679	300, 188, 117, 73.2, 45.8, 28.6, 17.9, 11.2	1.6	YES			SLS-B3
B6	DF	AA61HF	63.8	1.519	0.56	6.98%	4	4	0.9088	150, 115, 88.8, 68.3, 52.5, 40.4, 31.1, 23.9	1.46	YES			SLS-B7
ECBC															
AA61MG-A1	RF	AA61MG	35.2	0.838	0.673	0.47%	2	3	0.9552	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	range finder	SLS-P2
AA61MG-B1	DF	AA61MG	55.0	1.310	0.359	0.67%	3	5	0.9146	1000, 300, 100, 30, 10, 3, 1, 0.3	3.33	YES			SLS-P5
AA61MG-B2	DF	AA61MG	41.3	0.984	0.855	2.57%	4	4	0.9376	150, 102.5, 69.4, 47.2, 32.1, 21.8, 14.9, 10.1	1.47	YES			SLS-P7
AA61MG-B3	DF	AA61MG	49.8	1.186	0.942	1.56%	4	4	0.9160	150, 102.5, 69.4, 47.2, 32.1, 21.8, 14.9, 10.1	1.47	YES			SLS-P9
FRAME															
FAL.NHK.RH.A1.010803	RF	AA61RH	3.94	0.094	1.113	4.56%	3	4	0.9474	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.010803
FAL.NHK.RH.B1.080803	DF	AA61RH	28.6	0.681	0.762	0.08	1	5	0.9046	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	YES	range finder format	high background	FAL.NHK.SLS.08.08.03
FAL.NHK.RH.B2.15.08.03	DF	AA61RH	45.2	1.076	0.549	0.03	4	3	0.9257	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.RH.B3.01.10.03	DF	AA61RH	51.2	1.219	1.140	0.01	4	4	0.9761	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	NO	PC failed	PC fails	FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.RH.B3.15.10.03 (should be B4?)	DF	AA61RH	45.3	1.079	0.531	0.01	4	3	0.9771	500, 233, 108, 50.3, 23.4, 10.9, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.15.10.03
SODIUM HYPOCHLORITE															
IIVS															
A1	RF	AA61RD	1250	16.796	0.439	6.83%	0	2	0.9817	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A1-N040317B
B1	DF	AA61RD	1620	21.787	0.530	4.61%	4	2	0.9847	10000, 5556, 3086, 1715,953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61RD	1460	19.642	0.571	5.89%	2	1	0.9828	10000, 5556, 3086, 1715,953, 529, 294, 163	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61RD	1820	24.389	0.515	7.20%	3	3	0.9820	4000, 2857, 2041, 1458, 1041, 744, 531, 379	1.4	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61HE-A1	RF	AA61HE	1030	13.874	0.465	7.39%	0	1	0.8508	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P3
AA61HE-B1	DF	AA61HE	1960	26.375	0.975	3.79%	2	3	0.9309	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	YES			SLS-P7
AA61HE-B2	DF	AA61HE	2390	32.151	1.161	1.44%	2	5	0.9791	5000, 3401, 2313, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			SLS-P9
AA61HE-B3	DF	AA61HE	1240	16.718	0.725	0.10%	4	3	0.9857	5000, 3401, 2313, 1574, 1071, 728, 496, 337	1.47	YES			SLS-P12
FRAME															
FAL.NHK.LU.A1.13.02.03	RF	AA61LU	955	12.829	0.077	1.41%	1	0	0.0662	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	rejected by SD due to bacterial contam. in some of the plates in this test series	FAL.NHK.SLS.13.02.03
FAL.NHK.LU.A2.20.02.03	DF	AA61LU	738	9.913	0.204	12.54%	6	1	0.9071	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		this is a definitive test since conc. series is different from A1 RF	FAL.NHK.SLS.20.02.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.LU.B1.27.02.04	DF	AA61LU	NA	NA	0.492	9.65%	0	0	NA	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0-100%; wrong solvent used	used wrong solvent; should be medium instead of DMSO	FAL.NHK.SLS.27.02.03
FAL.NHK.LU.B2.19.03.04	DF	AA61LU	1120	15.073	0.437	3.51%	2	6	0.9027	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
FAL.NHK.LU.B3.25.03.04	DF	AA61LU	1870	25.130	0.628	1.58%	1	2	0.7836	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.25.03.03
SODIUM OXALATE															
IIVS															
A1	RF	AA61GX	NA	NA	0.503	2.45%	0	2	NA	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61GX	252	1.879	0.631	2.24%	2	6	0.9647	500, 357, 255, 182, 130, 93.0, 66.4, 47.4	1.4	YES			SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61GX	428	3.191	0.565	1.71%	1	5	0.8879	510, 364, 260, 186, 133, 94.8, 67.7, 48.4	1.4	YES		130 ul of 2X doses were applied. Final conc. values adjusted in data sheets bySD	SLS-B113-N041029B
B3	DF	AA61GX	400	2.985	0.669	2.53%	1	7	0.8426	500, 357, 255, 182, 130, 93.0, 66.4, 47.4	1.4	YES			SLS-B14-N041030A
ECBC															
AA61LZ-A1	RF	AA61LZ	230	1.717	0.621	2.94%	2	6	0.9507	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P20
AA61LZ-B1	DF	AA61LZ	312	2.328	0.636	0.73%	3	5	0.8613	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		ppt in 1X C1-C3	SLS-P40
AA61LZ-B2	DF	AA61LZ	337	2.517	0.709	1.12%	2	6	0.9490	600, 408, 278, 189, 128, 87.4, 59.5, 40.5	1.47	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-P42
AA61LZ-B3	DF	AA61LZ	417	3.111	0.928	5.95%	1	5	0.9635	600, 408, 278, 189, 128, 87.4, 59.5, 40.5	1.47	YES		ppt in 1X C1	SLS-P44
FRAME															
FAL.NHK.RC.A1.24.09.04	RF	AA61RC	687	5.127	0.404	1.28%	2	0	0.6286	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1-C2	FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.RC.B1.29.10.04	DF	AA61RC	134	1.002	0.598	5.63%	5	3	0.8555	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES		ppt In 1X C1-C5	FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.RC.B2.03.11.04	DF	AA61RC	422	3.147	0.465	1.00%	1	7	0.7013	500, 340, 231, 157, 107, 72.8, 49.6, 33.7	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.03.11.04
FAL.NHK.RC.B3.10.11.04	DF	AA61RC	384	2.863	1.082	0.92%	5	1	0.9714	2000, 1361, 926, 630, 428, 291,198,135	1.47	YES		ppt In 1X C1-C5	FAL.NHK.SLS.10.11.04
FAL.NHK.RC.B4.17.11.04	DF	AA61RC	460	3.435	1.002	2.39%	2	5	0.9280	1000, 680, 463, 315, 214, 146, 99.1, 67.4	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.17.11.04
SODIUM SELENATE															
IIVS															
A2	RF	AA61FS	7.44	0.039	0.646	4.12	4	1	0.9744	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-A2
B1	DF	AA61FS	11.0	0.058	0.366	1.07	7	1	0.9841	556, 309, 172, 95.3, 53.0, 29.4, 16.3, 9.07	1.8	YES			SLS-B1
B2	DF	AA61FS	10.5	0.056	0.29	12.33	4	1	0.9854	556, 309, 172, 95.3, 53.0, 29.4, 16.3, 9.08	1.8	YES			SLS-B2
B3	DF	AA61FS	8.49	0.045	0.339	3.42	4	2	0.9763	100, 55.6, 30.9, 17.1, 9.5, 5.3, 2.94, 1.63	1.8	YES			SLS-B3
ECBC															
AA61LF-A1	RF	AA61LF	7.91	0.042	0.605	6.62	3	2	0.9431	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	range finder	SLS-P1
AA61LF-B1	DF	AA61LF	7.99	0.042	0.361	5.82	7	1	0.9236	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES			SLS-P5
AA61LF-B3	DF	AA61LF	7.95	0.042	0.890	1.82	4	3	0.9492	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.47	2.15	YES			SLS-P9
AA61LF-B4	DF	AA61LF	4.85	0.026	0.836	5.88	4	3	0.9845	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.47	2.15	NO	PC failed		SLS-P11

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61LF-B5	DF	AA61LF	6.48	0.034	0.647	1.62	4	2	0.8997	100, 46.5, 21.6, 10.1, 4.7, 2.2, 1.0, 0.47	2.15	YES			SLS-P19
FRAME															
FAL.NHK.NS.A1.010803	RF	AA61NS	10.4	0.055	0.360	5.76	2	3	0.9256	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.010803
FAL.NHK.NS.A2.080803	RF	AA61NS	14.6	0.077	0.716	5.02	6	0	0.9642	250, 170, 116, 78.7, 53.6, 36.4, 24.8, 16.9	1.47	RF	range finder	high background	FAL.NHK.SLS.08.08.03
FAL.NHK.NS.B2.15.08.03 (should be B1)	DF	AA61NS	12.2	0.065	0.551	5.35	4	4	0.9509	50, 34.01, 23.14, 15.74, 10.71, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	YES		this is the first definitive test	FAL.NHK.SLS.15.08.03
FAL.NHK.NS.B2.230803	DF	AA61NS	9.34	0.049	0.490	0.47	5	3	0.9542	50, 34.01, 23.14, 15.74, 10.71, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.230803
FAL.NHK.NS.B3.28.08.06	DF	AA61NS	34.0	0.180	0.398	3.79	1	6	0.6981	50, 34.01, 23.14, 15.74, 10.71, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	NO	low r2		FAL.NHK.SLS.280803
FAL.NHK.NS.B4.05.09.03	DF	AA61NS	9.14	0.048	0.207	7.21	6	2	0.9566	75, 51.02, 34.71, 23.61, 16.06, 10.93, 7.433, 5.06	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.050903
FAL.NHK.NS.B5.01.10.03	DF	AA61NS	7.75	0.041	1.124	6.36	6	2	0.9147	75, 51.02, 34.71, 23.61, 16.06, 10.93, 7.433, 5.06	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.03
FAL.NHK.NS.B5.15.10.03 (should be B6?)	DF	AA61NS	27.0	0.143	0.565	1.67	2	4	0.9272	50, 34.01, 23.14, 15.74, 10.71, 7.28, 4.96, 3.37	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.15.10.03
STRYCHNINE															
IIVS															
A1	RF	AA61JY	67.1	0.201	0.490	3.17%	1	1	0.8475	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61JY	59.0	0.176	0.606	1.54%	2	6	0.9699	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES		ppt in 2X C1	SLS-B12-N041022B
B2	DF	AA61JY	52.7	0.158	0.598	3.50%	2	6	0.9122	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES		ppt in 2X C1	SLS-B14-N041030A
B3	DF	AA61JY	53.5	0.160	0.616	2.26%	2	6	0.9020	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.4	YES		ppt in 2X C1	SLS-B15-N041110A
ECBC															
AA61NR-A1	RF	AA61NR	183	0.548	0.882	6.19%	1	6	0.8663	500, 50.0, 5.0, 0.50, 0.05, 0.005, 0.0005, 0.00005	10	RF	range finder		SLS-P39
AA61NR-B1	DF	AA61NR	66.5	0.199	0.878	3.32%	5	3	0.8150	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES		ppt in 2X C1-C8	SLS-P47
AA61NR-B2	DF	AA61NR	214	0.641	1.230	1.92%	2	6	0.9262	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES		ppt in 2X C1-C3	SLS-P50
AA61NR-B3	DF	AA61NR	72.3	0.216	0.593	3.86%	5	3	0.9316	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES		ppt in 2X C1-C5	SLS-P52
AA61NR-B4	DF	AA61NR	48.1	0.144	0.676	2.33%	6	2	0.9227	400, 272, 185, 126, 85.7, 58.3, 39.6, 27.0	1.47	YES		ppt in 2X C1	SLS-P54
FRAME															
FAL.NHK.FY.A1.24.09.04	RF	AA61FY	87.7	0.262	0.520	1.43%	1	0	-0.0136	100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.FY.B1.01.10.04	DF	AA61FY	60.3	0.180	0.965	14.61%	1	2	0.6474	125, 58.1, 27.0, 12.6, 5.85, 2.72, 1.27, 0.59	2.15	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.01.10.04
FAL.NHK.FY.B2.08.10.04	DF	AA61FY	83.9	0.251	0.595	2.95%	2	3	0.9088	250, 116, 54.1, 25.2, 11.7, 5.44, 2.53, 1.18	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.FY.B3.29.10.04	DF	AA61FY	29.9	0.089	0.585	9.13%	4	3	0.9623	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.FY.B4.05.11.04	DF	AA61FY	43.8	0.131	0.475	5.37%	4	3	0.9636	500, 232, 108, 50.3, 23.9, 10.4, 5.06, 2.35	2.15	YES		outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.05.11.04
THALLIUM I SULFATE															
IIVS															
A1	RF	AA61KJ	0.0982	0.0002	0.448	10.68%	4	0	0.9741	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%		SLS-A1-N040317B

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61KJ	0.137	0.0003	0.574	0.51%	4	3	0.9864	1.00, 0.556, 0.309, 0.171, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61KJ	0.141	0.0003	0.553	1.22%	4	2	0.9838	1.00, 0.556, 0.309, 0.171, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61KJ	0.104	0.0002	0.471	0.27%	4	3	0.9906	1.00, 0.556, 0.309, 0.171, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	YES		Mimimal to no NRU in C1-C4 although visual observatios appeared as level 2.	SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61PB-A1	RF	AA61PB	NA	NA	0.610	3.77%	6	1	NA	500, 50.0, 5.00, 0.5, 0.05, 0.005, 0.0005, 0.00005	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P38
AA61PB-B1	DF	AA61PB	NA	NA	0.975	2.18%	0	8	NA	0.005, 0.00233, 0.00108, 0.0005, 0.00023, 0.00011, 0.00005, 0.00002	2.15	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P46
AA61PB-B2	DF	AA61PB	0.313	0.0006	1.127	6.67%	2	6	0.8224	1.00, 0.465, 0.216, 0.101, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005	2.15	YES			SLS-P50
AA61PB-B3	DF	AA61PB	0.132	0.0003	0.635	0.47%	4	4	0.9863	2.00, 0.930, 0.433, 0.201, 0.094, 0.044, 0.020, 0.009	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P52
AA61PB-B4	DF	AA61PB	0.149	0.0003	0.727	1.40%	4	4	0.9772	2.00, 0.930, 0.433, 0.201, 0.094, 0.044, 0.020, 0.009	2.15	YES			SLS-P54
FRAME															
FAL.NHK.GB.A1.13.02.03	RF	AA61GB	0.0708	0.0001	0.203	6.82%	3	3	0.6722	500, 50, 5, 0.5, 0.05, 0.005, 0.0005, 0.00005	10	RF	range finder	rejected by SD due to bacterial contam. in some of the plates in this test series	FAL.NHK.SLS.13.02.03
FAL.NHK.GB.B1.18.03.04	DF	AA61GB	0.167	0.0003	0.449	10.16%	3	2	0.9629	1.0, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05, 0.022, 0.010, 0.0047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.18.03.03
FAL.NHK.GB.B2.19.03.04	DF	AA61GB	0.175	0.0003	0.448	0.84%	3	5	0.9714	1.0, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05, 0.022, 0.010, 0.0047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.19.03.03
FAL.NHK.GB.B3.25.03.04	DF	AA61GB	0.118	0.0002	0.736	5.85%	4	3	0.9244	1.0, 0.47, 0.22, 0.10, 0.05, 0.022, 0.010, 0.0047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.03.03
TRICHLOROACETIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61MR	661	4.043	0.513	1.38%	2	1	0.9403	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	SLS-A4-N040331N
B1	DF	AA61MR	423	2.587	0.572	0.22%	5	2	0.9761	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B4-N040513C
B2	DF	AA61MR	423	2.587	0.665	0.91%	4	2	0.9853	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B5-N040514B
B3	DF	AA61MR	335	2.050	0.672	8.28%	3	2	0.9732	10000, 5556, 3086, 1715, 953, 529, 294, 163	1.8	YES		ppt in 1X C1-C2	SLS-B6-N040716A
ECBC															
AA61KT-A1	RF	AA61KT	348	2.132	0.561	3.44%	2	4	0.9560	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P17
AA61KT-B1	DF	AA61KT	400	2.448	0.789	0.01%	4	3	0.9754	7000, 3256, 1514, 704, 328, 152, 70.9, 33.0	2.15	YES			SLS-P33
AA61KT-B2	DF	AA61KT	366	2.243	0.666	4.87%	4	4	0.9886	7000, 3256, 1514, 704, 328, 152, 70.9, 33.0	2.15	YES			SLS-P35

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61KT-B3	DF	AA61KT	277	1.693	0.500	0.20%	4	4	0.9697	7000, 3256, 1514, 704, 328, 152, 70.9, 33.0	2.15	YES		ppt in 1X C1	SLS-P37
FRAME															
FAL.NHK.GH.A1.28.07.04	RF	AA61GH	627	3.835	0.053	4.54%	2	1	0.8134	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.GH.B1.11.08.04	DF	AA61GH	649	3.970	0.507	12.88%	4	4	0.8715	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.11.08.04
FAL.NHK.GH.B2.27.08.04	DF	AA61GH	370	2.263	0.439	1.88%	4	4	0.8671	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.27.08.04
FAL.NHK.GH.B3.17.09.04	DF	AA61GH	604	3.696	0.711	5.96%	4	4	0.9901	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47	2.15	YES		outlier removed by SD	FAL.NHK.SLS.17.09.04
1,1,1-TRICHLOROETHANE															
IIVS															
A1	RF	AA61KG	NA	NA	0.516	5.11%	0	1	NA	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%		SLS-A5-N040401A
B1	DF	AA61KG	NA	NA	0.573	1.92%	0	5	-3.2450	10000, 7143, 5102, 3644, 2603, 1859, 1328, 949	1.4	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1	SLS-B113-N041029B
B2	DF	AA61KG	NA	NA	0.677	2.29%	0	3	0.7130	12500, 8929, 6378, 4555, 3254, 2324, 1660, 1186	1.4	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1-C3	SLS-B14-N041030A
B3	DF	AA61KG	9400	70.439	0.598	4.99%	0	2	0.8828	12500, 8929, 6378, 4555, 3254, 2324, 1660, 1186	1.4	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 1X C1-C3; ppt in 2X C1-C4; test article was noted to form droplets and adhere to the dilution vesel; maximum plausible dose was tested.	SLS-B15-N041110A
ECBC															
AA61JV-A1(sealer)	RF	AA61JV	5300	39.702	0.614	8.77%	1	7	0.8101	10000, 1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		SLS-P20
AA61JV-B1(sealer)	DF	AA61JV	7530	56.469	0.920	1.02%	1	6	0.9418	10000, 6803, 4628, 3148, 2142, 1457, 991, 674	1.47	YES		ppt in 2X C1-C8	SLS-P46
AA61JV-B2 (sealer)	DF	AA61JV	8710	65.285	0.674	2.11%	1	6	0.9422	10000, 8264, 6830, 5645, 4665, 3855, 3186, 2633	1.21	YES		ppt in 2X C1; 1X C1 has large globules of chemical; outlier removed by SD	SLS-P48
AA61JV-B3 (sealer)	DF	AA61JV	8170	61.208	1.119	2.10%	1	7	0.8530	10000, 8264, 6830, 5645, 4665, 3855, 3186, 2633	1.21	YES		ppt in 2X C1-C4; 1X C1 has large globules of chemical;	SLS-P51
FRAME															
FAL.NHK.PN.A1.24.09.04	RF	AA61PN	NA	NA	0.472	8.81%	0	2	NA	10000, 1000, 100, 10, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.24.09.03
FAL.NHK.PN.B1.29.10.04	DF	AA61PN	NA	NA	0.543	4.83%	0	0	0.9623	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0-100%		FAL.NHK.SLS.29.10.04
FAL.NHK.PN.B2.19.11.04	DF	AA61PN	NA	NA	0.417	4.54%	0	1	NA	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO	no points between 0-50%		FAL.NHK.SLS.19.11.04
FAL.NHK.PN.B3.24.11.04	DF	AA61PN	NA	NA	1.211	2.37%	0	6	NA	10000, 4651, 2163, 1006, 468, 218, 101, 47.1	2.15	NO	no points between 0-50%	odd curve; two columns of data removed by SD (wells not seeded with cells?)	FAL.NHK.SLS.24.11.04
TRIETHYLENEMELAMINE															
IIVS															
A1	RF	AA61MT	1.64	0.008	0.690	3.71%	1	2	0.9531	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61MT	1.66	0.008	0.543	8.55%	3	5	0.9632	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61MT	2.12	0.010	0.572	4.28%	3	3	0.9763	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61MT	2.62	0.013	0.544	3.49%	2	4	0.9730	10.0, 5.56, 3.09, 1.71, 0.953, 0.529, 0.294, 0.163	1.8	YES			SLS-B3-N040506A
ECBC															
AA61GE-A1	RF	AA61GE	0.791	0.004	0.881	0.27%	0	7	0.9461	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1	SLS-P13
AA61GE-B1	DF	AA61GE	1.33	0.007	0.642	6.27%	2	6	0.8577	5.00, 2.33, 1.08, 0.503, 0.234, 0.109, 0.051, 0.024	2.15	YES			SLS-P21
AA61GE-B2	DF	AA61GE	2.77	0.014	0.979	1.34%	1	6	0.9306	5.00, 2.33, 1.08, 0.503, 0.234, 0.109, 0.051, 0.024	2.15	YES			SLS-P23
AA61GE-B3	DF	AA61GE	0.964	0.005	0.561	1.05%	2	6	0.9283	5.00, 2.33, 1.08, 0.503, 0.234, 0.109, 0.051, 0.024	2.15	YES			SLS-P25
FRAME															
FAL.NHK.LB.A1.26.03.04	RF	AA61LB	1.13	0.006	0.805	2.56%	1	1	0.8822	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.LB.B1.25.04.04	DF	AA61LB	2.37	0.012	0.846	8.90%	1	3	0.9664	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.LB.B2.28.04.04	DF	AA61LB	2.22	0.011	0.851	4.98%	3	4	0.8151	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.LB.B3.11.06.04	DF	AA61LB	2.18	0.011	0.975	1.63%	3	4	0.9221	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	PC failed		FAL.NHK.SLS.11.06.04
FAL.NHK.LB.B4.25.06.04	DF	AA61LB	1.49	0.007	1.155	0.33%	1	6	0.8420	10.0, 4.65, 2.16, 1.01, 0.468, 0.218, 0.101, 0.047	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.25.06.04
TRIPHENYLTIN HYDROXIDE															
IIVS															
A1	RF	AA61JR	0.013	0.00004	0.729	1.45%	2	1	0.9887	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61JR	0.015	0.00004	0.602	4.32%	2	0	0.9758	1.00, 0.556, 0.309, 0.171, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	NO	no points between 50 - 100%		SLS-B1-N040423A
B2	DF	AA61JR	0.015	0.00004	0.630	3.36%	2	0	0.9907	1.00, 0.556, 0.309, 0.171, 0.095, 0.053, 0.029, 0.016	1.8	NO	no points between 50 - 100%		SLS-B2-N040424A
B3	DF	AA61JR	0.012	0.00003	0.485	9.45%	3	2	0.9779	0.067, 0.045, 0.030, 0.020, 0.0132, 0.0088, 0.0059, 0.0039	1.5	YES			SLS-B3-N040506A
B4	DF	AA61JR	0.012	0.00003	0.658	0.37%	4	3	0.9917	0.067, 0.045, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059, 0.0039	1.5	YES			SLS-B8-N040819A
B5	DF	AA61JR	0.014	0.00004	0.610	0.07%	3	4	0.9907	0.067, 0.045, 0.030, 0.020, 0.013, 0.0088, 0.0059, 0.0039	1.5	YES			SLS-B9-N040820A
ECBC															
AA61LL-A1	RF	AA61LL	0.015	0.00004	0.542	3.67%	0	2	0.9880	10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder		SLS-P5

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
AA61LL-B1	DF	AA61LL	0.021	0.00006	1.065	0.78%	4	4	0.9633	0.080, 0.054, 0.037, 0.025, 0.017, 0.012, 0.008, 0.005	1.47	YES			SLS-P22
AA61LL-B2	DF	AA61LL	0.015	0.00004	0.599	0.01%	4	3	0.9832	0.080, 0.054, 0.037, 0.025, 0.017, 0.012, 0.008, 0.005	1.47	YES			SLS-P25
AA61LL-B3	DF	AA61LL	0.029	0.00008	0.987	5.68%	3	4	0.9754	0.080, 0.054, 0.037, 0.025, 0.017, 0.012, 0.008, 0.005	1.47	YES			SLS-P27
FRAME															
FAL.NHK.GG.A1.26.03.04	RF	AA61GG	0.010	0.00003	0.616	6.20%	2	0	0.8151	10.0, 1.0, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001, 0.000001	10	RF	range finder	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.26.03.04
FAL.NHK.GG.A2.25.04.04	DF	AA61GG	NA	NA	0.052	12.10%	2	6	NA	0.1, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	NO	wrong desorb solution used in NRU; SD rejects this test	ppt in 1X C1	FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.GG.B1.28.04.04	DF	AA61GG	0.002	0.00001	0.877	1.40%	5	2	0.9884	0.100, 0.047, 0.022, 0.010, 0.005, 0.002, 0.001, 0.0005	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.GG.B2.13.05.04	DF	AA61GG	0.003	0.00001	0.701	2.72%	2	3	0.9701	0.1, 0.0465, 0.0216, 0.0101, 0.0047, 0.0022, 0.0010, 0.0005	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.13.05.04
FAL.NHK.GG.B3.10.06.04	DF	AA61GG	0.015	0.00004	0.894	5.53%	3	2	0.9727	0.100, 0. 68, 0.0463, 0.0315, 0.0214, 0.0146, 0.0099, 0.0067	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.10.06.04
VALPROIC ACID															
IIVS															
A1	RF	AA61MZ	710	4.921	0.730	0.79%	1	2	0.9232	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A2-N040320B
B1	DF	AA61MZ	394	2.735	0.633	8.35%	4	4	0.9086	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93.1	1.6	YES			SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61MZ	512	3.548	0.676	4.33%	3	5	0.9566	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93.1	1.6	YES			SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61MZ	383	2.655	0.657	7.25%	3	4	0.9436	2500, 1563, 977, 610, 381, 238, 149, 93.1	1.6	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61JJ-A1	RF	AA61JJ	406	2.812	0.953	4.71%	1	1	0.9319	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-P15
AA61JJ-B1	DF	AA61JJ	575	3.991	0.920	0.13%	2	4	0.9458	1861, 865, 403, 187, 87.1, 40.5, 18.8, 8.8	2.15	YES			SLS-P27
AA61JJ-B2	DF	AA61JJ	484	3.358	0.963	0.38%	2	4	0.9533	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES		ppt in 2X C1-C2; oily	SLS-P29
AA61JJ-B3	DF	AA61JJ	344	2.383	0.717	0.17%	2	6	0.9570	2000, 930, 433, 201, 93.6, 43.5, 20.2, 9.4	2.15	YES		ppt in 2X C1; oily	SLS-P30
FRAME															
FAL.NHK.GK.A1.25.03.04	RF	AA61GK	NA	NA	0.666	0.25%	0	0	NA	2000, 200, 20, 2, 0.2, 0.02, 0.002, 0.0002	10	RF	range finder		FAL.NHK.SLS.25.03.03
FAL.NHK.GK.B1.25.04.04	DF	AA61GK	757	5.248	0.874	6.22%	3	5	0.8798	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	YES			FAL.NHK.SLS.25.04.04
FAL.NHK.GK.B2.28.04.04	DF	AA61GK	828	5.742	0.735	2.30%	3	5	0.8571	2500, 1701, 1157, 787,535, 364, 248, 169	1.47	YES		ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.28.04.03
FAL.NHK.GK.B2.13.05.04 (should be B3)	DF	AA61GK	522	3.623	0.778	1.46%	2	3	0.9880	2500, 1163, 541, 252, 117, 54.4, 25.3, 11.8	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.13.05.04
VERAPAMIL HCL															
IIVS															
A1	RF	AA61NH	78.3	0.160	0.566	5.81%	1	0	0.8763	100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001, 0.00001	10	RF	range finder; no points between 50 - 100%	SD chose to use bottom = 0 instead of bottom > 0;	SLS-A4-N040331N

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
B1	DF	AA61NH	67.5	0.137	0.656	5.17%	4	4	0.9864	200, 143, 102, 72.9, 52.1, 37.2, 26.6, 19.0	1.4	YES			SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61NH	71.0	0.144	0.669	0.10%	4	3	0.9788	200, 143, 102, 72.9, 52.1, 37.2, 26.6, 19.0	1.4	YES			SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61NH	60.1	0.122	0.577	7.59%	3	4	0.9794	200, 143, 102, 72.9, 52.1, 37.2, 26.6, 19.0	1.4	YES			SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61LY-A1	RF	AA61LY	64.6	0.131	0.423	5.73%	2	3	0.9492	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder	ppt in 2X C1	SLS-P17
AA61LY-B1	DF	AA61LY	65.3	0.133	0.821	0.23%	4	4	0.9735	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES			SLS-P33
AA61LY-B2	DF	AA61LY	71.0	0.144	0.861	1.55%	4	4	0.9820	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P35
AA61LY-B3	DF	AA61LY	45.2	0.092	0.455	1.81%	3	4	0.9523	800, 372, 173, 80.5, 37.4, 17.4, 8.1, 3.8	2.15	YES		ppt in 2X C1	SLS-P37
FRAME															
FAL.NHK.MC.A1.28.07.04	RF	AA61MC	81.1	0.165	0.070	23.68%	2	1	0.6033	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; % VC difference > 15		FAL.NHK.SLS.28.07.04
FAL.NHK.MC.B1.20.08.04	DF	AA61MC	73.3	0.149	0.892	3.87%	1	4	0.9216	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES		ppt in 2X C1-C3; outliers removed by SD	FAL.NHK.SLS.20.08.04
FAL.NHK.MC.B2.08.10.04	DF	AA61MC	50.0	0.102	0.728	0.31%	3	3	0.9778	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES		ppt in 2X C1	FAL.NHK.SLS.08.10.03
FAL.NHK.MC.B3.20.10 .04	DF	AA61MC	115	0.233	1.206	5.67%	1	2	0.9892	1500, 698, 325, 151, 70.2, 32.7, 15.2, 7.06	2.15	YES			FAL.NHK.SLS.20.10.04
XYLENE															
IIVS															
A1	RF	AA61MA	871	8.203	0.746	0.09%	1	0	0.8848	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder		SLS-A3-N040331A
B1	DF	AA61MA	374	3.524	0.700	5.04%	3	2	0.7194	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES		well-to-well variability in 3 lowest doses observed	SLS-B8-N040819A
B2	DF	AA61MA	700	6.592	0.660	6.57%	2	3	0.7739	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES		ppt in 2X C1-C3; variability in 4 highest doses observed; top 2 doses not included in the Hill analysis	SLS-B9-N040820A
B3	DF	AA61MA	385	3.631	0.629	2.40%	2	2	0.8182	2000, 1429, 1020, 729, 521, 372, 266, 190	1.4	YES		ppt in 2X C1-C4; variability in 7 highest doses observed;Top dose not included in Hill analysis (SD decision)	SLS-B10-N040903A
ECBC															
AA61GM-A1	RF	AA61GM	164	1.545	1.075	3.37%	0	5	0.9337	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1	SLS-P13
AA61GM-B1	DF	AA61GM	NA	NA	1.106	0.20%	0	8	NA	800, 544, 370, 252, 171, 117, 79.3, 53.9	1.47	NO	no points between 0 - 50%		SLS-P47
AA61GM-B2	DF	AA61GM	NA	NA	0.675	0.96%	0	5	NA	2000, 1361, 926, 630, 428, 291, 198, 135	1.47	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1-C5	SLS-P49
AA61GM-B3	DF	AA61GM	NA	NA	0.699	4.39%	0	4	NA	4000, 3306, 2732, 2258, 1866, 1542, 1275, 1053	1.21	NO	no points between 0 - 50%	ppt in 2X C1-C8; no toxicity detected	SLS-P53
FRAME															
FAL.NHK.JG.A1.14.05.04	RF	AA61JG	NA	NA	0.725	2.43%	0	0	NA	1000, 100, 10, 1, 0.1, 0.01, 0.001, 0.0001	10	RF	range finder; no points between 0 - 100%		FAL.NHK.SLS.14.05.03
FAL.NHK.JG.B1.08.10.04	DF	AA61JG	NA	NA	0.834	13.03%	0	7	0.3835	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.08.10.03

NHK NRU Reference Substance Data

Experiment ID NHK Cells	Assay Type[1]	Substance ID	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability	Notes	PC ID
FAL.NHK.JG.B2.22.10.04	DF	AA61JG	3130	29.444	0.798	7.28%	0	6	0.6066	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0 - 50%		FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)
FAL.NHK.JG.B3.28.10.04	DF	AA61JG	NA	NA	0.559	1.04%	0	0	NA	2500, 1701, 1157, 787, 535, 364, 248, 169	1.47	NO	no points between 0 - 100%		FAL.NHK.SLS.28.10.04

Abbreviations: ppt=Precipitate; SD=Study Director; RF=Range Finder; DF=Definitive Test; PC=Positive Control; C1 - C8=Concentration series applied to the the cells. C1 is the highest concentration and C8 is lowest; NA=Not Available; RC=Registry of Cytotoxicity; 2X=Two times the concentration applied to the cells; VC=Vehicle Control; R2=Coefficient of Determination; OD=Optical Density; ID=Identification. Substance ID was the code assigned by the chemical distributor (BioReliance Corp.). Experiment ID and PC ID are test identification numbers assigned by the cytotoxicity testing laboratory.

[1] Range finder or definitive test
[2] Mean OD value for all VC wells in test plate
[3] Difference of right and left VC column of wells in the test plate
[4] % Viability values between 0 and 50% viability; test acceptance criterion. Phase Ib used the range of 10 -50%.
[5] % Viability values between 50 and 100% viability; test acceptance criterion. Phase Ib used the range of 50 - 90%.
[6] Calculated value from the Prism® software
[7] Reference substance concentrations applied to the cells
[8] Step-wise dilution factor used to determine reference substance exposure concentrations
[9] Determination for whether test meets or doesn't meet test acceptance criteria; not applied to RF tests
Shaded boxes identify values that do not meet the specific test acceptance criteria

Appendix I3

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

[This Page Intentionally Left Blank]

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
ECBC												
Phase Ia												
SLS-B1	45.2	0.157	13-Aug-02	0.187	17.06%	1	1	0.8361	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	VC difference > 15%.
SLS-B2	40.4	0.140	27-Aug-02	0.385	3.88%	3	4	0.7841	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	Inadequate curve fit.
SLS-B3	38.6	0.134	27-Aug-02	0.410	0.04%	1	5	0.8376	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B4	33.3	0.116	28-Aug-02	0.288	15.91%	1	2	0.9378	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	VC difference > 15%.
SLS-B5	26.6	0.092	28-Aug-02	0.233	4.43%	2	4	0.8086	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	Inadequate curve fit.
SLS-B6 (25 ug/ml NR 1 hr)	39.5	0.137	4-Sep-02	0.255	7.59%	1	2	0.9621	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	R&D: 3 replicate ODs/concentration
SLS-B7 (50 ug/ml NR 1 hr)	39.1	0.136	4-Sep-02	0.330	3.18%	1	2	0.9749	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	R&D: 3 replicate ODs/concentration
SLS-B8 (25 ug/ml NR 3 hr)	36.5	0.126	4-Sep-02	0.508	3.64%	1	3	0.9639	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	R&D: 3 replicate ODs/concentration
SLS-B9 (50 ug/ml NR 3 hr)	33.1	0.115	4-Sep-02	0.457	1.39%	1	4	0.9678	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	R&D: 3 replicate ODs/concentration
SLS-B11	42.9	0.149	9-Sep-02	0.349	6.33%	1	2	0.9332	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B12	35.3	0.123	10-Sep-02	0.326	5.41%	1	3	0.9211	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B13	33.0	0.114	10-Sep-02	0.414	6.50%	1	4	0.8802	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B14 (33 ug/ml NR)	37.6	0.130	11-Sep-02	0.347	1.97%	1	3	0.9241	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B15 (33 ug/ml NR)	42.8	0.148	11-Sep-02	0.303	3.16%	1	1	0.8408	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	Inadequate curve fit.
SLS-B16 (33 ug/ml NR)	34.8	0.121	11-Sep-02	0.345	3.43%	1	2	0.9770	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B17 (33 ug/ml NR)	34.3	0.119	11-Sep-02	0.389	17.94%	0	4	0.8377	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	VC difference > 15%. No points between 10 & 50%.
SLS-B18	39.2	0.136	17-Sep-02	0.430	7.88%	1	2	0.9472	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B19	44.7	0.155	17-Sep-02	0.422	13.89%	1	1	0.9389	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B20	34.8	0.121	17-Sep-02	0.445	4.12%	1	3	0.9364	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B21	38.6	0.134	17-Sep-02	0.402	1.66%	1	3	0.8969	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B22	43.5	0.151	18-Sep-02	0.394	2.94%	1	1	0.9271	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-B23	39.7	0.138	18-Sep-02	0.423	1.71%	1	2	0.9253	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
SLS-B24	45.6	0.158	18-Sep-02	0.283	10.48%	0	2	0.8502	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No points between 10 & 50%.
SLS-B25	44.6	0.155	18-Sep-02	0.311	13.03%	1	0	0.8784	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No points between 50 & 90%.
Phase Ib												
ECBC-3T3-Ib-01 SLS-P1	34.0	0.118	22-Jan-03	0.300	2.23%	1	3	0.9245	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
ECBC-3T3-Ib-01 SLS-P2	31.3	0.109	22-Jan-03	0.214	2.18%	1	4	0.8744	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
ECBC-3T3-Ib-02 SLS-P3	13.2	0.046	29-Jan-03	0.270	23.27%	2	3	0.8703	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	VC difference > 15%; IC50 out of range
ECBC-3T3-Ib-03 SLS-P4	56.1	0.195	4-Feb-03	0.438	7.34%	1	2	0.8206	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	IC50 out of range
ECBC-3T3-Ib-04 SLS-P5	43.0	0.149	25-Feb-03	0.750	3.31%	1	1	0.9827	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
ECBC-3T3-Ib-05 SLS-P7	40.8	0.141	26-Feb-03	0.443	6.47%	1	1	0.9702	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
ECBC-3T3-Ib-06 SLS-P9	44.9	0.156	4-Mar-03	0.450	3.57%	1	1	0.9403	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
ECBC-3T3-Ib-07 SLS-P12	37.3	0.129	11-Mar-03	0.568	10.54%	1	4	0.9314	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
ECBC-3T3-Ib-08 SLS-P13	47.2	0.164	18-Mar-03	0.517	6.58%	1	1	0.9566	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
Phase II												
SLS-P1	41.4	0.144	17-Jun-03	0.409	4.01%	3	3	0.9561	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P2	36.1	0.125	17-Jun-03	0.452	16.14%	3	4	0.9411	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	% VC difference > 15
SLS-P3	44.5	0.154	24-Jun-03	0.427	8.32%	3	3	0.9434	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P4	39.5	0.137	24-Jun-03	0.460	0.14%	3	4	0.9202	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P5	44.2	0.153	1-Jul-03	0.619	2.60%	3	4	0.9365	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P6	37.8	0.131	1-Jul-03	0.563	3.20%	2	4	0.9361	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P7	42.1	0.146	8-Jul-03	0.485	5.48%	1	5	0.9162	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P8	41.5	0.144	8-Jul-03	0.630	4.97%	2	4	0.9461	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P9	40.3	0.140	15-Jul-03	0.450	6.36%	1	5	0.9250	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P10	35.2	0.122	15-Jul-03	0.629	4.12%	3	3	0.9751	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P11	38.7	0.134	22-Jul-03	0.488	3.70%	2	4	0.9769	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P12	39.1	0.136	22-Jul-03	0.554	1.92%	3	4	0.9760	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P13	41.6	0.144	29-Jul-03	0.700	0.18%	3	4	0.9440	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P14	40.7	0.141	29-Jul-03	0.730	3.11%	3	4	0.9663	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P15	43.2	0.150	5-Aug-03	0.649	0.59%	2	4	0.9591	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P16	44.1	0.153	6-Aug-03	0.276	3.23%	4	4	0.9790	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P17	37.3	0.129	31-Aug-03	0.710	5.38%	2	4	0.9482	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P18 sealer	32.4	0.112	31-Aug-03	0.545	4.39%	3	3	0.8897	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	R&D
SLS-P19	41.4	0.144	1-Sep-03	0.613	2.00%	3	3	0.9625	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P20	38.4	0.133	9-Sep-03	0.350	0.88%	3	4	0.9350	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P21	43.0	0.149	23-Sep-03	0.650	3.04%	2	4	0.9637	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P22	41.2	0.143	29-Oct-03	0.406	1.21%	3	4	0.9289	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P23	41.8	0.145	4-Nov-03	0.378	8.20%	4	4	0.9577	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P24	44.7	0.155	5-Nov-03	0.333	3.43%	4	3	0.9518	80, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
Phase III												
SLS-P1	37.5	0.130	13-Jan-04	0.355	3.82%	3	3	0.8860	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P2	34.9	0.121	13-Jan-04	0.442	8.96%	3	3	0.9641	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P3	40.8	0.142	21-Jan-04	0.461	4.62%	2	3	0.9751	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P4	29.4	0.102	21-Jan-04	0.511	3.62%	2	3	0.9672	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P5	43.7	0.151	27-Jan-04	0.299	2.09%	3	4	0.9766	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P6	42.8	0.148	27-Jan-04	0.384	1.89%	2	3	0.9558	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P7	43.1	0.149	3-Feb-04	0.378	6.60%	4	4	0.9779	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P8	38.5	0.134	3-Feb-04	0.379	7.38%	2	4	0.9662	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P9	38.5	0.134	10-Feb-04	0.375	8.36%	3	4	0.9315	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P10	35.9	0.124	10-Feb-04	0.374	3.25%	3	4	0.9640	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P11	40.5	0.140	24-Feb-04	0.297	2.83%	3	4	0.9554	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P12	37.3	0.129	24-Feb-04	0.334	0.02%	2	3	0.9665	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P13	39.3	0.136	25-Feb-04	0.385	0.30%	3	4	0.9624	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P14	37.9	0.132	25-Feb-04	0.422	5.43%	4	4	0.9561	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P15	44.7	0.155	2-Mar-04	0.526	3.85%	2	5	0.9840	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P16	41.9	0.145	2-Mar-04	0.605	0.29%	2	4	0.9739	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P17	38.9	0.135	3-Mar-04	0.453	7.56%	3	4	0.9496	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P18	35.5	0.123	3-Mar-04	0.522	0.59%	3	3	0.9404	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P19	41.3	0.143	9-Mar-04	0.539	7.29%	3	4	0.9586	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P20	37.7	0.131	9-Mar-04	0.535	0.73%	2	4	0.9731	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P21	42.7	0.148	16-Mar-04	0.563	0.59%	2	3	0.9849	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P22	38.9	0.135	16-Mar-04	0.548	0.03%	3	4	0.9759	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P23	43.4	0.150	23-Mar-04	0.632	3.43%	3	4	0.9714	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P24	42.1	0.146	23-Mar-04	0.707	2.19%	2	4	0.9858	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P25	52.7	0.183	30-Mar-04	0.667	2.75%	2	5	0.9661	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P26	43.0	0.149	30-Mar-04	0.623	0.88%	3	3	0.9556	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P27	45.9	0.159	6-Apr-04	0.521	2.17%	2	4	0.9766	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P28	43.9	0.152	6-Apr-04	0.614	1.41%	3	4	0.9785	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P29	46.3	0.161	13-Apr-04	0.477	4.37%	3	5	0.9579	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P30	43.1	0.149	13-Apr-04	0.609	1.67%	1	5	0.9420	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P31	44.1	0.153	20-Apr-04	0.473	5.99%	1	5	0.9456	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P32	39.4	0.136	20-Apr-04	0.481	2.79%	3	4	0.9762	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P33	44.8	0.155	27-Apr-04	0.434	8.49%	2	4	0.9548	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P34	42.1	0.146	27-Apr-04	0.448	8.96%	3	4	0.9624	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P35	49.3	0.171	4-May-04	0.611	1.23%	3	4	0.9828	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P36	42.4	0.147	4-May-04	0.680	4.09%	2	4	0.9626	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P37	44.8	0.155	11-May-04	0.588	2.31%	2	5	0.9713	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P38	43.2	0.150	11-May-04	0.682	3.69%	3	4	0.9645	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P39	37.8	0.131	18-May-04	0.418	7.64%	3	4	0.9578	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P40	37.0	0.128	18-May-04	0.408	1.70%	2	4	0.9541	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P41	45.0	0.156	25-May-04	0.506	2.77%	2	5	0.9772	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P42	42.1	0.146	25-May-04	0.575	1.65%	2	4	0.9733	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P43	42.8	0.148	15-Jun-04	0.698	6.20%	3	4	0.9689	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P44	42.2	0.146	15-Jun-04	0.695	8.92%	4	4	0.9648	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P45	45.9	0.159	22-Jun-04	0.561	1.81%	3	5	0.9718	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P46	46.1	0.160	22-Jun-04	0.650	1.33%	2	5	0.9772	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P47	40.2	0.139	29-Jun-04	0.421	8.18%	4	4	0.9603	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P48	37.6	0.130	29-Jun-04	0.468	10.36%	3	4	0.9512	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P49	40.2	0.139	13-Jul-04	0.325	12.65%	4	4	0.9524	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P50	NA	NA	20-Jul-04	0.414	4.06%	1	1	NA	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P51	NA	NA	20-Jul-04	0.414	16.20%	1	5	NA	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range; % VC difference > 15;
SLS-P52	NA	NA	27-Jul-04	0.471	14.02%	3	1	NA	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P53	NA	NA	27-Jul-04	0.555	8.43%	5	1	NA	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P54	44.1	0.153	10-Aug-04	0.797	1.55%	3	5	0.9653	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P55	45.1	0.156	10-Aug-04	0.658	5.46%	3	4	0.9570	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P56	NA	NA	17-Aug-04	0.372	34.25%	2	5	NA	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	PC failed; % VC difference > 15
SLS-P57	40.4	0.140	17-Aug-04	0.523	6.59%	4	4	0.9579	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P58	47.1	0.163	24-Aug-04	0.477	4.19%	2	5	0.9215	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P59	40.6	0.141	24-Aug-04	0.462	7.30%	4	4	0.9589	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P60	53.7	0.186	31-Aug-04	0.754	3.56%	2	6	0.8457	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P61	60.1	0.208	31-Aug-04	0.726	3.36%	2	6	0.9203	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	NO	IC50 out of range
SLS-P62	43.4	0.150	14-Sep-04	0.635	5.64%	2	5	0.9006	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P63	41.4	0.144	14-Sep-04	0.625	6.52%	2	5	0.9614	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P64	37.4	0.130	28-Sep-04	0.473	6.10%	3	4	0.9400	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P65	38.8	0.135	28-Sep-04	0.394	4.91%	3	4	0.9681	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P66	37.0	0.128	5-Oct-04	0.520	3.86%	2	4	0.9495	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P67	33.4	0.116	5-Oct-04	0.554	4.23%	3	3	0.9603	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P68	42.7	0.148	19-Oct-04	0.472	0.62%	2	5	0.9632	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P69	43.6	0.151	19-Oct-04	0.349	0.38%	1	5	0.9659	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P70	39.7	0.138	26-Oct-04	0.468	3.33%	3	4	0.9687	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P71	44.9	0.156	27-Oct-04	0.504	3.38%	2	3	0.9416	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P72	45.8	0.159	2-Nov-04	0.517	1.76%	3	5	0.9405	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P73	45.7	0.158	2-Nov-04	0.517	0.08%	2	5	0.9685	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	
SLS-P74	46.6	0.161	16-Nov-04	0.510	0.42%	2	5	0.9461	80.0, 66.1, 54.6, 45.2, 37.3, 30.8, 25.5, 21.1	1.21	YES	

FAL

Phase Ia

B1(1a/3T3/DF1/FAL/SLS)	53.9	0.187	3-Sep-02	0.402	11.18%	0	1	0.9577	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B2(1a/3T3/DF2/FAL/SLS)	NA	NA	3-Sep-02	0.419	15.17%	1	1	0.7691	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	Bad values for 6.3 ug/mL wells. VC difference > 15%.
B3(1a/3T3/DF3/FAL/SLS)	50.8	0.176	3-Sep-02	0.420	3.73%	0	1	0.9583	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B4(1a/3T3/DF4/FAL/SLS)	44.4	0.154	3-Sep-02	0.490	2.60%	1	1	0.9800	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	
B5(1a/3T3/DF5/FAL/SLS)	51.0	0.177	3-Sep-02	0.503	8.01%	0	1	0.9812	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B6(1a/3T3/DF6/FAL/SLS)	49.8	0.173	3-Sep-02	0.441	6.29%	1	0	0.9517	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 50 & 90% viability.
B7(1a/3T3/DF7/FAL/SLS)	54.2	0.188	4-Sep-02	0.408	5.64%	0	1	0.8134	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B8(1a/3T3/DF8/FAL/SLS)	50.2	0.174	4-Sep-02	0.337	34.90%	0	1	0.8010	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	VC difference > 15%. No point between 10 & 50% viability
B9(1a/3T3/DF9/FAL/SLS)	52.1	0.181	4-Sep-02	0.484	0.79%	0	1	0.9657	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B10(1a/3T3/DF10/FAL/SLS)	52.5	0.182	4-Sep-02	0.459	7.20%	0	1	0.9389	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
B11(1a/3T3/DF11/FAL/SLS)	46.4	0.161	4-Sep-02	0.509	6.94%	0	3	0.9422	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	No point between 10 & 50% viability
1a/3T3/DF14/FAL/SLS	23.0	0.080	18-Sep-02	0.900	3.51%	1	3	0.8277	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	Inadequate curve fit.
1a/3T3/DF15/FAL/SLS	46.7	0.162	18-Sep-02	0.547	7.61%	1	0	0.9736	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	No point between 50 & 90% viability

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
1a/3T3/DF16/FAL/SLS	42.4	0.147	18-Sep-02	0.590	21.70%	1	0	0.9833	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	VC difference > 15%. No point between 50 & 90% viability.
1a/3T3/DF17/FAL/SLS	46.6	0.161	18-Sep-02	0.442	4.00%	1	0	0.8646	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	No point between 50 & 90% viability
1a/3T3/DF18/FAL/SLS	22.6	0.078	18-Sep-02	0.920	4.36%	2	3	0.8319	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	Inadequate curve fit.
1a/3T3/DF19/FAL/SLS	23.1	0.080	18-Sep-02	0.936	4.30%	1	3	0.8350	150, 102, 69.4, 47.2, 32.1, 21.9, 14.9, 10.1	1.47	NO	Inadequate curve fit.
1a/3T3/DF28/FAL/SLS	48.0	0.166	22-Oct-02	0.488	9.05%	0	1	0.9570	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No point between 10 & 50% viability
1a/3T3/DF29/FAL/SLS	50.7	0.176	22-Oct-02	0.579	10.46%	0	3	0.8773	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No point between 10 & 50% viability
1a/3T3/DF30/FAL/SLS	42.0	0.146	23-Oct-02	0.768	6.31%	1	3	0.9433	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	YES	
1a/3T3/DF31/FAL/SLS	46.8	0.162	23-Oct-02	0.795	2.60%	0	4	0.9321	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No point between 10 & 50% viability
1a/3T3/DF32/FAL/SLS	49.0	0.170	23-Oct-02	0.784	0.24%	0	1	0.9725	100, 68.0, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	No point between 10 & 50% viability
1a3T3DF33FALSLS	48.9	0.169	30-Oct-02	0.676	2.03%	1	2	0.9532	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF34FALSLS	48.0	0.166	30-Oct-02	0.636	4.77%	1	2	0.9788	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF35FALSLS	48.7	0.169	30-Oct-02	0.684	2.23%	1	2	0.9811	100, 76.9, 59.2, 45.5, 35, 26.9, 20.7, 15.9	1.30	YES	
1a3T3DF36FALSLS	53.0	0.184	30-Oct-02	0.545	4.83%	1	1	0.8486	100, 76.9, 59.2, 45.5, 35, 26.9, 20.7, 15.9	1.30	NO	Inadequate curve fit.
1a3T3DF37FALSLS	50.8	0.176	31-Oct-02	0.660	1.09%	1	3	0.9261	100, 76.9, 59.2, 45.5, 35, 26.9, 20.7, 15.9	1.30	YES	
1a3T3DF38FALSLS+	51.4	0.178	31-Oct-02	0.612	9.54%	1	4	0.9057	100, 76.9, 59.2, 45.5, 35, 26.9, 20.7, 15.9	1.30	YES	
1a3T3DF39FALSLS	51.3	0.178	31-Oct-02	0.630	0.19%	1	2	0.9749	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF40FALSLS	52.5	0.182	31-Oct-02	0.669	6.97%	1	1	0.9879	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF41FALSLS+	47.1	0.163	5-Nov-02	0.581	3.57%	1	3	0.9757	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF42FALSLS	46.8	0.162	5-Nov-02	0.564	11.34%	1	3	0.9468	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF43FALSLS	36.6	0.127	6-Nov-02	0.649	6.40%	1	3	0.8929	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF44FALSLS+	44.8	0.155	6-Nov-02	0.605	1.06%	2	3	0.9258	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF45FALSLS	40.7	0.141	12-Nov-02	0.618	0.88%	1	3	0.9756	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF46FALSLS	42.3	0.147	12-Nov-02	0.665	0.86%	1	3	0.9599	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
1a3T3DF47FALSLS	42.1	0.146	12-Nov-02	0.674	3.71%	1	2	0.9811	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF48FALSLS	37.9	0.131	13-Nov-02	0.531	15.94%	2	3	0.8139	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	NO	VC difference > 15%.
1a3T3DF49FALSLS	38.7	0.134	13-Nov-02	0.561	14.96%	1	3	0.8648	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF50FALSLS	40.6	0.141	13-Nov-02	0.533	11.42%	2	3	0.9179	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF51FALSLS	40.3	0.140	20-Nov-02	0.689	0.29%	1	3	0.9478	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF52FALSLS	42.5	0.147	20-Nov-02	0.780	1.37%	1	3	0.9682	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1a3T3DF53FALSLS	39.9	0.138	20-Nov-02	0.692	7.30%	2	3	0.9403	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
Phase Ib												
1b3T3CRT1FALSLS	34.4	0.119	4-Dec-02	0.618	16.76%	3	2	0.8479	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	NO	VC difference > 15%
1b3T3CTR2FALSLS	48.8	0.169	10-Dec-02	0.545	6.73%	1	2	0.9409	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1b3T3CTRFALSLS	24.5	0.085	17-Dec-02	0.453	1.97%	1	0	0.8653	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	NO	IC50 out of range; no points between 50 & 90% viability
1b3T3CTRFALSLS	43.5	0.151	7-Jan-03	0.597	2.23%	1	2	0.9631	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1b3T3CTRFALSLS	50.9	0.176	8-Jan-03	0.271	14.37%	1	1	0.9136	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	NR crystals in plate; stopped after 1 h
1b3T3CRTFALSLS	43.2	0.150	14-Jan-03	0.625	3.68%	1	3	0.9163	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1b3T3CRT2FALSLS	32.4	0.112	14-Jan-03	0.417	5.55%	1	2	0.9377	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
1b3T3CRTFALSLS	70.1	0.243	15-Jan-03	0.432	2.31%	1	2	0.9000	82.6, 67.7, 56.0, 42.29, 38.25, 31.61, 26.13,21.59	1.21	YES	IC50 out of range
1b3T3CRTFALSLS	35.3	0.122	21-Jan-03	0.651	1.86%	1	2	0.9727	100.00, 82.64, 68.30, 56.45, 46.65, 38.55, 31.86, 26.33	1.21	YES	
1b3T3CRTFALSLS	38.1	0.132	28-Jan-03	0.181	17.95%	1	0	0.9716	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	NO	NR crystals in plate; stopped after 1 h; VC difference > 15%; no point between 50 & 90% viability
1b3T3CRTFALSLS	58.7	0.204	29-Jan-03	0.646	8.07%	0	2	0.9573	100, 68.02, 46.28, 31.48, 21.42, 14.57, 9.91, 6.74		NO	No point between 10 & 50% viability
1b3T3CRTFALSLS	44.3	0.154	4-Feb-03	0.662	0.79%	1	1	0.9848	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
1b3T3CRTFALSLS	36.8	0.128	5-Feb-03	0.566	1.65%	1	1	0.9867	100, 82.645, 68.301, 56.447, 46.651, 38.554, 31.863, 26.333	1.21	YES	
1b3T3CRTFALSLS	48.0	0.166	26-Feb-03	0.310	15.17%	1	2	0.9457	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
Phase II												
A1SLS190603	49.1	0.170	17-Jun-03	1.031	2.49%	2	5	0.7802	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	r2 too low
FAL.3T3.SLS2.A1.200603	54.6	0.189	18-Jun-03	0.684	6.26%	4	3	0.9851	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.A2.26.06.03	50.8	0.176	24-Jun-03	0.483	3.45%	3	4	0.9788	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.A2.27.06.03	50.7	0.176	25-Jun-03	0.564	0.19%	2	2	0.9878	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.B1.03.07.03	57.5	0.199	1-Jul-03	0.516	7.13%	1	4	0.9913	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	IC50 out of range
FAL.3T3.SLS.04.07.03	55.8	0.193	2-Jul-03	0.562	4.86%	4	3	0.9788	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	IC50 out of range
FAL.3T3.SLS.10.07.03	52.5	0.182	8-Jul-03	0.640	0.86%	2	3	0.9794	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.11.07.03	50.6	0.175	9-Jul-03	0.533	2.92%	2	3	0.9869	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.17.07.03	50.2	0.174	15-Jul-03	0.708	0.81%	2	3	0.9905	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.18.07.03	43.2	0.150	16-Jul-03	0.502	5.68%	2	3	0.9763	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.25.07.03	47.6	0.165	23-Jul-03	0.435	5.81%	1	2	0.9633	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.070803	30.5	0.106	5-Aug-03	0.725	0.11%	7	1	0.9204	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	IC50 out of range
FAL.3T3.SLS.080803	36.2	0.126	6-Aug-03	0.463	1.17%	5	3	0.7811	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	low r2
FAL.3T3.SLS.120903	39.4	0.137	10-Sep-03	0.768	4.53%	3	4	0.8322	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.180903	45.2	0.157	16-Sep-03	0.401	0.69%	4	3	0.9582	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.190903	45.0	0.156	17-Sep-03	0.377	0.62%	1	2	0.9790	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.250903	35.7	0.124	23-Sep-03	0.379	4.55%	3	2	0.9738	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.031003	51.2	0.178	1-Oct-03	0.596	5.23%	2	4	0.9344	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.171003	37.5	0.130	15-Oct-03	0.398	9.90%	3	2	0.9763	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.301003	49.8	0.173	28-Oct-03	0.310	12.63%	4	1	0.9702	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
FAL.3T3.SLS.301003 (should be 311003)	39.6	0.137	29-Oct-03	0.313	8.62%	3	3	0.9886	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
Phase III												
FAL.3T3.SLS.080104	55.0	0.191	6-Jan-04	0.615	0.20%	4	4	0.9771	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.09/01/04	53.3	0.185	7-Jan-04	0.592	7.04%	4	4	0.9727	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.15/01/04	67.0	0.232	13-Jan-04	0.841	1.98%	2	6	0.8901	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	IC50 out of range
FAL.3T3.SLS.16/01/04	30.4	0.105	14-Jan-04	1.161	0.39%	6	2	0.8932	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.22/01/04	35.7	0.124	20-Jan-04	0.382	7.11%	3	2	0.9685	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL3T3.23-01-04	30.8	0.107	21-Jan-04	0.792	2.31%	2	2	0.9194	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL3T3.SLS.29-01-04	41.4	0.144	27-Jan-04	0.467	0.43%	5	3	0.9671	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.29/01/04	44.3	0.153	28-Jan-04	0.453	1.44%	4	4	0.9721	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.5/02/04	26.9	0.093	3-Feb-04	0.417	2.14%	4	0	0.9317	100, 82.6, 68.5, 56.5, 46.7, 38.6, 31.9, 26.4	1.21	NO	recalculated values: IC50 out of range; no points between 50-100
FAL.3T3.SLS.06/02/04	38.8	0.135	4-Feb-04	0.427	4.23%	5	3	0.9136	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL3T3.SLS.25.02.04	47.9	0.166	23-Feb-04	0.637	2.29%	3	4	0.9829	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.17/03/04	49.8	0.173	15-Mar-04	0.356	5.91%	4	3	0.9831	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.01/04/04	44.0	0.152	30-Mar-04	0.404	1.46%	2	2	0.9593	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.29/04/04	42.3	0.147	27-Apr-04	0.310	2.34%	3	5	0.9881	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.30/04/04	31.3	0.108	28-Apr-04	0.249	4.22%	6	1	0.9874	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.06/05/04	40.7	0.141	4-May-04	0.320	9.70%	2	3	0.9897	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.07/05/04	40.2	0.139	5-May-04	0.313	0.03%	3	3	0.9865	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.20/05/04	45.2	0.157	18-May-04	0.422	3.24%	2	3	0.9797	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.21.05.04	32.7	0.114	19-May-04	0.337	0.94%	2	2	0.9720	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.27/05/04	44.2	0.153	25-May-04	0.406	5.89%	3	3	0.9466	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.24.06.04	40.6	0.141	22-Jun-04	0.434	3.69%	4	3	0.9826	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
FAL.3T3.SLS.08.07.04	39.7	0.138	6-Jul-04	0.324	7.16%	2	3	0.9659	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.09.07.04	40.3	0.140	7-Jul-04	0.408	2.92%	2	3	0.9765	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.16.07.04	35.6	0.124	14-Jul-04	0.402	5.43%	2	2	0.9676	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.17.09.04	40.3	0.140	15-Sep-04	0.411	1.89%	3	3	0.9796	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.23.09.04	40.7	0.14126	21-Sep-04	0.333	2.60%	2	3	0.9718	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.14.10.04	42.9	0.14860	12-Oct-04	0.320	5.42%	3	2	0.9901	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	
FAL.3T3.SLS.04.11.04	39.9	0.13836	2-Nov-04	0.259	2.51%	4	3	0.9816	100, 82.6, 68.3, 56.4, 46.7, 38.6, 31.9, 26.3	1.21	YES	

IIVS

Phase Ia

B1	NA	NA	24-Aug-02	0.306	17.18%	1	0	0.5129	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	VC difference > 15%. No points between 50 & 90% viability.
B2	53.7	0.186	24-Aug-02	0.280	38.89%	1	0	0.3966	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	VC difference > 15%. No points between 50 & 90% viability.
B3	34.7	0.120	25-Aug-02	0.452	1.92%	0	1	0.9877	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 50% viability.
B4	34.2	0.119	25-Aug-02	0.428	4.07%	0	3	0.9664	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 50% viability.
B5	35.9	0.125	26-Aug-02	0.409	3.71%	0	1	0.9872	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 50% viability.
B6	39.0	0.135	26-Aug-02	0.382	0.09%	0	0	0.9649	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 90% viability.
B7	35.7	0.124	27-Aug-02	0.302	2.98%	0	2	0.9773	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 50% viability.
B8	36.1	0.125	27-Aug-02	0.299	6.86%	0	1	0.9792	100, 56.2, 31.6, 17.8, 10, 5.63, 3.17, 1.78	1.78	NO	No points between 10 & 50% viability.
B9	41.5	0.144	29-Aug-02	0.342	6.02%	1	1	0.9831	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B10	45.1	0.156	29-Aug-02	0.358	1.51%	1	1	0.9664	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B11	43.8	0.152	30-Aug-02	0.366	4.26%	1	0	0.9936	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	NO	No points between 50 & 90% viability.
B12	44.6	0.155	30-Aug-02	0.359	0.95%	1	1	0.9864	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B13	44.5	0.154	4-Sep-02	0.538	0.37%	1	1	0.9799	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B14	43.9	0.152	4-Sep-02	0.491	6.43%	1	1	0.9869	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B15	37.8	0.131	5-Sep-02	0.357	9.90%	1	1	0.9906	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B16	40.4	0.140	5-Sep-02	0.336	10.55%	1	1	0.9832	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B17	39.7	0.138	6-Sep-02	0.464	2.31%	1	2	0.9780	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B18	38.1	0.132	6-Sep-02	0.426	11.25%	1	1	0.9910	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B19	36.7	0.127	7-Sep-02	0.378	4.90%	1	1	0.9928	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B20	36.5	0.127	7-Sep-02	0.354	12.49%	1	1	0.9954	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
B21	46.7	0.162	8-Sep-02	0.453	0.44%	0	2	0.9800	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	NO	No points between 10 & 50% viability.
B22	41.8	0.145	8-Sep-02	0.439	0.63%	1	1	0.9802	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10, 6.8	1.47	YES	
Phase Ib												
A1 Preliminary	41.1	0.143	15-Jan-03	0.389	8.42%	1	1	0.9890	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	YES	
B1	43.5	0.151	22-Jan-03	0.569	6.41%	1	1	0.9822	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	YES	
B2	44.8	0.155	29-Jan-03	0.514	2.88%	1	1	0.9830	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	YES	
B3	38.5	0.133	5-Feb-03	0.519	1.00%	1	1	0.9854	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	YES	
B4	49.4	0.171	12-Feb-03	0.548	10.23%	0	2	0.9770	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	NO	No points between 10 and 50%; IC50 out of range
B5	41.9	0.145	26-Feb-03	0.507	5.41%	1	1	0.9747	100, 68.1, 46.4, 31.6, 21.5, 14.7, 10.0, 6.81	1.47	YES	
Phase II												
A1	41.3	0.143	23-Jul-03	0.546	3.97%	1	3	0.9902	100, 66.7, 44.4, 29.6, 19.8, 13.2, 8.78, 5.85	1.50	YES	
B1	39.6	0.137	28-Jul-03	0.375	1.11%	1	5	0.9559	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
B2	38.8	0.135	29-Jul-03	0.529	5.36%	2	5	0.9711	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
B3	30.0	0.104	30-Jul-03	0.527	1.74%	1	4	0.9854	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	NO	IC50 out of range
B4	42.6	0.148	13-Aug-03	0.483	7.35%	1	5	0.9891	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
B5	39.1	0.136	16-Sep-03	0.510	6.44%	3	5	0.9568	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
B6	38.2	0.132	23-Sep-03	0.433	2.75%	1	5	0.9668	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B7	38.9	0.135	24-Sep-03	0.479	2.49%	1	5	0.9710	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
B8	45.2	0.157	1-Oct-03	0.547	3.52%	1	5	0.9798	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.5	1.40	YES	
Phase III												
A1	42.1	0.146	3-Feb-04	0.429	3.86%	2	5	0.9691	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
A2	42.4	0.147	10-Feb-04	0.494	0.10%	2	4	0.9874	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
A3	41.0	0.142	17-Feb-04	0.458	1.06%	1	4	0.9858	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
A4	37.2	0.129	9-Mar-04	0.417	7.26%	1	4	0.9893	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
A5	33.0	0.114	23-Mar-04	0.346	1.01%	2	3	0.9758	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B1	45.9	0.159	26-Jul-04	0.399	0.81%	1	5	0.9709	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
B2	44.5	0.154	27-Jul-04	0.379	5.70%	3	4	0.9828	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
B3	40.1	0.139	28-Jul-04	0.344	14.50%	2	5	0.9364	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
B4	42.2	0.146	23-Aug-04	0.493	3.37%	1	3	0.9874	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
B5	47.2	0.164	24-Aug-04	0.485	7.64%	2	2	0.9864	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B6	46.1	0.160	28-Sep-04	0.462	1.12%	1	4	0.9824	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B7	40.7	0.141	1-Oct-04	0.372	10.21%	1	5	0.9808	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B8	41.2	0.143	4-Oct-04	0.427	0.90%	1	4	0.9826	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B9	43.4	0.150	12-Oct-04	0.413	4.72%	1	5	0.9758	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B10	43.7	0.151	13-Oct-04	0.465	2.54%	2	5	0.9833	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	
B11	42.3	0.147	2-Nov-04	0.398	4.84%	1	3	0.9920	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B12	32.5	0.113	9-Nov-04	0.355	1.15%	1	3	0.9888	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B13	41.6	0.144	10-Nov-04	0.362	5.53%	1	4	0.9831	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	

3T3 NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] 3T3 Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B14	21.4	0.074	16-Nov-04	0.445	4.98%	3	3	0.9568	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	NO	IC50 out of range
B15	43.5	0.151	8-Dec-04	0.442	2.26%	1	3	0.9932	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B16	37.2	0.129	14-Dec-04	0.436	5.18%	1	5	0.9757	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B17	43.2	0.150	15-Dec-04	0.373	3.10%	1	3	0.9869	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49	1.40	YES	
B18	41.0	0.142	19-Jan-05	0.385	1.43%	1	3	0.9739	100, 71.4, 51.0, 36.4, 26.0, 18.6, 13.3, 9.49,	1.40	YES	

Abbreviations: NR=Neutral red; R&D=Research and development; PC=Positive control; C1 - C8=Concentration series applied to the the cells. C1 is the highest concentration and C8 is lowest; NA=Not Available; RC=Registry of Cytotoxicity;
[1] PC test ID
[2] Mean OD value for all VC wells in test plate
[3] Difference of right and left VC column of wells in the test plate
[4] % Viability values between 0 and 50% viability; test acceptance criterion; Phases Ia and Ib = number of points between 10 - 50%
[5] % Viability values between 50 and 100% viability; test acceptance criterion; Phases Ia and Ib = number of points between 50 - 90%
[6] Calculated value from the Prism® software
[7] Reference substance concentrations applied to the cells
[8] Step-wise dilution factor
[9] Determination whether test meets or doesn't meet test acceptance criteria
Shaded boxes identify values that do not meet the specific test acceptance criteria

Acceptance Limits for PC IC_{50}

Phase	ECBC (ug/mL)	FAL (ug/mL)	IIVS (ug/mL)
Ib (3T3)	28.8 – 47.7	25.2 – 59.5	34.5 – 47.3
II (3T3)	26.4 – 56.3	31.5 – 54.9	33.6 – 50.6
III (3T3)	30.8 – 51.6	27.2 – 64.7	31.8 – 49.3

Appendix I4

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

[This Page Intentionally Left Blank]

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
ECBC												
Phase Ia												
SLS-B1	5.47	0.019	12-Aug-02	0.559	13.30%	1	0	0.9772	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	26% highest viability. No points between 50 & 90% viability.
SLS-B2	5.92	0.021	12-Aug-02	0.782	3.07%	1	0	0.9717	100, 68, 46.3, 31.5, 21.4, 14.6, 9.9, 6.7	1.47	NO	32% highest viability. No points between 50 & 90% viability.
SLS-B3	3.40	0.012	12-Sep-02	0.285	21.73%	3	0	0.8182	50, 34, 23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4	1.47	NO	VC difference > 15%. No points between 50 & 90% viability.
SLS-B4	3.91	0.014	12-Sep-02	0.369	3.41%	3	0	0.8615	50, 34, 23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4	1.47	NO	No points between 50 & 90% viability.
SLS-B5	7.02	0.024	9-Sep-02	2.277	5.94%	1	4	0.9229	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B6	4.77	0.017	9-Sep-02	1.898	5.47%	2	4	0.8750	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B7)	4.90	0.017	9-Sep-02	2.301	2.51%	2	3	0.9331	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B8	5.61	0.019	9-Sep-02	2.312	4.42%	2	4	0.9273	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	NO	< 8 of 12 vehicle control replicates.
SLS-B9	6.65	0.023	10-Sep-02	1.181	6.10%	1	5	0.8680	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B10	3.71	0.013	10-Sep-02	1.007	7.50%	4	2	0.9338	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B11	3.84	0.013	9-Sep-02	1.531	11.76%	3	3	0.9413	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B12 (no re-feed)	4.10	0.014	16-Sep-02	0.763	7.92%	2	3	0.9683	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B13 (re-feed)	2.78	0.010	16-Sep-02	0.404	10.90%	3	2	0.9131	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B14 (no re-feed)	2.82	0.010	16-Sep-02	0.924	0.12%	3	2	0.9583	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B15 (re-feed)+	3.42	0.012	16-Sep-02	0.271	2.12%	3	2	0.8829	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B16 (no re-feed)	2.71	0.009	23-Sep-02	0.313	9.38%	2	2	0.9026	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B17 (re-feed)+	3.13	0.011	23-Sep-02	0.078	14.92%	2	2	0.7987	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	NO	Inadequate curve fit.
SLS-B18 (no re-feed)	3.19	0.011	23-Sep-02	0.258	19.12%	3	2	0.8196	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	NO	VC difference > 15%.
SLS-B19 (re-feed)	3.19	0.011	23-Sep-02	0.079	4.56%	2	3	0.6930	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	NO	Inadequate curve fit.
SLS-B20	3.48	0.012	9-Oct-02	0.892	1.31%	2	3	0.9455	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	
SLS-B21	3.17	0.011	9-Oct-02	0.863	0.47%	3	2	0.9539	23.2, 15.8, 10.7, 7.3, 5, 3.4, 2.3, 1.6	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
Phase Ib												
ECBC-NHK-Ib-01 SLS-P2	3.98	0.014	23-Jan-03	0.861	0.42%	1	4	0.9559	20, 13.6, 9.25, 6.28, 4.27, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-01 SLS-P1	4.57	0.016	23-Jan-03	0.788	2.50%	2	4	0.9326	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-02 SLS-P3	2.20	0.008	28-Jan-03	1.023	6.41%	2	2	0.9391	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-03 SLS-P4	3.16	0.011	3-Feb-03	1.135	1.67%	2	3	0.9623	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-04 SLS-P5	3.76	0.013	10-Feb-03	1.267	0.53%	2	2	0.9559	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-05 SLS-P7	3.75	0.013	24-Feb-03	1.154	1.28%	2	3	0.9757	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-05 SLS-P6	3.92	0.014	24-Feb-03	1.135	4.94%	1	4	0.9316	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
ECBC-NHK-Ib-06 SLS-P8	3.05	0.011	17-Mar-03	0.964	7.32%	2	3	0.9603	20, 13.6, 9.24, 6.28, 4.26, 2.90, 1.97, 1.34	1.47	YES	
Phase II												
SLS-P1	2.78	0.010	16-Jun-03	0.610	5.82%	4	2	0.9491	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P2	2.76	0.010	16-Jun-03	0.671	11.64%	6	2	0.9346	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P3	2.38	0.008	23-Jun-03	0.583	2.99%	6	2	0.9074	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P4	2.46	0.009	23-Jun-03	0.607	0.81%	3	2	0.9167	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P5	1.96	0.007	30-Jun-03	0.380	4.50%	7	1	0.8647	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P7	2.38	0.008	7-Jul-03	1.023	4.31%	6	2	0.8829	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P8	2.34	0.008	7-Jul-03	0.967	1.28%	6	2	0.9475	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P9	2.76	0.010	14-Jul-03	1.054	5.19%	6	2	0.8590	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P10	2.53	0.009	14-Jul-03	0.950	3.83%	6	2	0.9316	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P11	6.64	0.023	21-Jul-03	0.823	4.52%	3	4	0.9677	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	NO	IC50 out of range
SLS-P12	5.75	0.020	21-Jul-03	0.748	1.27%	3	5	0.9376	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P13	7.88	0.027	28-Jul-03	0.088	4.75%	3	1	0.7990	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	NO	IC50 out of range
SLS-P15	3.00	0.010	25-Aug-03	0.139	7.92%	4	3	0.8397	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P16	3.55	0.012	31-Aug-03	0.660	0.75%	4	4	0.8686	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P17 sealer	3.64	0.013	31-Aug-03	0.642	4.51%	4	4	0.9055	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	NO	R&D experiment
SLS-P18	3.50	0.012	1-Sep-03	0.471	7.27%	4	3	0.9184	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P19	2.68	0.009	2-Sep-03	0.761	0.66%	6	2	0.9106	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
SLS-P20	3.14	0.011	2-Sep-03	0.761	6.29%	4	4	0.8461	20.0, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.3	1.47	YES	
Phase III												
SLS-P1	2.71	0.009	14-Jan-04	0.602	1.54%	6	2	0.9562	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P2	2.41	0.008	14-Jan-04	0.593	2.01%	5	2	0.9500	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P3	2.75	0.010	4-Feb-04	0.514	2.25%	5	3	0.9521	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P4	3.48	0.012	4-Feb-04	0.545	2.19%	5	3	0.9372	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P5	2.87	0.010	9-Feb-04	0.400	20.23%	6	2	0.9787	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	NO	% VC difference >15
SLS-P6	2.95	0.010	9-Feb-04	0.582	1.37%	5	3	0.9743	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P7	4.26	0.015	22-Mar-04	1.064	1.54%	4	4	0.9309	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P8	4.65	0.016	22-Mar-04	1.026	2.48%	4	4	0.9055	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P9	5.62	0.019	29-Mar-04	1.172	6.87%	3	5	0.9149	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P10	5.19	0.018	29-Mar-04	1.211	2.79%	3	5	0.8495	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P11	3.27	0.011	5-Apr-04	0.760	3.46%	5	3	0.9345	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P12	3.07	0.011	12-Apr-04	0.781	2.78%	5	3	0.9583	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P13	2.64	0.009	12-Apr-04	0.847	1.72%	6	2	0.9227	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P14	3.09	0.011	19-Apr-04	0.911	3.10%	5	3	0.9541	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P15	2.39	0.008	19-Apr-04	0.840	2.00%	5	2	0.9495	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P16	2.57	0.009	26-Apr-04	0.594	0.48%	6	2	0.9722	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P17	2.59	0.009	26-Apr-04	0.507	1.33%	6	2	0.9605	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P18	2.36	0.008	3-May-04	0.667	2.30%	4	3	0.9382	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P19	3.28	0.011	3-May-04	0.786	0.06%	5	3	0.9557	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P20	2.10	0.007	10-May-04	0.684	2.79%	6	2	0.9517	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P21	2.71	0.009	10-May-04	0.591	0.47%	5	2	0.9609	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P22	3.62	0.013	24-May-04	0.967	0.75%	4	4	0.9317	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P23	3.57	0.012	24-May-04	0.944	1.32%	4	4	0.9164	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P24	1.78	0.006	14-Jun-04	0.623	4.06%	6	1	0.9431	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P25	2.37	0.008	14-Jun-04	0.523	5.18%	6	2	0.9303	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P26	3.46	0.012	21-Jun-04	0.901	0.40%	4	4	0.8960	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P27	3.41	0.012	21-Jun-04	1.021	0.50%	4	4	0.9365	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P28	2.45	0.008	28-Jun-04	0.946	1.45%	6	2	0.9476	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P29	2.34	0.008	28-Jun-04	0.918	3.97%	6	2	0.9517	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P30	2.65	0.009	6-Jul-04	0.784	0.62%	5	3	0.9483	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P31	2.85	0.010	6-Jul-04	0.673	0.82%	4	3	0.9655	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P32	2.53	0.009	12-Jul-04	0.626	2.25%	6	2	0.9348	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P33	2.28	0.008	12-Jul-04	0.756	2.45%	6	2	0.9521	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P34	2.58	0.009	19-Jul-04	0.759	0.59%	5	2	0.9536	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P35	2.71	0.009	19-Jul-04	0.781	1.21%	5	3	0.9599	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P36	2.72	0.009	26-Jul-04	0.373	0.31%	4	3	0.9411	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P37	2.50	0.009	26-Jul-04	0.427	1.21%	6	2	0.9482	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P38	3.26	0.011	2-Aug-04	0.628	12.01%	3	4	0.8904	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P39	2.59	0.009	2-Aug-04	0.839	3.43%	5	3	0.9302	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P40	2.74	0.010	9-Aug-04	0.632	3.96%	5	3	0.9279	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P41	2.90	0.010	9-Aug-04	0.663	2.35%	5	3	0.9480	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P42	2.94	0.010	16-Aug-04	0.697	0.23%	5	2	0.9599	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P43	3.04	0.011	16-Aug-04	0.751	0.50%	5	3	0.9240	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P44	2.46	0.009	23-Aug-04	0.908	2.01%	6	2	0.9487	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P45	3.38	0.012	23-Aug-04	0.926	1.47%	5	3	0.9464	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P46	4.04	0.014	30-Aug-04	0.936	2.46%	4	4	0.9318	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P47	4.58	0.016	30-Aug-04	0.943	1.02%	4	4	0.8656	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P48	2.64	0.009	7-Sep-04	0.721	6.39%	5	3	0.9543	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P49	1.99	0.007	7-Sep-04	0.641	0.69%	4	2	0.9585	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
SLS-P50	2.99	0.010	13-Sep-04	1.123	3.25%	5	3	0.8908	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P51	3.72	0.013	13-Sep-04	1.042	0.19%	4	4	0.9217	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P52	2.70	0.009	27-Sep-04	0.529	1.54%	6	2	0.9508	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P53	2.76	0.010	27-Sep-04	0.604	1.75%	4	2	0.9270	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P54	3.45	0.012	4-Oct-04	0.745	0.79%	4	4	0.9265	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P55	3.12	0.011	4-Oct-04	0.639	5.10%	3	3	0.9318	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P56	3.77	0.013	18-Oct-04	0.826	1.61%	5	3	0.9471	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P57	3.02	0.010	25-Oct-04	0.612	1.55%	4	3	0.9690	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	
SLS-P58	2.83	0.010	26-Oct-04	0.155	8.34%	3	3	0.9318	20.0, 13.61, 9.26, 6.30, 4.28, 2.91, 1.98, 1.35	1.47	YES	

FAL

Phase Ia

B1(1a/NHK/DF4/FAL/SLS)	8.13	0.028	9-Sep-02	1.333	6.67%	1	2	0.9823	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B2(1a/NHK/DF5/FAL/SLS)	7.63	0.026	9-Sep-02	1.294	6.43%	1	2	0.9889	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B3(1a/NHK/DF6/FAL/SLS)+	8.06	0.028	9-Sep-02	1.289	6.39%	1	2	0.9839	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B4(1a/NHK/DF7/FAL/SLS)	4.62	0.016	9-Sep-02	1.169	13.44%	1	1	0.9683	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B5(1a/NHK/DF8/FAL/SLS)	5.23	0.018	9-Sep-02	1.089	9.96%	1	1	0.9645	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B6(1a/NHK/DF12/FAL/SLS)	5.19	0.018	9-Sep-02	1.184	9.32%	1	1	0.9253	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B7(1a/NHK/DF14/FAL/SLS)	6.72	0.023	11-Sep-02	0.333	0.73%	2	2	0.8307	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	NO	Inadequate curve fit.
B8(1a/NHK/DF15/FAL/SLS)	7.79	0.027	11-Sep-02	1.000	11.26%	1	1	0.9666	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B9(1a/NHK/DF16/FAL/SLS)	7.63	0.026	11-Sep-02	1.076	8.62%	1	2	0.9339	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
B10(1a/NHK/DF17/FAL/SLS)+	5.30	0.018	11-Sep-02	1.698	7.44%	1	1	0.9810	400, 200, 100, 50, 25, 12.5, 6.3, 3.1	2.00	YES	
1 (no re-feed)	7.70	0.027	23-Sep-02	1.534	4.79%	1	5	0.9328	20, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.4	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD
3 (no re-feed)	8.66	0.030	23-Sep-02	1.559	0.38%	1	5	0.9202	20, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.4	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD
2 (re-feed)	6.84	0.024	23-Sep-02	1.485	1.38%	1	3	0.9695	20, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.4	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
4 (re-feed)	5.60	0.019	23-Sep-02	1.301	14.78%	1	4	0.8851	20, 13.6, 9.3, 6.3, 4.3, 2.9, 2.0, 1.4	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD
5 (no re-feed)	8.26	0.029	25-Sep-02	1.122	9.11%	2	2	0.8930	25, 17, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD
6 (no re-feed)	11.75	0.041	25-Sep-02	0.633	16.43%	2	4	0.6280	25, 17, 11.6, 7.87, 5.35, 3.64, 2.48, 1.69	1.47	NO	405 nm OD subtracted from 540 nm OD. VC difference > 15%.
1a/NHK/DF23/FAL/SLS	3.33	0.012	22-Oct-02	0.246	8.25%	2	0	0.9216	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	NO	No point between 50 & 90% viability
1a/NHK/DF24/FAL/SLS	4.63	0.016	23-Oct-02	0.493	3.46%	2	1	0.9721	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	YES	
1a/NHK/DF25/FAL/SLS	3.22	0.011	23-Oct-02	0.393	41.08%	3	0	0.8731	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	NO	VC difference > 15%. No point between 50 & 90% viability.
1a/NHK/DF26/FAL/SLS	4.45	0.015	23-Oct-02	0.505	20.88%	2	1	0.9385	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	NO	VC difference > 15%.
1a/NHK/DF27/FAL/SLS	4.41	0.015	23-Oct-02	0.484	7.93%	2	1	0.9076	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	YES	
1a/NHK/DF28/FAL/SLS	6.66	0.023	24-Oct-02	0.693	1.54%	1	2	0.8672	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	YES	
1a/NHK/DF29/FAL/SLS	5.57	0.019	24-Oct-02	0.545	9.79%	1	1	0.9244	50, 34, 23, 15.7, 10.7, 7.3, 4.9, 3.4	1.47	YES	
1a/NHK/DF30/FAL/SLS	14.43	0.050	19-Nov-02	1.094	2.67%	1	6	0.6304	30.0, 23.08, 17.75, 13.65, 10.50, 8.08, 6.22, 4.78	1.30	NO	Inadequate curve fit.
1a/NHK/DF31/FAL/SLS+	13.38	0.046	19-Nov-02	1.354	3.71%	2	6	0.6670	30.0, 23.08, 17.75, 13.65, 10.50, 8.08, 6.22, 4.78	1.30	NO	Inadequate curve fit.
1a/NHK/DF32/FAL/SLS	13.37	0.046	19-Nov-02	0.890	3.18%	2	5	0.6136	30.0, 23.08, 17.75, 13.65, 10.50, 8.08, 6.22, 4.78	1.30	NO	Inadequate curve fit.
1a/NHK/DF33/FAL/SLS+	11.89	0.041	19-Nov-02	0.766	7.34%	3	3	0.8476	30.0, 23.08, 17.75, 13.65, 10.50, 8.08, 6.22, 4.78	1.30	YES	
Phase Ib												
A1 1b/NHKCTR1/FAL/SLS	3.74	0.013	11-Dec-02	0.164	7.05%	1	1	0.9725	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A2 1b/NHKCTR2/FAL/SLS	6.46	0.022	13-Dec-02	0.743	9.94%	1	5	0.8017	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A3 1b/NHK/CTR4/FAL / recalculated w/o outlier	4.88	0.017	14-Jan-03	0.086	3.20%	2	4	0.7526	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	NO	$R^2 < 0.8$

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
A4 1b/NHK/CTR5/FAL	3.12	0.011	15-Jan-03	0.146	3.42%	2	1	0.8444	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A5 1b/NHK/CTR6/FAL	NC	#VALUE!	17-Jan-03	0.003	286.96%	1	0	NC	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	NO	VC difference > 15%; no point between 50 & 90%; no R^2 or ICx
A6 1b/NHK/CTR7/FAL	7.80	0.027	27-Jan-03	1.210	2.15%	2	2	0.9626	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A8 1b/NHK/CTR9/FAL	5.48	0.019	3-Feb-03	0.935	12.58%	1	4	0.9362	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A9 1b/NHK/CTR10/FAL	4.12	0.014	4-Feb-03	0.648	23.68%	2	4	0.7160	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	NO	VC difference > 15%; R^2 < 0.8
A10 1b/NHK/CTR11/FAL	3.92	0.014	19-Mar-03	1.068	6.94%	2	3	0.8868	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A11 1b/NHK/CTR12/FAL	5.08	0.018	20-Mar-03	1.542	0.79%	3	3	0.8792	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
A12 1b/NHK/CTR13/FAL/SLS	3.14	0.011	23-Mar-03	0.403	13.53%	3	1	0.8720	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
1b/NHK/CTR14/FAL/SLS	3.32	0.012	24-Mar-03	0.831	3.67%	1	2	0.9652	15, 11.54, 8.88, 6.83, 5.25, 4.04, 3.11, 2.39	1.30	YES	
1b/NHK/CTR15/FAL/SLS	2.91	0.010	2-May-03	0.973	0.92%	2	2	0.9586	15, 10.2, 6.94, 4.72, 3.21, 2.19, 1.49, 1.01	1.47	YES	
1b/NHK/DF1/FAL/SLS	4.52	0.016	2-May-03	0.843	5.43%	2	2	0.9229	10, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
Phase II												
FAL.NHK.SLS.30.07.03	3.10	0.011	7-Jul-03	1.114	4.61%	3	4	0.9350	12.0, 8.2, 5.6, 3.2, 2.6, 1.8, 1.2, 0.8	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.010803	1.34	0.005	30-Jul-03	0.609	2.17%	3	2	0.9358	12.0, 8.2, 5.6, 3.2, 2.6, 1.8, 1.2, 0.8	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.07.08.03	1.40	0.005	5-Aug-03	0.526	4.20%	4	2	0.9077	12.0, 8.2, 5.6, 3.2, 2.6, 1.8, 1.2, 0.8	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.08.08.03	1.74	0.006	6-Aug-03	0.810	2.34%	4	3	0.9517	12.0, 8.2, 5.6, 3.2, 2.6, 1.8, 1.2, 0.8	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.13.08.03	2.75	0.010	11-Aug-03	0.639	0.03%	4	4	0.3154	10, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	low r2
FAL.NHK.SLS.15.08.03	3.56	0.012	13-Aug-03	0.462	6.70%	3	5	0.8954	10, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.230803	3.03	0.011	21-Aug-03	0.401	0.35%	4	2	0.7230	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	NO	low r2
FAL.NHK.SLS.280803	3.45	0.012	26-Aug-03	0.454	2.31%	2	3	0.9372	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
FAL.NHK.SLS.050903	3.20	0.011	3-Sep-03	0.110	8.54%	2	3	0.9158	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.01.10.03	4.59	0.016	29-Sep-03	1.292	1.62%	2	6	0.9168	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.01.10.03	5.50	0.019	29-Sep-03	0.895	20.89%	2	5	0.9276	10, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	% VC difference >15
FAL.NHK.SLS.15.10.03	2.90	0.010	13-Oct-03	0.547	4.65%	3	5	0.8927	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.19.10.03	3.85	0.013	17-Oct-03	0.340	2.89%	3	5	0.9637	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.23.10.03	4.90	0.017	21-Oct-03	0.279	8.61%	3	2	0.7996	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.24.10.03	2.96	0.010	22-Oct-03	0.932	1.31%	3	5	0.9119	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.05.11.03	3.69	0.013	3-Nov-03	0.515	1.10%	3	5	0.8516	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.07.11.03	3.95	0.014	5-Nov-03	0.351	4.18%	3	3	0.9316	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.28.11.03	3.46	0.012	26-Nov-03	0.174	6.01%	3	5	0.9543	10, 6.8, 4.6, 3.14, 2.14, 1.5, 0.9, 0.68	1.47	YES	
Phase III												
FAL.NHK.SLS.11.02.04	5.28	0.018	9-Feb-04	1.131	1.33%	2	6	0.9062	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	bottom not set to 0
FAL.NHK.SLS.11.02.04	4.83	0.017	9-Feb-04	1.131	1.33%	2	6	0.8318	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	r2 < 0.85
FAL.NHK.SLS.13.02.03	3.63	0.013	11-Feb-04	0.106	6.36%	4	4	0.7409	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	r2 < 0.85
FAL.NHK.SLS.18.02.04	6.22	0.022	16-Feb-04	0.155	6.02%	2	2	0.4330	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	r2 < 0.85; IC50 out of range
FAL.NHK.SLS.20.02.03	2.24	0.008	18-Feb-04	0.254	1.35%	4	4	0.9233	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS/NB.26.02.03	3.25	0.011	24-Feb-04	0.292	4.37%	4	4	0.9347	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS/MO.26.02.03	4.04	0.014	24-Feb-04	0.280	4.67%	3	3	0.9265	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.27.02.03	2.78	0.010	25-Feb-04	0.472	3.50%	3	5	0.9173	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.18.03.03	4.48	0.016	16-Mar-04	0.424	2.34%	3	5	0.8934	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.19.03.03	2.76	0.010	17-Mar-04	0.555	1.67%	3	5	0.8882	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.25.03.03	2.93	0.010	23-Mar-04	0.584	8.67%	4	4	0.9493	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.26.03.04	3.96	0.014	24-Mar-04	0.593	3.86%	3	5	0.9244	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.28.04.03	3.06	0.011	26-Apr-04	0.762	0.95%	3	5	0.9561	10.0, 6.8, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
FAL.NHK.SLS.13.05.04	2.79	0.010	11-May-04	0.612	0.80%	4	4	0.9782	10, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.14.05.03	3.80	0.013	12-May-04	0.594	7.47%	3	3	0.9301	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.25.0	2.62	0.009	23-Jun-04	1.347	0.43%	4	4	0.8730	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.28.07.04	NA	NA	26-Jul-04	0.073	22.93%	2	5	0.7622	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	% VC differnece > 15; r2 too low
FAL.NHK.SLS.11.08.04	3.77	0.013	9-Aug-04	0.512	4.88%	3	5	0.8470	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.12.08.04	5.86	0.020	10-Aug-04	0.701	8.17%	2	1	0.9776	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	IC50 out of range
FAL.NHK.SLS-RB.19.08.04	4.49	0.016	17-Aug-04	0.337	0.10%	3	1	0.7397	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	r2 too low
FAL.NHK.SLS-NB.19.08.04	1.85	0.006	17-Aug-04	0.537	10.04%	3	4	0.8589	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.20.08.04	3.70	0.013	18-Aug-04	0.738	8.90%	3	5	0.9750	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.25.08.04	3.56	0.012	23-Aug-04	0.991	2.23%	2	6	0.8697	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS-RB.20.08.04 (should be 25.08.04)	5.20	0.018	23-Aug-04	0.645	2.80%	2	1	0.8472	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.27.08.04	3.00	0.010	23-Aug-04	0.546	7.84%	3	5	0.8783	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.17.09.04	3.30	0.011	15-Sep-04	0.803	1.34%	3	5	0.9408	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.30.09.***03***	2.78	0.010	28-Sep-04	0.562	3.86%	3	4	0.9559	5000, 2326, 1082, 503, 234, 109, 50.6, 23.6	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.01.10.04	8.25	0.029	29-Sep-04	1.103	3.49%	1	7	0.9669	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	IC50 out of range
FAL.NHK.SLS.07.10.***03***	2.23	0.008	5-Oct-04	0.602	6.09%	4	4	0.9488	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
FAL.NHK.SLS.08.10.***03***	2.91	0.010	6-Oct-04	0.827	4.33%	3	5	0.9222	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.20.10.04	4.95	0.017	18-Oct-04	1.231	5.58%	2	6	0.9099	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.22.10.04 (NB)	3.62	0.013	20-Oct-04	0.675	0.86%	3	5	0.9405	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.28.10.04	3.39	0.012	26-Oct-04	0.641	7.85%	3	5	0.9366	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.29.10.04	2.33	0.008	27-Oct-04	0.502	1.46%	4	4	0.9531	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.03.11.04	3.19	0.011	1-Nov-04	0.447	8.60%	3	5	0.9331	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.05.11.04	2.16	0.007	3-Nov-04	0.538	0.62%	4	4	0.9467	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.10.11.04	4.07	0.014	8-Nov-04	1.011	0.89%	2	6	0.9210	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.12.11.04	3.76	0.013	10-Nov-04	0.742	3.04%	2	6	0.9085	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.17.11.04	4.04	0.014	15-Nov-04	1.050	1.74%	2	6	0.8732	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.19.11.04	3.91	0.014	17-Nov-04	0.509	4.62%	3	3	0.9793	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.24.11.04	4.09	0.014	22-Nov-04	1.124	2.91%	2	6	0.8654	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.26.11.04	3.00	0.010	24-Nov-04	0.620	1.45%	3	5	0.9524	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS(MO).10.12.04	6.02	0.021	8-Dec-04	1.017	1.35%	2	6	0.8137	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	YES	
FAL.NHK.SLS.10.12.04	4.18	0.014	8-Dec-04	0.928	0.25%	3	5	0.9170	10.0, 6.80, 4.63, 3.15, 2.14, 1.46, 0.99, 0.67	1.47	NO	IC50 out of range; low r2

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
IIVS												
Phase Ia												
B1	3.70	0.013	19-Aug-02	0.785	11.83%	1	5	0.8579	10, 5.6, 3.2, 1.8, 1.0, 0.6, 0.3, 0.2	1.79	YES	
B2	2.93	0.010	19-Aug-02	0.778	5.60%	1	6	0.8406	10, 5.6, 3.2, 1.8, 1.0, 0.6, 0.3, 0.2	1.79	YES	
B3	59.28	0.206	24-Aug-02	1.883	3.30%	1	6	0.0862	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	NO	Major precipitation problems
B4	10.06	0.035	24-Aug-02	1.680	8.59%	0	2	0.6253	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	NO	Major precipitation problems. No points between 10 & 50%.
B5	3.72	0.013	25-Aug-02	1.129	7.89%	1	5	0.9213	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B6	3.88	0.013	25-Aug-02	1.130	5.10%	1	5	0.8956	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B7	3.57	0.012	26-Aug-02	1.083	7.51%	1	6	0.8251	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B8	3.30	0.011	26-Aug-02	0.867	11.48%	3	5	0.8592	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B9	3.85	0.013	27-Aug-02	0.985	10.80%	2	5	0.8840	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B10	3.72	0.013	27-Aug-02	1.026	2.70%	1	6	0.8212	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B11	4.92	0.017	4-Sep-02	1.240	0.59%	1	5	0.8987	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B12	4.13	0.014	4-Sep-02	1.218	4.81%	1	6	0.8888	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B13	4.02	0.014	5-Sep-02	1.082	0.78%	1	6	0.8669	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B14	4.18	0.014	5-Sep-02	1.111	3.22%	1	6	0.8742	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B15	4.36	0.015	6-Sep-02	0.693	12.53%	1	6	0.8170	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B16	5.07	0.018	6-Sep-02	0.747	12.82%	2	6	0.7516	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	NO	Inadequate curve fit.
B17	3.70	0.013	7-Sep-02	0.550	3.51%	1	5	0.8953	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B18	3.50	0.012	7-Sep-02	0.558	9.32%	1	6	0.8518	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B19	3.45	0.012	8-Sep-02	0.658	10.32%	1	6	0.8785	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B20	3.03	0.011	8-Sep-02	0.682	5.43%	2	5	0.9061	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B23 (no re-feed)	3.54	0.012	21-Sep-02	1.084	4.29%	2	4	0.9573	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B23 (re-feed)	3.46	0.012	21-Sep-02	0.824	4.80%	2	3	0.9531	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B24 (no re-feed)	3.89	0.013	21-Sep-02	1.120	0.13%	1	5	0.9361	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B24 (re-feed)	3.72	0.013	21-Sep-02	0.784	2.36%	2	4	0.9265	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B25 (no re-feed)	3.92	0.014	22-Sep-02	1.078	1.34%	1	5	0.9426	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B25 (re-feed)	4.19	0.015	22-Sep-02	0.938	2.24%	2	5	0.9540	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B26 (no re-feed)	3.44	0.012	22-Sep-02	1.037	7.19%	2	3	0.9495	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B26 (re-feed)	3.64	0.013	22-Sep-02	0.775	4.29%	2	4	0.9491	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B27 (no re-feed)	2.87	0.010	23-Sep-02	1.050	1.79%	2	5	0.8907	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B27 (re-feed)	2.68	0.009	23-Sep-02	0.841	2.77%	2	5	0.9212	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B28 (no re-feed)	3.30	0.011	23-Sep-02	1.029	0.04%	2	5	0.9088	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
B28 (re-feed)	2.78	0.010	23-Sep-02	0.819	3.87%	3	4	0.9476	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.5, 1.0, 0.7	1.47	YES	
Phase Ib												
Preliminary	2.78	0.010	4-Jan-03	0.631	3.03%	3	3	0.9588	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.47, 1.0, 0.68	1.47	YES	
B1	2.98	0.010	17-Jan-03	0.518	0.50%	2	5	0.9403	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.47, 1.0, 0.68	1.47	YES	
B2	3.31	0.011	18-Jan-03	0.726	9.52%	2	3	0.9621	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.47, 1.0, 0.68	1.47	YES	
B3	3.00	0.010	31-Jan-03	0.845	3.64%	2	4	0.9420	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.47, 1.0, 0.68	1.47	YES	
B4	3.64	0.013	1-Feb-03	0.781	1.49%	2	4	0.9550	10, 6.8, 4.6, 3.2, 2.2, 1.47, 1.0, 0.68	1.47	YES	
Phase II												
A2	3.11	0.011	9-Aug-03	0.682	5.04%	3	4	0.9538	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B1	3.24	0.011	16-Aug-03	0.351	7.73%	3	3	0.9661	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B2	4.42	0.015	17-Aug-03	0.26	3.34%	2	4	0.9394	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B3	4.10	0.014	18-Aug-03	0.284	4.05%	3	2	0.9569	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B4	4.52	0.016	25-Aug-03	0.201	2.12%	2	4	0.9434	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B7	3.98	0.014	29-Aug-03	0.605	7.45%	2	4	0.945	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B8	6.56	0.023	13-Sep-03	0.512	9.47%	1	4	0.8297	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	NO	IC50 out of range

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B9	5.85	0.020	14-Sep-03	0.551	4.08%	2	3	0.9042	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	NO	IC50 out of range
B10	5.25	0.018	15-Sep-03	0.475	1.75%	2	3	0.8811	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	NO	IC50 out of range
B11	6.15	0.021	16-Sep-03	0.38	1.21%	1	3	0.7715	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	NO	IC50 out of range; low r2
B12	4.27	0.015	29-Sep-03	0.642	4.75%	2	5	0.924	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B13	4.27	0.015	29-Sep-03	0.242	1.41%	2	4	0.928	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B14	3.98	0.014	30-Sep-03	0.317	1.85%	2	5	0.9696	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B15	6.36	0.022	1-Oct-03	0.294	0.97%	2	2	0.8797	10, 6.7, 4.4, 3.0, 2.0, 1.3, 0.88, 0.59	1.50	NO	IC50 out of range
Phase III												
A1	2.88	0.010	15-Mar-04	0.474	1.95%	3	5	0.9576	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
A2	3.42	0.012	18-Mar-04	0.581	5.05%	2	6	0.9176	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
A3	3.90	0.014	29-Mar-04	0.610	0.07%	3	5	0.8815	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
A4	2.67	0.009	29-Mar-04	0.509	3.50%	3	5	0.9629	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
A5	2.65	0.009	30-Mar-04	0.533	5.08%	3	5	0.9534	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B1	2.84	0.010	21-Apr-04	0.621	3.08%	4	4	0.9377	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B2	3.38	0.012	22-Apr-04	0.526	2.69%	3	5	0.9568	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B3	2.79	0.010	4-May-04	0.531	6.18%	3	5	0.9469	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B4	4.20	0.015	11-May-04	0.528	11.31%	2	6	0.8904	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B5	3.51	0.012	12-May-04	0.537	7.15%	2	6	0.9149	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	

NHK NRU Positive Control (SLS) Data

Experiment ID[1] NHK Cells	IC_{50} (ug/mL)	IC_{50} (mM)	Reference Substance Application Date	Mean VC OD[2]	Difference of right/left VC from mean VC[3]	Number of Points 0 - 50 %[4]	Number of Points 50 - 100 %[5]	R^2 [6]	Exposure Concentrations (ug/mL)[7]	Dilution Factor[8]	Acceptable Tests[9]	Rationale for Unacceptability
B6	2.72	0.009	14-Jul-04	0.629	6.79%	3	5	0.9380	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B7	2.58	0.009	15-Jul-04	0.611	0.67%	3	5	0.9646	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B8	2.95	0.010	17-Aug-04	0.587	10.35%	3	4	0.9304	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B9	3.08	0.011	18-Aug-04	0.554	1.95%	3	4	0.9609	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B10	4.14	0.014	1-Sep-04	0.597	6.80%	2	6	0.9448	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B11	3.55	0.012	2-Sep-04	0.669	1.77%	2	6	0.9438	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B12	2.93	0.010	20-Oct-04	0.599	3.40%	3	5	0.9561	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B13	2.50	0.009	27-Oct-04	0.629	3.01%	3	5	0.9645	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B14	3.10	0.011	28-Oct-04	0.702	3.78%	3	5	0.9615	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	
B15	2.51	0.009	8-Nov-04	0.623	2.50%	4	4	0.9151	10.0, 6.67, 4.44, 2.96, 1.98, 1.32, 0.88, 0.59	1.50	YES	

Abbreviations: NR=Neutral red; R&D=Research and development; PC=Positive control; C1 - C8=Concentration series applied to the the cells. C1 is the highest concentration and C8 is lowest; NA=Not Available; RC=Registry of Cytotoxicity;
[1] PC test ID
[2] Mean OD value for all VC wells in test plate
[3] Difference of right and left VC column of wells in the test plate
[4] % Viability values between 0 and 50% viability; test acceptance criterion; Phases Ia and Ib = number of points between 10 - 50%
[5] % Viability values between 50 and 100% viability; test acceptance criterion; Phases Ia and Ib = number of points between 50 - 90%
[6] Calculated value from the Prism® software
[7] Reference substance concentrations applied to the cells
[8] Step-wise dilution factor
[9] Determination whether test meets or doesn't meet test acceptance criteria
Shaded boxes identify values that do not meet the specific test acceptance criteria

Acceptance Limits for PC IC_{50}

Phase	ECBC (ug/mL)	FAL (ug/mL)	IIVS (ug/mL)
Ib (NHK)	1.40 – 6.67	1.34 – 13.6	2.57 – 4.79
II (NHK)	1.22 – 6.10	0 – 11.1	2.10 – 5.04
III (NHK)	0.07 – 7.11	0.57 – 5.82	1.94 – 5.61

Appendix J

LD_{50} and Toxicity Category Predictions

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix J

The data presented in this appendix support the analyses in **Section 6**. For the analysis in **Appendices J1** through **J6,** the IC_{50} values for each reference substance are the geometric mean of the geometric mean IC_{50} values obtained for each laboratory. IC_{50} data for the same reference substances were used with each regression/test method evaluated. Sixty-seven chemicals were evaluated for the 3T3 NRU test method and 68 chemicals were evaluated for the NHK NRU test method. Of the original 72 chemicals tested, epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben were excluded due to the lack of rat oral reference LD_{50} data. Carbon tetrachloride and methanol were excluded from the 3T3 NRU evaluations because no laboratory attained sufficient toxicity in any experiment for the calculation of an IC_{50}. Carbon tetrachloride was also excluded from the NHK NRU evaluations because no laboratory attained sufficient toxicity in any test for the calculation of an IC_{50}.

RC Millimole Regression: Appendices J1 (3T3 NRU) and J2 (NHK NRU)

Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625

Appendices J1 and **J2** support the analysis of outlier substances presented in **Section 6.2**. Predicted LD_{50} values in mmol/kg and mg/kg (conversion from the mmol/kg values) for each reference substance were determined for each test method using the respective IC_{50} values in the RC millimole regression. Epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben were included in this analysis for a more complete comparison with the results of the RC. The predicted log LD_{50} value was subtracted from the observed log LD_{50} value (initial values in **Table 3-2** from the RC, HSDB, or RTECS® were converted to mmol/kg) and the difference (positive or negative) was compared to the RC criterion for outliers (0.699). Reference substances with absolute values greater than 0.699 were identified as positive or negative outliers to the RC millimole regression. The observed LD_{50} value (mg/kg) was used to assign each reference chemical to an observed toxicity category (GHS acute oral classification [UN 2005]). The predicted LD_{50} value (mg/kg) was used to determine the reference substance's predicted toxicity category.

RC Rat-Only Millimole Regression: Appendices J3 (3T3 NRU) and J4 (NHK NRU)

Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621

Appendices J3 and **J4** support the accuracy analyses for GHS acute oral toxicity category predictions presented in **Section 6.4.2**. As described in **Section 6.3.1**, the RC rat-only millimole regression was calculated using the RC IC_{50} and LD_{50} values for the 282 chemicals that had rat oral LD_{50} values. The observed LD_{50} values, which were the reference LD_{50} values (mg/kg) from **Table 4-2**, were used to assign each reference substance to an observed toxicity category (GHS acute oral classification [UN 2005]). The predicted LD_{50} value (mg/kg) was used to determine the reference substance's predicted toxicity category.

RC Rat-Only Weight Regression: Appendices J5 (3T3 NRU) and J6 (NHK NRU)

Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (μg/mL) + 2.024

Appendices J5 and **J6** support the accuracy analyses for GHS acute oral toxicity category predictions presented in **Section 6.4.2**. As described in **Section 6.3.2**, the RC rat-only weight regression was calculated using the RC IC_{50} and LD_{50} data for the 282 chemicals that had rat oral LD_{50} values. The regression data were converted into weight units (i.e., LD_{50} values as mg/kg and IC_{50} values as μg/mL). The observed LD_{50} values, which were the reference LD_{50} values (mg/kg) from **Table 4-2**, were used to assign each reference substance to an observed toxicity category (GHS acute oral classification [UN 2005]). Predicted LD_{50} values in mg/kg for each reference substance were determined for each NRU test method using the respective NRU IC_{50} values in the RC rat-only weight regression. The predicted LD_{50} value (mg/kg) was used to determine the reference substance's predicted toxicity category.

Comparison of RC Rat-Only Millimole Regression and the RC Rat-Only Weight Regression for the Prediction of LD_{50} for Low or High Molecular Weight Substances

Appendix J7 supports **Section 6.6.2**, which compares the under- and over-prediction of acute oral toxicity (i.e., using LD_{50} values) for low and high molecular weight substances for the RC rat-only millimole regression and the RC rat-only weight regression. The analysis uses the RC IC_{50} and LD_{50} values for the 282 RC substances with rat oral LD_{50} data, which are provided in **Appendix K-3**.

Appendix J1

3T3 NRU Predictions: RC Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

3T3 NRU Predictions: RC Millimole Regression

RC Millimole Regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)	Observed LD_{50} (mg/kg)	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (mM)[5]	3T3 IC_{50} (ug/mL)[5]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[6]	Outlier[7]
1,1,1-Trichloroethane	1.888	10298	> 5000	1.576	5022	> 5000	2.186	20453	0.312	
2-Propanol	1.988	5843	> 5000	1.392	1483	300-2000	1.764	3489	0.595	
5-Aminosalicylic Acid	1.704	7749	> 5000	1.076	1824	300-2000	1.037	1667	0.628	
Acetaminophen	1.201	2404	2000-5000	0.407	385.9	300-2000	-0.501	47.7	0.795	Positive
Acetonitrile	1.966	3798	2000-5000	1.620	1711	300-2000	2.287	7951	0.346	
Acetylsalicylic Acid	0.744	1000	300-2000	0.875	1351	300-2000	0.574	676	-0.131	
Aminopterin	-2.167	3	< 5	-1.480	15	5-50	-4.839	0.006	-0.687	
Amitriptyline HCl	0.061	361	300-2000	-0.092	254	50-300	-1.648	7.05	0.153	
Arsenictrioxide	-1.000	20	5-50	-0.236	115	50-300	-1.980	2.07	-0.764	Negative
Atropine Sulfate	-0.036	639	300-2000	0.207	1119	300-2000	-0.961	76.0	-0.243	
Boric Acid	1.634	2660	2000-5000	1.267	1143.6	300-2000	1.476	1850	0.367	
Busulfan	-2.090	2	< 5	0.407	629	300-2000	-0.501	77.7	-2.497	Negative
Cadmium chloride	-0.319	88	50-300	-0.484	60	50-300	-2.549	0.518	0.165	
Caffeine	-0.005	192	50-300	0.579	737	300-2000	-0.105	153	-0.584	
Carbamazepine	0.918	1957	300-2000	0.468	695	300-2000	-0.360	103	0.450	
Chloral Hydrate	0.462	479	300-2000	0.644	729	300-2000	0.044	183	-0.182	
Chloramphenicol	1.021	3393	2000-5000	0.453	918	300-2000	-0.395	130	0.568	
Citric Acid	1.194	3000	2000-5000	0.886	1477.5	300-2000	0.600	765	0.308	
Colchicine	-1.82	6	5-50	-1.144	28.7	5-50	-4.066	0.034	-0.680	
Cupric Sulfate Pentahydrate	0.080	300	50-300	0.268	462	300-2000	-0.822	37.6	-0.188	
Cycloheximide	-2.148	2	< 5	-0.757	49.3	5-50	-3.177	0.187	-1.391	Negative
Dibutyl Phthalate	1.635	11998	> 5000	0.274	523	300-2000	-0.807	43.4	1.361	Positive
Dichlorvos (DDVP)	-1.114	17	5-50	0.149	311	300-2000	-1.095	17.7	-1.262	Negative
Diethyl Phthalate	1.588	8602	> 5000	0.487	683	300-2000	-0.316	107	1.100	Positive
Digoxin	-1.637	18	5-50	0.519	2580	2000-5000	-0.244	445	-2.156	Negative
Dimethylformamide	1.583	2800	2000-5000	1.432	1974	300-2000	1.854	5224	0.152	
Diquat Dibromide Monohydra	-0.173	243	50-300	-0.094	291	50-300	-1.654	8.04	-0.079	
Disulfoton	-2.137	2	< 5	0.696	1363	300-2000	0.163	400	-2.833	Negative
Endosulfan	-1.354	18	5-50	-0.175	272	50-300	-1.840	5.88	-1.179	Negative

3T3 NRU Predictions: RC Millimole Regression

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)	Observed LD_{50} (mg/kg)	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (mM)[5]	3T3 IC_{50} (ug/mL)[5]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[6]	Outlier[7]
Epinephrine bitartrate	-1.92	4	< 5	0.298	662	300-2000	-0.752	59.0	-2.219	Negative
Ethanol	2.483	14008	> 5000	1.561	1675	300-2000	2.151	6523	0.922	Positive
Ethyleneglycol	2.140	8567	> 5000	1.754	3522	2000-5000	2.595	24436	0.386	
Fenpropathrin	-1.288	18	5-50	0.114	454	300-2000	-1.175	23.3	-1.402	Negative
Gibberellic Acid	1.260	6305	> 5000	1.214	5664	> 5000	1.353	7810	0.047	
Glutethimide	0.441	600	300-2000	0.590	846	300-2000	-0.079	181	-0.149	
Glycerol	2.139	12691	> 5000	1.679	4394	2000-5000	2.422	24345	0.461	
Haloperidol	-0.468	128	50-300	-0.153	264	50-300	-1.788	6.13	-0.315	
Hexachlorophene	-0.824	61	50-300	-0.239	235	50-300	-1.987	4.19	-0.585	
Lactic Acid	1.617	3730	2000-5000	1.290	1757	300-2000	1.529	3044	0.327	
Lindane	-0.585	76	50-300	0.444	808	300-2000	-0.416	112	-1.029	Negative
Lithium carbonate	1.206	1187	300-2000	1.008	753	300-2000	0.881	562	0.198	
Meprobamate	0.561	794	300-2000	0.778	1309	300-2000	0.351	490	-0.217	
Mercury Chloride	-2.434	1	< 5	-0.166	185	50-300	-1.819	4.12	-2.268	Negative
Nicotine	-0.511	50	5-50	0.776	969	300-2000	0.347	361	-1.287	Negative
Paraquat	-0.509	80	50-300	0.144	358.14	300-2000	-1.106	20.1	-0.652	
Parathion	-2.161	2	< 5	0.237	503	300-2000	-0.891	37.4	-2.398	Negative
Phenobarbital	-0.154	163	50-300	0.800	1465	300-2000	0.402	586	-0.954	Negative
Phenol	0.643	414	300-2000	0.559	341	300-2000	-0.152	66.3	0.085	
Phenylthiourea	-1.705	3	< 5	0.501	482	300-2000	-0.285	79.0	-2.206	Negative
Physostigmine	-1.787	5	< 5	0.183	420	300-2000	-1.015	26.6	-1.970	Negative
Potassium cyanide	-0.824	10	5-50	0.506	209	50-300	-0.274	34.6	-1.330	Negative
Potassium chloride	1.543	2602	2000-5000	1.355	1689	300-2000	1.678	3555	0.188	
Procainamide HCl	0.856	1950	300-2000	0.716	1414	300-2000	0.210	441	0.140	
Propranolol	0.201	470	300-2000	0.050	332	300-2000	-1.321	14.1	0.151	
Propylparaben	1.550	6326	> 5000	0.260	328	300-2000	-0.840	26.1	1.290	Positive
Sodium Arsenite	-0.501	41	5-50	-0.347	58	50-300	-2.234	0.759	-0.154	
Sodium Chloride	1.710	2998	2000-5000	1.456	1669	300-2000	1.910	4746	0.254	
Sodium Dichromate Dihydrat	-0.719	57	50-300	-0.552	84	50-300	-2.706	0.587	-0.167	
Sodium Hypochlorite	2.078	8910	> 5000	1.123	989	300-2000	1.145	1040	0.955	Positive

3T3 NRU Predictions: RC Millimole Regression

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)	Observed LD_{50} (mg/kg)	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (mM)[5]	3T3 IC_{50} (ug/mL)[5]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[6]	Outlier[7]
Sodium Oxalate	0.063	155	50-300	0.383	323.4	300-2000	-0.557	37.142	-0.319	
Sodium fluoride	0.632	180	50-300	0.742	232	50-300	0.269	78.0	-0.110	
Sodium selenate	-2.072	2	< 5	0.271	352.7	300-2000	-0.814	29.023	-2.343	Negative
Strychnine	-2.144	2	< 5	0.483	1017	300-2000	-0.326	158	-2.627	Negative
Thallium Sulfate	-1.241	29	5-50	-0.231	296	50-300	-1.968	5.43	-1.009	Negative
Trichloroacetic Acid	1.486	4999	2000-5000	0.948	1449	300-2000	0.742	902	0.538	
Triethylenemelamine	-2.310	1	< 5	-0.626	48	5-50	-2.875	0.272	-1.684	Negative
Triphenyltin Hydroxide	-0.921	44	5-50	-1.258	20	5-50	-4.329	0.017	0.337	
Valproic Acid	1.009	1471	300-2000	0.955	1299	300-2000	0.758	826	0.054	
Verapamil HCl	-0.658	108	50-300	0.126	656	300-2000	-1.148	34.9	-0.783	Negative
Xylene	1.607	4300	2000-5000	0.987	1030	300-2000	0.832	721	0.621	

Abbreviations: 3T3=Neutral red uptake with mouse fibroblast 3T3 cell line

[1]Carbon tetrachloride and methanol were excluded because IC_{50} values could not be determined. Initial LD_{50} from **Table 3-2** converted to mmol/kg. Initial LD_{50} values came largely from the RC (1983/84 RTECS®) for RC susbtances and from the current Hazardous Substances Data Bank (HSDB) or RTECS® and electronic database searches for non-RC substances.

[2]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[3]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC millimole regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625

[4]Predicted LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC millimole regression)

[5]Combined 3T3 IC_{50} values from three laboratories

[6]Calculation to determine outliers to the RC millimole regression line

[7]Log observed LD_{50} - log predicted $LD_{50} > 0.699$ (or log 5) identifies a chemical as an "outlier"; negative=predicted value below prediction interval of RC millimole regression line; positive=predicted value above prediction interval of RC millimole regression line (Halle 1998, 2003)

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix J2

NHK NRU Predictions: RC Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

NHK NRU Predictions: RC Millimole Regression

RC Millimole Regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)[2]	Observed LD_{50} (mg/kg)[3]	Observed LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[5]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[6]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (mM)[7]	NHK IC_{50} (ug/mL)[8]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[9]	Outlier[10]
1,1,1-Trichloroethane	1.888	10298	> 5000	1.401	3361	2000-5000	1.784	4709	0.486	
2-Propanol	1.988	5843	> 5000	1.473	1788	300-2000	1.951	2635	0.514	
5-Aminosalicylic Acid	1.704	7749	> 5000	0.401	385	300-2000	-0.516	154	1.304	Positive
Acetaminophen	1.201	2404	2000-5000	0.858	1089	300-2000	0.535	934	0.344	
Acetonitrile	1.966	3798	2000-5000	1.654	1853	300-2000	2.367	3065	0.312	
Acetylsalicylic Acid	0.744	1000	300-2000	0.854	1287	300-2000	0.526	1099	-0.110	
Aminopterin	-2.167	3	< 5	0.702	2218	2000-5000	0.177	1557	-2.869	Negative
Amitriptyline HCl	0.061	361	300-2000	-0.047	282	50-300	-1.545	-13	0.107	
Arsenictrioxide	-1.000	20	5-50	-0.011	193	50-300	-1.461	-2	-0.989	Negative
Atropine Sulfate	-0.036	639	300-2000	0.221	1155	300-2000	-0.929	255	-0.257	
Boric Acid	1.634	2660	2000-5000	0.988	601	300-2000	0.833	593	0.646	
Busulfan	-2.090	2	< 5	0.635	1064	300-2000	0.024	676	-2.726	Negative
Cadmium chloride	-0.319	88	50-300	-0.249	103	50-300	-2.009	-26	-0.070	
Caffeine	-0.005	192	50-300	0.850	1374	300-2000	0.516	1167	-0.855	Negative
Carbamazepine	0.918	1957	300-2000	0.428	633	300-2000	-0.453	271	0.490	
Chloral Hydrate	0.462	479	300-2000	0.584	635	300-2000	-0.094	371	-0.122	
Chloramphenicol	1.021	3393	2000-5000	0.637	1402	300-2000	0.028	894	0.384	
Citric Acid	1.194	3000	2000-5000	0.769	1128	300-2000	0.331	867	0.425	
Colchicine	-1.82	6.00	5-50	-1.45	14.0	5-50	-4.780	0	-0.373	
Cupric Sulfate Pentahydrate	0.080	300	50-300	0.580	949	300-2000	-0.104	550	-0.500	
Cycloheximide	-2.148	2	< 5	-0.934	33	5-50	-3.584	-31	-1.214	Negative
Dibutyl Phthalate	1.635	11998	> 5000	0.196	437	300-2000	-0.987	85	1.439	Positive
Dichlorvos (DDVP)	-1.114	17	5-50	0.053	250	50-300	-1.315	13	-1.167	Negative
Diethyl Phthalate	1.588	8602	> 5000	0.509	718	300-2000	-0.266	366	1.079	Positive
Digoxin	-1.637	18	5-50	-1.937	9	5-50	-5.889	-17	0.299	
Dimethylformamide	1.583	2800	2000-5000	1.506	2345	2000-5000	2.026	3533	0.077	
Diquat Dibromide Monohydr	-0.173	243	50-300	-0.211	223	50-300	-1.922	-47	0.038	
Disulfoton	-2.137	2	< 5	0.622	1149	300-2000	-0.007	714	-2.759	Negative
Endosulfan	-1.354	18	5-50	-0.368	175	50-300	-2.282	-64	-0.987	
Epinephrine bitartrate	-1.92	4	< 5	0.372	785	300-2000	-0.581	87	-2.293	Negative

NHK NRU Predictions: RC Millimole Regression

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)[2]	Observed LD_{50} (mg/kg)[3]	Observed LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[5]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[6]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (mM)[7]	NHK IC_{50} (ug/mL)[8]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[9]	Outlier[10]
Ethanol	2.483	14008	> 5000	1.642	2019	2000-5000	2.337	3315	0.841	Positive
Ethyleneglycol	2.140	8567	> 5000	1.857	4462	2000-5000	2.831	8285	0.283	
Fenpropathrin	-1.288	18	5-50	-0.314	170	50-300	-2.158	-53	-0.974	Negative
Gibberellic Acid	1.260	6305	> 5000	1.024	3657	2000-5000	0.916	3743	0.237	
Glutethimide	0.441	600	300-2000	0.583	831	300-2000	-0.098	484	-0.141	
Glycerol	2.139	12691	> 5000	1.682	4424	2000-5000	2.429	7440	0.458	
Haloperidol	-0.468	128	50-300	-0.266	204	50-300	-2.049	-54	-0.202	
Hexachlorophene	-0.824	61	50-300	-1.180	27	5-50	-4.149	-32	0.356	
Lactic Acid	1.617	3730	2000-5000	1.130	1215	300-2000	1.161	1373	0.487	
Lindane	-0.585	76	50-300	0.107	372	300-2000	-1.191	40	-0.692	
Lithium carbonate	1.206	1187	300-2000	0.974	695	300-2000	0.801	677	0.232	
Meprobamate	0.561	794	300-2000	0.718	1140	300-2000	0.213	818	-0.157	
Mercury Chloride	-2.434	1	< 5	-0.102	215	50-300	-1.671	-22	-2.332	Negative
Methanol	2.609	13012	> 5000	1.355	726	300-2000	1.679	984	1.253	Positive
Nicotine	-0.511	50	5-50	0.546	570	300-2000	-0.182	311	-1.057	Negative
Paraquat	-0.509	80	50-300	0.355	582	300-2000	-0.621	207	-0.864	Negative
Parathion	-2.161	2	< 5	0.197	459	300-2000	-0.983	90	-2.358	Negative
Phenobarbital	-0.154	163	50-300	0.749	1303	300-2000	0.285	976	-0.903	Negative
Phenol	0.643	414	300-2000	0.582	360	300-2000	-0.098	209	0.061	
Phenylthiourea	-1.705	3	< 5	0.775	906	300-2000	0.344	702	-2.480	Negative
Physostigmine	-1.787	5	< 5	0.411	709	300-2000	-0.493	291	-2.197	Negative
Potassium Cyanide	-0.824	10	5-50	0.472	193	50-300	-0.352	91	-1.296	Negative
Potassium chloride	1.543	2602	2000-5000	1.268	1381	300-2000	1.477	1750	0.275	
Procainamide HCl	0.856	1950	300-2000	0.976	2571	2000-5000	0.807	2509	-0.120	
Propranolol	0.201	470	300-2000	0.228	500	300-2000	-0.912	114	-0.027	
Propylparaben	1.550	6326	> 5000	0.175	269	50-300	-1.040	16.6	1.375	Positive
Sodium Arsenite	-0.501	41	5-50	-0.434	48	5-50	-2.435	-21	-0.066	
Sodium Chloride	1.710	2998	2000-5000	1.292	1145	300-2000	1.534	1480	0.418	
Sodium Dichromate Dihydrat	-0.719	57	50-300	-0.516	91	50-300	-2.622	-47	-0.204	
Sodium Hypochlorite	2.078	8910	> 5000	1.193	1160	300-2000	1.305	1384	0.885	Positive
Sodium Oxalate	0.063	155	50-300	0.801	847	300-2000	0.404	678	-0.737	Negative

NHK NRU Predictions: RC Millimole Regression

Reference Substance[1]	Log Observed LD_{50} (mmol/kg)[2]	Observed LD_{50} (mg/kg)[3]	Observed LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[5]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[6]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[4] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (mM)[7]	NHK IC_{50} (ug/mL)[8]	Log Observed LD_{50} - Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[9]	Outlier[10]
Sodium fluoride	0.632	180	50-300	0.654	189	50-300	0.066	124	-0.021	
Sodium selenate	-2.072	2	< 5	0.074	224	50-300	-1.267	17	-2.146	Negative
Strychnine	-2.144	2	< 5	0.302	670	300-2000	-0.743	202	-2.446	Negative
Thallium Sulfate	-1.241	29	5-50	-0.907	62	50-300	-3.522	-57	-0.333	
Trichloroacetic Acid	1.486	4999	2000-5000	0.800	1032	300-2000	0.403	826	0.685	
Triethylenemelamine	-2.310	1	< 5	-0.263	111	50-300	-2.042	-29	-2.047	Negative
Triphenyltin Hydroxide	-0.921	44	5-50	-1.360	16	5-50	-4.562	-22	0.438	
Valproic Acid	1.009	1471	300-2000	0.864	1055	300-2000	0.550	912	0.144	
Verapamil HCl	-0.658	108	50-300	0.247	868	300-2000	-0.869	214	-0.905	Negative
Xylene	1.607	4300	2000-5000	0.904	852	300-2000	0.642	770	0.703	Positive

Abbreviations: NHK=Neutral red uptake with normal human epidermal keratinocytes.

[1]Carbon tetrachloride and methanol were excluded because IC_{50} values could not be determined. Initial LD_{50} from **Table 3-2** converted to mmol/kg. Initial LD_{50} values came largely from the RC (1983/84 RTECS®) for RC susbtances and from the current Hazardous Substances Data Bank (HSDB) or RTECS® and electronic database searches for non-RC substances.

[2]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[3]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC millimole regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.435 log IC_{50} (mM) + 0.625.

[4]Predicted LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC millimole regression).

[5]Combined NHK IC_{50} values from three laboratories.

[6]Calculation to determine outliers to the RC millimole regression line.

[7]Log observed LD_{50} - log predicted LD_{50} > 0.699 (or log 5) identifies a chemical as an "outlier"; negative=predicted value below prediction interval of RC millimole regression line; positive=predicted value above prediction interval of RC millimole regression line (Halle 1998, 2003).

[This Page Intentionally Left Blank

Appendix J3

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression
Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (mM)[6]
1,1,1-Trichloroethane	1.957	12078	>5000	1.580	5078	>5000	2.186
2-Propanol	1.929	5105	>5000	1.395	1494	300-2000	1.764
5-Aminosalicylic Acid	1.350	3428	2000-5000	1.076	1825	300-2000	1.037
Acetaminophen	1.155	2162	2000-5000	0.401	381	300-2000	-0.501
Acetonitrile	1.942	3595	2000-5000	1.625	1731	300-2000	2.287
Acetylsalicylic Acid	0.922	1506	300-2000	0.873	1346	300-2000	0.574
Aminopterin	-1.799	7	5-50	-1.504	14	5-50	-4.839
Amitriptyline HCl	0.046	349	300-2000	-0.103	248	50-300	-1.648
Arsenictrioxide	-0.897	25	5-50	-0.248	112	50-300	-1.980
Atropine Sulfate	0.071	819	300-2000	0.199	1099	300-2000	-0.961
Boric Acid	1.744	3426	2000-5000	1.269	1149	300-2000	1.476
Busulfan	-1.308	12	5-50	0.401	620	300-2000	-0.501
Cadmium chloride	-0.132	135	50-300	-0.498	58	50-300	-2.549
Caffeine	0.203	310	300-2000	0.575	730	300-2000	-0.105
Carbamazepine	1.075	2807	2000-5000	0.463	686	300-2000	-0.360
Chloral Hydrate	0.586	638	300-2000	0.640	723	300-2000	0.044
Chloramphenicol	1.033	3490	2000-5000	0.448	906	300-2000	-0.395
Citric Acid	1.489	5929	>5000	0.884	1472	300-2000	0.600
Cupric Sulfate Pentahydrate	0.279	475	300-2000	0.260	455	300-2000	-0.822
Cycloheximide	-2.148	2	<5	-0.774	47	5-50	-3.177
Dibutyl Phthalate	1.504	8892	>5000	0.267	514	300-2000	-0.807
Dichlorvos (DDVP)	-0.576	59	50-300	0.140	305	300-2000	-1.095
Diethyl Phthalate	1.622	9311	>5000	0.482	674	300-2000	-0.316
Digoxin	-1.441	28	5-50	0.514	2550	2000-5000	-0.244
Dimethylformamide	1.861	5305	>5000	1.435	1990	300-2000	1.854
Diquat Dibromide Monohydrate	-0.355	160	50-300	-0.105	284	50-300	-1.654
Disulfoton	-1.739	5	<5	0.693	1352	300-2000	0.163
Endosulfan	-1.165	28	5-50	-0.187	265	50-300	-1.840
Ethanol	2.391	11324	>5000	1.565	1693	300-2000	2.151
Ethylene glycol	2.062	7161	>5000	1.760	3574	2000-5000	2.595
Fenpropathrin	-0.664	76	50-300	0.105	445	300-2000	-1.175
Gibberellic Acid	1.241	6039	>5000	1.215	5683	>5000	1.353
Glutethimide	0.441	600	300-2000	0.586	838	300-2000	-0.079
Glycerol	2.332	19770	>5000	1.684	4452	2000-5000	2.422
Haloperidol	-0.057	330	300-2000	-0.164	258	50-300	-1.788
Hexachlorophene	-0.696	82	50-300	-0.251	228	50-300	-1.987
Lactic Acid	1.606	3635	2000-5000	1.292	1765	300-2000	1.529
Lindane	-0.464	100	50-300	0.438	798	300-2000	-0.416
Lithium carbonate	0.902	590	300-2000	1.008	752	300-2000	0.881
Meprobamate	0.803	1387	300-2000	0.775	1301	300-2000	0.351
Mercury Chloride	-0.830	40	5-50	-0.177	180	50-300	-1.819
Nicotine	-0.367	70	50-300	0.774	963	300-2000	0.347

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression
Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (mM)[6]
Paraquat	-0.443	93	50-300	0.135	351	300-2000	-1.106
Parathion	-1.679	6	5-50	0.230	494	300-2000	-0.891
Phenobarbital	-0.016	224	50-300	0.798	1457	300-2000	0.402
Phenol	0.765	548	300-2000	0.554	337	300-2000	-0.152
Phenylthiourea	-1.705	3	<5	0.496	477	300-2000	-0.285
Physostigmine	-1.741	5	<5	0.175	412	300-2000	-1.015
Potassium Cyanide	-0.956	7	5-50	0.501	206	50-300	-0.274
Potassium chloride	1.575	2802	2000-5000	1.358	1699	300-2000	1.678
Procainamide HCl	0.856	1950	300-2000	0.713	1404	300-2000	0.210
Propranolol	0.197	466	300-2000	0.041	325	300-2000	-1.321
Sodium Arsenite	-0.474	44	5-50	-0.360	57	50-300	-2.234
Sodium Chloride	1.841	4050	2000-5000	1.459	1683	300-2000	1.910
Sodium Dichromate Dihydrate	-0.771	50	50-300	-0.567	81	50-300	-2.706
Sodium Hypochlorite	2.142	10328	>5000	1.124	990	300-2000	1.145
Sodium Oxalate	0.674	633	300-2000	0.376	319	300-2000	-0.557
Sodium fluoride	0.480	127	50-300	0.739	230	50-300	0.269
Sodium selenate	-1.799	3	<5	0.264	347	300-2000	-0.814
Strychnine	-1.725	6	5-50	0.478	1005	300-2000	-0.326
Thallium Sulfate	-1.305	25	5-50	-0.243	288	50-300	-1.968
Trichloroacetic Acid	1.505	5229	>5000	0.947	1445	300-2000	0.742
Triethylenemelamine	-1.708	4	<5	-0.641	47	5-50	-2.875
Triphenyltin Hydroxide	-0.047	329	300-2000	-1.279	19	5-50	-4.329
Valproic Acid	0.839	996	300-2000	0.954	1296	300-2000	0.758
Verapamil HCl	-0.646	111	50-300	0.117	643	300-2000	-1.148
Xylene	1.643	4665	2000-5000	0.986	1028	300-2000	0.832

[1]Three chemicals were excluded because no rat oral LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride and methanol were excluded because IC_{50} values could not be determined.

[2]Reference LD_{50} in mmol/kg from **Table 4-2**. Reference rat oral LD_{50} values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.

[3]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[4]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC rat-only millimole regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621.

[5]LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC rat-only millimole regression).

[6]Combined 3T3 IC_{50} values from three laboratories.

Appendix J4

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression
Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (mM)[6]
1,1,1-Trichloroethane	1.957	12078	>5000	3.478	3009	2000-5000	1.784
2-Propanol	1.929	5105	>5000	3.411	2579	300-2000	1.951
5-Aminosalicylic Acid	1.350	3428	2000-5000	2.645	442	300-2000	-0.516
Acetaminophen	1.155	2162	2000-5000	3.034	1081	300-2000	0.535
Acetonitrile	1.942	3595	2000-5000	3.505	3196	300-2000	2.367
Acetylsalicylic Acid	0.922	1506	300-2000	3.059	1145	300-2000	0.526
Aminopterin	-1.799	7	5-50	3.073	1184	5-50	0.177
Amitriptyline HCl	0.046	349	300-2000	2.378	239	50-300	-1.545
Arsenictrioxide	-0.897	25	5-50	2.335	216	50-300	-1.461
Atropine Sulfate	0.071	819	300-2000	2.736	544	300-2000	-0.929
Boric Acid	1.744	3426	2000-5000	3.000	1001	300-2000	0.833
Busulfan	-1.308	12	5-50	2.922	836	300-2000	0.024
Cadmium chloride	-0.132	135	50-300	2.119	131	50-300	-2.009
Caffeine	0.203	310	300-2000	3.067	1168	300-2000	0.516
Carbamazepine	1.075	2807	2000-5000	2.738	547	300-2000	-0.453
Chloral Hydrate	0.586	638	300-2000	2.814	652	300-2000	-0.094
Chloramphenicol	1.033	3490	2000-5000	2.968	929	300-2000	0.028
Citric Acid	1.489	5929	>5000	2.997	992	300-2000	0.331
Cupric Sulfate Pentahydrate	0.279	475	300-2000	2.877	754	300-2000	-0.104
Cycloheximide	-2.148	2	<5	1.602	40	5-50	-3.584
Dibutyl Phthalate	1.504	8892	>5000	2.566	368	300-2000	-0.987
Dichlorvos (DDVP)	-0.576	59	50-300	2.407	255	50-300	-1.315
Diethyl Phthalate	1.622	9311	>5000	2.798	628	300-2000	-0.266
Digoxin	-1.441	28	5-50	0.909	8	5-50	-5.889
Dimethylformamide	1.861	5305	>5000	3.471	2958	2000-5000	2.026
Diquat Dibromide Monohydrate	-0.355	160	50-300	2.261	182	50-300	-1.922
Disulfoton	-1.739	5	<5	2.928	848	300-2000	-0.007
Endosulfan	-1.165	28	5-50	2.146	140	50-300	-2.282
Ethanol	2.391	11324	>5000	3.512	3253	2000-5000	2.337
Ethyleneglycol	2.062	7161	>5000	3.744	5549	2000-5000	2.831
Fenpropathrin	-0.664	76	50-300	2.167	147	50-300	-2.158
Gibberellic Acid	1.241	6039	>5000	3.310	2040	2000-5000	0.916
Glutethimide	0.441	600	300-2000	2.857	720	300-2000	-0.098
Glycerol	2.332	19770	>5000	3.658	4553	2000-5000	2.429
Haloperidol	-0.057	330	300-2000	2.220	166	50-300	-2.049
Hexachlorophene	-0.696	82	50-300	1.451	28	5-50	-4.149
Lactic Acid	1.606	3635	2000-5000	3.183	1524	300-2000	1.161
Lindane	-0.464	100	50-300	2.497	314	300-2000	-1.191
Lithium carbonate	0.902	590	300-2000	3.017	1040	300-2000	0.801
Meprobamate	0.803	1387	300-2000	2.973	941	300-2000	0.213
Mercury Chloride	-0.830	40	5-50	2.308	203	50-300	-1.671
Methanol	2.434	8710	>5000	3.209	1616	300-2000	1.679
Nicotine	-0.367	70	50-300	2.778	600	300-2000	-0.182

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression
Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (mM)[6]
Paraquat	-0.443	93	50-300	2.690	489	300-2000	-0.621
Parathion	-1.679	6	5-50	2.575	376	300-2000	-0.983
Phenobarbital	-0.016	224	50-300	3.010	1024	300-2000	0.285
Phenol	0.765	548	300-2000	2.722	527	300-2000	-0.098
Phenylthiourea	-1.705	3	<5	2.964	920	300-2000	0.344
Physostigmine	-1.741	5	<5	2.748	560	300-2000	-0.493
Potassium Cyanide	-0.956	7	5-50	2.568	370	50-300	-0.352
Potassium chloride	1.575	2802	2000-5000	3.270	1862	300-2000	1.477
Procainamide HCl	0.856	1950	300-2000	3.230	1697	2000-5000	0.807
Propranolol	0.197	466	300-2000	2.604	402	300-2000	-0.912
Sodium Arsenite	-0.474	44	5-50	1.904	80	5-50	-2.435
Sodium Chloride	1.841	4050	2000-5000	3.252	1786	300-2000	1.534
Sodium Dichromate Dihydrate	-0.771	50	50-300	1.969	93	50-300	-2.622
Sodium Hypochlorite	2.142	10328	>5000	3.206	1606	300-2000	1.305
Sodium Oxalate	0.674	633	300-2000	2.965	923	300-2000	0.404
Sodium fluoride	0.480	127	50-300	2.652	449	50-300	0.066
Sodium selenate	-1.799	3	<5	2.399	251	50-300	-1.267
Strychnine	-1.725	6	5-50	2.687	486	300-2000	-0.743
Thallium Sulfate	-1.305	25	5-50	1.719	52	50-300	-3.522
Trichloroacetic Acid	1.505	5229	>5000	2.997	994	300-2000	0.403
Triethylenemelamine	-1.708	4	<5	2.124	133	50-300	-2.042
Triphenyltin Hydroxide	-0.047	329	300-2000	1.281	19	5-50	-4.562
Valproic Acid	0.839	996	300-2000	3.032	1076	300-2000	0.550
Verapamil HCl	-0.646	111	50-300	2.702	503	300-2000	-0.869
Xylene	1.643	4665	2000-5000	3.016	1039	300-2000	0.642

[1]Three chemicals were excluded because no rat oral LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride was excluded because IC_{50} values could not be determined.
[2]Reference LD_{50} in mmol/kg from **Table 4-2**. Reference rat oral LD_{50} values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.
[3]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[4]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC rat-only millimole regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621
[5]LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC rat-only millimole regression)
[6]Combined NHK IC_{50} values from three laboratories

Appendix J5

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression
Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (ug/mL)[6]
1,1,1-Trichloroethane	4.082	12078	>5000	3.628	5078	>5000	4.311
2-Propanol	3.708	5105	>5000	3.342	1494	300-2000	3.543
5-Aminosalicylic Acid	3.535	3428	2000-5000	3.223	1825	300-2000	3.222
Acetaminophen	3.335	2162	2000-5000	2.648	381	300-2000	1.678
Acetonitrile	3.556	3595	2000-5000	3.475	1731	300-2000	3.900
Acetylsalicylic Acid	3.178	1506	300-2000	3.077	1346	300-2000	2.830
Aminopterin	0.845	7	5-50	1.207	14	5-50	-2.195
Amitriptyline HCl	2.543	349	300-2000	2.340	248	50-300	0.848
Arsenictrioxide	1.400	25	5-50	2.142	112	50-300	0.316
Atropine Sulfate	2.913	819	300-2000	2.724	1099	300-2000	1.881
Boric Acid	3.535	3426	2000-5000	3.239	1149	300-2000	3.267
Busulfan	1.084	12	5-50	2.727	620	300-2000	1.890
Cadmium chloride	2.131	135	50-300	1.918	58	50-300	-0.286
Caffeine	2.491	310	300-2000	2.836	730	300-2000	2.183
Carbamazepine	3.448	2807	2000-5000	2.773	686	300-2000	2.014
Chloral Hydrate	2.805	638	300-2000	2.866	723	300-2000	2.263
Chloramphenicol	3.543	3490	2000-5000	2.811	906	300-2000	2.115
Citric Acid	3.773	5929	>5000	3.097	1472	300-2000	2.884
Cupric Sulfate Pentahydrate	2.677	475	300-2000	2.610	455	300-2000	1.576
Cycloheximide	0.301	2	<5	1.753	47	5-50	-0.727
Dibutyl Phthalate	3.949	8892	>5000	2.633	514	300-2000	1.637
Dichlorvos (DDVP)	1.769	59	50-300	2.489	305	300-2000	1.249
Diethyl Phthalate	3.969	9311	>5000	2.779	674	300-2000	2.031
Digoxin	1.451	28	5-50	3.009	2550	2000-5000	2.649
Dimethylformamide	3.725	5305	>5000	3.407	1990	300-2000	3.718
Diquat Dibromide Monohydrate	2.204	160	50-300	2.361	284	50-300	0.905
Disulfoton	0.699	5	<5	2.992	1352	300-2000	2.602
Endosulfan	1.444	28	5-50	2.310	265	50-300	0.770
Ethanol	4.054	11324	>5000	3.443	1693	300-2000	3.814
Ethyleneglycol	3.855	7161	>5000	3.656	3574	2000-5000	4.388
Fenpropathrin	1.879	76	50-300	2.533	445	300-2000	1.368
Gibberellic Acid	3.781	6039	>5000	3.472	5683	>5000	3.893
Glutethimide	2.778	600	300-2000	2.864	838	300-2000	2.258
Glycerol	4.296	19770	>5000	3.656	4452	2000-5000	4.386
Haloperidol	2.519	330	300-2000	2.317	258	50-300	0.787
Hexachlorophene	1.914	82	50-300	2.256	228	50-300	0.623
Lactic Acid	3.561	3635	2000-5000	3.320	1765	300-2000	3.483
Lindane	2.000	100	50-300	2.786	798	300-2000	2.047
Lithium carbonate	2.771	590	300-2000	3.047	752	300-2000	2.749
Meprobamate	3.142	1387	300-2000	3.025	1301	300-2000	2.690
Mercury Chloride	1.604	40	5-50	2.253	180	50-300	0.615
Nicotine	1.843	70	50-300	2.975	963	300-2000	2.557

3T3 NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression
Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	3T3 Log IC_{50} (ug/mL)[6]
Paraquat	1.967	93	50-300	2.509	351	300-2000	1.304
Parathion	0.785	6	5-50	2.609	494	300-2000	1.573
Phenobarbital	2.350	224	50-300	3.054	1457	300-2000	2.768
Phenol	2.739	548	300-2000	2.702	337	300-2000	1.822
Phenylthiourea	0.477	3	<5	2.730	477	300-2000	1.898
Physostigmine	0.699	5	<5	2.554	412	300-2000	1.425
Potassium Cyanide	0.857	7	5-50	2.597	206	50-300	1.540
Potassium chloride	3.447	2802	2000-5000	3.345	1699	300-2000	3.551
Procainamide HCl	3.290	1950	300-2000	3.008	1404	300-2000	2.644
Propranolol	2.668	466	300-2000	2.452	325	300-2000	1.150
Sodium Arsenite	1.639	44	5-50	1.979	57	50-300	-0.120
Sodium Chloride	3.607	4050	2000-5000	3.392	1683	300-2000	3.676
Sodium Dichromate Dihydrate	1.703	50	50-300	1.938	81	50-300	-0.232
Sodium Hypochlorite	4.014	10328	>5000	3.146	990	300-2000	3.017
Sodium Oxalate	2.801	633	300-2000	2.608	319	300-2000	1.570
Sodium fluoride	2.103	127	50-300	2.728	230	50-300	1.892
Sodium selenate	0.477	3	<5	2.568	347	300-2000	1.463
Strychnine	0.799	6	5-50	2.842	1005	300-2000	2.198
Thallium Sulfate	1.398	25	5-50	2.297	288	50-300	0.735
Trichloroacetic Acid	3.718	5229	>5000	3.123	1445	300-2000	2.955
Triethylenemelamine	0.602	4	<5	1.814	47	5-50	-0.565
Triphenyltin Hydroxide	2.517	329	300-2000	1.368	19	5-50	-1.764
Valproic Acid	2.998	996	300-2000	3.109	1296	300-2000	2.917
Verapamil HCl	2.045	111	50-300	2.598	643	300-2000	1.543
Xylene	3.669	4665	2000-5000	3.087	1028	300-2000	2.858

[1]Three chemicals were excluded because no rat oral LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride and methanol were excluded because IC_{50} values could not be determined.

[2]Reference LD_{50} in mmol/kg from **Table 4-2**. Reference rat oral LD_{50} values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.

[3]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[4]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC rat-only weight regression: Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024

[5]LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC rat-only weight regression)

[6]Combined 3T3 IC_{50} values from three laboratories

Appendix J6

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression
Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (ug/mL)[6]
1,1,1-Trichloroethane	1.957	12078	>5000	3.478	3009	2000-5000	3.910
2-Propanol	1.929	5105	>5000	3.411	2579	300-2000	3.730
5-Aminosalicylic Acid	1.350	3428	2000-5000	2.645	442	300-2000	1.669
Acetaminophen	1.155	2162	2000-5000	3.034	1081	300-2000	2.714
Acetonitrile	1.942	3595	2000-5000	3.505	3196	300-2000	3.980
Acetylsalicylic Acid	0.922	1506	300-2000	3.059	1145	300-2000	2.782
Aminopterin	-1.799	7	5-50	3.073	1184	2000-5000	2.821
Amitriptyline HCl	0.046	349	300-2000	2.378	239	50-300	0.952
Arsenictrioxide	-0.897	25	5-50	2.335	216	50-300	0.835
Atropine Sulfate	0.071	819	300-2000	2.736	544	300-2000	1.913
Boric Acid	1.744	3426	2000-5000	3.000	1001	300-2000	2.625
Busulfan	-1.308	12	5-50	2.922	836	300-2000	2.415
Cadmium chloride	-0.132	135	50-300	2.119	131	50-300	0.255
Caffeine	0.203	310	300-2000	3.067	1168	300-2000	2.805
Carbamazepine	1.075	2807	2000-5000	2.738	547	300-2000	1.920
Chloral Hydrate	0.586	638	300-2000	2.814	652	300-2000	2.125
Chloramphenicol	1.033	3490	2000-5000	2.968	929	300-2000	2.538
Citric Acid	1.489	5929	>5000	2.997	992	300-2000	2.614
Cupric Sulfate Pentahydrate	0.279	475	300-2000	2.877	754	300-2000	2.293
Cycloheximide	-2.148	2	<5	1.602	40	5-50	-1.134
Dibutyl Phthalate	1.504	8892	>5000	2.566	368	300-2000	1.458
Dichlorvos (DDVP)	-0.576	59	50-300	2.407	255	50-300	1.029
Diethyl Phthalate	1.622	9311	>5000	2.798	628	300-2000	2.081
Digoxin	-1.441	28	5-50	0.909	8	5-50	-2.996
Dimethylformamide	1.861	5305	>5000	3.471	2958	2000-5000	3.890
Diquat Dibromide Monohydrate	-0.355	160	50-300	2.261	182	50-300	0.637
Disulfoton	-1.739	5	<5	2.928	848	300-2000	2.431
Endosulfan	-1.165	28	5-50	2.146	140	50-300	0.328
Ethanol	2.391	11324	>5000	3.512	3253	2000-5000	4.001
Ethyleneglycol	2.062	7161	>5000	3.744	5549	2000-5000	4.624
Fenpropathrin	-0.664	76	50-300	2.167	147	50-300	0.385
Gibberellic Acid	1.241	6039	>5000	3.310	2040	2000-5000	3.456
Glutethimide	0.441	600	300-2000	2.857	720	300-2000	2.239
Glycerol	2.332	19770	>5000	3.658	4553	2000-5000	4.393
Haloperidol	-0.057	330	300-2000	2.220	166	50-300	0.526
Hexachlorophene	-0.696	82	50-300	1.451	28	5-50	-1.540
Lactic Acid	1.606	3635	2000-5000	3.183	1524	300-2000	3.115
Lindane	-0.464	100	50-300	2.497	314	300-2000	1.272
Lithium carbonate	0.902	590	300-2000	3.017	1040	300-2000	2.670
Meprobamate	0.803	1387	300-2000	2.973	941	300-2000	2.552
Mercury Chloride	-0.830	40	5-50	2.308	203	50-300	0.763
Methanol	2.434	8710	>5000	3.209	1616	300-2000	3.184
Nicotine	-0.367	70	50-300	2.778	600	300-2000	2.028

NHK NRU Predictions: RC Rat-Only Weight Regression
Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024

Reference Substance[1]	Log Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]	Observed Toxicity Category[3] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mg/kg)[4]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[5]	Predicted Toxicity Category[3] (mg/kg)	NHK Log IC_{50} (ug/mL)[6]
Paraquat	-0.443	93	50-300	2.690	489	300-2000	1.790
Parathion	-1.679	6	5-50	2.575	376	300-2000	1.481
Phenobarbital	-0.016	224	50-300	3.010	1024	300-2000	2.651
Phenol	0.765	548	300-2000	2.722	527	300-2000	1.875
Phenylthiourea	-1.705	3	<5	2.964	920	300-2000	2.527
Physostigmine	-1.741	5	<5	2.748	560	300-2000	1.947
Potassium Cyanide	-0.956	7	5-50	2.568	370	50-300	1.462
Potassium chloride	1.575	2802	2000-5000	3.270	1862	300-2000	3.350
Procainamide HCl	0.856	1950	300-2000	3.230	1697	2000-5000	3.241
Propranolol	0.197	466	300-2000	2.604	402	300-2000	1.559
Sodium Arsenite	-0.474	44	5-50	1.904	80	5-50	-0.322
Sodium Chloride	1.841	4050	2000-5000	3.252	1786	300-2000	3.300
Sodium Dichromate Dihydrate	-0.771	50	50-300	1.969	93	50-300	-0.148
Sodium Hypochlorite	2.142	10328	>5000	3.206	1606	300-2000	3.177
Sodium Oxalate	0.674	633	300-2000	2.965	923	300-2000	2.531
Sodium fluoride	0.480	127	50-300	2.652	449	50-300	1.689
Sodium selenate	-1.799	3	<5	2.399	251	50-300	1.009
Strychnine	-1.725	6	5-50	2.687	486	300-2000	1.781
Thallium Sulfate	-1.305	25	5-50	1.719	52	50-300	-0.819
Trichloroacetic Acid	1.505	5229	>5000	2.997	994	300-2000	2.616
Triethylenemelamine	-1.708	4	<5	2.124	133	50-300	0.268
Triphenyltin Hydroxide	-0.047	329	300-2000	1.281	19	5-50	-1.998
Valproic Acid	0.839	996	300-2000	3.032	1076	300-2000	2.709
Verapamil HCl	-0.646	111	50-300	2.702	503	300-2000	1.823
Xylene	1.643	4665	2000-5000	3.016	1039	300-2000	2.668

[1]Three chemicals were excluded because no rat oral LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride was excluded because IC_{50} values could not be determined.
[2]Reference LD_{50} in mmol/kg from **Table 4-2**. Reference rat oral LD_{50} values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.
[3]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[4]LD_{50} determined using NRU IC_{50} in RC rat-only weight regression: Log LD_{50} (mg/kg) = 0.372 log IC_{50} (ug/mL) + 2.024
[5]LD_{50} in mg/kg (converted from results of RC rat-only weight regression)
[6]Combined NHK IC_{50} values from three laboratories

Appendix J7

Comparison of Millimole Regression with Weight Regression Regarding Prediction of Toxicity (LD_{50}) for Low or High Molecular Weight Chemicals

[This Page Intentionally Left Blank]

J.7 The Prediction of Toxicity for High and Low Molecular Weight Substances Using Millimole vs. Weight-Based Regressions

The ICCVAM Acute Toxicity Working Group expressed some concern that the RC rat-only weight regression may less accurately (than the RC rat-only millimole regression) predict the toxicity of low molecular weight substances and high molecular weight substances. Using the RC IC_{50} and LD_{50} values for the 282 RC substances with rat oral LD_{50} data, analyses were performed to

- Determine the difference in the over and under-prediction rates of acute oral toxicity (i.e., LD_{50}) from IC_{50} values for low molecular weight substances (i.e., molecular weight ≤100 g/mole) vs. substances with higher molecular weights
- Determine the difference in the over and under-prediction rates of acute oral toxicity from IC_{50} values for high molecular weight substances (i.e., molecular weight ≥400 g/mole) vs. substances with lower molecular weights
- Compare the RC rat-only millimole regression with the RC rat-only weight regression with respect to the over and under-prediction rates of the toxicity of low and high molecular weight substances

J.7.1 Methods

The data used for to evaluate the over- and under-prediction rates of toxicity of low or high molecular weight chemicals were the RC data rather than the NICEATM/ECVAM validation study data because the RC contains data for many more substances. The RC IC_{50} and LD_{50} values for the 282 RC substances with rat oral LD_{50} data were used since substances with rat data are the focus of the BRD with respect to the prediction of oral LD_{50} (and starting dose for acute oral toxicity testing) from IC_{50} (see **Appendix K-3** for the data used). Over- or under-prediction of toxicity was determined by subtracting the predicted LD_{50} in mg/kg (i.e., the rat oral LD_{50} calculated using the RC IC_{50} in the regression equation) from the observed LD_{50} in mg/kg (i.e., the *in vivo* rat oral LD_{50} from the RC that was used to develop the regression). Negative values indicated that toxicity was underpredicted by the regression (i.e., predicted LD_{50} was greater than observed LD_{50}) and positive values indicated that toxicity was overpredicted by the regression (i.e., predicted LD_{50} was less than observed LD_{50}). This analysis assumed that the regressions either underpredicted or overpredicted the toxicity of all of the substances evaluated. In other words, there was a difference between the LD_{50} predicted by the regression and the *in vivo* LD_{50} used to calculate the regression even if it was a tiny fraction (i.e., no substances fit the regression exactly).

The proportion of low or high molecular weight chemicals that were under- and over-predicted in terms of acute oral toxicity (i.e., predicted LD_{50} values were higher or lower than reported *in vivo* LD_{50} values, respectively) using a millimole regression were calculated. These proportions were compared with those for chemicals that did not have low or high molecular weights. The same calculations were then performed for a weight-based regression. The proportions of under- and over-prediction of the toxicity for the millimole and weight-based regressions were compared to determine whether the weight regression increased the proportion of low molecular weight chemicals for which toxicity was underpredicted or the proportion of high molecular weight chemicals for which toxicity was overpredicted.

The millimole regression used was the RC rat-only millimole regression. The RC rat-only regression in millimole units, was calculated using the IC_{50} and oral LD_{50} data from the 282 RC chemicals with rat oral LD_{50} values and is strikingly similar in slope and intercept to the original RC millimole regression, which was based on 347 chemicals (282 chemicals with rat LD_{50} data and 65 chemicals with mouse LD_{50} data) (see **Table J7-1**). The weight-based regression used was the RC rat-only weight regression calculated using the IC_{50} and oral LD_{50} values from the 282 RC chemicals with rat oral LD_{50} values (see **Table J7-1**).

Table J7-1 IC_{50}-LD_{50} Linear Regressions

Moniker	Data Used	Slope	Intercept	R^2
RC millimole regression	347 RC substances with oral rat and mouse LD_{50} data – millimole units[1]	0.435	0.625	0.452
RC rat-only millimole regression	282 RC substances with rat oral LD_{50} data – millimole units[1]	0.439	0.621	0.452
RC rat-only weight regression	282 RC substances with rat oral LD_{50} data – weight units[2]	0.372	2.024	0.325

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; R^2=coefficient of determination
[1]IC_{50} in mM; LD_{50} in mmol/kg.
[2]IC_{50} in µg/mL; LD_{50} in mg/kg.

J.7.2 Results

Figures J7-1 and **J7-2** show either the low molecular weight or high molecular weight chemicals plotted with either the RC rat-only millimole regression or the RC rat-only weight regression. Since LD_{50} is inversely related to toxicity, low LD_{50} values indicate high toxicity and high LD_{50} values indicate low toxicity. The regression lines show the predicted LD_{50} for each IC_{50}. The regression lines underpredict the toxicity of chemicals that are plotted below the lines (i.e., predicted LD_{50} > *in vivo* LD_{50} and predicted toxicity < *in vivo* toxicity). The regression lines overpredict the toxicity of chemicals that are plotted above the lines (i.e., predicted LD_{50} < *in vivo* LD_{50} and predicted toxicity > *in vivo* toxicity).

Of the 282 RC substances with rat oral LD_{50} values, there were 51 substances with molecular weights ≤100 g/mole and 231 substances with molecular weights >100 g/mole. **Figure J7-1** shows the 51 low molecular weight chemicals (i.e., with molecular weight ≤100 g/mole) graphed with both the RC rat-only millimole regression (**Figure J7-1a**) and the RC rat-only weight regression (**Figure J7-1b**). The RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 20/51 (39%) substances and overestimated the toxicity of 31/51 (61%) substances (see **Table J7-2**). The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 24/51 (47%) substances and overestimated the toxicity of 27/51 (53%) substances. Fisher's exact test indicated that there was no difference between the millimole and weight regressions for the under and over-prediction rates of toxicity for the 51 low molecular weight substances (two-tailed p=0.549) (see **Table J7-3**).

Figure J7-1 Rat-only Regressions Graphed with 51 Chemicals with Molecular Weight ≤100 g/mole

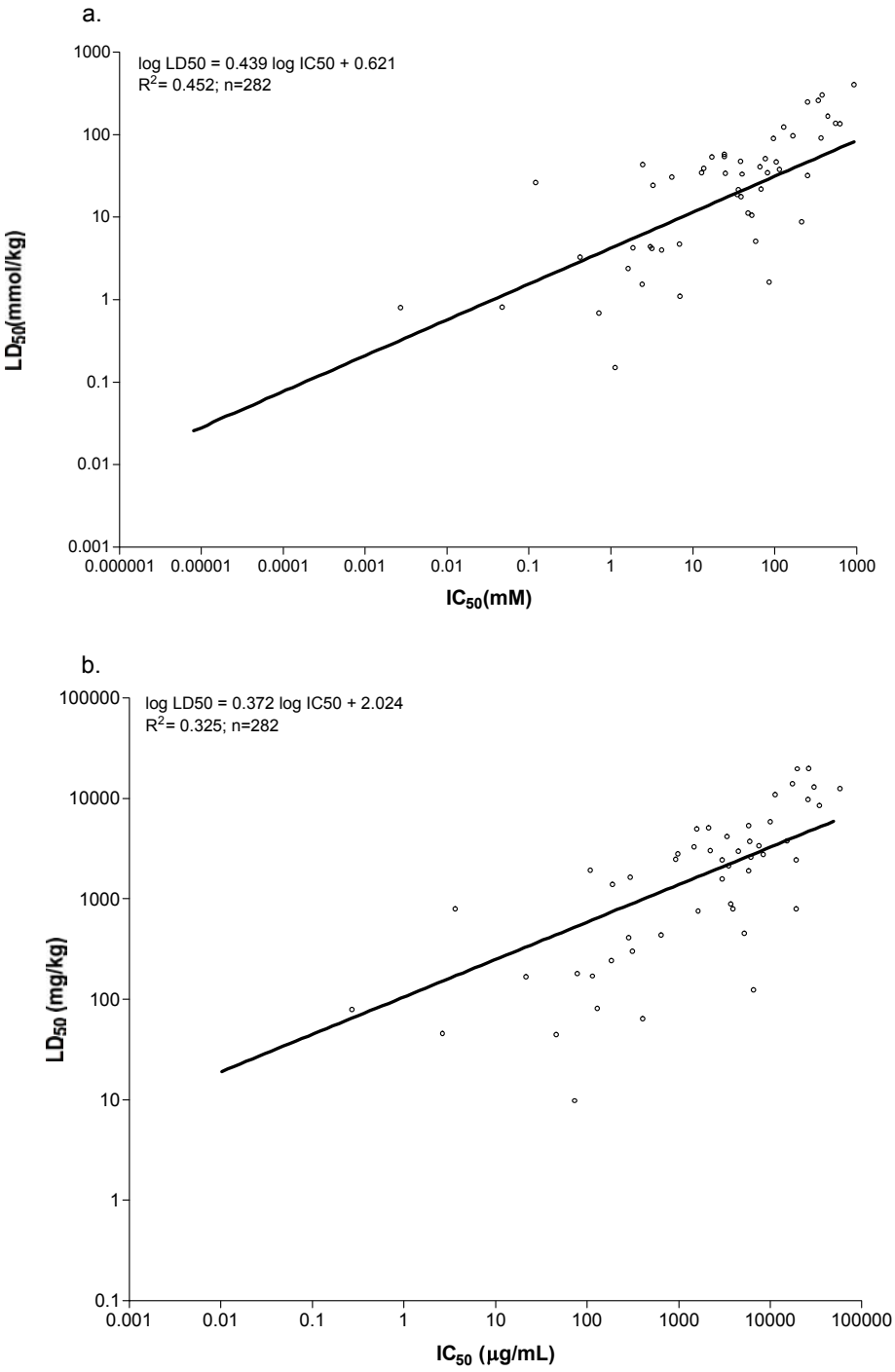


Figure J7-1a shows the RC rat-only millimole regression. Toxicity is underpredicted (i.e., predicted LD_{50} > *in vivo* LD_{50}) for 20/51 (39%) chemicals. Toxicity is overpredicted (i.e., predicted LD_{50} < *in vivo* LD_{50}) for 31/51 (61%) chemicals. **Figure J7-1b** shows the RC rat-only weight regression. Toxicity is underpredicted (i.e., predicted LD_{50} > *in vivo* LD_{50}) for 24/51 (47%) chemicals. Toxicity is overpredicted (i.e., predicted LD_{50} < *in vivo* LD_{50}) for 27/51 (53%) chemicals.

Table J7-2 Over- and Under Prediction of Toxicity for Low and High Molecular Weight Chemicals Using RC Rat-only Weight and Millimole Regressions

Regression	Toxicity Underpredicted	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted	Toxicity Overpredicted
	51 Chemicals with Molecular Weight ≤100 g/mole		231 Chemicals with Molecular Weight >100 g/mole	
RC Rat-only Weight	24/51 (47%)	27/51 (53%)	101/231 (44%)	130/231 (57%)
RC Rat-only Millimole	20/51 (39%)	31/51 (61%)	108/231 (47%)	123/231 (53%)
	20 Chemicals with Molecular Weight ≥400 g/mole		262 Chemicals with Molecular Weight <400 g/mole	
RC Rat-only Weight	4/20 (20%)	16/20 (80%)	121/262 (46%)	141/262 (54%)
RC Rat-only Millimole	7/20 (35%)	13/20 (65%)	121/262 (46%)	141/262 (54%)

Table J7-3 Over- and Under Prediction of Toxicity for Low and High Molecular Weight Substances Using RC Rat-Only Weight and Millimole Regressions

Comparison	For	Fisher's Exact Test[1]
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 51 substances with molecular weight ≤100 g/mole	0.549
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 231 substances with molecular weight >100 g/mole	0.575
51 Low molecular weight (≤100 g/mole) substances vs. 231 other substances (>100 g/mole)	RC rat-only millimole regression	0.355
51 Low molecular weight (≤100 g/mole) substances vs. 231 other substances (>100 g/mole)	RC rat-only weight regression	0.756
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 20 substances with molecular weight ≥400 g/mole	0.480
RC rat-only millimole vs. RC rat-only weight regression	Under- and over-prediction of toxicity for 262 substances with molecular weight <400 g/mole	NT
20 High molecular weight substances (≥400 g/mole) vs. 262 other substances (<400 g/mole)	RC rat-only millimole regression	0.362
20 High molecular weight substances (≥400 g/mole) vs. 262 other substances (<400 g/mole)	RC rat-only weight regression	0.033

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; NT=Not tested since the proportions were the same.
Toxicity was underpredicted for 121/262 (46%) substances and overpredicted for 141/262 (54%) substances.
[1]P-values.

For the 231 substances with molecular weights >100 g/mole, the RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 108/231 (47%) substances and overestimated the toxicity of 123/231 (53%) substances (see **Table J7-2**). The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 101/231 (44%) substances and overestimated the toxicity of 130/231 (57%) substances. Fisher's exact test indicated that there was no difference between the millimole and weight regressions for the under- and over-prediction rates for the 231 substances with molecular weight >100 g/mole (two-tailed p=0.575; see **Table J7-3**). Additionally, Fisher's exact test also showed that there was no difference in the under- and over-prediction rates for the 51 substances with molecular weight ≤100 g/mole compared to the under- and over-prediction of the toxicity of the 231 substances with molecular weight >100 g/mole (two-tailed p=0.756 for the RC rat-only weight regression and two-tailed p=0.355 for the RC rat-only millimole regression).

Of the 282 RC substances with rat oral LD_{50} values, there were 20 substances with molecular weights ≥400 g/mole and 262 substances with molecular weights <400 g/mole (see **Table J7-2**). **Figure J7-2** shows the 20 chemicals with molecular weights ≥400 g/mole plotted with the RC rat-only milllimole regression (**Figure J7-2a**) and the RC rat-only weight regression (**Figure J7-2b**). The RC rat-only millimole regression underestimated the toxicity of 7/20 (35%) substances and overestimated the toxicity of 13/20 (65%) substances (see **Table J7-2**). The RC rat-only weight regression underestimated the toxicity of 4/20 (20%) substances and overestimated the toxicity of 16/20 (80%) substances. Fisher's exact test indicated that there was no difference between the millimole and weight regressions for the under- and over-prediction of toxicity for the 20 high molecular weight substances (two-tailed p=0.480; see **Table J7-3**).

For the remaining 262 substances with molecular weights <400 g/mole, the RC rat-only millimole and the RC rat-only weight regressions both underestimated the toxicity of 121/262 (46%) substances and overestimated toxicity of 141/262 (54%) substances (see **Table J7-2**). Thus, there was no difference in the two regressions in the rates of under- and over-estimation of toxicity for the 262 substances with molecular weights <400 g/mole. Fisher's exact test also showed that there was no difference in the rates for under- and over-prediction of the toxicity of substances with high molecular weight (≥400 g/mole) compared with the under- and over-prediction of the toxicity of substances with lower molecular weight for the RC rat-only millimole regression (two-tailed p=0.362; see **Table J7-3**). For the RC rat-only weight regression, however, there was a significant difference in the under- and over-prediction rates for substances with high molecular weight (>400 g/mole) compared with the under- and over-prediction rates for substances with lower molecular weight (two-tailed p =0.033). Thus, the weight-based regression overestimated the toxicity of the high molecular weight substances (compared with substances with lower molecular weight) while the millimole regression did not.

Figure J7-2 Rat-only Regressions Graphed with 20 Chemicals with Molecular Weight ≥400 g/mole

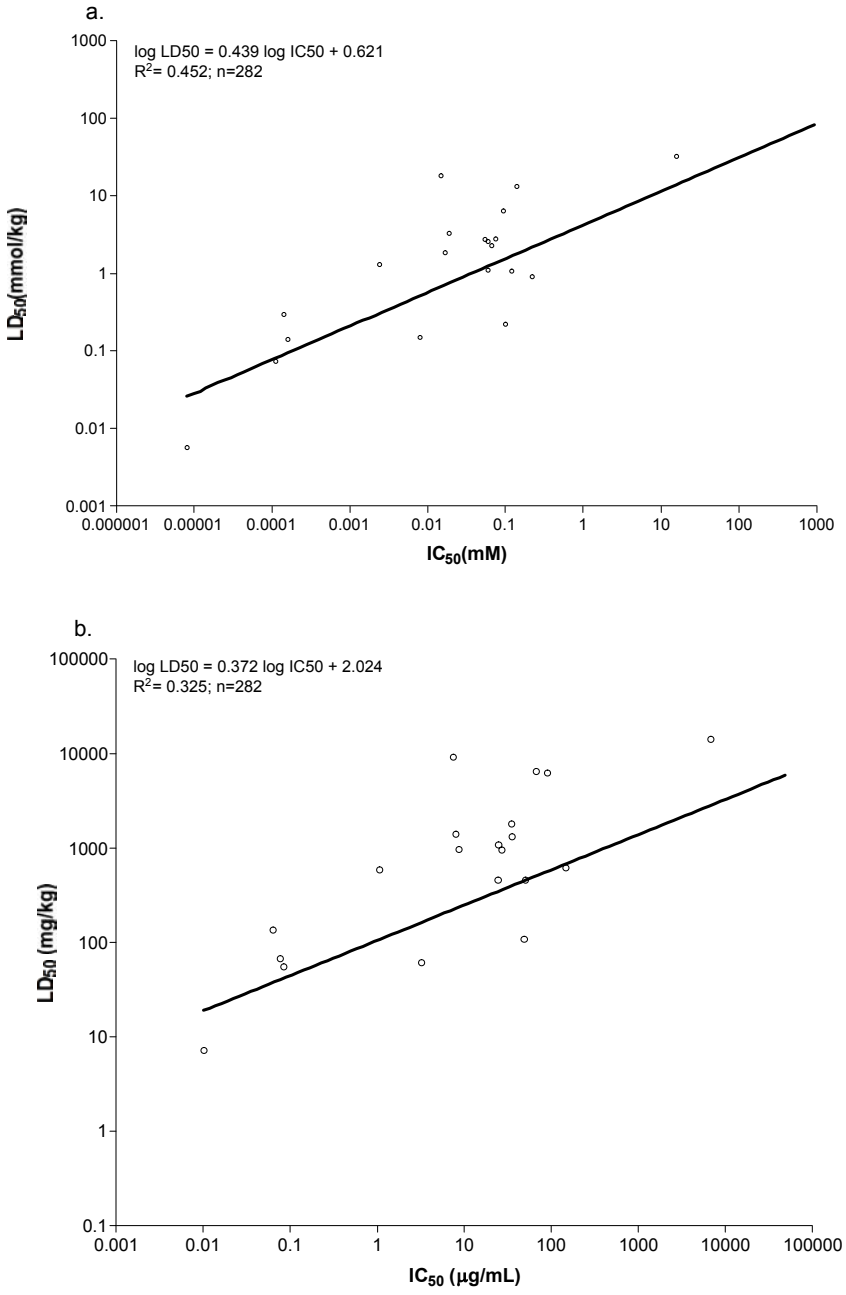


Figure J7-2a shows the RC rat-only millimole regression. Toxicity is underpredicted (i.e., predicted LD_{50} > *in vivo* LD_{50}) for 7/20 (35%) chemicals. Toxicity is overpredicted (i.e., predicted LD_{50} < *in vivo* LD_{50}) for 13/20 (65%) chemicals. **Figure J7-2b** shows the RC rat-only weight regression. Toxicity is underpredicted (i.e., predicted LD_{50} > *in vivo* LD_{50}) for 4/20 (20%) chemicals. Toxicity is overpredicted (i.e., predicted LD_{50} < *in vivo* LD_{50}) for 16/20 (80%) chemicals.

Appendix K

IC_{50} and LD_{50} Data for Regressions

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix K1

IC_{50} and LD_{50} Values Used for Laboratory-Specific Regressions

[This Page Intentionally Left Blank]

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	1,1,1-Trichloroethane	ECBC	2.489	1.957	308.185	90.534	133.410	41114.974	12078
3T3	1,1,1-Trichloroethane	FAL	2.200	1.957	158.512	90.534	133.410	21147.061	12078
3T3	1,1,1-Trichloroethane	IIVS	1.868	1.957	73.758	90.534	133.410	9840.111	12078
3T3	2-Propanol	ECBC	1.637	1.929	43.328	84.928	60.110	2604.458	5105
3T3	2-Propanol	FAL	1.820	1.929	66.019	84.928	60.110	3968.400	5105
3T3	2-Propanol	IIVS	1.835	1.929	68.340	84.928	60.110	4107.888	5105
3T3	5-Aminosalicylic acid	ECBC	0.979	1.350	9.529	22.391	153.100	1458.814	3428
3T3	5-Aminosalicylic acid	FAL	1.127	1.350	13.387	22.391	153.100	2049.588	3428
3T3	5-Aminosalicylic acid	IIVS	1.005	1.350	10.116	22.391	153.100	1548.817	3428
3T3	Acetaminophen	ECBC	-0.577	1.155	0.265	14.299	151.200	40.087	2162
3T3	Acetaminophen	FAL	-0.375	1.155	0.421	14.299	151.200	63.728	2162
3T3	Acetaminophen	IIVS	-0.553	1.155	0.280	14.299	151.200	42.364	2162
3T3	Acetonitrile	ECBC	2.195	1.942	156.682	87.576	41.050	6431.812	3595
3T3	Acetonitrile	FAL	2.312	1.942	204.968	87.576	41.050	8413.951	3595
3T3	Acetonitrile	IIVS	2.355	1.942	226.301	87.576	41.050	9289.664	3595
3T3	Acetylsalicylic acid	ECBC	0.553	0.922	3.572	8.357	180.200	643.675	1506
3T3	Acetylsalicylic acid	FAL	0.827	0.922	6.708	8.357	180.200	1208.741	1506
3T3	Acetylsalicylic acid	IIVS	0.344	0.922	2.208	8.357	180.200	397.802	1506
3T3	Aminopterin	ECBC	-4.926	-1.799	0.000012	0.016	440.470	0.0052	7.00
3T3	Aminopterin	FAL	-4.612	-1.799	0.000024	0.016	440.470	0.011	7.00
3T3	Aminopterin	IIVS	-4.980	-1.799	0.000010	0.016	440.470	0.005	7.00
3T3	Amitriptyline HCl	ECBC	-1.724	0.046	0.019	1.112	313.900	5.920	349
3T3	Amitriptyline HCl	FAL	-1.611	0.046	0.024	1.112	313.900	7.681	349
3T3	Amitriptyline HCl	IIVS	-1.609	0.046	0.025	1.112	313.900	7.719	349
3T3	Arsenic III trioxide	ECBC	-1.937	-0.897	0.012	0.127	197.840	2.285	25.1
3T3	Arsenic III trioxide	FAL	-2.278	-0.897	0.005	0.127	197.840	1.042	25.1
3T3	Arsenic III trioxide	IIVS	-1.724	-0.897	0.019	0.127	197.840	3.731	25.1
3T3	Atropine sulfate	ECBC	-1.151	0.071	0.071	1.179	694.800	49.128	819
3T3	Atropine sulfate	FAL	-0.734	0.071	0.184	1.179	694.800	128.135	819
3T3	Atropine sulfate	IIVS	-0.998	0.071	0.100	1.179	694.800	69.823	819
3T3	Boric acid	ECBC	1.370	1.744	23.432	55.410	61.830	1448.772	3426
3T3	Boric acid	FAL	1.804	1.744	63.748	55.410	61.830	3941.547	3426
3T3	Boric acid	IIVS	1.254	1.744	17.939	55.410	61.830	1109.175	3426
3T3	Busulfan	ECBC	-0.827	-1.308	0.149	0.049	246.310	36.700	12.1
3T3	Busulfan	FAL	0.075	-1.308	1.187	0.049	246.310	292.415	12.1
3T3	Busulfan	IIVS	-0.751	-1.308	0.177	0.049	246.310	43.685	12.1
3T3	Cadmium II chloride	ECBC	-2.585	-0.132	0.0026	0.738	183.300	0.477	135
3T3	Cadmium II chloride	FAL	-2.675	-0.132	0.0021	0.738	183.300	0.387	135
3T3	Cadmium II chloride	IIVS	-2.387	-0.132	0.0041	0.738	183.300	0.752	135

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Caffeine	ECBC	-0.165	0.203	0.684	1.596	194.200	132.841	310
3T3	Caffeine	FAL	-0.143	0.203	0.720	1.596	194.200	139.744	310
3T3	Caffeine	IIVS	-0.007	0.203	0.984	1.596	194.200	191.132	310
3T3	Carbamazepine	ECBC	-0.457	1.075	0.349	11.879	236.300	82.414	2807
3T3	Carbamazepine	FAL	-0.209	1.075	0.617	11.879	236.300	145.881	2807
3T3	Carbamazepine	IIVS	-0.412	1.075	0.387	11.879	236.300	91.411	2807
3T3	Chloral hydrate	ECBC	-0.041	0.586	0.910	3.857	165.400	150.545	638
3T3	Chloral hydrate	FAL	0.162	0.586	1.454	3.857	165.400	240.436	638
3T3	Chloral hydrate	IIVS	0.011	0.586	1.025	3.857	165.400	169.564	638
3T3	Chloramphenicol	ECBC	-0.776	1.033	0.168	10.800	323.150	54.147	3490
3T3	Chloramphenicol	FAL	-0.088	1.033	0.817	10.800	323.150	264.039	3490
3T3	Chloramphenicol	IIVS	-0.321	1.033	0.478	10.800	323.150	154.402	3490
3T3	Citric acid	ECBC	0.378	1.489	2.389	30.864	192.100	458.846	5929
3T3	Citric acid	FAL	0.774	1.489	5.943	30.864	192.100	1141.563	5929
3T3	Citric acid	IIVS	0.648	1.489	4.444	30.864	192.100	853.755	5929
3T3	Colchicine	ECBC	-4.292	-1.425	0.000051	0.038	399.480	0.020	15.0
3T3	Colchicine	FAL	-3.671	-1.425	0.000213	0.038	399.480	0.085	15.0
3T3	Colchicine	IIVS	-4.158	-1.425	0.000070	0.038	399.480	0.028	15.0
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	ECBC	-0.480	0.279	0.331	1.902	249.700	82.667	475
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	FAL	-0.333	0.279	0.465	1.902	249.700	116.078	475
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	IIVS	-1.653	0.279	0.022	1.902	249.700	5.556	475
3T3	Cycloheximide	ECBC	-3.384	-2.148	0.00041	0.007	281.400	0.116	2.0
3T3	Cycloheximide	FAL	-2.726	-2.148	0.00188	0.007	281.400	0.529	2.0
3T3	Cycloheximide	IIVS	-3.420	-2.148	0.00038	0.007	281.400	0.107	2.0
3T3	Dibutyl phthalate	ECBC	-1.079	1.504	0.083	31.951	278.300	23.227	8892
3T3	Dibutyl phthalate	FAL	-0.214	1.504	0.611	31.951	278.300	169.922	8892
3T3	Dibutyl phthalate	IIVS	-1.129	1.504	0.074	31.951	278.300	20.670	8892
3T3	Dichlorvos	ECBC	-1.373	-0.576	0.042	0.266	220.980	9.358	58.7
3T3	Dichlorvos	FAL	-0.829	-0.576	0.148	0.266	220.980	32.759	58.7
3T3	Dichlorvos	IIVS	-1.084	-0.576	0.082	0.266	220.980	18.225	58.7
3T3	Diethyl phthalate	ECBC	-0.430	1.622	0.372	41.904	222.200	82.604	9311
3T3	Diethyl phthalate	FAL	-0.191	1.622	0.644	41.904	222.200	143.109	9311
3T3	Diethyl phthalate	IIVS	-0.328	1.622	0.470	41.904	222.200	104.472	9311
3T3	Digoxin	ECBC	-0.373	-1.441	0.424	0.036	780.900	330.877	28.3
3T3	Digoxin	FAL	0.039	-1.441	1.093	0.036	780.900	853.755	28.3
3T3	Digoxin	IIVS	-0.397	-1.441	0.401	0.036	780.900	312.968	28.3
3T3	Dimethylformamide	ECBC	1.862	1.861	72.848	72.572	73.100	5325.168	5305
3T3	Dimethylformamide	FAL	1.874	1.861	74.774	72.572	73.100	5465.962	5305
3T3	Dimethylformamide	IIVS	1.826	1.861	67.001	72.572	73.100	4897.788	5305

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Diquat dibromide monohydra	ECBC	-1.978	-0.355	0.011	0.442	362.100	3.811	160
3T3	Diquat dibromide monohydra	FAL	-1.146	-0.355	0.071	0.442	362.100	25.882	160
3T3	Diquat dibromide monohydra	IIVS	-1.837	-0.355	0.015	0.442	362.100	5.268	160
3T3	Disulfoton	ECBC	-0.361	-1.739	0.435	0.018	274.420	119.402	5.0
3T3	Disulfoton	FAL	1.611	-1.739	40.796	0.018	274.420	11195.195	5.0
3T3	Disulfoton	IIVS	-0.760	-1.739	0.174	0.018	274.420	47.728	5.0
3T3	Endosulfan	ECBC	-1.933	-1.165	0.012	0.068	406.910	4.751	27.8
3T3	Endosulfan	FAL	-1.511	-1.165	0.031	0.068	406.910	12.554	27.8
3T3	Endosulfan	IIVS	-2.076	-1.165	0.008	0.068	406.910	3.416	27.8
3T3	Epinephrine bitartrate	ECBC	-0.813	-1.921	0.154	0.012	333.300	51.286	4.0
3T3	Epinephrine bitartrate	FAL	-0.723	-1.921	0.189	0.012	333.300	63.144	4.0
3T3	Epinephrine bitartrate	IIVS	-0.721	-1.921	0.190	0.012	333.300	63.338	4.0
3T3	Ethanol	ECBC	2.051	2.391	112.439	245.800	46.070	5180.043	11324
3T3	Ethanol	FAL	2.259	2.391	181.516	245.800	46.070	8362.446	11324
3T3	Ethanol	IIVS	2.143	2.391	139.075	245.800	46.070	6407.176	11324
3T3	Ethylene glycol	ECBC	2.469	2.062	294.295	115.351	62.080	18269.837	7161
3T3	Ethylene glycol	FAL	2.698	2.062	499.068	115.351	62.080	30982.150	7161
3T3	Ethylene glycol	IIVS	2.618	2.062	415.216	115.351	62.080	25776.589	7161
3T3	Fenpropathrin	ECBC	-1.191	-0.664	0.064	0.217	349.430	22.491	75.7
3T3	Fenpropathrin	FAL	-1.012	-0.664	0.097	0.217	349.430	33.982	75.7
3T3	Fenpropathrin	IIVS	-1.322	-0.664	0.048	0.217	349.430	16.647	75.7
3T3	Gibberellic acid	ECBC	1.363	1.241	23.074	17.436	346.380	7992.206	6039
3T3	Gibberellic acid	IIVS	1.343	1.241	22.035	17.436	346.380	7632.497	6039
3T3	Glutethimide	ECBC	-0.115	0.441	0.767	2.761	217.300	166.725	600
3T3	Glutethimide	FAL	0.117	0.441	1.308	2.761	217.300	284.228	600
3T3	Glutethimide	IIVS	-0.240	0.441	0.576	2.761	217.300	125.098	600
3T3	Glycerol	ECBC	2.334	2.332	215.835	214.681	92.090	19876.198	19770
3T3	Glycerol	FAL	2.477	2.332	299.942	214.681	92.090	27621.673	19770
3T3	Glycerol	IIVS	2.455	2.332	285.400	214.681	92.090	26282.499	19770
3T3	Haloperidol	ECBC	-1.851	-0.057	0.014	0.878	375.900	5.297	330
3T3	Haloperidol	FAL	-1.673	-0.057	0.021	0.878	375.900	7.977	330
3T3	Haloperidol	IIVS	-1.840	-0.057	0.014	0.878	375.900	5.440	330
3T3	Hexachlorophene	ECBC	-1.939	-0.696	0.012	0.202	406.910	4.684	82.0
3T3	Hexachlorophene	FAL	-1.896	-0.696	0.013	0.202	406.910	5.172	82.0
3T3	Hexachlorophene	IIVS	-2.126	-0.696	0.007	0.202	406.910	3.046	82.0
3T3	Lactic acid	ECBC	1.513	1.606	32.562	40.353	90.080	2933.144	3635
3T3	Lactic acid	FAL	1.584	1.606	38.374	40.353	90.080	3456.740	3635
3T3	Lactic acid	IIVS	1.490	1.606	30.882	40.353	90.080	2781.848	3635
3T3	Lindane	ECBC	-0.496	-0.464	0.319	0.344	290.800	92.754	100

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Lindane	FAL	-0.067	-0.464	0.856	0.344	290.800	249.029	100
3T3	Lindane	IIVS	-0.685	-0.464	0.207	0.344	290.800	60.090	100
3T3	Lithium I carbonate	ECBC	0.881	0.902	7.601	7.985	73.890	561.606	590
3T3	Meprobamate	ECBC	0.207	0.803	1.609	6.353	218.300	351.291	1387
3T3	Meprobamate	FAL	0.600	0.803	3.981	6.353	218.300	868.960	1387
3T3	Meprobamate	IIVS	0.247	0.803	1.766	6.353	218.300	385.478	1387
3T3	Mercury II chloride	ECBC	-1.897	-0.830	0.013	0.148	271.500	3.446	40.2
3T3	Mercury II chloride	FAL	-1.670	-0.830	0.021	0.148	271.500	5.801	40.2
3T3	Mercury II chloride	IIVS	-1.889	-0.830	0.013	0.148	271.500	3.505	40.2
3T3	Nicotine	ECBC	0.216	-0.367	1.643	0.430	162.200	266.481	69.7
3T3	Nicotine	FAL	0.386	-0.367	2.430	0.430	162.200	394.155	69.7
3T3	Nicotine	IIVS	0.441	-0.367	2.760	0.430	162.200	447.713	69.7
3T3	Paraquat	ECBC	-1.103	-0.443	0.079	0.360	257.200	20.308	92.7
3T3	Paraquat	FAL	-1.109	-0.443	0.078	0.360	257.200	19.991	92.7
3T3	Paraquat	IIVS	-1.107	-0.443	0.078	0.360	257.200	20.116	92.7
3T3	Parathion	ECBC	-1.147	-1.679	0.071	0.021	291.300	20.750	6.1
3T3	Parathion	FAL	-0.398	-1.679	0.400	0.021	291.300	116.413	6.1
3T3	Parathion	IIVS	-1.128	-1.679	0.074	0.021	291.300	21.695	6.1
3T3	Phenobarbital	ECBC	0.429	-0.016	2.688	0.965	232.230	624.214	224.0
3T3	Phenobarbital	FAL	0.473	-0.016	2.975	0.965	232.230	690.770	224.0
3T3	Phenobarbital	IIVS	0.303	-0.016	2.011	0.965	232.230	466.928	224.0
3T3	Phenol	ECBC	-0.280	0.908	0.524	8.097	94.110	49.355	762.0
3T3	Phenol	FAL	0.036	0.908	1.086	8.097	94.110	102.172	762.0
3T3	Phenol	IIVS	-0.211	0.908	0.615	8.097	94.110	57.854	762.0
3T3	Phenylthiourea	ECBC	-0.795	-1.705	0.160	0.020	152.200	24.389	3.0
3T3	Phenylthiourea	FAL	0.183	-1.705	1.523	0.020	152.200	231.739	3.0
3T3	Phenylthiourea	IIVS	-0.242	-1.705	0.573	0.020	152.200	87.163	3.0
3T3	Physostigmine	ECBC	-1.038	-1.741	0.092	0.018	275.400	25.235	5.0
3T3	Physostigmine	FAL	-0.863	-1.741	0.137	0.018	275.400	37.786	5.0
3T3	Physostigmine	IIVS	-1.145	-1.741	0.072	0.018	275.400	19.702	5.0
3T3	Potassium cyanide	ECBC	-0.637	-0.956	0.231	0.111	65.120	15.031	7.2
3T3	Potassium cyanide	FAL	0.353	-0.956	2.254	0.111	65.120	146.780	7.2
3T3	Potassium cyanide	IIVS	-0.538	-0.956	0.289	0.111	65.120	18.851	7.2
3T3	Potassium I chloride	ECBC	1.650	1.575	44.667	37.586	74.550	3329.953	2802.0
3T3	Potassium I chloride	FAL	1.690	1.575	48.972	37.586	74.550	3650.893	2802.0
3T3	Potassium I chloride	IIVS	1.695	1.575	49.557	37.586	74.550	3694.501	2802.0
3T3	Procainamide HCl	ECBC	0.168	0.856	1.473	7.175	271.790	400.252	1950.0
3T3	Procainamide HCl	FAL	0.200	0.856	1.585	7.175	271.790	430.857	1950.0
3T3	Procainamide HCl	IIVS	0.261	0.856	1.826	7.175	271.790	496.211	1950.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Propranolol	ECBC	-1.354	0.197	0.044	1.575	295.840	13.089	466.0
3T3	Propranolol	FAL	-1.378	0.197	0.042	1.575	295.840	12.377	466.0
3T3	Propranolol	IIVS	-1.232	0.197	0.059	1.575	295.840	17.352	466.0
3T3	Propylparaben	ECBC	-0.940	1.546	0.115	35.139	180.200	20.686	6332.0
3T3	Propylparaben	FAL	-0.553	1.546	0.280	35.139	180.200	50.466	6332.0
3T3	Propylparaben	IIVS	-1.026	1.546	0.094	35.139	180.200	16.982	6332.0
3T3	Sodium arsenite	ECBC	-2.419	-0.474	0.00381	0.336	129.900	0.495	43.6
3T3	Sodium arsenite	FAL	-1.998	-0.474	0.01005	0.336	129.900	1.305	43.6
3T3	Sodium arsenite	IIVS	-2.284	-0.474	0.00520	0.336	129.900	0.676	43.6
3T3	Sodium chloride	ECBC	1.913	1.841	81.901	69.302	58.440	4786.301	4050.0
3T3	Sodium chloride	FAL	1.896	1.841	78.621	69.302	58.440	4594.624	4050.0
3T3	Sodium chloride	IIVS	1.920	1.841	83.168	69.302	58.440	4860.340	4050.0
3T3	Sodium dichromate dihydrate	ECBC	-2.697	-0.771	0.00201	0.169	298.000	0.599	50.5
3T3	Sodium dichromate dihydrate	FAL	-2.680	-0.771	0.00209	0.169	298.000	0.622	50.5
3T3	Sodium dichromate dihydrate	IIVS	-2.740	-0.771	0.00182	0.169	298.000	0.542	50.5
3T3	Sodium hypochlorite	ECBC	1.041	2.142	10.995	138.737	74.440	818.465	10327.6
3T3	Sodium hypochlorite	FAL	0.996	2.142	9.898	138.737	74.440	736.772	10327.6
3T3	Sodium hypochlorite	IIVS	1.399	2.142	25.058	138.737	74.440	1865.306	10327.6
3T3	Sodium oxalate	ECBC	-0.535	0.674	0.292	4.724	134.000	39.114	633.0
3T3	Sodium oxalate	FAL	-0.649	0.674	0.224	4.724	134.000	30.061	633.0
3T3	Sodium oxalate	IIVS	-0.488	0.674	0.325	4.724	134.000	43.576	633.0
3T3	Sodium I fluoride	ECBC	0.163	0.480	1.456	3.020	41.990	61.136	126.8
3T3	Sodium I fluoride	FAL	0.354	0.480	2.260	3.020	41.990	94.911	126.8
3T3	Sodium I fluoride	IIVS	0.290	0.480	1.950	3.020	41.990	81.860	126.8
3T3	Sodium selenate	ECBC	-1.176	-1.799	0.067	0.016	188.940	12.594	3.0
3T3	Sodium selenate	FAL	-0.548	-1.799	0.283	0.016	188.940	53.487	3.0
3T3	Sodium selenate	IIVS	-0.717	-1.799	0.192	0.016	188.940	36.291	3.0
3T3	Strychnine	ECBC	0.059	-1.725	1.146	0.019	334.400	383.119	6.3
3T3	Strychnine	FAL	-0.434	-1.725	0.368	0.019	334.400	123.121	6.3
3T3	Strychnine	IIVS	-0.603	-1.725	0.249	0.019	334.400	83.432	6.3
3T3	Thallium II sulfate	ECBC	-2.263	-1.305	0.005	0.050	504.800	2.756	25.0
3T3	Thallium II sulfate	FAL	-1.726	-1.305	0.019	0.050	504.800	9.483	25.0
3T3	Thallium II sulfate	IIVS	-1.916	-1.305	0.012	0.050	504.800	6.124	25.0
3T3	Trichloroacetic acid	ECBC	0.666	1.282	4.639	19.137	163.400	757.996	3127.0
3T3	Trichloroacetic acid	FAL	0.872	1.282	7.443	19.137	163.400	1216.186	3127.0
3T3	Trichloroacetic acid	IIVS	0.687	1.282	4.869	19.137	163.400	795.548	3127.0
3T3	Triethylenemelamine	ECBC	-3.378	-1.708	0.000419	0.020	204.230	0.086	4.0
3T3	Triethylenemelamine	FAL	-2.153	-1.708	0.00703	0.020	204.230	1.436	4.0
3T3	Triethylenemelamine	IIVS	-3.095	-1.708	0.000804	0.020	204.230	0.164	4.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Triphenyltin hydroxide	ECBC	-4.161	-0.047	0.000069	0.896	367.020	0.025	329.0
3T3	Triphenyltin hydroxide	FAL	-4.366	-0.047	0.000043	0.896	367.020	0.016	329.0
3T3	Triphenyltin hydroxide	IIVS	-4.459	-0.047	0.000035	0.896	367.020	0.013	329.0
3T3	Valproic acid	ECBC	0.577	0.839	3.776	6.907	144.200	544.503	996.0
3T3	Valproic acid	FAL	1.097	0.839	12.494	6.907	144.200	1801.634	996.0
3T3	Valproic acid	IIVS	0.600	0.839	3.981	6.907	144.200	574.116	996.0
3T3	Verapamil HCl	ECBC	-1.188	-0.646	0.065	0.226	491.080	31.842	111.0
3T3	Verapamil HCl	FAL	-1.153	-0.646	0.070	0.226	491.080	34.514	111.0
3T3	Verapamil HCl	IIVS	-1.103	-0.646	0.079	0.226	491.080	38.726	111.0
3T3	Xylene	IIVS	0.832	1.643	6.787	43.939	106.170	720.554	4665.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	1,1,1-Trichloroethane	ECBC	1.784	1.957	60.881	90.534	133.410	8122.069	12078.1
NHK	2-Propanol	ECBC	1.940	1.929	87.191	84.928	60.110	5241.038	5105.0
NHK	2-Propanol	FAL	1.840	1.929	69.247	84.928	60.110	4162.458	5105.0
NHK	2-Propanol	IIVS	2.071	1.929	117.715	84.928	60.110	7075.821	5105.0
NHK	5-Aminosalicylic acid	ECBC	-0.717	1.350	0.192	22.391	153.100	29.399	3428.0
NHK	5-Aminosalicylic acid	FAL	-0.330	1.350	0.468	22.391	153.100	71.669	3428.0
NHK	5-Aminosalicylic acid	IIVS	-0.501	1.350	0.316	22.391	153.100	48.343	3428.0
NHK	Acetaminophen	ECBC	0.564	1.155	3.663	14.299	151.200	553.775	2162.0
NHK	Acetaminophen	FAL	0.466	1.155	2.925	14.299	151.200	442.249	2162.0
NHK	Acetaminophen	IIVS	0.574	1.155	3.754	14.299	151.200	567.545	2162.0
NHK	Acetonitrile	ECBC	2.357	1.942	227.608	87.576	41.050	9343.293	3595.0
NHK	Acetonitrile	FAL	2.388	1.942	244.542	87.576	41.050	10038.450	3595.0
NHK	Acetonitrile	IIVS	2.354	1.942	226.128	87.576	41.050	9282.536	3595.0
NHK	Acetylsalicylic acid	ECBC	0.544	0.922	3.501	8.357	180.200	630.957	1506.0
NHK	Acetylsalicylic acid	FAL	0.583	0.922	3.827	8.357	180.200	689.710	1506.0
NHK	Acetylsalicylic acid	IIVS	0.452	0.922	2.831	8.357	180.200	510.113	1506.0
NHK	Aminopterin	ECBC	0.299	-1.799	1.990	0.016	440.470	876.710	7.0
NHK	Aminopterin	FAL	0.091	-1.799	1.234	0.016	440.470	543.604	7.0
NHK	Aminopterin	IIVS	0.141	-1.799	1.383	0.016	440.470	608.951	7.0
NHK	Amitriptyline HCl	ECBC	-1.480	0.046	0.033	1.112	313.900	10.402	349.0
NHK	Amitriptyline HCl	FAL	-1.696	0.046	0.020	1.112	313.900	6.328	349.0
NHK	Amitriptyline HCl	IIVS	-1.458	0.046	0.035	1.112	313.900	10.923	349.0
NHK	Arsenic III trioxide	ECBC	-1.426	-0.897	0.038	0.127	197.840	7.425	25.1
NHK	Arsenic III trioxide	FAL	-1.968	-0.897	0.011	0.127	197.840	2.132	25.1
NHK	Arsenic III trioxide	IIVS	-0.991	-0.897	0.102	0.127	197.840	20.216	25.1
NHK	Atropine sulfate	ECBC	-0.912	0.071	0.122	1.179	694.800	85.049	819.0
NHK	Atropine sulfate	FAL	-0.943	0.071	0.114	1.179	694.800	79.189	819.0
NHK	Atropine sulfate	IIVS	-0.932	0.071	0.117	1.179	694.800	81.345	819.0
NHK	Boric acid	ECBC	0.839	1.744	6.899	55.410	61.830	426.580	3426.0
NHK	Boric acid	FAL	0.786	1.744	6.111	55.410	61.830	377.862	3426.0
NHK	Boric acid	IIVS	0.875	1.744	7.501	55.410	61.830	463.803	3426.0
NHK	Busulfan	ECBC	0.003	-1.308	1.006	0.049	246.310	247.742	12.1
NHK	Busulfan	FAL	-0.033	-1.308	0.926	0.049	246.310	228.034	12.1
NHK	Busulfan	IIVS	0.102	-1.308	1.265	0.049	246.310	311.650	12.1
NHK	Cadmium II chloride	ECBC	-1.948	-0.132	0.011	0.738	183.300	2.066	135.2
NHK	Cadmium II chloride	FAL	-2.083	-0.132	0.008	0.738	183.300	1.514	135.2
NHK	Cadmium II chloride	IIVS	-1.995	-0.132	0.010	0.738	183.300	1.856	135.2
NHK	Caffeine	ECBC	0.609	0.203	4.062	1.596	194.200	788.860	310.0
NHK	Caffeine	FAL	0.469	0.203	2.947	1.596	194.200	572.357	310.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Caffeine	IIVS	0.471	0.203	2.956	1.596	194.200	574.116	310.0
NHK	Carbamazepine	ECBC	-0.555	1.075	0.278	11.879	236.300	65.766	2807.0
NHK	Carbamazepine	FAL	-0.235	1.075	0.582	11.879	236.300	137.615	2807.0
NHK	Carbamazepine	IIVS	-0.569	1.075	0.270	11.879	236.300	63.728	2807.0
NHK	Chloral hydrate	ECBC	-0.082	0.586	0.829	3.857	165.400	137.088	638.0
NHK	Chloral hydrate	FAL	-0.031	0.586	0.931	3.857	165.400	153.934	638.0
NHK	Chloral hydrate	IIVS	-0.169	0.586	0.677	3.857	165.400	112.030	638.0
NHK	Chloramphenicol	ECBC	-0.033	1.033	0.927	10.800	323.150	299.663	3490.0
NHK	Chloramphenicol	FAL	0.070	1.033	1.175	10.800	323.150	379.588	3490.0
NHK	Chloramphenicol	IIVS	0.048	1.033	1.117	10.800	323.150	361.049	3490.0
NHK	Citric acid	ECBC	0.434	1.489	2.715	30.864	192.100	521.595	5929.0
NHK	Citric acid	FAL	0.206	1.489	1.608	30.864	192.100	308.852	5929.0
NHK	Citric acid	IIVS	0.352	1.489	2.250	30.864	192.100	432.182	5929.0
NHK	Colchicine	ECBC	-4.918	-1.425	0.0000121	0.038	399.480	0.005	15.0
NHK	Colchicine	FAL	-4.720	-1.425	0.0000190	0.038	399.480	0.008	15.0
NHK	Colchicine	IIVS	-4.699	-1.425	0.0000200	0.038	399.480	0.008	15.0
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	ECBC	-0.121	0.279	0.757	1.902	249.700	188.944	475.0
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	FAL	-0.109	0.279	0.778	1.902	249.700	194.387	475.0
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	IIVS	-0.082	0.279	0.828	1.902	249.700	206.697	475.0
NHK	Cycloheximide	ECBC	-3.732	-2.148	0.000185	0.007	281.400	0.052	2.0
NHK	Cycloheximide	FAL	-3.418	-2.148	0.000382	0.007	281.400	0.108	2.0
NHK	Cycloheximide	IIVS	-3.601	-2.148	0.000251	0.007	281.400	0.071	2.0
NHK	Dibutyl phthalate	ECBC	-1.005	1.504	0.099	31.951	278.300	27.521	8892.0
NHK	Dibutyl phthalate	FAL	-0.854	1.504	0.140	31.951	278.300	38.964	8892.0
NHK	Dibutyl phthalate	IIVS	-1.102	1.504	0.079	31.951	278.300	22.012	8892.0
NHK	Dichlorvos	ECBC	-1.423	-0.576	0.038	0.266	220.980	8.348	58.7
NHK	Dichlorvos	FAL	-1.265	-0.576	0.054	0.266	220.980	11.991	58.7
NHK	Dichlorvos	IIVS	-1.258	-0.576	0.055	0.266	220.980	12.199	58.7
NHK	Diethyl phthalate	ECBC	-0.108	1.622	0.779	41.904	222.200	173.114	9311.0
NHK	Diethyl phthalate	FAL	-0.615	1.622	0.243	41.904	222.200	53.910	9311.0
NHK	Diethyl phthalate	IIVS	-0.074	1.622	0.843	41.904	222.200	187.212	9311.0
NHK	Digoxin	ECBC	-5.164	-1.441	0.00000685	0.036	780.900	0.0053	28.3
NHK	Digoxin	FAL	-7.209	-1.441	0.00000006	0.036	780.900	0.000048	28.3
NHK	Digoxin	IIVS	-5.293	-1.441	0.00000509	0.036	780.900	0.0040	28.3
NHK	Dimethylformamide	ECBC	2.107	1.861	127.962	72.572	73.100	9354.057	5305.0
NHK	Dimethylformamide	FAL	2.029	1.861	106.926	72.572	73.100	7816.278	5305.0
NHK	Dimethylformamide	IIVS	1.942	1.861	87.448	72.572	73.100	6392.440	5305.0
NHK	Diquat dibromide monohydra	ECBC	-2.012	-0.355	0.010	0.442	362.100	3.525	160.0
NHK	Diquat dibromide monohydra	FAL	-1.779	-0.355	0.017	0.442	362.100	6.028	160.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Diquat dibromide monohydra	IIVS	-1.976	-0.355	0.011	0.442	362.100	3.829	160.0
NHK	Disulfoton	ECBC	-0.298	-1.739	0.504	0.018	274.420	138.250	5.0
NHK	Disulfoton	FAL	0.458	-1.739	2.872	0.018	274.420	788.255	5.0
NHK	Disulfoton	IIVS	-0.182	-1.739	0.657	0.018	274.420	180.302	5.0
NHK	Endosulfan	ECBC	-2.077	-1.165	0.0084	0.068	406.910	3.411	27.8
NHK	Endosulfan	FAL	-2.493	-1.165	0.0032	0.068	406.910	1.307	27.8
NHK	Endosulfan	IIVS	-2.276	-1.165	0.0053	0.068	406.910	2.157	27.8
NHK	Epinephrine bitartrate	ECBC	-0.464	-1.921	0.343	0.012	333.300	114.463	4.0
NHK	Epinephrine bitartrate	FAL	-0.628	-1.921	0.236	0.012	333.300	78.584	4.0
NHK	Epinephrine bitartrate	IIVS	-0.652	-1.921	0.223	0.012	333.300	74.245	4.0
NHK	Ethanol	ECBC	2.255	2.391	179.852	245.800	46.070	8285.779	11324.0
NHK	Ethanol	FAL	2.411	2.391	257.780	245.800	46.070	11875.904	11324.0
NHK	Ethanol	IIVS	2.346	2.391	221.776	245.800	46.070	10217.234	11324.0
NHK	Ethylene glycol	ECBC	2.785	2.062	609.021	115.351	62.080	37808.041	7161.0
NHK	Ethylene glycol	FAL	2.903	2.062	800.306	115.351	62.080	49683.006	7161.0
NHK	Ethylene glycol	IIVS	2.806	2.062	639.741	115.351	62.080	39715.137	7161.0
NHK	Fenpropathrin	ECBC	-1.982	-0.664	0.0104	0.217	349.430	3.645	75.7
NHK	Fenpropathrin	FAL	-2.207	-0.664	0.0062	0.217	349.430	2.171	75.7
NHK	Fenpropathrin	IIVS	-2.287	-0.664	0.0052	0.217	349.430	1.806	75.7
NHK	Gibberellic acid	ECBC	0.912	1.241	8.174	17.436	346.380	2831.392	6039.5
NHK	Gibberellic acid	FAL	0.927	1.241	8.461	17.436	346.380	2930.893	6039.5
NHK	Gibberellic acid	IIVS	0.909	1.241	8.106	17.436	346.380	2807.588	6039.5
NHK	Glutethimide	ECBC	-0.087	0.441	0.819	2.761	217.300	177.964	600.0
NHK	Glutethimide	FAL	-0.110	0.441	0.776	2.761	217.300	168.655	600.0
NHK	Glutethimide	IIVS	-0.096	0.441	0.802	2.761	217.300	174.181	600.0
NHK	Glycerol	ECBC	2.542	2.332	348.180	214.681	92.090	32063.852	19770.0
NHK	Glycerol	FAL	2.250	2.332	177.877	214.681	92.090	16380.733	19770.0
NHK	Glycerol	IIVS	2.495	2.332	312.695	214.681	92.090	28796.077	19770.0
NHK	Haloperidol	ECBC	-2.019	-0.057	0.00958	0.878	375.900	3.601	330.0
NHK	Haloperidol	FAL	-2.053	-0.057	0.00886	0.878	375.900	3.329	330.0
NHK	Haloperidol	IIVS	-2.076	-0.057	0.00840	0.878	375.900	3.157	330.0
NHK	Hexachlorophene	ECBC	-4.179	-0.696	0.000066	0.202	406.910	0.027	82.0
NHK	Hexachlorophene	FAL	-3.984	-0.696	0.000104	0.202	406.910	0.042	82.0
NHK	Hexachlorophene	IIVS	-4.285	-0.696	0.000052	0.202	406.910	0.021	82.0
NHK	Lactic acid	ECBC	1.155	1.606	14.274	40.353	90.080	1285.822	3635.0
NHK	Lactic acid	FAL	1.166	1.606	14.646	40.353	90.080	1319.269	3635.0
NHK	Lactic acid	IIVS	1.162	1.606	14.511	40.353	90.080	1307.174	3635.0
NHK	Lindane	ECBC	-1.188	-0.464	0.065	0.344	290.800	18.880	100.0
NHK	Lindane	FAL	-1.113	-0.464	0.077	0.344	290.800	22.439	100.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Lindane	IIVS	-1.273	-0.464	0.053	0.344	290.800	15.500	100.0
NHK	Lithium I carbonate	ECBC	0.733	0.902	5.413	7.985	73.890	399.969	590.0
NHK	Lithium I carbonate	FAL	0.812	0.902	6.482	7.985	73.890	478.918	590.0
NHK	Lithium I carbonate	IIVS	0.859	0.902	7.228	7.985	73.890	534.059	590.0
NHK	Meprobamate	ECBC	0.539	0.803	3.459	6.353	218.300	755.092	1386.8
NHK	Meprobamate	FAL	-0.353	0.803	0.444	6.353	218.300	96.902	1386.8
NHK	Meprobamate	IIVS	0.454	0.803	2.842	6.353	218.300	620.393	1386.8
NHK	Mercury II chloride	ECBC	-1.600	-0.830	0.025	0.148	271.500	6.815	40.2
NHK	Mercury II chloride	FAL	-1.706	-0.830	0.020	0.148	271.500	5.339	40.2
NHK	Mercury II chloride	IIVS	-1.705	-0.830	0.020	0.148	271.500	5.352	40.2
NHK	Methanol	FAL	1.543	2.434	34.885	271.835	32.040	1117.721	8709.6
NHK	Methanol	IIVS	1.815	2.434	65.259	271.835	32.040	2090.900	8709.6
NHK	Nicotine	ECBC	-0.246	-0.367	0.568	0.430	162.200	92.116	69.7
NHK	Nicotine	FAL	-0.129	-0.367	0.742	0.430	162.200	120.411	69.7
NHK	Nicotine	IIVS	-0.172	-0.367	0.673	0.430	162.200	109.144	69.7
NHK	Paraquat	ECBC	-0.729	-0.443	0.187	0.360	257.200	48.010	92.7
NHK	Paraquat	FAL	-0.449	-0.443	0.356	0.360	257.200	91.482	92.7
NHK	Paraquat	IIVS	-0.684	-0.443	0.207	0.360	257.200	53.211	92.7
NHK	Parathion	ECBC	-0.945	-1.679	0.114	0.021	291.300	33.090	6.1
NHK	Parathion	FAL	-0.993	-1.679	0.102	0.021	291.300	29.582	6.1
NHK	Parathion	IIVS	-1.012	-1.679	0.097	0.021	291.300	28.316	6.1
NHK	Phenobarbital	ECBC	0.466	-0.016	2.922	0.965	232.230	678.683	224.0
NHK	Phenobarbital	FAL	0.179	-0.016	1.512	0.965	232.230	351.021	224.0
NHK	Phenobarbital	IIVS	0.210	-0.016	1.622	0.965	232.230	376.704	224.0
NHK	Phenol	ECBC	-0.224	0.908	0.598	8.097	94.110	56.234	762.0
NHK	Phenol	FAL	-0.005	0.908	0.989	8.097	94.110	93.111	762.0
NHK	Phenol	IIVS	-0.067	0.908	0.857	8.097	94.110	80.662	762.0
NHK	Phenylthiourea	ECBC	0.374	-1.705	2.367	0.020	152.200	360.302	3.0
NHK	Phenylthiourea	FAL	0.415	-1.705	2.600	0.020	152.200	395.670	3.0
NHK	Phenylthiourea	IIVS	0.244	-1.705	1.754	0.020	152.200	266.891	3.0
NHK	Physostigmine	ECBC	-0.226	-1.741	0.594	0.018	275.400	163.682	5.0
NHK	Physostigmine	FAL	-0.954	-1.741	0.111	0.018	275.400	30.617	5.0
NHK	Physostigmine	IIVS	-0.299	-1.741	0.502	0.018	275.400	138.250	5.0
NHK	Potassium cyanide	ECBC	-0.356	-0.956	0.441	0.111	65.120	28.708	7.2
NHK	Potassium cyanide	FAL	-0.112	-0.956	0.773	0.111	65.120	50.350	7.2
NHK	Potassium cyanide	IIVS	-0.589	-0.956	0.258	0.111	65.120	16.788	7.2
NHK	Potassium I chloride	ECBC	1.531	1.575	33.999	37.586	74.550	2534.622	2802.0
NHK	Potassium I chloride	FAL	1.475	1.575	29.837	37.586	74.550	2224.317	2802.0
NHK	Potassium I chloride	IIVS	1.425	1.575	26.634	37.586	74.550	1985.553	2802.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Procainamide HCl	ECBC	0.733	0.856	5.413	7.175	271.790	1471.183	1950.0
NHK	Procainamide HCl	FAL	0.816	0.856	6.543	7.175	271.790	1778.280	1950.0
NHK	Procainamide HCl	IIVS	0.871	0.856	7.426	7.175	271.790	2018.366	1950.0
NHK	Propranolol	ECBC	-0.890	0.197	0.129	1.575	295.840	38.084	466.0
NHK	Propranolol	FAL	-0.830	0.197	0.148	1.575	295.840	43.758	466.0
NHK	Propranolol	IIVS	-1.017	0.197	0.096	1.575	295.840	28.465	466.0
NHK	Propylparaben	ECBC	-1.000	1.546	0.100	35.139	180.200	18.016	6332.0
NHK	Propylparaben	FAL	-0.991	1.546	0.102	35.139	180.200	18.394	6332.0
NHK	Propylparaben	IIVS	-1.115	1.546	0.077	35.139	180.200	13.825	6332.0
NHK	Sodium arsenite	ECBC	-2.231	-0.474	0.0059	0.336	129.900	0.763	43.6
NHK	Sodium arsenite	FAL	-2.631	-0.474	0.0023	0.336	129.900	0.304	43.6
NHK	Sodium arsenite	IIVS	-2.444	-0.474	0.0036	0.336	129.900	0.467	43.6
NHK	Sodium chloride	ECBC	1.787	1.841	61.229	69.302	58.440	3578.217	4050.0
NHK	Sodium chloride	FAL	1.042	1.841	11.014	69.302	58.440	643.675	4050.0
NHK	Sodium chloride	IIVS	1.772	1.841	59.196	69.302	58.440	3459.394	4050.0
NHK	Sodium dichromate dihydrate	ECBC	-2.583	-0.771	0.0026	0.169	298.000	0.779	50.5
NHK	Sodium dichromate dihydrate	FAL	-2.565	-0.771	0.0027	0.169	298.000	0.811	50.5
NHK	Sodium dichromate dihydrate	IIVS	-2.718	-0.771	0.0019	0.169	298.000	0.571	50.5
NHK	Sodium hypochlorite	ECBC	1.384	2.142	24.203	138.737	74.440	1801.634	10327.6
NHK	Sodium hypochlorite	FAL	1.192	2.142	15.543	138.737	74.440	1157.000	10327.6
NHK	Sodium hypochlorite	IIVS	1.340	2.142	21.854	138.737	74.440	1626.797	10327.6
NHK	Sodium oxalate	ECBC	0.420	0.674	2.632	4.724	134.000	352.641	633.0
NHK	Sodium oxalate	FAL	0.373	0.674	2.360	4.724	134.000	316.228	633.0
NHK	Sodium oxalate	IIVS	0.418	0.674	2.616	4.724	134.000	350.483	633.0
NHK	Sodium I fluoride	ECBC	0.061	0.480	1.152	3.020	41.990	48.363	126.8
NHK	Sodium I fluoride	FAL	0.032	0.480	1.078	3.020	41.990	45.250	126.8
NHK	Sodium I fluoride	IIVS	0.105	0.480	1.272	3.020	41.990	53.423	126.8
NHK	Sodium selenate	ECBC	-1.405	-1.799	0.039	0.016	188.940	7.439	3.0
NHK	Sodium selenate	FAL	-1.117	-1.799	0.076	0.016	188.940	14.440	3.0
NHK	Sodium selenate	IIVS	-1.279	-1.799	0.053	0.016	188.940	9.935	3.0
NHK	Strychnine	ECBC	-0.601	-1.725	0.251	0.019	334.400	83.898	6.3
NHK	Strychnine	FAL	-0.844	-1.725	0.143	0.019	334.400	47.863	6.3
NHK	Strychnine	IIVS	-0.784	-1.725	0.164	0.019	334.400	54.996	6.3
NHK	Thallium II sulfate	ECBC	-3.440	-1.305	0.00036	0.050	504.800	0.183	25.0
NHK	Thallium II sulfate	FAL	-3.525	-1.305	0.00030	0.050	504.800	0.151	25.0
NHK	Thallium II sulfate	IIVS	-3.602	-1.305	0.00025	0.050	504.800	0.126	25.0
NHK	Trichloroacetic acid	ECBC	0.323	1.282	2.103	19.137	163.400	343.558	3127.0
NHK	Trichloroacetic acid	FAL	0.507	1.282	3.214	19.137	163.400	525.210	3127.0
NHK	Trichloroacetic acid	IIVS	0.379	1.282	2.394	19.137	163.400	391.141	3127.0

IC50 and LD50 Values Used for Laboratory-Specific Regressions

NRU Test Method	Substance	Lab	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Triethylenemelamine	ECBC	-2.126	-1.708	0.0075	0.020	204.230	1.527	4.0
NHK	Triethylenemelamine	FAL	-2.012	-1.708	0.0097	0.020	204.230	1.986	4.0
NHK	Triethylenemelamine	IIVS	-1.988	-1.708	0.0103	0.020	204.230	2.097	4.0
NHK	Triphenyltin hydroxide	ECBC	-4.250	-0.047	0.000056	0.896	367.020	0.021	329.0
NHK	Triphenyltin hydroxide	FAL	-4.885	-0.047	0.000013	0.896	367.020	0.0048	329.0
NHK	Triphenyltin hydroxide	IIVS	-4.552	-0.047	0.000028	0.896	367.020	0.010	329.0
NHK	Valproic acid	ECBC	0.501	0.839	3.172	6.907	144.200	457.439	996.0
NHK	Valproic acid	FAL	0.679	0.839	4.779	6.907	144.200	689.181	996.0
NHK	Valproic acid	IIVS	0.470	0.839	2.954	6.907	144.200	425.925	996.0
NHK	Verapamil HCl	ECBC	-0.917	-0.646	0.121	0.226	491.080	59.384	111.0
NHK	Verapamil HCl	FAL	-0.817	-0.646	0.152	0.226	491.080	74.874	111.0
NHK	Verapamil HCl	IIVS	-0.871	-0.646	0.134	0.226	491.080	66.019	111.0
NHK	Xylene	IIVS	0.642	1.643	4.385	43.939	106.170	465.586	4665.0

Abbreviations: 3T3=Neutral red uptake with mouse fibroblast 3T3 cell line; NHK=Neutral red uptake with normal human epidermal keratinocytes; ECBC=US Army Chemical Biological Center; FAL=FRAME Alternatives Lab; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

[1] IC_{50} values are the geometric mean IC_{50} values for each substance in each lab.

[2] Reference rat oral LD_{50} values from **Table 4-2**. Reference values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.

Appendix K2

IC_{50} and LD_{50} Values Used for Combined-Laboratory Regressions

[This Page Intentionally Left Blank]

IC50 and LD50 Values Used for Combined-Laboratory Regressions

NRU Test Method	Substance	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	1,1,1-Trichloroethane	2.186	1.957	133.41	153.307	90.534	20453	12078.1
3T3	2-Propanol	1.764	1.929	60.11	58.037	84.928	3489	5105.0
3T3	5-Aminosalicylic Acid	1.037	1.350	153.10	10.887	22.391	1667	3428.0
3T3	Acetaminophen	-0.501	1.155	151.20	0.315	14.299	47.7	2162.0
3T3	Acetonitrile	2.287	1.942	41.05	193.701	87.576	7951	3595.0
3T3	Acetylsalicylic Acid	0.574	0.922	180.20	3.754	8.357	676	1506.0
3T3	Aminopterin	-4.839	-1.799	440.47	0.000	0.016	0.006	7.0
3T3	Amitriptyline HCl	-1.648	0.046	313.90	0.022	1.112	7.05	349.0
3T3	Arsenictrioxide	-1.980	-0.897	197.84	0.010	0.127	2.07	25.1
3T3	Atropine Sulfate	-0.961	0.071	694.80	0.109	1.179	76.0	819.0
3T3	Boric Acid	1.476	1.744	61.83	29.924	55.410	1850	3426.0
3T3	Busulfan	-0.501	-1.308	246.31	0.315	0.049	77.7	12.1
3T3	Cadmium chloride	-2.549	-0.132	183.30	0.003	0.738	0.518	135.2
3T3	Caffeine	-0.105	0.203	194.20	0.785	1.596	153	310.0
3T3	Carbamazepine	-0.360	1.075	236.30	0.437	11.879	103	2807.0
3T3	Chloral Hydrate	0.044	0.586	165.40	1.107	3.857	183	638.0
3T3	Chloramphenicol	-0.395	1.033	323.15	0.403	10.800	130	3490.0
3T3	Citric Acid	0.600	1.489	192.10	3.981	30.864	765	5929.0
3T3	Cupric Sulfate Pentahydrate	-0.822	0.279	249.70	0.151	1.902	37.6	475.0
3T3	Cycloheximide	-3.177	-2.148	281.40	0.001	0.007	0.187	2.0
3T3	Dibutyl Phthalate	-0.807	1.504	278.30	0.156	31.951	43.4	8892.0
3T3	Dichlorvos (DDVP)	-1.095	-0.576	220.98	0.080	0.266	17.7	58.7
3T3	Diethyl Phthalate	-0.316	1.622	222.20	0.483	41.904	107	9311.0
3T3	Digoxin	-0.244	-1.441	780.90	0.570	0.036	445	28.3
3T3	Dimethylformamide	1.854	1.861	73.10	71.463	72.572	5224	5305.0
3T3	Diquat Dibromide Monohydrate	-1.654	-0.355	362.10	0.022	0.442	8.04	160.0
3T3	Disulfoton	0.163	-1.739	274.42	1.456	0.018	400	5.0
3T3	Endosulfan	-1.840	-1.165	406.91	0.014	0.068	5.88	27.8
3T3	Ethanol	2.151	2.391	46.07	141.588	245.800	6523	11324.0
3T3	Ethyleneglycol	2.595	2.062	62.08	393.615	115.351	24436	7161.0
3T3	Fenpropathrin	-1.175	-0.664	349.43	0.067	0.217	23.3	75.7
3T3	Gibberellic Acid	1.353	1.241	346.38	22.548	17.436	7810	6039.5
3T3	Glutethimide	-0.079	0.441	217.30	0.833	2.761	181	600.0
3T3	Glycerol	2.422	2.332	92.09	264.365	214.681	24345	19770.0
3T3	Haloperidol	-1.788	-0.057	375.90	0.016	0.878	6.13	330.0
3T3	Hexachlorophene	-1.987	-0.696	406.91	0.010	0.202	4.19	82.0
3T3	Lactic Acid	1.529	1.606	90.08	33.792	40.353	3044	3635.0

IC50 and LD50 Values Used for Combined-Laboratory Regressions

NRU Test Method	Substance	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
3T3	Lindane	-0.416	-0.464	290.80	0.384	0.344	112	100.0
3T3	Lithium carbonate	0.881	0.902	73.89	7.601	7.985	562	590.0
3T3	Meprobamate	0.351	0.803	218.30	2.245	6.353	490	1386.8
3T3	Mercury Chloride	-1.819	-0.830	271.50	0.015	0.148	4.12	40.2
3T3	Nicotine	0.347	-0.367	162.20	2.225	0.430	361	69.7
3T3	Paraquat	-1.106	-0.443	257.20	0.078	0.360	20.1	92.7
3T3	Parathion	-0.891	-1.679	291.30	0.128	0.021	37.4	6.1
3T3	Phenobarbital	0.402	-0.016	232.23	2.524	0.965	586	224.0
3T3	Phenol	-0.152	0.765	94.11	0.705	5.823	66.3	548.0
3T3	Phenylthiourea	-0.285	-1.705	152.20	0.519	0.020	79.0	3.0
3T3	Physostigmine	-1.015	-1.741	275.40	0.097	0.018	26.6	5.0
3T3	Potassium Cyanide	-0.274	-0.956	65.12	0.532	0.111	34.6	7.2
3T3	Potassium chloride	1.678	1.575	74.55	47.682	37.586	3555	2802.0
3T3	Procainamide HCl	0.210	0.856	271.79	1.621	7.175	441	1950.0
3T3	Propranolol	-1.321	0.197	295.84	0.048	1.575	14.1	466.0
3T3	Sodium Arsenite	-2.234	-0.474	129.90	0.006	0.336	0.759	43.6
3T3	Sodium Chloride	1.910	1.841	58.44	81.207	69.302	4746	4050.0
3T3	Sodium Dichromate Dihydrate	-2.706	-0.771	298.00	0.002	0.169	0.587	50.5
3T3	Sodium Hypochlorite	1.145	2.142	74.44	13.971	138.737	1040	10327.6
3T3	Sodium Oxalate	-0.557	0.674	134.00	0.277	4.724	37.1	633.0
3T3	Sodium fluoride	0.269	0.480	41.99	1.858	3.020	78.0	126.8
3T3	Sodium selenate	-0.814	-1.799	188.94	0.154	0.016	29.0	3.0
3T3	Strychnine	-0.326	-1.725	334.40	0.472	0.019	158	6.3
3T3	Thallium Sulfate	-1.968	-1.305	504.80	0.011	0.050	5.43	25.0
3T3	Trichloroacetic Acid	0.742	1.505	163.40	5.519	32.001	902	5229.0
3T3	Triethylenemelamine	-2.875	-1.708	204.23	0.001	0.020	0.272	4.0
3T3	Triphenyltin Hydroxide	-4.329	-0.047	367.02	0.000	0.896	0.017	329.0
3T3	Valproic Acid	0.758	0.839	144.20	5.727	6.907	826	996.0
3T3	Verapamil HCl	-1.148	-0.646	491.08	0.071	0.226	34.9	111.0
3T3	Xylene	0.832	1.643	106.17	6.787	43.939	721	4665.0

IC50 and LD50 Values Used for Combined-Laboratory Regressions

NRU Test Method	Substance	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	1,1,1-Trichloroethane	1.784	1.957	133.41	60.881	90.534	8122	12078.1
NHK	2-Propanol	1.951	1.929	60.11	89.242	84.928	5364	5105.0
NHK	5-Aminosalicylic Acid	-0.516	1.350	153.10	0.305	22.391	46.7	3428.0
NHK	Acetaminophen	0.535	1.155	151.20	3.426	14.299	518	2162.0
NHK	Acetonitrile	2.367	1.942	41.05	232.612	87.576	9549	3595.0
NHK	Acetylsalicylic Acid	0.526	0.922	180.20	3.360	8.357	605	1506.0
NHK	Aminopterin	0.177	-1.799	440.47	1.503	0.016	662	7.0
NHK	Amitriptyline HCl	-1.545	0.046	313.90	0.029	1.112	8.96	349.0
NHK	Arsenictrioxide	-1.461	-0.897	197.84	0.035	0.127	6.84	25.1
NHK	Atropine Sulfate	-0.929	0.071	694.80	0.118	1.179	81.8	819.0
NHK	Boric Acid	0.833	1.744	61.83	6.813	55.410	421	3426.0
NHK	Busulfan	0.024	-1.308	246.31	1.056	0.049	260	12.1
NHK	Cadmium chloride	-2.009	-0.132	183.30	0.010	0.738	1.80	135.2
NHK	Caffeine	0.516	0.203	194.20	3.283	1.596	638	310.0
NHK	Carbamazepine	-0.453	1.075	236.30	0.352	11.879	83.2	2807.0
NHK	Chloral Hydrate	-0.094	0.586	165.40	0.805	3.857	133	638.0
NHK	Chloramphenicol	0.028	1.033	323.15	1.068	10.800	345	3490.0
NHK	Citric Acid	0.331	1.489	192.10	2.142	30.864	411	5929.0
NHK	Cupric Sulfate Pentahydrate	-0.104	0.279	249.70	0.787	1.902	197	475.0
NHK	Cycloheximide	-3.584	-2.148	281.40	0.000	0.007	0.073	2.0
NHK	Dibutyl Phthalate	-0.987	1.504	278.30	0.103	31.951	28.7	8892.0
NHK	Dichlorvos (DDVP)	-1.315	-0.576	220.98	0.048	0.266	10.7	58.7
NHK	Diethyl Phthalate	-0.266	1.622	222.20	0.542	41.904	120	9311.0
NHK	Digoxin	-5.889	-1.441	780.90	0.000	0.036	0.001	28.3
NHK	Dimethylformamide	2.026	1.861	73.10	106.163	72.572	7760	5305.0
NHK	Diquat Dibromide Monohydrate	-1.922	-0.355	362.10	0.012	0.442	4.33	160.0
NHK	Disulfoton	-0.007	-1.739	274.42	0.983	0.018	270	5.0
NHK	Endosulfan	-2.282	-1.165	406.91	0.005	0.068	2.13	27.8
NHK	Ethanol	2.337	2.391	46.07	217.450	245.800	10018	11324.0
NHK	Ethyleneglycol	2.831	2.062	62.08	678.106	115.351	42097	7161.0
NHK	Fenpropathrin	-2.158	-0.664	349.43	0.007	0.217	2.43	75.7
NHK	Gibberellic Acid	0.916	1.241	346.38	8.246	17.436	2856	6039.5
NHK	Glutethimide	-0.098	0.441	217.30	0.799	2.761	174	600.0
NHK	Glycerol	2.429	2.332	92.09	268.544	214.681	24730	19770.0
NHK	Haloperidol	-2.049	-0.057	375.90	0.009	0.878	3.36	330.0
NHK	Hexachlorophene	-4.149	-0.696	406.91	0.000	0.202	0.029	82.0
NHK	Lactic Acid	1.161	1.606	90.08	14.476	40.353	1304	3635.0

IC50 and LD50 Values Used for Combined-Laboratory Regressions

NRU Test Method	Substance	Log IC_{50} (mM)[1]	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50} (mM)[1]	Reference LD_{50} (mmol/kg)[2]	IC_{50} (µg/mL)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[2]
NHK	Lindane	-1.191	-0.464	290.80	0.064	0.344	18.7	100.0
NHK	Lithium carbonate	0.801	0.902	73.89	6.330	7.985	468	590.0
NHK	Meprobamate	0.213	0.803	218.30	1.634	6.353	357	1386.8
NHK	Mercury Chloride	-1.671	-0.830	271.50	0.021	0.148	5.80	40.2
NHK	Methanol	1.679	2.434	32.04	47.713	271.835	1529	8709.6
NHK	Nicotine	-0.182	-0.367	162.20	0.657	0.430	107	69.7
NHK	Paraquat	-0.621	-0.443	257.20	0.239	0.360	61.6	92.7
NHK	Parathion	-0.983	-1.679	291.30	0.104	0.021	30.3	6.1
NHK	Phenobarbital	0.285	-0.016	232.23	1.928	0.965	448	224.0
NHK	Phenol	-0.098	0.765	94.11	0.797	5.823	75.0	548.0
NHK	Phenylthiourea	0.344	-1.705	152.20	2.210	0.020	336	3.0
NHK	Physostigmine	-0.493	-1.741	275.40	0.321	0.018	88.5	5.0
NHK	Potassium Cyanide	-0.352	-0.956	65.12	0.445	0.111	29.0	7.2
NHK	Potassium chloride	1.477	1.575	74.55	30.007	37.586	2237	2802.0
NHK	Procainamide HCl	0.807	0.856	271.79	6.407	7.175	1741	1950.0
NHK	Propranolol	-0.912	0.197	295.84	0.122	1.575	36.2	466.0
NHK	Sodium Arsenite	-2.435	-0.474	129.90	0.004	0.336	0.477	43.6
NHK	Sodium Chloride	1.534	1.841	58.44	34.177	69.302	1997	4050.0
NHK	Sodium Dichromate Dihydrate	-2.622	-0.771	298.00	0.002	0.169	0.712	50.5
NHK	Sodium Hypochlorite	1.305	2.142	74.44	20.182	138.737	1502	10327.6
NHK	Sodium Oxalate	0.404	0.674	134.00	2.533	4.724	339	633.0
NHK	Sodium fluoride	0.066	0.480	41.99	1.165	3.020	48.9	126.8
NHK	Sodium selenate	-1.267	-1.799	188.94	0.054	0.016	10.2	3.0
NHK	Strychnine	-0.743	-1.725	334.40	0.181	0.019	60.4	6.3
NHK	Thallium Sulfate	-3.522	-1.305	504.80	0.000	0.050	0.152	25.0
NHK	Trichloroacetic Acid	0.403	1.505	163.40	2.529	32.001	413	5229.0
NHK	Triethylenemelamine	-2.042	-1.708	204.23	0.009	0.020	1.85	4.0
NHK	Triphenyltin Hydroxide	-4.562	-0.047	367.02	0.000	0.896	0.010	329.0
NHK	Valproic Acid	0.550	0.839	144.20	3.551	6.907	512	996.0
NHK	Verapamil HCl	-0.869	-0.646	491.08	0.135	0.226	66.5	111.0
NHK	Xylene	0.642	1.643	106.17	4.385	43.939	466	4665.0

Abbreviations: 3T3=Neutral red uptake with mouse fibroblast 3T3 cell line; NHK=Neutral red uptake with normal human epidermal keratinocytes; ECBC=US Army Chemical Biological Center; FAL=FRAME Alternatives Lab; IIVS=Institute for *In Vitro* Sciences.

[1]IC_{50} values are the geometric mean IC_{50} values for each substance in each lab.

[2]Reference rat oral LD_{50} values from **Table 4-2**. Reference values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.

Appendix K3

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

[This Page Intentionally Left Blank]

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Formaldehyde	30.03	0.12	3.60	26.6	798.8
Methanol	32.05	930	29806.5	406	13012.3
Acetonitrile	41.06	368	15110.1	92.5	3798.1
Sodium I fluoride	41.99	1.85	77.68	4.29	180.1
Lithium I chloride	42.39	38.6	1636.3	17.9	758.8
Acetaldehyde	44.06	2.45	107.95	43.8	1929.8
Ethanol	46.08	379	17464.3	304	14008.3
Ammonium sulfide	51.12	0.42	21.47	3.29	168.2
Acrylonitrile	53.07	2.42	128.43	1.54	81.7
Ammonium chloride	53.5	5.52	295.32	30.8	1647.8
Acrolein	56.07	0.047	2.64	0.82	46.0
Propionaldehyde	58.09	3.25	188.79	24.3	1411.6
Allylalcohol	58.09	6.94	403.14	1.1	63.9
Acetone	58.09	444	25792.0	168	9759.1
Potassium I fluoride	58.1	3.13	181.85	4.22	245.2
Sodium chloride	58.44	75.9	4435.6	51.3	2998.0
Acetic acid	60.06	24.3	1459.5	55.1	3309.3
1-Propanol	60.11	96.5	5800.6	89.8	5397.9
2-Propanol	60.11	167	10038.4	97.2	5842.7
Ethylene glycol	62.08	555	34454.4	138	8567.0
Sodium azide	65.02	0.71	46.16	0.69	44.9
Potassium cyanide	65.12	1.12	72.93	0.15	9.8
Acrylamide	71.09	1.61	114.45	2.39	169.9
n-Butanal	72.12	12.8	923.1	34.5	2488.1
Isobutanal	72.12	13.5	973.62	39	2812.7
Ethyl methyl ketone	72.12	104	7500.5	47.1	3396.9
Dimethylformamide	73.11	114	8334.5	38.3	2800.1
Isobutanol	74.14	40.1	2973.0	33.2	2461.4
1-Butanol	74.14	52.5	3892.4	10.7	793.3
Potassium I chloride	74.55	82	6113.1	34.9	2601.8
Thioacetamide	75.14	4.17	313.33	4.01	301.3
2-Methoxyethanol	76.11	251	19103.6	32.3	2458.4
Propylene glycol	76.11	342	26029.6	263	20016.9
Thiourea	76.13	86	6547.2	1.64	124.9
Dimethyl sulfoxide	78.14	252	19691.3	252	19691.3
Pyridine	79.11	46.9	3710.3	11.3	893.9
Dichloromethane	84.93	34.9	2964.1	18.8	1596.7
Piperazine	86.16	67.2	5790.0	22.1	1904.1
N,N-Dimethylacetamide	87.14	24.2	2108.8	58.4	5089.0
1,4-Dioxane	88.12	38.1	3357.4	47.7	4203.3

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Ethyl acetate	88.12	128	11279.4	125	11015.0
1-Pentanol	88.17	24.9	2195.4	34.4	3033.0
1-Nitropropane	89.11	57.9	5159.5	5.11	455.4
Lactic acid	90.09	66	5945.9	41.4	3729.7
1,3,5-Trioxane	90.09	213	19189.2	8.88	800.0
Glycerol	92.11	624	57476.6	137	12619.1
Toluene	92.15	17.1	1575.8	54.3	5003.7
Aniline	93.14	6.9	642.67	4.72	439.6
Phenol	94.12	3.01	283.30	4.4	414.1
Sulfuric acid	98.08	36	3530.9	21.8	2138.1
Chromium VI trioxide	100	0.0027	0.27	0.8	80.0
2-Ethylbutanal	100.18	13.2	1322.4	39.7	3977.1
Cyclohexanol	100.18	26.3	2634.7	20.6	2063.7
Tetrahydrofurfuryl alcohol	102.15	111	11338.7	24.5	2502.7
1-Hexanol	102.2	15.4	1573.9	7.04	719.5
Styrene	104.16	3.3	343.73	48	4999.7
Sodium I bromide	104.92	77.4	8120.8	33.4	3504.3
Beryllium II sulfate	105.07	0.61	64.09	0.78	82.0
Diethylene glycol	106.14	62.1	6591.3	139	14753.5
Xylene	106.18	12	1274.2	40.5	4300.3
p-Cresol	108.15	0.22	23.79	1.91	206.6
o-Cresol	108.15	0.52	56.24	1.12	121.1
m-Cresol	108.15	0.66	71.38	2.24	242.3
Benzylalcohol	108.15	5.81	628.35	11.4	1232.9
Anisole	108.15	13.2	1427.6	34.2	3698.7
p-Phenylenediamine	108.16	0.05	5.41	0.74	80.0
o-Phenylenediamine	108.16	0.31	33.53	9.89	1069.7
p-Aminophenol	109.14	0.062	6.77	15.2	1658.9
m-Aminophenol	109.14	0.86	93.86	15.2	1658.9
Catechol	110.12	0.2	22.02	35.3	3887.2
Resorcinol	110.12	0.8	88.10	2.73	300.6
Calcium II chloride	110.98	12.4	1376.2	9.01	999.9
Trifluoroacetic acid	114.03	20.5	2337.6	1.75	199.6
2,5-Hexanedione	114.16	8.45	964.65	23.7	2705.6
1-Heptanol	116.23	6.25	726.44	28	3254.4
Sodium monochloroacetate	116.48	1.45	168.90	0.65	75.7
2-Butoxyethanol	118.2	26	3073.2	12.5	1477.5
Chloroform	119.37	13.4	1599.6	7.61	908.4
Benzoic acid	122.13	15.7	1917.4	20.7	2528.1
Nicotinamide	122.14	44.4	5423.0	28.7	3505.4

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
p-Toluylendiamine	122.19	0.094	11.49	0.83	101.4
Nitrobenzene	123.12	12.2	1502.1	5.2	640.2
p-Anisidine	123.17	0.73	89.91	11.4	1404.1
2-Thiouracil	128.16	0.32	41.01	7.8	999.6
Dichloroacetic acid	128.94	11.5	1482.8	21.9	2823.8
Nickel II chloride	129.61	0.27	34.99	0.81	105.0
Cobalt II chloride	129.83	0.16	20.77	0.62	80.5
5-Fluorouracil	130.09	0.0026	0.34	1.77	230.3
1,1,1-Trichloroethane	133.4	10.3	1374.0	77.2	10298.5
Sodium oxalate	134	0.44	58.96	1.16	155.4
1,2,6-Hexanetriol	134.2	123	16506.6	119	15969.8
Cupric chloride	134.44	0.11	14.79	1.04	139.8
Zinc II chloride	136.27	0.13	17.72	2.57	350.2
Salicylamide	137.15	1.08	148.12	13.8	1892.7
Isoniazid	137.16	7.49	1027.3	4.74	650.1
Salicylic acid	138.13	3.38	466.9	6.45	890.9
p-Nitrophenol	139.12	0.2	27.8	2.52	350.6
Isononylaldehyde	142.27	1.52	216.3	22.8	3243.8
8-Hydroxyquinoline	145.17	0.0033	0.48	8.27	1200.6
Coumarin	146.15	1.71	249.9	2	292.3
N-Methyl-N'-nitro-N-nitroso-guanidine	147.12	0.012	1.8	0.61	89.7
Isobenzoic furanodione	148.12	17	2518.0	27.1	4014.1
Thymol	150.24	0.23	34.6	6.52	979.6
Acetaminophen	151.18	2.71	409.7	15.9	2403.8
Ferrous sulfate	151.91	1.85	281.0	2.1	319.0
Methyl salicylate	152.16	1.7	258.7	5.83	887.1
Phenylthiourea	152.23	0.54	82.2	0.02	3.0
2-Nitro-p-phenylenediamine	153.16	0.39	59.7	20.1	3078.5
Carbon tetrachloride	153.81	8.51	1308.9	18.2	2799.3
Menthol	156.3	0.95	148.5	20.3	3172.9
Bromobenzene	157.02	3.46	543.3	17.2	2700.7
Dimethylaminoethyl methacrylate (polymer)	157.24	0.11	17.3	11.1	1745.4
Strontium II chloride	158.52	36.4	5770.1	14.2	2251.0
Sodium salicylate	160.11	4.33	693.3	9.99	1599.5
6-Methylcoumarin	160.18	0.31	49.7	10.5	1681.9
Hydralazine	160.2	0.33	52.9	0.56	89.7
Nicotine	162.26	1.79	290.4	0.31	50.3
2,4-Dichlorophenol	163	0.055	9.0	3.56	580.3
Trichloroacetic acid	163.38	8.19	1338.1	30.6	4999.4

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Chloral hydrate	165.4	2.65	438.3	2.9	479.7
Tetrachloroethene	165.82	6.54	1084.5	53.4	8854.8
t-Butyl hydroquinone	166.24	0.069	11.5	4.81	799.6
(-)-Phenylephrine	167.23	4.45	744.2	2.09	349.5
m-Dinitrobenzene	168.12	0.39	65.6	0.49	82.4
Azaserine	173.15	0.002	0.35	0.98	169.7
1,2-Dibromomethane	173.85	4.2	730.2	0.62	107.8
L-Ascorbic acid	176.14	1.52	267.7	67.6	11907.1
n-Butyl benzoate	178.25	0.41	73.1	28.8	5133.6
Phenacetin	179.24	1.27	227.6	9.21	1650.8
Iproniazid	179.25	0.79	141.6	2.04	365.7
Acetylsalicylic acid	180.17	2.27	409.0	5.55	999.9
D-Glucose	180.18	226	40720.7	143	25765.7
Butylated hydoxyanisole	180.27	0.24	43.3	12.2	2199.3
1,2,4-Trichlorobenzene	181.44	0.71	128.8	4.17	756.6
Cadmium II chloride	183.3	0.0064	1.2	0.48	88.0
2,4-Dinitrophenol	184.12	0.21	38.7	0.16	29.5
Undecylenic acid	184.31	0.18	33.2	13.6	2506.6
Tributylamine	185.4	15.4	2855.2	2.91	539.5
Paraquat	186.25	0.54	100.6	0.31	57.7
Amrinone	187.22	0.28	52.4	0.54	101.1
Antipyrine	188.25	11.6	2183.7	9.56	1799.7
Tin II chloride	189.59	1.51	286.3	3.69	699.6
Nitrilotriacetic acid	191.16	3.61	690.1	7.69	1470.0
Nitrogen mustard * HCl	192.53	0.0026	0.50	0.052	10.0
Dimethyl phthalate	194.2	23.4	4544.3	35.5	6894.1
Caffeine	194.22	2.64	512.7	0.99	192.3
4-Hexylresorcinol	194.3	0.064	12.4	2.83	549.9
L-Dopa	197.21	0.13	25.6	9.03	1780.8
Halothane	197.39	31.1	6138.8	28.8	5684.8
Arsenic III trioxide	197.84	0.0042	0.8	0.1	19.8
Manganese II chloride *4 H2O	197.92	0.13	25.7	7.5	1484.4
Carbaryl	201.24	0.26	52.3	1.24	249.5
Sodium cyclamate	201.24	35.4	7123.9	75.8	15254.0
Magnesium II chloride * 6 H2O	203.33	70.4	14314.4	39.8	8092.5
Phenylephrine * HCl	203.69	4.16	847.4	1.72	350.3
Triethylene melamine	204.27	0.00078	0.16	0.005	1.0
Ibuprofen	206.31	0.52	107.3	4.89	1008.9
Milrinone	211.24	4.77	1007.6	0.43	90.8
1,3-Bis(2-chloroethyl)- 1-	214.07	0.078	16.7	0.093	19.9

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
nitrosourea					
Clofibric acid	214.66	2.61	560.3	5.82	1249.3
Glutethimide	217.29	1.56	339.0	2.76	599.7
Butylated hydroxytoluene	220.39	0.056	12.3	4.04	890.4
2,4-Dichlorophenoxyacetic acid	221.04	0.77	170.2	1.67	369.1
Diethyl phthalate	222.26	5.52	1226.9	38.7	8601.5
Bendiocarb	223.25	0.18	40.2	0.8	178.6
Diethyldithiocarbamate sodium* 3H20	225.33	0.00039	0.088	6.66	1500.7
Ammonium persulfate	228.22	0.23	52.5	3.59	819.3
Cygon	229.27	1.24	284.3	0.66	151.3
Aminophenazone	231.33	5.39	1246.9	4.32	999.3
Nalidixic acid	232.26	1.5	348.4	5.81	1349.4
Phenobarbital	232.26	3.81	884.9	0.7	162.6
Ambazone	237.32	0.038	9.0	3.16	749.9
Mefenamic acid	241.31	0.087	21.0	3.27	789.1
Triethyltin chloride	241.35	0.00046	0.11	0.021	5.1
Busulphan	246.32	0.046	11.3	0.0076	1.9
Isoproterenol * HCl	247.75	0.022	5.5	8.96	2219.8
Pentobarbital sodium	248.29	0.71	176.3	0.81	201.1
Cupric sulfate * 5 H2O	249.7	0.33	82.4	1.2	299.6
2,4,5-Trichlorophenoxyacetic acid	255.48	0.44	112.4	1.17	298.9
Nabam	256.34	0.035	9.0	1.54	394.8
Trichlorfon	257.44	0.27	69.5	1.75	450.5
Natulan * HCl	257.8	2.74	706.4	3.04	783.7
Diethyl sebacate	258.4	1.63	421.2	56	14470.4
Versalide	258.44	0.15	38.8	1.22	315.3
Secobarbital sodium	260.3	0.21	54.7	0.48	124.9
Barium II nitrate	261.36	0.81	211.7	1.36	355.4
Sodium bichromate VI	261.98	0.00093	0.24	0.19	49.8
Theophylline sodium acetate	262.23	4.19	1098.7	2.22	582.2
Maneb	266.31	0.0042	1.1	16.9	4500.6
3-Cyano-2-morpholino-5-(pyrid-4-yl)-pyridine (Chemical 122)	266.31	0.96	255.7	1.3	346.2
Pentachlorophenol	266.32	0.036	9.6	0.19	50.6
Isoxepac	268.28	1.33	356.8	0.74	198.5
Dichlorophene	269.13	0.0083	2.2	10	2691.3
Mercury II chloride	271.49	0.015	4.1	0.0037	1.0
Hexachlorocyclopentadiene	272.75	0.0031	0.85	0.41	111.8
Disulfoton	274.42	0.11	30.2	0.0073	2.0
Zineb	275.73	0.059	16.3	18.9	5211.3

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Triethyl citrate	276.32	14.7	4061.9	25.3	6990.9
Azathioprine	277.29	0.14	38.8	1.93	535.2
Amitriptyline	277.44	0.056	15.5	1.15	319.1
Imidazolidinyl urea	278.26	0.36	100.2	9.34	2598.9
Dibutyl phthalate	278.38	0.76	211.6	43.1	11998.2
Cyclophosphamide * H2O	279.13	3.12	870.9	0.34	94.9
Flufenamic acid	281.25	0.029	8.2	0.97	272.8
Cycloheximide	281.39	0.00059	0.17	0.0071	2.0
Diazepam	284.76	0.16	45.6	2.49	709.1
Retinol	286.5	0.00054	0.15	6.98	1999.8
Dihydralazine sulfate	288.32	0.14	40.4	2.84	818.8
Sodium dodecyl sulfate	289.43	0.27	78.1	4.45	1288.0
Lindane	290.82	0.41	119.2	0.26	75.6
Parathion	291.28	0.093	27.1	0.0069	2.0
Diphenhydramine * HCl	291.85	0.24	70.0	2.93	855.1
Naftipramide	298.47	0.084	25.1	3.45	1029.7
Cis-platinum	300.07	0.0028	0.84	0.086	25.8
all-trans-Retinoic acid	300.48	0.11	33.1	6.66	2001.2
Captan	300.59	0.0039	1.2	33.3	10009.6
Chlorambucil	304.24	0.076	23.1	0.25	76.1
Orphenadrine * HCl	305.88	0.49	149.9	1.39	425.2
Buflomedil	307.43	1.35	415.0	1.19	365.8
Warfarin	308.35	0.67	206.6	1.05	323.8
Phenylbutazone	308.41	0.32	98.7	1.22	376.3
Aflatoxin B1	312.29	0.034	10.6	0.016	5.0
Refortan	313.1	0.25	78.3	10.1	3162.3
Imipramine * HCl	316.91	0.054	17.1	0.96	304.2
p,p'-DDE	318.02	0.1	31.8	2.77	880.9
Chlorpromazine	318.89	0.014	4.5	0.44	140.3
p,p'-DDD	320.04	0.024	7.7	0.35	112.0
Chloramphenicol	323.15	0.79	255.3	10.5	3393.1
Oxyphenbutazone	324.41	0.19	61.6	3.08	999.2
Tributyltin chloride	325.53	0.00054	0.18	0.37	120.4
Malathion	330.38	0.2	66.1	2.68	885.4
Frusemide	330.76	2.33	770.7	7.86	2599.8
Mitomycin C	334.37	0.00084	0.28	0.042	14.0
Metamizol	334.38	0.58	193.9	21.5	7189.2
Dicoumarol	336.31	0.027	9.1	2.11	709.6
Caffeine sodium benzoate	338.33	5.67	1918.3	2.54	859.4
Papaverine	339.42	0.045	15.3	0.96	325.8

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Diquat dibromide	344.08	0.16	55.1	0.67	230.5
Gibberellic acid	346.41	2.3	796.7	18.2	6304.7
Dodecylbenzene sodiumsulfonate	348.52	0.42	146.4	3.62	1261.6
Triisooctylamine	353.76	0.023	8.1	4.58	1620.2
p,p'-DDT	354.48	0.16	56.7	0.32	113.4
Benzylpenicillin sodium	356.4	5.73	2042.2	19.4	6914.2
Indomethacin	357.81	0.16	57.2	0.034	12.2
Quinine * HCl	360.92	0.075	27.1	1.72	620.8
Cetyltrimethylammonium chloride	362.16	0.021	7.6	1.31	474.4
Hexadecyltrimethylammonium bromide	364.53	0.0089	3.2	1.12	408.3
Aldrin	364.9	0.067	24.4	0.11	40.1
Benzalkonium chloride	365	0.0052	1.9	1.1	401.5
Triphenyltin hydroxide	367.03	0.000049	0.0180	0.12	44.0
Potassium hexacyanoferrate II	368.37	42.3	15582.1	17.4	6409.6
Amphetamine sulfate	368.54	1.97	726.0	0.15	55.3
Homatropine methylbromide	370.33	9	3333.0	3.24	1199.9
Kelthane	370.48	0.012	4.4	1.55	574.2
Di(2-ethylhexyl)adipate	370.64	3.15	1167.5	24.6	9117.7
Ioxynil	370.91	0.11	40.8	0.3	111.3
Heptachlor	373.3	0.059	22.0	0.11	41.1
Dextropropoxyphene * HCl	375.98	0.49	184.2	0.22	82.7
Dieldrin	380.9	0.18	68.6	0.12	45.7
Scopolamine * HBr	384.31	1.08	415.1	3.3	1268.2
Di(2-ethylhexyl)phthalate	390.62	0.84	328.1	79.4	31015.2
Rotenone	394.45	0.00013	0.051	0.33	130.2
Hexachlorophene	406.89	0.0079	3.2	0.15	61.0
Chlordan	409.76	0.06	24.6	1.12	458.9
Hydroxyzine * HCl	411.41	0.067	27.6	2.31	950.4
Chloroquine sulfate	418	0.06	25.1	2.6	1086.8
Quinidine sulfate	422.54	0.12	50.7	1.08	456.3
Oxatomide	426.61	0.019	8.1	3.31	1412.1
Xanthinol nicotinate	434.51	15.8	6865.3	32.5	14121.6
Mitoxantrone	444.54	0.0024	1.07	1.32	586.8
Amethopterin	454.5	0.00014	0.064	0.3	136.4
Dimenhydrinate	470.02	0.076	35.7	2.81	1320.8
Emetine	480.71	0.00016	0.077	0.14	67.3
Tetracycline * HCl	480.94	0.14	67.3	13.4	6444.6
VerapamilHCl	491.13	0.1	49.1	0.22	108.0
Chlorhexidine	505.52	0.015	7.6	18.2	9200.5

RC IC_{50} and LD_{50} Values for RC Substances with Rat Oral LD_{50} Data

Substance	Molecular Weight (g/mole)	IC_{50x} (mM)[1]	IC_{50x} (mg/mL)[1]	Rat Oral LD_{50} (mmol/kg)[2]	Rat Oral LD_{50} (mg/kg)[2]
Chloroquine diphosphate	515.92	0.017	8.8	1.88	969.9
Triton X-100	647	0.055	35.6	2.78	1798.7
Atropine sulfate	676.9	0.22	148.9	0.92	622.7
Digitoxin	765.05	0.00011	0.0842	0.073	55.8
Trypan blue	964.88	0.095	91.7	6.43	6204.2
Actinomycin D	1255.6	0.0000081	0.0102	0.0057	7.2

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity.
[1]Geometric mean of the IC_{50} values collected from the literature for various *in vitro* basal cytotoxicity endpoints and cell types (from the RC [Halle 1998, 2003]).
[2]Rat oral LD_{50} values used in the RC (Halle 1998, 2003), which generally came from the 1983/1984 Registry of Toxic Effects for Chemical Substances®.

Appendix K4

Individual Laboratory LD_{50} Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	1,1,1-Trichloroethane	ECBC	1.957	12078	> 5000	51.712	6899	> 5000	2.489
3T3	1,1,1-Trichloroethane	FAL	1.957	12078	> 5000	38.621	5152	> 5000	2.200
3T3	1,1,1-Trichloroethane	IIVS	1.957	12078	> 5000	27.604	3683	2000-5000	1.868
3T3	2-Propanol	ECBC	1.929	5105	> 5000	21.855	1314	300-2000	1.637
3T3	2-Propanol	FAL	1.929	5105	> 5000	26.293	1580	300-2000	1.820
3T3	2-Propanol	IIVS	1.929	5105	> 5000	26.694	1605	300-2000	1.835
3T3	5-Aminosalicylic acid	ECBC	1.350	3428	2000-5000	11.241	1721	300-2000	0.979
3T3	5-Aminosalicylic acid	FAL	1.350	3428	2000-5000	13.050	1998	300-2000	1.127
3T3	5-Aminosalicylic acid	IIVS	1.350	3428	2000-5000	11.540	1767	300-2000	1.005
3T3	Acetaminophen	ECBC	1.155	2162	2000-5000	2.333	353	300-2000	-0.577
3T3	Acetaminophen	FAL	1.155	2162	2000-5000	2.859	432	300-2000	-0.375
3T3	Acetaminophen	IIVS	1.155	2162	2000-5000	2.390	361	300-2000	-0.553
3T3	Acetonitrile	ECBC	1.942	3595	2000-5000	38.425	1577	300-2000	2.195
3T3	Acetonitrile	FAL	1.942	3595	2000-5000	43.235	1775	300-2000	2.312
3T3	Acetonitrile	IIVS	1.942	3595	2000-5000	45.155	1854	300-2000	2.355
3T3	Acetylsalicylic acid	ECBC	0.922	1506	300-2000	7.307	1317	300-2000	0.553
3T3	Acetylsalicylic acid	FAL	0.922	1506	300-2000	9.635	1736	300-2000	0.827
3T3	Acetylsalicylic acid	IIVS	0.922	1506	300-2000	5.915	1066	300-2000	0.344
3T3	Aminopterin	ECBC	-1.799	7	5-50	0.029	13	5-50	-4.926
3T3	Aminopterin	FAL	-1.799	7	5-50	0.039	17	5-50	-4.612
3T3	Aminopterin	IIVS	-1.799	7	5-50	0.027	12	5-50	-4.980
3T3	Amitriptyline HCl	ECBC	0.046	349	300-2000	0.731	229	50-300	-1.724
3T3	Amitriptyline HCl	FAL	0.046	349	300-2000	0.820	257	50-300	-1.611
3T3	Amitriptyline HCl	IIVS	0.046	349	300-2000	0.821	258	50-300	-1.609
3T3	Arsenic III trioxide	ECBC	-0.897	25	5-50	0.589	117	50-300	-1.937
3T3	Arsenic III trioxide	FAL	-0.897	25	5-50	0.418	83	50-300	-2.278
3T3	Arsenic III trioxide	IIVS	-0.897	25	5-50	0.731	145	50-300	-1.724
3T3	Atropine sulfate	ECBC	0.071	819	300-2000	1.306	907	300-2000	-1.151
3T3	Atropine sulfate	FAL	0.071	819	300-2000	1.989	1382	300-2000	-0.734
3T3	Atropine sulfate	IIVS	0.071	819	300-2000	1.524	1059	300-2000	-0.998
3T3	Boric acid	ECBC	1.744	3426	2000-5000	16.686	1032	300-2000	1.370
3T3	Boric acid	FAL	1.744	3426	2000-5000	25.892	1601	300-2000	1.804
3T3	Boric acid	IIVS	1.744	3426	2000-5000	14.839	918	300-2000	1.254
3T3	Busulfan	ECBC	-1.308	12	5-50	1.811	446	300-2000	-0.827
3T3	Busulfan	FAL	-1.308	12	5-50	4.505	1110	300-2000	0.075
3T3	Busulfan	IIVS	-1.308	12	5-50	1.955	482	300-2000	-0.751
3T3	Cadmium II chloride	ECBC	-0.132	135	50-300	0.306	56	50-300	-2.585
3T3	Cadmium II chloride	FAL	-0.132	135	50-300	0.280	51	50-300	-2.675
3T3	Cadmium II chloride	IIVS	-0.132	135	50-300	0.374	69	50-300	-2.387
3T3	Caffeine	ECBC	0.203	310	300-2000	3.537	687	300-2000	-0.165
3T3	Caffeine	FAL	0.203	310	300-2000	3.616	702	300-2000	-0.143

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	Caffeine	IIVS	0.203	310	300-2000	4.149	806	300-2000	-0.007
3T3	Carbamazepine	ECBC	1.075	2807	2000-5000	2.631	622	300-2000	-0.457
3T3	Carbamazepine	FAL	1.075	2807	2000-5000	3.381	799	300-2000	-0.209
3T3	Carbamazepine	IIVS	1.075	2807	2000-5000	2.754	651	300-2000	-0.412
3T3	Carbon Tetrachloride	ECBC	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Carbon Tetrachloride	FAL	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Carbon Tetrachloride	IIVS	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Chloral hydrate	ECBC	0.586	638	300-2000	4.009	663	300-2000	-0.041
3T3	Chloral hydrate	FAL	0.586	638	300-2000	4.924	814	300-2000	0.162
3T3	Chloral hydrate	IIVS	0.586	638	300-2000	4.224	699	300-2000	0.011
3T3	Chloramphenicol	ECBC	1.033	3490	2000-5000	1.907	616	300-2000	-0.776
3T3	Chloramphenicol	FAL	1.033	3490	2000-5000	3.824	1236	300-2000	-0.088
3T3	Chloramphenicol	IIVS	1.033	3490	2000-5000	3.021	976	300-2000	-0.321
3T3	Citric acid	ECBC	1.489	5929	> 5000	6.124	1176	300-2000	0.378
3T3	Citric acid	FAL	1.489	5929	> 5000	9.136	1755	300-2000	0.774
3T3	Citric acid	IIVS	1.489	5929	> 5000	8.042	1545	300-2000	0.648
3T3	Colchicine	ECBC	-1.425	15	5-50	0.055	22	5-50	-4.292
3T3	Colchicine	FAL	-1.425	15	5-50	0.102	41	5-50	-3.671
3T3	Colchicine	IIVS	-1.425	15	5-50	0.062	25	5-50	-4.158
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	ECBC	0.279	475	300-2000	2.572	642	300-2000	-0.480
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	FAL	0.279	475	300-2000	2.985	745	300-2000	-0.333
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	IIVS	0.279	475	300-2000	0.786	196	50-300	-1.653
3T3	Cycloheximide	ECBC	-2.148	2	< 5	0.137	38	5-50	-3.384
3T3	Cycloheximide	FAL	-2.148	2	< 5	0.266	75	50-300	-2.726
3T3	Cycloheximide	IIVS	-2.148	2	< 5	0.132	37	5-50	-3.420
3T3	Dibutyl phthalate	ECBC	1.504	8892	> 5000	1.405	391	300-2000	-1.079
3T3	Dibutyl phthalate	FAL	1.504	8892	> 5000	3.365	936	300-2000	-0.214
3T3	Dibutyl phthalate	IIVS	1.504	8892	> 5000	1.334	371	300-2000	-1.129
3T3	Dichlorvos	ECBC	-0.576	59	50-300	1.043	230	50-300	-1.373
3T3	Dichlorvos	FAL	-0.576	59	50-300	1.807	399	300-2000	-0.829
3T3	Dichlorvos	IIVS	-0.576	59	50-300	1.397	309	300-2000	-1.084
3T3	Diethyl phthalate	ECBC	1.622	9311	> 5000	2.706	601	300-2000	-0.430
3T3	Diethyl phthalate	FAL	1.622	9311	> 5000	3.444	765	300-2000	-0.191
3T3	Diethyl phthalate	IIVS	1.622	9311	> 5000	3.000	667	300-2000	-0.328
3T3	Digoxin	ECBC	-1.441	28	5-50	2.866	2238	2000-5000	-0.373
3T3	Digoxin	FAL	-1.441	28	5-50	4.345	3393	2000-5000	0.039
3T3	Digoxin	IIVS	-1.441	28	5-50	2.797	2184	2000-5000	-0.397
3T3	Dimethylformamide	ECBC	1.861	5305	> 5000	27.454	2007	2000-5000	1.862
3T3	Dimethylformamide	FAL	1.861	5305	> 5000	27.770	2030	2000-5000	1.874
3T3	Dimethylformamide	IIVS	1.861	5305	> 5000	26.464	1934	300-2000	1.826
3T3	Diquat dibromide monohydrate	ECBC	-0.355	160	50-300	0.566	205	50-300	-1.978
3T3	Diquat dibromide monohydrate	FAL	-0.355	160	50-300	1.312	475	300-2000	-1.146

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	Diquat dibromide monohydrate	IIVS	-0.355	160	50-300	0.652	236	50-300	-1.837
3T3	Disulfoton	ECBC	-1.739	5	< 5	2.900	796	300-2000	-0.361
3T3	Disulfoton	FAL	-1.739	5	< 5	21.284	5841	> 5000	1.611
3T3	Disulfoton	IIVS	-1.739	5	< 5	1.939	532	300-2000	-0.760
3T3	Endosulfan	ECBC	-1.165	28	5-50	0.592	241	50-300	-1.933
3T3	Endosulfan	FAL	-1.165	28	5-50	0.907	369	300-2000	-1.511
3T3	Endosulfan	IIVS	-1.165	28	5-50	0.512	209	50-300	-2.076
3T3	Epinephrine bitartrate	ECBC	-1.921	4	< 5	1.837	612	300-2000	-0.813
3T3	Epinephrine bitartrate	FAL	-1.921	4	< 5	2.013	671	300-2000	-0.723
3T3	Epinephrine bitartrate	IIVS	-1.921	4	< 5	2.016	672	300-2000	-0.721
3T3	Ethanol	ECBC	2.391	11324	> 5000	33.216	1530	300-2000	2.051
3T3	Ethanol	FAL	2.391	11324	> 5000	40.989	1888	300-2000	2.259
3T3	Ethanol	IIVS	2.391	11324	> 5000	36.466	1680	300-2000	2.143
3T3	Ethylene glycol	ECBC	2.062	7161	> 5000	50.675	3146	2000-5000	2.469
3T3	Ethylene glycol	FAL	2.062	7161	> 5000	63.899	3967	2000-5000	2.698
3T3	Ethylene glycol	IIVS	2.062	7161	> 5000	58.942	3659	2000-5000	2.618
3T3	Fenpropathrin	ECBC	-0.664	76	50-300	1.253	438	300-2000	-1.191
3T3	Fenpropathrin	FAL	-0.664	76	50-300	1.502	525	300-2000	-1.012
3T3	Fenpropathrin	IIVS	-0.664	76	50-300	1.098	384	300-2000	-1.322
3T3	Gibberellic acid	ECBC	1.241	6039	> 5000	16.573	5741	> 5000	1.363
3T3	Gibberellic acid	FAL	1.241	6039	> 5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Gibberellic acid	IIVS	1.241	6039	> 5000	16.242	5626	> 5000	1.343
3T3	Glutethimide	ECBC	0.441	600	300-2000	3.720	808	300-2000	-0.115
3T3	Glutethimide	FAL	0.441	600	300-2000	4.701	1022	300-2000	0.117
3T3	Glutethimide	IIVS	0.441	600	300-2000	3.279	712	300-2000	-0.240
3T3	Glycerol	ECBC	2.332	19770	> 5000	44.226	4073	2000-5000	2.334
3T3	Glycerol	FAL	2.332	19770	> 5000	51.100	4706	2000-5000	2.477
3T3	Glycerol	IIVS	2.332	19770	> 5000	49.997	4604	2000-5000	2.455
3T3	Haloperidol	ECBC	-0.057	330	300-2000	0.643	242	50-300	-1.851
3T3	Haloperidol	FAL	-0.057	330	300-2000	0.770	289	50-300	-1.673
3T3	Haloperidol	IIVS	-0.057	330	300-2000	0.651	245	50-300	-1.840
3T3	Hexachlorophene	ECBC	-0.696	82	50-300	0.589	240	50-300	-1.939
3T3	Hexachlorophene	FAL	-0.696	82	50-300	0.615	250	50-300	-1.896
3T3	Hexachlorophene	IIVS	-0.696	82	50-300	0.487	198	50-300	-2.126
3T3	Lactic acid	ECBC	1.606	3635	2000-5000	19.279	1737	300-2000	1.513
3T3	Lactic acid	FAL	1.606	3635	2000-5000	20.720	1866	300-2000	1.584
3T3	Lactic acid	IIVS	1.606	3635	2000-5000	18.836	1697	300-2000	1.490
3T3	Lindane	ECBC	-0.464	100	50-300	2.530	736	300-2000	-0.496
3T3	Lindane	FAL	-0.464	100	50-300	3.903	1135	300-2000	-0.067
3T3	Lindane	IIVS	-0.464	100	50-300	2.091	608	300-2000	-0.685
3T3	Lithium I carbonate	ECBC	0.902	590	300-2000	10.179	752	300-2000	0.881
3T3	Lithium I carbonate	FAL	0.902	590	300-2000	NA	NA	NA	NA

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	Lithium I carbonate	IIVS	0.902	590	300-2000	NA	NA	NA	NA
3T3	Meprobamate	ECBC	0.803	1387	300-2000	5.149	1124	300-2000	0.207
3T3	Meprobamate	FAL	0.803	1387	300-2000	7.663	1673	300-2000	0.600
3T3	Meprobamate	IIVS	0.803	1387	300-2000	5.363	1171	300-2000	0.247
3T3	Mercury II chloride	ECBC	-0.830	40	5-50	0.614	167	50-300	-1.897
3T3	Mercury II chloride	FAL	-0.830	40	5-50	0.772	210	50-300	-1.670
3T3	Mercury II chloride	IIVS	-0.830	40	5-50	0.619	168	50-300	-1.889
3T3	Methanol	ECBC	2.430	8710	> 5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Methanol	FAL	2.430	8710	> 5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Methanol	IIVS	2.430	8710	> 5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Nicotine	ECBC	-0.367	70	50-300	5.196	843	300-2000	0.216
3T3	Nicotine	FAL	-0.367	70	50-300	6.170	1001	300-2000	0.386
3T3	Nicotine	IIVS	-0.367	70	50-300	6.525	1058	300-2000	0.441
3T3	Paraquat	ECBC	-0.443	93	50-300	1.371	353	300-2000	-1.103
3T3	Paraquat	FAL	-0.443	93	50-300	1.361	350	300-2000	-1.109
3T3	Paraquat	IIVS	-0.443	93	50-300	1.365	351	300-2000	-1.107
3T3	Parathion	ECBC	-1.679	6	5-50	1.310	382	300-2000	-1.147
3T3	Parathion	FAL	-1.679	6	5-50	2.793	814	300-2000	-0.398
3T3	Parathion	IIVS	-1.679	6	5-50	1.336	389	300-2000	-1.128
3T3	Phenobarbital	ECBC	-0.016	224	50-300	6.449	1498	300-2000	0.429
3T3	Phenobarbital	FAL	-0.016	224	50-300	6.743	1566	300-2000	0.473
3T3	Phenobarbital	IIVS	-0.016	224	50-300	5.678	1319	300-2000	0.303
3T3	Phenol	ECBC	0.908	762	300-2000	3.147	296	50-300	-0.280
3T3	Phenol	FAL	0.908	762	300-2000	4.332	408	300-2000	0.036
3T3	Phenol	IIVS	0.908	762	300-2000	3.375	318	300-2000	-0.211
3T3	Phenylthiourea	ECBC	-1.705	3	< 5	1.870	285	50-300	-0.795
3T3	Phenylthiourea	FAL	-1.705	3	< 5	5.025	765	300-2000	0.183
3T3	Phenylthiourea	IIVS	-1.705	3	< 5	3.271	498	300-2000	-0.242
3T3	Physostigmine	ECBC	-1.741	5	< 5	1.463	403	300-2000	-1.038
3T3	Physostigmine	FAL	-1.741	5	< 5	1.747	481	300-2000	-0.863
3T3	Physostigmine	IIVS	-1.741	5	< 5	1.313	361	300-2000	-1.145
3T3	Potassium cyanide	ECBC	-0.956	7	5-50	2.195	143	50-300	-0.637
3T3	Potassium cyanide	FAL	-0.956	7	5-50	5.970	389	300-2000	0.353
3T3	Potassium cyanide	IIVS	-0.956	7	5-50	2.425	158	50-300	-0.538
3T3	Potassium I chloride	ECBC	1.575	2802	2000-5000	22.149	1651	300-2000	1.650
3T3	Potassium I chloride	FAL	1.575	2802	2000-5000	23.062	1719	300-2000	1.690
3T3	Potassium I chloride	IIVS	1.575	2802	2000-5000	23.182	1728	300-2000	1.695
3T3	Procainamide HCl	ECBC	0.856	1950	300-2000	4.952	1346	300-2000	0.168
3T3	Procainamide HCl	FAL	0.856	1950	300-2000	5.115	1390	300-2000	0.200
3T3	Procainamide HCl	IIVS	0.856	1950	300-2000	5.442	1479	300-2000	0.261
3T3	Propranolol	ECBC	0.197	466	300-2000	1.063	314	300-2000	-1.354
3T3	Propranolol	FAL	0.197	466	300-2000	1.037	307	300-2000	-1.378

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	Propranolol	IIVS	0.197	466	300-2000	1.203	356	300-2000	-1.232
3T3	Propylparaben	ECBC	1.546	6332	> 5000	1.615	291	50-300	-0.940
3T3	Propylparaben	FAL	1.546	6332	> 5000	2.390	431	300-2000	-0.553
3T3	Propylparaben	IIVS	1.546	6332	> 5000	1.481	267	50-300	-1.026
3T3	Sodium arsenite	ECBC	-0.474	44	5-50	0.362	47	5-50	-2.419
3T3	Sodium arsenite	FAL	-0.474	44	5-50	0.554	72	50-300	-1.998
3T3	Sodium arsenite	IIVS	-0.474	44	5-50	0.415	54	50-300	-2.284
3T3	Sodium chloride	ECBC	1.841	4050	2000-5000	28.902	1689	300-2000	1.913
3T3	Sodium chloride	FAL	1.841	4050	2000-5000	28.388	1659	300-2000	1.896
3T3	Sodium chloride	IIVS	1.841	4050	2000-5000	29.098	1700	300-2000	1.920
3T3	Sodium dichromate dihydrate	ECBC	-0.771	50	50-300	0.274	82	50-300	-2.697
3T3	Sodium dichromate dihydrate	FAL	-0.771	50	50-300	0.278	83	50-300	-2.680
3T3	Sodium dichromate dihydrate	IIVS	-0.771	50	50-300	0.262	78	50-300	-2.740
3T3	Sodium hypochlorite	ECBC	2.142	10328	> 5000	11.970	891	300-2000	1.041
3T3	Sodium hypochlorite	FAL	2.142	10328	> 5000	11.430	851	300-2000	0.996
3T3	Sodium hypochlorite	IIVS	2.142	10328	> 5000	17.184	1279	300-2000	1.399
3T3	Sodium oxalate	ECBC	0.674	633	300-2000	2.434	326	300-2000	-0.535
3T3	Sodium oxalate	FAL	0.674	633	300-2000	2.168	291	50-300	-0.649
3T3	Sodium oxalate	IIVS	0.674	633	300-2000	2.552	342	300-2000	-0.488
3T3	Sodium I fluoride	ECBC	0.480	127	50-300	4.927	207	50-300	0.163
3T3	Sodium I fluoride	FAL	0.480	127	50-300	5.977	251	50-300	0.354
3T3	Sodium I fluoride	IIVS	0.480	127	50-300	5.601	235	50-300	0.290
3T3	Sodium selenate	ECBC	-1.799	3	< 5	1.273	240	50-300	-1.176
3T3	Sodium selenate	FAL	-1.799	3	< 5	2.401	454	300-2000	-0.548
3T3	Sodium selenate	IIVS	-1.799	3	< 5	2.025	383	300-2000	-0.717
3T3	Strychnine	ECBC	-1.725	6	5-50	4.435	1483	300-2000	0.059
3T3	Strychnine	FAL	-1.725	6	5-50	2.695	901	300-2000	-0.434
3T3	Strychnine	IIVS	-1.725	6	5-50	2.271	760	300-2000	-0.603
3T3	Thallium II sulfate	ECBC	-1.305	25	5-50	0.424	214	50-300	-2.263
3T3	Thallium II sulfate	FAL	-1.305	25	5-50	0.730	368	300-2000	-1.726
3T3	Thallium II sulfate	IIVS	-1.305	25	5-50	0.602	304	300-2000	-1.916
3T3	Trichloroacetic acid	ECBC	1.505	5229	> 5000	8.195	1339	300-2000	0.666
3T3	Trichloroacetic acid	FAL	1.505	5229	> 5000	10.085	1648	300-2000	0.872
3T3	Trichloroacetic acid	IIVS	1.505	5229	> 5000	8.371	1368	300-2000	0.687
3T3	Triethylenemelamine	ECBC	-1.708	4	< 5	0.137	28	5-50	-3.378
3T3	Triethylenemelamine	FAL	-1.708	4	< 5	0.474	97	50-300	-2.153
3T3	Triethylenemelamine	IIVS	-1.708	4	< 5	0.183	37	5-50	-3.095
3T3	Triphenyltin hydroxide	ECBC	-0.047	329	300-2000	0.062	23	5-50	-4.161
3T3	Triphenyltin hydroxide	FAL	-0.047	329	300-2000	0.051	19	5-50	-4.366
3T3	Triphenyltin hydroxide	IIVS	-0.047	329	300-2000	0.046	17	5-50	-4.459
3T3	Valproic acid	ECBC	0.839	996	300-2000	7.487	1080	300-2000	0.577
3T3	Valproic acid	FAL	0.839	996	300-2000	12.661	1826	300-2000	1.097

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
3T3	Valproic acid	IIVS	0.839	996	300-2000	7.663	1105	300-2000	0.600
3T3	Verapamil HCl	ECBC	-0.646	111	50-300	1.257	617	300-2000	-1.188
3T3	Verapamil HCl	FAL	-0.646	111	50-300	1.302	640	300-2000	-1.153
3T3	Verapamil HCl	IIVS	-0.646	111	50-300	1.370	673	300-2000	-1.103
3T3	Xylene	ECBC	1.643	4667	2000-5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Xylene	FAL	1.643	4667	2000-5000	NA	NA	NA	NA
3T3	Xylene	IIVS	1.643	4667	2000-5000	9.685	1028	300-2000	0.832

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	1,1,1-Trichloroethane	ECBC	1.957	12078	> 5000	25.374	3385	2000-5000	1.784
NHK	1,1,1-Trichloroethane	FAL	1.957	12078	> 5000	NA	NA	NA	NA
NHK	1,1,1-Trichloroethane	IIVS	1.957	12078	> 5000	NA	NA	NA	NA
NHK	2-Propanol	ECBC	1.929	5105	> 5000	29.708	1786	300-2000	1.940
NHK	2-Propanol	FAL	1.929	5105	> 5000	26.850	1614	300-2000	1.840
NHK	2-Propanol	IIVS	1.929	5105	> 5000	33.892	2037	2000-5000	2.071
NHK	5-Aminosalicylic acid	ECBC	1.350	3428	2000-5000	2.025	310	300-2000	-0.717
NHK	5-Aminosalicylic acid	FAL	1.350	3428	2000-5000	2.994	458	300-2000	-0.330
NHK	5-Aminosalicylic acid	IIVS	1.350	3428	2000-5000	2.519	386	300-2000	-0.501
NHK	Acetaminophen	ECBC	1.155	2162	2000-5000	7.388	1117	300-2000	0.564
NHK	Acetaminophen	FAL	1.155	2162	2000-5000	6.693	1012	300-2000	0.466
NHK	Acetaminophen	IIVS	1.155	2162	2000-5000	7.468	1129	300-2000	0.574
NHK	Acetonitrile	ECBC	1.942	3595	2000-5000	45.269	1858	300-2000	2.357
NHK	Acetonitrile	FAL	1.942	3595	2000-5000	46.718	1918	300-2000	2.388
NHK	Acetonitrile	IIVS	1.942	3595	2000-5000	45.140	1853	300-2000	2.354
NHK	Acetylsalicylic acid	ECBC	0.922	1506	300-2000	7.243	1305	300-2000	0.544
NHK	Acetylsalicylic acid	FAL	0.922	1506	300-2000	7.532	1357	300-2000	0.583
NHK	Acetylsalicylic acid	IIVS	0.922	1506	300-2000	6.598	1189	300-2000	0.452
NHK	Aminopterin	ECBC	-1.799	7	5-50	5.652	2490	2000-5000	0.299
NHK	Aminopterin	FAL	-1.799	7	5-50	4.583	2018	2000-5000	0.091
NHK	Aminopterin	IIVS	-1.799	7	5-50	4.817	2122	2000-5000	0.141
NHK	Amitriptyline HCl	ECBC	0.046	349	300-2000	0.936	294	50-300	-1.480
NHK	Amitriptyline HCl	FAL	0.046	349	300-2000	0.753	236	50-300	-1.696
NHK	Amitriptyline HCl	IIVS	0.046	349	300-2000	0.957	300	50-300	-1.458
NHK	Arsenic III trioxide	ECBC	-0.897	25	5-50	0.989	196	50-300	-1.426
NHK	Arsenic III trioxide	FAL	-0.897	25	5-50	0.572	113	50-300	-1.968
NHK	Arsenic III trioxide	IIVS	-0.897	25	5-50	1.535	304	300-2000	-0.991
NHK	Atropine sulfate	ECBC	0.071	819	300-2000	1.662	1155	300-2000	-0.912
NHK	Atropine sulfate	FAL	0.071	819	300-2000	1.610	1119	300-2000	-0.943
NHK	Atropine sulfate	IIVS	0.071	819	300-2000	1.630	1132	300-2000	-0.932
NHK	Boric acid	ECBC	1.744	3426	2000-5000	9.755	603	300-2000	0.839
NHK	Boric acid	FAL	1.744	3426	2000-5000	9.249	572	300-2000	0.786
NHK	Boric acid	IIVS	1.744	3426	2000-5000	10.120	626	300-2000	0.875
NHK	Busulfan	ECBC	-1.308	12	5-50	4.189	1032	300-2000	0.003
NHK	Busulfan	FAL	-1.308	12	5-50	4.039	995	300-2000	-0.033
NHK	Busulfan	IIVS	-1.308	12	5-50	4.633	1141	300-2000	0.102
NHK	Cadmium II chloride	ECBC	-0.132	135	50-300	0.583	107	50-300	-1.948
NHK	Cadmium II chloride	FAL	-0.132	135	50-300	0.509	93	50-300	-2.083
NHK	Cadmium II chloride	IIVS	-0.132	135	50-300	0.556	102	50-300	-1.995
NHK	Caffeine	ECBC	0.203	310	300-2000	7.731	1501	300-2000	0.609
NHK	Caffeine	FAL	0.203	310	300-2000	6.715	1304	300-2000	0.469
NHK	Caffeine	IIVS	0.203	310	300-2000	6.724	1306	300-2000	0.471

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	Carbamazepine	ECBC	1.075	2807	2000-5000	2.383	563	300-2000	-0.555
NHK	Carbamazepine	FAL	1.075	2807	2000-5000	3.296	779	300-2000	-0.235
NHK	Carbamazepine	IIVS	1.075	2807	2000-5000	2.350	555	300-2000	-0.569
NHK	Carbon tetrachloride	ECBC	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Carbon tetrachloride	FAL	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Carbon tetrachloride	IIVS	1.391	3783	2000-5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Chloral hydrate	ECBC	0.586	638	300-2000	3.848	636	300-2000	-0.082
NHK	Chloral hydrate	FAL	0.586	638	300-2000	4.049	670	300-2000	-0.031
NHK	Chloral hydrate	IIVS	0.586	638	300-2000	3.521	582	300-2000	-0.169
NHK	Chloramphenicol	ECBC	1.033	3490	2000-5000	4.042	1306	300-2000	-0.033
NHK	Chloramphenicol	FAL	1.033	3490	2000-5000	4.484	1449	300-2000	0.070
NHK	Chloramphenicol	IIVS	1.033	3490	2000-5000	4.387	1418	300-2000	0.048
NHK	Citric acid	ECBC	1.489	5929	> 5000	6.478	1244	300-2000	0.434
NHK	Citric acid	FAL	1.489	5929	> 5000	5.147	989	300-2000	0.206
NHK	Citric acid	IIVS	1.489	5929	> 5000	5.965	1146	300-2000	0.352
NHK	Colchicine	ECBC	-1.425	15	5-50	0.029	12	5-50	-4.918
NHK	Colchicine	FAL	-1.425	15	5-50	0.035	14	5-50	-4.720
NHK	Colchicine	IIVS	-1.425	15	5-50	0.036	14	5-50	-4.699
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	ECBC	0.279	475	300-2000	3.697	923	300-2000	-0.121
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	FAL	0.279	475	300-2000	3.743	935	300-2000	-0.109
NHK	Cupric sulfate pentahydrate	IIVS	0.279	475	300-2000	3.846	960	300-2000	-0.082
NHK	Cycloheximide	ECBC	-2.148	2	< 5	0.096	27	5-50	-3.732
NHK	Cycloheximide	FAL	-2.148	2	< 5	0.132	37	5-50	-3.418
NHK	Cycloheximide	IIVS	-2.148	2	< 5	0.110	31	5-50	-3.601
NHK	Dibutyl phthalate	ECBC	1.504	8892	> 5000	1.513	421	300-2000	-1.005
NHK	Dibutyl phthalate	FAL	1.504	8892	> 5000	1.763	491	300-2000	-0.854
NHK	Dibutyl phthalate	IIVS	1.504	8892	> 5000	1.372	382	300-2000	-1.102
NHK	Dichlorvos	ECBC	-0.576	59	50-300	0.992	219	50-300	-1.423
NHK	Dichlorvos	FAL	-0.576	59	50-300	1.163	257	50-300	-1.265
NHK	Dichlorvos	IIVS	-0.576	59	50-300	1.171	259	50-300	-1.258
NHK	Diethyl phthalate	ECBC	1.622	9311	> 5000	3.745	832	300-2000	-0.108
NHK	Diethyl phthalate	FAL	1.622	9311	> 5000	2.244	499	300-2000	-0.615
NHK	Diethyl phthalate	IIVS	1.622	9311	> 5000	3.876	861	300-2000	-0.074
NHK	Digoxin	ECBC	-1.441	28	5-50	0.023	18	5-50	-5.164
NHK	Digoxin	FAL	-1.441	28	5-50	0.003	2	< 5	-7.209
NHK	Digoxin	IIVS	-1.441	28	5-50	0.020	15	5-50	-5.293
NHK	Dimethylformamide	ECBC	1.861	5305	> 5000	35.157	2570	2000-5000	2.107
NHK	Dimethylformamide	FAL	1.861	5305	> 5000	32.491	2375	2000-5000	2.029
NHK	Dimethylformamide	IIVS	1.861	5305	> 5000	29.746	2174	2000-5000	1.942
NHK	Diquat dibromide monohydrate	ECBC	-0.355	160	50-300	0.547	198	50-300	-2.012
NHK	Diquat dibromide monohydrate	FAL	-0.355	160	50-300	0.692	251	50-300	-1.779
NHK	Diquat dibromide monohydrate	IIVS	-0.355	160	50-300	0.567	205	50-300	-1.976

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	Disulfoton	ECBC	-1.739	5	< 5	3.092	849	300-2000	-0.298
NHK	Disulfoton	FAL	-1.739	5	< 5	6.640	1822	300-2000	0.458
NHK	Disulfoton	IIVS	-1.739	5	< 5	3.475	954	300-2000	-0.182
NHK	Endosulfan	ECBC	-1.165	28	5-50	0.512	208	50-300	-2.077
NHK	Endosulfan	FAL	-1.165	28	5-50	0.336	137	50-300	-2.493
NHK	Endosulfan	IIVS	-1.165	28	5-50	0.419	170	50-300	-2.276
NHK	Epinephrine bitartrate	ECBC	-1.921	4	< 5	2.614	871	300-2000	-0.464
NHK	Epinephrine bitartrate	FAL	-1.921	4	< 5	2.216	739	300-2000	-0.628
NHK	Epinephrine bitartrate	IIVS	-1.921	4	< 5	2.161	720	300-2000	-0.652
NHK	Ethanol	ECBC	2.391	11324	> 5000	40.823	1881	300-2000	2.255
NHK	Ethanol	FAL	2.391	11324	> 5000	47.812	2203	2000-5000	2.411
NHK	Ethanol	IIVS	2.391	11324	> 5000	44.757	2062	2000-5000	2.346
NHK	Ethylene glycol	ECBC	2.062	7161	> 5000	69.735	4329	2000-5000	2.785
NHK	Ethylene glycol	FAL	2.062	7161	> 5000	78.619	4881	2000-5000	2.903
NHK	Ethylene glycol	IIVS	2.062	7161	> 5000	71.258	4424	2000-5000	2.806
NHK	Fenpropathrin	ECBC	-0.664	76	50-300	0.564	197	50-300	-1.982
NHK	Fenpropathrin	FAL	-0.664	76	50-300	0.449	157	50-300	-2.207
NHK	Fenpropathrin	IIVS	-0.664	76	50-300	0.414	145	50-300	-2.287
NHK	Gibberellic acid	ECBC	1.241	6039	> 5000	10.509	3640	2000-5000	0.912
NHK	Gibberellic acid	FAL	1.241	6039	> 5000	10.670	3696	2000-5000	0.927
NHK	Gibberellic acid	IIVS	1.241	6039	> 5000	10.470	3627	2000-5000	0.909
NHK	Glutethimide	ECBC	0.441	600	300-2000	3.828	832	300-2000	-0.087
NHK	Glutethimide	FAL	0.441	600	300-2000	3.738	812	300-2000	-0.110
NHK	Glutethimide	IIVS	0.441	600	300-2000	3.792	824	300-2000	-0.096
NHK	Glycerol	ECBC	2.332	19770	> 5000	54.557	5024	> 5000	2.542
NHK	Glycerol	FAL	2.332	19770	> 5000	40.626	3741	2000-5000	2.250
NHK	Glycerol	IIVS	2.332	19770	> 5000	52.042	4793	2000-5000	2.495
NHK	Haloperidol	ECBC	-0.057	330	300-2000	0.543	204	50-300	-2.019
NHK	Haloperidol	FAL	-0.057	330	300-2000	0.525	197	50-300	-2.053
NHK	Haloperidol	IIVS	-0.057	330	300-2000	0.513	193	50-300	-2.076
NHK	Hexachlorophene	ECBC	-0.696	82	50-300	0.061	25	5-50	-4.179
NHK	Hexachlorophene	FAL	-0.696	82	50-300	0.074	30	5-50	-3.984
NHK	Hexachlorophene	IIVS	-0.696	82	50-300	0.055	22	5-50	-4.285
NHK	Lactic acid	ECBC	1.606	3635	2000-5000	13.423	1209	300-2000	1.155
NHK	Lactic acid	FAL	1.606	3635	2000-5000	13.575	1223	300-2000	1.166
NHK	Lactic acid	IIVS	1.606	3635	2000-5000	13.520	1218	300-2000	1.162
NHK	Lindane	ECBC	-0.464	100	50-300	1.258	366	300-2000	-1.188
NHK	Lindane	FAL	-0.464	100	50-300	1.357	395	300-2000	-1.113
NHK	Lindane	IIVS	-0.464	100	50-300	1.154	335	300-2000	-1.273
NHK	Lithium I carbonate	ECBC	0.902	590	300-2000	8.770	648	300-2000	0.733
NHK	Lithium I carbonate	FAL	0.902	590	300-2000	9.491	701	300-2000	0.812
NHK	Lithium I carbonate	IIVS	0.902	590	300-2000	9.956	736	300-2000	0.859

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	Meprobamate	ECBC	0.803	1387	300-2000	7.204	1573	300-2000	0.539
NHK	Meprobamate	FAL	0.803	1387	300-2000	2.925	639	300-2000	-0.353
NHK	Meprobamate	IIVS	0.803	1387	300-2000	6.609	1443	300-2000	0.454
NHK	Mercury II chloride	ECBC	-0.830	40	5-50	0.829	225	50-300	-1.600
NHK	Mercury II chloride	FAL	-0.830	40	5-50	0.745	202	50-300	-1.706
NHK	Mercury II chloride	IIVS	-0.830	40	5-50	0.745	202	50-300	-1.705
NHK	Methanol	ECBC	2.434	8710	> 5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Methanol	FAL	2.434	8710	> 5000	19.871	637	300-2000	1.543
NHK	Methanol	IIVS	2.434	8710	> 5000	26.159	838	300-2000	1.815
NHK	Nicotine	ECBC	-0.367	70	50-300	3.259	529	300-2000	-0.246
NHK	Nicotine	FAL	-0.367	70	50-300	3.666	595	300-2000	-0.129
NHK	Nicotine	IIVS	-0.367	70	50-300	3.511	570	300-2000	-0.172
NHK	Paraquat	ECBC	-0.443	93	50-300	2.000	514	300-2000	-0.729
NHK	Paraquat	FAL	-0.443	93	50-300	2.654	683	300-2000	-0.449
NHK	Paraquat	IIVS	-0.443	93	50-300	2.092	538	300-2000	-0.684
NHK	Parathion	ECBC	-1.679	6	5-50	1.608	468	300-2000	-0.945
NHK	Parathion	FAL	-1.679	6	5-50	1.531	446	300-2000	-0.993
NHK	Parathion	IIVS	-1.679	6	5-50	1.502	437	300-2000	-1.012
NHK	Phenobarbital	ECBC	-0.016	224	50-300	6.691	1554	300-2000	0.466
NHK	Phenobarbital	FAL	-0.016	224	50-300	5.009	1163	300-2000	0.179
NHK	Phenobarbital	IIVS	-0.016	224	50-300	5.167	1200	300-2000	0.210
NHK	Phenol	ECBC	0.908	762	300-2000	3.333	314	300-2000	-0.224
NHK	Phenol	FAL	0.908	762	300-2000	4.159	391	300-2000	-0.005
NHK	Phenol	IIVS	0.908	762	300-2000	3.905	367	300-2000	-0.067
NHK	Phenylthiourea	ECBC	-1.705	3	< 5	6.100	928	300-2000	0.374
NHK	Phenylthiourea	FAL	-1.705	3	< 5	6.355	967	300-2000	0.415
NHK	Phenylthiourea	IIVS	-1.705	3	< 5	5.347	814	300-2000	0.244
NHK	Physostigmine	ECBC	-1.741	5	< 5	3.325	916	300-2000	-0.226
NHK	Physostigmine	FAL	-1.741	5	< 5	1.593	439	300-2000	-0.954
NHK	Physostigmine	IIVS	-1.741	5	< 5	3.088	850	300-2000	-0.299
NHK	Potassium cyanide	ECBC	-0.956	7	5-50	2.916	190	50-300	-0.356
NHK	Potassium cyanide	FAL	-0.956	7	5-50	3.732	243	50-300	-0.112
NHK	Potassium cyanide	IIVS	-0.956	7	5-50	2.304	150	50-300	-0.589
NHK	Potassium I chloride	ECBC	1.575	2802	2000-5000	19.648	1465	300-2000	1.531
NHK	Potassium I chloride	FAL	1.575	2802	2000-5000	18.553	1383	300-2000	1.475
NHK	Potassium I chloride	IIVS	1.575	2802	2000-5000	17.651	1316	300-2000	1.425
NHK	Procainamide HCl	ECBC	0.856	1950	300-2000	8.770	2383	2000-5000	0.733
NHK	Procainamide HCl	FAL	0.856	1950	300-2000	9.531	2590	2000-5000	0.816
NHK	Procainamide HCl	IIVS	0.856	1950	300-2000	10.075	2738	2000-5000	0.871
NHK	Propranolol	ECBC	0.197	466	300-2000	1.699	503	300-2000	-0.890
NHK	Propranolol	FAL	0.197	466	300-2000	1.806	534	300-2000	-0.830
NHK	Propranolol	IIVS	0.197	466	300-2000	1.495	442	300-2000	-1.017

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	Propylparaben	ECBC	1.546	6332	> 5000	1.520	274	50-300	-1.000
NHK	Propylparaben	FAL	1.546	6332	> 5000	1.534	276	50-300	-0.991
NHK	Propylparaben	IIVS	1.546	6332	> 5000	1.354	244	50-300	-1.115
NHK	Sodium arsenite	ECBC	-0.474	44	5-50	0.438	57	50-300	-2.231
NHK	Sodium arsenite	FAL	-0.474	44	5-50	0.292	38	5-50	-2.631
NHK	Sodium arsenite	IIVS	-0.474	44	5-50	0.353	46	5-50	-2.444
NHK	Sodium chloride	ECBC	1.841	4050	2000-5000	25.437	1487	300-2000	1.787
NHK	Sodium chloride	FAL	1.841	4050	2000-5000	11.979	700	300-2000	1.042
NHK	Sodium chloride	IIVS	1.841	4050	2000-5000	25.063	1465	300-2000	1.772
NHK	Sodium dichromate dihydrate	ECBC	-0.771	50	50-300	0.307	92	50-300	-2.583
NHK	Sodium dichromate dihydrate	FAL	-0.771	50	50-300	0.312	93	50-300	-2.565
NHK	Sodium dichromate dihydrate	IIVS	-0.771	50	50-300	0.268	80	50-300	-2.718
NHK	Sodium hypochlorite	ECBC	2.142	10328	> 5000	16.924	1260	300-2000	1.384
NHK	Sodium hypochlorite	FAL	2.142	10328	> 5000	13.934	1037	300-2000	1.192
NHK	Sodium hypochlorite	IIVS	2.142	10328	> 5000	16.183	1205	300-2000	1.340
NHK	Sodium oxalate	ECBC	0.674	633	300-2000	6.390	856	300-2000	0.420
NHK	Sodium oxalate	FAL	0.674	633	300-2000	6.091	816	300-2000	0.373
NHK	Sodium oxalate	IIVS	0.674	633	300-2000	6.372	854	300-2000	0.418
NHK	Sodium I fluoride	ECBC	0.480	127	50-300	4.446	187	50-300	0.061
NHK	Sodium I fluoride	FAL	0.480	127	50-300	4.318	181	50-300	0.032
NHK	Sodium I fluoride	IIVS	0.480	127	50-300	4.644	195	50-300	0.105
NHK	Sodium selenate	ECBC	-1.799	3	< 5	1.010	191	50-300	-1.405
NHK	Sodium selenate	FAL	-1.799	3	< 5	1.351	255	50-300	-1.117
NHK	Sodium selenate	IIVS	-1.799	3	< 5	1.147	217	50-300	-1.279
NHK	Strychnine	ECBC	-1.725	6	5-50	2.277	761	300-2000	-0.601
NHK	Strychnine	FAL	-1.725	6	5-50	1.780	595	300-2000	-0.844
NHK	Strychnine	IIVS	-1.725	6	5-50	1.892	633	300-2000	-0.784
NHK	Thallium II sulfate	ECBC	-1.305	25	5-50	0.129	65	50-300	-3.440
NHK	Thallium II sulfate	FAL	-1.305	25	5-50	0.118	60	50-300	-3.525
NHK	Thallium II sulfate	IIVS	-1.305	25	5-50	0.110	55	50-300	-3.602
NHK	Trichloroacetic acid	ECBC	1.505	5229	> 5000	5.790	946	300-2000	0.323
NHK	Trichloroacetic acid	FAL	1.505	5229	> 5000	6.976	1140	300-2000	0.507
NHK	Trichloroacetic acid	IIVS	1.505	5229	> 5000	6.129	1002	300-2000	0.379
NHK	Triethylenemelamine	ECBC	-1.708	4	< 5	0.487	99	50-300	-2.126
NHK	Triethylenemelamine	FAL	-1.708	4	< 5	0.547	112	50-300	-2.012
NHK	Triethylenemelamine	IIVS	-1.708	4	< 5	0.560	114	50-300	-1.988
NHK	Triphenyltin hydroxide	ECBC	-0.047	329	300-2000	0.057	21	5-50	-4.250
NHK	Triphenyltin hydroxide	FAL	-0.047	329	300-2000	0.030	11	5-50	-4.885
NHK	Triphenyltin hydroxide	IIVS	-0.047	329	300-2000	0.042	15	5-50	-4.552
NHK	Valproic acid	ECBC	0.839	996	300-2000	6.936	1000	300-2000	0.501
NHK	Valproic acid	FAL	0.839	996	300-2000	8.303	1197	300-2000	0.679
NHK	Valproic acid	IIVS	0.839	996	300-2000	6.722	969	300-2000	0.470

Individual Laboratory LD50 Predictions: RC Rat-Only Millimole Regression

NRU Test Method	Substance	Lab	Log Reference LD_{50} (mmol/kg)[1]	Reference LD_{50} (mg/kg)[1]	Observed LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log Predicted LD_{50} (mmol/kg)[3]	Predicted LD_{50} (mg/kg)[3]	Predicted LD_{50} Toxicity Category[2] (mg/kg)	Log IC_{50} (mM)[4]
NHK	Verapamil HCl	ECBC	-0.646	111	50-300	1.653	812	300-2000	-0.917
NHK	Verapamil HCl	FAL	-0.646	111	50-300	1.830	899	300-2000	-0.817
NHK	Verapamil HCl	IIVS	-0.646	111	50-300	1.731	850	300-2000	-0.871
NHK	Xylene	ECBC	1.643	4665	2000-5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Xylene	FAL	1.643	4665	2000-5000	NA	NA	NA	NA
NHK	Xylene	IIVS	1.643	4665	2000-5000	7.995	849	300-2000	0.642

Abbreviations: 3T3=Mouse fibroblast 3T3 cell line; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; ECBC=U.S. Army Edgewood Chemical Biological Center; FAL=Fund for the Replacement of Animals in Medical Experiments Alternatives Laboratory; IIVS=Institute for In Vitro Sciences.

[1]Reference rat oral LD_{50} values from **Table 4-2**. Reference values were developed from rat acute oral LD_{50} studies located using literature searches, secondary references, and electronic database searches.

[2]Globally Harmonized System (GHS) hazard classification (UN 2005):

Abbreviation	Category	Oral LD_{50} Limits
<5	1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
5-50	2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
50-300	3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
300-2000	4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
2000-5000	5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
>5000	Unclassified	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[3]LD_{50} determined using NRU IC_{50} value in RC rat-only millimole regression: Log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621.

[4]IC_{50} values are the geometric mean IC_{50} values for each substance in each lab.

Appendix L

Outlier Information

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix L1

Outlier Characterization for the 3T3 and NHK NRU Test Methods with the RC Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

L.1 Outlier Analysis for the 3T3 and NHK NRU Test Methods and RC Millimole Regression

The RC millimole regression and each *in vitro* NRU test method were used to identify outlier substances among the reference substances tested in the validation study (i.e., those for which the rodent LD_{50} was not accurately predicted by the *in vitro* NRU IC_{50}) (see **Section 6.2**). The outliers, identified for each test method in **Table 6-3**, were evaluated for common characteristics that may assist in determining the types of chemicals that are not suited for use in the 3T3 and NHK NRU test methods to determine starting doses for acute systemic toxicity test methods.

A number of physico-chemical characteristics were evaluated for their frequency of occurrence among the 28 outlier substances for the 3T3 NRU test method and 31 outlier substances for the NHK NRU test method versus the entire set of reference substances. The frequency of occurrence of outliers versus the total number of reference substances for each category of each characteristic examined is shown in **Table L1-1**.

Table L1-1 Outliers per Category and NRU Test Method

Category	3T3 NRU Test Method[1]		NHK NRU Test Method[2]	
	Number of Outliers	Total Substances in Category	Number of Outliers	Total Substances in Category
Boiling Point (BP) [in degrees C]				
No information	13	34	13	34
< 100	1	6	2	7
100-200	1	5	2	5
200-300	3	4	3	4
300-400	5	6	4	6
465	1	1	1	1
960	0	1	0	1
1500	0	1	0	1
decompose, sublime, or BPs were provided at less than atmospheric pressure	4	12	6	12
Molecular Weight (g/mol)				
< 100	3	14	4	15
100-200	6	18	9	18
200-300	12	20	12	20
300-400	3	11	3	11
400-500	2	4	3	4
500-600	1	1	0	1
600-700	0	1	0	1
700-800	1	1	0	1
IC_{50} (mM)				
≤ 0.0001	0	3	0	4
0.0001 – 0.001	1	1	1	2
0.001 – 0.01	1	4	3	7
0.01 – 0.1	8	14	5	8
0.1 – 1	13	21	12	19
1 – 10	3	13	7	19
10 – 100	1	9	2	7
> 100	1	5	1	5
pH				
< 7.1	0	0	0	6
7.1	0	0	0	0
7.2	0	0	1	1
7.3	0	0	0	0
7.4	0	0	1	4
7.5	0	0	4	7
< 7.6	0	9	0	0
7.6	0	0	4	7
7.7	1	1	8	22
7.8	0	1	11	17
7.9	2	6	0	3
8.0	5	11	0	1
8.1	10	18	0	0
8.2	3	6	1	1
8.3	3	8	0	0

Table L1-1 Outliers per Category and NRU Test Method

Category	3T3 NRU Test Method[1]		NHK NRU Test Method[2]	
	Number of Outliers	Total Substances in Category	Number of Outliers	Total Substances in Category
8.4	1	5	0	0
8.5	0	1	1	1
> 8.5	3	4	0	1
log K_{ow}				
< -4	0	1	1	1
> -4 to < -3	0	1	0	1
> -3 to < -2	0	0	0	0
-2 to -1	1	5	1	5
-1 to 0	3	6	5	7
0 to 1	4	7	3	7
1 to 2	5	13	5	13
2 to 3	1	4	1	4
3 to 4	5	8	5	8
4 to 5	2	2	2	2
5 to 6	1	2	1	2
6 to 7	0	1	0	1
No information	6	20	7	20
Chemical Class				
Organic Compounds				
Acyclic hydrocarbon	1	1	1	1
Alcohol	3	9	4	10
Alkalies	0	1	0	1
Amide	1	3	0	3
Amine	2	3	2	3
Carbohydrate	1	1	0	1
Carboxylic acid	4	14	6	14
Cyclic hydrocarbon	0	3	1	3
Ester	1	1	1	1
Ether	1	1	1	1
Halogenated hydrocarbon	1	3	0	3
Heterocyclic compound	7	14	10	14
Ketone	0	1	0	1
Lipids	0	1	0	1
Nitrile	1	2	1	2
Nitro compound	0	1	0	1
Sodium compound	0	1	1	1
Sulfur compound	5	5	5	5
Organometallic compound	0	1	0	1
Organophosphorous compound	3	3	3	5
Phenol	1	5	2	5
Polycyclic compound	1	5	0	5
Urea	1	1	1	1
Inorganic Compounds				
Arsenical	1	2	1	2
Boron compound	0	1	0	1
Cadmium compound	0	1	0	1
Chlorine compound	2	5	2	5

Table L1-1 Outliers per Category and NRU Test Method

Category	3T3 NRU Test Method[1]		NHK NRU Test Method[2]	
	Number of Outliers	Total Substances in Category	Number of Outliers	Total Substances in Category
Chromium compound	0	1	0	1
Fluorine compound	0	1	0	1
Inorganic acid	0	1	0	1
Inorganic carbon compound	0	1	0	1
Lithium compound	0	1	0	1
Mercury compound	1	1	1	1
Metal	1	2	0	2
Nitrogen compound	1	1	1	1
Oxygen compound	1	1	1	1
Potassium compound	1	2	1	2
Selenium compound	1	1	1	1
Sodium compound	2	6	2	6
Sulfur compound	1	2	0	2
Substance Physical Form				
Solid	21	54	22	54
Liquid	7	16	9	17

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; BP=Boiling point; K_{ow}= Octanol:water partition coefficient.

[1]28 discordant chemicals (i.e., outliers) are characterized for the 3T3 NRU test method by counting the number of outliers in each category and comparing to the total number of chemicals in the category. Analysis excludes carbon tetrachloride and methanol since no IC_{50} values were obtained. Total chemicals = 70.

[2]31 discordant chemicals (i.e., outliers) are characterized for the NHK NRU test method by counting the number of outliers in each category and comparing to the total number of chemicals in the category. Analysis excludes carbon tetrachloride since no IC_{50} values were obtained. Total chemicals = 71.

Appendix L2

Discordant Substances for GHS Acute Oral Toxicity Category Predictions Using the 3T3 and NHK NRU Test Methods and RC Rat-Only Regressions

[This Page Intentionally Left Blank]

L.2 Discordant Substances for GHS Acute Toxicity Category Predictions Using the 3T3 and NHK NRU Test Methods and RC Rat-Only Regressions

This appendix provides a more detailed discussion of the discordant substances identified for the GHS acute oral toxicity category predictions using the NRU test methods and the RC rat-only regressions evaluated in **Section 6.4.**

L.2.1 Discordant Substances for Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Millimole Regression

Table L2-1 identifies the discordant substances for which the *in vitro* predicted GHS toxicity category (using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only millimole regression) did not match the GHS toxicity category assigned based on the reference rat oral LD_{50} data. For the 3T3 NRU test method, the toxicity category was underpredicted for 23 (34%) and overpredicted for 23 (34%) of the 46 discordant substances. Of the 23 substances for which toxicity was underpredicted,

- 15 (65%) were underpredicted by one toxicity category
- 2 (9%) were underpredicted by two toxicity categories
- 6 (26%) were underpredicted by three toxicity categories

For the 23 substances for which toxicity was overpredicted,

- 14 (61%) were overpredicted by one toxicity category
- 9 (39%) were overpredicted by two toxicity categories

For the NHK NRU test method, toxicity was underpredicted for 21 (54%) and overpredicted for 27 (46%) of the 48 discordant substances. Of the 21 substances for which toxicity was underpredicted,

- 12 (57%) were underpredicted by one toxicity category
- 5 (24%) were underpredicted by two toxicity categories
- 4 (19%) were underpredicted by three toxicity categories

For the 27 substances for which toxicity was overpredicted,

- 18 (67%) were overpredicted by one toxicity category
- 9 (33%) were overpredicted by two toxicity categories

Table L2-1 Discordant Substances[1] for the Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Categories by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Millimole Regression[2]

In Vivo GHS Toxicity Category[3] (mg/kg)	3T3 NRU Test Method		NHK NRU Test Method	
	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted
LD_{50} <5		Cycloheximide (1) Disulfoton (3) Phenylthiourea (3) Physostigmine (3) Sodium selenate (3) Triethylenemelamine (1)		Cycloheximide (1) Disulfoton (3) Phenylthiourea (3) Physostigmine (3) Sodium selenate (2) Triethylenemelamine (2)
5 < LD_{50} ≤50		Arsenic trioxide (1) Busulfan (2) Digoxin (3) Endosulfan (1) Mercury chloride (1) Parathion (2) Potassium cyanide (1) Sodium arsenite (1) Strychnine (3) Thallium sulfate (1)		Aminopterin (3) Arsenic trioxide (1) Busulfan (2) Endosulfan (1) Mercury chloride (1) Parathion (2) Potassium cyanide (1) Strychnine (2) Thallium sulfate (1)
50 < LD_{50} ≤300		Dichlorvos (1) Fenpropathrin (1) Lindane (1) Nicotine (1) Paraquat (1) Phenobarbital (1) Verapamil HCl (1)	Hexachlorophene (1)	Lindane (1) Nicotine (1) Paraquat (1) Phenobarbital (1) Verapamil HCl (1)
300 < LD_{50} ≤2000	Amitriptyline HCl (1) Haloperidol (1) Triphenyltin hydroxide (2)		Amitriptyline HCl (1) Haloperidol (1) Triphenyltin hydroxide (2)	Procainamide HCl (1)
2000 < LD_{50} ≤5000	Acetaminophen (1) Acetonitrile (1) 5-Aminosalicylic acid (1) Boric acid (1) Carbamazepine (1) Chloramphenicol (1)		Acetaminophen (1) Acetonitrile (1) 5-Aminosalicylic acid (1) Boric acid (1) Carbamazepine (1) Chloramphenicol (1)	

***In Vivo* GHS Toxicity Category[3] (mg/kg)**	**3T3 NRU Test Method**		**NHK NRU Test Method**	
	Toxicity Overpredicted	**Toxicity Underpredicted**	**Toxicity Overpredicted**	**Toxicity Underpredicted**
	Lactic acid (1) Potassium chloride (1) Sodium chloride (1) Xylene (1)		Lactic acid (1) Potassium chloride (1) Sodium chloride (1) Xylene (1)	
LD_{50} >5000	Citric acid (2) Dibutyl phthalate (2) Diethyl phthalate (2) Dimethylformamide (2) Ethanol (2) Ethylene glycol (1) Glycerol (1) 2-Propanol (2) Sodium hypochlorite (2) Trichloroacetic acid (2)		Citric acid (2) Dibutyl phthalate (2) Diethyl phthalate (2) Dimethylformamide (2) Ethanol (1) Gibberellic Acid (1) Glycerol (1) Methanol (2) 2-Propanol (2) Sodium hypochlorite (2) Trichloroacetic acid (2) 1,1,1-Trichloroethane (1)	

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity

[1]Substances for which the *in vitro* predicted GHS acute oral toxicity category was different from the category assigned to the substance based on reference rat oral LD_{50} data. Numbers in parentheses indicate the number of categories different. Three substances were excluded because no rat LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride was excluded from the 3T3 and NHK NRU analyses because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}. Methanol was excluded from the 3T3 analysis because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[2]The RC rat-only millimole regression is log LD_{50} (mmol/kg) = 0.439 log IC_{50} (mM) + 0.621.

[3]Reference rat oral LD_{50} values from **Table 4-2**.

L.2.2 Discordant Substances for Prediction of Toxicity Category by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Weight Regression

Table L2-2 shows the discordant substances for which the *in vitro* predicted GHS toxicity category (using the 3T3 and NHK NRU test methods with the RC rat-only weight regression) did not match that based on the reference rat oral LD_{50} data. The two *in vitro* NRU cytotoxicity test methods over- and under-predicted the GHS toxicity category for a similar number of substances. For the 3T3 NRU test method, the GHS toxicity category of 22 of 46 (48%) discordant substances was overpredicted, with:

- 16 (73%) overpredicted by one GHS toxicity category
- 6 (27%) overpredicted by two GHS toxicity categories

The toxicity of 24 substances (52%) was underpredicted by this test method, with:

- 13 (54%) underpredicted by one GHS toxicity category
- 7 (29%) underpredicted by two GHS toxicity categories
- 4 (17%) underpredicted by three GHS toxicity categories

For the NHK NRU test method, the GHS toxicity category of 25 (53%) of the 47 discordant substances was overpredicted. Of these,

- 18 (72%) were overpredicted by one GHS toxicity category
- 7 (28%) were overpredicted by two GHS toxicity categories

For this assay, the toxicity of 22 (47%) of the discordant substances was underpredicted, with

- 12 (55%) underpredicted by one GHS toxicity category
- 7 (32%) underpredicted by two GHS toxicity categories
- 3 (14%) underpredicted by three toxicity categories

Table L2-2 Discordant Substances[1] for the Prediction of GHS Acute Oral Toxicity Categories by the 3T3 and NHK NRU Test Methods and the RC Rat-Only Weight Regression[2]

In Vivo GHS Category[3] (mg/kg)	3T3 NRU Test Method		NHK NRU Test Method	
	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted	Toxicity Overpredicted	Toxicity Underpredicted
LD_{50} <5		Cycloheximide (2) Disulfoton (3) Phenylthiourea (3) Physostigmine (3) Sodium selenate (3) Triethylenemelamine (2)		Cycloheximide (1) Disulfoton (3) Phenylthiourea (3) Physostigmine (3) Sodium selenate (2) Triethylenemelamine (2)
5 < LD_{50} ≤50		Arsenic trioxide (1) Busulfan (2) Digoxin (2) Endosulfan (1) Mercury chloride (1) Parathion (2) Potassium cyanide (2) Sodium arsenite (1) Strychnine (2) Thallium sulfate (1)		Aminopterin (2) Arsenic trioxide (1) Busulfan (2) Endosulfan (1) Mercury chloride (1) Parathion (2) Potassium cyanide (2) Sodium arsenite (1) Strychnine (2) Thallium sulfate (1)
50 < LD_{50} ≤300		Dichlorvos (1) Fenpropathrin (1) Lindane (1) Nicotine (1) Paraquat (1) Phenobarbital (1) Sodium fluoride (1) Verapamil HCl (1)	Hexachlorophene (1)	Lindane (1) Nicotine (1) Paraquat (1) Phenobarbital (1) Sodium fluoride (1) Verapamil HCl (1)
300 < LD_{50} ≤2000	Amitriptyline HCl (1) Haloperidol (1) Propranolol HCl (1) Triphenyltin hydroxide (2)		Amitriptyline HCl (1) Haloperidol (1) Triphenyltin hydroxide (2)	
2000 < LD_{50} ≤5000	Acetaminophen (1) 5-Aminosalicylic acid (1) Boric acid (1) Carbamazepine (1) Chloramphenicol (1)		Acetaminophen (1) 5-Aminosalicylic acid (1) Boric acid (1) Carbamazepine (1) Chloramphenicol (1)	

***In Vivo* GHS Category[3] (mg/kg)**	**3T3 NRU Test Method**		**NHK NRU Test Method**	
	Toxicity Overpredicted	**Toxicity Underpredicted**	**Toxicity Overpredicted**	**Toxicity Underpredicted**
	Xylene (1)		Lactic acid (1) Potassium chloride (1) Sodium chloride (1) Xylene (1)	
LD_{50} >5000	Citric acid (2) Dibutyl phthalate (2) Diethyl phthalate (2) Dimethylformamide (1) Ethanol (1) Ethylene glycol (1) Gibberellic acid (1) Glycerol (1) 2-Propanol (1) Sodium hypochlorite (2) Trichloroacetic acid (2) 1,1,1-Trichloroethane (1)		Citric acid (2) Dibutyl phthalate (2) Diethyl phthalate (2) Dimethylformamide (1) Ethanol (1) Gibberellic acid (1) Glycerol (1) Methanol (2) 2-Propanol (1) Sodium hypochlorite (2) Trichloroacetic acid (2) 1,1,1-Trichloroethane (1)	

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); 3T3=BALB/c 3T3 fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake; RC=Registry of Cytotoxicity

[1]Substances for which the *in vitro* predicted GHS acute oral toxicity category was different from the category assigned to the substance based on reference rat oral LD_{50} data. Numbers in parentheses indicate the number of categories different. Three substances were excluded because no rat LD_{50} was identified: epinephrine bitartrate, colchicine, and propylparaben. Carbon tetrachloride was excluded from the 3T3 and NHK NRU analyses because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}. Methanol was excluded from the 3T3 analysis because no laboratory attained sufficient toxicity for the calculation of an IC_{50}.

[2]The RC rat-only weight regression is $\log LD_{50}$ (mg/kg) = 0.372 $\log IC_{50}$ (µg/mL) + 2.024.

[3]Reference rat oral LD_{50} values from **Table 4-2**.

Appendix L3

Analysis of Outliers by Halle (1998, 2003) for the RC Millimole Regression

[This Page Intentionally Left Blank]

L.3 Analysis of Outliers for the RC Millimole Regression

The RC millimole regression was constructed from the *in vitro* IC_{50X} cytotoxicity data from multiple cell lines and the *in vivo* acute toxicity data from rats and mice (i.e., LD_{50} values) for 347 chemicals (Halle 1998, 2003). Halle (1998, 2003) investigated the 95 (27.4%) chemicals for which the observed log LD_{50} values were greater than 0.699 (i.e., 0.5 log) from predicted log LD_{50} values. Of the 95 outliers, 46 were positive outliers and 49 were negative outliers. The positive outliers have IC_{50X} values that predict a far higher *in vivo* toxicity (i.e., lower LD_{50}) than the actual animal experiment. The negative outliers are more important since the IC_{50X} values predict lower toxicity (i.e. higher LD_{50}) than the observed *in vivo* toxicity. It seems that Halle (1998, 2003) was not concerned about the positive outliers since the prediction erred in a health protective direction. Halle (1998, 2003) was much more concerned about trying to explain the reasons for the negative outliers since the error was in a nonconservative direction.

Halle (1998, 2003) investigated three factors that could have explained the negative outliers.

1. Variation in the oral LD_{50} values.
   They reported oral LD_{50} values for a particular chemical might vary by a factor of 4 to 14 even when experiments were highly standardized. LD_{50} values were found from other sources for 23 of the 95 outliers. They found that the variations in the LD_{50} values (difference between the RTECS® value and the "new" value found for the 23 chemicals) were larger for the negative outliers than for the positive outliers.
2. Species-specificity of the oral LD_{50} values.
   Halle (1998, 2003) compared an IC_{50x}–LD_{50} regression using mouse LD_{50} values (242 values) with a regression using rat LD_{50} values (285 values) and found no significant difference between the two regressions. The RC millimole regression with 347 chemicals has 285 rat values and 62 mouse values and is not statistically different from either the rat or mouse regressions.
3. The cell culture(s) used may have been unsuitable for the detection of cytotoxic potential or it may have been unable to simulate the complex

process of toxicity *in vivo.* Halle (1998, 2003) expected, *a priori*, that three classes of compounds, insecticides (**Table L3-1**), neurotoxins (**Table L3-2**), and those requiring metabolic activation for toxicity **(Table L3-3**), would not fit the RC millimole regression (i.e., cytotoxicity data would not predict *in vivo* toxicity). Sixty-two of the 347 chemicals belong to these three classes. Twenty-three (37.1%) of the 62 chemicals were negative outliers. Of the 23, 10 were insecticides, five were neurotoxins, and eight required metabolic activation. No positive outliers were identified in the three classes.

Of the 49 negative outliers, 23 (46.9%) belonged to the three classes of concern. Examination of these classes showed that the RC millimole prediction was accurate (i.e., predicted log LD_{50} [mmol/kg] was within 0.699 of observed log LD_{50} in [mmol/kg]) for 50% of the insecticides (**Table L3-1**) and chemicals that required metabolic activation (**Table L3-3**). For neurotoxins (**Table L3-2**), the results were even better, since 21 (80.8%) fell within the prediction interval. Halle (1998, 2003) felt that the ability to predict the acute LD_{50} for 50% of the insecticides and xenobiotics requiring metabolic activation and for 81% of the neurotoxic xenobiotics was sufficiently accurate for practical purposes.

Of the 49 negative outliers in the RC millimole regression, 23 (46.9%) of these belonged to the three classes of concern that may explain the false negative IC_{50X} values. Findings were contrary to Halle's assumption that *in vitro* cytotoxicity would not predict *in vivo* toxicity for these types of chemicals. The RC millimole prediction of LD_{50} was applicable to 50% of the insecticides and chemicals that required metabolic activation. For neurotoxic chemicals the results were even better, since 21 (80.8%) fell within the prediction interval. Halle felt that the ability to predict the acute LD_{50} for 50% of the insecticides and chemicals requiring metabolic activation and for 81% of the neurotoxic chemicals was sufficiently accurate for practical purposes.

In separate analyses, Halle (1998, 2003) considered the physicochemical properties of chemicals (i.e., molecular weight and the octanol/water partition coefficient) as independent

variables in a multiple regression analysis, but they did not improve the prediction of LD_{50} by IC_{50}.

L3-1 The Error of Prediction[a] of 20 of The Most Important Insecticides in the RC Ordered According to Their Chemical Characteristics[b]

Chemical Class	RC No	Name	LD_{50} Error of Prediction[a]
Chlorinated hydrocarbon			
	26	Kelthane	0.340
	40	Chlordan	-0.046
	43	Aldrin	**-1.074**[b]
	61	DDT	**-0.775**
	167	DDD	-0.378
	185	Heptachlor	**-1.050**
	195	DDA	0.133
	197	DDE	0.251
	207	Dieldrin	**-1.223**
	223	Lindane	**-1.043**
Organophosphorus compounds			
	49	Parathion	**-2.339**
	51	Disulfoton	**-2.346**
	67	Malathion	0.106
	75	Trichlorfon	-0.136
	96	Cygon	**-0.848**
Carbamate compounds			
	73	Carbaryl	-0.279
	186	Zineb	**1.185**
Other compounds			
	134	Rotenone	0.583
	173	Pentachlorophenol	**-0.720**
	235	Paraquat	**-1.019**

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; No=RC number; DDA=*p*,*p*'-DDA [2,2-bis(4-chlorophenyl)acetic acid]; DDD=*p*,*p*'-DDD [1,1-dichloro-2,2-bis(4-chlorophenyl)ethane]; DDE= *p*,*p*'-DDE [1,1-dichloro-2,2-bis(4-chlorophenyl)ethylene]; DDT=*p*,*p*'-DDT [1,1,1-trichloro-2,2-bis(2-chlorophenyl-4-chlorophenyl)ethane]

[a] Defined as observed log LD_{50} (mmol/kg) - predicted log LD_{50} (mmol/kg).

[b] Modified from Table 10 of Halle (1998, 2003).

Bold numbers: outliers (i.e., observed log LD_{50} [mmol/kg] - predicted log LD_{50} [mmol/kg] > 0.699).

Table L3-2 The Error of Prediction [a] of 26 Neurotoxic Xenobiotics in the RC Ordered According to Their *In Vivo* Potency[b]

Chemical Class	RC No	Name	LD_{50} Error of Prediction[a]
Sedative, hypnotic, CNS depressants			
	69	Secobarbital sod.	-0.651
	83	Thiopental	-0.119
	84	Amobarbital	-0.335
	87	Pentobarbital sodium	-0.654
	101	Gluthetimide	-0.270
	118	Phenobarbital	**-1.035**[b]
	247	(+)-Thalidomide	-0.397
	264	Chloral hydrate	-0.349
	317	Barbital sodium	-0.591
Antidepressant			
	38	Imipramine HCl	-0.093
	90	Iproniazid	-0.273
	183	Amitriptyline	0.021
Antipsychotic, anxiolytic			
	27	Chlorpromazine	-0.176
	44	Hydroxyzine HCl	0.248
	63	Diazepam	0.116
	170	Thioridazine HCl	-0.013
Stimulants			
	112	Caffeine	**-0.815**
	262	Amphetamine sulfate	**-1.579**
Anticonvulsants			
	82	Diphenylhydantoin	-0.551
Analgetic (general anesthesia)			
	229	Dextropropoxyphene HCl	**-1.150**
Anticholinergic			
	251	Scopolamine * HBr	-0.123
	296	Homatropine methylbromide	-0.532
Other Neurotoxins (not insecticide)			
	102	Acrylamide	-0.338
	137	Triethyltin chloride	**-0.852**
	142	Methylmercury chloride	0.105
	316	Toluene	0.571

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; No=RC number; CNS=Central nervous system.

[a] Defined as observed log LD_{50} (mmol/kg) - predicted log LD_{50} (mmol/kg).

[b] Modified from Table 11 of Halle (1998, 2003).

Bold numbers: outliers (i.e., observed log LD_{50} [mmol/kg] - predicted log LD_{50} [mmol/kg] >0.699).

Table L3-3 The Error of Prediction[a] of the 16 Xenobiotics in the RC that Require Metabolic Activation[b]

RC No	Name	LD_{50} Error of Prediction[a]
13	Cycloheximide	**-1.370**[b]
33	p-Chloromercuribenzoic acid	**-1.077**
37	Aflatoxin B_1	**-1.783**
68	2.4-Dinitrophenol	**-1.128**
97	Phenacetin	0.292
109	Frusemide	0.109
113	Acetaminophen	0.386
116	Cyclophosphamide * H_2O	**-1.310**
123	Isoniazid	-0.332
125	Carbon tetrachloride	0.229
192	1.3-Bis(2-chloroethyl)-1-nitrosourea	**-1.176**
260	Coumarin	-0.427
273	Bromobenzene	0.374
279	Thioacetamide	-0.294
281	1.2-Dibromomethane	**-1.106**
292	Allylalcohol	**-0.952**

Abbreviations: RC=Registry of Cytotoxicity; No=RC number.

[a] Defined as observed log LD_{50} (mmol/kg) - predicted log LD_{50} (mmol/kg).

[b] Modified from Table 12 of Halle (1998, 2003).

Bold numbers: outliers (i.e., observed log LD_{50} [mmol/kg] - predicted log LD_{50} [mmol/kg] >0.699.

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix M

Acute Oral Toxicity Test Guidelines

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix M1

OECD UDP Test Guideline

[This Page Intentionally Left Blank]

OECD/OCDE **425**

Adopted:
17th December 2001

OECD GUIDELINE FOR TESTING OF CHEMICALS

Acute Oral Toxicity – Up-and-Down Procedure

INTRODUCTION

1. OECD guidelines for the Testing of Chemicals are periodically reviewed in the light of scientific progress or changing assessment practices. The concept of the up-and-down testing approach was first described by Dixon and Mood (1)(2)(3)(4). In 1985, Bruce proposed to use an up-and-down procedure (UDP) for the determination of acute toxicity of chemicals (5). There exist several variations of the up-and-down experimental design for estimating an LD50. This guideline is based on the procedure of Bruce as adopted by ASTM in 1987 (6) and revised in 1990. A study comparing the results obtained with the UDP, the conventional LD50 test and the Fixed Dose Procedure (FDP, Guideline 420) was published in 1995 (7). Since the early papers of Dixon and Mood, papers have continued to appear in the biometrical and applied literature, examining the best conditions for use of the approach (8)(9)(10)(11). Based on the recommendations of several expert meetings in 1999, an additional revision was considered timely because: i) international agreement had been reached on harmonised LD50 cut-off values for the classification of chemical substances, ii) testing in one sex (usually females) is generally considered sufficient, and iii) in order for a point estimate to be meaningful, there is a need to estimate confidence intervals (CI).

2. The test procedure described in this Guideline is of value in minimizing the number of animals required to estimate the acute oral toxicity of a chemical. In addition to the estimation of LD50 and confidence intervals, the test allows the observation of signs of toxicity. Revision of Test Guideline 425 was undertaken concurrently with revisions to the Test Guidelines 420 and 423.

3. Guidance on the selection of the most appropriate test method for a given purpose can be found in the Guidance Document on Oral Toxicity Testing (12). This Guidance Document also contains additional information on the conduct and interpretation of Guideline 425.

4. Definitions used in the context of this Guideline are set out in Annex 1.

INITIAL CONSIDERATIONS

5. The testing laboratory should consider all available information on the test substance prior to conducting the study. Such information will include the identity and chemical structure of the test substance; its physical chemical properties; the results of any other *in vitro* or *in vivo* toxicity tests on the substance; toxicological data on structurally related substances or similar mixtures; and the anticipated use(s) of the substance. This information is useful to determine the relevance of the test for the protection of human health and the environment, and will help in the selection of an appropriate starting dose.

6. The method permits estimation of an LD50 with a confidence interval and the results allow a substance to be ranked and classified according to the Globally Harmonised System for the classification of chemicals which cause acute toxicity (16).

7. When no information is available to make a preliminary estimate of the LD50 and the slope of the dose-response curve, results of computer simulations have suggested that starting near 175 mg/kg and using half-log units (corresponding to a dose progression of factor 3.2) between doses will produce the best results. This starting dose should be modified if the substance is likely to be highly toxic. The half-log spacing provides for a more efficient use of animals, and increases accuracy in the prediction of the LD50 value. Because the method has a bias toward the starting dose, it is essential that initial dosing occur below the estimated LD50. (See paragraphs 32 and Annex 2 for discussion of dose sequences and starting values). However, for chemicals with large variability (i.e., shallow dose-response slopes), bias can still be introduced in the lethality estimates and the LD50 will have a large statistical error, similar to other acute toxicity methods. To correct for this, the main test includes a stopping rule keyed to properties of the estimate rather than a fixed number of test observations (see paragraph 33).

8. The method is easiest to apply to materials that produce death within one or two days. The method would not be practical to use when considerably delayed death (five days or more) can be expected.

9. Computers are used to facilitate animal-by-animal calculations that establish testing sequences and provide final estimates.

10. Test substances, at doses that are known to cause marked pain and distress due to corrosive or severely irritant actions, need not be administered. Moribund animals or animals obviously in pain or showing signs of severe and enduring distress shall be humanely killed, and are considered in the interpretation of the test results in the same way as animals that died on test. Criteria for making the decision to kill moribund or severely suffering animals, and guidance on the recognition of predictable or impending death are the subject of a separate OECD Guidance Document (13).

11. A limit test can be used efficiently to identify chemicals that are likely to have low toxicity.

PRINCIPLE OF THE LIMIT TEST

12. The Limit Test is a sequential test that uses a maximum of 5 animals. A test dose of 2000, or exceptionally 5000 mg/kg, may be used. The procedures for testing at 2000 and 5000 mg/kg are slightly different (see paragraphs 23-25 for limit test at 2000 mg/kg and paragraphs 26-30 for limit test at 5000 mg/kg). The selection of a sequential test plan increases the statistical power and also has been made to intentionally bias the procedure towards rejection of the limit test for compounds with LD50s near the limit dose; i.e., to err on the side of safety. As with any limit test protocol, the probability of correctly classifying a compound will decrease as the actual LD50 more nearly resembles the limit dose.

PRINCIPLE OF THE MAIN TEST

13. The main test consists of a single ordered dose progression in which animals are dosed, one at a time, at a minimum of 48-hour intervals. The first animal receives a dose a step below the level of the best estimate of the LD50. If the animal survives, the dose for the next animal is increased by [a factor of] 3.2 times the original dose; if it dies, the dose for the next animal is decreased by a similar dose progression. (Note: 3.2 is the default factor corresponding to a dose progression of one half log unit). Paragraph 32 provides further guidance for choice of dose spacing factor.) Each animal should be observed carefully for up to 48 hours before making a decision on whether and how much to dose the next animal. That decision is based on the 48-hour survival pattern of all the animals up to that time. (See paragraphs 31 and 35 on choice of dosing interval). A combination of stopping criteria is used to keep the

number of animals low while adjusting the dosing pattern to reduce the effect of a poor starting value or low slope (see paragraph 34). Dosing is stopped when one of these criteria is satisfied (see paragraphs 33 and 41), at which time an estimate of the LD50 and a confidence interval are calculated for the test based on the status of all the animals at termination. For most applications, testing will be completed with only 4 animals after initial reversal in animal outcome. The LD50 is calculated using the method of maximum likelihood (14)(15). (See paragraphs 41 and 43.)

14. The results of the main test procedure serve as the starting point for a computational procedure to provide a confidence interval estimate where feasible. A description of the basis for this CI is outlined in paragraph 45.

DESCRIPTION OF THE METHOD

Selection of animals species

15. The preferred rodent species is the rat although other rodent species may be used. Normally female rats are used (12). This is because literature surveys of conventional LD50 tests show that usually there is little difference in sensitivity between sexes, but in those cases where differences are observed, females are generally slightly more sensitive (7). However, if knowledge of the toxicological or toxicokinetic properties of structurally related chemicals indicates that males are likely to be more sensitive then this sex should be used. When the test is conducted in males, adequate justification should be provided.

16. Healthy young adult animals of commonly used laboratory strains should be employed. Females should be nulliparous and non-pregnant. At the commencement of its dosing, each animal should be between 8 and 12 weeks old and its weight should fall in an interval within ± 20 % of the mean initial weight of any previously dosed animals.

Housing and feeding conditions

17. The temperature in the experimental animal room should be 22°C (± 3°C). Although the relative humidity should be at least 30 % and preferably not exceed 70 % other than during room cleaning the aim should be 50-60%. Lighting should be artificial, the sequence being 12 hours light and 12 hours dark. The animals are housed individually. For feeding, conventional rodent laboratory diets may be used with an unlimited supply of drinking water.

Preparation of animals

18. The animals are randomly selected, marked to permit individual identification, and kept in their cages for at least 5 days prior to dosing to allow for acclimatisation to the laboratory conditions. As with other sequential test designs, care must be taken to ensure that animals are available in the appropriate size and age range for the entire study.

Preparation of doses

19. In general test substances should be administered in a constant volume over the range of doses to be tested by varying the concentration of the dosing preparation. Where a liquid end product or mixture is to be tested, however, the use of the undiluted test substance, i.e., at a constant concentration, may be more relevant to the subsequent risk assessment of that substance, and is a requirement of some regulatory

authorities. In either case, the maximum dose volume for administration must not be exceeded. The maximum volume of liquid that can be administered at one time depends on the size of the test animal. In rodents, the volume should not normally exceed 1 mL/100g of body weight; however in the case of aqueous solutions, 2 mL/100g body weight can be considered. With respect to the formulation of the dosing preparations, the use of an aqueous solution/suspension/emulsion is recommended wherever possible, followed in order of preference by a solution/suspension/emulsion in oil (e.g. corn oil) and then possibly solution in other vehicles. For vehicles other than water the toxicological characteristics of the vehicle should be known. Doses must be prepared shortly prior to administration unless the stability of the preparation over the period during which it will be used is known and shown to be acceptable.

PROCEDURE

Administration of doses

20. The test substance is administered in a single dose by gavage using a stomach tube or a suitable intubation cannula. In the unusual circumstance that a single dose is not possible, the dose may be given in smaller fractions over a period not exceeding 24 hours.

21. Animals should be fasted prior to dosing (e.g., with the rat, food but not water should be withheld overnight; with the mouse, food but not water should be withheld for 3-4 hours). Following the period of fasting, the animals should be weighed and the test substance administered. The fasted body weight of each animal is determined and the dose is calculated according to the body weight. After the substance has been administered, food may be withheld for a further 3-4 hours in rats or 1-2 hours in mice. Where a dose is administered in fractions over a period of time, it may be necessary to provide the animals with food and water depending on the length of the period.

Limit test and main test

22. The limit test is primarily used in situations where the experimenter has information indicating that the test material is likely to be nontoxic, i.e., having toxicity below regulatory limit doses. Information about the toxicity of the test material can be gained from knowledge about similar tested compounds or similar tested mixtures or products, taking into consideration the identity and percentage of components known to be of toxicological significance. In those situations where there is little or no information about its toxicity, or in which the the test material is expected to be toxic, the main test should be performed.

Limit test

Limit test at 2000 mg/kg

23. Dose one animal at the test dose. If the animal dies, conduct the main test to determine the LD50. If the animal survives, dose four additional animals sequentially so that a total of five animals are tested. However, if three animals die, the limit test is terminated and the main test is performed. The LD50 is greater than 2000 mg/kg if three or more animals survive. If an animal unexpectedly dies late in the study, and there are other survivors, it is appropriate to stop dosing and observe all animals to see if other animals will also die during a similar observation period (see paragraph 31 for initial observation period). Late deaths should be counted the same as other deaths. The results are evaluated as follows (O=survival, X=death).

24. The LD50 is less than the test dose (2000 mg/kg) when three or more animals die.

O XO XX
O OX XX
O XX OX
O XX X

If a third animal dies, conduct the main test.

25. Test five animals. The LD50 is greater than the test dose (2000 mg/kg) when three or more animals survive.

O OO OO
O OO XO
O OO OX
O OO XX
O XO XO
O XO OO/X
O OX XO
O OX OO/X
O XX OO

Limit Test at 5000 mg/kg

26. Exceptionally, and only when justified by specific regulatory needs, the use of a dose at 5000 mg/kg may be considered (see Annex 4). For reasons of animal welfare concern, testing of animals in GHS Category 5 ranges (2000-5000mg/kg) is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test have a direct relevance for protecting human or animal health or the environment.

27. Dose one animal at the test dose. If the animal dies, conduct the main test to determine the LD50. If the animal survives, dose two additional animals. If both animals survive, the LD50 is greater than the limit dose and the test is terminated (i.e. carried to full 14-day observation without dosing of further animals).

28. If one or both animals die, then dose an additional two animals, one at a time. If an animal unexpectedly dies late in the study, and there are other survivors, it is appropriate to stop dosing and observe all animals to see if other animals will also die during a similar observation period (see paragraph 10 for initial observation period). Late deaths should be counted the same as other deaths. The results are evaluated as follows (O=survival, X=death, and U=Unnecessary).

29. The LD50 is less than the test dose (5000 mg/kg) when three or more animals die.

O XO XX
O OX XX
O XX OX
O XX X

30. The LD50 is greater than the test dose (5000 mg/kg) when three or more animals survive.

O OO
O XO XO

O XO O
O OX XO
O OX O
O XX OO

Main test

31. Single animals are dosed in sequence usually at 48 h intervals. However, the time intervals between dosing is determined by the onset, duration, and severity of toxic signs. Treatment of an animal at the next dose should be delayed until one is confident of survival of the previously dosed animal. The time interval may be adjusted as appropriate, e.g., in case of inconclusive response. The test is simpler to implement when a single time interval is used for making sequential dosing decisions. Nevertheless, it is not necessary to recalculate dosing or likelihood-ratios if the time interval changes midtest. For selecting the starting dose, all available information, including information on structurally related substances and results of any other toxicity tests on the test material, should be used to approximate the LD50 as well as the slope of the dose-response curve.

32. The first animal is dosed a step below the best preliminary estimate of the LD50. If the animal survives, the second animal receives a higher dose. If the first animal dies or appears moribund, the second animal receives a lower dose. The dose progression factor should be chosen to be the antilog of 1/(the estimated slope of the dose-response curve) (a progression of 3.2 corresponds to a slope of 2) and should remain constant throughout testing. When there is no information on the slope of the substance to be tested, a dose progression factor of 3.2 is used. Using the default progression factor, doses would be selected from the sequence 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 2000 (or 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 1750, 5000 for specific regulatory needs). If no estimate of the substance's lethality is available, dosing should be initiated at 175 mg/kg. In most cases, this dose is sublethal and therefore serves to reduce the level of pain and suffering. If animal tolerances to the chemical are expected to be highly variable (i.e., slopes are expected to be less than 2.0), consideration should be given to increasing the dose progression factor beyond the default 0.5 on a log dose scale (i.e., 3.2 progression factor) prior to starting the test. Similarly, for test substances known to have very steep slopes, dose progression factors smaller than the default should be chosen. (Annex 2 includes a table of dose progressions for whole number slopes ranging from 1 to 8 with starting dose 175 mg/kg).

33. Dosing continues depending on the fixed-time interval (e.g., 48-hour) outcomes of all the animals up to that time. The testing stops when one of the following stopping criteria first is met:

(a) 3 consecutive animals survive at the upper bound;

(b) 5 reversals occur in any 6 consecutive animals tested;

(c) at least 4 animals have followed the first reversal and the specified likelihood-ratios exceed the critical value. (See paragraph 44 and Annex 3. Calculations are made at each dosing, following the fourth animal after the first reversal).

For a wide variety of combinations of LD50 and slopes, stopping rule (c) will be satisfied with 4 to 6 animals after the test reversal. In some cases for chemicals with shallow slope dose-response curves, additional animals (up to a total of fifteen tested) may be needed.

34. When the stopping criteria have been attained, the estimated LD50 should be calculated from the animal outcomes at test termination using the method described in paragraphs 40 and 41.

35. Moribund animals killed for humane reasons are considered in the same way as animals that died on test. If an animal unexpectedly dies late in the study and there are other survivors at that dose or above, it is appropriate to stop dosing and observe all animals to see if other animals will also die during a similar observation period. If subsequent survivors also die, *and* it appears that all dose levels exceed the LD50 it would be most appropriate to start the study again beginning at least two steps below the lowest dose with deaths (and increasing the observation period) since the technique is most accurate when the starting dose is below the LD50. If subseqent animals survive at or above the dose of the animal that dies, it is not necessary to change the dose progression since the information from the animal that has now died will be included into the calculations as a death at a lower dose than subsequent survivors, pulling the LD50 down.

OBSERVATIONS

36. Animals are observed individually at least once during the first 30 minutes after dosing, periodically during the first 24 hours (with special attention given during the first 4 hours), and daily thereafter, for a total of 14 days, except where they need to be removed from the study and humanely killed for animal welfare reasons or are found dead. However, the duration of observation should not be fixed rigidly. It should be determined by the toxic reactions and time of onset and length of recovery period, and may thus be extended when considered necessary. The times at which signs of toxicity appear and disappear are important, especially if there is a tendency for toxic signs to be delayed (17). All observations are systematically recorded with individual records being maintained for each animal.

37. Additional observations will be necessary if the animals continue to display signs of toxicity. Observations should include changes in skin and fur, eyes and mucous membranes, and also respiratory, circulatory, autonomic and central nervous systems, and somatomotor activity and behaviour pattern. Attention should be directed to observations of tremors, convulsions, salivation, diarrhoea, lethargy, sleep and coma. The principles and criteria summarised in the Humane Endpoints Guidance Document (13) should be taken into consideration. Animals found in a moribund condition and animals showing severe pain or enduring signs of severe distress should be humanely killed. When animals are killed for humane reasons or found dead, the time of death should be recorded as precisely as possible.

Body weight

38. Individual weights of animals should be determined shortly before the test substance is administered and at least weekly thereafter. Weight changes should be calculated and recorded. At the end of the test surviving animals are weighed and then humanely killed.

Pathology

39. All animals (including those which die during the test or are removed from the study for animal welfare reasons) should be subjected to gross necropsy. All gross pathological changes should be recorded for each animal. Microscopic examination of organs showing evidence of gross pathology in animals surviving 24 or more hours after the initial dosing may also be considered because it may yield useful information.

DATA AND REPORTING

Data

40. Individual animal data should be provided. Additionally, all data should be summarised in tabular form, showing for each test dose the number of animals used, the number of animals displaying signs of toxicity (17), the number of animals found dead during the test or killed for humane reasons, time of death of individual animals, a description and the time course of toxic effects and reversibility, and necropsy findings. A rationale for the starting dose and the dose progression and any data used to support this choice should be provided.

Calculation of LD50 for the main test

41. The LD50 is calculated using the maximum likelihood method (14)(15), except in the exceptional cases described in paragraph 42. The following statistical details may be helpful in implementing the maximum likelihood calculations suggested (with an assumed *sigma*). All deaths, whether immediate or delayed or humane kills, are incorporated for the purpose of the maximum likelihood analysis. Following Dixon (4), the likelihood function is written as follows:

$L = L_1 L_2 \ldots L_n$,

where

L is the likelihood of the experimental outcome, given *mu* and *sigma*, and n the total number of animals tested.

$L_i = 1 - F(Z_i)$ if the i^{th} animal survived, or
$L_i = F(Z_i)$ if the i^{th} animal died,

where

F = cumulative standard normal distribution,
$Z_i = [\log(d_i) - mu\ ] / sigma$
d_i = dose given to the i^{th} animal, and
sigma = standard deviation in log units of dose (which is not the log standard deviation).

An estimate of the true LD50 is given by the value of *mu* that maximizes the likelihood L (see paragraph 43).

An estimate of *sigma* of 0.5 is used unless a better generic or case-specific value is available.

42. Under some circumstances, statistical computation will not be possible or will likely give erroneous results. Special means to determine/report an estimated LD50 are available for these circumstances as follows:

(a) If testing stopped based on criterion (a) in paragraph 33 (i.e., a boundary dose was tested repeatedly), or if the upper bound dose ended testing, then the LD50 is reported to be above the upper bound. Classification is completed on this basis.

(b) If all the dead animals have higher doses than all the live animals (or if all live animals have higher doses than all the dead animals, although this is practically unlikely), then the LD50 is between the doses for the live and the dead animals. These observations give no further information on the exact value of the LD50. Still, a maximum likelihood LD50 estimate can be

made provided there is a value for *sigma*. Stopping criterion (b) in paragraph 33 describes one such circumstance.

(c) If the live and dead animals have only one dose in common and all the other dead animals have higher doses and all the other live animals lower doses, or vice versa, then the LD50 equals their common dose. If a closely related substance is tested, testing should proceed with a smaller dose progression.

If none of the above situations occurs, then the LD50 is calculated using the maximum likelihood method.

43. Maximum likelihood calculation can be performed using either SAS (14) (e.g., PROC NLIN) or BMDP (15) (e.g., program AR) computer program packages as described in Appendix 1D in Reference 3. Other computer programs may also be used. Typical instructions for these packages are given in appendices to the ASTM Standard E 1163-87 (6). [The *sigma* used in the BASIC program in (6) will need to be edited to reflect the parameters of this OECD 425 Guideline.] The program's output is an estimate of log(LD50) and its standard error.

44. The likelihood-ratio stopping rule (c) in paragraph 33 is based on three measures of test progress, that are of the form of the likelihood in paragraph 41 with different values for *mu*. Comparisons are made after each animal tested after the sixth that does not already satisfy criterion (a) or (b) of paragraph 33. The equations for the likelihood-ratio criteria are provided in Annex 3. These comparisons are most readily performed in an automated manner and can be executed repeatedly, for instance, by a spreadsheet routine such as that also provided in Annex 3. If the criterion is met, testing stops and the LD50 can be calculated by the maximum likelihood method.

Computation of confidence interval

45. Following the main test and estimated LD50 calculation, it may be possible to compute interval estimates for the LD50. Any of these confidence intervals provides valuable information on the reliability and utility of the main test that was conducted. A wide confidence interval indicates that there is more uncertainty associated with the estimated LD50. The reliability of the estimated LD50 is low and the usefulness of the estimated LD50 may be marginal. A narrow interval indicates that there is relatively little uncertainty associated with the estimated LD50. The reliability of the estimated LD50 is high and the usefulness of the estimated LD50 is good. This means that if the main test were to be repeated, the new estimated LD50 should be close to the original estimated LD50 and both of these estimates should be close to the true LD50.

46. Depending on the outcome of the main test, one of two different types of interval estimates of the true LD50 is calculated.

- When at least three different doses have been tested and the middle dose has at least one animal that survived and one animal that died, a profile-likelihood-based computational procedure is used to obtain a confidence interval that is expected to contain the true LD50 95% of the time. However, because small numbers of animals are expected to be used, the actual level of confidence is generally not exact (18). The random stopping rule improves the ability of the test overall to respond to varying underlying conditions, but also causes the reported level of confidence and the actual level of confidence to differ somewhat (19).

- If all animals survive at or below a given dose level and all animals die when dosed at the next higher dose level, an interval is calculated that has as its lower limit the highest dose

tested where all the animals survive and has as its upper limit the dose level where all the animals died. This interval is labeled as "approximate." The exact confidence level associated with this interval cannot be specifically determined. However, because this type of response would only occur when the dose response is steep, in most cases, the true LD50 is expected to be contained within the calculated interval or be very close to it. This interval will be relatively narrow and sufficiently accurate for most practical use.

47. In some instances, confidence intervals are reported as infinite, through including either zero as its lower end or infinity as its upper end, or both. Such intervals, for example, may occur when all animals die or all animals live. Implementing this set of procedures requires specialized computation which is either by use of a dedicated program to be available from the USEPA or OECD or developed following technical details available from the USEPA or OECD (20). Achieved coverage of these intervals and properties of the dedicated program are described in reports (21) also available through the USEPA.

Test report

48. The test report must include the following information:

Test substance:

- physical nature, purity and,where relevant, physico-chemical properties (including isomerisation);
- identification data, including CAS number.

Vehicle (if appropriate):

- justification for choice of vehicle, if other than water.

Test animals:

- species/strain used;
- microbiological status of the animals, when known;
- number, age and sex of animals (including, where appropriate, a rationale for use of males instead of females);
- source, housing conditions, diet, etc.;

Test conditions:

- rationale for initial dose level selection, dose progression factor and for follow-up dose levels
- details of test substance formulation including details of the physical form of the material administered.;
- details of the administration of the test substance including dosing volumes and time of dosing;
- details of food and water quality (including diet type/source, water source).

Results:

- body weight/body weight changes;
- tabulation of response data and dose level for each animal (i.e., animals showing signs of toxicity including nature, severity, duration of effects, and mortality);

- individual weights of animals at the day of dosing, in weekly intervals thereafter, and at the time of death or sacrifice ;
- time course of onset of signs of toxicity and whether these were reversible for each animal;
- necropsy findings and any histopathological findings for each animal, if available;
- LD50 data;
- statistical treatment of results (description of computer routine used and spreadsheet tabulation of calculations).

Discussion and interpretation of results.

Conclusions.

LITERATURE

(1) Dixon W.J. and A.M. Mood. (1948). A Method for Obtaining and Analyzing Sensitivity Data. J. Amer. Statist. Assoc., 43, 109-126.

(2) Dixon W.J. The Up-and-Down Method for Small Samples (1965). J. Amer. Statist. Assoc. 60, 967-978.

(3) Dixon W.J. (1991). Staircase Bioassay: The Up-and-Down Method. Neurosci. Biobehav. Rev., 15, 47-50.

(4) Dixon W.J. (1991) Design and Analysis of Quantal Dose-Response Experiments (with Emphasis on Staircase Designs). Dixon Statistical Associates, Los Angeles CA, USA.

(5) Bruce R.D. (1985). An Up-and-Down Procedure for Acute Toxicity Testing. Fundam. Appl. Tox., 5, 151-157.

(6) ASTM (1987). E 1163-87, Standard Test Method for Estimating Acute Oral Toxicity in Rats. American Society for Testing and Materials, Philadelphia Pa, USA.

(7) Lipnick R.L., J.A. Cotruvo, R.N. Hill, R.D. Bruce, K.A. Stitzel, A.P. Walker, I. Chu, M. Goddard, L. Segal, J.A. Springer, and R.C. Myers. (1995). Comparison of the Up-and-Down, Conventional LD_{50} and Fixed Dose Acute Toxicity Procedures. Fd. Chem. Toxicol., 33, 223-231.

(8) Choi, S.C. (1990). Interval estimation of the LD_{50} based on an up-and-down experiment. Biometrics 46, 485-492.

(9) Vågerö, M. and R. Sundberg. (1999). The distribution of the maximum likelihood estimator in up-and-down experiments for quantal dose-response data. J. Biopharmaceut. Statist. 9(3), 499-519.

(10) Hsi, B.P. (1969). The multiple sample up-and-down method in bioassay. J. Amer. Statist. Assoc. 64, 147-162.

(11) Noordwijk, A.J. van and J. van Noordwijk. (1988). An accurate method for estimating an approximate lethal dose with few animals, tested with a Monte Carlo procedure. Arch. Toxicol. 61, 333-343.

(12) OECD (2000) Guidance Document on Acute Oral Toxicity . Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No 24.

(13) OECD (2000) Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No 19.

(14) SAS Institute Inc. (1990). SAS/STAT® User's Guide. Version 6, Fourth Ed. or later. Cary, NC, USA.

(15) BMDP Statistics Software, Inc. (1990). BMDP Statistical Software Manual. W.J. Dixon, Chief Ed. 1990 rev. or later. University of California Press, Berkeley, CA, USA.

(16) OECD(1998) Harmonized Integrated Hazard Classification System for Human Health and Environmentla Effects of Chemical Substances as endorsed by the 28th Joint Meeting of the Chemicals Committee and Working Party on Chemicals in November 1998, Part 2, pg 11. [http://webnet1.oecd.org/oecd/pages/home/displaygeneral/0,3380,EN-documents-521-14-no-24-no-0,FF.html].

(17) Chan P.K. and A.W. Hayes. (1994). Chap. 16. Acute Toxicity and Eye Irritancy. *Principles and Methods of Toxicology*. Third Edition. A.W. Hayes, Editor. Raven Press, Ltd., New York, USA.

(18) Rosenberger, W.F., Flournoy, N. and Durham, S.D. (1997). Asymptotic normality of maximum likelihood estimators from multiparameter response-driven designs. Journal of Statistical Planning and Inference 60, 69-76.

(19) Jennison, C. and B.W. Turnbull. 2000. Group Sequential Methods with Application to Clinical Trials. Chapman & Hall/CRC: Boca Raton, FL. USA.

(20) Acute Oral Toxicity (OECD Test Guideline 425) Statistical Programme (AOT 425 StatPgm). Version: 1.0, 2001. [http://www.oecd.org/oecd/pages/home/displaygeneral/0,3380,EN-document-524-nodirectorate-no-24-6775-8,FF.html]

(21) Westat. 2001. Simulation Results from the AOT425StatPgm Program. Report prepared for U.S. E.P.A. under Contract 68-W7-0025, Task Order 5-03.

OECD/OCDE **425**

Adopted:
17th December 2001

ANNEX 1

DEFINITIONS

Acute oral toxicity refers to those adverse effects occurring following oral administration of a single dose of a substance, or multiple doses given within 24 hours.

Delayed death means that an animal does not die or appear moribund within 48 hours but dies later during the 14-day observation period.

Dose is the amount of test substance administered. Dose is expressed as weight (g, mg) or as weight of test substance per unit weight of test animal (e.g. mg/kg).

Dose progression factor, sometimes termed a dose spacing factor, refers to the multiple by which a dose is increased (i.e., the dose progression) when an animal survives or the divisor by which it is decreased when an animal dies. The dose progression factor is recommended to be the antilog of 1/ (the estimated slope of the dose response curve). The default dose progression factor is recommended to be 3.2 = antilog 0.5 = antilog ½.

GHS: Globally Harmonised Classification System for Chemical Substances and Mixtures. A joint activity of OECD (human health and the environment), UN Committee of Experts on Transport of Dangerous Goods (physical–chemical properties) and ILO (hazard communication) and co-ordinated by the Interorganisation Programme for the Sound Management of Chemicals (IOMC).

Impending death: when moribund state or death is expected prior to the next planned time of observation. Signs indicative of this state in rodents could include convulsions, lateral position, recumbence, and tremor. (See the Humane Endpoint Guidance Document (13) for more details).

LD50 (median lethal oral dose), is a statistically derived single dose of a substance that can be expected to cause death in 50 per cent of animals when administered by the oral route. The LD50 value is expressed in terms of weight of test substance per unit weight of test animal (mg/kg).

Limit dose refers to a dose at an upper limitation on testing (2000 or 5000 mg/kg).

Moribund status : being in a state of dying or inability to survive, even if treated. (See the Humane Endpoint Guidance Document (13) for more details).

Nominal sample size refers to the total number of tested animals, reduced by one less than the number of like responses at the beginning of the series, or by the number of tested animals up to but not including the pair that creates the first reversal. For example, for a series where X and O indicate opposite animal outcomes (for instance, X could be: "dies within 48 hours" and O: " survives") in a pattern as follows: OOOXXOXO, we have the total number of tested animals (or sample size in the conventional sense) as 8 and the nominal sample size as 6. This particular example shows 4 animals following a reversal. It is important to note whether a count in a particular part of the guideline refers to the nominal sample size or to the total number tested. For example, the maximum actual number tested is 15. When testing is stopped based on that maximum number, the nominal sample size will be less than or equal to 15. Members of the nominal sample start with the (r-1)st animal (the animal before the second in the reversal pair) (see reversal below).

Predictable death: presence of clinical signs indicative of death at a known time in the future before the planned end of the experiment, for example: inability to reach water or food. (See the Humane Endpoint Guidance Document (13) for more details).

Probit is an abbreviation for the term "probability integral transformation" and a probit dose-response model permits a standard normal distribution of expected responses (i.e., one centered to its mean and scaled to its standard deviation, *sigma*) to doses (typically in a logarithmic scale) to be analyzed as if it were a straight line with slope the reciprocal of *sigma*. A standard normal lethality distribution is symmetric; hence, its mean is also its true LD50 or median response.

Reversal is a situation where nonresponse is observed at some dose, and a response is observed at the next dose tested, or vice versa (i.e., response followed by nonresponse). Thus, a reversal is created by a pair of responses. The first such pair occurs at animals numbered r-1 and r.

Sigma is the standard deviation of a log normal curve describing the range of tolerances of test subjects to the chemical (where a subject is expected capable of responding if the chemical dose exceeds the subject's tolerance). The estimated *sigma* provides an estimate of the variation among test animals in response to a full range of doses.
See slope and probit.

Slope (of the dose-response curve) is a value related to the angle at which the dose response curve rises from the dose axis. In the case of probit analysis, when responses are analyzed on a probit scale against dose on a log scale this curve will be a straight line and the slope is the reciprocal of *sigma,* the standard deviation of the underlying test subject tolerances, which are assumed to be normally distributed. See probit and *sigma.*

Stopping rule is used in this guideline synonymously with 1) a specific stopping criterion and 2) the collection of all criteria determining when a testing sequence terminates. In particular, for the main test, stopping rule is used in paragraph 7 as a shorthand for the criterion that relies on comparison of ratios to a critical value.

ANNEX 2

DOSING PROCEDURE

Dose Sequence for Main Test

1. Up-and-Down Dosing Procedure. For each run, animals are dosed, one at a time, usually at 48-hour intervals. The first animal receives a dose a step below the level of the best estimate of the LD50. This selection reflects an adjustment for a tendency to bias **away from the LD50 in the direction of** the initial starting dose in the final estimate (see paragraph 7 of the Guideline). The overall pattern of outcomes is expected to stabilize as dosing is adjusted for each subsequent animal. Paragraph 3 below provides further guidance for choice of dose spacing factor.

2. Default Dose Progression. Once the starting dose and dose spacing are decided, the toxicologist should list all possible doses including the upper bound (usually 2000 or 5000 mg/kg). Doses that are close to the upper bound should be removed from the progression. The stepped nature of the TG 425 design provides for the first few doses to function as a self-adjusting sequence. Because of the tendency for positive bias, in the event that nothing is known about the substance, a starting dose of 175 mg/kg is recommended. If the default procedure is to be used for the main test, dosing will be initiated at 175 mg/kg and doses will be spaced by a factor of 0.5 on a log dose scale. The doses to be used include 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 2000 or, for specific regulatory needs, 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 1750, 5000. For certain highly toxic substances, the dosing sequence may need to be extended to lower values.

3. In the event a dose progression factor other than the default is deemed suitable, Table 1 provides dose progressions for whole number multiples of slope, from 1 to 8.

425 **OECD/OCDE**

Table 1 Dose Progressions for OECD Guideline 425
Choose a Slope and Read Down the Column
All doses in mg/kg bw

Slope = 1	2	3	4	5	6	7	8
0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*
						0.24	0.23
				0.275	0.26		
			0.31			0.34	0.31
		0.375			0.375		
							0.41
				0.44		0.47	
	0.55		0.55		0.55		0.55
				0.69		0.65	
							0.73
		0.81			0.82		
			0.99			0.91	0.97
				1.09	1.2		
						1.26	1.29
1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75
						2.4	2.3
				2.75	2.6		
			3.1			3.4	3.1
		3.75			3.75		
				4.4			4.1
						4.7	
	5.5		5.5		5.5		5.5
				6.9		6.5	
							7.3
		8.1			8.2		
			9.9			9.1	9.7
				10.9	12		
						12.6	12.9
17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5
						24	23
				27.5	26		
			31			34	31

Table 1 continued

		37.5			37.5		
				44			41
						47	
	55		55		55		55
						65	
				69			73
		81			82		
			99			91	97
				109	120		
						126	129
175	175	175	175	175	175	175	175
						240	230
				275	260		
			310			340	310
		375			375		
				440			410
						470	
	550		550		550		550
						650	
				690			730
		810			820		
			990			910	970
				1090	1200		
						1260	1290
1750	1750	1750	1750	1750	1750	1750	1750
						2400	2300
				2750	2600		
			3100				3100
					3750	3400	
							4100
5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000

* If lower doses are needed, continue progressions to a lower dose

ANNEX 3

COMPUTATIONS FOR THE LIKELIHOOD-RATIO STOPPING RULE

1. As described in Guideline paragraph 33, the main test may be completed on the basis of the first of three stopping criteria to occur. In any case, even if none of the stopping criteria is satisfied, dosing would stop when 15 animals are dosed. Tables 2-5 illustrate examples where testing has started with no information, so the recommended default starting value, 175 mg/kg, and the recommended default dose progression factor, 3.2 or one half log, have been used. Please note the formatting of these tables is only illustrative.

2. Table 2 shows how the main test would stop if 3 animals have survived at the limit dose of 2000 mg/kg; Table 3 shows a similar situation when the limit dose of 5000 mg/kg is used. (These illustrate situations where a Limit Test was not thought appropriate *a priori*.) Table 4 shows how a particular sequence of 5 reversals in 6 tested animals could occur and allow test completion. Finally, Table 5 illustrates a situation where neither criterion (a) nor criterion (b) has been met, a reversal of response has occurred followed by 4 tested animals, and, consequently, criterion (c) must be evaluated as well.

3. Criterion (c) calls for a likelihood-ratio stopping rule to be evaluated after testing each animal, starting with the fourth tested following the reversal. Three "measures of test progress" are calculated. Technically, these measures of progress are likelihoods, as recommended for the maximum-likelihood estimation of the LD50. The procedure is closely related to calculation of a confidence interval by a likelihood-based procedure.

4. The basis of the procedure is that when enough data have been collected, a point estimate of the LD50 should be more strongly supported than values above and below the point estimate, where statistical support is quantified using likelihood. Therefore three likelihood values are calculated: a likelihood at an LD50 point estimate (called the rough estimate or dose-averaging estimate in the example), a likelihood at a value below the point estimate, and a likelihood at a value above the point estimate. Specifically, the low value is taken to be the point estimate divided by 2.5 and the high value is taken to be the point estimate multiplied by 2.5.

5. The likelihood values are compared by calculating ratios of likelihoods, and then determining whether these likelihood-ratios (LR) exceed a critical value. Testing stops when the ratio of the likelihood for the point estimate exceeds each of the other likelihoods by a factor of 2.5, which is taken to indicate relatively strong statistical support for the point estimate. Therefore two likelihood-ratios (LRs) are calculated, a ratio of likelihoods for the point estimate and the point estimate divided by 2.5, and a ratio for the point estimate and the estimate times 2.5.

6. The calculations are easily performed in any spreadsheet with normal probability functions. The calculations are illustrated in Table 5, which is structured to promote spreadsheet implementation. The computation steps are illustrated using an example where the upper limit dose is 5000 mg/kg, but the computational steps are carried out in the same fashion when the upper boundary dose is 2000 mg/kg. Empty spreadsheets preprogrammed with the necessary formulas are available for direct downloading on the OECD and EPA web sites.

Hypothetical example using an upper limit dose of 5000 mg/kg (Table 5)

7. In the hypothetical example utilizing an upper boundary dose of 5000 mg/kg, the LR stopping criterion was met after nine animals had been tested. The first "reversal" occurred with the 3rd animal tested. The LR stopping criterion is checked when four animals have been tested following the reversal. In this example, the fourth animal tested following the reversal is the seventh animal actually tested. Therefore, for this example, the spreadsheet calculations are only needed after the seventh animal had been tested and the data could be entered at that time. Subsequently, the LR stopping criterion would have been checked after testing the seventh animal, the eighth animal, and the ninth. The LR stopping criterion is first satisfied after the ninth animal is tested in this example.

A. Enter the dose-response information animal by animal.

Column 1. Steps are numbered 1-15. No more than 15 animals may be tested.
Column 2. Place an I in this column as each animal is tested.
Column 3. Enter the dose received by the i^{th} animal.
Column 4. Indicate whether the animal responded (shown by an X) or did not respond (shown by an O).

B. The nominal and actual sample sizes.

8. The nominal sample consists of the two animals that represent the first reversal (here the second and third animals), plus all animals tested subsequently. Here, Column 5 indicates whether or not a given animal is included in the nominal sample.

The nominal sample size (nominal n) appears in Row 16. This is the number of animals in the nominal sample. In the example, nominal n is 8.
The actual number tested appears in Row 17.

C. Rough estimate of the LD50.

9. The geometric mean of doses for the animals in the current nominal sample is used as a rough estimate of the LD50 from which to gauge progress. In the table, this is called the "dose-averaging estimator." It is updated with each animal tested. This average is restricted to the nominal sample in order to allow for a poor choice of initial test dose, which could generate either an initial string of responses or an initial string of nonresponses. (However, the results for all animals are used in the likelihood calculations for final LD50 calculation below.) Recall that the geometric mean of n numbers is the product of the n numbers, raised to a power of $1/n$.

The dose-averaging estimate appears in Row 18 (e.g., $(175 * 550 * ... * 1750)^{1/8} = 1292.78$).
Row 19 shows the logarithm (base 10) of the value in Row 18 (e.g., $\log_{10} 1292.8 = 3.112$).

D. Likelihood for the rough LD50 estimate.

10. Likelihood is a statistical measure of how strongly the data support an estimate of the LD50 or other parameter. Ratios of likelihood values can be used to compare how well the data support different estimates of the LD50.

11. In column 8 calculate the likelihood for Step C's rough LD50 estimate. The likelihood (Row 21) is the product of likelihood contributions for individual animals (see Guideline paragraph 41). The likelihood contribution for the i^{th} animal is denoted L_i.

12. In column 7 enter the estimate of the probability of response at dose d_i, denoted P_i. P_i is calculated from a dose-response curve. Note that the parameters of a probit dose-response curve are the

slope and the LD50, so values are needed for each of those parameters. For the LD50 the dose-averaging estimate from Row 18 is used. For the slope in this example the default value of 2 is used. The following steps may be used to calculate the response probability P_i.

1. Calculate the base-10 log of dose d_i (Column 6).

2. For each animal calculate the z-score, denoted Z_i (not shown in the table), using the formulae
   sigma = 1 / *slope*,
   $Z_i = (\log_{10}(d_i) - \log_{10}(\text{LD50})) / \textit{sigma}$

   For example, for the first animal (Row 1),
   sigma = 1 / 2
   $Z_1 = (2.243 - 3.112) / 0.500 = -1.738$

3. For the i^{th} dose the estimated response probability is

   $P_i = F(Z_i)$

where F denotes the cumulative distribution function for the standard normal distribution (i.e., the normal distribution with mean 0 and variance 1).

For example (Row 1),

$$P_1 = F(-1.738) = 0.0412$$

The function F (or something very close) is ordinarily what is given for the normal distribution in statistical tables, but the function is also widely available as a spreadsheet function. It is available under different names, for example the @NORMAL function of Lotus 1-2-3 (1) and the @NORMDIST function in Excel (2). To confirm that you have used correctly the function available in your software, you may wish to verify familiar values such as $F(1.96) \approx 0.975$ or $F(1.64) \approx 0.95$.

13. Column 8. Calculate the natural log of the likelihood contribution ($\ln(L_i)$). L_i is simply the probability of the response that actually was observed for the i^{th} animal:

responding animals: $\ln(L_i) = \ln (P_i)$
non-responding animals: $\ln(L_i) = \ln(1 - P_i)$

Note that here the natural logarithm (ln) is used, whereas elsewhere the base-10 (common) logarithm was used. These choices are what are ordinarily expected in a given context.

The steps above are performed for each animal. Finally:

Row 20: Sum the log-likelihood contributions in Column 8.
Row 21: Calculate the likelihood by applying the exp function applied to the log-likelihood value in Row 20 (e.g., $\exp(-3.389) = e^{-3.389} = 0.0337$).

E. Calculate likelihoods for two dose values above and below the rough estimate.

14. If the data permit a precise estimate, then one expects the likelihood should be high if the estimate is a reasonable estimate of the LD50, relative to likelihoods for values distant from this estimate. Compare the likelihood for the dose-averaging estimate (1292.8, Row 18) to values differing by a factor of

2.5 from that value (i.e., to 1292.8*2.5 and 1292.8/2.5). The calculations (displayed in Columns 9-12) are carried out in a fashion similar to those described above, except that the values 517.1 (=1292.8/2.5) and 3232.0 (=1292.8*2.5) have been used for the LD50, instead of 1292.8. The likelihoods and log-likelihoods are displayed in Rows 20-21.

F. Calculate likelihood-ratios.

15. The three likelihood values (Row 21) are used to calculate two likelihood-ratios (Row 22). A likelihood-ratio is used to compare the statistical support for the estimate of 1292.8 to the support for each of the other values, 517.1 and 3232.0. The two likelihood-ratios are therefore:

LR1 = [likelihood of 1292.8] / [likelihood of 517.1]
= 0.0337 / 0.0080
= 4.21

and

LR2 = [likelihood of 1292.8] / [likelihood of 3232.0]
= 0.0337 / 0.0098
= 3.44

G. Determine if the likelihood-ratios exceed the critical value.

16. High likelihood-ratios are taken to indicate relatively high support for the point estimate of the LD50. Both of the likelihood-ratios calculated in Step F (4.21 and 3.44) exceed the critical likelihood-ratio, which is 2.5. Therefore the LR stopping criterion is satisfied and testing stops. This is indicated by a TRUE in Row 24 and a note at the top of the example spreadsheet that the LR criterion is met.

LITERATURE

(1) Lotus Development Corporation (1999). Lotus® 1-2-3. Version 9.5, Millenium Edition. Cambridge, MA, USA.

(2) Microsoft Corporation (1985-1997). Microsoft® Excel Version 5.0 or later. Seattle, WA, USA.

Table 2. Example of stopping criterion (a) using 2000 mg/kg.

Stop after animal #5 because 3 animals survive at limit of 2000 mg/kg (#3-#5).

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	O	no	2.2430	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
2	I	550	O	no	2.7404	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
3	I	2000	O	no	3.3010	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
4	I	2000	O	no	3.3010	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
5	I	2000	O	no	3.3010	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
6	E				-						
7	E				-						
8	E				-	-	-	-	-	-	-
9	E				-	-	-	-	-	-	-
10	E				-	-	-	-	-	-	-
11	E				-	-	-	-	-	-	-
12	E				-	-	-	-	-	-	-
13	E				-	-	-	-	-	-	-
14	E				-	-	-	-	-	-	-
15	E				-	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				0							
Actual number tested =				5							

Ignore all calculation cells. No reversal in direction of response.

Maximum Likelihood Calculations cannot be completed. LD50 is greater than 2000 mg/kg.

Calculated maximum likelihood estimate of LD50 = none

Table 3. Example of stopping criterion (a) using 5000 mg/kg.

Stop after animal #6 because 3 animals survive at limit of 5000 mg/kg (#4-#6).

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	O	no	2.2430	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
2	I	550	O	no	2.7404	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
3	I	1750	O	no	3.2430	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
4	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
5	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
6	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
7	E				-	Ignore all calculation cells. No reversal in direction of response.					
8	E				-						
9	E				-	-	-	-	-	-	-
10	E				-	-	-	-	-	-	-
11	E				-	-	-	-	-	-	-
12	E				-	Maximum Likelihood Calculations cannot be completed. LD50 is greater than 5000 mg/kg.			-	-	-
13	E				-				-	-	-
14	E				-				-	-	-
15	E				-	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				0							
Actual number tested =				6							

Calculated maximum likelihood estimate of LD50 = none

Table 4. Example of stopping criterion (b)

Stop after animal #7 because 5 reversals in 6 consecutive animals tested (#2-#7).

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	LD50 = Prob. of response	31.0 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	12.4 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	77.6 likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	X	no	2.2430	0.9335	-0.0688	0.9892	-0.0108	0.7602	-0.2742
2	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
3	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
4	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
5	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
6	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
7	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
8	E				-	-	-	-	-	-	-
9	E				-	-	-	-	-	-	-
10	E				-	-	-	-	-	-	-
11	E				-	-	-	-	-	-	-
12	E				-	-	-	-	-	-	-
13	E				-	-	-	-	-	-	-
14	E				-	-	-	-	-	-	-
15	E				-	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				6							
Actual number tested =				7							
Dose-averaging estimator				31.02							
log10 =				1.492							
log-likelihood sums:							-2.2906		-3.2021		-3.4655
likelihoods:							0.1012		0.0407		0.0313
likelihood ratios:									2.4880		3.2378
Individual ratios exceed critical value?				critical=	2.5		Automated calculation; not relevant to this case.		FALSE		TRUE
Both ratios exceed critical value?									FALSE		
Calculated maximum likelihood estimate of LD50 =					29.6	Final estimate obtained from Maximum Likelihood Calculations					

Table 5. Example of stopping criterion (c)

Stop when LR criterion is first met, here at animal #9.
Check LR criterion starting at animal #6.

Assumed slope	2	sigma =	0.5

Parameters of convergence criterion	
critical LR	2.5
factor of LD50	2.5

Result: The LR criterion is met

1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp.	Included in nominal *n*	log10 Dose	Contrib.to DAE	LD50 = Prob. of response	1292.8 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	517.1 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	3232.0 likelihood contribn. (ln *Li*)
			OK									
1	I	175	O	no	2.2430	0.0000	0.0412	-0.0421	0.1733	-0.1903	0.0057	-0.0057
2	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
3	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
4	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
5	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
6	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
7	I	1750	O	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.9257	0.8552	-1.9323	0.2971	-0.3525
8	I	5000	X	yes	3.6990	3.6990	0.8800	-0.1279	0.9756	-0.0247	0.6477	-0.4344
9	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
10	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
11	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
12	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
13	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
14	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
15	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				8								
Actual number tested =				9								
Dose-averaging estimator				1292.78								
log10 =				3.112								
log-likelihood sums:								-3.3894		-4.8270		-4.6260
likelihoods:								0.0337		0.0080		0.0098
likelihood ratios:										4.2104		3.4436
Individual ratios exceed critical value?				critical=	2.5					TRUE		TRUE
Both ratios exceed critical value?										TRUE		

425 **OECD/OCDE**

ANNEX 4

CRITERIA FOR CLASSIFICATION OF TEST SUBSTANCES WITH EXPECTED LD50 VALUES EXCEEDING 2000 MG/KG WITHOUT THE NEED FOR TESTING

1. Criteria for hazard Category 5 are intended to enable the identification of test substances which are of relatively low acute toxicity hazard but which, under certain circumstances may present a danger to vulnerable populations. These substances are anticipated to have an oral or dermal LD50 in the range of 2000-5000 mg/kg or equivalent doses for other routes. Test substances could be classified in the hazard category defined by: 2000 mg/kg<LD50<5000 mg/kg (Category 5 in the GHS) in the following cases:

a) if reliable evidence is already available that indicates the LD50 to be in the range of Category 5 values; or other animal studies or toxic effects in humans indicate a concern for human health of an acute nature.

b) through extrapolation, estimation or measurement of data if assignment to a more hazardous category is not warranted, and
   - reliable information is available indicating significant toxic effects in humans, or
   - any mortality is observed when tested up to Category 4 values by the oral route, or
   - where expert judgement confirms significant clinical signs of toxicity, when tested up to Category 4 values, except for diarrhoea, piloerection or an ungroomed appearance, or
   - where expert judgement confirms reliable information indicating the potential for significant acute effect from the other animal studies.

TESTING AT DOSES ABOVE 2000 MG/KG

2. Recognising the need to protect animal welfare, testing in animals in Category 5 ranges is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test would have a direct relevance for protecting human health.

Appendix M2

EPA UDP Test Guideline

[This Page Intentionally Left Blank]

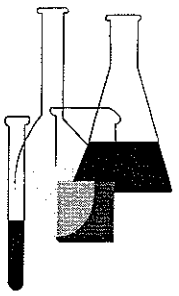
United States
Environmental Protection
Agency

Prevention, Pesticides
and Toxic Substances
(7101)

EPA 712–C–02–190
December 2002

EPA

Health Effects Test Guidelines OPPTS 870.1100 Acute Oral Toxicity



INTRODUCTION

This guideline is one of a series of test guidelines that have been developed by the Office of Prevention, Pesticides and Toxic Substances, United States Environmental Protection Agency for use in the testing of pesticides and toxic substances, and the development of test data that must be submitted to the Agency for review under Federal regulations.

The Office of Prevention, Pesticides and Toxic Substances (OPPTS) has developed this guideline through a process of harmonization that blended the testing guidance and requirements that existed in the Office of Pollution Prevention and Toxics (OPPT) and appeared in Title 40, Chapter I, Subchapter R of the Code of Federal Regulations (CFR), the Office of Pesticide Programs (OPP) which appeared in publications of the National Technical Information Service (NTIS) and the guidelines published by the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD).

The purpose of harmonizing these guidelines into a single set of OPPTS guidelines is to minimize variations among the testing procedures that must be performed to meet the data requirements of the U. S. Environmental Protection Agency under the Toxic Substances Control Act (15 U.S.C. 2601) and the Federal Insecticide, Fungicide and Rodenticide Act (7 U.S.C. 136, *et seq.*).

Final Guideline Release: This guideline is available from the U.S. Government Printing Office, Washington, DC 20402 on disks or paper copies: call (202) 512–0132. This guideline is also available electronically in PDF (portable document format) from EPA's Internet Web site at http://www.epa.gov/opptsfrs/home/guidelin.htm. Also, the Agency has developed, and strongly recommends users to solely use, the software program for performing the Up-and-Down Procedure and calculating the LD50 and confidence interval. The software program (AOT425StatPgm) is available on EPA's Internet Web site at http://www.epa.gov/oppfead1/harmonized.

OPPTS 870.1100 Acute oral toxicity.

(a) **Scope—Applicability**. This guideline is intended to meet testing requirements of both the Federal Insecticide, Fungicide, and Rodenticida Act (FIFRA) (7 U.S.C. 136, *et seq.*) and the Toxic Substances Control Act (TSCA) (15 U.S.C. 2601).

(2) **Background**. The source material for this revised harmonized test guideline is OPPTS 870.1100 Acute Oral Toxicity, dated August 1998 and OECD test Guideline 425 Acute Oral Toxicity–Up-and-Down Procedure.

(b) **Purpose**. In the assessment and evaluation of the toxic characteristics of a substance, determination of acute oral toxicity is usually an initial step. It provides information on health and environmental hazards likely to arise from short-term exposure by the oral route. Data from an acute study may serve as a basis for classification and labeling. It is traditionally a step in establishing a dosage regimen in subchronic and other studies and may provide initial information on the mode of toxic action of a substance. An evaluation of acute toxicity data should include the relationship, if any, between the exposure of animals to the test substance and the incidence and severity of all abnormalities, including behavioral and clinical abnormalities, the reversibility of observed abnormalities, gross lesions, body weight changes, effects on mortality, and any other toxic effects.

(c) **Definitions**. The definitions in Section 3 of the Toxic Substances Control Act (TSCA) and the definitions in 40 CFR Part 792—Good Laboratory Practice Standards apply to this test guideline. The following definitions also apply to this test guideline.

Acute oral toxicity is the adverse effects occurring within a short time of oral administration of a single dose of a substance or multiple doses given within 24 hours.

Confidence interval (CI) is an interval estimate, a range of values, intended to include the true LD_{50} with a specified degree of confidence.

Delayed death means that an animal does not die or appear moribund within 48 hours, but dies later during the 14-day observation period.

Dose is the amount of test substance administered. Dose is expressed as weight (g, mg (grams, milligrams)) or as weight of test substance per unit weight of test animal (e.g., mg/kg (milligrams/kilograms)).

Dose progression factor, sometimes termed a dose spacing factor, refers to the multiple by which a dose is increased (i.e., the dose progression) when an animal survives or the divisor by which it is decreased when an animal dies. The dose progression factor is recommended to be the antilog of 1/(the estimated slope of the dose-response curve). The default

dose progression factor is recommended to be 3.2 = antilog 0.5 = antilog (1/2).

LD_{50} (median lethal dose), oral, is a statistically derived single dose of a substance that can be expected to cause death in 50 per cent of animals when administered by the oral route. The LD_{50} value is expressed in terms of weight of test substance per unit weight of test animal (mg/kg).

Limit dose refers to a dose at an upper limitation on testing (2000–5000 mg/kg).

Moribund status of an animal refers to being in a state of dying or inability to survive, even if treated.

Nominal sample size refers to the total number of tested animals, reduced by one less than the number of like responses at the beginning of the series, or by the number of tested animals up to but not including the pair that creates the first reversal. For example, for a series where X and O indicate opposite animal outcomes (for instance, X could be dies within 48 hours and O survives) in a pattern as follows: OOOXXOXO, we have the total number of tested animals (or sample size in the conventional sense) as 8 and the nominal sample size as 6. This particular example shows 4 animals following a reversal. It is important to note whether a count in a particular part of the guideline refers to the nominal sample size or to the total number tested. For example, the maximum actual number tested is 15. When testing is stopped based on that basis, the nominal sample size will be less than or equal to 15. Members of the nominal sample start with the (r-1)st animal (the animal before the second in the reversal pair) (see reversal below).

Probit is an abbreviation for the term "*prob*ability *i*ntegral *t*ransformation" and a probit dose-response model permits a standard normal distribution of expected responses (i.e., one centered to its mean and scaled to its standard deviation, *sigma*) to doses (typically in a logarithmic scale) to be analyzed as if it were a straight line with slope the reciprocal of *sigma*. A standard normal lethality distribution is symmetric; hence, its mean is also its true LD_{50} or median response.

Reversal is a situation where nonresponse is observed at some dose, and a response is observed at the next dose tested, or vice versa (i.e., response followed by nonresponse). Thus, a reversal is created by a pair of responses. The first such pair occurs at animals numbered r-1 and r.

Sigma is the standard deviation of a log normal curve describing the range of tolerances of test subjects to the chemical (where a subject is expected capable of responding if the chemical dose exceeds the subject's tolerance). The estimated *sigma* provides an estimate of the variation

among test animals in response to a full range of doses. See slope and probit.

Slope (of the dose-response curve) is a value related to the angle at which the dose response curve rises from the dose axis. In the case of probit analysis, when responses are analyzed on a probit scale against dose on a log scale this curve will be a straight line and the slope is the reciprocal of *sigma*, the standard deviation of the underlying test subject tolerances, which are assumed to be normally distributed. See probit and *sigma*.

Stopping rule is used in this guideline synonymously with (1) a specific stopping criterion and (2) the collection of all criteria determining when a testing sequence terminates. In particular, for the main test, stopping rule is used in paragraph (e)(2)(ii) of this guideline as a shorthand for the criterion that relies on comparison of ratios to a critical value.

(d) **Approaches to the determination of acute toxicity**. EPA recommends the Up-and-Down Procedure (UDP) as detailed in this guideline and adopted by the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD) as test Guideline 425 (see paragraph (n)(1) of this guideline), to assess acute oral toxicity. This method provides a point estimate of lethality and confidence interval around the LD50. Acute oral toxicity testing may also be performed using the Fixed Dose Method of OECD Guideline 420 (see paragraph (n)(2) of this guideline) or the Acute Toxic Class Method of OECD Guideline 423 (see paragraph (n)(3) of this guideline). These methods assess lethality within a dose range.

(e) **Introduction to the UDP**—(1) **Background**. (i) The concept of the up-and-down testing approach was first described by Dixon and Mood (see paragraphs (n)(4) through (n)(7) of this guideline). In 1985, Bruce proposed to use an UDP for the determination of acute toxicity of chemicals (see paragraph (n)(8) of this guideline). There exist several variations of the up-and-down experimental design for estimating an LD_{50}. This guideline is derived from the UDP of Bruce as adopted by the American Society for Testing and Materials (ASTM) in 1987 (see paragraph (n)(9) of this guideline) and revised in 1990. A study comparing the results obtained with the UDP, the conventional LD_{50} test and the Fixed Dose Procedure (FDP, OECD Guideline 420) was published in 1995 (see paragraph (n)(10) of this guideline).

(ii) The UDP described in this guideline is of value in minimizing the number of animals required to estimate the acute oral toxicity of a chemical. In addition to the estimation of LD_{50} and CI, the test procedure allows the observation of signs of toxicity. The UDP does not provide information about the slope of the dose-response curve.

(iii) The guideline significantly reduces the number of animals used in comparison to the traditional LD_{50} test, which often required at least 30 animals in a test: (A) The stopping rule limits the number of animals

in a test; (B) sequential dosing introduces further efficiencies in animal use; (C) initial dosing is now set to be below the LD_{50} increasing the percentage of animals in which dosing levels will be sublethal and thereby providing some reduction in pain and distress; and (D) the use of a single sex (usually females) reduces the number of animals needed and minimizes the variability in the test population. In addition, the OECD Guidance Document on Humane Endpoints (see paragraph (n)(11) of this guideline) should be followed in order to reduce the overall suffering of test animals used in this type of toxicity test.

(2) **Initial considerations**—(i) **Choice of starting dose and dose progression factor.** All available information on the test substance should be considered by the testing laboratory prior to conducting the study in order to determine if a preliminary estimate of the LD_{50} and the slope of the dose-response curve can be made. Because the method has a bias toward the starting dose, it is essential that initial dosing occur below the LD_{50}. In addition, the UDP performs best when the spacing between doses or dose progression factor is based on an accurate estimate of the slope of the dose-response curve. (See paragraphs (i)(3)(ii) and (m)(1) of this guideline for discussion of dose sequences and starting values.) Initial information may include the identity and chemical structure of the substance; its physical chemical properties; the results of any other *in vitro* or *in vivo* toxicity tests on the substance or mixtures; toxicological data on structurally related substances or similar mixtures; and the anticipated use(s) of the substance. For example, data from an *in vitro* cytotoxicity assay can also be useful as one of the tools in setting a starting dose for the *in vivo* assessment of acute oral toxicity (see paragraphs (n)(10) through (n)(12) of this guideline). (A Guidance Document on Using *In Vitro* Data to Estimate *In Vivo* Starting Doses for Acute Toxicity is available (see paragraph (n)(11) of this guideline), and preliminary information suggests that the use of this approach may further reduce the number of animals used for *in vivo* testing (see paragraph (n)(11) of this guideline). Preliminary estimates of the LD_{50} and the dose-response slope will help in selecting a dose progression factor and a starting dose for testing.

(ii) **Default starting dose and dose progression factor.** If no information is available to make a preliminary estimate of the LD_{50} and the slope of the dose-response curve, results of computer simulations have suggested that starting near 175 mg/kg and using half-log units (corresponding to a dose progression of 3.2) between doses will produce the best results. This starting dose should be modified if the substance is likely to be highly toxic. The half-log spacing provides for a more efficient use of animals, and increases accuracy in the prediction of the LD_{50} value. However, for chemicals with large variability (i.e., shallow dose- response slopes), bias can still be introduced in the lethality estimates and the LD_{50} estimate will have a large statistical error, similar to other acute toxicity methods. To correct for this, the main test includes a stopping rule keyed

to properties of the estimate rather than a fixed number of test observations. (See paragraph (i)(3)(iii) of this guideline.)

(iii) **Delayed toxicity**. The method is easiest to apply to materials that produce death within one or two days. The method would not be practical to use when considerably delayed death (five days or more) can be expected.

(iv) **Computation**. Computers are used to facilitate animal-by-animal calculations that establish testing sequences and provide final estimates. The users of this protocol are strongly urged to solely use the Agency-developed software package (AOT425StatPgm) for performing the test and the calculation of the LD 50. The software is available on EPA's Internet Web site at http://www.epa.gov/oppfead1/harmonized.

(v) **Humane practices**. Moribund animals or animals obviously in pain or showing signs of severe and enduring distress shall be humanely killed, and are considered in the interpretation of the test results in the same way as animals that died on test. Criteria for making the decision to kill moribund or severely suffering animals, and guidance on the recognition of predictable or impending death are the subject of an OECD guidance document (see paragraph (n)(11) of this guideline).

(vi) **Limit test**. A limit test can be used efficiently to identify chemicals that are likely to have low acute toxicity.

(f) **Principle of the limit test**. The limit test is a sequential test that uses a maximum of 5 animals (see paragraphs (i)(2)(i) through (i)(2)(iv) of this guideline). A test dose of 5000 mg/kg is used. The selection of a sequential test plan increases the statistical power and also has been made to intentionally bias the procedure towards rejection of the limit test for compounds with LD_{50}s near the limit dose; i.e., to err on the side of safety. As with any limit test protocol, the probability of correctly classifying a compound will decrease as the actual LD_{50} more nearly resembles the limit dose.

(g) **Principle of the Main Test**. (1) The main test consists of a single ordered dose progression in which animals are dosed, one at a time, at 48-hour intervals. The first animal receives a dose a step below the level of the best estimate of the LD_{50}. If the animal survives, the dose for the next animal is increased to a factor of one half log times the original dose; if it dies, the dose for the next animal is decreased by a similar dose progression. (Note: 3.2 is the default factor corresponding to a dose progression of one half log unit in the Agency developed software program (AOT425StatPgm). However, this value may be changed. Paragraphs (i)(3)(ii) and (m)(12) of this guideline provide further guidance for choice of dose spacing factor.) Each animal should be observed carefully for up to 48 hours before making a decision on whether and how much to dose the next animal. That decision is based on the 48-hour survival pattern

of all the animals up to that time. (See paragraphs (i)(3)(i) and (i)(3)(v) of this guideline on choice of survival interval.) A combination of stopping criteria is used to keep the number of animals low while adjusting the dosing pattern to reduce the effect of a poor starting value or low slope (see paragraph (i)(3)(iv) of this guideline). Dosing is stopped when one of these criteria is satisfied (see paragraphs (i)(3)(iii) and (k)(2) of this guideline), at which time an estimate of the LD_{50} and a CI are calculated for the test based on the status of all the animals at termination. For most applications, testing will be completed with only 4 animals after initial reversal in animal outcome. The LD_{50} is calculated using the method of maximum likelihood (see paragraphs (k)(2) and (k)(2)(iii) of this guideline.)

(2) The results of the main test procedure serve as the starting point for a computational procedure to provide a CI estimate where feasible. A description of the basis for this CI is outlined in paragraph (k)(3) of this guideline.

(h) **Preparation for testing**—(1) **Selection of animals species.** The preferred rodent species is the rat although other rodent species may be used.

(2) **Single sex selection.** The test is conducted using a single sex in order to reduce variability and as a means of minimizing the number of animals used. Either sex may be used, however, if there is information available indicating differences in sensitivity, the most sensitive sex (usually females) should be tested (see paragraph (n)(11) of this guideline).

(i) Literature surveys of conventional LD_{50} tests show that usually there is little difference in sensitivity between the sexes but, in those cases where differences were observed, females were often slightly more sensitive (see paragraph (n)(10) of this guideline). For chemicals that are direct acting in their toxic mechanism, female rats may have a lower detoxification capacity than males, as measured by specific activity of phase I and II enzymes. However, all available information should be evaluated, for example on chemical analogues and the results of testing for other toxicological endpoints on the chemical itself, as this may indicate that males may be more sensitive than females. Knowledge that metabolic activation is required for a chemical's toxicity can also indicate that males may be the more sensitive sex.

(ii) Occasionally, the results of subsequent testing, for example a subchronic test, may raise concerns that the more sensitive sex had not been used. In such cases, and only when considerable differences between the sexes are suspected, it may be necessary to conduct another full acute oral toxicity study in the second sex. This is preferable to conducting confirmatory testing in a small group of animals of the second sex as a late satellite to the original test because there is a strong possibility that this

would produce results that are difficult to interpret. The impact of conducting a second full test on the overall number of animals used in acute toxicity testing should be small because re-testing is anticipated to be infrequent and the results of the test in one sex, together with data from any subsequent studies, will greatly assist in the selection of starting doses closer to the LD_{50} in the second test.

(3) **Age and weight ranges**. Healthy young adult animals of commonly used laboratory strains should be employed. Females should be nulliparous and non-pregnant. At the commencement of its dosing, each animal should be between 8 weeks and 12 weeks old. In order to minimize the contribution of developmental variability to study outcome, 10 weeks, with a range of ± 1 week is recommended if practical. The weight of each animal should fall in an interval ± 20% of the mean initial weight of all previously dosed animals.

(4) **Housing and feeding conditions**. The temperature in the experimental animal room should be 22°C (± 3°C). The relative humidity should be at least 30% and preferably not exceed 70% other than during room cleaning. Lighting should be artificial, the sequence being 12 hours light and 12 hours dark. The animals are housed individually. For feeding, conventional rodent laboratory diets may be used with an unlimited supply of drinking water.

(5) **Preparation of animals**. The animals are randomly selected, marked to permit individual identification, and kept in their cages for at least 5 days prior to dosing to allow for acclimatization to the laboratory conditions. As with other sequential test designs, care must be taken to ensure that animals are available in the appropriate size and age range for the entire study.

(6) **Preparation of doses**. (i) When necessary, the test substance is dissolved or suspended in a suitable vehicle. The use of an aqueous solution/suspension/emulsion is recommended wherever possible, followed in order of preference by a solution/suspension/emulsion in oil (e.g. corn oil) and then possibly solution in other vehicles. For vehicles other than water the toxicological characteristics of the vehicle should be known. Dosing preparations must be prepared shortly prior to administration unless the stability of the preparation over the period during which it will be used is known. Where preparation shortly before administration is not practicable and the stability of the preparation is not known, this will need to be demonstrated analytically.

(ii) Constant concentration should be used in dosing unless there is clear scientific or regulatory justification for not doing so. The maximum dose volume for administration must not be exceeded. The maximum volume of liquid that can be administered at one time depends on the size of the test animal. In rodents, the volume should not normally exceed

1 ml/100g of body weight; however, in the case of aqueous solutions, 2 ml/100g body weight can be considered.

(7) **Administration of doses**. (i) The test substance is administered in a single dose by gavage using a stomach tube or a suitable intubation cannula. In the unusual circumstance that a single dose is not possible, the dose may be given in smaller fractions over a period not exceeding 24 hours.

(ii) Animals should be fasted prior to dosing (e.g., with the rat, food but not water should be withheld overnight; with the mouse, food but not water should be withheld for 3–4 hours). Following the period of fasting, the animals should be weighed and the test substance administered. The fasted body weight of each animal is determined and the dose is calculated according to the body weight. After the substance has been administered, food may be withheld for a further 3–4 hours in rats or 1–2 hours in mice. Where a dose is administered in fractions over a period of time, it may be necessary to provide the animals with food and water depending on the length of the period.

(i) **The up-and-down testing procedure**—(1) **Choice of limit test and main test**. The limit test is primarily used in situations where the experimenter has information indicating that the test material is likely to be nontoxic, i.e., having toxicity below regulatory limit doses. Information about the toxicity of the test material can be gained from knowledge about similar tested compounds or similar tested mixtures or products, taking into consideration the identity and percentage of components known to be of toxicological significance. In those situations where there is little or no information about its toxicity, or in which the test material is expected to be toxic, the main test should be performed.

(2) **Implementation of the limit test**. (i) The Agency has developed dedicated software for performing the test and calculation of test results (see paragraph (e) (2)(iv) of this guideline).

(ii) Dose one animal at 5000 mg/kg. If the animal dies, conduct the main test starting at 175 mg/kg to determine the LD_{50}. If the animal survives, dose two additional animals. If both animals survive, the LD_{50} is greater than the limit dose and the test is terminated (i.e. carried to full 14-day observation without dosing of further animals). If one or both animals die, then dose an additional two animals, one at a time. If an animal unexpectedly dies late in the study, and there are other survivors, it is appropriate to stop dosing and observe all animals to see if other animals will also die during a similar observation period (see paragraph (g)(1) of this guideline for initial observation period). Late deaths should be counted the same as other deaths. The results are evaluated as follows (O=survival and X=death).

(iii) The LD_{50} is less than the test dose (5000 mg/kg) when three or more animals die. If a third animal dies, conduct the main test.

O XO XX

O OX XX

O XX OX

O XX X

(iv) The LD_{50} is greater than the test dose (5000 mg/kg) when three or more animals survive.

O OO

O XO XO

O XO O

O OX XO

O OX O

O XX OO

(v) If a limit test is performed at 2000 mg/kg, animals should be dosed sequentially and testing should be performed on all five animals.

(3) **Implementation of the main test.** (i) The Agency has developed dedicated software for performing the test and calculation of test results (see paragraph (e) (2)(iv) of this guideline).

(ii) Performing the UDP. Single animals are dosed in sequence usually at 48-hour intervals. However, the time interval between dosing is determined by the onset, duration, and severity of toxic signs. Treatment of an animal at the next dose should be delayed until one is confident of survival of the previously dosed animal. The time interval may be adjusted as appropriate, e.g., in case of inconclusive response. The test is simpler to implement when a single time interval is used for making sequential dosing decisions. Nevertheless, it is not necessary to recalculate dosing or likelihood-ratios if the time interval changes midtest. For selecting the starting dose, all available information, including information on structurally related substances and results of any other toxicity tests on the test material, should be used to approximate the LD_{50} as well as the slope of the dose-response curve.

(iii) Choice of starting dose and dose progression. The first animal is dosed a step below the toxicologist's best estimate of the LD_{50}. If the animal survives, the second animal receives a higher dose. If the first animal dies or appears moribund, the second animal receives a lower dose. The same dosing decision pattern is followed for each subsequent animal.

The dose progression factor should be chosen to be the antilog of 1/(the estimated slope of the dose-response curve) (a progression of 3.2 corresponds to a slope of 2) and should remain constant throughout testing. Thus, when there is no information on the slope of the substance to be tested, a default dose progression factor of 3.2 is used. Using the default progression factor, doses would be selected from the sequence 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 1750, 5000. If no estimate of the substance's lethality is available, dosing should be initiated at 175 mg/kg. In most cases, this dose is sublethal and therefore serves to reduce the level of pain and suffering. If animal tolerances to the chemical are expected to be highly variable (i.e., slopes are expected to be less than 2.0), consideration should be given to increasing the dose progression factor beyond the default 0.5 on a log dose scale (i.e., 3.2 progression factor) prior to starting the test. Similarly, for test substances known to have very steep slopes, dose progression factors smaller than the default should be chosen. (Paragraph (m)(3) of this guideline relates choice of dose progression to assumed slope and *sigma* and discusses test performance. Paragraph (m)(1) of this guideline includes a table of dose progressions for whole number slopes ranging from 1 to 8 with starting dose 175 mg/kg.)

(iv) Stopping rules. Dosing continues depending on the fixed-time interval (e.g., 48-hours) outcomes of all the animals up to that time. The testing stops when one of the following stopping criteria first is met:

(A) 3 consecutive animals survive at the upper bound;

(B) 5 reversals occur in any 6 consecutive animals tested;

(C) At least 4 animals have followed the first reversal and the specified likelihood-ratios exceed the critical value. (See paragraphs (k)(2)(iv) and (m)(2) of this guideline). Calculations are made at each dosing, following the fourth animal after the first reversal.).

(v) Total number of doses. For a wide variety of combinations of LD_{50} and slopes, stopping rule in paragraph (i)(3)(iii)(C) of this guideline will be satisfied with 4 to 6 animals after the test reversal. In some cases for chemicals with shallow slope dose-response curves, additional animals (up to a total of fifteen tested) may be needed.

(vi) Calculation. When the stopping criteria have been attained, the estimated LD_{50} should be calculated from the animal outcomes at test termination using the method described in paragraphs (k)(1)(i) and (k)(2)(i) of this guideline.

(vii) Humane practices. Moribund animals killed for humane reasons are considered in the same way as animals that died on test. If an animal unexpectedly dies late in the study and there are other survivors at that dose or above, it is appropriate to stop dosing and observe all animals to see if other animals will also die during a similar observation period.

If subsequent survivors also die, and it appears that all dose levels exceed the LD_{50} it would be most appropriate to start the study again beginning at least two steps below the lowest dose with deaths (and increasing the observation period) since the technique is most accurate when the starting dose is below the LD_{50}. If subsequent animals survive at or above the dose of the animal that dies, it is not necessary to change the dose progression since the information from the animal that has now died will be included into the calculations as a death at a lower dose than subsequent survivors, pulling the LD_{50} down.

(j) **Observations**. Animals are observed individually at least once during the first 30 minutes after dosing, periodically during the first 24 hours (with special attention given during the first 4 hours), and daily thereafter, for a total of 14 days, except where they need to be removed from the study and humanely killed for animal welfare reasons or are found dead. However, the duration of observation should not be fixed rigidly. It should be determined by the toxic reactions and time of onset and length of recovery period, and may thus be extended when considered necessary. The times at which signs of toxicity appear and disappear are important, especially if there is a tendency for toxic signs to be delayed (see paragraph (n)(15) of this guideline). All observations of toxic signs are systematically recorded with individual records being maintained for each animal. Additional observations will be necessary if the animals continue to display signs of toxicity.

(1) **Toxic signs**. Observations should include changes in skin and fur, eyes and mucous membranes, and also respiratory, circulatory, autonomic and central nervous systems, and somatomotor activity and behavior pattern. Attention should be directed to observations of tremors, convulsions, salivation, diarrhea, lethargy, sleep and coma. The principles and criteria summarized in the Humane Endpoints Guidance Document (see paragraph (n)(11) of this guideline) should be taken into consideration. Animals found in a moribund condition and animals showing severe pain and enduring signs of severe distress should be humanely killed. When animals are killed for humane reasons or found dead, the time of death should be recorded as precisely as possible.

(2) **Body weight**. Individual weights of animals should be determined shortly before the test substance is administered and at least weekly thereafter. Weight changes should be calculated and recorded. At the end of the test surviving animals are weighed and then humanely killed.

(3) **Pathology**. All animals (including those which die during the test or are removed from the study for animal welfare reasons) should be subjected to gross necropsy. All gross pathological changes should be recorded for each animal. Microscopic examination of organs showing evidence of gross pathology in animals surviving 24 or more hours after the

initial dosing may also be considered because it may yield useful information.

(k) **Data and reporting**—(1) **Data.** Individual animal data should be provided. Additionally, all data should be summarized in tabular form, showing for each test dose the number of animals used, the number of animals displaying signs of toxicity (see paragraph (n)(15) of this guideline), the number of animals found dead during the test or killed for humane reasons, time of death of individual animals, a description and the time course of toxic effects and reversibility, and necropsy findings. A rationale for the starting dose and the dose progression and any data used to support this choice should be provided.

(2) **Calculation of LD_{50} for the main test**—(i) **Maximum likelihood.** The LD_{50} is calculated using the maximum likelihood method, except in the exceptional cases described in paragraphs (k)(2)(ii) and (m)(3) of this guideline. The Agency-developed software program (AOT425StatPgm) available on EPA's Internet Web site at http://www.epa.gov/oppfead1/harmonized should be used to perform this calculation. The following statistical details may be helpful in implementing the maximum likelihood calculations suggested (with an assumed *sigma*). All deaths, whether immediate or delayed or humane kills, are incorporated for the purpose of the maximum likelihood analysis. Following Dixon (see paragraph (n)(5) of this guideline), the likelihood function is written as follows:

$L = L_1 L_2 \ldots . L_n$,

where

L is the likelihood of the experimental outcome, given μ and *sigma*, and n the total number of animals tested.

$L_i = 1 - F(Z_i)$ if the i^{th} animal survived, or

$L_i = F(Z_i)$ if the i^{th} animal died,

where

F = cumulative standard normal distribution,

$Z_i = [\log(d_i) - \mu\ ] / sigma$

d_i = dose given to the i^{th} animal, and

sigma = standard deviation in log units of dose (which is not the log standard deviation).

An estimate of the log of the true LD_{50} is given by the value of μ that maximizes the likelihood L (see paragraph (k)(2)(iii) of this guideline).

An estimate of *sigma* of 0.5 is used unless a better generic or case-specific value is available.

(ii) **Special circumstances**. Under some circumstances, statistical computation will not be possible or will likely give erroneous results. Special means to determine/report an estimated LD_{50} are available for these circumstances as described in the following paragraphs (k)(2)(ii)(A), (k)(2)(ii)(B), and (k)(2)(ii)(C). If none of these situations occurs, then the LD_{50} is calculated using the maximum likelihood method.

(A) If testing stopped based on the criterion in paragraph (i)(3)(iii)(C) of this guideline (i.e., a boundary dose was tested repeatedly), or if the upper bound dose ended testing, then the LD_{50} is reported to be above the upper bound.

(B) If all the dead animals have higher doses than all the live animals (or if all live animals have higher doses than all the dead animals, although this is practically unlikely), then the LD_{50} is between the doses for the live and the dead animals. These observations give no further information on the exact value of the LD_{50}. Still, a maximum likelihood LD_{50} estimate can be made provided there is a prior value for *sigma*. The LD_{50} estimate is only as good as the validity of the assumed signa. However, Case 3 as described in paragraph (m)(3)(iii) of this guideline and here is most likely to occur because the dose progression (based on the assumed signma) is too wide. The stopping criterion in paragraph (i)(3)(iii)(C) describes one such circumstance.

(C) If the live and dead animals have only one dose in common and all the other dead animals have higher doses and all the other live animals lower doses, or vice versa, then the LD_{50} equals their common dose. If a closely related substance is tested, testing should proceed with a smaller dose progression.

(iii) **Maximum likelihood calculation**. Maximum likelihood calculation should be performed using a dedicated program developed by and available from EPA (see paragraph (n)(16) of this guideline). If other computer programs are used, the laboratory should take care in handling special cases described in this guideline and the documentation of test performance available on EPA's Internet Web site at http://www.epa.gov/oppfead1/harmonized. Typical instructions for these packages are given in appendices to the ASTM Standard E 1163-87 (see paragraph (n)(9) of this guideline). (The *sigma* used in the BASIC program in (see paragraph (n)(9) of this guideline) will need to be edited to reflect the parameters of the UDP.) The program's output is an estimate of log (LD_{50}) and its standard error.

(iv) **Stopping rule**. The likelihood-ratio stopping rule in paragraph (i)(3)(iii)(C) of this guideline is based on three measures of test progress, that are of the form of the likelihood in paragraph (k)(2) of this guideline,

with different values for μ. Comparisons are made after each animal tested after the sixth that does not already satisfy the criteria in paragraph (i)(3)(iii)(A) or paragraph (i)(3)(iii)(B) guideline. The equations for the likelihood-ratio criteria are provided by following the steps in paragraph (m)(2)(vii) of this guideline. These comparisons are most readily performed in an automated manner and can be executed repeatedly, for instance, by a spreadsheet routine such as that also provided in paragraph (m)(2)(vii) of this guideline. If the criterion is met, testing stops and the LD_{50} can be calculated by the maximum likelihood method.

(3) **Computation of CI**. (i) Following the main test and estimated LD_{50} calculation, it may be possible to compute interval estimates for the LD_{50}. The Agency-developed software program AOT425StatPgm will perform the calculations. Any of these CIs provides valuable information on the reliability and utility of the main test that was conducted. A wide CI indicates that there is more uncertainty associated with the estimated LD_{50}. In this case, the reliability of the estimated LD_{50} is low and the usefulness of the estimated LD_{50} may be marginal. A narrow interval indicates that there is relatively little uncertainty associated with the estimated LD_{50}. In this case, the reliability of the estimated LD_{50} is high and the usefulness of the estimated LD_{50} is good. This means that if the main test were to be repeated, the new estimated LD_{50} is expected to be close to the original estimated LD_{50} and both of these estimates are expected to be close to the true LD_{50}.

(ii) Depending on the outcome of the main test, one of two different types of interval estimates of the true LD_{50} is calculated:

(A) When at least three different doses have been tested and the middle dose has at least one animal that survived and one animal that died, a profile-likelihood-based computational procedure is used to obtain a CI that is expected to contain the true LD_{50} 95% of the time. However, because small numbers of animals are expected to be used, the actual level of confidence is generally not exact (see paragraph (n)(19) of this guideline). The random stopping rule improves the ability of the test overall to respond to varying underlying conditions, but also causes the reported level of confidence and the actual level of confidence to differ somewhat (see paragraph (n)(18) of this guideline).

(B) If all animals survive at or below a given dose level and all animals die when dosed at the next higher dose level, an interval is calculated that has as its lower limit the highest dose tested where all the animals survive and has as its upper limit the dose level where all the animals died. This interval is labeled as "approximate." The exact confidence level associated with this interval cannot be specifically determined. However, because this type of response would only occur when the dose-response is steep, in most cases, the true LD_{50} is expected to be contained

within the calculated interval or be very close to it. This interval will be relatively narrow and sufficiently accurate for most practical use.

(iii) In some instances, CIs are reported as infinite, through including either zero at the lower end or infinity at the upper end, or both. Such intervals may occur, for example, when the response profile is relatively flat or relatively uncertain.

(iv) Implementing this set of procedures requires specialized computation which is either by use of a dedicated program to be available through the Environmental Protection Agency (EPA) or OECD or developed following technical details available from the EPA or OECD. Achieved coverage of these intervals and properties of the dedicated program are described in a report (see paragraph (n)(16) of this guideline) also available through the EPA. Paragraph (m)(3) of this guideline provides information on choice of dose progression and initial dose level for the UDP and describes test performance under a variety of circumstances.

(l) **Test reporting**. The test report must include the following information:

(1) Test substance:

(i) Physical nature, purity and physicochemical properties (including isomerization);

(ii) Identification data.

(2) Vehicle (if appropriate): Justification for choice of vehicle, if other than water.

(3) Test animals:

(i) Species/strain used;

(ii) Microbiological status of the animals, when known;

(iii) Number, age and sex of animals;

(iv) Rationale for use of males instead of females;

(v) Source, housing conditions, diet, etc.;

(vi) Individual weights of animals at the start of the test, at day 7, and at day 14.

(4) Test conditions:

(i) Rationale for initial dose level selection, dose progression factor and for follow-up dose levels;

(ii) Details of test substance formulation;

(iii) Details of the administration of the test substance;

(iv) Details of food and water quality (including diet type/source, water source).

(5) Results:

(i) Body weight/body weight changes;

(ii) Tabulation of response data by sex (if both sexes are used) and dose level for each animal (i.e., animals showing signs of toxicity including nature, severity, duration of effects, and mortality);

(iii) Time course of onset of signs of toxicity and whether these were reversible for each animal;

(iv) Necropsy findings and any histopathological findings for each animal, if available;

(v) LD_{50} and CI (which the AOT425StatPgm software package uses);

(vi) Statistical treatment of results (description of computer routine used and spreadsheet tabulation of calculations). If other than Agency-supplied software is used, give explanation of now the program was verified against Agency software.

(6) Discussion and interpretation of results.

(7) Conclusions.

(m) **Additional guidance for toxicologists**—(1) **Dosing procedure—dose sequence for main test**. (i) Up-and-down dosing procedure. For each run, animals are dosed, one at a time, usually at 48-hour intervals. The first animal receives a dose a step below the level of the best estimate of the LD_{50}. This selection reflects an adjustment for a tendency to bias away from the LD_{50} in the direction of the initial starting dose in the final estimate (see paragraph (e)(2)(ii) of the guideline). The overall pattern of outcomes is expected to stabilize as dosing is adjusted for each subsequent animal. Paragraph (m)(1)(iii) of this guideline provides further guidance for choice of dose spacing factor.

(ii) Default dose progression. Once the starting dose and dose spacing are decided, the toxicologist should list all possible doses including the upper bound (usually 2000 or 5000 mg/kg). Doses that are close to the upper bound should be removed from the progression. The stepped nature of the UDP design provides for the first few doses to function as a self-adjusting sequence. Because of the tendency for positive bias, in the event that nothing is known about the substance, a starting dose of 175 mg/kg is recommended. If the default procedure is to be used for the main test, dosing will be initiated at 175 mg/kg and doses will be spaced by a factor of 0.5 on a log dose scale. The doses to be used include 1.75,

5.5, 17.5, 55, 175, 550, 2000 or, for specific regulatory needs, 1.75, 5.5, 17.5, 55, 175, 550, 1750, 5000. For certain highly toxic substances, the dosing sequence may need to be extended to lower values.

(iii) In the event a dose progression factor other than the default is deemed suitable, the following Table 1 provides dose progressions for whole number multiples of slope, from 1 to 8. (See paragraph (m)(3) of this guideline for discussion of influence of dose progression on test performance.)

Table 1.—Dose Progressions for UDP

(Choose a Slope and Read Down the Column. All doses in mg/kg body weight)

Slope =	1	2	3	4	5	6	7	8
	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*	0.175*
							0.243*	0.233*
					0.28	0.26		
				0.31			0.34	0.31
			0.38			0.38		
								0.41
					0.44		0.47	
		0.55		.55		0.55		0.55
				0.70		0.65		
							0.74	
			.81			.81		
				0.98			0.91	0.98
					110	1.19		
							1.26	1.31
	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75
							2.43	2.33
					2.8	2.6		
				3.1			3.4	3.1
			3.8			3.8		
					4.4			4.1
							4.7	
		5.5		5.5	5.5		5.5	
					7.0		6.5	
								7.4
			8.1			8.1		
				9.8			9.1	9.8
					11.0	11.9		
							12.6	13.1
	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5	17.5
							24.3	23.3
					28	26		
				31			34	31
			38			38		
					44			41
							47	
		55		55		55		55
							65	
					70			74
			81			81		
				98			91	98
					110	119		
							126	131
	175	175	175	175	175	175	175	175
							243	233
					280	260		
				310			340	310
			380			380		
					440			410
							470	
		550		550		550		550
							650	
					700			740
			810			810		
				980			910	980
					1100	1190		
							1260	1310
	1750	1750	1750	1750	1750	1750	1750	1750
							2430	2330
					2800	2600		
				3100				3100
						3800	3400	
								4100
	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000	5000

* If lower doses are needed, continue progressions to a lower dose

(2) **Computations for the likelihood-ratio stopping rules.** (i) As described in paragraph (i)(3)(iii) of this guideline, the main test may be completed on the basis of the first of three stopping criteria to occur. In any case, even if none of the stopping criteria is satisfied, dosing would stop when 15 animals are dosed. Tables 2, 4, and 6 in paragraphs (m)(2)(ii), (m)(2)(iii), and (m)(2)(iv), respectively, of this guideline illustrate examples where testing has started with no information, so the rec-

ommended default starting value, 175 mg/kg, and the recommended default dose progression factor, 3.2 or one half log, have been used. Tables 3, 5, and 7 in paragraphs (m)(2)(ii), (m)(2)(iii), and (m)(2)(iv), respectively, illustrate how Tables 2, 4, and 6, respectively, would appear in the dedicated program referenced in paragraph (k)(3)(iv) (see also paragraph (n)(16)).

(ii) The following Tables 2 and 3 show how the main test would stop if 3 animals have survived at the limit dose of 5000 mg/kg. (This example illustrates situations where a limit test was not thought appropriate *a priori*).

Table 2. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(A) using 5000 mg/kg.

Stop after animal #6 because 3 animals survive at limit of 5000 mg/kg (#4-#6).

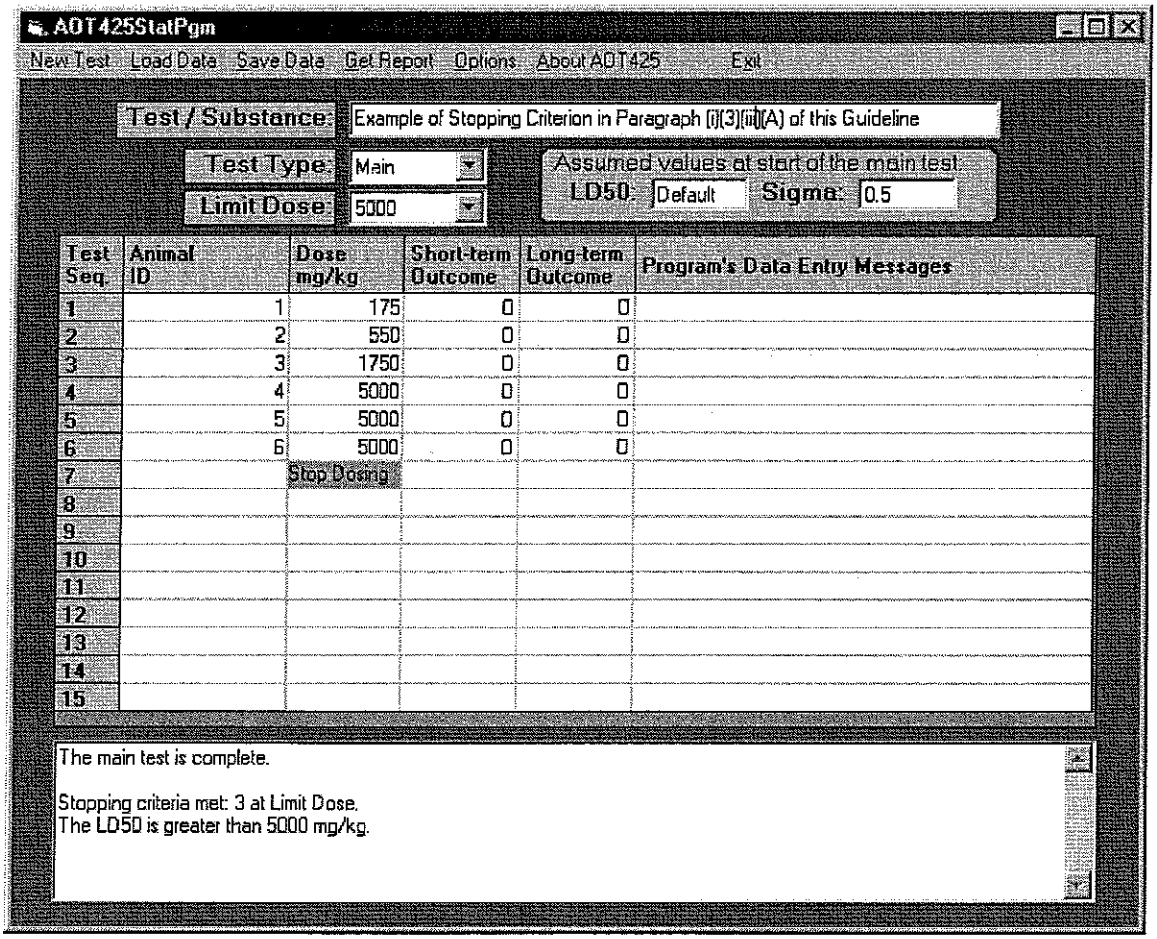
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	#DIV/0! likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	O	no	2.2430	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
2	I	550	O	no	2.7404	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
3	I	1750	O	no	3.2430	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
4	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
5	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
6	I	5000	O	no	3.6990	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!
7	E				-						
8	E				-						
9	E				-	-	-	-	-	-	-
10	E				-	-	-	-	-	-	-
11	E				-	-	-	-	-	-	-
12	E				-				-	-	-
13	E				-				-	-	-
14	E				-				-	-	-
15	E				-	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				0							
Actual number tested =				6							

Ignore all calculation cells. No reversal in direction of response.

Maximum Likelihood Calculations cannot be completed. LD50 is greater than 5000 mg/kg.

Calculated maximum likelihood estimate of LD50 = none

Table 3. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(A) of this Guideline Using 5000 mg/kg



(iii) The following Tables 4 and 5 show how a particular sequence of 5 reversals in 6 tested animals could occur and allow test completion.

Table 4. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(B).

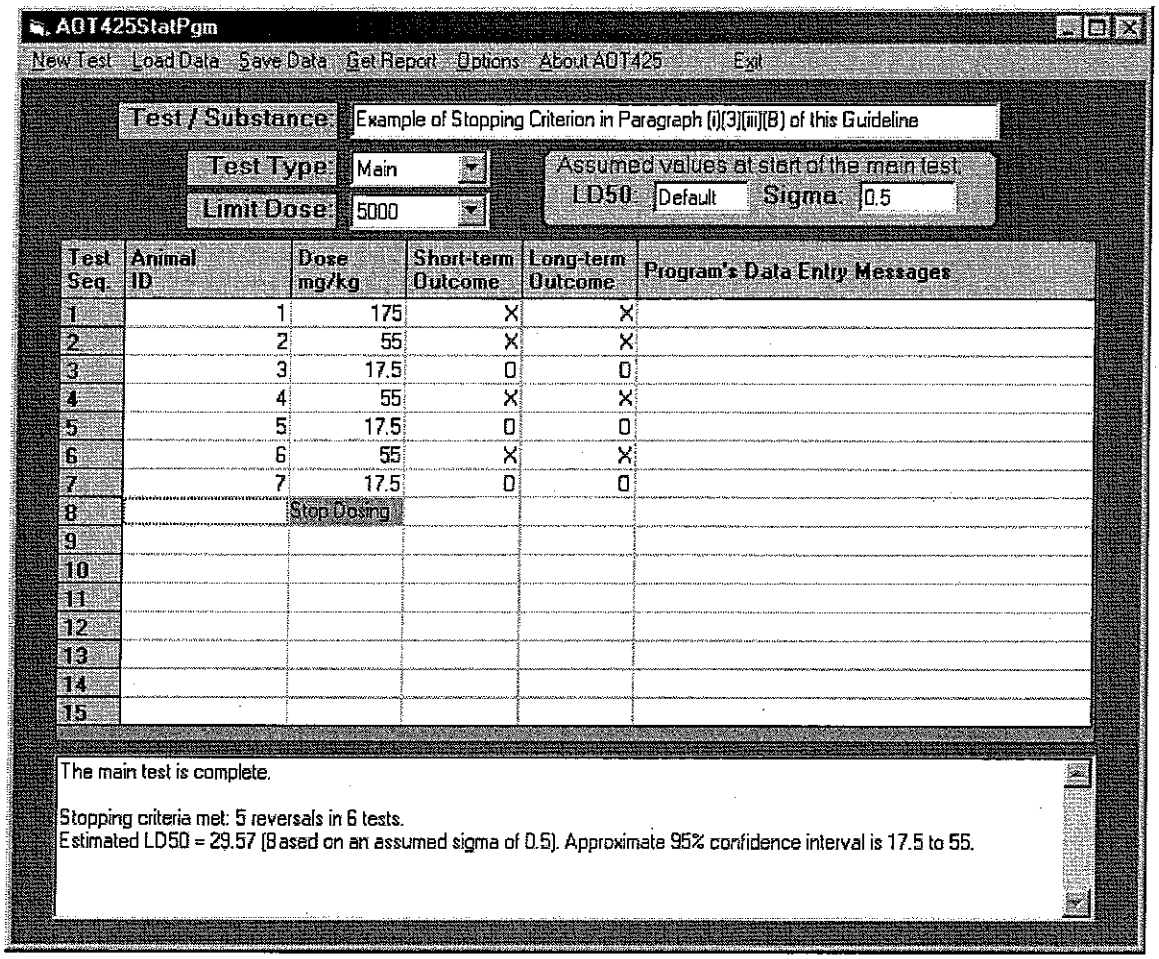
Stop after animal #7 because 5 reversals in 6 consecutive animals tested (#2-#7).

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	LD50 = Prob. of response	31.0 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	12.4 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	77.6 likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	X	no	2.2430	0.9335	-0.0688	0.9892	-0.0108	0.7602	-0.2742
2	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
3	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
4	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
5	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
6	I	55	X	yes	1.7404	0.6905	-0.3703	0.9020	-0.1031	0.3826	-0.9607
7	I	17.5	O	yes	1.2430	0.3095	-0.3703	0.6174	-0.9607	0.0980	-0.1031
8	E				-	-	-	-	-	-	-
9	E				-	-	-	-	-	-	-
10	E				-	-	-	-	-	-	-
11	E				-	-	-	-	-	-	-
12	E				-	-	-	-	-	-	-
13	E				-	-	-	-	-	-	-
14	E				-	-	-	-	-	-	-
15	E				-	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				6							
Actual number tested =				7							
Dose-averaging estimator log10 =				31.02 1.492							
log-likelihood sums:							-2.2906		-3.2021		-3.4655
likelihoods:							0.1012		0.0407		0.0313
likelihood ratios:									2.4880		3.2378
Individual ratios exceed critical value?				critical=	2.5				FALSE		TRUE
Both ratios exceed critical value?									FALSE		
Calculated maximum likelihood estimate of LD50 =					29.6						

Automated calculation; not relevant to this case.

Final estimate obtained from Maximum Likelihood Calculations

Table 5. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(B) of this Guideline.



(iv) Finally, the following Tables 6 and 7 illustrate a situation several animals into a test, where neither the criterion in paragraph (i)(3)(iii)(A) nor the criterion in paragraph (i)(3)(iii)(B) of this guideline has been met, a reversal of response has occurred followed by 4 tested animals, and, consequently, the criterion in paragraph (i)(3)(iii)(C) of this guideline must be evaluated as well.

Table 6. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(C).

Stop when LR criterion is first met, here at animal #9.
Check LR criterion starting at animal #6.

Assumed slope	2	sigma =	0.5

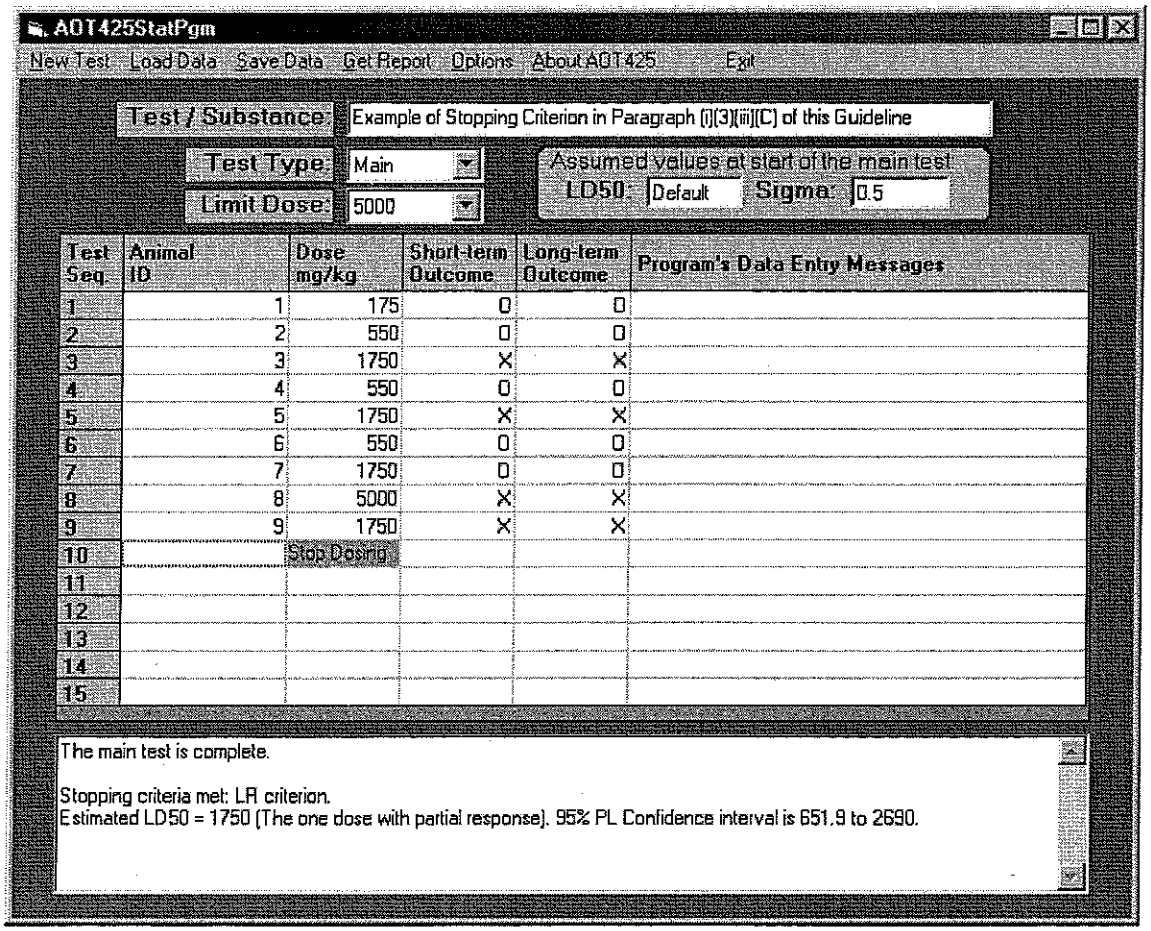
Parameters of convergence criterion	
critical LR	2.5
factor of LD50	2.5

Result: The LR criterion is met

1	2	3	4	5	6		7	8	9	10	11	12
Step	(I)nclude; (E)xclude	Dose	(X)response (O)non-resp. OK	Included in nominal *n*	log10 Dose	Contrib.to DAE	LD50 = Prob. of response	1292.8 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	517.1 likelihood contribn. (ln *Li*)	LD50 = Prob. of response	3232.0 likelihood contribn. (ln *Li*)
1	I	175	O	no	2.2430	0.0000	0.0412	-0.0421	0.1733	-0.1903	0.0057	-0.0057
2	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
3	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
4	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
5	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
6	I	550	O	yes	2.7404	2.7404	0.2289	-0.2600	0.5214	-0.7368	0.0620	-0.0640
7	I	1750	O	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.9257	0.8552	-1.9323	0.2971	-0.3525
8	I	5000	X	yes	3.6990	3.6990	0.8800	-0.1279	0.9756	-0.0247	0.6477	-0.4344
9	I	1750	X	yes	3.2430	3.2430	0.6037	-0.5046	0.8552	-0.1564	0.2971	-1.2138
10	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
11	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
12	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
13	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
14	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
15	E				-	0.0000	-	-	-	-	-	-
Nominal Sample size =				8								
Actual number tested =				9								
Dose-averaging estimator				1292.78								
log10 =				3.112								
log-likelihood sums:								-3.3894		-4.8270		-4.6260
likelihoods:								0.0337		0.0080		0.0098
likelihood ratios:										4.2104		3.4436
Individual ratios exceed critical value?				critical=	2.5					TRUE		TRUE
Both ratios exceed critical value?										TRUE		
Calculated maximum likelihood estimate of LD50 =						1329.6						

Final estimate obtained from Maximum Likelihood Calculations

Table 7. Example of Stopping Criterion in Paragraph (i)(3)(iii)(C) of this Guideline.



(v) Criterion in paragraph (i)(3)(iii)(C) of this guideline calls for a likelihood-ratio stopping rule to be evaluated after testing each animal, starting with the fourth tested following the reversal. Three ''measures of test progress'' are calculated. Technically, these measures of progress are likelihoods, as recommended for the maximum-likelihood estimation of the LD_{50}. The procedure is closely related to calculation of a CI by a likelihood-based procedure.

(vi) The basis of the procedure is that when enough data have been collected, a point estimate of the LD_{50} should be more strongly supported than values above and below the point estimate, where statistical support is quantified using likelihood. Therefore three likelihood values are calculated: A likelihood at an LD_{50} point estimate (called the rough estimate or dose-averaging estimate in the example), a likelihood at a value below the point estimate, and a likelihood at a value above the point estimate. Specifically, the low value is taken to be the point estimate divided by 2.5 and the high value is taken to be the point estimate multiplied by 2.5.

(vii) The likelihood values are compared by calculating ratios of likelihoods, and then determining whether these likelihood-ratios (LR) exceed a critical value. Testing stops when the ratio of the likelihood for the point estimate exceeds each of the other likelihoods by a factor of 2.5, which is taken to indicate relatively strong statistical support for the point estimate. Therefore two likelihood-ratios (LRs) are calculated, a ratio of likelihoods for the point estimate and the point estimate divided by 2.5, and a ratio for the point estimate and the estimate times 2.5.

(viii) The calculations are easily performed in any spreadsheet with normal probability functions. The calculations are illustrated in Tables 6 and 7 in paragraph (m)(2)(iv) of this guideline, which is structured to promote spreadsheet implementation. The computation steps are illustrated using an example where the upper limit dose is 5000 mg/kg.

(A) Hypothetical example (Tables 6 and 7 in paragraph (m)(2)(iv) of this guideline). In the hypothetical example utilizing an upper boundary dose of 5000 mg/kg, the LR stopping criterion was met after nine animals had been tested. The first ''reversal'' occurred with the 3rd animal tested. The LR stopping criterion is checked when four animals have been tested following the reversal. In this example, the fourth animal tested following the reversal is the seventh animal actually tested. Therefore, for this example, the spreadsheet calculations are only needed after the seventh animal had been tested and the data could be entered at that time. Subsequently, the LR stopping criterion would have been checked after testing the seventh animal, the eighth animal, and the ninth. The LR stopping criterion is first satisfied after the ninth animal is tested in this example.

(*1*) Enter the dose-response information animal by animal.

(*i*) Column 1. Steps are numbered 1–15. No more than 15 animals may be tested.

(*ii*) Column 2. Place an I in this column as each animal is tested.

(*iii*) Column 3. Enter the dose received by the i^{th} animal.

(*iv*) Column 4. Indicate whether the animal responded (shown by an X) or did not respond (shown by an O).

(*2*) The nominal and actual sample sizes. The nominal sample consists of the two animals that represent the first reversal (here the second and third animals), plus all animals tested subsequently. Here, Column 5 indicates whether or not a given animal is included in the nominal sample.

(*i*) The nominal sample size (nominal *n*) appears in Row 16. This is the number of animals in the nominal sample. In the example, nominal *n* is 8.

(*ii*) The actual number tested appears in Row 17.

(*3*) Rough estimate of the LD_{50}. The geometric mean of doses for the animals in the current nominal sample is used as a rough estimate of the LD_{50} from which to gauge progress. In the table, this is called the ''dose-averaging estimator.'' It is updated with each animal tested. This average is restricted to the nominal sample in order to allow for a poor choice of initial test dose, which could generate either an initial string of responses or an initial string of nonresponses. (However, the results for all animals are used in the likelihood calculations for final LD_{50} calculation below.) Recall that the geometric mean of *n* numbers is the product of the *n* numbers, raised to a power of $1/n$.

(*i*) The dose-averaging estimate appears in Row 18 (e.g., $(175 * 550 * ... * 1750)^{1/8} = 1292.78$).

(*ii*) Row 19 shows the logarithm (base 10) of the value in Row 18 (e.g., $\log_{10} 1292.8 = 3.112$).

(*4*) Likelihood for the rough LD_{50} estimate.

(*i*) ''Likelihood'' is a statistical measure of how strongly the data support an estimate of the LD_{50} or other parameter. Ratios of likelihood values can be used to compare how well the data support different estimates of the LD_{50}.

(*ii*) In Column 8 calculate the likelihood for Step C's rough LD_{50} estimate. The likelihood (Row 21) is the product of likelihood contributions for individual animals (see paragraph (k)(2) of this guideline). The likelihood contribution for the i^{th} animal is denoted L_i.

(*iii*) Column 7. Enter the estimate of the probability of response at dose d_i, denoted P_i. P_i is calculated from a dose-response curve. Note that the parameters of a probit dose-response curve are the slope and the LD_{50}, so values are needed for each of those parameters. For the LD_{50} the dose-averaging estimate from Row 18 is used. For the slope in this example the default value of 2 is used. The following steps may be used to calculate the response probability P_i.

1. Calculate the base-10 log of dose d_i (Column 6).

2. For each animal calculate the z-score, denoted Z_i (not shown in the table), using the formulae

$sigma = 1 / slope$,

$Z_i = (\log_{10}(d_i) - \log_{10}(LD_{50})) / sigma$

For example, for the first animal (Row 1),

$sigma = 1 / 2$

$Z_1 = (2.243 - 3.112) / 0.500 = -1.738$

3. For the i^{th} dose the estimated response probability is

$P_i = F(Z_i)$

where F denotes the cumulative distribution function for the standard normal distribution (i.e., the normal distribution with mean 0 and variance 1).

For example (Row 1),

$P_1 = F(-1.738) = 0.0412$

The function F (or something very close) is ordinarily what is given for the normal distribution in statistical tables, but the function is also widely available as a spreadsheet function. It is available under different names, for example the @NORMAL function of Lotus 1-2-3 (see paragraph (n)(19) of this guideline) and the @NORMDIST function in Excel (see paragraph (n)(20) of this guideline). To confirm that you have used correctly the function available in your software, you may wish to verify familiar values such as $F(1.96) \approx 0.975$ or $F(1.64) \approx 0.95$.

(*iv*) Column 8. Calculate the natural log of the likelihood contribution ($\ln(L_i)$). L_i is simply the probability of the response that actually was observed for the i^{th} animal:

Responding animals: $\ln(L_i) = \ln(P_i)$

Non-responding animals: $\ln(L_i) = \ln(1 - P_i)$

Note that here the natural logarithm (ln) is used, whereas elsewhere the base-10 (common) logarithm was used. These choices are what are ordinarily expected in a given context.

The steps above are performed for each animal. Finally:

Row 20: Sum the log-likelihood contributions in Column 8.

Row 21: Calculate the likelihood by applying the exp function applied to the log-likelihood value in Row 20 (e.g., exp(-3.389) = $e^{-3.389}$ = 0.0337).

(*5*) Calculate likelihoods for two dose values above and below the rough estimate. If the data permit a precise estimate, then one expects the likelihood should be high if the estimate is a reasonable estimate of the LD_{50}, relative to likelihoods for values distant from this estimate. Compare the likelihood for the dose-averaging estimate (1292.8, Row 18) to values differing by a factor of 2.5 from that value (i.e., to 1292.8*2.5 and 1292.8/2.5). The calculations (displayed in Columns 9–12) are carried out in a fashion similar to those described above, except that the values 517.1 (=1292.8/2.5) and 3232.0 (=1292.8*2.5) have been used for the LD_{50}, instead of 1292.8. The likelihoods and log-likelihoods are displayed in Rows 20–21.

(*6*) Calculate likelihood-ratios. The three likelihood values (Row 21) are used to calculate two likelihood-ratios (Row 22). A likelihood-ratio is used to compare the statistical support for the estimate of 1292.8 to the support for each of the other values, 517.1 and 3232.0. The two likelihood-ratios are therefore:

LR1 = [likelihood of 1292.8] / [likelihood of 517.1]

= 0.0337 / 0.0080

= 4.21

and

LR2 = [likelihood of 1292.8] / [likelihood of 3232.0]

= 0.0337 / 0.0098

= 3.44

(*7*) Determine if the likelihood-ratios exceed the critical value. High likelihood-ratios are taken to indicate relatively high support for the point estimate of the LD_{50}. Both of the likelihood-ratios calculated in paragraph (m)(2)(viii)(A)(*6*) of this guideline (4.21 and 3.44) exceed the critical likelihood-ratio, which is 2.5. Therefore the LR stopping criterion is satisfied and testing stops. This is indicated by a TRUE in Row 24 and a note at the top of the example spreadsheet that the LR criterion is met. Determination of the point estimate and CI is carried out separately.

(B) [Reserved]

(3) **Performance of the UDP.** This section addresses choice of dose progression and initial dose level for the UDP and describes the performance of the test under a variety of circumstances. A companion document titled ''Toxicology Summary: Performance of the Up-and-Down Procedure'' provides assistance to the user in interpretation of the test results and is available on the ICCVAM web site at http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/udpdocs/udprpt/udp_ciprop.htm. The statistical methods applied will depend upon the case into which the test response patterns fall (see Table 8 in paragraph (m)(3)(iii) of this guideline.

(i) Adjusting the dose progression and initial dose. For optimum performance of the UDP, the dose progression used should be based on an accurate prior estimate of *sigma*. The following two cases describe the outcome when an accurate estimate of *sigma* is not available. In addition, to account conservatively for any bias in the LD_{50} estimate, it is essential that dosing be initiated below the actual LD_{50}.

(A) Assumed *sigma* << true *sigma*: When the assumed *sigma* (i.e., the *sigma* on which the dose progression is based) is much smaller than the true *sigma* of the actual test population, the estimated LD_{50} may be ''biased'' in the direction of starting dose. For example, if the starting dose is less than the true LD_{50} of the test population, the estimated LD_{50} will generally be below the true LD_{50}. Also, if the starting dose is greater than the true LD_{50} of the test population, the estimated LD_{50} will tend to be greater than the true LD_{50}. To minimize the chance of overestimating the LD_{50} due to this bias, the UDP guideline recommends a choice of starting dose just below the assumed LD_{50}.

(B) Assumed *sigma* >> true *sigma*: If the assumed sigma on which the dose progression is based is much larger than the true *sigma* of the test population, the median estimated LD_{50} can be much larger or much smaller than the true LD_{50} depending on the starting dose. In this case, the LD_{50} can be estimated only within a range. (This is Case 3 described below.)

(ii) CI. Coverage of the CI is the probability that a calculated CI encloses the true LD_{50} for an experimental sample. Because the profile likelihood method is approximate, coverage of the CI does not always correspond to its nominal value. For example, coverage falls below 95% for populations with shallow slopes and is better than 95% for populations with steep slopes. In addition, the width of the CI is limited by the dose progression chosen. Generally, no type of CI would be more narrow than the dose progression.

(iii) Response Patterns. Data gathered under the UDP fall into one of five animal response patterns. The five types of animal response patterns, referred to as Case 1 through Case 5 in the following Table 8, can

be distinguished for the purpose of describing the performance of the UDP. These cases can be distinguished by looking at the experimental outcome (survival or death) as reflected in the AOT425StatPgm Data Grid or Report windows (see paragraph (n)(18) of this guideline). In considering these cases, note that doses can be repeated more than once in the course of sequential dosing.

Table 8.—Outcomes of the UDP: Cases and Confidence Intervals

Case #	Definition of Case	Approach Proposed	Possible Findings
1	No positive dose-response association. (1a) All animals tested in the study responded, or (1b) none responded, or (1c) the geometric mean dose is lower for animals that responded than for animals that did not respond.	LD_{50} cannot be calculated. CI not applicable.	Possible inferences: (1a) LD_{50} < lowest dose; (1b) LD_{50} > highest dose; (1c) reverse dose-response curve; unlikely test outcome. In case 1b, the highest dose tested is equivalent to a limit dose.
2	Multiple partial responses. One or more animals responded at a dose below some other dose where one or more did not respond. The conditions defining Case 1 do not hold. (The definition of Case 2 holds if there are 2 doses with partial responses, but holds in some other cases as well.)	Maximum likelihood estimate and profile likelihood computations of CI are straightforward.	The LD_{50} can be estimated and its CI calculated.
3	No intermediate response fractions. One or more test doses is associated with 0% response and one or more is associated with 100% response (all of the latter being greater than all of the former), and no test doses are associated with a partial response.	Lower bound = highest test dose with 0% response. Upper bound = lowest test dose with 100% response.	High confidence that the true LD_{50} falls between the two bounding doses. Any value of LD_{50} between highest dose with 0% response and lowest dose with 100% response is equally plausible.
4	One partial response fraction, first subcase. An intermediate partial response is observed at a single test dose. That dose is greater than doses associated with 0% response and lower than doses associated with 100% response.	The LD_{50} is set at the single dose showing partial response and its CI is calculated using profile likelihood method.	The LD_{50} can be estimated and its CI calculated.
5	One partial response fraction, second subcase. There is a single dose associated with partial response, which is either the highest test dose (with no responses at all other test doses) or the lowest test dose (with 100% response at all other test doses).	The LD_{50} is set at the dose with the partial response. A profile likelihood CI is calculated and may be finite or infinite.	The true LD_{50} could be at the boundary of the testing range with more or less confidence.

(n) References. The following references should be consulted for additional background material on this test guideline.

(1) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals. Guideline 425: Acute Oral Toxicity—Up-and-Down Procedure. Adopted: December 2001.

(2) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals. Guideline 420: Acute Oral Toxicity—Fixed Dose Method. Adopted: December 2001.

(3) Organization for Economic Cooperation and Development. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals. Guideline 423: Acute Oral Toxcity—Acute Toxic Class Method. Adopted: December 2001.

(4) Dixon, W.J. and A.M. Mood. (1948). A Method for Obtaining and Analyzing Sensitivity Data. J. Amer. Statist. Assoc., 43, 109–126.

(5) Dixon, W.J. (1965). The Up-and-Down Method for Small Samples. J. Amer. Statist. Assoc. 60, 967–978.

(6) Dixon, W.J. (1991). Staircase Bioassay: The Up-and-Down Method. Neurosci. Biobehav. Rev., 15, 47–50.

(7) Dixon, W.J. (1991). Design and Analysis of Quantal Dose-Response Experiments (with Emphasis on Staircase Designs). Dixon Statistical Associates, Los Angeles CA, USA.

(8) Bruce, R.D. (1985). An Up-and-Down Procedure for Acute Toxicity Testing. Fundam. Appl. Tox., 5, 151–157.

(9) ASTM (1987). E 1163–87, Standard Test Method for Estimating Acute Oral Toxicity in Rats. American Society for Testing and Materials, Philadelphia Pa, USA.

(10) Lipnick, R.L., J.A. Cotruvo, R.N. Hill, R.D. Bruce, K.A. Stitzel, A.P. Walker, I. Chu, M. Goddard, L. Segal, J.A. Springer, and R.C. Myers. (1995). Comparison of the Up-and-Down, Conventional LD_{50} and Fixed Dose Acute Toxicity Procedures. Fd. Chem. Toxicol., 33, 223–231.

(11) Organization for Economic Cooperation and Development. (2000). Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No. 19.

(12) Report of the International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity. NIH Publication No. 01-4499. Research Triangle Park, NC: National Institute of Environmental Health Sciences, August 2001.

(13) Guidance Document on Using *In Vitro* Data to Estimate *In Vivo* Starting Doses for Acute Toxicity. NIH Publication No. 01-4500. Research Triangle Park, NC: National Institute of Environmental Health Sciences, August 2001.

(14) Spielmann, H.E., M.Genschow, M. Leibsch, and W. Halle. (1999). Determination of the Starting Dose for Acute Oral Toxicity (LD_{50}) Testing in the Up-and-Down Procedure (UDP) from Cytotoxicity Data ATLA 27: 957–966.

(15) Chan, P.K. and A.W. Hayes. (1994). Chap. 16. Acute Toxicity and Eye Irritancy. *Principles and Methods of Toxicology*. Third Edition. A.W. Hayes, Editor. Raven Press, Ltd., New York, USA.

(16) Westat. (2001). Acute Oral Toxicity Software Program; AOT 425StatPgm; AOT425StatPgm Program User's Manual; and Simulation Results for the AOT425StatPgm Program. Reports prepared for U.S.

E.P.A. under Contract 68–W7–0025, Task Order 5-03. Currently available at web site: http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/udpdocs/udprpt/udp_ciprop.htm

(17) Rosenberger, W.F., Flournoy, N. and Durham, S.D. (1997). Asymptotic Normality of Maximum Likelihood Estimators from Multiparameter Response-driven Designs. Journal of Statistical Planning and Inference 60, 69–76.

(18) Jennison, C. and B.W. Turnbull. (2000). *Group Sequential Methods with Applications to Clinical Trials*. Chapman & Hall/CRC: Boca Raton, FL.

(19) Lotus Development Corporation. (1999). Lotus® 1-2-3. Version 9.5, Millennium edition. Cambridge, MA, USA.

(20) Microsoft Corporation. (1985–1997). Microsoft® Excel. Version 5.0 or later. Seattle, WA, USA.

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix M3

OECD ATC Method Test Guideline

[This Page Intentionally Left Blank]

OECD/OCDE **423**

Adopted:
17th December 2001

OECD GUIDELINE FOR TESTING OF CHEMICALS

Acute Oral Toxicity – Acute Toxic Class Method

INTRODUCTION

1. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals are periodically reviewed in the light of scientific progress or changing assessment practices. The original Guideline 423 was adopted in March 1996 as the second alternative to the conventional acute toxicity test, described in Test Guideline 401. Based on the recommendations of several expert meetings, revision was considered timely because: i) international agreement has been reached on harmonised LD50 cut-off values for the classification of chemical substances, which differ from the cut-offs recommended in the 1996 version of the Guideline, and ii) testing in one sex (usually females) is now considered sufficient.

2. The acute toxic class method (1) set out in this Guideline is a stepwise procedure with the use of 3 animals of a single sex per step. Depending on the mortality and/or the moribund status of the animals, on average 2-4 steps may be necessary to allow judgement on the acute toxicity of the test substance. This procedure is reproducible, uses very few animals and is able to rank substances in a similar manner to the other acute toxicity testing methods (Test Guidelines 420 and 425). The acute toxic class method is based on biometric evaluations (2)(3)(4)(5) with fixed doses, adequately separated to enable a substance to be ranked for classification purposes and hazard assessment. The method as adopted in 1996 was extensively validated *in vivo* against LD50 data obtained from the literature, both nationally (6) and internationally (7).

3. Guidance on the selection of the most appropriate test method for a given purpose can be found in the Guidance Document on Acute Oral Toxicity Testing (8). This Guidance Document also contains additional information on the conduct and interpretation of Test Guideline 423.

4. Definitions used in the context of this Guideline are set out in Annex 1.

INITIAL CONSIDERATIONS

5. Test substances, at doses that are known to cause marked pain and distress due to corrosive or severely irritant actions, need not be administered. Moribund animals, or animals obviously in pain or showing signs of severe and enduring distress shall be humanely killed, and are considered in the interpretation of the test results in the same way as animals that died on test. Criteria for making the decision to kill moribund or severely suffering animals, and guidance on the recognition of predictable or impending death, are the subject of a separate Guidance Document (9).

6. The method uses pre-defined doses and the results allow a substance to be ranked and classified according to the Globally Harmonised System for the classification of chemicals which cause acute toxicity (10).

7. In principle, the method is not intended to allow the calculation of a precise LD_{50}, but does allow for the determination of defined exposure ranges where lethality is expected since death of a proportion of the animals is still the major endpoint of this test. The method allows for the determination of an LD50 value only when at least two doses result in mortality higher than 0% and lower than 100%. The use of a selection of pre-defined doses, regardless of test substance, with classification explicitly tied to number of animals observed in different states improves the opportunity for laboratory to laboratory reporting consistency and repeatability.

8. The testing laboratory should consider all available information on the test substance prior to conducting the study. Such information will include the identity and chemical structure of the substance; its physico-chemical properties; the result of any other *in vivo* or *in vitro* toxicity tests on the substance; toxicological data on the structurally related substances; and the anticipated use(s) of the substance. This information is necessary to satisfy all concerned that the test is relevant for the protection of human health and will help in the selection of the most appropriate starting dose.

PRINCIPLE OF THE TEST

9. It is the principle of the test that, based on a stepwise procedure with the use of a minimum number of animals per step, sufficient information is obtained on the acute toxicity of the test substance to enable its classification. The substance is administered orally to a group of experimental animals at one of the defined doses. The substance is tested using a stepwise procedure, each step using three animals of a single sex (normally females). Absence or presence of compound-related mortality of the animals dosed at one step will determine the next step, i.e.;

- no further testing is needed,
- dosing of three additional animals, with the same dose
- dosing of three additional animals at the next higher or the next lower dose level.

10. Details of the test procedure are described in Annex 2. The method will enable a judgement with respect to classifying the test substance to one of a series of toxicity classes defined by fixed LD50 cut-off values.

DESCRIPTION OF THE METHOD

Selection of animal species

11. The preferred rodent species is the rat, although other rodent species may be used. Normally females are used (9). This is because literature surveys of conventional LD50 tests show that, although there is little difference in sensitivity between the sexes, in those cases where differences are observed females are generally slightly more sensitive (11). However if knowledge of the toxicological or toxicokinetic properties of structurally related chemicals indicates that males are likely to be more sensitive, then this sex should be used. When the test is conducted in males adequate justification should be provided.

12. Healthy young adult animals of commonly used laboratory strains should be employed. Females should be nulliparous and non-pregnant. Each animal, at the commencement of its dosing, should be between 8 and 12 weeks old and its weight should fall in an interval within $\pm$ 20 % of the mean weight of any previously dosed animals.

Housing and feeding conditions

13. The temperature in the experimental animal room should be 22°C (± 3°C). Although the relative humidity should be at least 30% and preferably not exceed 70% other than during room cleaning the aim should be 50-60%. Lighting should be artificial, the sequence being 12 hours light, 12 hours dark. For feeding, conventional laboratory diets may be used with an unlimited supply of drinking water. Animals may be group-caged by dose, but the number of animals per cage must not interfere with clear observations of each animal.

Preparation of animals

14. The animals are randomly selected, marked to permit individual identification, and kept in their cages for at least 5 days prior to dosing to allow for acclimatisation to the laboratory conditions.

Preparation of doses

15. In general test substances should be administered in a constant volume over the range of doses to be tested by varying the concentration of the dosing preparation. Where a liquid end product or mixture is to be tested however, the use of the undiluted test substance, ie at a constant concentration, may be more relevant to the subsequent risk assessment of that substance, and is a requirement of some regulatory authorities. In either case, the maximum dose volume for administration must not be exceeded. The maximum volume of liquid that can be administered at one time depends on the size of the test animal. In rodents, the volume should not normally exceed 1mL/100g of body weight: however in the case of aqueous solutions 2 mL/100g body weight can be considered. With respect to the formulation of the dosing preparation, the use of an aqueous solution/suspension/emulsion is recommended wherever possible, followed in order of preference by a solution/suspension/emulsion in oil (e.g. corn oil) and then possibly solution in other vehicles. For vehicles other than water the toxicological characteristics of the vehicle should be known. Doses must be prepared shortly prior to administration unless the stability of the preparation over the period during which it will be used is known and shown to be acceptable.

PROCEDURE

Administration of doses.

16. The test substance is administered in a single dose by gavage using a stomach tube or a suitable intubation canula. In the unusual circumstance that a single dose is not possible, the dose may be given in smaller fractions over a period not exceeding 24 hours.

17. Animals should be fasted prior to dosing (e.g. with the rat, food but not water should be withheld over-night, with the mouse, food but not water should be withheld for 3-4 hours). Following the period of fasting, the animals should be weighed and the test substance administered. After the substance has been administered, food may be withheld for a further 3-4 hours in rats or 1-2 hours in mice. Where a dose is administered in fractions over a period it may be necessary to provide the animals with food and water depending on the length of the period.

Number of animals and dose levels

18. Three animals are used for each step. The dose level to be used as the starting dose is selected from one of four fixed levels, 5, 50, 300 and 2000 mg/kg body weight. The starting dose level should be that which is most likely to produce mortality in some of the dosed animals. The flow charts of Annex 2 describe the procedure that should be followed for each of the starting doses.

19. When available information suggests that mortality is unlikely at the highest starting dose level (2000 mg/kg body weight), then a limit test should be conducted. When there is no information on a substance to be tested, for animal welfare reasons it is recommended to use the starting dose of 300 mg/kg body weight.

20 The time interval between treatment groups is determined by the onset, duration, and severity of toxic signs. Treatment of animals at the next dose, should be delayed until one is confident of survival of the previously dosed animals.

21. Exceptionally, and only when justified by specific regulatory needs, the use of additional upper dose level of 5000 mg/kg body weight may be considered (see Annex 3). For reasons of animal welfare concern, testing of animals in GHS Category 5 ranges (2000-5000mg/kg) is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test have a direct relevance for protecting human or animal health or the environment.

Limit test

22. The limit test is primarily used in situations where the experimenter has information indicating that the test material is likely to be nontoxic, i.e., having toxicity only above regulatory limit doses. Information about the toxicity of the test material can be gained from knowledge about similar tested compounds or similar tested mixtures or products, taking into consideration the identity and percentage of components known to be of toxicological significance. In those situations where there is little or no information about its toxicity, or in which the the test material is expected to be toxic, the main test should be performed.

23. A limit test at one dose level of 2000 mg/kg body weight may be carried out with six animals (three animals per step). Exceptionally a limit test at one dose level of 5000 mg/kg may be carried out with three animals (see Annex 3). If test substance-related mortality is produced, further testing at the next lower level may need to be carried out.

OBSERVATIONS

24. Animals are observed individually after dosing at least once during the first 30 minutes, periodically during the first 24 hours, with special attention given during the first 4 hours, and daily thereafter, for a total of 14 days, except where they need to be removed from the study and humanely killed for animal welfare reasons or are found dead. However, the duration of observation should not be fixed rigidly. It should be determined by the toxic reactions, time of onset and length of recovery period, and may thus be extended when considered necessary. The times at which signs of toxicity appear and disappear are important, especially if there is a tendency for toxic signs to be delayed (12). All observations are systematically recorded with individual records being maintained for each animal.

25. Additional observations will be necessary if the animals continue to display signs of toxicity. Observations should include changes in skin and fur, eyes and mucous membranes, and also respiratory, circulatory, autonomic and central nervous systems, and somatomotor activity and behaviour pattern. Attention should be directed to observations of tremors, convulsions, salivation, diarrhoea, lethargy, sleep

and coma. The principles and criteria summarised in the Humane Endpoints Guidance Document (9) should be taken into consideration. Animals found in a moribund condition and animals showing severe pain or enduring signs of severe distress should be humanely killed. When animals are killed for humane reasons or found dead, the time of death should be recorded as precisely as possible.

Body weight

26. Individual weights of animals should be determined shortly before the test substance is administered, and at least weekly thereafter. Weight changes should be calculated and recorded. At the end of the test surviving animals are weighed and humanely killed.

Pathology

27. All test animals (including those that die during the test or are removed from the study for animal welfare reasons) should be subjected to gross necropsy. All gross pathological changes should be recorded for each animal. Microscopic examination of organs showing evidence of gross pathology in animals surviving 24 or more hours may also be considered because it may yield useful information.

DATA AND REPORTING

Data

28. Individual animal data should be provided. Additionally, all data should be summarised in tabular form, showing for each test group the number of animals used, the number of animals displaying signs of toxicity, the number of animals found dead during the test or killed for humane reasons, time of death of individual animals, a description and the time course of toxic effects and reversibility, and necropsy findings.

Test report

29. The test report must include the following information, as appropriate:

Test substance:

- physical nature, purity, and, where relevant, physico-chemical properties (including isomerisation);
- identification data, including CAS number.

Vehicle (if appropriate):

- justification for choice of vehicle, if other than water.

Test animals:

- species/strain used;
- microbiological status of the animals, when known;
- number, age, and sex of animals (including, where appropriate, a rationale for the use of males instead of females);
- source, housing conditions, diet etc.

Test conditions:

- details of test substance formulation including details of the physical form of the

material administered;
- details of the administration of the test substance including dosing volumes and time of dosing;
- details of food and water quality (including diet type/source, water source);
- the rationale for the selection of the starting dose.

Results:

- tabulation of response data and dose level for each animal (i.e. animals showing signs of toxicity including mortality; nature, severity, and duration of effects);
- tabulation of body weight and body weight changes;
- individual weights of animals at the day of dosing, in weekly intervals thereafter, and at the time of death or sacrifice;
- date and time of death if prior to scheduled sacrifice;
- time course of onset of signs of toxicity, and whether these were reversible for each animal;
- necropsy findings and histopathological findings for each animal, if available.

Discussion and interpretation of results.

Conclusions.

LITERATURE

(1) Roll R., Höfer-Bosse Th. And Kayser D. (1986). New Perspectives in Acute Toxicity Testing of Chemicals. Toxicol. Lett., Suppl. 31, 86.

(2) Roll R., Riebschläger M., Mischke U. and Kayser D. (1989). Neue Wege zur Bestimmung der akuten Toxizität von Chemikalien. Bundesgesundheitsblatt 32, 336-341.

(3) Diener W., Sichha L., Mischke U., Kayser D. and Schlede E. (1994). The Biometric Evaluation of the Acute-Toxic-Class Method (Oral). Arch. Toxicol. 68, 559-610.

(4) Diener W., Mischke U., Kayser D. and Schlede E. (1995). The Biometric Evaluation of the OECD Modified Version of the Acute-Toxic-Class Method (Oral). Arch. Toxicol. 69, 729-734.

(5) Diener W., and Schlede E. (1999) Acute Toxicity Class Methods: Alternatives to LD/LC50 Tests. ALTEX 16, 129-134.

(6) Schlede E., Mischke U., Roll R. and Kayser D. (1992). A National Validation Study of the Acute-Toxic-Class Method – An Alternative to the LD50 Test. Arch. Toxicol. 66, 455-470.

(7) Schlede E., Mischke U., Diener W. and Kayser D. (1994). The International Validation Study of the Acute-Toxic-Class Method (Oral). Arch. Toxicol. 69, 659-670.

(8) OECD (2000) Guidance Document on Acute Oral Toxicity. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No 24.

(9) OECD (2000) Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No 19.

(10) OECD (1998) Harmonized Integrated Hazard Classification System For Human Health And Environmental Effects Of Chemical Substances as endorsed by the 28th Joint Meeting of the

Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals in November 1998, Part 2, p. 11 [http://webnet1.oecd.org/oecd/pages/home/displaygeneral/0,3380,EN-documents-521-14-no-24-no-0,FF.html].

(11) Lipnick R L, Cotruvo, J A, Hill R N, Bruce R D, Stitzel K A, Walker A P, Chu I; Goddard M, Segal L, Springer J A and Myers R C (1995) Comparison of the Up-and Down, Conventional LD_{50}, and Fixed Dose Acute Toxicity Procedures. Fd. Chem. Toxicol 33, 223-231.

(12) Chan P.K. and A.W. Hayes. (1994). Chap. 16. Acute Toxicity and Eye Irritancy. *Principles and Methods of Toxicology*. Third Edition. A.W. Hayes, Editor. Raven Press, Ltd., New York, USA.

423 OECD/OCDE

ANNEX 1

DEFINITIONS

Acute oral toxicity refers to those adverse effects occurring following oral administration of a single dose of a substance, or multiple doses given within 24 hours.

Delayed death means that an animal does not die or appear moribund within 48 hours but dies later during the 14-day observation period.

Dose is the amount of test substance administered. Dose is expressed as weight of test substance per unit weight of test animal (e.g. mg/kg).

GHS: Globally Harmonised Classification System for Chemical Substances and Mixtures. A joint activity of OECD (human health and the environment), UN Committee of Experts on Transport of Dangerous Goods (physical–chemical properties) and ILO (hazard communication) and co-ordinated by the Interorganisation Programme for the Sound Management of Chemicals (IOMC).

Impending death: when moribund state or death is expected prior to the next planned time of observation. Signs indicative of this state in rodents could include convulsions, lateral position, recumbence, and tremor (See the Humane Endpoint Guidance Document (9) for more details).

LD50 (median lethal oral dose) is a statistically derived single dose of a substance that can be expected to cause death in 50 per cent of animals when administered by the oral route. The LD50 value is expressed in terms of weight of test substance per unit weight of test animal (mg/kg).

Limit dose refers to a dose at an upper limitation on testing (2000 or 5000 mg/kg).

Moribund status: being in a state of dying or inability to survive, even if treated (See the Humane Endpoint Guidance Document (9) for more details).

Predictable death: presence of clinical signs indicative of death at a known time in the future before the planned end of the experimen ; for example: inability to reach water or food. (See the Humane Endpoint Guidance Document (9) for more details).

OECD/OCDE 423

ANNEX 2

PROCEDURE TO BE FOLLOWED FOR EACH OF THE STARTING DOSES

GENERAL REMARKS

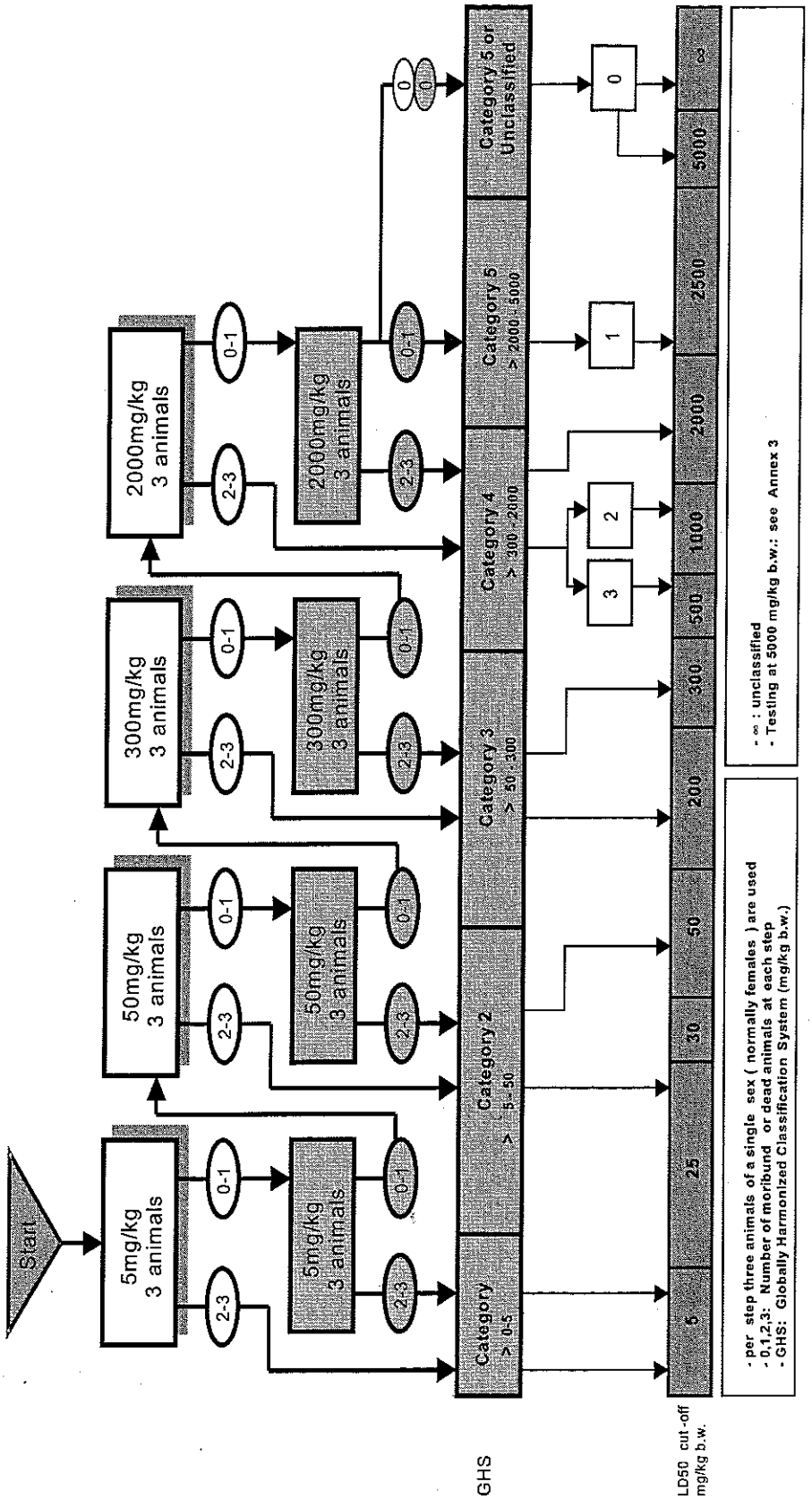
1. For each starting dose, the respective testing schemes as included in this Annex outline the procedure to be followed.

- Annex 2 a: Starting dose is 5 mg/kg bw
- Annex 2 b: Starting dose is 50 mg/kg bw
- Annex 2 c: Starting dose is: 300 mg/kg bw
- Annex 2 d: Starting dose is: 2000 mg/kg bw

Depending on the number of humanely killed or dead animals, the test procedure follows the indicated arrows.

423 **OECD/OCDE**

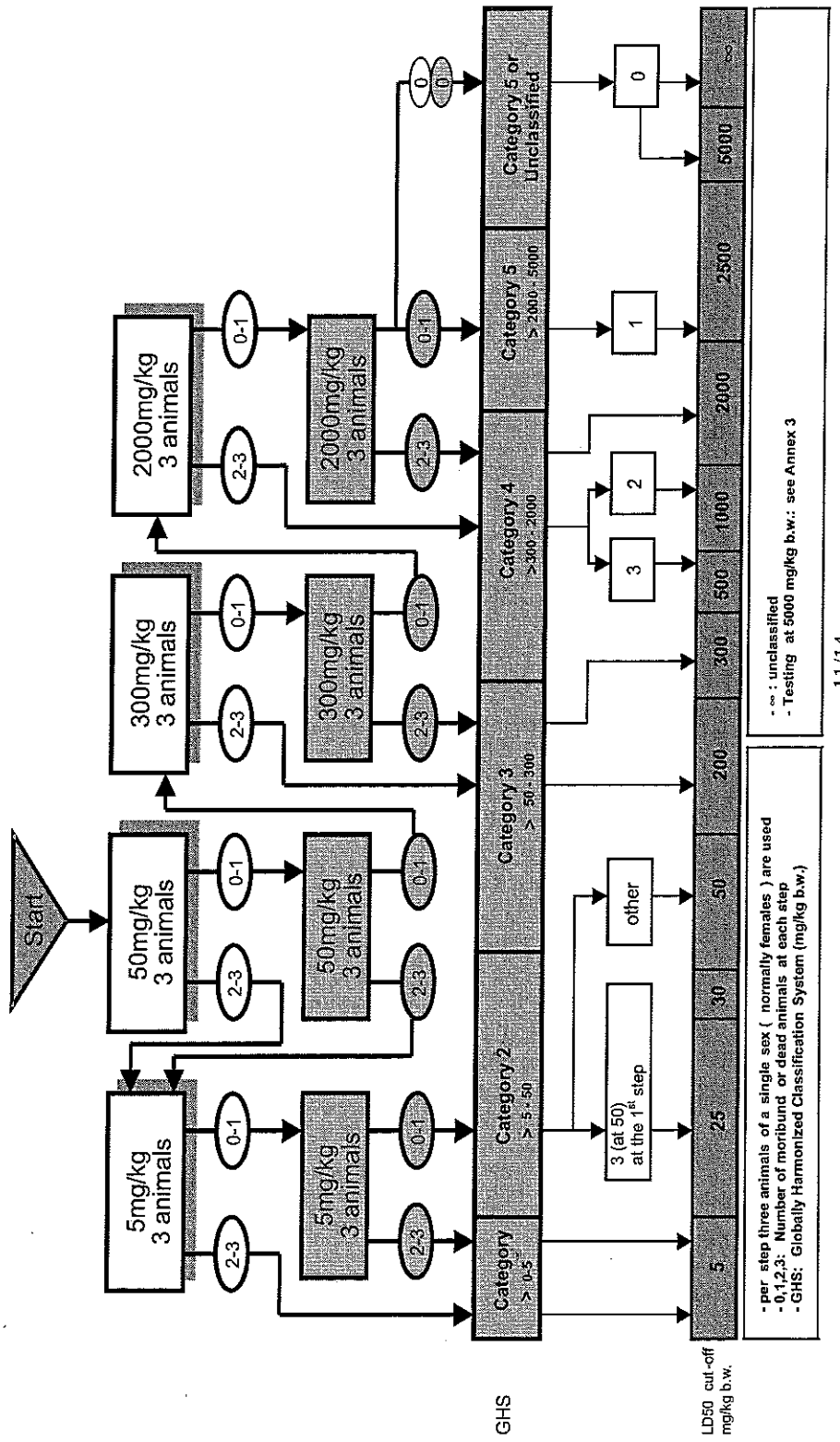
ANNEX 2a: TEST PROCEDURE WITH A STARTING DOSE OF 5 MG/KG BODY WEIGHT



10/14

OECD/OCDE **423**

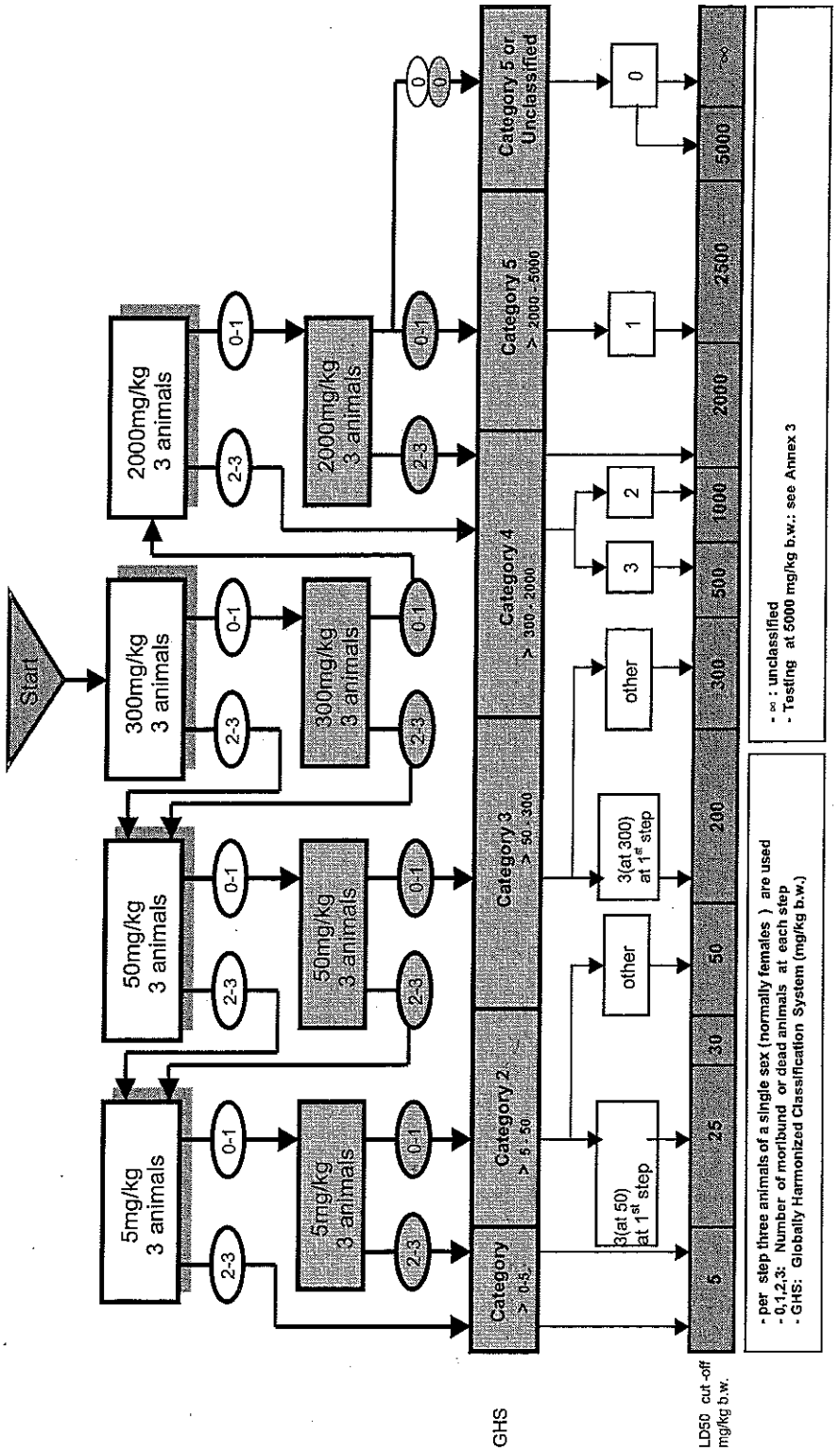
ANNEX 2b: TEST PROCEDURE WITH A STARTING DOSE OF 50 MG/KG BODY WEIGHT



11/14

423 **OECD/OCDE**

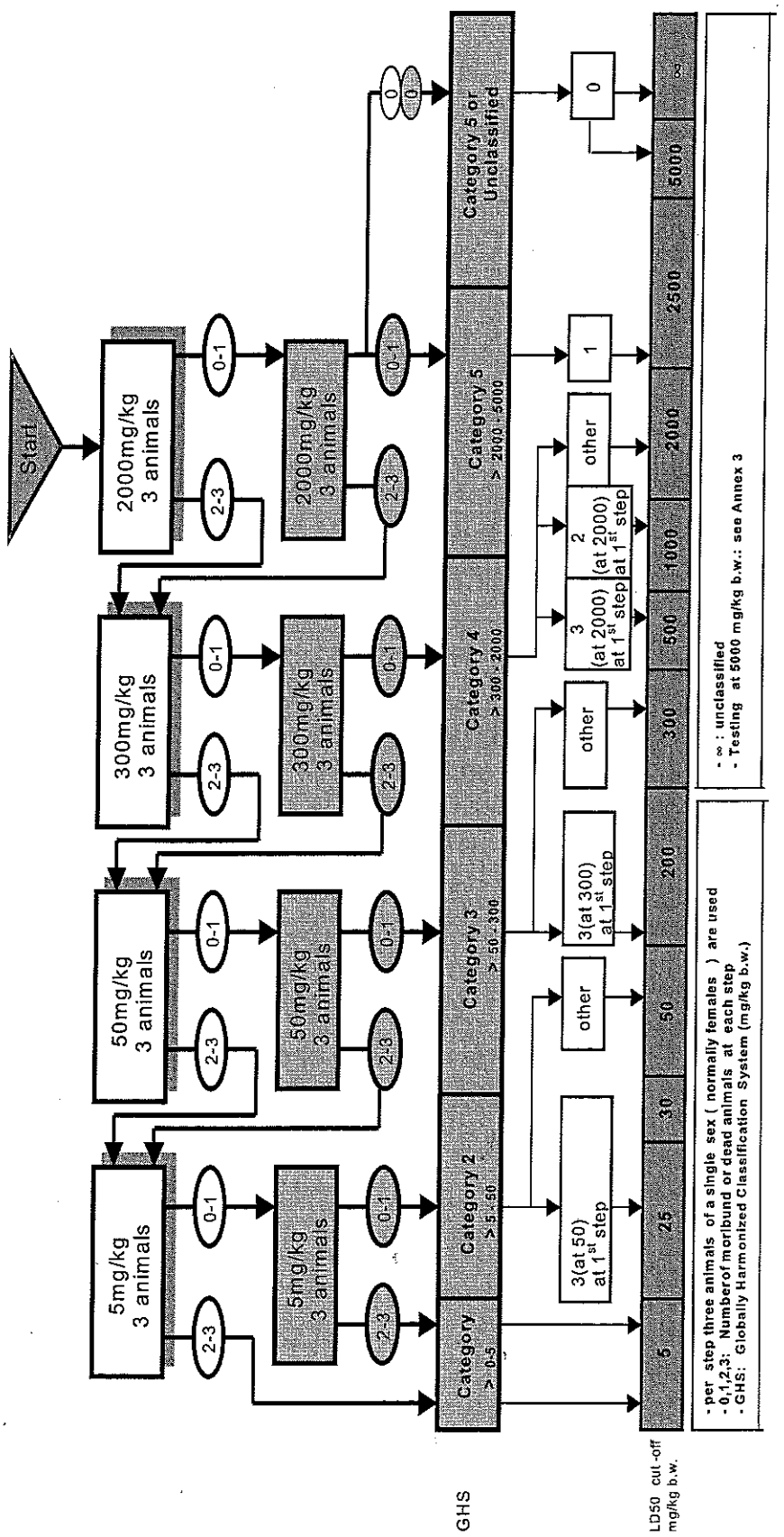
ANNEX 2c: TEST PROCEDURE WITH A STARTING DOSE OF 300 MG/KG BODY WEIGHT



12/14

OECD/OCDE **423**

ANNEX 2d: TEST PROCEDURE WITH A STARTING DOSE OF 2000 MG/KG BODY WEIGHT



13/14

423 OECD/OCDE

ANNEX 3

CRITERIA FOR CLASSIFICATION OF TEST SUBSTANCES WITH EXPECTED LD50 VALUES EXCEEDING 2000 MG/KG WITHOUT THE NEED FOR TESTING

1. Criteria for hazard Category 5 are intended to enable the identification of test substances which are of relatively low acute toxicity hazard but which, under certain circumstances may present a danger to vulnerable populations. These substances are anticipated to have an oral or dermal LD50 in the range of 2000-5000 mg/kg or equivalent doses for other routes. The test substance should be classified in the hazard category defined by: 2000mg/kg<LD50<5000mg/kg (Category 5 in the GHS) in the following cases:

a) If directed to this category by any of the testing schemes of Annex 2a-2d, based on mortality incidences;

b) if reliable evidence is already available that indicates the LD50 to be in the range of Category 5 values, or other animal studies or toxic effects in humans indicate a concern for human health of an acute nature.

c) Through extrapolation, estimation or measurement of data if assignment to a more hazardous category is not warranted, and

- reliable information is available indicating significant toxic effects in humans, or
- any mortality is observed when tested up to Category 4 values by the oral route, or
- where expert judgement confirms significant clinical signs of toxicity, when tested up to Category 4 values, except for diarrhoea, piloerection or an ungroomed appearance, or
- where expert judgement confirms reliable information indicating the potential for significant acute effects from the other animal studies.

TESTING AT DOSES ABOVE 2000 MG/KG

2. Recognising the need to protect animal welfare, testing of animals in Category 5 (5000 mg/kg) ranges is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test have a direct relevance for protecting human or animal health (10). No further testing should be conducted at higher dose levels.

3. When testing is required a dose of 5000mg/kg, only one step (i.e. three animals) is required. If the first animal dosed dies , then dosing procedes at 2000mg/kg in accordance with the flow charts in Annex 2. If the first animal survives, two further animals are dosed. If only one of the three animal dies , the LD50 value is expected to exceed 5000mg/kg. If both animals die, then dosing proceeds at 2000mg/kg.

Appendix M4

OECD FDP Test Guideline

[This Page Intentionally Left Blank

OECD/OCDE **420**

Adopted:
17th December 2001

OECD GUIDELINE FOR TESTING OF CHEMICALS

Acute Oral Toxicity – Fixed Dose Procedure

INTRODUCTION

1. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals are periodically reviewed in the light of scientific progress or changing assessment practices. The original Guideline 420 was adopted in July 1992 as the first alternative to the conventional acute toxicity test, described in Test Guideline 401. Based on the recommendations of several expert meetings, revision was considered timely because: i) international agreement had been reached on harmonised LD50 cut-off values for the classification of chemical substances, which differ from the cut-offs recommended in the 1992 version of the Guideline, and ii) testing in one sex (usually females) is now considered sufficient.

2. Traditional methods for assessing acute toxicity use death of animals as an endpoint. In 1984, a new approach to acute toxicity testing was suggested by the British Toxicology Society based on the administration at a series of fixed dose levels (1). The approach avoided using death of animals as an endpoint, and relied instead on the observation of clear signs of toxicity at one of a series of fixed dose levels. Following UK (2) and international (3) *in vivo* validation studies the procedure was adopted by the Council as a Test Guideline in 1992. Subsequently, the statistical properties of the Fixed Dose Procedure have been evaluated using mathematical models in a series of studies (4)(5)(6). Together, the *in vivo* and modelling studies have demonstrated that the procedure is reproducible, uses fewer animals and causes less suffering than the traditional methods and is able to rank substances in a similar manner to the other acute toxicity testing methods (Test Guidelines 423 and 425).

3. Guidance on the selection of the most appropriate test method for a given purpose can be found in the Guidance Document on Acute Oral Toxicity Testing (7). This Guidance Document also contains additional information on the conduct and interpretation of Guideline 420.

4. Definitions used in the context of this Guideline are set out in Annex 1.

INITIAL CONSIDERATIONS

5. It is a principle of the method that in the main study only moderately toxic doses are used, and that administration of doses that are expected to be lethal should be avoided. Also, doses that are known to cause marked pain and distress, due to corrosive or severely irritant actions, need not be administered. Moribund animals, or animals obviously in pain or showing signs of severe and enduring distress shall be humanely killed, and are considered in the interpretation of the test results in the same way as animals that died on test. Criteria for making the decision to kill moribund or severely suffering animals, and guidance on the recognition of predictable or impending death, are the subject of a separate Guidance Document (8).

6. The method provides information on the hazardous properties and allows the substance to be ranked and classified according to the Globally Harmonised System (GHS) for the classification of chemicals which cause acute toxicity (9).

7. The testing laboratory should consider all available information on the test substance prior to conducting the study. Such information will include the identity and chemical structure of the substance; its physico-chemical properties; the results of any other *in vitro* or *in vivo* toxicity tests on the substance; toxicological data on structurally related substances; and the anticipated use(s) of the substance. This information is necessary to satisfy all concerned that the test is relevant for the protection of human health, and will help in the selection of an appropriate starting dose.

PRINCIPLE OF THE TEST

8. Groups of animals of a single sex are dosed in a stepwise procedure using the fixed doses of 5, 50, 300 and 2000 mg/kg (exceptionally an additional fixed dose of 5000 mg/kg may be considered, see paragraph 19). The initial dose level is selected on the basis of a sighting study as the dose expected to produce some signs of toxicity without causing severe toxic effects or mortality. Clinical signs and conditions associated with pain, suffering, and impending death, are described in detail in a separate OECD Guidance Document (8). Further groups of animals may be dosed at higher or lower fixed doses, depending on the presence or absence of signs of toxicity or mortality. This procedure continues until the dose causing evident toxicity or no more than one death is identified, or when no effects are seen at the highest dose or when deaths occur at the lowest dose.

DESCRIPTION OF THE METHOD

Selection of animal species

9. The preferred rodent species is the rat, although other rodent species may be used. Normally females are used (7). This is because literature surveys of conventional LD50 tests show that usually there is little difference in sensitivity between the sexes, but in those cases where differences are observed, females are generally slightly more sensitive (10). However, if knowledge of the toxicological or toxicokinetic properties of structurally related chemicals indicates that males are likely to be more sensitive then this sex should be used. When the test is conducted in males, adequate justification should be provided.

10. Healthy young adult animals of commonly used laboratory strains should be employed. Females should be nulliparous and non-pregnant. Each animal, at the commencement of its dosing, should be between 8 and 12 weeks old and its weight should fall in an interval within $\pm$ 20 % of the mean weight of any previously dosed animals.

Housing and feeding conditions

11. The temperature of the experimental animal room should be 22°C ($\pm$ 3°C). Although the relative humidity should be at least 30% and preferably not exceed 70% other than during room cleaning the aim should be 50-60%. Lighting should be artificial, the sequence being 12 hours light, 12 hours dark. For feeding, conventional laboratory diets may be used with an unlimited supply of drinking water. Animals may be group-caged by dose, but the number of animals per cage must not interfere with clear observations of each animal.

Preparation of animals

12. The animals are randomly selected, marked to permit individual identification, and kept in their cages for at least 5 days prior to the start of dosing to allow for acclimatisation to the laboratory conditions.

Preparation of doses

13. In general test substances should be administered in a constant volume over the range of doses to be tested by varying the concentration of the dosing preparation. Where a liquid end product or mixture is to be tested however, the use of the undiluted test substance, ie at a constant concentration, may be more relevant to the subsequent risk assessment of that substance, and is a requirement of some regulatory authorities. In either case, the maximum dose volume for administration must not be exceeded. The maximum volume of liquid that can be administered at one time depends on the size of the test animal. In rodents, the volume should not normally exceed 1mL/100g of body weight: however in the case of aqueous solutions 2 mL/100g body weight can be considered. With respect to the formulation of the dosing preparation, the use of an aqueous solution/suspension/emulsion is recommended wherever possible, followed in order of preference by a solution/suspension/emulsion in oil (e.g. corn oil) and then possibly solution in other vehicles. For vehicles other than water the toxicological characteristics of the vehicle should be known. Doses must be prepared shortly prior to administration unless the stability of the preparation over the period during which it will be used is known and shown to be acceptable.

PROCEDURE

Administration of doses

14. The test substance is administered in a single dose by gavage using a stomach tube or a suitable intubation canula. In the unusual circumstance that a single dose is not possible, the dose may be given in smaller fractions over a period not exceeding 24 hours.

15. Animals should be fasted prior to dosing (e.g. with the rat, food but not water should be withheld over-night; with the mouse, food but not water should be withheld for 3-4 hours). Following the period of fasting, the animals should be weighed and the test substance administered. After the substance has been administered, food may be withheld for a further 3-4 hours in rats or 1-2 hours in mice. Where a dose is administered in fractions over a period of time, it may be necessary to provide the animals with food and water depending on the length of the period.

Sighting study

16. The purpose of the sighting study is to allow selection of the appropriate starting dose for the main study. The test substance is administered to single animals in a sequential manner following the flow charts in Annex 2. The sighting study is completed when a decision on the starting dose for the main study can be made (or if a death is seen at the lowest fixed dose).

17. The starting dose for the sighting study is selected from the fixed dose levels of 5, 50, 300 and 2000 mg/kg as a dose expected to produce evident toxicity based, when possible, on evidence from *in vivo* and *in vitro* data from the same chemical and from structurally related chemicals. In the absence of such information, the starting dose will be 300 mg/kg.

18. A period of at least 24 hours will be allowed between the dosing of each animal. All animals should be observed for at least 14 days.

19. Exceptionally, and only when justified by specific regulatory needs, the use of an additional upper fixed dose level of 5000 mg/kg may be considered (see Annex 4). For reasons of animal welfare concern, testing of animals in GHS Category 5 ranges (2000-5000mg/kg) is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test have a direct relevance for protecting human or animal health or the environment.

20. In cases where an animal tested at the lowest fixed dose level (5mg/kg) in the sighting study dies, the normal procedure is to terminate the study and assign the substance to GHS Category 1 (as shown in Annex 2). However, if further confirmation of the classification is required, an optional supplementary procedure may be conducted, as follows. A second animal is dosed at 5mg/kg. If this second animal dies, then GHS Category 1 will be confirmed and the study will be immediately terminated. If the second animal survives, then a maximum of three additional animals will be dosed at 5mg/kg. Because there will be a high risk of mortality, these animals should be dosed in a sequential manner to protect animal welfare. The time interval between dosing each animal should be sufficient to establish that the previous animal is likely to survive. If a second death occurs, the dosing sequence will be immediately terminated and no further animals will be dosed. Because the occurence of a second death (irrespective of the number of animals tested at the time of termination) falls into outcome A (2 or more deaths), the classification rule of Annex 3 at the 5mg/kg fixed dose is followed (Category 1 if there are 2 or more deaths or Category 2 if there is no more than 1 death).

Main study

Numbers of animals and dose levels

21. The action to be taken following testing at the starting dose level is indicated by the flow charts in Annex 3. One of three actions will be required; either stop testing and assign the appropriate hazard classification class, test at a higher fixed dose or test at a lower fixed dose. However, to protect animals, a dose level that caused death in the sighting study will not be revisited in the main study (see Annex 3). Experience has shown that the most likely outcome at the starting dose level will be that the substance can be classified and no further testing will be necessary.

22. A total of five animals of one sex will normally be used for each dose level investigated. The five animals will be made up of one animal from the sighting study dosed at the selected dose level together with an additional four animals (except, unusually, if a dose level used on the main study was not included in the sighting study).

23. The time interval between dosing at each level is determined by the onset, duration, and severity of toxic signs. Treatment of animals at the next dose should be delayed until one is confident of survival of the previously dosed animals. A period of 3 or 4 days between dosing at each dose level is recommended, if needed, to allow for the observation of delayed toxicity. The time interval may be adjusted as appropriate, e.g., in case of inconclusive response.

24. When the use of an upper fixed dose of 5000 mg/kg is considered, the procedure outlined in Annex 4 should be followed (see also paragraph 19).

Limit test

25. The limit test is primarily used in situations where the experimenter has information indicating that the test material is likely to be nontoxic, i.e., having toxicity only above regulatory limit doses. Information about the toxicity of the test material can be gained from knowledge about similar tested

compounds or similar tested mixtures or products, taking into consideration the identity and percentage of components known to be of toxicological significance. In those situations where there is little or no information about its toxicity, or in which the the test material is expected to be toxic, the main test should be performed.

26. Using the normal procedure, a sighting study starting dose of 2000mg/kg (or exceptionally 5000mg/kg) followed by dosing of a further four animals at this level serves as a limit test for this guideline.

OBSERVATIONS

27. Animals are observed individually after dosing at least once during the first 30 minutes, periodically during the first 24 hours, with special attention given during the first 4 hours, and daily thereafter, for a total of 14 days, except where they need to be removed from the study and humanely killed for animal welfare reasons or are found dead. However, the duration of observation should not be fixed rigidly. It should be determined by the toxic reactions, time of onset and length of recovery period, and may thus be extended when considered necessary. The times at which signs of toxicity appear and disappear are important, especially if there is a tendency for toxic signs to be delayed (11). All observations are systematically recorded, with individual records being maintained for each animal.

28. Additional observations will be necessary if the animals continue to display signs of toxicity. Observations should include changes in skin and fur, eyes and mucous membranes, and also respiratory, circulatory, autonomic and central nervous systems, and somatomotor activity and behaviour pattern. Attention should be directed to observations of tremors, convulsions, salivation, diarrhoea, lethargy, sleep and coma. The principles and criteria summarised in the Humane Endpoints Guidance Document should be taken into consideration (8). Animals found in a moribund condition and animals showing severe pain or enduring signs of severe distress should be humanely killed. When animals are killed for humane reasons or found dead, the time of death should be recorded as precisely as possible.

Body weight

29. Individual weights of animals should be determined shortly before the test substance is administered and at least weekly thereafter. Weight changes should be calculated and recorded. At the end of the test surviving animals are weighed and then humanely killed.

Pathology

30. All test animals (including those that die during the test or are removed from the study for animal welfare reasons) should be subjected to gross necropsy. All gross pathological changes should be recorded for each animal. Microscopic examination of organs showing evidence of gross pathology in animals surviving 24 or more hours after the initial dosing may also be considered because it may yield useful information.

DATA AND REPORTING

Data

31. Individual animal data should be provided. Additionally, all data should be summarised in tabular form, showing for each test group the number of animals used, the number of animals displaying signs of toxicity, the number of animals found dead during the test or killed for humane reasons, time of death of individual animals, a description and the time course of toxic effects and reversibility, and necropsy findings.

Test report

32. The test report must include the following information, as appropriate:

Test substance:

- physical nature, purity, and, where relevant, physico-chemical properties (including isomerisation);
- identification data, including CAS number.

Vehicle (if appropriate):

- justification for choice of vehicle, if other than water.

Test animals:

- species/strain used;
- microbiological status of the animals, when known;
- number, age and sex of animals (including, where appropriate, a rationale for use of males instead of females);
- source, housing conditions, diet etc.

Test conditions:

- details of test substance formulation, including details of the physical form of the material administered;
- details of the administration of the test substance including dosing volumes and time of dosing;
- details of food and water quality (including diet type/source, water source);
- the rationale for the selection of the starting dose.

Results:

- tabulation of response data and dose level for each animal (i.e. animals showing signs of toxicity including mortality, nature, severity and duration of effects);
- tabulation of body weight and body weight changes;
- individual weights of animals at the day of dosing, in weekly intervals thereafter, and at time of death or sacrifice;
- date and time of death if prior to scheduled sacrifice;
- time course of onset of signs of toxicity and whether these were reversible for each animal;
- necropsy findings and histopathological findings for each animal, if available.

Discussion and interpretation of results.

Conclusions.

LITERATURE

(1) British Toxicology Society Working Party on Toxicity (1984). Special report: a new approach to the classification of substances and preparations on the basis of their acute toxicity. Human Toxicol., 3, 85-92.

(2) Van den Heuvel, M.J., Dayan, A.D. and Shillaker, R.O. (1987). Evaluation of the BTS approach to the testing of substances and preparations for their acute toxicity. Human Toxicol., 6, 279-291.

(3) Van den Heuvel, M.J., Clark, D.G., Fielder, R.J., Koundakjian, P.P., Oliver, G.J.A., Pelling, D., Tomlinson, N.J. and Walker, A.P. (1990). The international validation of a fixed-dose procedure as an alternative to the classical LD_{50} test. Fd. Chem. Toxicol. 28, 469-482.

(4) Whitehead, A. and Curnow, R.N. (1992). Statistical evaluation of the fixed-dose procedure. Fd. Chem. Toxicol., 30, 313-324.

(5) Stallard, N. and Whitehead, A. (1995). Reducing numbers in the fixed-dose procedure. Human Exptl. Toxicol. 14, 315-323.

(6) Stallard, N., Whitehead, A. and Ridgeway, P. (2000). Statistical evaluation of modifications to the fixed dose procedure (manuscript in preparation).

(7) OECD (2000). Guidance Document on Acute Oral Toxicity. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No.24.

(8) OECD (2000). Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals Used in Safety Evaluation. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assesment No 19.

(9) OECD (1998). Harmonised Integrated Hazard Classification for Human Health and Environmental Effects of Chemical Substances as endorsed by the 28th Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals in November 1998, Part 2, p.11 [http://webnet1.oecd.org/oecd/pages/home/displaygeneral/0,3380,EN-documents-521-14-no-24-no-0,FF.html].

(10) Lipnick, R.L., Cotruvo, J.A., Hill, R.N., Bruce, R.D., Stitzel, K.A., Walker, A.P., Chu, I., Goddard, M., Segal, L., Springer, J.A. and Myers, R.C. (1995). Comparison of the Up-and-Down, Conventional LD_{50}, and Fixed-Dose Acute Toxicity Procedures. Fd. Chem. Toxicol. 33, 223-231.

(11) Chan P.K and A.W. Hayes (1994) Chapter 16 Acute Toxicity and Eye Irritation In: Principles and Methods of Toxicology. 3rd Edition. A.W. Hayes , Editor. Raven Press, Ltd. New York, USA.

ANNEX 1

DEFINITIONS

Acute oral toxicity refers to those adverse effects occurring following oral administration of a single dose of a substance, or multiple doses given within 24 hours.

Delayed death means that an animal does not die or appear moribund within 48 hours but dies later during the 14-day observation period.

Dose is the amount of test substance administered. Dose is expressed as weight of test substance per unit weight of test animal (e.g. mg/kg).

Evident toxicity is a general term describing clear signs of toxicity following the administration of test substance, (see Van den Heuvel, M.J., Clark, D.G., Fielder, R.J., Koundakjian, P.P., Oliver, G.J.A., Pelling, D., Tomlinson, N.J. and Walker, A.P. (1990). The international validation of a fixed-dose procedure as an alternative to the classical LD_{50} test. Fd. Chem. Toxicol. 28, 469-482. (3) for examples) such that at the next highest fixed dose either severe pain and enduring signs of severe distress, moribund status (criteria are presented in the Humane Endpoints Guidance Document (8), or probable mortality in most animals can be expected.

GHS: Globally Harmonised Classification System for Chemical Substances and Mixtures. A joint activity of OECD (human health and the environment), UN Committee of Experts on Transport of Dangerous Goods (physical–chemical properties) and ILO (hazard communication) and co-ordinated by the Interorganisation Programme for the Sound Management of Chemicals (IOMC).

Impending death: when moribund state or death is expected prior to the next planned time of observation. Signs indicative of this state in rodents could include convulsions, lateral position, recumbence, and tremor. (See the Humane Endpoint Guidance Document (8) for more details).

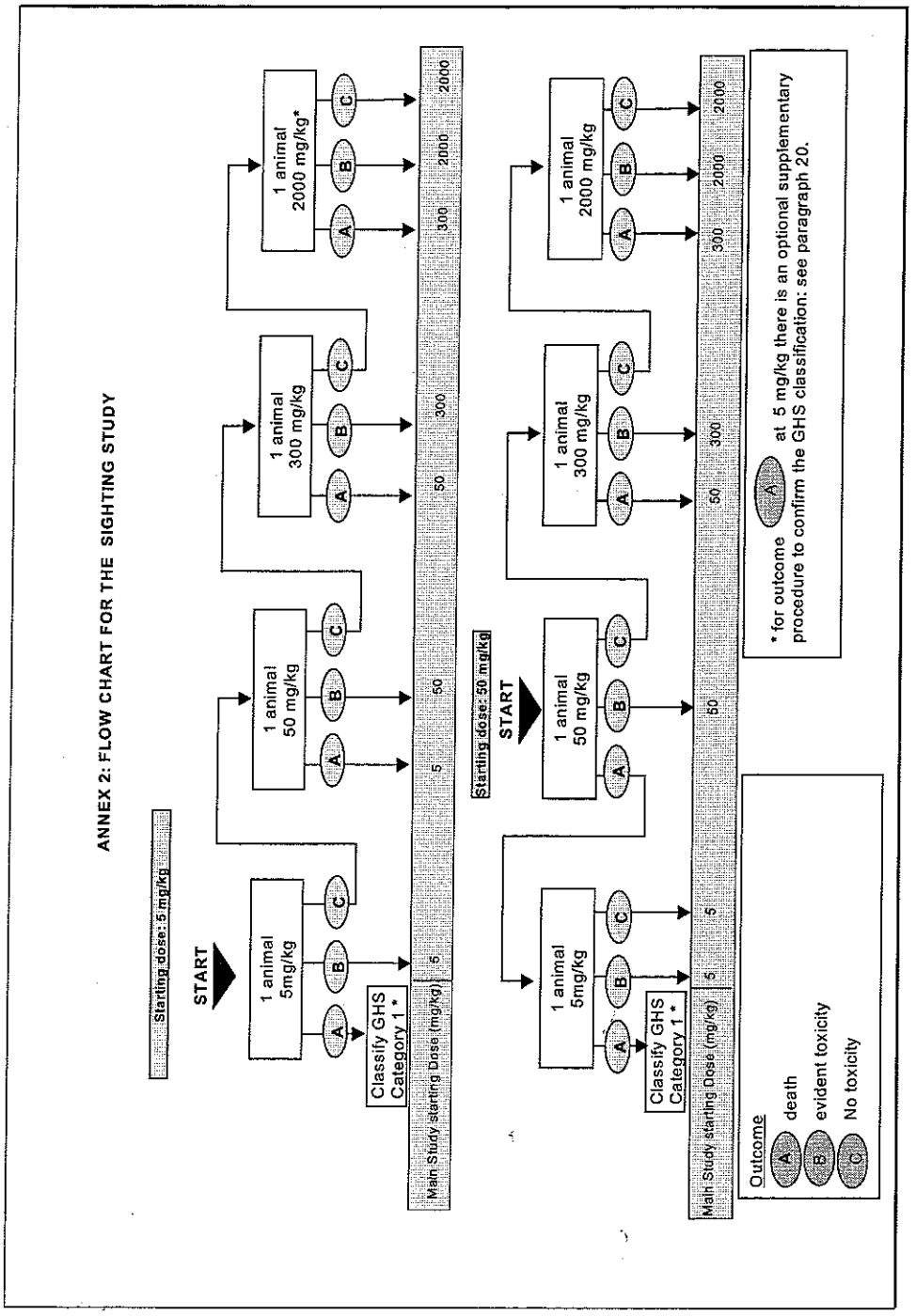
LD50 (median lethal oral dose) is a statistically derived single dose of a substance that can be expected to cause death in 50 per cent of animals when administered by the oral route. The LD50 value is expressed in terms of weight of test substance per unit weight of test animal (mg/kg).

Limit dose refers to a dose at an upper limitation on testing (2000 or 5000 mg/kg).

Moribund status: being in a state of dying or inability to survive, even if treated. (See the Humane Endpoint Guidance Document (8) for more details).

Predictable death: presence of clinical signs indicative of death at a known time in the future before the planned end of the experiment, for example: inability to reach water or food. (See the Humane Endpoint Guidance Document (8) for more details).

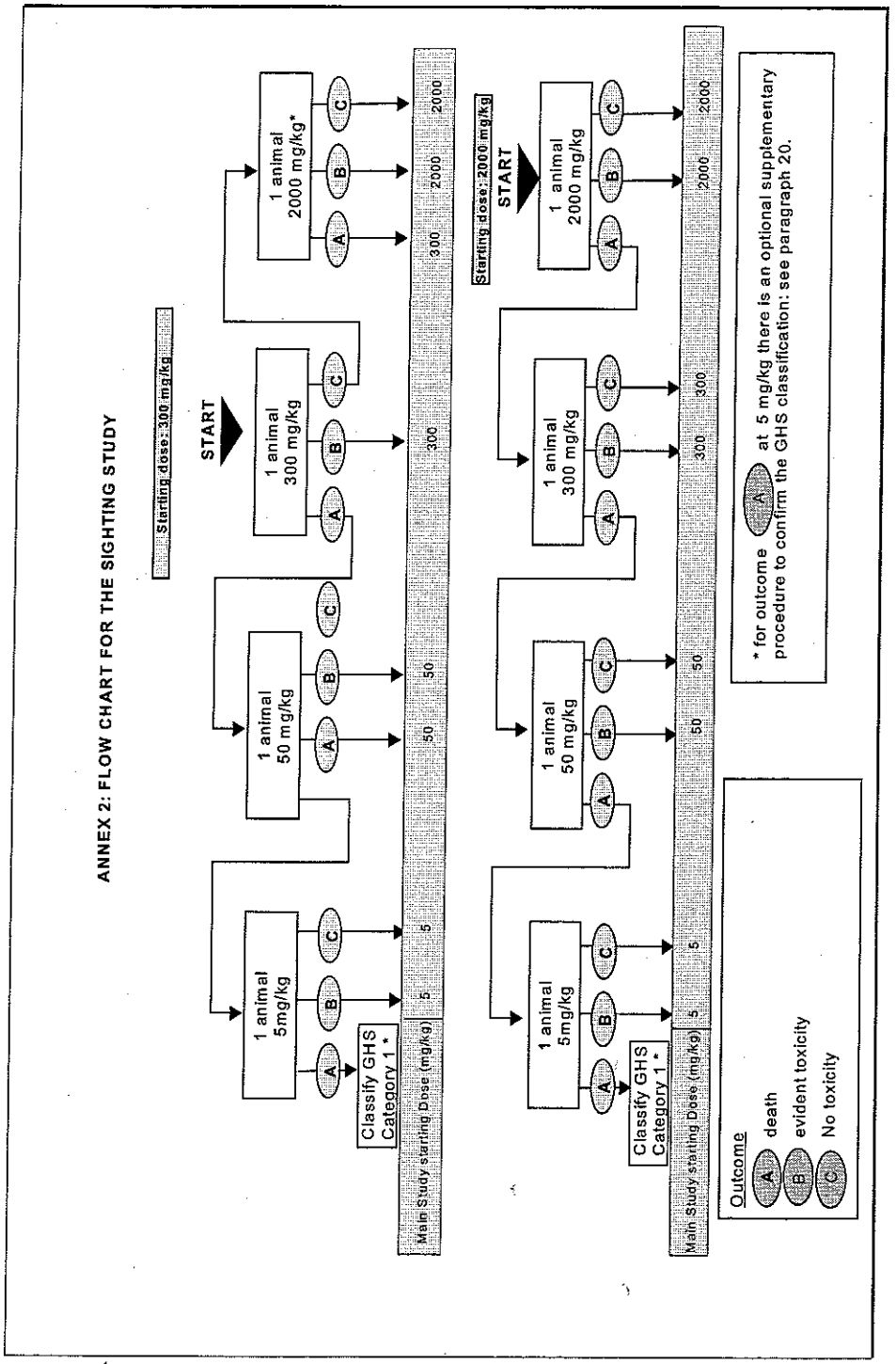
OECD/OCDE **420**



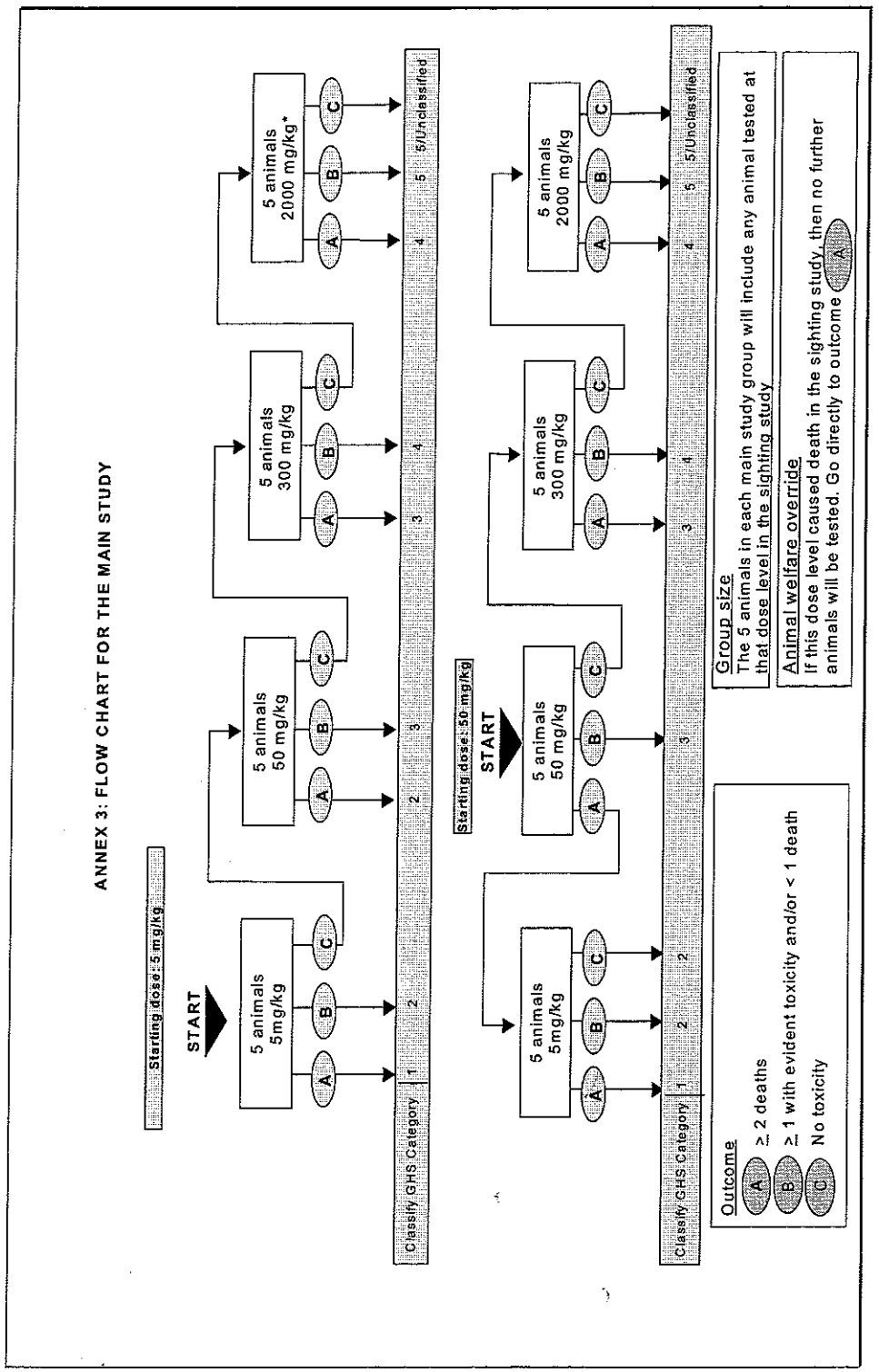
9/14

OECD/OCDE

420

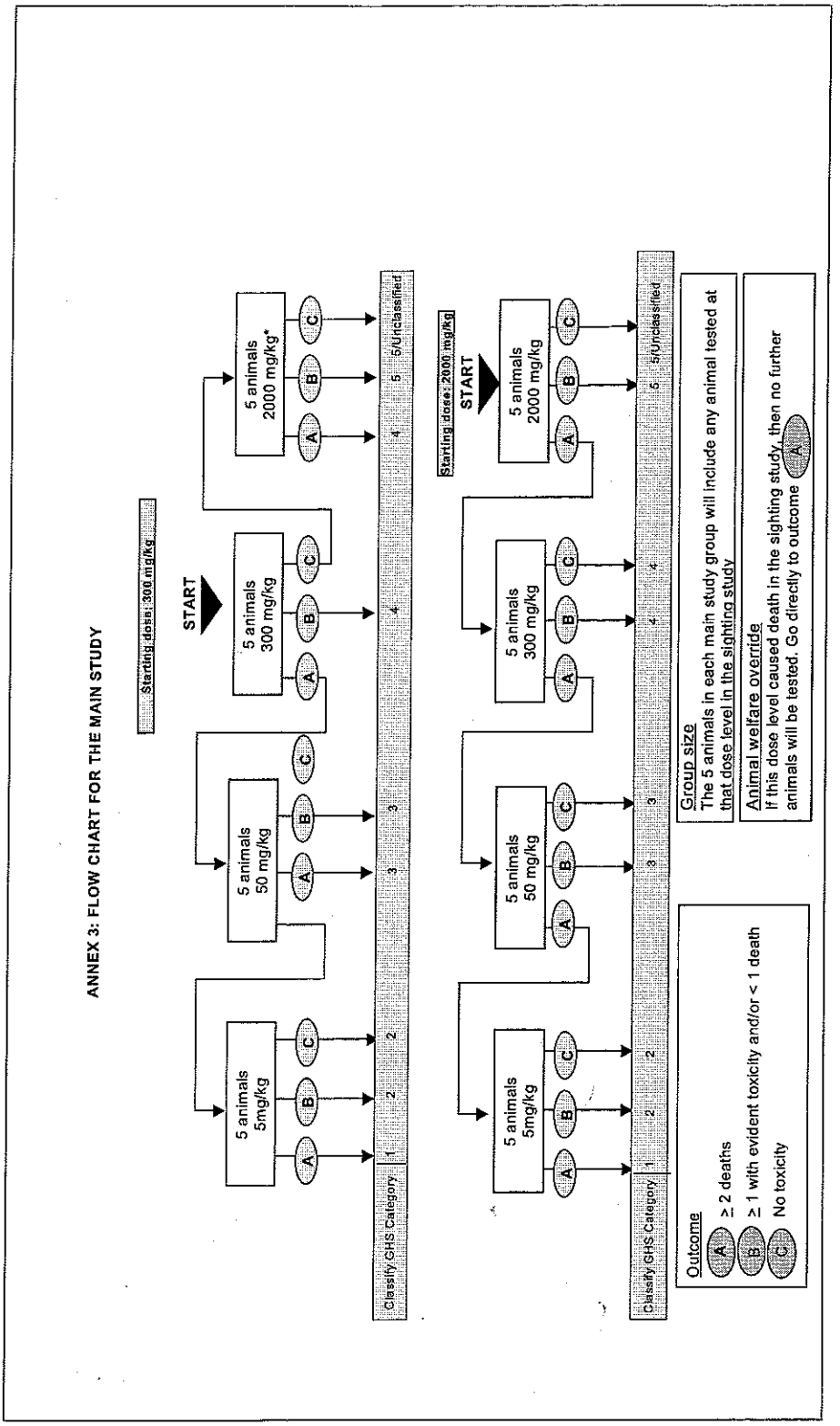


10/14


OECD/OCDE
420
ANNEX 3: FLOW CHART FOR THE MAIN STUDY
Starting dose: 5 mg/kg
START
5 animals 5mg/kg
5 animals 50 mg/kg
5 animals 300 mg/kg
5 animals 2000 mg/kg*
Classify GHS Category
1
2
3
4
5/Unclassified
Starting dose: 50 mg/kg
START
5 animals 5mg/kg
5 animals 50 mg/kg
5 animals 300 mg/kg
5 animals 2000 mg/kg
Classify GHS Category
1
2
3
4
5/Unclassified
Outcome
A ≥ 2 deaths
B ≥ 1 with evident toxicity and/or < 1 death
C No toxicity
Group size
The 5 animals in each main study group will include any animal tested at that dose level in the sighting study
Animal welfare override
If this dose level caused death in the sighting study, then no further animals will be tested. Go directly to outcome A

420

OECD/OCDE



OECD/OCDE 420

ANNEX 4

CRITERIA FOR CLASSIFICATION OF TEST SUBSTANCES WITH EXPECTED LD50 VALUES EXCEEDING 2000 MG/KG WITHOUT THE NEED FOR TESTING.

1. Criteria for hazard Category 5 are intended to enable the identification of test substances which are of relatively low acute toxicity hazard but which, under certain circumstances may present a danger to vulnerable populations. These substances are anticipated to have an oral or dermal LD50 in the range of 2000-5000 mg/kg or equivalent doses for other routes. Test substances could be classified in the hazard category defined by: 2000mg/kg <LD50 < 5000mg/kg (Category 5 in the GHS) in the following cases:

a) if directed to this category by any of the testing schemes of Annex 3, based on mortality incidences;
b) if reliable evidence is already available that indicates the LD50 to be in the range of Category 5 values; or other animal studies or toxic effects in humans indicate a concern for human health of an acute nature;
c) through extrapolation, estimation or measurement of data if assignment to a more hazardous category is not warranted and
   - reliable information is available indicating significant toxic effects in humans, or
   - any mortality is observed when tested up to category 4 values by the oral route, or
   - where expert judgement confirms significant clinical signs of toxicity, when tested up to Category 4 values, except for diarrhoea, piloerection or an ungroomed appearance, or
   - where expert judgement confirms reliable information indicating the potential for significant acute effects from the other animal studies.

TESTING AT DOSES ABOVE 2000 MG/KG

2. Exceptionally, and only when justified by specific regulatory needs, the use of an additional upper fixed dose level of 5000 mg/kg may be considered. Recognising the need to protect animal welfare, testing at 5000 mg/kg is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that the results of such a test would have a direct relevance for protecting animal or human health (9).

Sighting Study

3. The decision rules governing the sequential procedure presented in Annex 2 are extended to include a 5000 mg/kg dose level. Thus, when a sighting study starting dose of 5000 mg/kg is used outcome A (death) will require a second animal to be tested at 2000 mg/kg; outcomes B and C (evident toxicity or no toxicity) will allow the selection of 5000 mg/kg as the main study starting dose. Similarly, if a starting dose other than 5000 mg/kg is used then testing will progress to 5000 mg/kg in the event of outcomes B or C at 2000 mg/kg; a subsequent 5000 mg/kg outcome A will dictate a main study starting dose of 2000 mg/kg and outcomes B and C will dictate a main study starting dose of 5000 mg/kg.

Main Study

4. The decision rules governing the sequential procedure presented in Annex 3 are extended to include a 5000 mg/kg dose level. Thus, when a main study starting dose of 5000 mg/kg is used, outcome A (≥2 deaths) will require the testing of a second group at 2000 mg/kg; outcome B (evident toxicity and/or ≤1 death) or C (no toxicity) will result in the substance being unclassified according to GHS.

Similarly, if a starting dose other than 5000 mg/kg is used then testing will progress to 5000 mg/kg in the event of outcome C at 2000 mg/kg; a subsequent 5000 mg/kg outcome A will result in the substance being assigned to GHS Category 5 and outcomes B or C will lead to the substance being unclassified.

Appendix M5

OECD Guidance on Acute Oral Toxicity Testing

[This Page Intentionally Left Blank

Unclassified **ENV/JM/MONO(2001)4**

Organisation de Coopération et de Développement Economiques
Organisation for Economic Co-operation and Development

23-Jul-2001

English - Or. English

ENVIRONMENT DIRECTORATE
JOINT MEETING OF THE CHEMICALS COMMITTEE AND
THE WORKING PARTY ON CHEMICALS, PESTICIDES AND BIOTECHNOLOGY

ENV/JM/MONO(2001)4
Unclassified

OECD SERIES ON TESTING AND ASSESSMENT
Number 24

GUIDANCE DOCUMENT ON ACUTE ORAL TOXICITY TESTING

English - Or. English

JT00111082

OECD Environment, Health and Safety Publications

Series on Testing and Assessment

N° 24

GUIDANCE DOCUMENT ON ACUTE ORAL TOXICITY TESTING

Environment Directorate

ORGANISATION FOR ECONOMIC CO-OPERATION AND DEVELOPMENT

Paris

June 2001

Also published in the Series on Testing and Assessment

No. 1, *Guidance Document for the Development of OECD Guidelines for Testing of Chemicals (1993; reformatted 1995)*

No. 2, *Detailed Review Paper on Biodegradability Testing (1995)*

No. 3, *Guidance Document for Aquatic Effects Assessment (1995)*

No. 4, *Report of the OECD Workshop on Environmental Hazard/Risk Assessment (1995)*

No. 5, *Report of the SETAC/OECD Workshop on Avian Toxicity Testing (1996)*

No. 6, *Report of the Final Ring-test of the Daphnia magna Reproduction Test (1997)*

No. 7, *Guidance Document on Direct Phototransformation of Chemicals in Water (1997)*

No. 8, *Report of the OECD Workshop on Sharing Information about New Industrial Chemicals Assessment (1997)*

No. 9, *Guidance Document for the Conduct of Studies of Occupational Exposure to Pesticides During Agricultural Application (1997)*

No. 10, *Report of the OECD Workshop on Statistical Analysis of Aquatic Toxicity Data (1998)*

No. 11, *Detailed Review Paper on Aquatic Testing Methods for Pesticides and industrial Chemicals (1998)*

No. 12, *Detailed Review Document on Classification Systems for Germ Cell Mutagenicity in OECD Member Countries (1998)*

No. 13, *Detailed Review Document on Classification Systems for Sensitising Substances in OECD Member Countries (1998)*

No. 14, *Detailed Review Document on Classification Systems for Eye Irritation/Corrosion in OECD Member Countries (1998)*

No. 15, *Detailed Review Document on Classification Systems for Reproductive Toxicity in OECD Member Countries (1998)*

No. 16, *Detailed Review Document on Classification Systems for Skin Irritation/Corrosion in OECD Member Countries (1998)*

No. 17, *Environmental Exposure Assessment Strategies for Existing Industrial Chemicals in OECD Member Countries (1999)*

No. 18, *Report of the OECD Workshop on Improving the Use of Monitoring Data in the Exposure Assessment of Industrial Chemicals (2000)*

No. 19, *Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals used in Safety Evaluation (2000)*

No. 20, *Revised Draft Guidance Document for Neurotoxcity Testing (2000)*

No. 21, *Detailed Review Paper: Appriasal of Test Methods for Sex Disrupting Chemicals (2000)*

No. .22, *Guidance Document for the Performance of Out-door Monolith Lysimeter Studies (2000)*

No. 23, *Guidance Document on Aquatic Toxicity Testing of Difficult Substances and Mixtures (2000)*

About the OECD

The Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD) is an intergovernmental organisation in which representatives of 29 industrialised countries in North America, Europe and the Pacific, as well as the European Commission, meet to co-ordinate and harmonise policies, discuss issues of mutual concern, and work together to respond to international problems. Most of the OECD's work is carried out by more than 200 specialised Committees and subsidiary groups composed of Member country delegates. Observers from several countries with special status at the OECD, and from interested international organisations, attend many of the OECD's Workshops and other meetings. Committees and subsidiary groups are served by the OECD Secretariat, located in Paris, France, which is organised into Directorates and Divisions.

The work of the OECD related to chemical safety is carried out in the **Environment, Health and Safety Programme**. As part of its work on chemical testing, the OECD has issued several Council Decisions and Recommendations (the former legally binding on Member countries), as well as numerous Guidance Documents and technical reports. The best known of these publications, the **OECD Test Guidelines**, is a collection of methods used to assess the hazards of chemicals and of chemical preparations such as pesticides. These methods cover tests for physical and chemical properties, effects on human health and wildlife, and accumulation and degradation in the environment. The OECD Test Guidelines are recognised world-wide as the standard reference tool for chemical testing.

More information about the Environment, Health and Safety Programme and its publications (including the Test Guidelines) is available on the OECD's World Wide Web site (see next page).

The Environment, Health and Safety Programme co-operates closely with other international organisations. This document was produced within the framework of the Inter-Organisation Programme for the Sound Management of Chemicals (IOMC).

The Inter-Organization Programme for the Sound Management of Chemicals (IOMC) was established in 1995 by UNEP, ILO, FAO, WHO, UNIDO and the OECD (the Participating Organisations), following recommendations made by the 1992 UN Conference on Environment and Development to strengthen co-operation and increase international co-ordination in the field of chemical safety. UNITAR joined the IOMC in 1997 to become the seventh Participating Organisation. The purpose of the IOMC is to promote co-ordination of the policies and activities pursued by the Participating Organisations, jointly or separately, to achieve the sound management of chemicals in relation to human health and the environment.

INTRODUCTION

1. OECD Guidelines for the Testing of Chemicals are periodically reviewed in the light of scientific progress or changing assessment practices. The conventional acute oral toxicity test (formerly OECD Test Guideline 401) is the most heavily criticised test in terms of animal welfare and this concern was the driving force behind the development of three alternative tests for acute oral toxicity (Test Guideline 420, 423, 425). Anticipating the presence of validated alternatives, Member countries took the initiative to plan the deletion of Guideline 401.

2. A Nominated Expert Meeting (Rome 1998) and an Expert Consultation Meeting, (Arlington 1999) were convened to determine the acute oral toxicity data requirement needs of Member countries and to assess the capabilities of the alternatives to meet these needs. On the basis of these technical discussions, the 29th Joint Meeting concluded in June 1999 that not all data needs could be met by the alternatives (and not always by Guideline 401). The Joint Meeting decided that Guidelines 420, 423 and 425 should be revised to meet regulatory needs of the Member countries including, where possible, the provision of confidence intervals and the slope of the dose response curve, to support classification and assessment of acute toxicity at 5 and at 5000 mg/kg, and should include the use of a single sex, appropriate statistical methods and, to the extent feasible, a reduction in the number of animals used and the introduction of refinements to reduce the pain and distress of the animals. The guidelines should also be able to allow the classification of substances according to the Globally Harmonised System (GHS) for the classification of chemicals which cause acute toxicity (1).

3. The revision of Guidelines 420, 423 and 425 was completed in 2000 following a second Expert Consultation Meeting (Paris, 2000) and the process of deletion of guideline 401 was started.

PURPOSE

4. The purpose of this Guidance Document is to provide information for both the regulated community and regulators to assist with the choice of the most appropriate Guideline to enable particular data requirements to be met while reducing the number of animals used and animal suffering. The Guidance Document also contains additional information on the conduct and interpretation of Guidelines 420, 423 and 425.

DATA NEEDS

5. Acute oral toxicity data are used to satisfy hazard classification and labelling requirements, for risk assessment for human health and the environment, and when estimating the toxicity of mixtures. The provision of either a point estimate of the LD_{50} value or range estimate of the LD_{50} generally meets the acute oral toxicity data requirements for classification for all regulatory authorities in the areas of industrial chemicals, consumer products and for many pesticide applications. OECD document "Revised Analysis of Responses Received from Member Countries to the Questionnaire on Data Requirements for Acute Oral Toxicity" provides an overview of acute toxicity data requirements applicable in 1999 (2). The data needs of the majority of Member countries can also be met with the imposition of a limit dose of 2000 mg/kg. However, several countries have a requirement for information on toxicity at dose levels in the range 2000 to 5000 mg/kg for substances with LD_{50} values in excess of 2000 mg/kg. Although many authorities find it acceptable to use data from observations made at doses of 2000 mg/kg or below, as

described in the GHS classification criteria (which includes a 2000-5000 mg/kg category), testing in this range may be necessary to meet the needs of a few regulatory authorities. For example, some authorities regulating consumer products and pesticides need a point estimate of LD_{50} and confidence intervals, and information on toxicity at levels up to or above 5000 mg/kg. These authorities use LD_{50} data in this way for assessment of risk to humans and also for risk assessments for environmental effects to avoid the need for further animal studies on pesticide products. Furthermore, at least one country has a need for a test at 5000 mg/kg for biological and safer pesticides and products to which the general public are exposed, to provide characterisation of acute toxicity and to support bridging across data sets for structurally related substances, again to eliminate or minimise the requirements for additional animal testing. For reasons of animal welfare concern, testing of animals in GHS category 5 ranges (2000-5000mg/kg) is discouraged and should only be considered when there is a strong likelihood that results of such a test have a direct relevance for protecting human or animal health or the environment.

6. Some national and international regulatory systems estimate the toxicity of mixtures from calculations using weighted averages of the LD_{50} point estimate of the components when actual data on the mixture are not available. The resulting calculated toxicity values are used for hazard classification of mixtures. A dose response curve is also sometimes needed for extrapolation and a reliable identification of hazard and risk posed by mixtures, to avoid testing each mixture and thus to allow a significant saving of animal use. At present, agreed approaches for estimating the toxicity of mixtures using range data are only accepted in the EU and in some other countries. However, the OECD Expert Group on Hazard Classification Criteria for Mixtures has recently agreed that mixtures can be classified using either point or range estimates of the LD50 of each component (3).

7. Acute oral toxicity testing by OECD methods is not required for pharmaceuticals. Pharmaceutical methods are specified by the International Committee on Harmonisation (ICH). In some specific cases such as imaging and antineoplastic agents, estimates of acute toxicity are needed to support single dose studies in man. These studies call for testing to fully characterise the toxicity in the low toxicity region and may involve doses above 2000 mg/kg. However, the study designs for these special purpose studies are different from any of the current OECD acute toxicity guidelines.

COMPARISON OF GUIDELINES 420, 423 AND 425

Outline Of The Methodology

8. All of the guidelines involve the administration of a single bolus dose of test substance to fasted healthy young adult rodents by oral gavage, observation for up to 14 days after dosing, recording of body weight and the necropsy of all animals. Doses may be administered based on a constant volume or a constant concentration depending upon the needs of the toxicologist and the regulatory authorities. Some authorities prefer that substances sold to the public should be tested as constant concentration unless the volumes are too small to administer accurately. Since the effects at the same dose may be different if the materials are diluted, it is important for the toxicologist to consider how the information will be used. If the material will primarily be used diluted in mixtures, then constant volume may be appropriate. On the other hand, if the material is to be used neat, particularly if it may be irritating, the use of constant concentration will be more appropriate (4)(5).

9. Each animal should be selected from the available animals in a random fashion on the day of dosing. In recognition of the fact that most animal suppliers do not indicate littermates, the guidelines do not call for randomizing animals from a single litter across dose groups. Females should be nulliparous

and non-pregnant. At the commencement of its dosing, each animal should be between 8 and 12 weeks old and its weight should fall in an interval within ±20% of the mean weight of all previously dosed animals taken on their day of dosing. As the mean weight will increase as the animals age, this method tends to correct for the change in animals weights with time. In order to conform to these age and weight requirements at the start of dosing of each animal, it may be necessary to order animals sequentially as the tests can sometimes take several weeks to complete. The primary endpoint for Guidelines 423 and 425 is mortality, but for Guideline 420 it is the observation of clear signs of toxicity (termed: evident toxicity).

10. **Guideline 420:** A sighting study is included for Guideline 420 in order to choose an appropriate starting dose and to minimise the number of animals used. Pre-specified fixed doses of 5, 50, 300 or 2000 mg/kg are used both in the sighting study and the main study. There is an option to use an additional dose level of 5000 mg/kg, but only when justified by a specific regulatory need. Groups of animals are dosed in a stepwise procedure, with the initial dose being selected as the dose expected to produce some signs of toxicity. Further groups of animals may be dosed at higher or lower fixed doses, depending on the presence of signs of toxicity, until the study objective is achieved; that is, the classification of the test substance based on the identification of the dose(s) causing evident toxicity, except when there are no effects at the highest fixed dose.

11. **Guideline 423:** Pre-specified fixed doses of 5, 50, 300 or 2000 mg/kg are used. There is an option to use an additional dose level of 5000 mg/kg, but only when justified by a specific regulatory need. Groups of animals are dosed in a stepwise procedure, with the initial dose being selected as the dose expected to produce mortality in some animals. Further groups of animals may be dosed at higher or lower fixed doses, depending on the presence of mortality, until the study objective is achieved; that is, the classification of the test substance based on the identification of the dose(s) causing mortality, except when there are no effects at the highest fixed dose.

12. **Guideline 425:** This is also a stepwise procedure, but uses single animals, with the first animal receiving a dose just below the best estimate of the LD_{50}. Depending on the outcome for the previous animal, the dose for the next is increased or decreased, usually by a factor of 3.2. This sequence continues until there is a reversal of the initial outcome (i.e., the point where an increasing dose results in death rather than survival, or decreasing dose results in survival rather than death); then, additional animals are dosed following the up-down principle until a stopping criterion is met. If there is no reversal before reaching the selected upper (2000 or 5000 mg/kg) limit dose, then no more than a specified number of animals are dosed at the limit dose. The option to use an upper limit dose of 5000 mg/kg should be taken only when justified by a specific regulatory need.

Animal Welfare Considerations

13. All three Guidelines provide significant improvements in the number of animals used in comparison to Guideline 401, which required 20 animals in a test at least. In addition, they all contain a requirement to follow the OECD Guidance Document on Humane Endpoints (6) which should reduce the overall suffering of animals used in this type of toxicity test. Furthermore, Guideline 420 has as its endpoint evident toxicity rather than mortality and uses a sighting study to minimize the numbers of animals and Guideline 425 has a stopping rule which limits the number of animals in a test.

14. **Guideline 420:** Groups of five young adult animals of one sex are dosed per step in the main study. Single animals are used per step in the sighting study. Regulatory experience and statistical modelling has shown that most tests are likely to be completed with either one or two sighting study steps and one main study step, thus using between 5 and 7 animals. Up to 5 animals are used in a limit test.

15. **Guideline 423:** This test uses groups of 3 animals of one sex per step. Regulatory use of this Guideline demonstrates that the average number of animals used is 7. Up to 6 animals are used in a limit test.

16. **Guideline 425:** This test uses single animals of one sex. Statistical modelling indicates that the average number of animals used in this test is about 6-9. Up to 5 animals are used in a limit test.

17. The following estimates of the number of treatment related deaths for tests conducted on substances with LD_{50} values below 5000 mg/kg are based on practical experience and validation studies using earlier versions of these guidelines and statistical modelling.

- **Guideline 420:** typically 1 animal can be expected to die on test.
- **Guideline 423:** 2-3 animals per test can be expected to die in a full test.
- **Guideline 425:** the expected number of deaths is between 2 and 3.

18. For all three guidelines, careful clinical observations should be made at least twice on the day of dosing or more frequently when indicated by the response of the animals to the treatment, and at least once daily thereafter. Additional observations are made if the animals continue to display signs of toxicity. Observations include changes in skin and fur, eyes and mucous membranes, and also respiratory, circulatory, autonomic and central nervous systems, and somatomotor activity and behaviour pattern. Guidance on clinical signs can be found in Chan and Hayes (5). Animals that are moribund or suffering severe pain and distress must be humanely killed. Guidance on clinical signs and objective measurements that are indicative of impending death and/or severe pain and/or distress is available in an OECD Guidance Document (6). Humanely killed animals are considered in the interpretation of the results in the same way as animals that died on test.

Information Provided By Each Method

19. Test Guidelines 420 and 423 provide a range estimate of the LD_{50}; the ranges are defined by cut-off values of the applied classification system and not as a calculated lower and upper level. In the case of Test Guideline 420 this range is inferred from the fixed dose which produces evident toxicity. Guideline 425 provides a point-estimate of the LD_{50} value with confidence intervals.

20. The results of tests conducted according to Guideline 425 will allow a test substance to be classified according to all the systems in current use, including the new GHS. Test Guidelines 420 and 423 have now been revised to allow classification according to the new GHS. However, in order to cover the transition period until the global implementation of the GHS both Guidelines also allow classification according to existing systems as shown in Annex 1 and 2.

Limitations Of The Methods

21. Validations against actual data and statistical simulations identified areas where all three methods may have outcomes which result in a more or less stringent classification than that based on the "true" LD_{50} value (as obtained by the deleted guideline 401). Comparative statistical analysis (see Annex 3) indicated that all are likely to perform poorly for chemicals with shallow dose-response slopes. For all methods, the study outcome is likely to be influenced by the choice of starting dose level(s), relative to the "true" LD_{50} value, especially in the case of shallow slopes. Because Guideline 420 uses evident toxicity as

an endpoint instead of death, information on toxic effects seen only at dose levels close to a lethal dose will not always be obtained (7).

22. Unusually test substances may cause delayed deaths (5 days or more after test substance administration). Substances which cause delayed deaths have an impact on the practicality of conducting a study to Guideline 425 where the duration of testing will be significantly longer compared with other test methods. However, both in Guideline 420 and 423, the finding of a delayed death may require additional lower dose levels to be used or a study to be repeated.

OPTIMISING THE PERFORMANCE OF THE TEST

23. Each guideline provides procedures to assist in selecting the starting dose, particularly in the event that minimal prior information on the substance itself is available. All available information on the test substance must be made available to the testing laboratory and should be considered prior to conducting the study. Such information will include, for example, the identity and chemical structure of the substance; its physico-chemical properties; the result of any other *in vivo* or *in vitro* toxicity tests on the substance; toxicological data on structurally related substances; the anticipated use(s) of the substance; and the likely regulatory data requirements. This information is necessary to satisfy all concerned that the test is relevant for the protection of human and animal health and mammalian wildlife, to select the most appropriate test to satisfy regulatory requirements and will help in the selection of the starting dose.

24. For all three methods the efficiency of the test, in terms of reliability and numbers of animals used, is optimised by the choice of a starting dose close to (423) or just below (425) the actual LD_{50} or the lowest dose producing evident toxicity (420). When this type of information is not available, all three Guidelines include advice on the starting dose level which should be used to minimise the possibility of biased outcome and adverse effects on animal welfare. As a general principle it is suggested that a starting dose is selected that is slightly lower than the best estimate of the LD_{50} based on available evidence.

25. The limit test is an efficient way to characterise substances of low toxicity when there is sufficient information available indicating that the toxic dose is higher that the limit dose. Each method provides a limit test suitable to the design of the main study. A Limit Test should be conducted only when there are strong indications that the test substance is of low or negligible acute toxicity.

USE OF A SINGLE SEX

26. Guidelines 420, 423 and 425 are conducted using a single sex in order to reduce variability and as a means of minimising the number of animals used. Normally females are used. This is because literature surveys of conventional LD_{50} tests show that usually there is little difference in sensitivity between the sexes but, in those cases where differences were observed, females were generally slightly more sensitive (8). Although the use of a single sex (females) also contributes to a further decrease in the use of animals in testing, theoretically this may lead to an oversupply of the other sex (males). However, currently the use of males in experimental animal tests clearly exceeds that of females and, thus, the preference for females in acute toxicity testing may well result in a better overall balance of the use of both genders. For chemicals which are direct acting in their toxic mechanism, this may be because female rats have a lower detoxification capacity than males, as measured by specific activity of phase I and II enzymes. However, all available information should be evaluated, for example on chemical analogues and the results of testing for other toxicological endpoints on the chemical itself, as this may indicate that

males may be more sensitive than females. Knowledge that metabolic activation is required for a chemical's toxicity can also indicate that males may be the more sensitive sex.

27. Occasionally, the results of subsequent testing, for example a sub-chronic test, may raise concerns that the more sensitive sex had not been used. In such cases, and only when considerable differences between the sexes are suspected, it may be necessary to conduct another full acute oral toxicity study in the second sex. This is preferable to conducting confirmatory testing in a small group of animals of the second sex as a late satellite to the original test because there is a strong possibility that this would produce results that are difficult to interpret. The impact of conducting a second full test on the overall number of animals used in acute toxicity testing should be small because re-testing is anticipated to be infrequent and the results of the test in one sex, together with data from any subsequent studies, will greatly assist in the selection of starting doses closer to the LD50 in the second test.

REFERENCES

(1) OECD (1998) A Harmonised Integrated Hazard Classification System for Human Health and Environmental Effects of Chemicals. ENV/MC/CHEM/HCL(98)15/REV2.

(2) OECD(1999). Revised Analysis of Responses Received from Member Countries to the Questionnaire on Data Requirements for Acute Oral Toxicity. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment N° 26 [http:// www.oecd.org/ehs/test/monos/htm.]

(3) OECD(2000).Revised Step 2 Proposal for Harmonised Classification Criteria for Mixtures. ENV/JM/HCL(2000)9/REV8.

(4) The Conduct of Acute Toxicity Studies, September 1977, E.P.A. document # 737-R-97-002.

(5) Chan P.K. and Hayes A.W. (1994). Acute Toxicity and Eye Irritancy. In: Principles and Methods of Toxicology. A.W Hayes, Ed. Raven Press Ltd, New York.

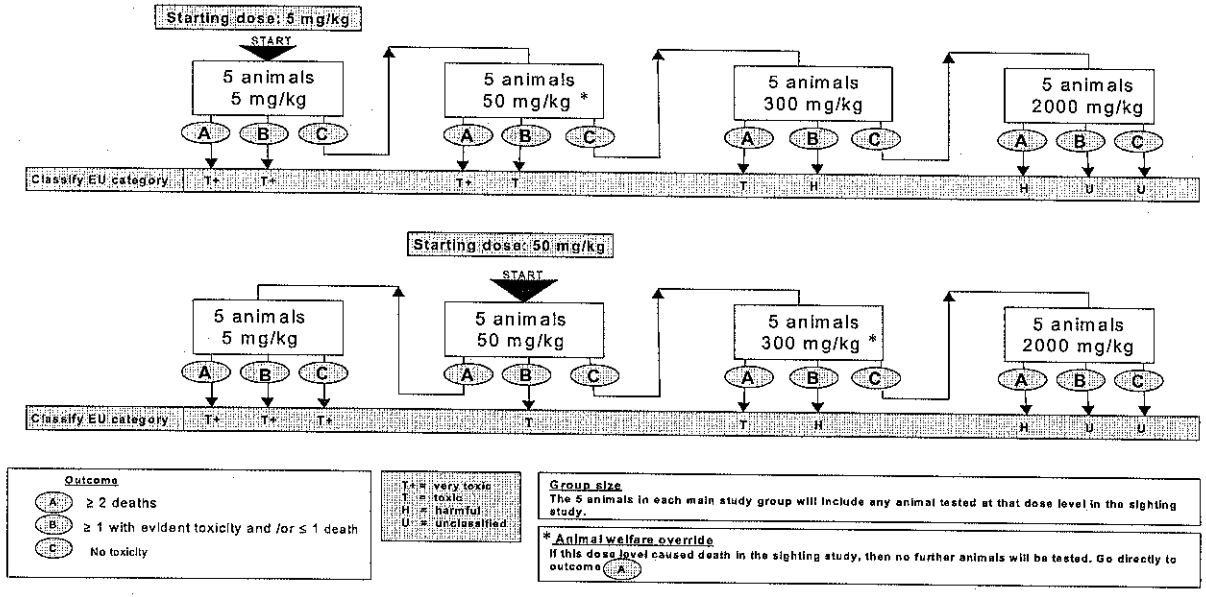
(6) OECD (2000). Guidance Document on the Recognition, Assessment and Use of Clinical Signs as Humane Endpoints for Experimental Animals used in Safety Evaluation. Environmental Health and Safety Monograph Series on Testing and Assessment No. 19, September 2000. [http://www.oecd.org/ehs/test/monos/htm]

(7) Van der Heuvel, M.J., Clark, D.G., Fielder, R.J., Koundakjian, P.P., Olivier, G.J.A., Pelling, D., Tomlinson, N.J. and Walker, A.P. (1990). The international validation of a fixed-dose procedure as an alternative to the classical LD_{50} test. Fd. Chem. Toxicol. 28, 469-482.

(8) Lipnick R.L, Cotruvo J.A., Hill R.N., Bruce R.D., Stitzel K.A., Walker A.P., Chu, I., Goddard M., Segal L., Springer J.A., Myers R.C. (1995). Comparison of the Up-and-Down, Conventional LD50 and Fixed Dose Acute Toxicity Procedures. Fd. Chem. Toxicol. 33, 223-231.

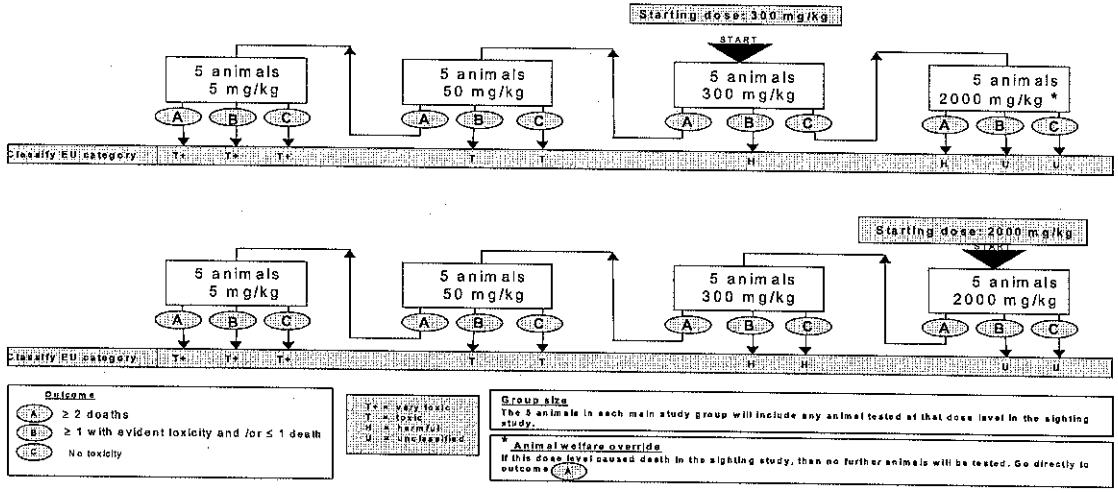
ANNEX 1

TEST GUIDELINE 420 MAIN STUDY: CLASSIFICATION ACCORDING TO THE CURRENTLY STILL APPLICABLE EU SCHEME TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL IMPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CLASSIFICATION SYSTEM (GHS)



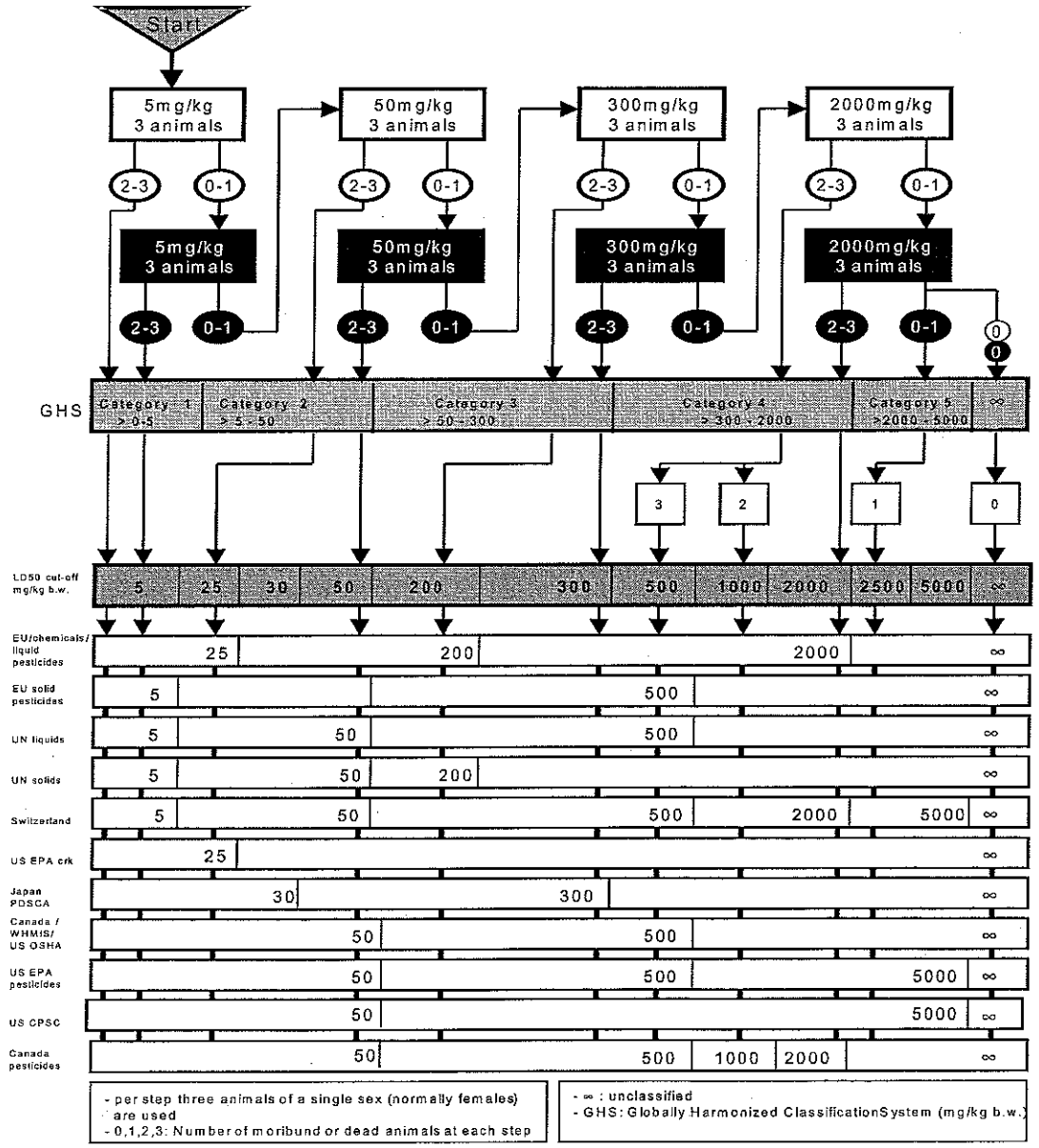
ANNEX 1 (continued)

TEST GUIDELINE 420 MAIN STUDY: CLASSIFICATION ACCORDING TO THE CURRENTLY STILL APPLICABLE EU SCHEME TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL IMPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CLASSIFICATION SYSTEM (GHS)



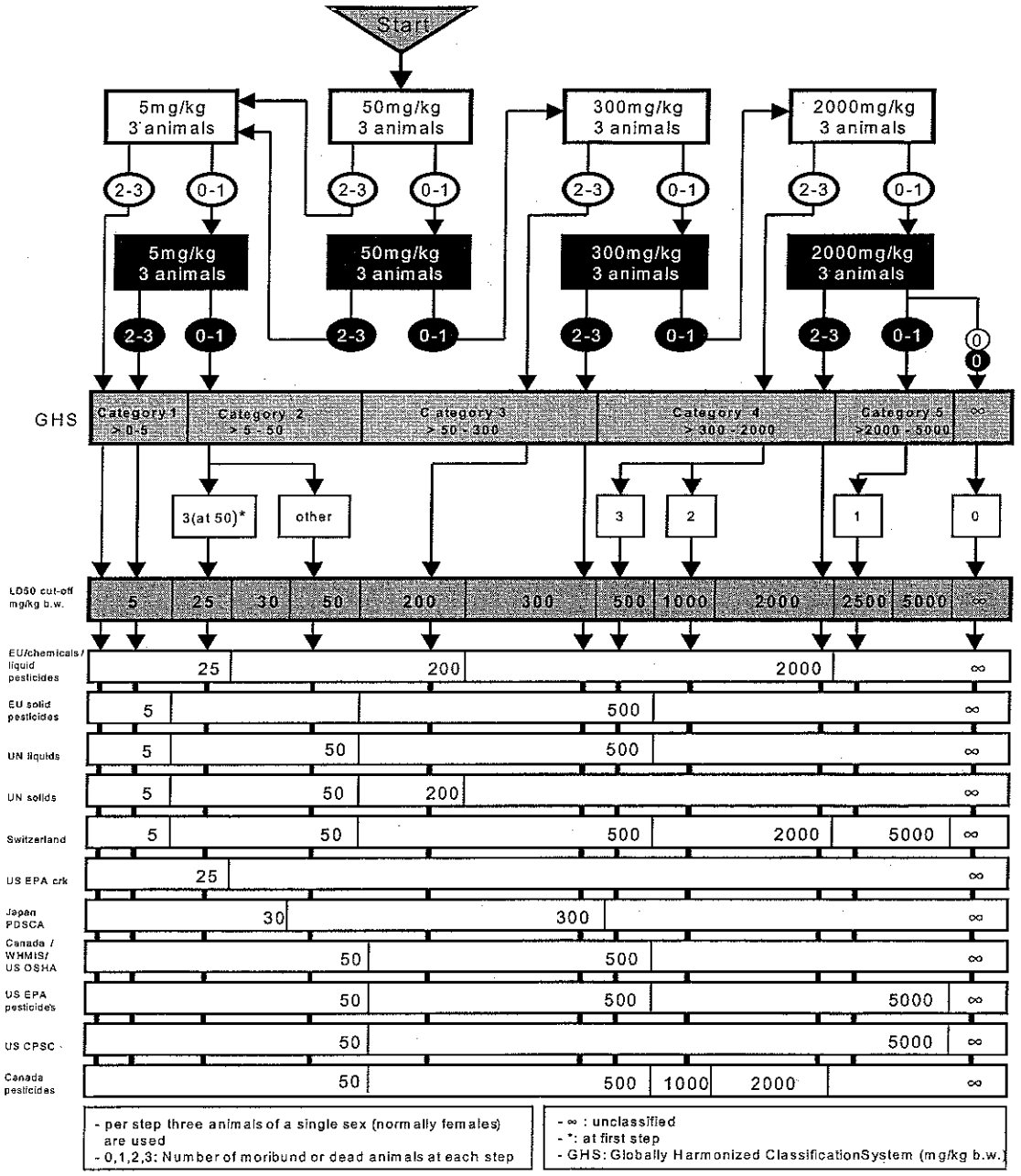
ANNEX 2

TEST GUIDELINE 423: CLASSIFICATION ACCORDING TO CURRENTLY STILL APPLICABLE CLASSIFICATION SCHEMES TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL IMPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CASSIFICATION SYSTEM (GHS)



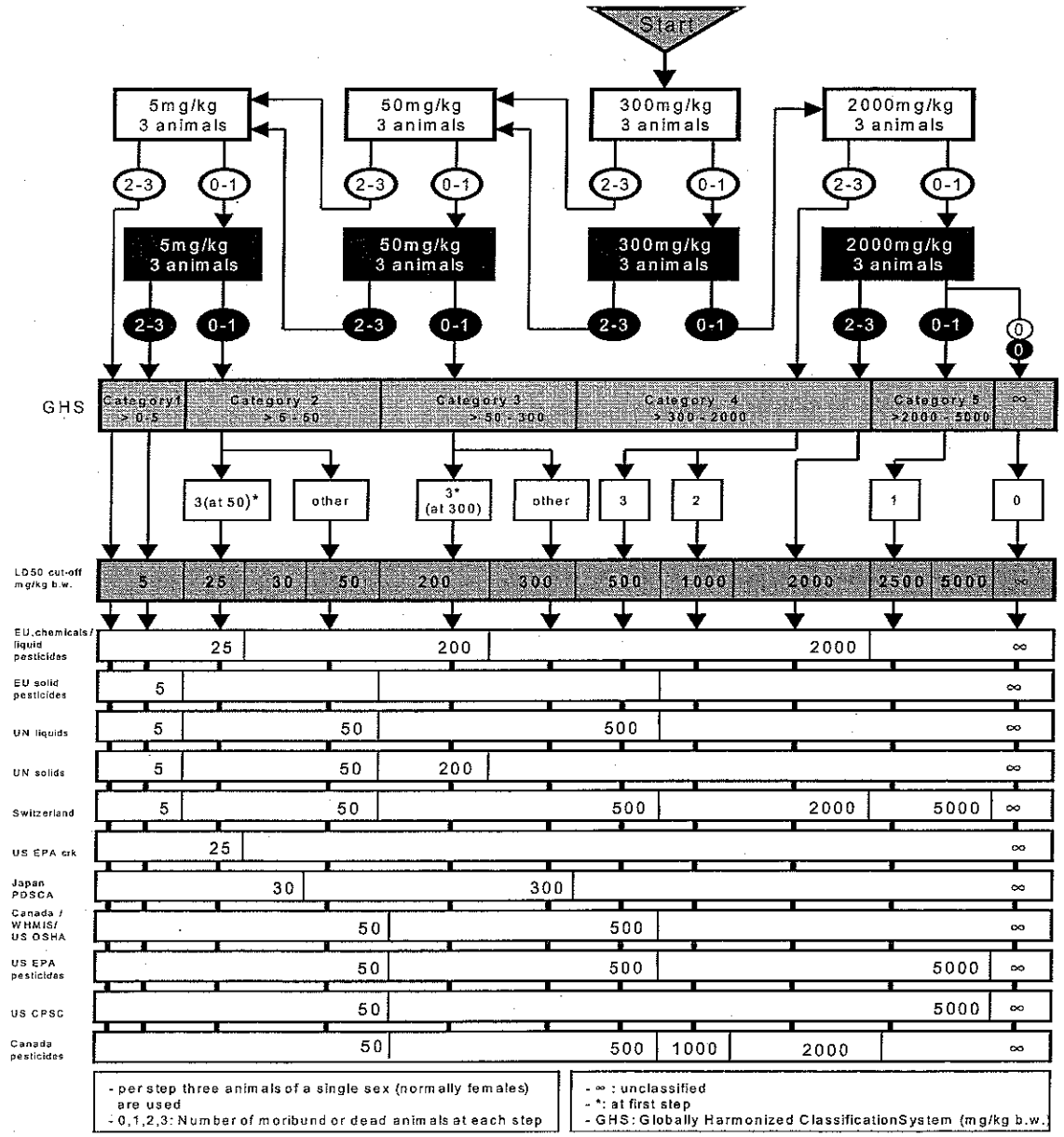
ANNEX 2 (continued 1)

TEST GUIDELINE 423: CLASSIFICATION ACCORDING TO CURRENTLY STILL APPLICABLE CLASSIFICATION SCHEMES TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL IMPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CASSIFICATION SYSTEM (GHS)



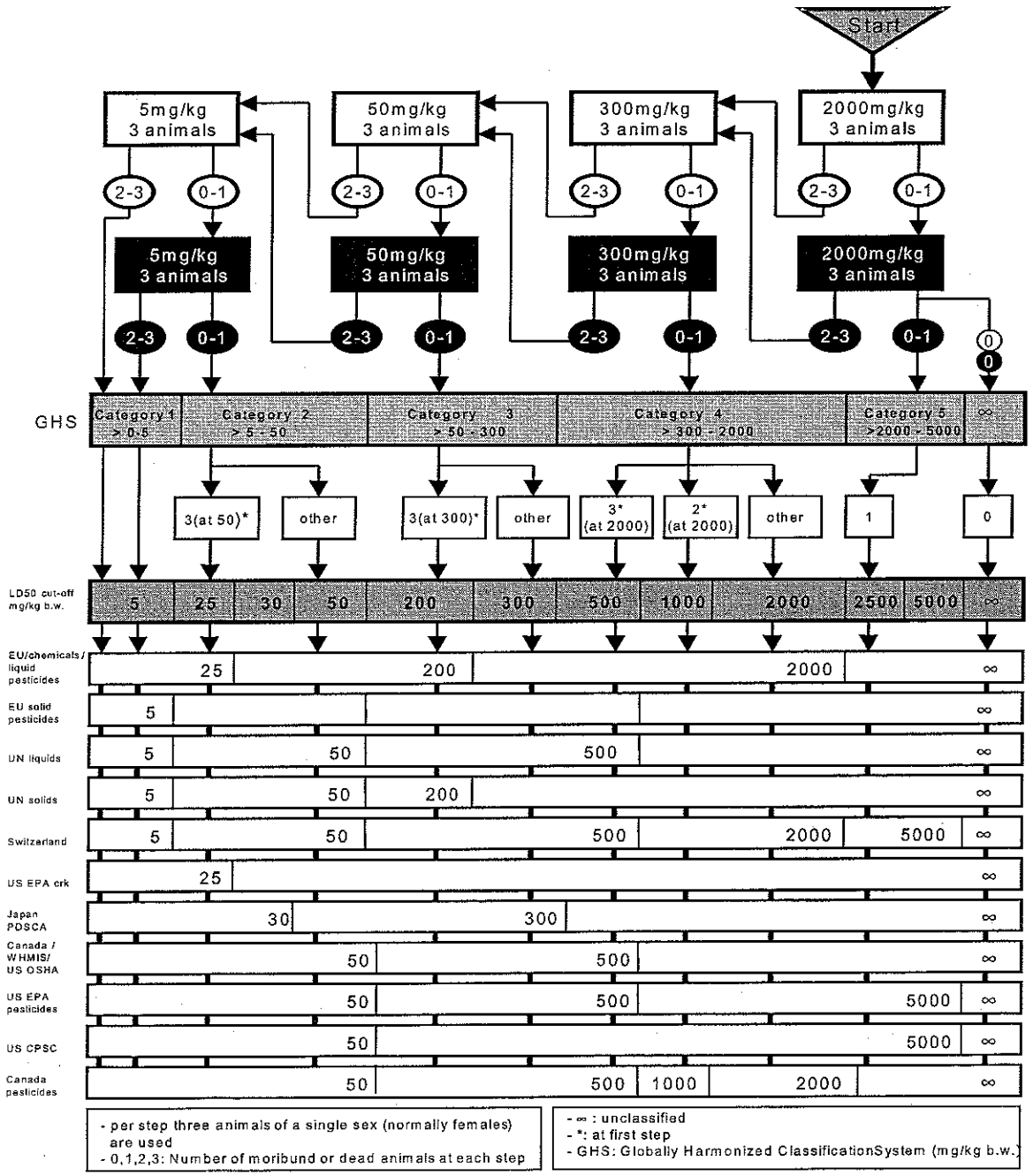
ANNEX 2 (continued 2)

TEST GUIDELINE 423: CLASSIFICATION ACCORDING TO CURRENTLY STILL APPLICABLE CLASSIFICATION SCHEMES TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL MPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CASSIFICATION SYSTEM (GHS)



ANNEX 2 (continued 3)

TEST GUIDELINE 423: CLASSIFICATION ACCORDING TO CURRENTLY STILL APPLICABLE CLASSIFICATION SCHEMES TO COVER THE TRANSITION PERIOD UNTIL FULL IMPLEMENTATION OF THE GLOBALLY HARMONISED CASSIFICATION SYSTEM (GHS)



ANNEX 3

STATISTICAL BASIS FOR ESTIMATING ACUTE ORAL TOXICITY COMPARISON OF OECD GUIDELINES 420, 423 AND 425

INTRODUCTION

1. This document describes the statistical strengths and limitations of the various methods for accurately determining a point estimate of the LD_{50}, confidence limits around the point estimate of LD_{50}, and information on the dose-effect response. In this context, a dose-response curve applies to the estimation of lethality and a dose-effect response applies to the estimation of the change in the variety and distribution of all other types of toxicological signs with the change in dose. By design not all of the guidelines will provide estimates for all of these endpoints. This document allows the reader to quickly identify the tests that will meet his or her particular needs.

2. The statistical basis for all test methods is that lethality is a quantal response. Its measurement will give rise to a frequency distribution of responses reflecting the composite tolerances of the test population upon exposure to graded doses of the test chemical. In practice, most chemicals give rise to an approximately lognormal distribution of deaths versus dose, skewed toward hypersensitivity. When this frequency population is transformed to a logarithmic abscissa, a (symmetric) normal distribution generally results that can be characterized by two parameters, the median and the standard deviation, SD. The median is the dose at which 50% of the animals are killed by the test chemical and is called the LD_{50}. Not all animals will react in the same way to the chemical and thus SD represents the square root of the variance of the test populations' response to the chemical. The dose-response curve is sigmoidal in nature and represents the cumulative response of the test animals to the chemical. The inflection point of this sigmoidal curve coincides with the LD_{50} for the test population.

3. What follows is a brief description of the mathematical and biological principles underlying each acute oral toxicity method followed by a listing of how each test estimates or does not estimate the specific parameters mentioned above.

GUIDELINE 420 :FIXED DOSE PROCEDURE

Principles Underlying The Test Method

4. The Fixed Dose Procedure (FDP) is a method for assessing acute oral toxicity that involves the identification of a dose level that causes evidence of non-lethal toxicity (termed *evident* toxicity) rather than a dose level that causes lethality. *Evident toxicity* is a general term describing clear signs of toxicity following administration of test substance, such that an increase to the next highest fixed dose would be expected to result in the development of severe toxic signs and probably mortality.

5. Underpinning the FDP is a belief that the toxic profile of a substance can be characterized with sufficient reliability for most regulatory situations without the need for the identification of a lethal dose. That is, observations made at non-lethal doses will allow substances to be ranked, or classified, according to their acute toxicity, provide information to aid dose level selection for repeat dose studies and provide hazard data for use in a risk assessment. The original FDP was subject to a number of validation and comparison studies, which showed that classification outcome was similar to that based on the outcome of traditional tests for determining an LD_{50} value (1)(2)(3)(4)(5).

6. Fixed dose levels of 5, 50, 300 and 2000 mg/kg and rules for the sequential procedure were adopted following a rigorous analysis using a statistical model (6)(7). The analysis predicted the classification outcome (according to the EU scheme and the lethality-based GHS), numbers of animals used and number of substance-related deaths using a number of FDP design options for substances with a range of LD_{50} values and dose response slopes for lethality. On the basis of this analysis, the design of the FDP was optimised with respect to classification performance and animal welfare.

7. The statistical modelling showed that the FDP produces classification outcomes similar to that based on the LD_{50} value for substances with a steep (greater than 2) dose response curve for mortality. For substances with a relatively shallow (less than 2) dose response curve there is an increasing probability the FDP will produce a more stringent classification than that based on the LD_{50} value; however, the risk of a less stringent classification than that based on the LD_{50} value is negligible. The influence of the choice of starting dose on the classification outcome, which can be a problem with sequential procedures, is negligible.

Point Estimate of LD_{50}

8. The FDP is not designed to determine a point estimate of LD_{50}. However, an approximate LD_{50} range can be inferred from the classification outcome. The ability of the FDP to correctly classify (i.e. assign to an LD_{50} range) is discussed above.

Confidence Limits on the Estimate of LD_{50}

9. The FDP is not designed to determine a point estimate of LD_{50}, or confidence limits on the estimate of the LD_{50}.

Dose-Effect Curve

10. Since lethality is not the preferred endpoint for the FDP, information on toxicological effects seen only at dose levels close to a lethal dose will not always be available. However, it has been shown in a number of validation and comparative studies (1)(2)(3)(4)(5)(6) that while there were instances where clinical signs observed in FDP tests differed from those observed in traditional LD_{50} tests, in only a few cases were these meaningful. In the majority of cases, the clinical signs not observed in the FDP tests were non-specific signs of approaching death.

GUIDELINE 423 : ACUTE TOXIC CATEGORY METHOD

Principles Underlying The Test Method

11. The acute toxic category (ATC) method allows for the allocation of chemical substances to all classification systems currently in use (e.g.. the LD_{50} is between 50 and 500 mg/kg body weight) (8)(9). It is a group sequential procedure using three animals of one sex per step. Four pre-identified starting doses are possible.

12. The ATC Method is based on the probit model; i.e., the dose-response relationship follows the Gaussian distribution for log-dose values with two parameters, the mean (LD_{50}) and the slope in probit units based on the log-scaled dose-axis (logarithm according to base 10). Then, following the test scheme of the method, expected probabilities of a correct, of a lower and of a more stringent classification in dependence on the true oral LD_{50} value of a substance and its slope can be derived.

13. The test doses were selected with respect to the Globally Harmonized Classification system. It

has been shown that the probabilities of correct classification is greatest when test doses and category limits are identical. The minimal distance factor between two neighboring toxic classes has to be 4 for slopes of at least 1 to achieve a probability of correct classification of at least 0.5 for at least one LD_{50} value in each category. For a slope of at least 1 the probability of an allocation to a lower than correct toxic category is limited to 0.256.

14. There is only a low dependence on the starting dose with respect to classification results, especially for slopes of greater than 1. With increasing slopes or increasing LD_{50} values this influence decreases and tends toward zero for an unlimited increase of slope or LD_{50}. Also for infinitely low values of LD_{50} the influence becomes zero.

15. There is a strong dependence on the starting dose with respect to expected numbers of animals used and of moribund/dead animals. Therefore an appropriate starting dose should be near the true LD_{50} of the substance to be tested to minimise the number of animals used.

Point estimate of LD_{50}

16. The ATC was not designed to determine a point estimate of LD_{50}. However, a point estimate of the LD_{50} can be calculated by the maximum likelihood method providing there are at least two doses with mortality rates not equal to 0% or 100%. However, the probability of two such doses is rather low because the distance between two neighboring doses is 6- to 10-fold and up to six animals per dose are used (10).

Confidence Limits On The Estimate Of LD_{50}

17. The ATC was not designed to determine a point estimate of LD_{50}, or confidence limits. Providing there are at least three doses, two of which have mortality rates not equal to 0% or 100%, the maximum likelihood method can be used to calculate and broad confidence limits on the estimated LD_{50}.

Dose-Effect Curve

18. The ATC was not designed to determine a dose-effect curve for the LD_{50}. However, dose-effect curves can be calculated by the maximum likelihood method providing there are at least three doses, two with the specific toxic signs not present in 0% or 100% of the animals.

GUIDELINE 425:UP-AND-DOWN METHOD

Principles Underlying the Test Method

19. The concept of the up-and-down (UDP) testing approach (sometimes called a Staircase Design) was first described by Dixon and Mood (11)(12). There have been papers on such issues as its use with small samples (13) and its use with multiple animals per dose (14). One of the most extensive discussions appears in a draft monograph prepared by W. Dixon and Dixon Statistical Associates for a U.S. National Institutes of Health [NIH] Phase I Final Report, Reduction in Vertebrate Animal Use in Research, produced under SBIR Grant No. 1-R43-RR06151-01(15). This draft monograph is available from its author for a fee or from the National Center for Research Resources of the NIH to individuals under the Freedom of Information Act.

20. In 1985, Bruce proposed the use of the UDP for the determination of acute toxicity of chemicals (16). While there exist several variations of the up-and-down experimental design, Guideline 425 is a modification of the procedure of Bruce as adopted by ASTM in 1987 (17). The guideline provides a main

test, for LD_{50} point estimation and a computational procedure, used together with the main test to calculate confidence intervals. The UDP calls for dosing individual animals of a single sex, usually females, in sequence at 48-hour intervals, with the initial dose set just below "the toxicologist's best estimate of the LD_{50}," or at 175 mg/kg if no such estimate is possible. Following each death (or moribund state) the dose is lowered; following each survival, it is increased, according to a pre-specified dose progression factor. If a death follows an initial direction of increasing doses, or a survival follows an initial direction of decreasing dose, additional animals are tested following the same dose adjustment pattern and testing is ended if certain criteria are met. The OECD 425 protocol calls for a default dose progression factor of 3.2 and default s for maximum likelihood calculations of 0.5 (i.e., log(3.2)). Dosing levels and calculation details are provided in the guideline.

Point Estimate of the LD_{50}

21. From the data a point estimate of the LD_{50} is calculated using the maximum likelihood method (18)(19).

Confidence Limits On The Estimate Of LD_{50}

22. Confidence limits around the LD_{50} value can be calculated using the maximum likelihood method (18)(19), provided a suitable historical or other sound estimate of the standard deviation can be employed. A computational procedure based on profile likelihoods can provide confidence limits for the LD_{50} when no prior estimate of the standard deviation is available. The procedure identifies bounds for LD_{50} from a ratio of likelihood functions optimized over *sigma* (profile likelihoods). Procedures are also included for certain circumstances where no intermediate doses exist (for instance, when testing has proceeded through a wide range of doses with no reversal or where doses are so widely spaced that each animal provides a reversal).

Dose-Effect Curve

23. A dose effect curve can be calculated using a two parameter probit model provided that the response is quantal and there is an overlapping of the range of doses that result in a positive and negative response.

REFERENCES TO ANNEX 3

(1) Van den Heuvel, M J, D G Clark, R J Fielder, P P Koundakjian, G J A Oliver, D Pelling, N J Tomlinson, and A P Walker (1990). The international validation of a fixed-dose procedure as an alternative to the classical LD50 test. Fd. Chem. Toxicol., 28:469-482.

(2) British Toxicology Society (1984). Special report: a new approach to the classification of substances and preparations on the basis of their acute toxicity. Human Toxicol., 3:85-92.

(3) Van den Heuval, M J, A D Dayan and R O Shillaker (1987). Evaluation of the BTS approach to the testing of substances and preparations for their acute toxicity. Human Toxicol., 6:279-291.

(4) Lipnick, R L, J A Cotruvo, R N Hill, R D Bruce, K A Stitzel, A P Walker, I Chu, M Goddard, L Segal, J A Springer, and R C Myers (1995). Comparison of the Up-and-Down, Conventional LD50, and Fixed-Dose Acute Toxicity Procedures. Fd Chem. Toxic. 33: 223-231.

(5) Yam, J, P J Reer, and R D Bruce (1991). Comparison of the Up-and-Down Method and the

Fixed-Dose Procedure for Acute Oral Toxicity Testing. Fd Chem. Toxic. 29:259-263.

(6) Stallard N and A Whitehead (1995). Reducing numbers in the fixed-dose procedure. Human Expt. Toxicol., 14:315-323.

(7) Stallard N, A Whitehead and P Ridgway (2000). Statistical evaluation of modifications to the fixed dose procedure (manuscript in preparation).

(8) Diener, W; U Mischke, E Schlede and D Kayser (1995). The biometric evaluation of the OECD modified version of the acute toxic category method (oral). Arch.Toxicol. 69: 729-734.

(9) Schlede, E; U Mischke, W Diener and D Kayser (1995). The international validation study of the acute-toxic-category method (oral). Arch.Toxicol. 69: 659-670.

(10) Diener, W; L Siccha, U Mischke, D Kayser and E Schlede (1994). The biometric evaluation of the acute-toxic-category method (oral). Arch.Toxicol. 68: 599-610.

(11) Dixon, W J, and A M Mood (1948). A method for obtaining and analyzing sensitivity data. J. Amer. Statist. Assoc. 43:109-126.

(12) Dixon, W J (1991). Staircase Bioassay: The Up-and-Down Method. Neurosci. Biobehav. Rev. 15:47-50.

(13) Brownlee, K A , J L Hodges, Jr., and M Rosenblatt (1953). J Amer. Stat. Assoc., 48:262-277.

(14) Hsi, B P (1969). J Amer. Stat. Assoc., 64:147-162.

(15) Dixon, W J (1991). Design and Analysis of Quantal Dose-Response Experiments (with Emphasis on Staircase Designs). Dixon Statistical Associates, Los Angeles CA, USA.[discussion paper prepared for a US NIH Phase 1 Final Report: Reduction in Vertabrate Animal Use in Research , produced under SBIR Grant N° 1R43-RR06151-01].

(16) Bruce, R D (1985). An up-and-down procedure for acute toxicity testing. Fundam. Appl. Tox., 5:151-157.

(17) ASTM (1987) E 1163-87, Standard test method for estimating acute oral toxicity in rats. American Society for Testing Materials, Philadelphia PA, USA.

(18) Dixon, W J (1965). The up-and down method for small samples. J. Amer. Statist. Assoc., 60:967-978.

(19) Finney, D J (1971). Probit Analysis, 3rd ed., Cambridge University Press, Cambridge, England, 50-80.

Appendix N

UDP/ATC Simulation Modeling Results

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix N1

UDP Simulation Results Using Starting Doses One Default Dose Lower than the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} and the RC Rat-Only Millimole Regression - 5000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3T3	0.12	Cyto	0.196	7.42	0.53	0.0002	0.204	3.43	0.00	0.6675	6.6%	0.1%
		Default	0.176	7.95			0.200	3.44				
	0.25	Cyto	0.189	8.15	0.52	0.0005	0.203	3.76	0.00	0.9311	6.0%	0.1%
		Default	0.178	8.68			0.197	3.76				
	0.50	Cyto	0.169	8.80	0.54	0.0008	0.191	4.09	0.02	0.6341	5.8%	0.5%
		Default	0.163	9.35			0.185	4.11				
	1.25	Cyto	0.135	9.34	0.61	0.0001	0.165	4.48	0.07	0.0238	6.1%	1.5%
		Default	0.131	9.95			0.152	4.55				
	2.00	Cyto	0.112	9.48	0.53	0.0003	0.145	4.60	0.07	0.0506	5.3%	1.5%
		Default	0.096	10.01			0.129	4.67				
			Average Difference		0.55		Average Difference		0.03			
NHK	0.12	Cyto	0.203	7.43	0.49	0.0003	0.215	3.39	-0.01	0.7372	6.2%	-0.2%
		Default	0.176	7.92			0.202	3.39				
	0.25	Cyto	0.197	8.18	0.48	0.0005	0.212	3.72	0.00	0.3125	5.6%	-0.1%
		Default	0.174	8.66			0.198	3.72				
	0.50	Cyto	0.176	8.86	0.50	0.0006	0.199	4.07	0.01	0.2841	5.3%	0.2%
		Default	0.157	9.36			0.183	4.08				
	1.25	Cyto	0.145	9.41	0.55	0.0002	0.173	4.48	0.04	0.0129	5.5%	1.0%
		Default	0.125	9.96			0.150	4.52				
	2.00	Cyto	0.121	9.53	0.49	0.0001	0.151	4.61	0.05	0.0206	4.9%	1.1%
		Default	0.092	10.01			0.127	4.66				
			Average Difference		0.50		Average Difference		0.02			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity..

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals for the default starting dose and mean number of animals for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Stopping Rules Used for the UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	3 Animals at Limit Dose[2]	5 Reversals[2]	Likelihood Ratio[2]	Maximum Number of Animals Used[2]
3T3	0.12	Cyto	15.6%	56.0%	26.4%	2.0%
		Default	15.4%	56.9%	25.3%	2.4%
	0.25	Cyto	15.0%	33.6%	47.4%	4.0%
		Default	14.7%	34.1%	46.0%	5.3%
	0.5	Cyto	13.4%	19.8%	59.0%	7.8%
		Default	13.0%	20.0%	57.3%	9.7%
	1.25	Cyto	9.8%	13.5%	64.0%	12.7%
		Default	9.1%	13.6%	60.9%	16.4%
	2	Cyto	8.5%	12.3%	65.2%	14.0%
		Default	7.4%	12.5%	62.6%	17.5%
NHK	0.12	Cyto	16.8%	55.3%	26.0%	1.8%
		Default	16.6%	56.0%	25.0%	2.4%
	0.25	Cyto	16.1%	33.3%	46.5%	4.1%
		Default	15.8%	33.5%	45.5%	5.2%
	0.5	Cyto	14.3%	19.7%	58.0%	8.1%
		Default	13.8%	19.9%	56.6%	9.7%
	1.25	Cyto	10.1%	13.5%	63.1%	13.3%
		Default	9.5%	13.5%	60.4%	16.5%
	2	Cyto	8.6%	12.3%	64.6%	14.5%
		Default	7.6%	12.5%	62.3%	17.6%

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Percentage of the 10,000 test simulations that satisfied the specified condition for completion of testing (see OECD [2001a]; EPA [2002a]).

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	3T3	0.12	Cyto	0.431	8.74	0.96	0.6250	0.459	5.58	0.81	0.6250	9.9%	12.7%
			Default	0.277	9.70			0.170	6.39				
		0.25	Cyto	0.660	9.56	1.02	0.6250	0.581	6.06	0.84	0.6250	9.7%	12.2%
			Default	0.179	10.58			0.155	6.90				
		0.50	Cyto	0.697	10.19	1.14	0.6250	0.609	6.46	0.91	0.6250	10.0%	12.3%
			Default	0.201	11.32			0.197	7.37				
		1.25	Cyto	0.664	10.68	1.07	0.6250	0.598	6.70	0.87	0.6250	9.1%	11.5%
			Default	0.156	11.75			0.169	7.57				
		2.00	Cyto	0.548	10.65	0.82	0.6250	0.506	6.54	0.71	0.6250	7.1%	9.8%
			Default	0.146	11.47			0.152	7.24				
				Average Difference		1.00		Average Difference		0.83			
	NHK	0.12	Cyto	0.516	8.95	0.71	0.3750	0.531	5.79	0.58	0.3750	7.3%	9.1%
			Default	0.268	9.66			0.169	6.37				
		0.25	Cyto	0.699	9.77	0.77	0.3750	0.626	6.26	0.61	0.3750	7.3%	8.9%
			Default	0.217	10.53			0.177	6.87				
		0.50	Cyto	0.707	10.47	0.75	0.3750	0.638	6.69	0.63	0.3750	6.7%	8.6%
			Default	0.241	11.21			0.224	7.31				
		1.25	Cyto	0.692	10.92	0.78	0.3750	0.636	6.91	0.65	0.3750	6.7%	8.6%
			Default	0.169	11.70			0.179	7.56				
		2.00	Cyto	0.627	10.81	0.66	0.3750	0.578	6.70	0.53	0.3750	5.7%	7.4%
			Default	0.159	11.47			0.157	7.24				
				Average Difference		0.73		Average Difference		0.60			
2	3T3	0.12	Cyto	0.467	8.54	-0.08	0.8926	0.426	5.16	-0.05	0.9460	-1.0%	-1.0%
			Default	0.278	8.46			0.239	5.11				
		0.25	Cyto	0.426	9.21	-0.13	0.8926	0.404	5.54	-0.07	0.9460	-1.4%	-1.3%
			Default	0.210	9.08			0.202	5.47				
		0.50	Cyto	0.453	9.74	-0.07	1.0000	0.417	5.83	-0.06	1.0000	-0.7%	-1.0%
			Default	0.230	9.68			0.211	5.77				
		1.25	Cyto	0.413	10.25	-0.08	0.9460	0.394	6.06	-0.09	0.8926	-0.8%	-1.5%
			Default	0.236	10.17			0.218	5.97				
		2.00	Cyto	0.328	10.34	-0.14	0.5879	0.335	6.01	-0.10	0.7354	-1.4%	-1.8%
			Default	0.177	10.20			0.178	5.91				
				Average Difference		-0.10		Average Difference		-0.07			
	NHK	0.12	Cyto	0.488	8.77	-0.33	0.3757	0.476	5.26	-0.15	0.5879	-3.9%	-3.0%
			Default	0.260	8.43			0.232	5.11				
		0.25	Cyto	0.428	9.44	-0.36	0.4143	0.444	5.64	-0.17	0.6848	-4.0%	-3.1%
			Default	0.166	9.08			0.187	5.46				
		0.50	Cyto	0.448	9.99	-0.34	0.3757	0.453	5.94	-0.18	0.5417	-3.5%	-3.2%
			Default	0.164	9.65			0.185	5.75				
		1.25	Cyto	0.424	10.46	-0.32	0.3396	0.440	6.16	-0.21	0.4973	-3.2%	-3.5%
			Default	0.183	10.14			0.196	5.95				
		2.00	Cyto	0.348	10.49	-0.32	0.4143	0.381	6.09	-0.20	0.5417	-3.1%	-3.4%
			Default	0.148	10.18			0.166	5.89				
				Average Difference		-0.33		Average Difference		-0.18			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	3T3	0.12	Cyto	0.189	6.90	-0.29	0.0425	0.149	3.60	-0.23	0.0522	-4.3%	-6.8%
			Default	0.188	6.61			0.125	3.37				
		0.25	Cyto	0.220	7.53	-0.33	0.0522	0.169	3.96	-0.24	0.0640	-4.6%	-6.6%
			Default	0.152	7.20			0.103	3.71				
		0.50	Cyto	0.213	8.18	-0.42	0.0522	0.163	4.31	-0.27	0.0640	-5.5%	-6.7%
			Default	0.101	7.76			0.080	4.04				
		1.25	Cyto	0.141	8.98	-0.35	0.0522	0.123	4.69	-0.22	0.0771	-4.1%	-4.9%
			Default	0.059	8.62			0.057	4.47				
		2.00	Cyto	0.084	9.33	-0.23	0.0522	0.094	4.85	-0.15	0.2036	-2.5%	-3.3%
			Default	0.040	9.10			0.050	4.70				
				Average Difference		-0.33		Average Difference		-0.22			
	NHK	0.12	Cyto	0.190	6.85	-0.28	0.1514	0.133	3.52	-0.16	0.2334	-4.2%	-4.9%
			Default	0.190	6.57			0.127	3.35				
		0.25	Cyto	0.229	7.48	-0.31	0.0425	0.152	3.86	-0.17	0.1099	-4.4%	-4.6%
			Default	0.159	7.17			0.106	3.69				
		0.50	Cyto	0.206	8.12	-0.34	0.0923	0.143	4.20	-0.16	0.2036	-4.4%	-4.1%
			Default	0.109	7.78			0.082	4.04				
		1.25	Cyto	0.120	8.93	-0.28	0.0522	0.108	4.60	-0.12	0.4697	-3.2%	-2.6%
			Default	0.061	8.65			0.060	4.48				
		2.00	Cyto	0.079	9.31	-0.20	0.0923	0.088	4.77	-0.07	0.7334	-2.2%	-1.5%
			Default	0.036	9.11			0.048	4.70				
				Average Difference		-0.28		Average Difference		-0.14			
4	3T3	0.12	Cyto	0.191	7.15	0.31	0.0443	0.063	3.39	0.01	0.9399	4.1%	0.2%
			Default	0.235	7.46			0.066	3.40				
		0.25	Cyto	0.186	7.66	0.28	0.0507	0.032	3.61	-0.003	0.2522	3.5%	-0.1%
			Default	0.201	7.94			0.048	3.60				
		0.50	Cyto	0.210	8.14	0.38	0.1046	0.040	3.80	0.05	0.1591	4.5%	1.4%
			Default	0.212	8.53			0.049	3.86				
		1.25	Cyto	0.180	8.82	0.33	0.0250	0.049	4.10	0.03	0.0934	3.6%	0.8%
			Default	0.145	9.16			0.022	4.13				
		2.00	Cyto	0.133	9.16	0.22	0.0577	0.042	4.26	-0.01	0.8603	2.3%	-0.2%
			Default	0.084	9.38			0.019	4.25				
				Average Difference		0.31		Average Difference		0.02			
	NHK	0.12	Cyto	0.196	7.00	0.49	0.0073	0.064	3.36	0.06	0.1439	6.5%	1.7%
			Default	0.247	7.49			0.071	3.42				
		0.25	Cyto	0.213	7.53	0.45	0.0131	0.036	3.58	0.05	0.0577	5.6%	1.4%
			Default	0.207	7.97			0.048	3.63				
		0.50	Cyto	0.234	8.03	0.52	0.0335	0.041	3.78	0.09	0.0654	6.1%	2.4%
			Default	0.221	8.55			0.052	3.88				
		1.25	Cyto	0.218	8.76	0.41	0.0182	0.051	4.10	0.04	0.1297	4.5%	1.1%
			Default	0.147	9.17			0.023	4.14				
		2.00	Cyto	0.163	9.12	0.27	0.0443	0.042	4.28	-0.02	0.8999	2.9%	-0.4%
			Default	0.086	9.40			0.018	4.26				
				Average Difference		0.43		Average Difference		0.05			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	3T3	0.12	Cyto	0.308	7.96	1.21	0.0020	0.042	3.25	0.06	0.0137	13.2%	1.7%
			Default	0.232	9.17			0.034	3.30				
		0.25	Cyto	0.196	9.01	1.33	0.0039	0.049	3.46	0.11	0.0195	12.8%	3.1%
			Default	0.157	10.34			0.062	3.57				
		0.50	Cyto	0.148	9.46	1.28	0.0039	0.051	3.56	0.09	0.0195	11.9%	2.5%
			Default	0.102	10.73			0.059	3.65				
		1.25	Cyto	0.131	9.29	1.38	0.0020	0.038	3.67	0.20	0.0020	12.9%	5.2%
			Default	0.065	10.66			0.030	3.87				
		2.00	Cyto	0.107	9.20	1.16	0.0039	0.032	3.78	0.18	0.0039	11.2%	4.6%
			Default	0.061	10.36			0.013	3.96				
				Average Difference		1.27		Average Difference		0.13			
	NHK	0.12	Cyto	0.285	8.06	1.11	0.0020	0.030	3.25	0.06	0.0273	12.1%	1.7%
			Default	0.233	9.17			0.038	3.31				
		0.25	Cyto	0.241	9.12	1.19	0.0020	0.048	3.47	0.10	0.0273	11.5%	2.8%
			Default	0.152	10.31			0.061	3.56				
		0.50	Cyto	0.200	9.54	1.21	0.0020	0.046	3.55	0.10	0.0098	11.3%	2.7%
			Default	0.082	10.75			0.064	3.65				
		1.25	Cyto	0.167	9.40	1.27	0.0039	0.030	3.68	0.18	0.0039	11.9%	4.7%
			Default	0.052	10.66			0.037	3.86				
		2.00	Cyto	0.131	9.28	1.06	0.0020	0.029	3.79	0.17	0.0020	10.3%	4.2%
			Default	0.037	10.35			0.022	3.96				
				Average Difference		1.17		Average Difference		0.12			
6	3T3	0.12	Cyto	0.685	6.18	1.58	0.0005	0.314	0.88	-0.02	0.0923	20.3%	-2.8%
			Default	0.587	7.76			0.304	0.85				
		0.25	Cyto	0.647	7.10	1.57	0.0005	0.316	1.33	-0.03	0.0342	18.1%	-2.1%
			Default	0.541	8.67			0.309	1.30				
		0.50	Cyto	0.486	8.29	1.58	0.0005	0.255	2.04	-0.01	0.1294	16.0%	-0.4%
			Default	0.342	9.87			0.255	2.03				
		1.25	Cyto	0.301	9.01	1.88	0.0005	0.126	3.00	0.19	0.0005	17.3%	6.0%
			Default	0.058	10.89			0.121	3.19				
		2.00	Cyto	0.246	8.94	1.81	0.0005	0.088	3.33	0.28	0.0005	16.8%	7.7%
			Default	0.030	10.75			0.066	3.60				
				Average Difference		1.68		Average Difference		0.08			
	NHK	0.12	Cyto	0.630	6.19	1.47	0.0002	0.298	0.82	-0.02	0.0281	19.2%	-3.1%
			Default	0.560	7.66			0.289	0.80				
		0.25	Cyto	0.585	7.16	1.47	0.0002	0.295	1.28	-0.02	0.1099	17.0%	-1.7%
			Default	0.499	8.63			0.287	1.26				
		0.50	Cyto	0.440	8.41	1.47	0.0002	0.236	2.03	-0.01	0.0942	14.8%	-0.7%
			Default	0.317	9.87			0.236	2.02				
		1.25	Cyto	0.276	9.14	1.73	0.0002	0.112	3.02	0.16	0.0002	16.0%	5.0%
			Default	0.056	10.87			0.114	3.18				
		2.00	Cyto	0.234	9.06	1.69	0.0002	0.078	3.36	0.25	0.0002	15.7%	7.0%
			Default	0.022	10.74			0.062	3.61				
				Average Difference		1.56		Average Difference		0.07			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome Based on Simulated UDP LD_{50}[1]

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category[2] Based on LD_{50} Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	15	1	0	17	88%	6%	6%
5	0	0	0	0	22	0	22	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	15	23	0	68	96%	1%	3%

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category[2] Based on LD_{50} Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	0	16	1	0	17	94%	6%	0%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	11	16	22	0	67	97%	1%	1%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NA=Not applicable; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg. The NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621). The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances for GHS Category Outcomes of UDP Simulations[1]

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[2]		Default Starting Dose[3]		LD_{50} Difference
		LD_{50}	Toxcat[4]	LD_{50}	Toxcat[4]	
3T3	Acetaminophen	2046.78	5	1765.44	4	-281.34
	Sodium Dichromate Dihydrate	43.70	2	51.87	3	8.17
NHK	Acetaminophen	2173.95	5	1755.26	4	-418.69
	Caffeine	279.63	3	357.17	4	77.55
	Sodium Dichromate Dihydrate	45.09	2	51.77	3	6.69

Abbreviations: Toxcat=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005); UDP= Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

[1]Substances for which the simulated UDP outcome (in terms of GHS category) at the NRU-based starting dose did not match the simulated UDP outcome at the default starting dose. Simulations were performed with 10,000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621).

[3]The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[4]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Appendix N2

UDP Simulation Results Using Starting Doses One Default Dose Lower than the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} and the RC Rat-Only Weight Regression - 5000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3T3	0.12	Cyto	0.193	7.32	0.62	0.00003	0.200	3.39	0.04	0.9360	7.8%	1.2%
		Default	0.178	7.94			0.200	3.43				
	0.25	Cyto	0.186	8.04	0.63	0.0001	0.198	3.72	0.04	0.5758	7.2%	1.2%
		Default	0.180	8.67			0.197	3.76				
	0.50	Cyto	0.164	8.70	0.66	0.0001	0.186	4.05	0.06	0.3430	7.0%	1.5%
		Default	0.164	9.36			0.185	4.11				
	1.25	Cyto	0.132	9.26	0.70	0.00003	0.161	4.44	0.11	0.0119	7.0%	2.3%
		Default	0.130	9.96			0.152	4.55				
	2.00	Cyto	0.110	9.41	0.60	0.00005	0.141	4.58	0.10	0.0371	6.0%	2.1%
		Default	0.095	10.01			0.129	4.67				
			Average Difference		0.64		Average Difference		0.07			
NHK	0.12	Cyto	0.195	7.38	0.54	0.0002	0.208	3.35	0.04	0.8066	6.8%	1.1%
		Default	0.176	7.92			0.203	3.39				
	0.25	Cyto	0.189	8.12	0.54	0.0002	0.204	3.67	0.05	0.3274	6.3%	1.2%
		Default	0.175	8.66			0.199	3.72				
	0.50	Cyto	0.169	8.80	0.56	0.0003	0.191	4.02	0.05	0.3154	6.0%	1.3%
		Default	0.159	9.36			0.184	4.08				
	1.25	Cyto	0.136	9.36	0.61	0.0001	0.164	4.43	0.09	0.0044	6.1%	2.0%
		Default	0.125	9.96			0.151	4.52				
	2.00	Cyto	0.114	9.48	0.53	0.0001	0.144	4.56	0.09	0.0089	7.8%	1.9%
		Default	0.092	10.02			0.127	4.66				
			Average Difference		0.56		Average Difference		0.06			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [mg/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals for the default starting dose and mean number of animals for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default starting dose and the NRU-based starting dose. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Stopping Rules Used for the UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	3 Animals at Limit Dose[2]	5 Reversals[2]	Likelihood Ratio[2]	Maximum Number of Animals Used[2]
3T3	0.12	Cyto	15.6%	55.8%	26.8%	1.8%
		Default	15.4%	56.8%	25.3%	2.4%
	0.25	Cyto	15.0%	33.4%	47.9%	3.7%
		Default	14.7%	34.1%	46.0%	5.3%
	0.5	Cyto	13.4%	19.7%	59.6%	7.2%
		Default	13.0%	20.1%	57.3%	9.7%
	1.25	Cyto	9.9%	13.4%	64.6%	12.1%
		Default	9.1%	13.6%	60.8%	16.4%
	2	Cyto	8.6%	12.3%	65.6%	13.5%
		Default	7.4%	12.5%	62.5%	17.6%
NHK	0.12	Cyto	16.8%	55.4%	26.0%	1.8%
		Default	16.6%	55.9%	25.0%	2.4%
	0.25	Cyto	16.2%	33.3%	46.7%	3.8%
		Default	15.8%	33.5%	45.4%	5.2%
	0.5	Cyto	14.3%	19.7%	58.3%	7.7%
		Default	13.8%	19.9%	56.6%	9.7%
	1.25	Cyto	10.2%	13.5%	63.5%	12.8%
		Default	9.5%	13.5%	60.4%	16.5%
	2	Cyto	8.7%	12.3%	64.9%	14.1%
		Default	7.6%	12.5%	62.3%	17.6%

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Percentage of the 10,000 test simulations that satisfied the specified condition for completion of testing (see OECD [2001a]; EPA [2002a]).

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	3T3	0.12	Cyto	0.366	8.92	0.78	0.6250	0.404	5.74	0.65	0.6250	8.0%	10.2%
			Default	0.278	9.70			0.171	6.39				
		0.25	Cyto	0.587	9.75	0.81	0.6250	0.521	6.22	0.66	0.6250	7.7%	9.6%
			Default	0.181	10.55			0.158	6.88				
		0.50	Cyto	0.623	10.38	0.90	0.6250	0.549	6.63	0.72	0.6250	8.0%	9.8%
			Default	0.197	11.29			0.196	7.35				
		1.25	Cyto	0.594	10.86	0.86	0.6250	0.540	6.86	0.70	0.6250	7.3%	9.2%
			Default	0.147	11.72			0.166	7.55				
		2.00	Cyto	0.503	10.80	0.66	0.6250	0.466	6.66	0.57	0.6250	5.7%	7.9%
			Default	0.142	11.45			0.151	7.24				
				Average Difference		0.80		Average Difference		0.66			
	NHK	0.12	Cyto	0.515	8.97	0.69	0.3750	0.531	5.81	0.56	0.3750	7.1%	8.8%
			Default	0.268	9.66			0.169	6.37				
		0.25	Cyto	0.703	9.79	0.74	0.3750	0.629	6.28	0.59	0.3750	7.0%	8.6%
			Default	0.218	10.53			0.178	6.87				
		0.50	Cyto	0.711	10.49	0.72	0.6250	0.641	6.71	0.60	0.6250	6.4%	8.2%
			Default	0.242	11.21			0.224	7.31				
		1.25	Cyto	0.694	10.94	0.76	0.6250	0.638	6.93	0.62	0.6250	6.5%	8.3%
			Default	0.168	11.70			0.179	7.56				
		2.00	Cyto	0.632	10.83	0.63	0.6250	0.581	6.72	0.52	0.6250	5.5%	7.1%
			Default	0.159	11.47			0.157	7.24				
				Average Difference		0.71		Average Difference		0.58			
2	3T3	0.12	Cyto	0.442	8.41	0.06	1.0000	0.398	5.04	0.08	1.0000	0.8%	1.5%
			Default	0.276	8.47			0.240	5.12				
		0.25	Cyto	0.393	9.07	0.05	1.0000	0.370	5.41	0.06	1.0000	0.5%	1.1%
			Default	0.201	9.11			0.202	5.48				
		0.50	Cyto	0.419	9.58	0.13	0.9460	0.381	5.70	0.09	1.0000	1.3%	1.5%
			Default	0.219	9.71			0.210	5.78				
		1.25	Cyto	0.381	10.11	0.08	0.9460	0.359	5.93	0.05	0.9460	0.8%	0.8%
			Default	0.225	10.19			0.214	5.98				
		2.00	Cyto	0.297	10.22	-0.01	0.7354	0.302	5.91	0.00	0.7869	-0.1%	0.0%
			Default	0.170	10.21			0.174	5.91				
				Average Difference		0.06		Average Difference		0.05			
	NHK	0.12	Cyto	0.439	8.59	-0.13	0.3757	0.427	5.10	0.01	0.6848	-1.6%	0.2%
			Default	0.267	8.45			0.235	5.11				
		0.25	Cyto	0.384	9.24	-0.12	0.5879	0.396	5.46	0.01	1.0000	-1.4%	0.2%
			Default	0.178	9.12			0.193	5.47				
		0.50	Cyto	0.413	9.78	-0.07	0.5417	0.409	5.76	0.02	0.8394	-0.8%	0.3%
			Default	0.177	9.70			0.192	5.78				
		1.25	Cyto	0.385	10.28	-0.11	0.4973	0.391	5.99	-0.03	0.8394	-1.1%	-0.4%
			Default	0.187	10.17			0.198	5.96				
		2.00	Cyto	0.306	10.35	-0.16	0.4973	0.334	5.95	-0.05	0.7869	-1.6%	-0.9%
			Default	0.149	10.19			0.166	5.89				
				Average Difference		-0.12		Average Difference		-0.01			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	3T3	0.12	Cyto	0.181	6.76	-0.18	0.0923	0.136	3.50	-0.14	0.1294	-2.7%	-4.2%
			Default	0.190	6.58			0.127	3.36				
		0.25	Cyto	0.182	7.33	-0.20	0.1514	0.146	3.83	-0.15	0.2061	-2.8%	-4.0%
			Default	0.147	7.13			0.102	3.68				
		0.50	Cyto	0.180	7.99	-0.25	0.1514	0.146	4.18	-0.16	0.1763	-3.3%	-4.0%
			Default	0.100	7.74			0.080	4.02				
		1.25	Cyto	0.119	8.86	-0.22	0.1294	0.112	4.61	-0.13	0.3804	-2.5%	-2.8%
			Default	0.056	8.64			0.057	4.48				
		2.00	Cyto	0.069	9.25	-0.15	0.1294	0.084	4.78	-0.09	0.5186	-1.6%	-1.8%
			Default	0.039	9.11			0.049	4.70				
				Average Difference		-0.20		Average Difference		-0.13			
	NHK	0.12	Cyto	0.205	6.75	-0.18	0.2036	0.137	3.41	-0.06	0.2334	-2.7%	-1.8%
			Default	0.194	6.58			0.129	3.35				
		0.25	Cyto	0.225	7.33	-0.22	0.1099	0.145	3.74	-0.08	0.1763	-3.2%	-2.1%
			Default	0.160	7.11			0.108	3.66				
		0.50	Cyto	0.209	7.99	-0.24	0.1294	0.141	4.09	-0.07	0.1763	-3.1%	-1.9%
			Default	0.110	7.75			0.082	4.01				
		1.25	Cyto	0.123	8.85	-0.18	0.1294	0.106	4.52	-0.03	0.8501	-2.1%	-0.7%
			Default	0.058	8.67			0.060	4.49				
		2.00	Cyto	0.083	9.26	-0.14	0.1294	0.088	4.70	0.00	0.9097	-1.5%	-0.1%
			Default	0.035	9.13			0.048	4.70				
				Average Difference		-0.19		Average Difference		-0.05			
4	3T3	0.12	Cyto	0.176	7.17	0.28	0.0335	0.063	3.39	0.00	0.8999	3.8%	0.0%
			Default	0.236	7.46			0.067	3.39				
		0.25	Cyto	0.173	7.68	0.25	0.0507	0.032	3.61	-0.01	0.1928	3.1%	-0.3%
			Default	0.202	7.93			0.049	3.60				
		0.50	Cyto	0.193	8.16	0.35	0.0577	0.039	3.80	0.05	0.1167	4.1%	1.2%
			Default	0.208	8.52			0.047	3.85				
		1.25	Cyto	0.159	8.83	0.32	0.0250	0.048	4.10	0.03	0.1046	3.5%	0.8%
			Default	0.142	9.15			0.020	4.13				
		2.00	Cyto	0.115	9.17	0.21	0.0335	0.043	4.26	-0.01	0.7820	2.3%	-0.2%
			Default	0.084	9.38			0.020	4.25				
				Average Difference		0.28		Average Difference		0.01			
	NHK	0.12	Cyto	0.160	7.17	0.31	0.0577	0.060	3.38	0.03	0.2744	4.1%	0.8%
			Default	0.234	7.48			0.066	3.41				
		0.25	Cyto	0.194	7.71	0.27	0.0507	0.028	3.62	0.02	0.1591	3.4%	0.4%
			Default	0.189	7.98			0.042	3.63				
		0.50	Cyto	0.223	8.20	0.34	0.0833	0.040	3.82	0.05	0.1167	3.9%	1.3%
			Default	0.206	8.54			0.046	3.87				
		1.25	Cyto	0.196	8.86	0.28	0.0577	0.050	4.11	0.02	0.2744	3.1%	0.4%
			Default	0.141	9.14			0.022	4.13				
		2.00	Cyto	0.143	9.18	0.19	0.0654	0.043	4.28	-0.02	0.7820	2.1%	-0.6%
			Default	0.083	9.38			0.019	4.25				
				Average Difference		0.28		Average Difference		0.02			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	Cell Type	Sigma	Method	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	3T3	0.12	Cyto	0.365	7.61	1.59	0.0020	0.046	3.20	0.12	0.0059	17.3%	3.6%
			Default	0.235	9.20			0.037	3.31				
		0.25	Cyto	0.285	8.67	1.72	0.0020	0.056	3.41	0.18	0.0098	16.6%	5.1%
			Default	0.159	10.39			0.065	3.59				
		0.50	Cyto	0.242	9.14	1.64	0.0039	0.055	3.52	0.16	0.0137	15.2%	4.2%
			Default	0.106	10.78			0.063	3.67				
		1.25	Cyto	0.204	9.08	1.61	0.0020	0.044	3.65	0.23	0.0020	15.0%	6.0%
			Default	0.071	10.69			0.031	3.88				
		2.00	Cyto	0.161	9.05	1.33	0.0039	0.037	3.77	0.21	0.0039	12.8%	5.2%
			Default	0.064	10.38			0.015	3.97				
				Average Difference		1.58		Average Difference		0.18			
	NHK	0.12	Cyto	0.326	7.90	1.28	0.0020	0.035	3.23	0.08	0.0273	14.0%	2.5%
			Default	0.234	9.18			0.038	3.31				
		0.25	Cyto	0.307	8.93	1.41	0.0020	0.052	3.43	0.15	0.0098	13.6%	4.2%
			Default	0.146	10.34			0.066	3.58				
		0.50	Cyto	0.251	9.40	1.38	0.0020	0.047	3.54	0.13	0.0098	12.8%	3.5%
			Default	0.084	10.77			0.067	3.66				
		1.25	Cyto	0.194	9.30	1.37	0.0020	0.033	3.67	0.19	0.0020	12.8%	5.0%
			Default	0.055	10.67			0.038	3.86				
		2.00	Cyto	0.155	9.20	1.15	0.0020	0.031	3.79	0.18	0.0020	11.1%	4.4%
			Default	0.038	10.36			0.023	3.96				
				Average Difference		1.32		Average Difference		0.15			
6	3T3	0.12	Cyto	0.686	6.14	1.63	0.0005	0.316	0.88	-0.03	0.1294	21.0%	-3.1%
			Default	0.587	7.76			0.304	0.85				
		0.25	Cyto	0.653	7.05	1.62	0.0005	0.317	1.33	-0.03	0.0210	18.7%	-2.2%
			Default	0.542	8.67			0.309	1.30				
		0.50	Cyto	0.484	8.23	1.65	0.0005	0.254	2.04	-0.01	0.3394	16.7%	-0.4%
			Default	0.343	9.87			0.256	2.03				
		1.25	Cyto	0.305	8.93	1.96	0.0005	0.126	2.99	0.20	0.0005	18.0%	6.3%
			Default	0.058	10.89			0.122	3.20				
		2.00	Cyto	0.251	8.87	1.88	0.0005	0.089	3.32	0.29	0.0005	17.5%	8.0%
			Default	0.028	10.75			0.067	3.61				
				Average Difference		1.75		Average Difference		0.09			
	NHK	0.12	Cyto	0.625	6.12	1.53	0.0005	0.298	0.82	-0.02	0.0398	20.0%	-3.1%
			Default	0.560	7.66			0.289	0.80				
		0.25	Cyto	0.581	7.10	1.53	0.0002	0.296	1.28	-0.02	0.1099	17.7%	-1.8%
			Default	0.500	8.63			0.287	1.26				
		0.50	Cyto	0.435	8.34	1.54	0.0002	0.236	2.03	-0.01	0.1677	15.6%	-0.6%
			Default	0.318	9.88			0.236	2.02				
		1.25	Cyto	0.277	9.07	1.81	0.0002	0.112	3.01	0.17	0.0002	16.7%	5.4%
			Default	0.057	10.88			0.114	3.18				
		2.00	Cyto	0.235	8.99	1.75	0.0002	0.078	3.34	0.27	0.0005	16.3%	7.4%
			Default	0.022	10.74			0.062	3.61				
				Average Difference		1.63		Average Difference		0.08			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.372 log IC_{50} [mM] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome Based on Simulated UDP LD_{50}[1]

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	d	2	3	4	5	6	Total	Category Match	Higher NRU Category	Lower NRU Category
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	16	0	0	17	94%	0%	6%
5	0	0	0	0	22	0	22	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	16	22	0	68	97%	0%	3%

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	2	3	4	5	6	Total	Category Match	Higher NRU Category	Lower NRU Category
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	16	0	0	17	94%	0%	6%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	16	21	0	67	97%	0%	3%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NA=Not applicable; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg. The NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024). The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances for GHS Category Outcomes of UDP Simulations[1]

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[2]		Default Starting Dose[3]		LD_{50} Difference
		LD_{50}	Toxcat[4]	LD_{50}	Toxcat[4]	
3T3	Caffeine	271.54	3	338.16	4	66.62
	Sodium dichromate dihydrate	43.70	47.97	2	50.66	3
NHK	Caffeine	269.85	3	339.43	4	69.59
	Sodium dichromate dihydrate	48.52	2	50.64	3	2.12

Abbreviations: Toxcat=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005); UDP= Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

[1]Substances for which the simulated UDP outcome (in terms of GHS category) at the NRU-based starting dose did not match the simulated UDP outcome at the default starting dose. Simulations were performed with 10,000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [μg/mL] + 2.024).

[3]The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[4]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Appendix N3

ATC Simulation Results Starting at the Next Fixed Dose Below the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} and the RC Rat-Only Millimole Regression - 2000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
NHK	0.12	Cyto	0.290	9.96	0.70	0.0113	0.286	2.67	0.48	0.1061	6.6%	15.3%
		Default	0.169	10.67			0.334	3.15				
	0.25	Cyto	0.269	9.98	0.77	0.0127	0.283	2.88	0.50	0.5613	7.1%	14.7%
		Default	0.149	10.75			0.324	3.38				
	0.50	Cyto	0.239	10.11	0.80	0.0005	0.261	3.19	0.53	0.0002	7.3%	14.2%
		Default	0.114	10.91			0.297	3.72				
	1.25	Cyto	0.183	10.31	0.79	0.0035	0.201	3.86	0.55	0.0002	7.1%	12.4%
		Default	0.068	11.10			0.228	4.40				
	2.00	Cyto	0.163	10.43	0.82	0.0003	0.168	4.20	0.53	0.0012	7.3%	11.2%
		Default	0.050	11.25			0.189	4.73				
			Average Difference		0.78		Average Difference		0.52			
3T3	0.12	Cyto	0.273	10.13	0.51	0.0226	0.291	2.77	0.43	0.0283	4.8%	13.4%
		Default	0.170	10.64			0.335	3.20				
	0.25	Cyto	0.257	10.15	0.58	0.0075	0.281	2.99	0.45	0.0139	5.4%	13.0%
		Default	0.151	10.73			0.325	3.43				
	0.50	Cyto	0.238	10.27	0.62	0.0038	0.257	3.31	0.46	0.0237	5.7%	12.2%
		Default	0.115	10.89			0.299	3.77				
	1.25	Cyto	0.193	10.46	0.64	0.0154	0.201	3.96	0.48	0.00003	5.8%	10.8%
		Default	0.067	11.10			0.228	4.43				
	2.00	Cyto	0.166	10.56	0.69	0.0002	0.168	4.28	0.47	0.00002	6.1%	9.9%
		Default	0.049	11.25			0.190	4.76				
			Average Difference		0.61		Average Difference		0.46			

Abbreviations: ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 300 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 2000 ATC simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 2000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals for the default starting dose and mean number of animals for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	NHK	0.12	Cyto	1.228	6.09	2.99	0.2500	1.209	5.87	2.99	0.1250	33.0%	33.8%
			Default	0.083	9.09			0.080	8.86				
		0.25	Cyto	1.284	6.37	2.99	0.2500	1.183	5.68	2.99	0.1250	31.9%	34.5%
			Default	0.178	9.35			0.070	8.67				
		0.50	Cyto	1.311	6.78	2.96	0.2500	1.192	5.52	2.98	0.2500	30.4%	35.0%
			Default	0.158	9.74			0.060	8.50				
		1.25	Cyto	1.247	7.48	2.91	0.2500	1.052	5.20	2.72	0.1250	28.0%	34.4%
			Default	0.111	10.39			0.066	7.92				
		2.00	Cyto	1.285	7.86	2.99	0.2500	0.973	5.05	2.46	0.2500	27.6%	32.7%
			Default	0.066	10.85			0.052	7.51				
				Average Difference		2.97		Average Difference		2.83			
	3T3	0.12	Cyto	1.088	6.38	2.70	0.1250	1.163	6.15	2.71	0.1250	29.7%	30.5%
			Default	0.081	9.08			0.081	8.86				
		0.25	Cyto	1.068	6.68	2.68	0.1250	1.089	6.01	2.66	0.1250	28.7%	30.7%
			Default	0.174	9.36			0.073	8.67				
		0.50	Cyto	1.087	7.09	2.68	0.1250	1.073	5.85	2.65	0.1250	27.4%	31.2%
			Default	0.170	9.77			0.049	8.50				
		1.25	Cyto	1.106	7.75	2.67	0.1250	0.975	5.49	2.43	0.1250	25.6%	30.7%
			Default	0.093	10.42			0.081	7.93				
		2.00	Cyto	1.113	8.16	2.68	0.1250	0.887	5.32	2.22	0.1250	24.7%	29.4%
			Default	0.060	10.84			0.058	7.54				
				Average Difference		2.68		Average Difference		2.54			
2	NHK	0.12	Cyto	0.448	10.42	1.33	0.0322	0.702	5.21	1.34	0.0266	11.4%	20.5%
			Default	0.165	11.76			0.256	6.55				
		0.25	Cyto	0.395	10.35	1.29	0.0171	0.764	5.40	1.31	0.0327	11.1%	19.5%
			Default	0.180	11.64			0.313	6.71				
		0.50	Cyto	0.352	10.38	1.18	0.0398	0.739	5.66	1.22	0.0479	10.2%	17.7%
			Default	0.212	11.56			0.312	6.88				
		1.25	Cyto	0.400	10.26	1.28	0.0479	0.590	5.85	1.06	0.0681	11.1%	15.3%
			Default	0.156	11.54			0.191	6.91				
		2.00	Cyto	0.478	10.21	1.41	0.0398	0.526	5.77	1.01	0.0479	12.1%	14.9%
			Default	0.089	11.62			0.142	6.77				
				Average Difference		1.30		Average Difference		1.19			
	3T3	0.12	Cyto	0.433	10.60	1.15	0.0479	0.645	5.39	1.16	0.0479	9.8%	17.7%
			Default	0.163	11.75			0.255	6.56				
		0.25	Cyto	0.471	10.46	1.19	0.0398	0.662	5.52	1.21	0.0398	10.2%	17.9%
			Default	0.189	11.64			0.314	6.72				
		0.50	Cyto	0.522	10.39	1.17	0.0479	0.647	5.71	1.18	0.0398	10.2%	17.1%
			Default	0.214	11.56			0.313	6.89				
		1.25	Cyto	0.550	10.30	1.21	0.0681	0.538	5.90	0.99	0.0681	10.5%	14.3%
			Default	0.148	11.51			0.194	6.89				
		2.00	Cyto	0.555	10.31	1.27	0.0574	0.474	5.82	0.95	0.0398	10.9%	14.0%
			Default	0.083	11.58			0.146	6.77				
				Average Difference		1.20		Average Difference		1.10			

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	NHK	0.12	Cyto	0.489	9.63	-0.20	0.3750	0.073	3.12	0.29	0.2749	-2.1%	8.4%
			Default	0.264	9.44			0.217	3.41				
		0.25	Cyto	0.407	9.86	0.03	0.3013	0.138	3.37	0.44	0.0098	0.3%	11.5%
			Default	0.275	9.89			0.237	3.80				
		0.50	Cyto	0.288	10.39	0.44	0.1514	0.160	3.59	0.67	0.0015	4.0%	15.8%
			Default	0.207	10.83			0.171	4.26				
		1.25	Cyto	0.254	10.80	0.93	0.0122	0.201	4.19	0.85	0.0049	7.9%	16.8%
			Default	0.083	11.73			0.119	5.03				
		2.00	Cyto	0.290	10.63	1.19	0.0015	0.217	4.51	0.90	0.0015	10.0%	16.6%
			Default	0.038	11.82			0.091	5.41				
				Average Difference		0.48		Average Difference		0.63			
	3T3	0.12	Cyto	0.110	9.27	0.15	0.7520	0.102	3.18	0.23	0.9097	1.6%	6.6%
			Default	0.258	9.42			0.213	3.40				
		0.25	Cyto	0.153	9.65	0.25	0.1475	0.171	3.49	0.31	0.0830	2.5%	8.1%
			Default	0.271	9.90			0.237	3.80				
		0.50	Cyto	0.172	10.39	0.42	0.0522	0.170	3.81	0.45	0.0425	3.9%	10.5%
			Default	0.202	10.81			0.169	4.26				
		1.25	Cyto	0.237	11.05	0.69	0.0425	0.202	4.45	0.59	0.0361	5.8%	11.8%
			Default	0.084	11.73			0.119	5.04				
		2.00	Cyto	0.261	11.03	0.77	0.0640	0.198	4.82	0.59	0.0522	6.5%	10.9%
			Default	0.037	11.80			0.095	5.41				
				Average Difference		0.45		Average Difference		0.43			
4	NHK	0.12	Cyto	0.625	10.11	-0.85	0.1133	0.069	3.05	-0.01	0.1627	-9.2%	-0.2%
			Default	0.098	9.26			0.067	3.04				
		0.25	Cyto	0.560	10.14	-0.71	0.1089	0.093	3.14	-0.02	0.0013	-7.5%	-0.7%
			Default	0.095	9.43			0.092	3.12				
		0.50	Cyto	0.494	10.37	-0.60	0.7960	0.062	3.18	-0.001	0.9229	-6.1%	0.1%
			Default	0.062	9.77			0.057	3.18				
		1.25	Cyto	0.290	10.88	-0.31	0.0730	0.051	3.66	0.04	0.5520	-2.9%	1.2%
			Default	0.043	10.57			0.067	3.70				
		2.00	Cyto	0.095	11.13	-0.03	0.6051	0.061	4.08	0.08	0.5871	-0.3%	1.9%
			Default	0.048	11.10			0.080	4.16				
				Average Difference		-0.50		Average Difference		0.02			
	3T3	0.12	Cyto	0.619	10.56	-1.30	0.0210	0.070	3.05	-0.01	0.5520	-14.0%	-0.2%
			Default	0.102	9.26			0.068	3.04				
		0.25	Cyto	0.543	10.52	-1.09	0.0806	0.093	3.13	0.00	0.4690	-11.6%	0.0%
			Default	0.098	9.42			0.095	3.13				
		0.50	Cyto	0.483	10.67	-0.92	0.0262	0.060	3.20	-0.02	0.0787	-9.5%	-0.7%
			Default	0.065	9.75			0.056	3.18				
		1.25	Cyto	0.283	10.99	-0.42	0.0038	0.057	3.64	0.07	0.0787	-4.0%	1.9%
			Default	0.040	10.57			0.069	3.71				
		2.00	Cyto	0.099	11.11	0.00	0.8040	0.062	4.02	0.15	0.0832	0.0%	3.6%
			Default	0.047	11.11			0.077	4.17				
				Average Difference		-0.75		Average Difference		0.04			

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	NHK	0.12	Cyto	0.148	11.89	-0.02	0.6328	0.185	0.39	0.001	0.6953	-0.2%	0.2%
			Default	0.101	11.87			0.189	0.39				
		0.25	Cyto	0.138	11.65	-0.02	0.6250	0.157	1.10	-0.02	0.0625	-0.2%	-1.5%
			Default	0.119	11.63			0.157	1.08				
		0.50	Cyto	0.119	11.25	-0.03	0.3750	0.096	1.82	0.00	1.0000	-0.3%	0.0%
			Default	0.083	11.22			0.097	1.82				
		1.25	Cyto	0.062	10.81	-0.04	0.7695	0.040	2.89	-0.01	0.6426	-0.4%	-0.2%
			Default	0.038	10.77			0.041	2.89				
		2.00	Cyto	0.041	10.87	-0.04	0.2422	0.033	3.36	-0.01	0.6250	-0.3%	-0.2%
			Default	0.011	10.83			0.026	3.35				
				Average Difference		-0.03		Average Difference		-0.01			
	3T3	0.12	Cyto	0.096	11.77	0.11	0.0781	0.188	0.39	0.005	0.2324	0.9%	1.2%
			Default	0.103	11.88			0.188	0.39				
		0.25	Cyto	0.113	11.53	0.09	0.4316	0.155	1.10	-0.01	0.3848	0.8%	-0.8%
			Default	0.117	11.62			0.158	1.09				
		0.50	Cyto	0.080	11.14	0.08	0.0645	0.098	1.82	-0.002	0.8457	0.7%	-0.1%
			Default	0.083	11.22			0.093	1.82				
		1.25	Cyto	0.039	10.75	0.02	0.6953	0.043	2.87	0.01	1.0000	0.2%	0.2%
			Default	0.037	10.77			0.041	2.88				
		2.00	Cyto	0.018	10.84	0.01	0.6953	0.032	3.36	-0.005	0.6250	0.1%	-0.1%
			Default	0.010	10.85			0.027	3.35				
				Average Difference		0.06		Average Difference		-0.001			
6	NHK	0.12	Cyto	0.804	9.34	2.66	0.0195	0.0002	0.0004	0.00004	1.0000	22.2%	9.1%
			Default	0.000	12.00			0.0002	0.0004				
		0.25	Cyto	0.801	9.35	2.65	0.0322	0.033	0.11	-0.002	0.4824	22.1%	-1.6%
			Default	0.002	11.99			0.033	0.10				
		0.50	Cyto	0.732	9.43	2.43	0.0024	0.099	0.73	0.01	0.0398	20.5%	1.2%
			Default	0.034	11.86			0.099	0.73				
		1.25	Cyto	0.462	9.70	1.53	0.0024	0.106	2.14	0.12	0.0479	13.6%	5.5%
			Default	0.058	11.23			0.086	2.27				
		2.00	Cyto	0.288	10.06	0.92	0.0105	0.080	2.85	0.08	0.1465	8.4%	2.7%
			Default	0.031	10.98			0.053	2.93				
				Average Difference		2.04		Average Difference		0.04			
	3T3	0.12	Cyto	0.842	9.81	2.19	0.0195	0.0002	0.004	-0.001	0.7500	18.3%	-25.0%
			Default	0.000	12.00			0.0002	0.003				
		0.25	Cyto	0.839	9.80	2.19	0.0137	0.034	0.11	0.003	0.2334	18.3%	2.3%
			Default	0.002	11.99			0.035	0.12				
		0.50	Cyto	0.779	9.82	2.03	0.0210	0.107	0.74	-0.002	0.6773	17.1%	-0.3%
			Default	0.035	11.85			0.106	0.74				
		1.25	Cyto	0.509	9.98	1.24	0.0522	0.110	2.17	0.11	0.0923	11.0%	4.6%
			Default	0.060	11.22			0.096	2.27				
		2.00	Cyto	0.332	10.19	0.79	0.0425	0.091	2.86	0.09	0.0425	7.2%	3.0%
			Default	0.029	10.99			0.057	2.95				
				Average Difference		1.69		Average Difference		0.04			

Abbreviations: ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 300 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity..

[1]For 2000 ATC simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 2000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome for ATC Simulations[1]

GHS Category Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	8	0	0	0	0	0	8	100%	0%	0%
2	0	11	0	0	0	0	11	100%	0%	0%
3	0	1	13	0	0	0	14	93%	0%	7%
4	0	0	0	13	0	0	13	100%	0%	0%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	1	1	100%	0%	0%
Total	8	12	13	13	21	1	68	99%	0%	1%

GHS Category Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	8	0	0	0	0	0	8	100%	0%	0%
2	0	11	0	0	0	0	11	100%	0%	0%
3	0	0	15	0	0	0	15	100%	0%	0%
4	0	0	1	11	0	0	12	92%	0%	8%
5	0	0	0	0	20	0	20	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	1	1	100%	0%	0%
Total	8	11	16	11	20	1	67	99%	0%	1%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 2000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg. The NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621). The default starting dose = 300 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances[1] for GHS Category[2] Outcomes of ATC Simulations

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[3] Toxicity Category	Default Starting Dose[4] Toxicity Category
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	3	4
NHK	Hexachlorophene	2	3

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); ATC= Acute Toxic Class method (OECD 2001d): NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

[1]Substances for which the simulated ATC outcome for the NRU-based starting dose did not match the simulated ATC outcome for the default starting dose. Simulations were performed with 2000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[3]NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621).

[4]The default starting dose = 300 mg/kg.

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix N4

ATC Simulation Results Starting at the Next Fixed Dose Below the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} and the RC Rat-Only Weight Regression - 2000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
NHK	0.12	Cyto	0.297	9.75	0.91	0.0025	0.280	2.67	0.48	0.0999	8.6%	15.2%
		Default	0.169	10.67			0.334	3.15				
	0.25	Cyto	0.274	9.77	0.98	0.0015	0.276	2.88	0.50	0.3451	9.1%	14.7%
		Default	0.149	10.75			0.324	3.38				
	0.50	Cyto	0.242	9.95	0.96	0.0000	0.254	3.21	0.52	0.0030	8.8%	13.8%
		Default	0.114	10.91			0.297	3.72				
	1.25	Cyto	0.180	10.24	0.86	0.0005	0.193	3.86	0.54	0.0000	7.8%	12.3%
		Default	0.068	11.10			0.228	4.40				
	2.00	Cyto	0.152	10.39	0.86	0.0000	0.160	4.19	0.53	0.0001	7.6%	11.3%
		Default	0.050	11.25			0.189	4.73				
			Average Difference		0.91		Average Difference		0.51			
3T3	0.12	Cyto	0.293	9.55	1.09	0.0006	0.283	2.73	0.47	0.0001	10.2%	14.6%
		Default	0.170	10.64			0.335	3.20				
	0.25	Cyto	0.273	9.61	1.11	0.0002	0.275	2.95	0.48	0.0024	10.4%	14.1%
		Default	0.151	10.73			0.325	3.43				
	0.50	Cyto	0.244	9.85	1.04	0.0001	0.251	3.27	0.50	0.0007	9.6%	13.2%
		Default	0.115	10.89			0.299	3.77				
	1.25	Cyto	0.187	10.22	0.88	0.0000	0.192	3.93	0.51	0.0000	7.9%	11.4%
		Default	0.067	11.10			0.228	4.43				
	2.00	Cyto	0.153	10.43	0.81	0.0000	0.160	4.27	0.49	0.0000	7.2%	10.3%
		Default	0.049	11.25			0.190	4.76				
			Average Difference		0.99		Average Difference		0.49			

Abbreviations: ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [□g/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 300 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 2000 ATC simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 2000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals for the default starting dose and mean number of animals for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	NHK	0.12	Cyto	1.195	6.18	2.91	0.1250	1.180	5.96	2.91	0.1250	32.0%	32.8%
			Default	0.083	9.09			0.080	8.86				
		0.25	Cyto	1.250	6.45	2.91	0.2500	1.156	5.77	2.90	0.2500	31.1%	33.5%
			Default	0.178	9.35			0.070	8.67				
		0.50	Cyto	1.277	6.87	2.87	0.2500	1.157	5.61	2.89	0.1250	29.4%	34.0%
			Default	0.158	9.74			0.060	8.50				
		1.25	Cyto	1.215	7.52	2.87	0.2500	1.033	5.26	2.66	0.1250	27.6%	33.6%
			Default	0.111	10.39			0.066	7.92				
		2.00	Cyto	1.225	7.94	2.90	0.2500	0.940	5.10	2.41	0.1250	26.8%	32.1%
			Default	0.066	10.85			0.052	7.51				
				Average Difference		2.89		Average Difference		2.75			
	3T3	0.12	Cyto	0.987	6.85	2.24	0.1250	1.057	6.62	2.24	0.1250	24.6%	25.3%
			Default	0.081	9.08			0.081	8.86				
		0.25	Cyto	0.980	7.12	2.24	0.1250	1.008	6.44	2.23	0.1250	23.9%	25.7%
			Default	0.174	9.36			0.073	8.67				
		0.50	Cyto	1.029	7.56	2.21	0.1250	0.998	6.28	2.22	0.1250	22.6%	26.1%
			Default	0.170	9.77			0.049	8.50				
		1.25	Cyto	1.011	8.16	2.26	0.1250	0.911	5.89	2.04	0.1250	21.7%	25.7%
			Default	0.093	10.42			0.081	7.93				
		2.00	Cyto	1.017	8.61	2.22	0.1250	0.841	5.68	1.86	0.1250	20.5%	24.7%
			Default	0.060	10.84			0.058	7.54				
				Average Difference		2.23		Average Difference		2.12			
2	NHK	0.12	Cyto	0.333	10.40	1.36	0.0049	0.618	5.20	1.36	0.0144	11.5%	20.7%
			Default	0.165	11.76			0.256	6.55				
		0.25	Cyto	0.266	10.31	1.33	0.0034	0.690	5.38	1.33	0.0046	11.5%	19.8%
			Default	0.180	11.64			0.313	6.71				
		0.50	Cyto	0.192	10.31	1.25	0.0061	0.668	5.66	1.22	0.0134	10.8%	17.8%
			Default	0.212	11.56			0.312	6.88				
		1.25	Cyto	0.261	10.21	1.33	0.0105	0.504	5.82	1.09	0.0046	11.5%	15.8%
			Default	0.156	11.54			0.191	6.91				
		2.00	Cyto	0.344	10.21	1.41	0.0034	0.438	5.74	1.03	0.0012	12.1%	15.3%
			Default	0.089	11.62			0.142	6.77				
				Average Difference		1.33		Average Difference		1.21			
	3T3	0.12	Cyto	0.329	10.27	1.48	0.0061	0.597	5.06	1.49	0.0024	12.6%	22.8%
			Default	0.163	11.75			0.255	6.56				
		0.25	Cyto	0.350	10.13	1.51	0.0024	0.645	5.19	1.53	0.0024	13.0%	22.8%
			Default	0.189	11.64			0.314	6.72				
		0.50	Cyto	0.384	10.06	1.51	0.0061	0.630	5.41	1.48	0.0022	13.0%	21.5%
			Default	0.214	11.56			0.313	6.89				
		1.25	Cyto	0.425	9.98	1.52	0.0061	0.486	5.64	1.25	0.0061	13.2%	18.2%
			Default	0.148	11.51			0.194	6.89				
		2.00	Cyto	0.445	10.03	1.55	0.0046	0.426	5.60	1.17	0.0024	13.4%	17.3%
			Default	0.083	11.58			0.146	6.77				
				Average Difference		1.51		Average Difference		1.39			

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	NHK	0.12	Cyto	0.489	9.63	-0.20	0.4688	0.073	3.12	0.28	0.0713	-2.1%	8.3%
			Default	0.264	9.44			0.217	3.41				
		0.25	Cyto	0.407	9.86	0.04	0.3013	0.139	3.35	0.45	0.0210	0.4%	11.8%
			Default	0.275	9.89			0.237	3.80				
		0.50	Cyto	0.279	10.41	0.42	0.1099	0.155	3.62	0.64	0.0093	3.8%	15.1%
			Default	0.207	10.83			0.171	4.26				
		1.25	Cyto	0.248	10.91	0.82	0.0342	0.193	4.27	0.76	0.0210	7.0%	15.1%
			Default	0.083	11.73			0.119	5.03				
		2.00	Cyto	0.302	10.74	1.09	0.0034	0.218	4.60	0.81	0.0342	9.2%	15.1%
			Default	0.038	11.82			0.091	5.41				
				Average Difference		0.43		Average Difference		0.59			
	3T3	0.12	Cyto	0.099	9.20	0.22	0.2647	0.104	3.17	0.23	0.1294	2.4%	6.7%
			Default	0.258	9.42			0.213	3.40				
		0.25	Cyto	0.155	9.60	0.31	0.0449	0.165	3.50	0.30	0.1060	3.1%	7.9%
			Default	0.271	9.90			0.237	3.80				
		0.50	Cyto	0.176	10.35	0.47	0.0225	0.160	3.83	0.43	0.0522	4.3%	10.1%
			Default	0.202	10.81			0.169	4.26				
		1.25	Cyto	0.228	11.11	0.62	0.0210	0.180	4.51	0.52	0.0210	5.3%	10.4%
			Default	0.084	11.73			0.119	5.04				
		2.00	Cyto	0.253	11.09	0.71	0.0449	0.186	4.88	0.53	0.0640	6.0%	9.8%
			Default	0.037	11.80			0.095	5.41				
				Average Difference		0.47		Average Difference		0.40			
4	NHK	0.12	Cyto	0.645	10.23	-0.97	0.1445	0.068	3.045	-0.005	0.2444	-10.4%	-0.1%
			Default	0.098	9.26			0.067	3.040				
		0.25	Cyto	0.565	10.23	-0.80	0.1089	0.093	3.13	-0.01	0.0229	-8.5%	-0.4%
			Default	0.095	9.43			0.092	3.12				
		0.50	Cyto	0.500	10.46	-0.69	0.6416	0.058	3.20	-0.02	0.0744	-7.1%	-0.6%
			Default	0.062	9.77			0.057	3.18				
		1.25	Cyto	0.296	10.91	-0.34	0.0256	0.057	3.64	0.06	0.3259	-3.3%	1.6%
			Default	0.043	10.57			0.067	3.70				
		2.00	Cyto	0.093	11.12	-0.02	0.4851	0.070	4.04	0.13	0.6791	-0.2%	3.0%
			Default	0.048	11.10			0.080	4.16				
				Average Difference		-0.57		Average Difference		0.03			
	3T3	0.12	Cyto	0.664	10.65	-1.39	0.0762	0.068	3.04	0.00	0.8160	-15.0%	0.0%
			Default	0.102	9.26			0.068	3.04				
		0.25	Cyto	0.586	10.56	-1.14	0.0437	0.094	3.13	0.00	0.5871	-12.1%	0.0%
			Default	0.098	9.42			0.095	3.13				
		0.50	Cyto	0.496	10.67	-0.93	0.0229	0.057	3.18	-0.01	0.4691	-9.5%	-0.2%
			Default	0.065	9.75			0.056	3.18				
		1.25	Cyto	0.279	10.95	-0.38	0.0928	0.053	3.62	0.08	0.1208	-3.6%	2.2%
			Default	0.040	10.57			0.069	3.71				
		2.00	Cyto	0.105	11.12	-0.01	0.4212	0.061	4.00	0.17	0.1089	-0.1%	4.2%
			Default	0.047	11.11			0.077	4.17				
				Average Difference		-0.77		Average Difference		0.05			

Summary of Animals Used and Animals Dead for ATC Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	NHK	0.12	Cyto	0.604	11.03	0.84	0.8867	0.188	0.393	-0.003	0.1055	7.1%	-0.9%
			Default	0.101	11.87			0.189	0.390				
		0.25	Cyto	0.528	10.88	0.75	0.3223	0.156	1.10	-0.02	0.0098	6.4%	-1.8%
			Default	0.119	11.63			0.157	1.08				
		0.50	Cyto	0.365	10.69	0.53	0.1523	0.098	1.819	-0.002	0.7891	4.7%	-0.1%
			Default	0.083	11.22			0.097	1.817				
		1.25	Cyto	0.175	10.52	0.24	0.1934	0.041	2.87	0.01	0.3223	2.2%	0.5%
			Default	0.038	10.77			0.041	2.89				
		2.00	Cyto	0.094	10.69	0.14	0.1934	0.034	3.37	-0.01	0.7695	1.3%	-0.3%
			Default	0.011	10.83			0.026	3.35				
				Average Difference		0.50		Average Difference		0.00			
	3T3	0.12	Cyto	0.876	9.44	2.43	0.0742	0.184	0.38	0.01	0.1856	20.5%	2.1%
			Default	0.103	11.88			0.188	0.39				
		0.25	Cyto	0.751	9.54	2.08	0.1934	0.150	1.09	-0.01	0.5566	17.9%	-0.5%
			Default	0.117	11.62			0.158	1.09				
		0.50	Cyto	0.514	9.80	1.43	0.0273	0.095	1.80	0.02	0.0488	12.7%	1.1%
			Default	0.083	11.22			0.093	1.82				
		1.25	Cyto	0.260	10.08	0.69	0.0273	0.052	2.87	0.01	0.6953	6.4%	0.4%
			Default	0.037	10.77			0.041	2.88				
		2.00	Cyto	0.127	10.49	0.36	0.0273	0.046	3.41	-0.06	0.1055	3.3%	-1.6%
			Default	0.010	10.85			0.027	3.35				
				Average Difference		1.40		Average Difference		0.00			
6	NHK	0.12	Cyto	0.853	8.75	3.25	0.0068	0.00022	0.0005	-0.0001	0.5313	27.1%	-27.3%
			Default	0.000	12.00			0.00021	0.0004				
		0.25	Cyto	0.847	8.75	3.25	0.0105	0.033	0.11	-0.0004	0.1099	27.1%	-3.8%
			Default	0.002	11.99			0.033	0.10				
		0.50	Cyto	0.776	8.91	2.94	0.0081	0.099	0.72	0.02	0.0327	24.8%	2.3%
			Default	0.034	11.86			0.099	0.73				
		1.25	Cyto	0.481	9.44	1.78	0.0085	0.106	2.12	0.15	0.0085	15.9%	6.4%
			Default	0.058	11.23			0.086	2.27				
		2.00	Cyto	0.318	9.89	1.09	0.0266	0.090	2.82	0.11	0.0288	9.9%	3.8%
			Default	0.031	10.98			0.053	2.93				
				Average Difference		2.46		Average Difference		0.05			
	3T3	0.12	Cyto	0.912	8.67	3.33	0.0098	0.00020	0.0005	-0.00017	0.2500	27.7%	-50.0%
			Default	0.000	12.00			0.00018	0.003				
		0.25	Cyto	0.912	8.68	3.31	0.0068	0.034	0.11	0.01	0.0210	27.6%	4.4%
			Default	0.002	11.99			0.035	0.12				
		0.50	Cyto	0.833	8.83	3.02	0.0068	0.106	0.74	0.00	0.8057	25.5%	-0.3%
			Default	0.035	11.85			0.106	0.74				
		1.25	Cyto	0.542	9.41	1.81	0.0122	0.117	2.12	0.15	0.0269	16.1%	6.6%
			Default	0.060	11.22			0.096	2.27				
		2.00	Cyto	0.346	9.86	1.12	0.0161	0.095	2.83	0.12	0.0269	10.2%	4.0%
			Default	0.029	10.99			0.057	2.95				
				Average Difference		2.52		Average Difference		0.05			

Abbreviations: ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 300 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 2000 ATC simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 2000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome for ATC Simulations[1]

GHS Category Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	8	0	0	0	0	0	8	100%	0%	0%
2	0	11	0	0	0	0	11	100%	0%	0%
3	0	1	13	0	0	0	14	93%	0%	7%
4	0	0	1	12	0	0	13	92%	0%	8%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	1	1	100%	0%	0%
Total	8	12	14	12	21	1	68	97%	0%	3%

GHS Category Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	8	0	0	0	0	0	8	100%	0%	0%
2	0	11	0	0	0	0	11	100%	0%	0%
3	0	0	15	0	0	0	15	100%	0%	0%
4	0	0	1	11	0	0	12	92%	0%	8%
5	0	0	0	0	20	0	20	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	1	1	100%	0%	0%
Total	8	11	16	11	20	1	67	99%	0%	1%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); ATC=Acute Toxic Class method (OECD 2001d); NHK=Normal human epidermal keratinocytes; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 2000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg. The NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024).. The default starting dose = 300 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limit
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances[1] for GHS Category[2] Outcomes of ATC Simulations

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[3] Toxicity Category	Default Starting Dose[4] Toxicity Category
3T3	Cupric sulfate pentahydrate	3	4
NHK	Hexachlorophene	2	3
NHK	Propranolol	3	4

Abbreviations: GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); ATC= Acute Toxic Class method (OECD 2001d); 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NRU=Neutral red uptake.

[1]Substances for which the simulated ATC outcome for the NRU-based starting dose did not match the simulated ATC outcome for the default starting dose. Simulations were performed with 2000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =2000 mg/kg.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

[3]NRU-based starting dose was one dose lower than the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [μg/mL] + 2.024).

[4]The default starting dose = 300 mg/kg.

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix O

Federal Register Notices

[This Page Intentionally Left Blank]

committee (NMQAAC). Concurrently, nomination materials for prospective candidates should be sent to FDA by April 21, 2005. A nominee may either be self-nominated or nominated by an organization to serve as a nonvoting industry representative.

ADDRESSES: All letters of interest and nominations should be sent to the contact person listed in the **FOR FURTHER INFORMATION** section of this notice.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: Kathleen L. Walker, Center for Devices and Radiological Health (HFZ–17), Food and Drug Administration, 2098 Gaither Rd., Rockville, MD 20850, 240–276–0450, ext. 114.

SUPPLEMENTARY INFORMATION: The Mammography Quality Standards Reauthorization Act of 2004 (Public Law 108–365) requires the addition of at least two industry representatives with expertise in mammography equipment to the National Mammography Quality Assurance Advisory Committee.

I. Functions of NMQAAC

The functions of the NMQAAC are to advise FDA on: (1) Developing appropriate quality standards and regulations for mammography facilities, (2) developing appropriate standards and regulations for bodies accrediting mammography facilities under this program, (3) developing regulations with respect to sanctions, (4) developing procedures for monitoring compliance with standards, (5) establishing a mechanism to investigate consumer complaints, (6) reporting new developments concerning breast imaging which should be considered in the oversight of mammography facilities, (7) determining whether there exists a shortage of mammography facilities in rural and health professional shortage areas and determining the effects of personnel on access to the services of such facilities in such areas, (8) determining whether there will exist a sufficient number of medical physicists after October 1, 1999, and (9) determining the costs and benefits of compliance with these requirements.

II. Selection Procedure

Any organization representing the mammography device industry wishing to participate in the selection of a nonvoting member to represent industry should send a letter stating that interest to the FDA contact (see **FOR FURTHER INFORMATION CONTACT**) within 30 days of publication of this notice. Persons who nominate themselves as industry representatives will not participate in the selection process. It is, therefore, recommended that nominations be made by someone within an organization, trade association or firm who is willing to participate in the selection process. Within the subsequent 30 days, FDA will send a letter to each organization and a list of all nominees along with their resumes. The letter will state that the interested organizations are responsible for conferring with one another to select a candidate, within 60 days after receiving the letter, to serve as the nonvoting member representing the a particular committee. If no individual is selected within the 60 days, the Commissioner of Food and Drugs (the Commissioner) may select the nonvoting member to represent industry interests.

III. Qualifications

Persons nominated for membership on the committee as an industry representative must meet the following criteria:(1) Demonstrate expertise in mammography equipment and (2) be able to discuss equipment specifications and quality control procedures affecting mammography equipment. The industry representative must be able to represent the industry perspective on issues and actions before the advisory committee; serve as liaison between the committee and interested industry parties; and facilitate dialogue with the advisory committee on mammography equipment issues.

IV. Application Procedure

Individuals may nominate themselves, or an organization representing the mammography device industry may nominate one or more individuals to serve as nonvoting industry representatives. A current curriculum vitae (which includes the nominee's business address, telephone number, and e-mail address) and the name of the committee of interest should be sent to the FDA contact person. FDA will forward all nominations to the organizations that have expressed interest in participating in the selection process for the committee.

FDA has a special interest in ensuring that women, minority groups, individuals with disabilities, and small businesses are adequately represented on its advisory committees. Therefore, the agency encourages nominations for appropriately qualified candidates from these groups.

This notice is issued under the Federal Advisory Committee Act (5 U.S.C. app. 2) and 21 CFR part 14 relating to advisory committees.

Dated: March 14, 2005.

Sheila Dearybury Walcoff,

Associate Commissioner for External Relations.

[FR Doc. 05–5551 Filed 3–21–05; 8:45 am]

BILLING CODE 4160–01–S

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

National Institutes of Health

National Toxicology Program; National Toxicology Program (NTP) Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM); Request for Nominations for an Independent Peer Review Panel To Evaluate In Vitro Testing Methods for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity and Request for In Vivo and In Vitro Data

AGENCY: National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), National Institutes of Health (NIH), HHS.

ACTION: Request for nominations for an independent peer review panel and request for *in vivo* and *in vitro* data.

SUMMARY: The NTP Interagency Center for Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) in collaboration with the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) is planning to convene an independent peer review panel (hereafter, Panel) to evaluate the validation status of two *in vitro* cytotoxicity assays for estimating *in vivo* acute oral toxicity. The Panel will evaluate the usefulness, limitations, accuracy, and reliability of these test methods for their intended purpose. NICEATM requests nominations of expert scientists for consideration as potential Panel members. ICCVAM will consider the conclusions and recommendations from the Panel in developing test method recommendations and performance standards for these test methods. Data from standard *in vivo* acute oral toxicity testing and *in vitro* cytotoxicity testing also is requested.

DATES: Nominations and data should be received by noon on May 6, 2005.

ADDRESSES: Nominations and data should be sent by mail, fax, or e-mail to Dr. William S. Stokes, Director of NICEATM, at NICEATM, NIEHS, P.O. Box 12233, MD EC–17, Research Triangle Park, NC 27709, (phone) 919–541–2384, (fax) 919–541–0947, (e-mail) *niceatm@niehs.nih.gov*. Courier address: NICEATM, 79 T.W. Alexander Drive,

Building 4401, Room 3128, Research Triangle Park, NC 27709.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: NICEATM, NIEHS, P.O. Box 12233, MD EC–17, Research Triangle Park, NC 27709, (phone) 919–541–2384, (fax) 919–541–0947, (e-mail) *niceatm@niehs.nih.gov.*

SUPPLEMENTARY INFORMATION:

Background

NICEATM and the European Committee on the Validation of Alternative Methods (ECVAM) conducted a collaborative validation study to independently evaluate the usefulness of two *in vitro* basal cytotoxicity assays proposed for estimating *in vivo* rat acute oral toxicity. Neutral red uptake assays using both a mouse cell line (*i.e.*, BALB/c 3T3 fibroblasts) and a primary human cell type (*i.e.*, normal human epithelial keratinocytes) were evaluated in a multi-laboratory validation study. Cytotoxicity results are proposed for use in predicting starting doses for *in vivo* acute oral lethality assays, which may reduce the number of animals required for such determinations.

NICEATM is preparing Background Review Documents on the two *in vitro* test methods that will contain comprehensive summaries of available data, an analysis of the accuracy and reliability of standardized test method protocols, and related information characterizing the current validation status of these assays. Once completed, the Background Review Documents will be provided to the Panel and made available to the public. Meeting information, including date and location, and public availability of the Background Review Documents will be announced in a future **Federal Register** notice and posted on the ICCVAM/NICEATM Web site (*http://iccvam.niehs.nih.gov*).

Request for the Nomination of Scientists for the Peer Review Panel

NICEATM invites nominations of scientists with relevant knowledge and experience to serve on the Panel. Areas of relevant expertise include, but are not limited to: physiology and pharmacology, acute systemic toxicity testing in animals, evaluation and treatment of acute toxicity in humans, development and use of *in vitro* methodologies, biostatistical data analysis, knowledge of chemical data sets useful for validation of acute toxicity studies, and hazard classification of chemicals and products. Each nomination should include the person's name, affiliation, contact information (*i.e.* mailing address, e-mail address, telephone and fax numbers), and a brief summary of relevant experience and qualifications. Nominations should be sent to NICEATM by mail, fax, or e-mail within 45 days of the publication of this notice. Correspondence should be directed to Dr. William Stokes, Director, NICEATM, at the address given above.

Request for Data

NICEATM invites the submission of data from standard *in vivo* acute oral toxicity testing and *in vitro* cytotoxicity testing. Two previous requests for existing *in vivo* and *in vitro* acute toxicity data have been made (**Federal Register**, Vol. 69, No. 201, pp. 61504–5, October 19, 2004 and Vol. 65, No. 115, pp. 37400–3, June 14, 2000). *In vivo* and *in vitro* acute toxicity testing data for chemicals or products should be sent to NICEATM by mail, fax, or e-mail to the address given above. Data submitted by the deadline listed in this notice will be considered during an evaluation of the validation status of the two cytotoxicity methods, anticipated in late 2005; however, data will be accepted at any time. Chemical and protocol information/test data submitted in response to this notice may be incorporated in future NICEATM and ICCVAM reports and publications as appropriate.

When submitting chemical and protocol information/test data, please reference this **Federal Register** notice and provide appropriate contact information (name, affiliation, mailing address, phone, fax, e-mail, and sponsoring organization, as applicable).

NICEATM prefers data to be submitted as copies of pages from study notebooks and/or study reports, if available. Raw data and analyses available in electronic format may also be submitted. Each submission for a chemical should preferably include the following information, as appropriate:

- Common and trade name.
- Chemical Abstracts Service Registry Number (CASRN).
- Chemical class.
- Product class.
- Commercial source.
- *In vitro* basal cytotoxicity test protocol used.
- *In vitro* cytotoxicity test results.
- *In vivo* acute oral toxicity test protocol used.
- Individual animal responses at each observation time (if available).
- The extent to which the study complied with national or international Good Laboratory Practice (GLP) guidelines.
- Date and testing organization.

Those persons submitting data on chemicals tested for *in vitro* basal cytotoxicity are referred to the standard test-reporting template recommended for the High Production Volume (HPV) program at *http://www.epa.gov/chemrtk/toxprtow.htm* or at *http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm*. *In vivo* data for the same chemicals should be reported as recommended in the test reporting section of the current Environmental Protection Agency (EPA) guideline for acute oral toxicity (EPA, 2002).

Submitted data will be used to further evaluate the usefulness and limitations of *in vitro* cytotoxicity data for estimating acute oral toxicity and will be included in a database to support the investigation of other test methods necessary to improve the accuracy of *in vitro* assessments of acute systemic toxicity.

Background Information on ICCVAM and NICEATM

ICCVAM is an interagency committee composed of representatives from 15 Federal regulatory and research agencies that use or generate toxicological information. ICCVAM conducts technical evaluations of new, revised, and alternative methods with regulatory applicability and promotes the scientific validation and regulatory acceptance of toxicological test methods that more accurately assess the safety and hazards of chemicals and products and that refine, reduce, and replace animal use. The ICCVAM Authorization Act of 2000 (Pub. L. 106–545, available at *http://iccvam.niehs.nih.gov/about/PL106545.htm*) establishes ICCVAM as a permanent interagency committee of the NIEHS under the NICEATM. NICEATM administers the ICCVAM and provides scientific and operational support for ICCVAM-related activities. NICEATM and ICCVAM work collaboratively to evaluate new and improved test methods applicable to the needs of Federal agencies. Additional information about ICCVAM and NICEATM can be found at the following Web site: *http://iccvam.niehs.nih.gov.*

Dated: March 11, 2005.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 05–5564 Filed 3–21–05; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

and Eukaryotic Genetics and Molecular Biology.

Date: November 3–5, 2004.

Time: 7 a.m. to 5 p.m.

Agenda: To review and evaluate grant applications.

Place: Hyatt Regency Bethesda, One Bethesda Metro Center, 7400 Wisconsin Avenue, Bethesda, MD 20814.

Contact Person: Mary P. McCormick, PhD, Scientific Review Administrator, Center for Scientific Review, National Institutes of Health, 6701 Rockledge Drive, Room 2208, MSC 7890, Bethesda, MD 20892, (301) 435–1047, *mccormim@csr.nih.gov.*

Name of Committee: Center for Scientific Review Special Emphasis Panel, Fetal Basis for Adult Disease.

Date: November 3–4, 2004.

Time: 7 a.m. to 5 p.m.

Agenda: To review and evaluate grant applications.

Place: Bethesda Marriott Suites, 6711 Democracy Boulevard, Bethesda, MD 20817.

Contact Person: Ray Bramhall, PhD, Scientific Review Administrator, Center for Scientific Review, National Institutes of Health, 6701 Rockledge Drive, Room 6046 F, MSC 7892, Bethesda, MD 20892, (910) 458–1871, *bramhalr@csr.nih.gov.*

(Catalogue of Federal Domestic Assistance Program Nos. 93.306, Comparative Medicine; 93.333, Clinical Research, 93.306, 93.333, 93.337, 93.393–93.396, 93.837–93.844, 93.846–93.878, 93.892, 93.893, National Institutes of Health, HHS.)

Dated: October 7, 2004.

LaVerne Y. Stringfield,

Director, Office of Federal Advisory Committee Policy.

[FR Doc. 04–23350 Filed 10–18–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

Public Health Service

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); National Toxicology Program (NTP); NTP Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM): Availability of Updated Standardized *In Vitro* Cytotoxicity Test Method Protocols for Estimating Acute Oral Systemic Toxicity; Request for Existing *In Vivo* and *In Vitro* Acute Toxicity Data

Summary: NICEATM announces the availability of two updated standardized in vitro cytotoxicity test method protocols to estimate acute oral systemic toxicity in rodents. These two test methods were previously recommended by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) for selecting starting doses for in vivo acute oral systemic toxicity tests (**Federal Register** Vol. 66, No. 189, pages 49686–49687, September 28, 2001). This approach can reduce the number of animals required for acute oral toxicity testing. NICEATM also requests the submission of existing and future data on chemicals and products tested for both acute oral systemic toxicity and in vitro cytotoxicity using the standardized test method protocols mentioned in this notice. These data will be used to further evaluate the usefulness and limitations of cytotoxicity methods for estimating in vivo acute oral toxicity. The data will also be used to establish a database to support the investigation of other test methods necessary to improve the accuracy of in vitro assessments of acute systemic toxicity.

Availability of Standardized Test Method Protocols for Estimating Starting Doses for *In Vivo* Acute Oral Toxicity Tests

Updated standardized protocols for two neutral red uptake assays using either BALB/c 3T3 cells or normal human keratinocytes are now available at: *http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm.* These test method protocols have been improved to maximize intra- and inter-laboratory reproducibility and are currently being used for the final phase of a joint NICEATM-European Center for the Validation of Alternative Methods (ECVAM) validation study. NICEATM recommends that these updated test method protocols be used in place of standard operating procedures previously recommended by ICCVAM for two cytotoxicity test methods to estimate starting doses for in vivo acute oral toxicity tests (ICCVAM, 2001b).

Submission of Chemical and Protocol Information/Test Data

In vivo and in vitro acute toxicity testing data for chemicals or products should be sent by mail, fax or e-mail to NICEATM [Dr. William S. Stokes, Director, NICEATM, NIEHS, PO Box 12233, MD EC–17, Research Triangle Park, NC 27709, (phone) 919–541–2384, (fax) 919–541–0947, (e-mail) *iccvam@niehs.nih.gov*]. Data will be accepted at any time. Data submitted within the next 9 months will be considered during an evaluation of the validation status of the two cytotoxicity methods anticipated in late 2005. Chemical and protocol information/test data submitted in response to this notice may be incorporated in future NICEATM and ICCVAM reports and publications as appropriate.

When submitting chemical and protocol information/test data, please reference this **Federal Register** notice and provide appropriate contact information (name, affiliation, mailing address, phone, fax, e-mail, and sponsoring organization, as applicable).

NICEATM prefers data to be submitted as copies of pages from study notebooks and/or study reports, if available. Raw data and analyses available in electronic format may also be submitted. Each submission for a chemical should preferably include the following information, as appropriate:

- Common and trade name
- Chemical Abstracts Service Registry Number (CASRN)
- Chemical and/or product class
- Commercial source
- In vitro basal cytotoxicity test protocol used
- In vitro cytotoxicity test results
- In vivo acute oral toxicity test protocol used
- Individual animal responses at each observation time (if available)
- The extent to which the study complied with national or international Good Laboratory Practice (GLP) guidelines
- Date and testing organization

Those persons submitting data on chemicals tested for in vitro basal cytotoxicity are referred to the standard test-reporting template recommended for the High Production Volume (HPV) program at *http://www.epa.gov/chemrtk/toxprtow.htm* or at *http://iccvam.niehs.nih.gov/methods/invitro.htm.* In vivo data for the same chemicals should be reported as recommended in the test reporting section of the current Environmental Protection Agency (EPA) guideline for acute oral toxicity (EPA, 2002).

Submitted data will be used to further evaluate the usefulness and limitations of in vitro cytotoxicity data for estimating acute oral toxicity, and will be included in a database to support the investigation of other test methods necessary to improve the accuracy of in vitro assessments of acute systemic toxicity.

History

In September 2001, the ICCVAM recommended that in vitro cytotoxicity test methods be considered as a tool for estimating starting doses for in vivo acute systemic toxicity testing studies (**Federal Register** Vol. 66, No. 189, pages 49686–49687, September 28, 2001.) The recommendations were based on the Report of the International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity (ICCVAM, 2001a). The Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity (ICCVAM, 2001b) was

also made available at that time. The guidance document provided standard operating procedures for two cytotoxicity test methods and instructions for using these assays to estimate starting doses for in vivo testing.

Federal agency responses to the ICCVAM test method recommendations were announced on March 10, 2004 (**Federal Register** Vol. 69, No. 47, pages 11448–11449). Federal agencies agreed to encourage, to the extent applicable, the use of in vitro tests for determining starting doses for acute systemic toxicity testing. Furthermore, EPA specifically encouraged those participating in the HPV Challenge Program to consider using the recommended in vitro tests as a supplemental component in conducting any new in vivo acute oral toxicity studies for the program (*http://www.epa.gov/chemrtk/toxprtow.htm*).

A NICEATM–ECVAM validation study was initiated in 2002 to evaluate the usefulness of the two neutral red uptake cytotoxicity assays currently available for predicting starting doses for in vivo acute oral toxicity tests. During the pre-validation phases of the study, the test method protocols were further standardized and revised to improve their intra- and inter-laboratory reproducibility. NICEATM recommends using the revised test method protocols rather than the standard operating procedures outlined in the guidance document (ICCVAM, 2001b.) The guidance document should be consulted for the procedure for calculating starting doses using in vitro cytotoxicity data.

Background Information on ICCVAM and NICEATM

ICCVAM is an interagency committee composed of representatives from fifteen Federal regulatory and research agencies that use, generate, or disseminate toxicological information. ICCVAM promotes the development, validation, regulatory acceptance, and national and international harmonization of toxicological test methods that more accurately assess the safety or hazards of chemicals and products, and test methods that refine, reduce and replace animal use. The ICCVAM Authorization Act of 2000 (available at *http://iccvam.niehs.nih.gov/about/PL106545.htm*) established ICCVAM as a permanent interagency committee of the NIEHS under the NICEATM. NICEATM administers the ICCVAM and provides scientific support for ICCVAM and ICCVAM-related activities. NICEATM and ICCVAM work collaboratively to evaluate new and improved test methods applicable to the needs of Federal agencies. Additional information about ICCVAM and NICEATM can be found at the following Web site: *http://iccvam.niehs.nih.gov/*.

References

EPA. 2002. Health Effects Test Guidelines, OPPTS 870.1100, Acute Oral Toxicity, EPA 712–C–02–190. Available at: *http://www.epa.gov/opptsfrs/OPPTS_Harmonized/870_Health_Effects_Test_Guidelines/Series/870–1100.pdf*.

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods). 2001a. Report of the international workshop on in vitro methods for assessing acute systemic toxicity. NIH Publication 01–4499. Research Triangle Park, NC: National Institute for Environmental Health Sciences. Available at: *http://iccvam.niehs.nih.gov/*.

ICCVAM. 2001b. Guidance document on using in vitro data to estimate in vivo starting doses for acute toxicity. NIH Publication 01–4500. Research Triangle Park, NC: National Institute for Environmental Health Sciences. Available at: *http://iccvam.niehs.nih.gov/*.

Dated: October 6, 2004.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 04–23335 Filed 10–18–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

DEPARTMENT OF HOMELAND SECURITY

Coast Guard

[CGD17–04–002]

Cook Inlet Regional Citizen's Advisory Committee; Charter Renewal

AGENCY: Coast Guard, DHS.

ACTION: Notice of recertification.

SUMMARY: The Coast Guard has recertified the Cook Inlet Regional Citizen's Advisory Council for the period covering September 1, 2004 through August 31, 2005. Under the Oil Terminal and Oil Tanker Environmental Oversight Act of 1990, the Coast Guard may certify on an annual basis an alternative voluntary advisory group in lieu of a regional citizens' advisory council for Cook Inlet, Alaska. This advisory group monitors the activities of terminal facilities and crude oil tankers under the Cook Inlet Program established by the statute.

DATES: The Cook Inlet Regional Citizen's Advisory Council is certified through August 31, 2005.

ADDRESSES: You may request a copy of the recertification letter by writing to Commander, Seventeenth Coast Guard District (mor), P.O. Box 25517, Juneau, AK 99802–5517.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: Lieutenant Andrew Vanskike, Seventeenth Coast Guard District (mor), 907–463–2818.

SUPPLEMENTARY INFORMATION:

Background And Purpose

On September 1, 2004, the Coast Guard recertified the Cook Inlet Regional Citizen's Advisory Council (CIRCAC) through August 31, 2005. Under the Oil Terminal and Oil Tanker Environmental Oversight Act of 1990 (33 U.S.C. 2732), the Coast Guard may certify, on an annual basis, an alternative voluntary advisory group in lieu of a regional citizens' advisory council for Cook Inlet, Alaska. This advisory group monitors the activities of terminal facilities and crude oil tankers under the Cook Inlet Program established by Congress, 33 U.S.C. 2732 (b).

On September 16, 2002, the Coast Guard published a notice of policy on revised recertification procedures for alternative voluntary advisory groups in lieu of councils at Prince William Sound and Cook Inlet, AK (67 FR 58440, 58441). This revised policy indicated that applicants seeking recertification in 2003 and 2004 need only submit a streamlined application and public comments would not be solicited prior to recertification.

Dated: September 24, 2004.

James C. Olson,

Rear Admiral, U.S. Coast Guard, Commander, Seventeenth Coast Guard District.

[FR Doc. 04–23370 Filed 10–18–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4910–15–M

DEPARTMENT OF HOMELAND SECURITY

Federal Emergency Management Agency

Notice of Adjustment of Countywide Per Capita Impact Indicator

AGENCY: Federal Emergency Management Agency, Emergency Preparedness and Response Directorate, Department of Homeland Security.

ACTION: Notice.

SUMMARY: FEMA gives notice that the countywide per capita impact indicator under the Public Assistance program for disasters declared on or after October 1, 2004 will be increased.

DATES: Effective October 1, 2004 and applies to major disasters declared on or after October 1, 2004.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: James A. Walke, Recovery Division, Federal Emergency Management

Natives (AI/AN) tribal governments to all available programs in the Department of Health and Human Services (HHS), and coordinate the tribal consultation activities associated with formulation of the IHS annual budget request. The application is for a five year project which will commence with an initial award on March 15, 2004. The initial budget period will be awarded at $227,00.00 and the entire project is expected to be awarded at $1,135,000.00.

The award is issued under the authority of the Public Health Service Act, section 301(a) and is included under the Catalog of Federal Domestic Assistance number 93.933. The specific objectives of the project are to:

1. Provide ongoing technical advice and consultation as the national Indian organization that is representative of all tribal governments in the area of health care policy analysis and program development.

2. Assure that health care advocacy is based on tribal input through a broad-based consumer network involving the Area Indian Health Boards or Health Board Representatives from each of the 12 IHS Areas.

3. Establish relationships with other national Indian organizations, with professional groups and with Federal, State and local entities to serve as advocates for AI/AN health programs. As a recipient of a grant/cooperative agreement, the NIHB is prohibited from conducting lobbying activities using Federal funding.

4. Improve and expand access for AI/AN tribal governments to all available programs in the HHS.

5. Publish, at least three times a year, a newsletter featuring articles on health promotion/disease prevention activities and models of best or improving practices, health policy and funding information relevant to AI/AN, *etc.*

6. Disseminate timely health care information to tribal governments, AI/AN Health Boards, other national Indian organizations, professional groups, Federal, State, and local entities.

7. Coordinate the tribal consultation activities associated with formulation of the IHS annual budget request.

Justification for Single Source: This project has been awarded on a non-competitive single source basis. NIHB is the only national AI/AN organization with health expertise that represents the interest of all federally recognized tribes.

Use of Cooperative Agreement: A non-competitive single source Cooperative Agreement Award will involve:

1. IHS staff will review articles concerning the Agency for accuracy and may, as requested by the NIHB, provide articles.

2. IHS staff will have aproval over the hiring of key personnel as defined by regulation or provision in the cooperative agreement.

3. IHS will provide technical assistance to the NIHB as requested and attend and participate in all NIHB Board meetings.

FOR FURTHER INFORAMTION CONTACT: Douglas Black, Director, Office of Tribal Programs, Office of the Director, Indian Health Service, 801 Thompson Avenue, Reyes Building, Suite 220, Rockville, Maryland 20852, telephone (301) 443–1104. For grants information, contact Sylvia Tyan, Grants Management Specialist, Division of Acquisition and Grants Management Branch, 1200 Twinbrook Parkway, Room 450A, Rockville, Maryland 20852, telephone (301) 443–5204.

Dated: March 1, 2004.

Charles W. Grim,

Assistant Surgeon General, Director, Indian Health Service.

[FR Doc. 04–5305 Filed 3–9–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4160–16–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

National Institutes of Health

Office of the Director; Notice of Meeting

The Office of the Director, National Institutes of Health (NIH), announces a meeting of the NIH Blue Ribbon Panel on Conflict of Interest Policies, a working group of the Advisory Committee to the director, NIH. The meeting is scheduled for March 12–13, 2004. The meeting will be held at the NIH, 9000 Rockville Pike, Bethesda, Maryland, Building 31C, Conference Room 6. Attendance will be limited to space available. In the interest of security, NIH has instituted stringent procedures for entrance into the building by non-government employees. Persons without a government I.D. will need to shop a photo I.D. and sign in at the security desk upon entering the building.

On March 12, the Panel will meet in closed, Executive Session, from 8:30–10 a.m., and in public session, from 10 a.m.–6:15 p.m. On March 13, the Panel will meet in closed, Executive Session, from 8:30 a.m.–2 p.m. The agenda will be posted on the NIH Web site *(http://www.nih.gov)* prior to the meeting.

During the public session, time will be set aside for oral presentations by the public. Any person wishing to take a presentation should notify Charlene French, Office of Science Policy, National Institutes of Health, Building 1, Room 103, Bethesda, Maryland 20892, telephone (301) 496–2122 by March 11, 2004 or by e-mail: *blueribbonpanel@mail.nih.gov.*

Oral comments will be limited to 5 minutes. Due to time constraints, only one representative from each organization will be allotted time for oral testimony. The number of speakers and the time allotment may also be limited by the number of presentations. The opportunity to speak will be based on a first come first served basis. All requests to present oral comments should include the name, addresses, telephone number, and business or professional affiliation of the interested party, and should indicate the areas of interest or issue to be addressed. Please provide, if possible, an electronic copy of your comments.

Any person attending the meeting who has not registered to speak in advance of the meeting will be allowed to make a brief oral statement during the time set aside for public comment, if time permits and at the discretion of the co-chairs.

Individuals who plan to attend the meeting and need special assistance, such as sign language interpretation or other reasonable accommodations, should notify Charlene French at the address listed earlier in this notice in advance of the meeting.

Dated: March 5, 2004.

LaVerne Stringfield,

Director, Office of Federal Advisory Committee Policy.

[FR Doc. 04–5504 Filed 3–8–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

Public Health Service

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); National Toxicology Program (NTP); Notice of the Availability of Agency Responses to ICCVAM Test Recommendations for the Revised Up-and-Down Procedure for Determining Acute Oral Toxicity and In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity

Summary

The National Toxicology Program Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) announces the availability of Federal agency responses to Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods

(ICCVAM) test recommendations for: (1) The revised Up-and-Down Procedure (UDP) for determining acute oral toxicity and (2) *in vitro* methods for assessing acute systemic toxicity. Pursuant to sections 3 of the ICCVAM Authorization Act of 2000 [Pub. L. 106–545 (42 U.S.C. 285l–4)], ICCVAM is required to make final ICCVAM test recommendations and the responses from agencies regarding such recommendations available to the public.

Availability of Agency Responses

The agency responses to the ICCVAM test recommendations and other current information relevant to these test recommendations are available electronically (PDF and HTML formats) on the NICEATM/ICCVAM Web site at *http://iccvam.niehs.nih.gov*. Hard copy versions of these responses can be requested by contacting NICEATM at P.O. Box 12233, MD EC–17, Research Triangle Park, NC 27709 (mail), 919–541–2384 (telephone), 919–541–0947 (fax), or *niceatm@niehs.nih.gov*.

In summary, the Federal agencies agreed that the UDP had been adequately validated as a replacement for the conventional LD50 test and indicated to the extent applicable, that they will encourage the use of *in vitro* tests for determining starting doses for acute systemic toxicity testing.

ICCVAM Recommmendations

NICEATM announced availability of the ICCVAM recommendations for the UDP on February 7, 2002 (**Federal Register** Vol. 67, No. 26, pages 5842–5844). ICCVAM recommends based upon the report, *The Revised Up-and-Down Procedure: A Test Method for Determining the Acute Oral Toxicity of Chemicals; Results of an Independent Peer Review Evaluation Organized by the ICCVAM and NICEATM*, NIH Publication No. 02–4501, that the UDP be used instead of the conventional LD50 test to determine the acute oral toxicity hazard of chemicals for hazard classification and labeling purposes.

NICEATM announced availability of the ICCVAM recommendations for the *in vitro* methods for assessing acute systemic toxicity on September 28, 2001 (**Federal Register** Vol. 66, No. 189, pages 49686–49687). ICCVAM recommends based upon the reports, *Report of the International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity*, NIH Publication No. 01–4499, and the *Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity*, NIH Publication No. 01–4500, that the *in vitro* methods be considered as a tool for estimating starting doses for animal tests of acute systemic toxicity.

Background Information on ICCVAM and NICEATM

The NIEHS established the ICCVAM in 1997 to coordinate the interagency technical review of new, revised, and alternative test methods of interagency interest, and to coordinate cross-agency issues relating to the validation, acceptance, and national/international harmonization of toxicological testing methods. ICCVAM was established as a permanent interagency committee of the NIEHS under the NICEATM on December 19, 2000, by the ICCVAM Authorization Act of 2000 (Pub. L. 106–545, available at *http://iccvam.niehs.nih.gov/about/PL106545.pdf*). The Committee is composed of representatives from fifteen Federal regulatory and research agencies that use or generate toxicological information. ICCVAM promotes the scientific validation and regulatory acceptance of toxicological test methods that will improve agencies' ability to accurately assess the safety or hazards of chemicals and various types of products, while refining (less pain and distress), reducing, and replacing animal use wherever possible. NICEATM administers the ICCVAM and provides scientific and operational support for ICCVAM and ICCVAM-related activities. NICEATM and ICCVAM work collaboratively to evaluate new and improved test methods applicable to the needs of Federal agencies. Additional information about ICCVAM and NICEATM can be found at the following Web site: *http://iccvam.niehs.nih.gov*.

Dated: March 2, 2004.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 04–5321 Filed 3–9–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

DEPARTMENT OF HOMELAND SECURITY

Coast Guard

[USCG–2000–7848]

Inland Tank Barge Certificates of Inspection; Administrative Changes

AGENCY: Coast Guard, DHS.

ACTION: Notice of results.

SUMMARY: The Coast Guard commissioned a one-year tank barge Certificate of Inspection (COI) pilot program to test administrative changes to inland tank barge COIs. Under the old Marine Safety Information System, a regulatory change would have been required had any changes been made to the COIs. Use of the new Marine Information for Safety and Law Enforcement information system allows easy access to the COIs; therefore no change in the regulations is needed.

DATES: No further actions are planned.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: For questions on this Notice, contact Commander Robert Hennessy, U.S. Coast Guard Headquarters, 2100 Second Street, SW., Washington, DC 20593–0001, telephone: 202–267–0103, facsimile: 202–267–4570, e-mail: *RHennessy@comdt.uscg.mil* or Lieutenant Raymond Lechner, U.S. Coast Guard Marine Safety Center, 400 7th Street, SW., Washington, DC 20590, telephone: 202–366–6462, e-mail: *RLechner@msc.uscg.mil*.

SUPPLEMENTARY INFORMATION: A pilot program was initiated to evaluate a Chemical Transportation Advisory Committee (CTAC) recommendation. The pilot program assessed the benefits of shifting the vessel cargo authority and conditions of carriage information from one required document (the vessel's Certificate of Inspection (COI)) to another required document (the vessel's cargo transfer procedures). Background information about the pilot program conducted by the Marine Safety Office, New Orleans, LA, in cooperation with the Marine Safety Center, American Commercial Barge Lines, and the Petroleum Services Corporation, can be found in the August 31, 2000, **Federal Register** Notice (65 FR 53071).

Since the pilot program was initiated, the Coast Guard now has the Marine Information for Safety and Law Enforcement (MISLE) information system in use. MISLE allows for a different presentation of cargo information than the old Marine Safety Information System. A Certificate of Inspection for inland tank barges and a newly developed Cargo Authority Attachment are now easily accessible from the MISLE; therefore, no changes in the regulations are required. Additional information can be found on the Marine Safety Center's Web site: *http://www.uscg.mil/hq/msc/T2.misle.htm* under "T2: Tank Vessel Cargo and Vapor Control Authority Under MISLE."

Dated: February 27, 2004.

Joseph J. Angelo,

Director of Standards, Marine Safety, Security and Environmental Protection.

[FR Doc. 04–5300 Filed 3–9–04; 8:45 am]

BILLING CODE 4910–15–P

valid for use as replacements for the animal test and were ready to be considered for regulatory acceptance (Balls and Corcelle, 1998; Balls and Hellsten, 2000). The European Scientific Committee for Cosmetic Products and Non-food Products (SCCNFP) evaluated the EPISKIN™ and Rat Skin TER and concluded that they were applicable for the safety evaluation of cosmetic ingredients or mixtures of ingredients (Anon., 1999). The European Commission subsequently adopted EpiDerm™, EPISKIN™, and Rat Skin TER (Anon., 2000).

Proposed ICCVAM Recommendations

ICCVAM proposes that these assays can be used to assess the dermal corrosion potential of chemicals in a weight-of-evidence approach in an integrated testing scheme [e.g., OECD Globally Harmonised Classification System (OECD, 1998); OECD Revised Proposals for Updated Test Guidelines 404 and 405: Dermal and Eye Corrosion/Irritation Studies (OECD, 2001a)]. These integrated testing schemes for dermal irritation/corrosion allow for the use of validated and accepted in vitro methods. In this approach, positive in vitro corrosivity responses do not generally require further testing and can be used for classification and labeling. Negative in vitro corrosivity responses shall be followed by in vivo dermal corrosion/irritation testing. (Note: The first animal used in the irritation/corrosivity assessment would be expected to identify any chemical corrosives that were false negatives in the in vitro test). Furthermore, as is appropriate for any in vitro assay, there is the opportunity for confirmatory testing if false positive results are indicated on a weight of evidence evaluation of supplemental information, such as pH, structure activity relationships (SAR), and other chemical and testing information.

Additional Information About ICCVAM and NICEATM

ICCVAM, with 15 participating Federal agencies, was established in 1997 to coordinate interagency issues on toxicological test method development, validation, regulatory acceptance, and national and international harmonization. The ICCVAM Authorization Act of 2000 (Public Law 106–545) formally authorized and designated ICCVAM as a permanent committee administered by the NIEHS with specific duties that include the technical evaluation of new and alternative testing methods. ICCVAM is charged with developing test recommendations based on those technical evaluations, and forwarding these to Federal agencies for their consideration. The NICEATM was established in 1998 to coordinate and facilitate ICCVAM activities, to provide peer review for validation activities and to promote communication with stakeholders. The NICEATM is located at the NIEHS, Research Triangle Park, NC. Additional information concerning ICCVAM and NICEATM can be found on the ICCVAM/NICEATM web site at *http://iccvam.niehs.nih.gov.*

References

Anon. EU Commission Directive 2000/33/EC of 25 April 2000 (Official Journal of the European Communities), Skin Corrosion, Rat Skin TER and Human Skin Model Assay. OJ L 136, June 8, 2000. Available: *http://embryo.ib.amwaw.edu.pl/invittox/prot/1_13620000608en00010089.pdf* [cited July 19, 2001].

Anon. Scientific Committee for Cosmetic Products, and Non-food Products intended for Consumers. Excerpts of the Outcome of Discussions Record of the 6th Plenary Meeting (SCCNFP) Brussels, Belgium. January 20, 1999. Available: *http://europa.eu.int/comm/food/fs/sc/sccp/out50_en.html* [cited July 19, 2001].

Balls M, Corcelle G. "Statement on the scientific validity of the Rat Skin Transcutaneous Electrical Resistance (TER) Test (an in vitro test for skin corrosivity) and Statement of the scientific validity of the EPISKIN™ test (an in vitro test for skin corrosivity)," dated April 3, 1998. Statement from the European Commission Joint Research Centre, Environment Institute, Ispra (VA), Italy presenting the results of the 10th ECVAM Scientific Advisory Committee (ESAC) meeting on March 31 (1998). Available: *http://www.iivs.org/news/ratskin-episkin.html* [cited July 19, 2001].

Balls M, Hellsten E. "Statement on the application of the EpiDerm™ human skin model for corrosivity testing," dated March 20, 2000. ECVAM Scientific Advisory Committee meeting, Ispra, Italy, March 14–15 (2000).

Barratt, MD, Brantom PG, Fentem JH, Gerner I, Walker AP, Worth AP. The ECVAM international validation study on in vitro tests for skin corrosivity. 1. Selection and distribution of the test chemicals. Toxicology In Vitro 12:471–482 (1998).

Fentem, JH, Archer GEB, Balls M, Botham PA, Curren RD, Earl LK, Esdaile DJ, Holzhutter H–G, Liebsch M. The ECVAM international validation study on in vitro tests for skin corrosivity. 2. Results and evaluation by the management team. Toxicology In Vitro 12:483–524 (1998).

Interagency Center for the Evaluation of Alternative Methods (ICCVAM). Procedures for test methods that have been endorsed by ECVAM (April 20, 2001). *http://iccvam.niehs.nih.gov.*

Liebsch M, Traue D, Barrabas C, Spielmann H, Uphill P, Wilkins S, McPherson JP, Wiemann C, Kaufmann T, Remmele M, Holzhutter HG. The ECVAM prevalidation study on the use of EpiDerm for skin corrosivity testing. ATLA-Alternatives to Laboratory Animals 28:371–401 (2000).

Organization for Economic Co-operation and Development (OECD). Harmonized Integrated Hazard Classification System for Human Health and Environmental Effects of Chemical Substances, as endorsed by the 28th Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals, OECD, Paris, France. (November 1998) *http://www.oecd.org/ehs/Class/HCL6.htm*

OECD. OECD Revised Proposals for Updated Test Guidelines 404 and 405: Dermal and Eye Corrosion/Irritation Studies. [OECD ENV/JM/TG (2001)2]. OECD Environment Directorate, Joint Meeting of the Chemicals Committee and the Working Party on Chemicals, Pesticides and Biotechnology. Test Guidelines Programme. Circulated in preparation for the 13th Meeting of the Working Group of the National Coordinators of the Test Guidelines Programme, OECD, Paris, France. (2001a)

Dated: September 21, 2001.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 01–24371 Filed 9–27–01; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

Public Health Service

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS); National Toxicology Program (NTP)

Report of the International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity; Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity: Notice of Availability and Request for Public Comment.

Summary

Notice is hereby given of the availability of the reports entitled, "Report of the International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity" NIH Publication 01–4499 and "Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity" NIH Publication 01–4500. The Report provides conclusions and recommendations from expert scientists based on their review of current in vitro methods for assessing acute toxicity at an October 17–20, 2000 workshop. The workshop was organized by the National Toxicology Program Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM) and the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM). The Guidance Document

provides Standard Operating Procedures (SOPs) for performing two in vitro basal cytotoxicity assays and describes how to use this in vitro data to predict starting doses for in vivo acute oral toxicity studies.

Availability of the Documents

To receive a copy of either report, please contact NICEATM at P.O. Box 12233, MD EC–17, Research Triangle Park, NC 27709 (mail), 919–541–3398 (phone), 919–541–0947 (fax), or *niceatm@niehs.nih.gov* (email). The reports are also available on the ICCVAM/NICEATM website at *http://iccvam.niehs.nih.gov.*

Request for Public Comments

NICEATM invites written public comments on the Workshop Report and the Guidance Document. Comments should be sent to NICEATM by November 13, 2001. Comments submitted via e-mail are preferred; the acceptable file formats are MS Word (Office 98 or older), plain text, or PDF. Comments should be sent to Dr. William S. Stokes, Director, NICEATM, NIEHS, MD EC–17, PO Box 12233, Research Triangle Park, NC, 27709; telephone 919–541–2384; fax 919–541–0947; e-mail *niceatm@niehs.nih.gov.* Persons submitting written comments should include their contact information (name, affiliation, address, telephone and fax numbers, and e-mail) and sponsoring organization, if any. Public comments received in response to this **Federal Register** notice will be posted on the NICEATM/ICCVAM web site (*http://iccvam.niehs.nih.gov*).

Background

The International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity was held October 17–20, 2000, at the Hyatt Regency Crystal City Hotel, 2799 Jefferson Davis Highway, Arlington, VA 22202. The workshop was organized by the NICEATM and ICCVAM, and sponsored by the NIEHS, the NTP, and U.S. EPA. The objectives of the workshop were (1) to assess the current validation status of in vitro test methods that might be useful for assessing the acute systemic toxicity potential of chemicals and (2) to develop recommendations for future research, development, and validation studies that might further enhance the use of in vitro methods for this purpose.

A **Federal Register** notice (Vol. 65, No. 115, pp. 37400–37403, June 14, 2000) requested information and data that should be considered at the workshop, and nominations of expert scientists to participate in the workshop. A second **Federal Register** notice (Vol. 65, No. 184, pp. 57203–57205, September 21, 2000) announced availability of the workshop agenda, registration information, and a background summary of available in vitro methods.

At the workshop, the invited expert scientists were divided into four breakout groups as follows:

Breakout Group 1: In Vitro Screening Methods for Assessing Acute Toxicity

Breakout Group 2: In Vitro Methods for Toxicokinetic Determinations

Breakout Group 3: In Vitro Methods for Predicting Organ-Specific Toxicity

Breakout Group 4: Chemical Data Sets for Validation of In Vitro Acute Toxicity Test Methods

Each breakout group subsequently prepared a written report that represented the consensus of the invited scientists assigned to that group and these reports are included in the Workshop Report. It also includes as appendices: A detailed workshop agenda; summary minutes of plenary sessions and public comments; the background document for workshop participants; a NICEATM summary of the Multicenter Evaluation of In Vitro Cytotoxicity (MEIC); a summary of Federal regulations on acute toxicity; related **Federal Register** notices; and ICCVAM test method recommendations. The ICCVAM test recommendations were developed following the workshop to forward to Federal agencies in accordance with Pub. L. 106–545.

The Breakout Group on In Vitro Screening Methods recommended preparation of a document that would provide guidance on how to use in vitro data to estimate starting doses for in vivo acute toxicity studies. Three scientists subsequently collaborated with the NICEATM to develop a "Guidance Document on Using In Vitro Data to Estimate In Vivo Starting Doses for Acute Toxicity". The Guidance Document provides SOPs for conducting two in vitro cytotoxicity tests (the BALB/c 3T3 Neutral Red Uptake (NRU) and the Normal Human Keratinocyte (NHK) NRU assays) and instruction for using these assays to estimate starting doses for in vivo testing. The Guidance Document also includes the ZEBET (German National Centre for the Documentation and Evaluation of Alternatives to Animal Experimentation) Registry of Cytotoxicity (RC) Regression Analysis that provides a mathematical relationship between acute oral systemic rodent toxicity and in vitro basal cytotoxicity using data for 347 chemicals (Halle, 1998; Spielmann et al., 1999). The Guidance Document expands on an approach suggested by Spielmann and colleagues that—as an initial step—the relationship found with the RC data be used to predict starting doses for subsequent in vivo acute lethality assays.

Additional Information About ICCVAM and NICEATM

ICCVAM, with 15 participating Federal agencies, was established in 1997 to coordinate interagency issues on toxicological test method development, validation, regulatory acceptance, and national and international harmonization. The ICCVAM Authorization Act of 2000 (Pub. L. 106–545) formally authorized and designated ICCVAM as a permanent committee administered by the NIEHS with specific duties that include the technical evaluation of new and alternative testing methods. ICCVAM is charged with developing test recommendations based on those technical evaluations, and forwarding these to Federal agencies for their consideration. The NICEATM was established in 1998 to coordinate and facilitate ICCVAM activities, to provide peer review for validation activities and to promote communication with stakeholders. The NICEATM is located at the NIEHS, Research Triangle Park, NC. Additional information concerning ICCVAM and NICEATM can be found on the ICCVAM/NICEATM web site at *http://iccvam.niehs.nih.gov.* In accordance with Public Law 106–545, the Workshop Report and the Guidance Document will be forwarded with ICCVAM test recommendations to Federal agencies for their consideration.

References

Halle, W. 1998. Toxizitätsprüfungen in Zellkulturen für eine Vorhersage der akuten Toxizität (LD_{50}) zur Einsparung von Tierversuchen. Life Sciences/Lebenswissenschaften, Volume 1, 94 pp., Jülich: Forschungszentrum Jülich.

Spielmann, H., E. Genschow, M. Liebsch, and W. Halle. 1999. Determination of the starting dose for acute oral toxicity (LD_{50}) testing in the up and down procedure (UDP) from cytotoxicity data. ATLA 27: 957–966.

Dated: September 18, 2001.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 01–24370 Filed 9–27–01; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

signed Confidential Disclosure Agreement will be required to receive a copy of any pending patent applications.

SUPPLEMENTARY INFORMATION: Gaucher Disease is a rare inborn error of metabolism which affects between 10,000 and 20,000 people worldwide, 40% in the United States. Gaucher Disease is the most common lipid storage disease. The symptoms associated with Gaucher Disease result from the accumulation of a lipid called glucocerebroside. This lipid is a byproduct of the normal recycling of red blood cells. When the gene with the instructions for producing an enzyme to break down this byproduct is defective, the lipid accumulates. The lipid is found in many places in the body, but most commonly in the macrophages in the bone marrow. There it interferes with normal bone marrow functions, such as production of platelets (leading to bleeding and bruising) and red blood cells (leading to anemia) and potentially death. The presence of glucocerebroside seems to also trigger the loss of minerals in the bones, causing the bones to weaken, and can interfere with the bone's blood supply.

The field of use is directed to the development of therapies for remedying enzyme deficiencies in the treatment of Gaucher Disease.

The prospective exclusive license will be royalty-bearing and will comply with the terms and conditions of 35 U.S.C. 209 and 37 CFR 404.7. The prospective exclusive license may be granted unless, within ninety (90) days from the date of this published notice, NIH receives written evidence and argument that establishes that the grant of the license would not be consistent with the requirements of 35 U.S.C. 209 and 37 CFR 404.7.

Applications for a license filed in response to this notice will be treated as objections to the grant of the contemplated license. Comments and objections submitted in response to this notice will not be made available for public inspection, and, to the extent permitted by law, will not be released under the Freedom of Information Act, 5 U.S.C. 552.

Dated: September 11, 2000.

Jack Spiegel,

Director, Division of Technology Development and Transfer, Office of Technology Transfer.

[FR Doc. 00–24241 Filed 9–20–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

Public Health Service

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), National Institutes of Health (NIH), National Toxicology Program (NTP); Notice of an International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity, co-sponsored by NIEHS, NTP and the U.S. Environmental Protection Agency (EPA): Workshop Agenda and Registration Information

SUMMARY: Pursuant to Public Law 103–43, notice is hereby given of a public meeting sponsored by NIEHS, the NTP, and the EPA, and coordinated by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) and the NTP Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM). The agenda topic is a scientific workshop to assess the current status of *in vitro* test methods for evaluating the acute systemic toxicity potential of chemicals and to develop recommendations for future research, development, and validation studies. The workshop will take place on October 17–20, 2000, at the Hyatt Regency Crystal City Hotel, 2799 Jefferson Davis Highway, Arlington, VA, 22202. The meeting will be open to the public.

In a previous **Federal Register** notice (Vol. 65, No. 115, pp. 37400–37403), ICCVAM requested information and data that should be considered at the Workshop and nominations of expert scientists to participate in the Workshop. A preliminary list of relevant studies to be considered for the Workshop was also provided. As a result of this request, an ICCVAM interagency Workshop Organizing Committee has selected an international group of scientific experts to participate in this Workshop. NICEATM, in collaboration with ICCVAM, has developed a background summary of data and performance characteristics for available *in vitro* methods. This summary will be made available to invited expert scientists and the public before the Workshop. Requests for the summary can be made to the address given below. This notice provides an agenda, registration information, and updated details about the Workshop.

Workshop Background and Scope

A. Background

Acute toxicity testing is conducted to determine the hazards of various chemicals and products. This information is used to properly classify and label materials as to their lethality in accordance with an internationally harmonized system (OECD, 1998). Non-lethal endpoints may also be evaluated to identify potential target organ toxicity, toxicokinetic parameters, and dose-response relationships. While animals are currently used to evaluate acute toxicity, recent studies suggest that *in vitro* methods may also be helpful in predicting acute toxicity.

Studies by Spielmann *et al.* (1999) suggest that *in vitro* cytotoxicity methods may be useful in predicting a starting dose for *in vivo* studies, and thus may potentially reduce the number of animals necessary for such determinations. Other studies (*e.g.*, Ekwall *et al.*, 2000) have indicated an association between chemical concentrations leading to *in vitro* cytotoxicity and human lethal blood concentrations. A program to assess toxicokinetics and target organ toxicity utilizing *in vitro* methods has been proposed that may provide enhanced predictions of toxicity and potentially reduce or replace animal use for some tests (Ekwall *et al.*, 1999). However, many of the necessary *in vitro* methods for this program have not yet been developed. Other methods have not been evaluated in validation studies to determine their usefulness and limitations for generating information to meet regulatory requirements for acute toxicity testing. Development and validation of *in vitro* methods which can establish accurate dose-response relationships will be necessary before such methods can be considered for the reduction or replacement of animal use for acute toxicity determinations.

This workshop will examine the status of available *in vitro* methods for assessing acute toxicity. This includes screening methods for acute toxicity, such as methods that may be used to predict the starting dose for *in vivo* animal studies, and methods for generating information on toxicokinetics, target organ toxicity, and mechanisms of toxicity. The workshop will develop recommendations for validation efforts necessary to characterize the usefulness and limitations of these methods. Recommendations will also be developed for future mechanism-based research and development efforts that might further improve *in vitro* assessments of acute systemic lethal and non-lethal toxicity.

B. Objectives of the Workshop

Four major topics will be addressed:

- *In Vitro* Screening Methods for Assessing Acute Toxicity;

- *In Vitro* Methods for Toxicokinetic Determinations;
- *In Vitro* Methods for Predicting Organ Specific Toxicity; and
- Chemical Data Sets for Validation of *In Vitro* Acute Toxicity Test Methods.

The objectives of the meeting are to:

1. Review the status of *in vitro* methods for assessing acute systemic toxicity:

a. Review the validation status of available *in vitro* screening methods for their usefulness in estimating *in vivo* acute toxicity,

b. Review *in vitro* methods for predicting toxicokinetic parameters important to acute toxicity (*i.e.*, absorption, distribution, metabolism, elimination), and

c. Review *in vitro* methods for predicting specific target organ toxicity;

2. Recommend candidate methods for further evaluation in prevalidation and validation studies;

3. Recommend validation study designs that can be used to characterize adequately the usefulness and limitations of proposed *in vitro* methods;

4. Identify reference chemicals that can be used for development and validation of *in vitro* methods for assessing *in vivo* acute toxicity; and

5. Identify priority research efforts necessary to support the development of mechanism-based *in vitro* methods to assess acute systemic toxicity. Such efforts might include incorporation and evaluation of new technologies, such as gene microarrays, and development of methods necessary to generate dose response information.

Workshop Information

A. Workshop Agenda

Tuesday, October 17, 2000

8:30 a.m.—Opening Plenary Session
- Workshop Introduction
- Welcome from the National Toxicology Program (NTP)
- Overview of ICCVAM and NICEATM
- Acute Toxicity: Historical and Current Regulatory Perspectives
- Acute Toxicity Data: A Clinical Perspective

10:30 a.m.—*In Vitro* Approaches to Estimate the Acute Toxicity Potential of Chemicals
- Estimating Starting Doses for *In Vivo* Studies using *In Vitro* Data
- An Integrated Approach for Predicting Systemic Toxicity
- Opportunities for Future Progress

Public Comment
Breakout Groups' Charges
12:30 p.m.—Lunch Break

1:45 p.m.—Breakout Groups: Identifying What Is Needed from *In Vitro* Methods
- Screening Methods;
- Toxicokinetic Determinations;
- Predicting Organ Specific Toxicity and Mechanisms; and
- Chemical Data Sets for Validation

5:30 p.m.—Adjourn for the Day

Wednesday, October 18, 2000

8:00 a.m.—Plenary Session—Status Reports by Breakout Group Co-Chairs
9:00 a.m.—Breakout Groups: Current Status of *In Vitro* Methods for Acute Toxicity
- Screening Methods;
- Toxicokinetic Determinations;
- Predicting Organ Specific Toxicity and Mechanisms; and
- Chemical Data Sets for Validation

12:00 p.m.—Lunch Break
1:30 p.m.—Breakout Groups: Current Status of *In Vitro* Methods for Acute Toxicity (Cont'd)
5:30 p.m.—Adjourn for the Day

Thursday, October 19, 2000

8:00 a.m.—Plenary Session—Status Reports by Breakout Group Co-Chairs
9:00 a.m.—Breakout Groups: Future Directions for *In Vitro* Methods for Acute Toxicity
- Screening Methods;
- Toxicokinetic Determinations;
- Predicting Organ Specific Toxicity and Mechanisms; and
- Chemical Data Sets for Validation

12:00 p.m.—Lunch Break
1:30 p.m.—Breakout Groups: Future Directions for *In Vitro* Methods for Acute Toxicity (Cont'd)
5:30 p.m.—Adjourn for the Day

Friday, October 20, 2000

8:00 a.m.—Closing Plenary Session—Reports by Breakout Group Co-Chairs
- Screening Methods;
- Toxicokinetic Determinations;
- Predicting Organ Specific Toxicity and Mechanisms; and
- Chemical Data Sets for Validation

Public Comment
Closing Comments
12:15 p.m.—Adjourn

B. Workshop Registration

The Workshop meeting will be open to the public, limited only by the space available. Due to space limitations, advance registration is requested by October 13, 2000. Registration forms can be obtained by contacting NICEATM at the address given below or by accessing the on-line registration form at: *http://iccvam.niehs.nih.gov/invi_reg.htm.* Other relevant Workshop information (*i.e.*, accommodations, transportation, etc.) is also provided at this website.

C. Public Comment

The Public is invited to attend the Workshop and the number of observers will be limited only by the space available. Two formal public comment sessions on Tuesday, October 17th and Friday, October 20th will provide an opportunity for interested persons or groups to present their views and comments to the Workshop participants (please limit to one speaker per group). Additionally, time will be allotted during each of the Breakout Group sessions for general discussion and comments from observers and other participants. The Public is invited to present oral comments or to submit comments in writing for distribution to the Breakout Groups to NICEATM at the address given below by October 13, 2000. Oral presentations will be limited to seven minutes per speaker to allow for a maximum number of presentations. Individuals presenting oral comments are asked to provide a hard copy of their statement at registration. For planning purposes, persons wishing to give oral comments are asked to check the box provided on the Registration Form, although requests for oral presentations will also be accepted on-site (subject to availability of time). Persons registering for oral comments or submitting written remarks are asked to include their contact information (name, address, affiliation, telephone, fax, and e-mail).

Guidelines for Requesting Registration Form and Submission of Public Comment

Requests for registration information and submission of public comments should be directed to the NTP Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods, Environmental Toxicology Program, NIEHS/NTP, MD EC–17, PO Box 12233, Research Triangle Park, NC 27709; 919–541–3398 (phone); 919–541–0947 (fax); *iccvam@niehs.nih.gov* (e-mail). Public comments should be accompanied by complete contact information including name, (affiliation, if applicable), address, telephone number, and e-mail address.

References

- OECD (Organisation for Economic Cooperation and Development). (1998). Harmonized integrated hazard classification system for human health and environmental effects of chemical substances. OECD, Paris. (website: *http://www.oecd.org//ehs/Class/HCL6.HTM*)
- Spielmann, H., Genschow, E., Leibsch, M., and Halle, W. (1999) Determination of the starting dose for

acute oral toxicity (LD50) testing in the up and down procedure (UDP) from cytotoxicity data. ATLA, 27(6), 957–966.

- Ekwall, B., Ekwall, B., and Sjorstrom, M. (2000) MEIC evaluation of acute systemic toxicity: Part VIII. Multivariate partial least squares evaluation, including the selection of a battery of cell line tests with a good prediction of human acute lethal peak blood concentrations for 50 chemicals. ATLA, 28, Suppl. 1, 201–234.
- Ekwall, B., Clemedson, C., Ekwall, B., Ring, P., and Romert, L. (1999) EDIT: A new international multicentre programme to develop and evaluate batteries of *in vitro* tests for acute and chronic systemic toxicity. ATLA 27, 339–349.

Dated: September 12, 2000.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 00–24244 Filed 9–20–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

DEPARTMENT OF HOUSING AND URBAN DEVELOPMENT

[Docket No. FR–4463–N–04]

Notice of FHA Debenture Call

AGENCY: Office of the Assistant Secretary for Housing-Federal Housing Commissioner, HUD.

ACTION: Notice.

SUMMARY: This Notice announces a debenture recall of certain Federal Housing Administration debentures, in accordance with authority provided in the National Housing Act.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: Richard Keyser, Room 3119P, L'Enfant Plaza, Department of Housing and Urban Development, 451 Seventh Street, SW., Washington, DC 20410, telephone (202) 755–7510 x137. This is not a toll-free number.

SUPPLEMENTARY INFORMATION: Pursuant to Sections 204(c) and 207(j) of the National Housing Act, 12 U.S.C. 1710(c), 1713(j), and in accordance with HUD's regulation at 24 CFR 203.409 and § 207.259(e)(3), the Federal Housing Commissioner, with approval of the Secretary of the Treasury, announces the call of all Federal Housing Administration debentures, with a coupon rate of 6.625 percent or above, except for those debentures subject to "debenture lock agreements", that have been registered on the books of the Federal Reserve Bank of Philadelphia, and are, therefore, "outstanding" as of September 30, 2000. The date of the call is January 1, 2001.

The debentures will be redeemed at par plus accrued interest. Interest will cease to accrue on the debentures as of the call date. Final interest on any called debentures will be paid with the principal at redemption.

During the period from the date of this notice to the call date, debentures that are subject to the call may not be used by the mortgagee for a special redemption purchase in payment of a mortgage insurance premium.

No transfer of debentures covered by the foregoing call will be made on the books maintained by the Treasury Department on or after October 1, 2000. This does not affect the right of the holder of a debenture to sell or assign the debenture on or after this date. Payment of final principal and interest due on January 1, 2001, will be made automatically to the registered holder.

Dated: September 15, 2000.

William C. Apgar,

Assistant Secretary for Housing-Federal Housing Commissioner.

[FR Doc. 00–24288 Filed 9–20–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4210–27–M

DEPARTMENT OF THE INTERIOR

Fish and Wildlife Service

Notice of Receipt of Applications for Permit

Endangered Species

The following applicants have applied for a permit to conduct certain activities with endangered species. This notice is provided pursuant to Section 10(c) of the Endangered Species Act of 1973, *as amended* (16 U.S.C. 1531, *et seq.*):

PRT–841026

Applicant: Thane Wibbels, University of Alabama at Birmingham, Birmingham, AL

The applicant requests a permit to import up to 1000 blood samples and up to 500 tissue samples taken from Kemp's Ridley sea turtles (*Lepidochelys kempii*) in Mexico for enhancement of the species through scientific research. This notification covers activities conducted by the applicant over a five year period.

PRT–032758

Applicant: Exotic Feline Breeding Compound, Inc., Rosamond, CA

The applicant requests a permit to import 1 captive-born male Amur leopard (*Panthera pardus orientalis*) from the Novosibirsk Zoo, Russia for the purpose of propagation for the enhancement of the survival of the species.

PRT–032757

Applicant: Omaha's Henry Doorly Zoo, Omaha, NE

The applicant requests a permit to import 1 captive-born female Sumatran tiger (*Panthera tigris sumatrae*) from the Surabaya Zoo, Indonesia for the purpose of propagation for the enhancement of the survival of the species.

PRT–031061

Applicant: Susan E. Aronoff, Tampa, FL, 33624

The applicant requests a permit to import 1 captive-born male cheetah (*Acinonyx jubatus*) from the Endangered Animal Foundation, Driftweg, the Netherlands to enhance the survival of the species through conservation education.

PRT–830414

Applicant: Duke University Primate Center, Durham, NC

The applicant requests re-issuance of a permit to import two male and three female wild-caught golden-crowned sifakas (*Propithecus tattersalli*) from Dariana, Madagascar for the purpose of propagation for the enhancement of the survival of the species. This notification covers requests for re-issuances of the permit by the applicant over a five year period.

PRT–808256

Applicant: Duke University Primate Center, Durham, NC

The applicant requests re-issuance of a permit to import one male and two female wild-caught diademed sifakas (*Propithecus diadema*) from the Department of Water and Forest, Maramize, Madagascar for the purpose of propagation for the enhancement of the survival of the species. This notification covers requests for re-issuances of the permit by the applicant over a five year period.

PRT–031796

Applicant: Larry Edward Johnson, Boerne, TX

The applicant requests a permit to export two male and two female captive-born ring-tailed lemurs (*Catta lemur*) to Munchi's Zoo, Buenos Aires, Argentina to enhance the survival of the species through conservation education and captive propagation.

PRT–026102

Applicant: Elizabeth G. Stone/University of Georgia, Athens, GA

The applicant requests a permit to import salvaged specimens, non-viable eggs, and biological samples from Thick-billed parrots (*Rhynchopsitta pachyrhyncha*) collected in the wild in Mexico, for scientific research. This

[This Page Intentionally Left Blank]

is hereby given of the following meeting.

The meeting will be closed to the public in accordance with the provisions set forth in sections 552b(c)(4) and 552b(c)(6), Title 5 U.S.C., as amended. The grant applications and the discussions could disclose confidential trade secrets or commercial property such as patentable material, and personal information concerning individuals associated with the grant applications, the disclosure of which would constitute a clearly unwarranted invasion of personal privacy.

Name of Committee: National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases Special Emphasis Panel, ZDK1 GRB 4 (01).

Date: June 16, 2000.

Time: 8:00 am to 2:00 pm.

Agenda: To review and evaluate grant applications.

Place: Embassy Suites Hotel, 1300 Concourse Drive, Linthicum, Maryland 21090.

Contact Person: William E. Elzinga, Scientific Review Administrator, Review Branch, DEA, NIDDK, Room 647, 6707 Democracy Boulevard, National Institutes of Health, Bethesda, MD 20892–6600, (301) 594–8895.

This notice is being published less than 15 days prior to the meeting due to the timing limitations imposed by the review and funding cycle.

(Catalogue of Federal Domestic Assistance Program Nos. 93.847, Diabetes, Endocrinology and Metabolic Research; 93.848, Digestive Diseases and Nutrition Research; 93.849, Kidney Diseases, Urology and Hematology Research, National Institutes of Health, HHS)

Dated: June 8, 2000.

LaVerne Y. Stringfield,

Director, Office of Federal Advisory Committee Policy.

[FR Doc. 00–14960 Filed 6–13–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

National Institute of Health

National Institute of Nursing Research; Notice of Closed Meeting

Pursuant to section 10(d) of the Federal Advisory Committee Act, as amended (5 U.S.C. Appendix 2), notice is hereby given of the following meeting.

The meeting will be closed to the public in accordance with the provisions set forth in sections 552b(c)(4) and 552b(c)(6). Title 5 U.S.C., as amended. The grant applications and the discussions could disclose confidential trade secrets or commercial property such as patentable material, and personal information concerning individuals associated with the grant applications, the disclosure of which would constitute a clearly unwarranted invasion of personal privacy.

Name of Committee: National Institute of Nursing Research Special Emphasis Panel, NINR Career Transitional Award Applications (K22s).

Date: June 21, 2000.

Time: 3:00 PM to 5:00 PM.

Agenda: To review and evaluate grant applications.

Place: Bethesda Holiday Inn, 8120 Wisconsin Avenue, Bethesda, MD 20852.

Contact Person: Mary J. Stephens-Frazier, Scientific Review Administrator, National Institute of Nursing Research, National Institutes of Health, Natcher Building, Room 3AN32, (301) 594–5971.

This notice is being published less than 15 days prior to the meeting due to the timing limitations imposed by the review and funding cycle.

(Catalogue of Federal Domestic Assistance Program Nos. 93.361, Nursing Research, National Institute of Health, HHS)

Dated: June 8, 2000.

LaVerne Y. Stringfield,

Director, Office of Federal Advisory Committee Policy

[FR Doc. 00–14963 Filed 6–13–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

National Institutes of Health

National Institute of Nursing Research; Notice of Closed Meeting

Pursuant to section 10(d) of the Federal Advisory Committee Act, as amended (5 U.S.C. Appendix 2), notice is hereby given of the following meeting.

The meeting will be closed to the public in accordance with the provisions set forth in sections 552b(c)(4) and 552b(c)(6), Title 5 U.S.C., as amended. The grant applications and the discussions could disclose confidential trade secrets or commercial property such as patentable material, and personal information concerning individuals associated with the grant applications, the disclosure of which would constitute a clearly unwarranted invasion of personal privacy.

Name of Committee: National Institute of Nursing Research Special Emphasis Panel, NINR/ORMH Mentored Research Scientist Development Award for Minority Investigators (KO1s).

Date: June 21, 2000.

Time: 8:30 a.m. to 2 p.m.

Agenda: To review and evaluate grant applications.

Place: Bethesda Holiday Inn, 8120 Wisconsin Avenue, Bethesda, MD 20814.

Contact Person: Mary J. Stephens-Frazier, Scientific Review Administrator, National Institute of Nursing Research, National Institutes of Health, Natcher Building, Room 3AN32, Bethesda, MD 20892, (301) 594–5971.

This notice is being published less than 15 days prior to the meeting due to the timing limitations imposed by the review and funding cycle.

(Catalogue of Federal Domestic Assistance Program Nos. 93.361, Nursing Research, National Institutes of Health, HHS)

Dated: June 8, 2000.

LaVerne Y. Stringfield,

Director, Office of Federal Advisory Committee Policy.

[FR Doc. 00–14964 Filed 6–13–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–M

DEPARTMENT OF HEALTH AND HUMAN SERVICES

Public Health Service

National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), National Institutes of Health (NIH), National Toxicology Program (NTP); Notice of an International Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity, co-sponsored by NIEHS, NTP and the U.S. Environmental Protection Agency (EPA): Request for Data and Suggested Expert Scientists

SUMMARY: Pursuant to Public Law 103–43, notice is hereby given of a public meeting sponsored by NIEHS, the NTP, and the EPA, and coordinated by the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) and the NTP Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods (NICEATM). The agenda topic is a scientific workshop to assess the current status of in vitro test methods for evaluating the acute systemic toxicity potential of chemicals, and to develop recommendations for future development and validation studies. The workshop will take place on October 17–20, 2000 at the Hyatt Regency Crystal City Hotel, 2799 Jefferson Davis Highway, Arlington, VA, 22202. The meeting will be open to the public.

In preparing for this Workshop, ICCVAM is requesting: (1) Information and data that should be considered at the Workshop, including relevant data on currently available in vitro methods for assessing acute systemic toxicity; and (2) nominations of expert scientists to participate in the Workshop. An agenda, registration information, and other details will be provided in a subsequent **Federal Register** notice.

Background

ICCVAM, with participation by 14 Federal regulatory and research agencies and programs, was established in 1997 to coordinate issues relating to the development, validation, acceptance, and national/international harmonization of toxicological test methods. ICCVAM seeks to promote the scientific validation and regulatory acceptance of new and improved test methods applicable to Federal agencies, including methods that may reduce or replace animal use, or that refine protocols to lessen animal pain and distress. The Committee's functions include the coordination of interagency reviews of toxicological test methods and communication with stakeholders throughout the process of test method development and validation. The following Federal regulatory and research agencies participate:

Consumer Product Safety Commission
Department of Defense
Department of Energy
Department of Health and Human Services
  Agency for Toxic Substances and Disease Registry
  Food and Drug Administration
  National Institute for Occupational Safety and Health/CDC
  National Institutes of Health
  National Cancer Institute
  National Institute of Environmental Health Sciences
  National Library of Medicine
Department of the Interior
Department of Labor
  Occupational Safety and Health Administration
Department of Transportation
  Research and Special Programs Administration
Environmental Protection Agency

NICEATM was established in 1998 and provides operational support for the ICCVAM. NICEATM and ICCVAM collaborate to carry out activities associated with the development, validation, and regulatory acceptance of proposed new and improved test methods. These activities may include:

- Test Method Workshops, which are convened as needed to evaluate the adequacy of current methods for assessing specific toxicities, to identify areas in need of improved or new testing methods, to identify research efforts that may be needed to develop new test methods, and to identify appropriate development and validation activities for proposed new methods.
- Expert Panel Meetings, which are typically convened to evaluate the validation status of a method following the completion of initial development and pre-validation studies. Expert Panels are asked to recommend additional validation studies that might be helpful in further characterizing the usefulness of a method, and to identify any additional research and development efforts that might enhance the effectiveness of a method.
- Independent Peer Review Panel Meetings, which are typically convened following the completion of comprehensive validations studies on a test method. Peer Review Panels are asked to develop scientific consensus on the usefulness and limitations of test methods to generate information for specific human health and/or ecological risk assessment purposes. Following the independent peer review of a test method, ICCVAM forwards recommendations on its usefulness to agencies for their consideration. Federal agencies then determine the regulatory acceptability of a method according to their mandates.

Additional information about ICCVAM and NICEATM can be found at the website: *http://iccvam.niehs.nih.gov.*

Workshop Background and Scope

A. Background

Federal regulatory agencies require toxicity testing to determine the safety or hazard of various chemicals and products prior to human exposure. Agencies use this information to properly classify and label products as to their hazard potential. Acute oral toxicity determinations are currently made using animals. However, recent studies (e.g., Spielmann et al., 1999) suggest that in vitro cytotoxicity methods may be useful in predicting a starting dose for in vivo studies, and thus may potentially reduce the number of animals necessary for such determinations.

Other studies (e.g., Ekwall et al., 2000) have indicated an association between in vitro cytotoxicity and human lethal blood concentrations. However, these in vitro methods have not yet been evaluated in validation studies to determine their usefulness and limitations for generating acute toxicity testing information necessary to meet regulatory testing requirements. Additionally, other in vitro methods would likely be necessary to establish accurate dose-response relationships before such methods could substantially reduce or replace animal use for acute toxicity determinations.

This workshop will examine the status of available in vitro methods and develop recommendations for validation efforts necessary to characterize the usefulness and limitations of existing methods. Recommendations for future research and development efforts that might further enhance the usefulness of in vitro assessments of acute systemic lethal toxicity will also be developed.

B. Objectives of the Workshop

Four major topics will be addressed:

1. General cytotoxicity methods predictive of acute lethal toxicity;
2. Toxicokinetic and organ specific toxicity methods;
3. Reference chemicals for validation of the above methods; and
4. The use of quantitative structure activity relationships (QSAR) and chemical/physical properties for predicting acute lethal toxicity.

The objectives of the meeting are to:

1 a. Identify and review the status of in vitro general cytotoxicity screening methods that may reduce animal use for assessing acute systemic toxicity;

b. Identify information from in vitro methods necessary to predict acute systemic toxicity and review the status of relevant methods (*e.g.*, in vitro methods to assess gut absorption, metabolism, blood-brain barrier penetration, volume distribution to critical target organs, and specific target organ toxicity);

2. Identify candidate methods for further evaluation in prevalidation and validation studies;

3. Identify reference chemicals useful for development and validation of in vitro methods for assessing acute systemic toxicity;

4. Identify validation study designs needed to adequately characterize the proposed methods in 2.; and

5. Identify priority research efforts necessary to support the development of in vitro methods to adequately assess acute systemic toxicity. Such efforts might include incorporation and evaluation of new technologies such as gene microarrays, and development of methods necessary to generate dose response information.

C. Methods for Consideration

Given the breadth of the workshop topics, many methods are likely to be considered relevant to the discussion. Methods will include but are not limited to those proposed in the Multicentre Evaluation of In Vitro Cytotoxicity (MEIC) battery (*http://www.ctlu.se*). A background document summarizing the data and performance characteristics for available methods is being prepared by NICEATM in collaboration with the ICCVAM interagency organizing committee. Information received as a result of this **Federal Register** notice will be

considered for inclusion in the background document. In formulating its recommendations, the Workshop participants will evaluate information in the background document and relevant information from other sources.

D. Test Method Data and Information Sought

Data are sought from completed, ongoing, or planned studies that provide comparative performance data for in vitro methods compared to currently accepted in vivo methods for determining acute lethal toxicity and hazard classification. Data from test methods that provide toxicokinetic and specific target organ toxicity information are also sought. Submissions should describe the extent to which established criteria for validation and regulatory acceptance have been addressed. These criteria are provided in "Validation and Regulatory Acceptance of Toxicological Test Methods: A Report of the ad hoc Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods," NIH publication 97–3981 (*http://ntp-server.niehs.nih.gov/htdocs/ICCVAM/iccvam.html*). Where possible, submitted data and information should adhere to the guidance provided in the document, "Evaluation of the Validation Status of Toxicological Methods: General Guidelines for Submissions to ICCVAM," NIH Publication 99–4496, (*http://iccvam.niehs.nih.gov/doc1.htm*). Both publications are also available on request from NICEATM at the address provided below. Relevant information submitted in response to this request will be incorporated into the background material provided to Workshop participants. A preliminary list of relevant studies is provided at the end of this announcement, and public comment and suggestions for additions are invited.

NICEATM and the ICCVAM interagency workshop organizing committee will compile information on the studies to be considered at the Workshop. All data should be submitted by July 15, 2000 in order to ensure full consideration.

E. Request for Nomination of Expert Scientists for the Test Method Workshop

NICEATM is soliciting nominations for expert scientists to participate in the Workshop. (See Guidelines for Submission of Comments below). Types of expertise likely to be relevant include acute toxicity testing in animals, evaluation and treatment of acute toxicity in humans, development and use of in vitro methodologies, statistical data analysis, knowledge of chemical data sets useful for validation of acute toxicity studies, and hazard classification of chemicals and products. Expertise need not be limited to these areas, nor will these areas necessarily be included on the Panel. An appropriate breadth of expertise will be sought. If other areas of scientific expertise are recommended, the rationale should be provided.

Nominations should be accompanied by complete contact information including name, address, institutional affiliation, telephone number, and e-mail address. The rationale for nomination should be provided. If possible, a biosketch or a curriculum vitae should be included. To avoid the potential for candidates being contacted by a large number of nominators, candidates need not be contacted prior to nomination.

Workshop experts will be selected by an ICCVAM interagency workshop organizing committee after considering all nominations received from the public as well as nominations developed internally. All nominees will be contacted for interest and availability, and curricula vitae will be solicited from the nominees. Candidates will be required to disclose potential conflicts of interest.

Schedule for the Workshop

The Workshop will take place on October 17–20, 2000 at the Hyatt Regency Crystal City Hotel, 2799 Jefferson Davis Highway, Arlington, VA 22202. The Workshop meeting will be open to the public, limited only by space available.

Submitted methods and supporting data will be reviewed during the July to August 2000 timeframe and a background review document will be prepared by NICEATM in collaboration with the ICCVAM interagency organizing committee. The background information will be made available to Workshop experts for discussion at the meeting and will be available to the Public in advance of the Workshop.

Public Input Invited

As described above, ICCVAM invites comments on the scope and process for the review; comments on the ICCVAM preliminary list of studies for consideration; the submission of other test methods for consideration; and the nomination of experts to participate in the Workshop. Nominations must be submitted within 30 days of the publication date of this notice, and other information should be submitted by July 15, 2000.

Guidelines for Submission of Public Comment

Correspondence should be directed to Dr. William S. Stokes, NTP Interagency Center for the Evaluation of Alternative Toxicological Methods, Environmental Toxicology Program, NIEHS/NTP, MD EC–17, PO Box 12233, Research Triangle Park, NC 27709; 919–541–3398 (phone); 919–541–0947 (fax); *iccvam@niehs.nih.gov* (e-mail). Public comments should be accompanied by complete contact information including name, (affiliation, if applicable), address, telephone number, and e-mail address.

Preliminary List of Studies to be Considered for the Workshop on In Vitro Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity

ICCVAM has compiled a preliminary list of relevant studies. The public is invited to comment on this list, and suggestions for additions may be submitted. (See Section of this **Federal Register** announcement on Guidelines for Submission of Public Comments).

Studies that may be completed but not published are not included here. This list provides examples of studies and information that may be appropriate for consideration by the Workshop experts.

Balls, M., Blaauboer, B.J., Fentem, J.H., Bruner, L., Combes, R.D., Ekwall, B., Fielder, R.J., Guillouzo, A., Lewis, R.W., Lovell, D.P., Reinhardt, C.A., Repetto, G., Sladowski, D., Spielmann, H., and Zucco, F. (1995) Practical aspects of the validation of toxicity test procedures—The report and recommendations of ECVAM Workshop 5. ATLA 23, 129–147.

Bernson, V., Bondesson, I., Ekwall, B., Stenberg, K., and Walum, E. (1987) A multicenter evaluation study of *in vitro* cytotoxicity. ATLA, 14, 144–145.

Bondesson, I., Ekwall, B., Stenberg, K., Romert, L., and Walum, E. (1988) Instruction for participants in the multicenter evaluation study of *in vitro* cytotoxicity (MEIC). ATLA, 15, 191–193.

Bondesson, I., Ekwall, B., Hellberg, S., Romert, L., Stenberg, K., and Walum, E. (1989) MEIC—A new international multicenter project to evaluate the relevance to human toxicity of *in vitro* cytotoxicity tests. Cell Biol. Toxicol., 5, 331–347.

Clemedson, C., and Ekwall, B. (1999) Overview of the final MEIC results: I. The *in vitro-in vivo* evaluation. Toxicology In vitro, 13, 657–663.

Clemedson, C., McFarlane-Abdulla, E., Andersson, M., Barile, F.A., Calleja, M.C., Chesnea, C., Clothier, R., Cottin, M., Curren, R., Daniel-Szolgay, E., Dierickx, P., Ferro, M., Fiskesj", G., Garza-Ocanas, L., Goamez-Lechoan, M.J., Gualden, M., Isomaa, B., Janus, J., Judge, P., Kahru, A., Kemp, R.B., Kerszman, G., Kristen, U., Kunimoto, M., Karenlampi, S., Lavrijsen, K., Lewan L., Lilius, H., Ohno, T., Persoone, G., Roguet, R.,

Romert, L., Sawyer, T., Seibert, H., Shrivastava, R., Stammati, A., Tanaka, N., Torres Alanis, O., Voss, J–U., Wakuri, S., Walum, E., Wang, X., Zucco, F., and Ekwall, B. (1996) MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part I. Methodology of 68 *in vitro* toxicity assays used to test the first 30 reference chemicals. ATLA, 24, Suppl. 1, 249–272.

Clemedson, C., McFarlane-Abdulla, E., Andersson, M., Barile, F.A., Calleja, M.C., Chesne, C., Clothier, R., Cottin, M., Curren, R., Dierickx, P., Ferro, M., Fiskesja¸G., Garza-Ocanas, L., Gomez-Lechon, M.J., Gulden, M., Isomaa, B., Janus, J., Judge, P., Kahru, A., Kemp, R.B., Kerszman, G., Kristen, U., Kunimoto, M., Karenlampi, S., Lavrijsen, K., Lewan L., Lilius, H., Malmsten, A., Ohno, T., Persoone, G., Pettersson, R., Roguet, R., Romert, L., Sandberg, M.,.Sawyer, T., Seibert, H., Shrivastava, R., Sjostrom, M., Stammati, A., Tanaka, N., Torres Alanis, O., Voss, J–U., Wakuri, S., Walum, E., Wang, X., Zucco, F. and, Ekwall, B. (1996) MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part II. *In vitro* results from 68 toxicity assays used to test the first 30 reference chemicals and a comparative cytotoxicity analysis. ATLA, 24, Suppl. 1, 273–311.

.Clemedson, C., Barile, F.A., Ekwall, B., Gomez-Lechon, M.J., Hall, T., Imai, K., Kahru, A., Logemann, P., Monaco, F., Ohno, T., Segner, H., Sjostrom, M., Valentino, M., Walum, E., Wang, X., and Ekwall, B. (1998). MEIC evaluation of acute systemic toxicity: Part III. *In vitro* results from 16 additional methods used to test the first 30 reference chemicals and a comparative cytotoxicity analysis. ATLA 26, Suppl. 1, 91–129.

Clemedson, C., Aoki, Y., Andersson, M., Barile, F.A., Bassi, A.M., Calleja, M.C., Castano, A., Clothier, R.H., Dierickx, P., Ekwall, B., Ferro, M., Fiskeso, G., Garza-Ocanas, L. Gomez-Lechoan, M.J., Gulden, M., Hall, T., Imai, K., Isomaa, B., Kahru, A., Kerszman, G., Kjellstrand, P., Kristen, U., Kunimoto, M., Karenlampi, S., Lewan, L., Lilius, H., Loukianov, A., Monaco, F., Ohno, T., Persoone, G., Romert, L., Sawyer, T.W., Shrivastava, R., Segner, H., Seibert, H., Sjostrom, M., Stammati, A., Tanaka, N., Thuvander, A., Torres-Alanis, O., Valentino, M., Wakuri, S., Walum, E., Wieslander, A., Wang, X., Zucco, F., and Ekwall, B. (1998). MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part IV. *In vitro* results from 67 toxicity assays used to test reference chemicals 31–50 and a comparative cytotoxicity analysis. ATLA 26, Suppl. 1, 131–183.

Clemedson, C., Barile, F.A., Chesne, C., Cottin, M., Curren, R., Ekwall, B., Ferro, M., Gomez-Lechon, M.J., Imai, K., Janus, J., Kemp, R.B., Kerszman, G., Kjellstrand, P., Lavrijsen, K., Logemann, P., McFarlane-Abdulla, E., Roguet, R., Segner, H., Seibert, H., Thuvander, A., Walum, E., and Ekwall, Bj. (2000) MEIC evaluation of acute systemic toxicity: Part VII. Prediction of human toxicity by results from testing of the first 30 reference chemicals with 27 further *in vitro* assays. ATLA 28, Suppl. 1, 161–200.

Ekwall, B. (1995) The basal cytotoxicity concept, pp 721–725. In Proceedings of the World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences: Education, Research, Testing. Alternative Methods in Toxicology and the Life Sciences, Vol. 11. Mary Ann Liebert, New York, 1995.

Ekwall, B. (1999) Overview of the Final MEIC Results: II. The *In vitro/in vivo* evaluation, including the selection of a practical battery of cell tests for prediction of acute lethal blood concentrations in humans. Toxicol. *In vitro*, 13, 665–673.

Ekwall, B., Gomez-Lechon, M.J., Hellberg, S., Bondsson, I., Castell, J.V., Jover, R., Hogberg, J., Ponsoda, X., Stenberg, K., and Walum, E. (1990) Preliminary results from the Scandinavian multicentre evaluation of *in vitro* cytotoxicity (MEIC). Toxicol. *In vitro*, 4, 688–691.

Ekwall, B., Clemedson, C., Crafoord, B., Ekwall, Ba., Hallander, S., Walum E., and Bondesson, I. (1998) MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part V. Rodent and human toxicity data for the 50 reference chemicals. ATLA 26, Suppl. 2, 569–615.

Ekwall, B., Barile., F.A., Castano, A., Clemedson, C., Clothier, R.H., Dierickx, P., Ekwall, B., Ferro, M., Fiskesjo;, G., Garza-Ocanas, L., Gomez-Lechon, M-J., Gulden, M., Hall, T., Isomaa, B., Kahru, A, Kerszman, G., Kristen, U., Kunimoto, M., Karenlampi, S., Lewan, L, Loukianov, A., Ohno, T., Persoone, G., Romert, L., Sawyer, T.W., Segner, H., Shrivastava, R., Stammati, A., Tanaka, N., Valentino, M., Walum, E., and Zucco, F. (1998) MEIC evaluation of acute systemic toxicity. Part VI. Prediction of human toxicity by rodent LD50 values and results from 61 *in vitro* tests. ATLA 26, Suppl. 2, 617–658.

Ekwall, B., Clemedson, C., Ekwall, B., Ring, P., and Romert, L. (1999) EDIT: A new international multicentre programme to develop and evaluate batteries of *in vitro* tests for acute and chronic systemic toxicity. ATLA 27, 339–349.

Ekwall, B., Ekwall, B., and Sjostrom, M. (2000) MEIC evaluation of acute systemic toxicity: Part VIII. Multivariate partial least squares evaluation, including the selection of a battery cell line tests with a good prediction of human acute lethal peak blood concentrations for 50 chemicals. ATLA 28, Suppl. 1, 201–234.

Hellberg, S., Bondesson, I., Ekwall, B., Gomez-Lechon, M.J., Jover, R., Hogberg, J., Ponsoda, X., Romert, L., Stenberg, K., and Walum, E. (1990) Multivariate validation of cell toxicity data: The first ten MEIC chemicals. ATLA, 17, 237–238.

Hellberg, S., Eriksson, L., Jonsson, J., Lindgren, F., Sjostrom, M., Wold, S., Ekwall, B., Gomez-Lechon, J.M., Clothier, R., Accomando, N.J., Gimes, G., Barile, F.A., Nordin, M., Tyson, C.A., Dierickx, P., Shrivastava, R.S., Tingsleff-Skaanild, M., Garza-Ocanas, L., and Fiskesjo;, G. (1990) Analogy models for prediction of human toxicity. ATLA, 18, 103–116.

Shrivastava, R., Delomenie, C., Chevalier, A., John, G., Ekwall, B., Walum, E., and Massingham, R. (1992) Comparison of *in vivo* acute lethal potency and *in vitro* cytotoxicity of 48 chemicals. Cell Biol. Toxicol., 8(2), 157–170.

Spielmann, H., Genschow, E., Liebsch, M., and Halle, W. (1999) Determination of the starting dose for acute oral toxicity (LD50) testing in the up and down procedure (UDP) from cytotoxicity data. ATLA, 27(6), 957–966.

Walum, E, Nilsson, M, Clemedson, C. and Ekwall, B. (1995) The MEIC program and its implications for the prediction of acute human systemic toxicity, pp 275–282 In Proceedings of the World Congress on Alternatives and Animal Use in the Life Sciences: Education, Research, Testing. Alternative Methods in Toxicology and the Life Sciences, Vol. 11. Mary Ann Liebert, New York, 1995.

Dated: June 6, 2000.

Samuel H. Wilson,

Deputy Director, National Institute of Environmental Health Sciences.

[FR Doc. 00–14968 Filed 6–13–00; 8:45 am]

BILLING CODE 4140–01–P

DEPARTMENT OF HOUSING AND URBAN DEVELOPMENT

[Docket No. FR–4564–N–03]

Notice of Proposed Information Collection: Lead Hazard Control Grant Program Data Collection—Progress Reporting

AGENCY: Office of Lead Hazard Control.

ACTION: Notice.

SUMMARY: The revised information collection requirement described below will be submitted to the Office of Management and Budget (OMB) for review, as required by the Paperwork Reduction Act. The Department is soliciting public comments on the subject proposal.

DATES: Comments Due Date: August 14, 2000.

ADDRESSES: Interested persons are invited to submit comments regarding this proposal. Comments should refer to the proposal by name and/or OMB Control Number and should be sent to: Gail Ward, Reports Liaison Officer, Department of Housing and Urban Development, 451 7th Street, SW, Room P–3206, Washington, DC 20410.

FOR FURTHER INFORMATION CONTACT: Matthew Ammon at (202) 755–1785, ext. 158 (this is not a toll-free number) for copies of the proposed forms and other available documents.

SUPPLEMENTARY INFORMATION: The Department is submitting the revised information collection to OMB for review, as required by the Paperwork Reduction Act of 1995 (44 U.S.C. Chapter 35, as amended).

This Notice is soliciting comments from members of the public and affected agencies concerning the proposed collection of information to: (1) Evaluate whether the revised collection of information is necessary for the proper performance of the functions of the agency, including whether the

Appendix P

In Vitro Cytotoxicity Test Methods and the High Production Volume (HPV) Challenge Program

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix P1

Supplemental Acute Toxicity Protocol

[This Page Intentionally Left Blank]

U.S. EPA/OPPTS/OPPT/High Production Volume (HPV) Challenge Program

[NOTE: This statement was extracted from the EPA web site. The original can be visited at: http://www.epa.gov/chemrtk/toxprtcl.htm]

Supplemental Acute Toxicity Protocol

The EPA, along with the National Toxicology Program and the National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS), sponsored an International Workshop on *In Vitro* Methods held on October 17-20, 2000, to review the validation status of available *in vitro* methods for predicting acute oral toxicity, among other goals.

The October 2000 Workshop concluded that *in vitro* cytotoxicity data could be useful in estimating starting doses for *in vivo* acute toxicity testing, and in this way could also reduce the number of animals used in subsequent *in vivo* tests. The two candidate cytotoxicity tests recommended for use with the regression model for estimating starting doses from *in vitro* cytotoxicity data are neutral red uptake assays using BALB/c 3T3 mouse fibroblasts and normal human keratinocytes. Other cell lines/cells could also be used with the regression model to estimate starting doses, but first the correlation between the *in vitro* test and the *in vivo* test must be established quantitatively. Guidance on these *in vitro* tests, protocols for use of recommended tests, and a reporting template for results of *in vitro* tests are all contained in the **ICCVAM Guidance Document** (2001), which is one of the products of the October Workshop. Further background on the October workshop can be found in the **ICCVAM Workshop Report** (2001).

While the formal request to EPA from NIH that would ask the Agency to accept or reject these protocols has not yet been received (nor have these methods been incorporated in OECD or the EPA acute toxicity test guidelines), the findings of this workshop included a recommendation to all Agencies participating in ICCVAM to consider the use of these *in vitro* cytotoxicity tests as supplements to the current acute oral *in vivo* acute toxicity protocols. These *in vitro* cytotoxicity protocols were recognized earlier in Steven Johnson's letter of October 30, 2001. The *in vitro* tests are supplements to, not replacements for, the

OECD acute toxicity test guideline 425 (known as the Up-and-Down Procedure) which is currently recommended for use in the HPV Challenge Program. The new *in vitro* tests are intended to better estimate the starting doses for new *in vivo* acute oral toxicity studies conducted under the HPV Challenge.

We encourage those participating in the HPV Challenge Program to consider using the recommended *in vitro* tests noted here as a supplemental component in conducting any new *in vivo* acute oral toxicity studies under the HPV Challenge Program, to note the intention to use these protocols in HPV Challenge test plans submitted to EPA, and to summarize the results using the recommended reporting template. This information on the *in vitro* template should accompany results from the *in vivo* acute oral tests, and be provided to EPA as part of the HPV Challenge Program. The October workshop documents and the recommended reporting template for the *in vitro* tests can be found below. The ICCVAM website - *In Vitro* methods page - should be consulted for any future updates to the *in vitro* guidance methodologies prior to proceeding with testing.

In order to gain more familiarity with these methods, technical experts from industry and other organizations were invited to a workshop sponsored by EPA, NIEHS, and others on these *in vitro* methods. The workshop was held February 19-21, 2001 (see the ICCVAM website at http://iccvam.niehs.nih.gov/meetings/schedule.htm for more details).

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods)
Report of the International Workshop on *In Vitro* Methods for Assessing Acute Systemic Toxicity. 2001. NIH Publication No. 01-4499. National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)

ICCVAM (Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods)

Guidance Document on Using *In Vitro* Data to Estimate *In Vivo* Starting Doses for Acute Toxicity. 2001. NIH Publication No. 01-4500. National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS)

Standard Test Reporting Template

Any updates to this methodology can be found under ***In Vitro* Methods on the Interagency Coordinating Committee on the Validation of Alternative Methods (ICCVAM) web site.**

Last updated on September 16, 2002

Visit the ICCVAM Home Page

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix P2

Office of Pollution Prevention and Toxics (OPPT)
Letters to Manufacturers/Importers

[This Page Intentionally Left Blank]

Office of Pollution Prevention
And Toxics

Letters to Manufacturers/Importers

[High Production Volume Voluntary Challenge Program]

October 14, 1999
Company name
Street #
City, State, Zip

Dear Company Contact:

On behalf of the Environmental Protection Agency (EPA), I would like to thank you for your commitment to participate in the voluntary High Production Volume Challenge (HPV) program. We look forward to working with you over the coming years as we achieve our goals for this important program.

As you may be aware, a number of animal protection organizations and the public have raised concerns that the HPV Challenge program may lead to the excessive use of animals in tests and to inadequate attention to existing information and alternative testing methods that do not require animals as test subjects. As a general matter, animal experiments should not be performed if another validated method -- not involving the use of animals -- is reasonably and practically available for use in the HPV Challenge program. To respond to these concerns, and after consultation with the organizations involved in developing the framework for this initiative, I am asking you and your fellow HPV Challenge participants to observe the following principles as we proceed with the program:

1. In analyzing the adequacy of existing data, participants shall conduct a thoughtful, qualitative analysis rather than use a rote checklist approach. Participants may conclude that there is sufficient data, given the totality of what is known about a chemical, including human experience, that certain endpoints need not be tested.

2. Participants shall maximize the use of existing and scientifically adequate data to minimize further testing. To reinforce this approach, EPA will consider information contained in the databases identified in the enclosure, or in databases maintained by the organizations identified in the enclosure, to have been known to the Agency within the meaning of Section 8(e) of the Toxic Substances Control Act (TSCA), 42 U.S.C. 2607(e). This policy is limited to information reported by participants under the HPV Challenge program and generated for or contained in these databases as of the date of this letter. In addition, any other potential liability under TSCA Section 8(e) for existing data on HPV Challenge program chemicals will be limited according to the terms of the “Registration

Agreement for TSCA Section 8(e) Compliance Audit Program (56 Fed. Reg. 4128, Feb. 1, 1991)." This policy does not affect prior 8(e) enforcement actions.

3. Participants shall maximize the use of scientifically appropriate categories of related chemicals and structure activity relationships.

4. Consistent with the Screening Information Data Set (SIDS) program of the Organization for Economic Cooperation and Development (OECD), participants shall not conduct any terrestrial toxicity testing.

5. Participants are encouraged to use in vitro genetic toxicity testing to generate any needed genetic toxicity screening data, unless known chemical properties preclude its use.

6. Consistent with the OECD/SIDS program, participants generally should not develop any new dermal toxicity data.

7. Participants shall not develop sub-chronic or reproductive toxicity data for the HPV chemicals that are solely closed system intermediates, as defined by the OECD/SIDS guidelines.

8. In analyzing the adequacy of screening data for chemicals that are substances Generally Recognized as Safe (GRAS) for a particular use by the Food and Drug Administration (FDA), participants should consider all relevant and available information supporting the FDA's conclusions. Participants reviewing the adequacy of existing data for these chemicals should specifically consider whether the information available makes it unnecessary to proceed with further testing involving animals. As with all chemicals, before generating new information, participants should further consider whether any additional information obtained would be useful or relevant.

9. Because validated non-animal tests for some SIDS endpoints may be available soon, participants shall make the following revisions to the sequence of testing:

(a) Testing of closed system intermediates, which present less risk of exposure, shall be deferred until 2003;

(b) Individual chemicals (i.e., those HPV chemicals not proposed for testing in a category) that require further testing on animals shall be deferred until November 2001.

These revisions should not be construed to suggest that delay or deferral is appropriate with respect to testing of scientifically appropriate categories of related chemicals.

10. Companies shall allow 120 days between the posting of test plans and the implementation of any testing plans.

To promote the availability and use of alternatives to tests involving animals, the National Institute of Environmental Health Sciences (NIEHS) and the National Toxicology Program

(NTP) will commit at least $1.5 million in FY 2000, and $3 Million in FY 2001, and any further funds appropriated by Congress, to the development and validation of non-animal alternative test methods and protocols. EPA will provide an additional $250,000 this year and will seek to provide a similar amount next year to these efforts. The Multicenter Evaluation of In Vitro Cytotoxicity (MEIC), on the agenda for the October 14 meeting of NTP's Advisory Committee on Alternative Toxicological Methods, will be given priority attention. EPA will promptly incorporate, as appropriate, the work of NIEHS and NTP into the HPV Challenge program.

EPA recognizes that the HPV Challenge is a voluntary program that includes substantial public review and involvement. The successful implementation of the changes described in this letter will depend upon the good faith effort and cooperation of all parties. We appreciate the spirit of cooperation and commitment that has characterized this initiative to date. The changes to the HPV Challenge program outlined above present the opportunity to advance our shared goals of expanding the basic health data available to the public, while incorporating certain animal welfare concerns and scientific principles. It is the intention of the Agency that the HPV Challenge program, including the test rule(s), should proceed in a manner that is consistent with these principles and concerns.

Again, I thank you for your commitment to participate in the HPV Challenge program. If you need further clarification or assistance with this program, please contact Barbara Leczynski at 202-260-3749 or visit the website at www.epa.gov/chemrtk.

Sincerely,
/s/
Susan H. Wayland
Deputy Assistant Administrator

Enclosure

ENCLOSURE A

The IUCLID database administered by the European Union's Existing Chemicals Bureau
Aquatic Information Retrieval (AQUIRE)
Catalog of Teratogenic Agents (CTA)
Chemical Carcinogenesis Research Information System (CCRIS)
Chemical Information System (CIS)
The ChemID database of the National Library of Medicine (NLM)
Datalog
Developmental and Reproductive Technology (DART)
Envirofate Environmental Mutagen Information Center (EMIC)
Environmental Teratology Information Center (ETIC/ETICBACK)
GENE-TOX
Hazardous Substances Data Bank (HSDB)
Integrated Risk Management System (IRIS)
Merck Index National Institute for Occupational Safety and Health (NIOSH)
National Library of Medicine TOXLINE and TOXNET
National Toxicology Program (NTP) Testing Information and Study Results
NTP Technical Reports
NTP Chemical Health and Safety Data
Phytotox Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
Structure and Nomenclature Search System (SANSS)
Toxics Substances Control Act Test Submissions (TSCATS)
WHO/IPCS Documents (CICADS and Environmental Health Criteria Documents) BIODEG
BIOLOG
CANCERLIT
CHEMFATE
CHRIS
FIFRA Database/MRID
IRAC Documents
MEDLINE
National Cancer Institute Journal
POISINDEX
Shepard's Catalog
STN (Chemical Abstracts Service)

Document Source: http://www.epa.gov/opptintr/chemrtk/ceoltr.htm

Appendix Q

Additional UDP Simulation Modeling Results

[This Page Intentionally Left Blank]

Appendix Q1

UDP Simulation Results for the RC Rat-Only Millimole Regression Starting at the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} - 5000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3T3	0.12	Cyto	0.2099	7.35	0.63	0.0017	0.2270	3.62	-0.16	0.1577	7.9%	-4.7%
		Default	0.1750	7.97			0.1999	3.45				
	0.25	Cyto	0.2053	8.06	0.63	0.0036	0.2257	3.97	-0.19	0.1615	7.2%	-4.9%
		Default	0.1746	8.69			0.1955	3.78				
	0.50	Cyto	0.1904	8.72	0.63	0.0044	0.2166	4.31	-0.19	0.2406	6.8%	-4.6%
		Default	0.1614	9.35			0.1821	4.12				
	1.25	Cyto	0.1649	9.27	0.67	0.0022	0.1917	4.67	-0.12	0.8288	6.7%	-2.7%
		Default	0.1310	9.94			0.1491	4.55				
	2.00	Cyto	0.1421	9.41	0.60	0.0011	0.1678	4.76	-0.08	0.8530	6.0%	-1.8%
		Default	0.0956	10.02			0.1265	4.68				
			Average Difference		0.63		Average Difference		-0.15			
NHK	0.12	Cyto	0.2225	7.44	0.50	0.0060	0.2357	3.58	-0.18	0.1299	6.3%	-5.3%
		Default	0.1741	7.94			0.2023	3.40				
	0.25	Cyto	0.2124	8.12	0.54	0.0050	0.2317	3.91	-0.19	0.1848	6.3%	-5.0%
		Default	0.1697	8.67			0.1967	3.73				
	0.50	Cyto	0.1919	8.79	0.56	0.0045	0.2191	4.28	-0.20	0.1974	5.9%	-4.9%
		Default	0.1543	9.35			0.1812	4.08				
	1.25	Cyto	0.1633	9.34	0.62	0.0010	0.1931	4.66	-0.13	0.7671	6.2%	-2.8%
		Default	0.1241	9.96			0.1478	4.53				
	2.00	Cyto	0.1405	9.47	0.56	0.0005	0.1696	4.75	-0.09	0.7533	5.6%	-1.9%
		Default	0.0921	10.03			0.1249	4.66				
			Average Difference		0.56		Average Difference		-0.16			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals used for the default starting dose and mean number of animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Stopping Rules Used for the UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	3 Animals at Limit Dose[2]	5 Reversals[2]	Likelihood Ratio[2]	Maximum Number of Animals Used[2]
3T3	0.12	Cyto	15.8%	58.7%	24.3%	1.1%
		Default	15.4%	57.3%	24.9%	2.4%
	0.25	Cyto	15.2%	33.9%	48.3%	2.7%
		Default	14.6%	34.3%	45.9%	5.2%
	0.5	Cyto	13.8%	19.7%	60.4%	6.1%
		Default	13.0%	20.0%	57.5%	9.6%
	1.25	Cyto	10.5%	13.2%	64.7%	11.6%
		Default	9.1%	13.6%	60.9%	16.3%
	2	Cyto	9.4%	12.1%	65.4%	13.2%
		Default	7.4%	12.5%	62.5%	17.6%
NHK	0.12	Cyto	17.0%	54.8%	26.7%	1.5%
		Default	16.6%	56.3%	24.8%	2.3%
	0.25	Cyto	16.3%	32.7%	48.0%	3.0%
		Default	15.8%	33.7%	45.5%	5.1%
	0.5	Cyto	14.4%	19.3%	59.6%	6.6%
		Default	13.8%	19.9%	56.9%	9.5%
	1.25	Cyto	10.5%	13.3%	64.2%	11.9%
		Default	9.5%	13.5%	60.5%	16.4%
	2	Cyto	9.2%	12.0%	65.2%	13.6%
		Default	7.6%	12.5%	62.1%	17.7%

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Percentage of the 10,000 test simulations that satisfied the specified condition for completion of testing (see OECD [2001a]; EPA [2002a]).

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	3T3	0.12	Cyto	0.650	9.65	0.01	0.8750	0.586	6.31	0.06	0.8750	0.1%	1.0%
			Default	0.273	9.65			0.170	6.37				
		0.25	Cyto	0.642	10.24	0.23	0.6250	0.579	6.69	0.15	0.8750	2.2%	2.2%
			Default	0.192	10.47			0.162	6.84				
		0.50	Cyto	0.646	10.87	0.35	0.6250	0.596	7.14	0.18	0.6250	3.1%	2.4%
			Default	0.201	11.22			0.198	7.31				
		1.25	Cyto	0.624	11.27	0.40	0.6250	0.587	7.30	0.22	0.6250	3.4%	2.9%
			Default	0.141	11.67			0.161	7.52				
		2.00	Cyto	0.563	11.16	0.25	0.6250	0.532	7.05	0.17	0.6250	2.2%	2.3%
			Default	0.123	11.41			0.140	7.21				
				Average Difference		0.25		Average Difference		0.15			
	NHK	0.12	Cyto	0.815	9.91	-0.30	0.8750	0.682	6.46	-0.11	1.0000	-3.1%	-1.7%
			Default	0.292	9.61			0.178	6.35				
		0.25	Cyto	0.693	10.44	-0.05	1.0000	0.603	6.84	-0.03	1.0000	-0.5%	-0.4%
			Default	0.267	10.39			0.195	6.81				
		0.50	Cyto	0.629	11.05	0.09	0.8750	0.578	7.28	0.00	1.0000	0.8%	0.0%
			Default	0.257	11.14			0.232	7.28				
		1.25	Cyto	0.583	11.43	0.22	0.8750	0.565	7.44	0.09	0.8750	1.9%	1.1%
			Default	0.176	11.65			0.188	7.53				
		2.00	Cyto	0.561	11.26	0.15	0.8750	0.532	7.15	0.05	0.8750	1.3%	0.7%
			Default	0.155	11.40			0.153	7.20				
				Average Difference		0.02		Average Difference		0.00			
2	3T3	0.12	Cyto	0.433	9.04	-0.60	0.1272	0.417	5.64	-0.53	0.0942	-7.1%	-10.4%
			Default	0.284	8.44			0.241	5.11				
		0.25	Cyto	0.460	9.66	-0.68	0.1099	0.428	5.99	-0.56	0.1099	-7.6%	-10.4%
			Default	0.208	8.98			0.201	5.43				
		0.50	Cyto	0.491	10.24	-0.71	0.1272	0.447	6.31	-0.61	0.0942	-7.4%	-10.6%
			Default	0.227	9.53			0.209	5.71				
		1.25	Cyto	0.449	10.71	-0.65	0.0942	0.425	6.52	-0.61	0.0942	-6.5%	-10.2%
			Default	0.236	10.06			0.216	5.92				
		2.00	Cyto	0.364	10.70	-0.58	0.0942	0.361	6.41	-0.53	0.1099	-5.7%	-9.1%
			Default	0.178	10.12			0.177	5.87				
				Average Difference		-0.64		Average Difference		-0.67			
	NHK	0.12	Cyto	0.494	9.17	-0.76	0.0942	0.486	5.66	-0.57	0.1677	-9.1%	-11.1%
			Default	0.263	8.41			0.231	5.09				
		0.25	Cyto	0.473	9.79	-0.83	0.0803	0.478	6.02	-0.60	0.0942	-9.2%	-11.1%
			Default	0.160	8.96			0.183	5.41				
		0.50	Cyto	0.498	10.33	-0.81	0.0942	0.495	6.33	-0.63	0.0942	-8.5%	-11.1%
			Default	0.153	9.52			0.179	5.70				
		1.25	Cyto	0.471	10.77	-0.71	0.0803	0.480	6.53	-0.62	0.0681	-7.0%	-10.4%
			Default	0.179	10.07			0.192	5.91				
		2.00	Cyto	0.392	10.77	-0.63	0.0574	0.417	6.42	-0.55	0.0803	-6.2%	-9.4%
			Default	0.147	10.14			0.164	5.87				
				Average Difference		-0.75		Average Difference		-0.59			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	3T3	0.12	Cyto	0.255	7.32	-0.61	0.0522	0.213	4.02	-0.60	0.0161	-9.1%	-17.5%
			Default	0.212	6.71			0.133	3.42				
		0.25	Cyto	0.269	8.07	-0.78	0.0093	0.221	4.42	-0.66	0.0068	-10.8%	-17.4%
			Default	0.138	7.28			0.094	3.76				
		0.50	Cyto	0.274	8.71	-0.94	0.0093	0.220	4.75	-0.70	0.0068	-12.2%	-17.3%
			Default	0.094	7.76			0.077	4.05				
		1.25	Cyto	0.193	9.35	-0.79	0.0049	0.170	5.04	-0.58	0.0068	-9.2%	-13.1%
			Default	0.059	8.56			0.056	4.45				
		2.00	Cyto	0.120	9.54	-0.48	0.0068	0.128	5.10	-0.42	0.0122	-5.3%	-8.9%
			Default	0.038	9.07			0.047	4.69				
				Average Difference		-0.72		Average Difference		-0.59			
	NHK	0.12	Cyto	0.258	7.11	-0.44	0.0923	0.196	3.80	-0.40	0.0269	-6.6%	-11.8%
			Default	0.222	6.67			0.139	3.40				
		0.25	Cyto	0.297	7.78	-0.56	0.0269	0.222	4.17	-0.44	0.0640	-7.7%	-11.8%
			Default	0.173	7.23			0.112	3.73				
		0.50	Cyto	0.271	8.45	-0.68	0.0269	0.210	4.51	-0.47	0.1294	-8.8%	-11.7%
			Default	0.107	7.77			0.083	4.04				
		1.25	Cyto	0.168	9.13	-0.52	0.0093	0.154	4.83	-0.36	0.0923	-6.0%	-8.1%
			Default	0.061	8.61			0.059	4.47				
		2.00	Cyto	0.104	9.42	-0.33	0.0425	0.118	4.95	-0.26	0.0923	-3.7%	-5.6%
			Default	0.037	9.09			0.048	4.69				
				Average Difference		-0.51		Average Difference		-0.39			
4	3T3	0.12	Cyto	0.156	6.76	0.78	0.0092	0.053	3.31	0.13	0.1754	10.3%	3.9%
			Default	0.259	7.54			0.078	3.45				
		0.25	Cyto	0.181	7.33	0.71	0.0089	0.050	3.58	0.09	0.0386	8.8%	2.5%
			Default	0.231	8.04			0.060	3.67				
		0.50	Cyto	0.197	7.85	0.79	0.0092	0.053	3.81	0.13	0.0443	9.2%	3.2%
			Default	0.237	8.64			0.059	3.93				
		1.25	Cyto	0.162	8.61	0.63	0.0092	0.051	4.17	0.02	0.1754	6.8%	0.5%
			Default	0.154	9.24			0.022	4.19				
		2.00	Cyto	0.121	9.01	0.43	0.0052	0.045	4.35	-0.06	0.0577	4.6%	-1.4%
			Default	0.089	9.44			0.018	4.29				
				Average Difference		0.67		Average Difference		0.06			
	NHK	0.12	Cyto	0.202	6.95	0.59	0.0833	0.092	3.43	0.02	0.4637	7.8%	0.5%
			Default	0.257	7.54			0.077	3.45				
		0.25	Cyto	0.208	7.44	0.63	0.0386	0.087	3.66	0.03	0.0739	7.8%	0.8%
			Default	0.219	8.07			0.057	3.69				
		0.50	Cyto	0.221	7.93	0.72	0.0290	0.087	3.88	0.06	0.1167	8.4%	1.5%
			Default	0.233	8.66			0.059	3.94				
		1.25	Cyto	0.188	8.68	0.57	0.0290	0.073	4.23	-0.04	0.3755	6.1%	-0.9%
			Default	0.150	9.24			0.022	4.19				
		2.00	Cyto	0.136	9.04	0.41	0.0155	0.056	4.39	-0.10	0.0443	4.3%	-2.4%
			Default	0.090	9.45			0.017	4.29				
				Average Difference		0.58		Average Difference		-0.01			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	3T3	0.12	Cyto	0.299	7.16	2.03	0.0020	0.035	3.18	0.14	0.0645	22.1%	4.2%
			Default	0.216	9.19			0.045	3.32				
		0.25	Cyto	0.233	8.10	2.29	0.0020	0.031	3.43	0.16	0.0645	22.1%	4.6%
			Default	0.141	10.39			0.075	3.59				
		0.50	Cyto	0.178	8.54	2.25	0.0020	0.050	3.53	0.14	0.0488	20.9%	3.8%
			Default	0.090	10.79			0.071	3.68				
		1.25	Cyto	0.141	8.60	2.15	0.0020	0.045	3.62	0.28	0.0020	20.0%	7.3%
			Default	0.062	10.75			0.034	3.91				
		2.00	Cyto	0.118	8.68	1.77	0.0020	0.040	3.74	0.26	0.0020	16.9%	6.5%
			Default	0.055	10.45			0.017	4.00				
				Average Difference		2.10		Average Difference		0.20			
	NHK	0.12	Cyto	0.358	7.38	1.81	0.0020	0.058	3.22	0.10	0.3750	19.7%	2.9%
			Default	0.218	9.19			0.056	3.32				
		0.25	Cyto	0.314	8.26	2.12	0.0020	0.049	3.44	0.16	0.1934	20.5%	4.4%
			Default	0.111	10.38			0.081	3.60				
		0.50	Cyto	0.240	8.75	2.02	0.0020	0.041	3.57	0.10	0.3750	18.7%	2.6%
			Default	0.062	10.77			0.079	3.66				
		1.25	Cyto	0.156	8.81	1.91	0.0020	0.035	3.67	0.22	0.0020	17.9%	5.7%
			Default	0.049	10.72			0.041	3.89				
		2.00	Cyto	0.123	8.86	1.56	0.0020	0.036	3.79	0.20	0.0020	15.0%	5.1%
			Default	0.038	10.42			0.024	3.99				
				Average Difference		1.89		Average Difference		0.15			
6	3T3	0.12	Cyto	0.561	5.71	2.03	0.0005	0.325	0.90	-0.06	0.1294	26.2%	-6.6%
			Default	0.576	7.74			0.300	0.85				
		0.25	Cyto	0.536	6.56	2.08	0.0005	0.326	1.37	-0.08	0.0049	24.1%	-6.2%
			Default	0.531	8.64			0.305	1.29				
		0.50	Cyto	0.399	7.65	2.19	0.0005	0.249	2.07	-0.05	0.0640	22.2%	-2.4%
			Default	0.337	9.84			0.254	2.02				
		1.25	Cyto	0.245	8.41	2.48	0.0005	0.120	2.97	0.23	0.0034	22.7%	7.1%
			Default	0.062	10.89			0.124	3.20				
		2.00	Cyto	0.196	8.45	2.34	0.0005	0.083	3.27	0.35	0.0005	21.7%	9.6%
			Default	0.022	10.78			0.070	3.62				
				Average Difference		2.22		Average Difference		0.08			
	NHK	0.12	Cyto	0.561	5.87	1.76	0.0002	0.309	0.85	-0.06	0.0500	23.0%	-8.0%
			Default	0.548	7.63			0.285	0.79				
		0.25	Cyto	0.534	6.80	1.79	0.0002	0.317	1.36	-0.11	0.0034	20.8%	-9.1%
			Default	0.486	8.59			0.283	1.25				
		0.50	Cyto	0.392	7.95	1.88	0.0002	0.245	2.12	-0.12	0.0024	19.1%	-5.9%
			Default	0.309	9.83			0.233	2.00				
		1.25	Cyto	0.226	8.67	2.20	0.0002	0.116	3.04	0.14	0.0134	20.3%	4.3%
			Default	0.059	10.87			0.115	3.18				
		2.00	Cyto	0.180	8.67	2.11	0.0002	0.080	3.35	0.27	0.0002	19.6%	7.5%
			Default	0.021	10.78			0.064	3.62				
				Average Difference		1.95		Average Difference		0.02			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome Based on Simulated UDP LD_{50}[1]

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	15	1	0	17	88%	6%	6%
5	0	0	0	0	22	0	22	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	15	23	0	68	96%	1%	3%

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	0	16	1	0	17	94%	6%	0%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	11	16	22	0	67	97%	1%	1%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NA=Not applicable; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg. The NRU-based starting dose was the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621). The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances for GHS Category Outcomes of UDP Simulations[1]

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[2]		Default Starting Dose[3]		LD_{50} Difference
		LD_{50}	Toxcat[4]	LD_{50}	Toxcat[4]	
3T3	Acetaminophen	2046.78	5	1765.44	4	-281.34
	Sodium dichromate dihydrate	43.70	2	51.87	3	8.17
NHK	Acetaminophen	2173.95	5	1755.26	4	-418.69
	Caffeine	279.63	3	357.17	4	77.55
	Sodium dichromate dihydrate	45.09	2	51.77	3	6.69

Abbreviations: Toxcat=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005); UDP= Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

[1]Substances for which the simulated UDP outcome (in terms of GHS category) at the NRU-based starting dose did not match the simulated UDP outcome at the default starting dose. Simulations were performed with 10,000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]NRU-based starting dose was the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only millimole regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.439 log IC_{50} [mM] + 0.621).

[3]The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[4]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Appendix Q2

UDP Simulation Results for the RC Rat-Only Weight Regression Starting at the LD_{50} Predicted by the 3T3 and NHK NRU IC_{50} - 5000 mg/kg Upper Limit Dose

[This Page Intentionally Left Blank]

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
			Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3T3	0.12	Cyto	0.210	7.33	0.66	0.0013	0.224	3.60	-0.15	0.2888	8.2%	-4.2%
		Default	0.177	7.98			0.201	3.46				
	0.25	Cyto	0.202	8.03	0.66	0.0015	0.221	3.94	-0.16	0.1284	7.6%	-4.3%
		Default	0.174	8.70			0.196	3.78				
	0.50	Cyto	0.184	8.67	0.68	0.0023	0.211	4.28	-0.16	0.2071	7.2%	-3.9%
		Default	0.160	9.35			0.182	4.12				
	1.25	Cyto	0.159	9.24	0.71	0.0009	0.187	4.65	-0.10	0.9458	7.1%	-2.2%
		Default	0.130	9.95			0.149	4.55				
	2.00	Cyto	0.137	9.39	0.63	0.0005	0.163	4.75	-0.07	0.8240	6.2%	-1.4%
		Default	0.095	10.02			0.127	4.68				
			Average Difference		0.66		Average Difference		-0.13			
NHK	0.12	Cyto	0.216	7.37	0.59	0.0021	0.230	3.55	-0.15	0.1185	7.4%	-4.3%
		Default	0.175	7.96			0.203	3.41				
	0.25	Cyto	0.209	8.07	0.61	0.0017	0.227	3.90	-0.16	0.2017	7.0%	-4.3%
		Default	0.169	8.68			0.197	3.74				
	0.50	Cyto	0.189	8.73	0.62	0.0019	0.215	4.26	-0.17	0.1974	6.6%	-4.2%
		Default	0.153	9.35			0.181	4.08				
	1.25	Cyto	0.161	9.28	0.68	0.0004	0.190	4.63	-0.10	0.8704	6.8%	-2.3%
		Default	0.124	9.96			0.148	4.53				
	2.00	Cyto	0.139	9.43	0.60	0.0004	0.167	4.74	-0.07	0.9230	6.0%	-1.5%
		Default	0.092	10.03			0.125	4.66				
			Average Difference		0.62		Average Difference		-0.13			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [mg/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean number of animals for the default starting dose and mean number of animals for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-sided Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

Summary of Stopping Rules Used for the UDP Simulations by NRU Test Method[1]

NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	3 Animals at Limit Dose[2]	5 Reversals[2]	Likelihood Ratio[2]	Maximum Number of Animals Used[2]
3T3	0.12	Cyto	15.8%	60.2%	22.9%	1.1%
		Default	15.4%	57.4%	24.8%	2.4%
	0.25	Cyto	15.1%	34.2%	48.1%	2.6%
		Default	14.6%	34.3%	45.9%	5.2%
	0.5	Cyto	13.7%	19.6%	60.8%	5.8%
		Default	12.9%	20.1%	57.5%	9.5%
	1.25	Cyto	10.4%	13.3%	65.1%	11.2%
		Default	9.1%	13.6%	61.0%	16.3%
	2	Cyto	9.3%	12.1%	65.7%	12.9%
		Default	7.4%	12.5%	62.5%	17.6%
NHK	0.12	Cyto	17.0%	56.2%	25.5%	1.2%
		Default	16.6%	56.4%	24.6%	2.3%
	0.25	Cyto	16.2%	33.1%	47.8%	2.8%
		Default	15.8%	33.8%	45.4%	5.1%
	0.5	Cyto	14.5%	19.3%	60.0%	6.2%
		Default	13.8%	19.9%	56.8%	9.5%
	1.25	Cyto	10.5%	13.2%	64.7%	11.6%
		Default	9.6%	13.6%	60.4%	16.4%
	2	Cyto	9.2%	12.0%	65.5%	13.2%
		Default	7.6%	12.5%	62.1%	17.7%

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Percentage of the 10,000 test simulations that satisfied the specified condition for completion of testing (see OECD [2001a]; EPA [2002a]).

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
1	3T3	0.12	Cyto	0.581	9.85	-0.21	0.6250	0.532	6.49	-0.12	0.6250	-2.2%	-1.9%
			Default	0.263	9.64			0.167	6.36				
		0.25	Cyto	0.560	10.45	-0.03	1.0000	0.515	6.87	-0.05	1.0000	-0.3%	-0.7%
			Default	0.188	10.42			0.163	6.82				
		0.50	Cyto	0.582	11.06	0.12	0.8750	0.541	7.30	-0.01	1.0000	1.1%	-0.1%
			Default	0.202	11.18			0.198	7.29				
		1.25	Cyto	0.559	11.45	0.20	0.6250	0.535	7.47	0.05	1.0000	1.7%	0.6%
			Default	0.141	11.65			0.161	7.51				
		2.00	Cyto	0.513	11.31	0.09	0.6250	0.488	7.19	0.02	1.0000	0.8%	0.3%
			Default	0.116	11.40			0.136	7.21				
				Average Difference		0.03		Average Difference		-0.02			
	NHK	0.12	Cyto	0.773	10.35	-0.80	0.6250	0.632	6.77	-0.44	0.6250	-8.3%	-7.0%
			Default	0.284	9.56			0.176	6.33				
		0.25	Cyto	0.614	10.66	-0.30	0.8750	0.538	7.02	-0.22	0.8750	-2.9%	-3.2%
			Default	0.259	10.36			0.190	6.80				
		0.50	Cyto	0.550	11.24	-0.13	0.8750	0.512	7.45	-0.18	0.8750	-1.2%	-2.5%
			Default	0.247	11.11			0.226	7.27				
		1.25	Cyto	0.510	11.60	0.03	0.8750	0.506	7.59	-0.08	0.8750	0.2%	-1.0%
			Default	0.174	11.62			0.189	7.51				
		2.00	Cyto	0.493	11.42	-0.02	0.8750	0.479	7.30	-0.09	0.8750	-0.2%	-1.3%
			Default	0.149	11.40			0.150	7.20				
				Average Difference		-0.24		Average Difference		-0.20			
2	3T3	0.12	Cyto	0.423	8.84	-0.35	0.3054	0.396	5.48	-0.36	0.1677	-4.1%	-6.9%
			Default	0.307	8.49			0.250	5.13				
		0.25	Cyto	0.422	9.54	-0.52	0.0942	0.390	5.88	-0.44	0.0942	-5.7%	-8.1%
			Default	0.214	9.02			0.204	5.44				
		0.50	Cyto	0.449	10.13	-0.58	0.1272	0.406	6.21	-0.49	0.1272	-6.1%	-8.6%
			Default	0.218	9.55			0.205	5.72				
		1.25	Cyto	0.416	10.60	-0.54	0.1099	0.390	6.42	-0.50	0.1099	-5.3%	-8.4%
			Default	0.227	10.07			0.213	5.92				
		2.00	Cyto	0.335	10.61	-0.47	0.1272	0.330	6.31	-0.44	0.1272	-4.7%	-7.4%
			Default	0.174	10.13			0.175	5.88				
				Average Difference		-0.49		Average Difference		-0.44			
	NHK	0.12	Cyto	0.423	8.74	-0.23	0.4548	0.434	5.40	-0.27	0.3054	-2.7%	-5.3%
			Default	0.287	8.51			0.239	5.13				
		0.25	Cyto	0.434	9.64	-0.62	0.0803	0.442	5.90	-0.47	0.1677	-6.9%	-8.6%
			Default	0.175	9.02			0.188	5.43				
		0.50	Cyto	0.465	10.25	-0.71	0.1099	0.460	6.25	-0.54	0.1465	-7.4%	-9.4%
			Default	0.158	9.54			0.183	5.71				
		1.25	Cyto	0.445	10.70	-0.61	0.1099	0.447	6.46	-0.53	0.1099	-6.1%	-9.0%
			Default	0.182	10.08			0.194	5.92				
		2.00	Cyto	0.364	10.70	-0.57	0.0681	0.385	6.35	-0.48	0.0803	-5.6%	-8.2%
			Default	0.147	10.13			0.164	5.87				
				Average Difference		-0.55		Average Difference		-0.46			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
3	3T3	0.12	Cyto	0.255	7.32	-0.61	0.0522	0.213	4.02	-0.60	0.0161	-9.1%	-17.5%
			Default	0.212	6.71			0.133	3.42				
		0.25	Cyto	0.269	8.07	-0.78	0.0093	0.221	4.42	-0.66	0.0068	-10.8%	-17.4%
			Default	0.138	7.28			0.094	3.76				
		0.50	Cyto	0.274	8.71	-0.94	0.0093	0.220	4.75	-0.70	0.0068	-12.2%	-17.3%
			Default	0.094	7.76			0.077	4.05				
		1.25	Cyto	0.193	9.35	-0.79	0.0049	0.170	5.04	-0.58	0.0068	-9.2%	-13.1%
			Default	0.059	8.56			0.056	4.45				
		2.00	Cyto	0.120	9.54	-0.48	0.0068	0.128	5.10	-0.42	0.0122	-5.3%	-8.9%
			Default	0.038	9.07			0.047	4.69				
				Average Difference		-0.63		Average Difference		-0.53			
	NHK	0.12	Cyto	0.256	7.24	-0.54	0.1514	0.193	3.88	-0.46	0.0923	-8.0%	-13.6%
			Default	0.217	6.70			0.136	3.42				
		0.25	Cyto	0.260	7.77	-0.49	0.0425	0.193	4.16	-0.40	0.0771	-6.7%	-10.6%
			Default	0.165	7.29			0.107	3.76				
		0.50	Cyto	0.228	8.38	-0.58	0.0342	0.178	4.47	-0.41	0.0923	-7.5%	-10.1%
			Default	0.102	7.79			0.080	4.06				
		1.25	Cyto	0.136	9.07	-0.46	0.0342	0.130	4.80	-0.33	0.0771	-5.3%	-7.3%
			Default	0.056	8.62			0.058	4.48				
		2.00	Cyto	0.086	9.40	-0.31	0.0122	0.102	4.94	-0.25	0.1099	-3.4%	-5.3%
			Default	0.035	9.09			0.048	4.69				
				Average Difference		-0.47		Average Difference		-0.37			
4	3T3	0.12	Cyto	0.179	6.73	0.80	0.0092	0.053	3.30	0.15	0.0739	10.7%	4.3%
			Default	0.259	7.53			0.079	3.44				
		0.25	Cyto	0.173	7.34	0.69	0.0092	0.050	3.58	0.09	0.0386	8.6%	2.4%
			Default	0.224	8.03			0.057	3.66				
		0.50	Cyto	0.180	7.86	0.77	0.0092	0.052	3.80	0.12	0.0507	8.9%	3.1%
			Default	0.227	8.63			0.055	3.93				
		1.25	Cyto	0.144	8.64	0.59	0.0092	0.050	4.16	0.02	0.2744	6.4%	0.4%
			Default	0.147	9.23			0.020	4.18				
		2.00	Cyto	0.104	9.03	0.41	0.0052	0.043	4.34	-0.06	0.1167	4.3%	-1.4%
			Default	0.084	9.44			0.018	4.28				
				Average Difference		0.65		Average Difference		0.06			
	NHK	0.12	Cyto	0.202	6.92	0.61	0.0934	0.098	3.41	0.03	0.3484	8.2%	1.0%
			Default	0.256	7.53			0.077	3.44				
		0.25	Cyto	0.189	7.43	0.63	0.0443	0.076	3.64	0.04	0.0833	7.8%	1.0%
			Default	0.216	8.06			0.056	3.68				
		0.50	Cyto	0.201	7.92	0.73	0.0250	0.076	3.86	0.08	0.1046	8.4%	2.0%
			Default	0.226	8.65			0.056	3.94				
		1.25	Cyto	0.168	8.65	0.59	0.0155	0.067	4.20	-0.01	0.3755	6.4%	-0.3%
			Default	0.147	9.24			0.021	4.19				
		2.00	Cyto	0.123	9.02	0.43	0.0155	0.056	4.37	-0.08	0.0934	4.6%	-1.8%
			Default	0.087	9.45			0.017	4.29				
				Average Difference		0.60		Average Difference		0.01			

Summary of Animals Used and Animals Dead for UDP Simulations by GHS Toxicity Category and NRU Test Method[1]

Toxcat	NRU Test Method	Sigma	Starting Dose	Animals Used				Animals Died				% Savings - Animals Used	% Difference - Animals Died
				Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]	Std. Error	Number[2]	Difference[3]	P[4]		
5	3T3	0.12	Cyto	0.287	7.12	2.07	0.0020	0.039	3.19	0.13	0.0840	22.5%	4.0%
			Default	0.220	9.19			0.042	3.32				
		0.25	Cyto	0.228	8.01	2.39	0.0020	0.038	3.43	0.17	0.0488	23.0%	4.8%
			Default	0.145	10.40			0.074	3.60				
		0.50	Cyto	0.186	8.45	2.36	0.0020	0.047	3.52	0.16	0.0488	21.8%	4.4%
			Default	0.091	10.81			0.071	3.68				
		1.25	Cyto	0.133	8.55	2.21	0.0020	0.035	3.62	0.29	0.0020	20.6%	7.3%
			Default	0.061	10.76			0.034	3.91				
		2.00	Cyto	0.105	8.64	1.81	0.0020	0.027	3.75	0.26	0.0020	17.4%	6.5%
			Default	0.051	10.46			0.019	4.01				
				Average Difference		2.17		Average Difference		0.20			
	NHK	0.12	Cyto	0.335	7.31	1.90	0.0020	0.048	3.22	0.11	0.3223	20.6%	3.3%
			Default	0.219	9.21			0.057	3.33				
		0.25	Cyto	0.301	8.17	2.21	0.0020	0.047	3.44	0.16	0.2324	21.3%	4.4%
			Default	0.114	10.38			0.081	3.60				
		0.50	Cyto	0.224	8.62	2.16	0.0020	0.039	3.56	0.11	0.2754	20.1%	3.1%
			Default	0.065	10.79			0.077	3.67				
		1.25	Cyto	0.148	8.73	2.01	0.0020	0.038	3.67	0.22	0.0039	18.7%	5.6%
			Default	0.051	10.74			0.041	3.89				
		2.00	Cyto	0.114	8.78	1.66	0.0020	0.036	3.79	0.21	0.0020	15.9%	5.3%
			Default	0.039	10.44			0.023	4.00				
				Average Difference		1.99		Average Difference		0.16			
6	3T3	0.12	Cyto	0.596	5.75	1.99	0.0005	0.327	0.91	-0.06	0.0923	25.7%	-7.5%
			Default	0.575	7.74			0.300	0.84				
		0.25	Cyto	0.574	6.61	2.02	0.0005	0.335	1.40	-0.10	0.0015	23.4%	-8.1%
			Default	0.529	8.63			0.305	1.29				
		0.50	Cyto	0.411	7.69	2.15	0.0005	0.258	2.10	-0.08	0.0068	21.8%	-3.7%
			Default	0.335	9.83			0.253	2.02				
		1.25	Cyto	0.241	8.42	2.46	0.0005	0.125	2.98	0.21	0.0010	22.6%	6.6%
			Default	0.062	10.88			0.123	3.19				
		2.00	Cyto	0.194	8.47	2.31	0.0005	0.088	3.29	0.33	0.0005	21.4%	9.0%
			Default	0.021	10.78			0.069	3.62				
				Average Difference		2.19		Average Difference		0.06			
	NHK	0.12	Cyto	0.588	5.79	1.84	0.0002	0.310	0.85	-0.06	0.0327	24.1%	-7.7%
			Default	0.548	7.63			0.285	0.79				
		0.25	Cyto	0.561	6.72	1.87	0.0002	0.318	1.36	-0.11	0.0012	21.8%	-8.9%
			Default	0.486	8.59			0.283	1.25				
		0.50	Cyto	0.413	7.85	1.97	0.0002	0.247	2.11	-0.11	0.0046	20.1%	-5.4%
			Default	0.309	9.83			0.232	2.00				
		1.25	Cyto	0.240	8.56	2.31	0.0002	0.121	3.02	0.16	0.0061	21.2%	5.0%
			Default	0.059	10.87			0.115	3.18				
		2.00	Cyto	0.194	8.57	2.21	0.0002	0.085	3.33	0.30	0.0005	20.5%	8.2%
			Default	0.021	10.78			0.063	3.62				
				Average Difference		2.04		Average Difference		0.03			

Abbreviations: UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); Toxcat=Category from Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals[5] (GHS; UN 2005); NRU=Neutral red uptake; Sigma=Reciprocal of dose-mortality slope; Cyto=NRU-determined starting dose (i.e., the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mmol/kg] = 0.372 log IC_{50} [mM] + 2.024); Default=Default starting dose of 175 mg/kg; Std. Error=Standard error for number of animals; 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]Mean number of animals for 10,000 simulations.

[3]Difference between mean animals used for the default starting dose and mean animals used for the NRU-based starting dose.

[4]P-value is from one-side Wilcoxon signed rank test for difference in animals between the default and NRU-based starting doses. Significant values at $p < 0.05$.

[5]GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Concordance of NRU-Based Starting Dose with Default Starting Dose for GHS Acute Oral Toxicity Category Outcome Based on Simulated UDP LD_{50}[1]

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with NHK NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	15	1	0	17	88%	6%	6%
5	0	0	0	0	22	0	22	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	15	23	0	68	96%	1%	3%

GHS Category Based on LD_{50} Outcome with Default Starting Dose	GHS Category Based on LD_{50} Outcome with 3T3 NRU-Based Starting Dose									
	1	**2**	**3**	**4**	**5**	**6**	**Total**	**Category Match**	**Higher NRU Category**	**Lower NRU Category**
1	4	0	0	0	0	0	4	100%	0%	0%
2	0	13	0	0	0	0	13	100%	0%	0%
3	0	1	11	0	0	0	12	92%	0%	8%
4	0	0	1	14	2	0	17	82%	12%	6%
5	0	0	0	0	21	0	21	100%	0%	0%
6	0	0	0	0	0	0	0	NA	0%	NA
Total	4	14	12	14	23	0	67	94%	3%	3%

Abbreviations: NRU=Neutral red uptake; GHS=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (UN 2005); UDP=Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); 3T3= BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes; NA=Not applicable; RC=Registry of Cytotoxicity.

[1]For 10,000 UDP simulations at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg. The NRU-based starting dose was the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024). The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[2]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg

Discordant Substances for GHS Category Outcomes of UDP Simulations[1]

NRU Test Method	Substance	NRU-Based Starting Dose[2]		Default Starting Dose[3]		LD_{50} Difference
		LD_{50}	Toxcat[4]	LD_{50}	Toxcat[4]	
3T3	Acetaminophen	2146.93	5	1768.39	4	-378.54
	Caffeine	297.82	3	342.76	4	44.95
	Procainamide HCl	2000.24	5	1529.98	4	-470.26
	Sodium dichromate dihydrate	44.48	2	52.17	3	7.69
NHK	Acetaminophen	2171.18	5	1755.21	4	-415.96
	Caffeine	292.06	3	353.96	4	61.91
	Sodium dichromate dihydrate	45.85	2	51.91	3	6.06

Abbreviations: Toxcat=Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals (GHS; UN 2005); UDP= Up-and-Down Procedure (OECD 2001a, EPA 2002a); NRU=Neutral red uptake; 3T3=BALB/c 3T3 mouse fibroblasts; NHK=Normal human epidermal keratinocytes.

[1]Substances for which the simulated UDP outcome (in terms of GHS category) at the NRU-based starting dose did not match the simulated UDP outcome at the default starting dose. Simulations were performed with 10,000 runs at each starting dose and dose-mortality slope for 67 substances in the 3T3 NRU test method and 68 substances in the NHK NRU test method. Upper limit dose =5000 mg/kg.

[2]NRU-based starting dose was the LD_{50} predicted by the NRU IC_{50} in the RC rat-only weight regression (log LD_{50} [mg/kg] = 0.372 log IC_{50} [µg/mL] + 2.024).

[3]The default starting dose = 175 mg/kg. Shaded cells are those containing the correct predictions.

[4]

GHS Toxicity Category	Oral LD_{50} Limits
1	$LD_{50} \leq 5$ mg/kg
2	$5 < LD_{50} \leq 50$ mg/kg
3	$50 < LD_{50} \leq 300$ mg/kg
4	$300 < LD_{50} \leq 2000$ mg/kg
5	$2000 < LD_{50} \leq 5000$ mg/kg
6	$LD_{50} > 5000$ mg/kg